

# 楽前遺跡 (2)

北関東自動車道（伊勢崎～県境）地域  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2010

東日本高速道路株式会社  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 序

楽前遺跡は太田市北西部に位置し、北関東自動車道の太田・桐生ICの建設に先立って平成16年～17年度にかけて発掘調査を実施いたしました。

本遺跡のすぐ南側に隣接して、都から東日本内陸部を経て東北地方に至る古代の第一級幹線道路である東山道駅路の遺構が発見され、1300年の時を隔てて、古代と現代の幹線道路が、奇しくもほぼ同じ位置にあることが判明しました。本遺跡についても、古代の幹線道路に隣接する集落としての遺跡の特質の解明が期待されたところです。

当遺跡の調査成果については、平成20年度から22年度にかけて整理事業を実施し、I C北半部の調査範囲を『楽前遺跡』（1）として、平成21年3月に第1冊目の発掘調査報告書を刊行しました。また、それに続く本線からI C西側に取り付く部分の調査成果を本報告書として刊行し、ここに、楽前遺跡の全整理事業を完結した次第です。

発掘調査から本報告書刊行に至るまでには、東日本高速道路株式会社、群馬県県土整備部、県教育委員会、太田市教育委員会をはじめ関係諸機関並びに関係各位に、多大なご高配とご協力を賜りました。ここに銘記して心より謝意を表しますとともに、本報告書が、地域の歴史を知り、豊かな地域社会を創造していくための資料として、広く活用されますことを願ひまして、序といたします。

平成22年10月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 須田 栄一



# 例 言

1. 本書は、北関東自動車道（伊勢崎～県境）建設事業に伴い発掘調査された楽前遺跡の発掘調査報告書の第2分冊目で、調査区1区から検出された遺構・遺物を対象としたものである。2～4区の調査成果については、すでに平成21年3月に刊行した財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第454集『楽前遺跡』(1)で報告済みである。調査に至る経緯および遺跡の立地、地理的・歴史的環境、調査経過等については、同報告書で詳述したので、本報告書の記述では概略にとどめた。
2. 遺跡の所在地は、群馬県太田市東今泉町508番地ほかである。
3. 事業主体：東日本高速道路株式会社関東支社（旧日本道路公団）
4. 調査主体：財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 調査対象地：北関東自動車道（仮称）太田IC（現・太田・桐生IC）の北側約半分とその西側に取り付く本線部分の計15,652㎡。本報告書ではそのうちの4,787㎡分を対象。
6. 調査期間：平成16年（2004年）4月1日～平成17年（2005年）3月31日  
：平成17年（2005年）4月1日～9月30日
7. 発掘調査体制は下記の通りである  
平成16年度  
調査担当：高井佳弘（専門員）・矢村哲（同）、高島英之（同）、平方篤行（同）、小室綾子（同）、井上昌美（主任調査研究員）、森田真一（調査研究員）  
遺跡掘削請負工事：岩崎工業株式会社  
委託：地上測量：アコン測量設計株式会社、航空写真撮影：株式会社シン技術コンサル  
平成17年度  
調査担当：高島英之（専門員）、山田精一（主任調査研究員）  
遺跡掘削請負工事：岩崎工業株式会社  
委託：地上測量：アコン測量設計株式会社、航空写真撮影：株式会社シン技術コンサル
8. 整理期間：平成20年（2008年）4月1日～平成21年（2009年）3月31日  
平成21年（2009年）4月1日～平成22年（2010年）3月31日  
平成22年（2010年）4月1日～9月30日
9. 整理事業体制は下記の通りである。  
平成20年度  
整理担当：高島英之（専門員（主幹））、保存処理：関邦一（係長（総括））、遺物写真撮影：佐藤元彦（係長（総括））  
平成21年度  
整理担当：高島英之（専門員（総括））・神谷佳明（上席専門員）、保存処理：関邦一（係長（総括））、  
遺物写真撮影：佐藤元彦（係長（総括））  
平成22年度  
整理担当：高島英之（専門員（総括））・神谷佳明（上席専門員）、保存処理：関邦一（補佐）、  
遺物写真撮影：佐藤元彦（補佐）
10. 本書作成の担当者は次の通りである。  
(1) 編集：高島英之、編集補佐：神谷佳明、フルデジタル編集：齊田智彦（主任調査研究員）  
(2) 執筆：第4章第1節・縄文時代遺物観察表：山口逸弘（上席専門員）・岩崎泰一（主席専門員）、第4章第2節・

古墳時代以降土器観察表：神谷佳明、第4章第3節・金属関連遺物観察表：笹澤泰史（主任調査研究員）・中近世陶磁器観察表：大西雅広（主席専門員）、第4章第4節：女屋和志雄（上席専門員）、石製模造品実測観察：関口博幸（主任調査研究員）、前記以外：高島英之

11. 出土石器・石製品の石材鑑定は飯島静男氏（群馬地質研究会）にお願いした。
12. 発掘調査および報告書作成には、群馬県教育委員会、太田市教育委員会、出浦崇（伊勢崎市教育委員会文化財保護課主任）、小澤毅（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室長）、川原秀夫（明和学園短期大学准教授）、國下多美樹（（財）向日市埋蔵文化財調査センター常務理事）、小宮俊久（太田市教育委員会文化財課埋蔵文化財係係長代理）、小宮豪（同整備係長）、清水みき（三重大学人文学部講師）、合田芳正（中央大学文学部講師）、武田和哉（奈良市埋蔵文化財調査センター主査）、知久裕昭（深谷市教育委員会生涯学習課文化財保護係主任）、千葉孝弥（多賀城市埋蔵文化財調査センター研究員）、中島信親（（財）向日市埋蔵文化財調査センター主査）、林部均（国立歴史民俗博物館研究部准教授）、原田香織（奈良市埋蔵文化財調査センター主任）、松村恵司（文化庁文化財鑑査官）、村田晃一（宮城県立東北歴史博物館学芸員）、山路直充（市立市川考古博物館学芸員）、山中章（三重大学人文学部教授）、山中敏史（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所名誉研究員）、渡辺一（大東文化大学文学部講師）の各機関・各氏にご指導・ご協力を賜った。記して深甚なる感謝の意を表す。
13. 出土遺物・調査記録類は群馬県埋蔵文化財調査センター（群馬県渋川市北橘町下箱田 784-2）に一括して保管してある。

## 凡 例

1. 本報告書に掲載する遺構平面図の方位記号は、国家座標の北を表す。座標系は国家座標IX系である。調査区は、X = 36310 ~ 36430、Y = -39855 ~ -39755 の範囲に収まる。両軸とも上2桁の表記を省略する。
2. 遺構平面・断面実測図に示した標高値の単位はmである。
3. 遺構・遺物実測図の縮尺は各図にそれぞれ示した。遺物写真の縮率は原則縄文 1/4・古墳以降 1/3 とし、それ以外のものには注記した。
4. 遺構の土層及び土器の色調の表現は、農林水産省農林水産技術会事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帳』1993年版に準拠した。
5. 遺物番号は、遺物実測図・遺物観察表とも共通し、写真図版番号は観察表に付記した。
6. 本報告書で使用した地形図は、「足利南部」・「足利北部」・「桐生」・「上野境」1/25000 である。
7. 本報告書では「掘立柱建物」・「平地建物」等に対偶する建物遺構の概念として学界にも膾炙している「竪穴建物跡」の用語を使用する。
8. 遺構・遺物図に使用しているスクリーントーンを表示する意味は下記の通りである。

	ローム		焼土		粘土		炉床土
黒色		スス		粘土		羽口 滓化（ガラス質）	
	羽口 熱変色範囲		鉄錆化部		酸化土砂		黒色の ガラス質の滓
	漆		灰釉		赤色		

9. 各遺構の推定年代は、出土遺物の年代観によって大方判明するもののみについて「何世紀第何四半期」の範囲で示し、例えば、8世紀第3四半期とみられる場合には、「8 C 3」と文中に表記した。

# 目 次

序	(1)
例言	(3)
凡例	(4)
第1章 調査に至る経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	2
第2章 地理的・歴史的環境	4
第1節 遺跡の位置と立地	4
第2節 遺跡の歴史的環境	5
第3章 発見された遺構と遺物	17
第1節 縄文時代の遺構と遺物	17
第1項 竪穴建物跡	18
第2項 土坑跡・埋設土器	27
縄文時代遺物観察表	70
第2節 古墳時代後期～平安時代の遺構と遺物	100
第1項 掘立柱建物跡	100
第2項 竪穴建物跡	132
第3項 溝跡	447
第4項 井戸跡	451
第5項 土坑跡	454
第6項 pit跡	490
第7項 粘土採掘坑跡	519
遺構外出土遺物	522
第4章 調査成果の整理とまとめ	532
第1節 縄文時代の土器・石器	532
第2節 土師器・須恵器の数量	532
第3節 楽前遺跡の金属器生産	533
第4節 1区204号竪穴建物跡で検出された白玉工房跡と石製模造品について	535
第5節 1区352号竪穴建物跡から出土したクルル鉤について	539
第6節 出土した文字資料からみた古代の山田郡と新田郡	543
第7節 まとめ	551
付章 2～4区出土遺物補遺	553
古墳時代以降遺物観察表	558
写真図版	627

## 図版・表目次（1）

第1図	楽前遺跡調査区模式図	3	第60図	遺構外出土石器（5）	69
第2図	楽前遺跡の位置と周辺の主な遺跡	16	第61図	51号掘立柱建物跡	101
第3図	304号竪穴建物跡	18	第62図	52号掘立柱建物跡	102
第4図	304号竪穴建物跡出土遺物（1）	19	第63図	53号掘立柱建物跡	102
第5図	304号竪穴建物跡出土遺物（2）	20	第64図	54号掘立柱建物跡	103
第6図	306号竪穴建物跡	20	第65図	55号掘立柱建物跡	103
第7図	306号竪穴建物跡出土遺物（1）	21	第66図	56号掘立柱建物跡	104
第8図	306号竪穴建物跡出土遺物（2）	22	第67図	57号掘立柱建物跡	105
第9図	306号竪穴建物跡出土遺物（3）	23	第68図	58号掘立柱建物跡	105
第10図	306号竪穴建物跡出土遺物（4）	24	第69図	59号掘立柱建物跡	107
第11図	306号竪穴建物跡出土遺物（5）	25	第70図	59号掘立柱建物跡エレベーション	108
第12図	306号竪穴建物跡出土遺物（6）	26	第71図	60号掘立柱建物跡	108
第13図	1022号土坑跡	27	第72図	61号掘立柱建物跡	109
第14図	1022号土坑跡出土遺物	28	第73図	62号掘立柱建物跡	109
第15図	1137号土坑跡・出土遺物（1）	29	第74図	63号掘立柱建物跡	110
第16図	1137号土坑跡出土遺物（2）	30	第75図	64号掘立柱建物跡	112
第17図	51号埋設土器・出土遺物	31	第76図	64号掘立柱建物跡エレベーション	113
第18図	53号埋設土器・出土遺物（1）	31	第77図	65号掘立柱建物跡	114
第19図	53号埋設土器出土遺物（2）	32	第78図	66号掘立柱建物跡	115
第20図	54号埋設土器・出土遺物（1）	33	第79図	67号掘立柱建物跡	116
第21図	54号埋設土器出土遺物（2）	34	第80図	68号掘立柱建物跡	117
第22図	55号埋設土器・出土遺物（1）	34	第81図	69号掘立柱建物跡	118
第23図	55号埋設土器出土遺物（2）	35	第82図	70号掘立柱建物跡	119
第24図	55号埋設土器出土遺物（3）	36	第83図	71号掘立柱建物跡	119
第25図	55号埋設土器出土遺物（4）	37	第84図	72号掘立柱建物跡	120
第26図	56号埋設土器・出土遺物	37	第85図	73号掘立柱建物跡	121
第27図	57号埋設土器・出土遺物	38	第86図	74号掘立柱建物跡	121
第28図	61号埋設土器・出土遺物	38	第87図	75号掘立柱建物跡	122
第29図	62号埋設土器・出土遺物	38	第88図	76号掘立柱建物跡	123
第30図	土器集中Aブロック・出土遺物（1）	39	第89図	77号掘立柱建物跡	124
第31図	土器集中Aブロック出土遺物（2）	40	第90図	78号掘立柱建物跡	125
第32図	土器集中Aブロック出土遺物（3）	41	第91図	79号掘立柱建物跡	126
第33図	土器集中Aブロック出土遺物（4）	42	第92図	80号掘立柱建物跡	126
第34図	土器集中Bブロック・出土遺物	43	第93図	81号掘立柱建物跡	127
第35図	土器集中Cブロック・出土遺物（1）	44	第94図	82号掘立柱建物跡	128
第36図	土器集中Cブロック出土遺物（2）	45	第95図	1～3号柱穴列跡	129
第37図	遺構外縄文土器（1）	46	第96図	掘立柱建物跡出土遺物	131
第38図	遺構外縄文土器（2）	47	第97図	201号竪穴建物跡	133
第39図	遺構外縄文土器（3）	48	第98図	201号竪穴建物跡出土遺物	134
第40図	遺構外縄文土器（4）	49	第99図	202号竪穴建物跡・出土遺物（1）	135
第41図	遺構外縄文土器（5）	50	第100図	202号竪穴建物跡竈・出土遺物（2）	136
第42図	遺構外縄文土器（6）	51	第101図	202号竪穴建物跡出土遺物（3）	137
第43図	遺構外縄文土器（7）	52	第102図	203号竪穴建物跡・出土遺物	138
第44図	遺構外縄文土器（8）	53	第103図	203号竪穴建物跡竈	139
第45図	遺構外縄文土器（9）	54	第104図	204号竪穴建物跡	140
第46図	遺構外縄文土器（10）	55	第105図	204号竪穴建物跡模式図・出土遺物（1）	141
第47図	遺構外縄文土器（11）	56	第106図	204号竪穴建物跡出土遺物（2）石製模造品石核・A類	142
第48図	遺構外縄文土器（12）	57	第107図	204号竪穴建物跡出土遺物（3）石製模造品A類	143
第49図	遺構外縄文土器（13）	58	第108図	204号竪穴建物跡出土遺物（4）石製模造品石核・A類	144
第50図	遺構外縄文土器（14）	59	第109図	204号竪穴建物跡出土遺物（5）石製模造品A・B・C類	145
第51図	遺構外縄文土器（15）	60	第110図	204号竪穴建物跡出土遺物（6）石製模造品C類	146
第52図	遺構外縄文土器（16）	61	第111図	204号竪穴建物跡出土遺物（7）石製模造品C・D類	147
第53図	遺構外縄文土器（17）	62	第112図	204号竪穴建物跡出土遺物（8）石製模造品D類	148
第54図	遺構外縄文土器（18）	63	第113図	204号竪穴建物跡出土遺物（9）石製模造品D・E・F・工具類	149
第55図	遺構外縄文土器（19）	64	第114図	205号竪穴建物跡	150
第56図	遺構外出土石器（1）	65	第115図	205号竪穴建物跡竈・出土遺物（1）	151
第57図	遺構外出土石器（2）	66	第116図	205号竪穴建物跡出土遺物（2）	152
第58図	遺構外出土石器（3）	67	第117図	206号竪穴建物跡	153
第59図	遺構外出土石器（4）	68	第118図	206号竪穴建物跡・竈・出土遺物（1）	154



## 図版・表目次（2）

第119図	206号竪穴建物跡出土遺物（2）	155	第178図	237号竪穴建物跡・出土遺物（1）	214
第120図	208号竪穴建物跡	156	第179図	237号竪穴建物跡出土遺物（2）	215
第121図	208号竪穴建物跡竈・出土遺物（1）	157	第180図	238号竪穴建物跡・出土遺物	216
第122図	208号竪穴建物跡出土遺物（2）	158	第181図	239号竪穴建物跡・出土遺物（1）	217
第123図	209号竪穴建物跡・出土遺物	159	第182図	239号竪穴建物跡掘方・出土遺物（2）	218
第124図	210号竪穴建物跡・出土遺物	160	第183図	239号竪穴建物跡竈・出土遺物（3）	219
第125図	211号竪穴建物跡	161	第184図	240号竪穴建物跡	220
第126図	211号竪穴建物跡出土遺物	162	第185図	241号竪穴建物跡・出土遺物（1）	221
第127図	212号竪穴建物跡・出土遺物	163	第186図	241号竪穴建物跡竈・出土遺物（2）	222
第128図	213号竪穴建物跡・出土遺物	164	第187図	242号竪穴建物跡	223
第129図	214号竪穴建物跡・出土遺物（1）	165	第188図	242号竪穴建物跡竈・出土遺物	224
第130図	214号竪穴建物跡竈・出土遺物（2）	166	第189図	243号竪穴建物跡	225
第131図	215号竪穴建物跡	167	第190図	243号竪穴建物跡掘方・出土遺物（1）	226
第132図	215号竪穴建物跡掘方・出土遺物（1）	168	第191図	243号竪穴建物跡出土遺物（2）	227
第133図	215号竪穴建物跡竈・出土遺物（2）	169	第192図	244号竪穴建物跡	228
第134図	215号竪穴建物跡出土遺物（3）	170	第193図	245号竪穴建物跡・出土遺物（1）	229
第135図	215号竪穴建物跡出土遺物（4）	171	第194図	245号竪穴建物跡竈・出土遺物（2）	230
第136図	216号竪穴建物跡	172	第195図	246号竪穴建物跡	231
第137図	216号竪穴建物跡掘方・竈	173	第196図	246号竪穴建物跡竈・出土遺物（1）	232
第138図	216号竪穴建物跡出土遺物	174	第197図	246号竪穴建物跡出土遺物（2）	233
第139図	217号竪穴建物跡	174	第198図	247号竪穴建物跡	234
第140図	217号竪穴建物跡竈・出土遺物（1）	176	第199図	247号竪穴建物跡出土遺物	235
第141図	217号竪穴建物跡出土遺物（2）	177	第200図	248号竪穴建物跡	236
第142図	218・219号竪穴建物跡・1号竈	178	第201図	248号竪穴建物跡出土遺物	237
第143図	218号竪穴建物跡2号竈・掘方	179	第202図	249号竪穴建物跡・出土遺物	238
第144図	218号竪穴建物跡出土遺物（1）	180	第203図	250号竪穴建物跡・出土遺物	239
第145図	218号竪穴建物跡出土遺物（2）	181	第204図	251号竪穴建物跡	240
第146図	220号竪穴建物跡・出土遺物	182	第205図	251号竪穴建物跡竈・出土遺物（1）	241
第147図	221号竪穴建物跡・出土遺物	183	第206図	251号竪穴建物跡出土遺物（2）	242
第148図	222号竪穴建物跡	184	第207図	252号竪穴建物跡・出土遺物	243
第149図	222号竪穴建物跡出土遺物	185	第208図	253号竪穴建物跡	244
第150図	223号竪穴建物跡	186	第209図	253号竪穴建物跡掘方	245
第151図	223号竪穴建物跡掘方・出土遺物（1）	187	第210図	253号竪穴建物跡出土遺物	246
第152図	223号竪穴建物跡出土遺物（2）	188	第211図	254号竪穴建物跡	247
第153図	224号竪穴建物跡	189	第212図	254号竪穴建物跡掘方	248
第154図	225号竪穴建物跡・出土遺物	190	第213図	254号竪穴建物跡竈・出土遺物	249
第155図	226号竪穴建物跡・出土遺物	191	第214図	255号竪穴建物跡・出土遺物（1）	250
第156図	227号竪穴建物跡・出土遺物	192	第215図	255号竪穴建物跡出土遺物（2）	251
第157図	229号竪穴建物跡・出土遺物	193	第216図	256号竪穴建物跡・出土遺物（1）	252
第158図	230号竪穴建物跡	194	第217図	256号竪穴建物跡出土遺物（2）	253
第159図	230号竪穴建物跡出土遺物	195	第218図	257号竪穴建物跡	254
第160図	231号竪穴建物跡	196	第219図	257号竪穴建物跡竈・出土遺物	255
第161図	231号竪穴建物跡出土遺物	197	第220図	258号竪穴建物跡	256
第162図	232号竪穴建物跡	198	第221図	258号竪穴建物跡竈・出土遺物（1）	257
第163図	232号竪穴建物跡出土遺物	199	第222図	258号竪穴建物跡出土遺物（2）	258
第164図	233号竪穴建物跡	200	第223図	258号竪穴建物跡出土遺物（3）	259
第165図	233号竪穴建物跡掘方・出土遺物（1）	201	第224図	259号竪穴建物跡・出土遺物	260
第166図	233号竪穴建物跡出土遺物（2）	202	第225図	261号竪穴建物跡・出土遺物	261
第167図	234号竪穴建物跡	203	第226図	262号竪穴建物跡	262
第168図	234号竪穴建物跡竈・出土遺物	204	第227図	262号竪穴建物跡竈・出土遺物	263
第169図	235号竪穴建物跡	205	第228図	263号竪穴建物跡	264
第170図	235号竪穴建物跡掘方	206	第229図	263号竪穴建物跡竈・出土遺物	265
第171図	235号竪穴建物跡竈・出土遺物（1）	207	第230図	264号竪穴建物跡	266
第172図	235号竪穴建物跡出土遺物（2）	208	第231図	265号竪穴建物跡	267
第173図	235号竪穴建物跡出土遺物（3）	209	第232図	265号竪穴建物跡出土遺物	268
第174図	235号竪穴建物跡出土遺物（4）	210	第233図	266号竪穴建物跡・出土遺物	269
第175図	235号竪穴建物跡出土遺物（5）	211	第234図	267号竪穴建物跡・出土遺物	270
第176図	236号竪穴建物跡・出土遺物（1）	212	第235図	268号竪穴建物跡・出土遺物	271
第177図	236号竪穴建物跡出土遺物（2）	213	第236図	269号竪穴建物跡	272

## 図版・表目次（3）

第237図	270号竪穴建物跡・出土遺物	273	第296図	303号竪穴建物跡出土遺物	331
第238図	271号竪穴建物跡	274	第297図	305号竪穴建物跡・出土遺物	332
第239図	272号竪穴建物跡・出土遺物	275	第298図	307号竪穴建物跡・出土遺物	332
第240図	273号竪穴建物跡・出土遺物	276	第299図	308号竪穴建物跡・出土遺物	333
第241図	274号竪穴建物跡	276	第300図	309号竪穴建物跡	334
第242図	275号竪穴建物跡・出土遺物（1）	277	第301図	309号竪穴建物跡出土遺物	335
第243図	275号竪穴建物跡掘方・竈・出土遺物（2）	278	第302図	310号竪穴建物跡	336
第244図	276号竪穴建物跡・出土遺物	279	第303図	312号竪穴建物跡	337
第245図	277号竪穴建物跡・出土遺物（1）	280	第304図	313号竪穴建物跡	338
第246図	277号竪穴建物跡出土遺物（2）	281	第305図	313号竪穴建物跡掘方	339
第247図	278号竪穴建物跡	282	第306図	313号竪穴建物跡竈・出土遺物（1）	340
第248図	278号竪穴建物跡竈・出土遺物（1）	283	第307図	313号竪穴建物跡出土遺物（2）	341
第249図	278号竪穴建物跡出土遺物（2）	284	第308図	313号竪穴建物跡出土遺物（3）	342
第250図	279号竪穴建物跡	285	第309図	313号竪穴建物跡出土遺物（4）	343
第251図	279号竪穴建物跡竈・出土遺物	286	第310図	314号竪穴建物跡	344
第252図	280号竪穴建物跡	287	第311図	314号竪穴建物跡竈・出土遺物（1）	345
第253図	280号竪穴建物跡竈・出土遺物	288	第312図	314号竪穴建物跡出土遺物（2）	346
第254図	281号竪穴建物跡	289	第313図	314号竪穴建物跡出土遺物（3）	347
第255図	281号竪穴建物跡出土遺物（1）	290	第314図	315・332号竪穴建物跡	348
第256図	281号竪穴建物跡出土遺物（2）	291	第315図	315・332号竪穴建物跡竈・出土遺物（1）	349
第257図	284号竪穴建物跡・出土遺物	292	第316図	315・332号竪穴建物跡出土遺物（2）	350
第258図	285号竪穴建物跡	293	第317図	316号竪穴建物跡	351
第259図	286号竪穴建物跡・出土遺物	294	第318図	317号竪穴建物跡	352
第260図	287号竪穴建物跡	295	第319図	317号竪穴建物跡竈・出土遺物	353
第261図	287号竪穴建物跡竈・出土遺物	296	第320図	319号竪穴建物跡	354
第262図	288号竪穴建物跡	297	第321図	319号竪穴建物跡出土遺物	355
第263図	288号竪穴建物跡竈・出土遺物	298	第322図	320号竪穴建物跡	356
第264図	289号竪穴建物跡	299	第323図	327号竪穴建物跡・出土遺物	357
第265図	289号竪穴建物跡竈・出土遺物（1）	300	第324図	320号竪穴建物跡出土遺物（1）	358
第266図	289号竪穴建物跡出土遺物（2）	301	第325図	320号竪穴建物跡出土遺物（2）	359
第267図	289号竪穴建物跡出土遺物（3）	302	第326図	321号竪穴建物跡	360
第268図	290号竪穴建物跡	303	第327図	321号竪穴建物跡掘方	361
第269図	290号竪穴建物跡出土遺物	304	第328図	321号竪穴建物跡竈	362
第270図	291号竪穴建物跡	305	第329図	321号竪穴建物跡出土遺物	363
第271図	291号竪穴建物跡掘方	306	第330図	322号竪穴建物跡	364
第272図	291号竪穴建物跡竈・出土遺物	307	第331図	322号竪穴建物跡出土遺物	365
第273図	292号竪穴建物跡竈・出土遺物（1）	308	第332図	323号竪穴建物跡・出土遺物	366
第274図	292号竪穴建物跡出土遺物（2）	309	第333図	324号竪穴建物跡	367
第275図	292号竪穴建物跡出土遺物（3）	310	第334図	324号竪穴建物跡竈・出土遺物（1）	368
第276図	292号竪穴建物跡出土遺物（4）	311	第335図	324号竪穴建物跡出土遺物（2）	369
第277図	292号竪穴建物跡出土遺物（5）	312	第336図	325号竪穴建物跡・出土遺物	370
第278図	292号竪穴建物跡出土遺物（6）	313	第337図	326号竪穴建物跡	371
第279図	293号竪穴建物跡	314	第338図	326号竪穴建物跡竈	372
第280図	293号竪穴建物跡掘方・竈・出土遺物	315	第339図	326号竪穴建物跡掘方・出土遺物（1）	373
第281図	294号竪穴建物跡	316	第340図	326号竪穴建物跡出土遺物（2）	374
第282図	294号竪穴建物跡竈・出土遺物	317	第341図	326号竪穴建物跡出土遺物（3）	375
第283図	296号竪穴建物跡・出土遺物	318	第342図	328号竪穴建物跡	376
第284図	297号竪穴建物跡	319	第343図	328号竪穴建物跡掘方	377
第285図	297号竪穴建物跡掘方	320	第344図	328号竪穴建物跡竈	378
第286図	297号竪穴建物跡竈・出土遺物（1）	321	第345図	328号竪穴建物跡出土遺物（1）	379
第287図	297号竪穴建物跡出土遺物（2）	322	第346図	328号竪穴建物跡出土遺物（2）	380
第288図	298号竪穴建物跡	323	第347図	328号竪穴建物跡出土遺物（3）	381
第289図	298号竪穴建物跡出土遺物	324	第348図	329号竪穴建物跡	382
第290図	299号竪穴建物跡	325	第349図	329号竪穴建物跡出土遺物	383
第291図	299号竪穴建物跡出土遺物	326	第350図	330号竪穴建物跡・出土遺物	384
第292図	300号竪穴建物跡	327	第351図	331号竪穴建物跡・出土遺物（1）	385
第293図	301号竪穴建物跡・出土遺物	328	第352図	331号竪穴建物跡竈・出土遺物（2）	386
第294図	303号竪穴建物跡	329	第353図	333号竪穴建物跡	387
第295図	303号竪穴建物跡掘方・竈	330	第354図	333号竪穴建物跡掘方	388

## 図版・表目次（4）

第355図	332号竪穴建物跡竈・出土遺物（1）	389	第414図	51・53号溝跡	447
第356図	333号竪穴建物跡出土遺物（2）	390	第415図	55号溝跡	447
第357図	333号竪穴建物跡出土遺物（3）	391	第416図	52・54号溝跡	448
第358図	333号竪穴建物跡出土遺物（4）	392	第417図	56号溝跡	449
第359図	333号竪穴建物跡出土遺物（5）	393	第418図	57・58号溝跡・57号溝跡出土遺物	449
第360図	334号竪穴建物跡・出土遺物（1）	394	第419図	59号溝跡・出土遺物	450
第361図	334号竪穴建物跡掘方・竈・出土遺物（2）	395	第420図	1号円形周溝跡・出土遺物	450
第362図	336号竪穴建物跡	396	第421図	1～4号井戸跡	455
第363図	336号竪穴建物跡竈・出土遺物	397	第422図	5・7号井戸跡	456
第364図	337号竪穴建物跡	398	第423図	6・9号井戸跡	457
第365図	337号竪穴建物跡掘方	399	第424図	8・11・12号井戸跡	458
第366図	337号竪穴建物跡竈・出土遺物（1）	400	第425図	10・13・14号井戸跡	459
第367図	337号竪穴建物跡出土遺物（2）	401	第426図	井戸跡出土遺物（1）	460
第368図	337号竪穴建物跡出土遺物（3）	402	第427図	井戸跡出土遺物（2）	461
第369図	338号竪穴建物跡	402	第428図	井戸跡出土遺物（3）	462
第370図	339号竪穴建物跡・出土遺物	403	第429図	土坑跡（1）	465
第371図	340号竪穴建物跡・出土遺物（1）	404	第430図	土坑跡（2）	466
第372図	340号竪穴建物跡出土遺物（2）	405	第431図	土坑跡（3）	467
第373図	341号竪穴建物跡	406	第432図	土坑跡（4）	468
第374図	341号竪穴建物跡掘方	407	第433図	土坑跡（5）	471
第375図	341号竪穴建物跡竈	408	第434図	土坑跡（6）	472
第376図	341号竪穴建物跡出土遺物	409	第435図	土坑跡（7）	475
第377図	342号竪穴建物跡	410	第436図	土坑跡（8）	476
第378図	342号竪穴建物跡出土遺物	411	第437図	土坑跡（9）	479
第379図	343号竪穴建物跡・出土遺物	412	第438図	土坑跡（10）	480
第380図	344号竪穴建物跡	413	第439図	土坑跡（11）	483
第381図	344号竪穴建物跡出土遺物	414	第440図	土坑跡（12）	484
第382図	345号竪穴建物跡・出土遺物	415	第441図	土坑跡出土遺物（1）	486
第383図	346号竪穴建物跡	416	第442図	土坑跡出土遺物（2）	487
第384図	346号竪穴建物跡出土遺物	417	第443図	土坑跡出土遺物（3）	488
第385図	347号竪穴建物跡・出土遺物	418	第444図	土坑跡出土遺物（4）	489
第386図	348号竪穴建物跡竈・出土遺物	419	第445図	pit跡（1）	497
第387図	349号竪穴建物跡	420	第446図	pit跡（2）	498
第388図	350号竪穴建物跡・出土遺物	421	第447図	pit跡（3）	499
第389図	351号竪穴建物跡・出土遺物	422	第448図	pit跡（4）	500
第390図	352号竪穴建物跡・出土遺物	423	第449図	pit跡（5）	501
第391図	353号竪穴建物跡	424	第450図	pit跡（6）	502
第392図	353号竪穴建物跡出土遺物（1）	425	第451図	pit跡（7）	503
第393図	353号竪穴建物跡出土遺物（2）	426	第452図	pit跡（8）	504
第394図	353号竪穴建物跡出土遺物（3）	427	第453図	pit跡（9）	505
第395図	354号竪穴建物跡	428	第454図	pit跡（10）	506
第396図	355号竪穴建物跡	429	第455図	pit跡（11）	507
第397図	355号竪穴建物跡出土遺物	430	第456図	pit跡（12）	508
第398図	356号竪穴建物跡	431	第457図	pit跡（13）	509
第399図	356号竪穴建物跡竈・出土遺物	432	第458図	pit跡（14）	510
第400図	357号竪穴建物跡	433	第459図	pit跡（15）	511
第401図	357号竪穴建物跡出土遺物（1）	434	第460図	pit跡（16）	512
第402図	357号竪穴建物跡出土遺物（2）	435	第461図	pit跡（17）	513
第403図	358号竪穴建物跡・出土遺物	436	第462図	pit跡（18）	514
第404図	359号竪穴建物跡・出土遺物	437	第463図	pit跡（19）	515
第405図	360号竪穴建物跡・出土遺物	438	第464図	pit跡（20）	516
第406図	361号竪穴建物跡	439	第465図	pit跡（21）	517
第407図	361号竪穴建物跡出土遺物（1）	440	第466図	pit跡出土遺物	518
第408図	361号竪穴建物跡出土遺物（2）	441	第467図	1号粘土採掘坑跡	519
第409図	362号竪穴建物跡・出土遺物	442	第468図	1号粘土採掘坑跡出土遺物	520
第410図	363号竪穴建物跡・出土遺物	443	第469図	2号粘土採掘坑跡・出土遺物	521
第411図	365号竪穴建物跡・出土遺物	444	第470図	遺構外出土遺物（1）	522
第412図	366号竪穴建物跡・出土遺物	445	第471図	遺構外出土遺物（2）	523
第413図	367号竪穴建物跡・出土遺物	446	第472図	遺構外出土遺物（3）	524

## 図版・表目次（5）

第473図	遺構外出土遺物（4）	525	表1	1区出土石器器種・石材一覧表	98
第474図	遺構外出土遺物（5）	526	表2	1区出土打製石斧型式表	98
第475図	遺構外出土遺物（6）	527	表3	1区出土石鏃型式表	98
第476図	遺構外出土遺物（7）	528	表4	包含層出土剥片・礫・礫片数量表	99
第477図	遺構外出土遺物（8）	529	表5	1区pit一覧表	491～496
第478図	遺構外出土遺物（9）	530	表6	出土した主な古代のクルル鉤	542
第479図	遺構外出土遺物（10）	531	表7	楽前遺跡出土文字資料一覧	549
第480図	金属器生産遺物構成図	534	表8	群馬県内出土郡名記載土器一覧	549・550
第481図	204号竪穴建物跡白玉製作工程図	537	表9	2～4区出土縄文石器器種・石材一覧	553
第482図	2・3区出土遺物（縄文石器）補遺	555	表10	2～4区出土遺物補遺一覧	553
第483図	2・3区出土遺物補遺	556			
第484図	3・4区出土遺物補遺	557			

## 写真図版目次（1）

PL. 1	楽前遺跡1区全景、304号竪穴建物跡	PL. 43	239～241号竪穴建物跡
2	304・306号竪穴建物跡	44	241・242号竪穴建物跡
3	306号竪穴建物跡、1022・1137号土坑跡、51・54・55号埋設土器	45	242～244号竪穴建物跡
4	56・57・61・62号埋設土器、土器集中Cブロック	46	245・246号竪穴建物跡
5	51～59号掘立柱建物跡	47	246～248号竪穴建物跡
6	60～67号掘立柱建物跡	48	248～251・255～257号竪穴建物跡
7	51・52号掘立柱建物跡柱穴	49	251～253号竪穴建物跡
8	52～56号掘立柱建物跡柱穴	50	254～256号竪穴建物跡
9	56・57号竪穴建物跡柱穴	51	256～259号竪穴建物跡
10	57～59号掘立柱建物跡柱穴	52	259・261～263号竪穴建物跡
11	59・60号掘立柱建物跡柱穴	53	262～265・267・268号竪穴建物跡
12	60・65・66・69号掘立柱建物跡柱穴	54	269～274号竪穴建物跡
13	66～70・80号掘立柱建物跡柱穴	55	275～277号竪穴建物跡
14	70～72・74号掘立柱建物跡柱穴	56	277～279号竪穴建物跡
15	73～76号掘立柱建物跡柱穴	57	279～281号竪穴建物跡
16	76・78～82号掘立柱建物跡柱穴	58	281・284～287号竪穴建物跡
17	80～82号掘立柱建物跡柱穴	59	287～289号竪穴建物跡
18	1～3号柱穴列跡柱穴	60	289～292・311号竪穴建物跡
19	201・202・224号竪穴建物跡	61	292～294号竪穴建物跡
20	202・203号竪穴建物跡	62	294・296・297号竪穴建物跡
21	203・204号竪穴建物跡	63	298・299号竪穴建物跡
22	204号竪穴建物跡	64	299～301・303号竪穴建物跡
23	204・205号竪穴建物跡	65	303・305・307・308号竪穴建物跡
24	206号竪穴建物跡	66	309～310・312・313号竪穴建物跡
25	208号竪穴建物跡	67	313・314号竪穴建物跡
26	209・210号竪穴建物跡	68	314～316・332号竪穴建物跡
27	210～213号竪穴建物跡	69	316・317・323号竪穴建物跡
28	213・214号竪穴建物跡	70	317・319号竪穴建物跡
29	214・215号竪穴建物跡	71	320・321・327号竪穴建物跡
30	215・216号竪穴建物	72	321・322号竪穴建物跡
31	217～219号竪穴建物跡	73	322～324号竪穴建物跡
32	218・219号竪穴建物跡	74	324～326号竪穴建物跡
33	219～222号竪穴建物跡	75	326・328号竪穴建物跡
34	222・223号竪穴建物跡	76	328～330号竪穴建物跡
35	223～226号竪穴建物跡	77	330・331・333号竪穴建物跡
36	227・229・230号竪穴建物跡	78	333・334・336号竪穴建物跡
37	230～232号竪穴建物跡	79	336・337号竪穴建物跡
38	232・233号竪穴建物跡	80	337～340号竪穴建物跡
39	234・235号竪穴建物跡	81	340～342号竪穴建物跡
40	235・236号竪穴建物跡	82	342・344・345号竪穴建物跡
41	236・237号竪穴建物跡	83	345～348号竪穴建物跡
42	237～239号竪穴建物跡	84	348～351・362号竪穴建物跡

## 写真図版目次（2）

- PL.85 351～353・359号竪穴建物跡PL  
86 353～356号竪穴建物跡  
87 356～358・360・361号竪穴建物跡  
88 360～363・365号竪穴建物跡  
89 365～367号竪穴建物跡、51～54号溝跡  
90 54～59号溝跡  
91 1号円形周溝跡、1・2号粘土採掘坑跡  
92 1～9号井戸跡  
93 10～14号井戸跡、1001～1006・1008・1009号土坑跡  
94 1010・1012～1014・1016～1021・1023・1030・1031号土坑跡  
95 1030・1031・1033～1035・1043～1045・1049～1051・1054・1061・1062号土坑跡  
96 1065・1067・1069～1078号土坑跡  
97 1079・1080・1082・1083・1085～1097・1099号土坑跡  
98 1098・1100～1113・1119号土坑跡  
99 1114～1130号土坑跡  
100 1128～1130・1135・1153～1155号土坑跡、1038・1041・1046・1047・1050～1052号pit  
101 1060～1062・1064・1065・1077・1082・1085・1089・1097・1098・1110～1112・1115号pit  
102 1117・1155・1156・1160～1163・1167～1177・1182号pit  
103 1178～1181・1183～1188・1190～1192・1195・1199・1200・1208号pit  
104 1209・1216・1218・1223・1224・1226・1229～1233・1241～1243・1251号pit  
105 1252.～1254・1257～1263・1266・1270～1272・1274号pit  
106 1275・1276・1278～1280・1282～1286・1288～1292号pit  
107 1293～1295・1297・1300～1304・1307～1309・1312～1314号pit  
108 1315～1321・1324・1326～1332号pit  
109 1333～1335・1343・1347・1348・1352～1354・1358・1361・1364・1366・1368・1369・1371・1378号pit  
110 1376・1384・1387～1389・1397・1398・1400・1402・1403・1413～1415・1417～1419号pit  
111 1420～1430・1441～1443・1445・1450～1452号pit  
112 1453・1457・1458・1461・1469・1470・1474・1478～1481・1485・1486・1489・1497～1500・1504・1505・1507号pit  
113 1508・1509・1512・1520～1523・1525・1528・1529・1533～1537号pit  
114 1538～1541・1548～1550・1552・1553・1563・1566～1569・1571・1574号pit  
115 1576～1582・1584・1590・1591・1596・1598・1599・1601～1603号pit  
116 1604・1605・1608～1614・1616～1621・1623号pit  
117 1624～1627・1633・1634・1636・1638～1644号pit  
118 304号竪穴建物跡出土遺物  
119 306号竪穴建物跡出土遺物（1）  
120 306号竪穴建物跡出土遺物（2）  
121 306号竪穴建物跡出土遺物（3）  
122 306号竪穴建物跡出土遺物（4）  
123 306号竪穴建物跡出土遺物（5）、1022号土坑跡出土遺物  
124 1137号土坑跡出土遺物、51号埋設土器  
125 53号埋設土器  
126 54号埋設土器  
127 55号埋設土器（1）  
128 55号埋設土器（2）・56号埋設土器  
129 57・61・62号埋設土器、土器集中Aブロック出土遺物（1）  
130 土器集中Aブロック出土遺物（2）  
131 土器集中A・B・Cブロック出土遺物  
132 土器集中Cブロック出土遺物（2）、遺構外出土縄文土器（1）  
PL.133 遺構外出土縄文土器（2）  
134 遺構外出土縄文土器（3）  
135 遺構外出土縄文土器（4）  
136 遺構外出土縄文土器（5）  
137 遺構外出土縄文土器（6）  
138 遺構外出土縄文土器（7）  
139 遺構外出土縄文土器（8）・石器（1）  
140 遺構外出土石器（2）  
141 遺構外出土石器（3）  
142 201・202・204号竪穴建物跡出土遺物  
143 204号竪穴建物跡出土遺物（2）  
144 204～206・208・210・211号竪穴建物跡出土遺物  
145 212～215号竪穴建物跡出土遺物  
146 216・217号竪穴建物跡出土遺物  
147 217・218号竪穴建物跡出土遺物  
148 220・221・223・225・226・229～231・234号竪穴建物跡出土遺物  
149 233・235号竪穴建物跡出土遺物  
150 235～237・239号竪穴建物跡出土遺物  
151 242・243・245～248・250・252号竪穴建物跡出土遺物  
152 251・253・254号竪穴建物跡出土遺物  
153 255～259・261・263・267号竪穴建物跡出土遺物  
154 265・268・272・275～278号竪穴建物跡出土遺物  
155 279～281・287号竪穴建物跡出土遺物  
156 286・289～292号竪穴建物跡出土遺物  
157 292号竪穴建物跡出土遺物（2）  
158 293・294・297～299号竪穴建物跡  
159 301・303・305・309・313号竪穴建物跡  
160 313・314号竪穴建物跡出土遺物  
161 314・320号竪穴建物跡出土遺物  
162 319・321～324・326号竪穴建物跡出土遺物  
163 326・328号竪穴建物跡出土遺物  
164 328・330号竪穴建物跡出土遺物  
165 331～333号竪穴建物跡出土遺物  
166 333号竪穴建物跡出土遺物  
167 333・334・336・337号竪穴建物跡出土遺物  
168 339～342・346号竪穴建物跡  
169 344・345・347・348・350・352・353号竪穴建物跡出土遺物  
170 353・357号竪穴建物跡出土遺物  
171 356・359～361・363・365～367号竪穴建物跡出土遺物  
172 57・59号溝跡、4～6・8・11・12・14号井戸跡出土遺物  
173 1021・1046・1054・1061・1070・1082号土坑跡、1301・1498・1528・1539号pit出土遺物  
174 1・2号粘土採掘坑跡、遺構外出土遺物  
175 遺構外出土遺物、中世遺物  
176 2・3区出土遺物（縄文石器）補遺  
177 3・4区出土遺物補遺



## 第1章 調査に至る経緯と経過

### 第1節 調査に至る経緯

本事業は、建設省（当時、現・国土交通省）と日本道路公団（当時、現・東日本高速道路株式会社）によって計画された、群馬・栃木・茨城の北関東三県の主要都市間を東西に横断的に結ぶ自動車専用高速交通網である北関東自動車道の建設用地内に包蔵される埋蔵文化財の発掘調査による記録保存の措置が、日本道路公団（当時）東京建設局より当事業団に委託されたものである。

本遺跡において調査の対象となったのは、同自動車道の太田桐生ICに西側から接続する本線部分とIC本体の北側約半分の周回路に当たる。

北関東自動車道は、県内を南北に縦貫する関越自動車道の高崎ICの手前から東に分岐して、前橋市南部・伊勢崎市北部・太田市北部を経て県境の渡良瀬川を越え、茨城県那珂湊市へと通じる北関東の自動車交通の大動脈である。

長野県北信地域からは、関東平野北部を東西に横断して太平洋側に至るルートとなり、また、首都圏から放射状に三方向にむかって伸びている常磐自動車道、東北自動車道、関越自動車道を横断的に連絡する道路としての性格を有している。

関越自動車道との分岐点に当たる高崎ICから伊勢崎ICまでの間については、平成7～12年にかけて発掘調査が行われ、平成13年3月に供用が開始された。また、伊勢崎ICから太田桐生ICまでの区間については、平成12年8月から平成17年9月まで発掘調査が行われ、平成20年3月に供用が開始されている。

伊勢崎ICから栃木県境までの17.7km区間については、平成12年6月12日、当時の日本道路公団東京建設局高崎工事事務所において、公団（当時）高崎工事事務所、群馬県土木部（現・県土整備部）高速道路対策室、群馬県教育委員会文化スポーツ部文化財保

護課、当事業団の4者によるはじめての協議が持たれ、高速道路本線部分の埋蔵文化財発掘調査及び整理については当事業団による対応、側道部分の調査及び整理については当該各市町村教育委員会による対応であることがまず確認され、道路公団側からは、用地の取得状況や文化財調査と工事工程との調整について協議が諮られた。

その後、関係各機関相互での協議が進み、県教育委員会文化財保護課による調整を経て、平成12年8月1日付、日本道路公団東京建設局長、群馬県教育委員会教育長、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長の3者によって、「北関東自動車道（伊勢崎～県境）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する協定書」を締結し、この協定に基づいて、道路公団東京建設局長と当事業団理事長との間で同日付「平成12年度北関東自動車道（伊勢崎～県境）埋蔵文化財発掘調査委託契約書」を結び、同年8月1日より伊勢崎市書上遺跡の調査に、また10月1日より同天ヶ堤遺跡の調査に着手された。

日本道路公団（当時）東京建設局高崎工事事務所と県教育委員会事務局文化課（当時、現・文化財保護課）及び当事業団との平成15年度当初の調整会議において、道路公団側から太田市東今泉町東部地区における埋蔵文化財発掘調査が要請され、調査期間や経費等についての照会がなされた。これによって、本遺跡を含む当該箇所の調査が具体的日程に挙がってきた。

翌、平成16年4月付、日本道路公団東京建設局と当事業団との間で、本遺跡発掘調査の委託契約が締結され、4月1日から調査班2班が投入され、発掘調査が実施されることになった。

なお、大道東遺跡に隣接する1区は、調査当初、大道東遺跡と一体の遺跡であるという理解から、遺構番号を大道東遺跡とは通番にしてある。

## 第2節 調査の経過

発掘調査を管掌したのは、当事業団東毛調査事務所である。

調査対象箇所は、太田市北郊にあたる東今泉町の水田地帯のただ中にあたり、西側を主要地方道太田桐生線、東側を国道122号線に挟まれた総延長で東西に約400mの範囲で、総面積は15,652㎡である。

平成16年度の調査着手にあたって、調査対象地内を東西南北双方向に貫通している太田市道によって、7箇所に分割された調査区を、それぞれ、1区、2-1区、2-2区、2-3区、3-1区、3-2区、4区と便宜的に名付け、調査対象地の呼称とした(図1)。また、調査区各グリッドは、国家座標X軸とY軸との交点の数値を呼称とした。1区は、X=36310~36430・Y=-39855~-39755の範囲である。

平成16年度の調査は、平成16年4月1日から平成17年3月31日までの1年間、1~4区を年度末まで併行して調査した。

1区は、南側を中心に調査を続行し、年度内に4,787㎡のうちの2,200㎡分の調査を終了した。縄文時代の竪穴建物跡2棟と土坑跡1基、古墳時代後期から平安時代前期に至る掘立柱建物跡8棟、竪穴建物跡124棟、土坑跡105基、溝跡5条、粘土採掘坑跡1基などの遺構が検出され、調査は翌年度に継続された。

2~4区は調査を終了した。調査内容については『楽前遺跡』(1)を参照されたい。

平成17年度の調査は、平成17年4月1日から9月30日まで、前年度から調査に着手していた最も西寄りの1区の北側の部分を中心に調査した。

1区の西側に接する大道東遺跡では、古代の一級幹線道路である東山道駅路の遺構が検出されている。本遺跡では、古墳時代後期(飛鳥時代)から平安時代初期にかけての集落遺跡が検出された。17年度に調査された集落に関する遺構は、掘立柱建物跡24棟、柱穴列跡3条、竪穴建物跡31棟、溝跡4条、

井戸跡14基、土坑跡6基などである。竪穴建物跡の重複は甚だしく、西南側に隣接する大道東遺跡から続く、当該期の大集落の様相を呈していたことがわかる。

調査区の西北端部で検出された352号竪穴建物跡の床面直上からは鉄製のクルル鉤が出土した。伴出遺物から8世紀前半のものと考えられ、これまでの出土事例では、最古の部類に属する。出土した竪穴建物跡に隣接して掘立柱建物跡が数棟検出されているので、それらの鍵であった可能性が高い。

掘立柱建物跡は、規模は大方が2間四方あるいは2×3間程度と小さく、柱穴の掘り方も小さい。また、整然と計画的に建物が配置された様子は読み取れず、官衙施設的な様相は全く見られない。

なお、他に縄文時代の埋設土器が8基検出された。7基から中期、1基から後期の土器が出土している。

古墳時代後期~平安時代初期の遺構と縄文時代の遺構の調査が終了した後、旧石器の確認調査を実施したが、旧石器は確認されなかった。

本報告書では、平成16・17年度にわたって調査された1区の遺構・遺物についてとり上げる。

### ・発掘調査日誌抄

平成16年

4月1日(木) 調査担当者着任。発掘調査準備。

19日(月) 本格的に作業員を投入し調査開始。2区遺構精査。

20日(火) 1区調査着手。

5月13日(木) 1区遺構精査着手。

14日(金) 1区方眼杭打測量。

6月8日(火) 1区南側精査。南東部竪穴建物跡、pit等調査開始。

10日(木) 1区201-202号竪穴、1001-1009号土坑調査開始。

22日(火) 1区211-216号竪穴調査開始。

7月7日(水) 1区217-222号竪穴調査開始。

16日(金) 1区226-227号竪穴調査開始。

8月2日(月) 1区234号竪穴、東南隅で51~54号掘立柱調査開始。

9日(月) 1区239-241号竪穴調査開始。

9月7日(火) 長崎外国語大学木本雅康教授来跡、視察。

15日(水) 1区248-250号竪穴調査開始。

10月1日(金) 調査担当者1名転出。1区252・253号竪穴調査開始。

22日(金) 1区254-260号竪穴調査開始。



## 第2節 調査の経過

11月2日(火) 1区265~267号竪穴調査開始。  
 25日(木) 1区284・285号竪穴調査開始。3区調査開始。  
 12月1日(水) 10月1日付で転出していた担当者が調査に復帰。  
 22日(水) 1区304・305号竪穴調査開始。

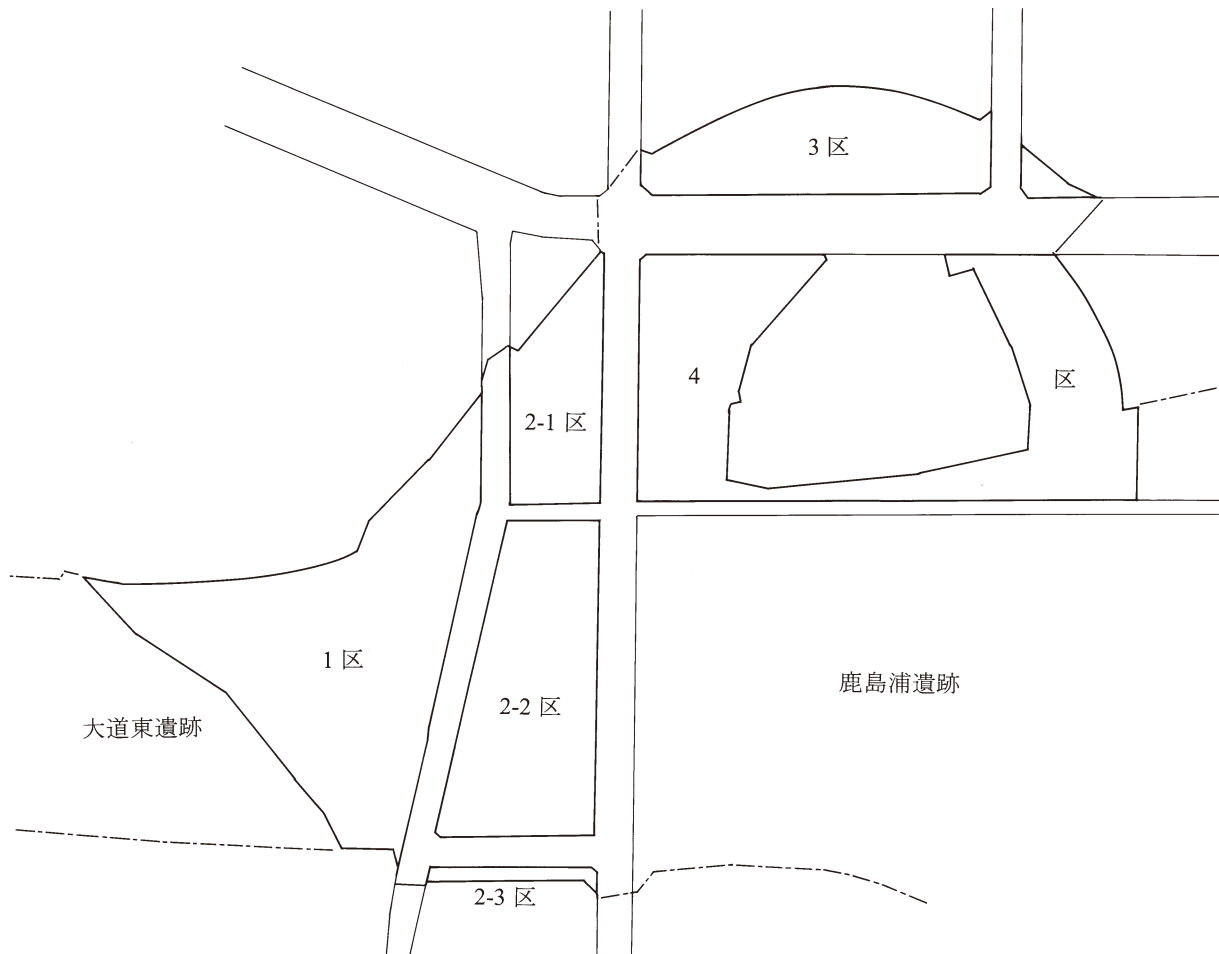
### 平成17年

1月4日(火) 調査担当者1名転出。  
 19日(水) 1区311・312号竪穴調査開始  
 2月1日(火) 1区314~316号竪穴調査開始。  
 15日(火) 1区313~328号竪穴調査継続。日本道路公団への会計  
 検査により検査官が発掘調査現場を視察。  
 17日(木) 1区314～328号竪穴調査継続。4区調査終了。  
 24日(木) 1区空掘。  
 3月1日(火) 1区329～331号竪穴調査開始。  
 7日(月) 調査担当者2名着任。  
 17日(木) 1区333号竪穴完掘。

### 平成17年

4月1日(金) 新年度調査担当者着任。再開準備。  
 11日(月) 新体制で調査再開。1区321~334号 竪穴調査再開。  
 18日(月) 336~338号竪穴調査開始。  
 5月10日(火) 縄文時代包含層、53号埋設土器調査開始。

17日(火) 59号掘立、54号埋設土器、2号井戸調査開始。  
 25日(水) 342・343号竪穴建物跡、62号掘立調査開始。  
 6月1日(水) 344・345号竪穴、3号井戸調査開始。  
 16日(木) 67号掘立調査開始。  
 27日(月) 348~356号竪穴調査開始。  
 7月7日(木) 357・358号竪穴調査開始。  
 19日(火) 355~362号竪穴調査継続。日本道路公団高崎工事事  
 務所長、同工務課長ら現場視察。上毛新聞社太田  
 支社報道部取材。  
 21日(木) 道路公団への会計検査により検査官視察。  
 8月5日(金) 363・365号竪穴調査開始。  
 18日(木) 367号竪穴、pit群調査継続。  
 22日(月) 367号竪穴、旧石器確認調査終了。現場でのすべての  
 発掘作業終了。1区埋戻し作業継続。  
 23日(火) 基礎整理作業着手。  
 31日(水) 埋戻し終了。  
 9月1日(木)~23日(木)現場にて基礎整理。  
 26日(月) 現場より撤収。  
 30日(金) 調査区引渡し。



第1図 楽前遺跡調査区模式図

## 第1章 調査に至る経緯と経過

なお、旧石器の確認調査を実施したが、いずれのトレンチにおいても旧石器は検出されなかった。

楽前遺跡の整理作業は当事業団資料部（担当：資料第1課）が担当し、当事業団本部において平成20年4月1日から平成22年9月30日まで2年6ヶ月間実施し、平成21年3月末に発掘調査報告書『財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第454集 楽前遺跡（1）－北関東自動車道（伊勢崎～県境）地域埋蔵文化財発掘調査報告書－』を、22年9月末に本報告書をそれぞれ刊行し、同事業に関わるすべての調査と整理を終了した。

### ・基本土層

表土	表土：地表から約15～35cm
I	I層：厚さ約8cm、黒褐色土
II	II層：厚さ約5cm、黒褐色土
III	III層：厚さ約10cm、暗褐色土
IV	IV層：厚さ約19cm、若干黄色がかつた褐色土
V	V層：厚さ約22cm、砂混じり褐色土
VI	VI層：厚さ約18cm、灰色砂層

\*全調査対象地中、最も基本土層の検出に適した4区での調査結果による。土層中には、軽石粒子、顕著なテフラ粒子の濃集層準は検出されなかった。

## 第2章 地理的・歴史的環境

### 第1節 遺跡の位置と立地

楽前遺跡は、太田市のほぼ中央の北寄りの東今泉町の水田地帯に位置している。東武伊勢崎線太田駅の北北東約4km、太田市のシンボルである金山丘陵の北東約1.7kmの位置に当たっている。

調査区は、一般県道太田・桐生線のすぐ東側に位置する大道東遺跡のさらに東側、北西から南東方向に斜めに走る農道を境にした東側である。本線から

IC本体に取り付く部分で、本遺跡全体の中では最西側に当たる調査区である。IC本体の北側に当たる本遺跡2～4区については、平成20年度に整理作業を行い、『楽前遺跡（1）北関東自動車道（伊勢崎～県境）地域埋蔵文化財発掘調査報告書』によってすでに報告済である。

太田桐生ICは、一般国道122号線に接して造成されているが、本遺跡の東約500mの位置で国道122号線は、北関東を横断する道路交通の大動脈である一般国道50号線と合流しており、太田市北部地区における交通の要衝となっている。

ICの南側半分については、当事業団によって鹿島浦遺跡として平成15～17年度に調査され、平成22年3月末、『鹿島浦遺跡』が刊行された。

また、ICに隣接する一般国道122号線の拡幅改良工事とICへの進入路及び料金所部分については、国道122号線を東西に挟んだ北側にあたる向矢部遺跡、南側に当たる東今泉鹿島遺跡として、平成15～17年度半ばにかけて当事業団によって発掘調査が、平成17～18年度に整理作業がそれぞれ実施され、『東今泉鹿島遺跡 国道122号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』が刊行されている。また、北側の向矢部遺跡の整理作業は、東今泉鹿島遺跡の整理作業と並行して行われ、『向矢部遺跡 国道122号道路改築事業に伴う埋蔵文化財調査報告書第2集』として刊行されている。

遺跡が立地する太田市の東今泉町一带を含む毛里田地区の地形は、北東に足尾山地が連なり、北西には八王子丘陵が、南西には金山丘陵が位置し、その間の平地を足尾山地を源とする渡良瀬川が北西から南東方向に向かって流れている。遺跡が所在する場所は、東側の足尾山地と西側の八王子丘陵・金山丘陵に挟まれた現在の渡良瀬川の右岸の標高約50mの平地にあたっている。

渡良瀬川は、何度も氾濫し、流路を替えながら扇状地や後背湿地を形成し、平地を形作っている。

本遺跡は、この渡良瀬川が更新世後期に形成した、桐生市付近を扇頂とする扇状地に形成された平地上

にある。この渡良瀬川扇状地は、渡良瀬川の東遷によって形成された時期の異なる4つの扇状地面で構成されている。各扇状地面は幅が狭く、南北に長く分布する。さらに扇状地面上には旧河道地形や沖積低地が発達するため、複雑な形態を呈している。

毛里田地区の扇状地面は、八王子丘陵・金山丘陵から扇状地Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ面で、現流域方向に推移する。丸山地区の東部から矢田堀地区へと続く地形面が扇状地Ⅰ面、只上地区の集落を中心に発達する扇状地Ⅱ面、そして現流域に沿って分布する扇状地Ⅲ面があり、扇状地Ⅱ面の南側に沖積低地が広がっている。集落はこれら扇状地面上や八王子丘陵・金山丘陵の丘麓部に分布している。

遺跡の土層からも、基盤層である扇状地の砂礫層の上に、数多くの洪水層が確認出来。渡良瀬川の氾濫は、遺構の埋土からも確認出来る。

本遺跡は、茶臼山丘陵から丸山～矢田堀～東今泉へと北西から南東へ細長く伸びた渡良瀬川扇状地Ⅰ面の北東端部の標高約52m前後の場所に立地している。遺跡はおよそ9万㎡の範囲に及んでいるものと推定されている。

## 第2節 遺跡の歴史的環境

### 第1項 周辺の旧石器時代遺跡の動向

本遺跡の北西約4kmに位置する成塚向山遺跡で、当事業団が北関東自動車道太田パーキングエリアの建設に先立って平成15年度から発掘調査を実施した範囲では、古墳時代前期の古墳である成塚向山1号墳の墳丘盛土中からナイフ型石器、エンドスクレイパー、削器など、石核を含め11点が出土している。これらの石器は、墳丘増築時に周辺の土を掘削した際に混入したものと考えられる。なお、古墳調査終了後に、旧石器の確認調査を実施しているが、旧石器は出土していない（『成塚向山古墳群』2008）。

本遺跡の北西約2.3kmのところに位置し、八王子丘陵と金山丘陵の接点の谷地に近い金山丘陵最北

端の平屋根上に立地する強戸町～緑町～吉沢町にかけて所在する峯山遺跡では、かつてナイフ型石器、削器、抉入石器、槍先型尖頭器などが出土し（『太田市史通史編原始・古代』1995）、平成14年度から17年度にかけては北関東自動車道の建設に伴って当事業団が発掘調査を実施したが、浅間板鼻褐色軽石層から暗色帯上面にかけて角錐状石器やナイフ形石器など多量の旧石器が出土している（『峯山遺跡Ⅰ』2009）。また、その南側に接する強戸口峯山遺跡では後期末の荒屋型彫刻刀が出土している（『太田市史通史編原始・古代』1995）。

峯山遺跡の東側に隣接する緑町の萩原遺跡でも、北関東自動車道の建設に伴って当事業団が平成16年度から18年度にかけて調査を実施し、後世の遺構埋土中からではあるがナイフ型石器が出土している（平成22年度報告書刊行予定）。萩原遺跡は早くから旧石器時代遺物の散布地として知られた雷電山遺跡のすぐ北側に当たっており、同じ遺跡と考えられる。雷電山遺跡は大字太田字強戸口の、金山丘陵から北東に張り出した雷電山の痩せ尾根上から先端部にかけての場所に立地し、槍先形尖頭器やナイフ型石器などが出土している（『太田市史通史編原始・古代』1995）。

本遺跡の北西約1.5km、主要地方道足利・伊勢崎線と一般県道桐生・太田線が交差する丸山交差点の西約0.5km、金山丘陵の北東に分離した場所に位置する周囲約200m・高さ約5mほどの独立小丘陵上に所在する大字矢田堀字小丸山の小丸山西遺跡からも槍先形尖頭器やナイフ型石器が出土している（『太田市史通史編原始・古代』1995）。

この他、北関東自動車道の建設に伴って、平成15年7月から平成17年3月末にかけて、当事業団によって調査が行われた、本遺跡から北西へ約900mのところの位置する東今泉町の八ヶ入遺跡からは、細石刃約370点を含む、約2000点以上の旧石器が発見されている（平成22年度報告書刊行予定）。さらに東金井町の金井口遺跡、東長岡町の焼山遺跡からも旧石器が出土している。

## 第2項 周辺の縄文時代遺跡の動向

**草創期の遺跡** 旧石器が出土した峯山遺跡は、縄文時代草創期の土器が散布していると『太田市史通史編原始・古代』（1995）にあるが、当事業団が平成14年度から着手した調査では、縄文時代草創期の土器は全く発見されていない。丘陵部頂上付近で早期及び前期の土器を伴う土坑跡や黒曜石製の石鏃、スクレイパー、剥片などが出土している。

**早期の遺跡** 同じく『太田市史通史編原始・古代』（1995）には本遺跡の北西約4kmに位置する成塚向山遺跡でも早期の土器が散布すると記す。当事業団が調査した範囲では、縄文時代の遺構は検出されていない。ただし、同遺跡から出土した旧石器同様、成塚向山1号墳墳丘盛土中に混入したとみられる早期中葉～早期後半の縄文土器片が46片出土している。

本遺跡の南南東に近接する東今泉鹿島遺跡は、国道122号線から北関東自動車道太田桐生インターチェンジへのアクセスルートの建設とそれに伴う国道の拡幅工事に先立つ調査であるが、早期の押型文土器と鶴ヶ島台式土器が出土しているが、縄文時代の遺構は検出されていない。

本遺跡の東に近接して、同じく北関東自動車道の建設に伴って平成16年7月から平成17年3月末まで調査された只上町の向矢部遺跡でも遺物包含層中から縄文時代早期～後期の土器が出土しているが、縄文時代の遺構は検出されていない（平成22年度整理着手予定）。

**前期の遺跡** 本遺跡でも黒浜・諸磯a・b式土器、前期中葉の土器19片、前期後葉の土器137片が出土している。

北関東自動車道の建設に伴って、平成15年2月から平成17年3月末までの間、発掘調査された、本遺跡の西北西約1.5kmに位置する緑町の二之宮遺跡からは縄文時代前期の竪穴建物跡1棟と土坑跡10基、ピット跡9基が検出されている。また、遺物包含層

からも前期前半から後期前半の土器が検出されている（『古氷条里制水田跡・二之宮遺跡』2009）。

本遺跡の南南東に近接する東今泉鹿島遺跡では、この時期の土坑跡4基が検出されており、黒浜式・諸磯式・浮島式の土器片が出土している。

また、成塚向山古墳群では、当事業団が調査した範囲では縄文時代の遺構は検出されていない。ただし、同遺跡から出土した旧石器や縄文時代早期の土器片と同様、成塚向山1号墳墳丘盛土中に混入したとみられる前期前半の資料が90片、前期後半の縄文土器片が6片出土している。

**中期の遺跡** 本遺跡でも竪穴建物跡2棟、土坑跡1基、埋設土器7基が検出され、中期前葉の土器10片、中期中葉の土器9片、中期後葉古段階の土器24片、中期後葉の土器11,727片、中期末葉の土器2,761片が出土している。

本遺跡周辺でこの時期の集落が顕著に検出されたのは、本遺跡の西に隣接する大道東遺跡で、縄文時代中期後半加曾利EⅢ式期から後期初頭称名寺式期の竪穴建物跡が12棟、土坑跡93基、埋設土器3基、炉跡2基が検出され、総重量1.5tに及ぶ大量の土器片が出土している（『大道東遺跡（1）縄文時代編』2009）。また、本遺跡の南側に隣接する鹿島浦遺跡でも中期の埋設土器が1基と、遺物包含層中から中期の土器片が多数出土している。

南南西に近接する東今泉鹿島遺跡では、中期末葉加曾利EⅢ～EⅣ式の土器片が包含層中から出土している。本遺跡の東側に隣接する向矢部遺跡からも、遺物包含層中から縄文時代中期の土器が出土しているが、縄文時代の遺構は検出されていない。向矢部遺跡のさらに東側に接して、同じく北関東自動車道の建設に先だって平成16年5月から平成18年3月末まで発掘調査された矢部遺跡では、縄文時代中期の土坑跡が約800基検出されている。

本遺跡1区でも縄文時代中期加曾利E式期の竪穴建物跡2棟と土坑跡1基、埋設土器7基が検出されている。

**後・晩期の遺跡** 西側に隣接する大道東遺跡及

び南南東に近接する東今泉鹿島遺跡では、後期前半の称名寺式、堀之内式の土器が出土している。

本遺跡でも埋設土器が1基、称名寺・堀之内・加曾利Bの他後期初頭の土器が1,725片、後期前葉の土器が1,414片、後期中葉の土器が5片、晩期前葉の土器が5片出土している。

### 第3項 周辺の弥生時代遺跡の動向

周辺部に展開する弥生時代の遺跡は、縄文時代の遺跡に比べて非常に少なく、いずれも旧町域東部の八王子丘陵西麓一帯である。

成塚町成塚石橋遺跡では、弥生時代後期樽式土器が出土した竪穴建物跡が7棟検出され、同型式土器出土の最東端を示している。

本遺跡の東北東約700mに位置する矢部遺跡では、北関東自動車道建設に伴って平成16年5月から平成18年3月末まで発掘調査され中期の須和田式土器が出土しているが、弥生時代の遺構は検出されていない（平成22年度整理作業着手予定）。

なお、本遺跡では弥生式土器片が11点、包含層中より出土しているが、弥生時代の遺構は検出されていない。

### 第4項 周辺の古墳時代遺跡の動向

本遺跡周辺は東毛地域においても屈指の古墳密集地帯であり、古墳時代集落と併せ、枚挙に暇がないほどである。

**集落** 古墳時代の集落跡は、本遺跡と同様、北関東自動車道の建設に関連して当事業団が発掘調査した緑町の二之宮遺跡、八ヶ入遺跡、東今泉町の大道西遺跡、大道東遺跡、本遺跡、鹿島浦遺跡、東今泉鹿島遺跡、只上町の矢部遺跡、只上深町遺跡などから古墳時代中期から後期の集落跡が発見されている。とくに本遺跡の南南西に近接する東今泉鹿島遺跡からは古墳時代前期末から中期初頭の竪穴建物跡が11棟検出されている。同様に北関東自動車道の建

設に伴って当事業団が平成15年11月から平成17年3月末まで発掘調査を行った緑町の古水条理制水田跡では、西小丸山の小丘陵の南に接する微高地上で発見された二条の溝跡から古墳時代前期の土師器片が出土している。

本遺跡は、昭和42（1967）年に駒澤大学が只上遺跡として古墳時代後期の竪穴建物跡を1棟調査し、さらに昭和61（1986）年から翌62年にかけては、群馬県菅渡良瀬川流域地区公害防除特別土地改良事業に伴い、太田市教育委員会が28,000㎡に及ぶやや大規模な発掘調査を実施し、古墳時代後期の竪穴建物跡約100棟が検出されている。

八王子丘陵が南に向かって舌状に突出した台地上に立地する成塚町～北金井町～大鷲町にわたって所在する成塚町の向山遺跡・成塚向山古墳群では、当事業団の調査で、古墳時代前期4世紀の方墳と共に前期初頭の吉ヶ谷式系土器を伴う集落跡が検出されている。

**周辺の古墳** 金山丘陵西北の突端部丘陵上に立地する中強戸の寺山古墳は、北関東自動車道の建設に伴って発掘調査が行われた峯山遺跡の南約100mに位置する全長55mの前方後方墳で、初期古墳として著名である（『太田市史通史編原始・古代』1995）。また、当事業団が調査した成塚向山古墳群では、一辺約20mの4世紀古墳時代前期に築造された方墳が検出されている。『上毛古墳総覧』に掲載されていない古墳であり、平成11年度に太田市教育委員会が試掘調査を実施している。当事業団による本調査の結果、竪穴式の埋葬施設が2基検出され、銅製重圏文鏡、銅鏃、鉄鏃、鉄剣、鉄製工具、翡翠製勾玉、蛇紋岩製管玉、ガラス製小玉などが出土した。

5世紀後半の大型古墳としては、鳥山町鶴山古墳が特筆できる。大間々扇状地末端の低台地上に立地する全長102mの前方後円墳で、後円部墳頂には竪穴式石室を有し、鉄製甲冑類、石製模造品などが多数出土した（石川正之助・右島和夫「鶴山古墳出土遺物の基礎調査」1～6『群馬県立歴史博物館調査

## 第2章 地理的・歴史的環境

報告書』2～7 1986～91)。

八王子丘陵南端に立地する成塚向山2号墳は、径約18mの6世紀の円墳で、古墳時代前期の1号墳や古墳時代前期の集落跡と同様に平成15・16年度に当事業団が発掘調査を実施した。南側に向かって舌状に突出して張り出した丘陵上の突端部分に位置し、同時期の古墳としては群を形成せずに単独で立地している点が特徴的である。前期古墳である1号墳よりもさらに南側の丘陵の端、1号墳よりもやや低い位置にあり、南側に入り口を持つ横穴式石室を有する。石室内からは鉄鏃やガラス小玉、墳丘裾からは樹立状態の形象埴輪約20点・円筒埴輪約40点からなる埴輪列が出土した。

本遺跡周辺の緑町から東今泉町にかけては菅ノ沢古墳群・市場古墳群・内並木古墳群・寺ヶ入古墳群など多くの古墳群が形成されている。

本遺跡の真東約700mに位置する只上町の猿楽遺跡では、国道50号線バイパスの建設工事に先立って昭和49年6月から10月まで群馬県教育委員会によって約8,000㎡が発掘調査が実施され、円墳7基と1基の箱式石棺墓が検出された。6世紀後半頃の古墳とみられ、大型の円筒埴輪列が並んでいた様子が出土遺物からうかがえる。これら発掘調査された古墳群の北側にも、『上毛古墳綜覧』に掲載された「毛里田村第1号墳」「毛里田村第17号墳」「毛里田村第18号墳」などが存在していた様子がうかがえるので、周辺一帯に広がる古墳群の一角を占めていた様子が判明する。

本遺跡の西南西約1kmに位置する東今泉町の金山丘陵東北端に延びる支丘陵の南斜面に立地する4基からなる後・終末期古墳群と、それに隣接して古墳時代後期の大規模な須恵器窯跡と製鉄遺跡群からなる生産遺跡である菅ノ沢遺跡がある。金山丘陵には、古墳時代後期から平安時代に至る須恵器窯跡が多数存在しており、この地域における一大窯業生産地帯であったことが知られているが、菅ノ沢須恵器窯跡は、金山丘陵窯跡群の中における現時点で調査された窯跡の中でも中核的な窯跡である。

この菅ノ沢遺跡群の北側に位置する丘陵の先端部には、今泉口八幡山古墳がある。この古墳は『上毛古墳綜覧』に掲載された「毛里田村第12号墳」で、前方部を西に向ける全長約50mの6世紀末頃の前方後円墳と考えられている。後円部に位置すると考えられている横穴式石室は大部分が崩落しているが、長さ約2m・幅約1m・高さ約1mの安山岩製の家型石棺の存在が確認されている。東毛学習文化センター所蔵の江戸時代・元文3(1738)年の「新田金山石棺御尋聞書」に記載された古墳は、この古墳である可能性が高いとされている。さらにこの古墳の南南東約50mのところと近接する菅ノ沢御廟山古墳は、『上毛古墳綜覧』に掲載される「毛里田村第11号墳」で、径約30mの横穴式石室を有する円墳であり、従来、「新田金山石棺御尋聞書」に記載された古墳と考えられてきた。しかしながら、現在では、それはこの古墳ではなく近接する今泉口八幡山古墳とみる説が有力である。

本遺跡の西約500m、大道西遺跡のすぐ北側には、一辺約30mの方墳、大型の横穴式石室を主体部とする東毛地域唯一の終末期方墳である巖穴山古墳が所在している。『上毛古墳綜覧』に掲載された「毛里田村第10号墳」である。二段築成の墳丘の高さは約6m、周囲には上幅約7m・下幅約5.5m・深さ約1mの周溝が巡るが、現状では周溝は埋没している。時期は7世紀中葉とみられる。

本遺跡の北西約1.5kmには、西側を休泊用水、東側を矢場川に挟まれた台地上に丸山古墳群がある。『上毛古墳綜覧』編纂時には全長約50mの前方後円墳・庚申塚古墳とその周辺に位置する円墳8基からなる6世紀末～7世紀初頭の古墳群である。庚申塚古墳から出土した石棺が、江戸時代・文政年間に刊行された滝沢馬琴編『菟園小説』第七集(文政8=1825年刊)に「上野国山田郡吉澤村掘地見石棺図」「石棺図別録」として報告記事が実測図入りで紹介されている。なお、この石棺については現在所在不明である。

**生産遺跡** 先述したように古墳群が存在する菅ノ沢遺跡群には、古墳時代の須恵器窯跡群と製鉄遺

跡が発見されている。

金山丘陵の北東端部には、緑町の強戸口須恵器窯跡群と諏訪ヶ入須恵器窯跡が、また金山丘陵の東端部には、東今泉町の金井口埴輪窯跡・母衣埴輪窯跡・亀山須恵器窯跡などの遺跡がある。埴輪窯・須恵器窯跡は金山丘陵の北側に対峙する八王子丘陵からも多く発見されており、一帯が古墳時代後期から平安時代にかけての一大窯業地帯であったことが判明している。また、これまでも寺中遺跡、菅ノ沢遺跡群、八ヶ入遺跡、今泉口遺跡などにおいて製鉄遺跡が発見されており、窯業生産と並んで鉄生産も行われていた場所であったことが判明している。さらに近年の北関東自動車道の建設に並行して旧藪塚本町藪塚西野原で建設された調整池の工事に先立って当事業団によって調査された西野原遺跡では、東日本最大級と見られる、7世紀後半代の巨大な製鉄遺跡も発見されており、北関東自動車道の建設に先立って当事業団が調査した上強戸の峯山遺跡でも製鉄遺跡が発見されるなど、従来より知られてきた埴輪・須恵器窯の集中地域に加えて、八王子・金山丘陵一帯が一大製鉄地域であることも明らかにされつつある。こうした、古墳時代後・終末期から平安時代にかけての生産遺跡の集中は、八王子・金山丘陵と、その間を北西から南東方向に流れるいくつもの渡良瀬川支流の小河川によって形成された地形、それに両丘陵から足尾山地にかけての豊富な木材資源の存在などの要因によるものであろう。

このように本遺跡周辺一帯では、主に古墳時代後・終末期にかけて、古墳が多数造営され、さらに同時代の集落と窯業及び鉄の生産が盛行した地域である。言うなれば古墳群と手工業生産拠点に周囲を囲まれた中に本遺跡などの集落が営まれていたわけである。

## 第5項 周辺の奈良・平安時代遺跡の動向

**古代山田郡と新田郡** 本遺跡の地は、律令制下の山田評、後の山田郡内の南寄りに位置している。

山田郡は、現在の桐生市・みどり市の山間部を含む渡良瀬川沿いの広大な面積を擁するが、現在の太田市域にかかる郡南部の平野部は、八王子・金山の両丘陵によって、東側の新田郡の領域に近接している。

**東山道駅路と新田駅家** 律令制下の新田郡の役所である郡家は、石橋十字路から約800m西に位置する太田市天良町で発掘調査された天良七堂遺跡である。平成19年6月には主要地方道伊勢崎・足利線沿いの北側から郡庁院の遺構が検出された。

『延喜式』兵部省諸国駅伝馬条によれば、新田郡内には東山道駅路が東西に貫通し、上野・下野両国から武蔵国への分岐点となった陸上交通上の要衝であり、新田駅家が置かれてれていた。古代において、官衙はそれぞれが比較的近辺にまとまって配置されていた様子が判明しているため、新田駅家も新田郡家からさほど遠くない場所に設置されていたものと考えるのが自然である。新田駅家の所在地としては、太田市新田村田から寺井にかけての場所に想定する意見が強い（『新田町誌通史編』1 1990）。

周知のように、宝亀2(771)年、武蔵国が東海道の所管換えとなり、新田駅家から南へと分岐して武蔵国府（現・東京都府中市）に至っていた東山道駅路武蔵路は駅路としての扱いを受けなくなった（『続日本紀』宝亀2年10月己卯条）。これによって、制度的には、新田駅家は駅路分岐点としての重要拠点から駅路路線上の一般的な駅家と同じになるわけで、官衙としての性格に大きな変更が生じたように感じられるが、新田駅家と武蔵国府とを結ぶ道路自体が実際に廃止されたわけではない。上野・下野両国間にわたる東山道駅路と武蔵国府・東海道駅路とを結ぶ連絡路的な官道として機能し続けたものと考えられる。駅路分岐点ではなくなったものの、東山道駅路と東海道駅路とを連絡する官道との分岐点である古代陸上交通上の要衝としての重要性は、決して変わるものではなかった。

新田郡家天良七堂遺跡の西南西約1kmの地点、村田から小金井にかけて所在する入谷遺跡では、方約180mの範囲を溝によって区画した中に、5×3間

の南北棟瓦葺礎石建物跡が2棟並列した施設の跡が発見されている。7世紀後半頃に造営され、8世紀中葉頃まで存続していたと考えられる。東北東約1kmの場所に所在する天良七堂遺跡が新田郡家と考えられるため、この入谷遺跡で検出された瓦葺の官衙風の施設を新田駅家とみる考え方が強い(『新田町誌通史編』1 1990、『太田市史通史編原始・古代』1996)。ただ、兵庫県などで検出されている山陽道駅路上の駅家遺跡の様相とはたいぶ異なっており、その確証に欠ける。

旧新田町内では、牛堀・矢ノ原ルートと称される高崎市南部の平地から玉村町を経て旧境町にかけて東西に貫く幅約12mの古代道路遺構に続く道路遺構と、その南側数百メートルの位置を、牛堀・矢ノ原ルートに並行して東西に貫く幅約10mの下新田ルートの二系統の駅路遺構が検出されている。また、北関東自動車道の建設に関わる調査では、さらに東に寄った金山丘陵の東麓地域である太田市東今泉町の地域で、約1kmにわたって幅約12mの古代道路遺構が検出され、これは牛堀・矢ノ原ルートにつながる道路遺構であると考えられている。

いわゆる下新田ルート上で検出されている幅約10mの古代道路遺構を延長すると、本遺跡の南側約170mの位置を通り、さらに牛堀・矢ノ原ルート上で検出されている古代道路遺構を延長すると本遺跡の南側約数十mの位置を通ることになり、いずれにしても本遺跡は古代官道に非常に近い場所に所在したわけであり、本遺跡における古代集落の形成に際して、付近を通過する古代官道はそれなりの影響があったものと考えられる。

高崎市南部から玉村町、旧境町、旧新田町南部にかけて検出されている牛堀・矢ノ原ルートと、その延長上の道路と考えられる太田市東今泉町付近で検出された幅12mの古代道路遺構は、いずれも8世紀中葉から後半にかけて廃絶していることが調査の結果明らかになっており、牛堀・矢ノ原ルート、下新田ルートいずれも『延喜式』兵部省諸国駅伝馬条に記載のある段階の東山道駅路とは異なる段階の駅路

の跡とみられ、むしろ『延喜式』段階における東山道駅路は、牛堀・矢ノ原ルートや下新田ルートよりはかなり北側に位置する榛名山東麓から赤城山南麓の台地上を通っていたものと考えられる。平安時代の東山道駅路は、本遺跡の北方、旧藪塚本町域内を通っていたと想定されている。旧藪塚本町域では現在までのところ、古代の道路遺構が検出された遺跡はないが、只上町の道原遺跡では幅10m前後の両側に側溝を有する古代道路跡が検出されており、『延喜式』にのる東山道駅路である可能性が高い。

**古代の山田郡** 『日本後紀』延暦15(796)年8月16日条に、「上野国山田郡賀茂神・美和神」とあるのが上野国山田郡の史料上の初見である。この両社は『延喜式』神名帳にも掲載されている。『和名抄』古活字本には、郡名の山田には「夜未太」の訓が付されている。『和名抄』古活字本によれば、管下の郷は、山田・大野(於保乃)・園田(曾乃)・真張(万波利)の4郷である。高山寺本では、これに小山・三島の2郷が加わり6郷と記載されているが、これら2郷は下野国都賀郡の2郷が書写の過程で錯簡し紛れ込んだのであろう。『続日本後紀』承和2(835)年7月21日条には上野国山田郡の空閑地80町を道康親王(後の文徳天皇)に与えた記事がみえる。

山田郡各郷のうち、山田・大野の2郷については桐生市・みどり市に比定されており、園田・真張の2郷が太田市域に比定されている。吉田東伍『大日本地名辞書』で園田郷を「今相生村、広沢村、毛里田村にあたる」、また真張郷を「今葦川村、休泊村、矢場村等にあたるか」と、また村岡良弼『日本地理志料』では、これらの二郷の比定に若干異動はあるものの、毛里田村、すなわち本遺跡の地である毛里田地区については律令制下の園田郷の故地の一部とみることで一致している。

近年の『太田市史通史編原始・古代』では、現在の桐生市域にあたる広沢・相生を大野郷に比定し、園田郷の故地を太田市北部の吉沢町から矢田堀・緑町を経て東今泉町、さらにその南東の東金井町・東長岡町・安良岡町・台之郷・石原町・下小林町に至



る北西～南東に及ぶ細長い地域に比定している。いずれにしても、本遺跡周辺一帯が律令制下の園田郷の故地に当たっていることは、従来の研究史からみても、諸説一致しているところであり、ほぼ確実と言えよう。

**東山道駅路** なお、以前から、山田郡南部には東山道駅路が東西に通ると予測されていたが、北関東自動車道の建設に先立つ当事業団による調査によって、緑町の八ヶ入遺跡、東今泉町の大道西遺跡から大道東遺跡を経て鹿島浦遺跡に至る総計約1kmに及ぶ範囲で幅約12mに及ぶ東山道駅路の遺構が検出されている。特に今回、大道東遺跡の調査において、7世紀代の竪穴建物跡と道路遺構との重複関係を検出でき、重複する遺構の新旧関係から、ある程度明確な道路の造営と廃絶の時期を特定できる成果が得られたことは、今後の全国的な意味における古代駅路研究に重要な資料を提供するものであった。

緑町から東今泉町にかけて約1kmにわたって検出された東山道駅路跡は、金山丘陵の西側で検出されていた東山道駅路の二つのルートのうち、牛堀・矢ノ原ルートに接続するものと考えられる。並行して複数のルートが想定できる上野国平野部における東山道駅路の展開については、その要因が各ルートの時期差か否かという問題を含めて、その解明は今後の課題であろう。

**園田郷** 本遺跡が含まれる園田郷の地域には、群馬県内では前橋市総社古墳群以外で唯一の7世紀代の方墳である巖穴山古墳がある。この時期に唯一、東毛地域で造営されたこの古墳から、7世紀代にこの地域を支配した豪族が、周辺の豪族達を圧して卓越した地位にあったことを伺うことができる。

園田郷の地は、律令制成立以前からの埴輪生産と須恵器生産の専門的な生産地として発達し、律令制下に至ってからはそれまでの須恵器生産に加え、北側の八王子丘陵よりで瓦生産が盛んになってくる。金山丘陵東・北麓では、引き続き須恵器生産が行われている。

**山田郡家** 本遺跡から約1.5km西に位置する緑

町の金山丘陵の北東麓の台地上に古氷(ふるごおり)の地名が残り、古くから山田郡家の比定地とされてきた。また、郡家の存在を立証する具体的な遺構・遺物は発見されてはいないものの、地名を根拠とする仮説が正しいとすれば、山田郡の郡家は園田郷に所在したことになる。

このすぐ東側に展開する水田地帯は「古氷条里制水田跡」とされ、古くから条里遺構が遺る地として知られていた。遺跡内を北関東自動車道が東西に横断することになり、建設に先立って当事業団が平成15年11月から同17年3月末まで断続的に調査し、水田遺跡が検出されている。

**周辺の巨大製鉄遺跡と窯業遺跡** 旧藪塚本町域で、当事業団が調査した西野原遺跡の石田川調整池部分において、これまでに発見された中では東日本最大級とも言える7世紀後半から操業されたとみられる巨大な製鉄遺構が検出されており、また、同じく当事業団が北関東自動車道の建設に伴って発掘調査した強戸町から緑町にかけて所在する峯山遺跡でも、8世紀前半頃の製鉄炉1基と新田二時期の鍛冶遺構・竪穴建物跡5棟・土坑跡などからなる製鉄遺構が検出されており、炉体や多数の流動滓、鉄滓などが出土している。また、独立丘陵丸山の、主要地方道足利・伊勢崎線を挟んだすぐ南東側、本遺跡の北西約1kmの位置には、昭和44年に駒澤大学考古学研究室の調査によって平安時代の楕円形ないし長方形の石組炉跡が検出された寺中遺跡がある(『太田市史通史編原始・古代』)。

先述した古墳時代6世紀後半頃から操業される菅ノ沢窯跡群とほぼ重なる形で、昭和44年の駒澤大学考古学研究室の調査によって半地下式の煙突状炉体を有する3基の製鉄炉跡が検出されている。金山丘陵北東部の東今泉町菅ノ沢から金山丘陵北西部の長手地区にかけては、原料とする砂鉄を含む地層があり、また丘陵には燃料として好適な楡林も豊富で製鉄には適した自然環境であった。とくに菅ノ沢は、古墳時代後期から須恵器生産が専門的形態を取って発達しており、鉄生産が発展するための下地が存在

していた。

現在までに明らかになっている、須恵器生産が行われた窯跡は金山丘陵南東麓から東麓、八王子丘陵南東麓地域に分布し、瓦窯は八王子丘陵南東麓に集中する傾向がある。奈良時代から平安時代にかけての瓦窯は、石橋町の寺井廃寺や田村の入谷遺跡から出土している瓦を生産した萩原窯跡や国分寺瓦を生産する落内窯跡などが存在する。本遺跡周辺では、古墳時代後期を中心とする菅ノ沢窯跡が所在していることは先述したが、7世紀末から8世紀代を操業の主体とする窯跡には、金山丘陵の北東部に張り出した支丘の突端に近い南斜面上に立地する東今泉・八幡窯跡がある。

いずれにしても、古墳時代後期以来、八王子丘陵南西麓から金山丘陵北麓一帯にかけて、広く須恵器・瓦生産の窯業と製鉄・鍛冶の作業が行われていたことが伺える。

7世紀後半からの中国・朝鮮半島諸国とヤマト王権との間での軍事的緊張の高まりに加えて、8世紀になると律令国家による東北地方への版図拡大・軍事侵攻の影響を受けて、武器武具生産の必要性が高まり、それらを供給するための鉄生産は一際重要視されたであろう。山田郡の領域が不自然なほどに南北に細長く、現・桐生市・みどり市の山間部をその領域に取り込んでいるのは、郡南部の金山丘陵北部及び八王子丘陵東部で展開した鉄及び須恵器・瓦生産のための燃料を確保するためであったと考えることが出来る。

**奈良・平安時代の集落遺跡** 昭和61（1986）年から翌62年にかけて、群馬県菅渡良瀬川流域地区公害防除特別土地改良事業に伴い、太田市教育委員会が28,000㎡に及ぶやや大規模な発掘調査を実施し、奈良時代の竪穴建物跡約5棟・掘立柱建物跡13棟、平安時代の竪穴建物跡90棟、溝跡約20条、井戸跡6基などの遺構が検出されていたのであった。

本遺跡の周辺では、同じく北関東自動車道の建設に伴って当事業団が発掘調査を実施した緑町の二の宮遺跡・八ヶ入遺跡、東今泉町の大道西遺跡・大

道東遺跡・鹿島浦遺跡、北関東自動車道へのアクセス道の建設に伴って同様に当事業団によって発掘調査された東今泉町の東今泉鹿島遺跡および向矢部遺跡において奈良・平安時代を主体とする集落遺跡が検出されている。先述したように、集落の間を東山道駅路が貫いており、八ヶ入遺跡から大道西遺跡・大道東遺跡を経て鹿島浦遺跡にかけての総延長約1.5kmにわたって道路跡が検出されている。

周辺で検出された奈良・平安時代の集落は、いずれも竪穴建物を主体とするものである。当該期の竪穴建物跡は、北関東自動車道及びそのアクセス道の建設に伴って当事業団が調査した範囲の中だけでも、二之宮遺跡で51棟、八ヶ入遺跡で115棟、大道西遺跡で17棟、大道東遺跡で305棟、鹿島浦遺跡で129棟、東今泉鹿島遺跡で92棟と、膨大な量が検出されている。また、先述したように、本遺跡でも昭和62・63年度に県営渡良瀬川流域地区公害防除特別土地改良事業に伴って太田市教育委員会が発掘調査した際にも、今回の北関東自動車道建設予定地範囲の約500m北側で、奈良・平安時代の竪穴建物跡だけで95棟、古墳時代後期の竪穴建物跡を含めると合計で195棟が検出されている。このように、本遺跡周辺は渡良瀬川支流によって形作られた西北-南東方向に樹枝状の低地を縫って、台地上に大集落が連続と形成されていたことが判明する。

## 第6項 中世以降における歴史的環境

**新田荘の成立と展開** 12世紀、上野国の平野部には天仁元（1108）年の浅間山大噴火による降灰によって壊滅した耕地を復興する過程で、各地で荘園や御厨が成立していった。仁安3（1168）年の「新田義重讓状」に示されている新田荘もそれらの一つとして形成された荘園である。

周知のように、新田荘は、源義家（長暦3（1039）年～嘉承元（1106）年）の三男（異説あり）とされる源義国（寛治5（1091）年?～久寿2（1155）年）が、久安6（1150）年に右大将藤原実能と京の路上でト

ラブルを起こし、恨んだ義国勢が実能邸を焼き払ったことによって勅勘を被り、下野国足利荘に引退を余儀なくされた。義国は坂東に土着し、その長男である源義重(?～建仁2(1202)年)は渡良瀬川を越えて上野国新田郡に入部して開発、久寿元(1154)年頃には新田郡南西部の「こかんの郷々」とよばれた19郷からなる荘園を成立させ、これを権門貴族である藤原忠雅(大治4(1129)年～建久4(1193)年)(領家)と金剛心院(本所)とに寄進した。義重は、保元2(1157)年、下司職に任命され、新田荘を立荘した。

義重の嫡男・義兼は、元久2(1205)年8月、鎌倉幕府3代将軍源実朝から新田荘12ヶ郷の地頭職に任じられた。これが鎌倉幕府による新田荘地頭職の初任である。新田義兼は従兄弟の子に当たる畠山義純を女婿に迎え、その間に生まれた時兼は、建保3(1215)年3月、外祖母に当たる新田義兼後室から新田本宗家の所領であった新田荘田島郷など12ヶ郷を譲られ、将軍から地頭職に任じられた(「正木文書」)。さらに嘉禄2(1226)年には岩松郷(現:太田市岩松町一帯)の地頭職をも併せ、岩松郷に居住。「岩松」を苗字に名乗った。

**岩松氏と由良氏による支配** 南北朝動乱の鎮定後、この地域を支配したのは烏山氏と岩松氏であることが、15世紀中葉の享徳の乱の最中に岩松持国によって作成されたと考えられる所領注文「新田荘内岩松方庶子方寺領等相分注文」(正木文書)に見える。

新田義貞の孫を自称した新田満純の子・長純は、永享の乱(永享9、1437)が勃発すると将軍義教に召し出されて鎌倉公方討伐軍の将に任じられ、その戦功により岩松家の家督を回復して岩松家純と名乗り、享徳の乱(享徳3、1454)が起きると対立する一門の岩松持国・成純父子を誅殺して岩松家の内紛を平定し、文明元年(1469)には50余年振りに本領である上野国新田郡を回復し、家臣の横瀬国繁に金山城築城させ居城とした。

享禄年間(1528～32)、家臣横瀬氏の専横を排除しようとした岩松尚純・昌純父子は逆に家臣横瀬氏

に攻められて自害。岩松昌純に代わって岩松家の家督を嗣いだ昌純の弟・氏純も実権を横瀬氏に握られたままで、ついには自害させられるに至った。氏純の子の守純は、金山城を追われて山田郡菱(現:桐生市菱)に隠棲し、岩松家は家臣横瀬氏の下克上によって没落した。

金山城から主君・岩松守純を追放して、自ら金山城主となった横瀬成繁は、由良の苗字を名乗り、その後しばらく当地を支配した。八王子丘陵には由良氏により、広沢茶臼山の南約400mに位置する標高270mの山頂付近に八王子城が、また、湯之入の集落から粕山峠に向かう道の鞍部北側の丘頂を削平して雷電山砦がそれぞれ築城されている。

**由良氏衰退** 天正2(1574)年3月下旬には上杉謙信が小田原北条方に属した由良氏領の桐生・新田を攻め、由良国繁がこれを防戦するも、天正13(1585)年、金山城は北条氏に接収され、当地一帯も北条氏が直接支配するところとなった。その北条氏も天正18(1590)年には豊臣秀吉に攻め滅ぼされ、当地一帯は江戸に移封された徳川家康の支配地に入った。江戸幕府成立後、由良家も岩松家とともに、新田氏支流世良田得川氏の末裔を公称した徳川将軍家の本家筋に当たる名家と言う理由で、少禄ながらも旗本として召し抱えられるが、新田荘の故地に影響力を及ぼすほどの存在にはなり得なかった。

**上野国内の御厨** 上野国内における伊勢神宮の御厨は、神宮の建久年間(1190～1199)以降の古文書を収めた『神宮雜書』及び鎌倉時代の伊勢神宮領を国別に記した『神鳳鈔』によれば、園田・須永・青柳・玉村・高山・邑楽の6箇所、及びこの6箇所とともに併記されている細井・大蔵・広沢・寮米の4箇所、合計10箇所の御厨があった。この10箇所の御厨は、山田郡内が多い。伊勢神宮の御厨が山田郡内に多い理由は、現時点では判明しがたい。ただ、古代の坂東地域で伊勢神宮の神戸が設置されていたことが明らかなのは上野国だけであり、その後成立した御厨が山田郡に集中していることから考えると、古代の神宮神戸は山田郡内に設定されていた可

能性も考えられる。

**園田御厨** 先述したように、本遺跡は律令制下の上野国山田郡園田郷の故地に当たると考えられている。園田御厨は、現・太田市の吉沢周辺を中心とする地に比定されているが、御厨の四至を明示した史料は無いので、正確な範囲は不明である。ただ、園田御厨が園田郷の故地に所在したには相違なく、その規模は200余丁とあるので、本遺跡の地もその範囲に入っていた可能性は高く、いずれにしてもその影響下にあったことには相違あるまい。

園田御厨は久寿3（1156）年に給主内宮一禰宜荒木田成長によって立荘され（『神宮雜書』）、同年たる保元元（1156）年に公認された立荘年次の明らかな内宮・外宮の御厨で、両宮の神料として布30反、勅願御封物等を弁済していた。先述した通り、時あたかも新田荘の立荘とほぼ同時のことであり、上野国東部の平野部では金山丘陵の西側で新田荘が、東で園田御厨がほぼ同時に成立したことになる。

『神鳳抄』によれば広さ200丁余りの御厨は、上野国内では、現・藤岡市内に所在したと考えられている281丁の広さの高山御厨に次ぐ広さである。

園田御厨のことは種々の史料にみえるが、『玉葉』には承安2（1172）年11月条から閏12月にかけて6箇所に見える。これによると園田御厨と西に隣接する新田荘との間に度々相論が起きており、源氏の新田荘司義重の勢力拡大に伴って、園田御厨への押妨が度々行われ、神宮祭主大中臣親隆が新田荘司義重を朝廷に訴え出していたことがわかる。

**御厨司園田氏** 園田御厨司の全貌について語る史料は無い。しかしながら御厨内に、御厨名を名字とする在地領主で、鎌倉幕府御家人の園田氏が存在していたことが史料から伺え、御厨司と考えられる。園田氏は、『法然上人絵伝』に、「上野国御家人園田太郎成家は秀郷將軍九代孫園田次郎成基の嫡男なり」と見えるように秀郷流藤原氏の出自とされている（野口実『伝説の將軍 藤原秀郷』吉川弘文館）。太田市吉沢・矢田堀には同氏館跡との伝承を有する館跡がある。また、太田市東金井町周辺から桐生市

にかけての園田御厨の故地と考えられる範囲には、鎌倉時代中期以降に造立されたとみられる名号角塔婆が30基以上確認されている。

**その後の園田御厨** 久寿3（1156）年立荘後、隣接する新田荘と相論しながらも、神宮御厨としての機能を果たしていた園田御厨は、京都山科随心院文書によれば、延応2（1240）年に神宮との相論が生じ、御厨の半分が給主荒木田成康より随心院門跡に譲与されたが、荒木田成康の死後、その後家と随心院権僧正巖海との間に相論がおこり、随心院から朝廷に対して訴えが出され、結果的に給主荒木田氏は神領の半분을失うことになった。鎌倉末期には随心院領は「上園田御厨」と称されている。

室町時代には「園田荘」と呼ばれて岩松家純の支配下に入り（「松陰私語」）、後には古河公方より金山城を掌握した横瀬氏が「園田上下」の知行を任されている（明応年間年末詳足利成氏書状写「由良文書」）。

**本遺跡周辺の中世遺跡** 本遺跡周辺では、東今泉町の大道西遺跡において、中世の掘立柱建物跡の柱穴が多数検出されている以外に、中近世の明確な遺構はいずれの遺跡においても検出されていない。

本遺跡の北西約100mの矢田堀の集落の中に矢田堀城跡が、また本遺跡の北西約1.5kmに位置する独立丘陵丸山には丸山砦が位置している。矢田堀城は、築城年代や築城者については定かでないが、戦国時代にはは金山城の出城として由良氏一門の泉基國・基繁が居した。泉氏の詳細は不明であるが、由良氏と共に行動していたと考えられる。一方、丸山砦は、天正12年の金山城籠城戦には、吉沢・古郡（古水）の地衆がここを守ったとされる。いずれも金山城と関連する城館である。

1. 楽前遺跡(東今泉町)縄文時代集落跡・埋設土器、古墳後期～平安時代集落跡
2. 峯山遺跡(強戸町)旧石器、縄文・古墳後期～奈良時代集落・工房跡
3. 萩原遺跡(緑町)古墳後期～中世溝跡、古墳後期～平安時代集落跡
4. 古氷条里制水田跡(緑町)奈良・平安時代集落、水田跡
5. 二の宮遺跡(緑町)古墳後期～平安時代集落跡
6. 八ヶ入遺跡(緑町)旧石器、飛鳥～平安時代集落跡・官道跡
7. 大道西遺跡(東今泉町)飛鳥～平安時代集落・官道・粘土採掘坑、中世掘立柱建物跡
8. 大道東遺跡(東今泉町)縄文時代中期・古墳時代後期～平安時代集落跡、飛鳥・奈良時代官道跡
9. 向矢部遺跡(只上町)奈良・平安時代集落跡
10. 矢部遺跡(只上町)縄文時代土坑群、奈良・平安時代集落跡
11. 只上深町遺跡(只上町)縄文時代土坑跡、古墳後期～平安時代集落・畠・水田跡
12. 新島遺跡(只上町)平安時代畠跡
13. 道原遺跡(只上町)縄文時代土坑群、古墳時代後期水田跡、平安時代畠跡・道路跡
14. 丸山北窯跡(丸山町)奈良・平安時代須恵器窯跡
15. 丸山砦跡(丸山町)中世城郭跡
16. 猿楽遺跡(只上町)古墳時代後期古墳群、奈良・平安時代集落跡
17. 小丸山遺跡(緑町)縄文時代土器及び奈良・平安時代須恵器散布地、平安時代瓦塔出土地
18. 矢田堀城跡(矢田堀町)中世城館跡
19. 矢田堀古墳群(矢田堀町)古墳時代後期古墳群
20. 強戸口窯跡(緑町)飛鳥・奈良時代須恵器窯跡
21. 諏訪ヶ入窯跡(緑町)飛鳥・奈良時代須恵器窯跡
22. 菅ノ沢古墳群(緑町)古墳時代後期古墳群
23. 菅ノ沢遺跡(緑町)古墳時代後期須恵器窯跡、平安時代製鉄炉跡
24. 巖穴山古墳(東今泉町)古墳時代終末期方墳
25. 鹿島浦遺跡(東今泉町)古墳後期～平安時代集落跡、飛鳥・奈良時代官道跡
26. 東今泉鹿島遺跡(東今泉町)古墳後期～平安時代集落跡
27. 矢部城跡(只上町)中世城館跡
28. 曹源寺(東今泉町)近世～現代寺院
29. 狸ヶ入館跡(東金井町)中世城館跡
30. 金山城跡(金山町)中世城郭跡
31. 下宿遺跡(東金井町)古墳後期～平安時代集落跡
32. 富田館跡(富若町)中世城館跡
33. 金井口遺跡(東金井町)古墳後期～平安時代集落跡
34. 金井口窯跡(東金井町)古墳時代後期埴輪窯跡
35. 母衣窯跡(東金井町)古墳時代後期埴輪窯跡
36. 亀山窯跡(東金井町)古墳時代後期須恵器窯跡
37. 丸屋敷砦跡(東金井町)中世城郭跡
38. 寺ヶ入古墳群(東金井町)古墳時代後期古墳群
39. 内並木古墳群(東金井町)古墳時代後期古墳群
40. 焼山窯跡(東長岡町)古墳時代後期須恵器窯跡
41. 細田遺跡(東長岡町)古墳時代後期集落跡
42. 天神山古墳(内ヶ島町)古墳時代中期前方後円墳
43. 女体山古墳(内ヶ島町)古墳時代中期帆立貝式古墳



第2図 秦前遺跡の位置と周辺の主な遺跡 (1/25,000)  
国土地理院1/25,000地形図「足利南部」・「足利北部」・「上野境」・「桐生」使用

### 第3章 発見された遺構と遺物

今回報告する楽前遺跡1区は、平成21年刊行された『財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第454集楽前遺跡(1)―北関東自動車道(伊勢崎～県境)地域埋蔵文化財発掘調査報告書―』において報告した2区とは南北方向に走向する太田市道を隔てて西に接する調査区である。先掲報告書で報告したように、2区とその東側に隣接する3区・4区、及び鹿島浦遺跡とは、2区の東側約2/3に、南北に入る谷によって隔てられており、西側に隣接する大道西・大道東遺跡から本遺跡まで東西に広がる集落は、この谷を東限としていることが判明した。

西に隣接する大道東遺跡とは、西～南東方向に斜めに高速道路域を横断する農道によって範囲を分けてはいるが、これは現代における調査上の便宜的な分け方であり、集落としては大道西・大道東遺跡から連続する集落とみられる。集落は、大道西遺跡の東寄りの部分からはじまって、楽前遺跡2区東側の谷まで、東西幅約230mに及んでいる。

楽前遺跡1区では、縄文時代中～後期の竪穴建物跡2棟、土坑跡2基、埋設土器8基。古墳時代後期(飛鳥時代)～平安時代前期にかけての掘立柱建物跡32棟、柱穴列跡3条、竪穴建物跡155棟、溝跡9条、井戸跡14基、粘土採掘坑2基、土坑跡110基、pit370基などの遺構が検出された。古代に形成された集落としての様相を呈している。

西に隣接する大道東・大道西遺跡などからも同時代の集落を構成する遺構が多数検出されており、これらの遺跡と一体的に連関する集落と考えられる。

掘立柱建物跡はいずれも桁行3間×梁間2間程度の小規模な側柱建物か、2間四方ないし桁行2間×梁間1間程度の総柱建物跡であり、配置も整然としたものではない。掘立柱建物跡の検出状況からは、計画的な建物配置がなされた形跡は看取しがたいところで、官衙やその関連施設あるいは在地首長居宅などの一部を構成した建物とは考えにくい。建物跡

の規模や検出状況から見ても、集落的な様相と言えるだろう。

なお、遺構の調査を終了したところから、2～4区と同様、旧石器の確認調査を実施したが、旧石器は確認されなかった。

#### 第1節 縄文時代の遺構と遺物

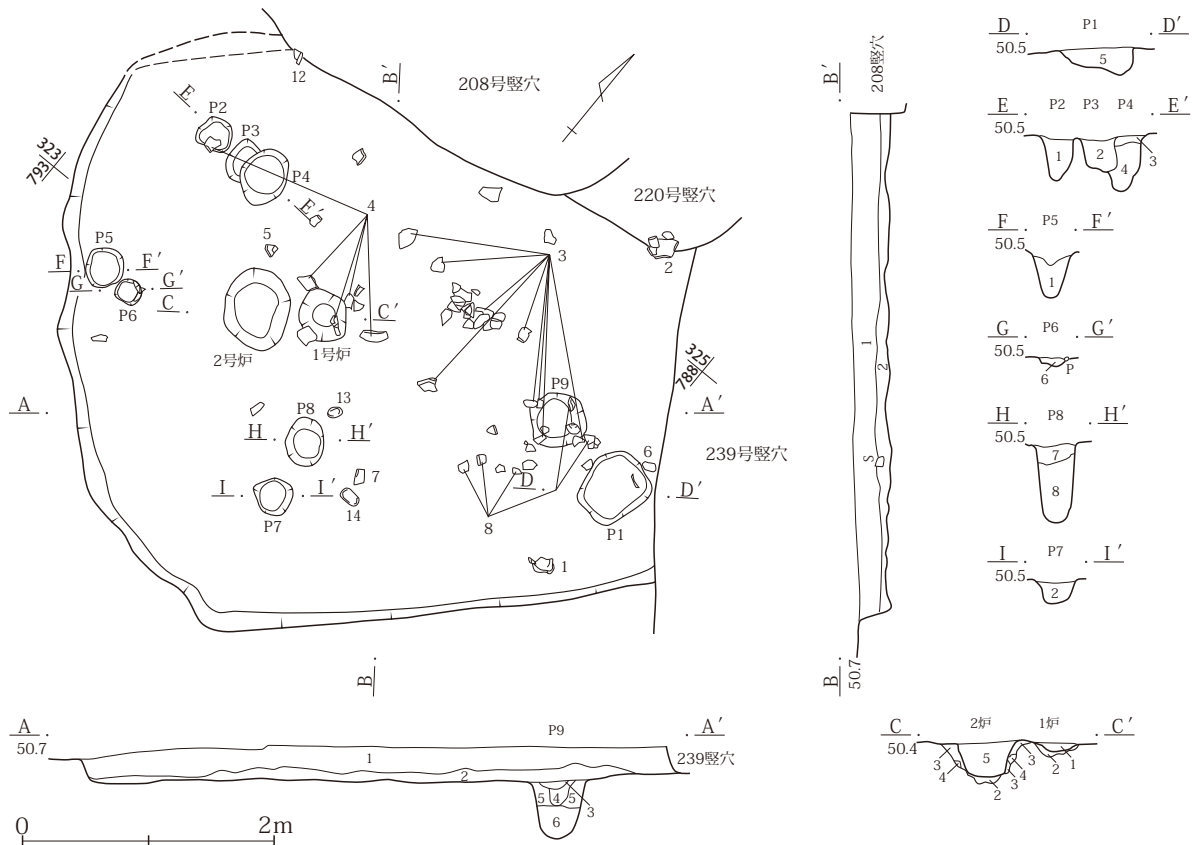
1区で検出された縄文時代の遺構は、竪穴建物跡2棟、土坑跡2基、埋設土器8基である。縄文時代の遺構は、古墳時代後期～平安時代の遺構とほぼ同じレベルで確認されたため、後世の攪乱・削平を受け、残存状態は不良で、本遺跡内における縄文時代の全様相を窺い知ることは不可能である。検出された2棟の竪穴建物跡はいずれも後世の遺構もしくは攪乱によって大きく破壊されている。出土した遺物は、土器片18,903点、剥片・礫・礫片を含む石器595点であった。

縄文土器片の時期の内訳は、前期中葉19点、前期後葉137点、中期前葉10点、中期中葉9点、中期後葉古段階24点、中期後葉11,727点、中期末葉2,761点、後期初頭1,725点、後期前葉1,414点、後期中葉5点、後期後葉2点、晩期前葉5点である。なお、他に弥生土器片が11点あった。中期後葉加曾利EⅢ式段階の破片が圧倒的に多く、破片点数からみれば、おそらく大型集落跡の一角にかかるものと考えられる。

出土した石器は、打斧53、磨斧3、石鏃22、石匙1、石錐1、楔型石器1、削器4、石核4、加工痕のある剥片23、石錘1、凹石13、磨石4、敲石1、石皿6、台石1、多孔石12、石製品2、石棒2、砥石3、剥片が226点、礫・礫片212点であり、分銅型の打製石斧を主に、狩猟具である石鏃、網漁を示唆する石錘、加工具としての削器類・石錐、製粉具類としての磨石・凹石・石皿・多孔石が出土している。磨石の出土量が少ない。

なお、遺構に伴わない縄文時代土器がまとまって散乱する3箇所があり、土器集中ブロックとした。

### 第3章 発見された遺構と遺物



#### 304号竖穴建物跡

1. 暗褐色土 ローム細粒多混。ローム粒少量混。焼土粒僅混。
2. 鈍い黄褐色土 ローム細粒やや多混。
3. 黄褐色粘質土塊 ローム塊。
4. 暗褐色土 ローム粒やや多混。
5. 鈍い黄褐色土 ローム・暗褐色土粒少量混。
6. 鈍い黄褐色土 砂質ローム粒少量混。

#### 304号竖穴建物跡炉跡

1. 鈍い黄褐色土 やや大きめの焼土粒をやや多混。
2. 鈍い赤褐色土 地山ロームが被熱により斑模様に変。
3. 鈍い黄褐色土 焼土細粒、大きめのローム粒少量混。

#### 304号竖穴建物跡pit跡

1. 暗褐色土 ローム細粒少量混。
2. 暗褐色土 ローム細粒多混。大きめのローム粒少量混。
3. 鈍い黄褐色土 黒褐色土粒混。
4. 黒褐色土 ローム細粒少量混。
5. 暗褐色土 焼土粒多混。ローム粒やや多混。
6. 鈍い黄褐色土 暗褐色土粒少量混。
7. 鈍い黄褐色土 ローム・黒褐色土粒斑に混。
8. 鈍い黄褐色砂質土 小礫やや多混。

第3図 304号竖穴建物跡

竖穴建物・土坑跡、埋設土器等が後世に破壊され、土器が包含層中に散乱したものと考えられる。

### 第1項 竖穴建物跡

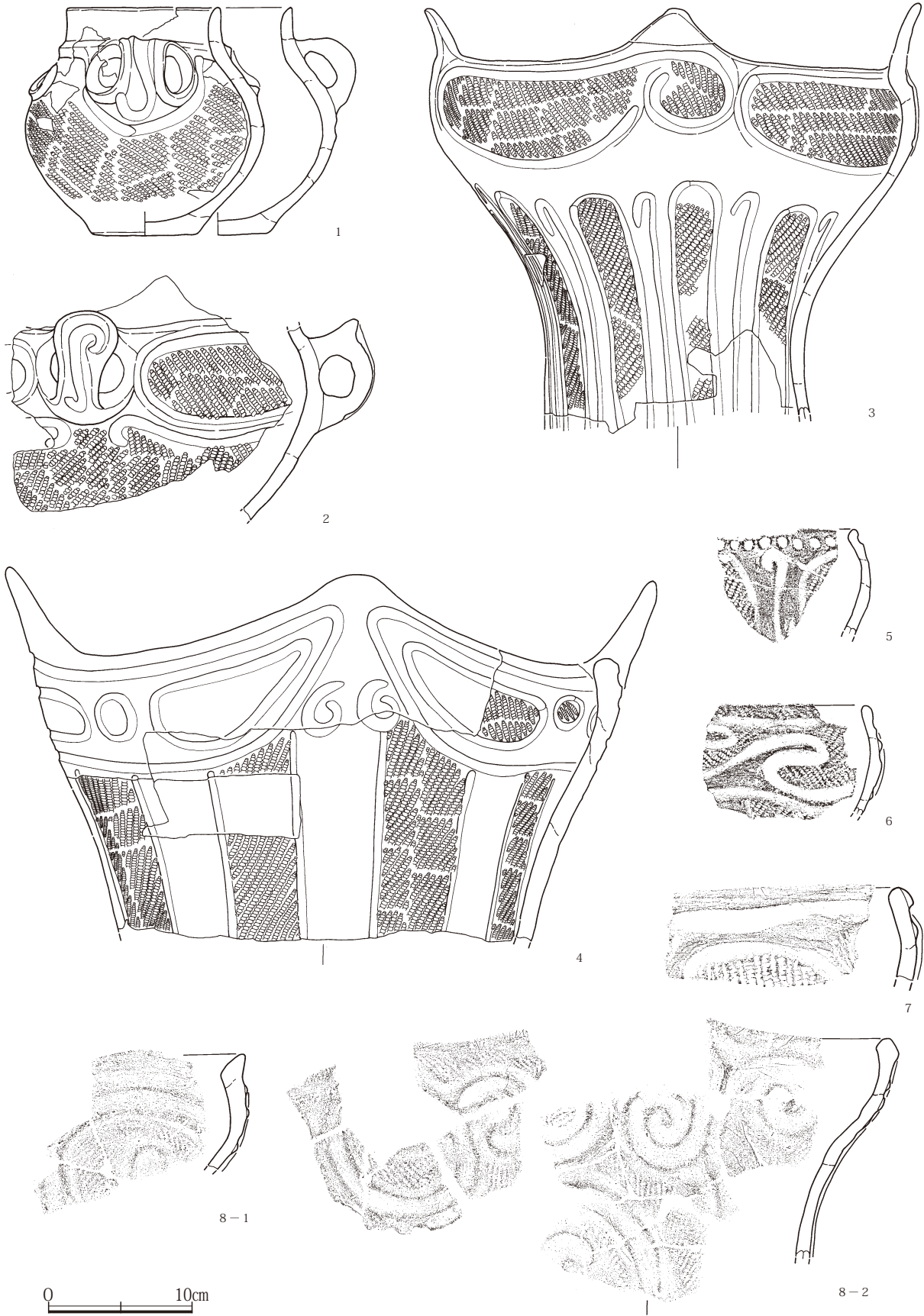
1区で検出された縄文時代の竖穴建物跡は、2棟とも調査区の南西寄りの位置で発見されている。2棟とも残存状態は不良である。

#### (1) 304号竖穴建物跡

**位置：**調査区南西隅。X320-325・Y-785~790Gr.

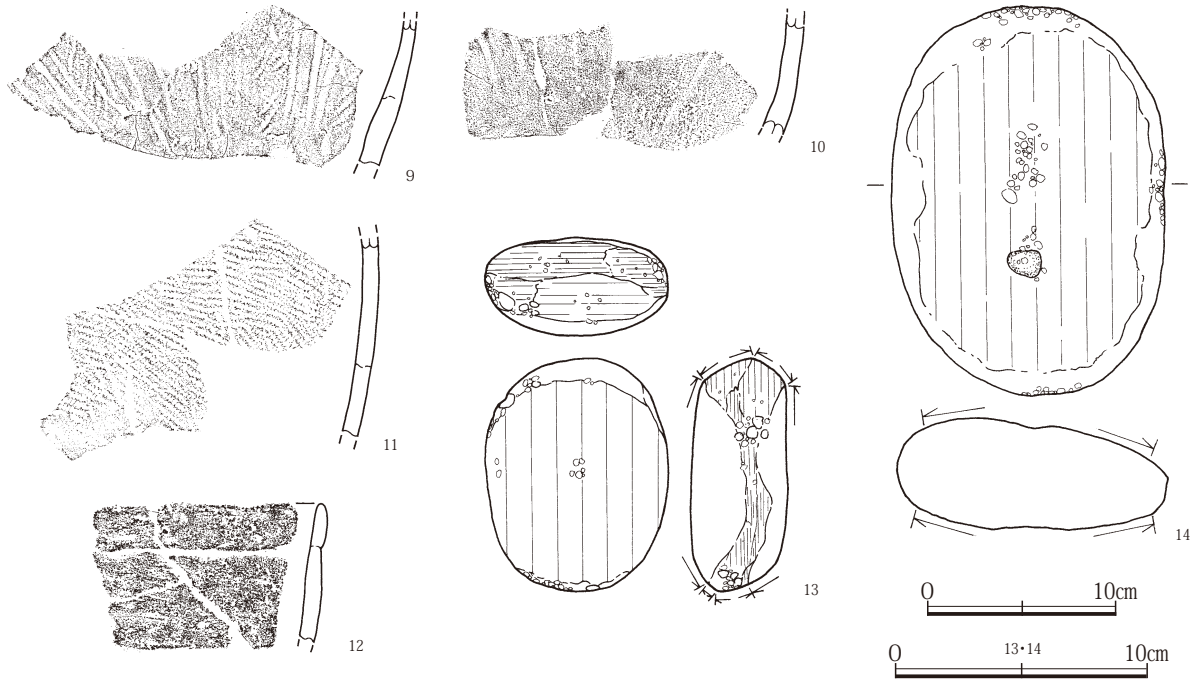
**重複：**208・220・239号竖穴建物跡にそれぞれ掘り込まれ、破壊されている。**規模と形状：**南西壁のほとんど、南東・北西壁の一部が残存しているに過ぎない。北東～南西に長い楕円状を呈していたものと思われる。長辺残存最大長5m・短辺残存最大長4.5m・深さ0.21m。炉跡が2基、pitが9基検出された。**埋土：**暗褐色土ベース。**床面：**地山をほぼ平坦に削り整えて形成。**1号炉：**小規模な



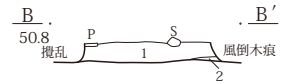
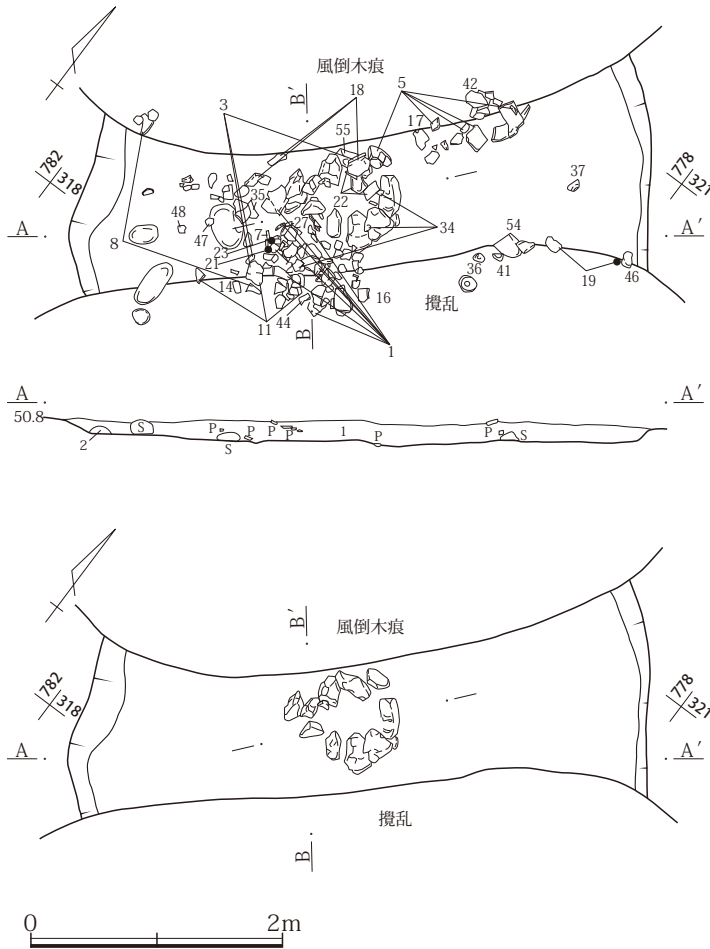


第4図 304号竪穴建物跡出土遺物(1)

第3章 発見された遺構と遺物

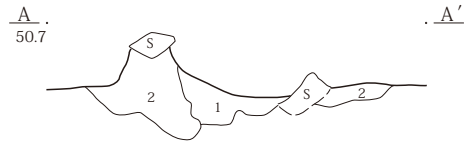
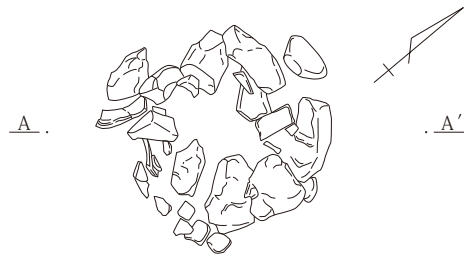


第5図 304号竪穴建物跡出土遺物(2)



306号竪穴建物跡

1. 暗褐色土 ローム細粒少量混。  
白色細粒混。
2. 鈍い黄褐色土 ローム・焼土粒塊混。

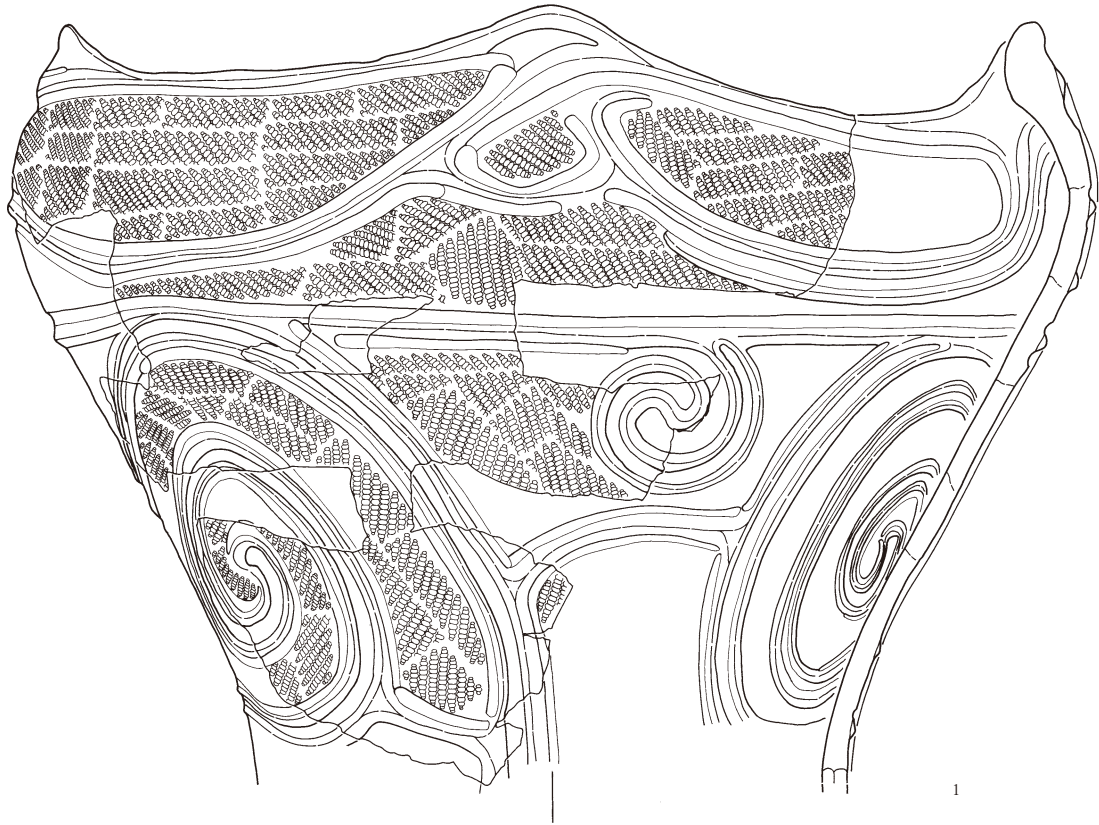


306号竪穴建物跡炉跡

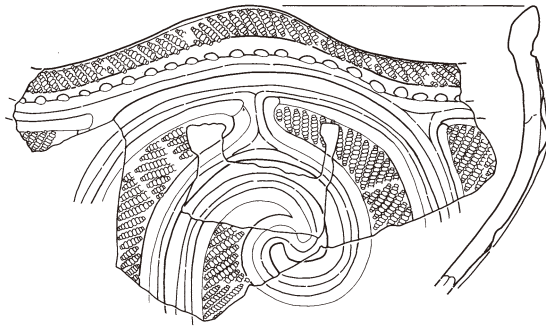
1. 暗褐色土 砂質硬質のローム粒やや多混。
2. 鈍い黄褐色土 ローム・暗褐色土粒少量混。  
焼土粒僅混。



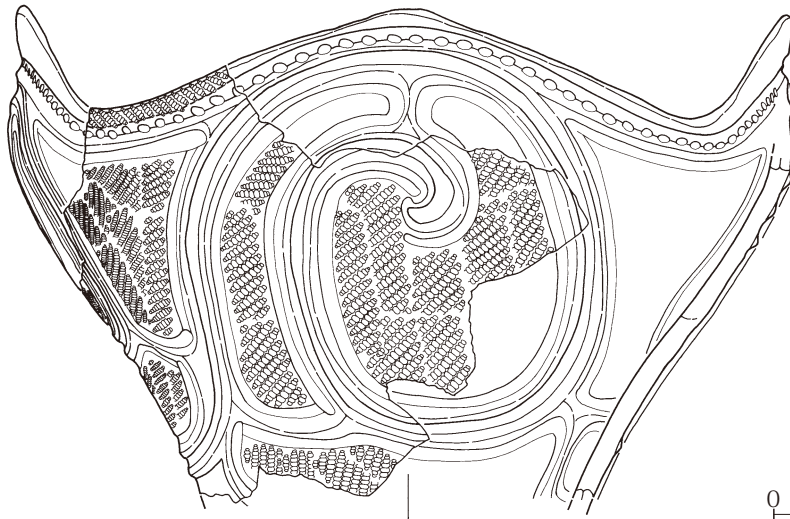
第6図 306号竪穴建物跡



1



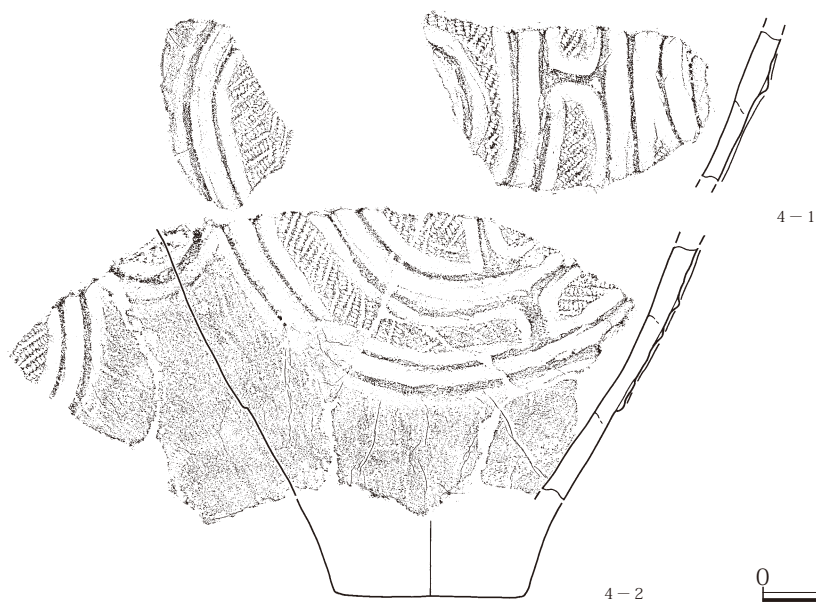
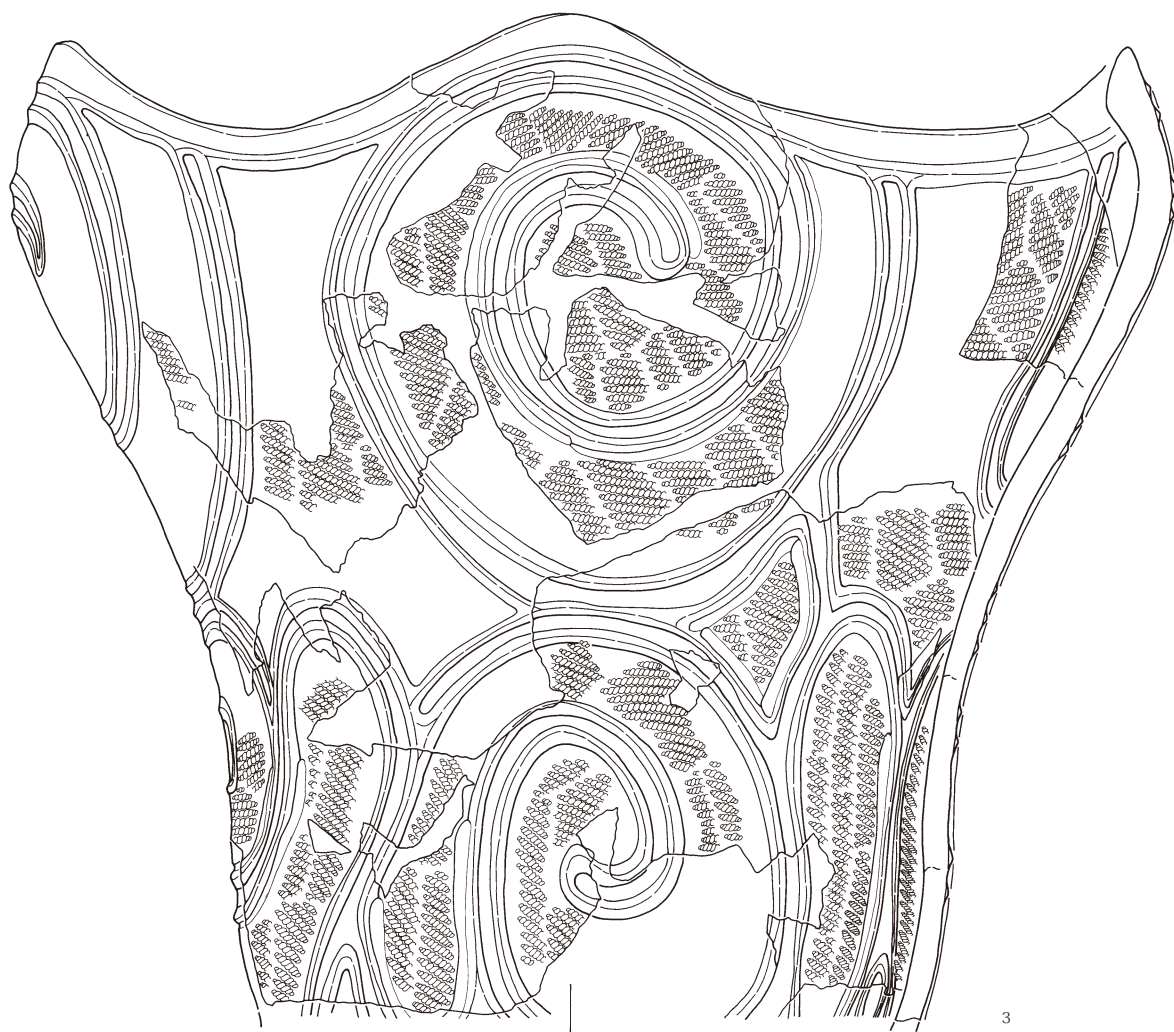
2-1



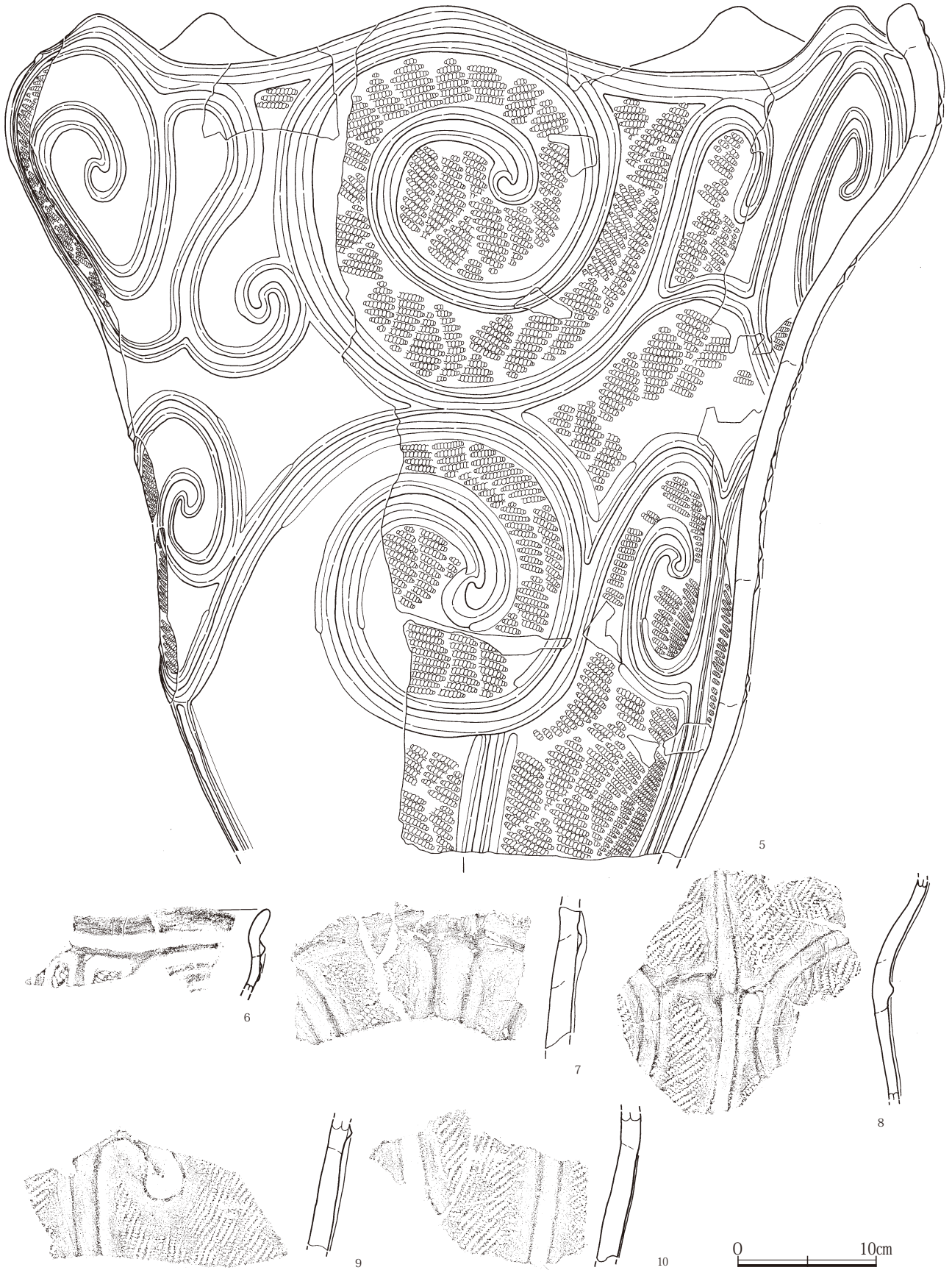
2-2



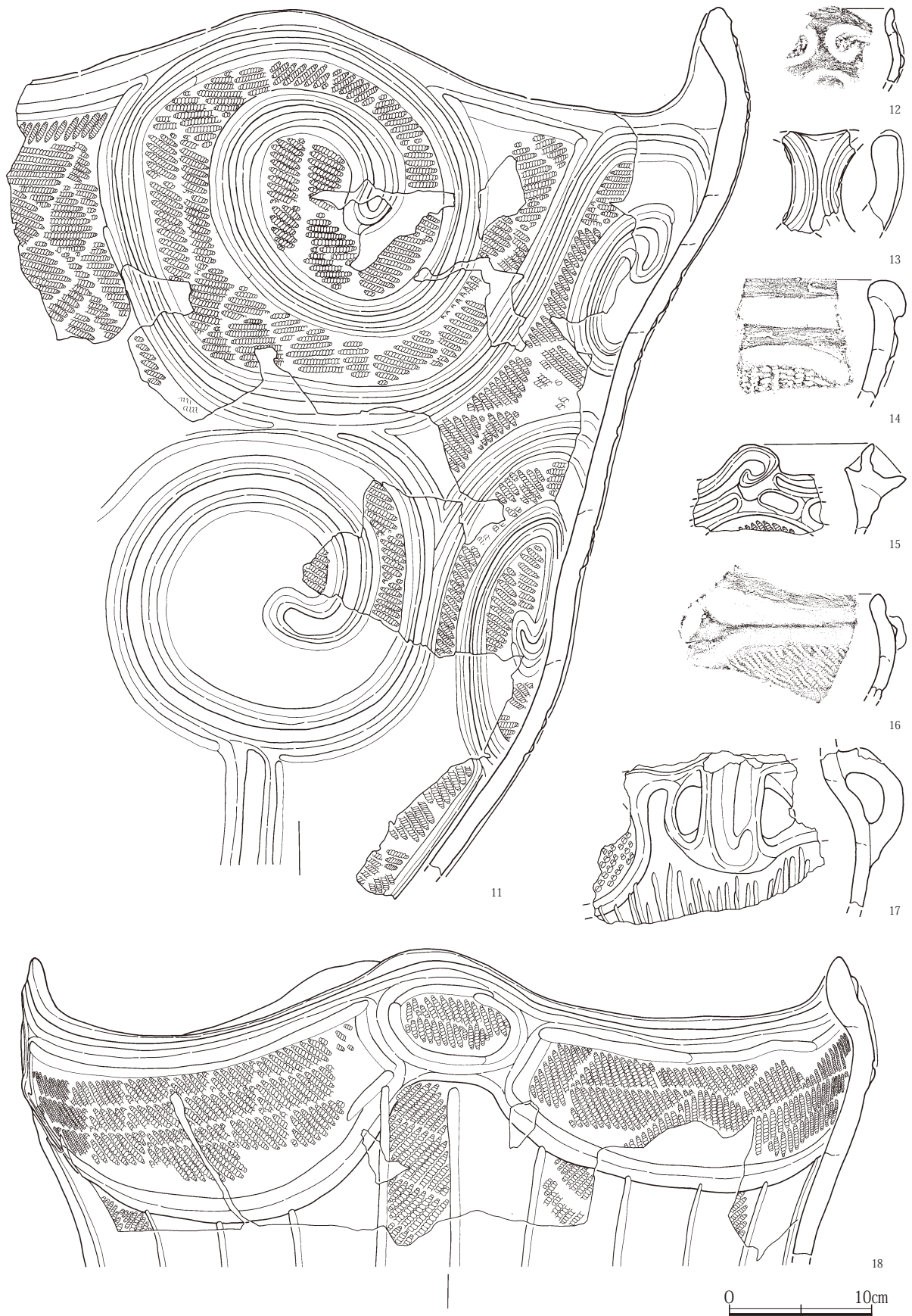
第7図 306号竪穴建物跡出土遺物(1)



第8図 306号竪穴建物跡出土遺物（2）



第9図 306号竪穴建物跡出土遺物(3)



第10図 306号竪穴建物跡出土遺物（4）



第11図 306号竪穴建物跡出土遺物（5）

第3章 発見された遺構と遺物



第12図 306号竪穴建物跡出土遺物（6）



炉。地山を素掘りして形成している。石組み等は全く検出されなかった。検出状況からみて、2号炉の廃棄後に新たに造作された炉とみられる。長径0.49m・短径0.38m・深さ0.12m。炉壁は被熱により斑模様に変化した状態である。**2号炉**：1号炉に先行する炉跡と考えられる。長径0.58m・短径0.5m・深さ0.3m。地山を素掘りして形成され、炉壁は1号炉同様斑模様に変化した状態である。**Pit**：調査対象範囲において9基検出されている。**pit1**長径0.56m・短径0.52m・深さ0.22m、南北に長い不整形隅丸長方形を呈する。**pit2**長径0.3m・短径0.25m・深さ0.35m、不整形円形を呈する。**pit3**残存最大径0.34m・深さ0.26m、**pit4**を掘り込む。**pit4**長径0.47m・短径0.35m・深さ0.48m、南北に長い楕円形を呈する。**pit5**長径0.32m・短径0.3m・深さ0.4m、**pit6**径0.2m・深さ0.15m、ともに平面ほぼ円形を呈する。**pit7**径0.3m・深さ0.22m、**pit8**径0.4m・深さ0.62m、ともに平面ほぼ円形を呈する。竪穴建物柱の穴と考えられる。**pit9**径0.45m・深さ0.48mの平面ほぼ円形を呈する。**時期**：加曾利EⅢ式期。**遺物**：ほぼ床直から深鉢片12、磨石片、凹石などが出土。土器は集中的には出土していない。

(2) 306号竪穴建物跡

**位置**：調査区南端。前掲304号竪穴建物跡の南東約8mの位置に当たる。X315-320・Y-830-835Gr.

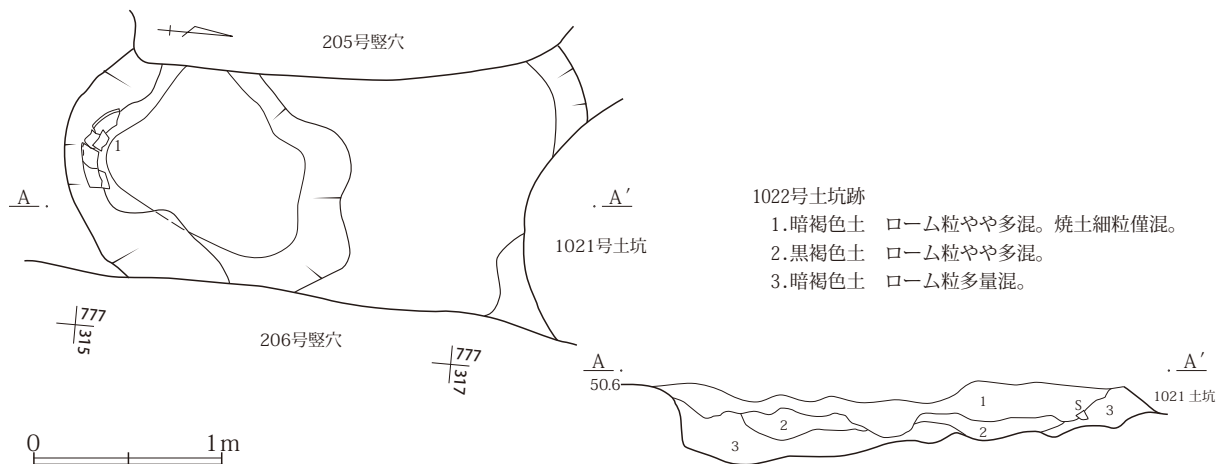
**重複**：1021号土坑跡、後世の攪乱等によって破壊される。**規模と形状**：北東辺と南西辺のごく一部のみ検出され、全体的な形状は不明である。残存最大径4.58m・深さ0.16m。床面のほぼ中央に方形の石囲い炉跡が検出された。柱穴等は確認できなかった。

**埋土**：暗褐色土ベース。**床面**：地山をほぼ平坦に削り整えて形成している。**炉**：方約0.6m前後・深さ0.24m、川原石によって方形に組まれる。竪穴建物跡北西側が風倒木によって大きく破壊されているため、炉の石組みも北西側が大きくせり上がって検出された。残存状態は悪い。また、確認面では、後世の削平等で破壊された炉の石組の残骸とみられる石片や礫がかなり広範囲に散乱した状態であった。**時期**：加曾利EⅢ期。**遺物**：埋土中より深鉢片45。床直より分銅型打製石斧、磨石、敲石、石皿、短冊型打製石斧などが出土。遺物は、炉の周囲に集中している。

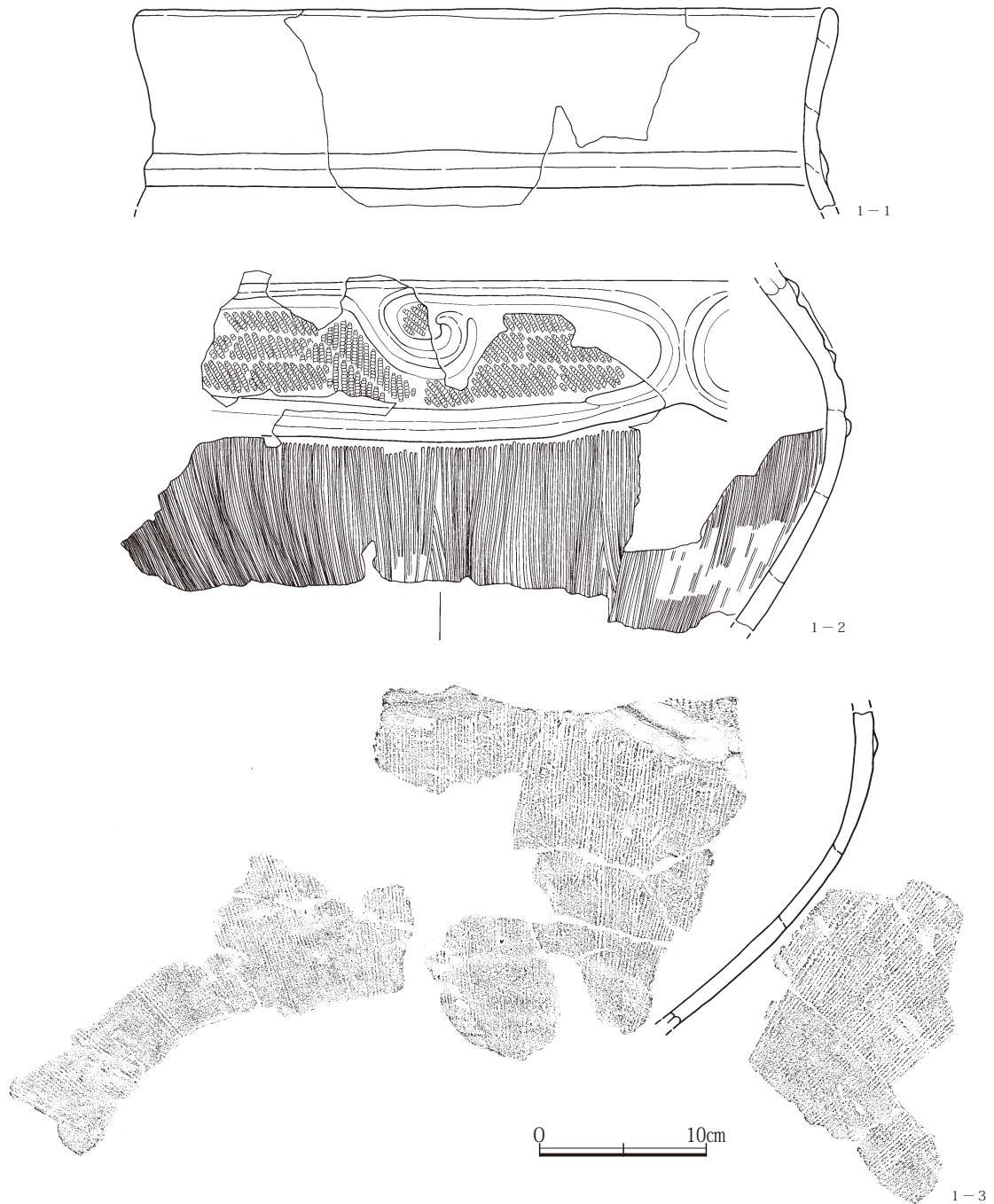
第2項 土坑跡・埋設土器

(1) 1022号土坑跡

**位置**：調査区南端中央。X315・Y-775Gr. **重複**：205・206号竪穴建物跡、1021号土坑跡に掘り込まれる。**形状**：後世の遺構に破壊されており、全容は不明である。**埋土**：暗褐色土ベース。**時期**：加曾利Ⅲ式期。**遺物**：埋土中から深鉢片1点。



第13図 1022号土坑跡



第14図 1022号土坑跡出土遺物

(2) 1137号土坑跡

位置：調査区南東。X330・Y-770Gr. 重複：なし。

規模と形状：南北に若干長いほぼ円形状を呈し、長径1.46m・短径1.3m・深さ0.69m。断面は厚い逆台形状を呈する。埋土：暗灰黄褐色粘質土ベース。

時期：称名寺式期。遺物：土坑中央部埋土より深鉢9点、鉢1点が出土。

(3) 51号埋設土器

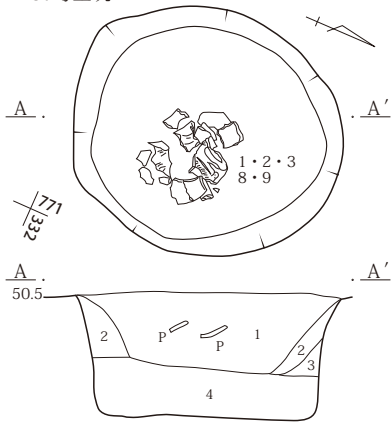
位置：調査区南東隅。X320・Y-760Gr. 重複：なし。

形状：正位で深鉢が埋設される。残存状態は悪く、体部下位のごく一部と底部が残存するのみ。土器

内埋土：暗褐色土 時期：称名寺式期。

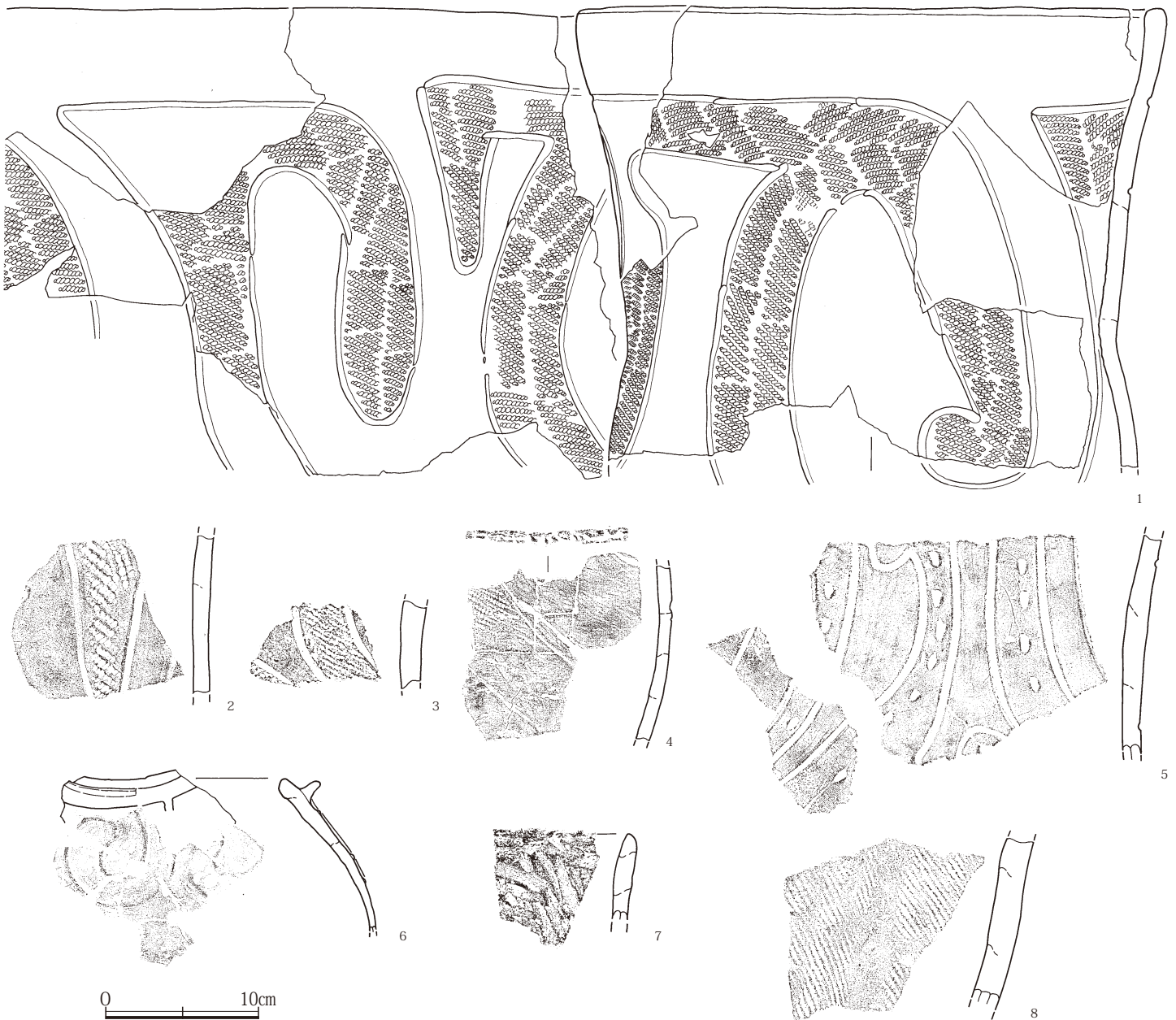
第1節 縄文時代の遺構と遺物

1137号土坑

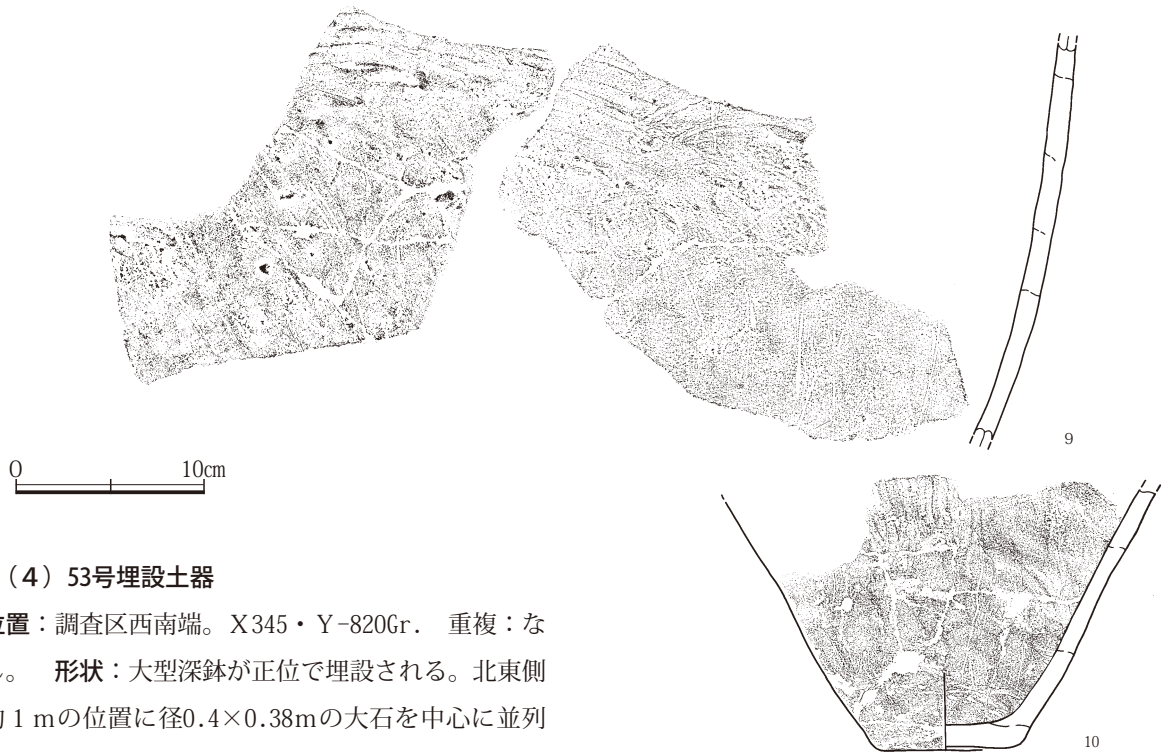


1137号土坑跡

- 1. 暗灰黄褐色粘質土 灰白色粒・砂礫少量混。焼土粒若干混。
- 2. 暗灰黄褐色粘質土 1層よりも明るい色調を呈する。ローム粒少量混。
- 3. 暗灰黄褐色粘質土 1・2層よりさらに明るい色調を呈する。ローム・焼土粒微量混。
- 4. 暗褐色土 ローム粒・塊やや多混。



第15図 1137号土坑跡・出土遺物（1）



(4) 53号埋設土器

**位置：**調査区西南端。X345・Y-820Gr. **重複：**なし。**形状：**大型深鉢が正位で埋設される。北東側約1mの位置に径0.4×0.38mの大石を中心に並列された石組みがあったが、関係は不明。残存状態は悪い。62号埋設土器と接合。また、53・55・54号埋設土器間で土器の接合関係がある。**土器内埋土：**暗褐色土。**時期：**加曾利EⅢ式期。

(5) 54号埋設土器

**位置：**調査区中央。X350・Y-805Gr. **重複：**76号掘立柱建物跡pit7に東側を掘り込まれ破壊されている。**形状：**正位で大型深鉢が埋設される。口縁部～胴部のパーツが残存する。53・55・54号埋設土器間で土器の接合関係があり、本埋設土器に最も多くの土器片が遺る。**埋土：**暗褐色土ベース。**時期：**加曾利EⅢ式期。

(6) 55号埋設土器

**位置：**調査区ほぼ中央。X360・Y-780Gr. **重複：**297号竪穴建物跡に上面を掘り込まれる。**形状：**上層確認面では東西1.3m・南北1.2mの範囲に深鉢形の土器が横倒しになり、土器片が散乱していた。また、下層面でも埋設位置から北西から北東にかけて約0.5～1mの範囲に大きめの礫や土器片が散乱していた。埋設箇所では、横倒しになった深鉢型土

第16図 1137号土坑跡出土遺物(2)

器の底部のみが出土。全体に大きく後世の破壊を受け、残存状態は不良である。先述したように53・55・54号埋設土器間で土器の接合関係があり、それら接合関係にある個体については、54号埋設土器に最も多くの土器片が遺る。**土器内埋土：**暗褐色土ベース。**時期：**加曾利EⅢ式期。

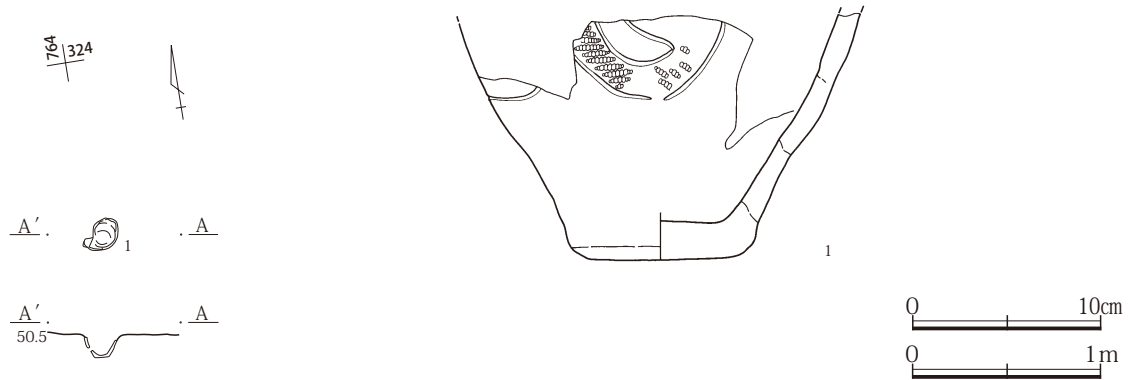
(7) 56号埋設土器

**位置：**調査区北壁寄り。X370・Y-795Gr. **重複：**63号掘立柱建物跡の範囲内にすっぽり入る。**形状：**深鉢型の土器が逆位で埋設される。土器底部は後世の削平により欠失、残存状態は悪い。**土器内埋土：**暗黄褐色土ベース。**時期：**加曾利EⅢ式期。

(8) 57号埋設土器

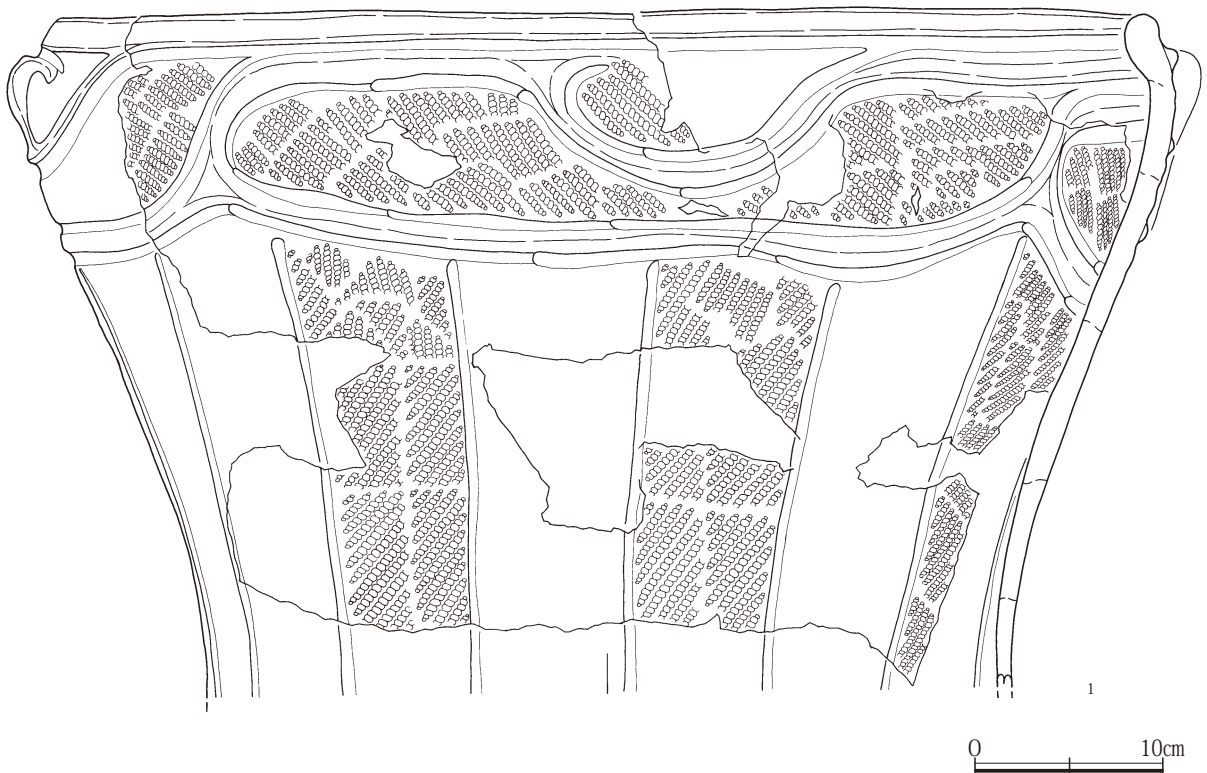
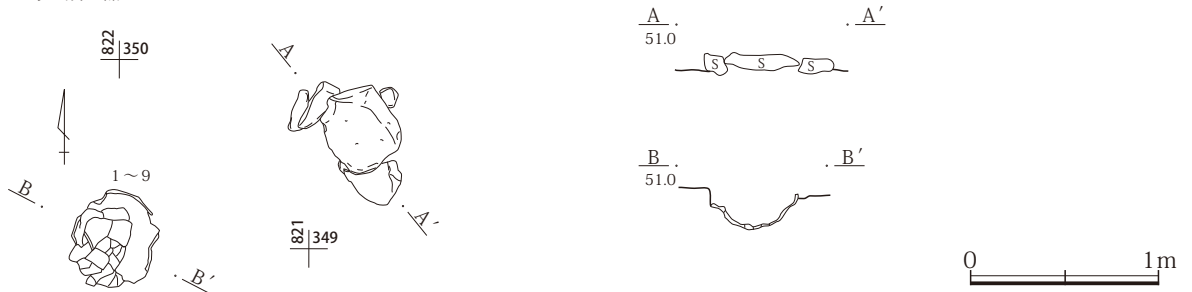
**位置：**調査区東寄り。X350・Y-775Gr. **重複：**なし。**形状：**深鉢を正位で埋設するが、上部が後世の削平や攪乱によって破壊されている。北西約1mの位置から石皿及び石斧片が出土している。**土器**

51号埋設土器

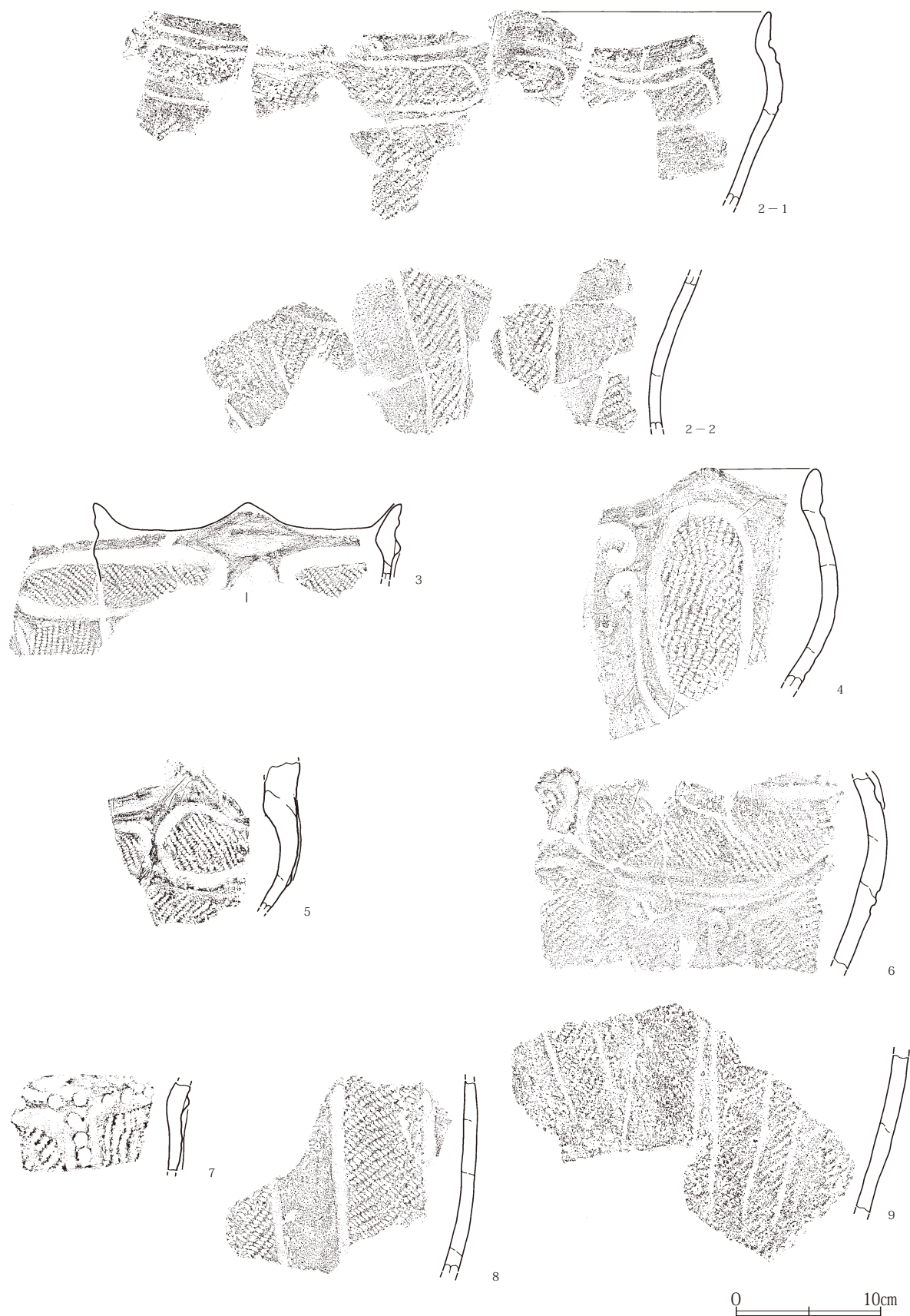


第17図 51号埋設土器・出土遺物

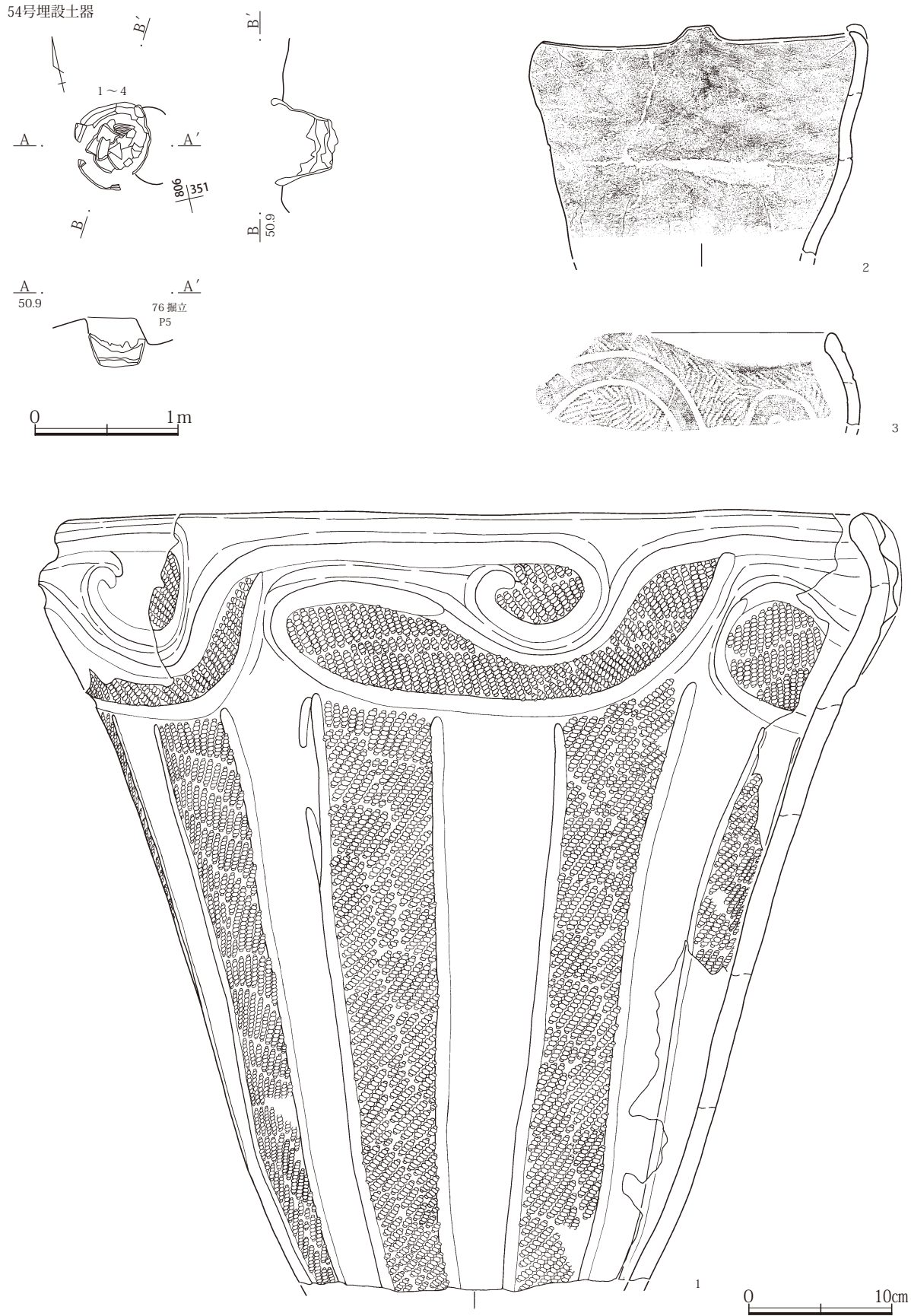
53号埋設土器



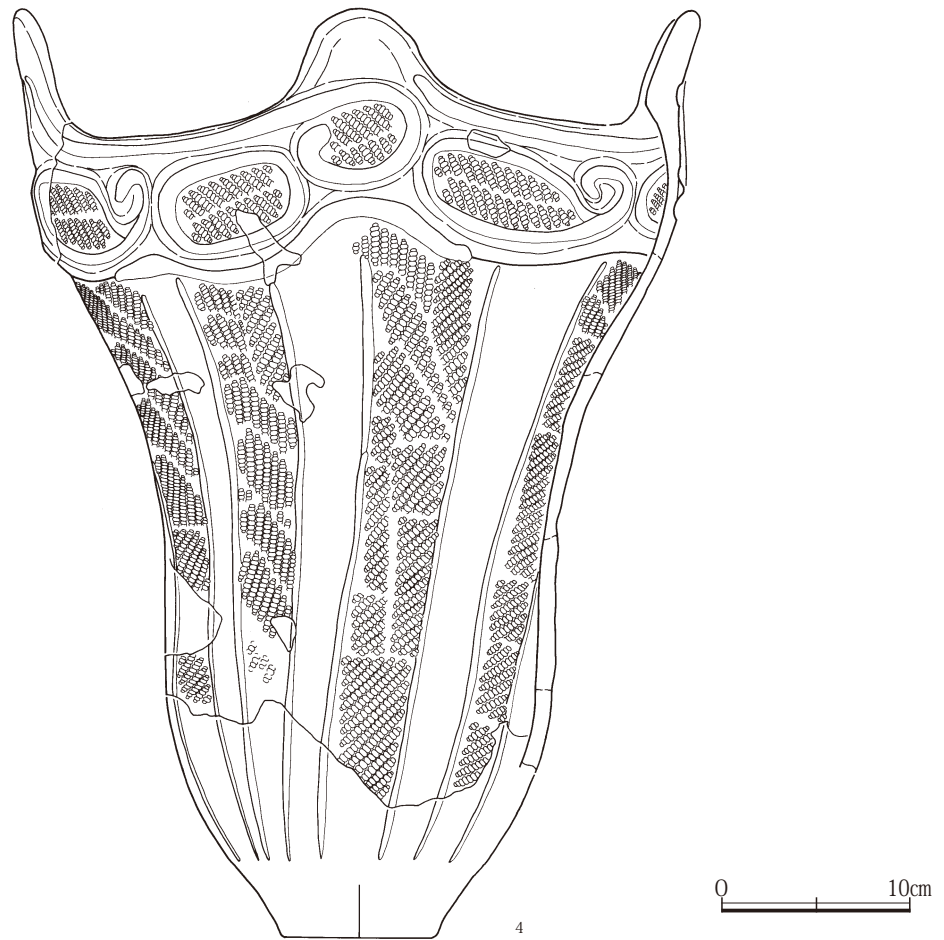
第18図 53号埋設土器・出土遺物（1）



第19図 53号埋設土器出土遺物（2）

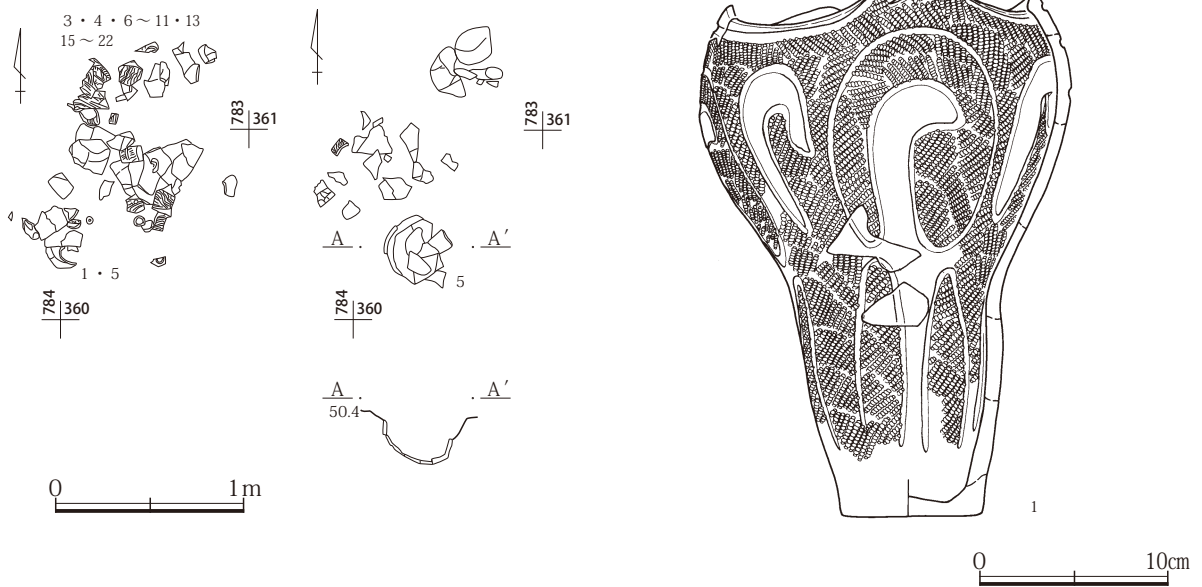


第20図 54号埋設土器・出土遺物(1)



第21図 54号埋設土器出土遺物 (2)

55号埋設土器



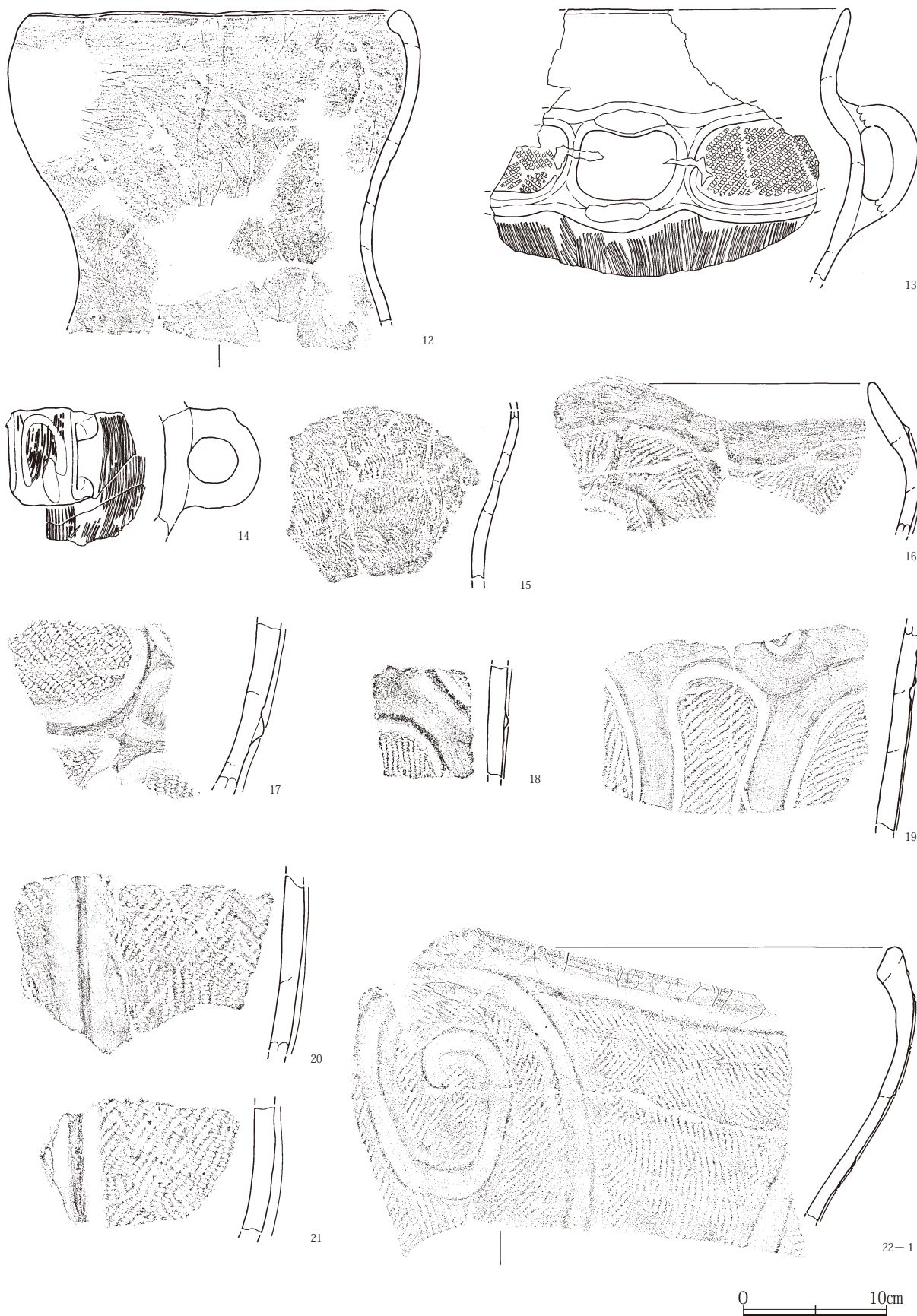
第22図 55号埋設土器・出土遺物 (1)



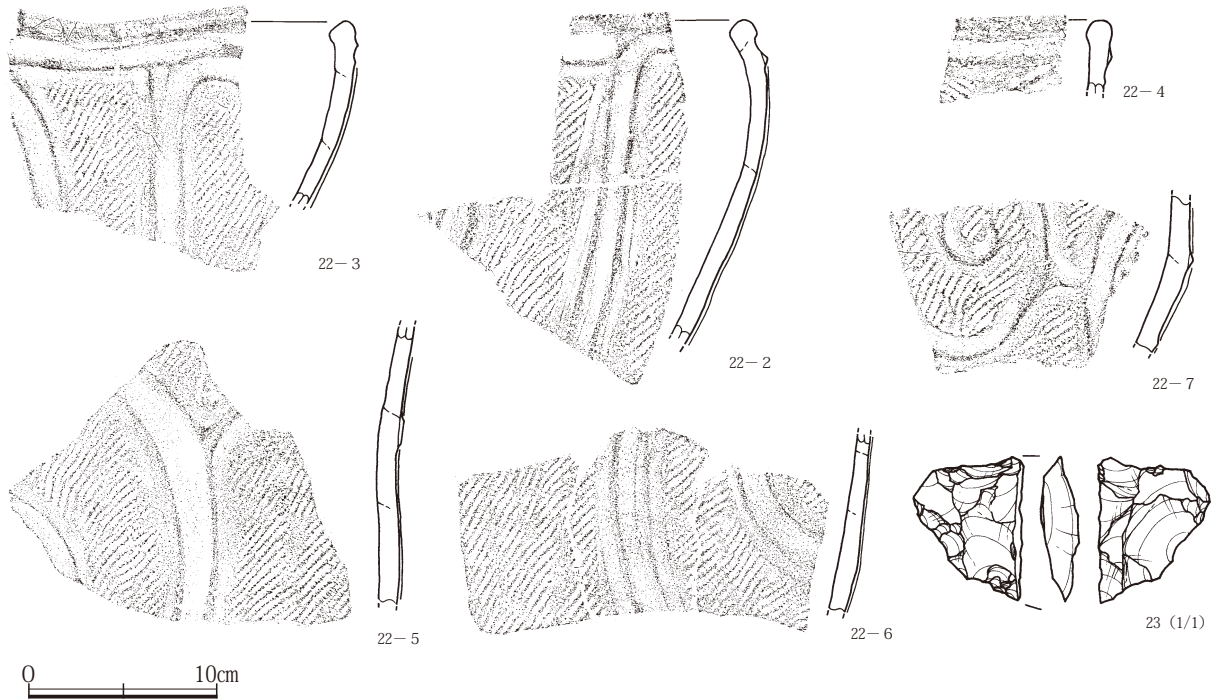


第23図 55号埋設土器出土遺物（2）

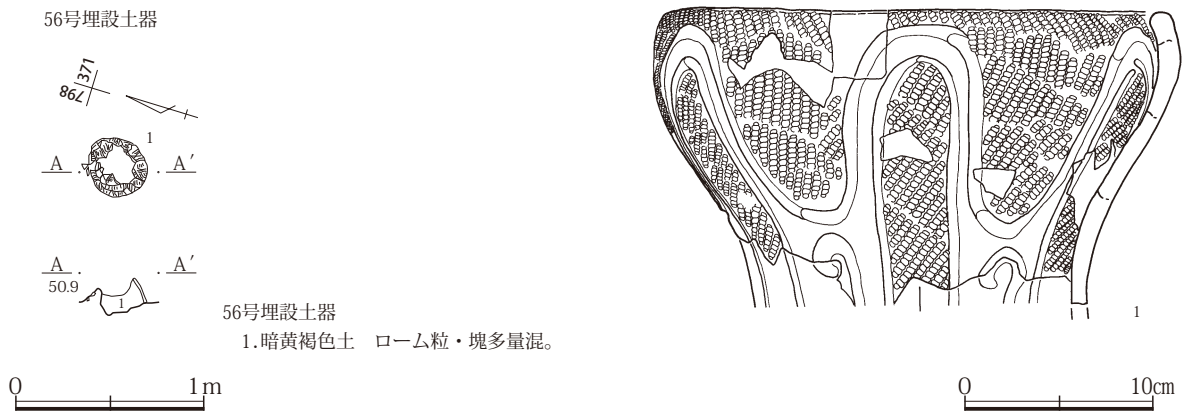
第3章 発見された遺構と遺物



第24図 55号埋設土器出土遺物（3）



第25図 55号埋設土器出土遺物（4）



第26図 56号埋設土器・出土遺物

内埋土：暗黄褐色粘質土ベース。 時期：加曾利EⅢ式期。

（9）61号埋設土器

位置：調査区中央。X360・Y-780Gr. 重複：なし。

形状：完存の器台が正位で検出された。 埋土：暗黄褐色土ベース。 時期：加曾利E式期。

（10）62号埋設土器

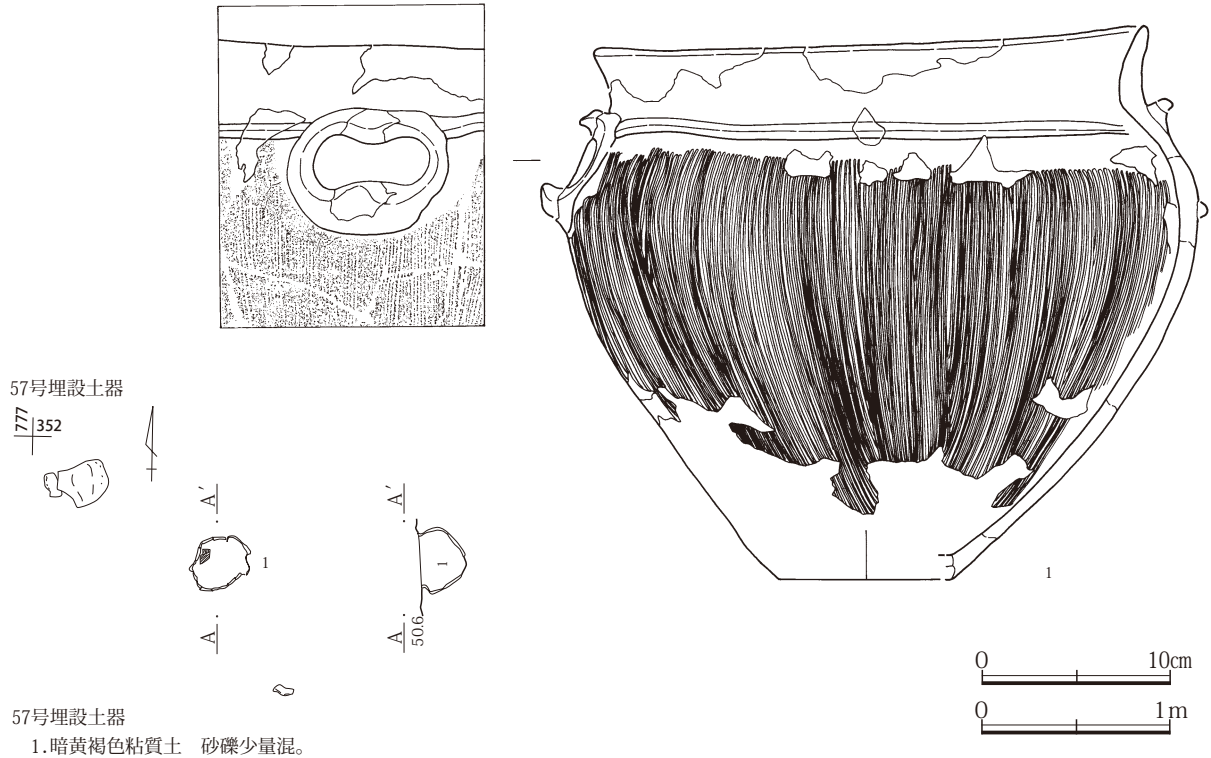
位置：調査区中央やや北寄り。X360・Y-790Gr.

重複：75号掘立柱建物跡。 形状：深鉢を正位で埋設するが、上部が後世の削平や攪乱を受けて欠失し、底部と体部下のごく一部が検出されたのみ。残存状態は悪い。53号埋設土器と接合する。 土器内埋土：暗灰黄褐色土ベース。 時期：加曾利EⅢ式期。

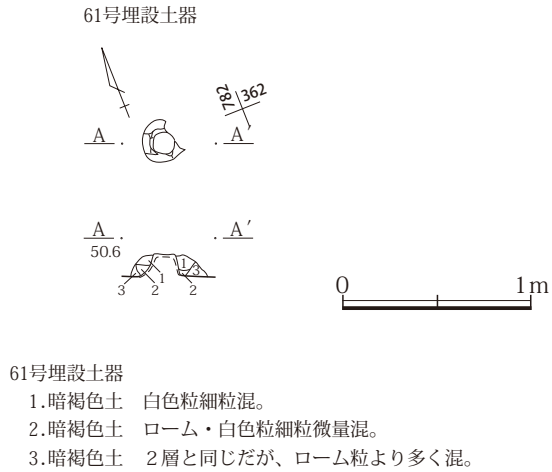
（11）遺構外出土土器

この他に包含層中から縄文時代の土器片が672点、弥生時代の土器が2点出土している。

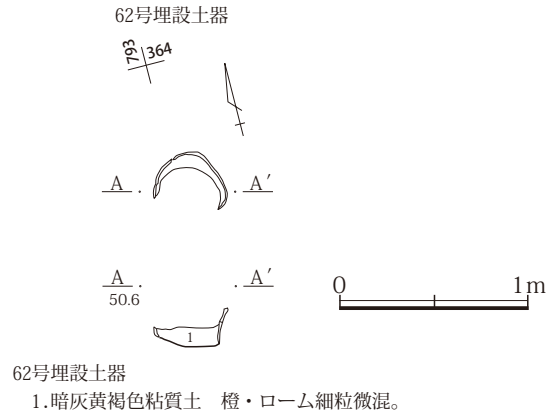
第3章 発見された遺構と遺物



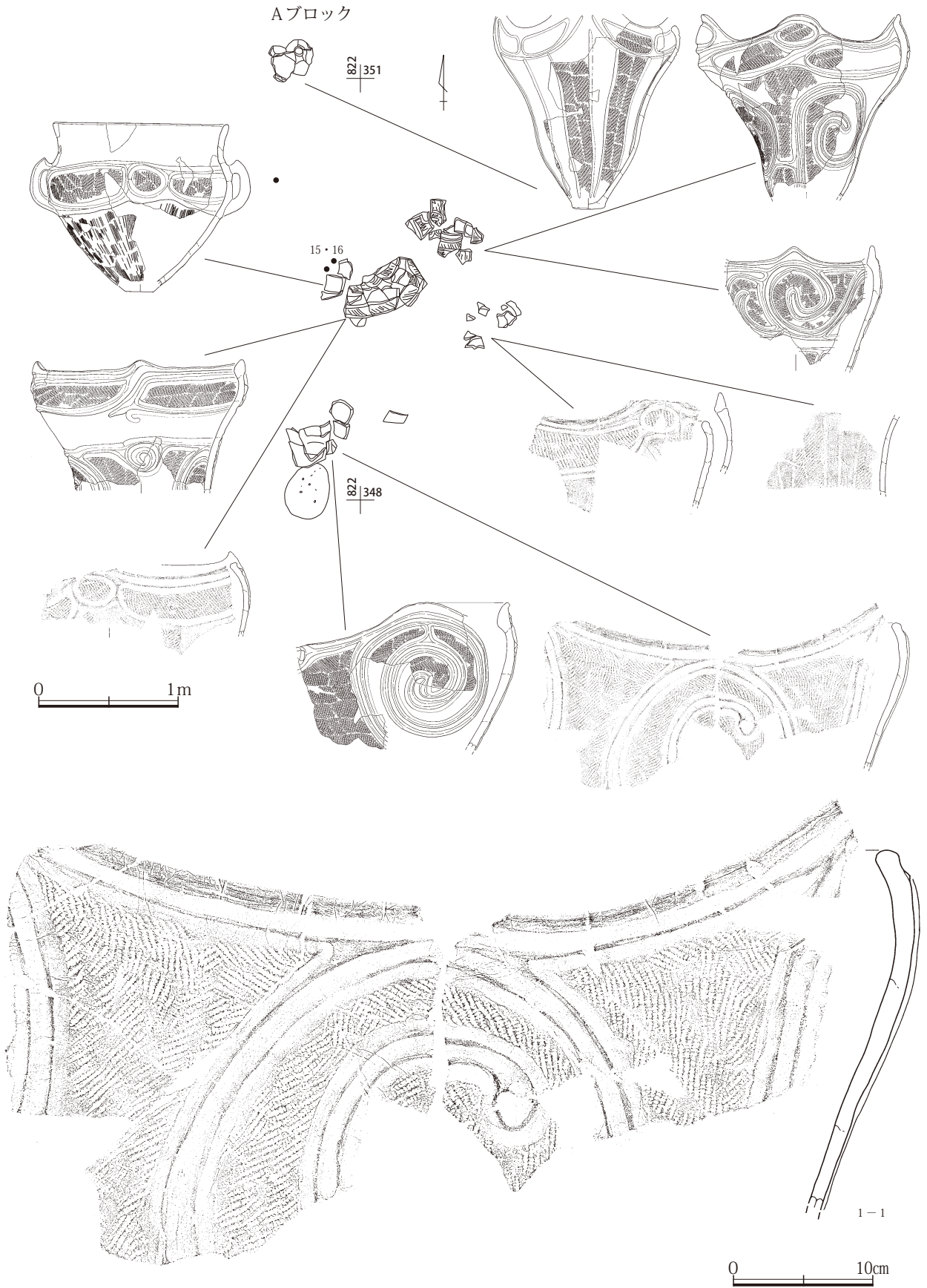
第27図 57号埋設土器・出土遺物



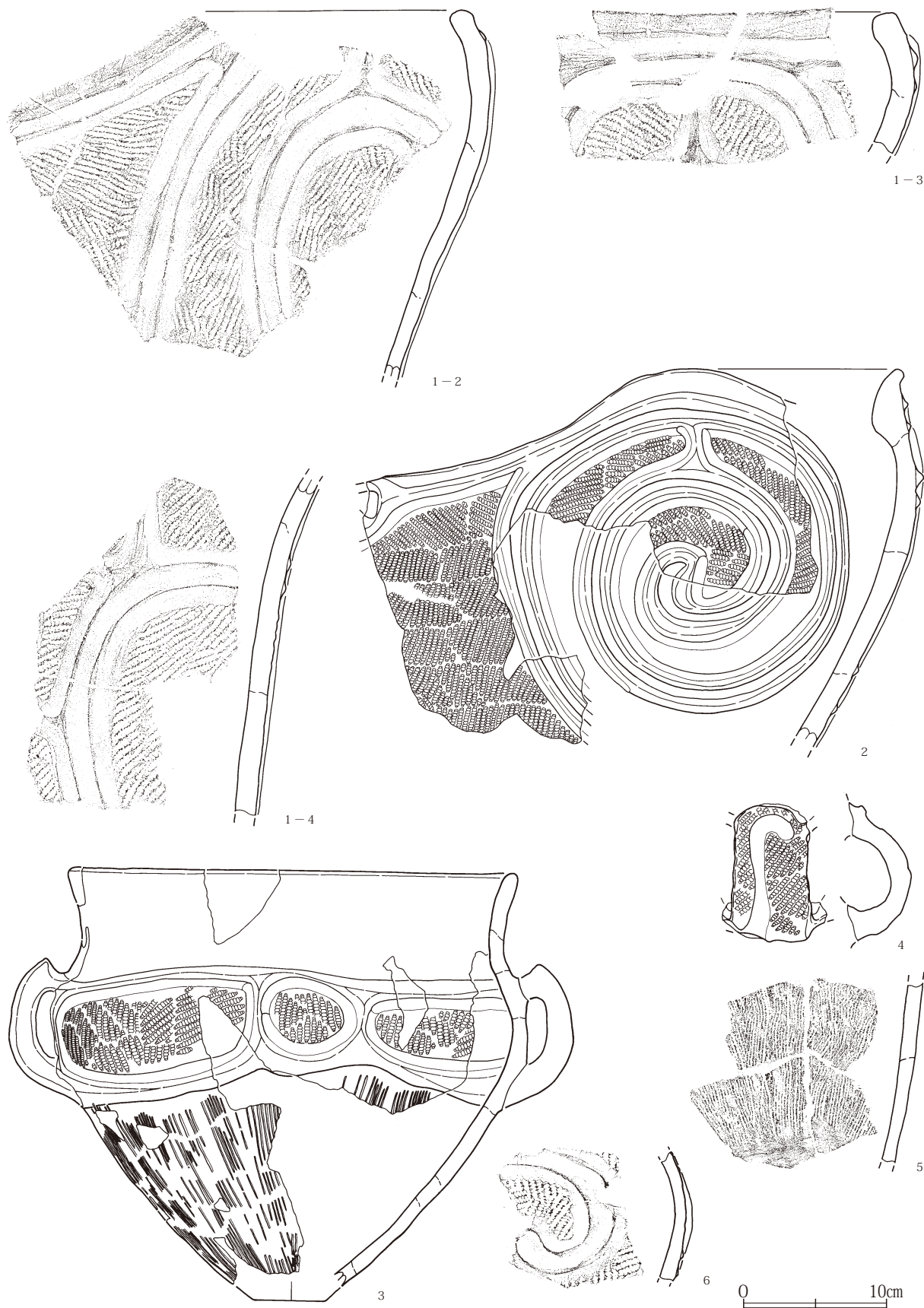
第28図 61号埋設土器・出土遺物



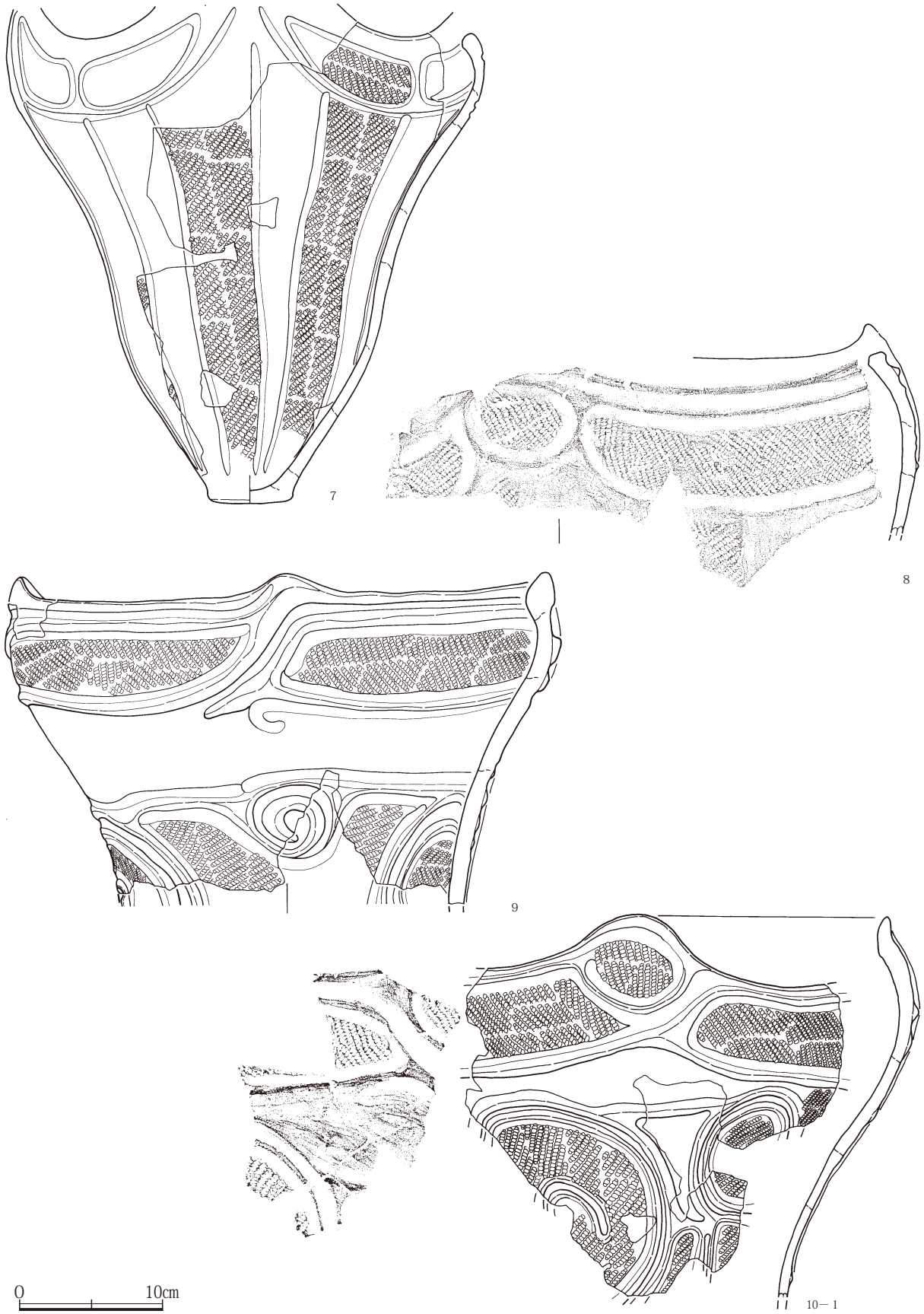
第29図 62号埋設土器・出土遺物



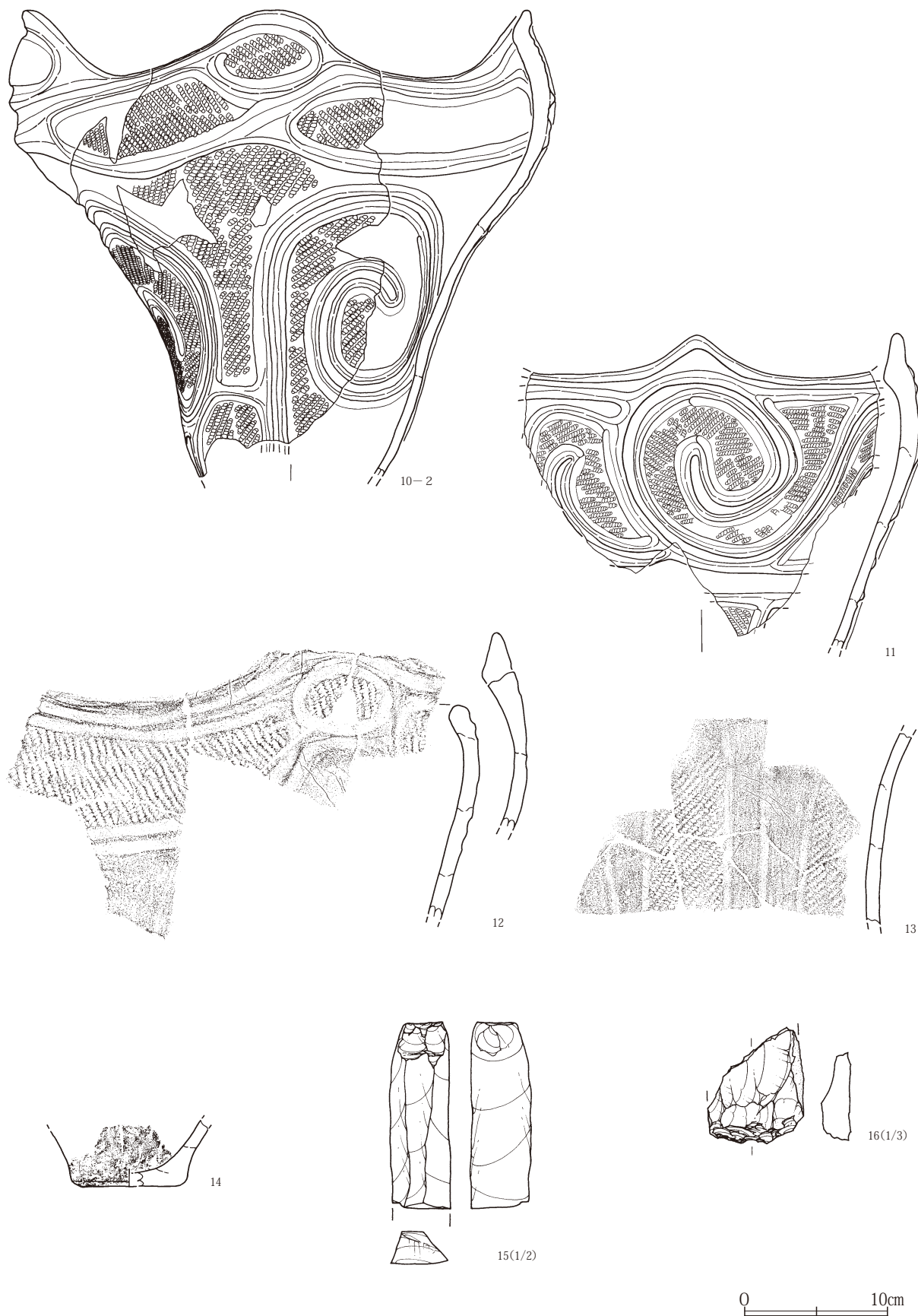
第30図 土器集中Aブロック・出土遺物（1）



第31図 土器集中Aブロック出土遺物（2）

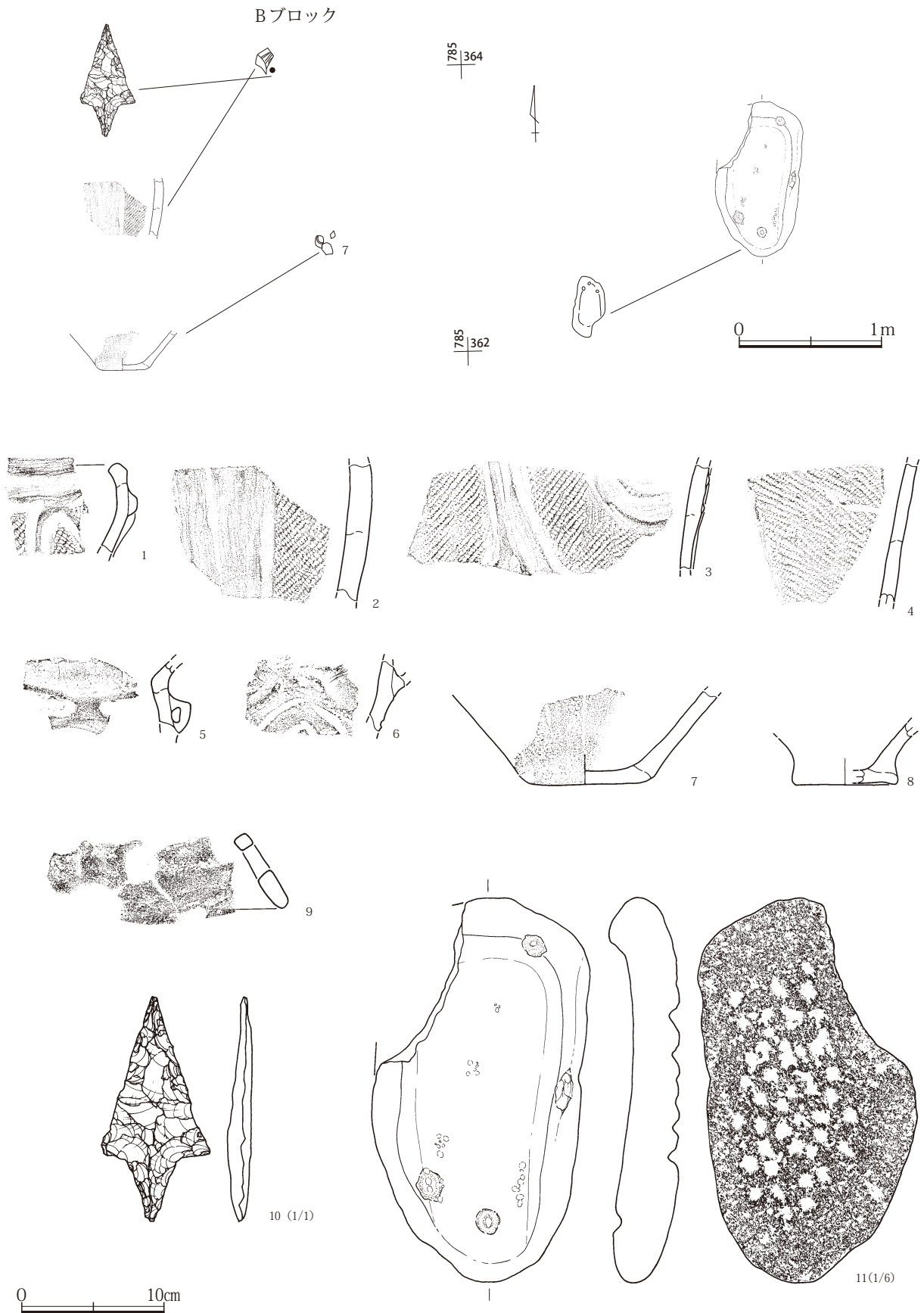


第32図 土器集中Aブロック出土遺物（3）

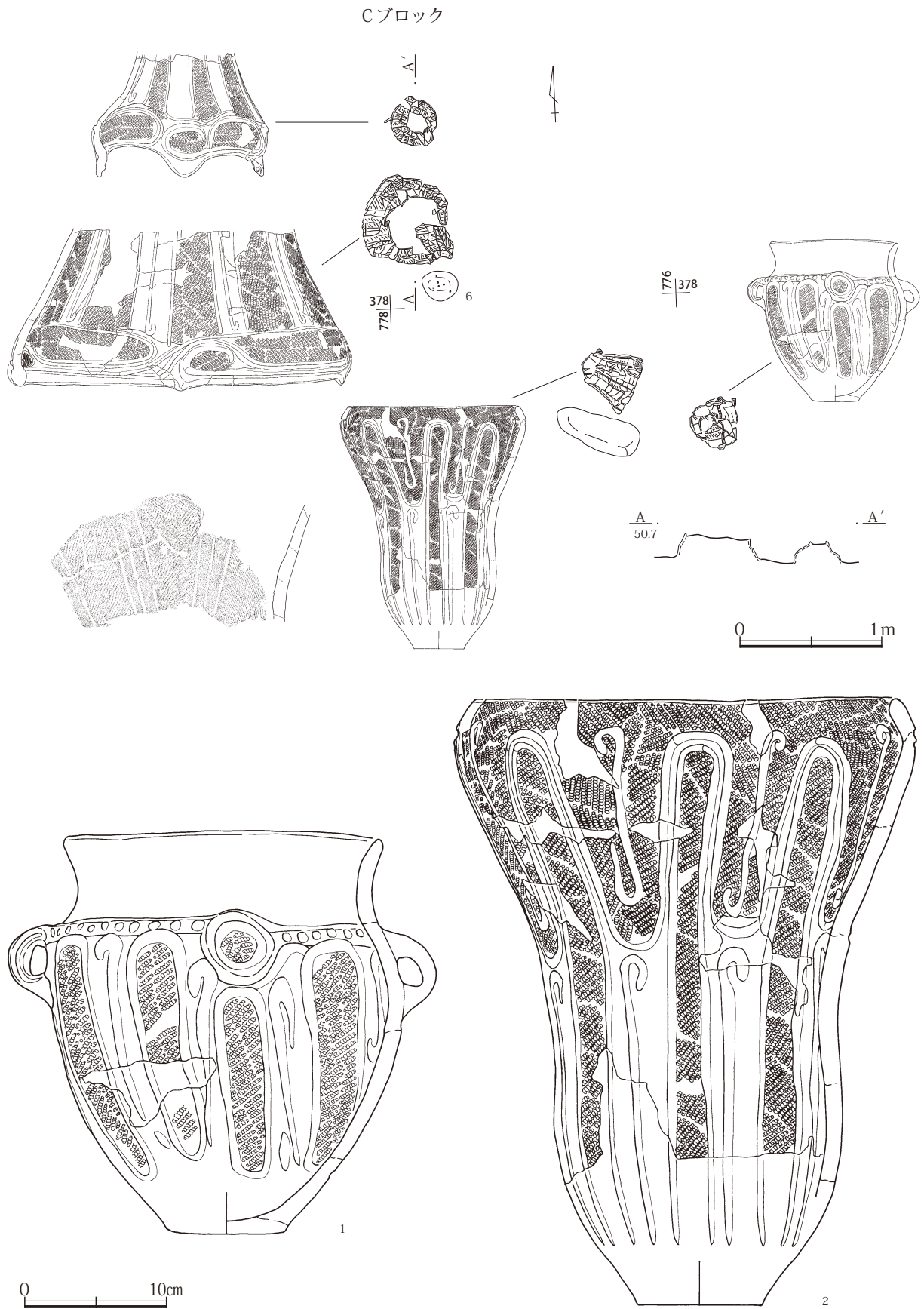


第33図 土器集中Aブロック出土遺物（4）

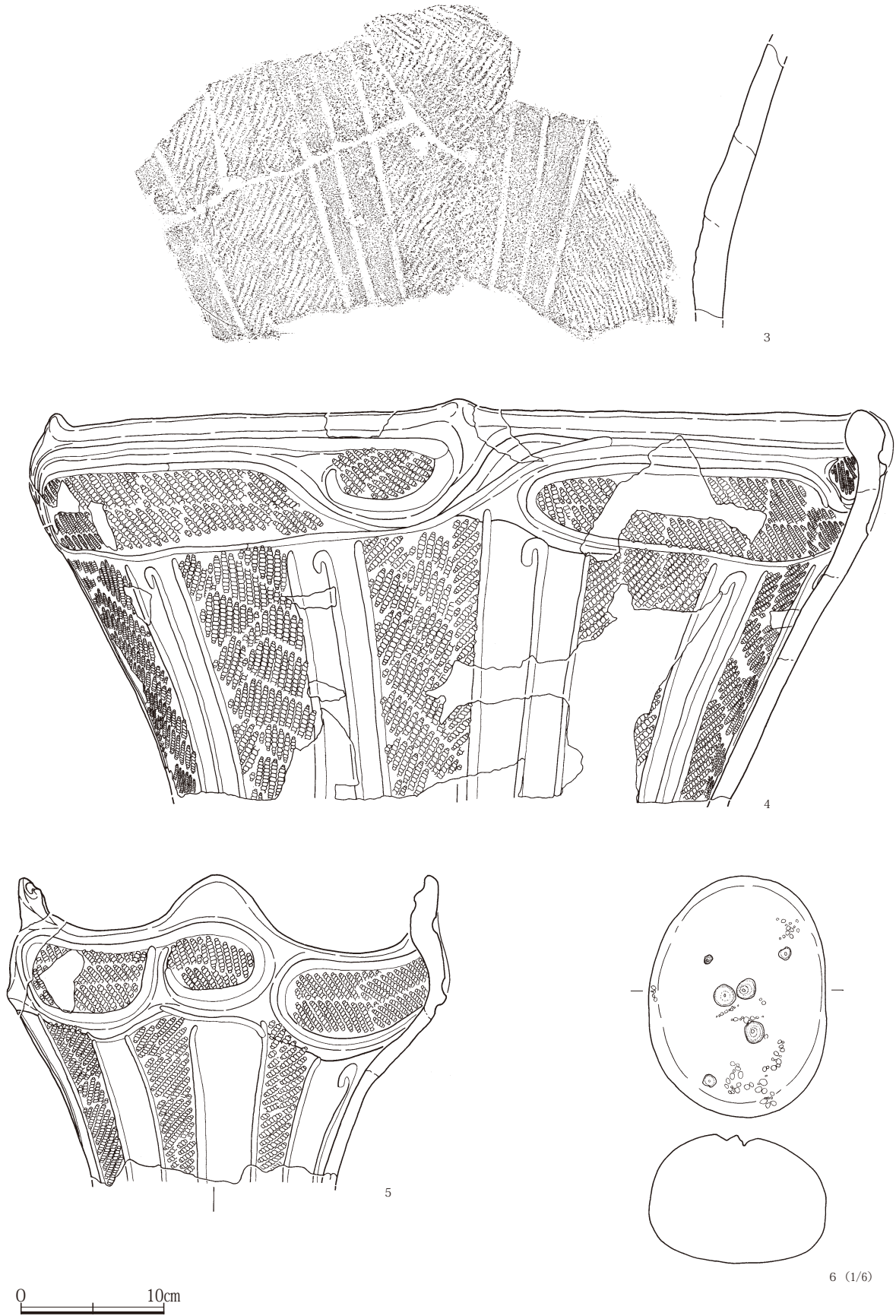




第34図 土器集中Bブロック・出土遺物

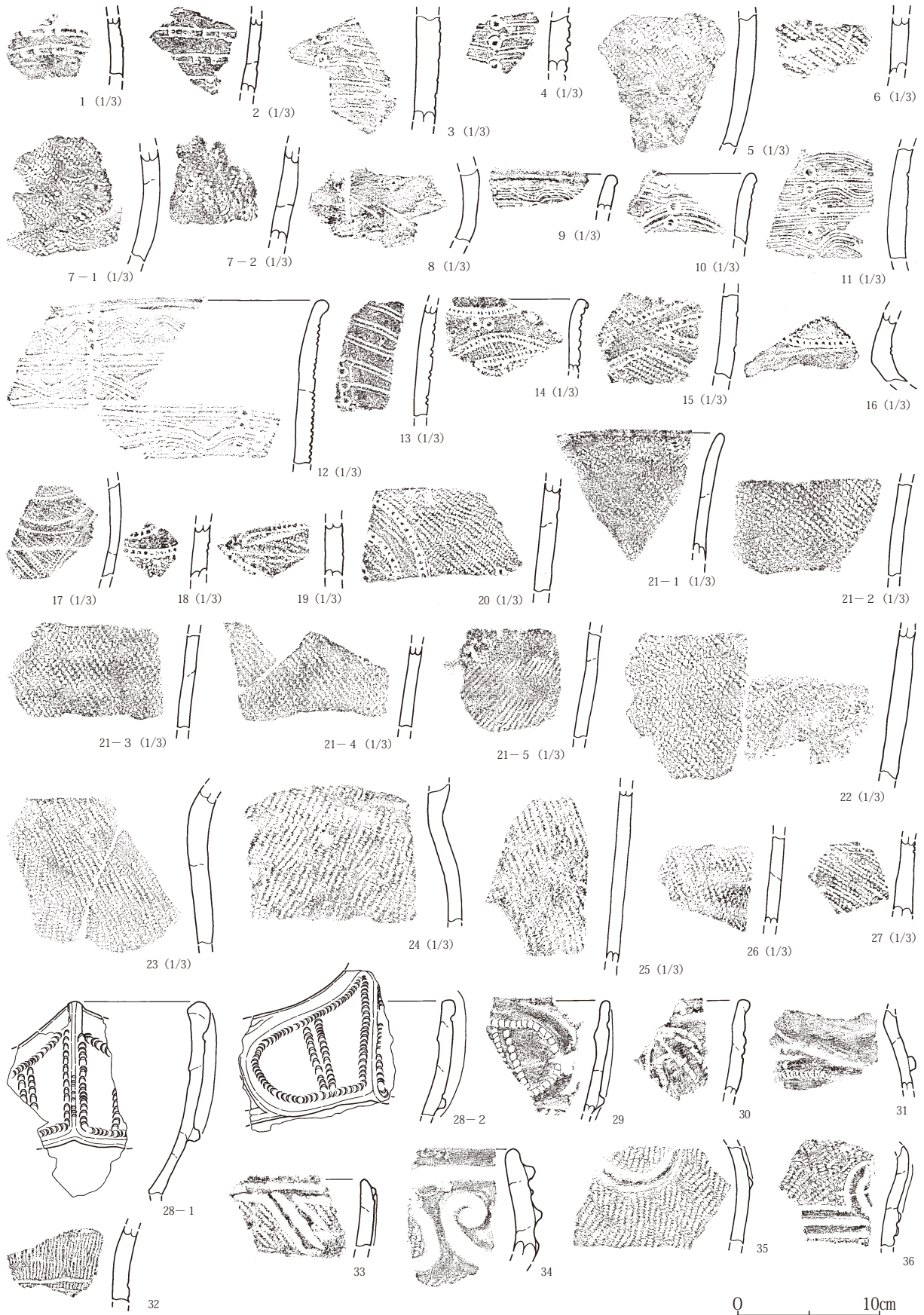


第35図 土器集中Cブロック・出土遺物（1）

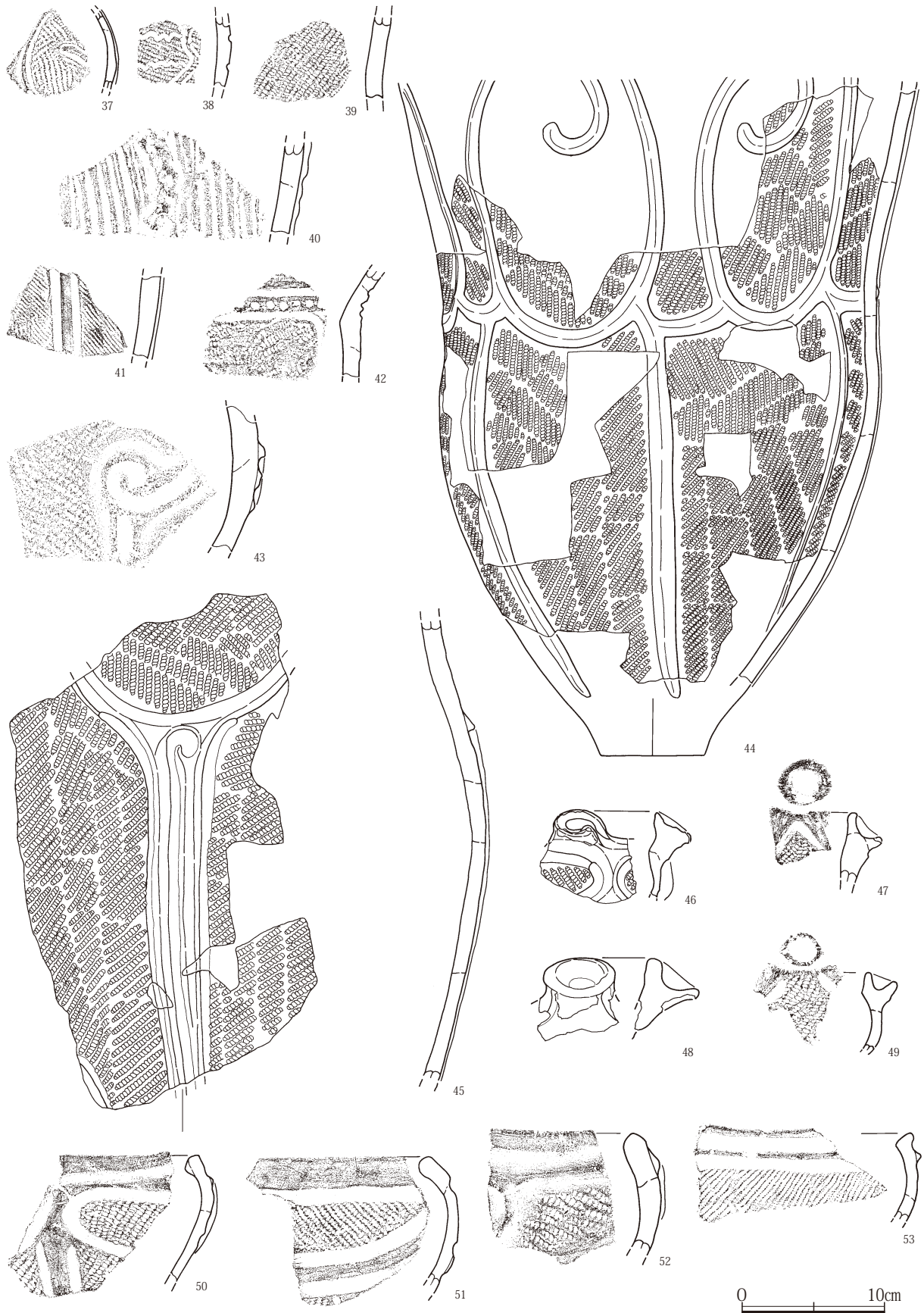


第36図 土器集中Cブロック出土遺物（2）

第3章 発見された遺構と遺物

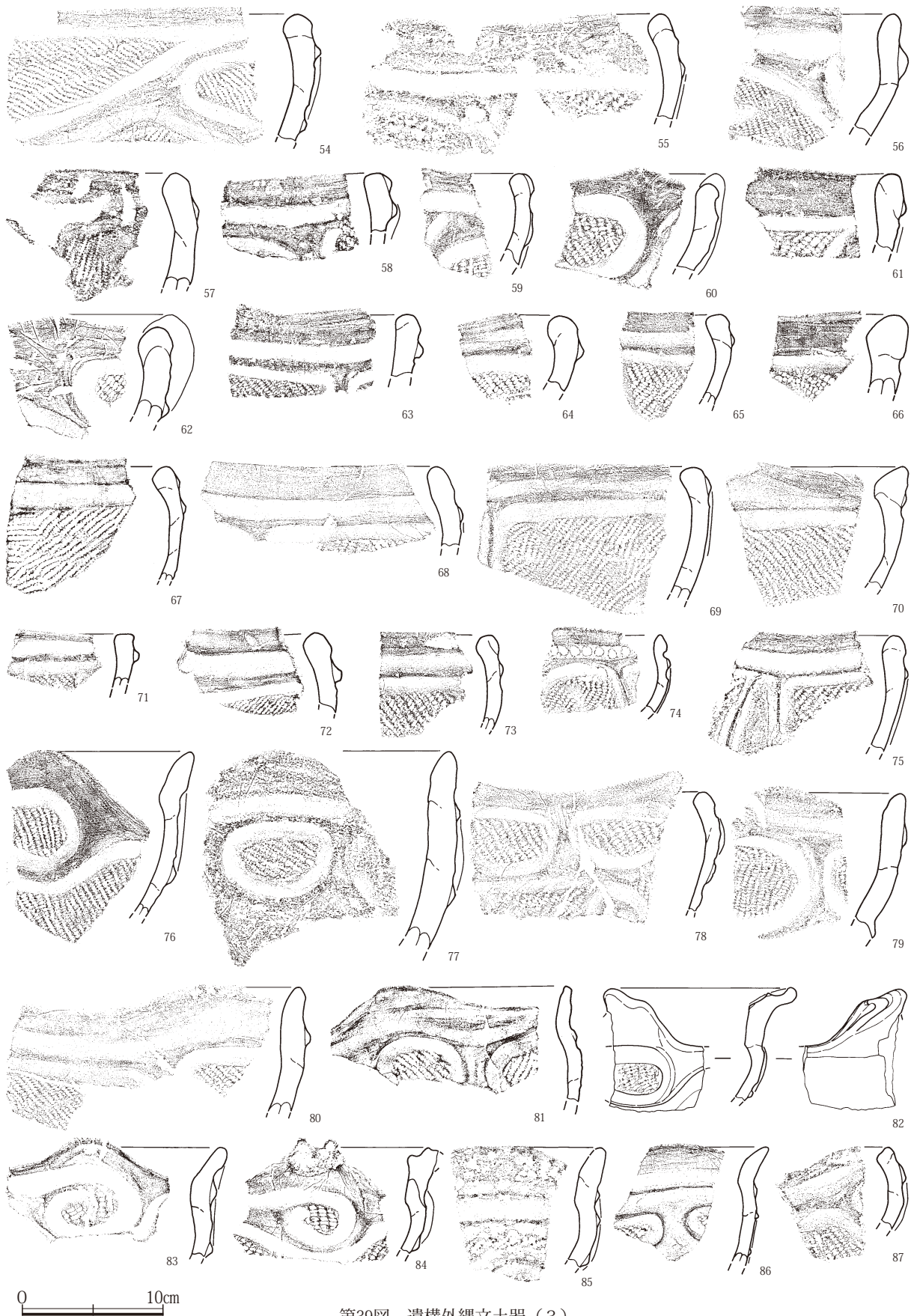


第37図 遺構外縄文土器 (1)

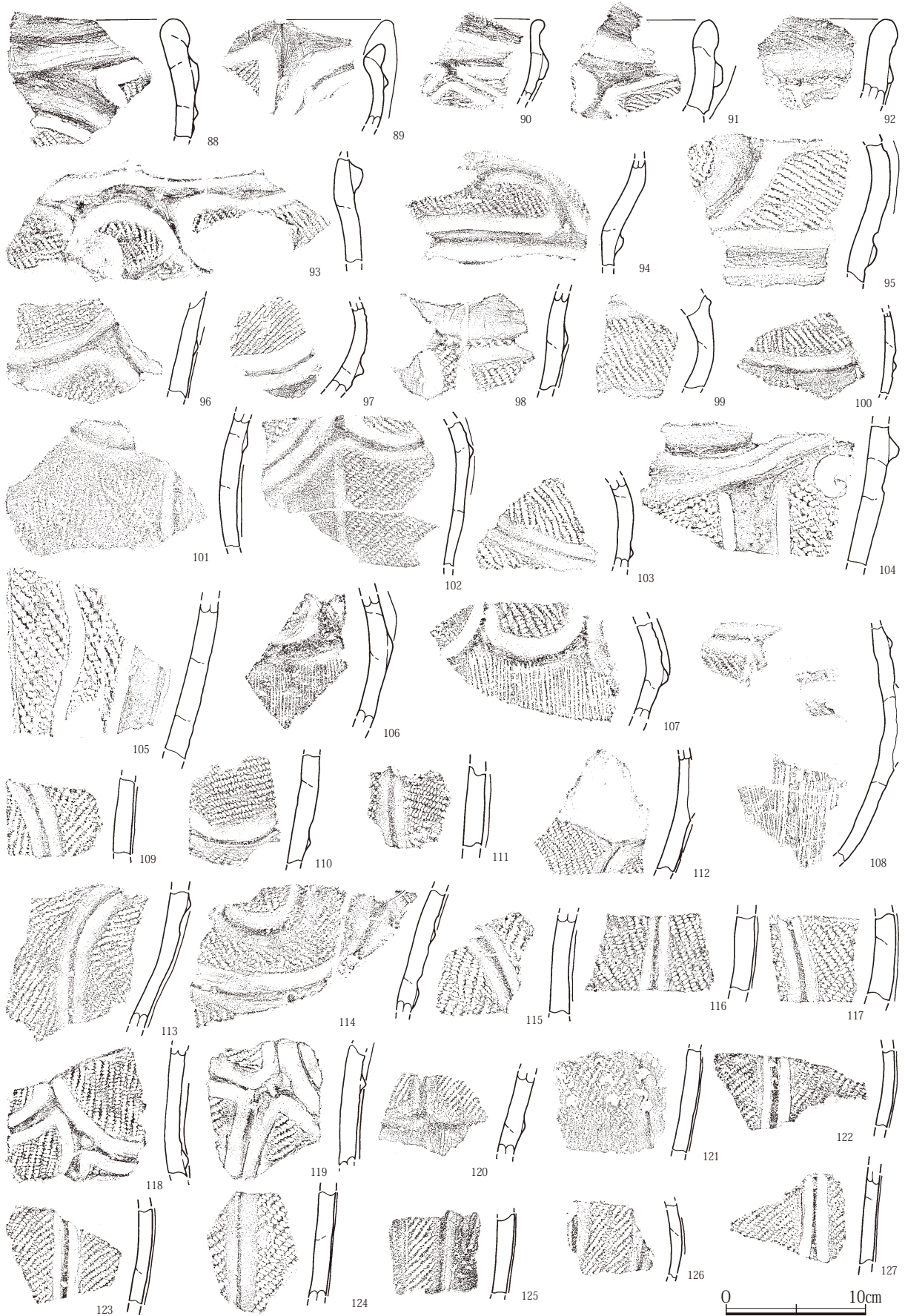


第38図 遺構外縄文土器(2)

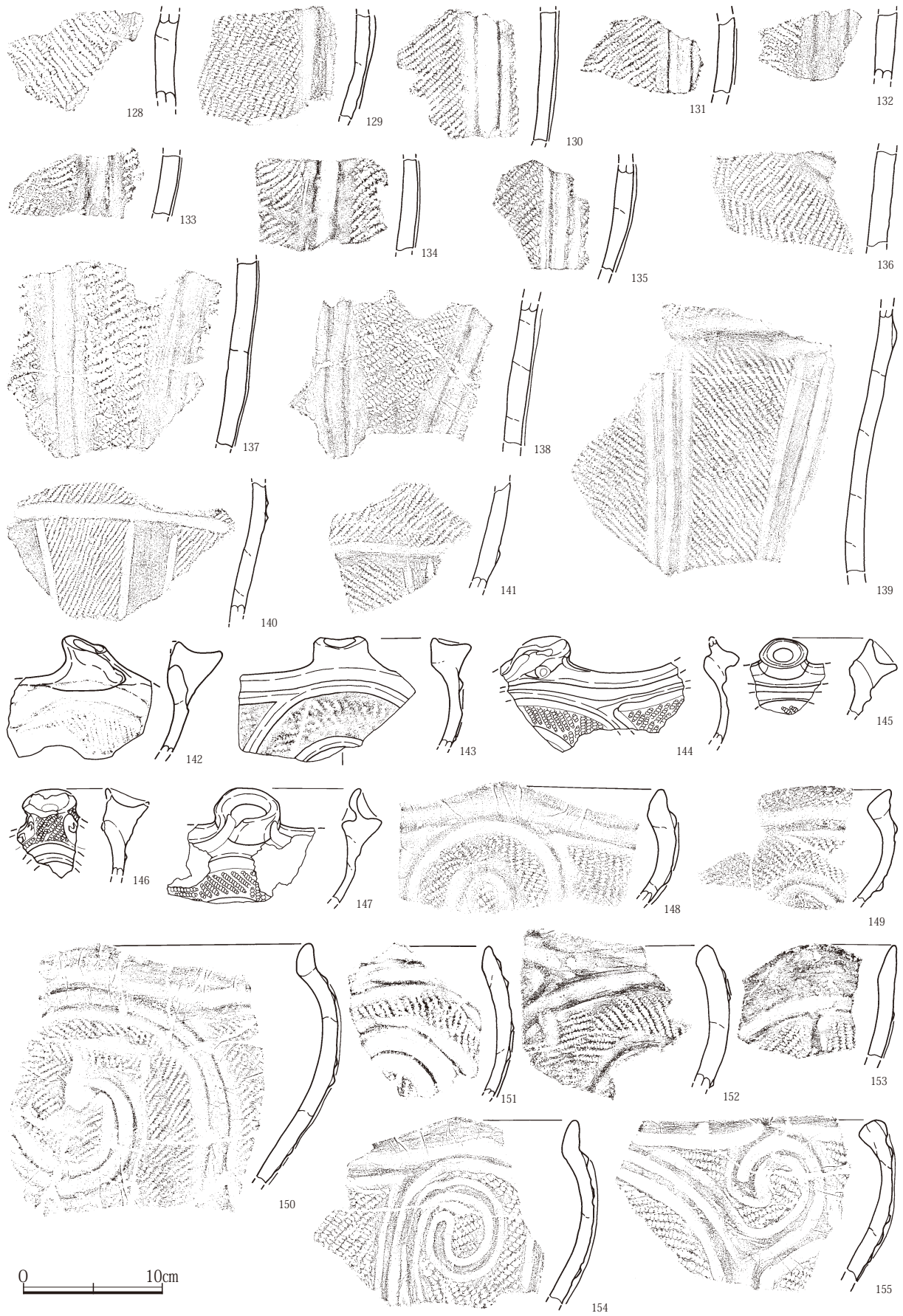
第3章 発見された遺構と遺物



第39図 遺構外縄文土器（3）

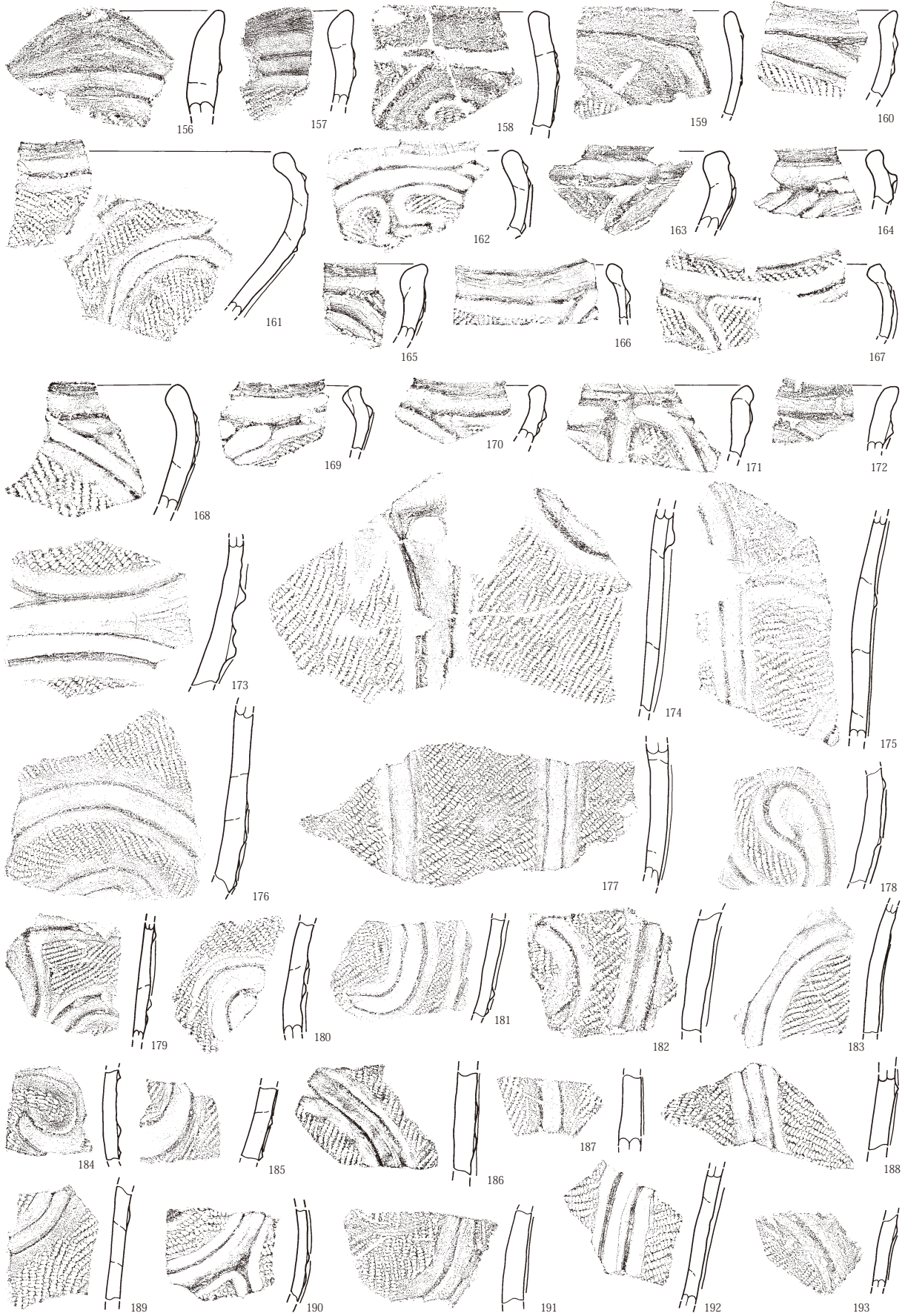


第40図 遺構外縄文土器(4)



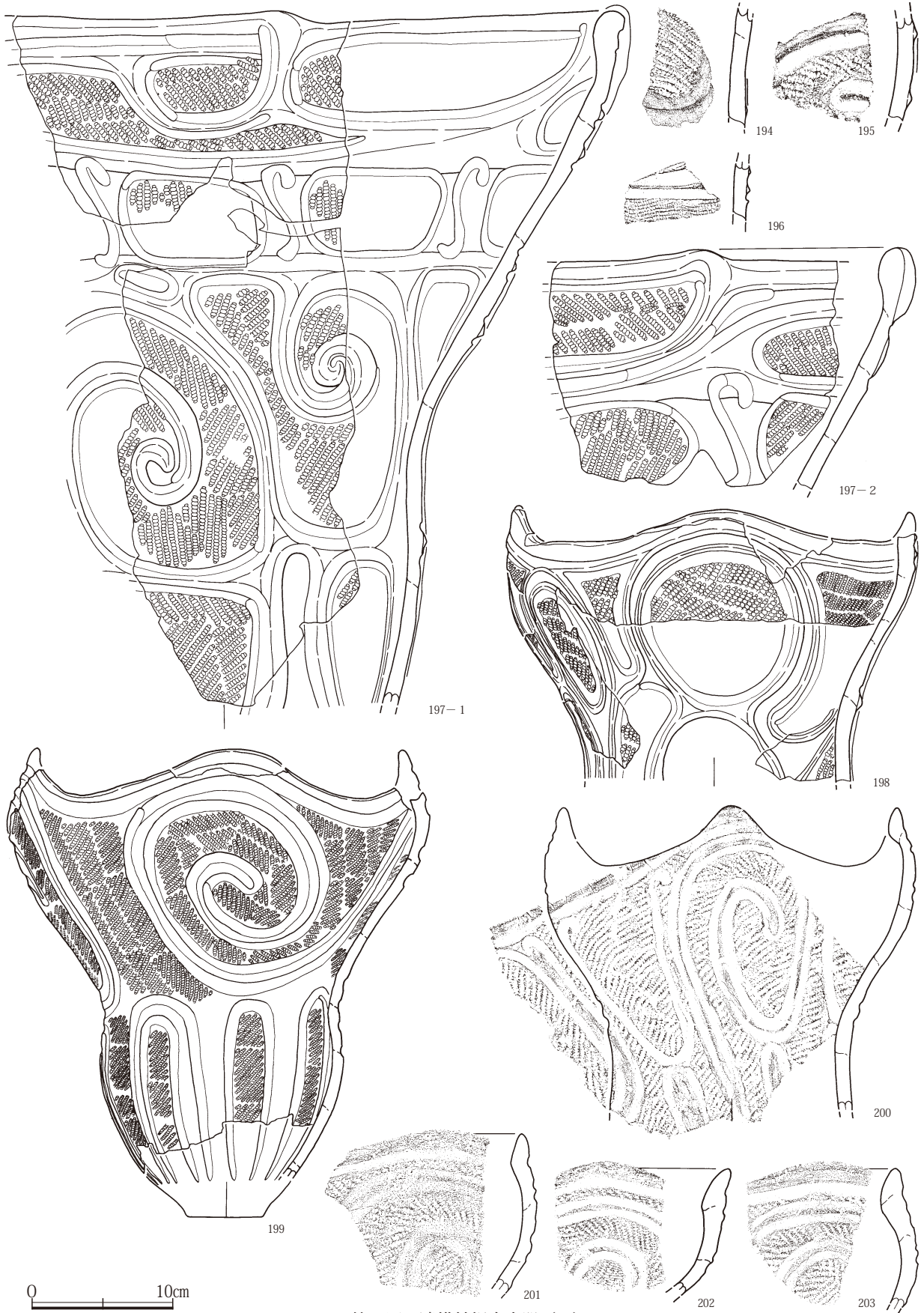
第41図 遺構外縄文土器（5）





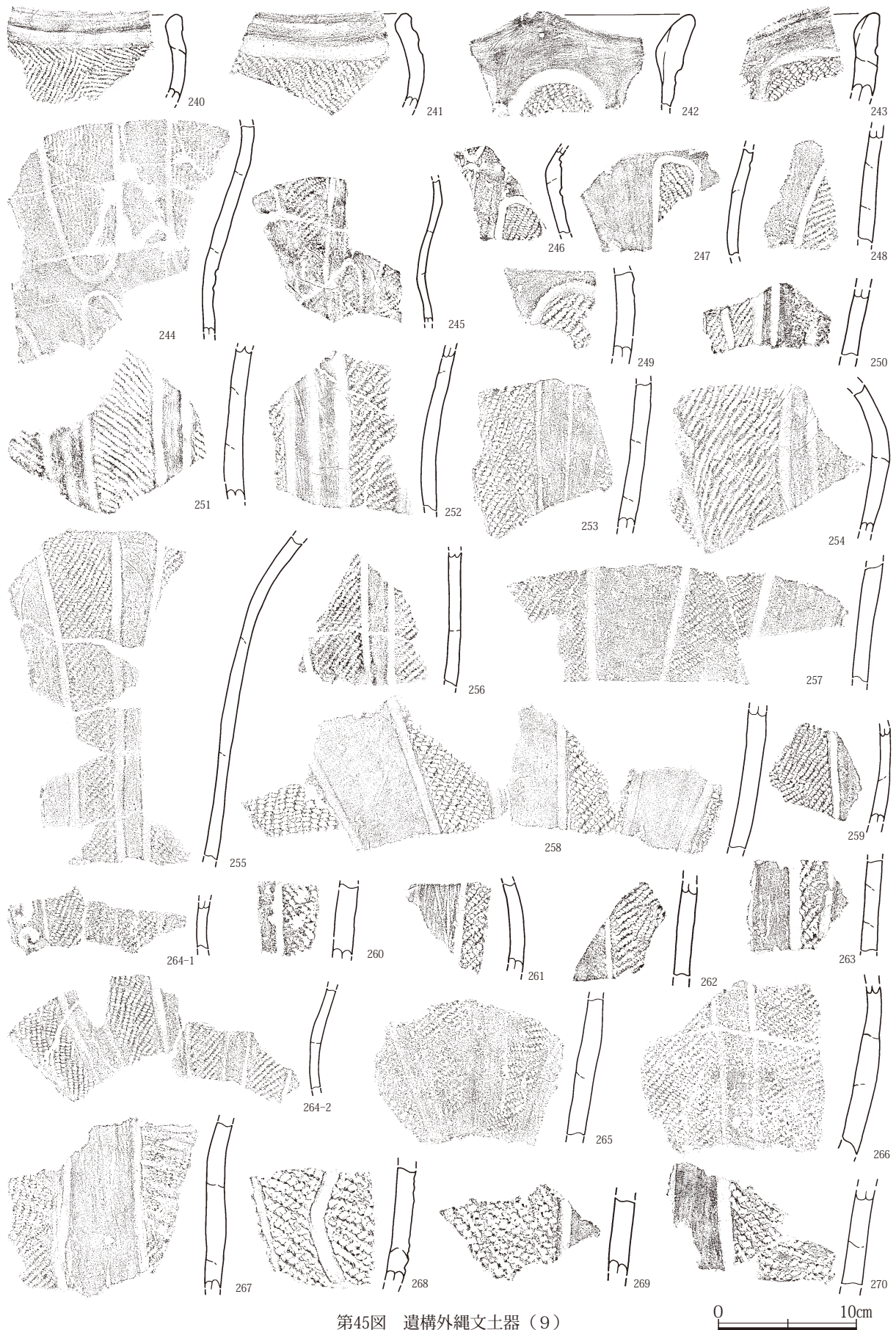
第42図 遺構外縄文土器(6)

0 10cm

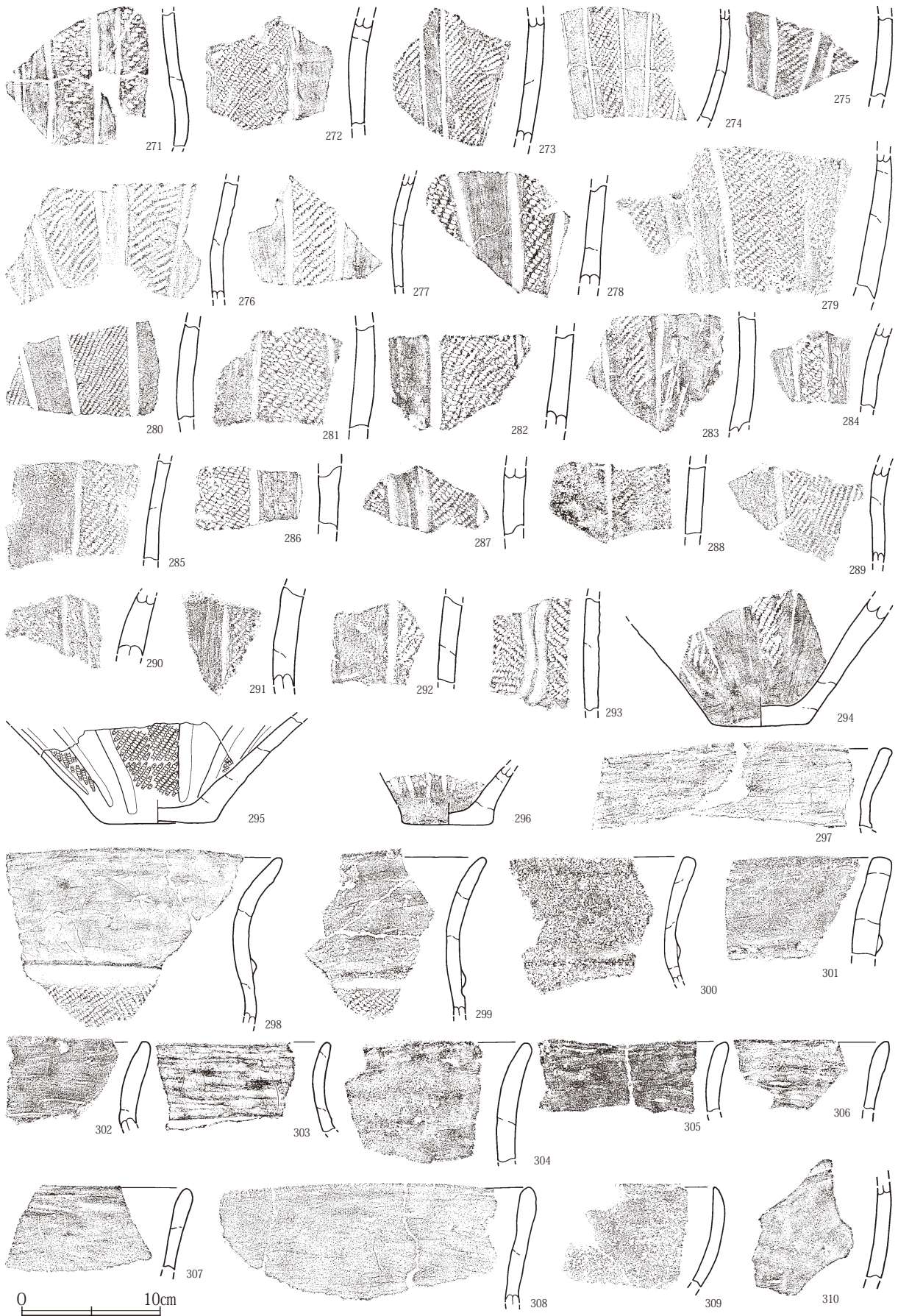


第43図 遺構外縄文土器（7）



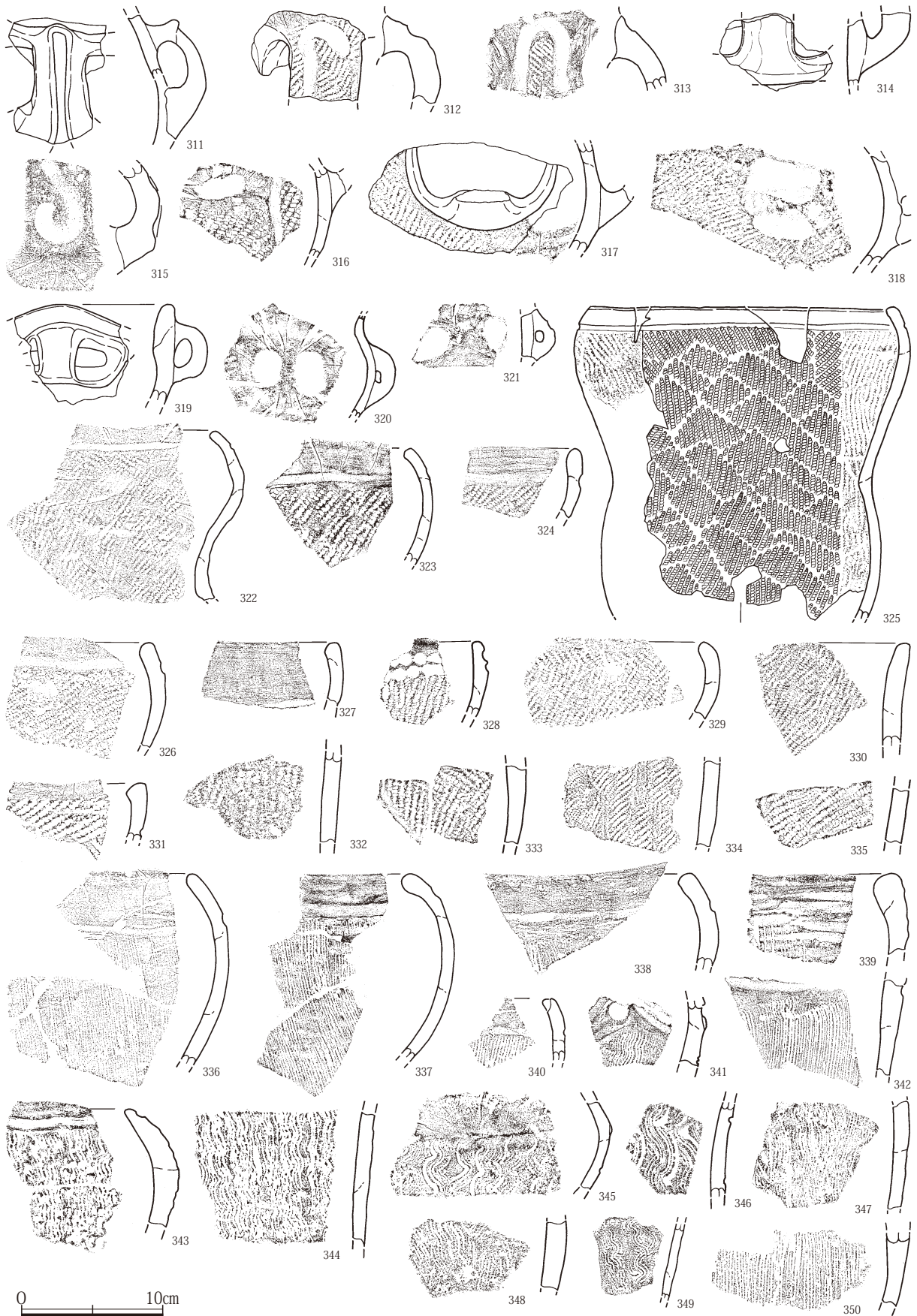


第45図 遺構外縄文土器(9)



第46図 遺構外縄文土器 (10)

第3章 発見された遺構と遺物

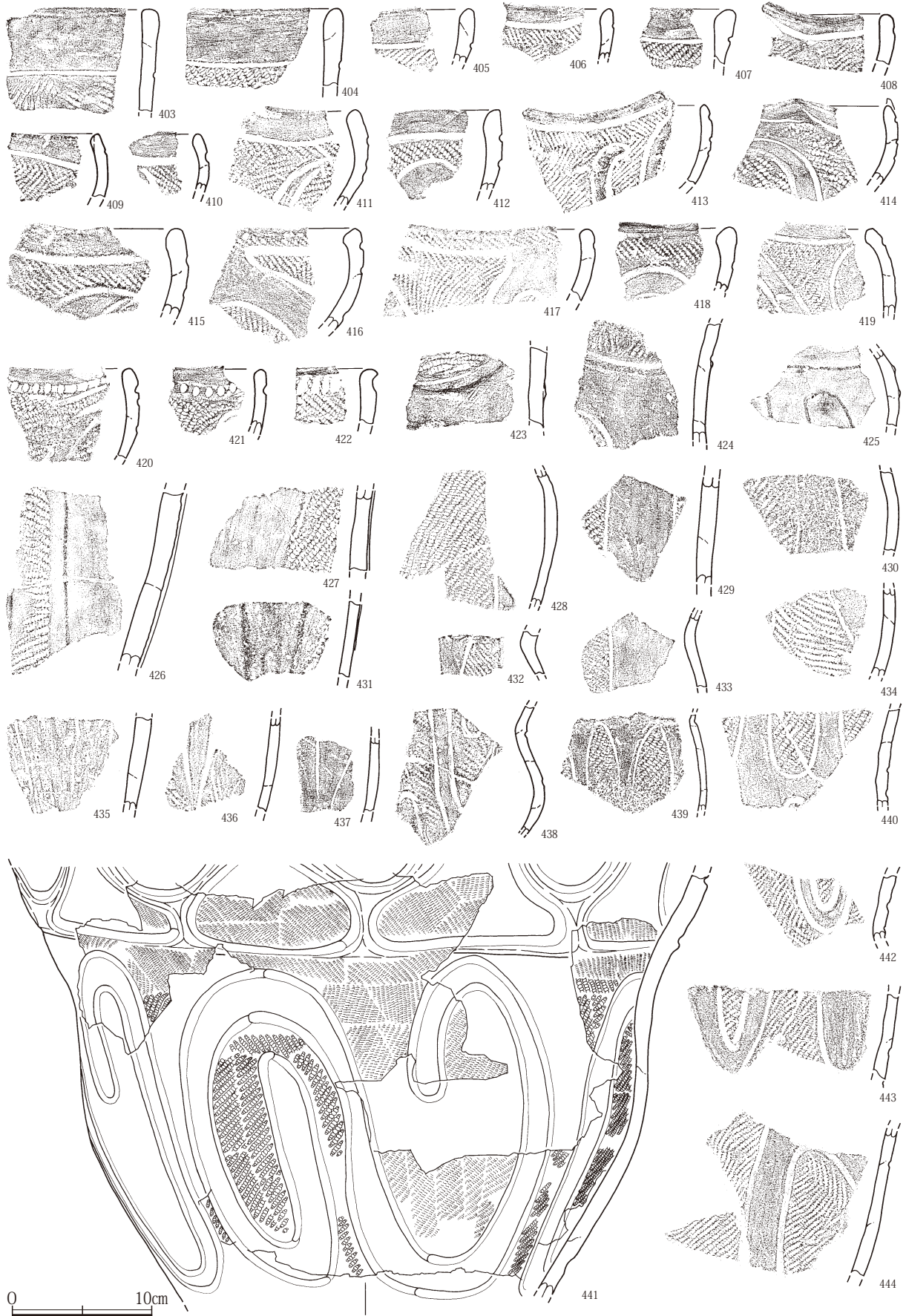


第47図 遺構外縄文土器 (11)



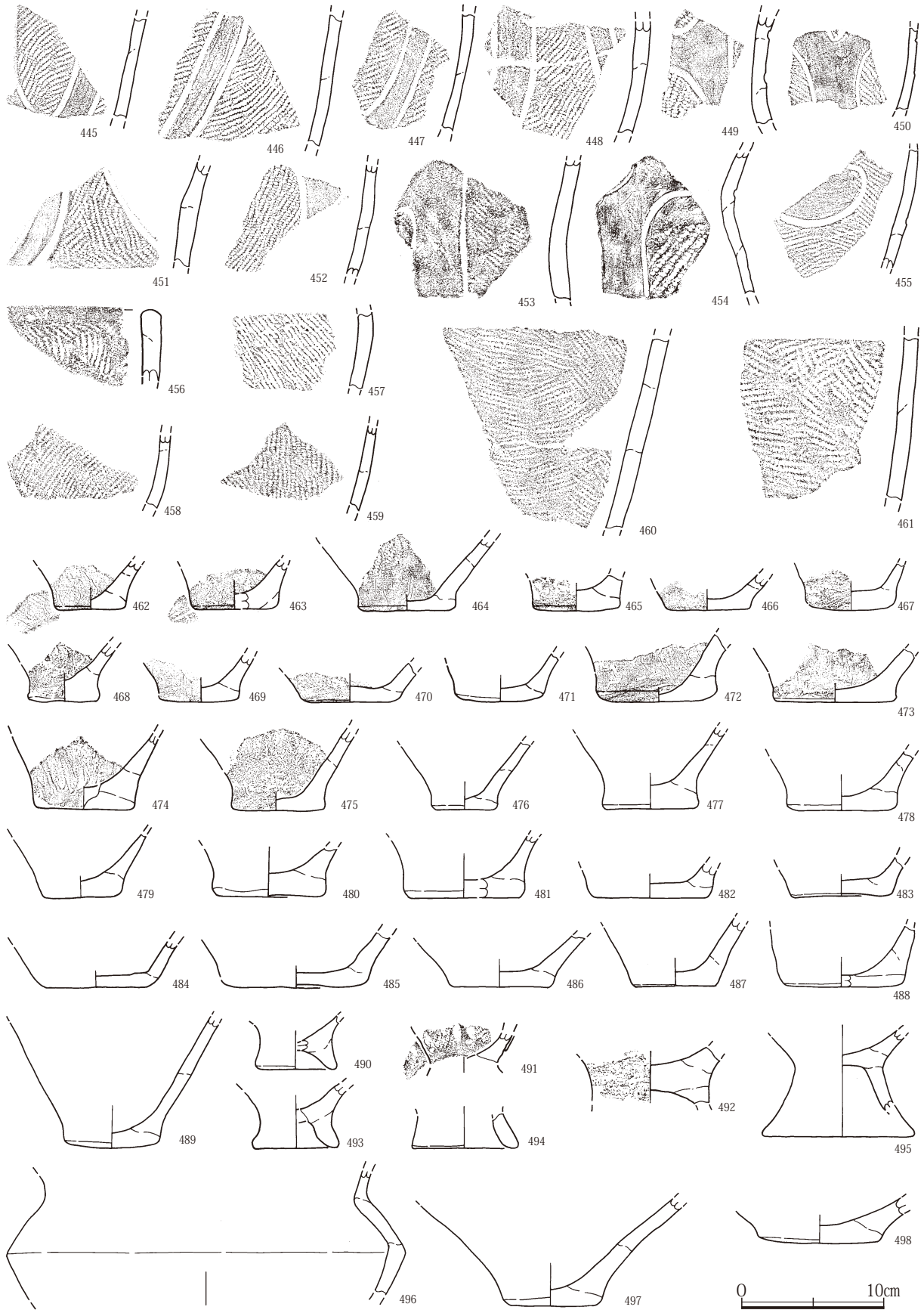
第48図 遺構外縄文土器 (12)

第3章 発見された遺構と遺物



第49図 遺構外縄文土器 (13)

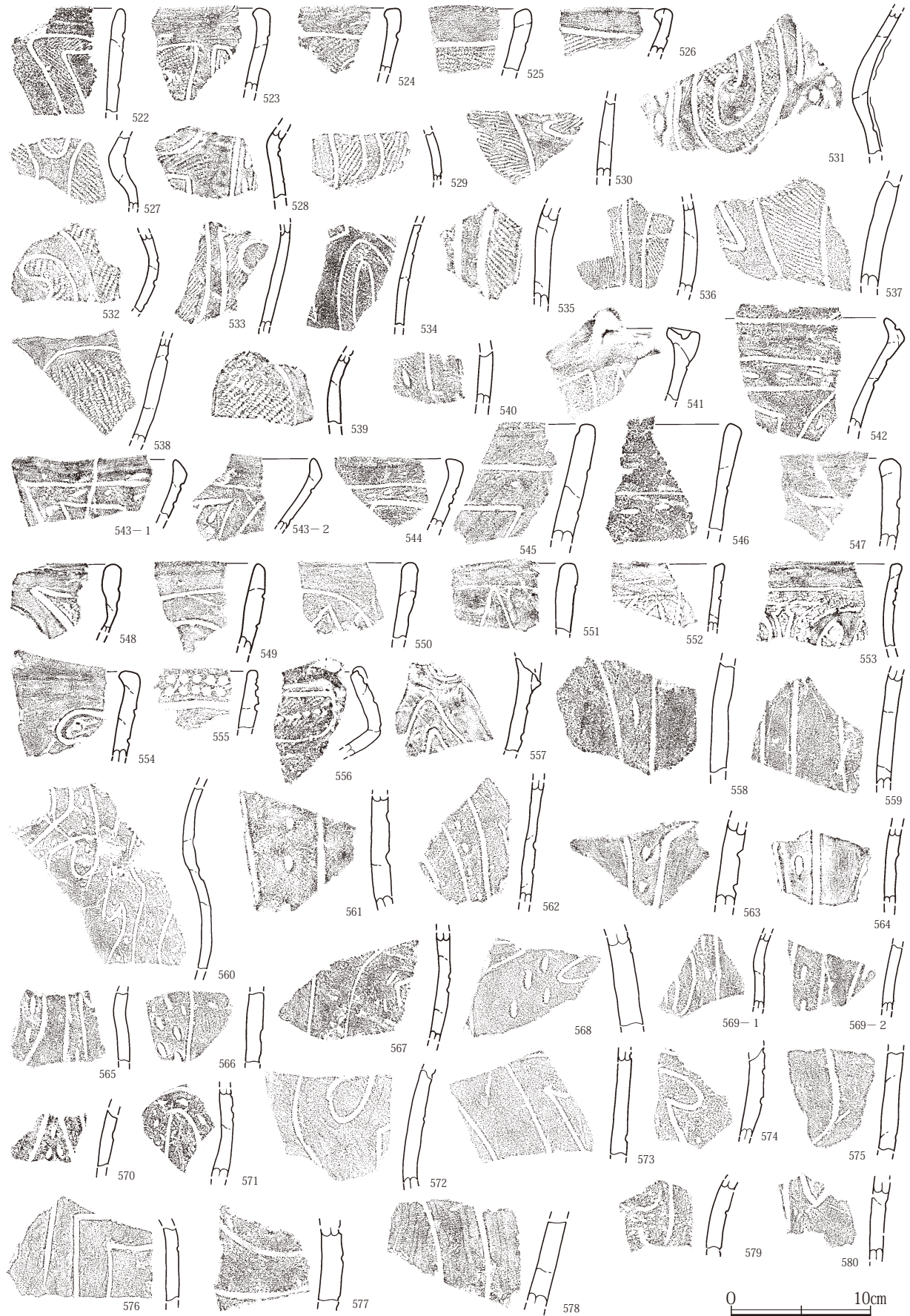




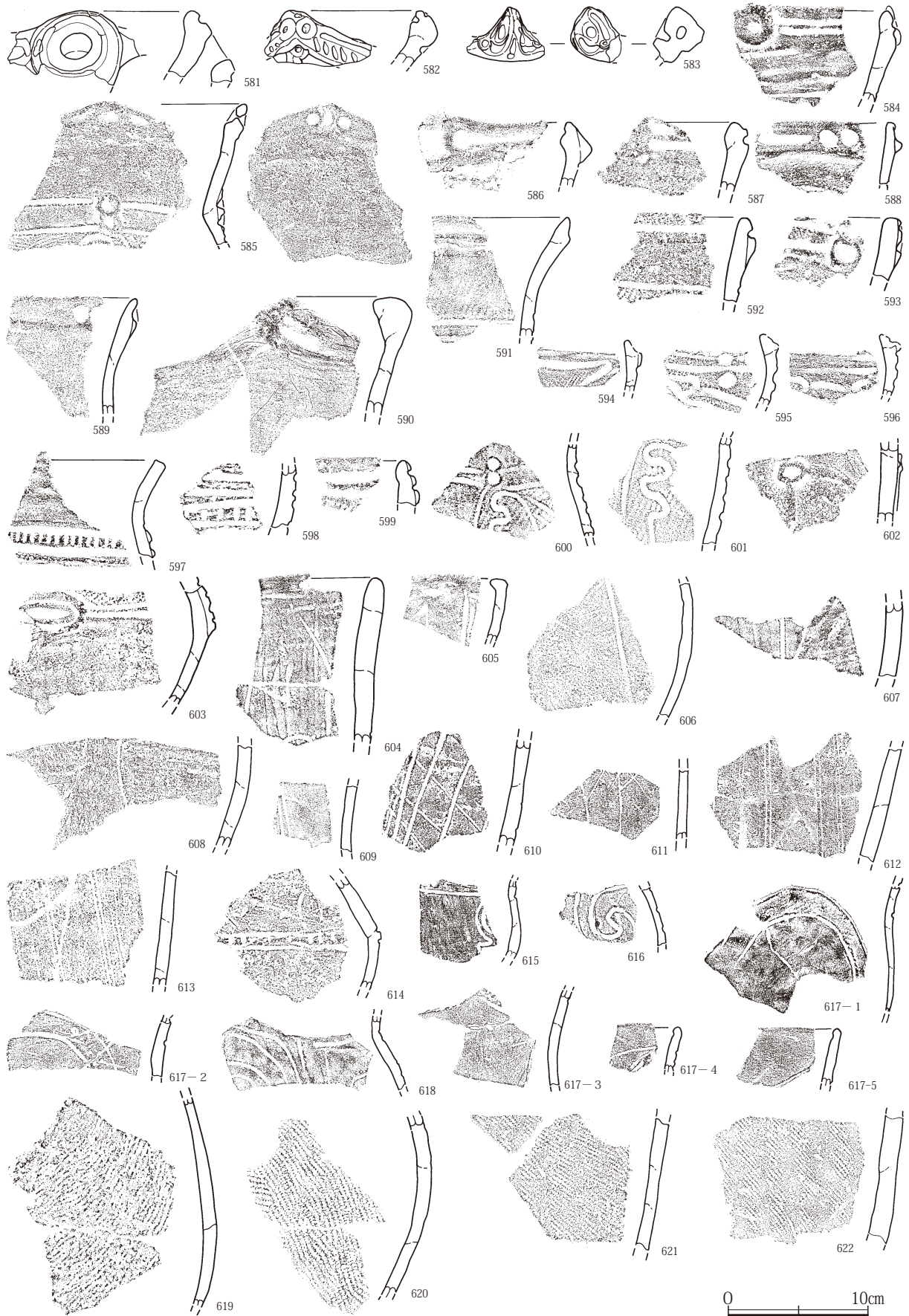
第50図 遺構外縄文土器 (14)



第51図 遺構外縄文土器 (15)



第52図 遺構外縄文土器 (16)

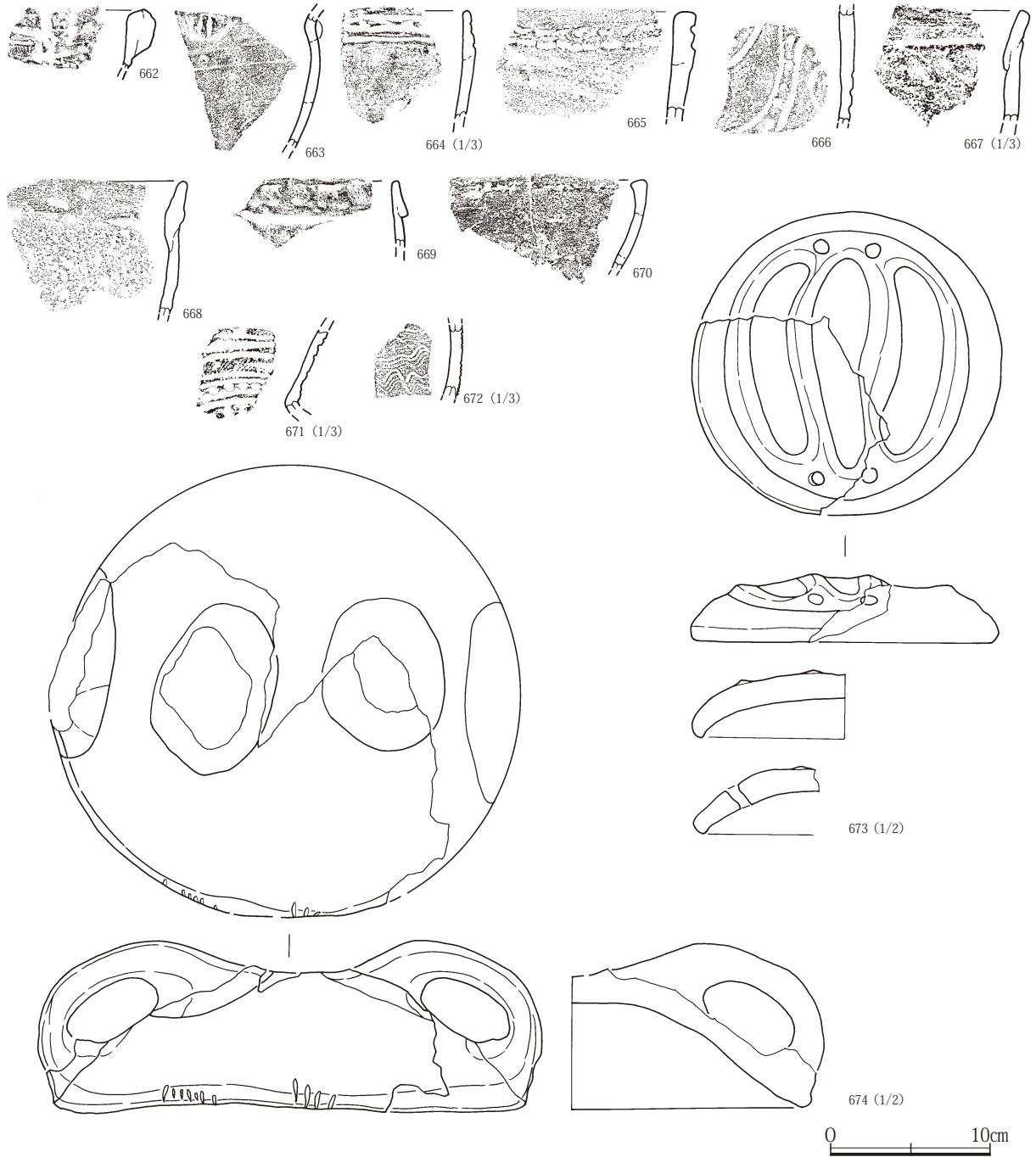


第53図 遺構外縄文土器 (17)

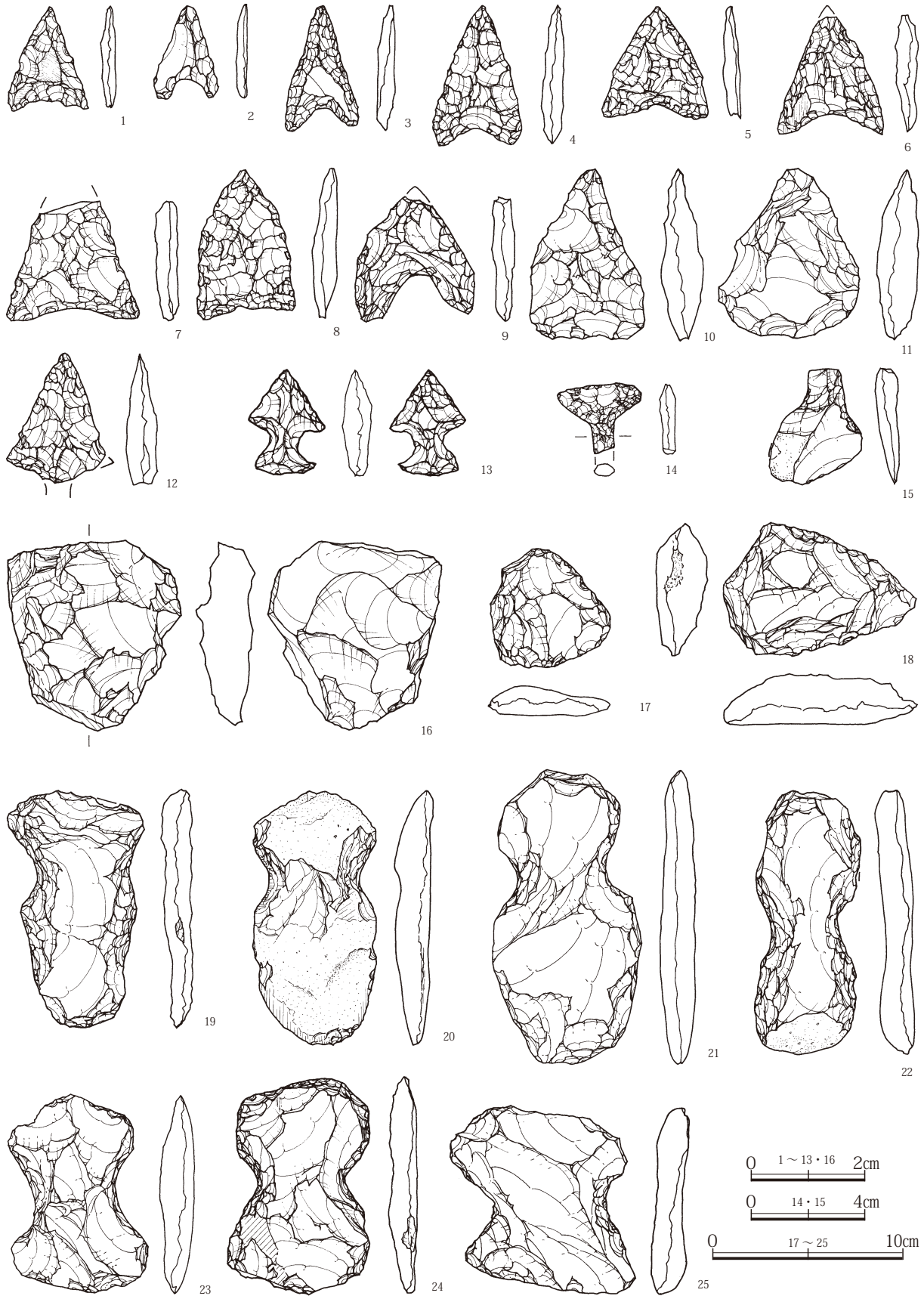


第54図 遺構外縄文土器 (18)

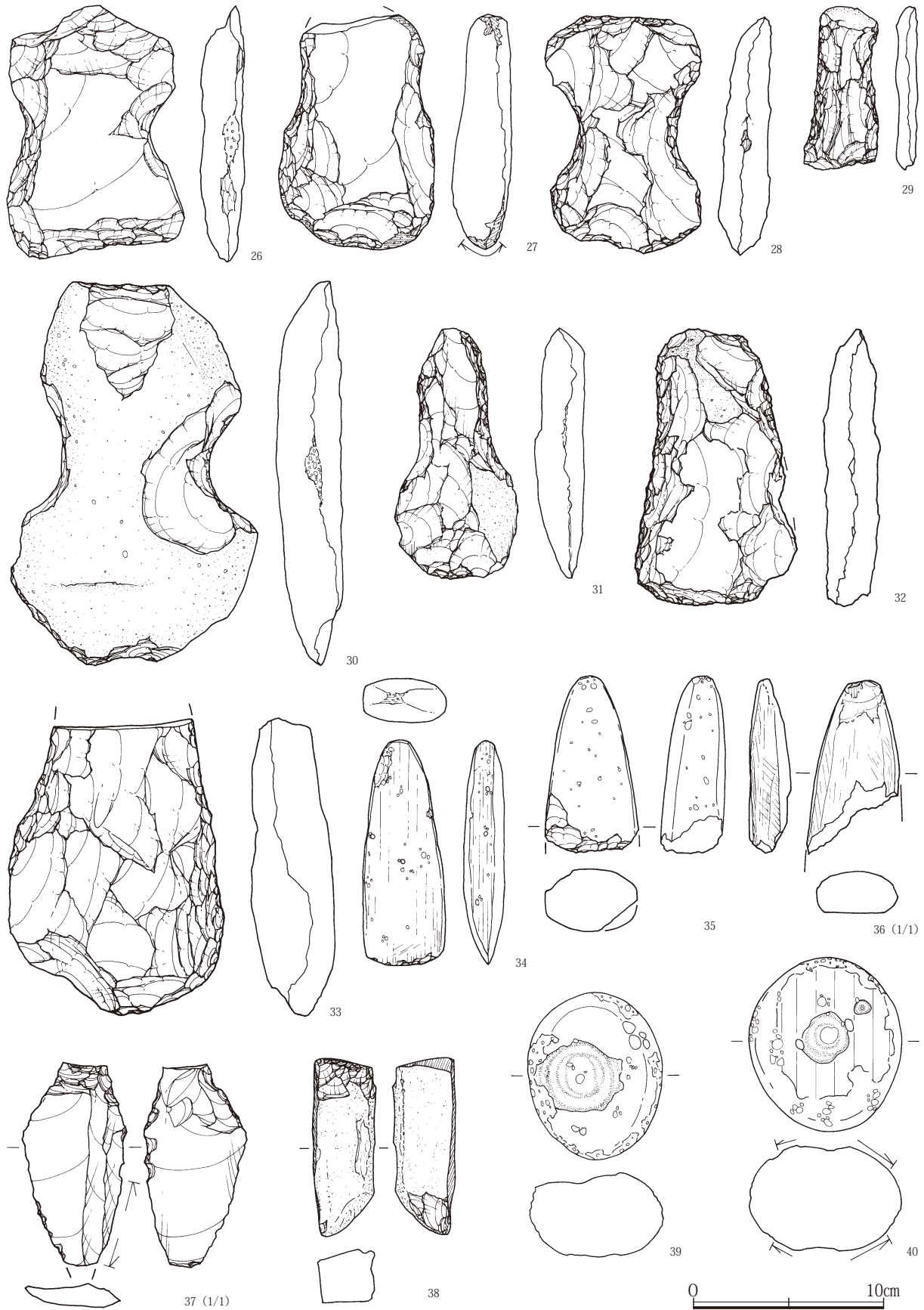
第3章 発見された遺構と遺物



第55図 遺構外縄文土器 (19)



第56図 遺構外出土石器(1)

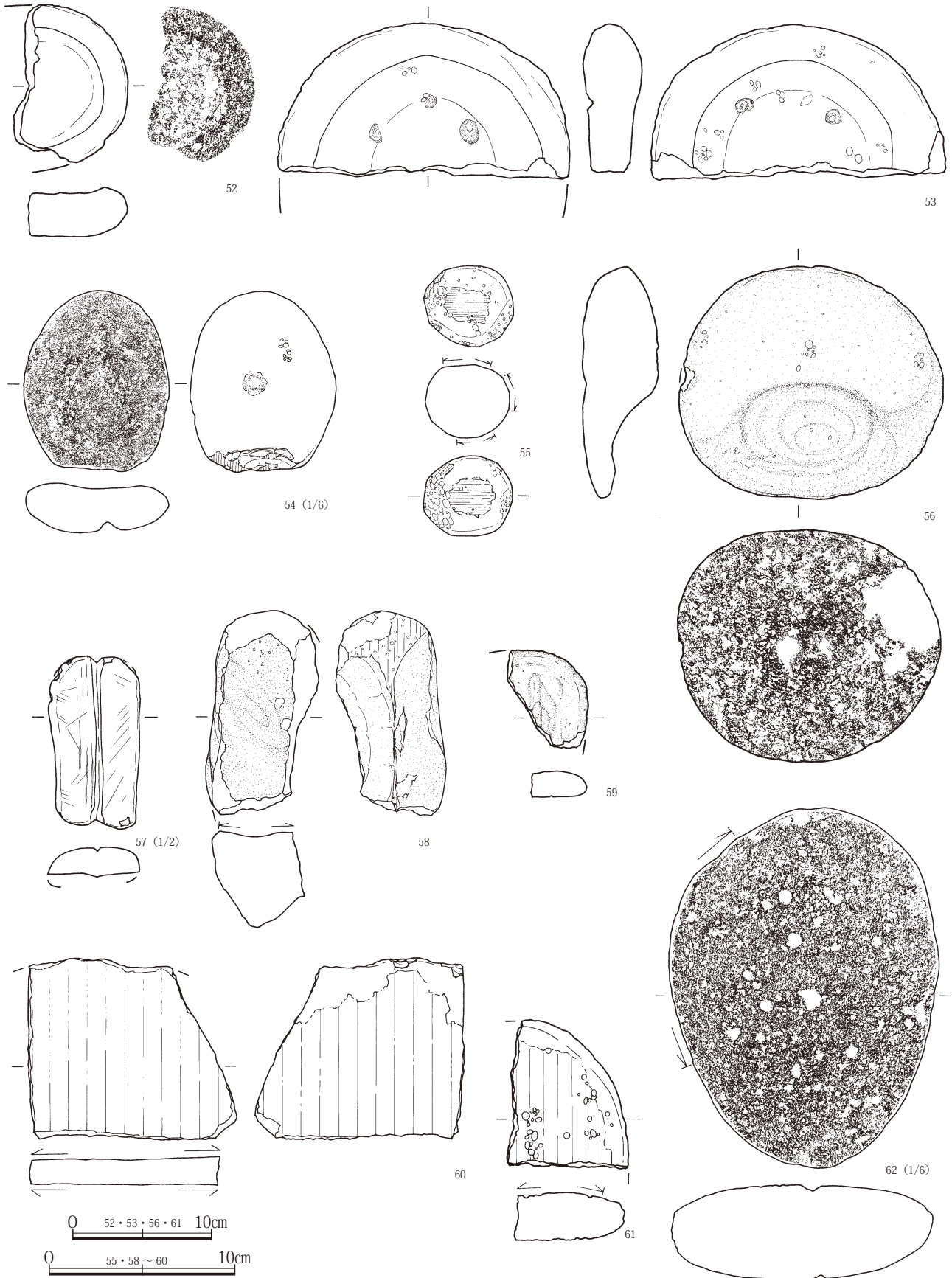


第57図 遺構外出土石器（2）





第 58 図 遺構外出土石器 (3)



第59図 遺構外出土石器（4）



第60図 遺構外出土石器（5）

第3章 発見された遺構と遺物

304号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等				備 考
4 図1 PL.118	深鉢 口縁～底部 床直床面から1cm	1/3 口：(10.4) 底：7.0 高15.6	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い橙色	小型の両耳壺。橋状把手を2単位1対に付す。他の単位は環状・渦巻状意匠を配す。口縁部は無文で直立し体部は強く内湾する。把手中位には縦位S字状沈線を施し下端に沈線が沿う。縄文は縦位LR				加曾利EⅢ
4 図2 PL.118	深鉢 体部上半 床直	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③橙色	両耳壺か。口縁部は無文か。以下S字状沈線を設ける橋状把手を付し、隆線による区画文を配す。側線は沈線、RL充填施文。				加曾利EⅢ
4 図3 PL.118	深鉢 口縁～体中 床直床面から2cm	1/1 31.6	①粗：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③明褐色	波状突起4単位。低位隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。沈線を主体とする描線。体部は逆U字状懸垂文と蕨手状沈線を配す。RL充填施文				加曾利EⅢ
4 図4 PL.118	深鉢 口縁～体部 床直床面から3cm	1/5 (42.0)	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③明黄褐色	大型の波状縁深鉢。沈線による口縁部区画と体部懸垂文構成。区画間に円形区画文や渦巻文を配す。RL充填施文				加曾利EⅢ
4 図5 PL.118	深鉢 口縁部 床直床面から4cm	破片	①細：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い褐色	口縁部突起欠損。口縁部に横位円形刺突列を設け、体部は沈線による逆U字状意匠と蕨手状懸垂文を配す。RL縦位充填施文				加曾利EⅢ
4 図6 PL.118	深鉢 口縁部 床直床面から4cm	破片	①粗：白色粒・輝石 ②やや軟質 ③橙色	口縁部凹線を設け。隆線による半渦巻状意匠を配す。側線は沈線、RL充填施文				加曾利EⅢ
4 図7 PL.118	深鉢 口縁部 床直床面から5cm	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③灰黄褐色	隆線による口縁部区画文構成。渦巻文も配する。側線凹線、斜位RLを充填する				加曾利EⅢ
4 図8 PL.118	深鉢 口縁～体上 床直	破片3点	①粗：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③鈍い黄橙色	波状縁。2条隆線による渦巻文構成。側線は凹線、RL充填施文。器面摩滅				加曾利EⅢ
5 図9 PL.118	深鉢 体部下半 床直	破片	①粗：白色粒・石英 ②やや軟質 ③橙色	3条の垂下沈線による懸垂文構成。施文部縄文はRL縦位充填施文				加曾利EⅢ
5 図10 PL.118	深鉢 体部下半 埋土	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い橙色	垂下沈線による懸垂文構成下部				加曾利EⅢ
5 図11 PL.118	深鉢 体部 埋土	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③褐灰色	内湾する体部。縦位・斜位RLが覆う				堀之内1
5 図12 PL.118	深鉢 口縁部 床直	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③明褐色	薄手で口縁部折り返し状。外器面凹凸多い				晩期か
挿図NO.	図版NO.	器種・形態	出土位置	石材	長さ	幅	重量	備 考
5 図13	PL.118	扁平礫磨石	床直	粗安	9.1	7.2	395	上端小口の使用が著しく、稜を形成。
5 図14	PL.118	扁平礫凹石	床直	粗安	15.2	10.7	1008.2	表裏面に集合打痕2。側縁・小口に敲打痕。

306号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等				備 考
7 図1 PL.119	深鉢 口縁～体中 床直	1/3 (51.2)	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色	波状突起と隆線による口縁部区画文構成。波頂下に小渦巻状区画を設ける。体部は横位隆線で画され、2条隆線による大柄の渦巻文と小型の渦巻文を配す。側線沈線及び撫で、RL充填施文				加曾利EⅢ
7 図2 PL.119	深鉢 口縁～体中 埋土床面から9cm	破片2点 (39.0)	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	波状縁4単位か。口唇部に刺突文を連ね、体部は2条隆線による大柄の渦巻文を波頂下に配す。体部二帯構成か。側線は沈線及び撫で、縄文はRL充填施文、口唇部にも横位施文する				加曾利EⅢ
8 図3 PL.119	深鉢 口縁～体中 埋土床面から6cm	1/4 (58.4)	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	大型の波状口縁深鉢。あるいは5単位構成か。波頂部に隆線による大柄の渦巻文を配す。体部下半も渦巻文が連接する。意匠間には不整形区画を充てる。縄文はLR充填施文				加曾利EⅢ
8 図4 PL.120	深鉢 体中～下半 埋土床面から10cm	破片2点 1/3	①粗：白色粒多・石英・輝石・雲母 ②良好 ③明赤褐色	2条隆線による大柄の渦巻文構成。隆線間を繋ぐ。側線は凹線、RL充填施文				加曾利EⅢ
9 図5 PL.120	深鉢 口縁～体中 埋土床面から3.5cm	1/3 (65.6)	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	当初3と同一個体かと思われたが、残存度から別個体と判明。5単位波状口縁深鉢。体部は二帯構成で、大柄の渦巻文を配す。意匠間には不整形区画文や半渦巻文を配す。LR充填施文				加曾利EⅢ
9 図6 PL.120	深鉢 口縁部 埋土	破片	①細：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	波状突起。口縁部隆線以下隆線による渦巻文と区画文構成。側線は凹線、縄文は縦位RL充填施文				加曾利EⅢ
9 図7 PL.120	深鉢 体部上半 埋土	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③灰褐色	体部に横位隆線を設け以下2条隆線による不定形区画文構成。側線は撫で、縦位RLを充填する				加曾利EⅢ
9 図8 PL.120	深鉢 体部中位 埋土床面から9cm	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い橙色	2条隆線による不定形区画文と渦巻文構成。下半は懸垂文か。側線は撫で、RL充填施文				加曾利EⅢ
9 図9 PL.121	深鉢 体部 埋土	破片	①細：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③灰黄褐色	2条隆線による大柄の半渦巻状意匠。側線は撫で、RL充填施文				加曾利EⅢ

縄文時代遺物観察表

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
9 図10 PL.121	深鉢 体部 埋土	破片	①細：白色粒・石英・雲母 ②やや軟質 ③灰黄褐色	2条隆線による懸垂文と弧状意匠。側線は撫で、縦位RL充填施文	加曾利 E III
10 図11 PL.121	深鉢 口縁～体中 埋土床面から11cm	1/5 (58.0)	①粗：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③明黄褐色	大型の波状縁。隆線による大柄の渦巻文を二帯配す。下半は懸垂文構成。側線は沈線及び撫で、LR充填施文。口縁部・体部は5単位か	加曾利 E III
10 図12 PL.121	深鉢 口縁部 埋土	破片	①細：白色粒・輝石 ②やや軟質 ③鈍い褐色	隆線による波頂部渦巻状意匠。口縁部区画文構成で側線は沈線、縄文はLR充填施文	加曾利 E III
10 図13 PL.121	深鉢 把手 埋土	破片	①粗：白色粒多・石英 ②良好 ③鈍い赤褐色	口縁部に付される立体的な橋状把手。上位裏面が分岐する。2条隆線で縁辺を装飾する	加曾利 E II
10 図14 PL.121	深鉢 口縁部 埋土床面から7cm	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	口唇部肥厚。隆帯と幅広凹線による口縁部区画文構成。斜位RLRを充填する	加曾利 E III
10 図15 PL.121	深鉢 口縁部 埋土	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	渦巻状突起を頂部とし、下端より2条隆線が派生し、小区画文を画す。縄文は縦位LR	加曾利 E III
10 図16 PL.121	深鉢 口縁部 床直床面から2cm	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	波状縁。口縁部細隆線に波頂部突起を付す。側線は撫で、横位RLを充填する	加曾利 E III
10 図17 PL.121	深鉢 体部上半 床直	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③橙色	頸部隆線下の橋状把手と隆線による弧状区画か。縦位RLR充填施文。下半は縦位沈線を施す	加曾利 E III
10 図18 PL.121	深鉢 口縁～体上 埋土床面から4cm	3/4 54.8	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄褐色	4単位波状縁。波頂部に隆線による円形区画文と大型の区画文構成。体部は垂下沈線による磨消部懸垂文構成。口縁部横位・体部縦位RLを充填する	加曾利 E III
11 図19 PL.122	深鉢 口縁～体中 埋土床面から10cm	1/4 破片3点 39.0	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い褐色	口縁部に強い横位撫で調整痕、体部上半は縦位条線を施し、下半は垂下沈線に画された懸垂文構成。施文部はRLRを充填する。	加曾利 E III
11 図20 PL.122	深鉢 口縁～体中 埋土	1/3 14.6	①細：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い赤褐色	キャリパー状深鉢。器厚薄手。口縁部沈線を設け、以下、横位・縦位RLが覆う	加曾利 E III
11 図21 PL.122	深鉢 口縁部 床直	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②やや軟質 ③鈍い黄褐色	波状縁。口縁部に2条沈線を設け、沈線による弧状意匠を配す。RL横位・縦位施文	加曾利 E III
11 図22 PL.122	深鉢 口縁～体上 床直	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③橙色	波状縁。口縁部凹線を設け、凹線による区画文構成。体部は磨消部懸垂文構成。RL充填施文	加曾利 E III
11 図23 PL.122	深鉢 口縁部 床直	破片	①細：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い赤褐色	口縁部内湾。2条沈線による逆U字状意匠を配す。横位・縦位RL充填施文	加曾利 E III
11 図24 PL.122	深鉢 口縁部 埋土	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	波状縁。口縁部沈線を設け、沈線で画された弧状意匠を配す。横位・縦位RL充填施文	加曾利 E III
11 図25 PL.122	深鉢 口縁部 埋土	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	口唇部肥厚。口縁部凹線を設け、以下横位RLを施す	加曾利 E III
11 図26 PL.122	深鉢 口縁部 埋土	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③褐色	凹線による口縁部区画文か。蕨手状縦位沈線上端を見る。LR充填施文	加曾利 E III
11 図27 PL.122	深鉢 体部上半 床直床面から2cm	破片	①粗：白色粒・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い褐色	2条沈線による口縁部区画文構成。体部は垂下沈線による磨消部懸垂文構成。斜位RL充填施文	加曾利 E III
11 図28 PL.122	深鉢 体部 埋土	破片	①細：白色粒・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	2条沈線で画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文はRL縦位充填施文	加曾利 E III
11 図29 PL.122	深鉢 体部 埋土	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い褐色	2条沈線で画された磨消部懸垂文構成。RL縦位充填施文。磨消部は縦位研磨	加曾利 E III
11 図30 PL.122	深鉢 体部上半 床直床面から4cm	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い褐色	横位凹線以下体部は垂下隆線による懸垂文構成。縦位RL充填施文	加曾利 E III
11 図31 PL.122	深鉢 体部 埋土床面から8cm	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	2条の垂下隆線による懸垂文構成。側線は沈線、LR縦位充填施文	加曾利 E III
11 図32 PL.122	深鉢 体部下半 埋土	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	2条沈線による磨消部懸垂文構成下端。縦位RL充填施文	加曾利 E III
11 図33 PL.122	深鉢 体部 埋土	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	垂下沈線で画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文は複節RLR縦位充填施文	加曾利 E III
12 図34 PL.122	深鉢 体下～底部 床直	1/1 7.0	①粗：白色粒・石英 ②やや軟質 ③明黄褐色	底部は突出する。垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位RL充填施文	加曾利 E III
12 図35 PL.122	深鉢 体部・底部 床直床面から3cm	2点 1/2 6.4	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明赤褐色	強く開く体部下半。器厚薄手。縦位密接条線が施される	加曾利 E III
12 図36 PL.122	深鉢 体下～底部 埋土床面から2cm	1/1 5.7	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③明赤褐色	比較的強く開く体部下半。内底面は丸底。垂下隆線と沈線下端部を見る	加曾利 E III
12 図37 PL.122	深鉢 体下～底部 床直床面から6cm	1/1 5.3	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母少 ②良好 ③鈍い褐色	小径の底部。垂下沈線による懸垂文下端部を見る。縦位RL施文	加曾利 E III
12 図38 PL.122	深鉢 体下～底部 埋土	1/3 (8.3)	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	端部丸みを帯び、体部下半は外反気味に開く。縦位RL下端部を見る。縦位研磨を施す	中期後葉
12 図39 PL.122	深鉢 底部 埋土	1/1 4.3	①細：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い褐色	小型の深鉢、あるいはミニチュアか。内底面は丸底を呈し、体部下半は外反気味に開く。無文	加曾利 E III
12 図40 PL.122	深鉢 底部 埋土	1/1 5.7	①細：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③鈍い黄褐色	軟質な印象を得る。外反気味に開く体部下半。無文、煤付着	加曾利 E III

第3章 発見された遺構と遺物

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等				備 考
12図41 PL.122	深鉢 底部 埋土床面から4cm	3/4 6.6	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い橙色	外反気味に立ち上がる体部下半。無文				中期後葉
12図42 PL.122	深鉢 体部 床直	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③浅黄橙色	垂下微隆線による懸垂文構成か。縄文はLR縦位充填施文。器面摩滅				加曾利 E IV
12図43 PL.122	深鉢 口縁部 埋土	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色	口唇部内面僅かに突出。沈線で画された施文部意匠文を配す。無節L充填施文				称名寺
12図44 PL.122	深鉢 体部中位 埋土床面から7cm	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③灰褐色	沈線で画された施文部・磨消部縦位弧状意匠。上下意匠が接続する。LR縦位充填施文				称名寺
12図45 PL.122	深鉢 体部中位 埋土床面から7cm	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③橙色	1本描き沈線による対渦巻状意匠。器厚薄手				称名寺
挿図NO.	図版NO.	器種・形態	出土位置	石材	長さ	幅	重量	備 考
12図46	PL.123	分銅型打製石斧	床直	ホルン	10.2	5.9	118.9	側縁を緩く抉る。刃部を破損。
12図47	PL.123	分銅型打製石斧	床直	ホルン	6.7	6.3	97.3	剥離面の稜は新鮮。製作途上に破損?
12図48	PL.123	分銅型打製石斧	床直	ホルン	7.2	6.0	108.3	上半部が欠損。風化で磨耗痕等は不明。
12図49	PL.123	短冊型打製石斧	床直	ホルン	9.0	5.7	164	両側縁の加工が新しく、リダクションが確実。
12図50	PL.123	短冊型打製石斧	埋土	細安	6.8	4.8	55.1	両側縁に顕著な捲縛痕。やや開き気味に刃部が続く。
12図51	PL.123	楕円礫磨石	埋土	粗安	10.5	6.1	407.5	全体に平滑だが、表面の磨耗が著しい。
12図52	PL.123	棒状礫磨石	埋土	ホルン	5.9	4.1	86	小口に近い側縁に打痕。剥落が著しい。
12図53	PL.123	扁平礫石皿	床直	粗安	14	14.2	1167.2	使用面は打痕が著しい。ミニチュアタイプ。
12図54	PL.123	楕円礫多孔石	床直	粗安	17.8	16.4	3329.1	表面側上部に孔1を穿つ。裏面の磨耗顕著。
12図55	PL.123	角礫多孔石	床直	金山	31.6	23.2	8150	表面側に孔を穿つ。裏面は被熱剥落。

1022号土坑跡

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等				備 考
14図1 PL.123	深鉢 口縁部～体上 埋土	破片5点 1/4 (41.0)	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③明赤褐色	大型の深鉢。口縁部は無文で、体部上半に隆線による区画文を設ける。区画内は小渦巻文を配す。側縁は沈線及び撫で。横位RLを充填する。体部下半は縦位密接条線を施す				加曾利 E III

1137号土坑跡

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等				備 考
15図1 PL.124	深鉢 口縁～体中 埋土	1/3 37.4	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	口縁部無文。体部は沈線で画された施文部弧状意匠を配す。LR充填施文				称名寺
15図2 PL.124	深鉢 体部 埋土	破片	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	斜位・縦位沈線で画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位LR充填施文				称名寺
15図3 PL.124	深鉢 体部 埋土	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③黒褐色	沈線で画された施文部弧状意匠。縦位LRIを充填する				称名寺
14図4 PL.124	深鉢 体部 埋土	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い赤褐色	弧状沈線で画された施文部。無節L斜位充填施文。輪積み部に接合痕跡を見る				称名寺
15図5 PL.124	深鉢 体部中位 埋土	破片	①細：白色粒・輝石・雲母 ②良好 ③明黄褐色	沈線で画された施文部弧状意匠。列点状刺突文を充填する				称名寺
15図6 PL.124	鉢 口縁～体上 埋土	破片	①細：白色粒・石英 ②良好 ③浅黄褐色	口縁部隆帯鏝状に突出する。体部は低位隆線2条による渦巻状意匠が配される。器厚薄手				称名寺
15図7 PL.124	深鉢 口縁部 埋土	破片	①細：白色粒 ②良好 ③鈍い橙色	口唇部は尖り、波状小突起を付すか。斜位撫で痕跡が器面を覆う				後期
15図8 PL.124	深鉢 体部 埋土	破片	①細：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③浅黄褐色	厚手の器厚。無節Lを縦位施文する				後期
16図9 PL.124	深鉢 体部 埋土	破片2点	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い橙色	内湾気味に開く体部器形。上半は、斜位撫で調整、下半は縦位削り調整痕跡が残る				後期
16図10 PL.124	深鉢 体下～底部 埋土	1/2 8.0	①細：白色粒・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い褐色	無文の体部下半。外面凹凸顕著で削り調整残る。内面は撫で・研磨調整を施す				後期

51号埋設土器

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等				備 考
17図1 PL.124	深鉢 体下～底部 埋土	1/3 7.6	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③浅黄褐色	底部厚手。体部に細沈線に画された弧状・渦巻状意匠を配す。施文部縄文はLR充填施文				称名寺

縄文時代遺物観察表

53号埋設土器

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
18図1 PL.125	深鉢 口縁～体中	1/2 57.4	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	径50cmを超える大型深鉢。口唇部は肥厚し、隆線による口縁部区画文構成。体部は垂下沈線で画された磨消部懸垂文構成。RL充填施文	加曾利 E III
19図2 PL.125	深鉢 口縁～体上	破片6点	①粗：白色粒・石英・雲母 ②やや軟質 ③鈍い褐色	波状突起。沈線による渦巻文と区画文構成。体部は垂下沈線2条による磨消部懸垂文構成。RL充填施文。器面剥落著しい。	加曾利 E III
19図3 PL.125	深鉢 口縁～体上	破片	①細：白色粒・石英 ②良好 ③褐色	波頂下に隆線による円形区画か。他は沈線楕円状区画文。体部は磨消部懸垂文構成。RL充填施文	加曾利 E III
19図4 PL.125	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	波状突起下に沈線で画した縦位楕円区画を配す。末端蔽手状沈線も施す。RL縦位充填施文	加曾利 E III
19図5 PL.125	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い赤褐色	波状突起が強く突出。隆線による口縁部区画文構成。側線凹線、RLを充填施文する	加曾利 E III
19図6 PL.125	深鉢 口頸部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③橙色	弧状突起を付す。口縁部は2条の沈線による楕円状区画文。体部は蔽手状沈線による懸垂文構成。RL充填施文。器面摩滅。内面器壁剥落著しい	加曾利 E III
19図7 PL.125	深鉢 体部上半	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③橙色	横位隆線より垂下隆線が派生する懸垂文構成。円形刺突文が加わる。側線は撫で、縦位RLを充填	加曾利 E III
19図8 PL.125	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・チャート ②やや軟質 ③褐色	2条の垂下沈線で画された幅広磨消部懸垂文構成。縦位RL充填施文。器面摩滅	加曾利 E III
19図9 PL.125	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②やや軟質 ③橙色	垂下沈線で画された磨消部懸垂文構成。RL縦位充填施文。器面摩滅	加曾利 E III

54号埋設土器

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
20図1 PL.126	深鉢 口縁～体中	1/1 56.0	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄橙色	径50cmを超える大型深鉢。口唇部は肥厚。口縁部は隆線による半渦巻状意匠と区画文構成。下位は沈線による区画に止まる。体部垂下沈線による磨消部懸垂文構成。RL充填施文	加曾利 E III
20図2 PL.126	深鉢 口縁～体部	4/5 21.2	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③赤褐色	無文。口縁部小突起を付す。反対面も小波状突起を付す。外面雑な研磨、体部中位の輪積み痕顕著	中期後葉
20図3 PL.126	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石・褐色粒 ②良好 ③鈍い橙色	波状縁。沈線で画された磨消部弧状意匠。横位・縦位RLを充填する	加曾利 E III
21図4 PL.126	深鉢 口縁～体下	1/2 (35.5)	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い赤褐色	波状突起を付し、隆線による口縁部区画文構成。波底部に渦巻文を配す。体部は垂下沈線で画された磨消部懸垂文構成。RL充填施文	加曾利 E III

55号埋設土器

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
22図1 PL.127	深鉢 口縁～底部	4/5 口：16.6 底：7.4 高：29.9	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	小型の口縁部突起による正面。緩やかな波状縁でキャリパー状を呈す。突起より口縁部沈線が派生し、体部上半は沈線で画された施文部・磨消部弧状意匠を配す。交互配列ではない。体部下半は逆U字状懸垂文を配す。縄文はRL充填施文	加曾利 E III新
23図2 PL.127	深鉢 口縁～底部	1/1 口：18.5 底：6.0 高：26.0	①細：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③明黄褐色	4単位波状縁台付き深鉢。キャリパー状を呈す。沈線と縄文のみの施文。口縁部沈線を設け、体部は二帯に分かれる。上位は波状文、下位は逆U字状懸垂文を配す。縄文はRL横位・縦位充填施文	加曾利 E III新
23図3 PL.127	深鉢 口縁部突起	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	上端環状突起。口縁部沈線を設け、斜位RLを充填する	加曾利 E III
23図4 PL.127	深鉢 口縁～体上	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い橙色	小型の環状突起を突出。口唇部に刻みを施し、体部は沈線による渦巻状意匠を配す。RL充填施文	加曾利 E III
23図5 PL.127	深鉢 口縁～体中	1/3 34.6	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	大型の波状口縁。口縁部凹線を設け、体部上半は沈線による波状文と縦位楕円区画文を配す。下半は分岐懸垂文か。RL充填施文	加曾利 E III
23図6 PL.127	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③灰黄褐色	口縁部沈線を設け、波頂下に沈線による渦巻文・重環状意匠を配す。以下横位・縦位RLが覆う	加曾利 E III
23図7 PL.127	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③橙色	内湾する口縁部に横位沈線を設け、以下横位・斜位RLを施す。口唇部に炭化物付着	加曾利 E III
23図8 PL.127	深鉢 体部中位	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③褐色	垂下沈線で画された幅狭磨消部懸垂文構成。U字状意匠を配す。縦位RL充填施文	加曾利 E III

第3章 発見された遺構と遺物

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考			
23図9 PL.127	深鉢 体部中位	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③橙色	器厚薄手。沈線で画された施文部対向U字状意匠。斜位・縦位RLを充填する	加曾利EⅢ			
23図10 PL.127	深鉢 体下～底部	1/1 5.8	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	底部は突出し、体部は緩やかに開く。内底面は丸底。垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。縦位RL充填施文	加曾利EⅢ			
23図11 PL.127	深鉢 底部	1/1 7.0	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③明黄褐色	底部突出し、内湾気味に開く体部下半。無節L斜位施文か。器面摩滅	加曾利EⅢ			
24図12 PL.127	深鉢 口縁～体中	1/1 25.6	①粗：白色粒・石英・褐色粒 ②やや軟質 ③明赤褐色	口縁部内湾し体部で括れるキャリパー状を呈す。密接条線を横位・斜位に施す。器面摩滅	加曾利EⅢ			
24図13 PL.128	深鉢 口縁～体上	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③鈍い橙色	両耳壺。口縁部無文。体部上半は欠損するが橋状把手を設け隆線による区画文を配す。側線は沈線、RL充填施文。体部下半は縦位密接条線が覆う	加曾利EⅢ			
24図14 PL.128	深鉢 把手	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い橙色	橋状把手。中位に沈線文を施す。体部地文の縦位密接条線は把手上にまで施される	加曾利EⅢ			
24図15 PL.128	深鉢 体部中位	破片	①粗：白色粒・石英・褐色粒 ②やや軟質 ③明褐色	器厚薄手。内湾気味の体部上半。縦位波状密接条線が器面を覆う	加曾利EⅢ			
24図16 PL.128	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	波状突起。口縁部細隆線を設け、1条隆線による弧状意匠を配す。渦巻文か。側線撫で、RL充填施文	加曾利EⅢ			
24図17 PL.128	深鉢 体部上半	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	隆線による弧状・不整形区画文か。側線は沈線及び撫で、横位・斜位RLを充填する	加曾利EⅢ			
24図18 PL.128	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③赤褐色	隆線による弧状意匠。側線は撫で、縄文はRL斜位充填施文	加曾利EⅢ			
24図19 PL.128	深鉢 体部中位	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	細隆線で画された幅広磨消部による弧状・渦巻状意匠を配す。上下2帯構成。区画内は側線は沈線、縦位RL充填施文	加曾利EⅢ			
24図20 PL.128	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③橙色	垂下隆線による懸垂文構成。側線は撫で、縦位・斜位RLを充填する	加曾利EⅢ			
24図21 PL.128	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③橙色	あるいは同一個体か。垂下隆線による懸垂文構成。側線は強い撫で、縦位・斜位RLを充填する	加曾利EⅢ			
25図22 PL.128	深鉢 口縁～体部	破片7点 54.0	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明黄褐色・橙色	波状縁。2条隆線による大柄の渦巻文構成。体部にも配される。側線は撫で、RL充填施文。器面摩滅	加曾利EⅢ			
挿図NO.	図版NO.	器種・形態	出土位置	石材	長さ	幅	重量	備 考
25図23	PL.128	加工痕ある剥片		チャ	1.9	1.5	1.1	表裏面を浅く剥離。加工時に節理で破損。

56号埋設土器

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
26図1 PL.128	深鉢 口縁～体中	1/1 26.2	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	沈線による横位波状文と逆U字状懸垂文。下半には腕手状沈線が懸垂する。RL斜位充填施文	加曾利EⅢ

57号埋設土器

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
27図1 PL.129	深鉢 口縁～底部	4/5 口：29.0 底：(9.0) 高：28.8	①粗：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③赤褐色	口縁部は無文で外反し、頸部隆線で体部と画し体部は縦位密接条線が覆う。工具単位は5・6条か。頸部隆線に隆線による環状意匠を2単位配す。端部を欠損するが把手にはならない	加曾利EⅢ

61号埋設土器

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
28図1 PL.129	器台 上：12.4/下： 18.7/高：10.5。	1/1	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③橙色	台部中位に径3.5cm程の円孔を5単位設ける。上面に平滑面と僅かな炭化物の付着を見る。脚端部はやや摩滅する	中期後葉

62号埋設土器出土石器

挿図NO.	図版NO.	器種・形態	出土位置	石材	長さ	幅	重量	備 考
29図1	PL.129	棒状礫敲石		流紋	9.1	5.1	199.6	小口部に打痕。被熱破損？
29図2	PL.129	分銅型打製石斧		ホルン	10.3	6.8	136	上端側右側縁が変形、リダクションを受ける。



縄文時代遺物観察表

土器集中Aブロック

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考			
30・31図 PL.129	深鉢 口縁～体上 340・350-820	破片 5点	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	平縁で内湾する。口縁部隆線を設け、以下2条隆線による大柄の渦巻文構成。側線撫で、RL充填施文	加曽利 E III			
31図2 PL.129	深鉢 口縁～体上 340-820	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	波頂下に2条隆線による大柄の渦巻文を配す。側線は沈線及び撫で。波底部にも口縁部隆線に小渦巻文を繋ぐ。RL充填施文	加曽利 E III			
31図3 PL.130	深鉢 口縁～体下 340-820・350-820	2/3 30.7	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	両耳壺。把手剥落痕跡から2単位を数える。体部上半は隆線による区画文構成。側線沈線、RLを充填する。下半は縦位密接条線を施す。体部器面摩滅	加曽利 E III			
31図4 PL.129	深鉢 把手 350-820	破片	①細：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③浅黄褐色	大型の橋状把手。中位に沈線による箒手状意匠を配す。RL充填施文。3と同一個体と思われる	加曽利 E III			
31図5 PL.129	深鉢 体部下半 350-820	破片	①細：白色粒・輝石 ②やや軟質 ③鈍い褐色	縦位波状密接条線下端部。体部下半及び内面は丁寧な研磨を施す	加曽利 E III			
31図6 PL.129	深鉢 体部中位 340・350-820	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③灰褐色	2条隆線による大柄の渦巻文構成。側線は撫で、RL充填施文	加曽利 E III			
32図7 PL.130	深鉢 口縁～底部 340・350-820	1/4 口：31.3 底：5.8 高：38.3	①細：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄褐色	波状縁を呈す。波頂部欠損。沈線による口縁部区画文構成。口縁部沈線を設けない。体部は垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。口縁部は横位、体部は縦位RL充填施文	加曽利 E III			
32図8 PL.130	深鉢 口縁～体上 350-820	1/4 (45.0)	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母少 ②良好 ③褐色	隆線による波頂下凹形区画文。体部は沈線で画された磨消部懸垂文構成。RL充填施文	加曽利 E III			
32図9 PL.130	深鉢 口縁～体上 340・350-820	3/4 35.5	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	波状突起を付し、隆線による口縁部区画文4単位。頸部無文帯を持ち、体部は2条隆線による大柄の渦巻文構成。3単位を数え、単位余白部に小渦巻文を配す。RL充填施文	加曽利 E III			
32・33図10 PL.130	深鉢 口縁～体上 340・350-820	破片 3点 34.0	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明赤褐色	波状縁。隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。体部は2条隆線による渦巻文と不定区画文構成。側線沈線、RL充填施文	加曽利 E III			
33図11 PL.131	深鉢 口縁～体上 340・350-820	1/5 (27.6)	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③明黄褐色	波状突起を付し、波頂下に2条隆線による渦巻文を配す。体部二帯構成か。意匠間には不整形区画文。側線沈線及び撫で、LR充填施文	加曽利 E III			
33図12 PL.131	深鉢 口縁～体上 340・350-820	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③明赤褐色	波状縁。口縁部凹線を設け。凹線による口縁部区画文構成。RL横位・斜位充填施文	加曽利 E III			
33図13 PL.131	深鉢 体部中位 340・350-820	破片	①粗：白色粒・輝石 ②やや軟質 ③鈍い黄褐色	体部外反。垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位RL充填施文	加曽利 E III			
33図14 PL.131	深鉢 底部 350-820	1/2 6.8	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③浅黄褐色	垂下細沈線による懸垂文構成下端部	加曽利 E III			
挿図NO.	図版NO.	器種・形態	出土位置	石材	長さ	幅	重量	備 考
33図15	PL.131	剥片	350-820	黒頁	6.5	2.1	18.1	平坦打面から作出された石刃様剥片。
33図16	PL.131	加工痕ある剥片	350-820	ホルン	6.0	4.9	44.1	端部に粗い加工を施す。裏面側に磨耗痕があり、石斧破片を用い再加工したもの。

土器集中Bブロック

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考			
34図1	深鉢 口縁部 360-780	破片	①細：白色粒・石英 ②良好 ③灰黄褐色	口縁部隆線以下隆線による逆U字状意匠を配す。側線沈線、RL充填施文	加曽利 E III			
34図2	深鉢 体部 360-780	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	器厚厚手。3条の垂下沈線で画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位RL充填施文	加曽利 E III			
34図3	深鉢 体部 360-780	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	2条の隆線による大柄の渦巻状意匠。側線は撫で、LR縦位・斜位充填施文	加曽利 E III			
34図4	深鉢 体部 360-780	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	垂下沈線2条を見る。縄文はLR縦位充填施文	加曽利 E III			
34図5 PL.131	鉢 頸部 360-780	破片	①細：白色粒・石英・片岩粒 ②良好 ③鈍い黄褐色	口縁部は外反し、体部は強く内湾する。横位隆線2条を設け、小型の橋状把手を付す	加曽利 E IVか			
34図6	深鉢 口縁部 360-780	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③灰黄褐色	波頂部の橋状把手下端より口縁部隆線が派生し、2条の沈線で画された弧状意匠を配す。LR充填施文	称名寺			
34図7	深鉢 底部 360-780	1/1 7.9	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	大型の深鉢か。体部下半は強く開く。無文	後期か			
34図8	深鉢 底部 360-780	1/2 6.8	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	突出底部。上げ底を呈す。体部下半は強く開く。無文	加曽利 E III			
34図9 PL.131	器台 脚部 360-780	破片	①細：白色粒 ②やや軟質 ③橙色	脚部中位に径2cm程の円孔を設ける。無文。器面摩滅	中期後葉			
挿図NO.	図版NO.	器種・形態	出土位置	石材	長さ	幅	重量	備 考
34図10	PL.131	凸基有石鉢	360-780	珪頁	3.9	1.9	1.7	加工は丁寧で、完成状態にある。
34図11	PL.131	有縁石皿	360-780	粗安	4.0	22.4	6800	機能部再生打痕が残る。破損理由は不明。

### 第3章 発見された遺構と遺物

#### 土器集中Cブロック

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文様の特徴等	備考			
35図1 PL.131	深鉢 口縁～底部	口: 21.7 底: 7.6 高: 28.3	①粗: 白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	両耳壺。頸部隆線に円形刺突文を施し、橋状把手と環状意匠を付す。体部は沈線による縦位楕円状区画を配し、蕨手状沈線を懸垂する。RL充填施文	加曽利EⅢ			
35図2 PL.131	深鉢 口縁～体下	1/1 29.4	①細: 白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	口縁部内湾する、緩やかなキャリパー状深鉢。沈線による逆U字状懸垂文。上半に横位波状文を設け、上下に蕨手状沈線を配す。縄文はRL充填施文	加曽利EⅢ			
36図3 PL.131	深鉢 体部中位	破片	①粗: 白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明黄褐色	大型の深鉢、厚手の器厚。垂下沈線で画された磨消部懸垂文構成。RLとLR2種原体を使用する	加曽利EⅢ			
36図4 PL.132	深鉢 口縁～体中	1/1 56.0	①粗: 白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い赤褐色	大型の深鉢。小型の波状突起4単位を付し、口縁部は隆線による半渦巻文と区画文構成。体部は2条の垂下沈線と蕨手状沈線による磨消部懸垂文構成。縄文は口縁部横位・体部縦位RL充填施文	加曽利EⅢ			
36図5 PL.132	深鉢 口縁～体上	1/1 28.2	①粗: 白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い橙色	波状突起4単位。突起内面に渦巻文を施す。波頂部下に隆線による半渦巻文を配す区画文構成。側線は沈線。体部は垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。RL充填施文	加曽利EⅢ			
挿図NO. 36図6	図版NO. PL.132	器種・形態 楕円球礫多孔石	出土位置 370-770	石材 粗安	長さ 25.2	幅 18.4	重量 8200	備考 裏面は磨耗。

#### 遺構外

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文様の特徴等	備考
37図1 PL.132	深鉢 体部	破片	①粗: 白色粒・石英・繊維 ②良好 ③鈍い橙色	平行沈線による横位連続刺突文を施す	黒浜
37図2 PL.132	深鉢 体部	破片	①粗: 石英・繊維 ②良好 ③鈍い黄橙色	半截竹管状工具内皮面による横位連続刺突文を多段に施す	黒浜
37図3 PL.132	深鉢 体部	破片	①細: 繊維 ②良好 ③褐色	幅狭の横位平行沈線を多段に配し、円形刺突文を縦位に加える	黒浜
37図4 PL.132	深鉢 体部	小破片	①細: 白色粒・繊維 ②良好 ③鈍い橙色	縦位円形刺突文に半截竹管による横位弧状平行沈線を施す	黒浜
37図5 PL.132	深鉢 体部	破片	①細: 白色粒・繊維 ②良好 ③明赤褐色	横位RLが器面を覆う	黒浜
37図6 PL.132	深鉢 体部	破片	①細: 白色粒・繊維 ②良好 ③鈍い赤褐色	横位LRとRL合燃(R)	黒浜
36図7 PL.132	深鉢 体部	破片2点	①細: 白色粒・繊維 ②良好 ③鈍い赤褐色	緩やかな内湾を呈す。横位RLが器面を覆う	黒浜
37図8 PL.132	深鉢 体部	破片	①細: 白色粒・繊維 ②良好 ③明褐色	内湾する体部器形。横位LR下端部と結節部を見る	黒浜
37図9 PL.132	深鉢 口縁部	破片	①粗: 白色粒・石英 ②良好 ③鈍い橙色	口縁部下に横位平行沈線を重ね、波状文が加わる	諸磯a
37図10 PL.132	深鉢 体部	破片	①粗: 白色粒・輝石多 ②良好 ③鈍い赤褐色	横位波状文を多段に配し、円形刺突文を縦位に加える	諸磯a
37図11 PL.132	深鉢 体部	破片	①粗: 白色粒・輝石多 ②良好 ③鈍い赤褐色	横位平行沈線と波状文を多段に配し、円形刺突文を縦位に施す	諸磯a
37図12 PL.132	深鉢 口縁部	破片	①粗: 白色粒・輝石多 ②良好 ③橙色	横位平行沈線群を多段に設け、横位波状沈線と円形刺突文を充てる	諸磯a
37図13 PL.132	深鉢 体部	破片	①粗: 白色粒・輝石 ②やや軟質 ③鈍い赤褐色	幅狭の斜位平行沈線と円形刺突文による肋骨文	諸磯a
37図14 PL.132	深鉢 口縁部	破片	①粗: 白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い赤褐色	波状縁。小型の連続爪形文による木葉文。円形刺突文が加わる。地文は横位RL	諸磯a
37図15 PL.132	深鉢 体部上半	破片	①粗: 白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い赤褐色	幅狭の連続爪形文で画された木葉文。縄文は横位RL	諸磯a
37図16 PL.132	深鉢 頸部	破片	①粗: 白色粒・石英 ②良好 ③鈍い赤褐色	頸部屈曲。幅狭の連続爪形文を横位に施す。縄文は横位RL	諸磯a
37図17 PL.132	深鉢 体部	破片	①細: 白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い橙色	幅狭の連続爪形文で画された木葉文。地文は細縄文横位RL	諸磯a
37図18 PL.132	深鉢 体部	破片	①粗: 白色粒・石英・輝石 ②良好 ③赤褐色	小型の連続爪形文を弧状に配す木葉文。縄文は横位RL	諸磯a
37図19 PL.132	深鉢 体部	破片	①粗: 白色粒・輝石 ②やや軟質 ③橙色	幅狭の連続爪形文で画された木葉文。区画中位に横位沈線を施す。地文は横位RL	諸磯a
37図20 PL.132	深鉢 体部	破片	①粗: 白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い橙色	幅狭の連続爪形文による弧状意匠。あるいは渦巻文か。地文は横位RL	諸磯a

縄文時代遺物観察表

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
37図21 PL.132	深鉢 口縁～体部	破片5点	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	口縁部緩やかに外反する。横位RLが器面を覆う	諸磯 a
37図22	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③橙色	横位RLが器面を覆う	諸磯 b
37図23	深鉢 体部上半	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い赤褐色	外反する体部上半。横位RLが覆う	諸磯 b
37図24	深鉢 体部上半	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	屈曲する体部。横位RLが覆う	諸磯 b
37図25 PL.133	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③鈍い褐色	横位RLが覆う	諸磯 b
37図26 PL.133	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	横位RLが覆う	諸磯 b
37図27 PL.133	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③明赤褐色	地文に横位RLを施し、横位平行沈線を加える	諸磯 b
37図28 PL.133	深鉢 口縁部	破片2点	①粗：石英・雲母多 ②良好 ③橙色	波状口縁波頂部。双波状か。隆線による区画内は単列の角押文を施す。縦位角押文の充填	阿玉台 I b
37図29 PL.133	深鉢 口縁部	破片	①粗：石英大・雲母多 ②良好 ③鈍い褐色	隆線による口縁部区画文。側線は単列連続刺突文。斜位刺突文を充填する	阿玉台 I b
37図30 PL.133	深鉢 口縁部	破片	①粗：石英大・雲母多 ②良好 ③鈍い褐色	口唇部肥厚。側線及び口縁部充填文に単独施文の結節沈線を施す。弧状意匠を描く	阿玉台 I b
37図31	深鉢 頸部	破片	①粗：石英・雲母多 ②良好 ③鈍い褐色	頸部横位隆線より弧状隆線が派生する。側線は三角連続刺突文	阿玉台 III
37図32 PL.133	深鉢 頸部	破片	①粗：石英・輝石 ②良好 ③鈍い赤褐色	頸部に横位沈線を設ける。地文は燃糸 L 縦位施文	加曾利 E I
37図33 PL.133	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	口縁部隆線を付し、2条の斜位隆線が派生する。区画文構成か。側線沈線、横位RLを施す	加曾利 E II
37図34	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	口唇部に凹線を設け、隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。側線沈線、RL充填施文	加曾利 E II
37図35	深鉢 体部上半	破片	①粗：白色粒・石英多・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	キャリパー状深鉢体部か。隆線による弧状意匠を配す。側線は沈線。縄文は縦位・斜位RL	加曾利 E II
37図36 PL.133	深鉢 口頸部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い褐色	内湾する口縁部に2条隆線による渦巻文を配す。頸部は隆線による分帯。側線沈線。地文はLR	加曾利 E II
38図37	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③暗オリーブ褐色	細隆線による渦巻状意匠を配す。側線は強い沈線施文。縄文はRL充填施文	加曾利 E II
38図38	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い赤褐色	2条の波状沈線による懸垂文構成。横位鋸歯状沈線を施す。地文は横位RL	加曾利 E II
38図39	深鉢 体部中位	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い赤褐色	器厚やや厚手。縦位RLが器面を覆う	加曾利 E II か
38図40 PL.133	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③暗灰黄色	縦位内皮沈線を地文とし、蛇行隆線を懸垂する。隆線には押圧を加える	曾利 3
38図41	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明赤褐色	幅広い低位隆線による懸垂文構成。縦位波状沈線も加わる。LR縦位充填施文	加曾利 E III 古
38図42	深鉢 頸部	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③橙色	頸部に横位沈線と円形刺突列を設ける。体部は垂下沈線による懸垂文構成か。RL縦位充填施文	加曾利 E III 古
38図43	深鉢 体部上半	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③暗褐色	2条隆線による渦巻状意匠を配し、下端より隆線が懸垂する。縦位LR充填施文	加曾利 E III 古
38図44 PL.133	深鉢 体部中位	4/5	①粗：白色粒・石英 ②やや軟質 ③明黄褐色	体部上半は1条の隆線による弧状・渦巻状意匠を配す。意匠間は連続し下半意匠と接する。下半は隆線懸垂文。縦位RL充填施文	加曾利 E III
38図45 PL.133	深鉢 体部中位	1/5	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い褐色	体部上半の弧状隆線下端より2条隆線が懸垂する。隆線中位は鹹手状沈線を重ねる。側線は沈線、RL充填施文	加曾利 E III
38図46 PL.133	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③淡黄色	渦巻状突起を突出する。口縁部は隆線による区画文構成。側線は沈線、RL充填施文	加曾利 E III
38図47	深鉢 突起	破片	①粗：白色粒・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い赤褐色	突出する環状突起。頂部より分岐沈線が派生する。RL縦位充填施文	加曾利 E III
38図48	深鉢 突起	破片	①粗：白色粒・輝石・雲母 ②良好 ③橙色	突出する口縁部環状突起。側縁に深い沈線を施す	加曾利 E III
38図49 PL.133	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・雲母少 ②良好 ③鈍い赤褐色	小型の環状突起を突出する。口縁部沈線を設けRLを施す	加曾利 E III
38図50	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い赤褐色	波状突起を付す。口縁部は隆線による楕円状区画文構成。体部2条沈線による磨消部懸垂文構成	加曾利 E III
38図51	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	幅広い沈線と頸部低位隆線による口縁部区画文構成。横位RL充填施文	加曾利 E III
38図52 PL.133	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	厚手の器厚。口縁部隆線を設け。隆線による渦巻文を配す。口縁部区画文構成。横位RL充填施文	加曾利 E III

第3章 発見された遺構と遺物

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
38図53 PL.133	深鉢 口縁部 370-780	破片	①粗：白色粒多・石英・雲母 ②良好 ③灰黄褐色	横位隆線を設け、以下縦位RLを施す。側線凹線	加曽利 E III
39図54 PL.133	深鉢 口縁部 380-770	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い黄橙色	口唇部肥厚。隆線による口縁部区画文構成。側線凹線、RL充填施文	加曽利 E III
39図55	深鉢 口縁部 365-840	破片	①粗：白色粒・石英・雲母少 ②良好 ③浅黄褐色	隆線による口縁部楕円状区画文構成。区画内縄文は器面摩滅のため判然としない	加曽利 E III
39図56	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い橙色	隆線による口縁部半渦巻文。側線は凹線、横位RLを充填する	加曽利 E III
39図57	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・雲母 ②良好 ③鈍い黄橙色	波状縁。隆線による口縁部区画文構成。側線凹線、RL縦位充填施文	加曽利 E III
39図58	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒 ②良好 ③鈍い黄褐色	口唇部肥厚。隆線による口縁部区画文構成。側線は凹線	加曽利 E III
39図59	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③褐灰色	口縁部凹線を設け、隆線による口縁部区画文構成。側線は凹線、RL斜位充填施文	加曽利 E III
39図60	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	波状突起。隆線による口縁部区画文構成。側線は凹線、RL横位充填施文	加曽利 E III
39図61	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③橙色	口縁部横位隆線と斜位隆線、区画文構成か。側線は沈線、RL縦位充填施文	加曽利 E III
39図62	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	厚手。口縁部小波状突起より派生する隆線による区画文構成。側線凹線、RL充填施文	加曽利 E III
39図63 PL.133	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い橙色	緩やかな波状縁。口縁部隆線を設け、隆線による区画文を配す。側線沈線、横位RLを施す	加曽利 E III
39図64	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い橙色	口唇部肥厚し、口縁部に横位隆線を設ける。側線は凹線。区画文構成か、LR充填施文	加曽利 E III
39図65	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	口唇部肥厚。口縁部細隆線以下横位・縦位RLが覆う	加曽利 E III
39図66	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	口唇部肥厚。口縁部凹線を設け、横位RLを充填施文する	加曽利 E III
39図67 PL.133	深鉢 口縁部 350-820	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	口縁部幅広の凹線を設ける。以下横位・斜位LRを施す。内面研磨	加曽利 E III
39図68 PL.133	深鉢 口縁部 340-820	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	口縁部に強い凹線を設け、以下隆線による区画文構成。側線は凹線、RL充填施文	加曽利 E III
39図69 PL.133	深鉢 口縁部 310-770	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い橙色	口縁部隆線を設け、隆線による方形状区画文構成か。側線は凹線、横位・斜位RL充填施文	加曽利 E III
39図70	深鉢 口縁部 310-780	破片	①細：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い褐色	波状縁。口縁部幅広の横位沈線を設ける。横位RLを施す	加曽利 E III
39図71	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	波状縁。口縁部横位隆線を設ける。LR縦位充填施文	加曽利 E III
39図72	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③明赤褐色	口縁部凹線を設け、隆線による口縁部区画文か。側線は沈線で深い。縄文は縦位RL	加曽利 E III
39図73	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明黄褐色	口縁部隆線を設ける。側線は撫で、横位RLを施す	加曽利 E III
39図74	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	口縁部凹線に円形刺突文を重ねる。以下隆線による弧状区画か。側線は凹線、RL充填施文	加曽利 E III
39図75	深鉢 口縁部 360-800	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄褐色	口縁部横位隆線と凹線を設け、分岐隆線が派生する。縦位RL充填施文	加曽利 E III
39図76	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	波頂部下に隆線による環状意匠を配す。口縁部は区画文構成か。側線は沈線、LR充填施文	加曽利 E III
39図77 PL.133	深鉢 口縁部 340-770	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	大型深鉢。波頂部下に隆線による区画文を配す。側線は凹線、横位RL充填施文。体部は縦位施文	加曽利 E III
39図78 PL.133	深鉢 口縁部 350-800	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い橙色	波状縁。隆線による区画文構成。側線凹線、RLを充填する。体部は沈線による逆U字状意匠を配す	加曽利 E III
39図79	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②やや軟質 ③鈍い橙色	波頂部。隆線による口縁部区画文構成。側線沈線、縦位RLを充填する	加曽利 E III
39図80 PL.133	深鉢 口縁部 330-780	破片	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③橙色	波状縁。口縁部隆線を設け、隆線による区画文を配す。側線は撫で、横位RLを充填する	加曽利 E III
39図81 PL.133	深鉢 口縁部 340-820	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③灰黄褐色	波状突起を付し。隆線による口縁部区画文と渦巻文構成。側線は凹線。RL充填施文	加曽利 E III
39図82	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い赤褐色	口縁部突起が強く突出し、内面に沈線による渦巻文を施す。口縁部は隆線区画文構成。RLを充填	加曽利 E III
39図83 PL.133	深鉢 口縁部 370-770	破片	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③橙色	波状突起下に隆線による渦巻文を配す。側線は凹線、横位RLを充填する	加曽利 E III
39図84 PL.133	深鉢 口縁部 360-830	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い赤褐色	波頂下に隆線による渦巻文を配す。側線は凹線、LR充填施文。突起内面も半渦巻状意匠を設ける	加曽利 E III
39図85	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③浅黄褐色	波頂部下に隆線による大柄の渦巻状意匠を配す。LR充填施文。器面剥落著しい	加曽利 E III

縄文時代遺物観察表

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
39図86 PL.133	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	緩やかな波頂部。口縁部隆線を設け以下隆線による弧状意匠を配す。区画文か。RL充填施文	加曾利 E III
39図87	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③橙色	波状突起欠損。隆線による口縁部区画文構成。側線は凹線、RL充填施文	加曾利 E III
40図88	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い赤褐色	波状縁。隆線による口縁部区画文構成。側線は沈線、縄文はRL充填施文	加曾利 E III
40図89	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③黄灰色	波状突起。隆線による口縁部区画文構成。0段多条RL充填施文	加曾利 E III
40図90	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・褐色粒 ②良好 ③橙色	波頂部。横位隆線以下隆線による区画文構成、側線沈線、RL斜位施文	加曾利 E III
40図91	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	波状突起下に隆線による渦巻文を配す、口縁部区画文構成か。側線沈線、無節R横位施文	加曾利 E III
40図92	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③橙色	波頂部か。隆線による口縁部区画文。側線は凹線及び沈線	加曾利 E III
40図93 PL.134	深鉢 口頸部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母少 ②良好 ③鈍い橙色	口唇部欠損。隆線による口縁部区画文構成。小波状突起を付す。側線凹線、RL充填施文	加曾利 E III
40図94	深鉢 口頸部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い橙色	隆線による口縁部区画文。側線は凹線、横位RLを充填する	加曾利 E III
40図95 PL.134	深鉢 口頸部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い黄橙色	隆線による口縁部区画文構成。側線は沈線、横位・斜位RL充填施文	加曾利 E III
40図96	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い黄橙色	弧状隆線による体部区画文か。側線は撫で、縄文はRL充填施文	加曾利 E III
40図97	深鉢 口頸部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③灰黄褐色	隆線による口縁部区画文。側線は沈線、RLを充填する。体部は沈線による懸垂文構成か	加曾利 E III
40図98	深鉢 底部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明赤褐色	突起剥落。突起より隆線が横位・弧状に派生する。側線は沈線。縄文はRL充填施文で隆線上に及ぶ	加曾利 E III
40図99	深鉢 口頸部	破片	①粗：白色粒多・石英 ②良好 ③鈍い黄橙色	隆線による口縁部区画文構成。側線は凹線、横位・斜位RLを充填する	加曾利 E III
40図100	深鉢 口頸部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	器厚薄手。隆線による口縁部区画文か。側線は凹線、横位・斜位RLを充填する	加曾利 E III
40図101 PL.134	深鉢 体部上半	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②やや軟質 ③鈍い黄褐色	口縁部区画隆線以下垂下隆線による体部懸垂文構成。側線は凹線、斜位RLを充填する	加曾利 E III
40図102 PL.134	深鉢 口頸部	破片	①粗：白色粒・石英 ②やや軟質 ③橙色	2条隆線による口縁部区画文構成。体部は垂下沈線で画した磨消部懸垂文構成。縦位RL充填施文	加曾利 E III
40図103	深鉢 口頸部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い橙色	内湾する口縁部。隆線による口縁部区画文か。側線は凹線、横位・斜位RLを充填する	加曾利 E III
40図104	深鉢 口頸部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③浅黄褐色	口縁部隆線区画文以下垂下隆線2条の懸垂文構成。蔽手状沈線も加わる。複々節LRLR充填施文	加曾利 E III
40図105	深鉢 体部中位	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	垂下沈線2条による懸垂文構成。縦位波状沈線も加わる。縦位LRLR充填施文	加曾利 E III
40図106	深鉢 口頸部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	隆線による口縁部区画文構成。側線は撫で、RL充填施文。体部は縦位密接条線を施す	加曾利 E III
40図107	深鉢 口頸部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	口縁部隆線による区画文構成。区画側線は凹線、横位RLを充填する。体部は縦位密接条線を施す	加曾利 E III
40図108	深鉢 口頸部	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③明赤褐色	剥落するが隆線による口縁部区画文。RL充填施文。体部は磨消部懸垂文で縦位密接条線を充填	加曾利 E III
40図109	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③灰黄褐色	弧状隆線を配す。側線は強い撫で、縄文は縦位RL充填施文	加曾利 E III
40図110	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③灰黄褐色	弧状隆線を付す。側線は撫で、RL斜位充填施文	加曾利 E III
40図111	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い赤褐色	縦位弧状隆線を付す。側線は撫で、縄文は縦位LR施文	加曾利 E III
40図112	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③橙色	器面大きく剥落。細隆線による弧状意匠、側線は撫で、横位RLを充填する	加曾利 E III
40図113	深鉢 体部上半	破片	①細：白色粒・石英 ②良好 ③灰黄褐色	隆線による弧状懸垂文か。側線は撫で、縦位RL充填施文	加曾利 E III
40図114	深鉢 体部中位	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	隆線による大柄な渦巻状意匠か。側線は凹線、縄文はRL充填施文	加曾利 E III
40図115	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明赤褐色	弧状隆線を付す。あるいは分岐懸垂文か。側線は撫で、縦位RLを充填する	加曾利 E III
40図116	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明赤褐色	垂下隆線による懸垂文構成。側線は凹線、縄文は縦位RL充填施文	加曾利 E III
40図117	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い橙色	垂下隆線1条による懸垂文構成。側線撫で、縦位LR充填施文	加曾利 E III
40図118	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	隆線による体部不定形区画文構成。側線は凹線、RL充填施文	加曾利 E III

第3章 発見された遺構と遺物

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
40図119	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③灰黄褐色	1・2条隆線による体部渦巻文及び不定形区画文構成。側線は撫で、RL充填施文	加曾利 E III
40図120	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い橙色	隆線による体部不定形区画文構成か。側線は撫で、RL充填施文	加曾利 E III
40図121	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	垂下隆線による懸垂文構成。側線は撫で、縄文は縦位RL充填施文	加曾利 E III
40図122	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	垂下隆線による懸垂文構成。側線は凹線、縄文は縦位RL充填施文	加曾利 E III
40図123	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③明赤褐色	垂下隆線による懸垂文構成。側線撫で、縦位RL充填施文	加曾利 E III
40図124	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・輝石・雲母 ②良好 ③明赤褐色	垂下隆線による懸垂文構成。側線は撫で、RL充填施文	加曾利 E III
40図125	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③明赤褐色	垂下隆線による磨消部・施文部懸垂文構成。側線撫で、RL縦位充填施文	加曾利 E III
40図126	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	器厚薄手。弧状隆線を付し、縦位RLを充填する	加曾利 E III
40図127	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③橙色	垂下隆線による懸垂文構成か。側線は沈線、縦位RL充填施文	加曾利 E III
41図128	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③灰黄褐色	弧状隆線の側線撫でを見る。縄文は縦位LR充填施文	加曾利 E III
41図129	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒多・石英 ②良好 ③橙色	垂下隆線による懸垂文構成。側線は沈線。縦位RLを充填する	加曾利 E III
41図130	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	2条の垂下隆線による懸垂文構成。側線は撫で、縦位RL充填施文	加曾利 E III
41図131	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	2条の沈線が垂下する懸垂文構成。側線は撫で、縦位RL充填施文	加曾利 E III
41図132	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	2条の垂下隆線による懸垂文構成。側線は撫で及び研磨、縦位LR充填施文	加曾利 E III
41図133	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い橙色	2条隆線による懸垂文構成。側線撫で、縦位RL充填施文	加曾利 E III
41図134	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い橙色	2条隆線による懸垂文構成か。RL縦位充填施文	加曾利 E III
41図135	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	垂下隆線2条による懸垂文構成。側線は撫で、縦位RL充填施文	加曾利 E III
41図136	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③浅黄褐色	斜位隆線2条を配す。あるいは渦巻状意匠か。RL充填施文	加曾利 E III
41図137 PL.134	深鉢 体部下半 340・350-820	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	2条の垂下細隆線による懸垂文構成。側線は撫で、縦位RL充填施文	加曾利 E III
41図138 PL.134	深鉢 体部下半 340-820	破片	①細：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③黄褐色	2条の垂下隆線による懸垂文構成。側線は撫で、縦位RL充填施文	加曾利 E III
41図139 PL.134	深鉢 体部上半 340-820	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明黄褐色	頸部隆線以下、3条の垂下沈線で画された磨消部懸垂文構成。幅広施文部は縦位LR充填施文	加曾利 E III
41図140 PL.134	深鉢 体部上半	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	細隆線により口縁部を画す。体部は垂下沈線による磨消部懸垂文構成。縦位RL充填施文	加曾利 E III
41図141	深鉢 口頸部	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③浅黄褐色	頸部細隆線を設ける。側線は沈線。体部は垂下沈線2条による磨消部懸垂文か。LR充填施文	加曾利 E III
41図142 PL.134	深鉢 口縁部 340-820	破片	①細：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄褐色	半渦巻状突起が突出する。以下2条隆線による磨消部弧状意匠を配す。RL充填施文	加曾利 E III
41図143 PL.134	深鉢 口縁部 310-770	破片	①粗：白色粒・輝石 ②やや軟質 ③橙色	環状突起を突出する。口縁部隆線を設け隆線による大柄の渦巻文を配す。側線撫で、RL充填施文	加曾利 E III
41図144 PL.134	深鉢 口縁部 340-790	破片	①細：白色粒・石英・雲母少 ②良好 ③鈍い赤褐色	上端渦巻状突起を突出する。隆線による口縁部区画文構成。側線沈線、RL充填施文	加曾利 E III
41図145 PL.134	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い赤褐色	環状突起を突出する。口縁部は隆線による区画文構成か。側線は撫で、横位RLを施す	加曾利 E III
41図146	深鉢 口縁部突起	破片	①細：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③橙色～灰褐色	突出する環状突起。凹線中位に半截竹管状工具による刺突文が加わる。体部は2条隆線の渦巻文	加曾利 E III
41図147 PL.134	深鉢 口縁部 310-780	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	渦巻状突起を突出する。口縁部沈線を設け、沈線で画された施文部弧状意匠。RL充填施文	加曾利 E III
41図148 PL.134	深鉢 口縁部 310-770	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③明黄褐色	波状縁。口縁部隆線を設け、以下隆線による大柄の渦巻文を配す。側線凹線、RLを充填施文する	加曾利 E III
41図149	深鉢 口縁部 340-820	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	波頂部。隆線による大柄の渦巻文構成か。側線は沈線。RL及び波状条線を充填施文する	加曾利 E III
41図150 PL.134	深鉢 口縁～体上 350-770	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母少 ②良好 ③橙色	波状縁。口縁部内湾し、2条隆線による大柄の渦巻文を配す。側線は凹線、RL充填施文	加曾利 E III
41図151 PL.134	深鉢 口縁部 340-820	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	2条の隆線による大柄の渦巻文構成。側線は撫で、縄文はRL充填施文	加曾利 E III

縄文時代遺物観察表

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
41図152	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い橙色	波頂部に細隆線環状意匠。以下2条隆線による大柄の渦巻状意匠を配す。RL充填施文	加曽利 E III
41図153	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄褐色	波頂部。口縁部細隆線以下隆線による不定形区画文か。縦位RL充填施文	加曽利 E III
41図154 PL.134	深鉢 口縁部 310-770	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③浅黄褐色	口縁部隆線を設け、波状突起下に隆線による大柄の渦巻文を配す。側線は沈線、RL充填施文	加曽利 E III
41図155 PL.134	深鉢 口縁～体上	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	口縁部小突起より2条隆線による渦巻状意匠を配す。側線は沈線、LR充填施文	加曽利 E III
42図156	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い橙色	厚手の器厚。波頂部下に横位隆線を配す。渦巻状意匠か。側線撫で、横位RLを充填する	加曽利 E III
42図157	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③橙色	波頂部下に2条隆線による弧状意匠を配す。渦巻文か。側線は撫で、RL充填施文	加曽利 E III
42図158	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③明褐色	口縁部隆線以下隆線による大柄の渦巻状意匠を配す。RL充填施文か	加曽利 E III
42図159	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	口縁部細隆線を設け以下弧状細隆線を付す。渦巻状意匠か。縄文はRL充填施文	加曽利 E III
42図160	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③橙色	波状縁。2条隆線による弧状意匠。あるいは大柄の渦巻文か。RL充填施文	加曽利 E III
42図161 PL.134	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	口縁部隆線を設け、以下2条隆線による大柄の渦巻文構成。RL縦位充填施文	加曽利 E III
42図162 PL.134	深鉢 口縁部 340-820	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	波状突起を付す。口縁部隆線以下隆線による不定形区画と渦巻文構成。側線は沈線、RL充填施文	加曽利 E III
42図163	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	口縁部隆線を設け、弧状隆線が派生する。側線は凹線、縄文は横位RLか。器面摩滅	加曽利 E III
42図164	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	口縁部隆線より2条の斜位隆線が派生する。側線は撫で、RL充填施文	加曽利 E III
42図165	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	2条隆線による弧状意匠。あるいは渦巻文か。側線は撫で	加曽利 E III
42図166	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	波状縁。口縁部隆線を設け、2条隆線が弧状派生する。渦巻文か。RL充填施文	加曽利 E III
42図167 PL.134	深鉢 口縁部 350-820	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	緩やかな波状縁。横位隆線を設け弧状隆線を派生する。波頂下渦巻文構成か。RLは隆線上に及ぶ	加曽利 E III
42図168	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③鈍い黄褐色	口唇部肥厚。口縁部細隆線以下2条隆線が派生する。渦巻状意匠か	加曽利 E III
42図169	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③灰黄褐色	口縁部隆線を設け2条隆線が弧状に派生する。側線は撫で、RL充填施文	加曽利 E III
42図170	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い褐色	波状縁。口縁部隆線以下、2条隆線が弧状派生する。渦巻文か。RL充填施文	加曽利 E III
42図171	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い橙色	2条隆線による口縁部弧状意匠。あるいは区画文か。側線撫で、RL充填施文	加曽利 E III
42図172	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③明褐色	緩やかな波状縁。口縁部隆線を設け、弧状隆線が派生する。側線は撫で	加曽利 E III
42図173	深鉢 頸部 360-760	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	大型の深鉢か。隆線による口縁部区画と体部弧状意匠。側線は撫で、縄文はRL充填施文	加曽利 E III
42図174 PL.134	深鉢 体部中位 360-830	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	弧状隆線が配される。あるいは渦巻文下位懸垂文か。側線は撫で、縄文は縦位・斜位RL充填施文	加曽利 E III
42図175 PL.134	深鉢 体部 350-770	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い褐色	2条隆線による弧状意匠。あるいは不定区画文構成か。側線は撫で、RL充填施文。器面摩滅	加曽利 E III
42図176 PL.134	深鉢 体部 310-770	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・チャート ②良好 ③浅黄褐色	大型の深鉢。2条隆線による大柄の渦巻文構成。側線撫で、縦位・斜位RLを充填する	加曽利 E III
42図177 PL.134	深鉢 体部 350-820	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	厚手の器厚。垂下隆線2条による懸垂文構成。側線は撫で、RL縦位充填施文	加曽利 E III
42図178	深鉢 体部中位 310-790	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	細隆線による渦巻状意匠。側線は撫で。縄文はRL充填施文	加曽利 E III
42図179 PL.134	深鉢 体部上半 340-820	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	横位隆線以下、2条隆線による渦巻文構成。側線は撫で、RL充填施文	加曽利 E III
42図180	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	2条隆線による渦巻状意匠。側線は撫で、RL充填施文	加曽利 E III
42図181	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・輝石・雲母 ②良好 ③橙色	2条隆線による渦巻文構成。側線は撫で、縄文はRL充填施文	加曽利 E III
42図182	深鉢 体部 390-770	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	2条の隆線による懸垂文構成か。弧状隆線も配される。側線は撫で、縄文は縦位RL充填施文	加曽利 E III
42図183	深鉢 体部 310-780	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明黄褐色	隆線による弧状意匠。側線は凹線。縦位・斜位RLを充填する	加曽利 E III
42図184	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③明褐色	2条隆線による大柄の渦巻文構成。側線は撫で、RL充填施文	加曽利 E III

第3章 発見された遺構と遺物

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
42図185	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄橙色	2条隆線による弧状意匠。渦巻状意匠か。側線は撫で、RL縦位充填施文	加曾利EⅢ
42図186 PL.134	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③黄灰色	2条隆線による弧状意匠。側線は撫で。縦位RL充填施文	加曾利EⅢ
42図187	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色	2条隆線による懸垂文構成か。側線は撫で、RL縦位充填施文	加曾利EⅢ
42図188	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い橙色	2条隆線を斜位に付す、大柄の渦巻文か。側線凹線、RL充填施文	加曾利EⅢ
42図189	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明赤褐色	2条隆線による渦巻状意匠。側線は撫で、RL充填施文	加曾利EⅢ
42図190	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③橙色	2条隆線による大柄の渦巻文構成。側線は強い撫で、RL充填施文	加曾利EⅢ
42図191	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③浅黄褐色	2条隆線による体部弧状意匠。あるいは大柄の渦巻状意匠か。側線撫で、RL充填施文	加曾利EⅢ
42図192	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	2条隆線による弧状意匠。あるいは渦巻文か。側線は強い撫で、RL充填施文	加曾利EⅢ
42図193	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い黄橙色	弧状隆線を配す。側線は撫で、縄文はRL充填施文	加曾利EⅢ
43図194	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	細隆線による弧状意匠。側線は撫で、LR充填施文	加曾利EⅢ
43図195	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③灰黄褐色	隆線による大柄の渦巻文構成。側線は弱い凹線、横位RL充填施文	加曾利EⅢ
43図196	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	2条の横位・斜位隆線を配す。側線は沈線及び撫で、斜位LRを施す	加曾利EⅢ
43図197 PL.135	深鉢 口縁～体部 360-830	破片2点 (29.0)	①粗：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③鈍い黄橙色	口縁部隆線による区画文構成。頸部沈線による区画文と縦位蕨手状沈線を配す。体部は隆線による大柄の渦巻文構成。沈線を側線とする	加曾利EⅢ
43図198 PL.135	深鉢 口縁～体中	1/2 (27.5)	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	頂部欠損するが緩やかな波状縁。口縁部隆線を設け、以下低位隆線で画された環状区画文構成。上下二帯を見る。縄文はRL充填施文	加曾利EⅢ
43図199 PL.135	深鉢 口縁～体下 330-780	3/4 27.4	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明灰黄色	波状縁。波頂部下に沈線による大柄の渦巻文を配し、体部下半は逆U字状沈線文を懸垂する。沈線のみの描線である。縄文は縦位・斜位RL充填施文	加曾利EⅢ
43図200 PL.135	深鉢 口縁～体部	1/4 (23.6)	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③明赤褐色	波状縁。波頂下に沈線2条による大柄の渦巻文を配す。体部2帯構成か。RL充填施文	加曾利EⅢ
43図201	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明褐色	波頂下に配された沈線による大柄渦巻文構成。RL充填施文	加曾利EⅢ
43図202	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②やや軟質 ③鈍い褐色	波頂下に沈線による弧線文を配す。おそらく渦巻状意匠。RL充填施文。器面摩滅	加曾利EⅢ
43図203	深鉢 口縁部 310-780	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	波頂部下に沈線による渦巻状意匠を配す。RL充填施文	加曾利EⅢ
44図204 PL.135	深鉢 口縁部 340-820	破片	①細：白色粒・輝石 ②やや軟質 ③鈍い橙色	口縁部沈線を設け、波頂部下に沈線による大柄な渦巻文を配す。RL充填施文	加曾利EⅢ
44図205 PL.135	深鉢 口縁～体上 310-770	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	口縁部沈線を設け、波状突起下に2条沈線による大柄の渦巻文を配す。RL充填施文	加曾利EⅢ
44図206	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明赤褐色	波頂部。口縁部沈線を設け、以下2条沈線で画された磨消部弧状意匠、渦巻文か。RL充填施文	加曾利EⅢ
44図207	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明赤褐色	上端環状突起。口縁部沈線を設け、以下2条沈線による弧状意匠を配す、渦巻文か。RL充填施文	加曾利EⅢ
44図208	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・輝石・チャート ②良好 ③灰褐色	内湾する波頂部下に沈線による渦巻状意匠を配す。RL充填施文	加曾利EⅢ
44図209 PL.135	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母少 ②やや軟質 ③明褐色	波状縁。凹線による口縁部区画文構成。横位RLを充填する	加曾利EⅢ
44図210 PL.135	深鉢 口縁部 340-820	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③灰褐色	小突起を付し、口縁部沈線区画文。体部は垂下沈線と逆U字状沈線による懸垂文構成。RL充填施文	加曾利EⅢ
44図211 PL.135	深鉢 口縁部 320-760	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③鈍い黄橙色	波状突起下に隆線による渦巻文を配す。体部は沈線で画された磨消部懸垂文構成。RL充填施文	加曾利EⅢ
44図212	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い橙色	口縁部沈線を設け、以下沈線による口縁部区画文構成。横位RLを充填する	加曾利EⅢ
44図213 PL.135	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②やや軟質 ③鈍い黄褐色	口縁部凹線以下横位RLを充填する。口縁部区画文構成か	加曾利EⅢ
44図214	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄褐色	波状縁。口縁部沈線を設け、以下沈線による口縁部区画文構成。RL充填施文	加曾利EⅢ
44図215	深鉢 口頸部	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄褐色	口縁部沈線を設け、以下横位・斜位RLを施す	加曾利EⅢ



縄文時代遺物観察表

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
44図216	深鉢 体部上半	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③明黄褐色	沈線による横位渦巻状意匠。以下縦位沈線による懸垂文構成。斜位・縦位RL充填施文	加曾利 E III
44図217	深鉢 口頸部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色	沈線による口縁部区画文構成。横位RLを充填する	加曾利 E III
44図218	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③明黄褐色	横位弧状隆線を付す。側線は撫で、RL充填施文。あるいは大柄の渦巻文構成か	加曾利 E III
44図219 PL.135	深鉢 口縁～体中 310-780	1/3 / 3点 (20.0)	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③明褐色	4単位波状縁か。口縁部沈線を設け、体部は沈線によるH字状意匠を配す。施文部・磨消部の交互配列で、RLを口縁部横位、体部縦位に充填する	加曾利 E III
44図220 PL.135	深鉢 口縁部 310-770	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③明黄褐色	波状縁。口縁部沈線を設け、体部は数条の沈線による磨消部弧状意匠を配す。RL充填施文	加曾利 E III
44図221	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②やや軟質 ③明赤褐色	波状突起。口縁部横位沈線以下沈線で画された逆U字状意匠を配す。横位・縦位RL充填施文	加曾利 E III
44図222	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い黄橙色	口縁部沈線を設け、体部は沈線による逆U字状意匠を配す。横位・縦位RLを充填する	加曾利 E III
44図223 PL.135	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色	渦巻状突起を付す。波頂部より口縁部沈線が派生し、体部は逆U字状意匠を配す。RL充填施文	加曾利 E III
44図224	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③赤褐色	沈線による逆U字状懸垂文構成か。磨消部研磨。縄文は口唇部横位、以下縦位RL充填施文	加曾利 E III
44図225	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・輝石・雲母 ②良好 ③橙色	口唇部尖る。沈線による逆U字状懸垂文か。無節L横位・斜位施文	加曾利 E III
44図226	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	口縁部内湾。横位沈線を設け以下沈線による逆U字状意匠を配す。横位・縦位LR充填施文	加曾利 E III
44図227 PL.135	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い赤褐色	口縁部沈線を設け、以下沈線で画された磨消部弧状意匠を配す。横位・縦位RLを施す	加曾利 E III
44図228	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③暗灰黄色	器厚薄手、強く内湾する。口縁部沈線を設け以下沈線による逆U字状意匠を配す。RL充填施文	加曾利 E III
44図229	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄橙色	波状突起、口縁部沈線を設け、以下沈線による区画文構成。RL充填施文	加曾利 E III
44図230	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・輝石 ②やや軟質 ③橙色	2条沈線で画された磨消部逆U字状意匠。LR縦位充填施文	加曾利 E III
44図231	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒 ②良好 ③鈍い褐色	2条の沈線による逆U字状意匠。縦位・斜位LR充填施文	加曾利 E III
44図232	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い橙色	口縁部内湾。2条隆線で画された磨消部逆U字状意匠か。RL充填施文	加曾利 E III
44図233	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	厚手。口縁部凹線を設け、以下2条沈線で画された磨消部弧状意匠、渦巻文か。RL充填施文	加曾利 E III
44図234	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色	波状縁。口縁部沈線を設け、以下2条沈線で画された弧状意匠を配す。逆U字状意匠か。RL充填施文	加曾利 E III
44図235	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	波状縁。口縁部沈線を設け、以下沈線で画された弧状意匠を配す。横位・縦位RLを施す	加曾利 E III
44図236	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	2条沈線による弧状意匠。あるいは逆U字状意匠かRL充填施文	加曾利 E III
44図237	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③橙色	口縁部に横位沈線を設け、体部は2状沈線による弧状意匠を配す。RL充填施文	加曾利 E III
44図238	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	口縁部沈線を設け、以下、2条沈線で画された磨消部弧状意匠。RL充填施文	加曾利 E III
44図239	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明赤褐色	波状縁。器厚は薄手。口縁部沈線を2条設け、横位・縦位RLを施す	加曾利 E III
45図240	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③灰黄褐色	口縁部に横位沈線を設ける。以下弧状沈線を施す。縄文はRL充填施文	加曾利 E III
45図241	深鉢 口縁部 340-820	破片	①細：白色粒・石英・雲母少 ②良好 ③鈍い黄褐色	緩やかな波状縁。口唇部に幅広凹線を設け、横位RLを施す	加曾利 E III
45図242	深鉢 口縁部 340-820	破片	①細：白色粒・石英 ②良好 ③橙色	波状突起。口縁部扁平な印象。隆線と沈線による口縁部区画文。RL充填施文	加曾利 E III
45図243	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い橙色	波状突起下位に沈線による区画文を配す。横位・縦位RLを充填する	加曾利 E III
45図244 PL.136	深鉢 体部中位 310-770	破片	①細：白色粒・石英 ②やや軟質 ③鈍い黄褐色	沈線による縦位対向U字状意匠。無節L斜位充填施文。器面摩滅	加曾利 E III
45図245	深鉢 体部中位 310-780	破片	①粗：白色粒・輝石 ②やや軟質 ③鈍い黄褐色	薄手で、キャリパー状の深鉢。垂下沈線2条で画された磨消部懸垂文構成。縦位RLを充填する	加曾利 E III
45図246	深鉢 体部中位 360-840	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	沈線による対向するU字状意匠。蕨手状沈線も加わる。RL縦位充填施文	加曾利 E III
45図247	深鉢 体部上半	破片	①細：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	沈線による逆U字状懸垂文構成。磨消部研磨、施文部はLR縦位充填施文	加曾利 E III

第3章 発見された遺構と遺物

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
45図248	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い黄橙色	弧状沈線による分岐懸垂文構成か。施文部は縦位RL 充填施文、磨消部は縦位研磨を施す	加曾利 E III
45図249	深鉢 口頸部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・褐色粒 ②良好 ③鈍い黄橙色	沈線による口縁部区画文構成。側線は凹線、縦位RL を充填する	加曾利 E III
45図250	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	2条沈線に画された幅狭磨消部懸垂文構成。0段多 条RL縦位充填施文、縦位波状沈線が加わる	加曾利 E III
45図251	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色	2条の垂下沈線による磨消部懸垂文構成。縄文はLR 縦位充填施文	加曾利 E III
45図252	深鉢 体部 中位 350-800	破片	①細：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③灰黄褐色	3条の垂下沈線で画された磨消部懸垂文構成。施文 部縄文は縦位RL充填施文	加曾利 E III
45図253	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③橙色	3条の垂下沈線による磨消部懸垂文構成。縦位RLを 充填する	加曾利 E III
45図254	深鉢 体部上半	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明黄褐色	内湾する体部。太い沈線で画された磨消部弧状意匠、 あるいは渦巻文か。縦位RL充填施文	加曾利 E III
45図255	深鉢 体部上～中 PL.136 340-820	破片	①粗：白色粒・輝石 ②やや軟質 ③橙色	器厚薄手。上半は外反する。垂下沈線で画された幅 狭磨消部懸垂文構成。縦位RL充填施文	加曾利 E III
45図256	深鉢 体部 PL.136 340-820	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い橙色	2条の垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。縦位 RL充填施文	加曾利 E III
45図257	深鉢 体部 PL.136 310-780	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③灰黄褐色	2条の垂下沈線で画された磨消部懸垂文構成。沈線 施文は浅い。縄文は縦位RL充填施文	加曾利 E III
45図258	深鉢 体部 PL.136	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	垂下沈線2条で画された幅広の磨消部懸垂文構成。 施文部縄文はRL縦位充填施文	加曾利 E III
45図259	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③黒褐色	垂下沈線で画された磨消部懸垂文構成。縄文は縦位・ 斜位RL充填施文	加曾利 E III
45図260	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明黄褐色	垂下沈線2条に画された幅狭磨消部懸垂文構成。施 文部縄文は縦位RL充填施文	加曾利 E III
45図261	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③浅黄褐色	体部僅かに内湾する。垂下沈線で画された磨消部懸 垂文構成。RL縦位充填施文	加曾利 E III
45図262	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	垂下細沈線で画された磨消部懸垂文構成か。縦位RL 充填施文。内面研磨	加曾利 E III
45図263	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い黄橙色	2条の垂下沈線で画された磨消部懸垂文構成。施文 部縄文は縦位RL。磨消部は研磨を加える	加曾利 E III
45図264	深鉢 体部中位 PL.136 350-810	2点	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③明赤褐色 鈍い赤褐色	器厚薄手。体部外反。垂下沈線2条で画された磨消 部懸垂文、縦位臍手状沈線が加わる。縦位RL充填施 文	加曾利 E III
45図265	深鉢 体部下半 310-780	破片	①細：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	垂下沈線で画された磨消部懸垂文構成。RL縦位充填 施文	加曾利 E III
45図266	深鉢 体部 PL.136 340-820	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③鈍い黄褐色	2条の垂下沈線に画された幅狭の磨消部懸垂文構成。 縦位RL充填施文。器面摩滅	加曾利 E III
45図267	深鉢 体部中位 PL.136 370-780	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	垂下沈線2条による磨消部懸垂文構成。明瞭な斜位 撫で痕跡上に縦位RLを加える。原体差を見る	加曾利 E III
45図268	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③オリーブ黒色	垂下沈線と縦位波状沈線による懸垂文構成。複々節 LRL縦位施文	加曾利 E III
45図269	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③橙色	垂下沈線で画された磨消部懸垂文構成。複々節LRL 縦位充填施文	加曾利 E III
45図270	深鉢 体部 365-840	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③灰黄褐色	垂下沈線2条による懸垂文構成。縦位LRL充填施文	加曾利 E III
46図271	深鉢 体部中位 PL.136 340-820	破片	①細：白色粒・石英 ②やや軟質 ③鈍い橙色	垂下沈線2条で画された磨消部懸垂文構成。施文部 縄文はLRL縦位充填施文	加曾利 E III
46図272	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③灰黄褐色	沈線で画された磨消部懸垂文構成。縦位RL充填施文	加曾利 E III
46図273	深鉢 体部中位	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	2条の垂下沈線で画された磨消部懸垂文構成。縦位 RL充填施文	加曾利 E III
46図274	深鉢 体部 340-820	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。RL縦位 充填施文	加曾利 E III
46図275	深鉢 体部下半	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③橙色	垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。縦位RL 充填施文	加曾利 E III
46図276	深鉢 体部 PL.136	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③鈍い黄褐色	薄手で体部外反する。2条沈線で画された磨消部U 字状意匠を配す。縦位RL充填施文	加曾利 E III
46図277	深鉢 体部中位	破片	①細：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い褐色	2条沈線に画された磨消部懸垂文構成。縄文はRL縦 位充填施文	加曾利 E III
46図278	深鉢 体部中位	破片	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い橙色	2条の垂下沈線で画された磨消部懸垂文構成。縦位 RL充填施文。磨消部研磨	加曾利 E III
46図279	深鉢 体部 PL.136 340-820	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明黄褐色	2条の垂下沈線による磨消部懸垂文構成。縄文はRL 縦位充填施文	加曾利 E III

縄文時代遺物観察表

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
46図280	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③灰黄褐色	2条沈線で画された磨消部懸垂文構成。RL縦位充填施文。磨消部研磨	加曾利 E III
46図281	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色	2条沈線による磨消部懸垂文構成。施文部縄文は複節RLR縦位充填施文	加曾利 E III
46図282	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③橙色	2条の垂下沈線で画された磨消部懸垂文構成。RL縦位充填施文	加曾利 E III
46図283	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・輝石・雲母 ②良好 ③橙色	垂下沈線で画された幅広磨消部の懸垂文構成。施文部縄文はRL縦位充填施文	加曾利 E III
46図284	深鉢 体部中位	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色	2条の垂下沈線に画された施文部懸垂文構成。縦位RLを充填する	加曾利 E III
46図285	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色	2条の垂下沈線で画された幅広の磨消部懸垂文構成。縦位RL充填施文	加曾利 E III
46図286	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③灰黄褐色	垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。RL縦位充填施文	加曾利 E III
46図287	深鉢 体部	破片	①細：白色粒多・雲母 ②良好 ③灰黄褐色	垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位RL充填施文	加曾利 E III
46図288 PL.136	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③橙色	垂下沈線で画された磨消部懸垂文構成。縦位RL充填施文	加曾利 E III
46図289	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・石英 ②やや軟質 ③鈍い黄橙色	垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。RL縦位充填施文	加曾利 E III
46図290	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い黄橙色	垂下沈線2条による懸垂文構成。縄文は縦位RL充填施文。器面摩滅	加曾利 E III
46図291	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒多・雲母 ②良好 ③灰オリーブ色	厚手。垂下沈線で画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位RL充填施文	加曾利 E III
46図292	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒多・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	垂下沈線2条あるいは3条に画された幅広磨消部懸垂文構成。RL縦位充填施文	加曾利 E III
46図293	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③灰色	2条の縦位波状沈線による懸垂文構成。LR縦位充填施文	加曾利 E III
46図294 PL.136	深鉢 底部 350-820	1/3 7.0	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い橙色	垂下沈線で画された磨消部懸垂文構成。縄文はRL縦位充填施文。磨消部は研磨を加える	加曾利 E III
46図295 PL.136	深鉢 体下～底部 350-820	1/1 8.0	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄橙色	垂下沈線2条あるいは3条に画された懸垂文構成。施文部は縦位RL充填施文。外面・底面研磨を施す	加曾利 E III
46図296	深鉢 底部 350-780	1/1 6.4	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色	垂下沈線による懸垂文構成下部を見る。外面平滑	加曾利 E III
46図297	深鉢 口縁部 340-820・350-820	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③明黄褐色	薄手の器厚を呈す。無文の口縁部で、強く開き、頸部で屈曲する	中期後葉
46図298 PL.136	深鉢 口縁部 340-820	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③灰黄褐色	幅広の無文口縁部外反し。頸部に横位隆線を設ける。側線は撫で、縦位・斜位RLを施す	加曾利 E III
46図299	深鉢 口縁～体部上 350-820	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③灰黄褐色	口縁部は無文で外反する。頸部隆線を設け、突起を付すか。側線は沈線、縦位RLを充填する	加曾利 E III
46図300 PL.136	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②やや軟質 ③鈍い橙色	口縁部は外反し無文。頸部隆線を設ける。器面摩滅	加曾利 E III
46図301	深鉢 口縁部 350-780	破片	①粗：白色粒・石英・雲母少 ②良好 ③浅黄褐色	幅広無文の口縁部。横位隆線を設ける	加曾利 E III
46図302	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③明黄褐色	外反する無文の口縁部。横位研磨により平滑	加曾利 E III
46図303 PL.136	深鉢 口縁部 340-820	破片	①細：白色粒・輝石・雲母 ②良好 ③灰黄褐色	口縁部外反する。無文で内外面とも研磨のため平滑	加曾利 E III
46図304 PL.136	深鉢 口縁部 340-820	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い黄橙色	緩やかに外反する口縁部。無文。器面摩滅	加曾利 E III
46図305 PL.136	深鉢 口縁部 350-770	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い赤褐色	口縁部は外反し無文。やや薄手で口唇部の作りは雑	加曾利 E III
46図306 PL.136	浅鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄橙色	無文。外面横位研磨を加える	加曾利 E III
46図307	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い褐色	緩やかに外反する無文の口縁部。横位研磨を施す	加曾利 E III
46図308 PL.136	深鉢 口縁部 310-770	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	外反する無文の口縁部。外面横位研磨、内面横位撫で調整を施す	加曾利 E III
46図309	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	緩やかに内湾する口縁部。口唇部は尖る。無文	加曾利 E III
46図310	浅鉢 体部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③褐灰色	外面削り調整後撫で、内面は横位研磨により平滑	加曾利 E III
47図311 PL.136	深鉢 把手 350-790	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い橙色	大型の橋状把手。中位に縦位凹線を設ける	加曾利 E III

第3章 発見された遺構と遺物

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
47図312	深鉢 把手	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③褐色	大型の橋状把手中に蕨手状沈線を配す。RL充填施文	加曾利 E III
47図313	深鉢 把手	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明褐色	大型の橋状把手。中位を沈線による区画文を配し、縦位RLを充填する	加曾利 E III
47図314	深鉢 把手	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③灰褐色	橋状把手下半。中位は撫でにより凹む。無文	加曾利 E III
47図315	深鉢 把手 310-780	破片	①粗：白色粒・石英 ②やや軟質 ③橙色	橋状把手下端部。中位に蕨手状沈線を配す	加曾利 E III
47図316	深鉢 体部上半	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③浅黄橙色	橋状把手を付す。縦位弧状沈線を施す逆U字状意匠か。縦位RL充填施文	加曾利 E III
47図317 PL.136	深鉢 体部上半	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	両耳壺か。大型の橋状把手。縁辺を弧状隆線で繋ぐ。RL充填施文	加曾利 E III
47図318	深鉢 体部上半	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	内湾部に橋状把手を配し細隆線が派生する。縦位RL充填施文	加曾利 E III
47図319 PL.136	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄橙色	緩やかな波状縁。波頂部に隆線で画された小型の橋状把手を設ける	加曾利 E III
47図320	深鉢 体部上半	破片	①粗：白色粒・輝石 ②やや軟質 ③橙色	頸部外反し、体部内湾する。内湾部に小型の橋状把手を設ける。器面摩滅	中期後葉
47図321	深鉢 体部上半	破片	①細：白色粒・輝石・雲母 ②やや軟質 ③灰黄褐色	内傾する肩部に小型の橋状把手を設ける。他は無文	中期後葉
47図322 PL.136	深鉢 口縁～体上 330-770	破片	①粗：白色粒・輝石 ②やや軟質 ③橙色	口縁部が強く内湾するキャリバー状深鉢。口縁部沈線を設け、以下横位・縦位RLが覆う	加曾利 E III
47図323 PL.136	深鉢 口縁部 350-820	破片	①細：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い黄橙色	口縁部沈線を設け、以下縦位RLを施す。内面研磨	加曾利 E III
47図324	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③黄灰色	口縁部横位沈線を設け、以下縦位RLを施す	加曾利 E III
47図325 PL.136	深鉢 口縁～体中 310-770	1/2 21.4	①細：白色粒・輝石 ②やや軟質 ③暗灰黄色	口縁部内湾し、横位沈線を設ける。以下縦位・斜位RLが覆う	加曾利 E III
47図326	深鉢 口縁部 330-770	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③明赤褐色	口縁部内湾。口縁部沈線以下横位・縦位RLが覆う	加曾利 E III
47図327	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・輝石・雲母 ②良好 ③灰褐色	内湾する口縁部、下位に横位沈線を見る	加曾利 E III
47図328	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③褐色	口縁部に横位円形刺突文列を2条設け、以下0段多 条RLを横位・斜位に施す	加曾利 E III
47図329	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	平縁。沈線による弧線文。逆U字状意匠か。縄文は口縁部横位、体部縦位RLを施す	加曾利 E III
47図330	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	縦位RLが器面を覆う	加曾利 E III
47図331	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い褐色	沈線による逆U字状意匠か。横位・縦位RLを充填する	加曾利 E III
47図332	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③鈍い褐色	垂下沈線による懸垂文構成か。縄文は縦位RL。器面摩滅	加曾利 E III
47図333	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・チャート・輝石 ②やや軟質 ③黒褐色	横位・斜位RLを施す	加曾利 E III
47図334	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③灰黄褐色	縦位RLが施される	加曾利 E III
47図335	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③灰黄褐色	縦位RLを施す	加曾利 E III
47図336 PL.137	深鉢 口縁部 350-770	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③橙色	薄手の器厚を呈す。口縁部に浅い沈線を設け、以下縦位密接条線が覆う	加曾利 E III
47図337 PL.137	深鉢 口縁部 350-820・340-820	破片	①細：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い赤褐色	強く内湾する口縁部。横位沈線を設け、以下縦位密接条線が覆う。内面横位研磨を施す	加曾利 E III
47図338	深鉢 口縁部 350-760	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③橙色	口縁部内湾し横位沈線を設ける。以下縦位密接条線を施す	加曾利 E III
47図339	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	口唇部肥厚。口縁部強い横位撫で。体部は縦位密接条線を施す	加曾利 E III
47図340	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い橙色	口唇部欠損。口縁部沈線を設け、体部は縦位密接条線を施す	加曾利 E III
47図341	深鉢 頸部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	頸部隆線に円文を配す。以下縦位密接条線を施す	加曾利 E III
47図342	深鉢 体部上半 350-820	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い橙色	口縁部の凹線以下体部は縦位密接条線を施す	加曾利 E III
47図343 PL.137	深鉢 口縁部 340-820	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②やや軟質 ③鈍い黄橙色	強く内湾する。口縁部沈線を設け、以下縦位波状密接条線を結節状に施す	加曾利 E III

縄文時代遺物観察表

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
47図344 PL.137	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	縦位密接条線を波状に施す	加曽利 E III
47図345 PL.137	深鉢 口縁部 350-790	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	口唇部欠損。口縁部は内屈し無文。体部は縦位波状密接条線を施す	加曽利 E III
47図346	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③明赤褐色	縦位波状沈線による懸垂文構成。地文は縦位密接波状条線	加曽利 E III
47図347 PL.137	深鉢 体部中位 340-820	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い褐色	縦位波状密接条線を施す。内面研磨	加曽利 E III
47図348	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②やや軟質 ③褐色	縦位密接波状条線が施される	加曽利 E III
47図349	深鉢 体部	破片	①細：白色粒 ②良好 ③灰黄褐色	小径であるいはミニチュア土器か。密接条線による縦位波状文を施す	加曽利 E III
47図350	深鉢 体部上半	破片	①粗：白色粒・石英・雲母少 ②良好 ③鈍い赤褐色	肥厚部は突起か。縦位密接条線を施す	加曽利 E III
48図351	深鉢 体部 330-780	破片	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③灰褐色	2条の深い垂下沈線による懸垂文構成。地文に縦位密接条線を施す	加曽利 E III
48図352	深鉢 体部 350-790	破片	①細：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③灰黄褐色	疎らな縦位細沈線が覆う。施文は浅い	加曽利 E III
48図353	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	斜位密接条線施文後、縦位沈線を重ねる	加曽利 E III
48図354	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・石英 ②良好 ③灰黄褐色	縦位細沈線施文後斜位沈線を加える。施文具の差を見る	加曽利 E IIIか
48図355 PL.137	深鉢 体部上半 340-820	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	縦位密接条線を施す	加曽利 E III
48図356 PL.137	深鉢 体部 340-770	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	縦位密接条線が器面を覆う。外面煤付着	加曽利 E III
48図357	深鉢 体部 350-820	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	縦位密接条線が器面を覆う	加曽利 E III
48図358	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③明黄褐色	縦位密接条線を施す	加曽利 E III
48図359	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・輝石・チャート ②良好 ③鈍い黄褐色	縦位密接条線が器面を覆う	加曽利 E III
48図360	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い褐色	縦位密接条線が器面を覆う。施文は浅い。器面摩滅	加曽利 E III
48図361	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③浅黄褐色	縦位密接条線を施す	加曽利 E III
48図362 PL.137	深鉢 体部 340-820	破片	①細：白色粒 ②良好 ③鈍い褐色	強い斜位撫で調整痕跡残る。縦位密接条線を施す	加曽利 E III
48図363 PL.137	深鉢 底部	1/1 8.4	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③赤褐色	強く開く体部下半。縦位密接条線を施す	加曽利 E III
48図364 PL.137	深鉢 底部 310-780	1/3 7.4	①粗：白色粒・石英・チャート ②良好 ③灰黄褐色	体部下半は外反気味に開く。縦位密接条線を感覚上に施文する	加曽利 E III
48図365 PL.137	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い赤褐色	波状突起強く突出する。小型の橋状把手と口縁部沈線を設ける。体部は分岐懸垂文か。RL充填施文	加曽利 E IV
48図366 PL.137	深鉢 口縁部 340-820	破片	①細：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い褐色	波頂部に小突起を設ける。口縁部沈線と沈線で画された磨消部対弧状意匠を配す。RL充填施文	加曽利 E IV
48図367 PL.137	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	波状突起下より細沈線で画され磨消部が対弧状に派生する。LR充填施文	加曽利 E IV
48図368 PL.137	深鉢 口縁部 350-820	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明赤褐色	波頂部突起・把手欠損。口縁部沈線を設け、突起下端より磨消部対弧状意匠を配す。RL充填施文	加曽利 E IV
48図369	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③灰黄褐色	波状突起を設け下端より横位沈線が派生する。RL横位施文	加曽利 E IV
48図370	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	口縁部小突起下位より口縁部沈線が派生する。以下横位LRを施す	加曽利 E IV
48図371 PL.137	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	口縁部突起突出。上端は環状を呈す。口縁部細隆線を設け突起下より弧状に派生する。RL充填施文	加曽利 E IV
48図372 PL.137	深鉢 口縁部 330-790	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③褐色	波状突起下端より口縁部隆線が派生する。体部は分岐沈線による懸垂文か。RL充填施文	加曽利 E IV
48図373	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③褐色	口縁部小突起下端より横位隆線が派生する。側線沈線、LRを施す	加曽利 E IV
48図374	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③褐灰色	波頂部小突起下端より口縁部隆線が派生する。以下分岐弧状沈線が配される。RL充填施文	加曽利 E IV
48図375	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	口縁部小突起下端より横位隆線が派生する。体部は弧状沈線とRLを充填施文する	加曽利 E IV
48図376	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	口縁部細隆線を設け、以下斜位隆線が派生する。側線は沈線、無節R充填施文	加曽利 E IV

第3章 発見された遺構と遺物

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
48図377	深鉢 体部上半	破片	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③灰黄色	横位隆線に橋状把手を付す。縦位RLを施す	加曾利 E IV
48図378	深鉢 口縁部 340-780	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い赤褐色	波頂部突起。下端に口縁部隆線を設け、以下2条の沈線で画された弧状意匠を配す。LR充填施文	加曾利 E IV
48図379 PL.137	深鉢 口縁部 360-760	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③黄褐色	口縁部細隆線を設け弧状隆線が派生する。懸垂文構成か。側線撫で、無節R充填施文	加曾利 E IV
48図380 PL.137	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い橙色	口縁部隆線より弧状隆線が対向して派生する。下端隆線と併せて渦巻文か。RL充填施文	加曾利 E IV
48図381 PL.137	深鉢 口縁部 350-770	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い赤褐色	口縁部細隆線を設け、弧状隆線が派生する。横位RLを充填する	加曾利 E IV
48図382	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・輝石 ②やや軟質 ③橙色	口唇部肥厚。口縁部細隆線を設け、垂下隆線が派生する	加曾利 E IV
48図383	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明赤褐色	口縁部細隆線以下斜位RLを充填する	加曾利 E IV
48図384	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い浅黄色	口縁部細隆線を設け、以下横位RLを施す	加曾利 E IV
48図385	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い黄橙色	口縁部内湾。横位隆線を設ける。以下無文か	加曾利 E IV
48図386	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③褐色	口縁部隆線を設け、以下横位RLを充填する	加曾利 E IV
48図387	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	口縁部横位隆線を設ける	加曾利 E IV
48図388	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③褐色	内湾する口縁部細隆線以下、RLを乱雑に施文する	加曾利 E IV
48図389	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明赤褐色	波状縁。口縁部細隆線以下、縦位・斜位RLを充填する	加曾利 E IV
48図390	深鉢 口縁部 350-820	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い橙色	薄手の器厚を呈す。口縁部細隆線を設け、以下横位RLを施す	加曾利 E IV
48図391 PL.137	深鉢 口縁部 330-780	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い褐色	口縁部細隆線を設け、以下横位・縦位RLを施す	加曾利 E IV
48図392 PL.137	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③暗灰黄色	口縁部細隆線を設け、以下横位・縦位RLを施す	加曾利 E IV
48図393	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い赤褐色	波状縁。口縁部隆線を設け、分岐懸垂文が派生する。側線は沈線、縦位LRを充填する	加曾利 E IV
48図394	深鉢 口縁部 340-820	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③明黄褐色	口縁部沈線を設け。体部は2条沈線による逆U字状意匠を配す。LR充填施文	加曾利 E IV
48図395	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色	波状縁か。口縁部細沈線を設け、以下LRを充填する	加曾利 E IV
48図396	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色	口縁部沈線を設ける。施文は深い。以下横位LRを充填施文する	加曾利 E IV
48図397	深鉢 口縁部 340-820	破片	①細：白色粒・輝石 ②やや軟質 ③明赤褐色	波状縁。口縁部沈線を設け、以下沈線による口縁部区画文構成か。LR充填施文。器面摩滅	加曾利 E IV
48図398 PL.137	深鉢 口縁部 340-810	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	緩やかな波状縁を呈し、口縁部細沈線を設ける。以下横位RLを施す	加曾利 E IV
48図399	深鉢 口縁～頂部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③灰黄褐色	揺るやかな波状縁。口縁部沈線を設け、横位・縦位RLによる羽状縄文を施す	加曾利 E IV
48図400	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	波状縁。口縁部沈線を設け以下、横位・縦位RLによる口縁部羽状縄文を施す	加曾利 E IV
48図401	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③橙色	波状縁。口縁部沈線を設ける。横位・縦位RLを充填する	加曾利 E IVか
48図402	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い褐色	口縁部横位沈線を設け、斜位RLを充填する。器面摩滅	加曾利 E IV 称名寺
49図403 PL.137	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③暗褐色	幅広い無文口縁部。横位沈線以下無節Lを横位・縦位に施す	加曾利 E IV
49図404	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い赤褐色	口縁部細沈線を設け、複節RLを横位に施す	加曾利 E IV
49図405	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い褐色	口縁部沈線を設け、以下横位RLを施す	加曾利 E IV
49図406	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英少 ②良好 ③鈍い黄褐色	波状縁か。口縁部沈線が波状を描く。以下横位RLを施す	加曾利 E IV
49図407	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	口唇部内面肥厚する。口縁部細沈線を設け、横位・斜位LRを施す	加曾利 E IV
49図408	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い赤褐色	波状縁。口縁部沈線を設ける。縦位RLを施す	加曾利 E IV
49図409	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③褐色	口縁部に横位弧状沈線を設ける。以下横位・縦位RLによる羽状縄文を施す	加曾利 E IV

縄文時代遺物観察表

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
49図410 PL.137	深鉢 口縁部 360-830	小破片	①粗：白色粒多・輝石 ②良好 ③灰黄褐色	口縁部沈線を設け、以下沈線で画された弧状意匠を配す。横位RLを施す	加曽利 E IV
49図411	深鉢 口縁部 340-820	破片	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③橙色	波状縁。口縁部沈線を設け、2条沈線による弧状意匠を配す。RL充填施文	加曽利 E IV
49図412	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い褐色	揺るやかな波状縁。口縁部沈線を設け、体部は沈線で画された弧状意匠を配す。横位RL充填施文	加曽利 E IV
49図413 PL.137	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	波状縁。口縁部沈線を設け以下沈線で画された磨消部弧状意匠を配す。RL充填施文	加曽利 E IV
49図414 PL.137	深鉢 口縁部 340-820	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③灰黄褐色	非対称な波状縁。口縁部沈線を設け以下、沈線で画された磨消部弧状意匠。RL充填施文	加曽利 E IV
49図415	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③鈍い褐色	波状縁か。口縁部沈線を設け、以下磨消部弧状意匠を配す。縄文は横位RL充填施文	加曽利 E IV
49図416	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄褐色	沈線で画された磨消部弧状意匠。大柄の渦巻状意匠か。施文部はLR充填施文	加曽利 E IVか
49図417	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	波状縁。沈線で画された磨消部弧状意匠。横位・縦位RLを充填する。	加曽利 E IV
49図418	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	口縁部下に2条沈線で画された磨消部弧状意匠。縄文は横位RL充填施文	加曽利 E IV
49図419	深鉢 口縁部 360-840	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③褐色	波状縁。器厚薄手。口縁部沈線を設け、2条沈線で画された磨消部弧状意匠。RL充填施文	加曽利 E IV
49図420	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・輝石 ②やや軟質 ③鈍い黄褐色	波状縁。口縁部沈線に深い刺突文を加える。体部は2条沈線による磨消部弧状意匠。RL充填施文	加曽利 E IV
49図421	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	波状縁。浅い口縁部沈線に深い刺突文が加わる。体部は弧状沈線が施される。RL充填施文	加曽利 E IV
49図422	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	口唇部に爪形状の深い刻みを連続する。地文は横位RL	加曽利 E IV
49図423	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い赤褐色	細隆線による弧状意匠。側線は撫で、LR充填施文	加曽利 E IV
49図424	深鉢 体部上半	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	細隆線による口縁部区画か。沈線を側線とし、斜位LR?を充填する。体部は弧状沈線を施す	加曽利 E IV
49図425	鉢か 体部上半 340-790	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③灰黄褐色	横位隆線以下、体部は隆線による弧状意匠が配される	加曽利 E IV
49図426	深鉢 体部上半	破片	①細：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い赤褐色	垂下隆線による逆U字状懸垂文構成。側線は撫で、縄文は縦位・斜位RL充填施文	加曽利 E IV
49図427	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	斜位細隆線が付せられる。分岐懸垂文か。縄文は縦位RL充填施文	加曽利 E IV
49図428	深鉢 体部 360-770	破片	①細：白色粒・石英 ②良好 ③橙色	内湾する体部。細沈線で画された磨消部懸垂文構成。RL縦位充填施文	加曽利 E IV
49図429	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	2条の垂下細沈線で画された磨消部懸垂文構成。縦位RL充填施文	加曽利 E IV
49図430	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③鈍い黄褐色	細沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。縦位RL充填施文	加曽利 E IV
49図431	深鉢 体部下半	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③明黄褐色	垂下隆線による懸垂文下端。RL縦位充填施文。器面摩滅	加曽利 E IV
49図432	深鉢 体部上半	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	細沈線による分岐懸垂文か。縄文は縦位RL充填施文	加曽利 E IV
49図433	深鉢 体部中位 360-840	破片	①細：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄褐色	細沈線による分岐懸垂文か。LR縦位充填施文。磨消部研磨	加曽利 E IV
49図434	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	垂下細沈線で画された磨消部懸垂文構成。縄文はLR縦位充填施文。内面研磨	加曽利 E IV
49図435	深鉢 体部下半	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	垂下細沈線による懸垂文構成。他は無文	加曽利 E IV
49図436	深鉢 体部下半	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い赤褐色	薄手の器厚。細沈線で画された施文部と磨消部。RL縦位充填施文。器面摩滅	加曽利 E IV
49図437	深鉢 体部下半	破片	①細：白色粒・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い褐色	器厚薄手。分岐垂下沈線下端部を見る	加曽利 E IV
49図438	深鉢 体部上～中位	破片	①粗：白色粒・石英・褐色粒 ②やや軟質 ③明黄褐色	キャリアー状を呈す。沈線で画された磨消部逆U字状懸垂文。縦位LR施文後蕨手状沈線を加える	加曽利 E IV
49図439 PL.137	深鉢 体部上半	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い赤褐色	小型深鉢。頸部屈曲し、体部は細沈線による分岐懸垂文を配す。RL縦位充填施文	加曽利 E IV
49図440	深鉢 体部中位 340-820	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	細沈線によるU字状・逆U字状意匠。区画内はRL縦位充填施文	加曽利 E IV
49図441 PL.137	深鉢 体部	3/4	①細：白色粒・石英 ②良好 ③明赤褐色	上半は低位隆線による三角形状区画文構成か。区画内は沈線が沿い、無節Rを充填する。下半は沈線で画された磨消部による大柄の横位S字状意匠を配す。RLと無節Rを充填施文する	異系統 大木9新か

第3章 発見された遺構と遺物

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
49図442	深鉢 体部中位	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③橙色	沈線で画された磨消部紡錘状意匠。中位に施文部を設ける。縦位・横位RL充填施文	加曽利EIVか
49図443	深鉢 体部中位	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い橙色	沈線で画された磨消部紡錘状意匠。中位に施文部を設ける。縦位RL充填施文	加曽利EIVか
49図444	深鉢 体部中位	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い橙色	沈線で画された磨消部弧状意匠。おそらく縦位紡錘状意匠か。縄文は縦位RL充填施文	加曽利EIVか
50図445	深鉢 体部中位	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い黄橙色	沈線で画された磨消部紡錘状意匠。縦位RL充填施文	加曽利EIVか
50図446	深鉢 体部中位	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③橙色	沈線で画された磨消部弧状意匠。施文部はLR充填施文	加曽利EIVか
50図447	深鉢 体部中位	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄橙色	沈線で画された磨消部弧状意匠。おそらく縦位紡錘状意匠か。縄文は縦位RL充填施文	加曽利EIVか
50図448	深鉢 体部中位	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄橙色	沈線で画された縦位紡錘状意匠か。縄文は縦位RL充填施文	加曽利EIVか
50図449	深鉢 体部中位	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③橙色	垂下沈線とU字状意匠上下二帯構成。区画内はRL縦位充填施文	加曽利EIV
50図450	深鉢 体部中位	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③灰黄褐色	細沈線による対向U字状意匠。細縄文LRを縦位充填施文する。磨消部研磨	加曽利EIV
50図451	深鉢 体部 340-780	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い褐色	沈線で画された磨消部弧状意匠。縄文はRL充填施文。沈線施文は深い	加曽利EIV
50図452	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い橙色	沈線で画された施文部と磨消部。縦位RL充填施文	加曽利EIV
50図453	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・輝石 ②やや軟質 ③鈍い黄橙色	垂下細沈線による懸垂文構成。磨消部には逆U字状意匠が加わる。縄文はLR縦位充填施文	加曽利EIII
50図454 PL.137	深鉢 体部中位	破片	①粗：白色粒・輝石多 ②良好 ③黄灰色	沈線で画されたU字状意匠二帯構成。RL縦位充填施文。磨消部は研磨	加曽利EIV
50図454	深鉢 体部 350-790	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③灰黄褐色	沈線で画された磨消部弧状意匠。施文部はLR充填施文	加曽利EIVか
50図456	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色	直立気味の口縁部。横位・斜位RLを施す	加曽利EIV
50図457	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色	無節Lを縦位に施す	加曽利EIVか
50図458	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い橙色	RLを縦位に施す	加曽利EIVか
50図459	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い橙色	斜位RLを施す	加曽利EIVか
50図460	深鉢 体部 340-790	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色	無節L縦位・斜位施文。乱雑な施文	加曽利EIV
50図461	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	薄手の器厚。縦位・斜位LRが器面を覆う	加曽利EIVか
50図462	深鉢 底部	1/2 4.4	①細：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③橙色	小型深鉢。外反気味に強く開く体部下半。無文で斜位研磨を施す	中期後葉
50図463	深鉢 底部	1/3 6.0	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③橙色	緩やかに外反する体部下半。無文	中期後葉
50図464	深鉢 底部 340-820	1/2 6.0	①細：白色粒・輝石 ②やや軟質 ③鈍い黄橙色	突出底部。体部下半には縦位RLを施す	中期後葉
50図465	深鉢 底部	1/1 6.0	①粗：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③橙色	外反気味に開く体部下半。底面は撫でにより平滑	中期後葉
50図466	深鉢 底部 340-820	1/1 5.6	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄橙色	強く外反する体部下半。器面摩滅	中期後葉
50図467	深鉢 底部 310-780	1/1 6.2	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明赤褐色	小径の底部。体部下半は無文で外反気味に立ち上がる	中期後葉
50図468	深鉢 底部	1/1 5.0	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	突出する小径の底部。体部は強く開く。無文	中期後葉
50図469	深鉢 底部 330-800	1/1 5.2	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色	外反気味に開く体部下半。無文で撫でにより平滑	中期後葉
50図470	深鉢 底部	1/3 6.0	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③橙色	体部下半は強く開く。無文	中期後葉
50図471	深鉢 底部	1/1 6.0	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い赤褐色	外反気味に開く体部下半。内底面は丸底を呈す。無文で器面摩滅	中期後葉
50図472	深鉢 底部	1/1 6.0	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色	厚手の器厚を呈す。内面は丸底で、体部下半は外反気味に開く。無文で、縦位研磨を施す	中期後葉
50図473	深鉢 底部 360-760	2/3 8.4	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③灰褐色	緩やかに開く体部下半。無文で縦位撫で調整を施す	中期後葉



縄文時代遺物観察表

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
50図474	深鉢 底部	1/3 6.6	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明赤褐色	突出する底部。体部下半は縦位研磨が加わる	中期後葉
50図475	深鉢 底部	1/1 6.4	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い橙色	突出する底部。薄手の体部器厚で無文	中期後葉か
50図476 PL.137	深鉢 底部	1/1 4.5	①細：白色粒・石英 ②やや軟質 ③鈍い黄橙色	外反気味に開く体部下半。無文	中期後葉か
50図477 PL.137	深鉢 底部 360-830	2/3 6.6	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い褐色	強く突出する底部。体部下半は外反気味に開く。無文で縦位研磨を施す。器面摩滅	中期後葉
50図478 PL.137	深鉢 底部	1/1 7.6	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	外反気味に開く体部下半。縦位研磨を加える。内底面は丸底。	中期後葉
50図479 PL.137	深鉢 底部	1/1 4.8	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	体部器厚薄手。無文で外反気味に開く	中期後葉
50図480 PL.137	深鉢 底部 350-770	1/2 7.2	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	外反気味に開く体部下半。厚手の器厚を呈し、内底面丸底	中期後葉
50図481 PL.137	深鉢 底部 330-790	1/2 8.4	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い黄橙色	外反気味に開く体部下半。無文。内面器壁剥落著しい	中期後葉
50図482	深鉢 底部	4/5 7.6	①粗：白色粒・石英 ②やや軟質 ③灰黄色	緩やかに立ち上がる体部下半。外器面剥落著しい	中期後葉か
50図483 PL.137	深鉢 底部	2/3 7.0	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	底面僅かに上げ底状を呈す。体部下半は無文	中期後葉か
50図484 PL.137	深鉢 底部	1/3 7.0	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	器厚薄手。開き気味に立ち上がる。無文	中期後葉か
50図485	深鉢 底部 340-820	1/1 8.5	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明黄褐色	大型の深鉢。体部下半は外反気味に開く。無文	中期後葉
50図486 PL.137	深鉢 底部 310-780	1/1 7.4	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い褐色	体部下半は外反気味に強く開く。無文で外面は縦位研磨を施す	中期後葉
50図487 PL.137	深鉢 底部 310-770	1/1 6.0	①粗：白色粒・石英 ②やや軟質 ③灰黄褐色	小径で外反気味に開く体部下半。内底面は丸底を呈す。器面摩滅する	中期後葉
50図488 PL.137	深鉢 底部	1/2 8.0	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	厚手の体部器厚を呈す。体部下半は外反気味に開く。内面丸底	中期後葉
50図489 PL.137	深鉢 体下～底部 320-770	1/3 6.6	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い褐色	やや細身の体部下半。無文で器面摩滅する	中期後葉か
50図490	深鉢 底部	1/2 5.0	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明黄褐色	台付き深鉢脚部。無文で強く外反する	中期後葉
50図491	深鉢 体部下半 340-820	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③褐色	小型の台付き深鉢。体部は隆線による懸垂文構成。縦位RLを充填する	加曾利EⅢ
50図492	深鉢 底部	破片	①粗：小礫・白色粒・石英・雲母 ②良好 ③褐色	台付き深鉢。厚手の器厚で、体部下半は強く開く。無文で粗雑な印象を得る	中期後葉
50図493	深鉢 底部 340-820	1/3 5.6	①粗：白色粒・輝石 ②やや軟質 ③淡黄色	台付き深鉢脚部。全体に丸みを帯び、縦位撫で調整が及ぶ。無文	中期後葉
50図494 PL.137	深鉢 底部 340-820	1/1 7.3	①細：白色粒・石英 ②やや軟質 ③鈍い黄橙色	小型の台付き深鉢脚部。短脚か。無文	中期後葉
50図495 PL.137	深鉢 底部	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い褐色	大型の台付き深鉢。長脚気味で体部は強く開く。無文	中期後葉か
50図496 PL.138	浅鉢 体部中位 370-760	1/4	①細：白色粒・石英 ②良好 ③明赤褐色	体部強く屈曲する。無文で外面及び頸部内面に研磨を施す	中期後葉
50図497 PL.138	浅鉢 体下～底部 340・350-820	1/1 6.8	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	薄手で、外反気味に強く開く体部下半。内底面は丸底を呈す。無文	中期後葉
50図498	深鉢 底部	1/1 8.4	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③浅黄褐色	大型の深鉢。体部下半は強く開く。底面平滑な撫でを施す	中期後葉
51図499 PL.138	浅鉢 口縁～体部	1/3 45.4	①細：白色粒・石英・輝石・雲母少 ②良好 ③鈍い褐色	口縁部強く屈曲し体部内湾する。外面丁寧な研磨、内面器壁剥落。口縁部内外面に赤彩痕残る	中期後葉
51図500	深鉢 体部 340-820	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	内外面とも赤彩痕が点在する。内面顕著。縦位密接条線が浅く施文される	加曾利EⅢか
51図501	深鉢 体部 340-820	小破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	内外面とも赤彩痕。外面、沈線部に顕著に残る。隆線による体部小区画文、縦位RLを充填する	加曾利EⅢ 大木系
51図502	深鉢 体部中位 340-820	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	磨消部と施文部に跨り、2条の赤彩幅が垂下する	加曾利EⅢ
51図503 PL.138	器台 脚部	破片	①粗：白色粒・輝石 ②やや軟質 ③赤褐色	脚部中位に径2.0cm程度の孔を設ける。無文	中期後葉
51図504 PL.138	鉢 口縁部 370-790	破片	①細：白色粒・石英 ②良好 ③灰黄褐色	口縁部直立し、肩部は強く内傾する。口縁部隆線を設け、縦位に孔を穿つ	中期後葉～末葉
51図505	深鉢 体部	破片	①細：白色粒 ②良好 ③鈍い黄褐色	小型の横位橋状把手。おそらく上下に接続する。瓢形の器形か	中期後葉～末葉
51図506 PL.138	深鉢 体部上半 310-770	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄褐色	横位橋状把手を付す。体部径は小径で、横位隆線と縦位隆線に把手を接続する。縦位無節Lを施す	中期後葉～末葉

第3章 発見された遺構と遺物

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
51図507 PL.138	鉢 体部上半 370-770	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・片岩 ②良好 ③橙色	強く内湾する体部上半。隆帯による弧状意匠が配される。おそらく渦巻文。側線は沈線	中期後葉
51図508 PL.138	土製品	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い橙色	不明土製品。あるいは突起端部か。中実で湾曲著しい。無文で撫で調整が及ぶ	時期不明
51図509	土製円盤 365-840	完形	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③橙色	径：4.8×5.7×1.0。重：26.8g。深鉢体部を利用。周縁を内外面から打ち欠く。無文	中期後葉
51図510	土製円盤	完形	①細：白色粒・輝石 ②やや軟質 ③鈍い黄褐色	3.3×3.7×0.7。重：10.5g。薄手の深鉢体部破片を利用。周縁は丁寧に調整する。無文で器面摩滅する	中期後葉か
51図511	土製円盤	完形	①粗：石英・輝石 ②やや軟質 ③鈍い赤褐色	径3.1×3.4×1.0。重：11.6g。深鉢体部破片を利用。周縁を雑に打ち欠く。RL施文か。器面摩滅	中期後葉
51図512 PL.138	深鉢 口縁部突起	破片	①細：白色粒 ②良好 ③橙色	小型の橋状把手を縦位に付した突起。側面・縁辺は沈線文と円形貼付文を施す。赤彩痕残る	称名寺
51図513 PL.138	深鉢 口縁部突起	破片	①細：白色粒 ②良好 ③灰黄褐色	波頂部に突出する扁平な環状突起。中位は貫孔する。裏面は半渦巻状意匠を配す	称名寺
51図514 PL.138	深鉢 口縁部突起	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③明赤褐色	波頂部が強く突出する。側面環状の大型起。無文だが丁寧に研磨を施す	称名寺
51図515 PL.138	深鉢 口縁部突起	破片	①細：白色粒・石英 ②良好 ③浅黄褐色	波頂下に斜位沈線を対向する。LRを充填する。側面は沈線による楕円区画、裏面は8字状貼付文か	称名寺
51図516 PL.138	深鉢 口縁部突起 390-760	破片	①細：白色粒・石英 ②良好 ③黄褐色	口縁部に突出する大型の8字状突起。内外面とも同意匠。	称名寺
51図517 PL.138	浅鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い赤褐色	口縁部屈曲部に横位沈線を3条施し、円環状意匠を配す。内面研磨	称名寺
51図518 PL.138	深鉢 口縁部 340-760	破片2点	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③明赤褐色	沈線で画された施文部J字状・スペード状意匠。無節R充填施文。補修孔を穿つ	称名寺
51図519 PL.138	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英 ②やや軟質 ③鈍い黄褐色	沈線で画された幅狭の施文部意匠文構成。無節Lを充填施文する	称名寺
51図520	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③橙色	沈線で画されたJ字あるいは銚先状意匠。細縄文RLを充填する	称名寺
51図521 PL.138	深鉢 口縁部 360-770	破片	①細：白色粒・石英 ②良好 ③明赤褐色	口唇部内面僅かに突出。沈線で画された施文部意匠文を配す。無節L充填施文	称名寺
52図522 PL.138	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い橙色	素口縁。2条沈線で画された施文部銚先状・J字状意匠か。無節Lを充填する	称名寺
52図523 PL.138	深鉢 口縁部 360-770	破片	①粗：白色粒・輝石多 ②良好 ③灰褐色	口唇部内面突出。沈線で画された施文部意匠文を配す。縄文はLR充填施文	称名寺
52図524	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③灰褐色	口唇部僅かに内屈。口縁部沈線を設け、弧状沈線も施す。LR充填施文	称名寺
52図525	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③暗灰黄色	口唇部内面肥厚。口縁部横位沈線を設け、細縄文LRを充填する	称名寺
52図526	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③赤褐色	口唇部内屈。口縁部横位沈線以下LRを充填施文する	称名寺
52図527	深鉢 体部中位	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い橙色	沈線で画されたU字状意匠二帯構成。縦位LRを充填する。磨消部は研磨	称名寺
52図528	深鉢 体部中位	破片	①粗：白色粒・輝石・チャート ②良好 ③鈍い黄褐色	沈線で画された刺突文施文部による懸垂文構成、弧状意匠。無文部ではなく、LRを充填する	称名寺
52図529	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	器厚薄手。2条の沈線で画された磨消部懸垂文構成と弧状意匠。縦位RL充填施文	称名寺
52図530	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い褐色	沈線で画された磨消部・施文部交互意匠文構成。無節L充填施文	称名寺
52図531 PL.138	深鉢 体部中位	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③灰褐色	刺突を加えた鎖状隆線による懸垂文・弧状意匠か。沈線による渦巻状意匠を配す。LR充填施文	称名寺
52図532 PL.138	深鉢 体部上半 340-810	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明赤褐色	器厚薄手で内湾する体部。細沈線に画された磨消部渦巻状意匠を配す。RL充填施文	称名寺
52図533	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	器厚薄手。2条沈線による弧状・渦巻状意匠。無節R充填施文	称名寺
52図534 PL.138	深鉢 体部 320-770	破片	①粗：白色粒・輝石 ②やや軟質 ③暗褐色	器厚薄手。沈線で画された施文部紡錘状意匠。LR縦位充填施文	称名寺
52図535	深鉢 体部中位	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③褐色	沈線で画された施文部縦位弧状意匠。あるいは紡錘状区画か。無節L充填施文	称名寺
52図536	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	垂下沈線及び弧状意匠を配す。無節L縦位充填施文	称名寺
52図537	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	沈線で画された磨消部J字状意匠か。施文部はLR縦位充填施文	称名寺
52図538	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③褐灰色	細沈線による弧状区画文構成か。RL充填施文	称名寺
52図539	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	沈線で画された磨消部逆U字状意匠。RL縦位充填施文	称名寺

縄文時代遺物観察表

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
52図540	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③鈍い黄橙色	沈線で画された施文部と磨消部。施文部は無節L縦位施文後列点状刺突文を充填する	称名寺
52図541	深鉢 口縁部 360-830	破片	①細：白色粒・石英・雲母 ②やや軟質 ③鈍い黄橙色	波頂部は渦巻状。体部は沈線による意匠文を配す。充填文は不明	称名寺
52図542 PL.138	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	口縁部屈曲し横位沈線を施す。体部は沈線で画された施文部意匠文構成。列点状刺突文を充填	称名寺
52図543 PL.138	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②やや軟質 ③鈍い褐色	口唇部は内屈し、幅狭の無文部を設ける。体部は沈線で画された施文部と磨消部交互配列によるJ字状意匠を配す。列点状刺突文を充填	称名寺
52図544	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	口縁部内屈する。2条沈線で画された施文部による意匠文。列点状刺突文を充填する	称名寺
52図545	深鉢 口縁部 310-770	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄橙色	2条の沈線で画されたJ字状意匠か。充填文は見られない	称名寺
52図546 PL.138	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・輝石 ②やや軟質 ③灰黄褐色	口縁部横位沈線以下、刺突文施文部を設ける。器面摩滅	称名寺
52図547	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	口縁部横位沈線と斜位沈線を施す。J字状意匠か	称名寺
52図548	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英 ②良好 ③橙色	沈線で画された磨消部弧状意匠。施文部J字状意匠か。LR充填施文	称名寺
52図549	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③鈍い褐色	沈線による施文部弧状意匠。刺突文の充填か。器面摩滅のため判然としない	称名寺
52図550	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明赤褐色	口縁部沈線を設けず、沈線による意匠文を配す。刺突文の充填か	称名寺
52図551	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色	口縁部細沈線以下沈線が分岐懸垂する	称名寺
52図552	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	2条の細沈線で画された施文部意匠文。LR充填施文	称名寺
52図553 PL.138	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③灰黄褐色	口縁部横位沈線以下沈線で画された磨消部意匠文が配される。LR充填施文	称名寺
52図554	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③浅黄褐色	口縁部内屈し波状縁を呈す。体部は沈線で画されたJ字状意匠か。刺突文を充填する	称名寺
52図555	深鉢 口縁部 360-830	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③赤褐色	緩やかな波状縁。口縁部に円形刺突文を充填する。以下弧線文を配す	称名寺
52図556 PL.138	浅鉢 口縁部	破片	①細：白色粒 ②良好 ③鈍い橙色	口唇部に小波状突起を付す。沈線による区画内中に列点状刺突文を施す。地文は無節Lか	称名寺
52図557	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③褐色	波頂部環状突起。突起内側線は沈線。以下2条沈線による意匠文が配される	称名寺
52図558	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い褐色	沈線で画された施文部による弧状意匠か。列点刺突文を充填する	称名寺
52図559	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③浅黄褐色	2条沈線による懸垂文構成か。あるいは縦位弧状意匠。充填文は施文されない	称名寺
52図560 PL.138	深鉢 体部上～中	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	体部中位の括れ部。器厚は薄手を呈す。沈線で画された磨消部弧状・J字状意匠。施文部は列点状刺突文。交互構成が崩れる	称名寺
52図561	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	垂下沈線による懸垂文構成。列点状刺突文を充填する	称名寺
52図562	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・小礫・チャート ②良好 ③鈍い黄褐色	沈線で画された施文部と無文部。列点状刺突文を充填する	称名寺
52図563	深鉢 体部上半	破片	①細：白色粒・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い褐色	沈線で画された施文部懸垂文構成か。列点刺突文を充填する	称名寺
52図564	深鉢 体部中位	破片	①細：白色粒・雲母・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	垂下沈線による懸垂文構成。施文部は刺突文を充填。施文は深い	称名寺
52図565	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③鈍い褐色	沈線で画された施文部と磨消部交互配列による意匠文を配す。列点状刺突文を充填	称名寺
52図566	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い橙色	沈線で画された施文部。列点状刺突文を充填する	称名寺
52図567	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・石英・雲母少 ②良好 ③鈍い褐色	浅い沈線で画された施文部意匠文。列点状刺突文を充填する	称名寺
52図568	深鉢 体部 340-850	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	沈線で画された体部意匠文。列点刺突文を充填する。器厚厚手	称名寺
52図569	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③鈍い黄褐色	沈線で画された施文部と磨消部交互配列によるJ字状意匠文か。列点状刺突文を充填	称名寺
52図570 PL.138	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③灰褐色	沈線で画された施文部内に列点状刺突文を充填する	称名寺
52図571	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・輝石・褐色粒 ②良好 ③鈍い黄褐色	沈線で画された施文部弧状意匠。列点状刺突文を充填する	称名寺

第3章 発見された遺構と遺物

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
52図572	深鉢 体部 330-770	破片	①細：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③橙色	沈線で画された体部J字状意匠。下半へ連接する	称名寺
52図573	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	沈線で画されたJ字あるいは銚先状意匠。充填文は無い	称名寺
52図574	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	沈線で画された銚先状あるいは矢印状意匠か。充填文様は見られない	称名寺
52図575	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い橙色	1条の沈線による弧状意匠。充填文は見られない	称名寺
52図576	深鉢 体部上半 370-820	破片	①白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色	1本描き沈線による方形状態垂文	称名寺
52図577	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	器厚厚手。沈線で画された弧状意匠。列点状刺突文を充填する	称名寺
52図578	深鉢 体部 310-770	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③浅黄褐色	2条の沈線による弧状意匠	称名寺
52図579	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③鈍い黄褐色	沈線による弧状意匠を配す。J字状意匠か	称名寺
52図580	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③明赤褐色	垂下沈線及び対弧状意匠が配される	称名寺
53図581 PL.138	深鉢 把手 330-780	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③橙色	橋状把手頂部に大型環状意匠を配す。中位は貫孔し沈線が縁取る。口縁部は沈線による楕円状意匠	堀之内1
53図582 PL.138	深鉢 口縁部 390-760	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③鈍い橙色	波頂部に小円孔を各所に配す。口縁部沈線を設け屈曲部に刻みを施す。頸部は8字状貼付を付す	堀之内1
53図583	深鉢 口縁部突起	破片	①粗：白色粒・石英 ②やや軟質 ③灰白色	対環状突起が突出する。側面は弧状沈線と円文、裏面も縦位沈線と円文を施す	堀之内1
53図584 PL.138	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い赤褐色	環状貼付文を付し、2条沈線を設ける。頸部は無文で下位に横位沈線を施す	堀之内1
53図585 PL.138	深鉢 口縁部 310-780	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い褐色	波頂部に小円孔を穿つ。口唇部に凹線を配す。頸部に8字状貼付文と横位沈線。体部は弧状意匠か	堀之内1
53図586 PL.138	深鉢 口縁部 370-760	破片	①細：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	口縁部双環状小突起を付し、横位沈線を設ける。内面も小孔を施す	堀之内1
53図587	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②やや軟質 ③橙色	環状突起を設け、口縁部に横位沈線を施す。器面摩滅	堀之内1
53図588	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	肥厚口縁部に円文と横位沈線を配す。体部は弧状沈線を施す	堀之内1
53図589	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・雲母 ②やや軟質 ③鈍い橙色	肥厚口縁部に円文を配す。以下頸部は外反し無文	堀之内1
53図590 PL.138	深鉢 口縁部 340-760	破片	①細：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③橙色	口縁部に小波状突起を付す。以下無文	堀之内1
53図591	深鉢 口縁部 310-770	破片	①細：白色粒・石英 ②やや軟質 ③灰黄褐色	口唇部に横位沈線を設ける。頸部は無文で体部に2条の横位沈線を配す。無節L横位施文か	堀之内1
53図592	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・輝石 ②やや軟質 ③橙色	口唇部肥厚部に深い横位沈線を設ける。体部も横位沈線を施す。器面摩滅	堀之内1
53図593	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	口縁部横位沈線を2条設け、8字状貼付文を付す	堀之内1
53図594	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③黄褐色	口唇部欠損。口縁部沈線以下、沈線による弧状区画文が配される。細縄文LRを充填する	堀之内1
53図595	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③黒褐色	口唇部欠損。口縁部横位沈線に円文を縦位に重ねる。体部は弧状沈線を配す	堀之内1
53図596	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②やや軟質 ③鈍い黄褐色	口唇部欠損。口縁部横位沈線以下に短沈線を波状に施す	堀之内1
53図597 PL.138	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い赤褐色	口縁部外反し無文。頸部隆線に刻みを施し深い沈線を側線とする	堀之内1
53図598	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い褐色	横位沈線を多段に設け、縦位刺突文を重ねる	堀之内1
53図599	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	口縁部に横位隆線3条を付す。下位隆線が幅広で、口縁部を画す	堀之内1か
53図600 PL138	深鉢 頸部～体上 330-790	破片	①粗：白色粒・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	頸部沈線2条と縦位円文を設け、体部縦位波状沈線と斜位沈線が配される	堀之内1
53図601	深鉢 体部上半 380-790	破片	①細：白色粒・雲母 ②やや軟質 ③鈍い黄褐色	縦位蛇行沈線による懸垂文構成。縦位RLを施文する。器面摩滅	堀之内1
53図602	深鉢 体部上半	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③明黄褐色	横位隆線に円形貼付文を付し、隆線が懸垂する。器面摩滅	堀之内1
53図603 PL.138	深鉢 頸部 380-770	破片	①粗：白色粒・石英・輝石多 ②良好 ③橙色	口縁部下端に横位楕円状意匠・2条の沈線を配す。横位LR充填施文	堀之内1
53図604	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い橙色	大型の深鉢か。斜位沈線と弧状線が施される。外面縦位研磨痕が顕著	堀之内1

縄文時代遺物観察表

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
53図605	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒 ②良好 ③橙色	口縁部内屈し、体部は沈線による意匠文が配される。沈線上に刺突文が重なる	堀之内1
53図606	深鉢 体部中位 350-790	破片	①細：白色粒・雲母 ②やや軟質 ③鈍い黄橙色	垂下沈線による懸垂文構成。器面摩滅	堀之内1
53図607	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い橙色	縦位細沈線による懸垂文構成か。他は無文	堀之内1
53図608 PL.138	深鉢 体部 330-760	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③鈍い橙色	無文。内面煤付着	後期か
53図609	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・輝石・雲母 ②良好 ③橙色	薄手の器厚。3条の縦位沈線が垂下する。内外面平滑	堀之内1
53図610 PL.138	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明赤褐色	細沈線による乱雑な格子目文を施す	堀之内1
53図611	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い赤褐色	対向斜位沈線による格子目状文。施文深度の差を見る	堀之内1
53図612	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英 ②やや軟質 ③橙色	器厚は薄手。縦位平行沈線群による懸垂文構成	堀之内1
53図613 PL.138	深鉢 体部 330-760	破片	①粗：白色粒・輝石 ②やや軟質 ③橙色	縦位平行沈線により画された無文部磨消文構成か。施文部は縦位平行沈線を密に施す	堀之内1
53図614	鉢 体部中位	破片	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③明赤褐色	体部屈折部に刻みを付す隆線を設け、上位に対弧状沈線を施す	堀之内1
53図615 PL.138	深鉢 体部上半	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③灰褐色	薄手で内湾する体部形態。頸部に横位沈線を設け、体部は沈線による環状意匠が配される	堀之内1
53図616	深鉢 体部中位	破片	①細：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い黄橙色	内湾部に沈線で画された渦巻状意匠が配される	堀之内1
53図617 PL.138	深鉢 口縁～体下	破片5点	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い橙色	口唇部内面に横位沈線を設け、口縁部は無文。体部は2条の沈線による弧状意匠が配される。体部下半は無文。外面研磨により平滑	堀之内1
53図618	深鉢 頸部	破片	①細：白色粒・輝石・雲母少 ②良好 ③鈍い黄褐色	頸部屈曲。体部は1本描き沈線による弧線文を重ねる。内面研磨により平滑	堀之内1
53図619	深鉢 体部中位	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②やや軟質 ③橙色	縦位無節Lが器面を覆う。器面摩滅	堀之内1
53図620	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色	薄手の器厚を呈し、内湾する体部。縦位LRが器面を覆う	堀之内1
53図621 PL.138	深鉢 体部 340-760	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③灰褐色	縦位LRを施す。器厚薄手	堀之内1
53図622	深鉢 体部 360-830	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③灰黄褐色	無節L縦位施文。間隔状の施文	堀之内1
54図623	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い黄橙色	縦位LRが施される	堀之内1
54図624	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色	縦位LRを施す	堀之内1
54図625	深鉢 体部下半	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③橙色	器厚薄手。縦位RLが施される	堀之内1
54図626	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③灰褐色	細縄文LRを縦位に施す。内面平滑	堀之内1
54図627	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③暗灰黄色	横位RLを施す	堀之内1か
54図628	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色	薄手の器厚を呈す。縦位LRが覆う	堀之内1
54図629	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	器厚薄手、内湾する体部形態。斜位RLが器面を覆う	堀之内1
54図630	深鉢 体部下半	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明黄褐色	器厚薄手。縦位LRが覆う	堀之内1か
54図631	深鉢 体部下半	破片	①細：白色粒・輝石 ②やや軟質 ③明黄褐色	縦位LRが施される。下半削り調整	堀之内1
54図632	深鉢 体部下半	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い橙色	細縄文LR縦位施文	堀之内1
54図633 PL.138	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍いか	口唇部に幅広の鎖状隆帯を設ける。以下は無文で縦位削り調整を施す	堀之内1
54図634	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英 ②やや軟質 ③橙色	無文の口縁部。器面摩滅	堀之内1
54図635 PL.138	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い橙色	横位・斜位撫で調整を顕著に残す	堀之内1
54図636 PL.138	深鉢 口縁部	破片2点 31.6	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い橙色	直立気味の口縁部。斜位撫で調整痕跡が顕著に残る	後期

第3章 発見された遺構と遺物

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
54図637	深鉢 体部下半	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	無文の体部下半。内外面とも縦位研磨により平滑	
54図638	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③鈍い黄橙色	垂下沈線下端部を見る。平滑な外面	堀之内1
54図639 PL.139	深鉢 体部下半 320-760	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄橙色	強く開く体部下半。無文。内面加熱のため黒変	後期か
54図640	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	口唇部内屈。沈線による重幾何学文構成。施文は深い	堀之内2
54図641 PL.139	深鉢 口縁～体上遺 構外	破片2点	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③灰褐色・鈍い褐色	口唇部内折。沈線で画された縄文施文部と沈線による重幾何学文構成。LR横位充填施文	堀之内2
54図642	深鉢 体部上半 340-780	破片	①細：白色粒・輝石・雲母 ②良好 ③暗赤褐色	沈線による菱形の幾何学文構成	堀之内2
54図643	深鉢 体部	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い赤褐色	沈線で画された横位縄文施文部以下沈線による多重三角状の幾何学文構成	堀之内2
54図644 PL.139	深鉢 底部 360-840	1/2 5.2	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い赤褐色	小型深鉢、あるいはミニチュアか。体部下半は直立気味に立ち上がる	後期か
54図645 PL.139	注口土器 底部 320-770	1/1 4.2	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	器厚薄手で。体部下半は内湾気味に強く開く。無文	後期か
54図646	深鉢 底部	2/3 5.5	①細：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③浅黄橙色	体部器厚薄手で、外反気味に開く。無文	後期か
54図647 PL.139	深鉢 底部 8.0	1/3 8.0	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色	張り出し底部。体部下半は外反気味に開く。無文	後期
54図648	深鉢 底部	1/2 8.0	①細：白色粒・石英 ②良好 ③浅黄橙色	体部器厚薄手で、強く開く。無文で、撫でにより平滑	後期か
54図649 PL.139	深鉢 底部 7.0	1/1 7.0	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い橙色	底部突出し張り出す。体部下半は内湾気味に強く開く。無文	後期か
54図650 PL.139	深鉢 体下～底部 330-780	1/1 9.9	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い橙色	張り出し底部。厚手の器厚を呈す。底面網代痕、2種類の網代を観察する。体部下半に煤付着	後期
54図651 PL.139	深鉢 底部	1/2 14.4	①粗：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③赤褐色	大型の深鉢。直線的に立ち上がる。底面に網代痕残る。内面器壁剥落著しい	堀之内
54図652 PL.139	浅鉢 口縁部 370-770	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色	口縁部内面に横位沈線群を配す。外面は無文。内面研磨	加曾利 B 1
54図653 PL.139	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③暗灰黄色	口縁部小突起。以下横位沈線を多段に配し、対弧状短沈線を加える。無節Lを横位に施す	加曾利 B 2
54図654 PL.139	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英 ②良好 ③黒褐色	口縁部下及び体部上半に横位沈線2条を施し、横位LRを充填する。内外面研磨	加曾利 B 2
54図655 PL.139	深鉢 口縁部 340-820	破片	①細：白色粒・石英 ②良好 ③黒褐色	口唇部に刻み。口縁部に対弧状沈線文を配し、無節Lを加えた横位隆線を設ける。側線は沈線。以下斜位沈線と刺突文を施す。内外面研磨	加曾利 B 2
54図656 PL.139	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色	緩波状縁か。口縁部に円形刺突文。以下横位沈線2条間に刺突文を加える	加曾利 B 2
54図657 PL.139	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い赤褐色	口縁部2条沈線間に刻みを連続する。口縁部突起は欠損。内外面研磨	加曾利 B 2
54図658 PL.139	深鉢 口縁部 350-770	小破片	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母 ②良好 ③明赤褐色	口縁部に横位弧線を設け、円文を施す。口唇部に横位LRを充填する	加曾利 B 2
54図659 PL.139	深鉢 口縁部 340-820	破片	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③灰褐色	強い押圧を加えた鎖状隆帯で口縁部を画し、斜位沈線を充填する。体部は縦位弧状沈線を施す。	加曾利 B 1
54図660	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・輝石・雲母 ②良好 ③明赤褐色	口縁部に鎖状隆帯を付し、以下斜位沈線を充填する。矢羽状構成か	加曾利 B 1
54図661 PL.139	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い橙色	口唇部肥厚し、刻みを付す隆帯を加える。体部は横位沈線を地文とし、縦位波状沈線を施す	安行2
55図662 PL.139	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英 ②良好 ③明赤褐色	小突起を付す波状縁。凹線が沿い平行沈線が重なる。以下横位沈線間に斜位刻みを施す	高井東
55図663 PL.139	深鉢 体部上半	破片	①粗：白色粒・石英 ②やや軟質 ③鈍い褐色	頸部屈曲部に刻みを加えた貼付文を付す。体部は無文	安行3 bか
55図664 PL.139	深鉢 口縁部	破片	①粗：輝石 ②良好 ③褐灰色	薄手の器厚。口唇部に小突起。口縁部横位沈線3条に刺突を加え、シダ状文を施す	大洞 B C
55図665 PL.139	深鉢 口縁部 340-780	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い橙色	口縁部に複列の横位結節沈線を施す。以下無文	晩期か
55図666 PL.139	深鉢 体部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②やや軟質 ③灰黄褐色	薄手の器厚。2条の弧状沈線間に円形刺突文が施される。	晩期か
55図667 PL.139	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③黒褐色	内面折り返し口縁。口縁部鑿状工具による強い横位撫でにより段をなす。無文	晩期か
55図668	深鉢 口縁～体上	破片	①粗：白色粒・小礫 ②良好 ③明赤褐色	波状縁。内面折り返し状口縁。口縁部横位撫で、体部器壁は剥落著しい	晩期か

縄文時代遺物観察表

挿図NO. 図版NO.	器種・部位 出土位置	法量・残存 (単位はcm・g)	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等					備 考
55図669 PL.139	深鉢 口縁部	破片	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色	折り返し口縁。指頭圧痕が加わる					晩期か
55図670 PL.139	深鉢 口縁部	破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③灰黄褐色	口縁部内湾し、口唇部内面突出する。無文で、加熱のため器面剥落する					晩期か
55図671 PL.139	深鉢 頸部	破片	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い赤褐色	横位沈線を多段に設け、刺突文を加える。斜位沈線も配される。細縄文LRを横位に施す					弥生中期か
55図672	甕 体部	破片	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	4・5条単位の櫛歯状工具による横位波状文を多段に重ねる					弥生後期
55図673 PL.139	蓋 口縁部	1/4 (11.4)	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③外：赤色 内：黒褐色	小型の蓋。小孔を2ヶ1対で穿ち、隆線による弧状区画を配す。外面赤色塗彩を施す					後期初頭か
55図674 PL.139	蓋 370-760	1/2 (14.0)	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い褐色	把手欠損。径14.0、高さ2.4cmを測る。天井部は突出気味で把手を両側に付す。口唇部に刻みを施す					後期初頭か
挿図NO.	図版NO.	器種・形態	出土位置	石材	長さ	幅	重量	備 考	
56図1	PL.139	凹基無石鏃		黒曜	1.9	1.4	0.5	局部磨製石鏃	
56図2	PL.139	凹基無石鏃		黒頁	1.6	1.1	0.3	風化が激しい。形態的には完成状態にある。	
56図3	PL.139	凹基無石鏃		赤碧	2.2	1.3	0.6	加工は丁寧で、完成状態にある。	
56図4	PL.139	凹基無石鏃		チャ	2.4	1.5	1.2	加工は丁寧で、器体は薄い。完成状態。	
56図5	PL.139	凹基無石鏃	357-767	黒頁	1.9	1.9	0.8	基部を浅く抉る。加工は丁寧で、完成状態。	
56図6	PL.139	凹基無石鏃		チャ	2.1	1.9	1.2	先端部を破損。形態的には完成状態。	
56図7	PL.139	凹基無石鏃		チャ	2.1	2.3	1.8	剥離は大きく、製作途上の破損？	
56図8	PL.139	凹基無石鏃		チャ	2.6	1.9	1.9	先端は尖り気味で、加工状態は完成状態にある。石器形状は先端リダクションの影響？	
56図9	PL.139	凹基無石鏃		黒安	2.2	2.1	1.4	基部を大きくU字状に抉り込む。完成状態。	
56図10	PL.139	石鏃		チャ	3.0	2.0	3.3	浅く粗い剥離が全面を覆う。未製品。	
56図11	PL.139	石鏃		チャ	3.0	2.4	4.5	やや粗い加工で、凹基鏃様の基部を作出。	
56図12	PL.139	凸基有石鏃		チャ	2.3	1.7	1.5	加工は丁寧で、完成状態に近い。	
56図13	PL.139	凸基有石鏃		流紋	1.8	1.3	0.7	石器下半を大きく抉り込み「土」状の茎を作出。加工は粗い。形態的には完成状態。	
56図14	PL.139	石錐（ドリル）	350-770	チャ	2.4	2.9	2.5	剥離面の稜は新鮮。製作途上に破損？	
56図15	PL.139	横型石匙	366-780	黒頁	2.0	1.6	7.2	剥片の打面側に爪み作出。刃部は未加工。	
56図16	PL.139	楔形石器		チャ	3.3	3.1	11.5	表裏面に対向する剥離面が特徴的。剥片を厚味を減じるための剥離と見られる。	
56図17	PL.139	削器		チャ	6.3	6.3	57.9	石核を転用、周辺に粗い刃部を作出。	
56図18	PL.139	削器		ホルン	6.9	10.1	176.9	石斧の破片を再生、上下両面に刃部作出。	
56図19	PL.139	分銅型打製石斧	330-770	ホルン	12.4	7.0	150.4	装着部は上半部に偏り、形態は非対称。	
56図20	PL.139	分銅型打製石斧		チャ	13.2	6.4	168.6	上半部に装着部。刃部磨耗・捲縛痕が顕著。	
56図21	PL.139	分銅型打製石斧		ホルン	14.2	7.3	251.6	上半部に装着部。風化で磨耗痕等は不明。	
56図22	PL.140	分銅型打製石斧		ホルン	13.6	5.4	151.1	細身。左側縁側の側縁から刃部を再生？	
56図23	PL.140	分銅型打製石斧		ホルン	10.3	7.3	134.9	風化で磨耗痕等は不明。完成状態。	
56図24	PL.140	分銅型打製石斧		ホルン	11.2	7.5	127.6	風化で磨耗痕等は不明。完成状態。	
56図25	PL.140	分銅型打製石斧		ホルン	9.6	9.6	154.6	製作時に破損した同型の石斧破片を用いたもの。加工は粗く、未製品。	
57図26	PL.140	分銅型打製石斧	340-780	ホルン	13.2	9.2	332	右側縁をノッチ状に抉り、刃部は直線的。糸巻き状を呈する中・後期に特有な石斧。	
57図27	PL.140	分銅型打製石斧		ホルン	12.2	8.1	395	右側縁は損後、敲打具に転用。	
57図28	PL.140	分銅型打製石斧		ホルン	12.4	8.2	260.7	刃部下端に大きな剥離面。刃部再生？	
57図29	PL.140	短冊型打製石斧	370-770	ホルン	8.5	3.8	41.1	刃部リダクションが明らか。	
57図30	PL.140	分銅型打製石斧		ホルン	20	12.8	958.8	着柄部は両側縁とも潰れている。完成状態。	
57図31	PL.140	撥型？打製石斧	370-780	ホルン	13	6.5	193	やや細身の基部に幅広の体部が付く。側縁の磨耗が著しい。刃部再生を受けている。	
57図32	PL.140	短冊型打製石斧		細安	14.5	8.5	378.5	裏面側左側縁・刃部を再生加工。	
57図33	PL.140	打製石斧石鏃		ホルン	15.5	11.2	903.7	刃部中央左をリダクション。刃部磨耗・捲縛痕等は風化して不明。	
57図34	PL.140	定角磨製石斧		変安	11.8	4.4	214.6	刃部の著しい刃こぼれ。	
57図35	PL.140	定角磨製石斧		変安	9.3	4.8	215.3	風化が激しく、剥落が著しい。	
57図36	PL.140	定角磨製石斧		蛇紋	2.8	1.6	4.5	下半を欠き、詳細は不明。	
57図37	PL.140	加工痕ある剥片		硬頁	3.5	1.5	2.8	石器基部に細部加工を錯向的に施す。非在地石材を用いる。旧石器？	
57図38	PL.140	垂角礫石核		チャ	9.3	3.4	153	石核の上下両端で小形剥片を剥離。	
57図39	PL.140	楕円礫凹石	365-840	粗安	8.8	7.0	374.5	表面にロート状の孔1、裏面に集合打痕1。	
57図40	PL.140	楕円礫凹石	390-770	粗安	9.1	8.0	485.6	表裏面に孔1を穿つ。側縁敲打が顕著。	
58図41	PL.140	扁平礫凹石		粗安	14.9	10.5	955.6	表裏面に孔2を穿つ。周縁の打痕が著しい。被熱。	
58図42	PL.140	扁平礫凹石	330-780	粗安	14.7	7.8	669.7	側縁敲打が著しく、稜を形成。	
58図43	PL.140	長円礫凹石	390-770	粗安	14.1	8.0	509.8	表裏面に孔1を穿つ。側縁の打痕・磨耗が著しい。石礫型。	
58図44	PL.140	長円礫凹石		粗安	14.7	7.4	714.2	表裏面に孔を各2穿つ。小口両端に打痕。	
58図45	PL.140	扁平礫凹石	360-780	粗安	11.4	8.6	507.6	表裏面に打痕・磨耗痕。側縁にも打痕。	
58図46	PL.140	楕円礫凹石		粗安	9.9	6.6	414.5	小口両端に顕著な打痕。	
58図47	PL.140	楕円礫凹石		粗安	6.2	5.8	199.1	表面側に孔1を穿つ。周縁の打痕が顕著。	

第3章 発見された遺構と遺物

挿図NO.	図版NO.	器種・形態	出土位置	石材	長さ	幅	重量	備考
58図48	PL.141	楕円礫磨石		粗安	8.6	8.0	63.3	周縁に顕著な打痕・磨耗痕。
58図49	PL.141	扁平礫磨石	340-780	粗安	10.4	9.0	510.5	表裏面が磨耗。周縁に顕著な打痕。
58図50	PL.141	楕円礫磨石		粗安	9.8	8.2	683.8	表裏面が磨耗。左側縁に顕著な打痕。
58図51	PL.141	楕円礫磨石	350-820	軽石	7.6	6.4	117.6	裏面中央が大きく窪み、部分的に磨耗している。加工意図は不明。
59図52	PL.141	有縁石皿		粗安	11.2	8.1	396.6	使用面は打痕が著しい。ミニチュアタイプ。
59図53	PL.141	有縁石皿		粗安	11.3	20.9	1390.4	表裏面に機能部。裏面の磨耗が著しい。
59図54	PL.141	扁平礫石皿		粗安	19.5	15.7	2223.1	裏面側に孔1を穿つ。小口は損部を研磨。
59図55	PL.141	円礫敲石		粗安	4.7	4.4	101.6	上下両端に打痕・磨耗痕。
59図56	PL.141	有縁石皿		粗安	18.8	16.5	2471.9	機能部が下端に偏り、石皿としては特殊。類例は少ないようだが、その存在は確実。
59図57	PL.141	有溝石錘	350-790	輝凝	6.2	3.3	27.7	表面側に線状痕。裏面側を欠く理由は不明。
59図58	PL.141	亜角礫砥石		砂岩	10.9	5.9	408.4	背面側全面に研磨。浅い溝状の研磨痕。
59図59	PL.141	板状礫砥石		砂岩	5.2	4.3	31.9	表面側に浅い溝状の研磨痕がある。
59図60	PL.141	板状礫砥石		粗安	9.7	11.2	285	表裏面に顕著な磨耗痕。線状痕は不明瞭。
59図61	PL.141	扁平礫台石		粗安	10.6	8.7	329.1	表面に打痕・磨耗痕。裏面に打痕。
59図62	PL.141	楕円歴多孔石	340-820	粗安	38.4	28	15500	表裏面に孔を穿つ。左側縁中央に打痕が集中、整形痕とすべきだろうか。
60図63	PL.141	扁平礫多孔石		粗安	21.3	17.4	2359.9	表裏面に孔を穿つ。裏面磨耗は置きズレ?
60図64	PL.141	亜角礫多孔石		粗安	19	20.4	4700	表裏面に孔を穿つ。被熱破損?
60図65	PL.141	楕円球礫多孔石		粗安	23.4	16.3	6450	表裏面に多数の孔を穿つ。
60図66	PL.141	楕円礫多孔石	350-770	粗安	31.4	22.4	10900	表裏面に孔多数。上端左を打撃、整形。
60図67	PL.141	多孔石		粗安	18.4	24.4	4600	表裏面に孔多数。表面右側に打痕を集中、溝状に整形。表裏面とも突出部は磨耗。
60図68	PL.141	扁平礫多孔石	365-840	粗安	17.4	10.7	994.1	多孔石を後に砥石として再利用。表面および破損部に幅1mm前後の鋭い線状痕。
60図69	PL.141	石棒		緑片	6.6	3.0	90.4	敲打痕を明瞭に残す。未製品。
60図70	PL.141	単頭石棒	340-780	砥沢	18.6	5.6	652.1	グリップエンド様の頭部。頸部横位線状痕。
60図71	PL.141	扁平礫石製品		粗安	14.5	17.7	1220	表裏面に皿状の凹部。背面側磨耗は顕著。

表1 1区出土石器器種・石材一覧表

器種	ホル	チャ	珪頁	硬頁	黒安	黒頁	黒曜	玉髓	赤碧	流紋	変安	細安	粗安	砂岩	輝凝	蛇紋	砥沢	緑片	軽石	計
打斧	49	1	1									1	1							53
磨斧											2					1				3
石鏃		15			1	2	1	1	1	1										22
石匙						1														1
石錐		1																		1
楔		1																		1
削器	2	2																		4
石核		4																		4
加工痕	6	13		1	1	2														23
石錘															1					1
凹石													13							13
磨石													3						1	4
敲石													1							1
石皿													6							6
台石													1							1
多孔石													12							12
石製品													1				1			2
石棒																	1	1		2
砥石													1	2						3
計	57	37	1	1	2	5	1	1	1	1	2	1	39	3	1	1	2	1	1	159

表2 1区出土打製石斧型式表

型式	点数
短冊型	8
撥型	2
分銅型	40
石鏃	2
不明	1
計	53

表3 1区出土石鏃型式表

型式	点数
凹基無茎鏃	16
凸基有茎鏃	2
不明	4
計	22



表4 包含層出土剥片・礫・礫片数量表

石材/器種	剥片		礫・礫片		備考
	点数	重量g	点数	重量g	
ホルン	58	2381.7	25	907.6	渡良瀬流域
チャ	135	1360.7	54	1577.6	渡良瀬流域
珪頁	3	111.4	8	202.2	渡良瀬流域
頁岩	6	89.2	7	79.2	渡良瀬流域
黒頁	4	107.2	1	27.5	利根川流域
黒安	6	50.7	0	0	利根川流域
黒曜	3	3.5	0	0	信州産?
泥岩	0	0	3	22	渡良瀬流域
砂岩	0	0	16	315.6	渡良瀬流域
凝砂	0	0	4	115.8	渡良瀬流域
珪粘	0	0	4	28.6	渡良瀬流域
細安	0	0	1	5.2	
変安	0	0	1	99.1	
変玄	0	0	2	27.6	
粗安	0	0	36	14873.9	渡良瀬流域
石英斑	0	0	6	129.9	渡良瀬流域
溶結凝灰	0	0	21	1747.5	渡良瀬流域
未固凝灰	0	0	2	76.5	渡良瀬流域
金山石	0	0	8	187.8	渡良瀬流域
流紋岩	0	0	1	12.2	渡良瀬流域
石英	0	0	1	4.4	
白雲母	0	0	10	8.7	
軽石	0	0	1	20.8	
計	215	4104.4	212	20469.7	

## 第2節 古墳時代後期～平安時代の遺構と遺物

古墳時代後期（飛鳥時代）～平安時代前期にかけての掘立柱建物跡32棟、柱穴列跡3条、竪穴建物跡155棟、溝跡9条、井戸跡14基、粘土採掘坑2基、土坑跡111基、pit370基などの遺構が検出された。古代に形成された集落としての様相を呈している。

西に隣接する大道東・大道西遺跡などからも同時代の集落を構成する遺構が多数検出されており、これらの遺跡と一体的に連関する集落と考えられる。

### 第1項 掘立柱建物跡・柱穴列跡

掘立柱建物跡は51～82号の32棟、柱穴列跡が1～3号の3条がそれぞれ検出されている。調査区の全域で検出されている。

掘立柱建物跡はいずれも桁行3間×梁間2間程度の小規模な側柱建物か、2～3間四方ないし桁行2～3間×梁間1～2間程度の総柱建物跡である。建物の主軸は、東西棟か南北棟が多く、ほぼ半々。さらに東北～南西ないし西北～南東方向のものも何棟もあり、それらの角度も不揃いで、全体的にはまちまちで、整然と配置されたものではないと言えよう。

掘立柱建物跡は調査区全体に散在している。検出状況からは、計画的な建物配置がなされた形跡は看取しがたいところで、官衙やその関連施設あるいは在地首長居宅などの一部を構成した建物とは考えにくい。建物跡の規模や検出状況から見ても、集落的な様相と言えらる。

#### (1) 51号掘立柱建物跡

**位置：**調査区南東隅。X315~320・Y-765~770Gr.  
**主軸方位：**N-9° -W **重複：**201・224号竪穴建物跡に掘り込まれる。1082号土坑跡、52・53号掘立柱建物跡とほぼ同位置に重複するが新旧関係は不明。  
**規模と形状：**桁行3間×梁間2間の南北に長い側柱

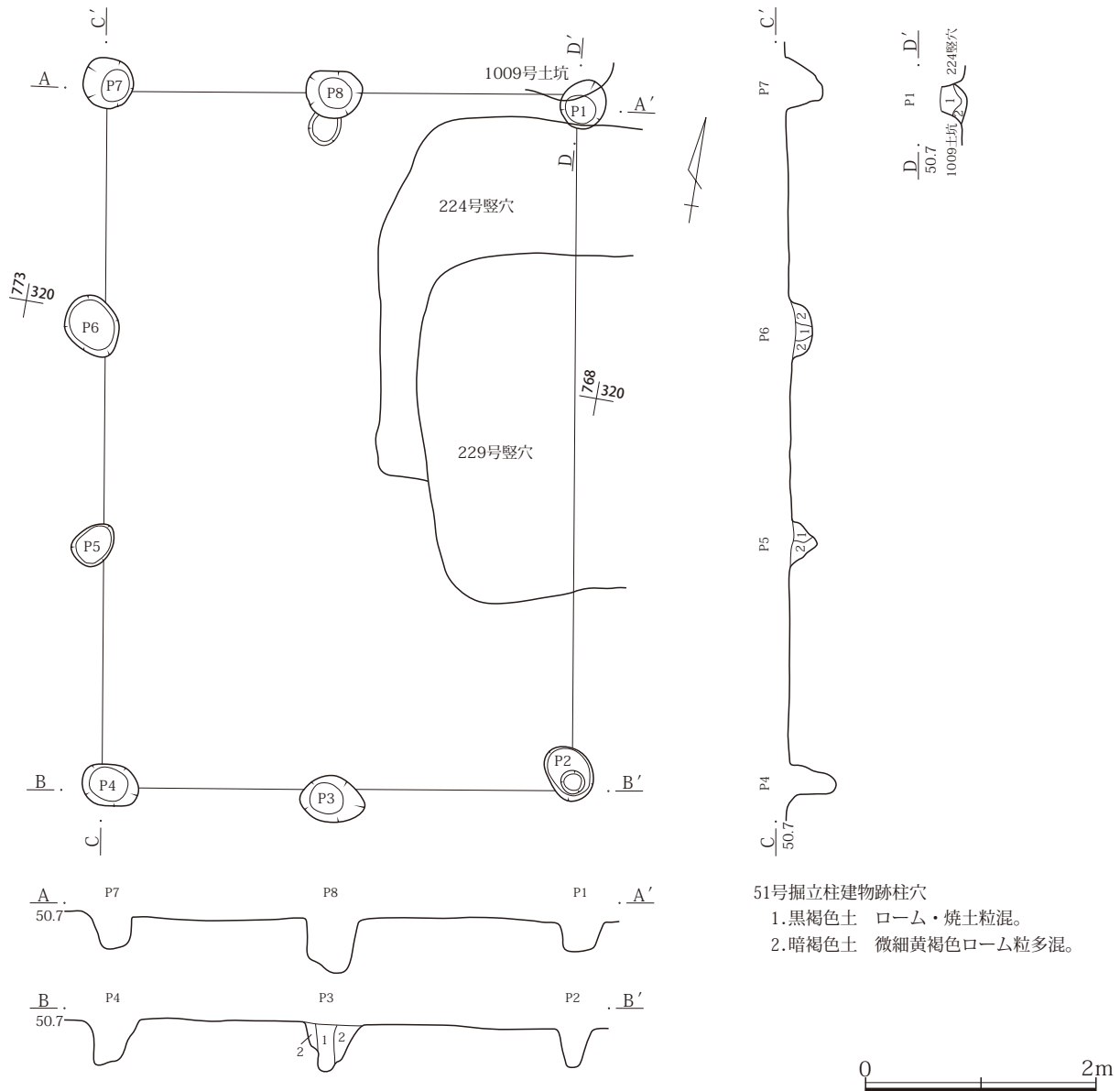
建物で、長辺約6m・短辺約4m、柱間は約1.4～1.6mである。**柱穴：**柱穴跡は8基検出され、いずれもほぼ円形状を呈し、規模は小さいがしっかりと掘方をする。柱痕が明瞭に検出されたのはpit3・pit6のみで、柱痕径は約0.17m。**pit1**長径0.45m・短径0.4m・深さ0.27m、**pit2**長径0.5m・短径0.4m・深さ0.35m、**pit3**長径0.58m・短径0.42m・深さ0.42m、**pit4**長径0.52m・短径0.38m・深さ0.4m、**pit5**長径0.42m・短径0.32m・深さ0.22m、**pit6**長径0.56m・短径0.44m・深さ0.18m、**pit7**長径0.48m・短径0.43m・深さ0.3m、北辺中央**pit8**長径0.5m・短径0.42m・深さ0.48m。**柱穴埋土：**暗褐色土ベース。**時期：**古代。**遺物：**なし。

#### (2) 52号掘立柱建物跡

**位置：**調査区南東隅。X315~320・Y-765~770Gr.  
**主軸方位：**N-9° -W **重複：**201・224号竪穴建物跡に掘り込まれる。1082号土坑跡、51・53号掘立柱建物跡とほぼ同位置に重複するが新旧関係は不明。  
**規模と形状：**桁行×梁間2間の方形の側柱建物で、方4.5m、柱間は約1.8～1.9mである。**柱穴：**柱穴跡は6基検出され、いずれもほぼ円形状を呈し、規模は小さい。柱痕は明瞭に検出されなかった。**pit1**径0.42m・深さ0.28m、**pit2**長径0.4m・短径0.32・深さ0.13m、**pit3**長径0.42m・短径0.35m・深さ0.32m、**pit4**長径0.5m・短径0.37m・深さ0.23m、**pit5**長径0.32m・短径0.3m・深さ0.3m、**pit6**長径0.37m・短径0.32m・深さ計測不能、201号竪穴建物跡によって掘り込まれ破壊されているので、底部のみが辛うじて検出。**柱穴埋土：**暗褐色土ベース。**時期：**古代。**遺物：**なし。

#### (3) 53号掘立柱建物跡

**位置：**調査区南東隅。X315~320・Y-760~765Gr.  
**主軸方位：**N-1° -W **重複：**201・224号竪穴建物跡に掘り込まれる。1082号土坑跡、51・52号掘立柱建物跡とほぼ同位置に重複するが新旧関係は不明。  
**規模と形状：**桁行2間×梁間1間の南北に長い長



第61図 51号掘立柱建物跡

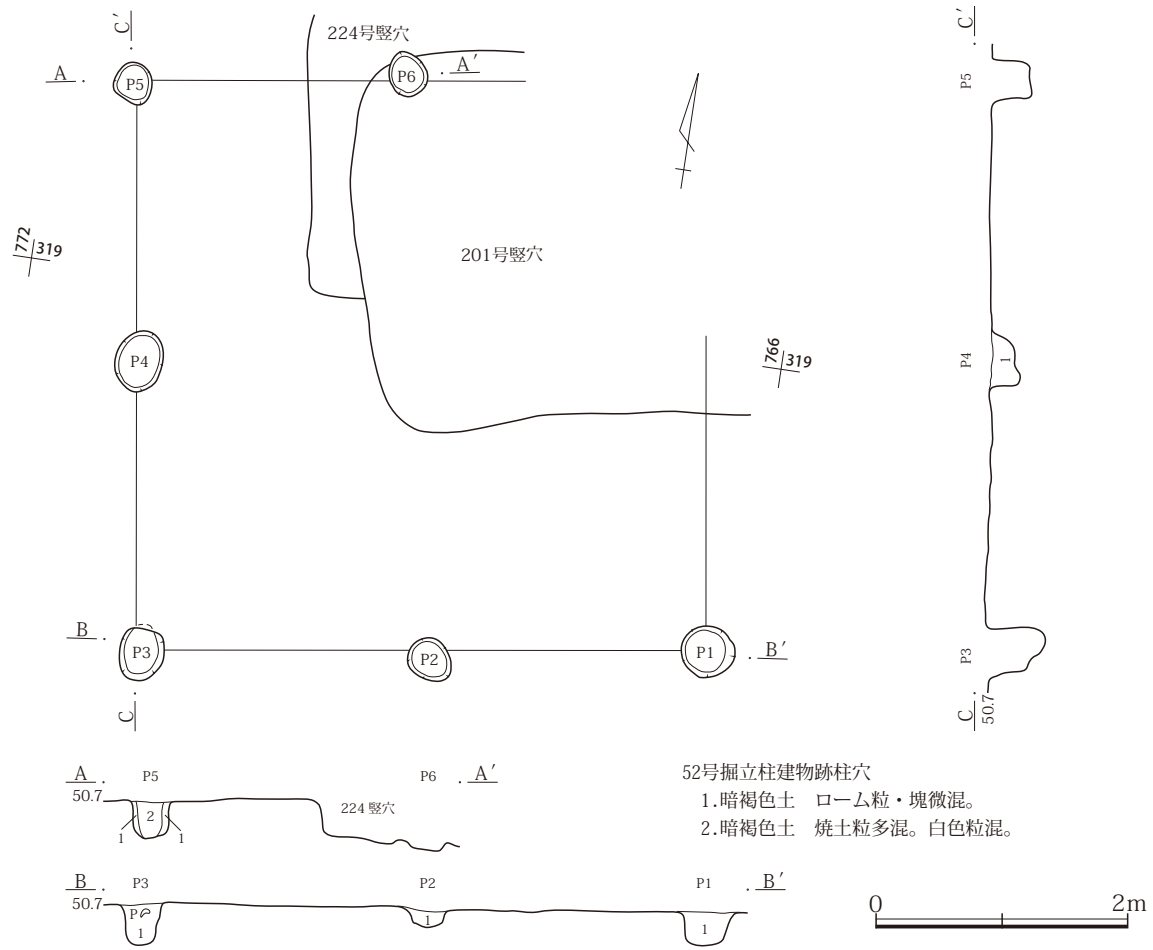
方形側柱建物で、長辺4m・短辺2.8m、柱間は約1.4~2.2mである。ほぼ同一位置で3棟重複して検出された51~53号掘立柱建物跡の中では最も小規模な建物である。柱穴：柱穴跡は4基検出され、いずれもほぼ円形状を呈し、規模は小さいがしっかりと掘方を有する。柱痕は明瞭に検出されなかった。pit1長径0.59m・短径0.48m・深さ0.32m、pit2長径0.61m・短径0.52m・深さ0.37m、pit3長径0.5m・短径0.43m・深さ0.49m、pit4長径0.56m・短径0.45m・深さ0.47m。柱穴埋土：暗褐色土ベース。時期：古代。遺物：なし。

(4) 54号掘立柱建物跡

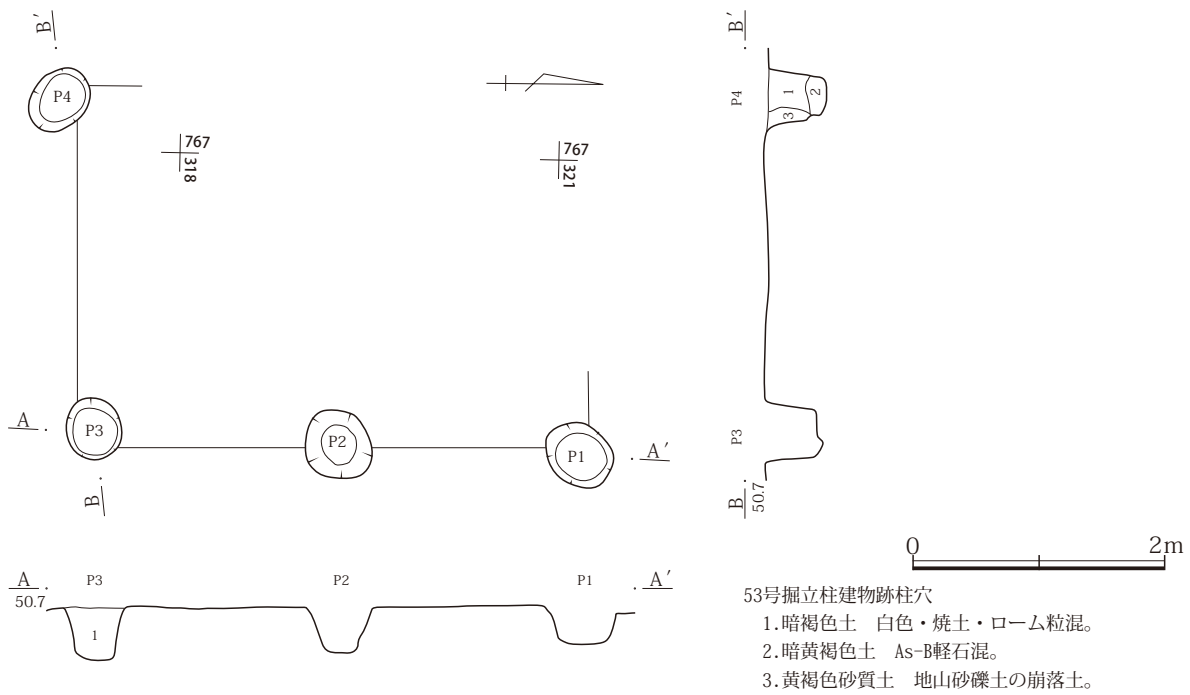
位置：調査区南西隅。X315・Y-765~770Gr. 主軸方位：N-89° -W 重複：1002~1005号土坑跡。

規模と形状：北辺のみ検出された。全容は不明。桁行3間の東西に長い長方形建物と推定できる。北辺は6.7m、柱間は約1.6~2.2mである。柱穴：柱穴跡は4基検出され、いずれも楕円形状を呈し、規模は小さい。柱痕は明瞭に検出されなかった。pit1長径0.34m・短径0.32m・深さ0.24m、pit2長径0.3m・短径0.24m・深さ0.22m、pit3長径0.5m・短径0.33m・深さ0.32m、pit4長径0.43m・短径0.36

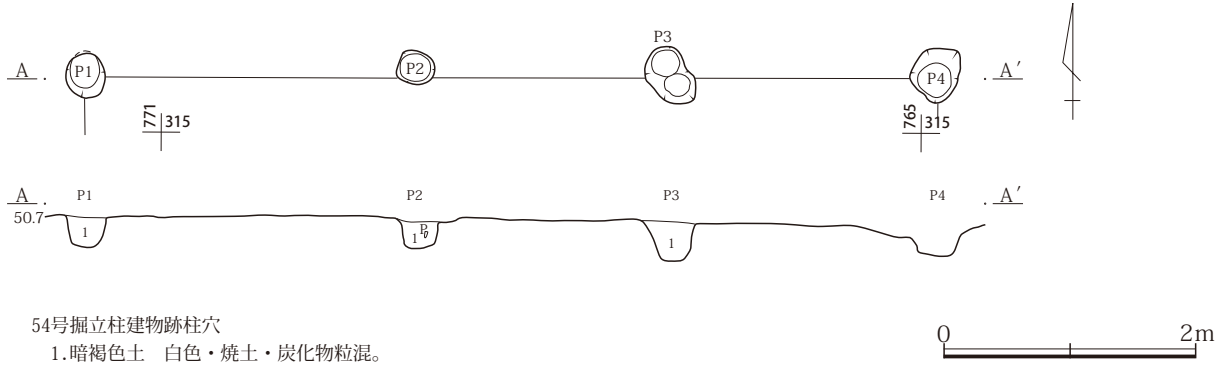
第3章 発見された遺構と遺物



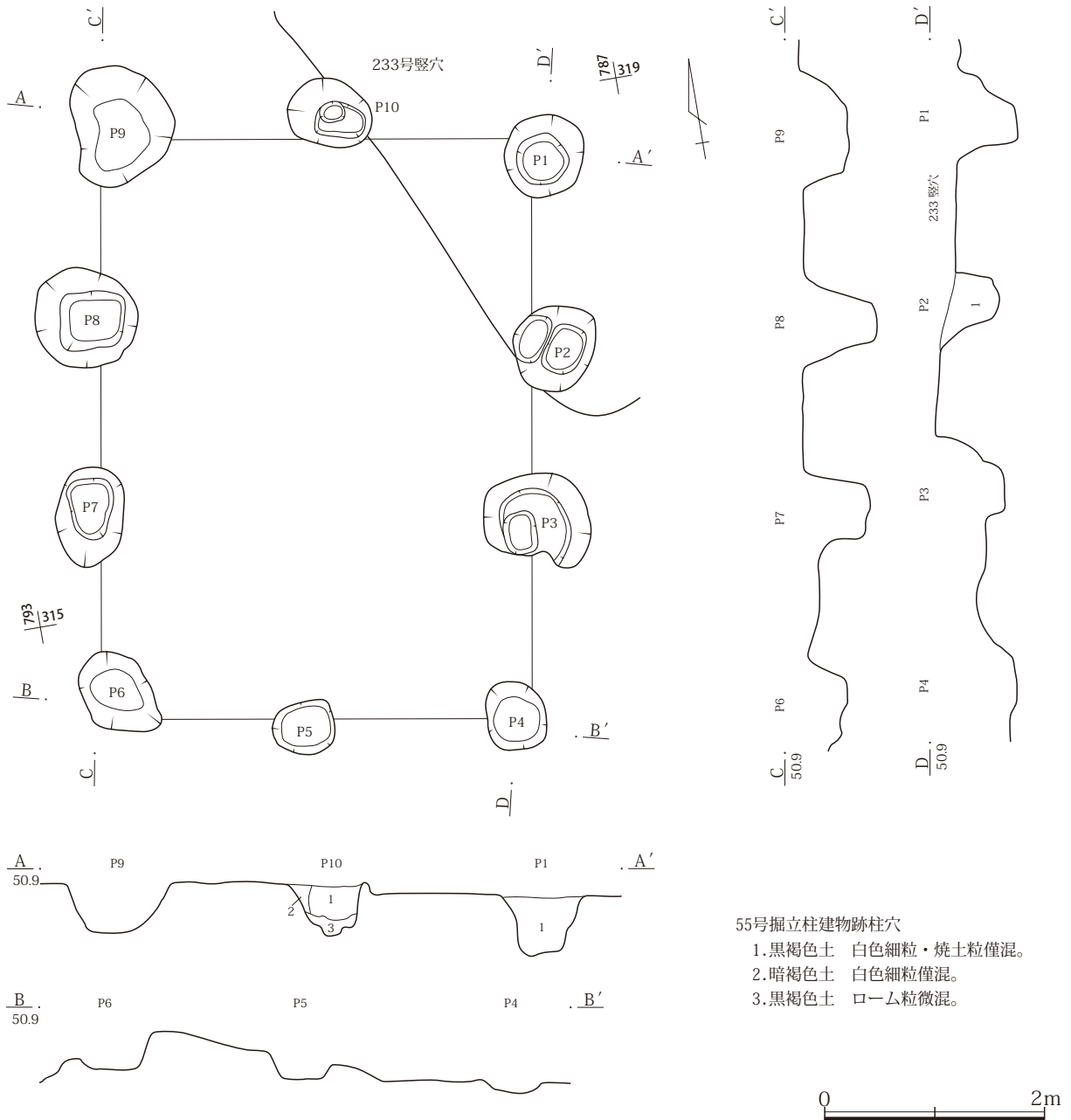
第62図 52号掘立柱建物跡



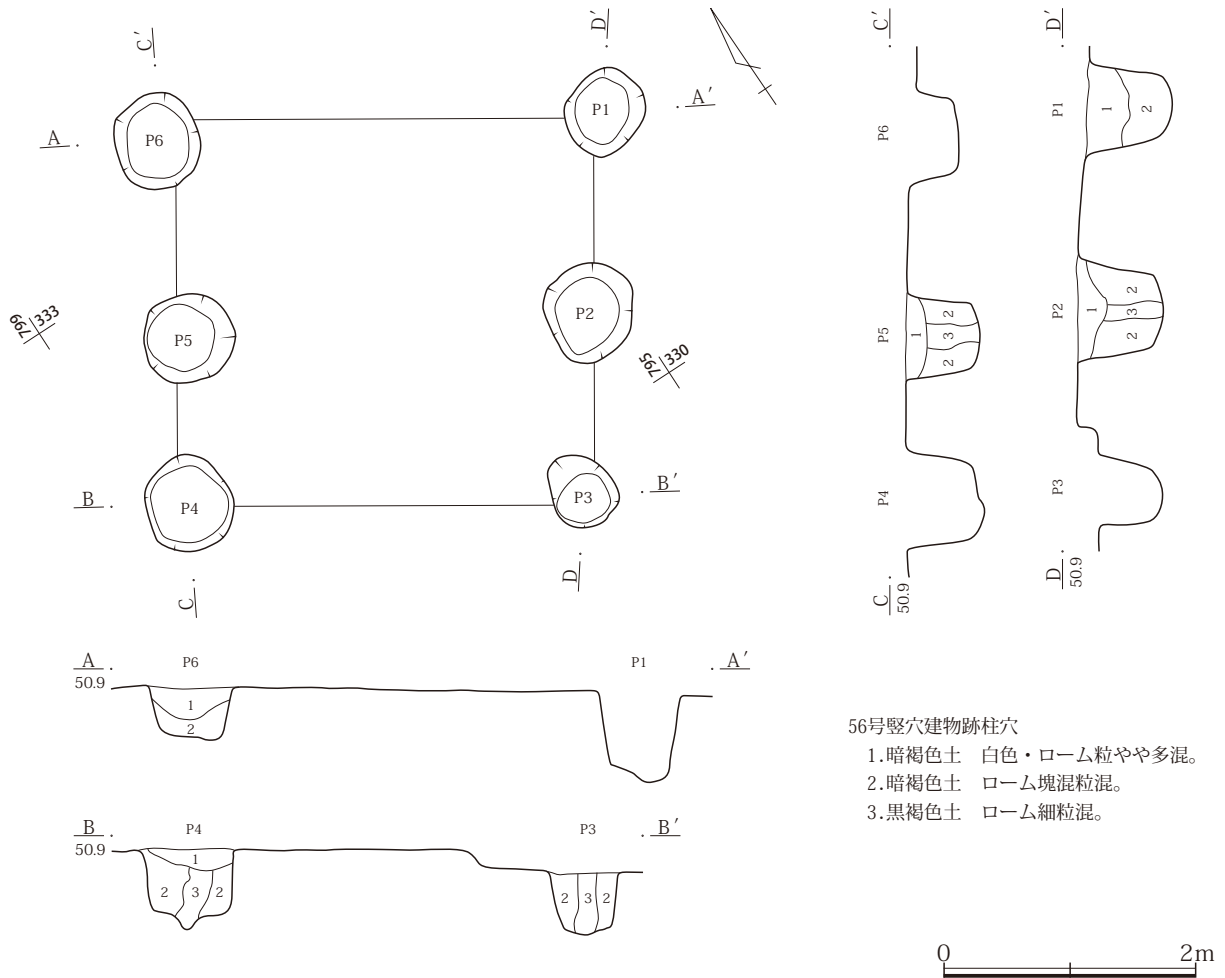
第63図 53号掘立柱建物跡



第64図 54号掘立柱建物跡



第65図 55号掘立柱建物跡



第66図 56号掘立柱建物跡

m・深さ0.25m。 柱穴埋土：暗褐色土ベース。  
 時期：古代。 遺物：なし。

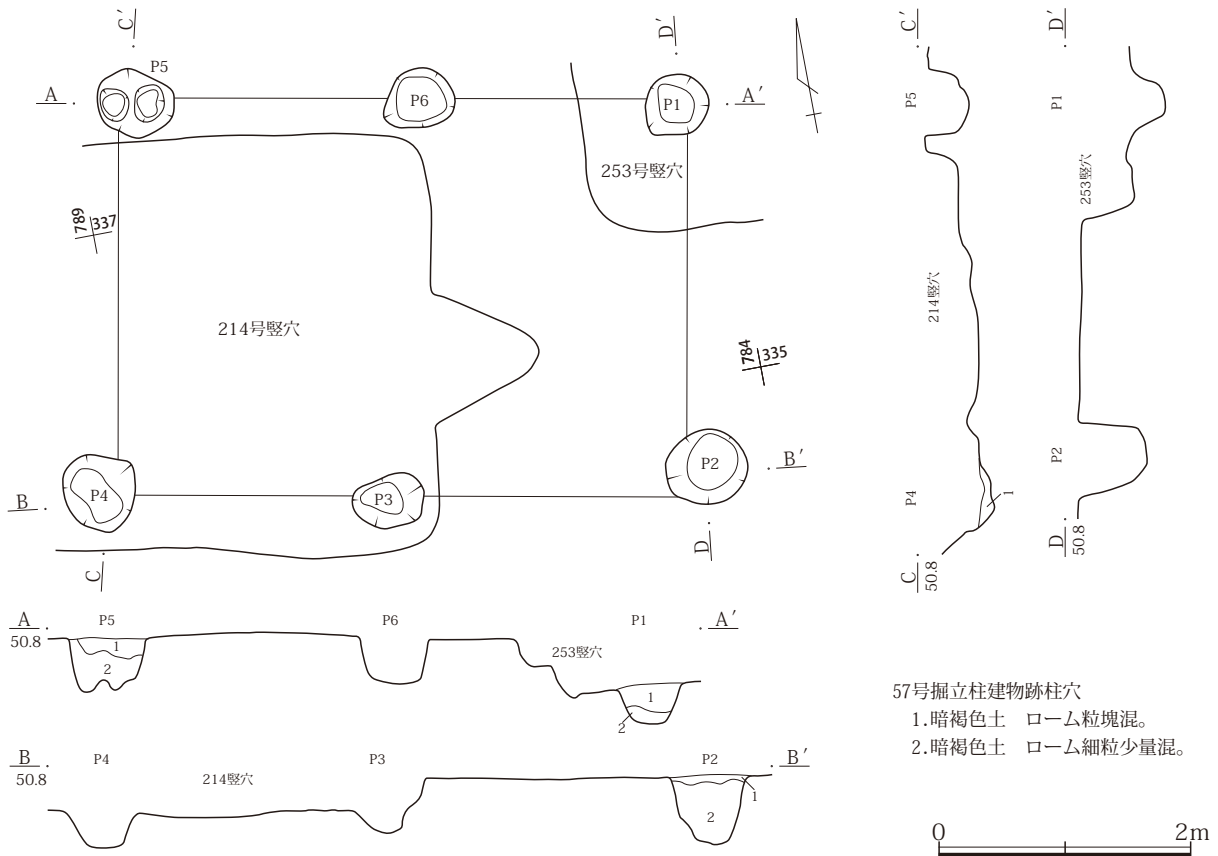
(5) 55号掘立柱建物跡

位置：調査区南端。X310~315・Y-785~790Gr。  
 主軸方位：N-10° -E 重複：233号堅穴建物跡に掘り込まれる。南辺は大道東遺跡で検出された63号堅穴と重複する。 規模と形状：桁行3間×梁間2間の南北に長い長方形を呈する側柱建物跡。長辺約5.2m・短辺約4m、柱間は約0.7~1.4mである。南東隅から南辺全域及び東辺の南寄りにかけても後世の攪乱により上面が甚だしく削平されている。  
 柱穴：柱穴跡は10基検出され、いずれも不整円形状を呈し、本遺跡で検出された掘立柱建物跡の柱穴としては規模は大きく、しっかりとした掘方を有する。柱痕はpit10でのみ検出。pit1長径0.78m・短径0.76

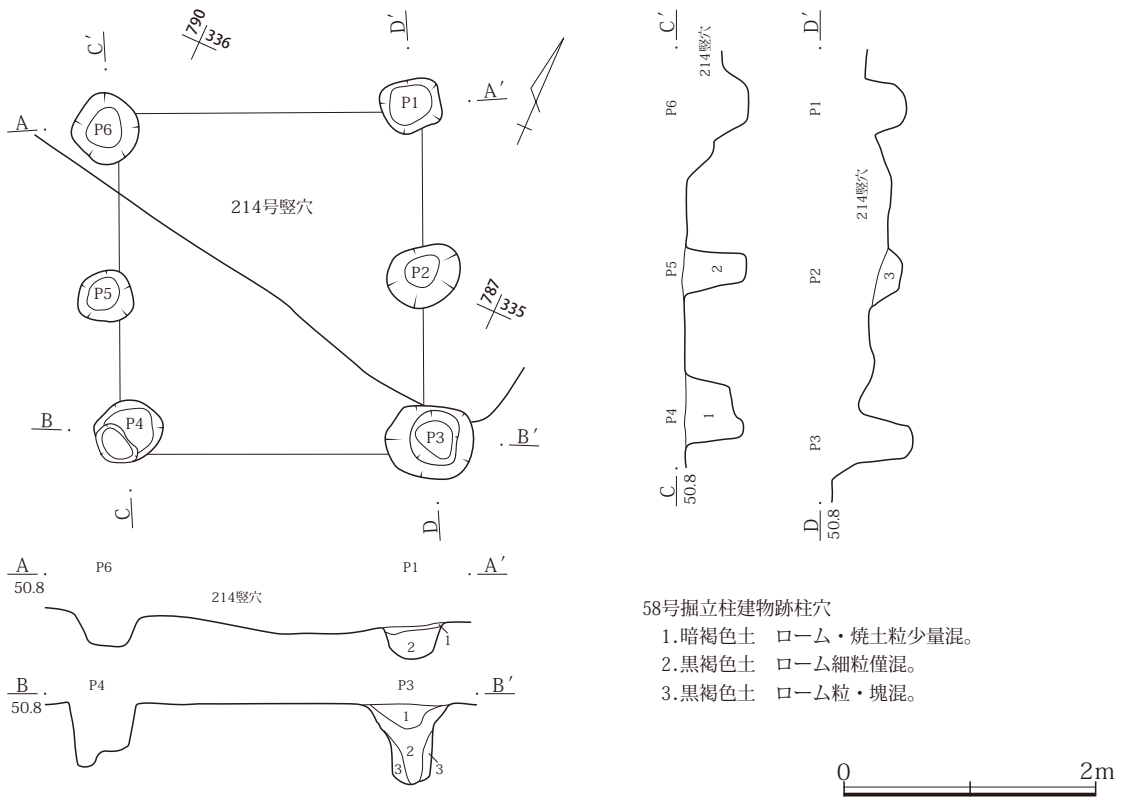
m・深さ(0.55)m、pit2長径0.86m・短径0.72m・深さ(0.48)m、pit3長径1.03m・短径0.8m・深さ0.46m、pit4長径0.62m・短径0.54m・深さ計測不能、pit5長径0.76m・短径0.5m・深さ計測不能、pit6長径0.86m・短径0.66m・深さ(0.38)m、pit7長径0.9m・短径0.62m・深さ0.6m、pit8長径0.92m・短径0.9m・深さ0.65m、pit9長径1.08m・短径1.02m・深さ0.43m、pit10長径0.74m・短径0.6m・柱痕径0.18m・深さ0.47m。 柱穴埋土：黒褐色土ベース。 時期：古代。 遺物：なし。

(6) 56号掘立柱建物跡

位置：調査区中央南端寄り。X325~330・Y-790~795Gr。 主軸方位：N-35° -E 重複：なし。 規模と形状：桁行2間×梁間1間のほぼ方形の側柱建物跡。南北2間×東西1間であるが、1間の柱間が



第67図 57号掘立柱建物跡



第68図 58号掘立柱建物跡

### 第3章 発見された遺構と遺物

長く、2間よりも長い。南北辺約3m・東西辺約3.3m、南北柱間は約0.6～0.88m、東西柱間は2.5～2.8mである。**柱穴**：柱穴跡は6基検出され、いずれもほぼ円形状を呈し、しっかりとした掘方を有する。柱痕はpit2～5で検出。**pit1**長径0.67m・短径0.6m・深さ0.67m、**pit2**長径0.8m・短径0.72m・柱痕径0.12m・深さ0.66m、**pit3**長径0.62m・短径0.52m・柱痕径0.18m・深さ0.65m、**pit4**長径0.74m・短径0.72m・柱痕径0.18m・深さ0.62m、**pit5**径0.72m・柱痕径0.18m・深さ0.58m、**pit6**長径0.77m・短径0.68m・深さ0.38m。**柱穴埋土**：暗褐色土ベース。**時期**：古代。**遺物**：なし。

#### (7) 57号掘立柱建物跡

**位置**：調査区中央南端寄り。X330-335・Y-780～785Gr. **主軸方位**：N-81°-W **重複**：253・214号  
竪穴建物跡に掘り込まれる。また、58号掘立柱建物跡が重複するが、両建物の新旧関係は不明である。

**規模と形状**：桁行2間×梁間1間の東西に長い長方形の側柱建物跡。南北辺約4.5m・東西辺約3.1m、南北柱間は約1.5～2m、東西柱間は2.5～2.8mである。**柱穴**：柱穴跡は6基検出され、いずれもほぼ楕円形状を呈し、しっかりとした掘方を有する。柱痕は明瞭には検出されなかった。**pit1**長径(0.5)m・短径(0.48)m・深さ計測不能、**pit2**長径0.65m・短径0.58m・深さ0.54m、**pit3**長径(0.48)m・短径(0.42)m・深さ(0.43)m、**pit4**長径(0.62)m・短径(0.62)m・深さ計測不能、**pit5**長径0.64m・短径0.5m・深さ0.43m、**pit6**長径0.58m・短径0.5m、深さ0.36m。**柱穴埋土**：暗褐色土ベース。**時期**：古代。**遺物**：なし。

#### (8) 58号掘立柱建物跡

**位置**：調査区中央南端寄り。X330-335・Y-785～790Gr. **主軸方位**：N-26°-W **重複**：214号竪穴建物跡に掘り込まれる。また、57号掘立柱建物跡が重複するが、両建物の新旧関係は不明である。**規模と形状**：桁行2間×梁間1間の北西-南東方向に若

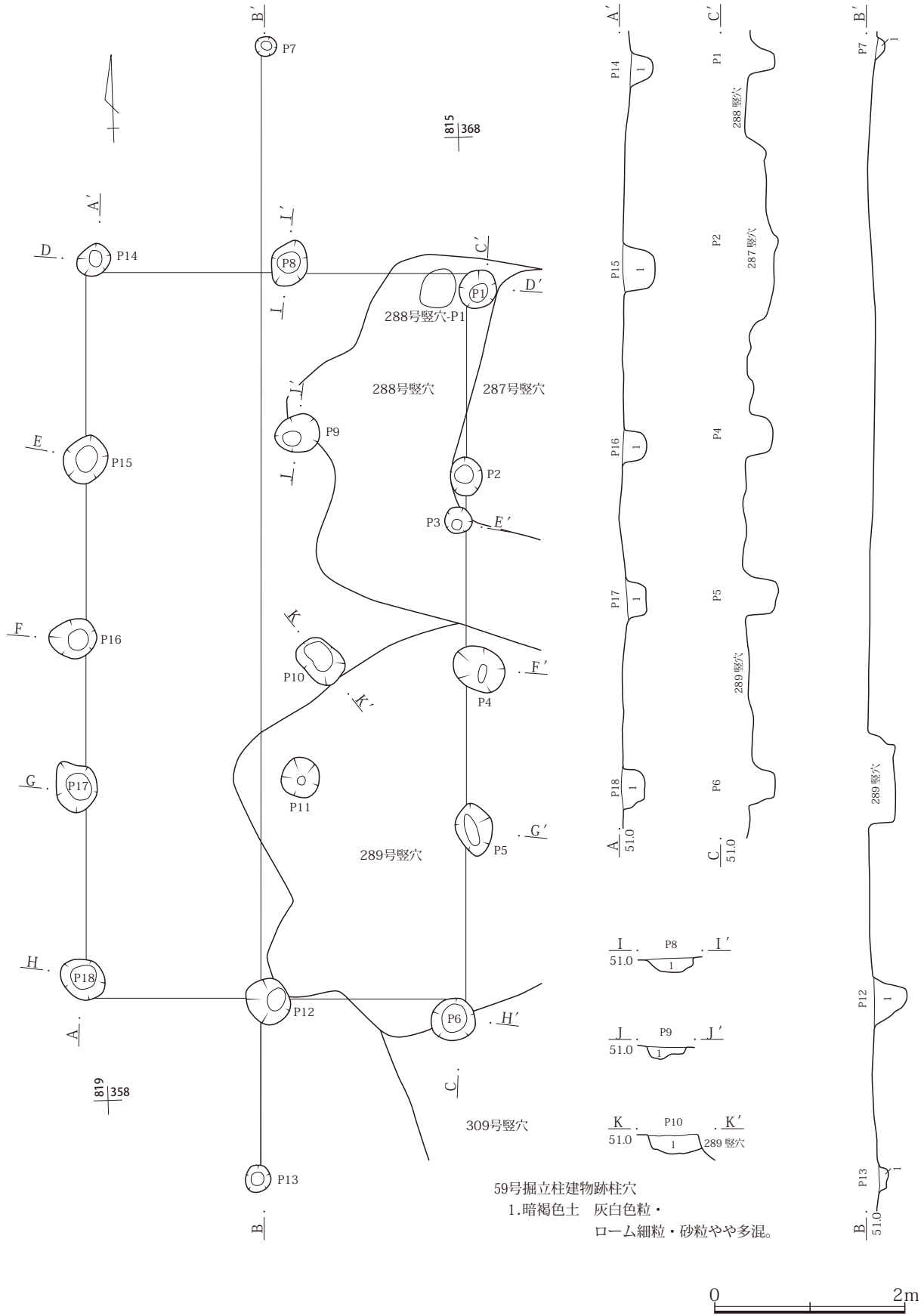
干長い長方形の側柱建物跡。南北辺約2.7m・東西辺約2.4m、南北柱間は約0.7～0.9m、東西柱間は1.7～2mである。**柱穴**：柱穴跡は6基検出され、いずれもほぼ楕円形状を呈し、しっかりとした掘方を有する。柱痕は明瞭には検出されなかった。**pit1**長径(0.48)m・短径(0.44)m・深さ計測不能、**pit2**長径(0.6)m・短径(0.5)m・深さ計測不能、**pit3**長径0.7m・短径0.57m・深さ0.63m、**pit4**長径0.54m・短径0.48m・深さ0.5m、**pit5**長径0.47m・短径0.4m・深さ0.51m、**pit6**径(0.52)m・深さ計測不能。**柱穴埋土**：暗褐色土ベース。**時期**：古代。**遺物**：なし。

#### (9) 59号掘立柱建物跡

**位置**：調査区西寄り。X355-365・Y-810～815Gr.

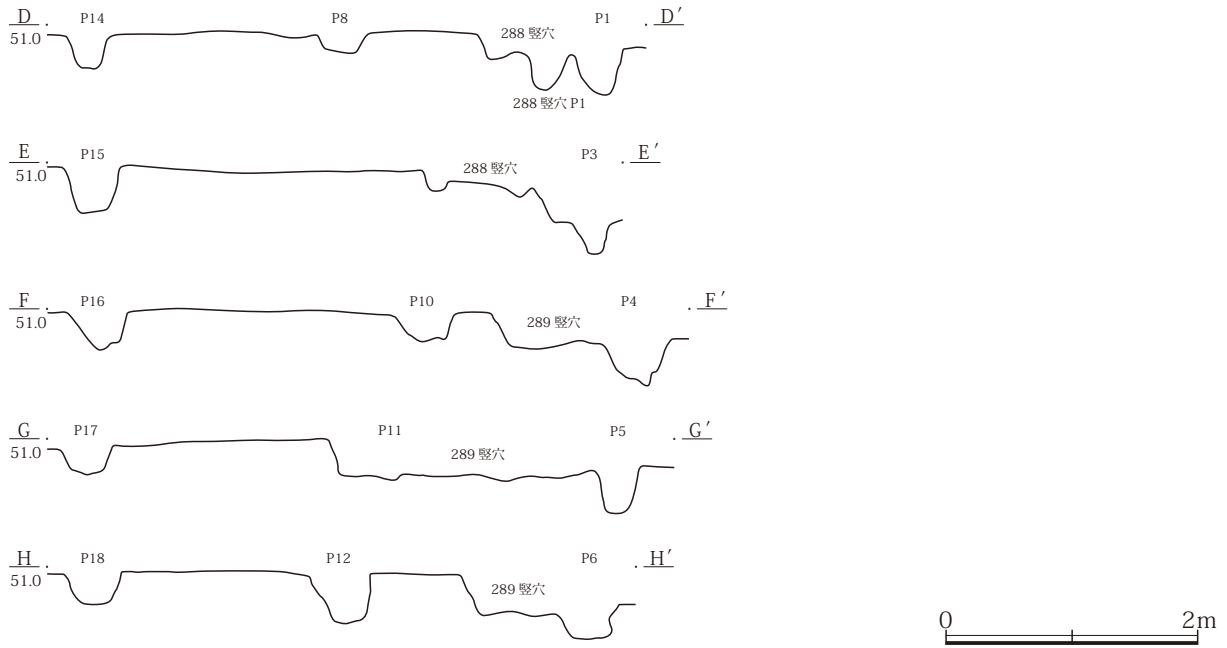
**主軸方位**：N-2°-E **重複**：287-289・292・353号竪穴建物跡に掘り込まれる。**規模と形状**：桁行4間×梁間2間の南北方向に長い長方形の総柱建物跡。南北には棟持柱を有し、ほぼ正方位。中央の柱列は軸からは若干外れ、床束の可能性が高いものと思われる。南北辺約7.6m・東西辺約4m、南北柱間は約0.9～1.32m、東西柱間は1.2～1.3mである。柱穴個々の規模は小さいが、本遺跡最大規模の掘立柱建物跡である。南北に小規模な棟持柱を有し、特殊な用途が想定できる。**柱穴**：柱穴跡は棟持柱、床束を含めて18基検出され、いずれもほぼ不整形円形状を呈し小規模である。柱痕は明瞭には検出されなかった。**pit1**長径(0.44)m・短径(0.4)m・深さ(0.48)m、**pit2**長径(0.4)m・短径(0.35)m・深さ計測不能、**pit3**径(0.3)m・深さ計測不能、**pit4**長径(0.58)m・短径(0.46)m・深さ計測不能、**pit5**長径(0.56)m・短径(0.4)m・深さ計測不能、**pit6**長径(0.48)m・短径(0.45)m・深さ計測不能、**pit7**長径(0.24)m・短径(0.2)m・深さ(0.12)m、**pit8**長径0.52m・短径0.39m・深さ0.18m、**pit9**長径(0.48)m・短径(0.4)m・深さ(0.14)m、**pit10**長径0.54m・短径0.4m・深さ0.2m、**pit11**長径(0.42)m・短径(0.41)m・



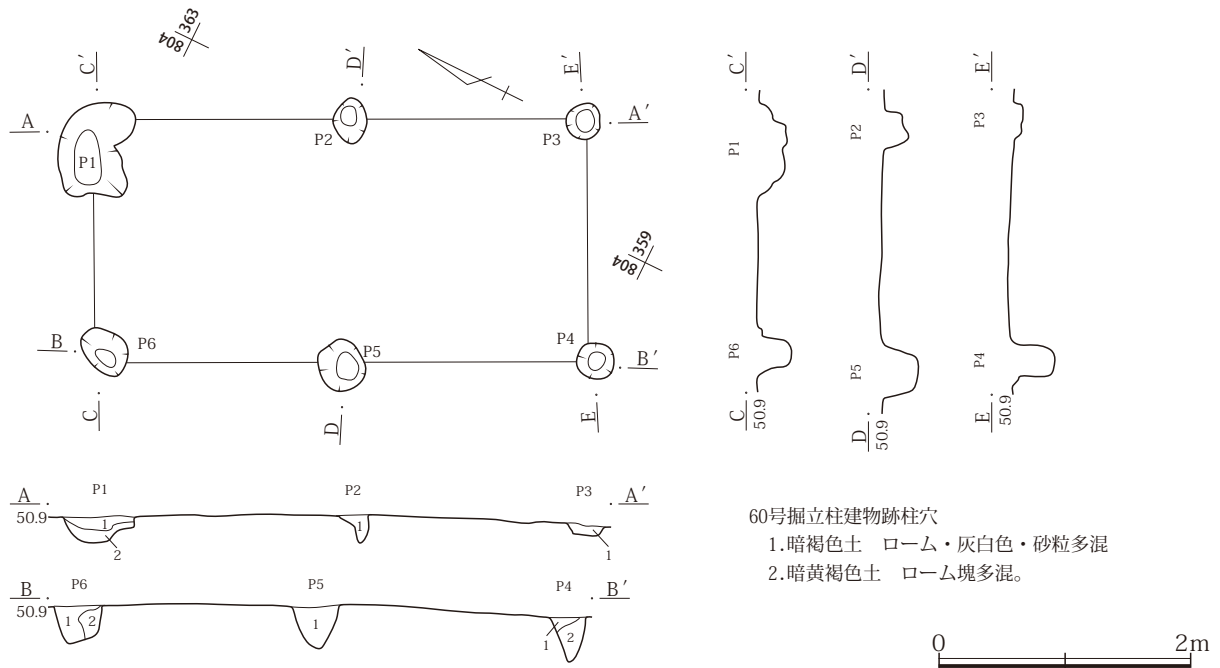


第69図 59号掘立柱建物跡

第3章 発見された遺構と遺物



第70図 59号掘立柱建物跡エレベーション

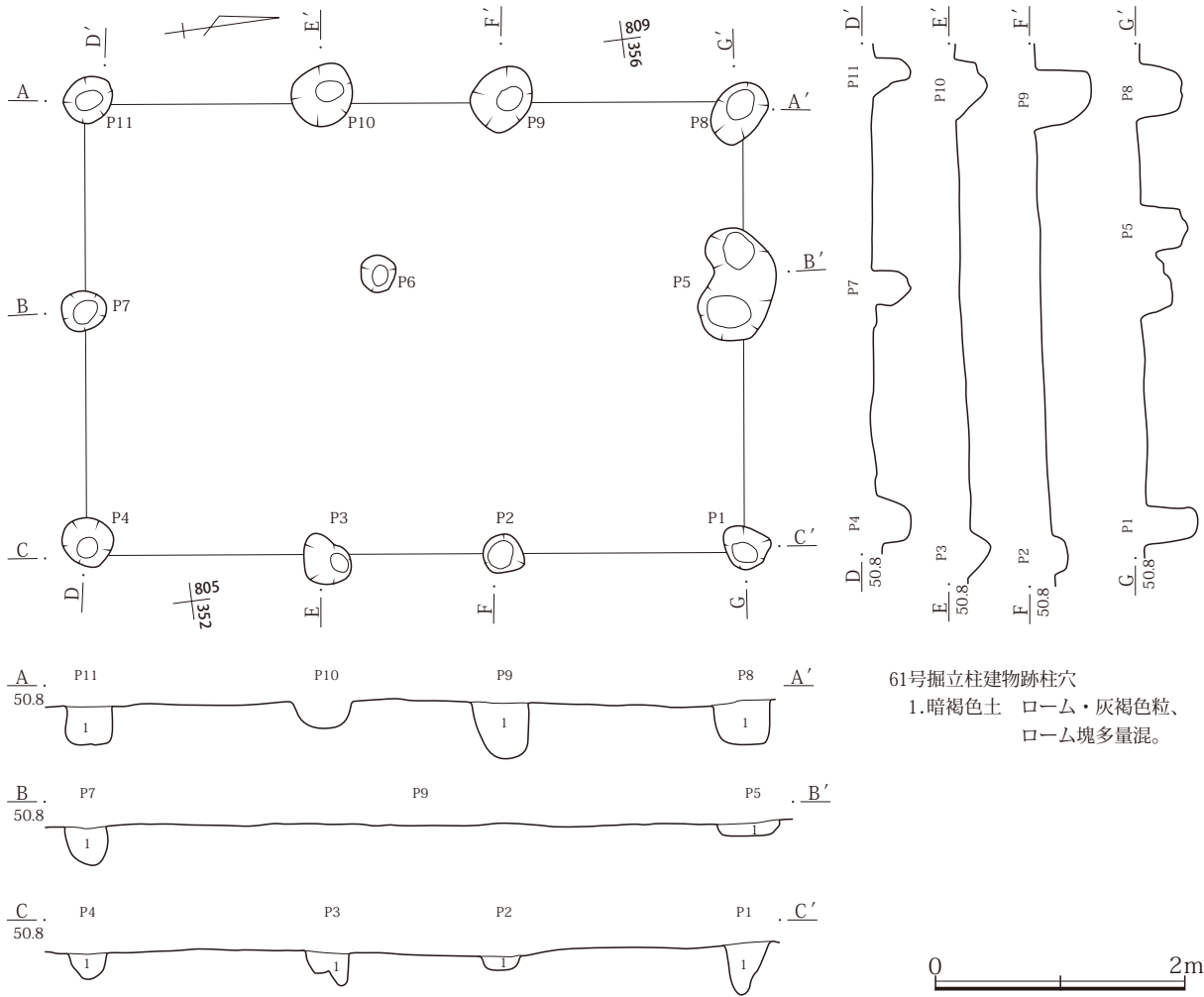


第71図 60号掘立柱建物跡

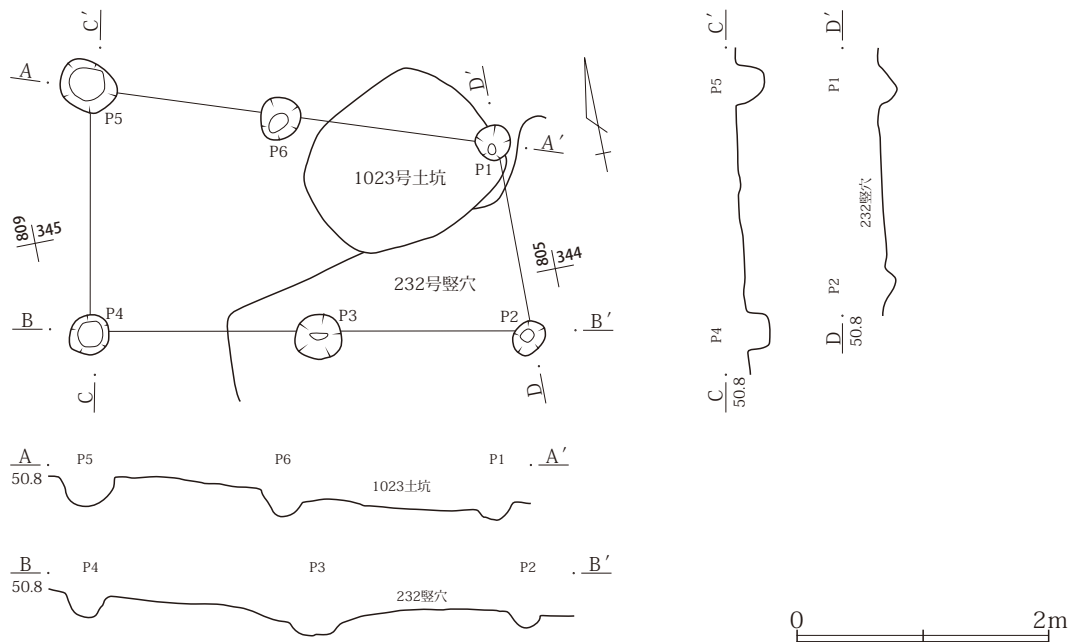
深さ計測不能、**pit12**長径0.5m・短径0.46m・深さ0.4m、**pit13**長径0.3m・短径0.28m・深さ0.14m、**pit14**長径(0.36)m・短径(0.3)m・深さ(0.28)m、**pit15**長径0.5m・短径0.43m・深さ0.38m、**pit16**

長径0.5m・短径0.43m・深さ0.3m、**pit17**長径0.54m・短径0.47m・深さ0.22m、**pit18**長径0.5m・短径0.42m・深さ0.24m。柱穴埋土：暗褐色土ベース。時期：古代。遺物：なし。

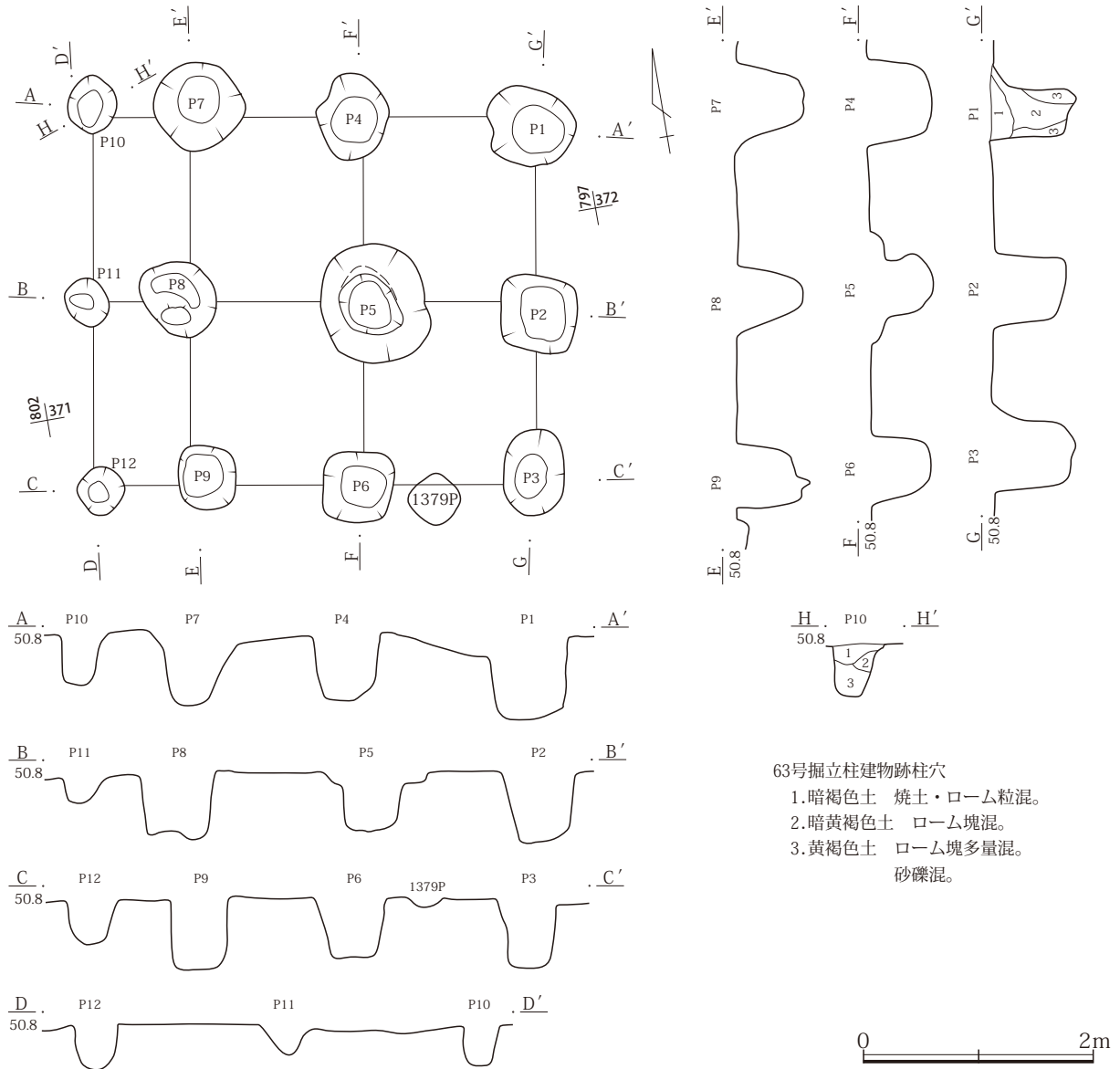
第2節 古墳時代後期～平安時代の遺構と遺物



第72図 61号掘立柱建物跡



第73図 62号掘立柱建物跡



第74図 63号掘立柱建物跡

(10) 60号掘立柱建物跡

**位置：**調査区中央。X355~360・Y-800~-805Gr。  
**主軸方位：**N-24° -W **重複：**なし。**規模と形状：**桁行2間×梁間1間の北西-南東方向に長い長方形の小規模な側柱建物跡。長辺約3.9m・短辺約1.9m、南北柱間は約1.5~1.7m、東西柱間は1.6mである。柱穴個々の規模は小さい。**柱穴：**柱穴跡は6基検出され、いずれもほぼ円形状を呈し小規模である。柱痕は明瞭には検出されなかった。pit1は攪乱を受け北東-南西方向に大きく掘り広げられている。pit1長径(0.74)m・短径0.52m・深さ0.24m、

pit2長径0.37m・短径0.27m・深さ0.2m、pit3径0.28m・深さ(0.58)m、pit4長径0.43m・短径0.32m・深さ0.34m、pit5長径0.4m・短径0.36m・深さ0.29m、pit6長径0.43m・短径0.3m・深さ0.28m。  
**柱穴埋土：**暗褐色土ベース。**時期：**古代。**遺物：**なし。

(11) 61号掘立柱建物跡

**位置：**調査区中央。X350~355・Y-805Gr。**主軸方位：**N-10° -E **重複：**76・82号掘立柱建物跡と重複するが新旧関係は不明。**規模と形状：**桁行3間

×梁間2間の北北東-南南西方向に長い長方形の建物跡。内部に小規模な柱穴が1基のみあり (pit6)、床束の可能性が高いが、それを床束と考えると内部の柱穴は1基のみであり、総柱建物とは言い難い。長辺約5.2m・短辺約3.6m、南北柱間は約0.9～1.5m、東西柱間は1.3～1.5mである。柱穴個々の規模は小さい。柱穴：柱穴跡は床束を含めて11基検出され、いずれもほぼ円形状を呈し小規模である。柱痕は明瞭には検出されなかった。pit5は攪乱を受け東西方向に大きく掘り広げられている。pit1長径0.38m・短径0.35m・深さ0.41m、pit2長径0.35m・短径0.33m・深さ0.12m、pit3長径0.44m・短径0.34m・深さ0.27m、pit4長径0.4m・短径0.38m・深さ0.22m、pit5長径(0.9)m・短径0.58m・深さ0.38m、pit6長径0.3m・短径0.28m・深さ0.06m、pit7長径0.36m・短径0.32m・深さ0.32m、pit8長径0.52m・短径0.4m・深さ0.34m、pit9長径0.54m・短径0.46m・深さ0.45m、pit10長径0.54m・短径0.46m・深さ0.21m、pit11長径0.42m・短径0.36m・深さ0.3m。柱穴埋土：暗褐色土ベース。時期：古代。遺物：pit2埋土中より土師器杯1点出土。

#### (12) 62号掘立柱建物跡

位置：調査区中央南寄り。X340-345・Y-805Gr.  
 主軸方位：N-78°-W 重複：82号掘立柱建物跡・232号竪穴建物跡・1023号土坑跡に掘り込まれる。pit6は82号掘立柱建物跡pit4と重複する。規模と形状：桁行2間×梁間1間の西北西-東南東方向に長い小規模な長方形の側柱建物跡。長辺約3.5m・短辺約1.9m、南北柱間は約1.3～1.54m、東西柱間は1.1～1.38mである。柱穴個々の規模は小さい。柱穴：柱穴跡は6基検出され、いずれもほぼ円形状を呈し小規模である。柱痕は明瞭には検出されなかった。pit1径(0.28)m・深さ(0.16)m、pit2長径(0.3)m・短径(0.23)m・深さ(0.13)m、pit3径(0.37)m・深さ(0.22)m、pit4長径0.32m・短径0.3m・深さ0.19m、pit5長径0.45m・短径0.38m・深さ0.25m、pit6長径0.36m・短径0.32m・深

さ0.2m。時期：古代。遺物：pit2埋土中より土師杯1点出土。

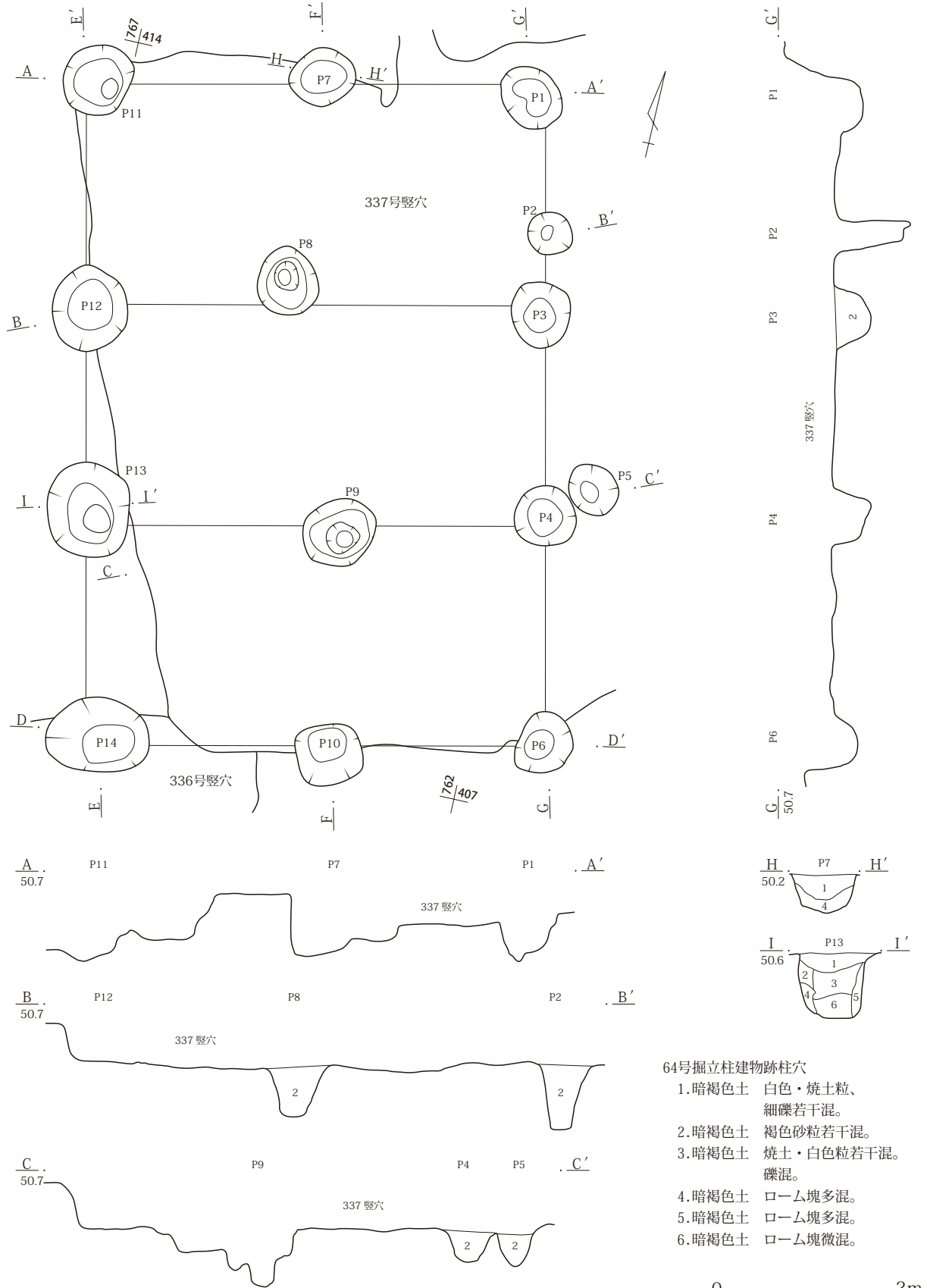
#### (13) 63号掘立柱建物跡

位置：調査区中央北寄り。X370・Y-795～800Gr.  
 主軸方位：N-11°-E 重複：291・363号竪穴建物跡に掘り込まれる。規模と形状：桁行2間×梁間2間の方形の総柱建物跡の西北西側に小規模な廂がつき、桁行3間×梁間2間の西北西-東南東方向に長い長方形。長辺約3.8m・短辺約3.2m、南北柱間は約0.77～0.92m、東西柱間は0.5～0.9mである。柱穴：柱穴跡は西北西側に取り付く廂の部分を含めて12基検出された。建物本体の柱穴はいずれもほぼ円形状ないし隅丸方形を呈し非常にしっかりと掘方を有している。特に建物本体の中央に位置するpit5の規模は大きい。柱痕は明瞭には検出されなかった。廂部分の柱穴は、建物本体部分の柱穴の大きさに比べて極端に小さく、径0.4m・深さ0.4m前後でほぼ円形状を呈している。pit1長径0.78m・短径0.68m・深さ0.74m、pit2長径0.68m・短径0.66m・深さ0.72m、pit3長径0.76m・短径0.53m・深さ0.72m、pit4長径0.76m・短径0.64m・深さ0.56m、pit5長径1.06m・短径0.9m・深さ0.54m、pit6長径0.62m・短径0.6m・深さ0.5m、pit7長径0.74m・短径0.72m・深さ0.6m、pit8長径0.72m・短径0.59m・深さ0.58m、pit9長径0.56m・短径0.5m・深さ0.35m、pit10長径(0.48)m・短径(0.44)m・深さ(0.64)m、pit11長径0.4m・短径0.36m・深さ0.25m、pit12長径0.4m・短径0.38m・深さ0.38m。柱穴埋土：暗黄褐色土ベース。時期：古代。遺物：なし。

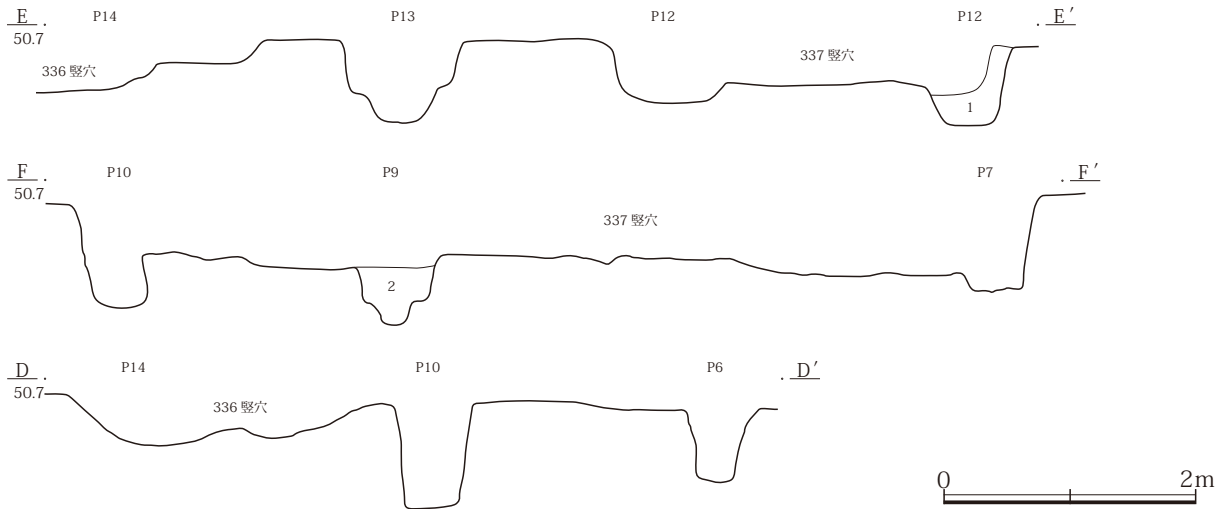
#### (14) 64号掘立柱建物跡

位置：調査区北東端寄り。X405-410・Y-760～765Gr. 主軸方位：N-13°-W 重複：ほとんどの部分が337号竪穴建物跡の床下から検出された。pit6が343号竪穴建物跡に、またpit14が336号竪穴建物跡に掘り込まれる。規模と形状：桁行3間×

第3章 発見された遺構と遺物



第75図 64号掘立柱建物跡



第76図 64号掘立柱建物跡エレベーション

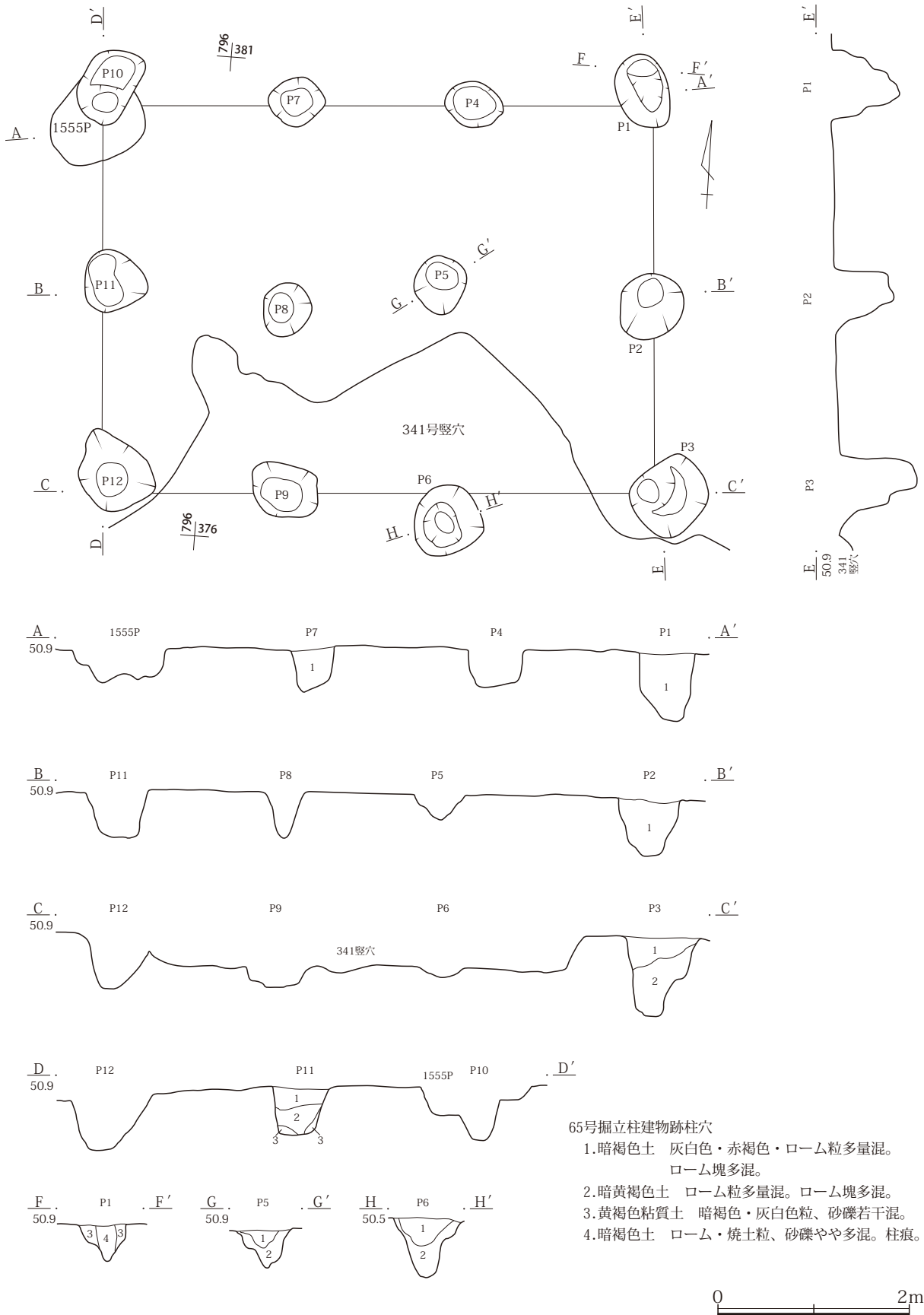
梁間2間の北北西-南南東方向に長い長方形の大型総柱建物跡。長辺約6.9m・短辺約4.7m、南北柱間は約1.14～1.7m、東西柱間は1.5～1.6mである。

**柱穴:**柱穴跡は建て替えを含めて14基検出された。いずれもほぼ円形ないし楕円形状を呈し、しっかりと掘方を有している。概ね径0.7m・深さ0.7m程度。しっかりと掘方を有する割には柱痕は明瞭には検出されなかった。**pit1**長径(0.7)m・短径(0.57)m・深さ(0.8)m、**pit2**長径(0.5)m・短径(0.47)m・深さ計測不能、**pit3**長径(0.68)m・短径(0.64)m・深さ計測不能、**pit4**長径(0.66)m・短径(0.63)m・深さ計測不能、**pit5**長径(0.57)m・短径(0.5)m・深さ計測不能、**pit6**長径(0.7)m・短径(0.6)m・深さ(0.58)m、**pit7**長径(0.71)m・短径(0.62)m・深さ(0.65)m、**pit8**長径(0.72)m・短径(0.65)m・深さ計測不能、**pit9**長径(0.81)m・短径(0.7)m・深さ計測不能、**pit10**長径(0.82)m・短径(0.56)m・深さ(0.56)m、**pit11**長径(0.74)m・短径(0.69)m・深さ計測不能、**pit12**長径(0.88)m・短径(0.8)m・深さ(0.5)m、**pit13**長径1m・短径0.85m・深さ0.72m、**pit14**長径1.08m・短径0.88m・深さ計測不能。**柱穴埋土:**暗褐色土ベース。**時期:**古代。**遺物:**なし。

#### (15) 65号掘立柱建物跡

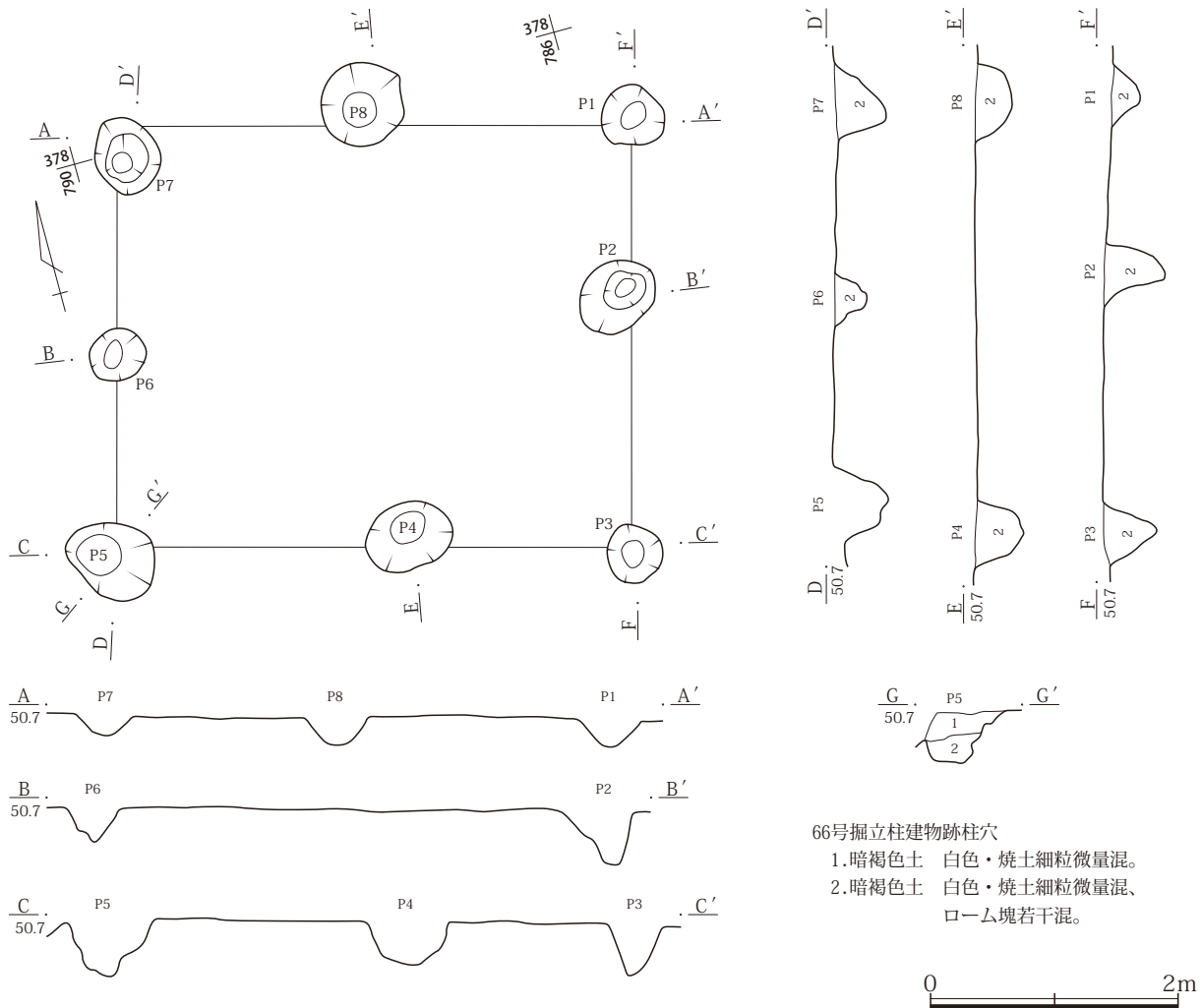
**位置:**調査区中央の北辺際。X375~380・Y-790--795Gr. **主軸方位:**N-84° -E **重複:**341号竪穴建物跡に掘り込まれる。68・69号掘立柱建物跡と重複し、新旧関係は(新):65号←66号←68号←69号:(旧)という関係にあると考えられる。**規模と形状:**桁行3間×梁間2間の東西方向に長い長方形の総柱建物跡。長辺約5.7m・短辺約4m、南北柱間は約1.2～1.5m、東西柱間は1～1.58mである。**柱穴:**12基検出された。いずれもほぼ円形ないし楕円形状を呈し、しっかりと掘方を有している。柱痕は明瞭には検出されなかった。**pit1**長径0.8m・短径0.75m・深さ0.7m、**pit2**長径0.74m・短径0.64m・深さ0.6m、**pit3**長径0.8m・短径0.72m・深さ0.81m、**pit4**長径0.62m・短径0.48m・深さ0.4m、**pit5**長径0.58m・短径0.54m・深さ0.38m、**pit6**長径(0.74)m・短径(0.7)m・深さ計測不能、**pit7**長径0.6m・短径0.52m・深さ0.46m、**pit8**長径0.58m・短径0.52m・深さ0.48m、**pit9**長径(0.68)m・短径(0.56)m・深さ計測不能、**pit10**長径(0.82)m・短径(0.56)m・深さ(0.56)m、**pit11**長径0.64m・短径0.64m・深さ(0.48)m、**pit12**長径(0.9)m・短径(0.7)m・深さ(0.58)m。**柱穴埋土:**暗黄褐色土ベース。**時期:**古代。**遺物:**上覆土より土師器杯1点出土。

第3章 発見された遺構と遺物



第77図 65号掘立柱建物跡





第78図 66号掘立柱建物跡

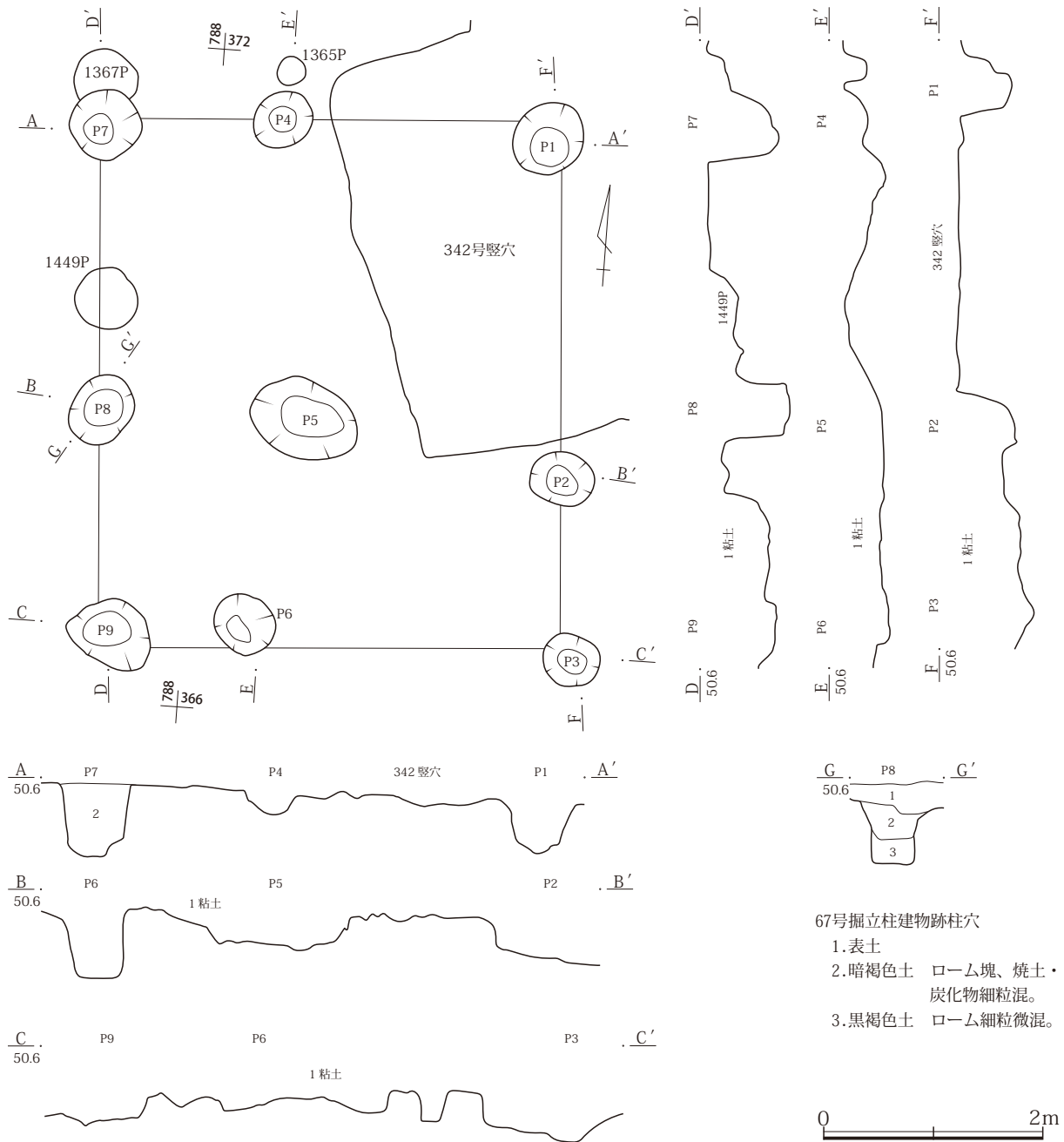
(16) 66号掘立柱建物跡

**位置：**調査区中央北辺際。X370-375・Y-785~790Gr. **主軸方位：**N-75° -W **重複：**南西隅を341号竪穴建物跡に接する。西側に重複する69号掘立柱建物跡を掘り込む。 **規模と形状：**桁行2間×梁間2間の西北西-東南東方向に長い長方形の側柱建物跡。長辺約4.2m・短辺約3.4m、南北柱間は約0.92~1.58m、東西柱間は1.28~1.7mである。 **柱穴：**8基検出された。いずれもほぼ円形ないし楕円形状を呈し、ややしっかりとした掘方を有している。柱痕は明瞭には検出されなかった。 **pit1**長径0.52m・短径0.5m・深さ0.24m、 **pit2**長径0.68m・短径0.52m・深さ0.48m、 **pit3**長径0.48m・短径0.45m・深さ0.43m、 **pit4**長径0.72m・短径0.55m・深さ0.39m、

**pit5**長径0.74m・短径0.6m・深さ0.44m、 **pit6**長径0.46m・短径0.42m・深さ0.25m、 **pit7**長径0.64m・短径0.52m・深さ0.4m、 **pit8**長径0.66m・短径0.65m・深さ0.3m。 **柱穴埋土：**暗褐色土ベース。 **時期：**古代。 **遺物：**上覆土より土師器杯1点出土。

(17) 67号掘立柱建物跡

**位置：**調査区中央部北東寄り。X365-370・Y-780~785Gr. **主軸方位：**N-5° -W **重複：**342号竪穴建物跡に掘り込まれ、1号粘土採掘坑跡を掘り込む。 **規模と形状：**桁行2間×梁間2間の南北にやや長い長方形の総柱建物跡。中央の柱は他の柱穴に比べて平面形状が大きくかつ浅いなど特異な形状であり、通し柱ではなく床束の可能性が高い。長辺約



第79図 67号掘立柱建物跡

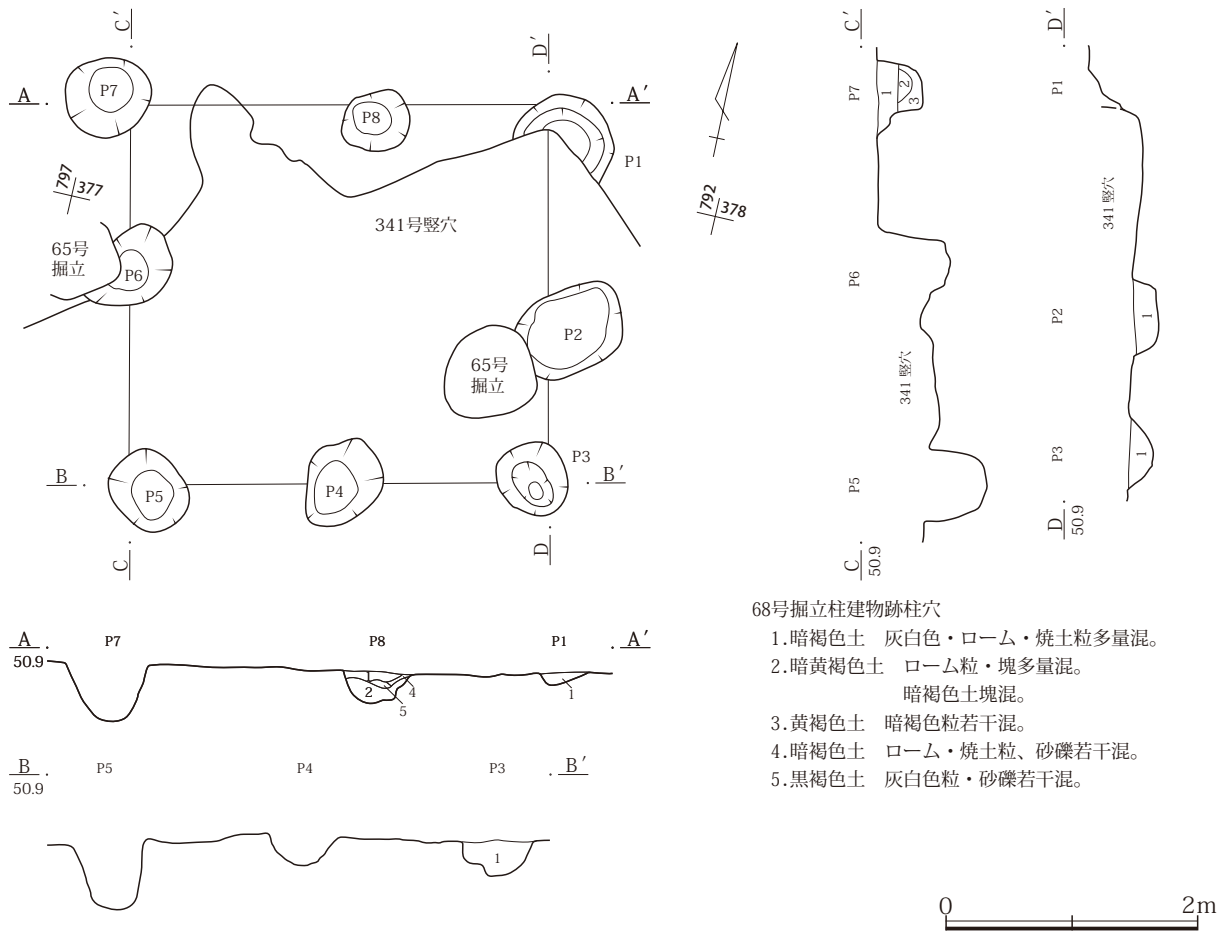
4.8m・短辺約4.1m、南北柱間約1.2～2.5m、東西柱間0.6～2.5mとかなり不等間隔で奇異である。

**柱穴**：9基検出された。いずれもほぼ円形ないし楕円形状を呈している。柱痕は明瞭には検出されなかった。**pit1**長径(0.72)m・短径(0.62)m・深さ(0.48)m、**pit2**長径0.58m・短径0.48m・深さ0.52m、**pit3**長径0.53m・短径0.48m・深さ計測不能、**pit4**長径0.56m・短径0.52m・深さ0.2m、**pit5**長

径1m・短径0.72m・深さ計測不能、**pit6**長径0.58m・短径0.5m・深さ計測不能、**pit7**径0.64m・深さ0.66m、**pit8**長径0.68m・短径0.52m・深さ0.6m、**pit9**長径0.72m・短径0.65m・深さ計測不能。**柱穴埋土**：暗褐色土ベース。**時期**：古代。**遺物**：なし。

(18) 68号掘立柱建物跡

**位置**：調査区中央の北辺際。X375・Y-790--



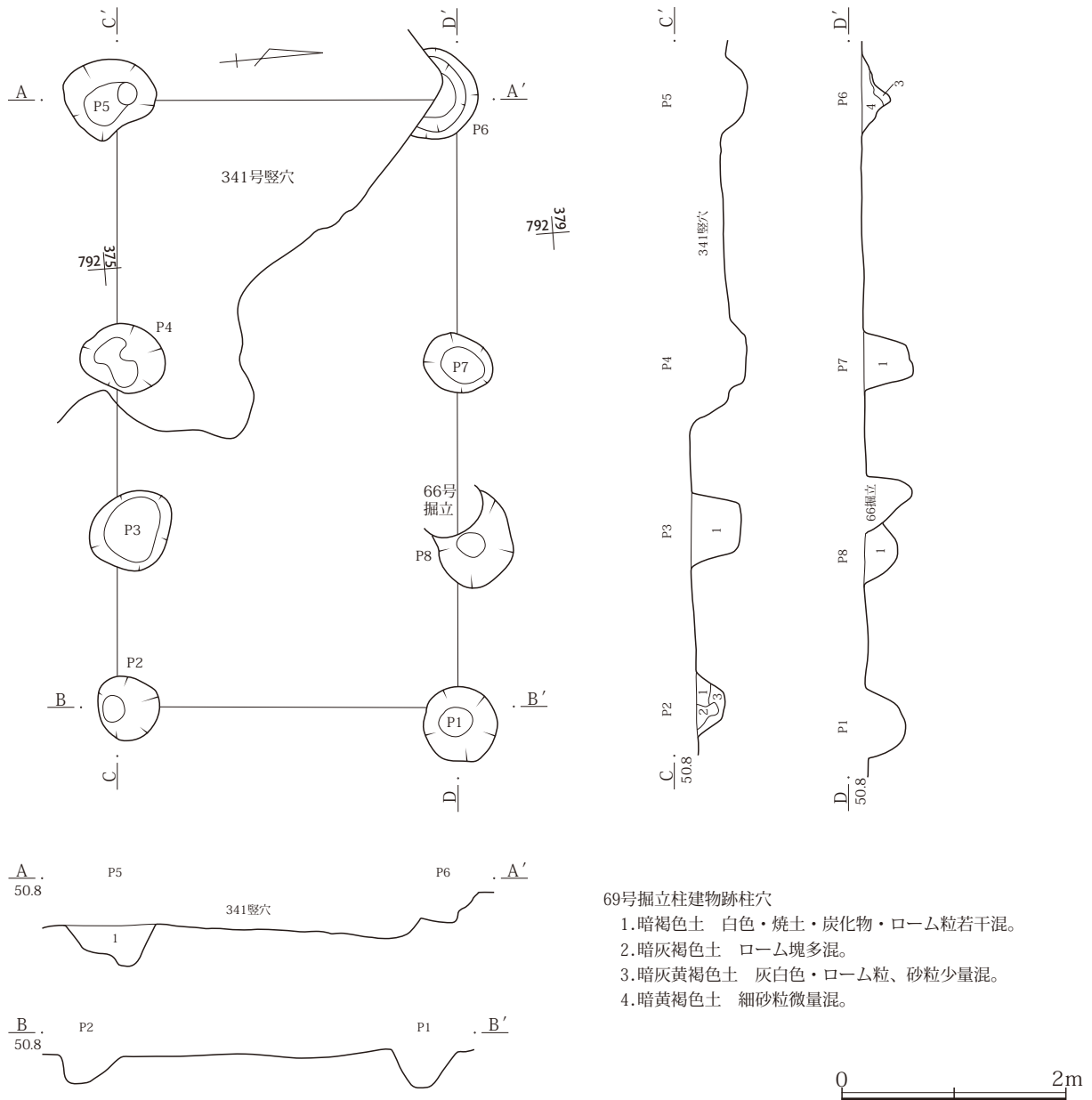
第80図 68号掘立柱建物跡

795Gr. 主軸方位：N-78° -W 重複：341号竪穴建物跡・65号掘立柱建物跡に掘り込まれる。69号掘立柱建物跡と重複し、pit1は69号掘立柱建物跡のpit6と共通しており、69号掘立柱建物跡を建て替えたのが68号掘立柱建物跡であり、さらに68号掘立柱建物跡を建て替えたのが66号掘立柱建物跡と考えられる。規模と形状：桁行2間×梁間2間の西南西―東北東方向に若干長い長方形の側柱建物跡。長辺約3.3m・短辺約3m、南北柱間は約0.5～1.16m、東西柱間は0.88～1.5mである。柱穴：8基検出された。いずれも楕円形状を呈している。柱痕は明瞭には検出されなかった。pit1長径0.8m・短径(0.64)m・深さ0.25m、pit2長径(0.85)m・短径(0.66)m・深さ計測不能、pit3長径(0.6)m・短径(0.56)m・深さ計測不能、pit4長径(0.78)m・短径(0.6)m・深さ計測不能、pit5長径(0.65)m・短径(0.55)

m・深さ計測不能、pit6長径0.78m・短径(0.56)m・深さ0.6m、pit7長径0.68m・短径0.64m・深さ0.46m、pit8長径0.56m・短径0.46m・深さ0.25m。柱穴埋土：暗黄褐色土ベース。時期：古代。遺物：なし。

(19) 69号掘立柱建物跡

位置：調査区中央北辺際。X375・Y-785～790Gr. 主軸方位：N-84° -W 重複：341号竪穴建物跡、65・66・68号掘立柱建物跡に掘り込まれる。pit6は68号掘立柱建物跡のpit1と共通しており、69号掘立柱建物跡を建て替えたのが68号掘立柱建物跡であり、さらに68号掘立柱建物跡を建て替えたのが66号掘立柱建物跡と考えられる。規模と形状：桁行3間×梁間1間の東西に長い長方形の側柱建物跡。長辺約5.4m・短辺約3m、南北柱間は約2.4m、東西

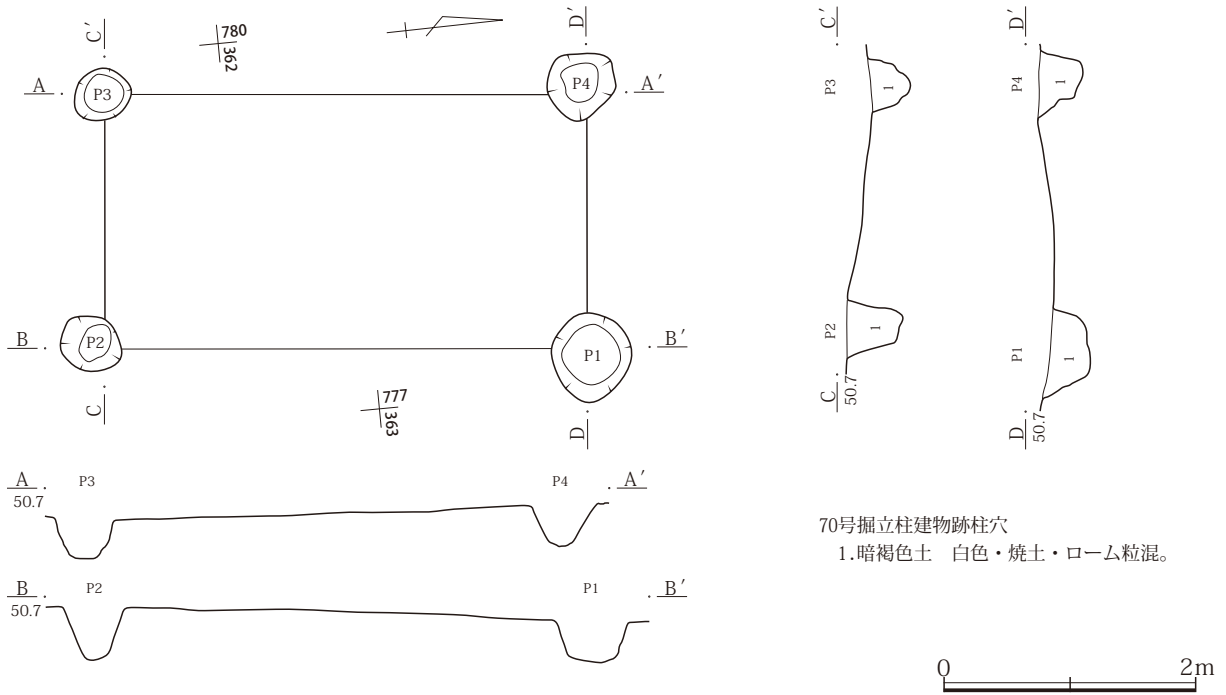


柱間は0.8～1.7mである。柱穴：8基検出された。いずれも楕円形状を呈している。柱痕は明瞭には検出されなかった。pit1径0.66m・深さ0.54m、pit2長径0.6m・短径0.55m・深さ0.26m、pit3長径0.75m・短径0.68m・深さ0.44m、pit4長径(0.78)m・短径(0.62)m・深さ(0.48)m、pit5長径(0.78)m・短径(0.68)m・深さ計測不能、pit6長径0.8m・短径(0.64)m・深さ(0.25)m、pit7長径0.63m・短径0.52m・深さ0.44m、北辺東から2番目pit8長径(0.88)m・短径0.72m・深さ0.3m。柱穴埋土：

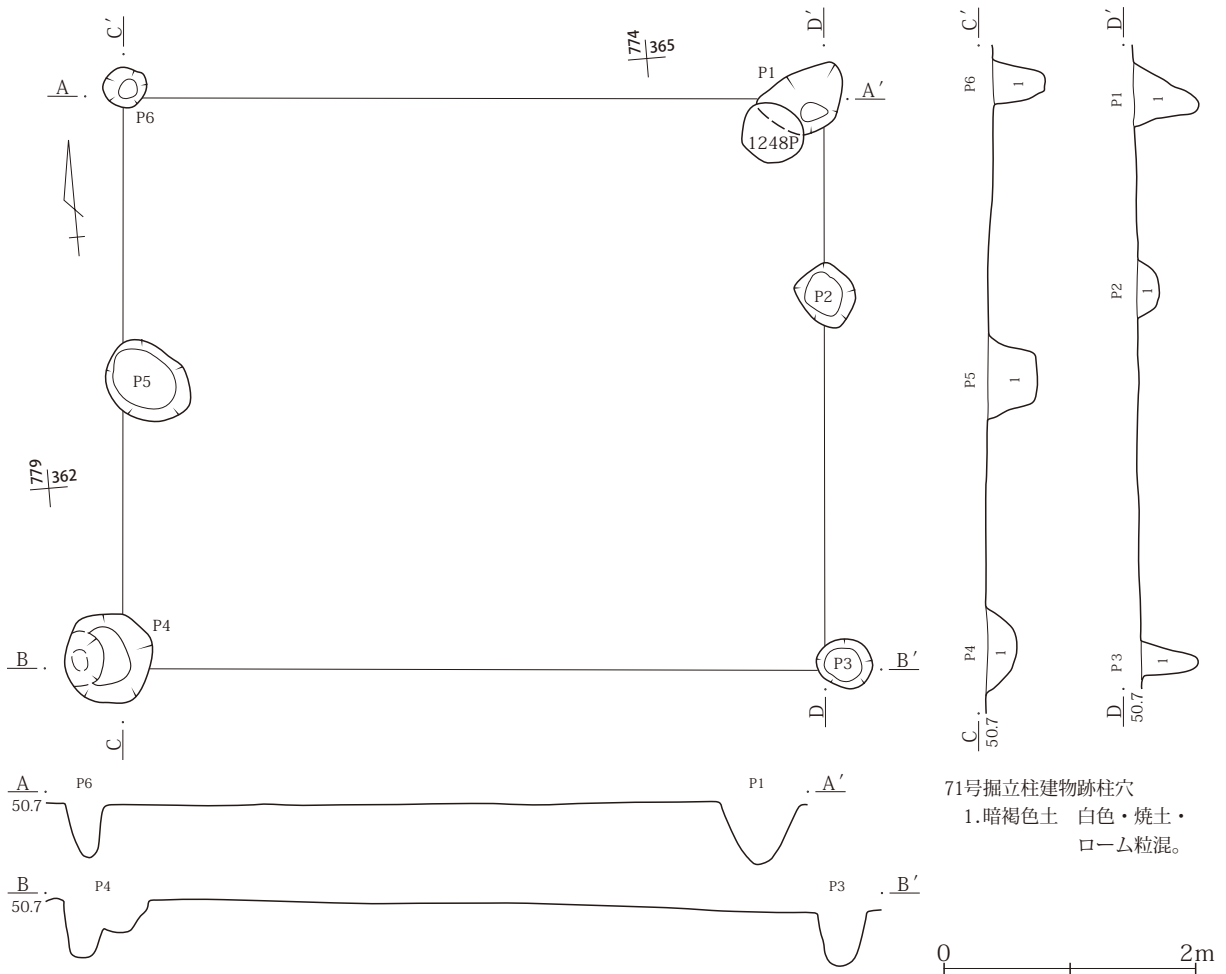
暗灰黄褐色土ベース。時期：古代。遺物：なし。

(20) 70号掘立柱建物跡

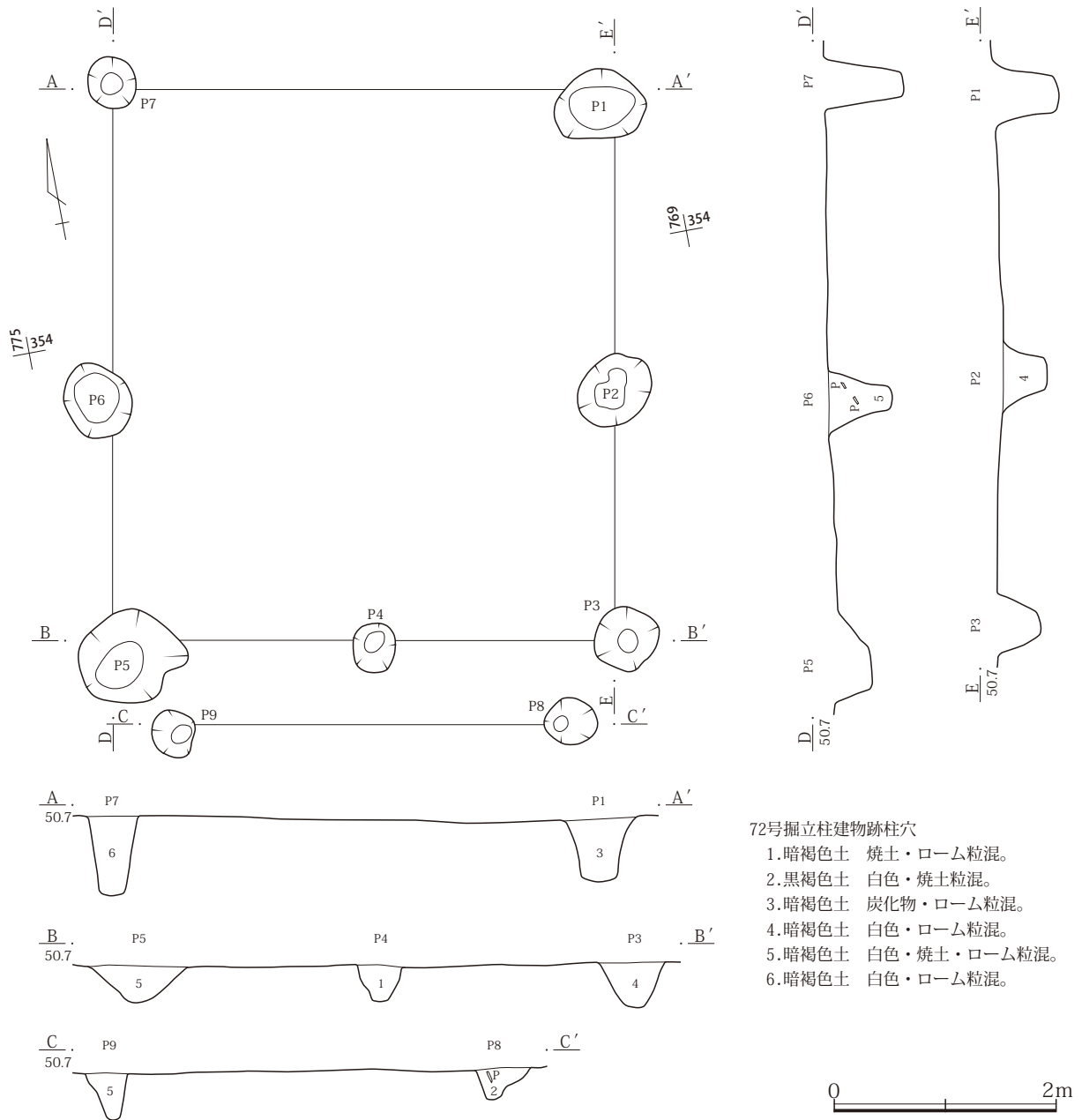
位置：調査区中央東辺寄り。X360・Y-775Gr. 主軸方位：N-6°-E 重複：東側71号掘立柱建物跡と重複するが新旧関係は不明。pit1は80号掘立柱建物跡pit2と共通し、80号掘立柱建物跡を建て替えたものと考えられる。規模と形状：桁行1間×梁間1間の南北に長い長方形の側柱建物跡。長辺約3.8m・短辺約2m、南北柱間は約3.2～3.4m、東西柱間は



第82図 70号掘立柱建物跡



第83図 71号掘立柱建物跡

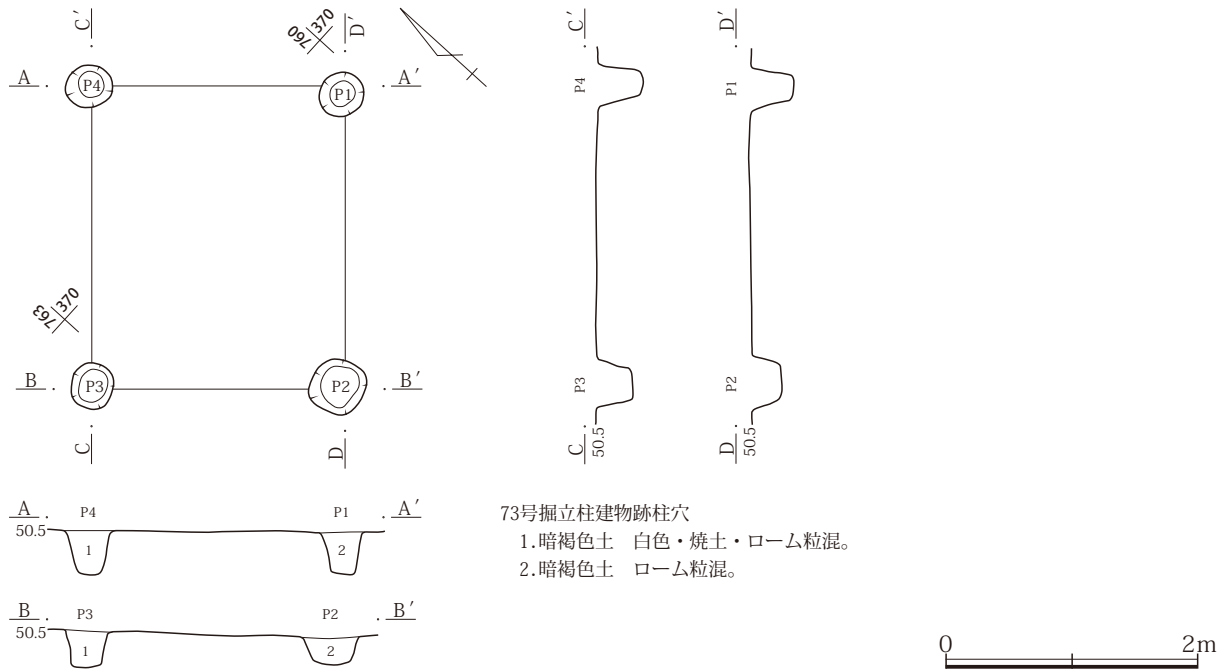


第84図 72号掘立柱建物跡

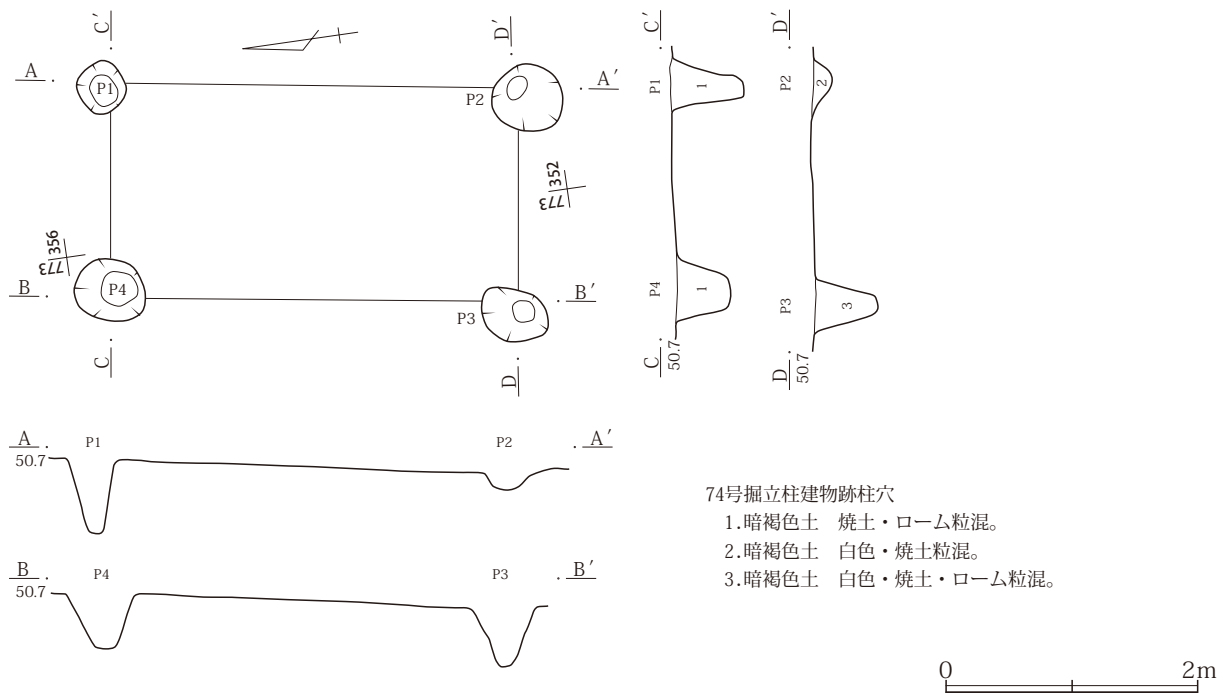
1.5mである。柱穴：4基検出された。いずれもほぼ円形状を呈している。柱痕は明瞭には検出されなかった。北東隅pit1長径0.7m・短径0.64m・深さ0.38m、南東隅pit2長径0.5m・短径0.45m・深さ0.44m、南西隅pit3長径0.45m・短径0.42m・深さ0.32m、北西隅pit4径0.54m・深さ0.34m。柱穴埋土：暗褐色土ベース。時期：古代。遺物：なし。

(21) 71号掘立柱建物跡

位置：調査区中央東辺寄り。X360・Y-770--775Gr. 主軸方位：N-84° -W 重複：70号掘立柱建物跡と重複するが新旧関係は不明。北辺が324号竪穴建物跡と接する。規模と形状：桁行1間×梁間2間の東西に長い長方形の側柱建物跡。長辺約5.5m・短辺約4.5m、南北柱間は約1.1～2.5m、東西柱間は4.9～5.35mである。柱穴：6基検出された。いずれもほぼ円形状を呈している。柱痕は明瞭



第85図 73号掘立柱建物跡



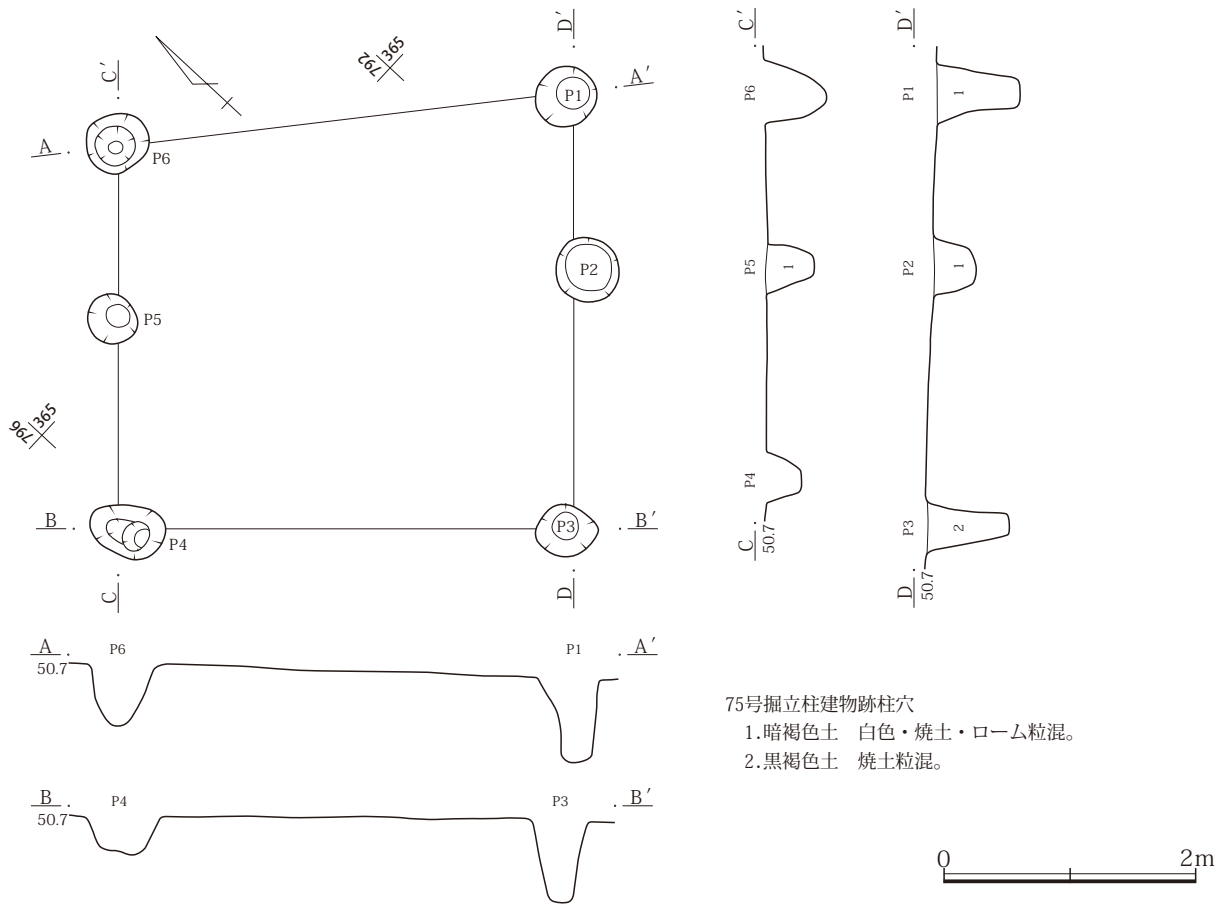
第86図 74号掘立柱建物跡

には検出されなかった。pit1長径0.72m・短径0.48m・深さ0.52m、pit2長径0.5m・短径0.42m・深さ0.18m、pit3長径0.44m・短径0.4m・深さ0.42m、pit4径0.7m・深さ0.42m、pit5長径0.72m・短径0.57m・深さ0.38m、pit6長径0.34m・短径0.32m・

深さ0.42m。柱穴埋土：暗褐色土ベース。時期：古代。遺物：上覆土より土師器杯1点出土。

(22) 72号掘立柱建物跡

位置：調査区中央東辺寄り。X350~355・Y-765~



第87図 75号掘立柱建物跡

770Gr. 主軸方位：N-10° -E 重複：74号掘立柱建物跡がすっぽりと内部に収まり78号掘立柱建物跡 pit3が西辺と重複するが新旧関係は不明。

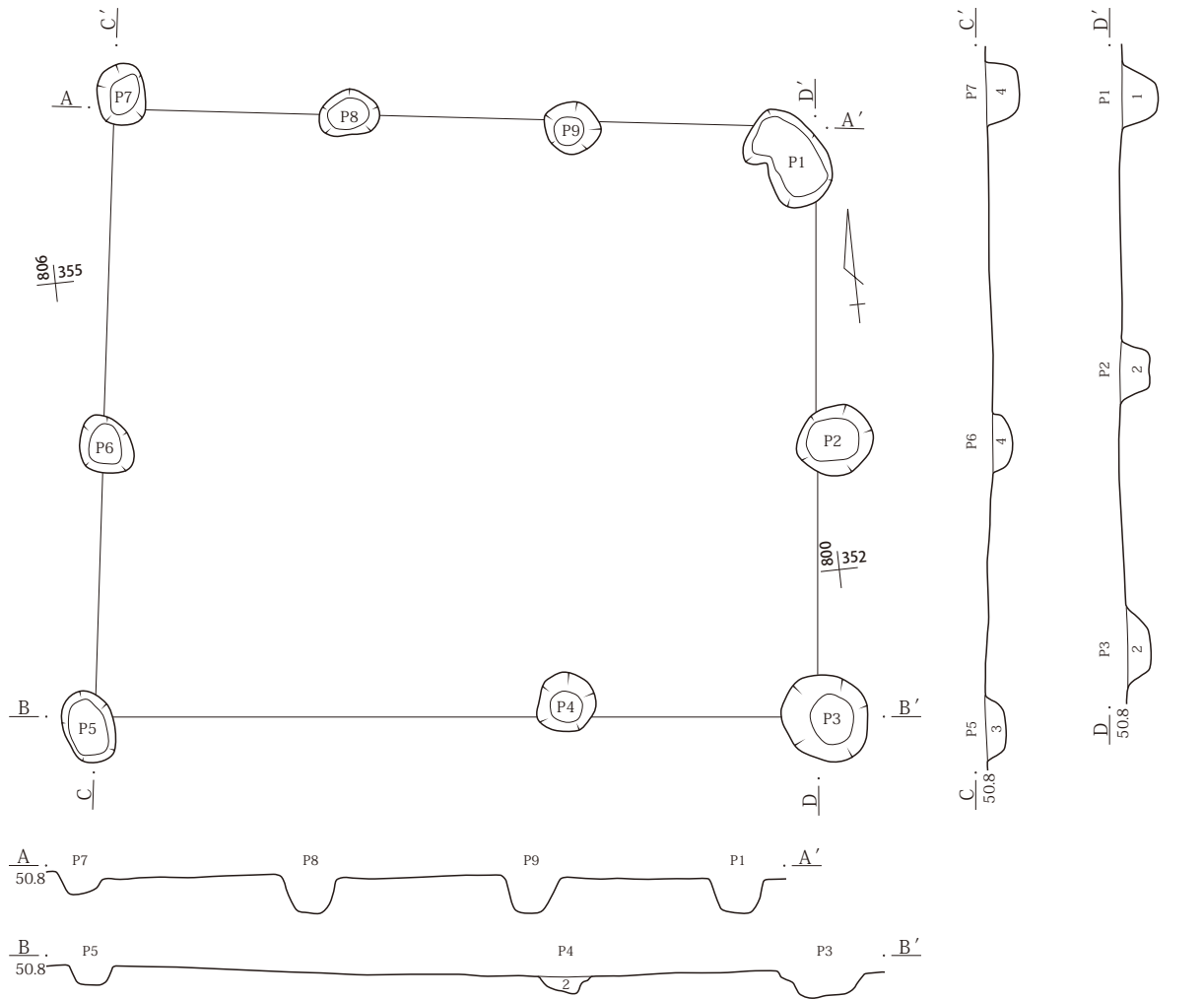
**規模と形状：**桁行2間×梁間2間の南北にやや長い長方形の側柱建物跡の南南西側に小規模な廂が取り付く。ただし、北辺中央の柱穴は検出できなかった。長辺約5m・短辺約4.5m、南北柱間は約1.54～2.38m、東西柱間は1.5～1.74mである。**柱穴：**建物跡本体で7基、廂部分で2基検出された。いずれもほぼ円形状を呈している。柱痕は明瞭には検出されなかった。pit1長径0.8m・短径0.67m・深さ0.78m、pit2長径0.72m・短径0.58m・深さ0.6m、pit3径0.56m・深さ0.34m、pit4長径0.44m・短径0.38m・深さ0.32m、pit5長径0.9m・短径0.82m・深さ0.34m、pit6長径0.7m・短径0.58m・深さ0.56m、pit7長径0.49m・短径0.43m・深さ0.72m、pit8長径0.48m・短径0.44m・深さ0.28m、pit9長

径0.46m・短径0.42m・深さ0.43m。**柱穴埋土：**暗褐色土ベース。**時期：**古代。**遺物：**上覆土より須恵器壺口縁片1点、須恵器杯2点出土。

### (23) 73号掘立柱建物跡

**位置：**調査区中央東壁際。X365~370・Y-760Gr。**主軸方位：**N-48° -E **重複：**なし。**規模と形状：**桁行1間×梁間1間の北東-南西方向にやや長い小規模な長方形の側柱建物跡。長辺約2.4m・短辺約2m、北東-南西柱間は約1.9～2m、北西-南東柱間は1.55～1.6mである。**柱穴：**4基検出された。いずれも小規模で、ほぼ円形状を呈している。柱痕は明瞭には検出されなかった。pit1径0.36m・深さ0.34m、pit2長径0.43m・短径0.42m・深さ0.24m、pit3長径0.36m・短径0.34m・深さ0.28m、pit4長径0.38m・短径0.34m・深さ0.36m。**柱穴埋土：**暗褐色土ベース。**時期：**古代。**遺物：**なし。





76号掘立柱建物跡柱穴

1. 暗褐色土
2. 暗褐色土 白色・焼土・ローム粒混。
3. 暗褐色土 ローム粒・小塊微量混。焼土粒僅混。
4. 暗褐色土 ローム粒・塊、白色粒多量混。



第88図 76号掘立柱建物跡

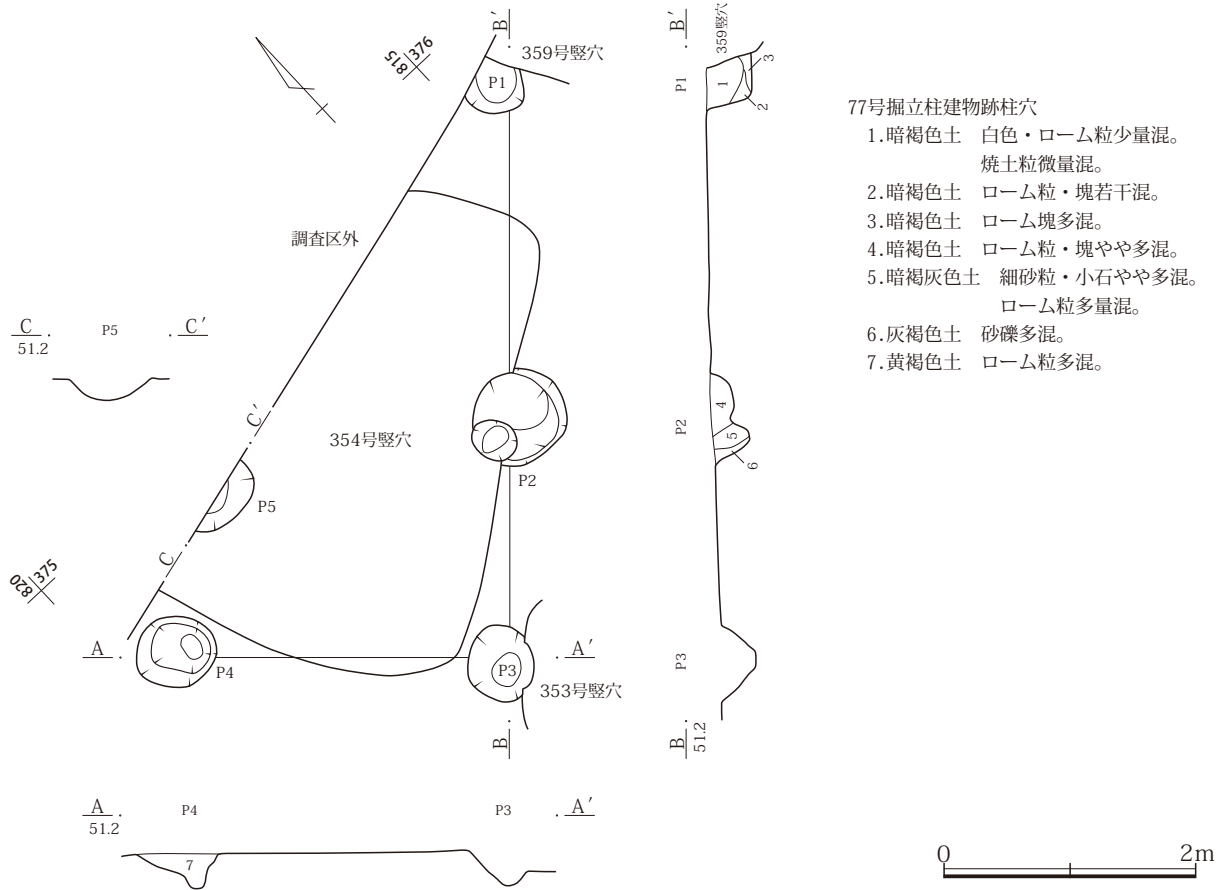
(24) 74号掘立柱建物跡

**位置：**調査区中央東辺寄り。X350・Y-770Gr. **主軸方位：**N-9° -E **重複：**72号掘立柱建物跡の中にすっぽりと収まる小規模な掘立柱建物跡。72号との新旧関係は不明。形状や位置から72号の間仕切り等ではないと考えられる。 **規模と形状：**桁行1間×梁間1間の南北に長い長方形の側柱建物跡。長辺約3.2m・短辺約1.7m、南北柱間は約2.7～2.9m、東西柱間は1.16～1.24mである。 **柱穴：**4基検出された。いずれもほぼ円形状を呈し小規模である。柱痕は明瞭には検出されなかった。 **pit1**長径0.4m・

短径0.38m・深さ0.58m、**pit2**径0.56m・深さ0.16m、**pit3**長径0.56m・短径0.42m・深さ0.48m、**pit4**長径0.56m・短径0.5m・深さ0.44m。 **柱穴埋土：**暗褐色土ベース。 **時期：**古代。 **遺物：**上覆土より土師器杯1点出土。

(25) 75号掘立柱建物跡

**位置：**調査区中央やや北寄り。X360～365・Y-790～-795Gr. **主軸方位：**N-43° -W **重複：**1号粘土採掘坑跡を掘り込む。 **規模と形状：**桁行1間×梁間2間の北西-南東方向にやや長い長方形



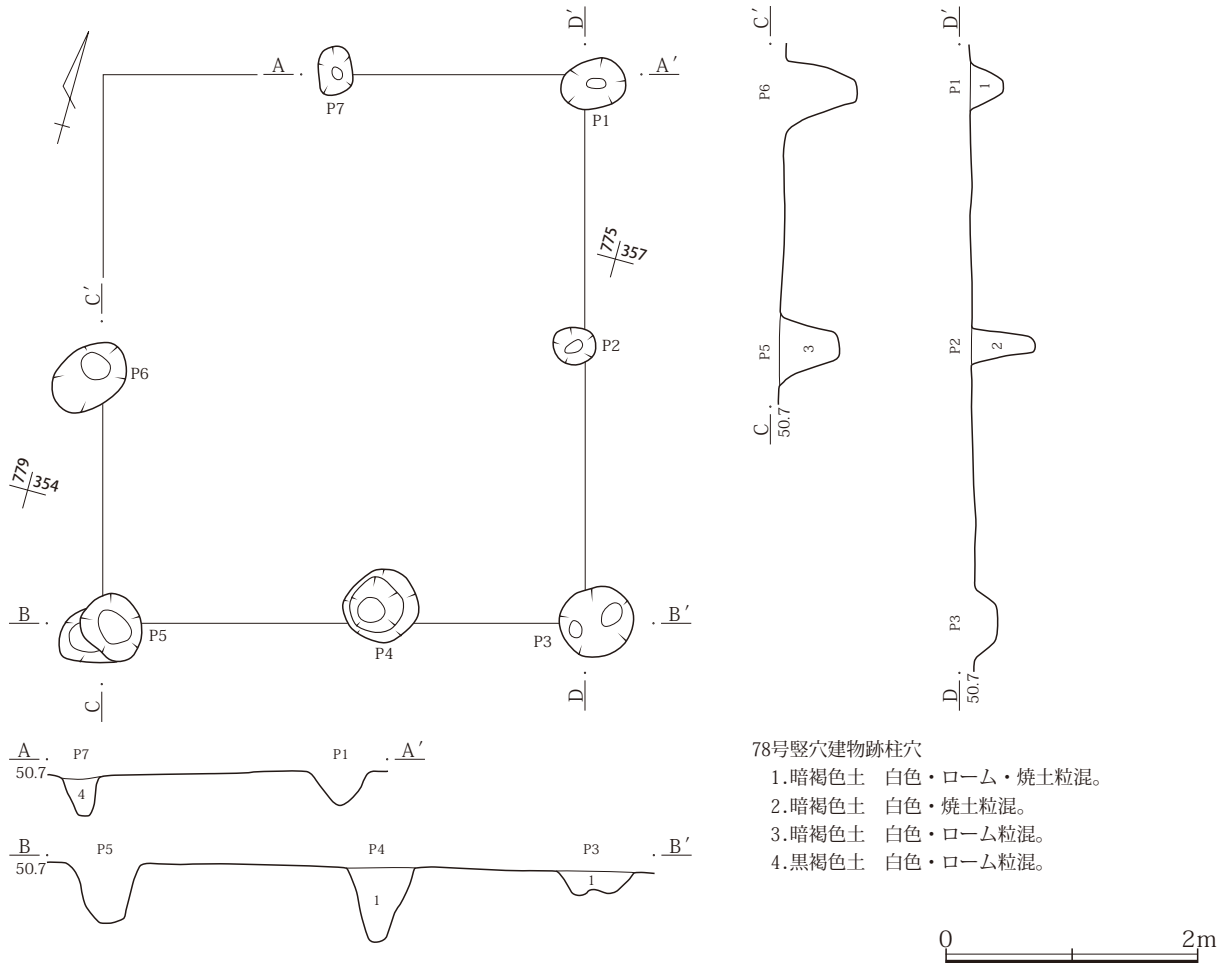
第89図 77号掘立柱建物跡

の側柱建物跡。長辺約3.6m・短辺約3.4m、北東—南西柱間は約0.88～1.66m、北西—南東柱間は2.9～3.1mである。柱穴：6基検出された。いずれもほぼ円形状を呈し小規模である。柱痕は明瞭には検出されなかった。pit1長径0.5m・短径0.46m・深さ0.65m、pit2径0.5m・深さ0.35m、pit3長径0.46m・短径0.4m・深さ0.65m、pit4長径0.6m・短径0.44m・深さ0.32m、pit5径0.4m・深さ0.36m、pit6長径0.5m・短径0.46m・深さ0.48m。柱穴埋土：暗褐色土ベース。時期：古代。遺物：なし。

(26) 76号掘立柱建物跡

位置：調査区中央やや西寄り。X350~355・Y-800~-805Gr. 主軸方位：N-83°-W 重複：西側を61号掘立柱建物跡と重複するが新旧関係は不明。pit5と82号掘立柱建物跡pit1が共通するが、本建物跡の方が新しい。規模と形状：桁行3間×梁

間2間の東西に長い長方形の側柱建物跡。南辺の西から2番目にあたる柱穴は検出できなかった。長辺約5.8m・短辺約4.9m、南北柱間は約1.8～2.4m、東西柱間は1.3～1.5mである。柱穴個々の規模は小さい。柱穴：柱穴跡は9基検出され、いずれもほぼ円形ないし楕円形状を呈し小規模である。柱痕は明瞭には検出されなかった。pit1は柱抜き取り痕が顕著で逆L字状に大きく掘り広げられている。pit1長径1.02m・短径0.75m・深さ0.29m、pit2長径0.64m・短径0.56m・深さ0.24m、pit3長径0.74m・短径0.66m・深さ0.2m、pit4長径0.48m・短径0.46m・深さ0.14m、pit5長径0.6m・短径0.4m・深さ0.22m、pit6径0.45m・深さ0.18m、pit7長径0.5m・短径0.38m・深さ0.26m、pit8長径0.5m・短径0.36m・深さ0.32m、pit9長径0.44m・短径0.42m・深さ0.3m。埋土：暗褐色土ベース。時期：古代。遺物：上覆土より須恵器杯1点出土。



第90図 78号掘立柱建物跡

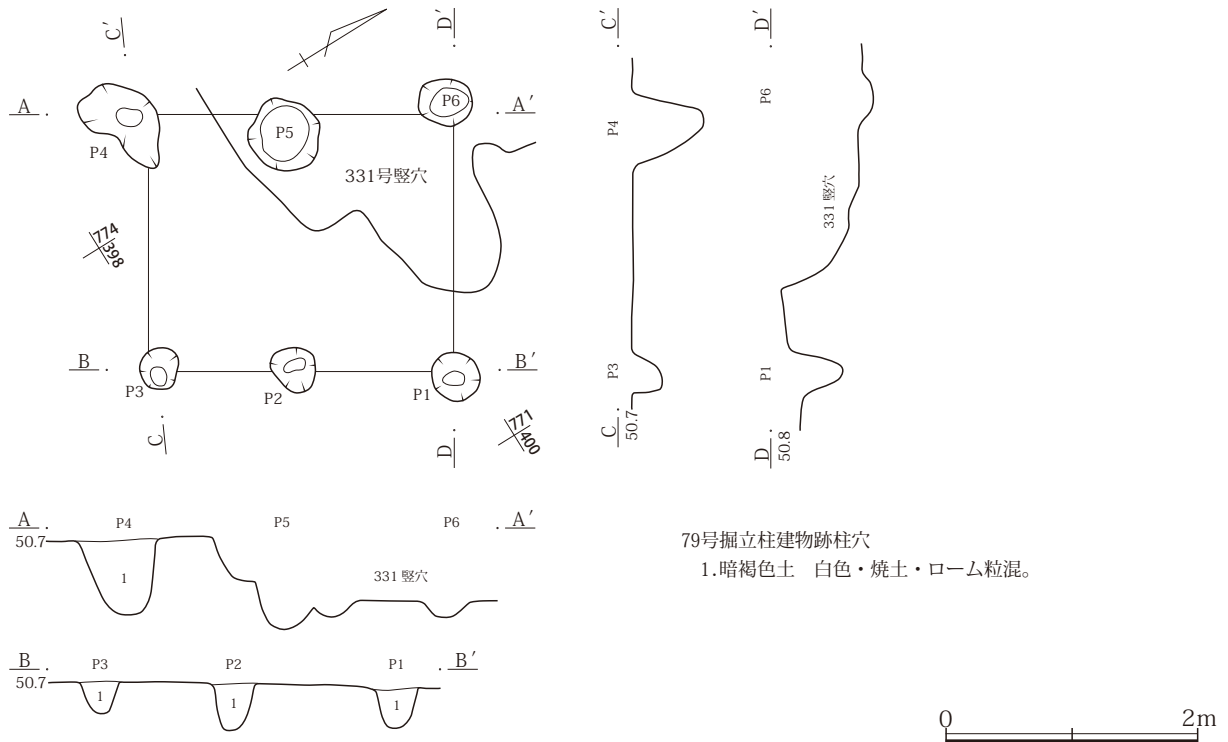
(27) 77号掘立柱建物跡

**位置：**調査区中央西寄りの北壁際。X370・Y-815Gr. **主軸方位：**N-43° -E **重複：**354・359号竪穴建物跡に掘り込まれる。**規模と形状：**南西辺1間以上×南東辺2間以上の建物であるが、大半が調査区北壁外に出るため全容は不明である。南東辺柱間は現状で約1.28~2.1m、南西辺柱間は現状で約2mである。**柱穴：**5基検出された。いずれもほぼ円形状を呈する。柱痕は明瞭には検出されなかった。**pit1**長径(0.46)m・短径(0.45)m・深さ0.37m、**pit2**長径0.8m・短径0.72m・深さ0.38m、**pit3**長径0.58m・短径0.54m・深さ0.38m、**pit4**長径0.64m・短径0.56m・深さ0.38m、**pit5**長径(0.66)m・短径(0.22)m・深さ計測不能。**柱穴埋土：**暗褐色土ベース。**時期：**古代。**遺物：**なし。

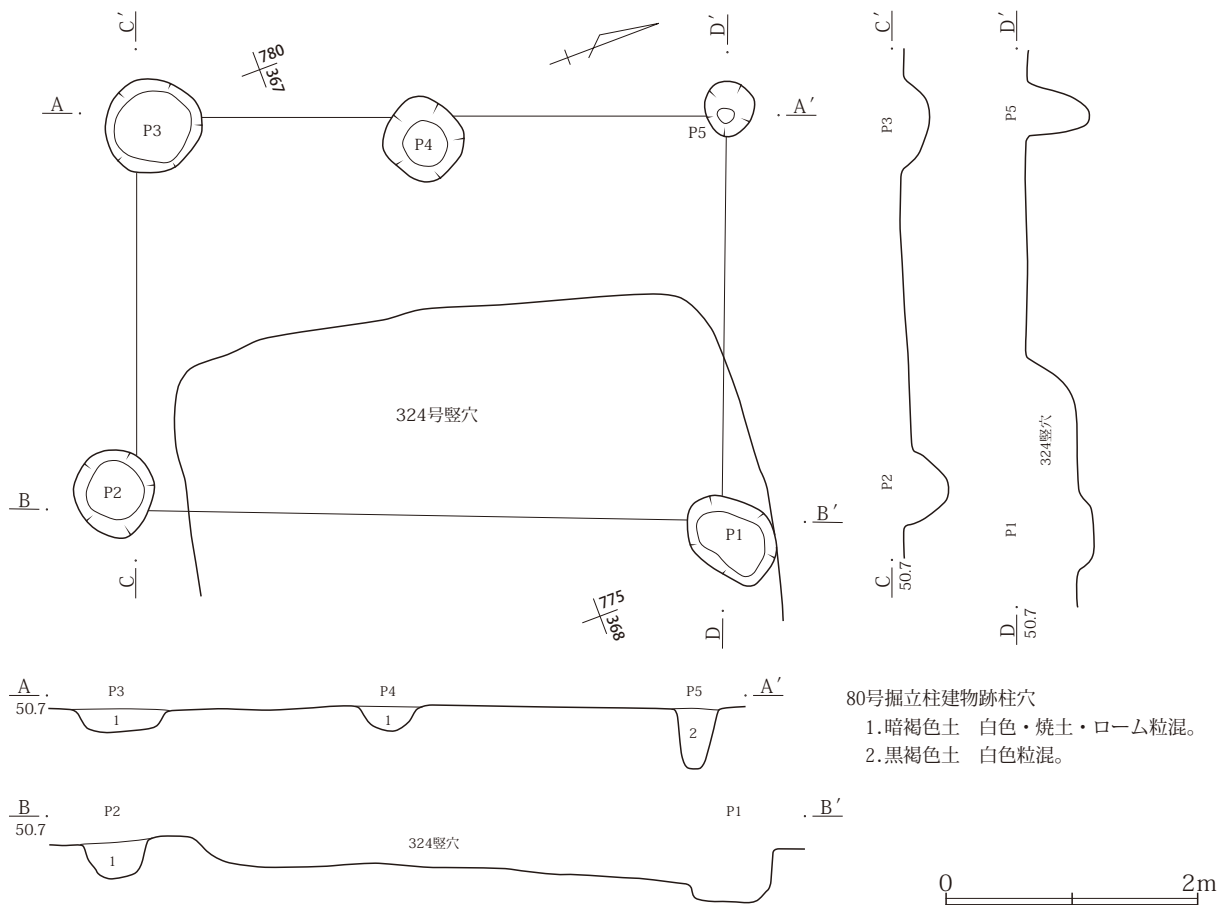
(28) 78号掘立柱建物跡

**位置：**調査区中央東辺寄り。X350-355・Y-775Gr. **主軸方位：**N-16° -W **重複：**北西隅を297号竪穴建物跡竈煙道と接する。**規模と形状：**桁行2間×梁間2間の北北西-南南東方向にやや長い長方形の側柱建物跡。72号掘立柱建物跡と規模がよく類似し建て替えである可能性が高いが、両建物跡の新旧関係は不明。長辺約4.3m・短辺約3.8m、南北柱間は約1.5~1.84m、東西柱間は1.1~1.64mである。**柱穴：**7基検出された。北西隅の柱穴は検出されなかった。柱穴はいずれもほぼ円形状を呈し、小規模である。柱痕は明瞭には検出されなかった。**pit1**長径0.53m・短径0.38m・深さ0.26m、**pit2**長径0.36m・短径0.31m・深さ0.5m、**pit3**長径0.6m・短径0.55m・深さ0.28m、**pit4**長径0.58m・短径0.55m・深さ0.58m、**pit5**長径0.68m・短径0.55

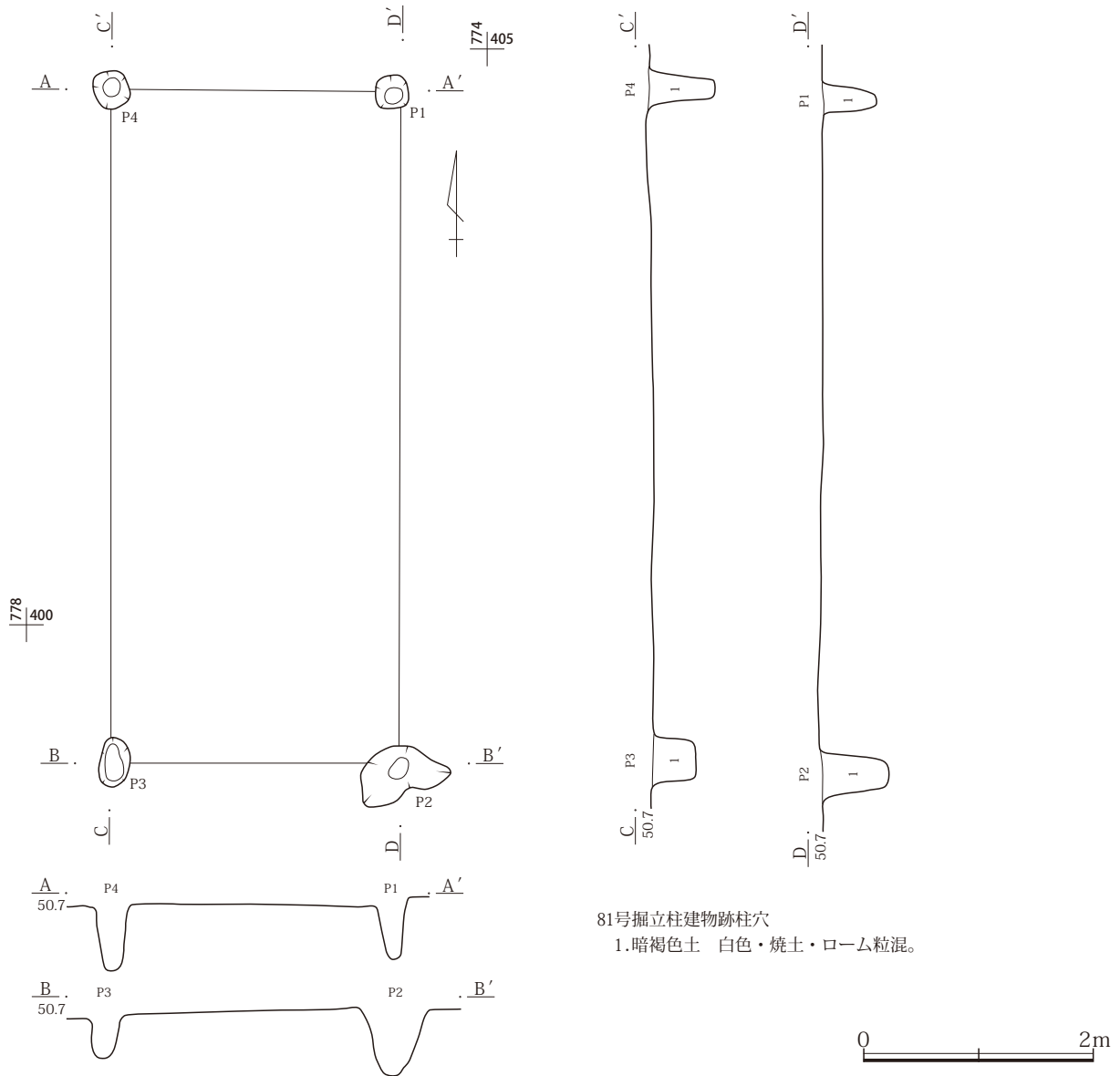
第3章 発見された遺構と遺物



第91図 79号掘立柱建物跡



第92図 80号掘立柱建物跡



81号掘立柱建物跡柱穴  
1.暗褐色土 白色・焼土・ローム粒混。

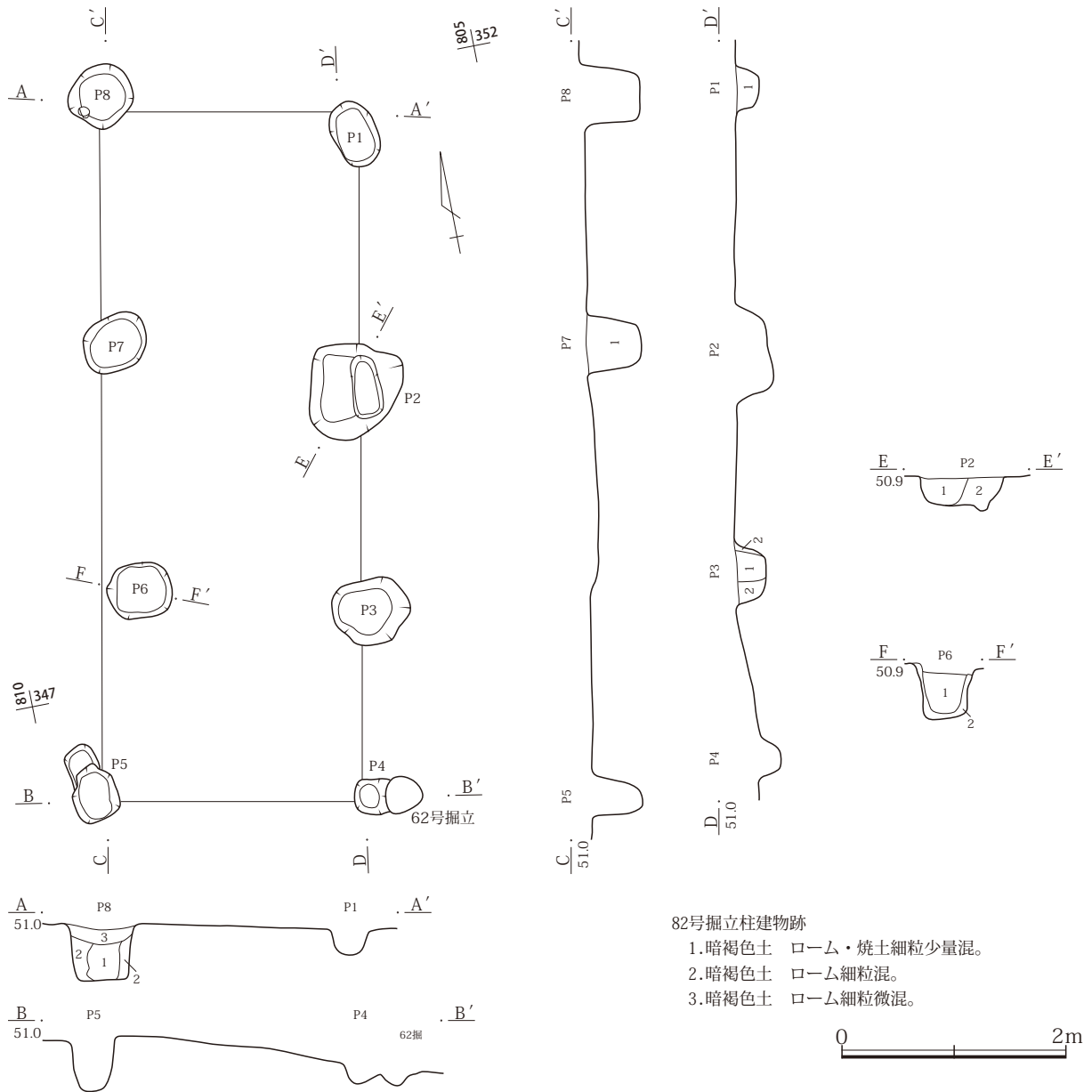
第93図 81号掘立柱建物跡

m・深さ0.46m、**pit6**長径0.66m・短径0.46m・深さ0.56m、**pit7**長径0.38m・短径0.26m・深さ0.31m。  
**柱穴埋土**:暗褐色土ベース。 **時期**:古代。 **遺物**:なし。

(29) 79号掘立柱建物跡

**位置**:調査区北東端付近。X395~400・Y-770Gr.  
**主軸方位**:N-32° -E **重複**:pit4は81号掘立柱建物跡pit2と共通しているが、81号掘立柱建物跡より本建物跡の方が新しい。331・321号竪穴建物跡に掘り込まれる。 **規模と形状**:桁行2間×梁間1間の北東-南西方向にやや長い小規模な長方形の側柱建

物跡。長辺約2.4m・短辺約2m、北東-南西柱間は約0.74~0.9m、北西-南東柱間は1.5~1.8mである。 **柱穴**:6基検出された。いずれも小規模で、ほぼ円形状を呈している。西隅の柱穴は81号掘立柱建物跡南東隅柱穴と共通しているため、掘方が不整形形状に広げられている。柱痕は明瞭には検出されなかった。**pit1**長径0.4m・短径0.38m・深さ0.32m、**pit2**長径0.39m・短径0.35m・深さ0.37m、**pit3**長径0.34m・短径0.32m・深さ0.25m、**pit4**長径0.8m・短径0.5m・深さ0.58m、**pit5**径(0.56)m・深さ計測不能、**pit6**長径(0.44)m・短径(0.4)m・



第94図 82号掘立柱建物跡

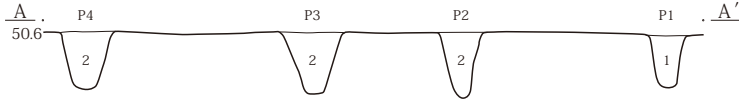
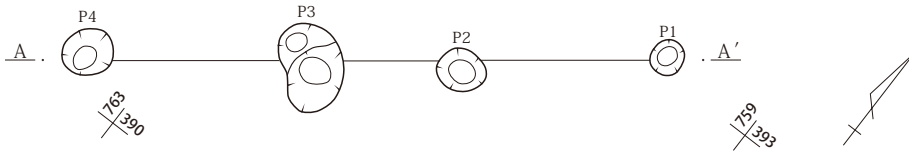
深さ計測不能。 柱穴埋土：暗褐色土ベース。 時期：古代。 遺物：なし。

(30) 80号掘立柱建物跡

位置：調査区中央東辺寄り。 X365・Y-775Gr. 主軸方位：N-22° -E 重複：南東側71号掘立柱建物跡と重複するが新旧関係は不明。 pit2は70号掘立柱建物跡pit1と共通し、71号掘立柱建物跡を建て替えたものが本建物跡と考えられる。324号竪穴建物跡に大きく掘り込まれる。 規模と形状：桁行2間×

梁間1間の北東-南西方向に長い長方形の側柱建物跡。長辺約4.7m・短辺約3.2m、南北柱間は約1.2~1.4m、東西柱間は2.2~2.74mである。 柱穴：5基検出された。いずれもほぼ円形状を呈している。柱痕は明瞭には検出されなかった。東辺中央の柱穴は324号竪穴建物跡に破壊されているせいか全く検出出来なかった。 pit1長径(0.8)m・短径(0.58)m・深さ(0.44)m、 pit2長径0.68m・短径0.64m・深さ0.3m、 pit3長径0.63m・短径0.6m・深さ0.2m、 pit4長径0.63m・短径0.6m・深さ0.2m、 pit5

1号柱穴列跡

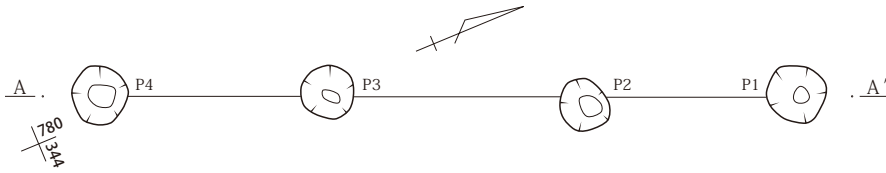


1号柱穴列跡柱穴跡

- 1. 黒褐色土 白色・ローム粒混。
- 2. 暗褐色土 白色・焼土・ローム粒混。



2号柱穴列跡

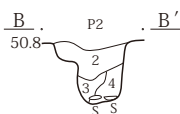
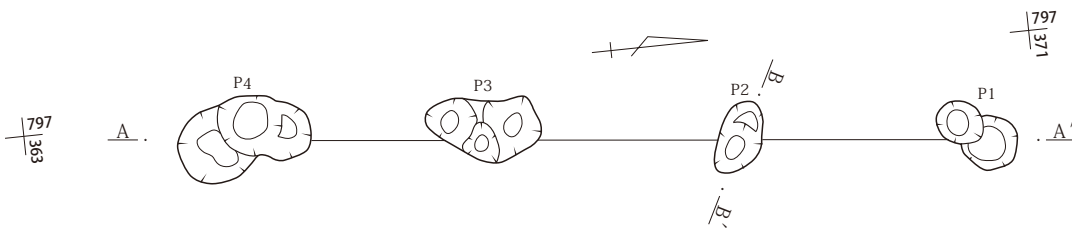


2号柱穴列跡柱穴跡

- 1. 黒褐色土 白色・ローム粒混。
- 2. 暗褐色土 白色・ローム粒混。



3号柱穴列跡



3号柱穴列跡柱穴跡

- 1. 黒褐色土 白色細粒、焼土・ローム粒若干混。
- 2. 暗褐色土 灰白色・ローム・焼土粒多量混。
- 3. 黄褐色土 暗褐色粒若干混。
- 4. 黄褐色土 微細砂礫混。



第95図 1～3号柱穴列跡

### 第3章 発見された遺構と遺物

長径0.45m・短径0.4m・深さ0.46m。 **柱穴埋土**：暗褐色土ベース。 **時期**：古代。 **遺物**：上覆土より須恵器杯1点出土。

#### (31) 81号掘立柱建物跡

**位置**：調査区北東端。 X395~400・Y-770~-775Gr.

**主軸方位**：N-0° **重複**：pit2は79号掘立柱建物跡pit4と共通している。本建物跡よりも79号掘立柱建物跡の方が新しい。建物のほぼ中央部を大きく331号竪穴建物跡に掘り込まれている。 **規模と形状**：桁行×梁間1間の南北に長大な長方形の側柱建物跡。長辺約5.8m・短辺約2.5m、南北柱間は約5.4~5.5m、東西柱間は2~2.1mである。 **柱穴**：4基検出された。いずれも小規模でほぼ円形状を呈している。pit2は79号掘立柱建物跡pit4と共通しているため、掘方が不整円形状に掘り広げられている。柱痕は明瞭ではない。pit1長径0.3m・短径0.28m・深さ0.46m、pit2長径0.86m・短径0.82m・深さ0.33m、pit3長径0.71m・短径0.6m・深さ0.26m、pit4長径0.34m・短径(0.3)m・深さ0.47m。

**柱穴埋土**：暗褐色土ベース。 **時期**：古代。 **遺物**：なし。

#### (32) 82号掘立柱建物跡

**位置**：調査区中央やや西寄り。 X345~350・Y-805Gr. **主軸方位**：N-11° -E **重複**：北側61号掘立柱建物跡、北東側76号掘立柱建物跡、南側62号掘立柱建物跡と重複する。61号掘立柱建物跡との新旧関係は不明。pit1が76号掘立柱建物跡pit5と共通しておりそれよりも古く、また、pit4が62号掘立柱建物跡pit6とほぼ同位置にあたるが、62号掘立柱建物跡よりは本建物跡の方が新しい。 **規模と形状**：桁行3間×梁間1間の北北東-南南西方向に長い長方形の建物跡。長辺約6.1m・短辺約2.3m、南北柱間は約1.2~1.68m、東西柱間は1.78~2mである。

**柱穴**：柱穴跡は8基検出され、いずれもほぼ不整円形ないし楕円形状を呈する。柱痕はpit3及びpit8で確認できたがあまり明瞭ではない。pit6は西辺柱

列から若干内側に入り込んでいる。pit1長径0.6m・短径0.4m・深さ0.22m、pit2長径0.86m・短径0.82m・深さ0.33m、pit3長径0.71m・短径0.6m・柱痕径0.18m・深さ0.26m、pit4長径(0.32)m・短径(0.3)m・深さ0.38m、pit5長径0.7m・短径0.42m・深さ0.45m、pit6長径0.58m・短径0.5m・深さ0.48m、pit7長径0.6m・短径0.5m・深さ0.48m、pit8長径0.58m・短径0.52m・柱痕径0.2m・深さ0.5m。

**柱穴埋土**：暗褐色土ベース。 **時期**：古代。 **遺物**：なし。

#### (33) 1号柱穴列跡

**位置**：調査区北東端寄り、東壁際。 X390・Y-765Gr. **主軸方位**：N-42° -E **重複**：なし。

**規模と形状**：北東-南西方向に3間4基の柱穴が一直線上に並ぶ。全長4.9m、柱間0.7~1.3m。 **柱穴**：柱穴は4基検出され、いずれもほぼ円形状を呈し、規模は小さいがしっかりと掘方を有する。pit1長径0.3m・短径0.28m・深さ0.4m、pit2長径0.4m・短径0.34m・深さ0.52m、pit3長径0.7m・短径0.48m・深さ0.5m、pit4長径0.43m・短径0.4m・深さ0.46m。 **柱穴埋土**：暗褐色土ベース。 **時期**：古代。

**遺物**：なし。

#### (34) 2号柱穴列跡

**位置**：調査区の南東寄り。 X345・Y-775Gr. **主軸方位**：N-23° -E **重複**：なし。 **規模と形状**：北北東-南南西方向に3間4基の柱穴が一直線上に並ぶ。全長6m、柱間は1.28~1.6m。 **柱穴**：柱穴跡は4基検出され、いずれもほぼ円形状を呈し、規模は小さい。pit1径0.46m・深さ0.35m、pit2長径0.44m・短径0.38m・深さ0.32m、pit3径0.42m・深さ0.36m、pit4長径0.48m・短径0.45m・深さ0.35m。 **柱穴埋土**：暗褐色土ベース。 **時期**：古代。

**遺物**：なし。

#### (35) 3号柱穴列跡

**位置**：調査区中央北端寄り。 X360~370・Y-795Gr.

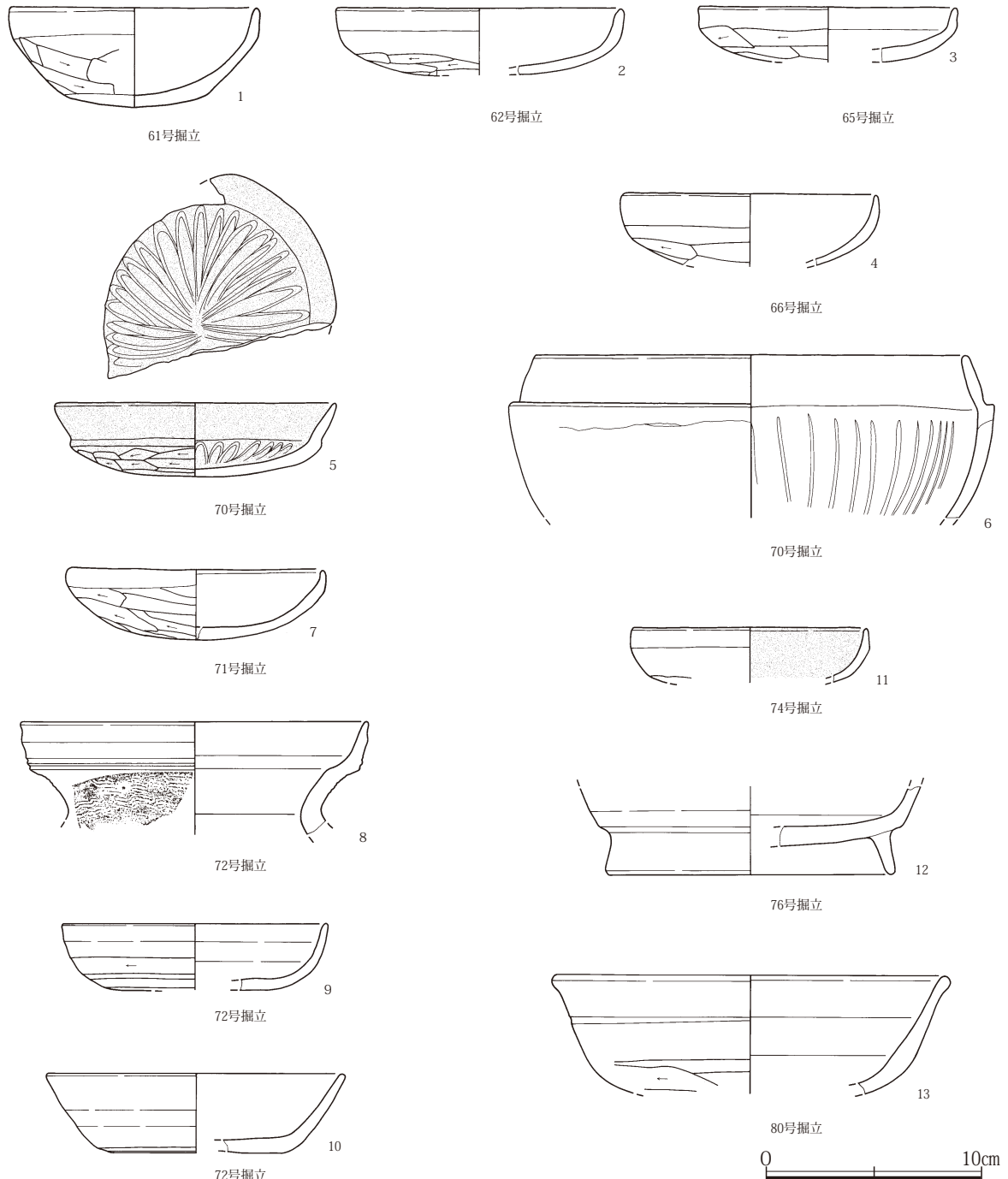


第2節 古墳時代後期～平安時代の遺構と遺物

**主軸方位**：N-6° -E **重複**：北側を347号竪穴建物跡に掘り込まれる。**規模と形状**：南北方向に3間4基の柱穴が一直線上に並ぶ。全長6.6m、柱間は1～1.5m。**柱穴**：柱穴跡は4基検出され、いずれもほぼ不整円形状を呈し規模は小さい。柱穴はほぼ同位置における2期の建て替えが行われている。**pit1**

長径0.7m・短径0.46m・深さ0.34m、**pit2**長径0.62m・短径0.36m・深さ0.54m、**pit3**長径0.93m・短径0.5m・深さ0.26m、**pit4**長径1.06m・短径0.58m・深さ0.5m。

**柱穴埋土**：暗褐色土ベース。**時期**：古代。**遺物**：なし。



第96図 掘立柱建物跡出土遺物

## 第2項 竪穴建物跡

古墳時代後期（飛鳥時代）～平安時代前期にかけての竪穴建物跡は155棟検出され、古代に形成された大集落としての様相を呈している。竪穴建物跡は調査区全域に亘って検出されており、竪穴建物跡群の範囲は西に隣接する大道東・大道西遺跡などから続いていて、調査区の南北両側にも延びているものと考えられる。

本遺跡は、昭和42（1967）年に駒澤大学考古学研究室が只上遺跡として竪穴1棟を調査し、さらに昭和61（1986）年～翌62年の群馬県菅渡良瀬川流域地区公害防除特別土地改良事業に伴い、太田市教育委員会が、28,000㎡に及ぶやや大規模な発掘調査を本調査区の北約200mの場所で実施し、古墳時代後期竪穴約100棟、奈良時代竪穴約5棟・掘立13棟、平安時代竪穴90棟、溝約20条、井戸6基などの遺構を検出している。ただし、過去に調査が行われた本遺跡内のこれらの場所は、今回の北関東自動車道の建設工事対象地とは全く重複していない。

竪穴建物跡を主体とする集落は、大道西遺跡の東寄りの部分からはじまり、大道東遺跡の主要部分とその東側に隣接する本遺跡1区までがピークであり、昨年度すでに報告した本遺跡2区の西端寄りの位置で台地が途切れ、北からやや大きな谷が入る。本遺跡3・4区と鹿島浦遺跡で検出された集落は、大道西遺跡から本遺跡1区までの集落とは谷一つ隔てた別の集落ということになる。

本遺跡1区では、調査区の中央部で特に竪穴建物跡の重複が顕著で、激しく切り合っている。また、同じような位置に竪穴建物を造営しようとする強い意志を感じる。

2～4区で検出された竪穴建物跡の竈はほとんど東壁に取り付き、主軸方位もほぼ類似し、全般的に東北～南西方向にやや長い長方形を呈するなど、共通した要素が多く、これらの竪穴建物が同じ造営理念のもとに建設された竪穴建物跡である可能性が

想定できた。このような形態の竪穴建物跡は、4区のさらに南に隣接する鹿島浦遺跡でも多数検出されており、各地の事例に勘案すれば、このような形状の竪穴建物は、単なる住居ではなく工房的な要素が顕著である。

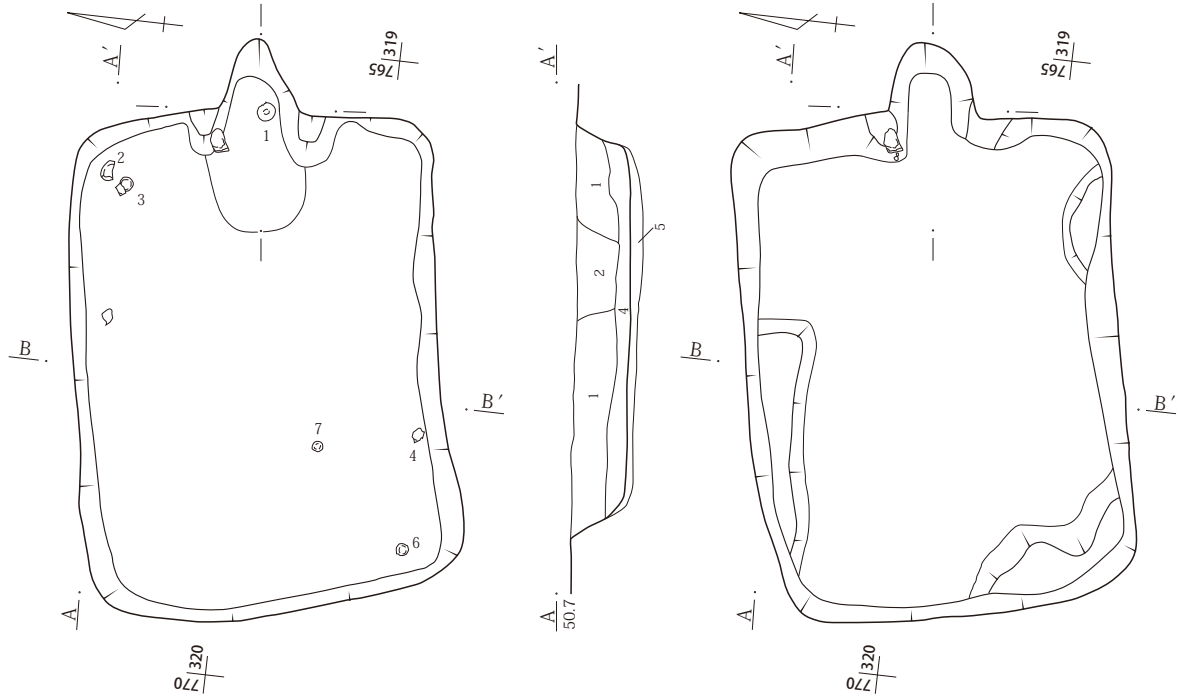
しかしながら1区で検出された竪穴建物跡には東側に竈が取り付く事例に加えて北側に竈が付く例も多くみられ、主軸方位もまちまちで、あまり企画性を感じない。この点も、谷により隔てられた東側の集落、本遺跡3・4区及び鹿島浦遺跡のほかの集落との性格の相違によるのかもしれない。

### （1）201号竪穴建物跡

**位置：**調査区南東隅壁際寄り。X315-320・Y-765Gr. **主軸方位：**N-81° -E **重複：**224号竪穴建物跡・1082号土坑跡・51～53号掘立柱建物跡を掘り込む。 **規模と形状：**ほぼ東西に長い長方形を呈する。3・4区やその南側に隣接する鹿島浦遺跡などで多く検出された、東西に細長く東側に竈が取り付く、所謂工房型と言われる竪穴建物跡に形状がよく類似している。長辺4m・短辺3m・深さ0.43m、掘方までの深さは0.53m。 **埋土：**暗褐色土ベース。 **床面：**地山を比較的平坦に掘り込んで、暗褐色土を貼って硬質な床面を形成している。 **掘方：**北壁の北西隅寄り、南西隅、南東隅付近が部分的に高いが、全体に凹凸はあまりない。 **竈：**東壁のほぼ中央に取り付く。地山を削り出して形成され、小規模である。残存状態も良くない。煙道はあまり顕著には確認できなかった。両袖は粘土で構築され、建物の内側に若干張り出す。燃焼部は壁にほぼ並行して形成される。 **貯蔵穴：**なし。 **時期：**8C4～9C1。 **遺物：**建物の縁辺部近くから多く出土。須恵器杯蓋1、須恵器杯3、須恵器甕片1、須恵器椀2。

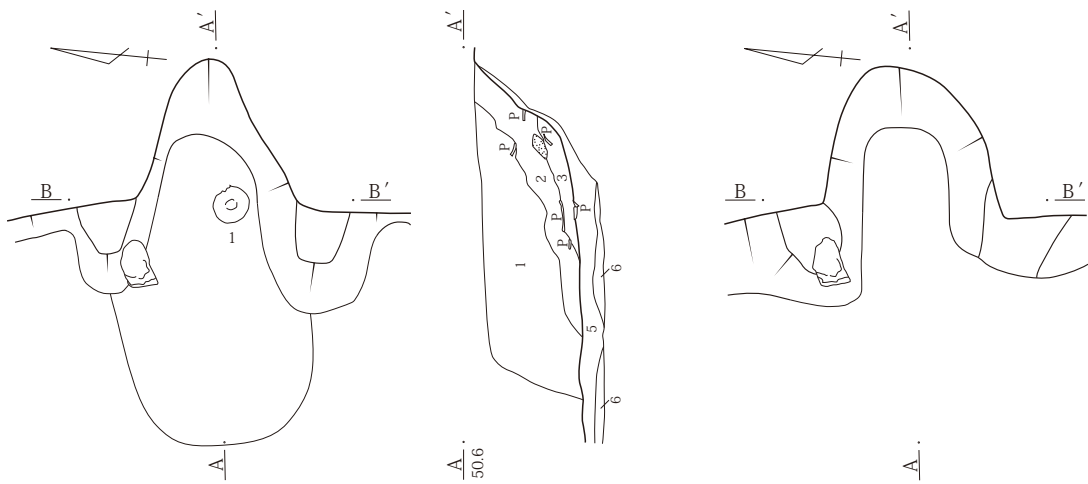
### （2）202号竪穴建物跡

**位置：**調査区南東隅寄。X320-325・Y-765Gr. **主軸方位：**N-9° -E **重複：**222号竪穴建物跡に掘り



201号竪穴建物跡

1. 暗褐色土 ローム粒少量混。
2. 暗褐色土 1層より暗い。ローム粒少量混。焼土粒微量混。
3. 暗褐色土 1層よりは暗く、2層よりは明るい色調。ローム粒少量混。
4. 暗褐色土 1層と同じ色調。ローム粒少量混。
5. 暗褐色土 ローム塊少量混。

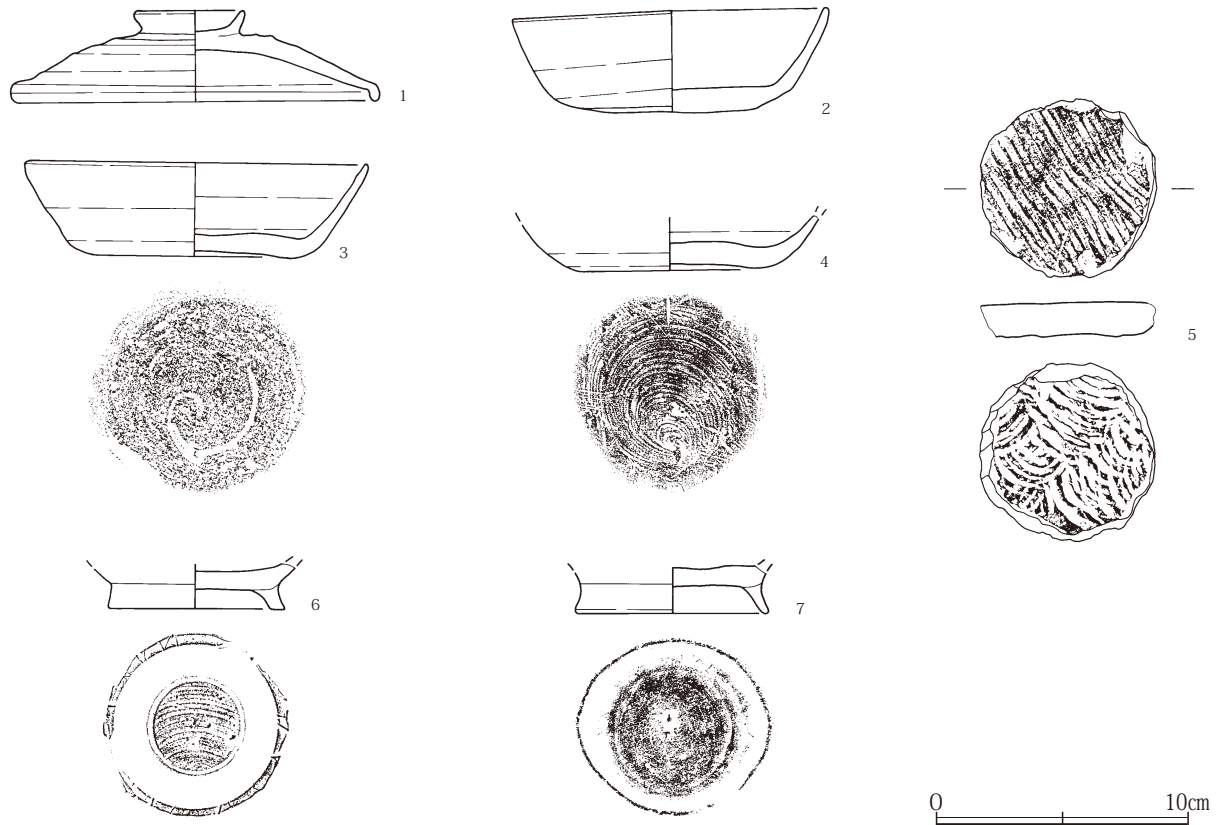


201号竪穴建物跡竈

1. 暗褐色土 焼土・ローム・白色粒少量混。
2. 暗褐色土 焼土粒・小塊多量混。
3. 暗褐色土 灰を含みやや黒ずむ。焼土粒多混。
4. 暗褐色土 焼土粒・ローム粒・小塊混。
5. 暗赤褐色土 灰混じり黒ずむ。焼土粒・小塊多量混。
6. 暗褐色土 ローム粒・小塊、円礫混。

第97図 201号竪穴建物跡

第3章 発見された遺構と遺物



第98図 201号竪穴建物跡出土遺物

込まれる。240号竪穴建物跡、1020号土坑跡を掘り込む。**規模と形状**:南北に長い長方形、長辺4.8m・短辺4m・床面までの深さ0.56m・掘り方までの深さは0.62m。**埋土**:暗褐色土ベース。**床面**:地山を掘り込んだ上に黒褐色土で貼床を貼り、硬質な床面を形成している。厚さ0.06m程度。**掘方**:北西隅や竈前一带など部分部分がやや深く掘り窪められる。**竈**:東壁のほぼ中央に取り付く。燃烧部は地山を削り出して形成される。残存状態も良くない。煙道は顕著には確認できなかった。両袖は隅丸立方体状の石を芯に粘土を貼って構築され、建物内に張り出す。燃烧部は建物の壁の位置より手前に形成される。**貯蔵穴**:なし。**時期**:8C3。**遺物**:散在。埋土中が主。土師器杯8、須恵器杯12、須恵器碗2、須恵器杯蓋2、土師器甕6、須恵器甕1ほか。

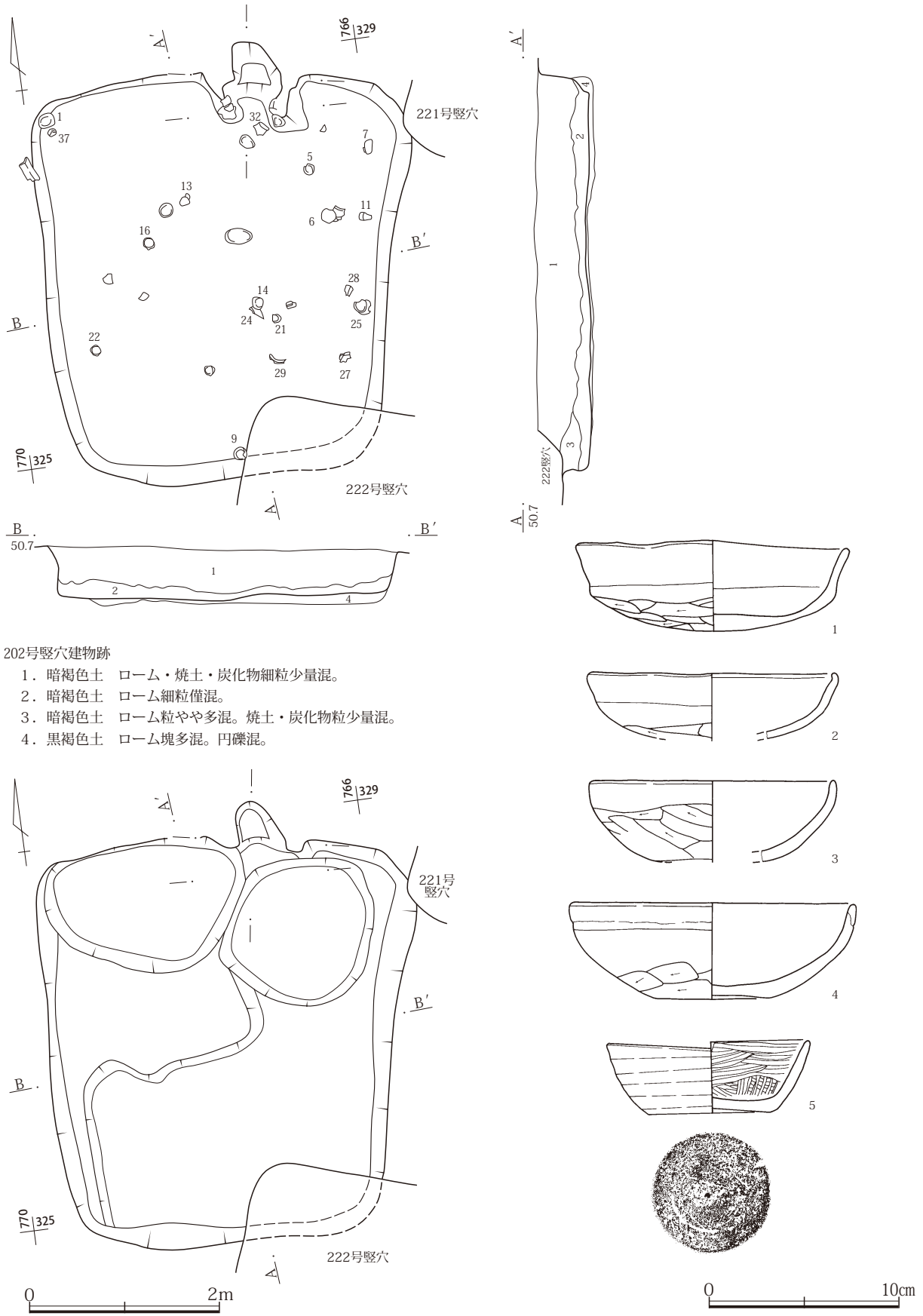
(3) 203号竪穴建物跡

**位置**:調査区南東隅から若干中央寄り。X

325-330・Y-775~780Gr. **主軸方位**:N-66° -E  
**重複**:1014号土坑跡に掘り込まれる。204・229号竪穴建物跡を掘り込む。**規模と形状**:南北に長い長方形を呈する。長辺4.9m・短辺3.5m・床面までの深さ0.22m・掘り方までの深さは0.34m。**埋土**:暗褐色土ベース。**床面**:地山を掘り込んだ上に暗褐色土で貼床を貼り、硬質な床面を形成している。厚さ0.12m前後。**掘方**:北半分がやや深く掘り窪められる。**竈**:東壁のほぼ中央に取り付く。燃烧部・両袖は地山を削り出して形成される。煙道は顕著には確認できなかった。両袖はほとんど張り出さない。燃烧部は建物の壁より奥に形成される。掘り調査時に支脚痕と思われる小穴が検出された。**貯蔵穴**:なし。**時期**:古代。**遺物**:埋土中より手捏ね土器が1点出土している。

(4) 204号竪穴建物跡

**位置**:調査区南東隅から若干中央寄り。X

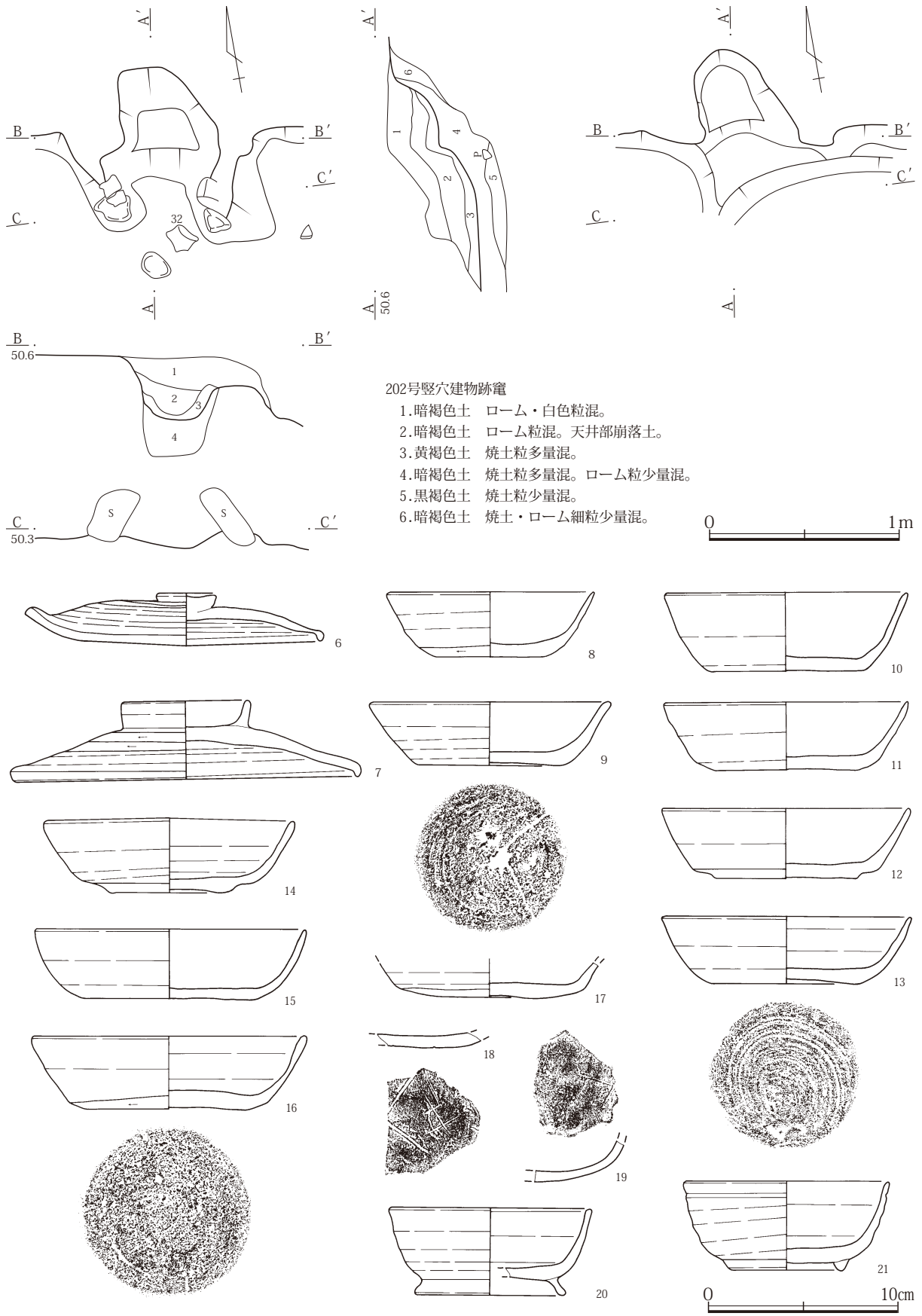


202号竪穴建物跡

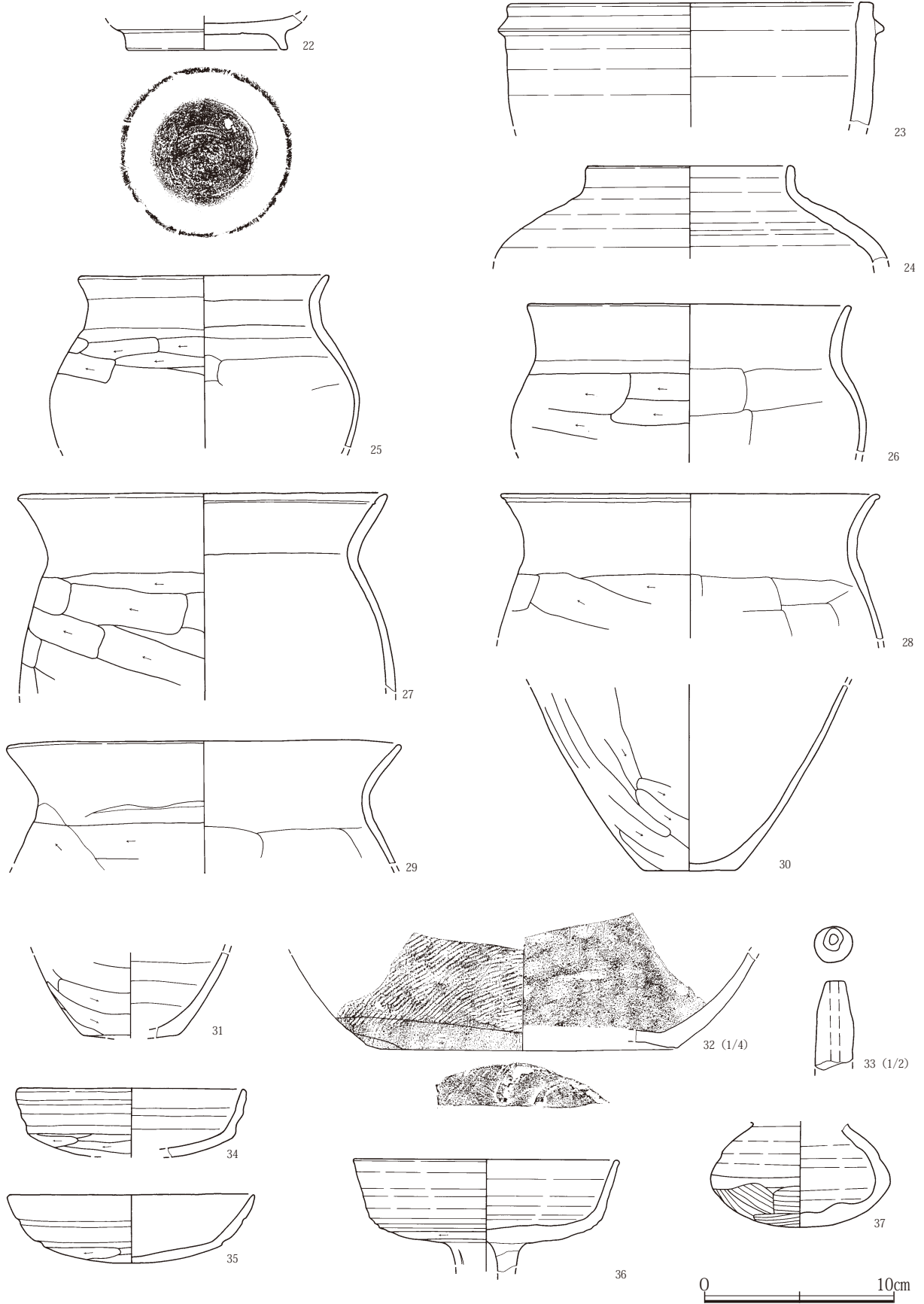
1. 暗褐色土 ローム・焼土・炭化物細粒少量混。
2. 暗褐色土 ローム細粒僅混。
3. 暗褐色土 ローム粒やや多混。焼土・炭化物粒少量混。
4. 黒褐色土 ローム塊多混。円礫混。

第99図 202号竪穴建物跡・出土遺物(1)

第3章 発見された遺構と遺物

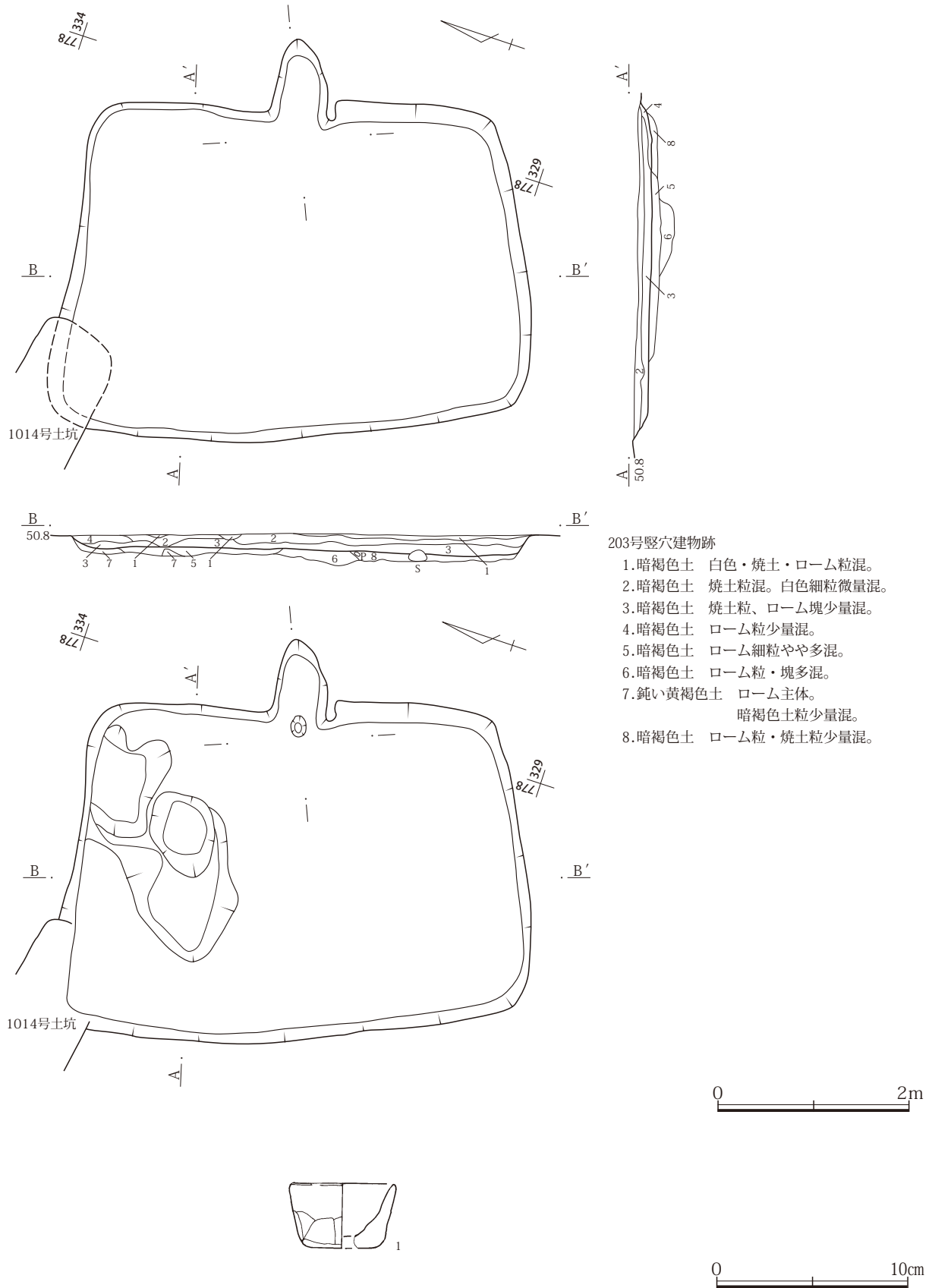


第100図 202号竖穴建物跡竈・出土遺物（2）



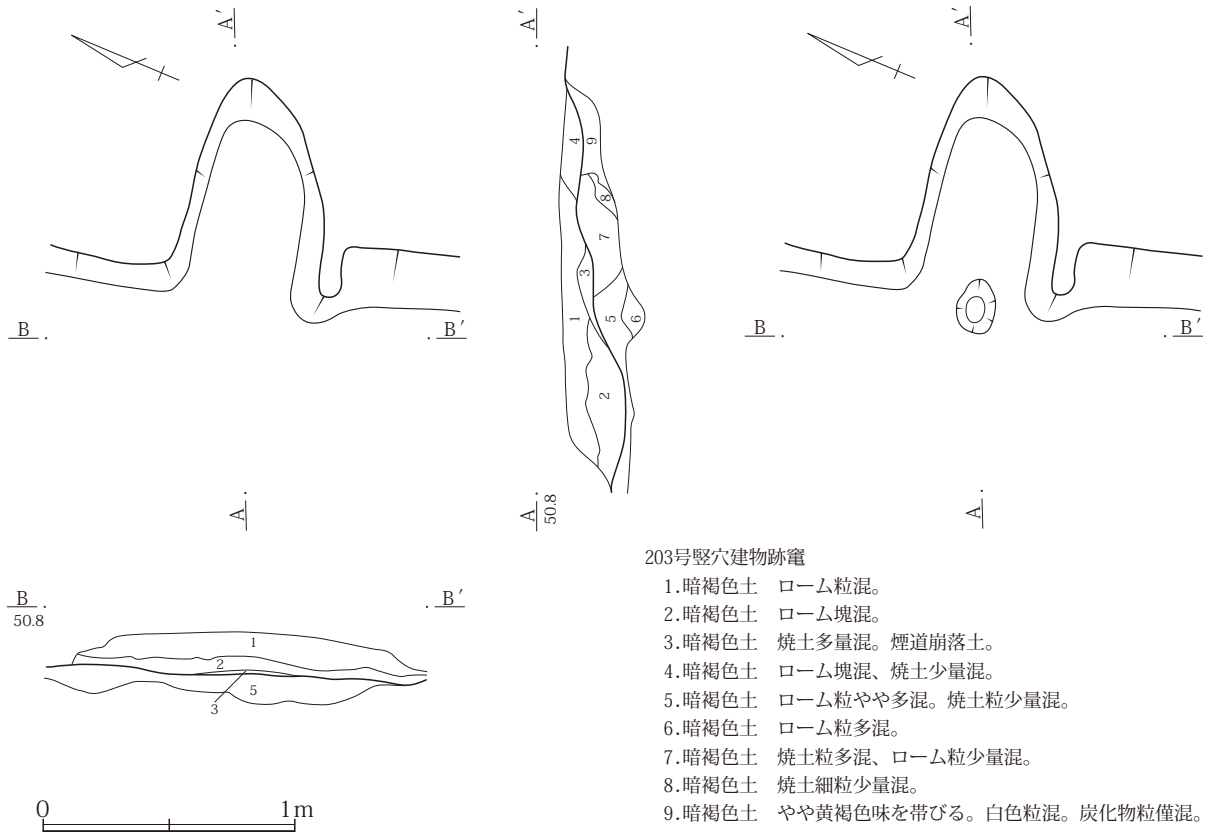
第101図 202号竪穴建物跡出土遺物（3）

第3章 発見された遺構と遺物



第102図 203号竖穴建物跡・出土遺物

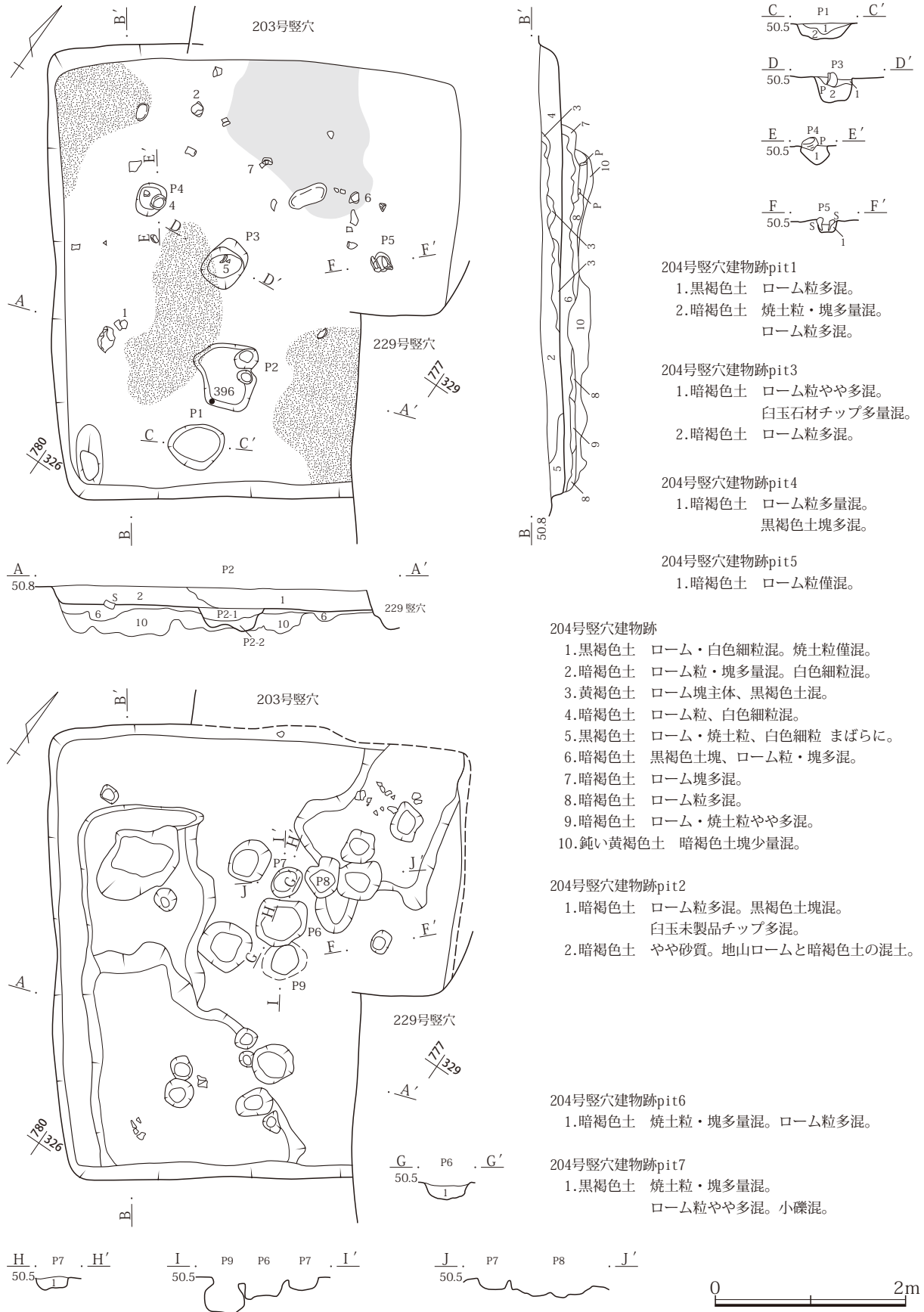




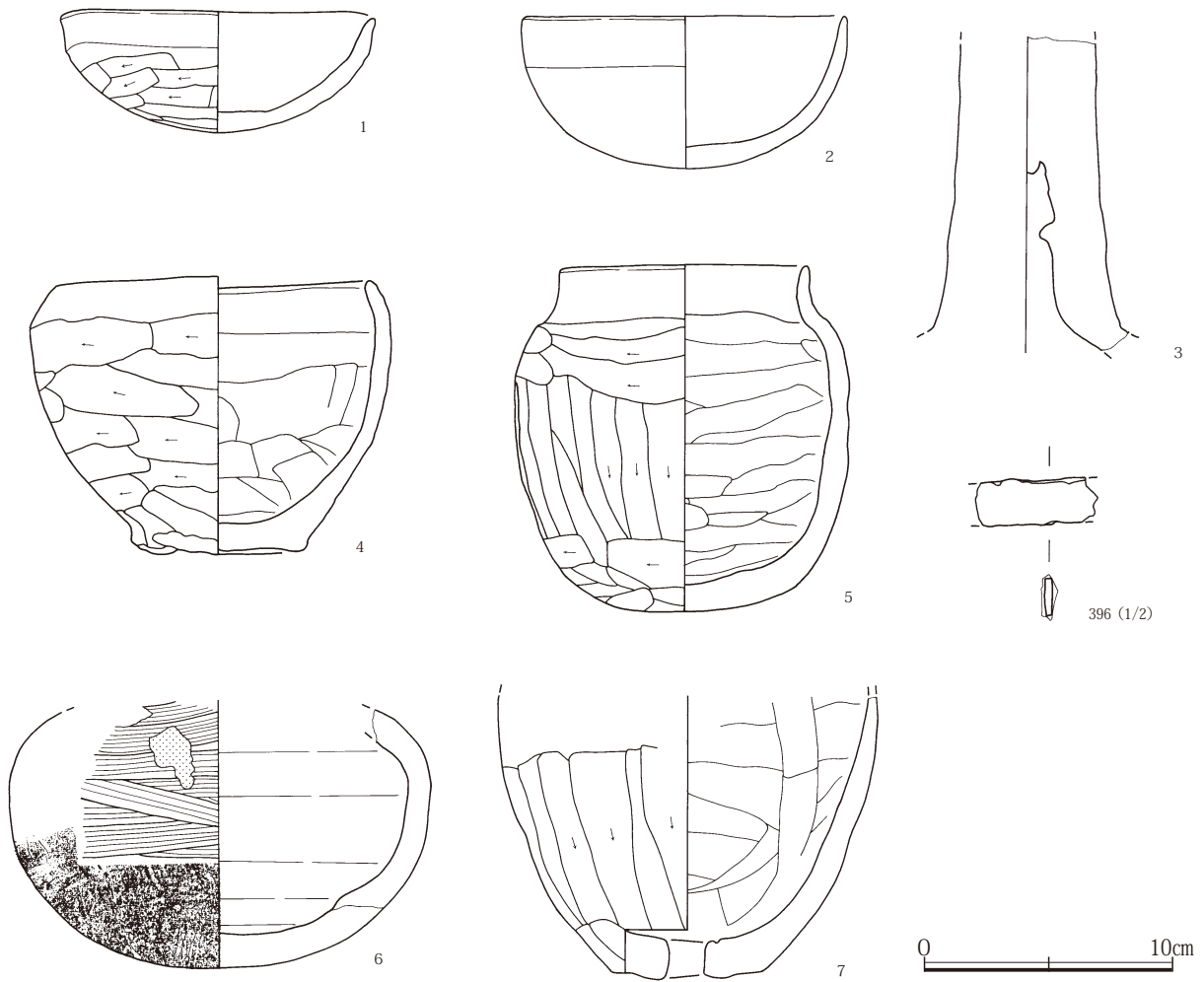
第103図 203号竪穴建物跡竈

325~330・Y-775 ~ -780Gr. 主軸方位：N-33°  
 -W 重複：203・229号竪穴建物跡に掘り込まれ、  
 1043・1045号土坑跡を掘り込む。規模と形状：北  
 西一南東方向にやや長い長方形を呈する。長辺  
 4.78m・短辺4.3m・床面までの深さ0.32m・掘方  
 までの深さは0.42m。埋土：暗褐色土ベース。  
 床面：地山を大きく掘り込んだ上にローム及び暗褐  
 色土で貼床を貼り、硬質な床面を形成している。厚  
 さ0.1m前後。床面には広範囲にわたってロームが  
 検出された。また白玉及びその未製品片が散乱して  
 おり、石材粉末が集中して分布する箇所も検出され、  
 白玉を作っていた玉造工房跡と考えられる。掘方：  
 全体に凹凸が甚だしく、とくに南約1/3が深く窪め  
 られる。炉：検出されず。貯蔵穴：なし。柱  
 穴・pit：柱穴は検出されなかったのであるが、床  
 面でpit1～5の5基、床下からpit6～9の4基、計  
 9基のpitが検出された。これらのpitの明確な用途

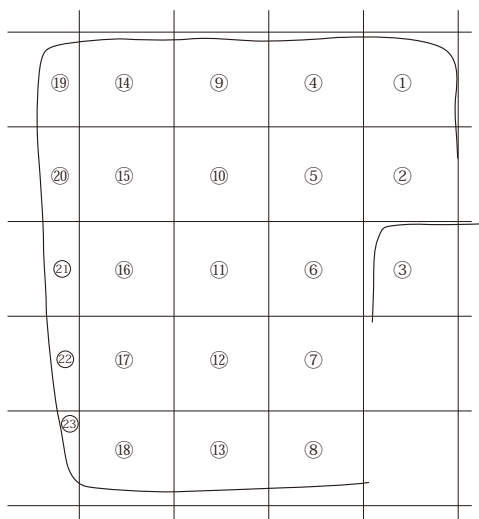
や機能は不明である。pit1からは多量の焼土が検出  
 されたが、面としては焼けていないため炉とは考え  
 にくい。pit1長径0.6m・短径0.5m・深さ0.17m、  
 pit2長径0.72m・短径0.7m・深さ0.24m、pit3長  
 径0.53m・短径0.42m・深さ0.28m、pit4長径0.38  
 m・短径0.32m・深さ0.21m、pit5径0.22m・深さ  
 0.12m、pit6長径0.52m・短径0.5m・深さ0.17m、  
 pit7長径0.37m・短径0.3m・深さ0.15m、pit8長  
 径0.44m・短径0.38m・深さ0.18m、pit9長径0.5m・  
 短径0.4m・深さ0.4m。特徴：本遺跡で検出され  
 た唯一の古墳時代中期の竪穴建物跡であるが、西に  
 隣接する大道東遺跡からは玉造工房跡がみつかって  
 いる。時期：6C。遺物：石製模造品については後述(第4章第4節)。それ以外は、散在的に出土。  
 ほとんどが床直。土師器杯1、土師器椀1、土師器  
 高杯1、土師器鉢1、土師器小型甕1、須恵器壺1、  
 須恵器甌1、とバラエティーに富む。



第104図 204号竪穴建物跡



第105図 204号竪穴建物跡模式図・出土遺物（1）



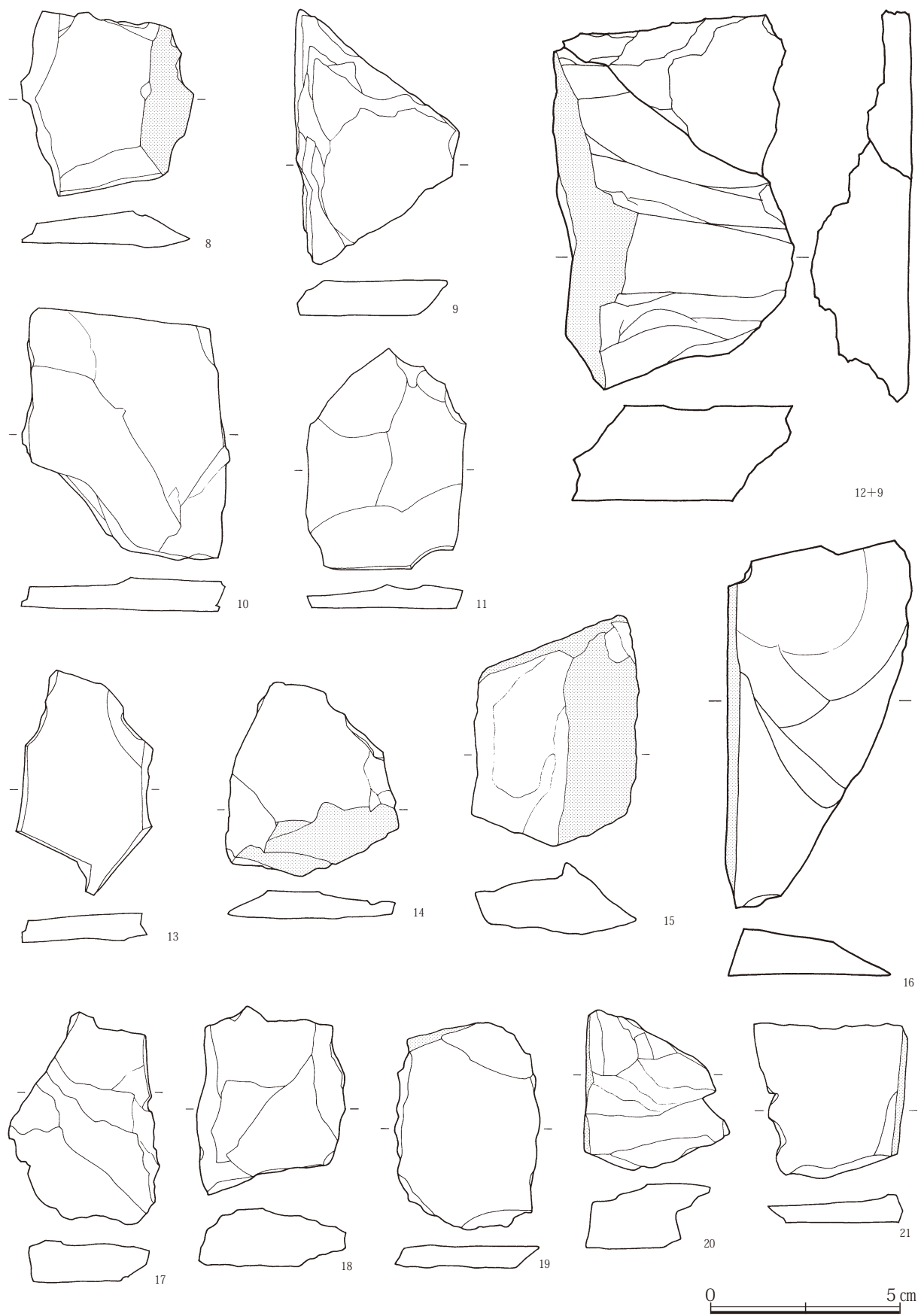
竪穴建物跡内における石製模造品の出土分布状況を明らかにするため、左図のように便宜的に建物内を1m四方ごとに23のブロックに分割した。

ブロック毎の石製模造品の出土点数は、①4点、②5点、④9点、⑤9点、⑨6点、⑩30点、⑪109点、⑫50点、⑮4点、⑯9点、⑰4点、計239点

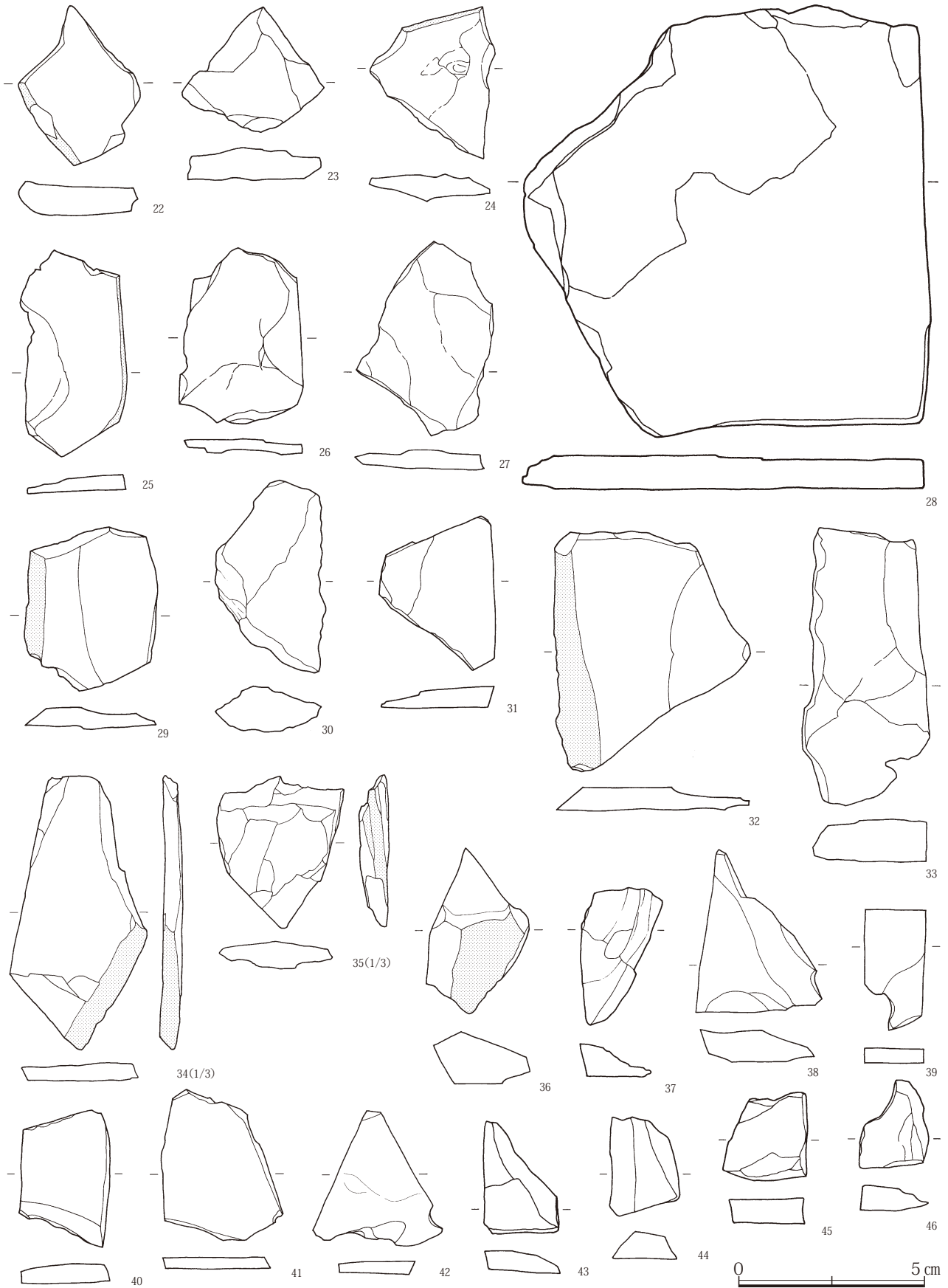
ブロック毎の石材片の出土点数は、②419点、③57点、⑤233点、⑥562点、⑦580点、⑧98点、計1949点

他にも埋土中より小片が大量に出土している。



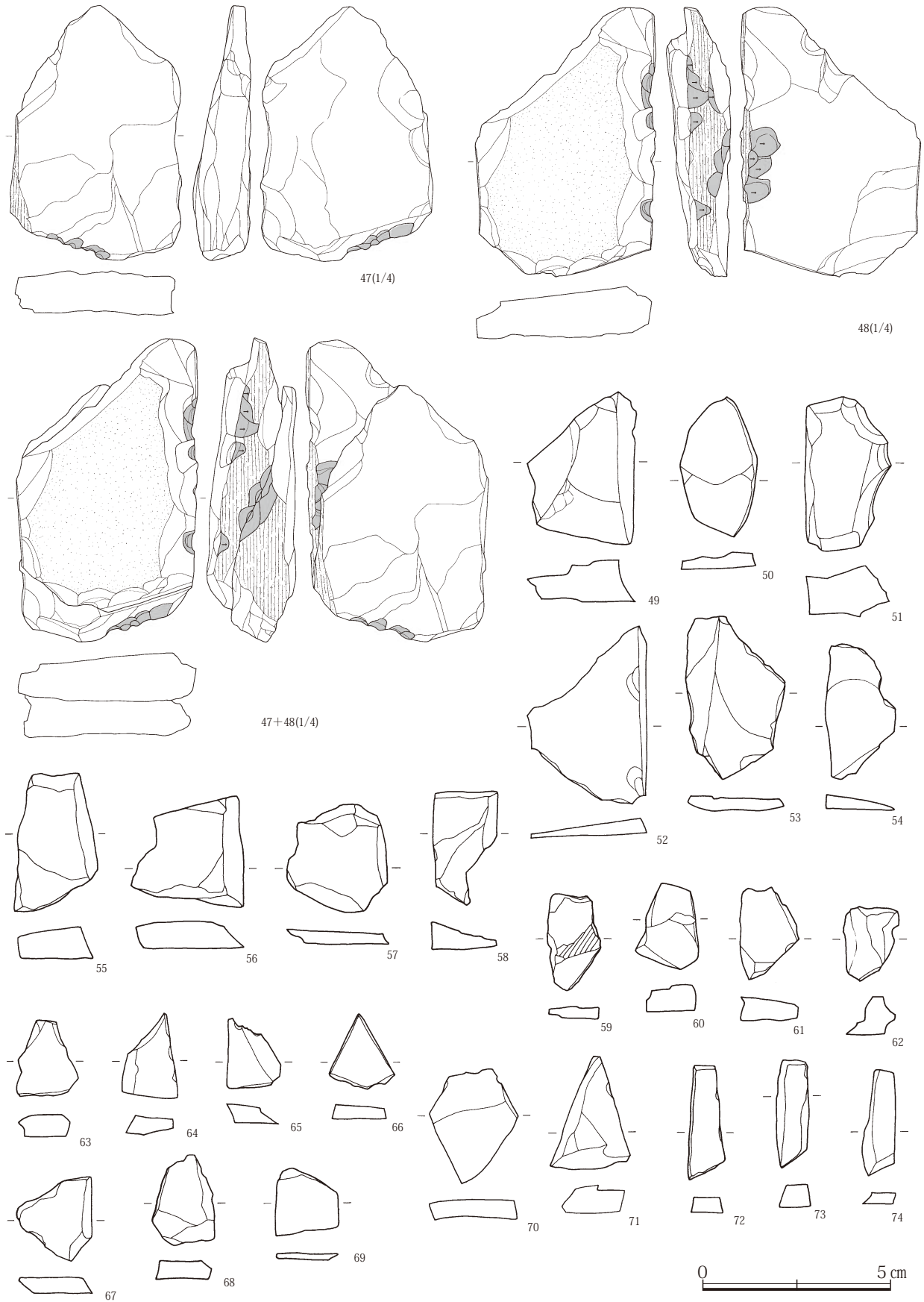


第106図 204号竪穴建物跡出土遺物(2) 石製模造品石核・A類

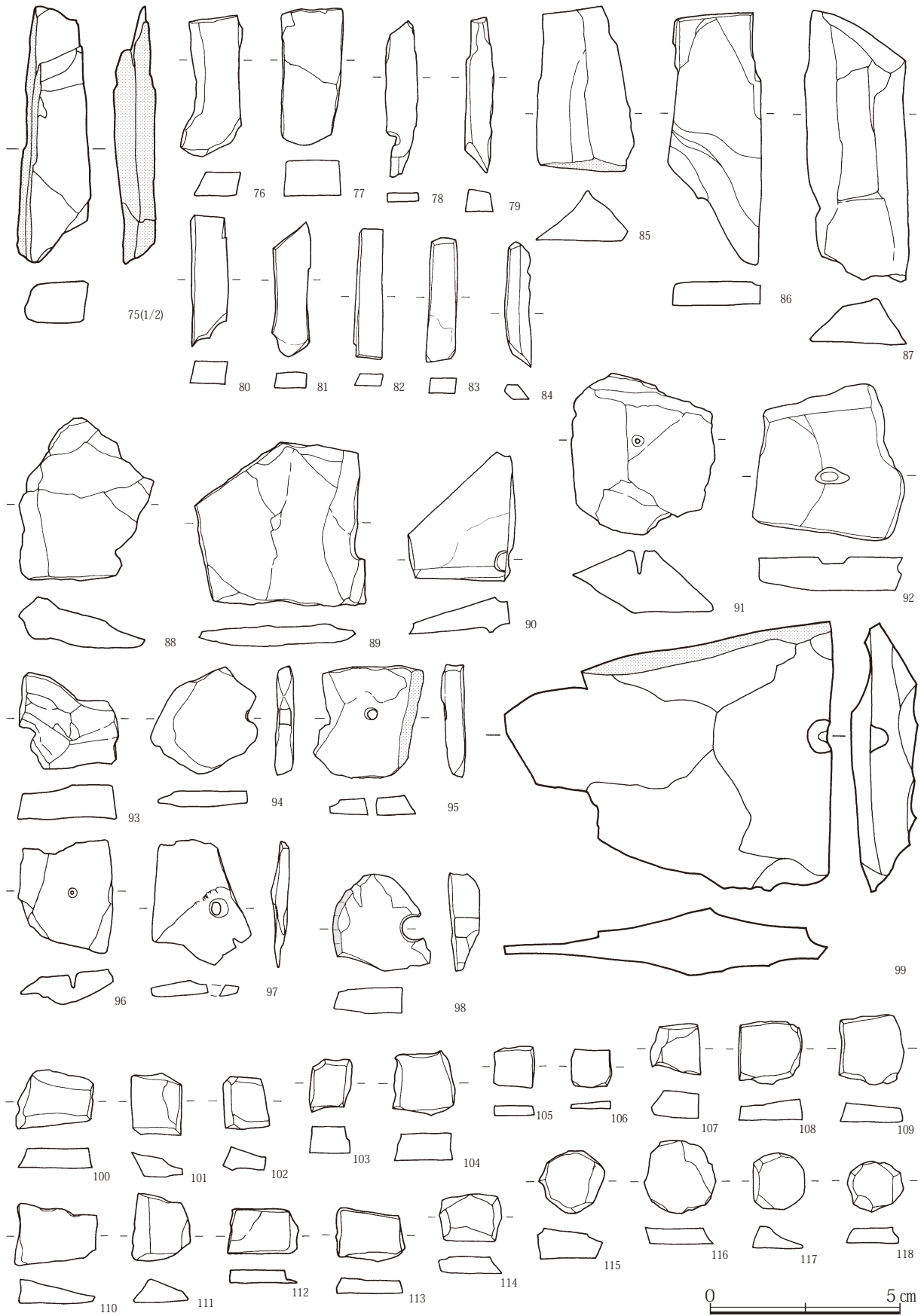


第107図 204号竪穴建物跡出土遺物(3) 石製模造品A類

第3章 発見された遺構と遺物

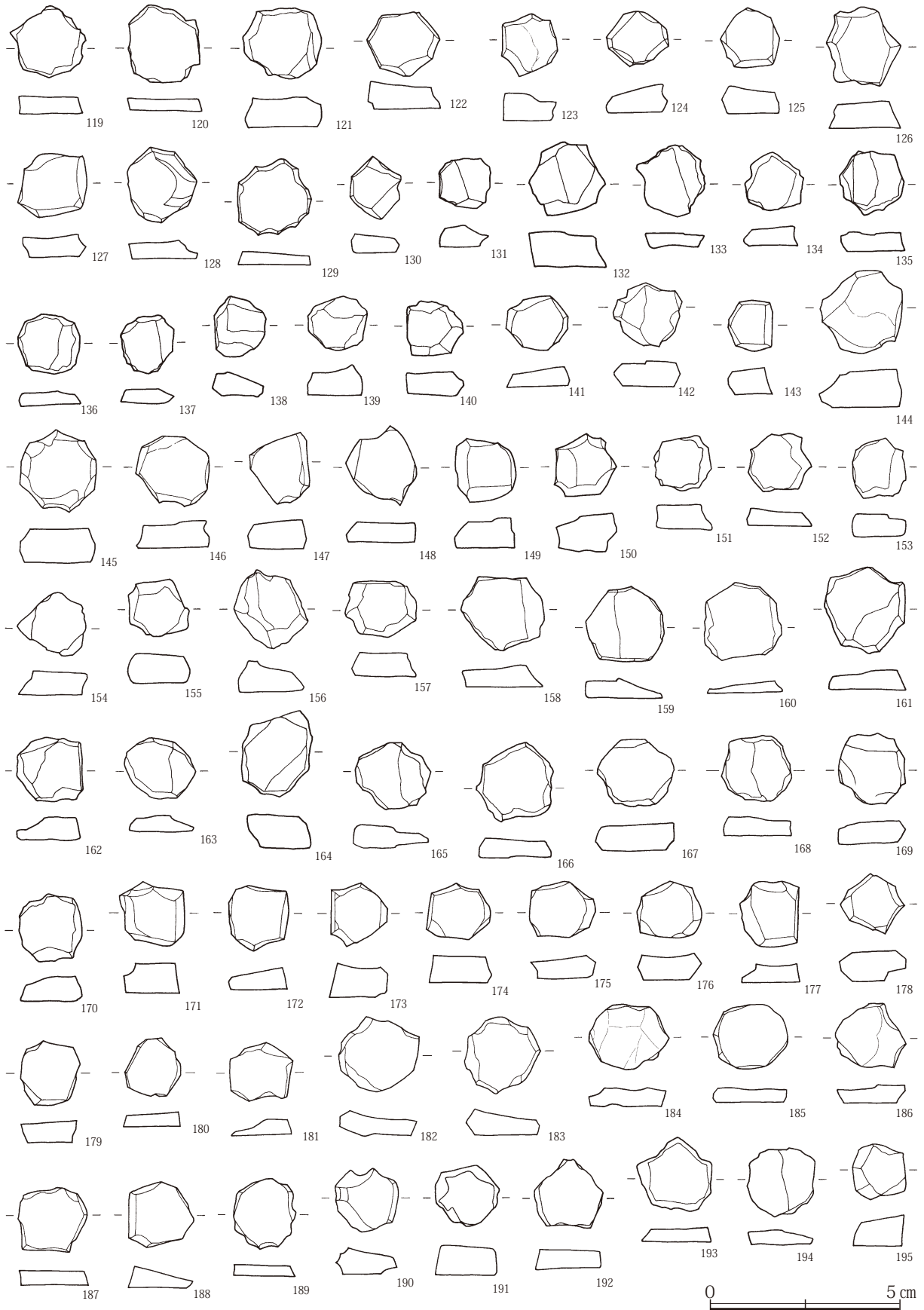


第108図 204号竪穴建物跡出土遺物(4) 石製模造品石核・A類



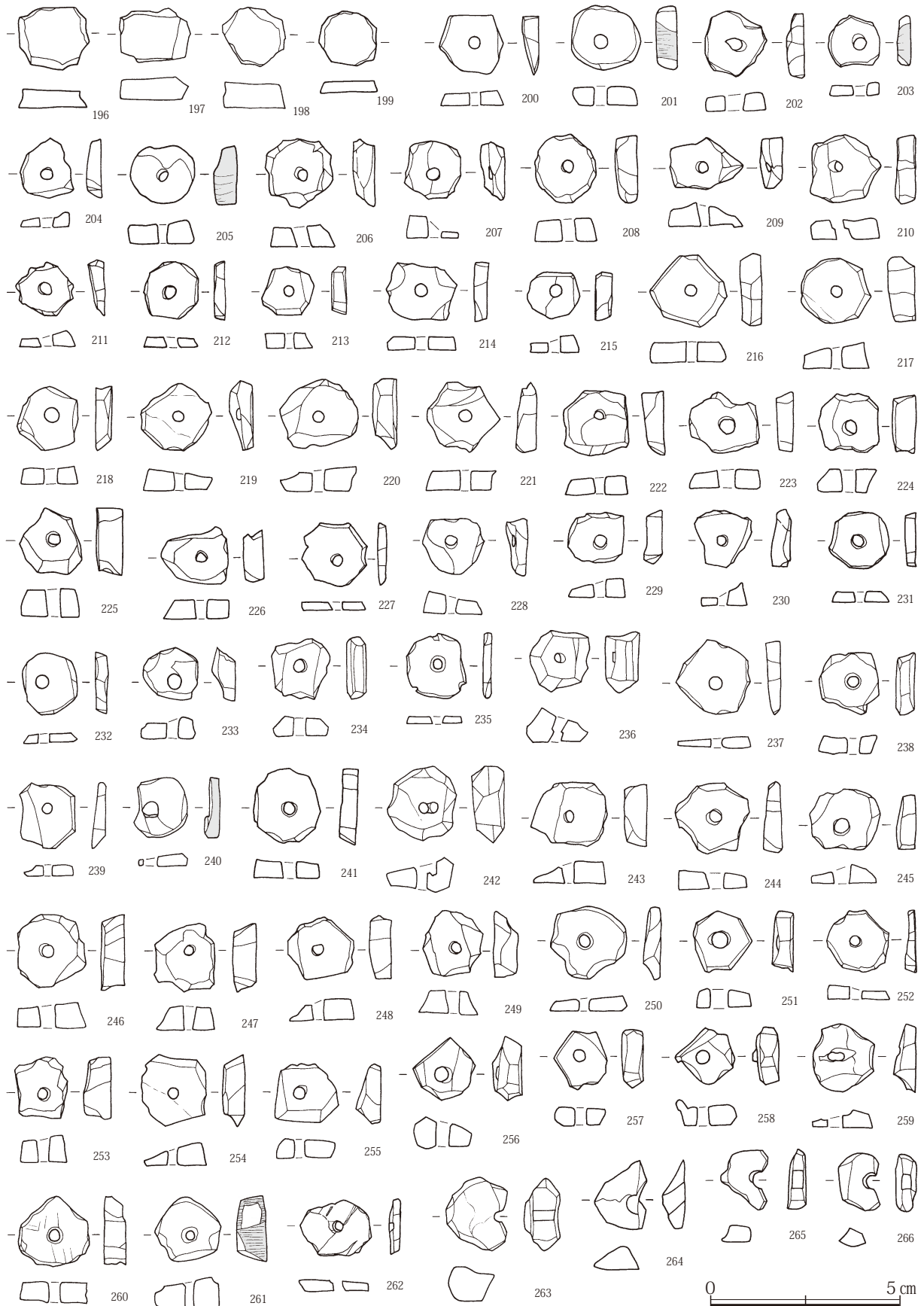
第109図 204号竪穴建物跡出土遺物（5）石製模造品A・B・C類

第3章 発見された遺構と遺物



第110図 204号竪穴建物跡出土遺物(6) 石製模造品C類



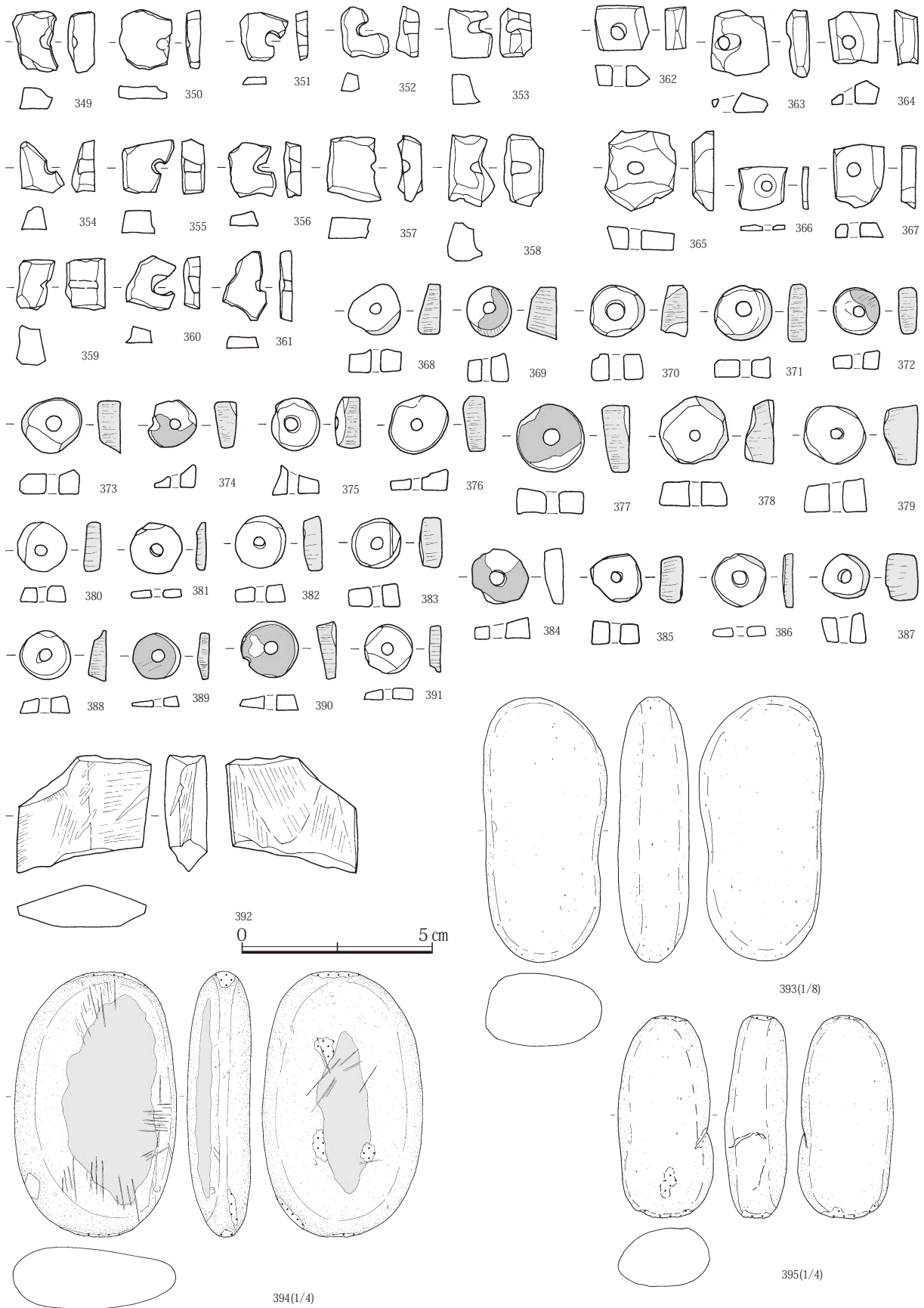


第111図 204号竪穴建物跡出土遺物（7）石製模造品C・D類

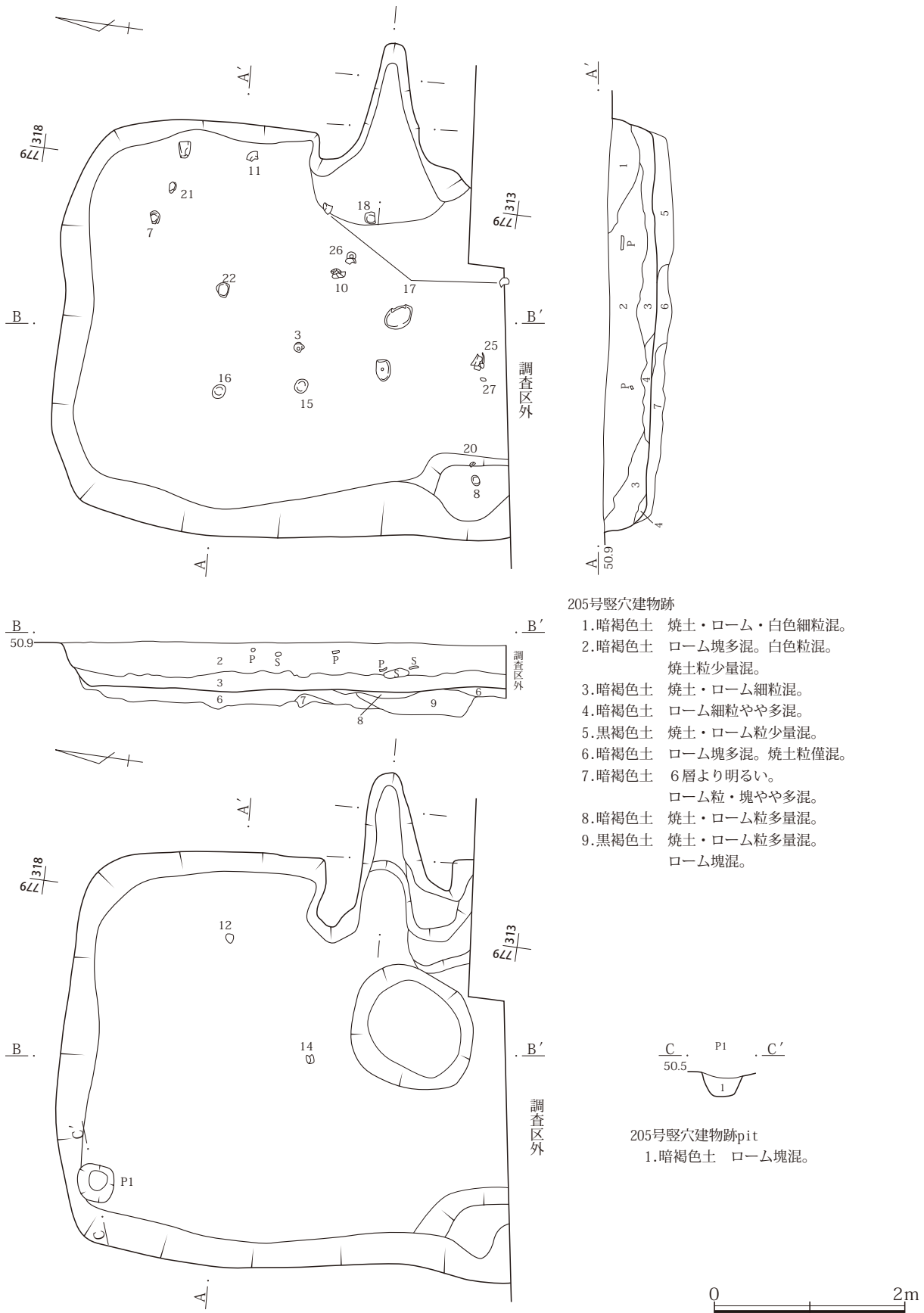
第3章 発見された遺構と遺物



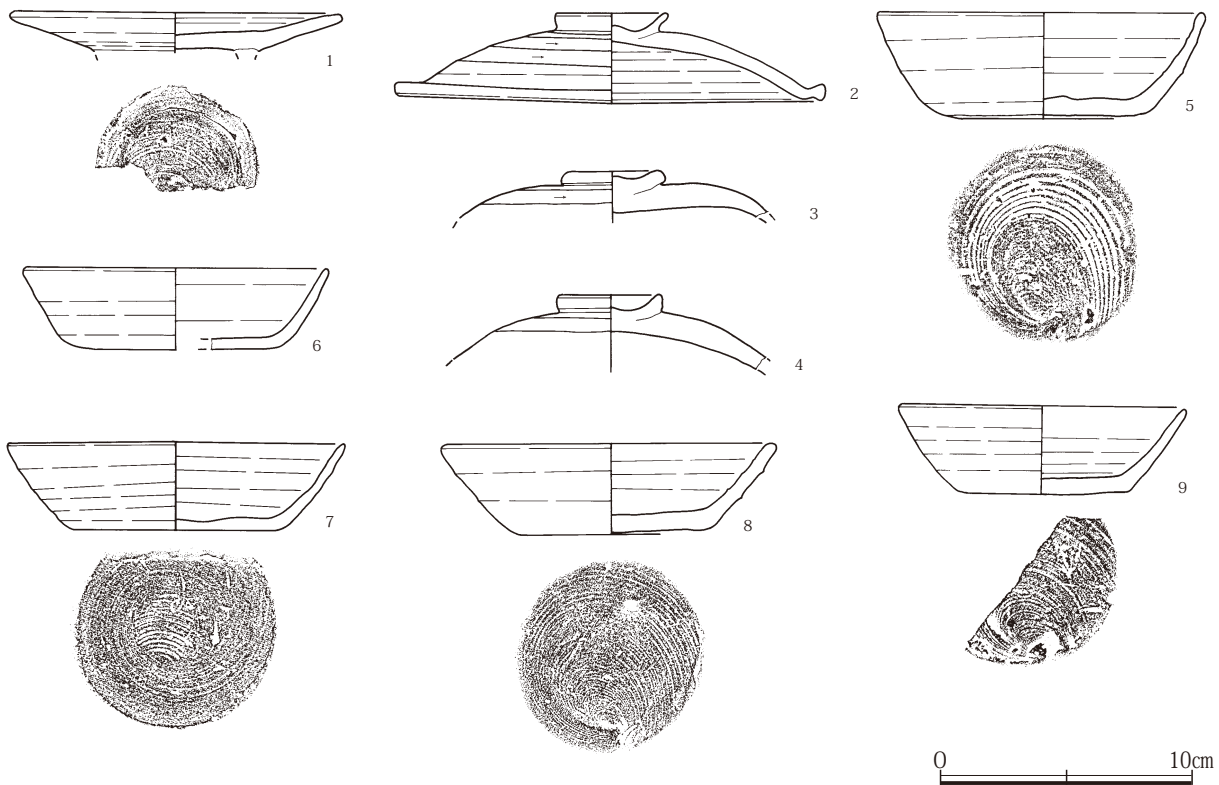
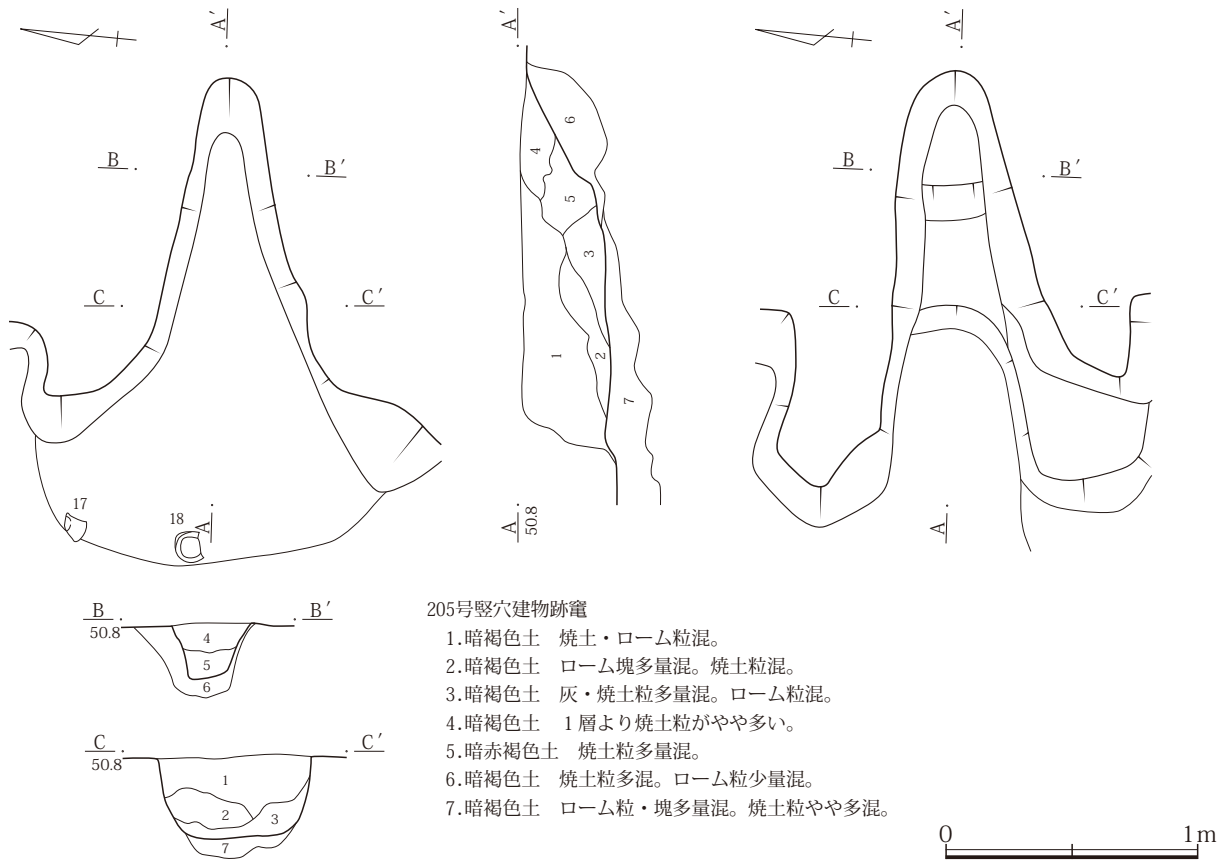
第112図 204号竪穴建物跡出土遺物(8) 石製模造品D類



第113図 204号竪穴建物跡出土遺物(9) 石製模造品D・E・F・工具類

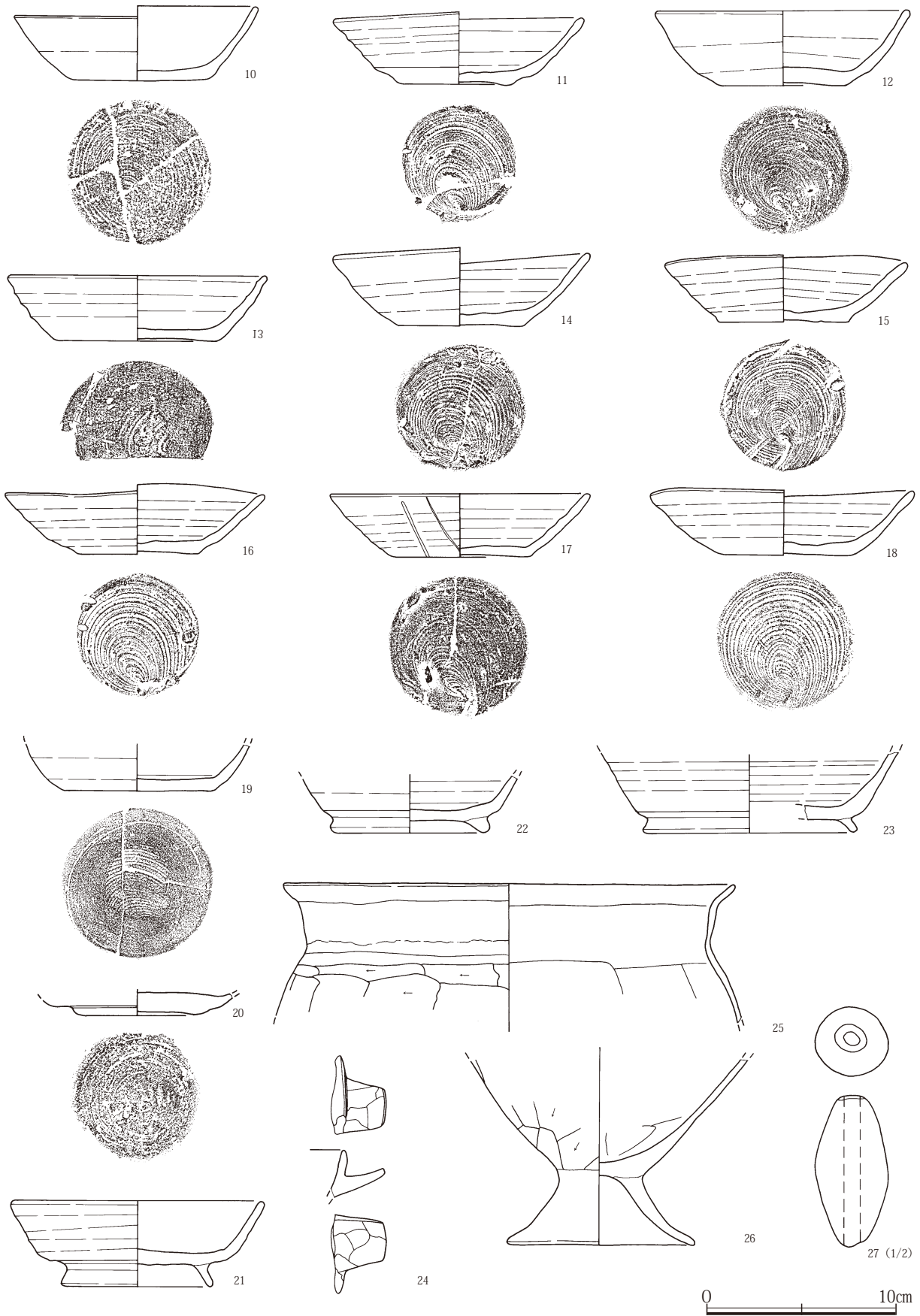


第114図 205号竪穴建物跡

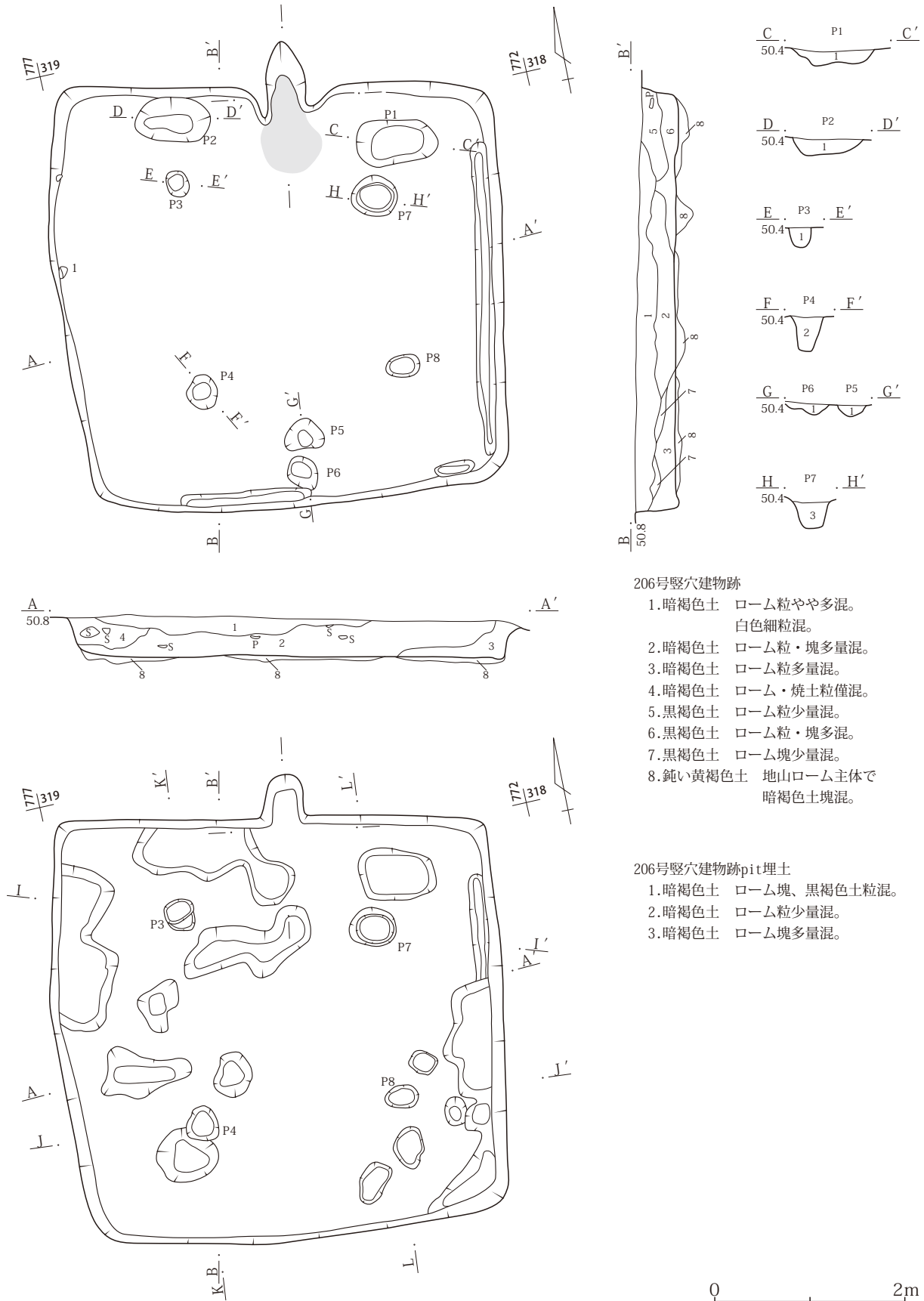


第115図 205号竪穴建物跡竈・出土遺物（1）

第3章 発見された遺構と遺物

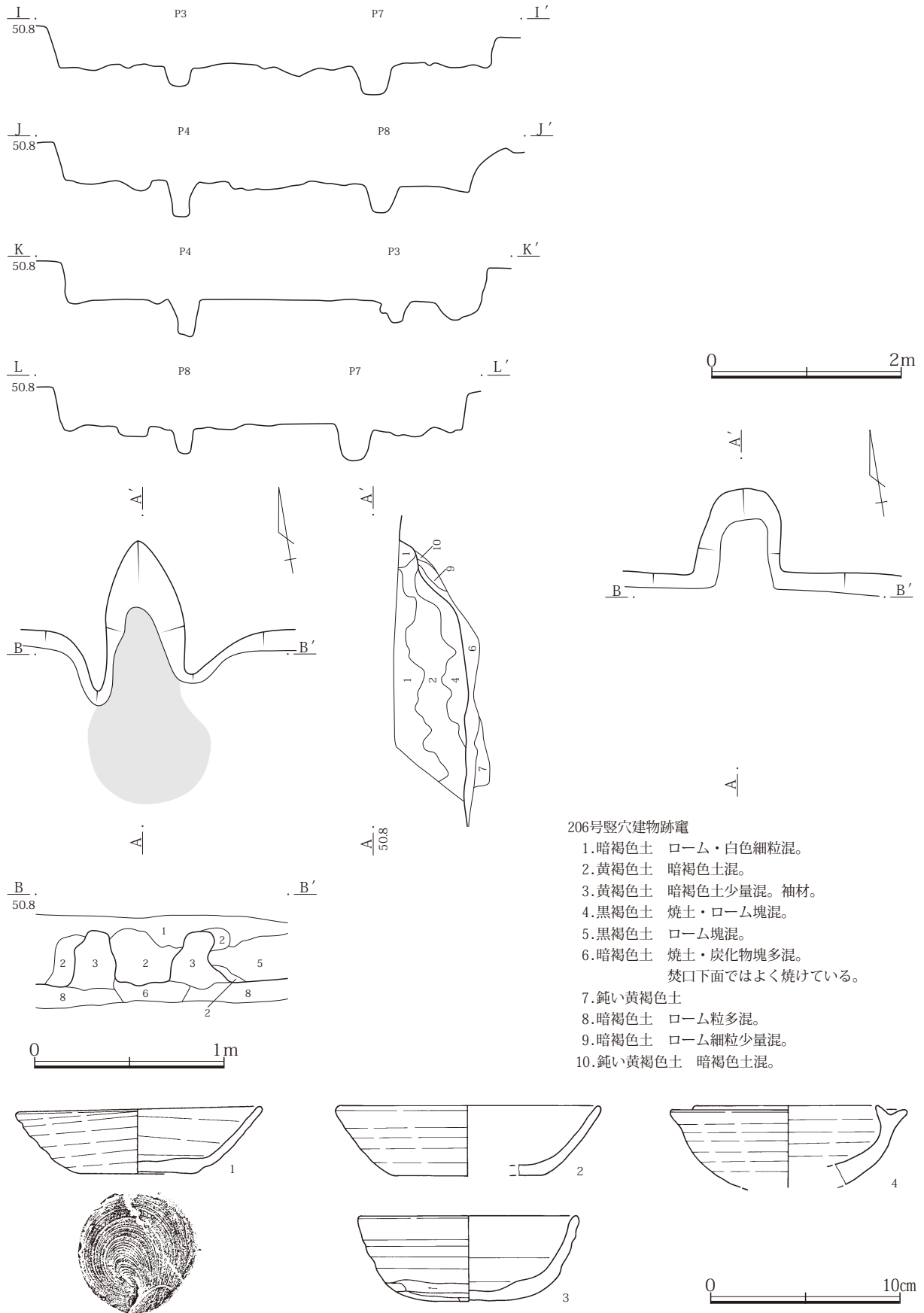


第116図 205号竪穴建物跡出土遺物（2）



第117図 206号竪穴建物跡

第3章 発見された遺構と遺物

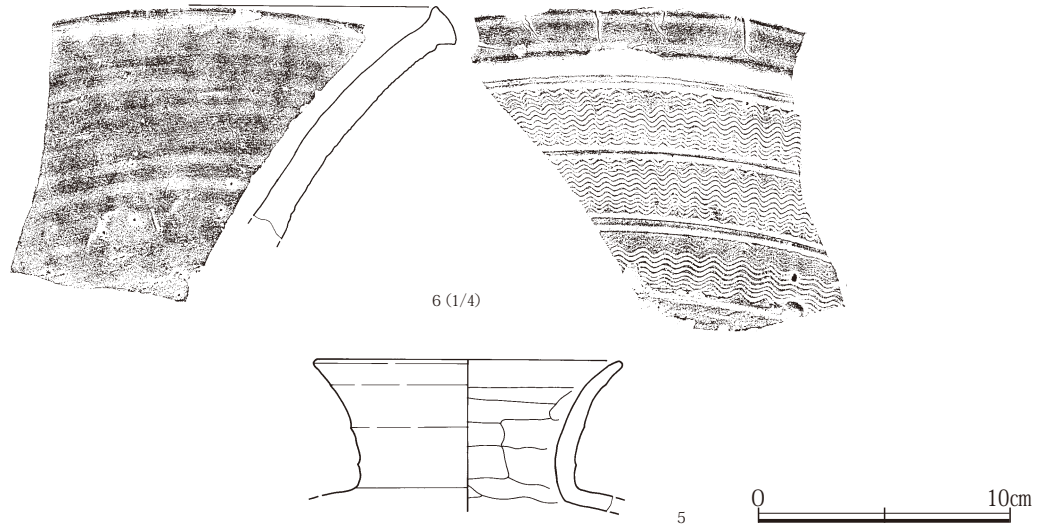


206号竪穴建物跡竈

1. 暗褐色土 ローム・白色細粒混。
2. 黄褐色土 暗褐色土混。
3. 黄褐色土 暗褐色土少量混。袖材。
4. 黒褐色土 焼土・ローム塊混。
5. 黒褐色土 ローム塊混。
6. 暗褐色土 焼土・炭化物塊多混。  
焚口下面ではよく焼けている。
7. 鈍い黄褐色土
8. 暗褐色土 ローム粒多混。
9. 暗褐色土 ローム細粒少量混。
10. 鈍い黄褐色土 暗褐色土混。

第118図 206号竪穴建物跡・竈・出土遺物（1）





第119図 206号竪穴建物跡出土遺物（2）

（5）205号竪穴建物跡

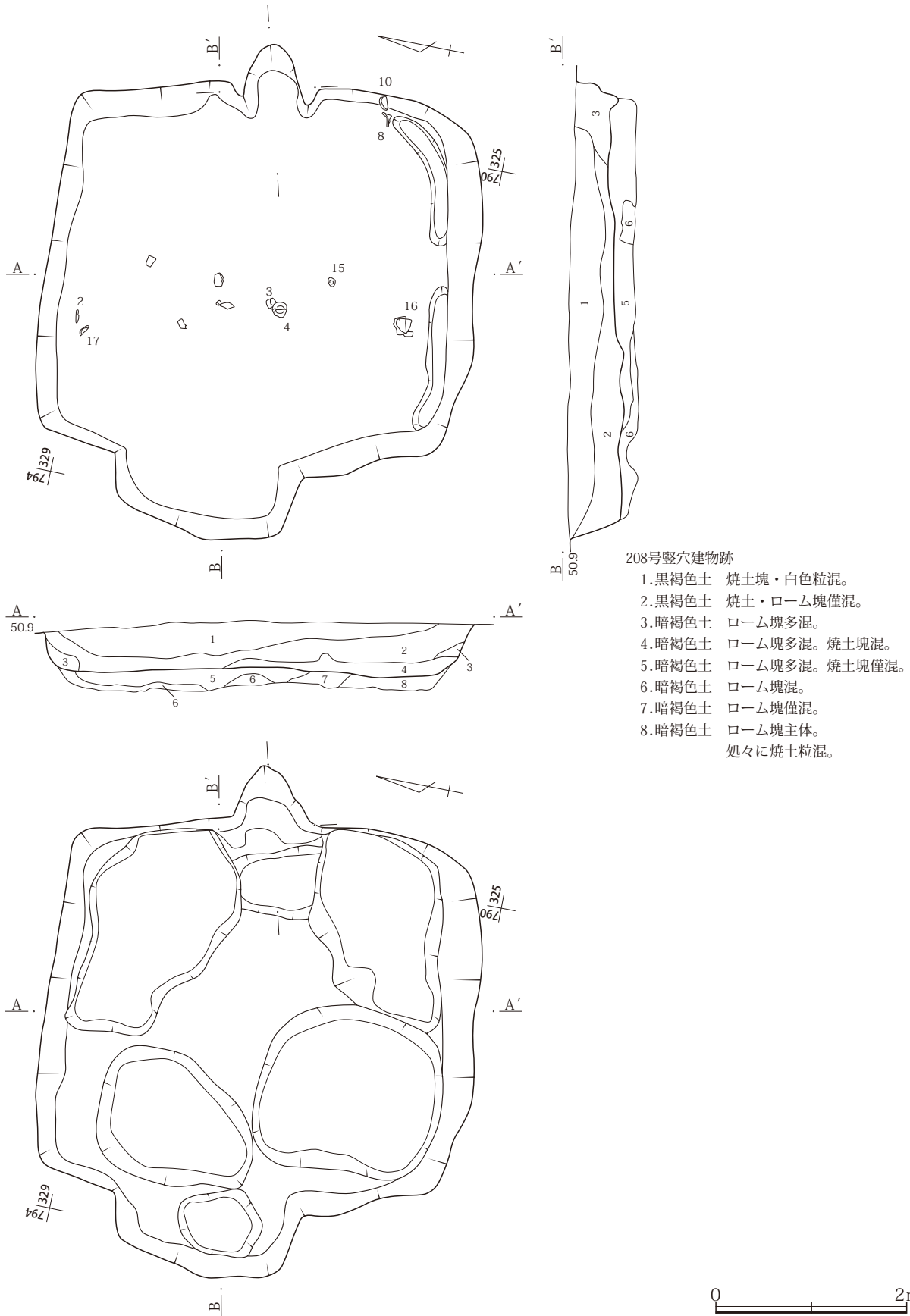
**位置：**調査区南東隅南壁際。X310-315・Y-775～780Gr. **主軸方位：**N-87° -E **重複：**306号竪穴建物跡、1016・1022号土坑跡を掘り込む。1006土坑跡に掘り込まれ破壊される。**規模と形状：**南側が調査区外に出るため全容不明。南北に長い長方形を呈する。長辺（4.8）m・短辺4.3m・床面までの深さ0.52m・掘方までの深さは0.7m。**埋土：**暗褐色土ベース。**床面：**地山を全体的には平坦に掘り込んだ上に暗褐色土で貼床を貼り、硬質な床面を形成している。厚さ0.18m前後。**掘方：**竈前と南壁際がやや深く窪むが、全体としては凹凸はあまり顕著ではない。**竈：**東壁のほぼ中央に取り付く。燃烧部・両袖は地山を段状に削り出して形成される。煙道は外側に長くのび、両袖は内側に大きく張り出す。燃烧部は壁と並行ないし若干手前に形成される。**貯蔵穴：**なし。**時期：**9C3。**遺物：**建物内に散在。いずれも埋土中からの出土。須恵器杯10、杯蓋3、椀4ほか。

（6）206号竪穴建物跡

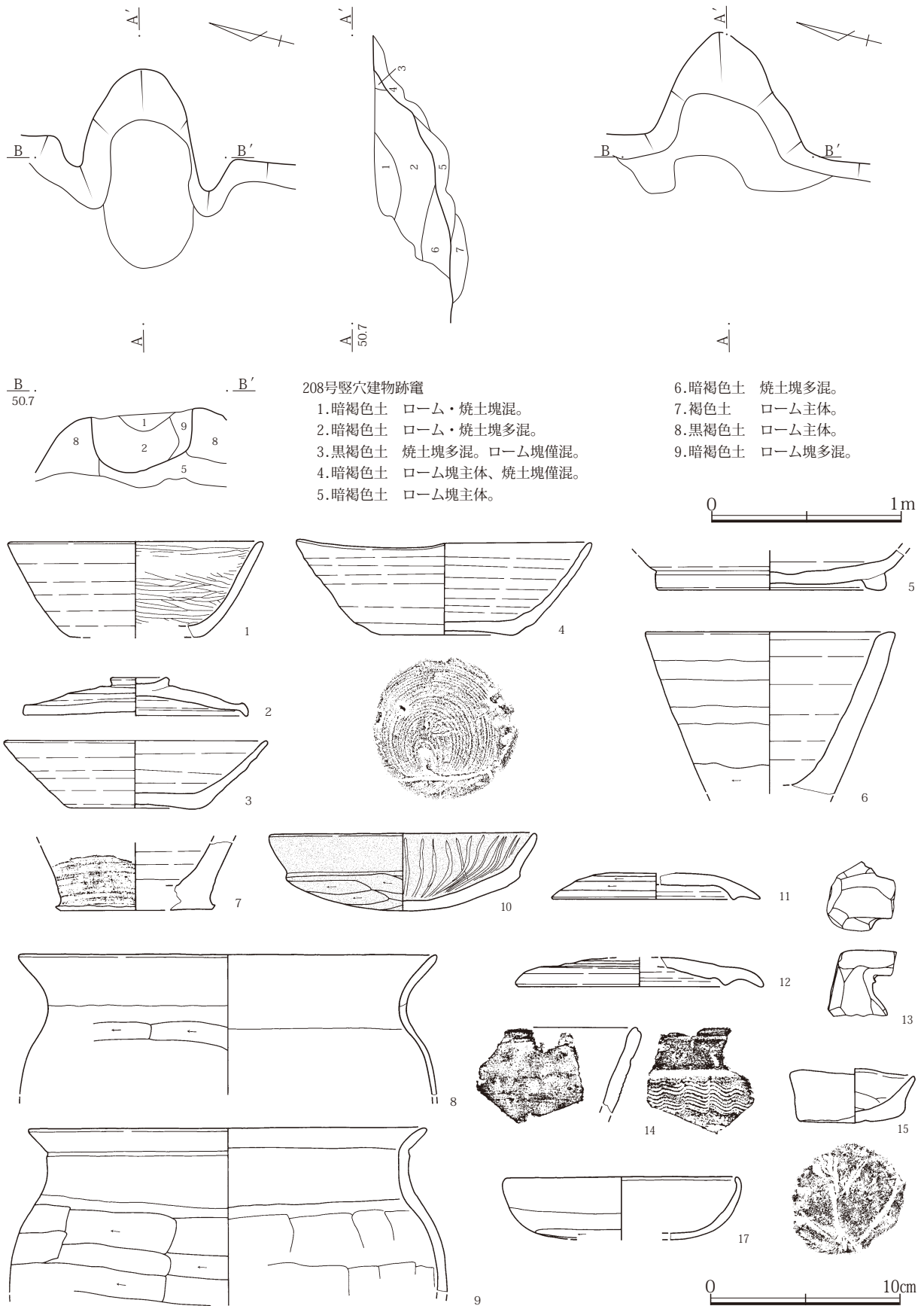
**位置：**調査区南東隅南壁際。X310-315・Y-770～775Gr. **主軸方位：**N-10° -E **重複：**1021・1022・1083号土坑跡を掘り込む。**規模と形状：**南北に若干長い長方形を呈する。長辺4.75m・短辺4.45m・

床面までの深さ0.42m・掘方までの深さは0.52m。

**埋土：**暗褐色土ベース。**床面：**地山をやや凹凸多く掘り込んだ上に鈍い黄褐色土で貼床を貼り、硬質な床面を形成している。厚さ0.1m前後。**周溝：**東壁ほぼ全域と南壁のごく一部の壁際で検出された。深さはあまり顕著ではない。**掘方：**竈前と北・東・西壁際、南東隅などがやや深く掘り窪められ、凹凸が顕著である。**竈：**北壁のほぼ中央に取り付く。燃烧部は地山を段状に削り出して形成される。煙道はあまり顕著には検出出来なかった。両袖は粘土等で構築され建物内に若干張り出す。燃烧部はほぼ建物の壁の位置に形成される。**貯蔵穴：**竈の東西両側に2基検出された。東西に細長い楕円形状を呈し、あまり深くはない。**pit1**長径0.87m・短径0.5m・深さ0.19m、**pit2**長径0.8m・短径0.48m・深さ0.18m。**柱穴・pit：**柱穴が4基と中央部南壁際にpitが2基検出された。**pit3**長径0.3m・短径0.24m・深さ0.25m、**pit4**長径0.38m・短径0.33m・深さ0.38m、**pit5**長径0.43m・短径0.32m・深さ0.12m、**pit6**長径0.32m・短径0.14m、**pit7**長径0.48m・短径0.43m・深さ0.3m、**pit8**長径0.38m・短径0.24m・深さ0.3m、**時期：**9C後。**遺物：**埋土中に散在。須恵器杯4、同壺1、同甕1。



第120図 208号竪穴建物跡

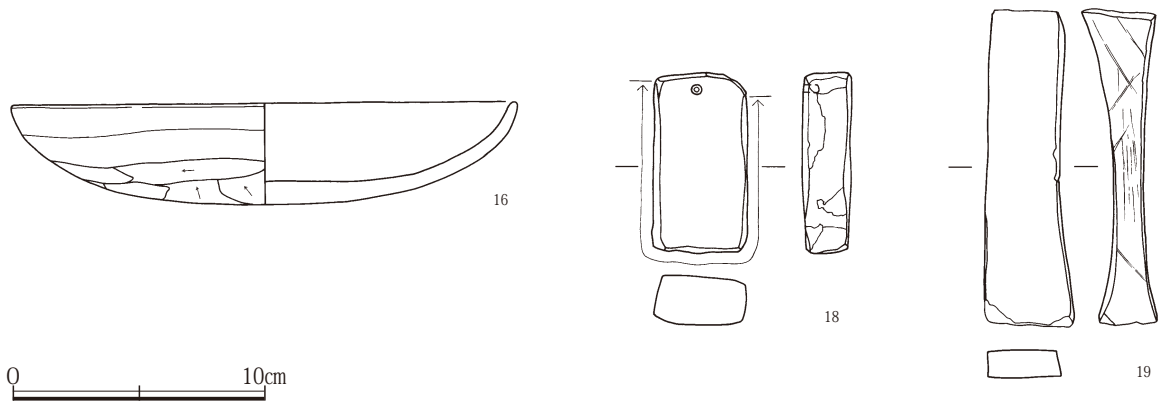


208号竪穴建物跡竈

- 1. 暗褐色土 ローム・焼土塊混。
- 2. 暗褐色土 ローム・焼土塊多混。
- 3. 黒褐色土 焼土塊多混。ローム塊僅混。
- 4. 暗褐色土 ローム塊主体、焼土塊僅混。
- 5. 暗褐色土 ローム塊主体。

- 6. 暗褐色土 焼土塊多混。
- 7. 褐色土 ローム主体。
- 8. 黒褐色土 ローム主体。
- 9. 暗褐色土 ローム塊多混。

第121図 208号竪穴建物跡竈・出土遺物（1）



第122図 208号竪穴建物跡出土遺物（2）

（7）208号竪穴建物跡

**位置：**調査区南端部西壁際。X325・Y-785～790Gr. **主軸方位：**N-82° -E **重複：**220・304号竪穴建物跡を掘り込む。 **規模と形状：**南北にやや長い長方形を呈する。西壁の北寄りが張り出し状に外に突出する。長辺4.8m・短辺4.55m・床面までの深さ0.58m・掘り込みの深さは0.7m。 **埋土：**黒褐色土ベース。 **床面：**暗褐色土を貼り硬質な床面を形成している。厚さ0.12m前後。 **周溝：**南壁の一部の壁際で検出された。深さは約0.08m。 **掘方：**中央部は比較的平坦。北東・北西・南東・南西の四隅や竈前、西端などが深く掘り窪められている。全体的に凹凸が顕著である。 **竈：**東壁のほぼ中央に取り付く。燃烧部・両袖は粘土等によって構築され形成される。煙道はあまり顕著には検出されなかった。両袖は建物内に若干張り出す。燃烧部は壁とほぼ同位置から若干外側に形成される。 **貯蔵穴：**なし。 **時期：**9C4。 **遺物：**中央部に東西に帯状に散在。埋土中からの出土。土師器杯2、同甕2、同手捏ね椀形1、須恵器杯1、同杯蓋3、同椀1、同鉢2、同甕1、同平瓶1、黒色土器椀1。

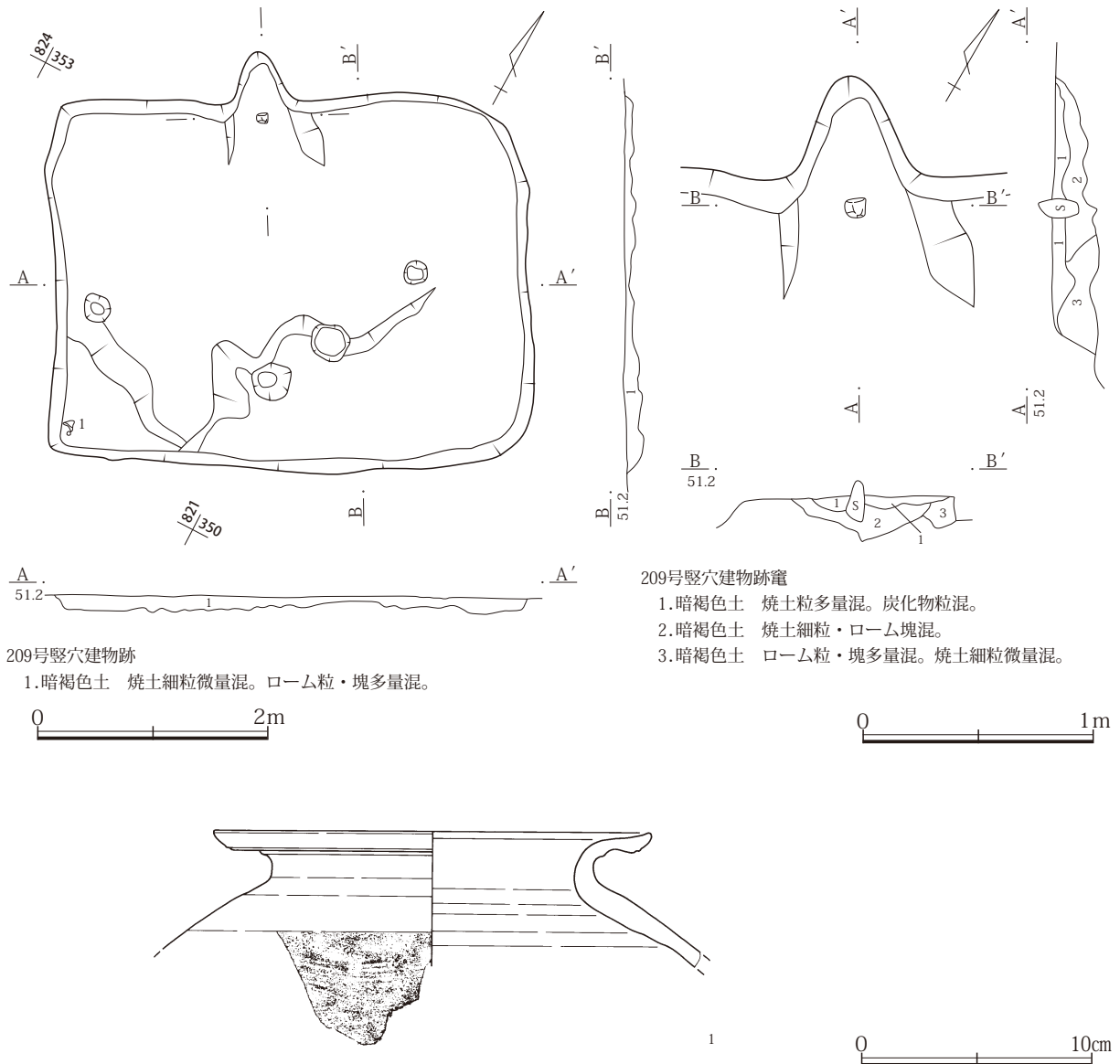
（8）209号竪穴建物跡

**位置：**調査区西寄り南壁際。X350・Y-815～820Gr. **主軸方位：**N-30° -W **重複：**なし。 **規模と形状：**北東-南西方向にやや長い長方形を呈する。確認面で削平され、掘り込みのみが辛うじて検出

できた。長辺4.1m・短辺3.26m・掘り込みの深さは0.14m。 **埋土：**暗褐色土ベース。 **床面：**削平されて検出出来なかった。 **掘方：**中央部が比較的深く掘られ、全体に凹凸がある。 **竈：**北西壁のほぼ中央に取り付く。燃烧部・両袖は地山を削りだして形成されている。煙道はあまり顕著ではない。両袖は建物内にやや大きく張り出す。燃烧部は壁よりも奥に形成されている。 **貯蔵穴：**なし。 **時期：**古代。 **遺物：**南隅床直より須恵器壺片1点出土。

（9）210号竪穴建物跡

**位置：**調査区東寄り。X350・Y-810～815Gr. **主軸方位：**N-119° -E **重複：**217・227号竪穴建物跡を掘り込む。 **規模と形状：**西北西-東南東方向に長い長方形を呈する。3・4区やその南側に隣接する鹿島浦遺跡などで多く検出された、東西に細長く東側に竈が取り付く、所謂工房型と言われる竪穴建物跡に形状がよく類似している。長辺3.3m・短辺2.65m・床面までの深さは0.5m。 **埋土：**暗褐色土ベース。 **床面：**地山を平坦に削りだして床面を形成している。 **掘方：**床面と一致。 **竈：**東壁の南寄りに取り付く。燃烧部・両袖は地山を削りだして形成し、袖石を置いている。煙道は細長く建物の外側に延びている。両袖は建物内に大きく張り出す。燃烧部は建物内に形成されている。 **貯蔵穴：**東南隅で検出。南北にやや長い隅丸長方形を呈する。長径0.46m・短径0.44m・深さ0.18m。 **時期：**



第123図 209号竪穴建物跡・出土遺物

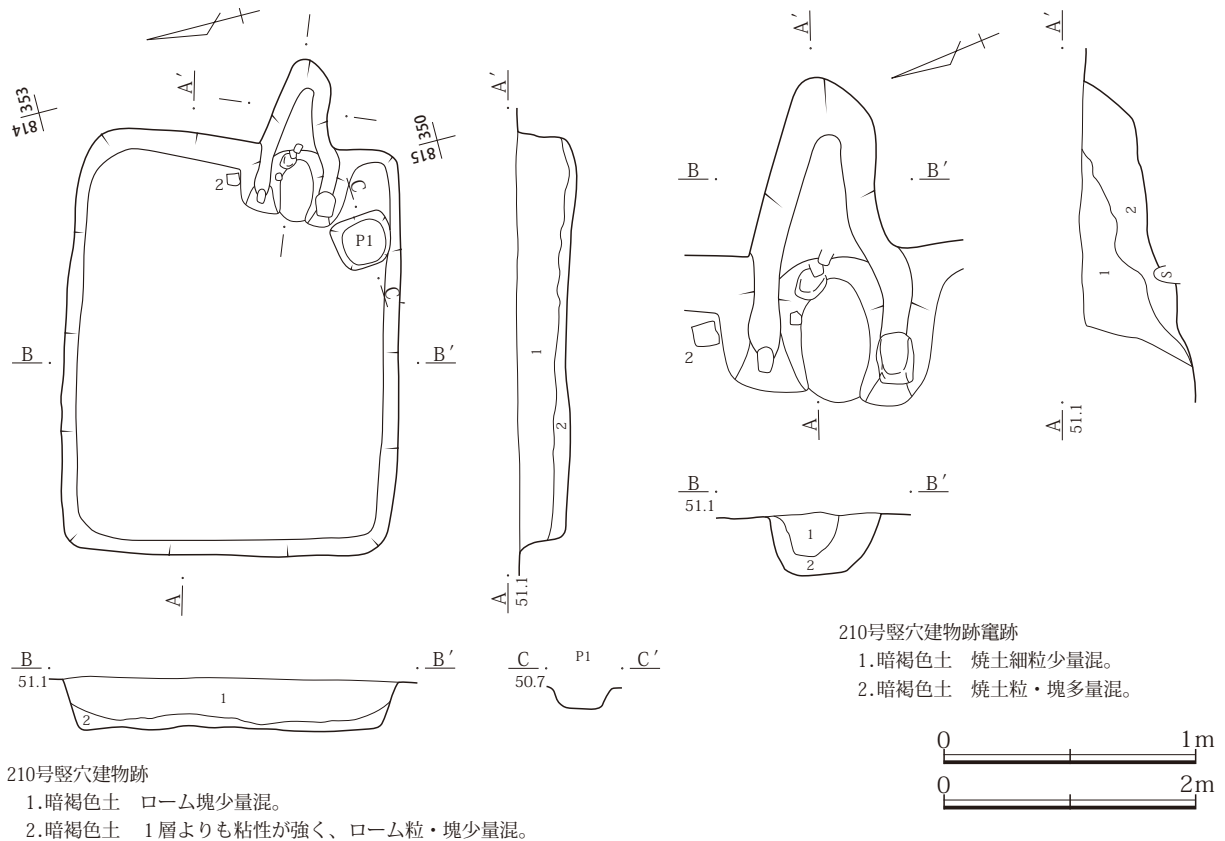
9 C 後。 **遺物**：竈付近より須恵器杯、土師器甕片各1点出土。

(10) 211号竪穴建物跡

**位置**：調査区中央南壁際。X340-345・Y-805～810Gr. **主軸方位**：N-16° -E **重複**：216・231号竪穴建物跡を掘り込む。 **規模と形状**：西北西-東南東方向に長い長方形を呈する。本遺跡で検出された竪穴建物跡ではかなり特異な形状である。長辺3.7m・短辺2.1m・床面までの深さ0.15m・掘り込みまでの深さは0.25m。 **埋土**：暗褐色土ベース。 **床面**：

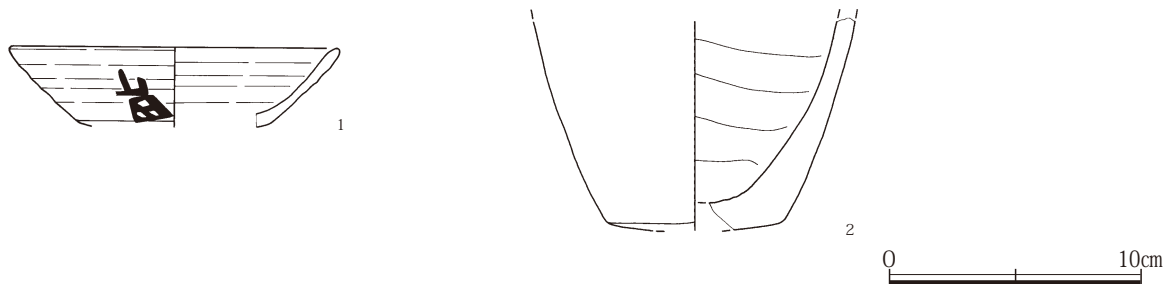
地山を凹凸激しく掘り出して上に、ローム塊を多量に含む暗褐色土を貼って床面を形成している。床面の厚さは約0.1m。 **掘り込み**：中央部に床下土坑2基が掘り込まれている。 **竈**：北東側壁東寄りに取り付く。燃烧部・両袖は地山を削りだして形成している。煙道は細長く建物の外側に延びている。両袖は建物内に全く張り出さない。燃烧部は壁よりも奥に形成されている。 **貯蔵穴**：なし。 **時期**：10C前。 **遺物**：竈炊き口付近に比較的まとまって出土している。土師器杯・甕各1（埋土）。須恵器皿・椀各1（床直）、平瓦1（床直）。

第3章 発見された遺構と遺物



210号竪穴建物跡

1. 暗褐色土 ローム塊少量混。
2. 暗褐色土 1層よりも粘性が強く、ローム粒・塊少量混。

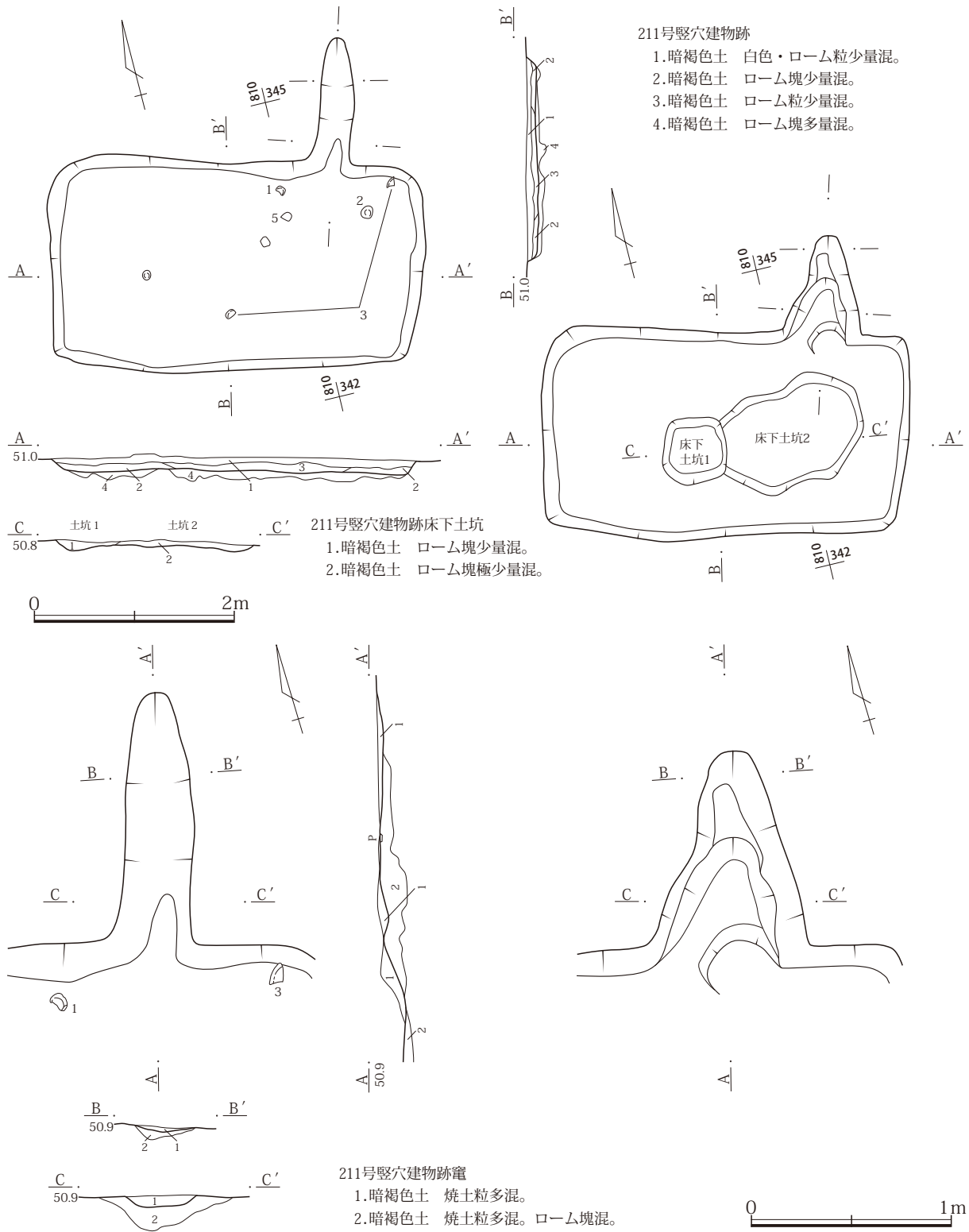


第124図 210号竪穴建物跡・出土遺物

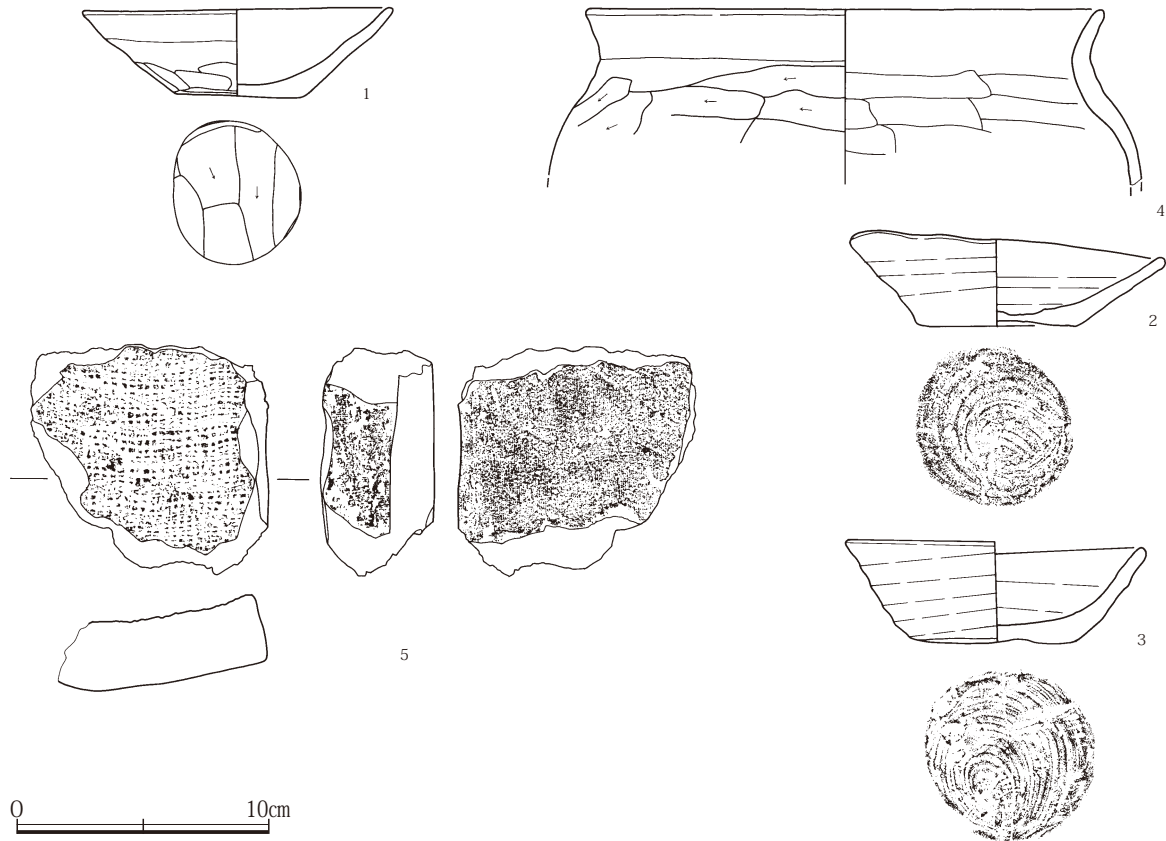
(11) 212号竪穴建物跡

**位置：**調査区中央南寄り。X335~340・Y-800~805Gr. **主軸方位：**N-98° -E **重複：**223・230・232号竪穴建物跡を掘り込む。 **規模と形状：**西北西-東南東方向に長い長方形状を呈する。3・4区やその南側に隣接する鹿島浦遺跡などで多く検出された、東西に細長く東側に竈が取り付く、所謂工房型と言われる竪穴建物跡に形状がよく類似している。長辺3.6m・短辺3.26m・床面までの深さ0.23m。 **埋土：**暗褐色土ベース。 **床面：**地山を平坦に削

りだして床面を形成している。 **掘方：**床面とほぼ一致。 **竈：**東壁の南隅寄りの位置に取り付く。燃焼部・両袖は地山を削りだして形成している。煙道は顕著には検出されなかった。両袖は地山を段状に削りだして形成され、建物内に大きく張り出す。燃焼部は壁よりも奥に形成されている。燃焼部から須恵器杯がほぼ完形で出土している。 **貯蔵穴：**なし。 **時期：**9 C後。 **遺物：**竈と北西隅から少量出土。竈内出土の須恵器杯2点(3・4)は床直から。他は埋土中から須恵器皿1、同杯1、同椀1。



第125図 211号竪穴建物跡



第126図 211号竪穴建物跡出土遺物

(12) 213号竪穴建物跡

**位置：**調査区中央南寄り。X335・Y-800--805Gr.

**主軸方位：**N-91° -E **重複：**238号竪穴建物跡を掘り込む。**規模と形状：**東西にやや長い長方形状を呈する。長辺3.07m・短辺2.7m・床面までの深さ0.28m・掘方までの深さ0.5m。**埋土：**暗褐色土ベース。**床面：**地山を凹凸激しく大きく掘り込んだ上に、ローム塊を多量に含む暗褐色土を貼って床面を形成している。床面の厚さは約0.22m。**掘方：**中央から北壁寄りにかけて床下土坑状の窪みがいくつも形成されている。**竈：**東壁のほぼ中央に取り付く。燃烧部・両袖は地山を削りだして形成している。煙道は顕著には検出されなかった。両袖は建物内にはほとんど張り出さない。燃烧部は壁とほぼ同位置に形成されている。**貯蔵穴：**南東隅で検出された。ほぼ円形状を呈し、径0.63m・深さ0.4m。

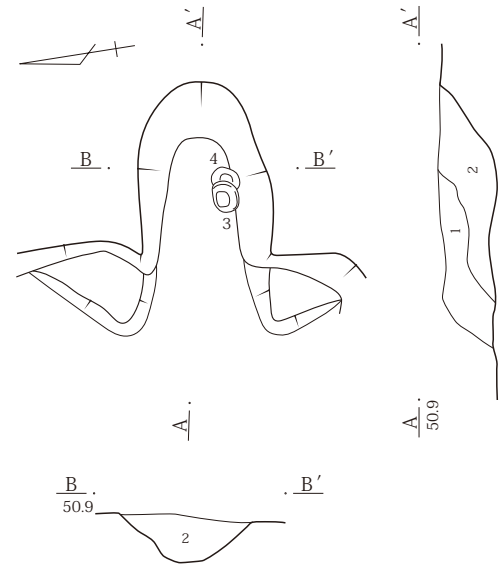
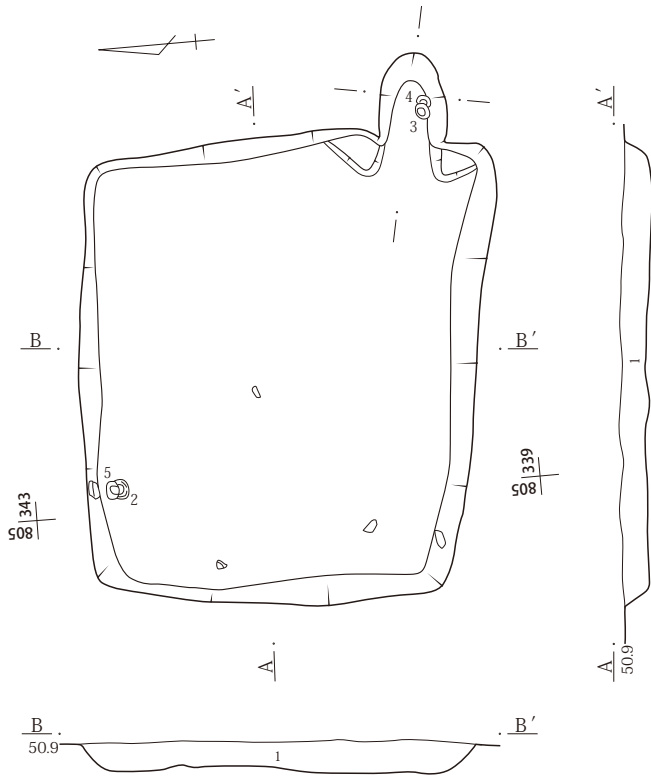
**時期：**9Cか?。**遺物：**貯蔵穴埋土中より須恵器杯蓋が1点出土。

(13) 214号竪穴建物跡

**位置：**調査区中央南寄り。X330-335・Y-785--790Gr. **主軸方位：**N-99° -E **重複：**57・58号掘立柱建物跡を掘り込む。

**規模と形状：**東西に長い長方形状を呈する。3・4区やその南側に隣接する鹿島浦遺跡などで多く検出された、東西に細長く東側に竈が取り付く、所謂工房型と言われる竪穴建物跡に形状がよく類似している。長辺4.6m・短辺3.36m・床面までの深さ0.22m・掘方までの深さ0.56m。**埋土：**暗褐色土ベース。**床面：**地山を凹凸激しく大きく掘り込んだ上に、ロームを貼って床面を形成している。床面の厚さは約0.34m。**掘方：**竈前から中央及び竈両側にかけては床下土坑状の窪みがいくつも形成されている。**竈：**東壁のほぼ中央に取り付く。燃烧部・両袖は地山を削りだして形成している。煙道は顕著には検出されなかった。両袖は建物内に全く張り出さない。燃烧部は壁よりも若干奥に形成されている。**貯蔵穴：**なし。**時期：**9C1~2。



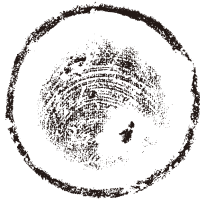
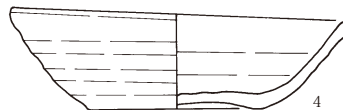
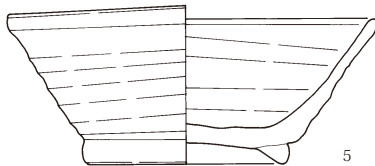
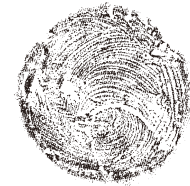
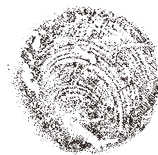
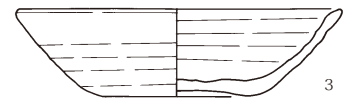
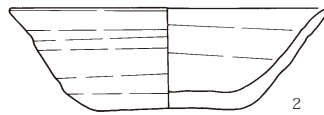
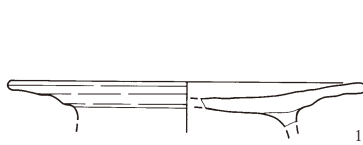


212号竪穴建物跡竈

- 1. 暗褐色土 ローム塊少量混。
- 2. 暗褐色土 ローム・焼土粒少量混。

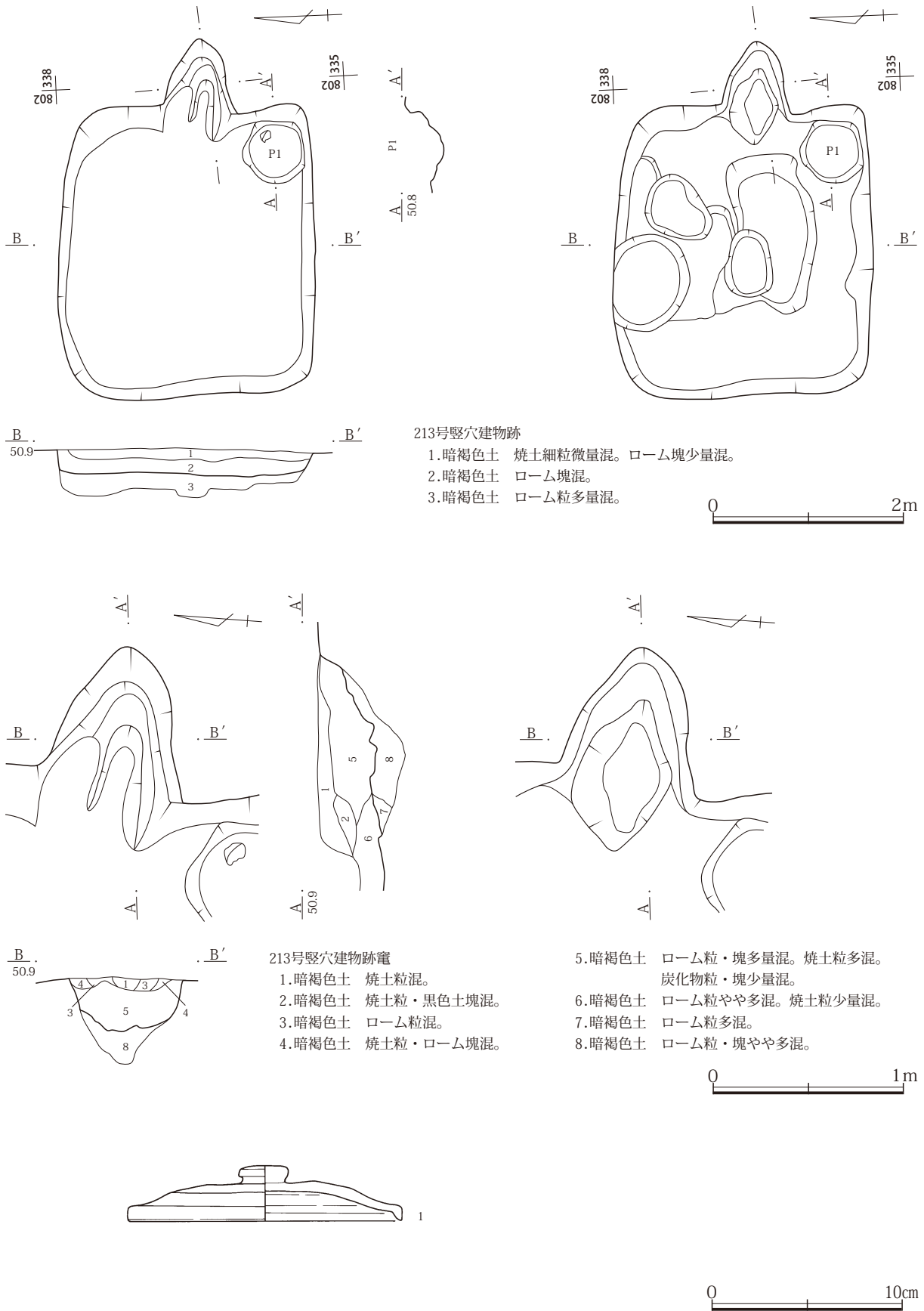
212号竪穴建物跡

- 1. 暗褐色土 焼土粒微量混。ローム塊少量混。

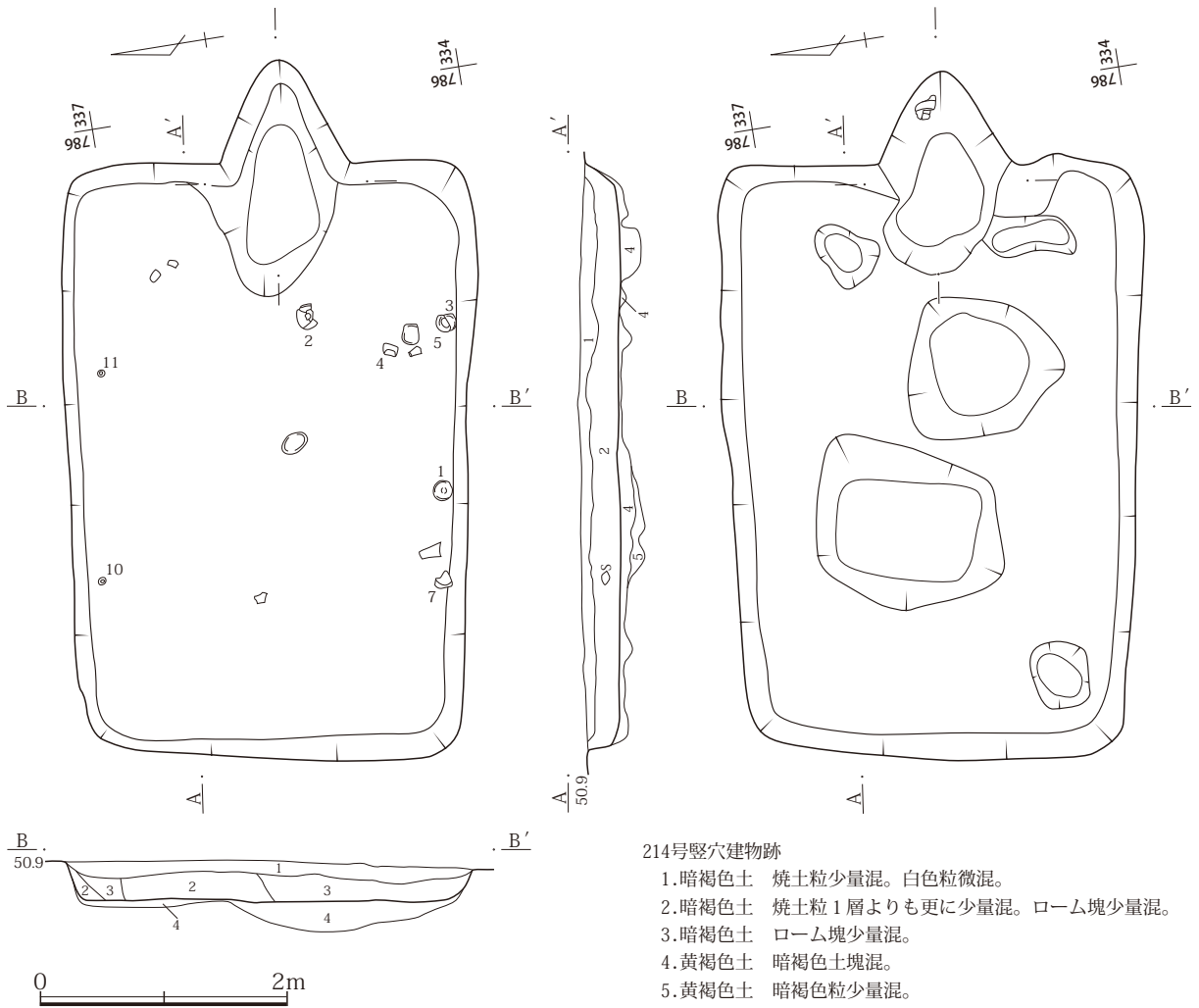


第127図 212号竪穴建物跡・出土遺物

第3章 発見された遺構と遺物

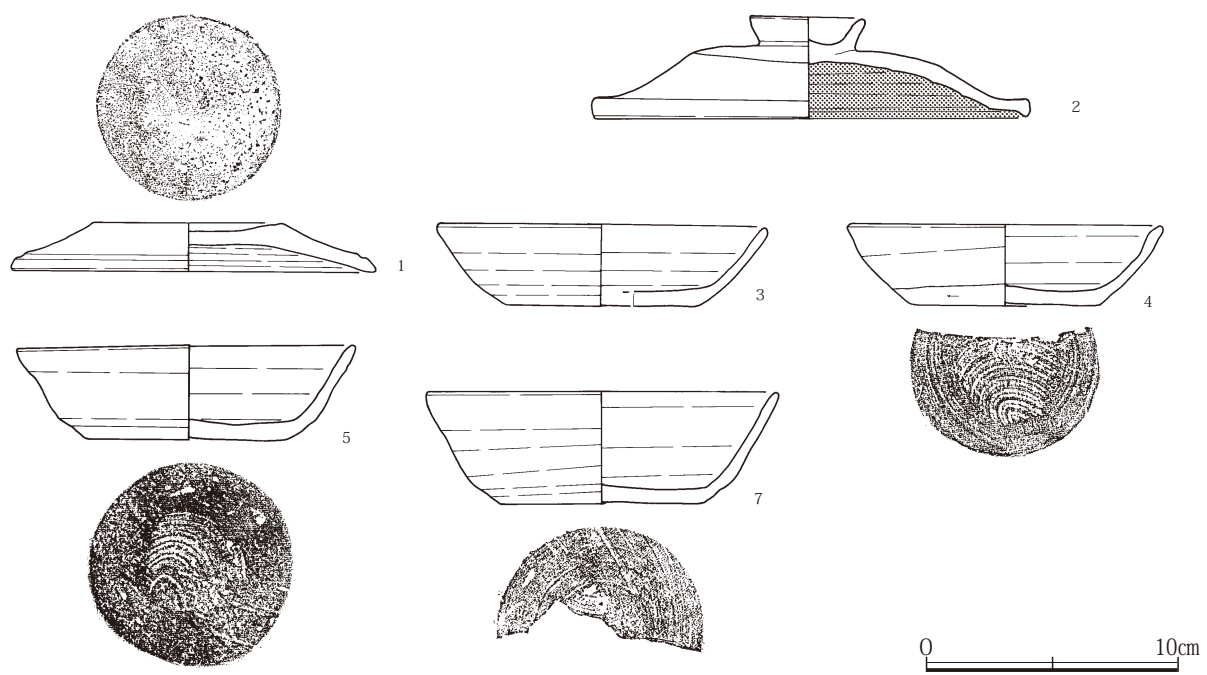


第128図 213号竪穴建物跡・出土遺物

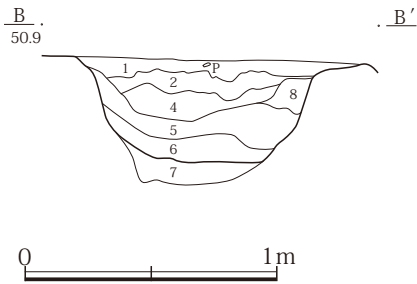
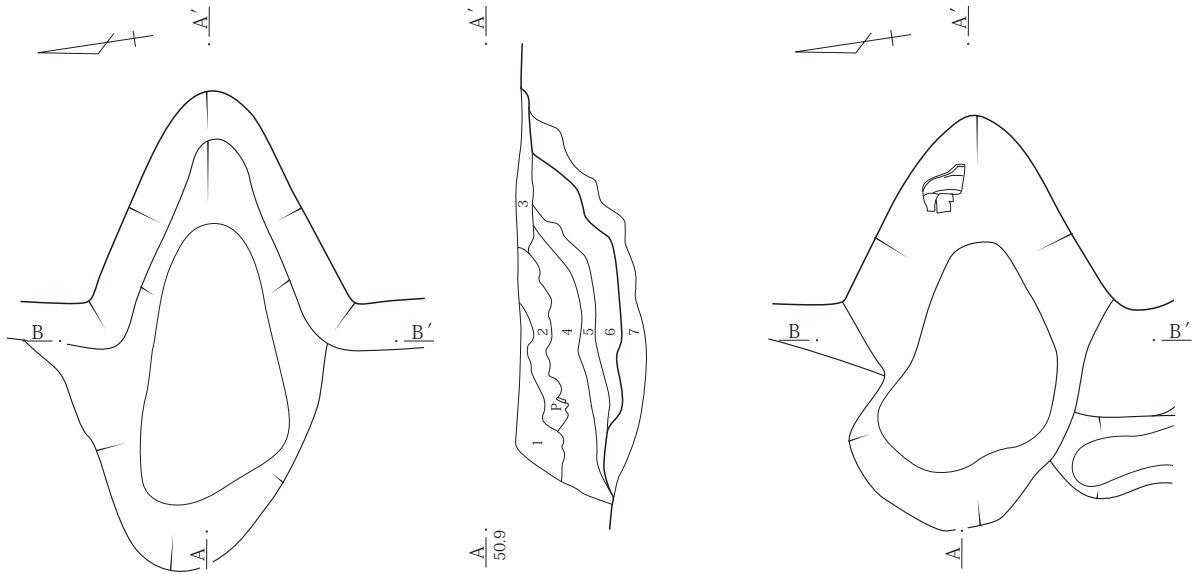


214号竖穴建物跡

- 1. 暗褐色土 焼土粒少量混。白色粒微混。
- 2. 暗褐色土 焼土粒1層よりも更に少量混。ローム塊少量混。
- 3. 暗褐色土 ローム塊少量混。
- 4. 黄褐色土 暗褐色土塊混。
- 5. 黄褐色土 暗褐色粒少量混。

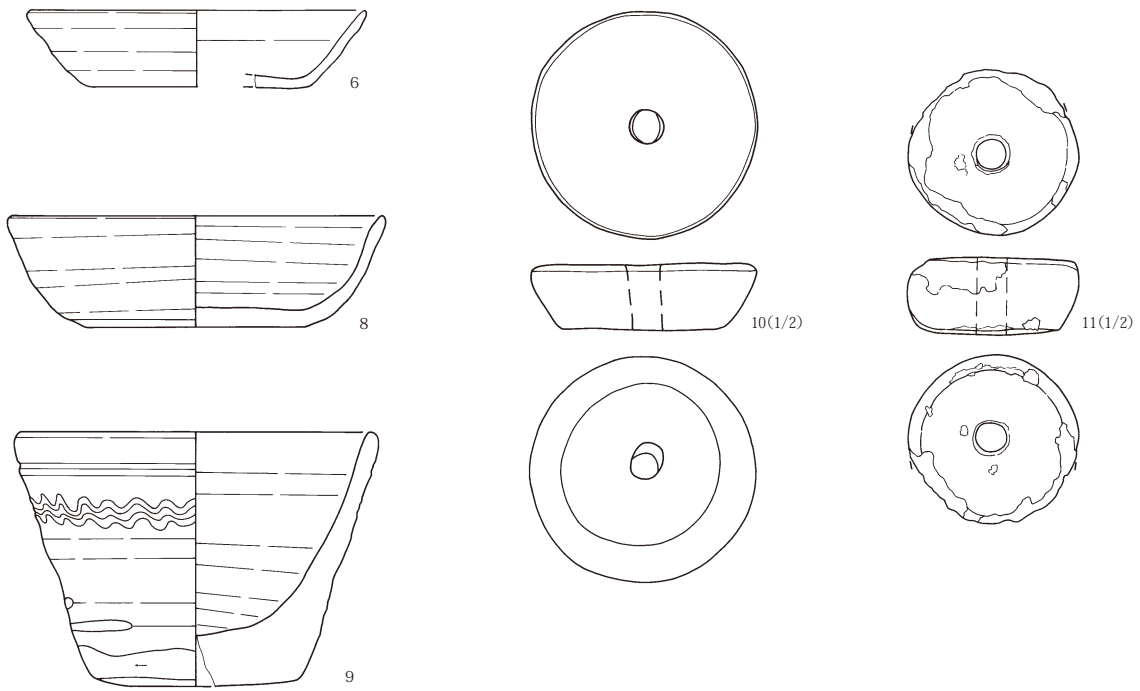


第129図 214号竖穴建物跡・出土遺物（1）

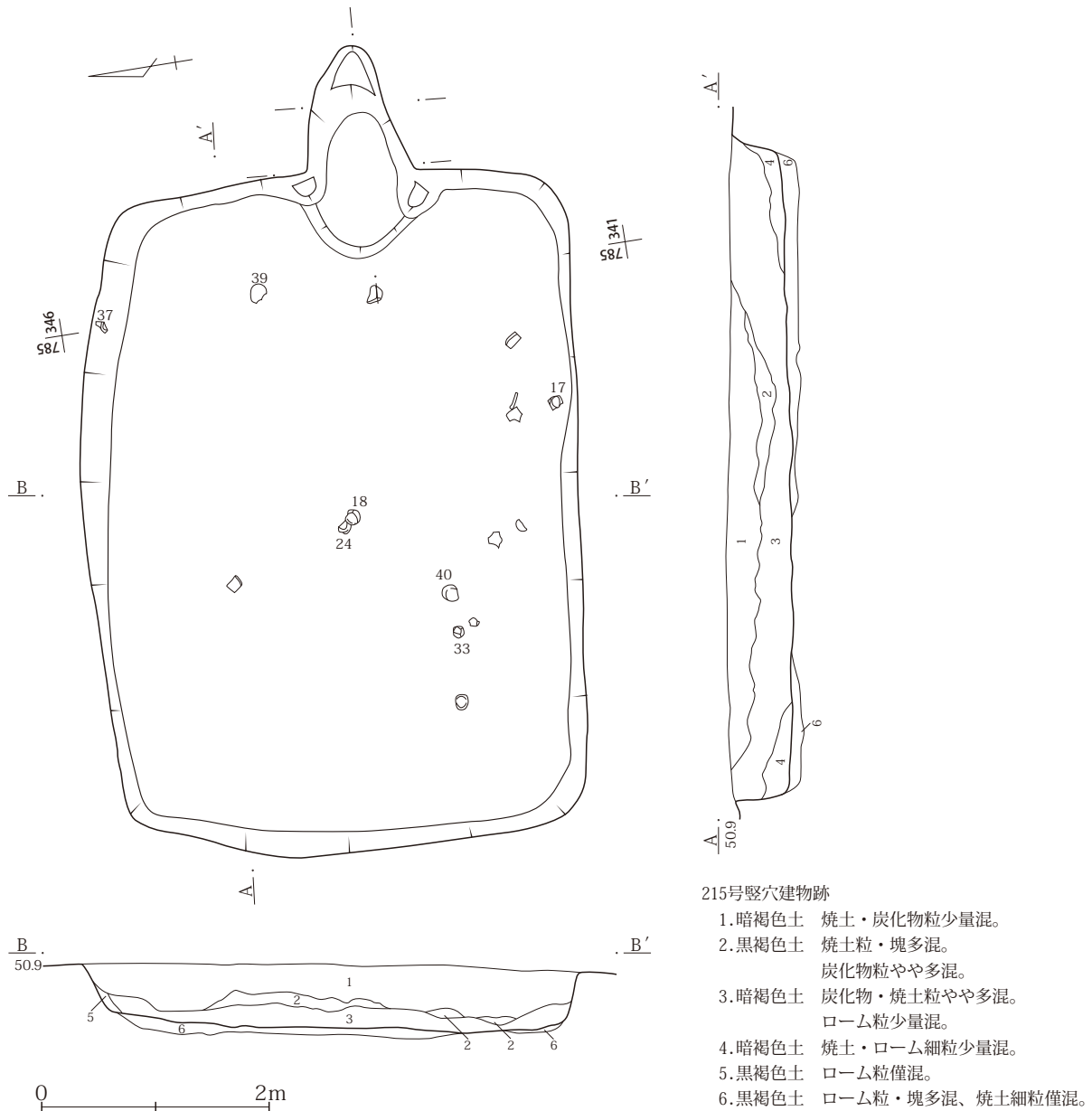


214号竪穴建物跡竈

1. 暗褐色土 焼土・ローム粒少量混。
2. 暗褐色土 ローム粒・塊多量混。焼土粒やや多混。
3. 暗褐色土 焼土細粒多量混。ローム粒少量混。
4. 鈍い黄褐色土 ローム。竈天井部崩落土。
5. 鈍い黄褐色土 ローム主体、焼土粒やや多混。
6. 黒褐色土 焼土粒多量混。
7. 暗褐色土 ローム塊混。
8. 暗褐色土 焼土・ローム粒・塊少量混。壁面崩落土。



第130図 214号竪穴建物跡竈・出土遺物（2）



第131図 215号竪穴建物跡

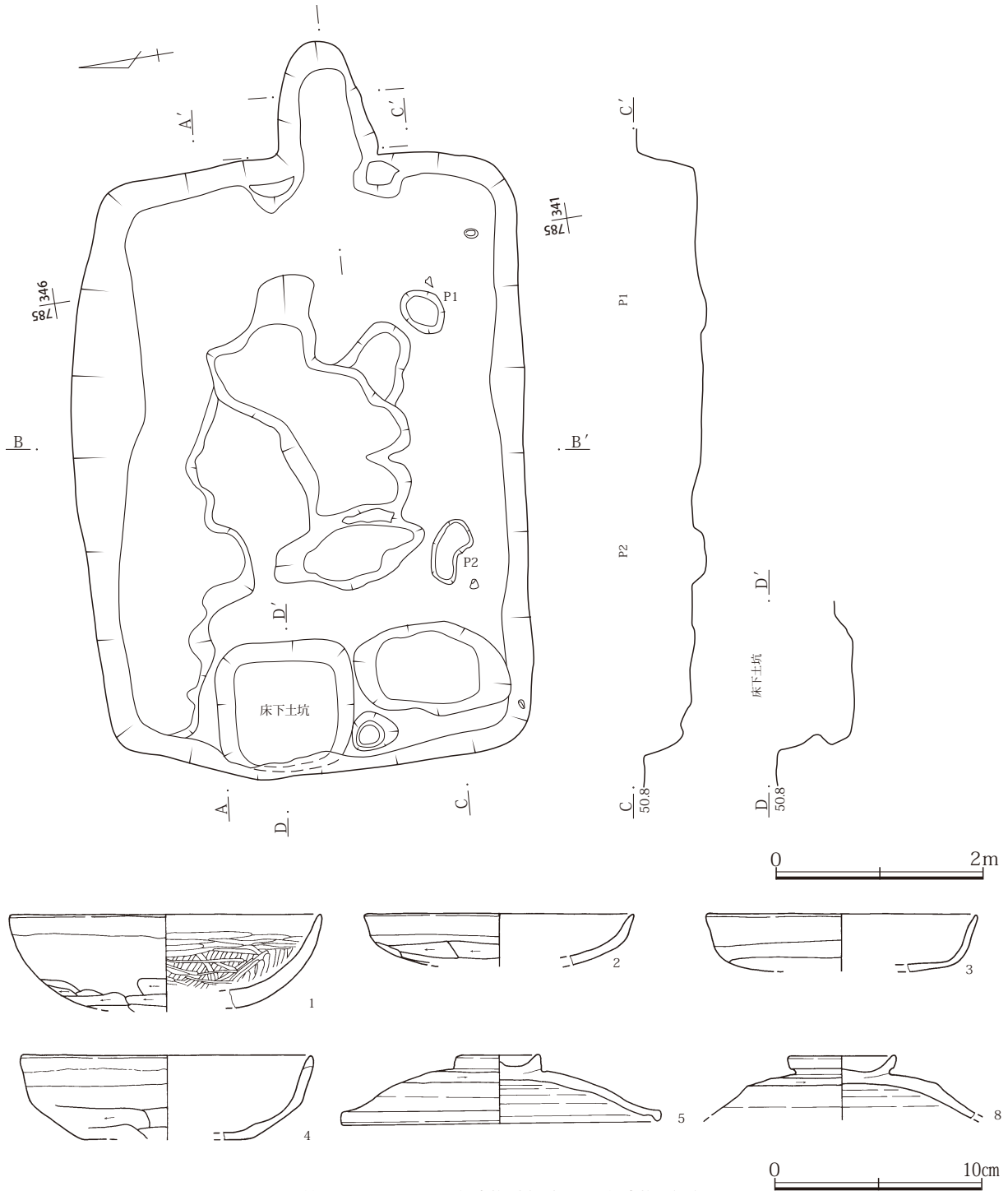
**遺物：**建物南半分に比較的まとまっている。床直より須恵器杯2、同杯蓋1、同蓋1。埋土中より須恵器杯4、同鉢1、土製紡錘車1、石製紡錘車1。

(14) 215号竪穴建物跡

**位置：**調査区中央南東寄り。X340-345・Y-780~785Gr. **主軸方位：**N-97° -E **重複：**246・247・252・258・259・268号竪穴建物跡、6号井戸跡を掘り込む。 **規模と形状：**東西に長い長方形を呈する。3・4区やその南側に隣接する鹿島浦遺跡など

で多く検出された、東西に細長く東側に竈が取り付け、所謂工房型と言われる竪穴建物跡に形状がよく類似している。長辺5.85m・短辺4.34m・床面までの深さ0.58m・掘方までの深さ0.68m。 **埋土：**暗褐色土ベース。 **床面：**地山を凹凸激しく大きく掘り込んだ上に、黒褐色土を貼って床面を形成している。床面の厚さは約0.1m。 **掘方：**中央部から西端にかけては床下土坑状の窪みがいくつも形成されている。西壁際中央には、南北にやや長い方形の床下土坑が掘り込まれている。床下土坑の大きさは長

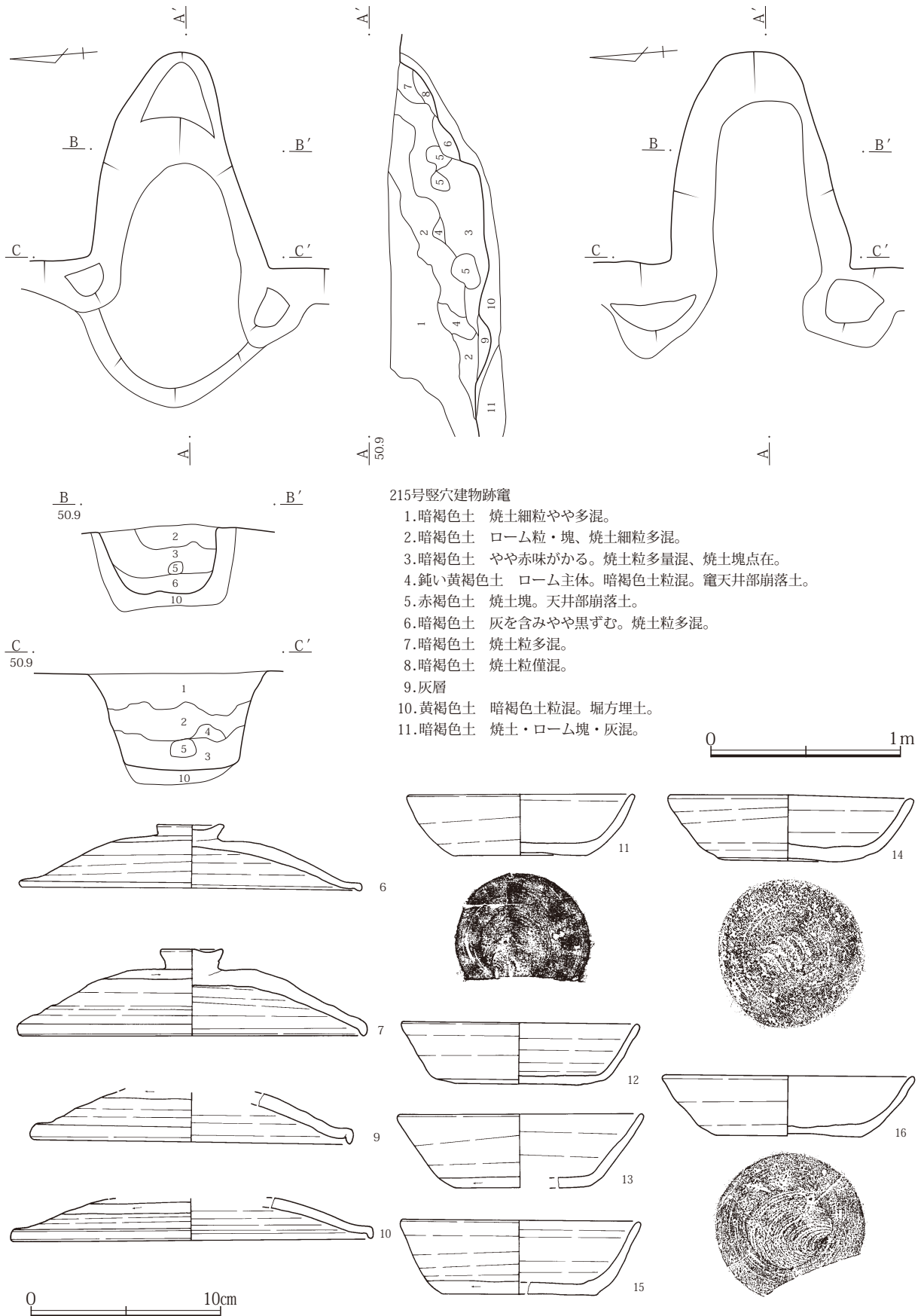
第3章 発見された遺構と遺物



第132図 215号竪穴建物跡掘方・出土遺物(1)

径1.35m・短径1.23m・深さ0.25m。竈：東壁のほぼ中央に取り付く。燃烧部・両袖は地山を削りだして形成している。煙道は建物の外、東側にやや長く延びている。両袖は建物内にあまり大きくは張り出さない。燃烧部は壁よりも奥に形成されている。  
**貯蔵穴**：なし。 **柱穴・pit**：床下pitが2基検出

された。**pit1**長径0.48m・短径0.37m・深さ0.12m、**pit2**長径0.63m・短径0.35m・深さ0.15m。 **時期**：9 C 1。 **遺物**：掘方より8点、埋土中より43点、全域に散在している。須恵器円面硯の出土が特筆される。

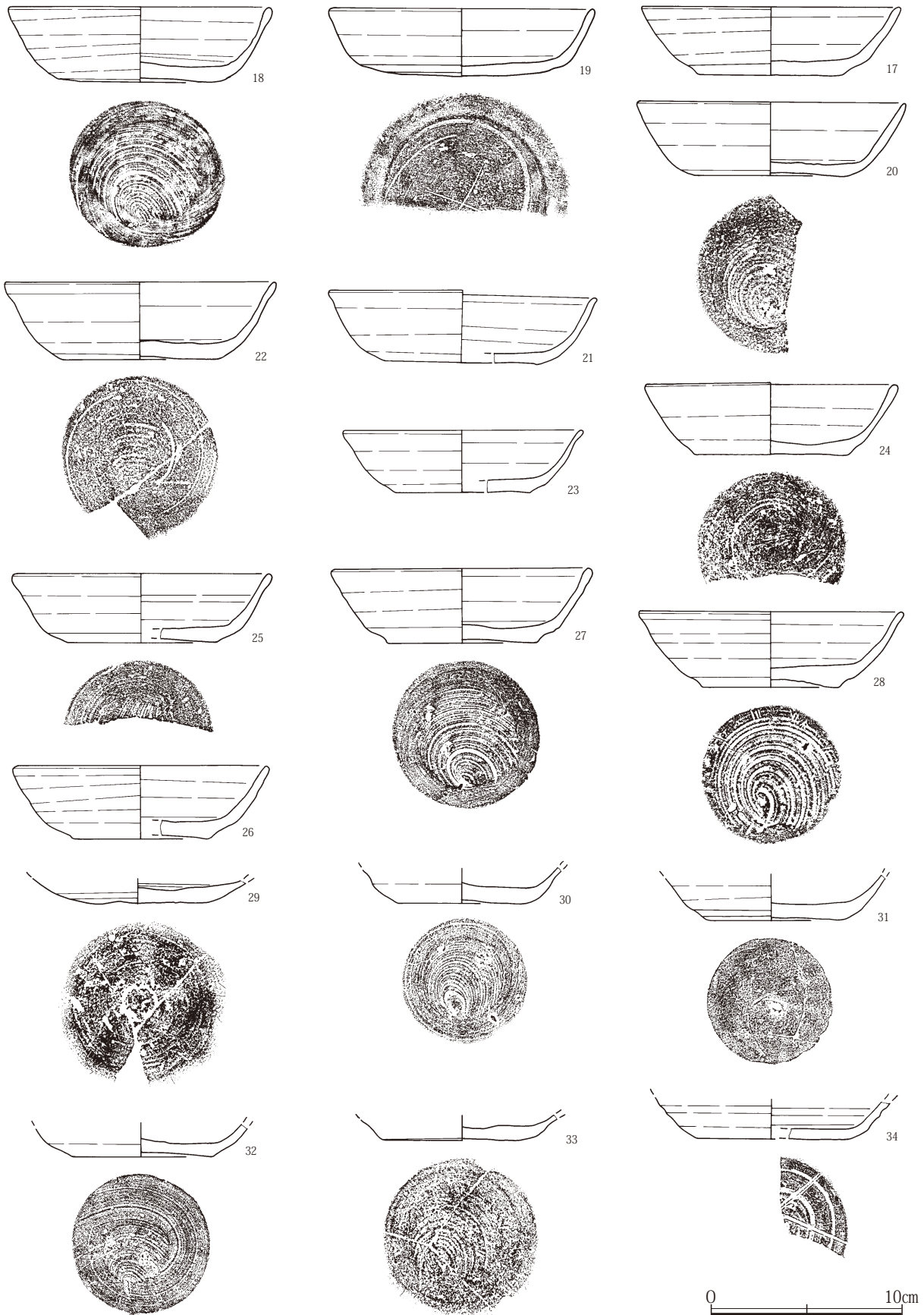


215号竪穴建物跡竈

1. 暗褐色土 焼土細粒やや多混。
2. 暗褐色土 ローム粒・塊、焼土細粒多混。
3. 暗褐色土 やや赤味がかかる。焼土粒多量混、焼土塊点在。
4. 鈍い黄褐色土 ローム主体。暗褐色土粒混。竈天井部崩落土。
5. 赤褐色土 焼土塊。天井部崩落土。
6. 暗褐色土 灰を含みやや黒ずむ。焼土粒多混。
7. 暗褐色土 焼土粒多混。
8. 暗褐色土 焼土粒僅混。
9. 灰層
10. 黄褐色土 暗褐色土粒混。堀方埋土。
11. 暗褐色土 焼土・ローム塊・灰混。

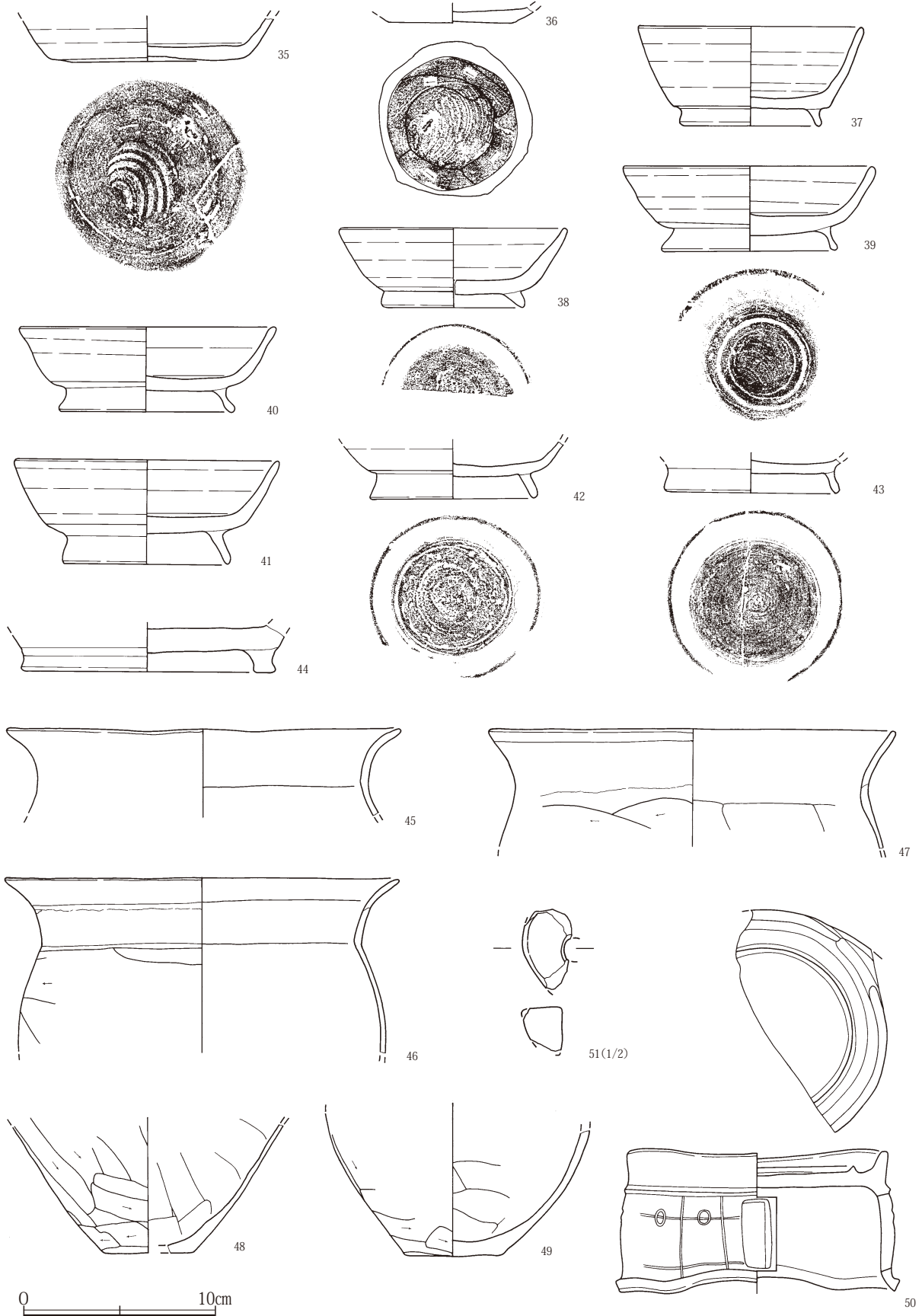
第133図 215号竪穴建物跡竈・出土遺物（2）

第3章 発見された遺構と遺物

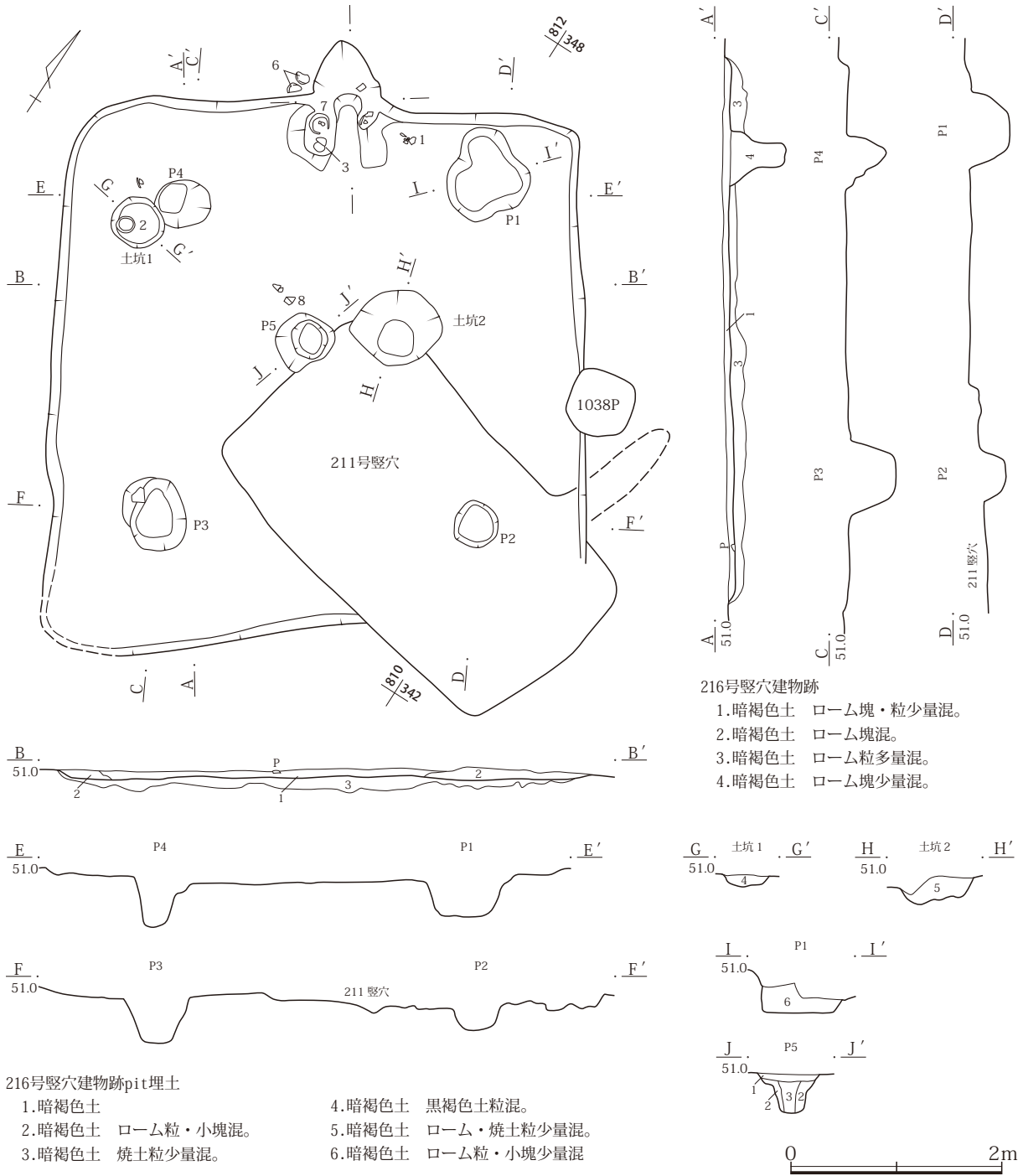


第134図 215号竪穴建物跡出土遺物（3）





第135図 215号竪穴建物跡出土遺物（4）

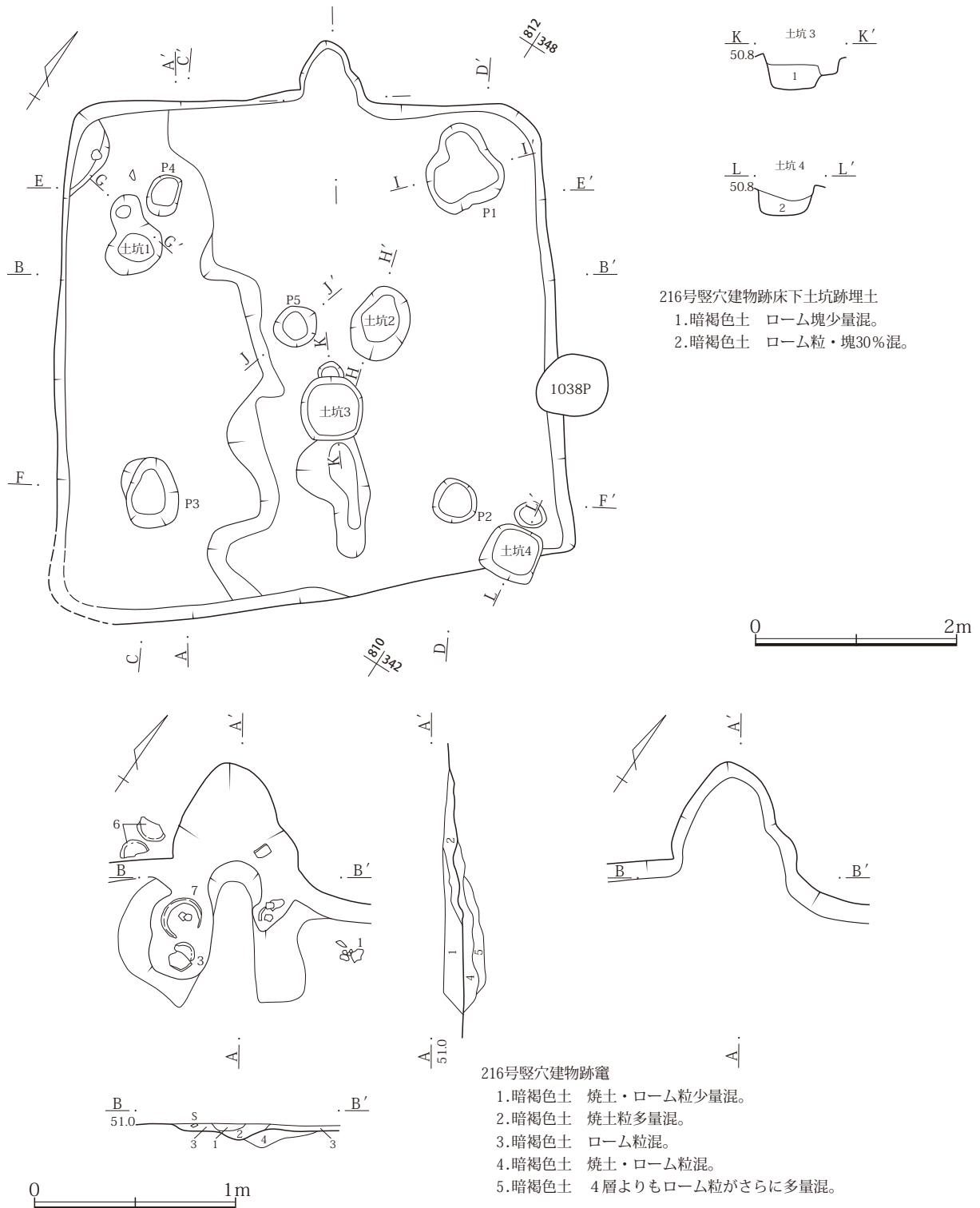


第136図 216号竪穴建物跡

(15) 216号竪穴建物跡

**位置：**調査区中央西寄りの南壁際。X340~345・Y-805~-810Gr. **主軸方位：**N-32° -W **重複：**211号竪穴建物跡、1038号pitに掘り込まれる。227号竪穴建物跡を掘り込む。 **規模と形状：**北西-南東方向に若干長い長方形を呈する。長辺5.3m・短辺

5.08m・床面までの深さ0.12m・掘方までの深さは0.21m。 **埋土：**暗褐色土ベース。 **床面：**地山を凹凸顕著に掘り込んだ上に、暗褐色土を貼って床面を形成している。床面の厚さは約0.09m。 **掘方：**掘り込みが顕著。とくに中央から南東壁にかけては一段低く掘り込まれている。掘方からは床下土坑が



第137図 216号竪穴建物跡掘方・竈

中央やや南東寄りの位置及び東隅から2基検出された。竈：北西壁のほぼ中央に取り付く。燃烧部は地山を削りだして形成している。煙道はあまり明確には確認できなかった。両袖は粘土を貼り付けて形

成され、芯材には土師器長胴甕が倒位で埋め込まれていた。両袖は建物の内側に大きく張り出す。燃烧部は内側に形成されている。貯蔵穴：なし。柱穴・pit：柱穴は建物の4隅及び中央で検出された。

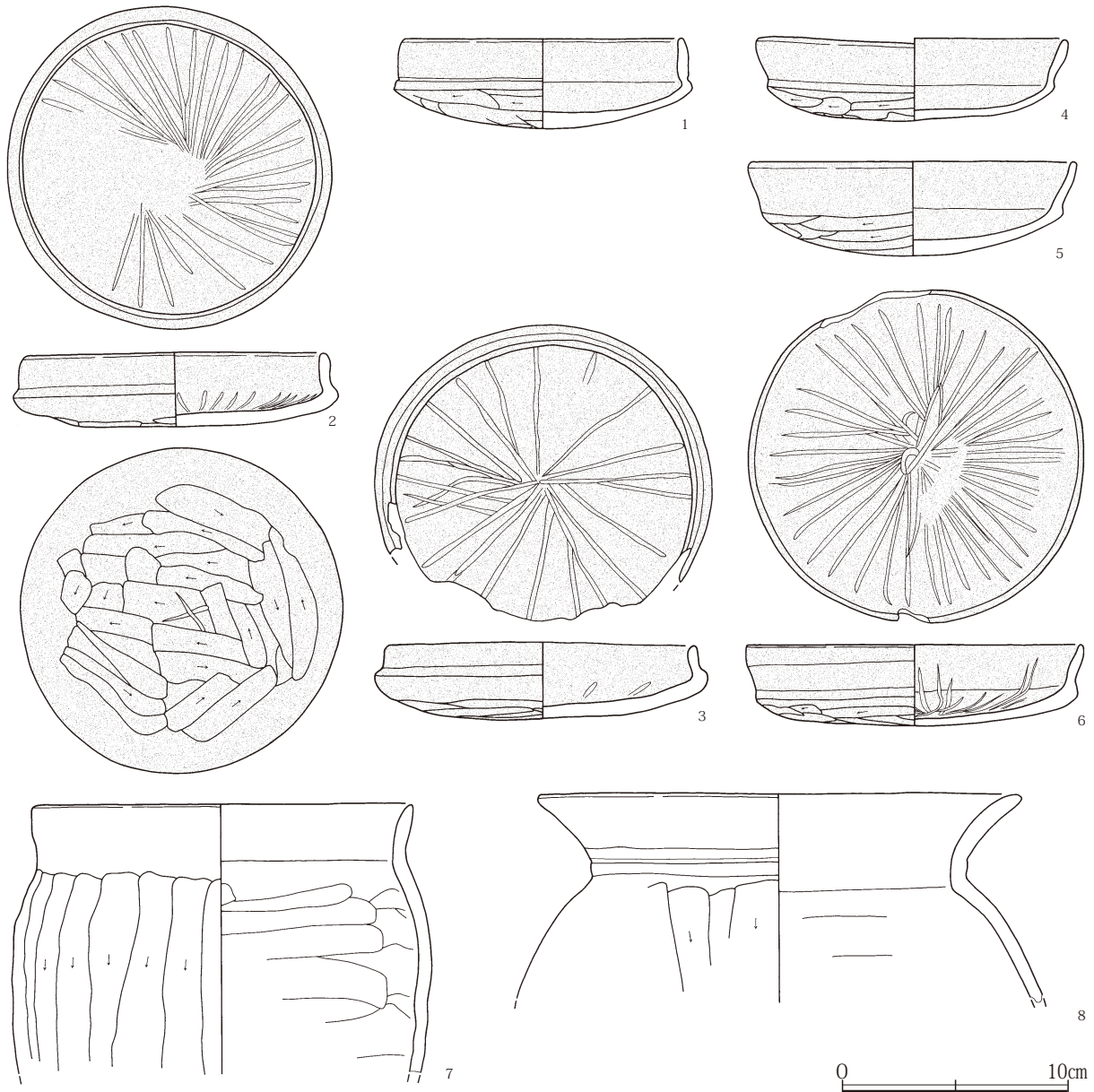
第3章 発見された遺構と遺物

pit1以外の柱穴はいずれもほぼ円形状を呈し、しっかりとした掘方を有している。pit4のすぐ南西側やpit5の北東側に接して床下土坑が2基検出されている。これらの土坑は柱穴に比べて浅く、柱穴の建て替えとは考えにくく、用途や機能は不明である。  
**pit1**長径0.92m・短径0.8m・深さ0.4m、**pit2**長径(0.46)m・短径(0.42)m・深さ(0.28)m、**pit3**長径0.7m・短径0.6m・深さ0.42m、**pit4**長径0.52m・短径0.48m・深さ0.48m、**pit5**長径0.58m・短径0.52m・深さ0.38m、**土坑1**径0.5m・深さ0.13m、**土坑2**長径0.88m・短径0.73m・深さ0.3m、**土**

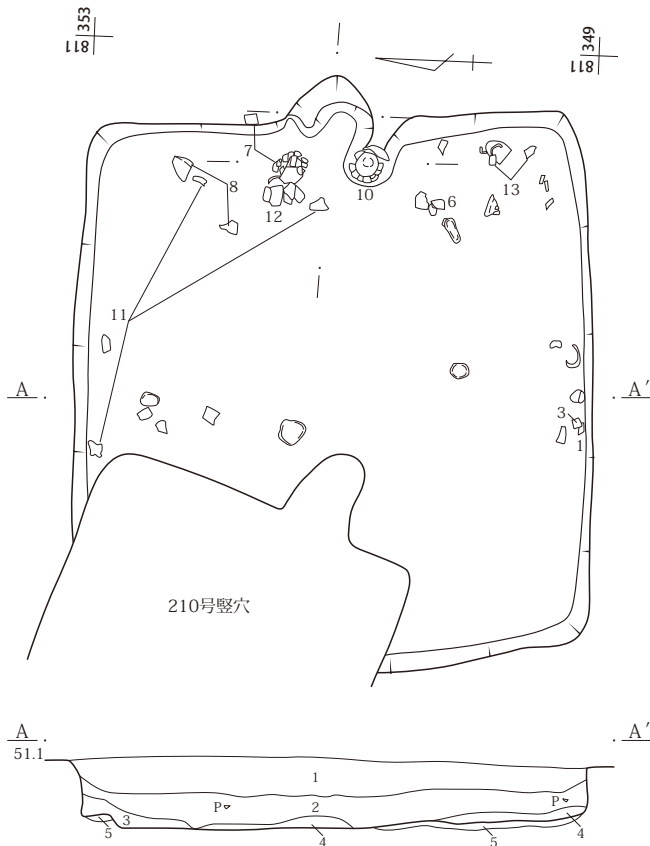
**坑3**径0.63m・深さ0.35m、**土坑4**長径0.54m・短径0.54m・深さ0.28m。 **時期**：6C後。 **遺物**：竈周囲から比較的まとまって出土している。いずれも埋土中からの出土で、土師器杯6、同甕2。

(16) 217号竪穴建物跡

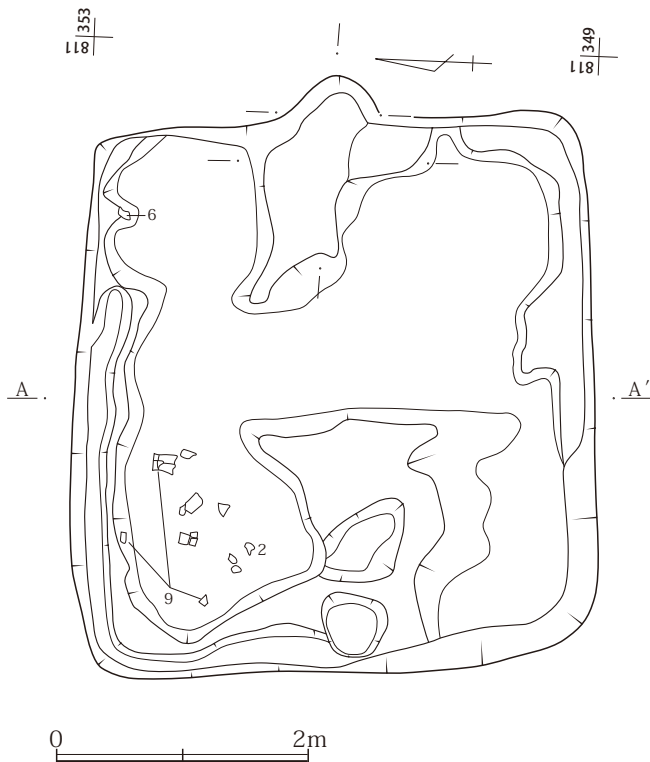
**位置**：調査区中央西寄り。X345~350・Y-810~-815Gr. **主軸方位**：N-88° -E **重複**：210号竪穴建物跡に掘り込まれる。226・227号竪穴建物跡を掘り込む。 **規模と形状**：東西に若干長い長方形を呈する。長辺4.36m・短辺4.1m・床面までの深さは



第138図 216号竪穴建物跡出土遺物



217号竪穴建物跡  
 1. 暗褐色土 ローム塊極微量混。  
 2. 暗褐色土 ローム塊微量混。  
 3. 暗褐色土 ローム粒少量混。  
 4. 暗褐色土 ローム粒・塊混。  
 5. 暗褐色土 ローム粒混。



第139図 217号竪穴建物跡

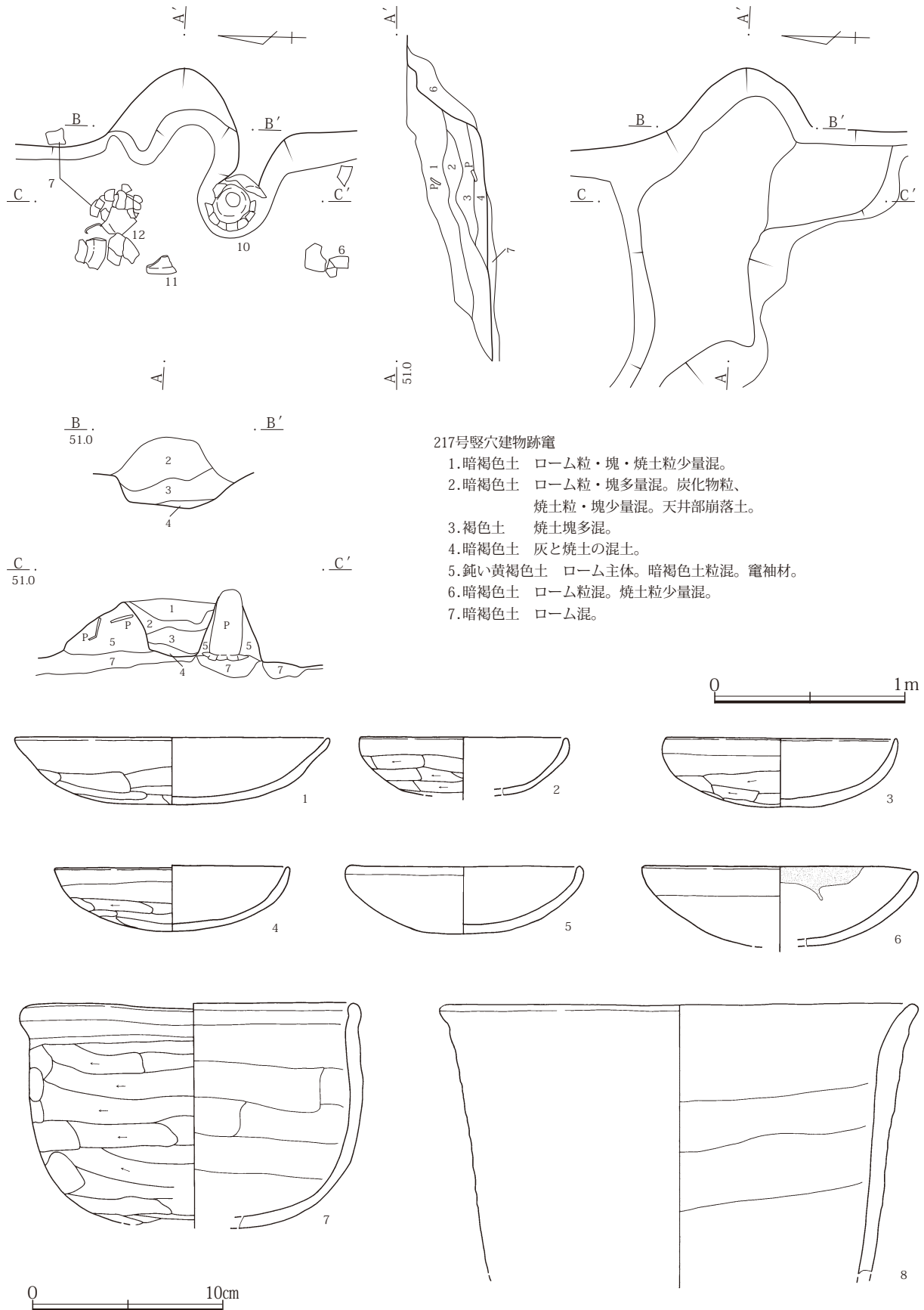
0.58m・掘方までの深さは同様。埋土：暗褐色土ベース。床面：暗褐色土を貼って平坦な床面を形成している。掘方：北西隅を中心に北壁から西壁にかけては溝状の掘り込みがなされている。西壁近くでは床下土坑状の窪みが形成されている。竈：東壁のほぼ中央に取り付く。燃烧部は地山を削りだして形成し、両袖は粘土を貼り付けて形成し、袖芯には土師器長胴甕を倒位に置いている。煙道は顕著には検出されなかった。燃烧部は内側に形成されている。貯蔵穴：なし。時期：8C1。遺物：竈周囲と東、南、北の壁際からまとまって出土している。床直から土師器甕2、同甕1、他には埋土中及び、掘方からの出土である。

(17) 218号竪穴建物跡

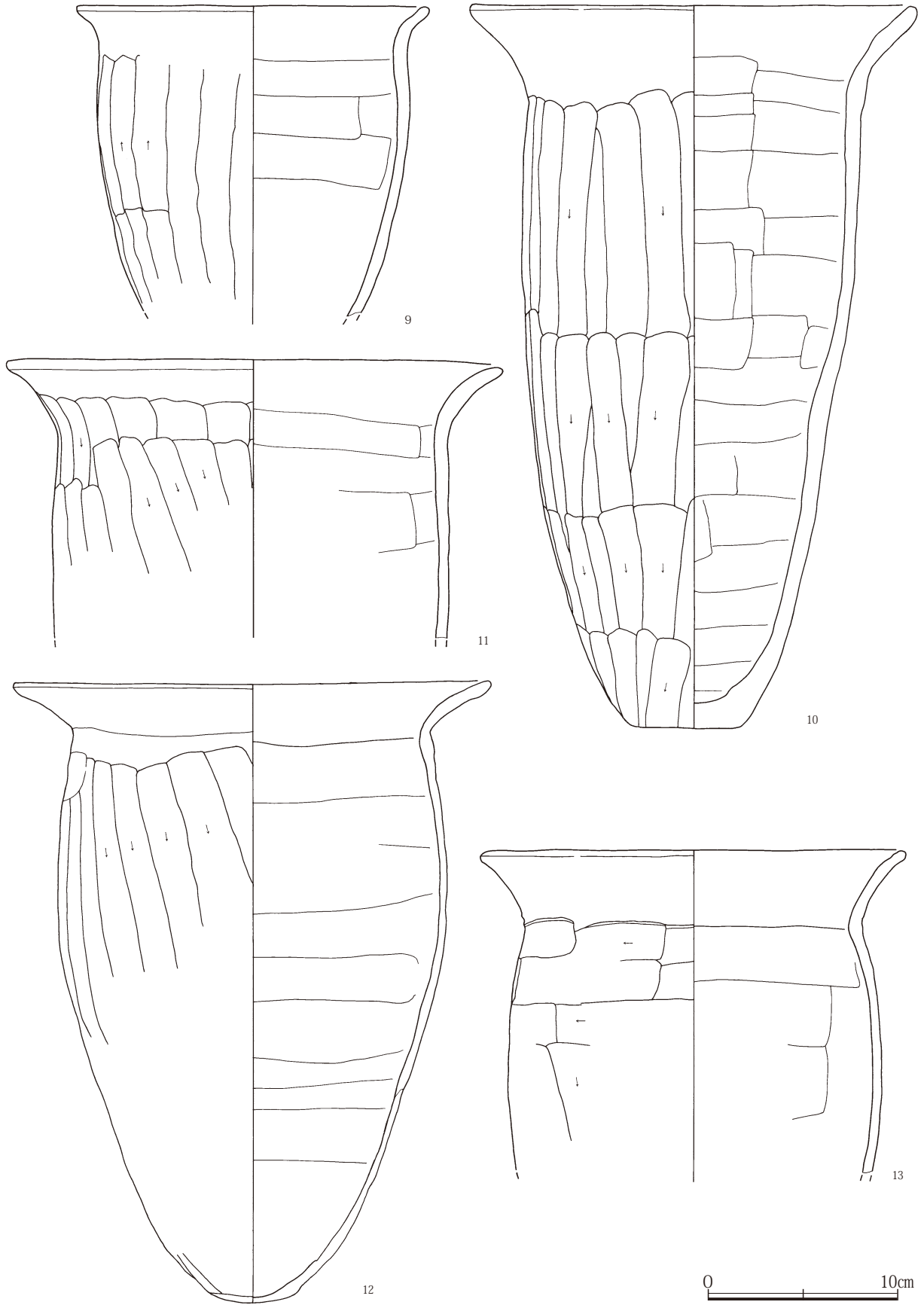
位置：調査区中央南寄り。X335~340・Y-790--795Gr. 主軸方位：N-15° -E 重複：219・225・235・245・246・249・266号竪穴建物跡を掘り込む。

規模と形状：西北西-東南東方向にやや長い長方形形状を呈する。長辺4.9m・短辺4.5m・床面までの深さ0.63m・掘方までの深さ0.7m。埋土：暗褐色土ベース。床面：地山をほぼ平坦に削り出した上に暗褐色土を薄く貼って硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.07m。掘方：若干凹凸があり、南西隅近くでは掘り込みがやや顕著である。竈：東壁及び北壁のほぼ中央に取り付く。東壁側の竈を1号竈、北壁側の竈を2号竈とする。1号竈をなんらかの理由で廃棄した後に2号竈を修築し使用している。両竈とも燃烧部・両袖は地山を削り出して形成している。両竈とも煙道は顕著には検出されなかった。2号竈の両袖は建物内に大きく張り出す。両竈とも燃烧部は建物の奥に形成されている。貯蔵穴：なし。時期：8C3。遺物：建物内に散在。床直からは土師器甕が2点(32・33)。他はすべて埋土中からの出土である。「人」と記入された墨書土器(2)や竈埋土から出土した仏鉢型土器(27)が特筆される。

第3章 発見された遺構と遺物

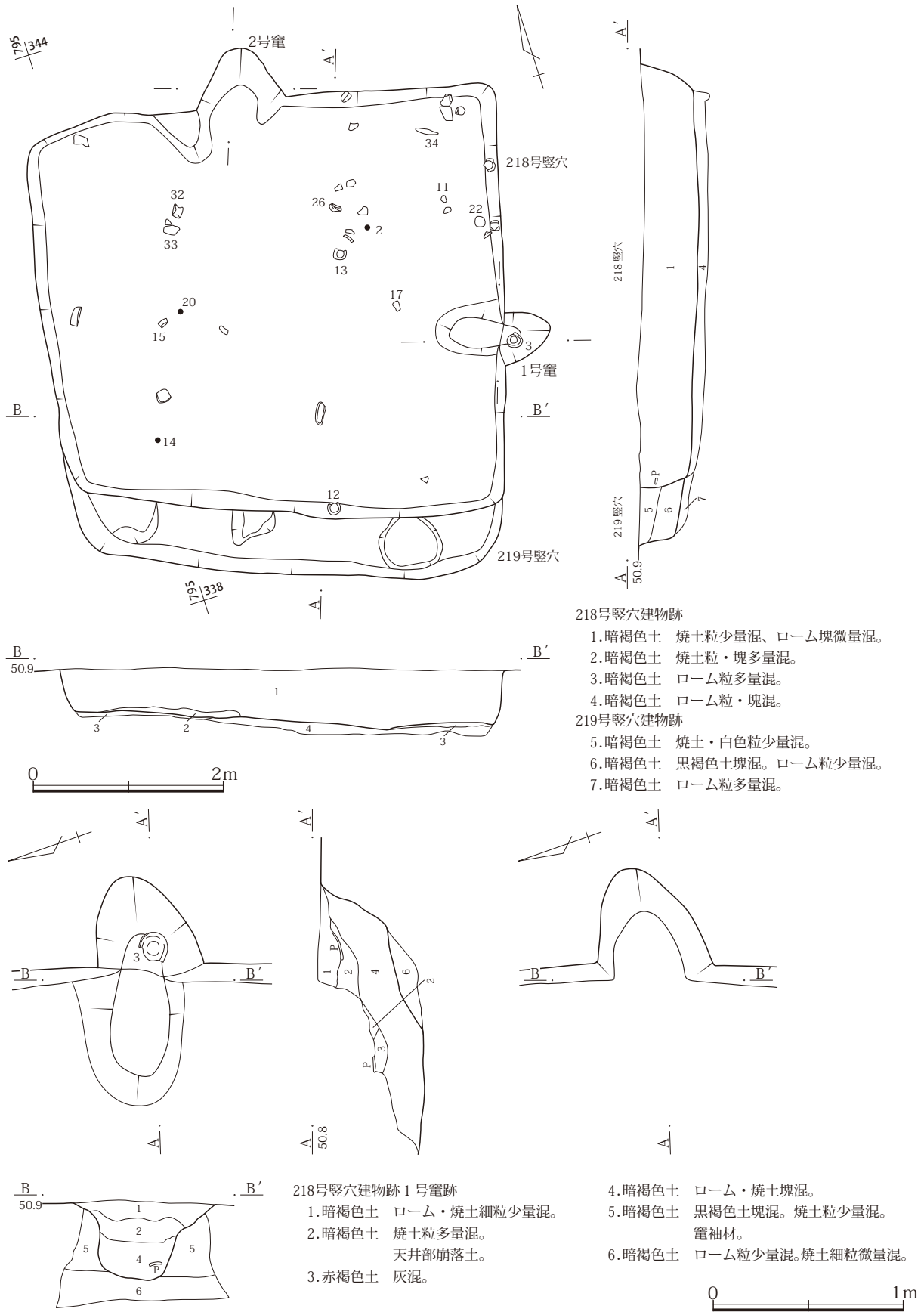


第140図 217号竪穴建物跡竈・出土遺物（1）



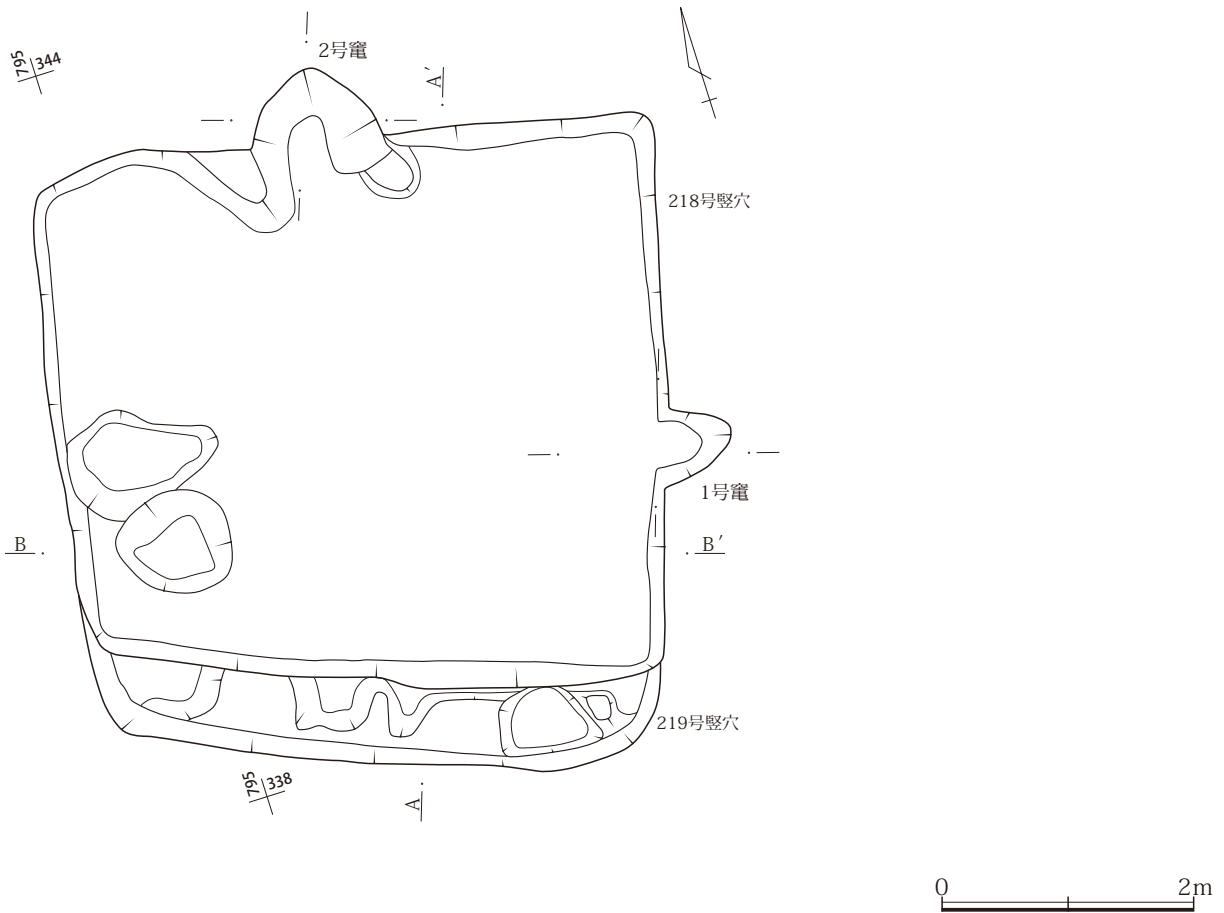
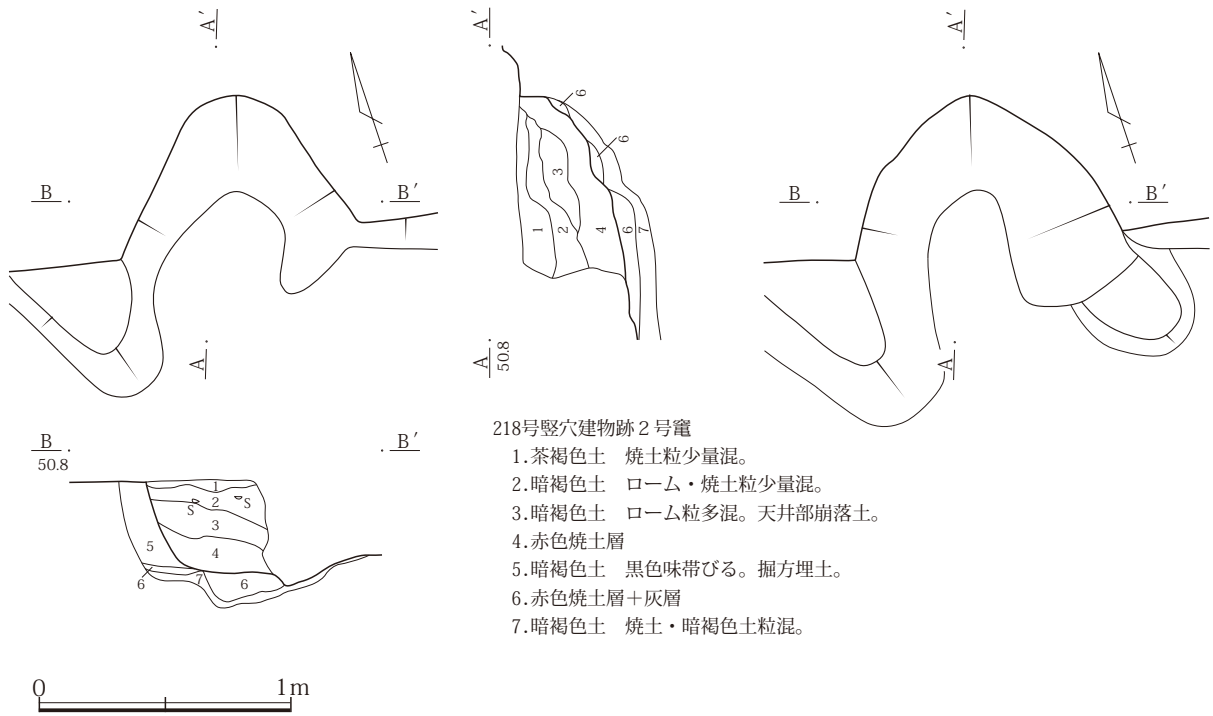
第141図 217号竪穴建物跡出土遺物（2）

第3章 発見された遺構と遺物



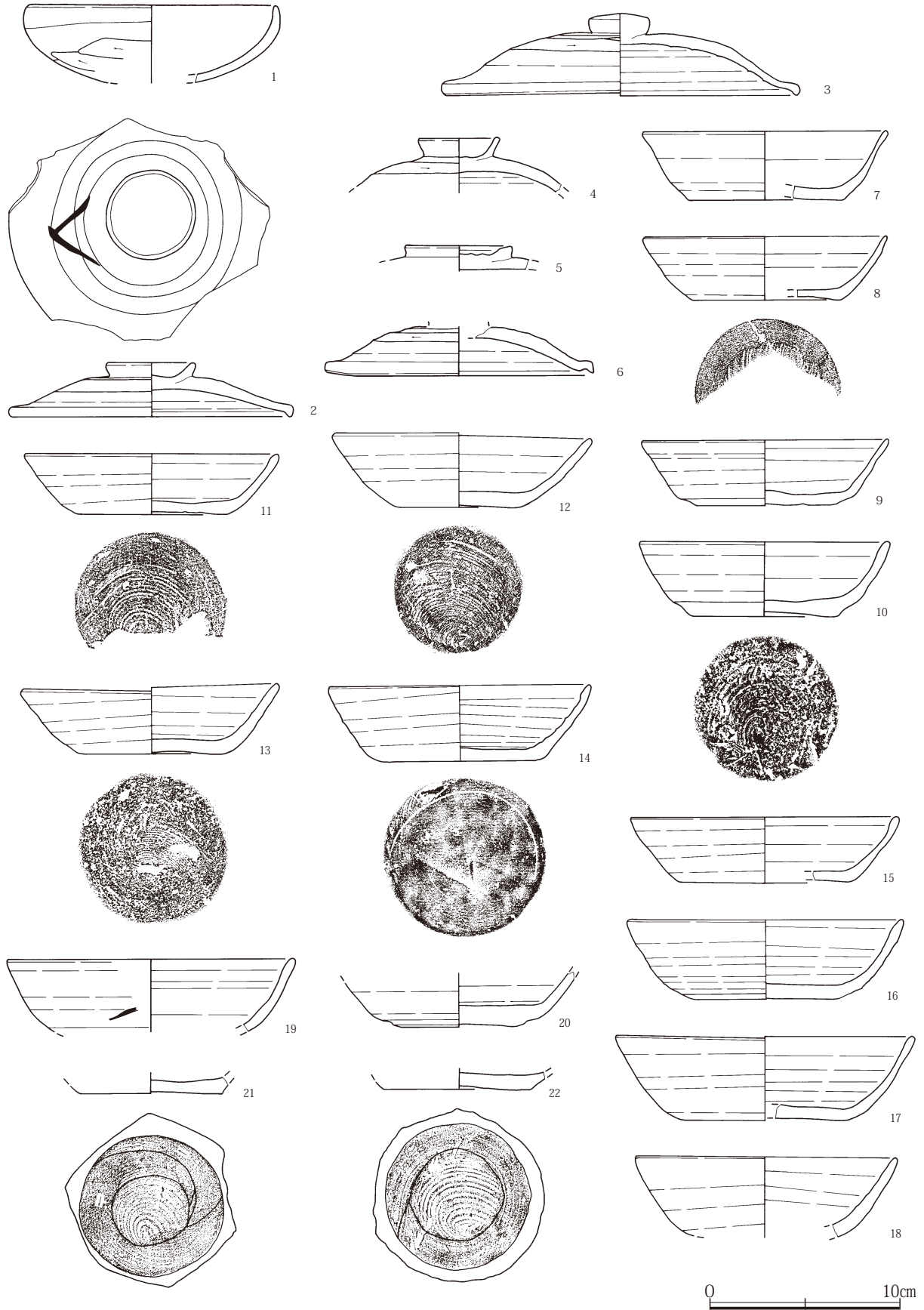
第142図 218・219号竪穴建物跡・1号竈



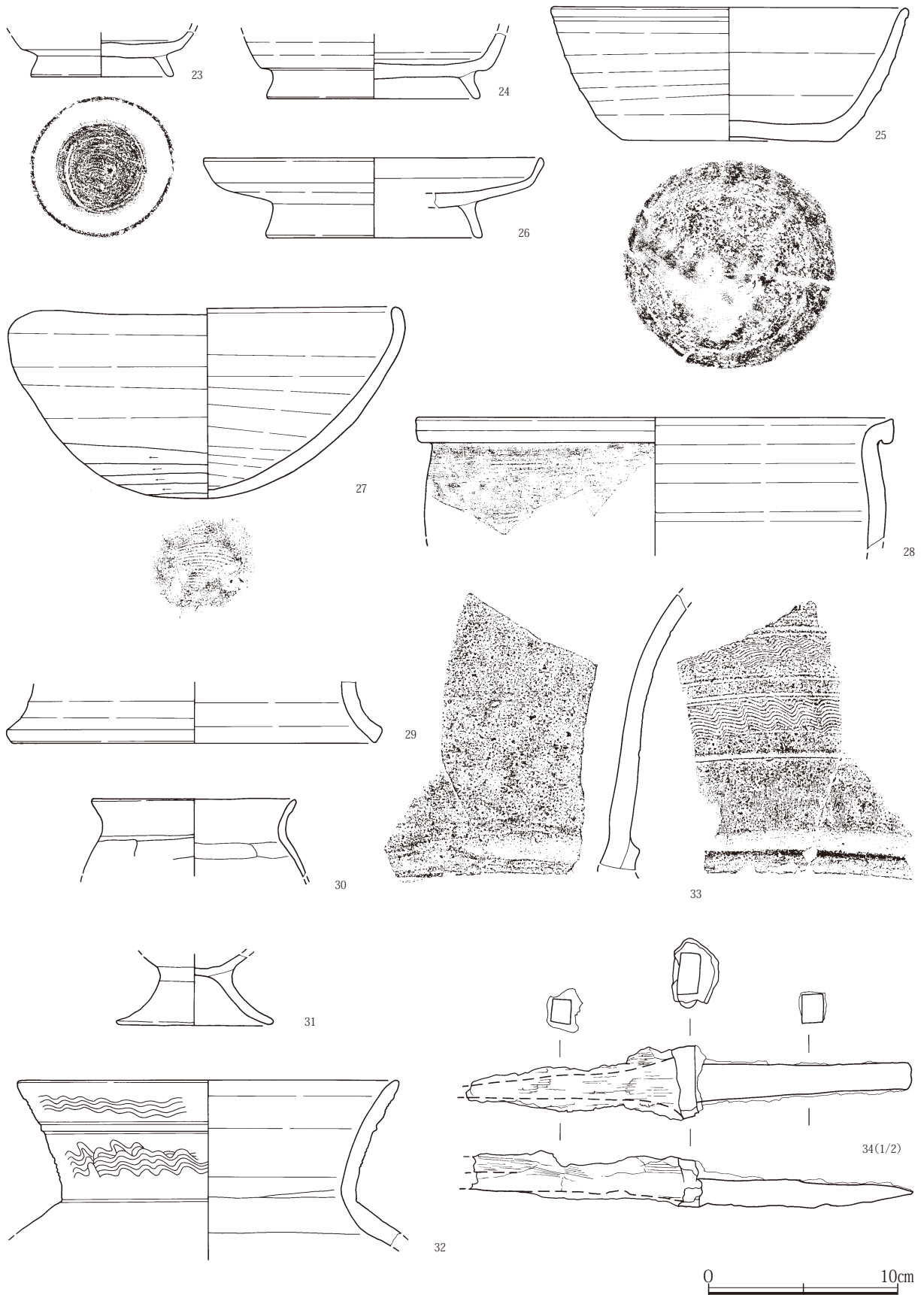


第143図 218号竪穴建物跡・2号竈・掘方

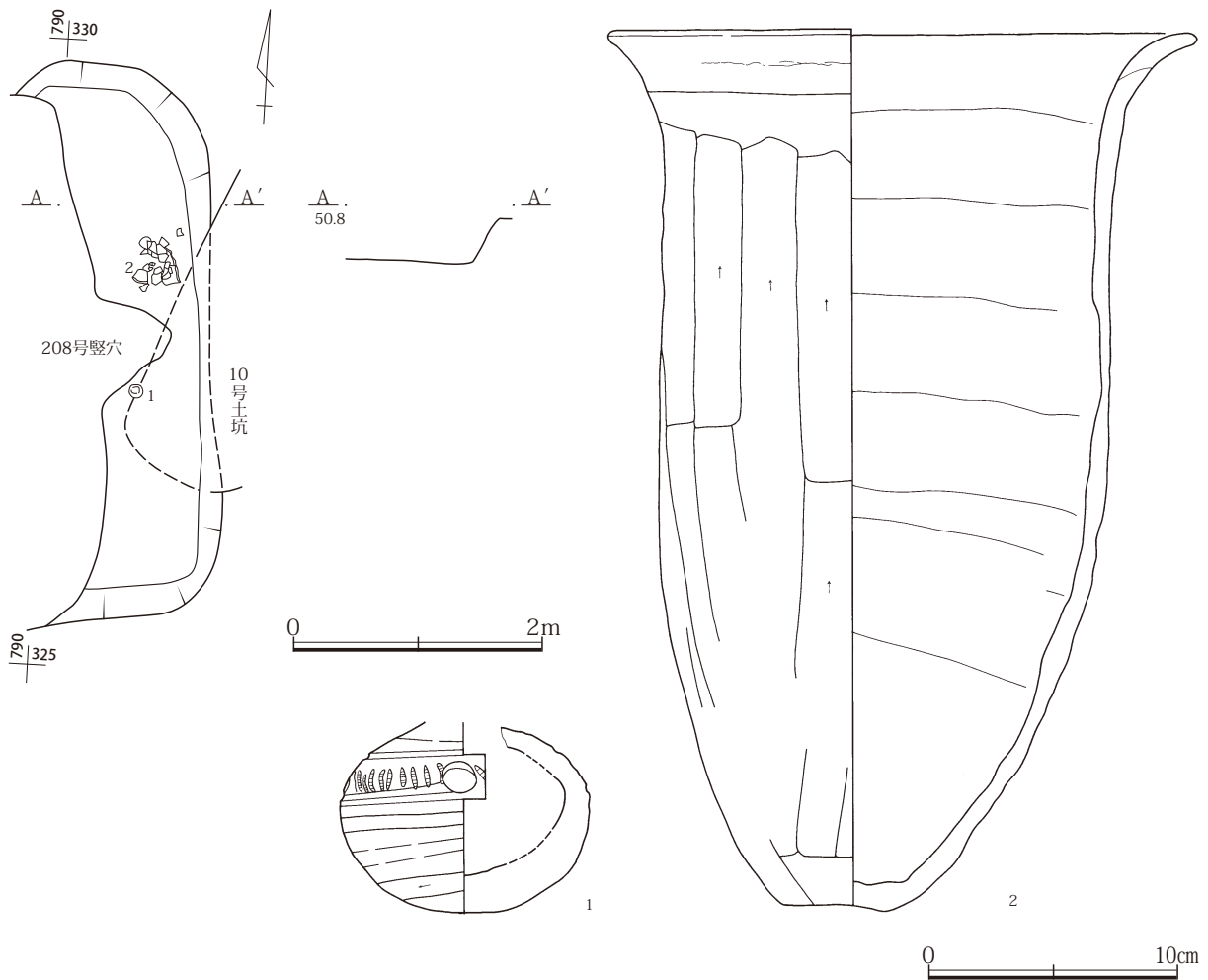
第3章 発見された遺構と遺物



第144図 218号竪穴建物跡出土遺物（1）



第145図 218号竪穴建物跡出土遺物（2）



第146図 220号竖穴建物跡・出土遺物

(18) 219号竖穴建物跡

位置：調査区中央南寄り。X335・Y-790~795Gr.

主軸方位：N-110° -E 重複：218号竖穴建物跡に掘り込まれる。235・245号竖穴建物跡を掘り込む。

規模と形状：南壁と南東・南西の両隅が検出されたのみ。全容は不明。南辺4.5m・床面までの深さ0.43m・掘方までの深さ0.52m。埋土：暗褐色土ベース。床面：平坦面を形成した上に暗褐色土を貼って硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.09m。掘方：ほぼ平坦。竈：未検出。貯蔵穴：未検出。時期：古代。遺物：なし。

(19) 220号竖穴建物跡

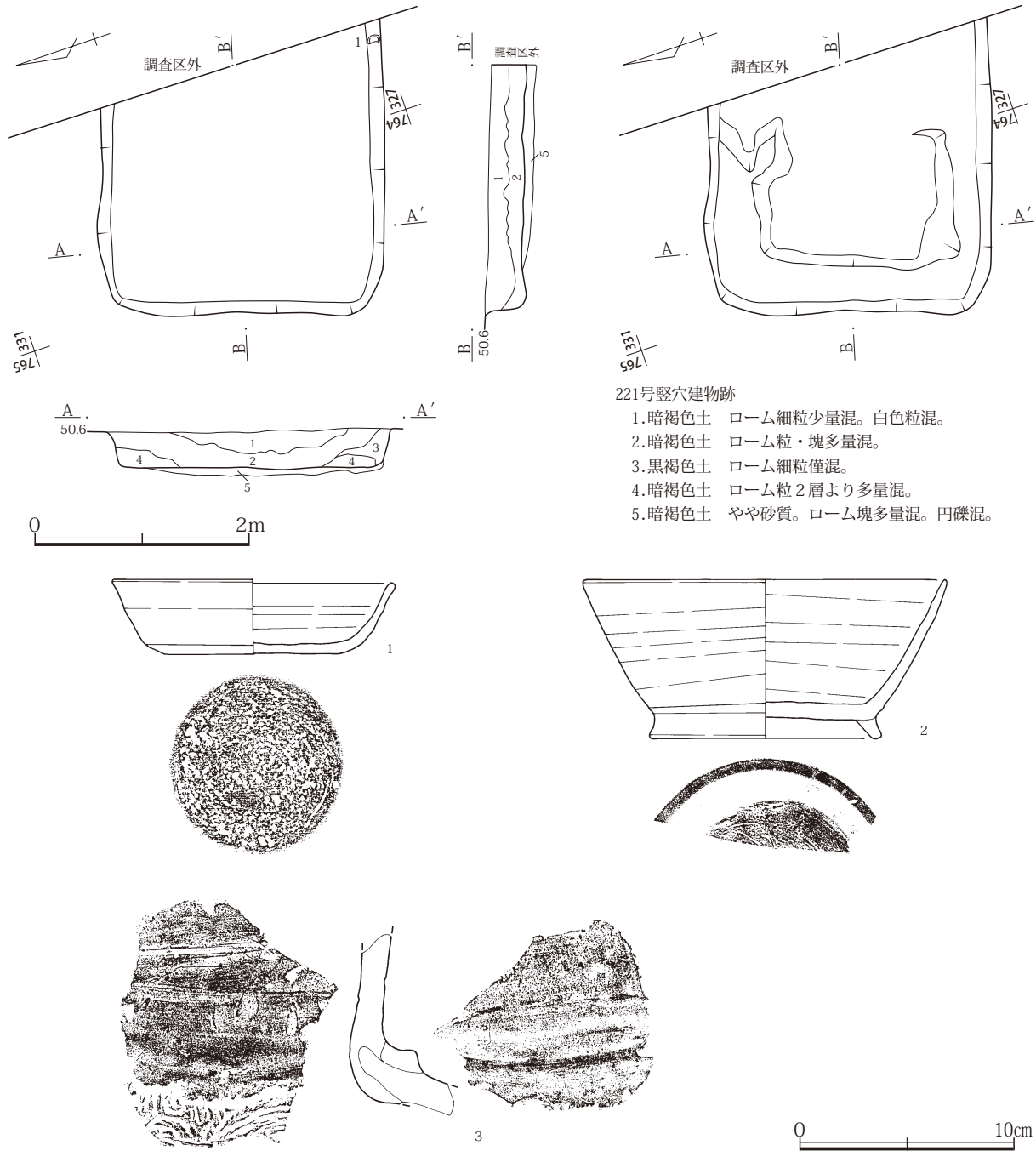
位置：調査区南端部西壁際。X325・Y-785~

790Gr. 主軸方位：N-5° -W 重複：208号竖穴建物跡、1010号土坑跡に掘り込まれる。239・304号竖穴建物跡を掘り込む。規模と形状：東壁と北東・南東の両隅が検出できたに過ぎないので全容は不明である。東辺4.48m・床面までの深さ0.34m。埋土：暗褐色土ベース。床面：地山を平坦に削りだして床面を形成している。掘方：床面とほぼ一致。

竈：未検出。貯蔵穴：未検出。時期：7C前。遺物：検出された部分のほぼ中央にまとまって出土している。土師器甕(2)は床直からの出土。

(20) 221号竖穴建物跡

位置：調査区南東隅寄り東壁際。X325~330・Y-760~765Gr. 主軸方位：N-10° -E 重複：201

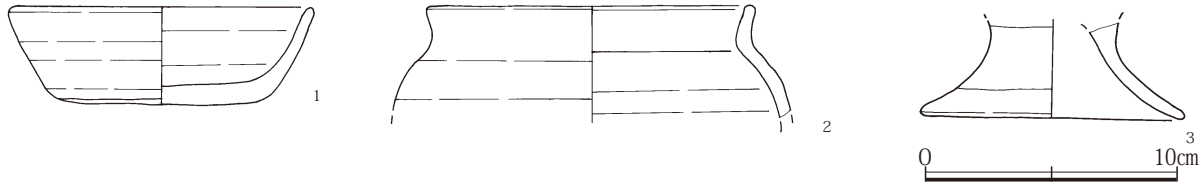


第147図 221号竪穴建物跡・出土遺物

号竪穴建物跡、1020号土坑跡を掘り込む。 **規模と形状**：西北西－東南東方向に長い長方形を呈するものと思われるが、東側が調査区外に出るため全体の形状は不明である。長辺(2.64)m・短辺2.35m・床面までの深さ0.37m・掘方までの深さは0.42m。  
**埋土**：暗褐色土ベース。 **床面**：地山を掘り込んだ上にやや砂質味の強い暗褐色土で貼床を貼り、硬

質な床面を形成している。床面の厚さは約0.05m。  
**掘方**：壁際をテラス状に平坦に掘り込み、その内側を一段低く掘り込んでいるが、凹凸はあまり顕著ではなく、全体に平坦である。 **竈**：未検出 **貯蔵穴**：未検出。 **時期**：8C後。 **遺物**：いずれも埋土中からの出土である。須恵器杯1、同碗1、同甕1。





第149図 222号竪穴建物跡出土遺物

(21) 222号竪穴建物跡

**位置：**調査区南東隅寄り壁際。X320・Y-760～765Gr. **主軸方位：**N-115° -E **重複：**1018号土坑跡に掘り込まれる。202号竪穴建物跡、9号土坑跡を掘り込む。 **規模と形状：**西北西-東南東方向に長い長方形を呈する。長辺3.12m・短辺2.48m・床面までの深さ0.18m・掘方までの深さは最大で0.22m。 **埋土：**暗褐色土ベース。 **床面：**地山をほぼ平坦に掘り込んだ上にローム塊を多く含んだ暗褐色土で薄く貼床を貼り、硬質な床面を形成している。床面の厚さはほぼ0.04m程度。 **掘方：**全体に地山を平坦に掘り込んでいるが、貯蔵穴と竈焚口前をとくに一段低く掘り込んでいる。 **竈：**東壁の中央に取り付く。両袖・燃烧部ともに地山を削りだして形成され、煙道は建物の外側に長く延びる。両袖は全く張り出さない。燃烧部は壁とほぼ同位置あたる。 **貯蔵穴：**竈の南西側、北東-南西方向に長い楕円形状を呈する。長径0.55m・短径0.43m・深さ0.13m。 **時期：**8C後。 **遺物：**埋土中に散在。

(22) 223号竪穴建物跡

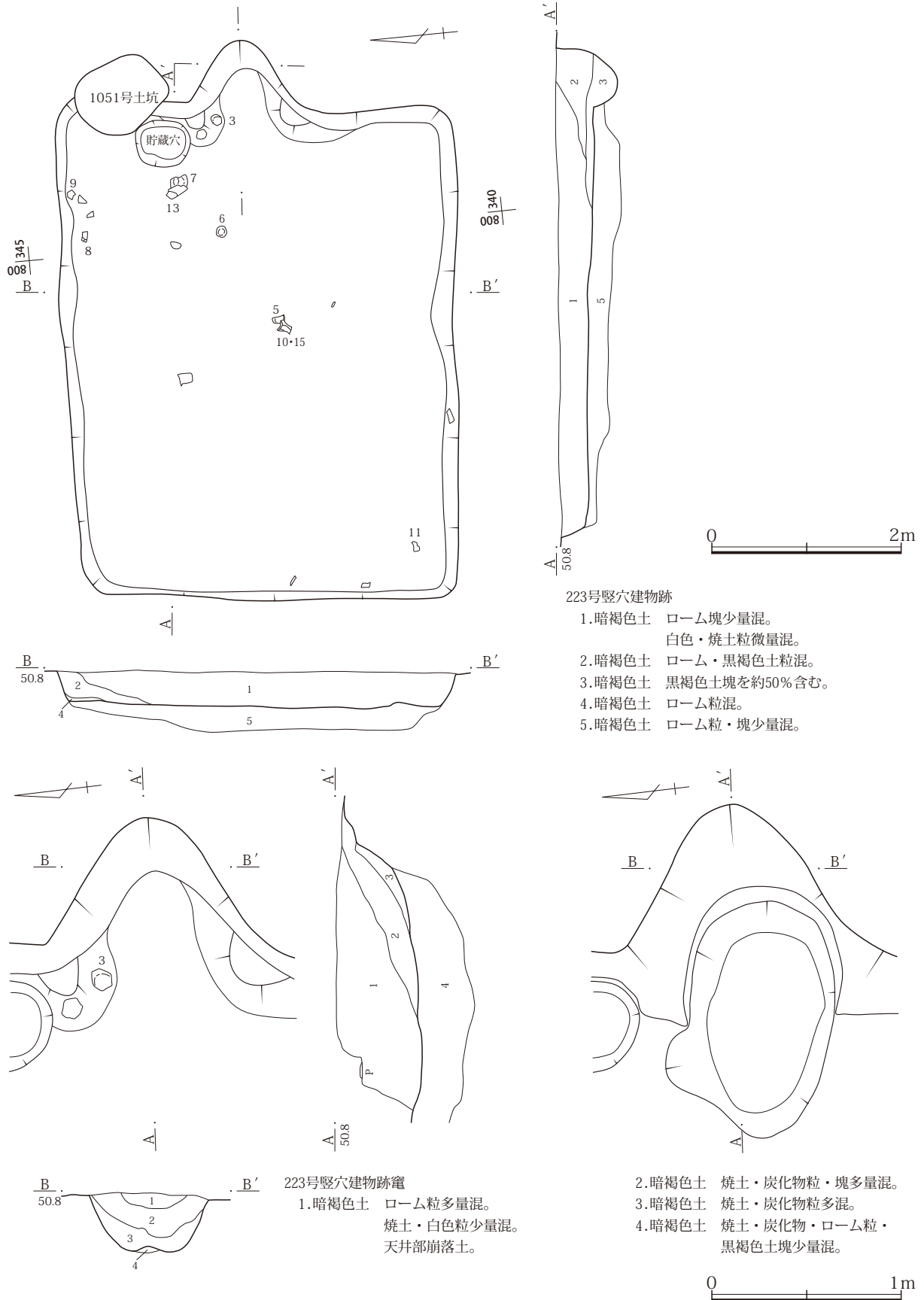
**位置：**調査区中央南寄り。X340・Y-795～800Gr. **主軸方位：**N-95° -E **重複：**212号竪穴建物跡、1051号土坑跡に掘り込まれる。230・232・248・266・269号竪穴建物跡、1039・1046号土坑跡の南側を掘り込む。 **規模と形状：**東西に長い長方形を呈する。3・4区やその南側に隣接する鹿島浦遺跡などで多く検出された、東西に細長く東側に竈が取り付く、所謂工房型と言われる竪穴建物跡に形状がよく類似している。長辺5.2m・短辺4.16m・床面までの深さ0.38m・掘方までの深さ0.65m。 **埋土：**暗褐色土ベース。 **床面：**地山を大きく掘り込んだ

上にローム塊を少量含んだ暗褐色土を貼って床面を形成している。床面の厚さは約0.27mと厚い。 **掘方：**南東隅側から中央にかけて一段深く掘り込まれている。また、北壁際には床下土坑状の掘り込みがいくつも連続してみられる。 **竈：**東壁のやや北寄りに取り付く。燃烧部・両袖は地山を削りだして形成している。煙道は顕著には検出されなかった。両袖は地山を段状に削りだして形成され、建物内にやや大きく張り出す。燃烧部は建物の奥に形成されている。 **貯蔵穴：**竈の北側。南北にやや長い楕円形状を呈し、長径0.58m・短径0.5m・深さ0.27m。 **時期：**9C4。 **遺物：**掘方から4点(1・4・12・13)。他は埋土中からの出土。埋土中からの出土は建物の北東隅と中央に比較的集中している。

(23) 224号竪穴建物跡

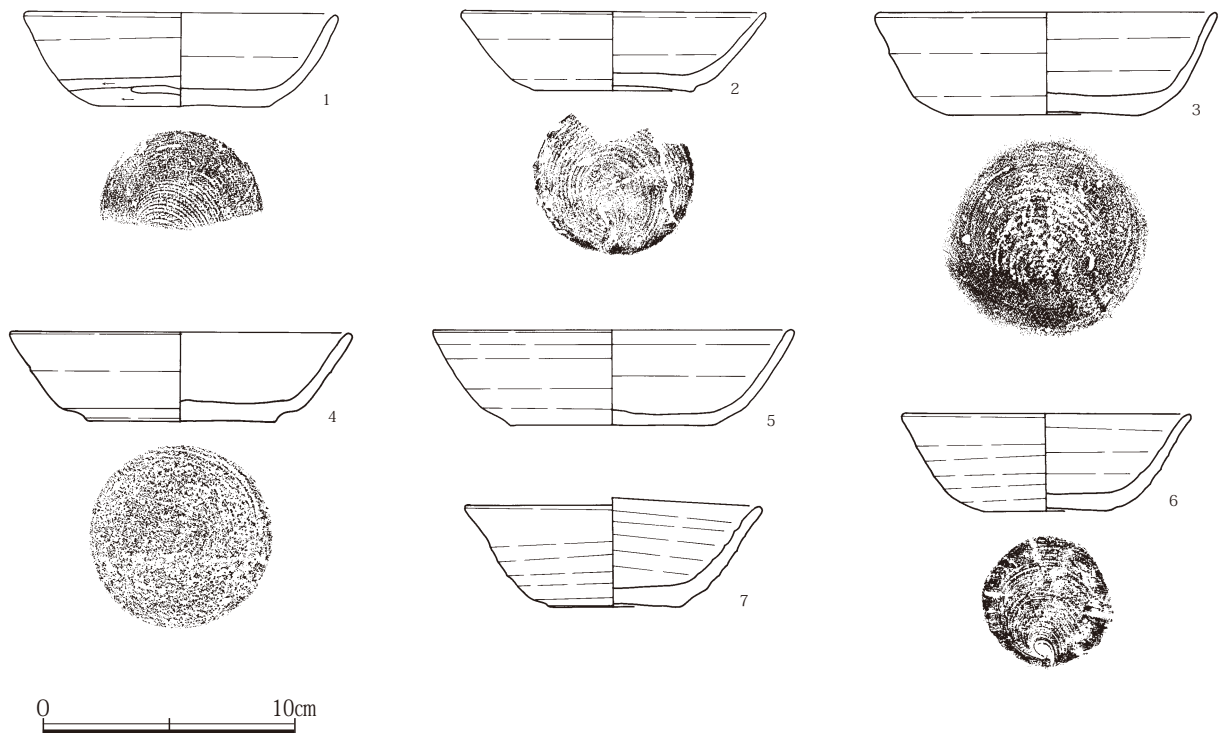
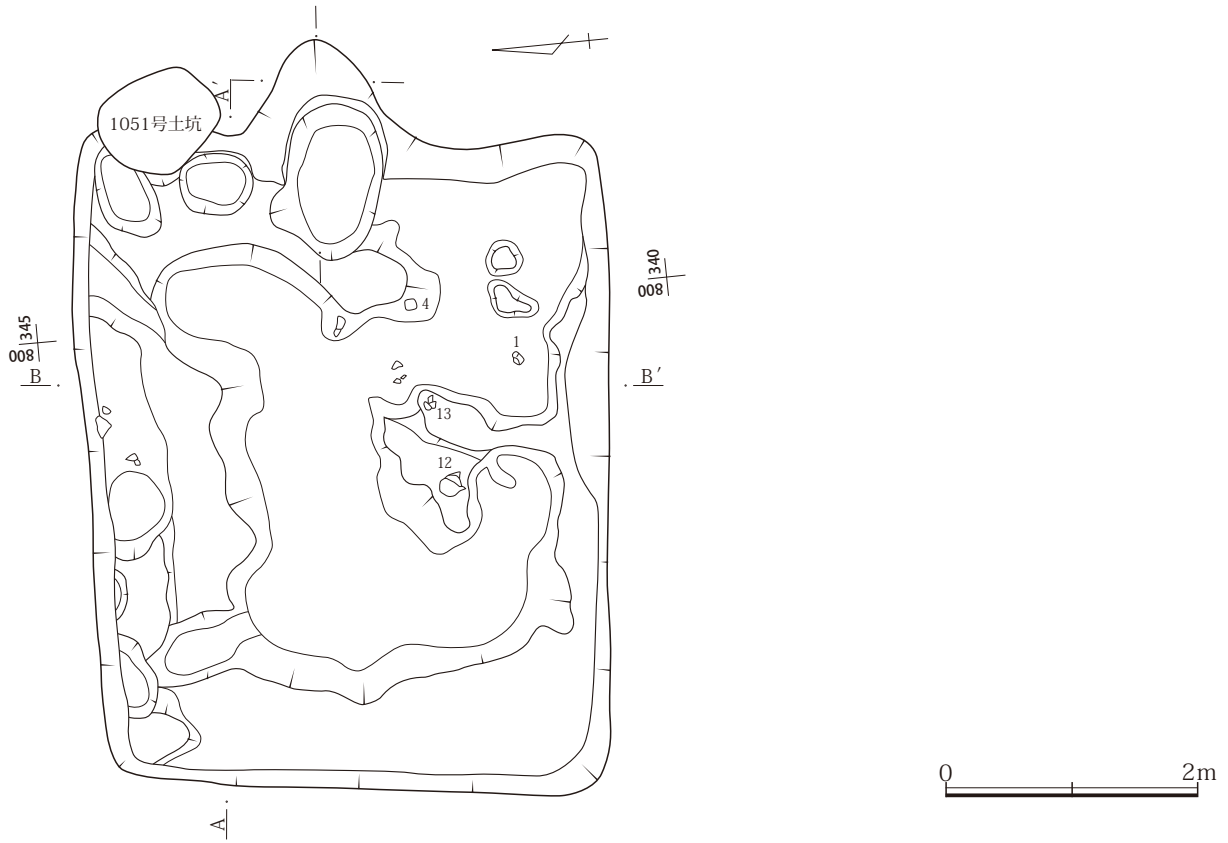
**位置：**調査区南東隅壁際寄り。X315-320・Y-765Gr. **主軸方位：**N-77° -E **重複：**201号竪穴建物跡に掘り込まれる。51～53号掘立柱建物跡を掘り込む。 **規模と形状：**ほぼ東西に長い長方形を呈する。3・4区やその南側に隣接する鹿島浦遺跡などで多く検出された、東西に細長く東側に竈が取り付く、所謂工房型と言われる竪穴建物跡に形状がよく類似している。長辺4.3m・短辺3.15m・深さ0.28m、掘方までの深さは0.34m。 **埋土：**暗褐色土ベース。 **床面：**地山を平坦に掘り込んで、ローム塊・円礫を多く含む砂質の暗褐色土を薄く貼って硬質な床面を形成している。厚さ約0.06m。 **周溝：**北壁際の一部で検出された。上幅0.16m・下幅0.08m・深さ0.08m。 **掘方：**ほぼ平坦、凹凸はほとんど無い。 **竈：**東壁のほぼ中央に取り付く。201号竪穴建物跡によって掘り込まれているため詳

第3章 発見された遺構と遺物

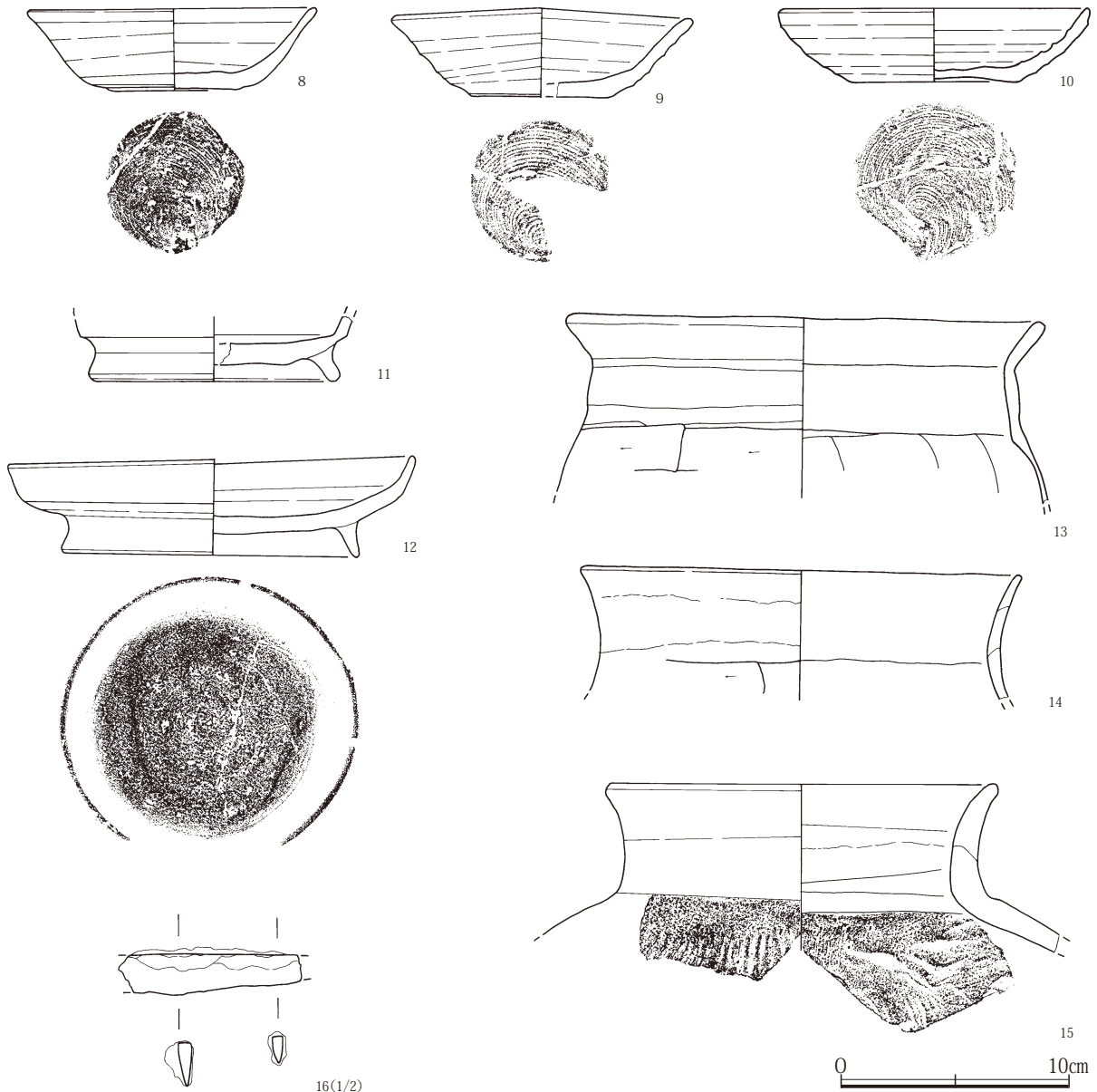


第150図 223号竪穴建物跡





第151図 223号竖穴建物跡掘方・出土遺物（1）



第152図 223号竪穴建物跡出土遺物（2）

細は不明である。 貯蔵穴：未検出。 時期：古代。  
遺物：なし。

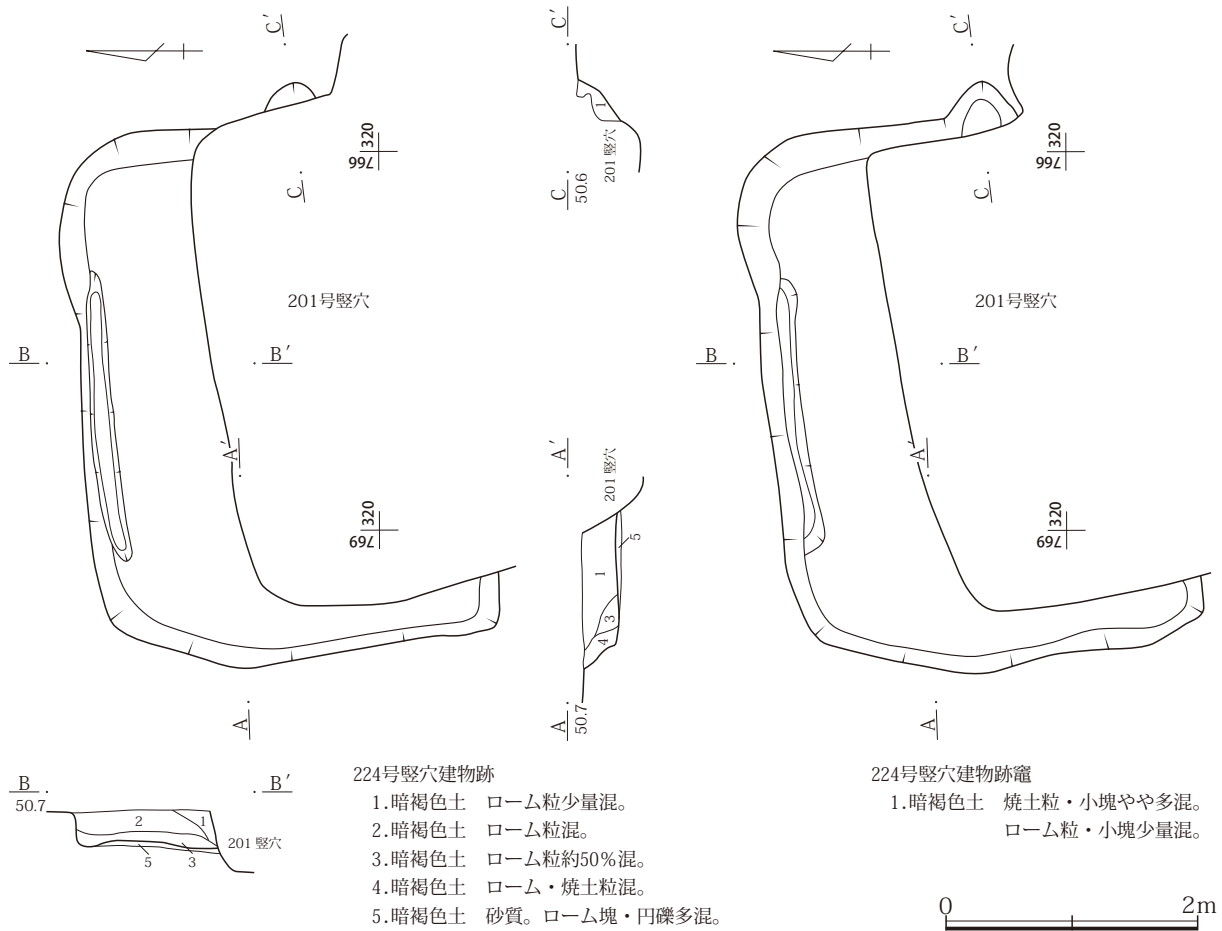
(24) 225号竪穴建物跡

位置：調査区中央南寄り。 X335~340・Y-790~795Gr. 主軸方位：N-93° -E 重複：246号竪穴建物跡などを掘り込む。使用面は竈燃焼部を除いて218号竪穴建物跡に完全に破壊されており、218号竪穴建物跡掘方の下面から、掘方のみが検出された。

規模と形状：南北に長い長方形を呈する。長辺

4.6m・短辺3.28m・確認面から掘方底面までの深さ0.2m。 埋土：暗褐色土ベース。 床面：検出できず。 掘方：地山を大きく掘り込んで凹凸が激しい。とくに竈の前と北西隅側、中央部には一段低く掘り込まれた大規模な土坑状の掘り込みが検出された。 竈：東壁北東隅に取り付く。燃焼部・両袖は地山を削り出して形成している。燃焼部は奥側に形成されている。両袖は建物の内部に若干張り出す。

貯蔵穴：なし。 時期：8 C後。 遺物：埋土中より須恵器杯1点出土。



第153図 224号竪穴建物跡

(25) 226号竪穴建物跡

位置：調査区西寄り。X345~350・Y-810~-815Gr.

主軸方位：不明。重複：217号竪穴建物跡に掘り込まれる。227号竪穴建物跡、1019号土坑跡を掘り込む。規模と形状：北東-南西方向に若干長い長方形を呈する。北壁と西壁を217号竪穴建物跡にあらかた破壊されている。長辺5.24m・短辺4.34m・床面までの深さは0.23m・掘方までの深さは0.4m。埋土：暗褐色土ベース。床面：地山を大きく掘り込んだ上にやや厚く暗褐色土とロームを貼り、平坦で硬質な床面を形成している。周溝：各壁際に設けられている。上幅約0.42m・下幅約0.18m・深さ約0.08m。掘方：比較的凹凸激しく大きく掘り込まれている。とくに南西隅は床下土坑状の深い掘り込みがなされている。竈：北壁のほぼ中央に取り付くが、あらかた217号竪穴建物跡によっ

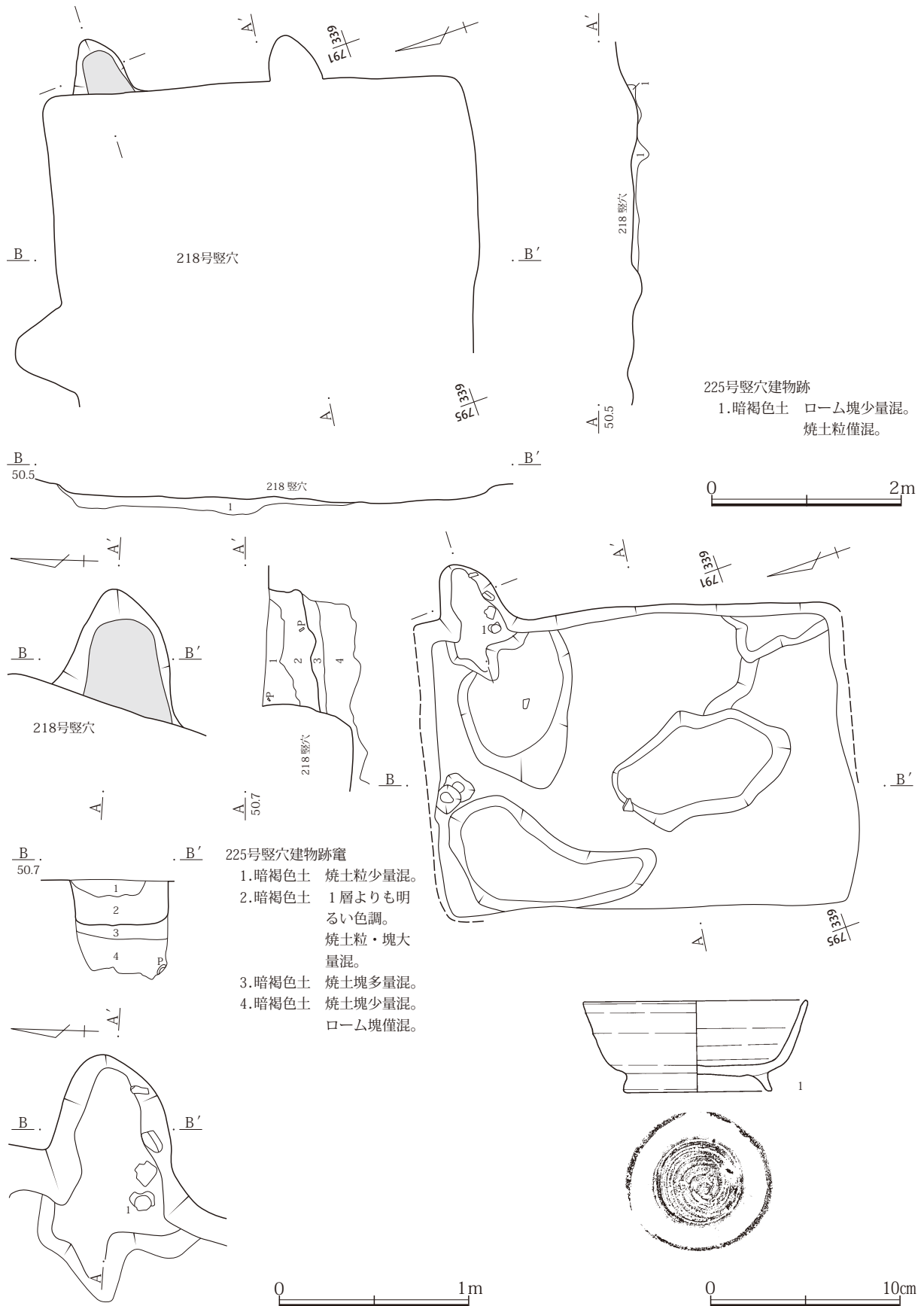
て破壊されており詳細は不明である。燃燒部は地山を削り出して形成され、煙道は顕著には検出されなかった。貯蔵穴：未検出。時期：7C前。遺物：埋土中より須恵器短頸壺1点出土。

(26) 227号竪穴建物跡

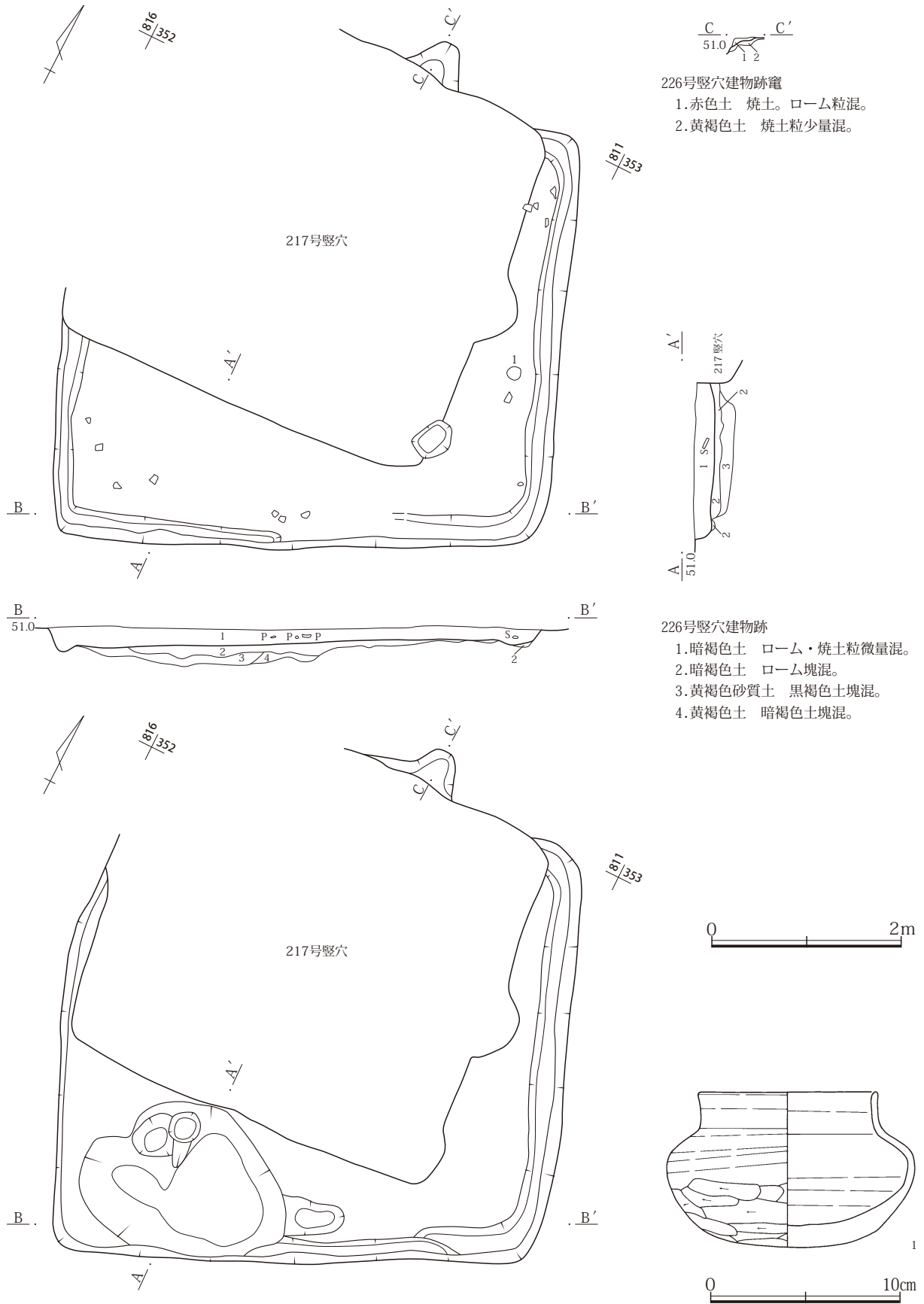
位置：調査区西寄り。X340~350・Y-810~-815Gr.

主軸方位：不明。重複：210・216・226・237号竪穴建物跡に掘り込まれる。規模と形状：北東-南西方向に若干長い長方形を呈する。北壁の半分と東壁のほとんどを226号竪穴建物跡に破壊されている。長辺5.18m・短辺4.74m・床面までの深さは0.16m・掘方までの深さは0.28m。埋土：暗褐色土ベース。床面：地山を大きく掘り込んだ上に薄くローム塊混じりの暗褐色土を貼り、平坦で硬質な床面を形成している。厚さ約0.12m。掘方：比

第3章 発見された遺構と遺物



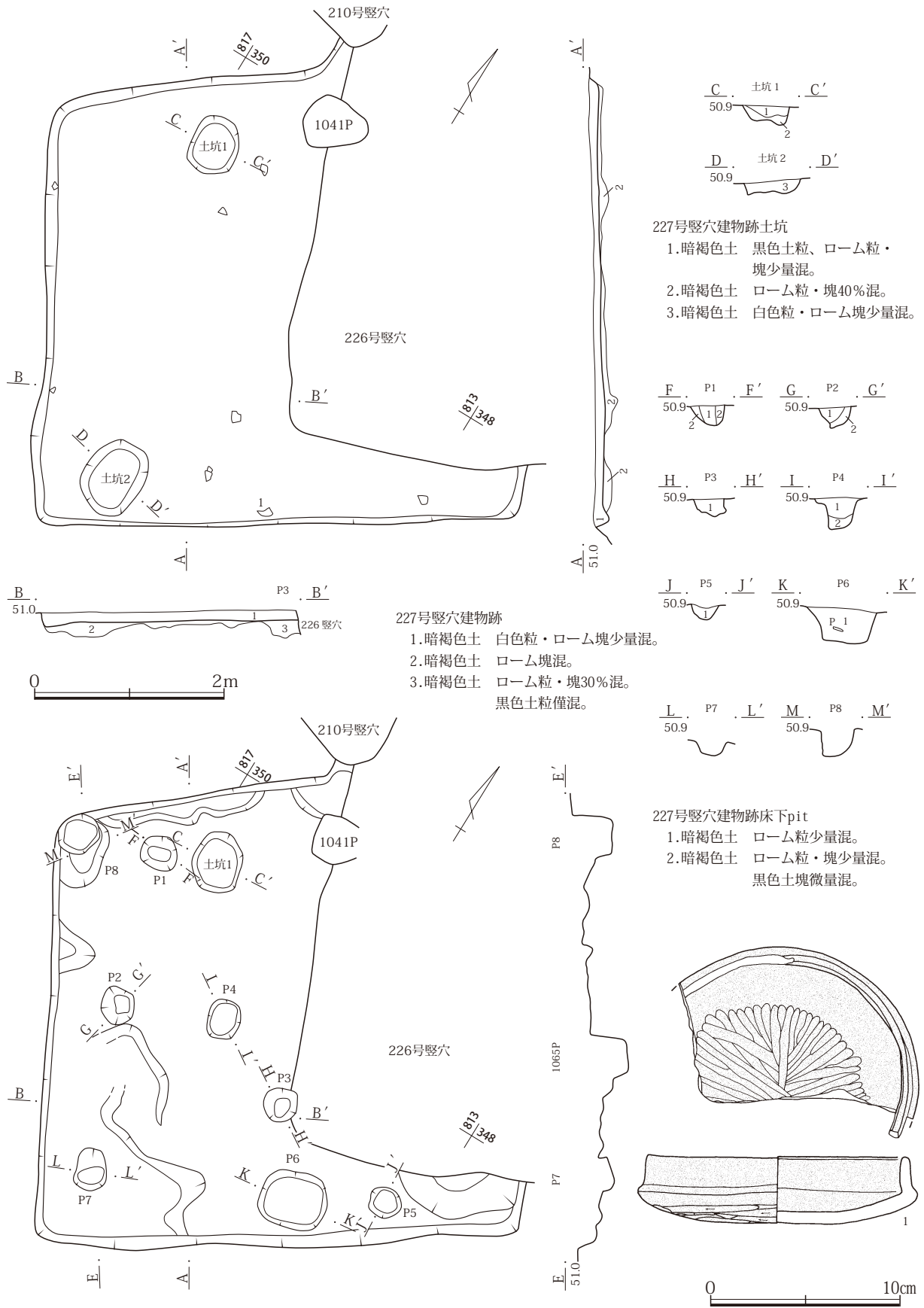
第154図 225号竪穴建物跡・出土遺物



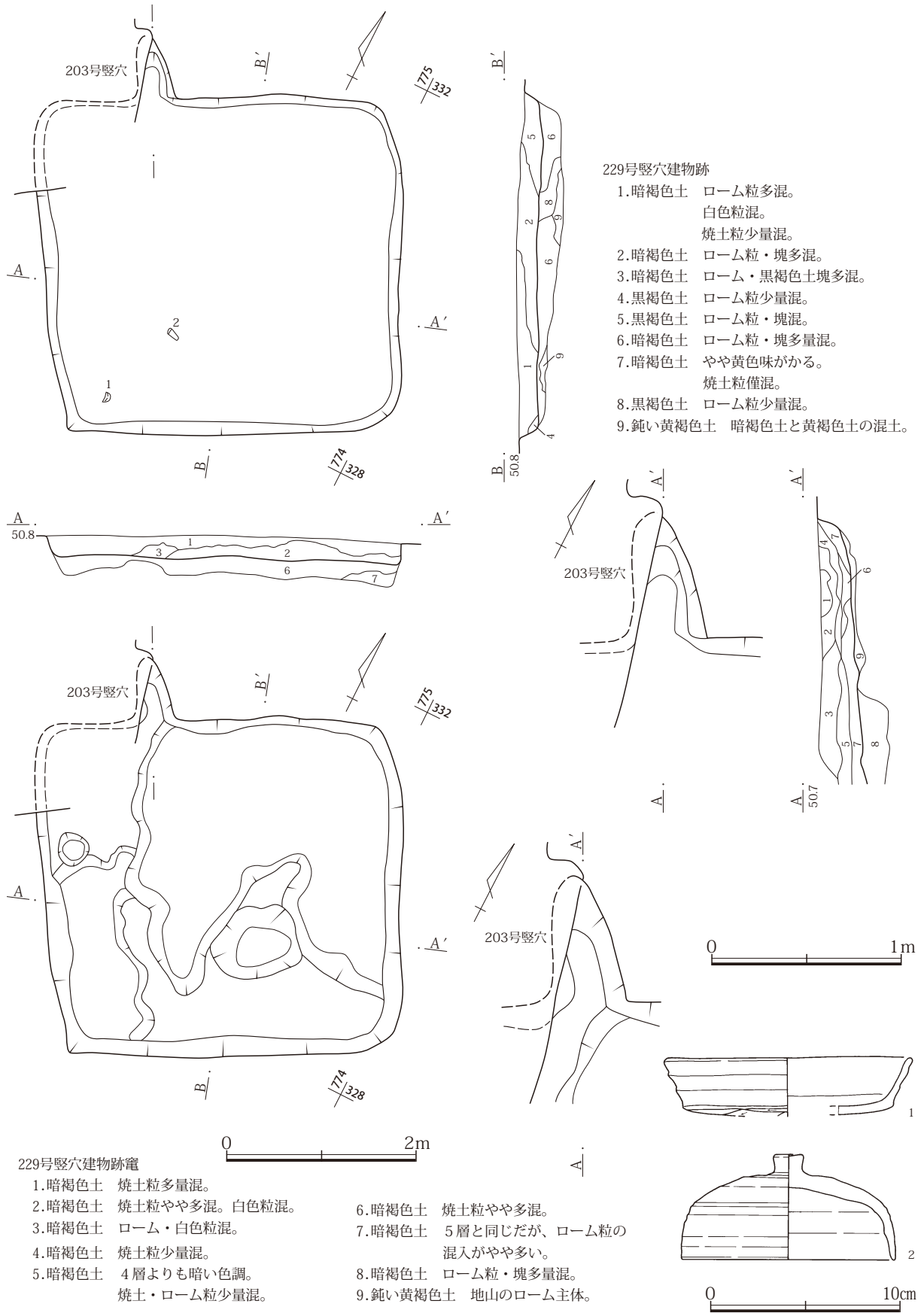
- 226号竪穴建物跡竈
1. 赤色土 焼土。ローム粒混。
  2. 黄褐色土 焼土粒少量混。

- 226号竪穴建物跡
1. 暗褐色土 ローム・焼土粒微量混。
  2. 暗褐色土 ローム塊混。
  3. 黄褐色砂質土 黒褐色土塊混。
  4. 黄褐色土 暗褐色土塊混。

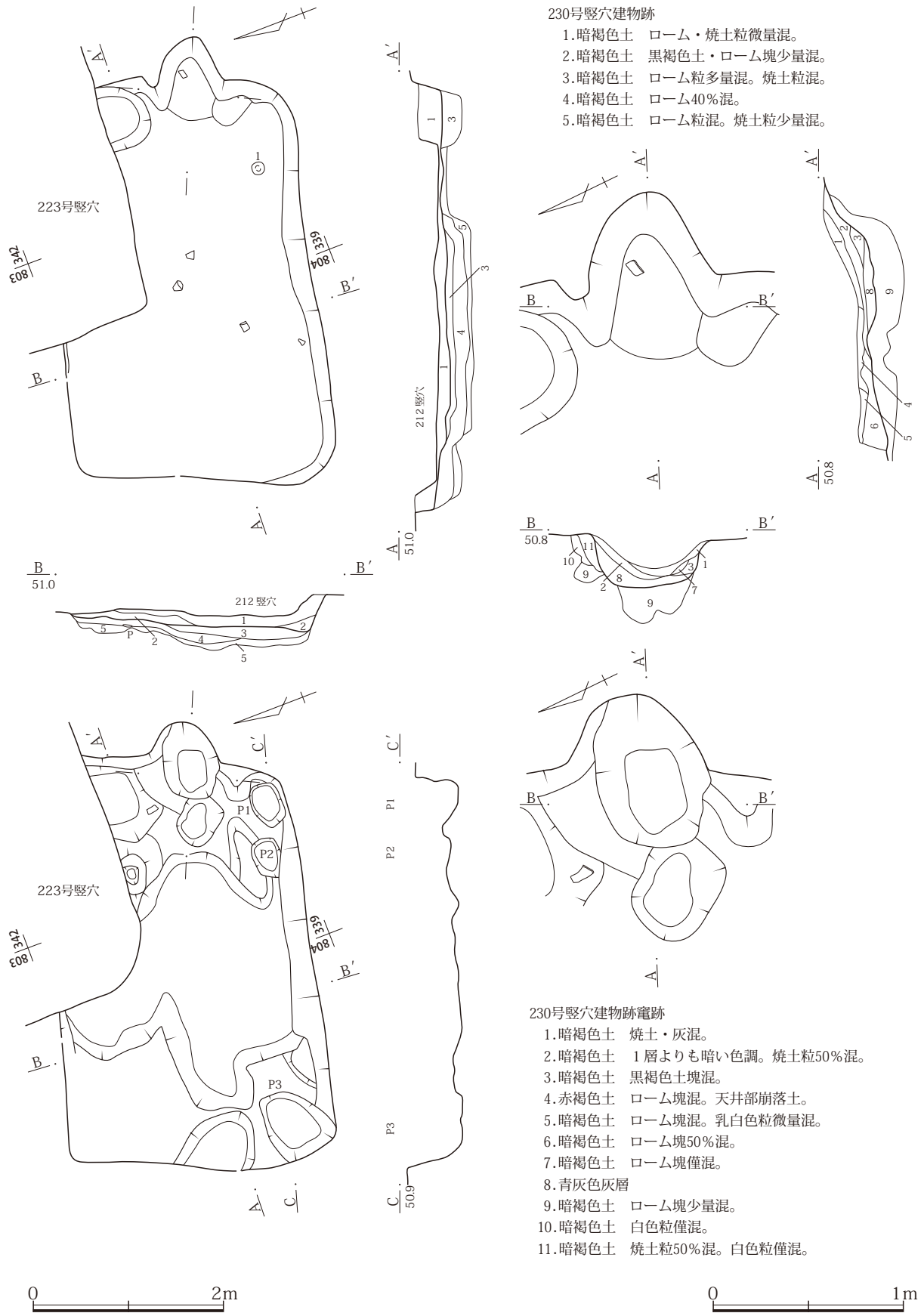
第155図 226号竪穴建物跡・出土遺物



第156図 227号竪穴建物跡・出土遺物

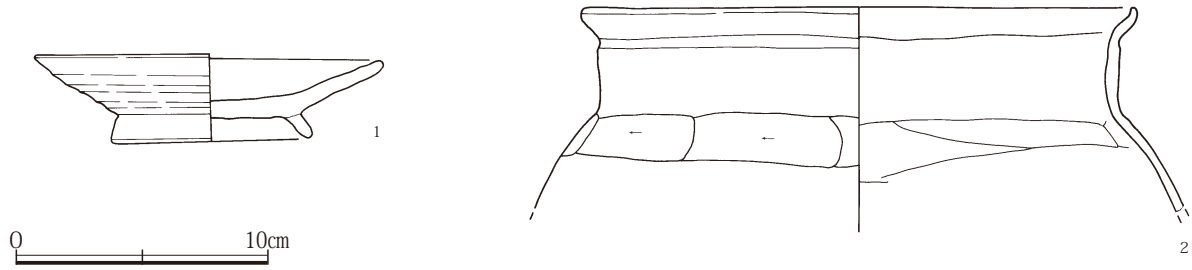


第157図 229号竪穴建物跡・出土遺物



第158図 230号竪穴建物跡





第159図 230号竪穴建物跡出土遺物

較的凹凸激しく大きく掘り込まれている。とくに竈前及び壁際では溝状に深く掘り込まれている。また処々、床下に土坑状の掘り込みもみられ、床下のpitが8基検出された。竈：北壁のほぼ中央に取り付くが、あらかじめ217・226号竪穴建物跡によって破壊されている。燃烧部は地山を削り出して形成され、左袖は建物内に全く張り出さない。貯蔵穴：未検出。柱穴・pit：床面で柱穴とは考えにくい土坑を2基検出している。いずれも楕円形状を呈し、浅い。用途や機能は不明である。土坑1長径0.62m・短径0.52m・深さ0.21m、土坑2長径0.8m・短径0.64m・深さ0.16m。また、先述したように床下のpitが8基検出された。これらのpitも用途は不明である。pit1のみ柱穴様の土層断面を呈するが、対応する柱穴が無く不明である。pit1長径0.4m・短径0.38m・深さ0.22m、pit2長径0.4m・短径0.38m・深さ0.22m、pit3径0.36m・深さ0.2m、pit4長径0.42m・短径0.35m・深さ0.33m、pit5径0.34m・深さ0.16m、pit6長径0.72m・短径0.62m・深さ0.38m、pit7長径0.46m・短径0.34m・深さ0.18m、pit8径0.46m・深さ0.28m。時期：6C後。遺物：埋土中より土師器杯1点出土。

#### (27) 229号竪穴建物跡

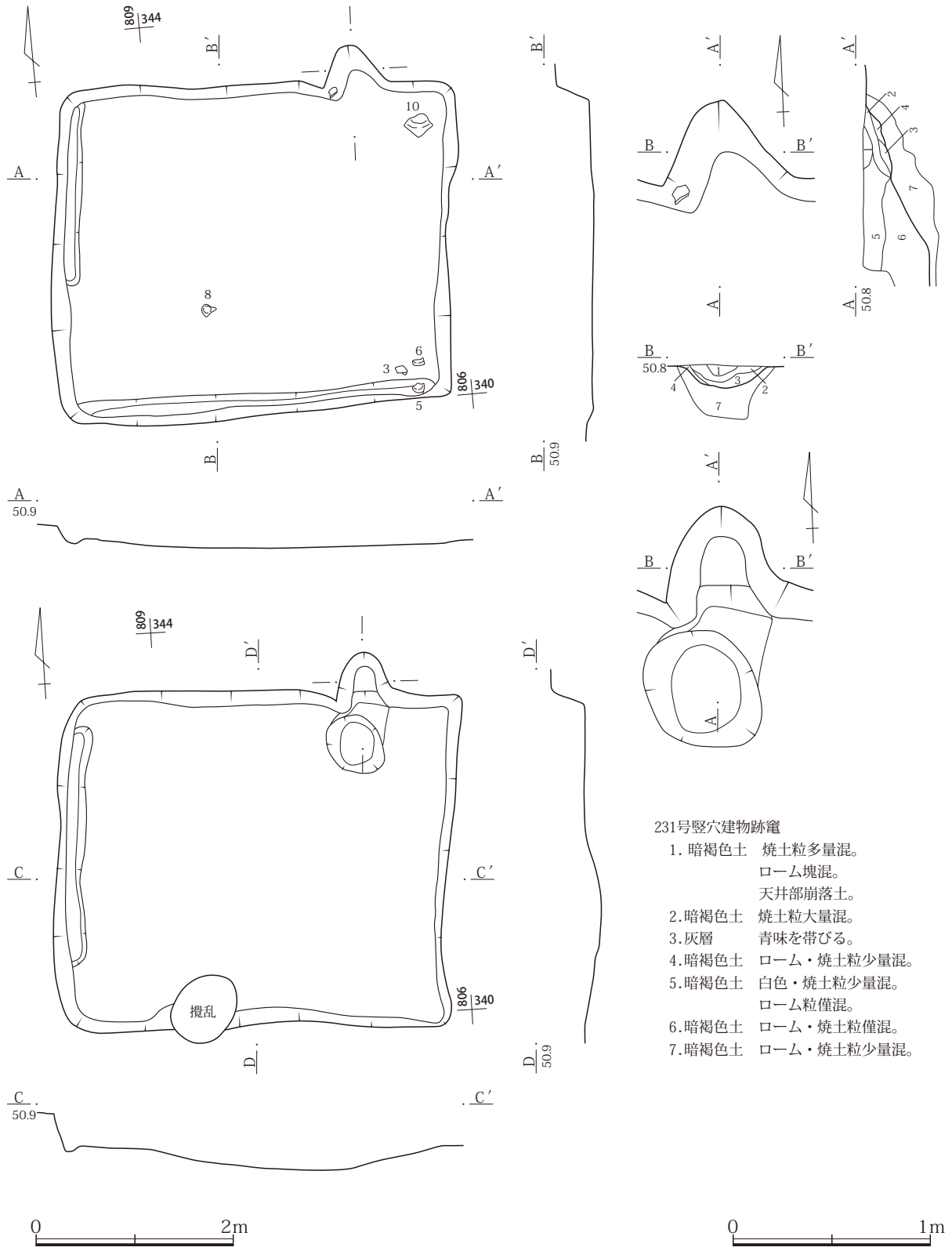
位置：調査区南東隅から若干中央寄り。X325~330・Y-770~775Gr。主軸方位：N-27°-W  
重複：203号竪穴建物跡に掘り込まれる。204・240号竪穴建物跡、2号粘土採掘坑跡を掘り込む。規模と形状：北東-南西方向にやや長い長方形を呈する。長辺3.88m・短辺3.58m・床面までの深さ0.23

m・掘方までの深さは0.48m。埋土：暗褐色土ベース。床面：地山を大きく掘り込んだ上にロームを多量に含んだ暗褐色土で厚く貼床を貼り、硬質な床面を形成している。厚さ約0.25m前後。掘方：全体に凹凸が甚だしく、とくに北東側約1/2が深く掘り窪められている。竈：北西壁のやや南西寄りに造られる。燃烧部及び両袖は地山を削りだして形成され、両袖は建物内にほとんど張り出さない。煙道は顕著には検出できなかった。燃烧部は奥に張り出した位置に形成されている。貯蔵穴：未検出。時期：6C後。遺物：床直より須恵器高杯蓋1、埋土中より須恵器皿1が出土。

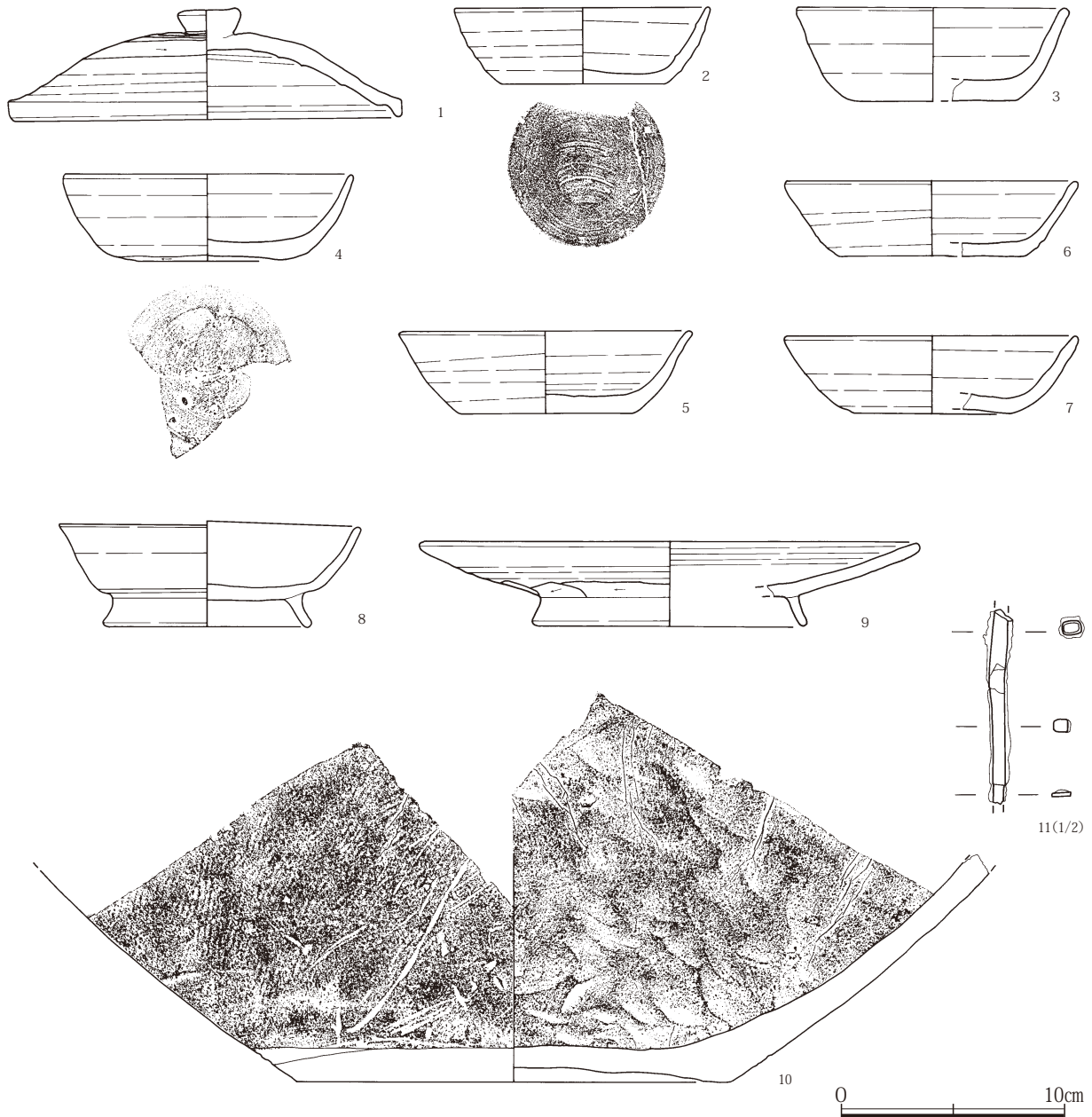
#### (28) 230号竪穴建物跡

位置：調査区中央南寄り。X335~340・Y-800--805Gr。主軸方位：N-112°-E 重複：212・223号竪穴建物跡に掘り込まれる。232・238号竪穴建物跡を掘り込む。規模と形状：上面の大半を212号竪穴建物跡に掘り込まれているため検出状況はあまり良くない。西北西-東南東方向に長い長方形を呈する。3・4区やその南側に隣接する鹿島浦遺跡などで多く検出された、東西に細長く東側に竈が取り付く、所謂工房型と言われる竪穴建物跡に形状がよく類似している。212号竪穴建物跡による破壊は浅かったため、使用面と掘方の約3/5を検出することが出来た。長辺4.24m・短辺2.72m・床面までの深さ0.4m・掘方までの深さ0.52m。埋土：暗褐色土ベース。床面：地山を大きく掘り込んだ上にローム混じりの暗褐色土を貼って平坦面をつくり、硬質な床面を形成している。掘方：全体に凹凸激しく

第3章 発見された遺構と遺物



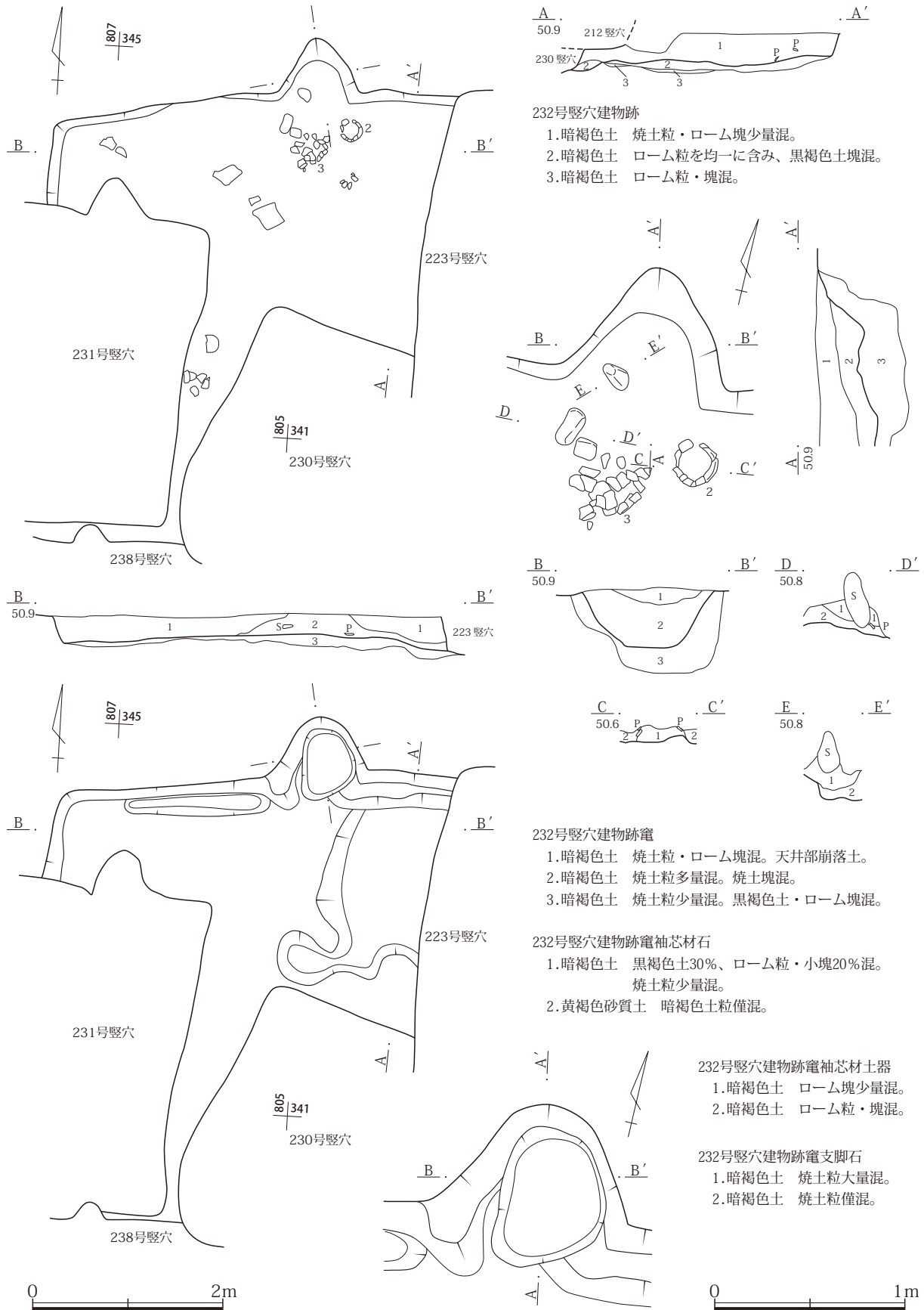
第160図 231号竖穴建物跡



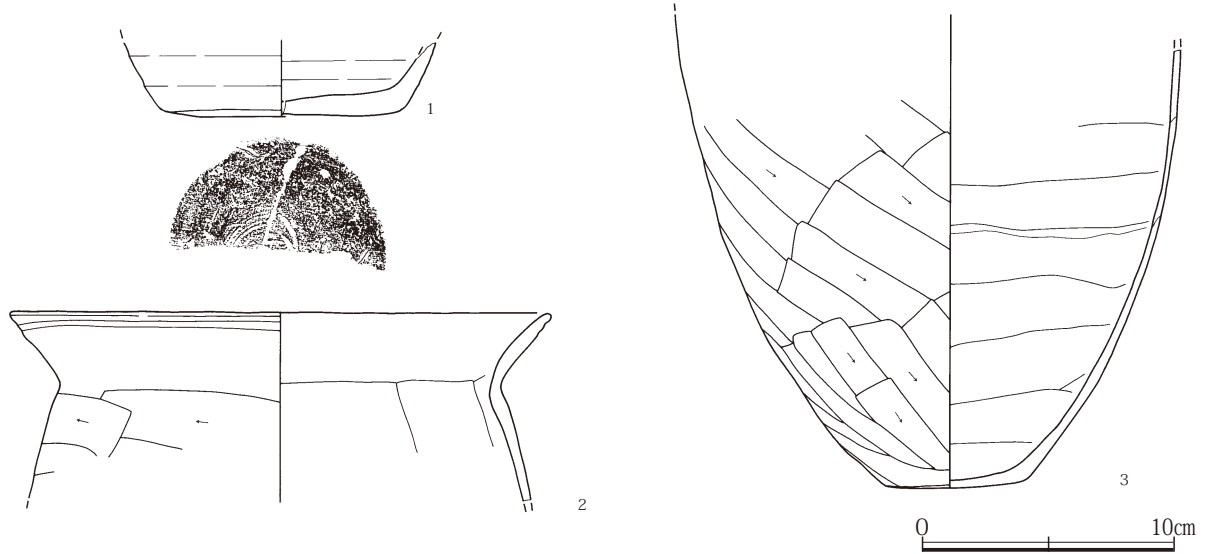
第161図 231号竪穴建物跡出土遺物

大きく掘り込まれており、特に北西・南東の壁際や竈前は土坑状の掘り込みが連続している。床下からpitが3基検出されている。竈：東南壁のほぼ中央に取り付く。燃烧部・両袖は地山を削りだして形成している。煙道は顕著には検出されなかった。両袖は地山を段状に削りだして形成され、建物内にやや張り出す。燃烧部は奥側に形成されている。貯蔵穴：竈の北側で検出されたが北側半分を223号竪

穴建物跡によって完全に破壊されているため詳細は不明である。柱穴・pit：床下から3基のpitが検出された。いずれも南西側壁際で検出されている。pit1長径0.48m・短径0.33m・深さ0.5m、pit2長径0.33m・短径0.3m・深さ0.38m、pit3長径0.78m・短径0.66m・深さ0.57m。時期：9C4。遺物：建物内に散在。床直より須恵器皿（1）、埋土中より土師器甕（2）各1点出土。



第162図 232号竖穴建物跡



第163図 232号竪穴建物跡出土遺物

(29) 231号竪穴建物跡

**位置：**調査区中央南寄り。X340・Y-805～-810Gr.

**主軸方位：**N-5° -E **重複：**211号竪穴建物跡、大道東遺跡で検出された掘立柱建物跡の柱穴によって掘り込まれる。232・238号竪穴建物跡を掘り込む。

**規模と形状：**東西に長い長方形を呈する。長辺4.05m・短辺3.44m・床面までの深さ0.38m・掘方までの深さは0.5m。 **埋土：**暗褐色土ベース。

**床面：**地山を平坦に削りだした上に暗褐色土を平坦に敷いて硬化させ、床面を形成している。床面の厚さは約0.12m前後。 **周溝：**西壁際の一部と南壁全域で検出された。最大上幅0.2m・最大下幅0.12m・深さ0.04m。 **掘方：**全体的にほぼ平坦に削り出されている。竈焚口部前は土坑状に一段深く掘り窪められている。 **竈：**北壁の東寄りの位置に取り付く。燃焼部・両袖は地山を削りだして形成している。煙道は顕著には確認出来なかった。両袖は建物内に全く張り出さない。燃焼部は壁とほぼ同位置に形成される。小規模である。 **貯蔵穴：**なし。 **時期：**8C4～9C1。 **遺物：**竈周囲と建物南東隅から比較的まとまって出土している。床直からは須恵器杯3(3・6・8)、他はいずれも埋土中からの出土。

(30) 232号竪穴建物跡

**位置：**調査区中央南寄り。X340-345・Y-800～-805Gr. **主軸方位：**N-3° -W **重複：**212・223・230・231・238号竪穴建物跡、1023号土坑跡によって掘り込まれる。62号掘立柱建物跡、1039・1040号土坑跡を掘り込む。 **規模と形状：**方形状を呈するものと思われる。長辺(4.85)m・短辺(4)m・床面までの深さ0.28m・掘方までの深さは0.44m。 **埋土：**暗褐色土ベース。 **床面：**地山をやや凹凸激しく掘り込んだ上に、ローム粒・塊を含んだ暗褐色土を平坦に敷いて硬化させ、床面を形成している。床面の厚さは約0.16m前後。 **掘方：**比較的凹凸に富んだ掘方。北壁際の竈の両側が周溝状に、また北東隅から約1/4が広範囲に一段深く掘り窪められている。 **竈：**北壁のほぼ中央に取り付く。燃焼部は地山を削りだして形成している。煙道は顕著には確認出来なかった。両袖は石材に粘土等を貼り付けて形成されたものと考えられるが、左袖芯材の石が検出できた程度で、完全に破壊されており詳細は不明である。燃焼部は奥に若干張り出して形成される。小規模である。 **貯蔵穴：**未検出。 **時期：**8C前。 **遺物：**竈炊き口付近からまとまって出土。竈にかけられていた甕か。

**規模と形状：**方形状を呈するものと思われる。長辺(4.85)m・短辺(4)m・床面までの深さ0.28m・掘方までの深さは0.44m。

**埋土：**暗褐色土ベース。 **床面：**地山をやや凹凸激しく掘り込んだ上に、ローム粒・塊を含んだ暗褐色土を平坦に敷いて硬化させ、床面を形成している。床面の厚さは約0.16m前後。 **掘方：**比較的凹凸に富んだ掘方。北壁際の竈の両側が周溝状に、また北東隅から約1/4が広範囲に一段深く掘り窪められている。 **竈：**北壁のほぼ中央に取り付く。燃焼部は地山を削りだして形成している。煙道は顕著には確認出来なかった。両袖は石材に粘土等を貼り付けて形成されたものと考えられるが、左袖芯材の石が検出できた程度で、完全に破壊されており詳細は不明である。燃焼部は奥に若干張り出して形成される。小規模である。 **貯蔵穴：**未検出。 **時期：**8C前。 **遺物：**竈炊き口付近からまとまって出土。竈にかけられていた甕か。

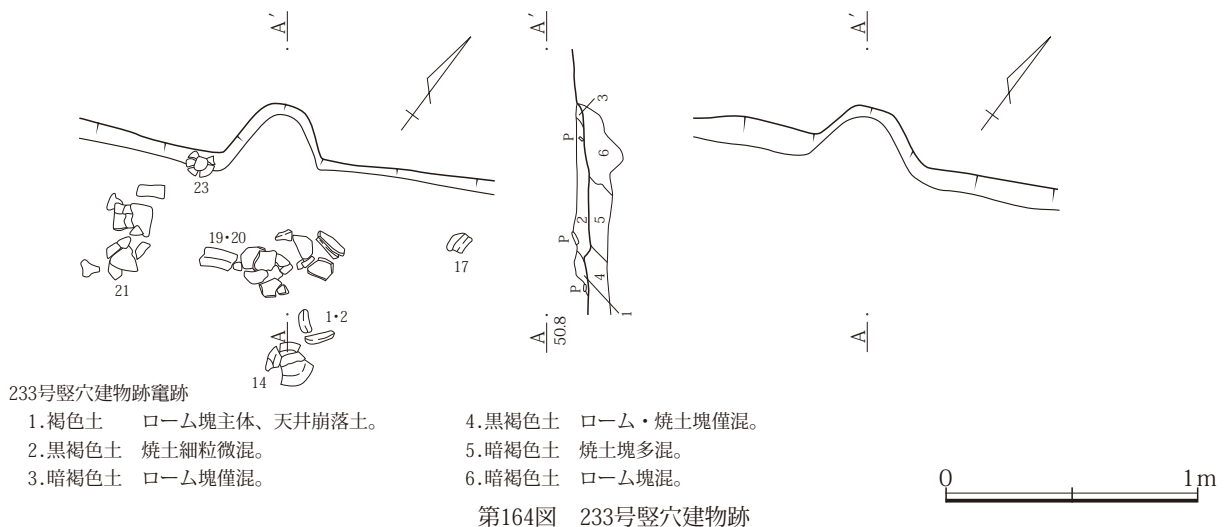
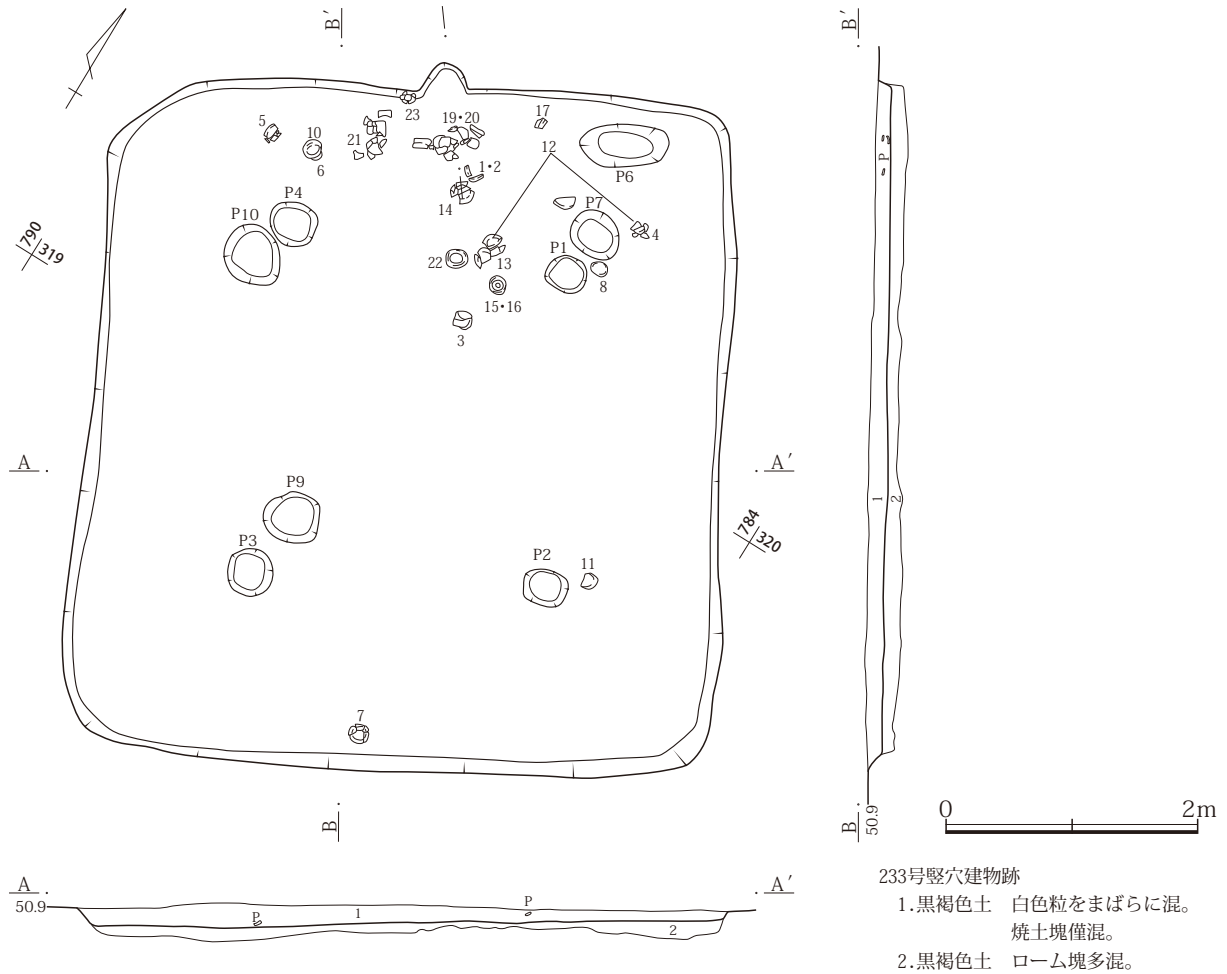
**埋土：**暗褐色土ベース。 **床面：**地山をやや凹凸激しく掘り込んだ上に、ローム粒・塊を含んだ暗褐色土を平坦に敷いて硬化させ、床面を形成している。床面の厚さは約0.16m前後。 **掘方：**比較的凹凸に富んだ掘方。北壁際の竈の両側が周溝状に、また北東隅から約1/4が広範囲に一段深く掘り窪められている。 **竈：**北壁のほぼ中央に取り付く。燃焼部は地山を削りだして形成している。煙道は顕著には確認出来なかった。両袖は石材に粘土等を貼り付けて形成されたものと考えられるが、左袖芯材の石が検出できた程度で、完全に破壊されており詳細は不明である。燃焼部は奥に若干張り出して形成される。小規模である。 **貯蔵穴：**未検出。 **時期：**8C前。 **遺物：**竈炊き口付近からまとまって出土。竈にかけられていた甕か。

**埋土：**暗褐色土ベース。 **床面：**地山をやや凹凸激しく掘り込んだ上に、ローム粒・塊を含んだ暗褐色土を平坦に敷いて硬化させ、床面を形成している。床面の厚さは約0.16m前後。 **掘方：**比較的凹凸に富んだ掘方。北壁際の竈の両側が周溝状に、また北東隅から約1/4が広範囲に一段深く掘り窪められている。 **竈：**北壁のほぼ中央に取り付く。燃焼部は地山を削りだして形成している。煙道は顕著には確認出来なかった。両袖は石材に粘土等を貼り付けて形成されたものと考えられるが、左袖芯材の石が検出できた程度で、完全に破壊されており詳細は不明である。燃焼部は奥に若干張り出して形成される。小規模である。 **貯蔵穴：**未検出。 **時期：**8C前。 **遺物：**竈炊き口付近からまとまって出土。竈にかけられていた甕か。

**埋土：**暗褐色土ベース。 **床面：**地山をやや凹凸激しく掘り込んだ上に、ローム粒・塊を含んだ暗褐色土を平坦に敷いて硬化させ、床面を形成している。床面の厚さは約0.16m前後。 **掘方：**比較的凹凸に富んだ掘方。北壁際の竈の両側が周溝状に、また北東隅から約1/4が広範囲に一段深く掘り窪められている。 **竈：**北壁のほぼ中央に取り付く。燃焼部は地山を削りだして形成している。煙道は顕著には確認出来なかった。両袖は石材に粘土等を貼り付けて形成されたものと考えられるが、左袖芯材の石が検出できた程度で、完全に破壊されており詳細は不明である。燃焼部は奥に若干張り出して形成される。小規模である。 **貯蔵穴：**未検出。 **時期：**8C前。 **遺物：**竈炊き口付近からまとまって出土。竈にかけられていた甕か。

**埋土：**暗褐色土ベース。 **床面：**地山をやや凹凸激しく掘り込んだ上に、ローム粒・塊を含んだ暗褐色土を平坦に敷いて硬化させ、床面を形成している。床面の厚さは約0.16m前後。 **掘方：**比較的凹凸に富んだ掘方。北壁際の竈の両側が周溝状に、また北東隅から約1/4が広範囲に一段深く掘り窪められている。 **竈：**北壁のほぼ中央に取り付く。燃焼部は地山を削りだして形成している。煙道は顕著には確認出来なかった。両袖は石材に粘土等を貼り付けて形成されたものと考えられるが、左袖芯材の石が検出できた程度で、完全に破壊されており詳細は不明である。燃焼部は奥に若干張り出して形成される。小規模である。 **貯蔵穴：**未検出。 **時期：**8C前。 **遺物：**竈炊き口付近からまとまって出土。竈にかけられていた甕か。

第3章 発見された遺構と遺物

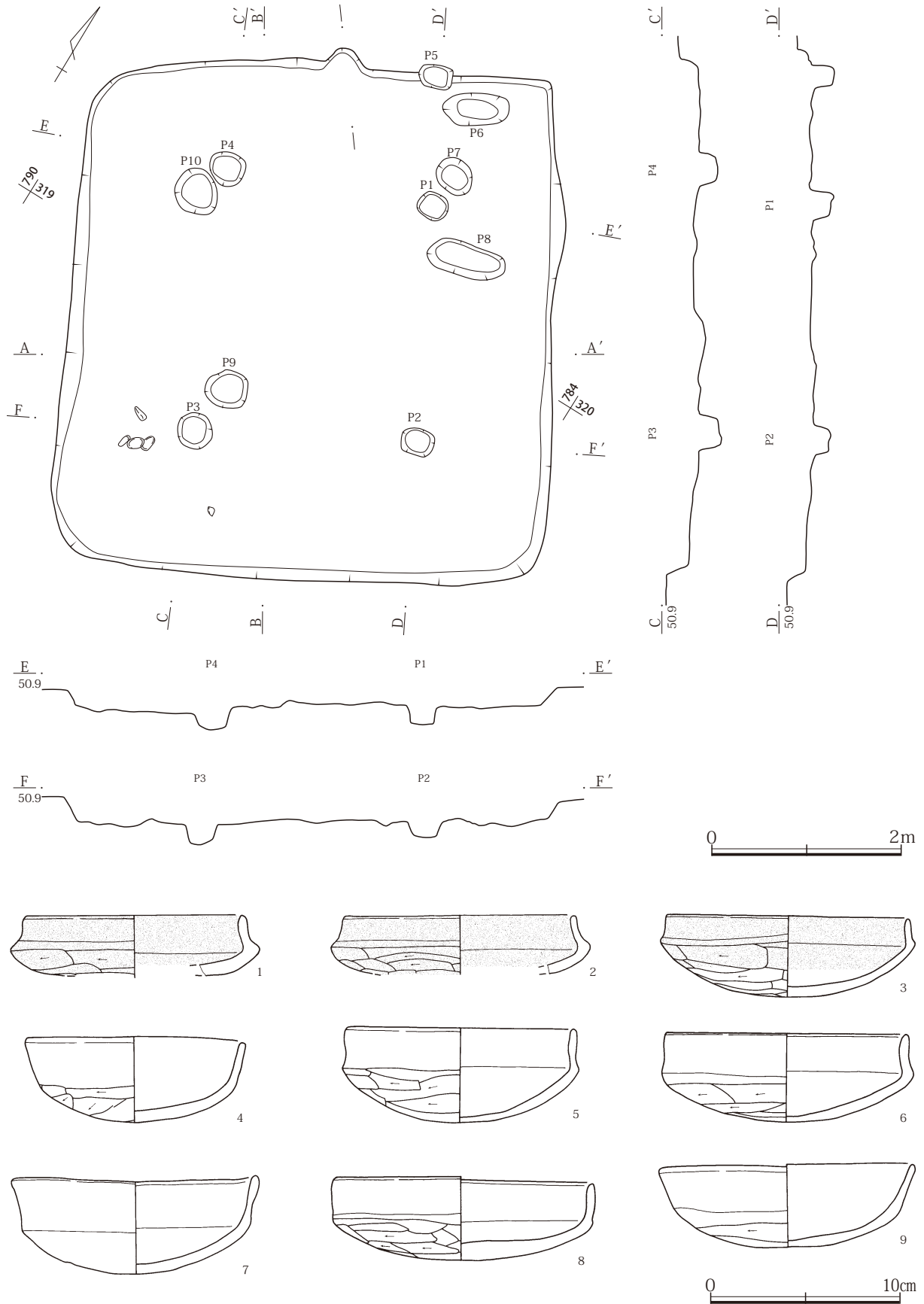


第164図 233号竪穴建物跡

(31) 233号竪穴建物跡

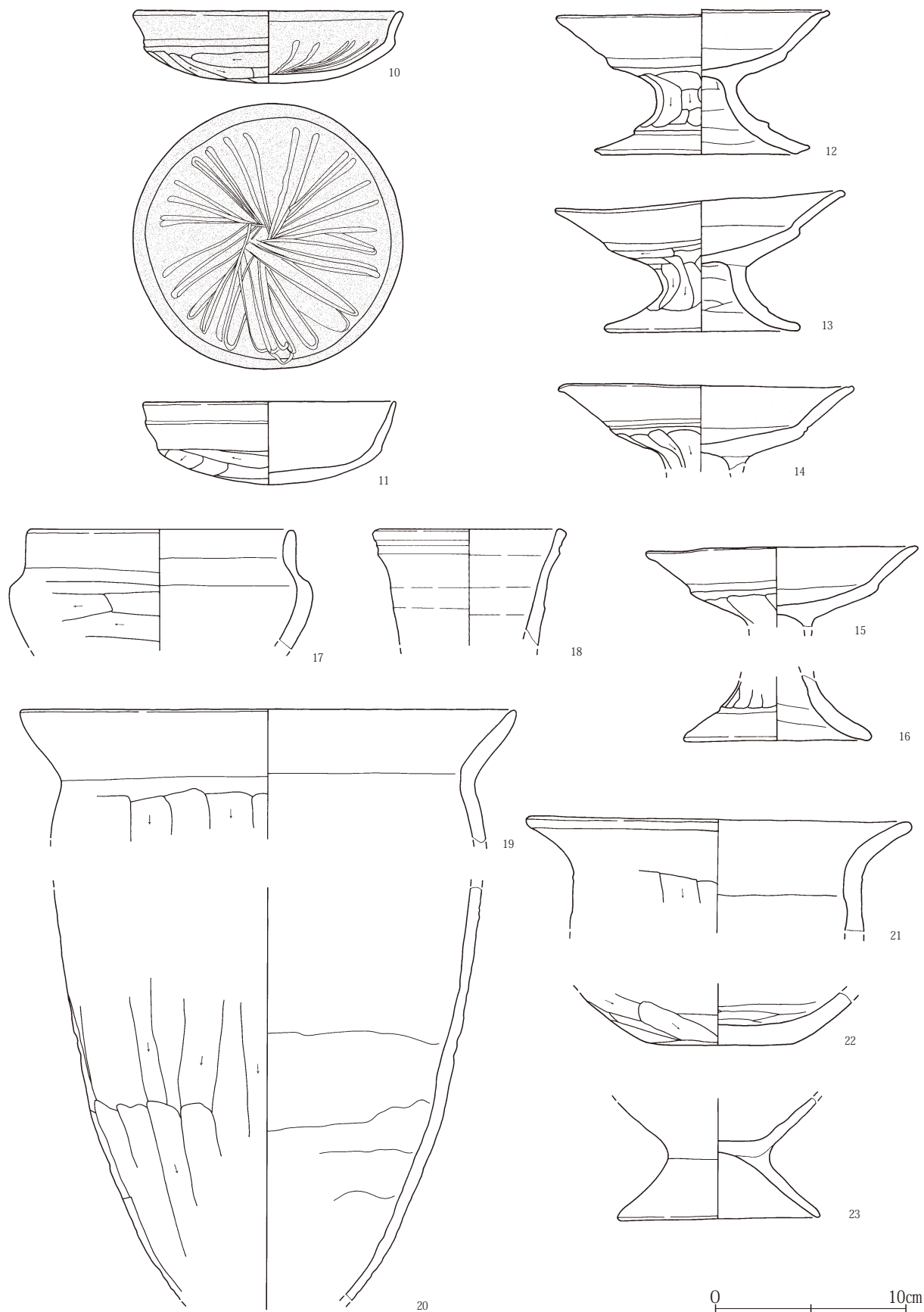
**位置：**調査区の南西壁際。X315~320・Y-780~785Gr. **主軸方位：**N-29° -W **重複：**55号掘立柱建物跡に北東隅を掘り込まれる。 **規模と形状：**本竪穴建物跡のように北側に竈が造られる竪穴建物跡

は、1区以外では4区1号竪穴建物跡のみであり、1区に集中している。北西-南東方向に若干長い長方形を呈する。長辺5.44m・短辺5.2m・床面までの深さ0.21m・掘方までの深さは0.31m。 **埋土：**黒褐色土ベース。 **床面：**地山をほぼ平坦に掘



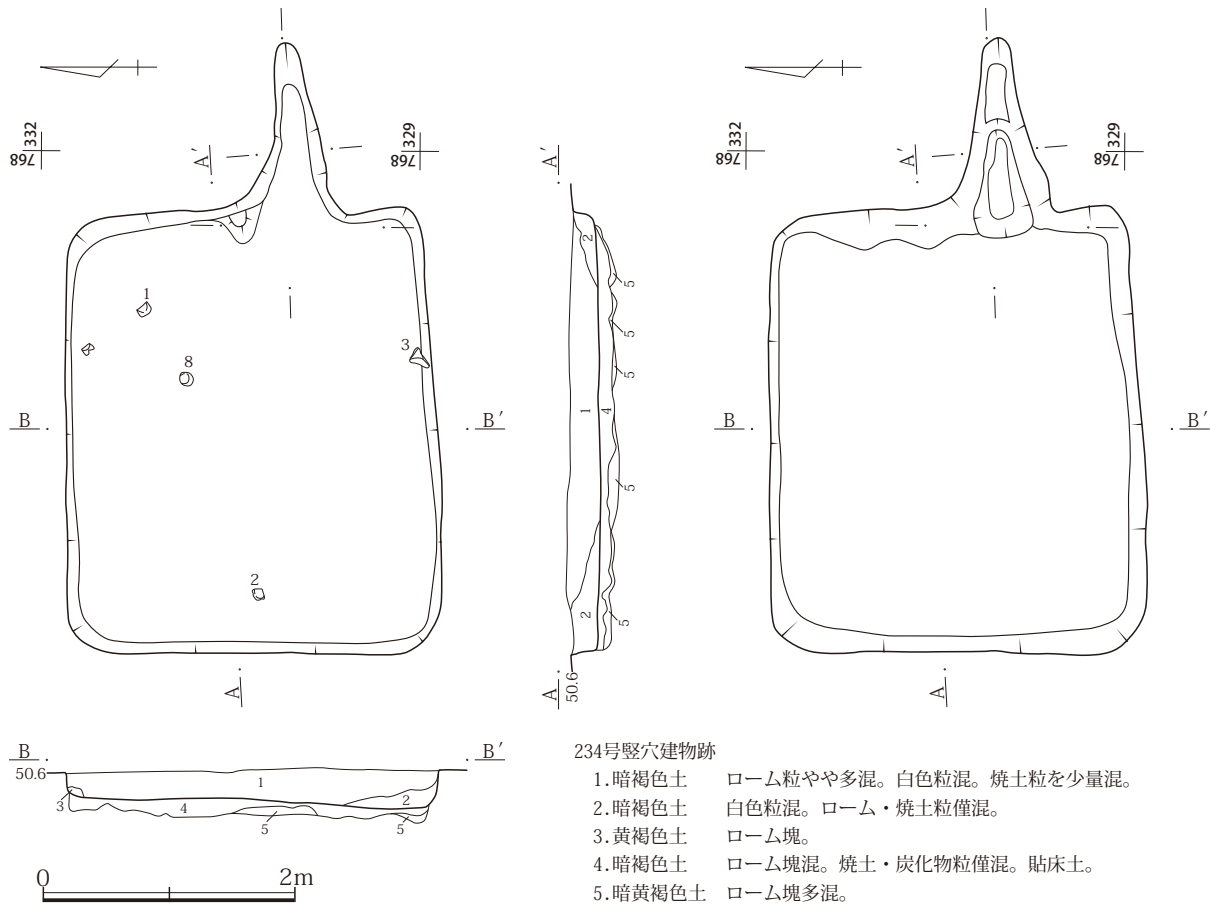
第165図 233号竖穴建物跡掘方・出土遺物(1)

第3章 発見された遺構と遺物



第166図 233号竪穴建物跡出土遺物（2）





第167図 234号竪穴建物跡

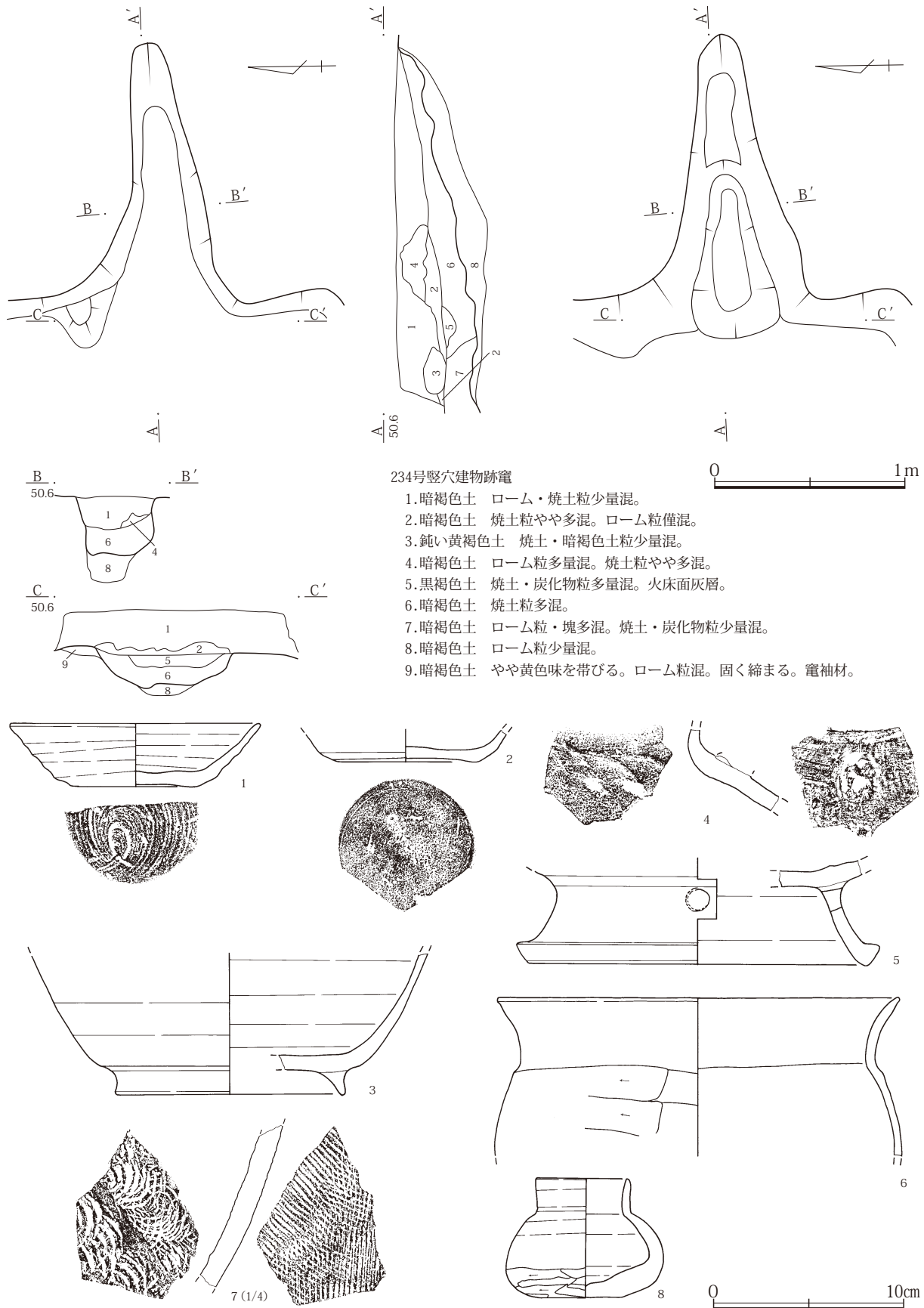
り込んだ上に、ローム塊を多く含む黒褐色土を貼り硬質な床面を形成している。厚さ0.1m前後。掘方：全体的に凹凸もあまり顕著ではなく比較的平坦に掘り込まれている。床下のpitが2基検出された。

竈：北東壁のほぼ中央に取り付く。燃烧部・両袖は粘土等によって構築される。煙道はあまり顕著には検出されなかった。両袖は建物内に全く張り出さず、燃烧部は壁とほぼ同位置から若干奥に形成される。小規模である。貯蔵穴：pit6北東-南西方向に長い楕円形状を呈し、長径0.7m・短径0.36m・深さ0.25m。柱穴・pit：柱穴は4隅で検出され、東隅の柱穴以外は建て替えがなされている。新旧関係は不明である。pit1径0.4m・深さ0.22m、pit2長径0.35m・短径0.3m・深さ0.2m、pit3径0.4m・深さ0.24m、pit4長径0.4m・短径0.37m・深さ0.2m、pit5(床下土坑)長径0.36m・短径0.26m・深さ0.22m、pit7長径0.44m・短径0.36m・深さ0.1m、

pit8(床下土坑)長径0.84m・短径0.37m・深さ0.2m、pit9長径0.45m・短径0.45m・深さ0.26m、pit10長径0.5m・短径0.44m・深さ0.15m。時期：7C前。遺物：竈炊き口周囲から比較的まとまって出土。床直から土師器杯8(1~4・6・8・10・11)、同高杯5(12~16)、同甕2(21・22)とまとまっているところも特徴の一つである。

### (32) 234号竪穴建物跡

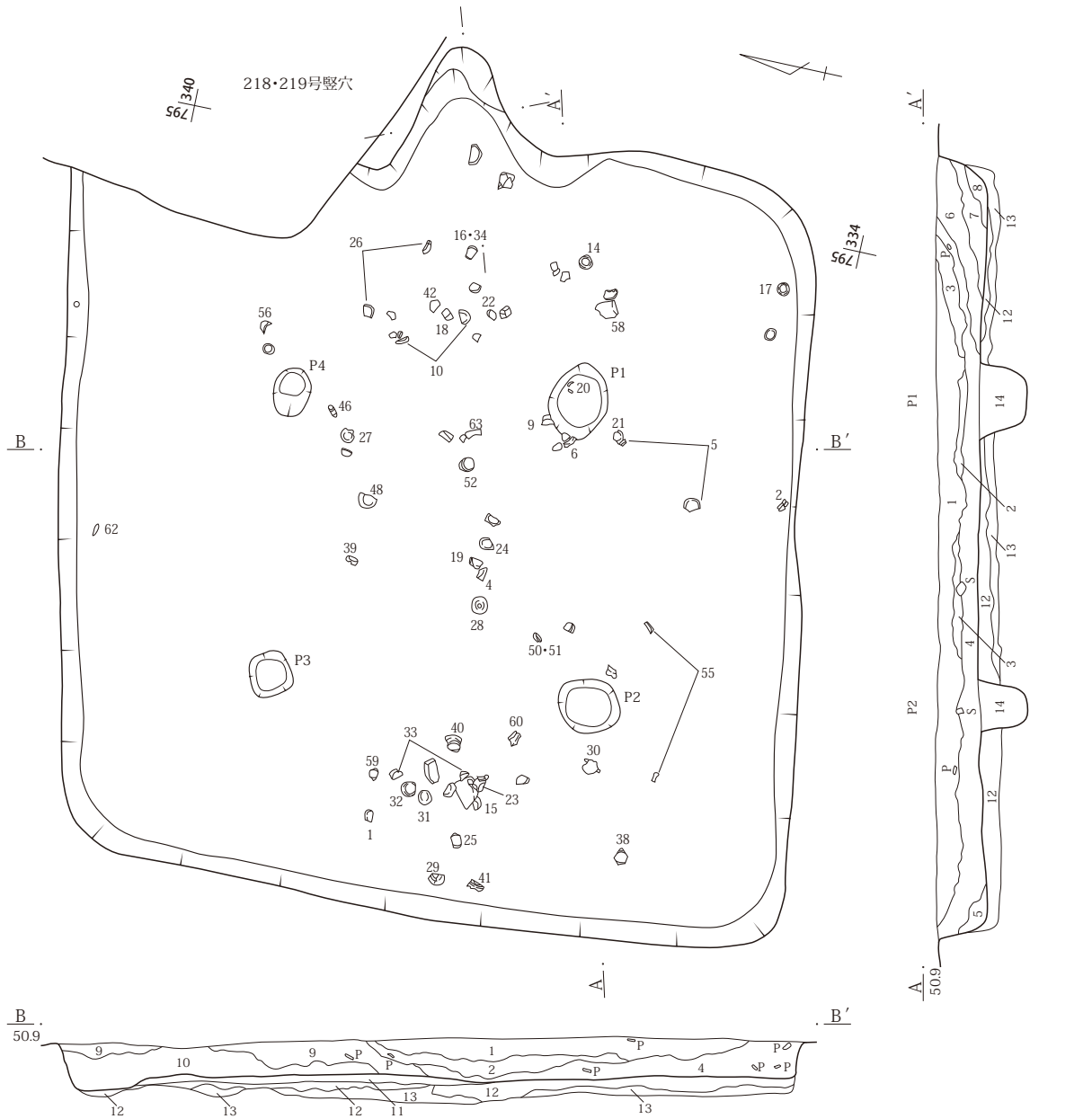
位置：調査区の東壁寄り。X325~330・Y-765~-770Gr. 主軸方位：N-87° -E 重複：240号竪穴建物跡、2号粘土採掘坑跡、1076・1078号pitを掘り込む。規模と形状：東西に長い長方形を呈する。3・4区やその南側に隣接する鹿島浦遺跡などで多く検出された、東西に細長く東側に竈が取り付く、所謂工房型と言われる竪穴建物跡に形状がよく類似している。長辺3.55m・短辺2.96m・床面までの深



234号竪穴建物跡竈

1. 暗褐色土 ローム・焼土粒少量混。
2. 暗褐色土 焼土粒やや多混。ローム粒僅混。
3. 鈍い黄褐色土 焼土・暗褐色土粒少量混。
4. 暗褐色土 ローム粒多量混。焼土粒やや多混。
5. 黒褐色土 焼土・炭化物粒多量混。火床面灰層。
6. 暗褐色土 焼土粒多混。
7. 暗褐色土 ローム粒・塊多混。焼土・炭化物粒少量混。
8. 暗褐色土 ローム粒少量混。
9. 暗褐色土 やや黄色味を帯びる。ローム粒混。固く締まる。竈袖材。

第168図 234号竪穴建物跡竈・出土遺物

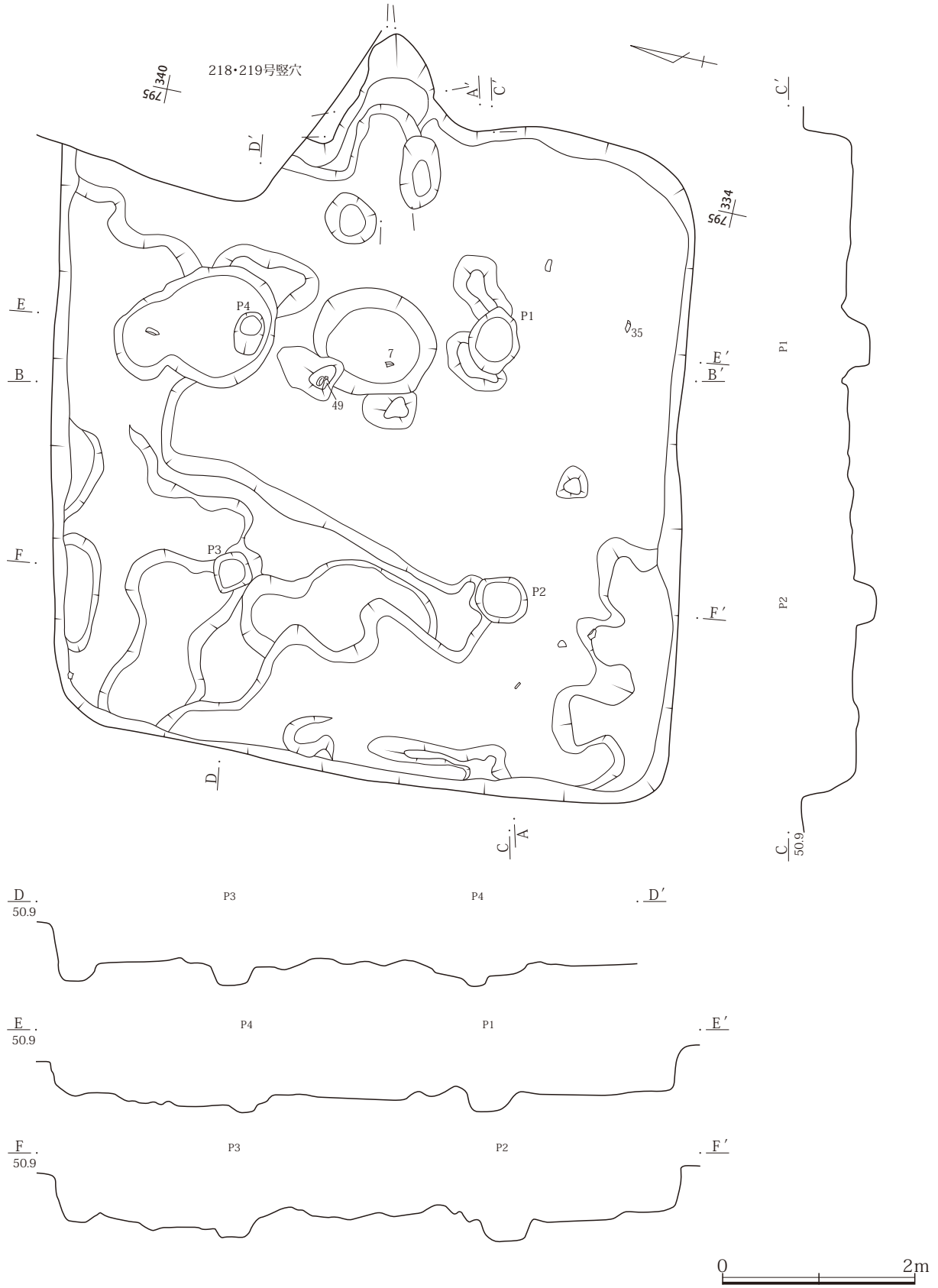


235号竪穴建物跡

- |  |  |
|--|--|
| <p>1. 暗褐色土 焼土粒やや多混。炭化物粒少量混。白色粒混。</p> <p>2. 暗褐色土 灰を含みやや黒ずむ。炭化物多混。焼土粒少量混。</p> <p>3. 暗褐色土 焼土粒多量混。ローム・炭化物粒やや多混。</p> <p>4. 暗褐色土 焼土・炭化物・ローム粒少量混。</p> <p>5. 暗褐色土 やや暗い。ローム粒僅混。</p> <p>6. 暗褐色土 やや黄褐色味を帯びる。焼土・ローム粒やや多混。</p> <p>7. 暗褐色土 やや黄褐色味を帯びる。焼土・ローム細粒少量混。</p> | <p>8. 暗褐色土 やや黄褐色味を帯びる。ローム粒をやや多混。焼土粒少量混。</p> <p>9. 暗褐色土 ローム粒・塊やや多混。白色粒混。焼土・炭化物粒少量混。</p> <p>10. 暗褐色土 ローム・焼土粒僅混。</p> <p>11. 暗褐色土 ローム粒・塊が層状に連なり多混。焼土粒少量混。上面に部分的に灰層が広がる箇所がある。後から張り直した貼床土。</p> <p>12. 暗褐色土 ローム塊少量混。当初の貼床土。</p> <p>13. 暗褐色土 ローム塊混。焼土細粒僅混。</p> <p>14. 暗褐色土 ローム粒・塊多混。</p> |
|--|--|

0 2m

第169図 235号竪穴建物跡

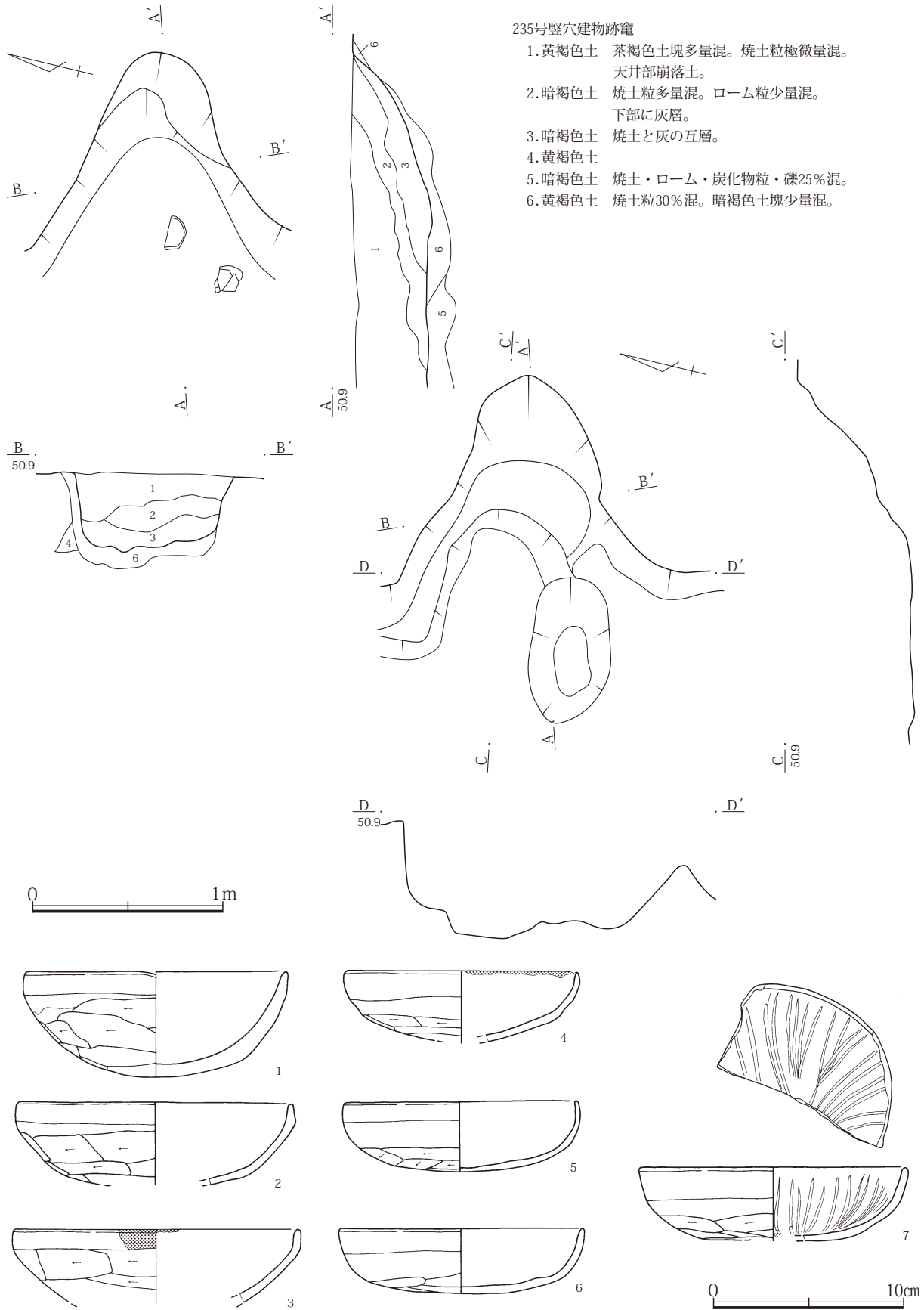


第170図 235号竖穴建物跡掘方

第2節 古墳時代後期～平安時代の遺構と遺物

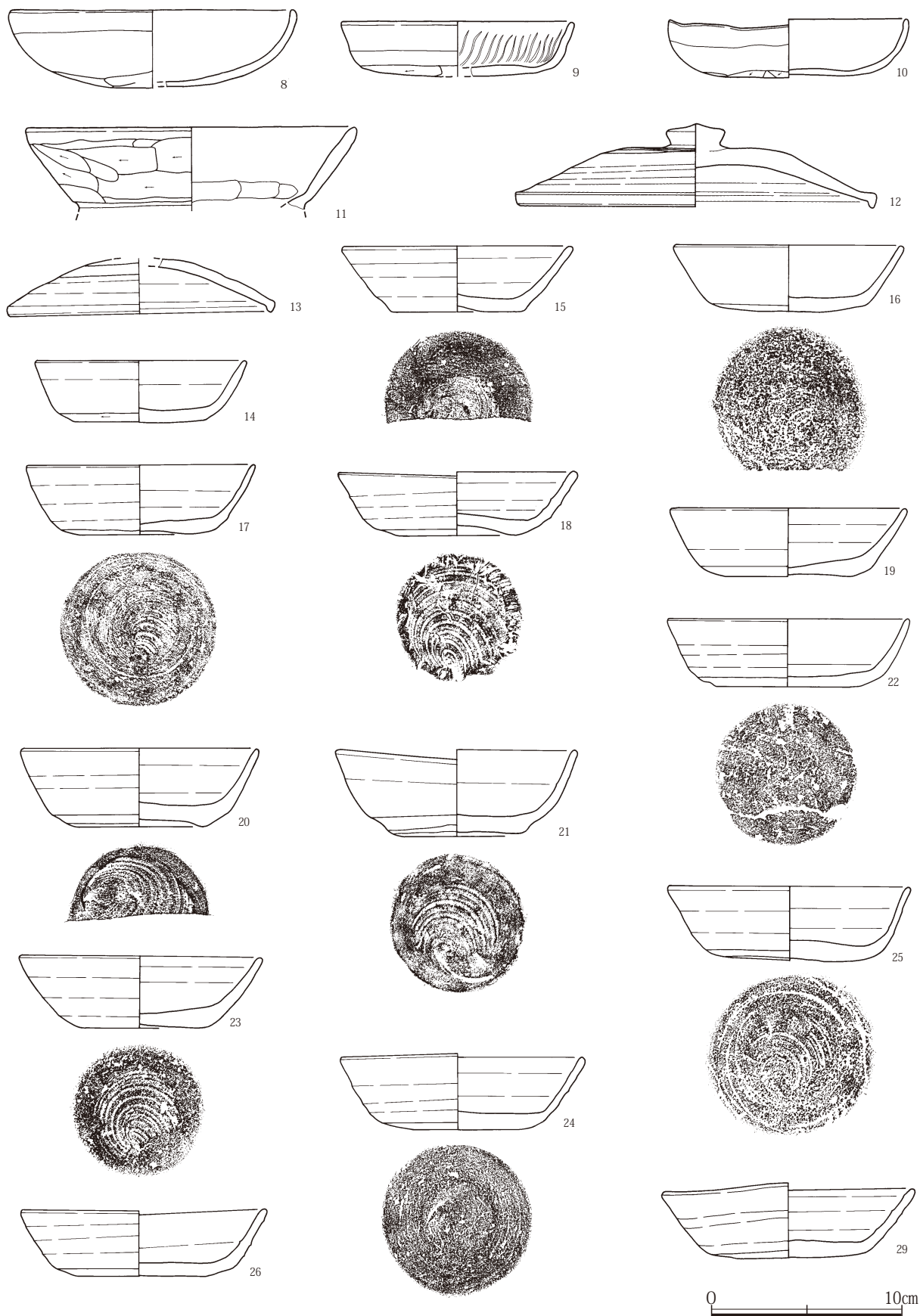
235号竪穴建物跡竈

1. 黄褐色土 茶褐色土塊多量混。焼土粒極微量混。  
天井部崩落土。
2. 暗褐色土 焼土粒多量混。ローム粒少量混。  
下部に灰層。
3. 暗褐色土 焼土と灰の互層。
4. 黄褐色土
5. 暗褐色土 焼土・ローム・炭化物粒・礫25%混。
6. 黄褐色土 焼土粒30%混。暗褐色土塊少量混。

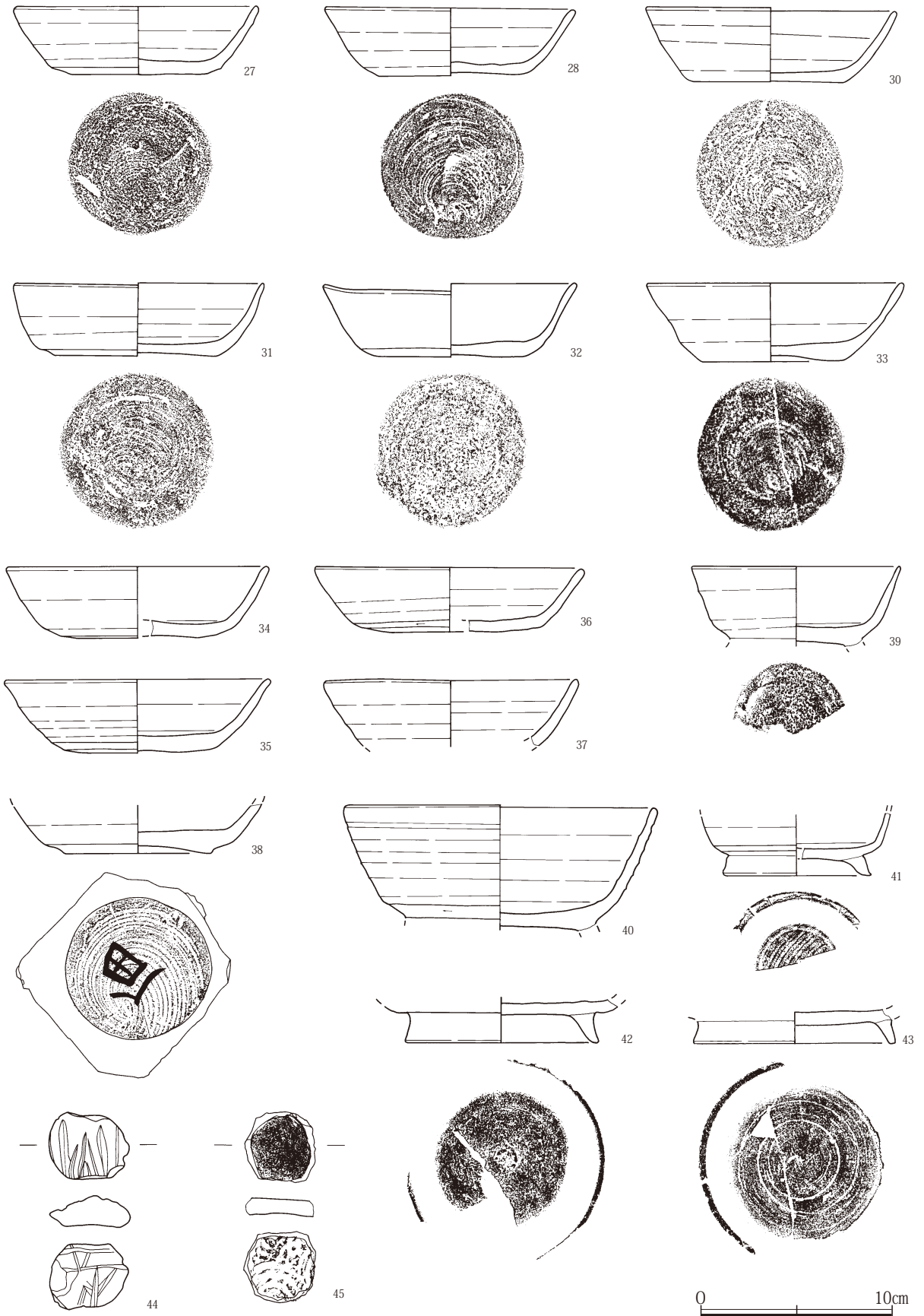


第171図 235号竪穴建物跡竈・出土遺物（1）

第3章 発見された遺構と遺物

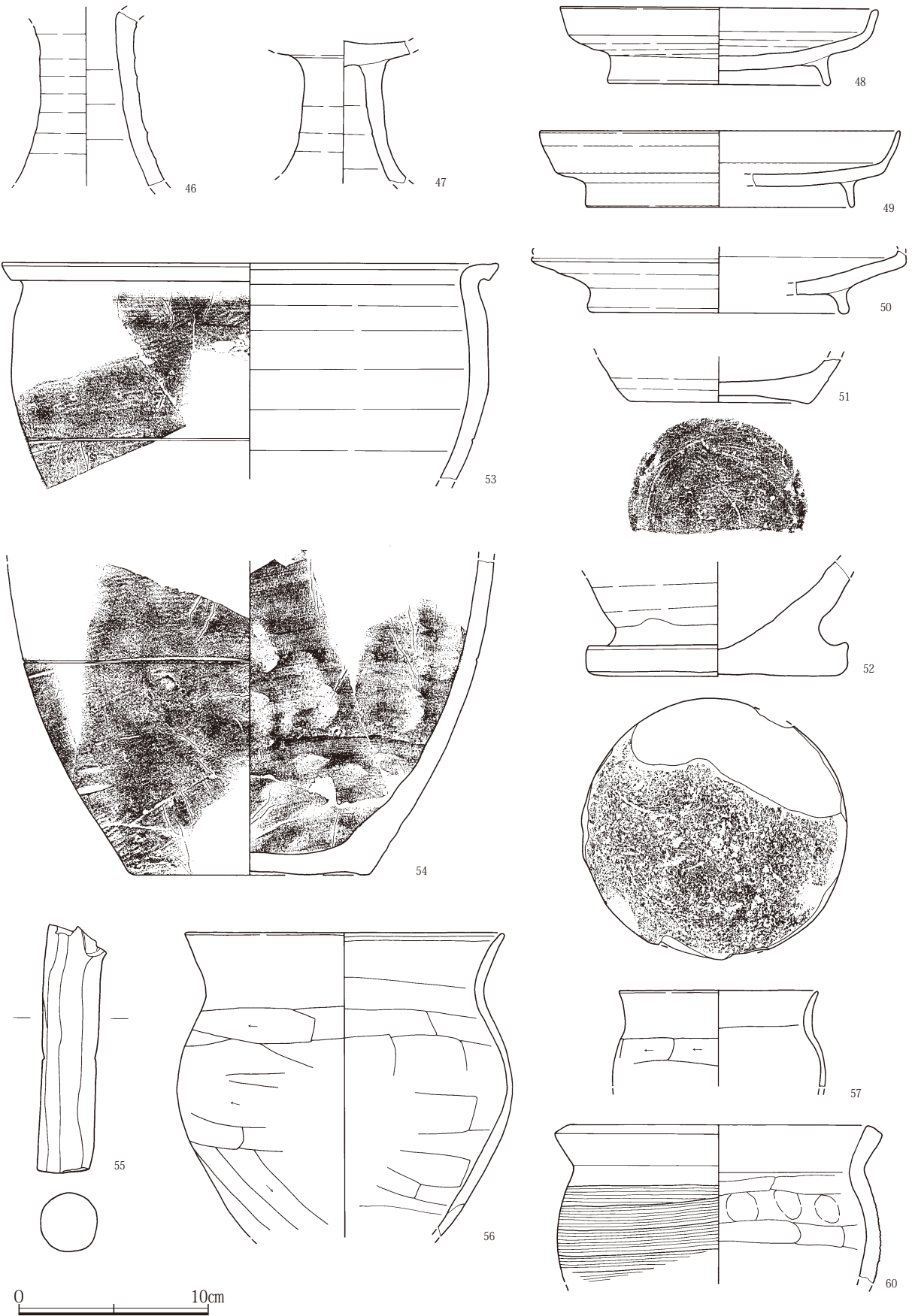


第172図 235号竪穴建物跡出土遺物（2）



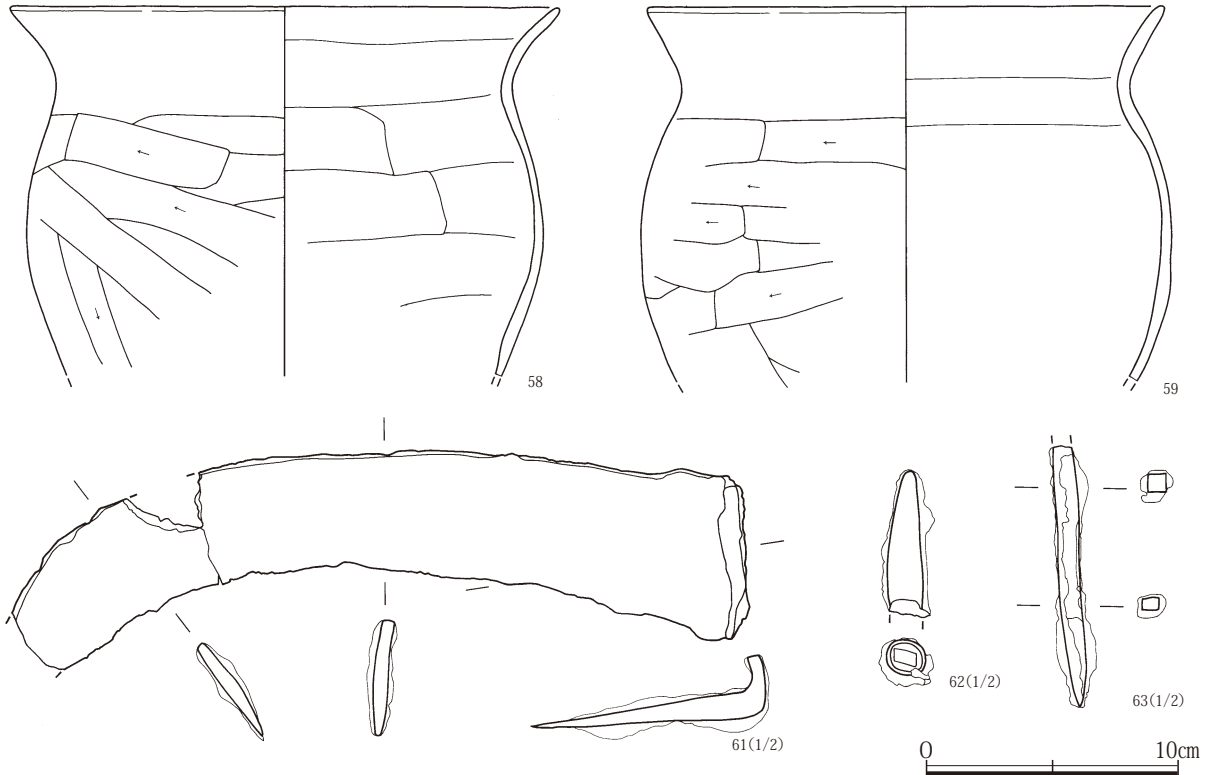
第173図 235号竪穴建物跡出土遺物（3）

第3章 発見された遺構と遺物



第174図 235号竪穴建物跡出土遺物（4）





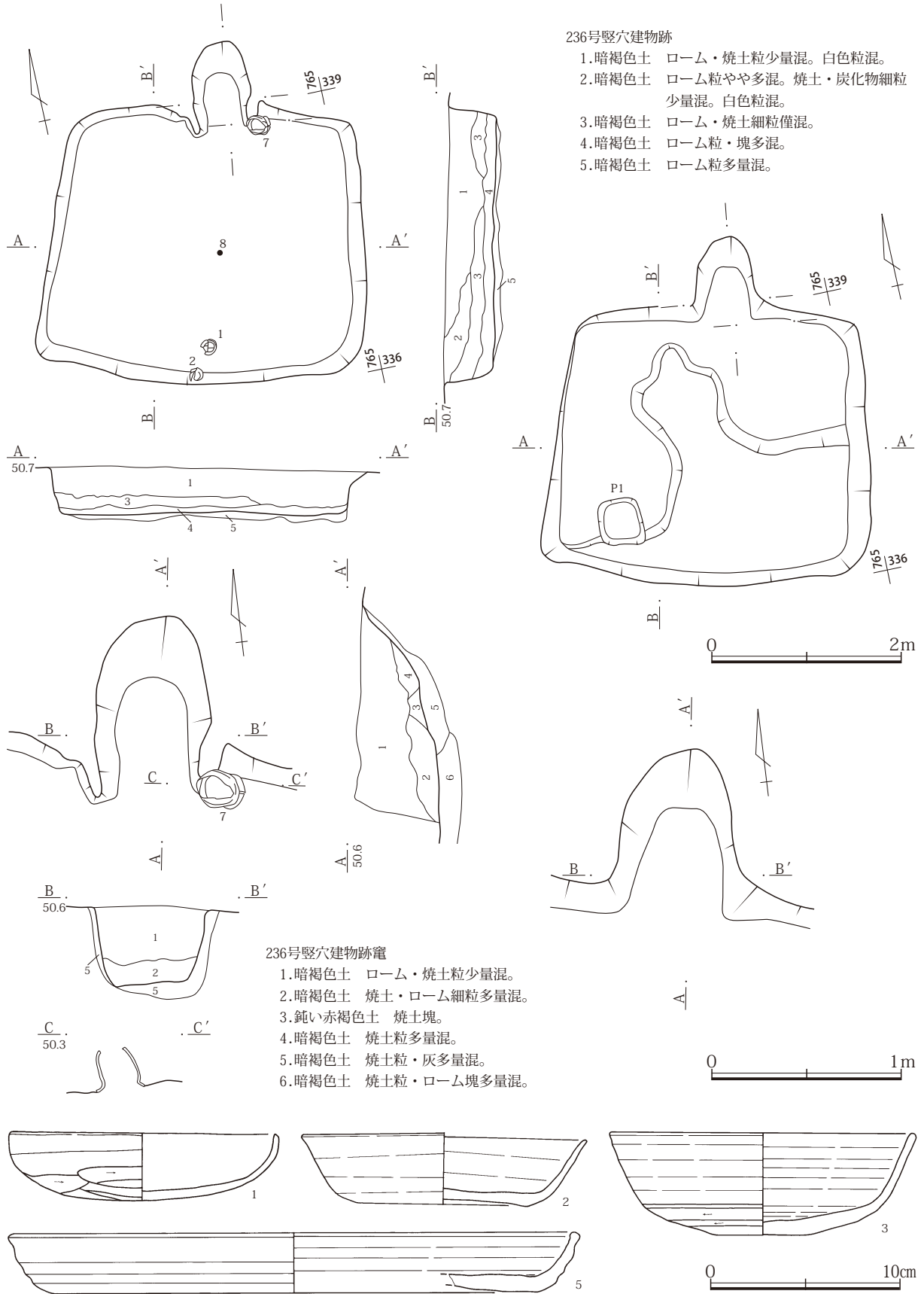
第175図 235号竪穴建物跡出土遺物（5）

さ0.26m・掘方までの深さは0.4m。 **埋土**：暗褐色土ベース。 **床面**：地山をほぼ平坦に掘り込んだ上にローム塊を含む暗褐色土を貼り、硬質な床面を形成している。厚さ0.14m程度。 **掘方**：全体的に均質にほぼ平坦に掘り込んでいる。 **竈**：東壁の南寄りの位置に取り付く。両袖・燃烧部は地山を削り出して形成され、煙道は建物の東側に長く延びている。両袖は地山を段状に削り出して構築され、左袖が建物内に若干張り出す。燃烧部は壁とほぼ同位置に形成される。 **貯蔵穴**：なし。 **時期**：9 C 1。 **遺物**：建物内に散在。床直から須恵器碗1（3）、掘方から須恵器瓶1（5）、他は埋土からの出土。

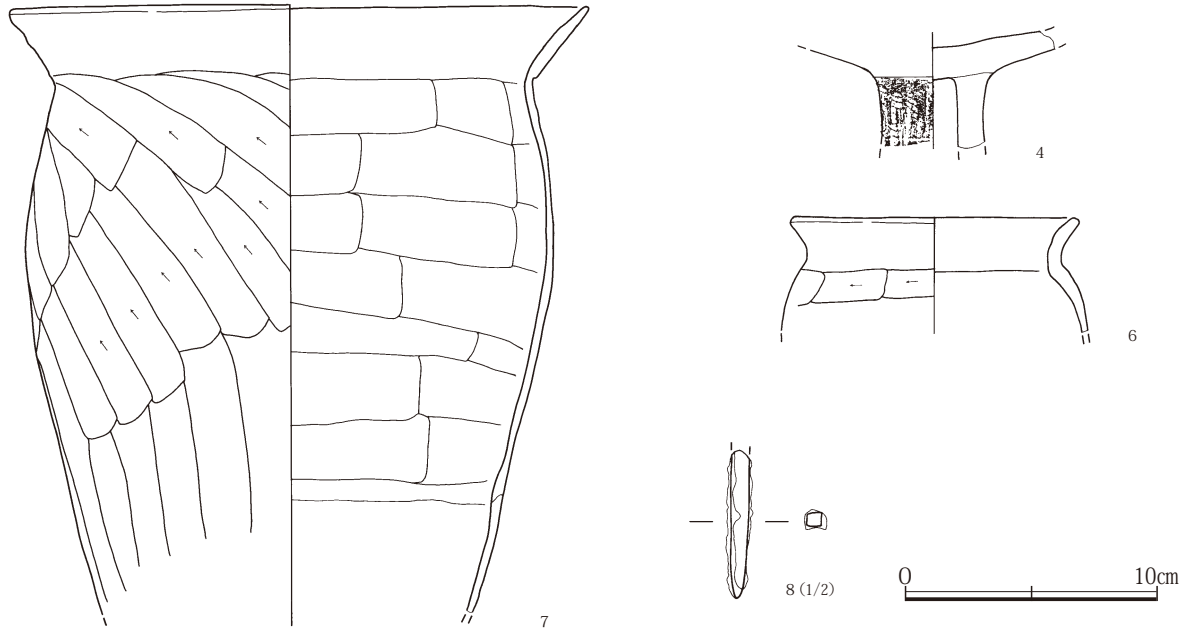
### (33) 235号竪穴建物跡

**位置**：調査区南西壁際。X330~340・Y-790~800Gr。 **主軸方位**：N-75°-E **重複**：218・219・230号竪穴建物跡に掘り込まれる。245・249号竪穴建物跡を掘り込む。 **規模と形状**：東西にやや長い長方形状を呈する。長辺6.93m・短辺6.54m・床面までの深さ0.44m・掘方までの深さ0.6mと大規模

な竪穴建物跡である。 **埋土**：暗褐色土ベース。 **床面**：地山を凹凸激しく大きく掘り込んだ上に、ローム塊が少量混る暗褐色土を貼って硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.16m前後。 **掘方**：竈前を中心に南側が一段深く掘り込まれており、南北の壁際や西側では床下土坑状の掘り込みがいくつも連結している。 **竈**：東壁のほぼ中央に取り付く。燃烧部・両袖は地山を削り出して形成している。煙道はあまり顕著には検出されなかった。両袖は建物内にやや張り出し、地山を段状に削って構築されていた。燃烧部は若干奥側に形成されている。 **貯蔵穴**：未検出。 **柱穴・pit**：4隅に柱穴が検出された。 **pit1**長径0.7m・短径0.54m・深さ0.33m、 **pit2**長径0.56m・短径0.48m・深さ0.45m、 **pit3**長径0.4m・短径0.4m・深さ0.4m、 **pit4**長径0.44m・短径0.3m・深さ0.42m。 **時期**：8 C 4。 **遺物**：建物内中央部の東西にかけて散在。床直は土師器杯1（7）、須恵器杯2（35・39）、土師器脚付鍋1（55）、鉄鎌1（61）。他は埋土中からの出土。



第176図 236号竪穴建物跡・出土遺物（1）



第177図 236号竪穴建物跡出土遺物（2）

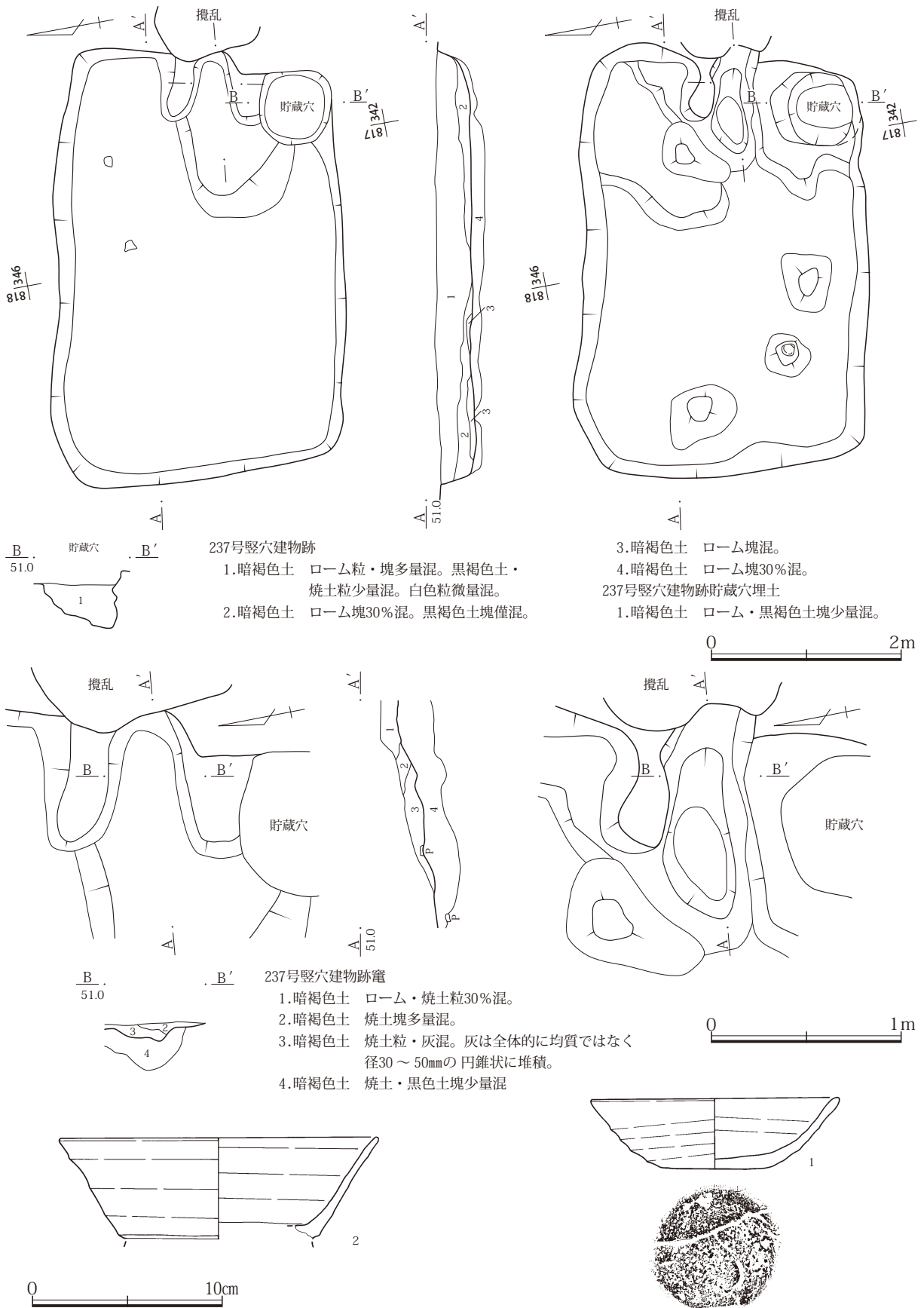
(34) 236号竪穴建物跡

**位置：**調査区東壁際。X335・Y-760～765Gr. **主軸方位：**N-9° -E **重複：**243号竪穴建物跡、1号円形周溝を掘り込む。**規模と形状：**東西にやや長い長方形を呈する。長辺3.4m・短辺2.85m・床面までの深さ0.52m・掘方までの深さ0.6m。**埋土：**暗褐色土ベース。**床面：**地山を大きく凹凸激しく掘り込んだ上にローム粒を大量に含む暗褐色土を薄く貼って硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.08m前後。**掘方：**竈前を中心に北側約半分がとくに一段と深く掘り込まれている。床下pitが検出されている。**竈：**北壁のほぼ中央に取り付く。燃烧部は地山を削り出して形成している。煙道はあまり顕著には検出されなかった。両袖は粘土を貼って構築され、建物内にやや張り出す。燃烧部は奥側に形成されている。**貯蔵穴・床下pit：**貯蔵穴はなし。床下pitが1基検出されている。長径0.49m・短径0.47m・深さ0.45m。**時期：**8C3。**遺物：**床直から須恵器杯（2）と竈袖芯材として使用された土師器甕（7）が出土。他は埋土から。

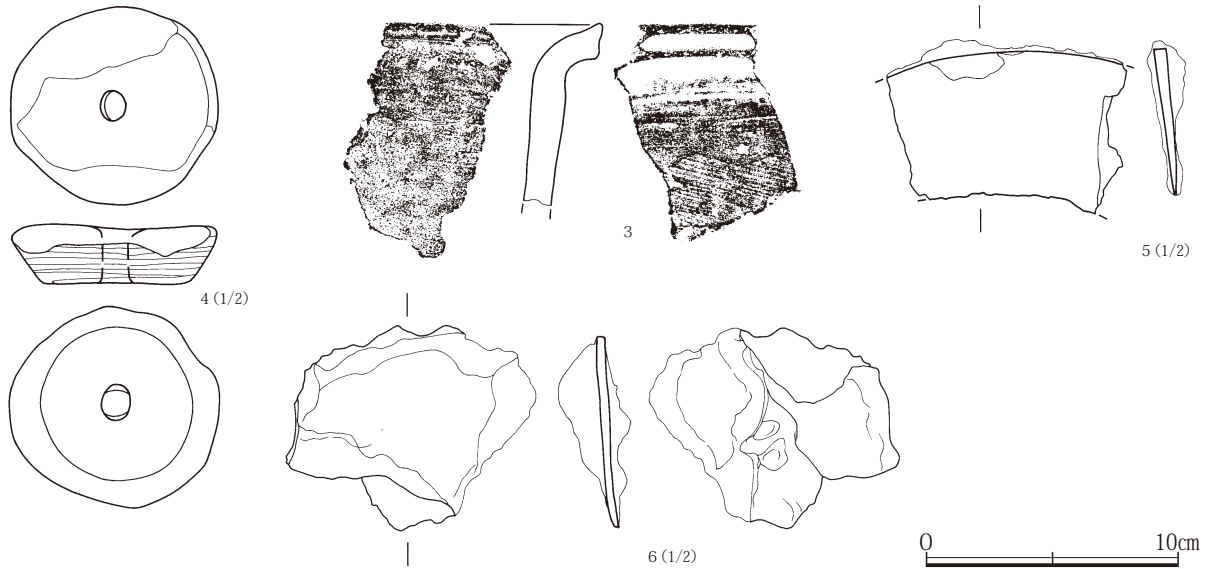
(35) 237号竪穴建物跡

**位置：**調査区西寄り。X340~345・Y-815～820Gr. **主軸方位：**N-101° -E **重複：**227号竪穴建物跡、1032・1034・1035・1037号土坑跡を掘り込む。**規模と形状：**東南東-西北西方向に長い長方形を呈する。3・4区やその南側に隣接する鹿島浦遺跡などで多く検出された、東西に細長く東側に竈が取り付く、所謂工房型と言われる竪穴建物跡に形状がよく類似している。長辺4.6m・短辺3m・床面までの深さは0.4m・掘方までの深さは0.5m。**埋土：**暗褐色土ベース。**床面：**地山を大きく掘り込んだ上にローム塊混じりの暗褐色土を貼り、平坦で硬質な床面を形成している。厚さ約0.1m前後。**掘方：**比較的凹凸激しく大きく掘り込まれている。**竈：**東壁のほぼ中央に取り付く。燃烧部奥壁の外周と煙道部を後世の攪乱によって破壊されている。燃烧部・両袖とも地山を削り出して形成され、両袖は建物の内側に大きく張り出している。燃烧部は壁の内側に形成されている。**貯蔵穴：**南南東側で検出。不整円形状を呈する。径0.8m・深さ0.45m。**時期：**9C後。**遺物：**掘方から鉄器が2点出土。他は埋土中から。

第3章 発見された遺構と遺物



第178図 237号竪穴建物跡・出土遺物（1）



第179図 237号竪穴建物跡出土遺物(2)

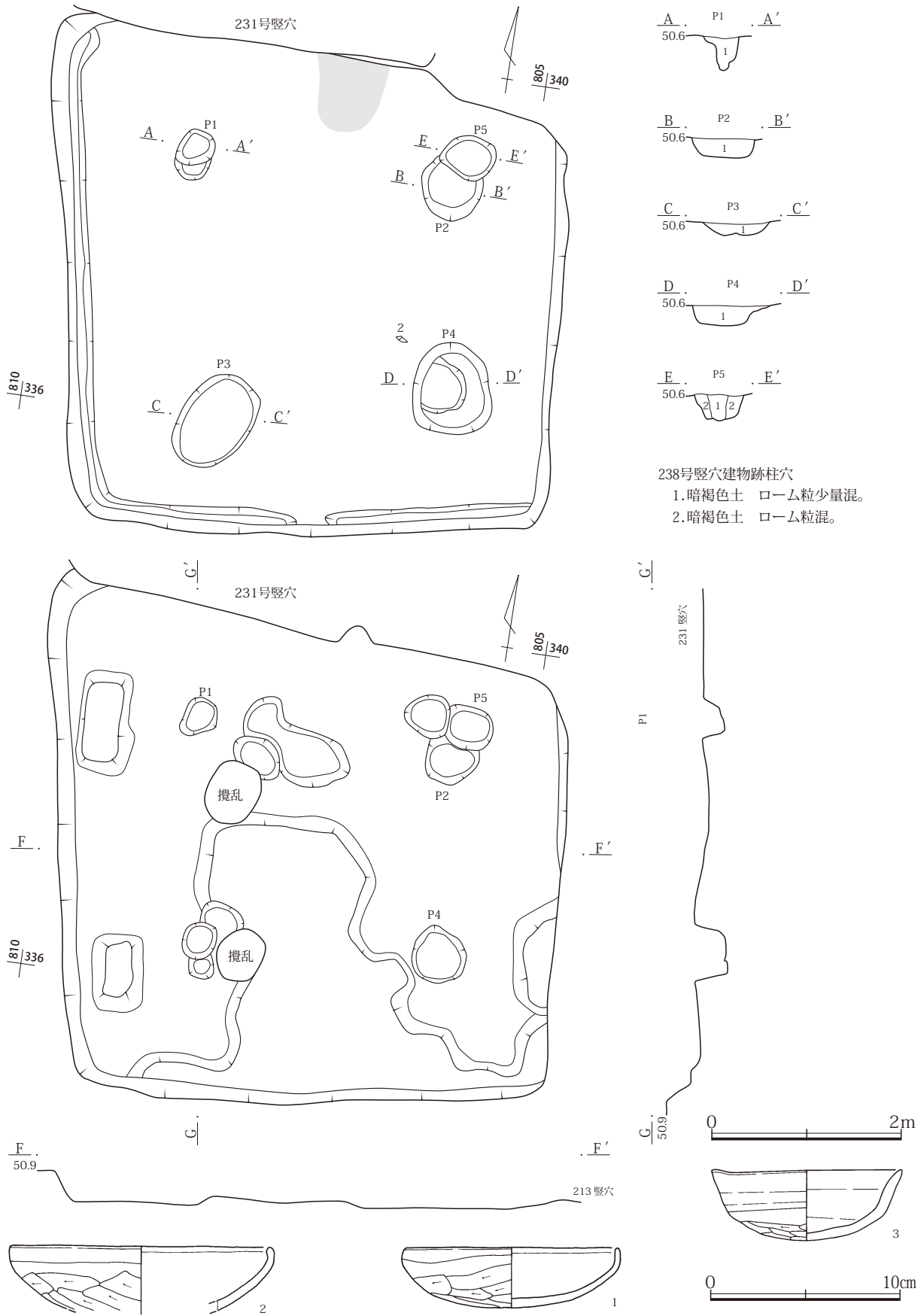
(36) 238号竪穴建物跡

**位置：**調査区南西壁際。X330~340・Y-800~810Gr. **主軸方位：**不明。 **重複：**212・213・230・231号竪穴建物跡に掘り込まれる。 **規模と形状：**南北に若干長い長方形状を呈する。長辺5.3m・短辺(5.2)m・床面までの深さ0.28m・掘り方までの深さは0.36m。 **埋土：**暗褐色土ベース。 **床面：**地山を凹凸激しく大きく掘り込んだ上に貼床を貼って平坦な床面を形成している。 **周溝：**西壁と南壁全域で検出された。最大上幅0.2m・最大下幅0.16m・深さ0.09m。 **掘方：**北側が一段深く掘り窪められる。 **竈：**北壁のほぼ中央に造られているが、231号建物跡によって両袖・燃烧部・煙道部ともに完全に破壊され、焚口前の床面に残る焼土の残存状況によって辛うじて存在が推測できる程度。 **貯蔵穴：**なし。 **柱穴・pit：**柱穴は4隅で検出された。少なくとも1回の建て替えがなされており、pit3・4では抜き取りによって柱穴が大きく掘り広げられたものと考えられる。 **pit1**長径0.53m・短径0.38m・深さ0.38m、**pit2**長径0.65m・短径(0.5)m・深さ0.2m、**pit3**長径1.08m・短径0.74m・深さ0.14m、**pit4**長径0.62m・短径0.6m・深さ0.23m、**pit5**長径0.6m・短径0.48m・深さ0.28m、。 **時期：**7C末~8C1。 **遺物：**埋土中から計3点が出土。

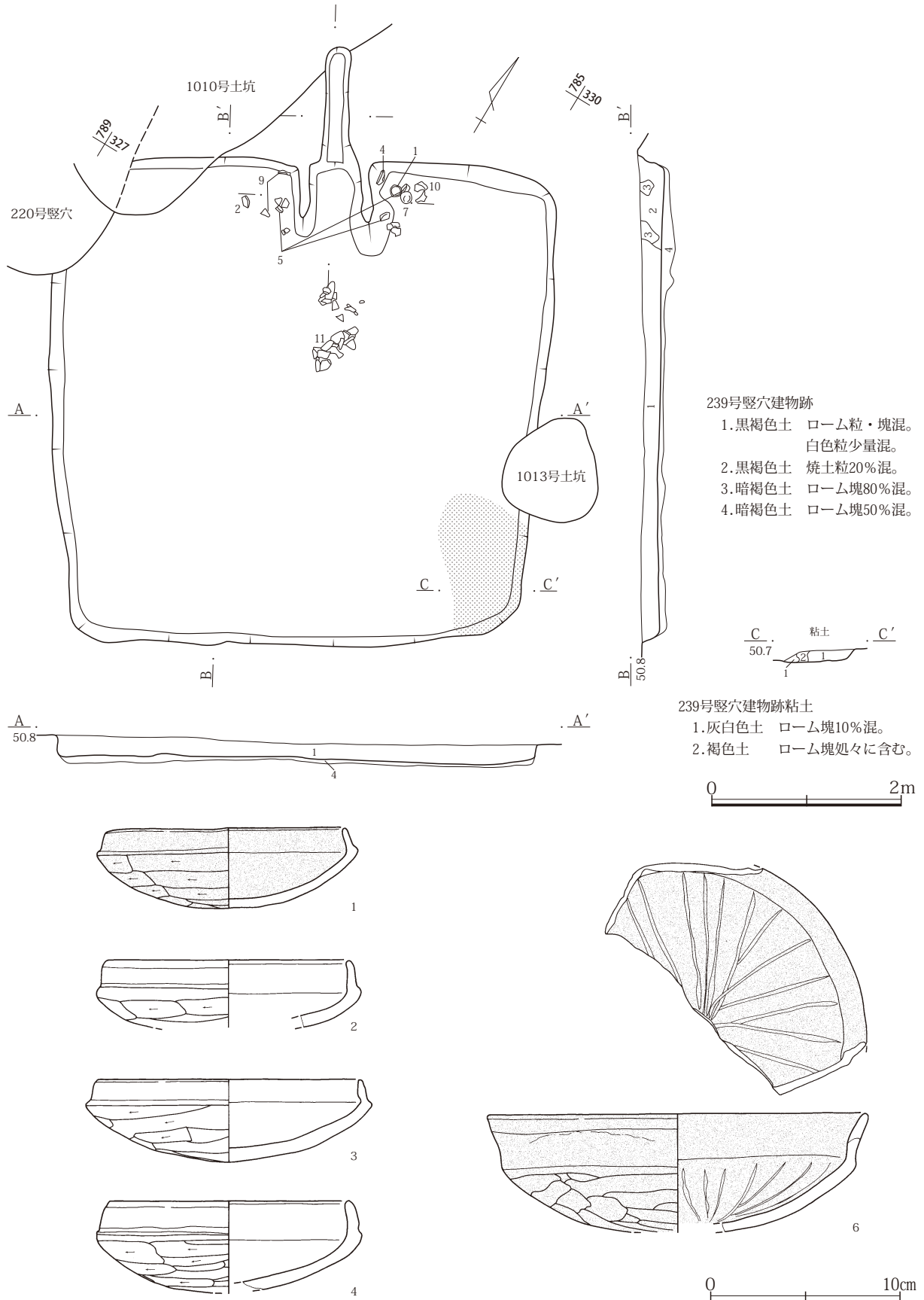
(37) 239号竪穴建物跡

**位置：**調査区南端寄り。X320~325・Y-780~785Gr. **主軸方位：**N-28°-W **重複：**304号竪穴建物跡を掘り込む。220号竪穴建物跡、1010・1013号土坑跡に掘り込まれる。 **規模と形状：**北西-南東方向に若干長い長方形状を呈する。長辺5.26m・短辺5.1m・床面までの深さ0.2m・掘り方までの深さは0.28m。 **埋土：**黒褐色土ベース。 **床面：**地山を大きく掘り込んだ上に、ローム塊を多く含む暗褐色土を貼り硬質な床面を形成している。厚さ0.08m前後。 **掘方：**全体的に凹凸が激しく、とくに南東壁際、北隅・西隅で一段深く掘り窪められている。 **竈：**北西壁のほぼ中央に取り付く。燃烧部・両袖は地山を削り出して形成される。煙道は外側に大きく伸びている。両袖は地山を段状に削り出して形成され、建物内に大きく張り出している。燃烧部は壁とほぼ同位置に形成される。 **貯蔵穴：**北隅で検出された(pit2)。使用面では検出することが出来ずに掘り方で確認できた。最終使用面では廃棄され、床下に埋められていたものと考えられる。北東-南西方向に長い楕円形状を呈し、長径0.76m・短径0.68m・深さ0.12m。 **柱穴・pit：**柱穴は4隅で検出されたが、いずれも貯蔵穴同様、掘り方で確認で、最終使用面では廃棄され、床下に埋められていた。**pit3**長径

第3章 発見された遺構と遺物

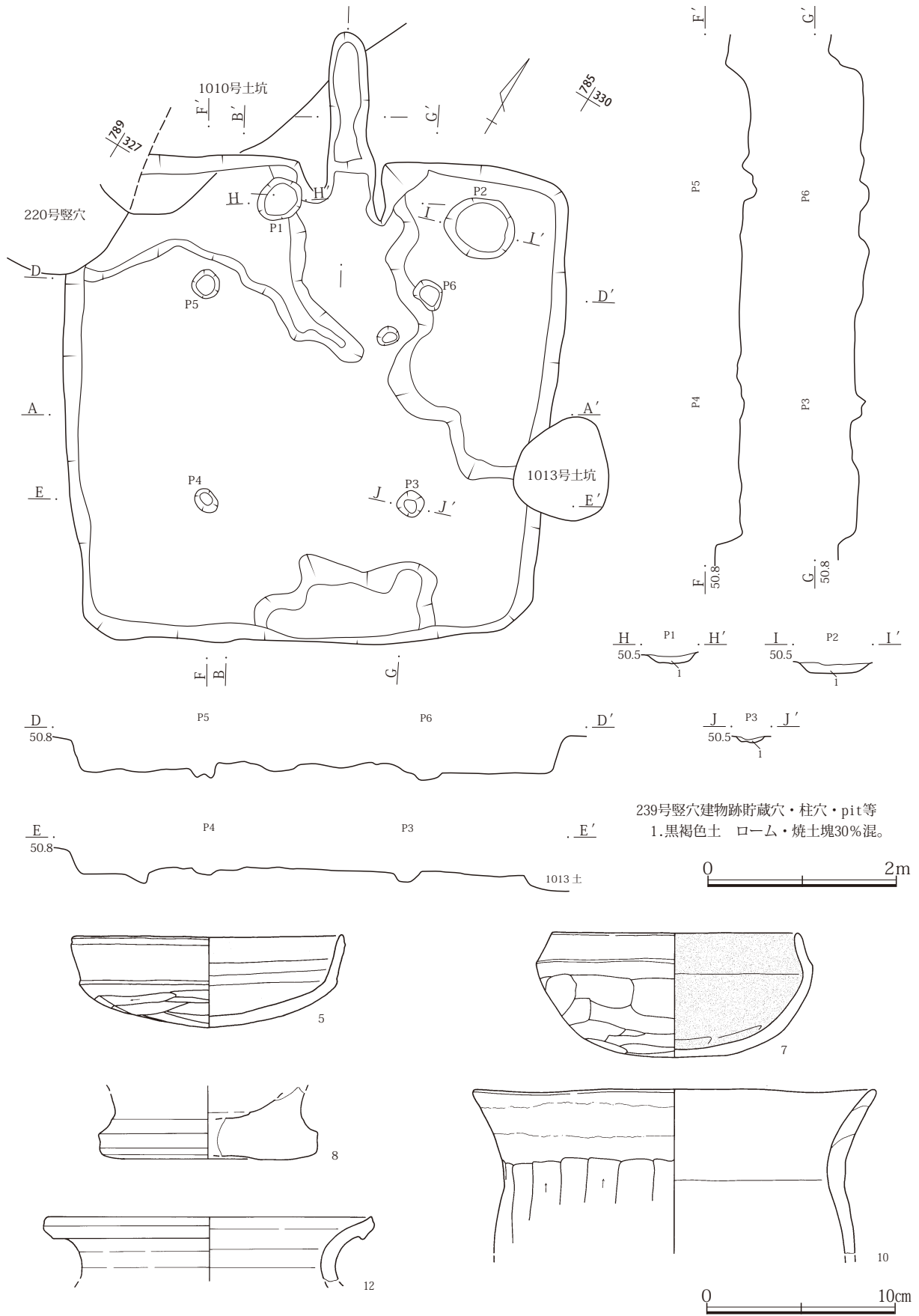


第180図 238号竪穴建物跡・出土遺物



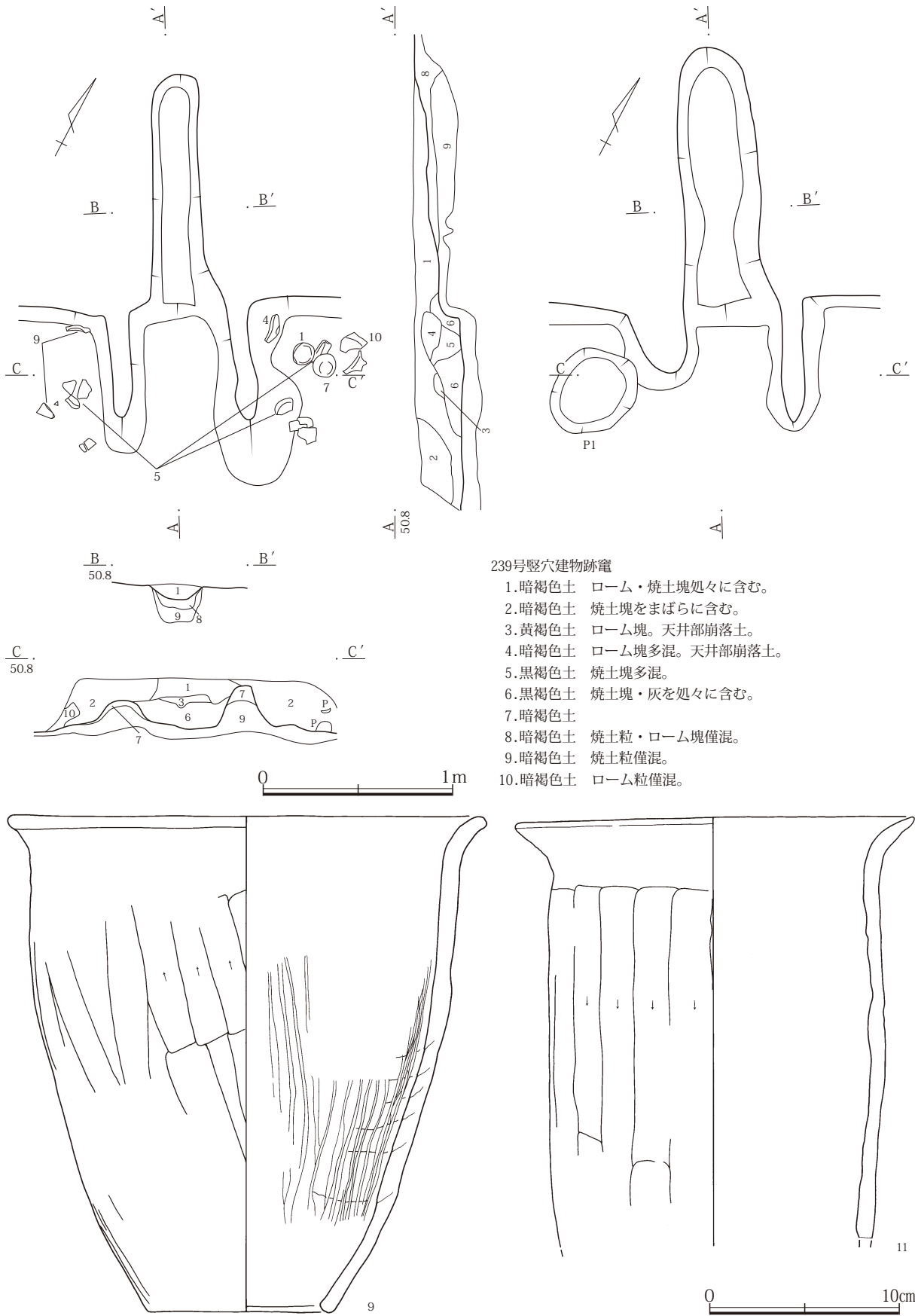
第181図 239号竖穴建物跡・出土遺物（1）

第3章 発見された遺構と遺物



第182図 239号竪穴建物跡掘方・出土遺物(2)



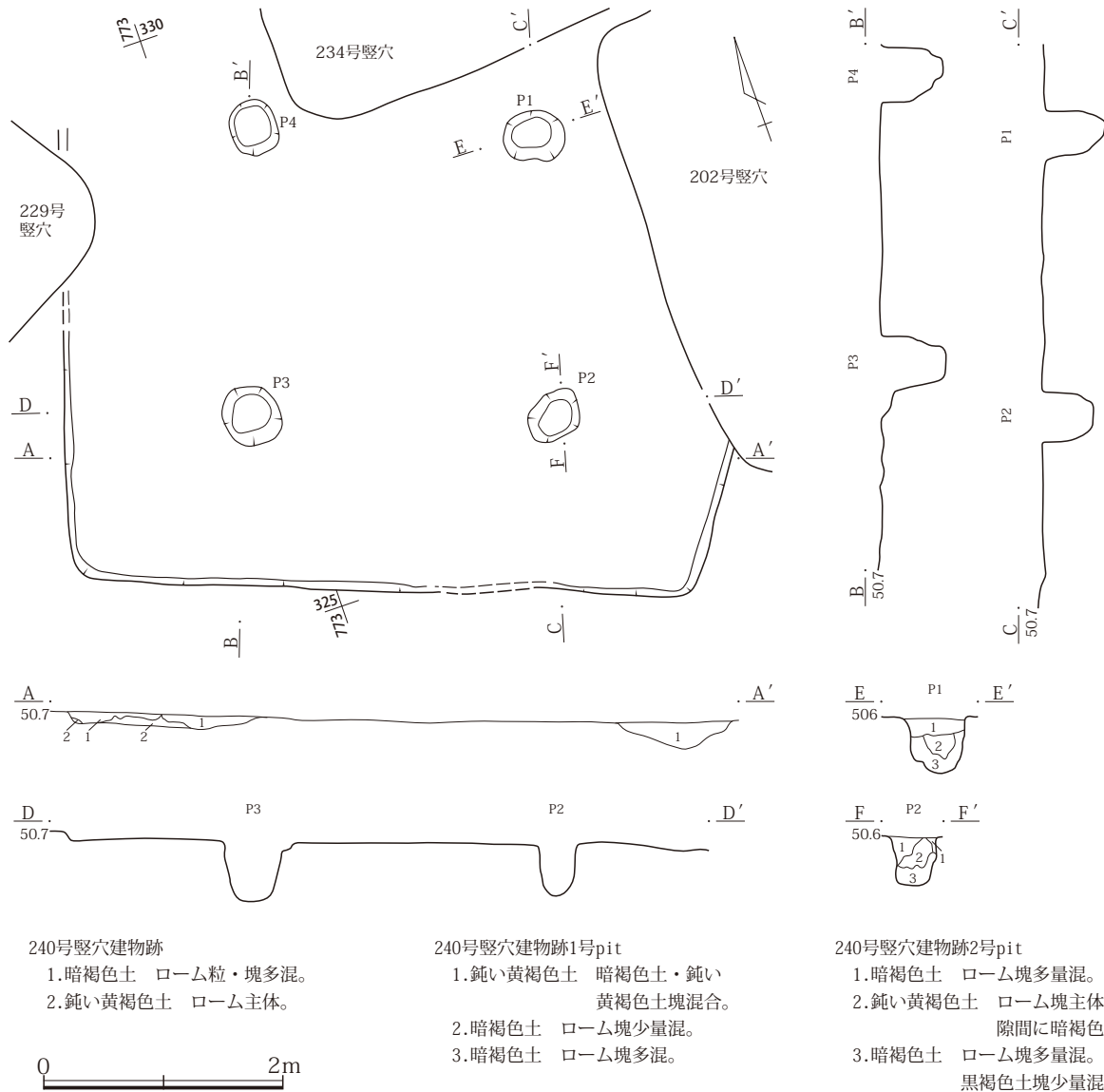


239号竪穴建物跡竈

1. 暗褐色土 ローム・焼土塊処々に含む。
2. 暗褐色土 焼土塊をまばらに含む。
3. 黄褐色土 ローム塊。天井部崩落土。
4. 暗褐色土 ローム塊多混。天井部崩落土。
5. 黒褐色土 焼土塊多混。
6. 黒褐色土 焼土塊・灰を処々に含む。
7. 暗褐色土
8. 暗褐色土 焼土粒・ローム塊僅混。
9. 暗褐色土 焼土粒僅混。
10. 暗褐色土 ローム粒僅混。

第183図 239号竪穴建物跡竈・出土遺物（3）

第3章 発見された遺構と遺物



第184図 240号竪穴建物跡

0.28m・短径0.28m・深さ0.16m、**pit4**長径0.3m・短径0.24m・深さ0.1m、**pit5**径0.3m・深さ0.2m、**pit6**長径0.32m・短径0.3m・深さ0.26m。この他、竈左袖際で床下pit(**pit1**)が検出された。長径0.5m・短径0.43m・深さ0.1m。 **時期**：6 C後。 **遺物**：竈周辺からまとめて出土。

(38) 240号竪穴建物跡

**位置**：調査区南東端近く。X320-325・Y-765~770Gr. **主軸方位**：不明。 **重複**：202・229・234号竪穴建物跡、2号粘土採掘坑跡に掘り込まれる。

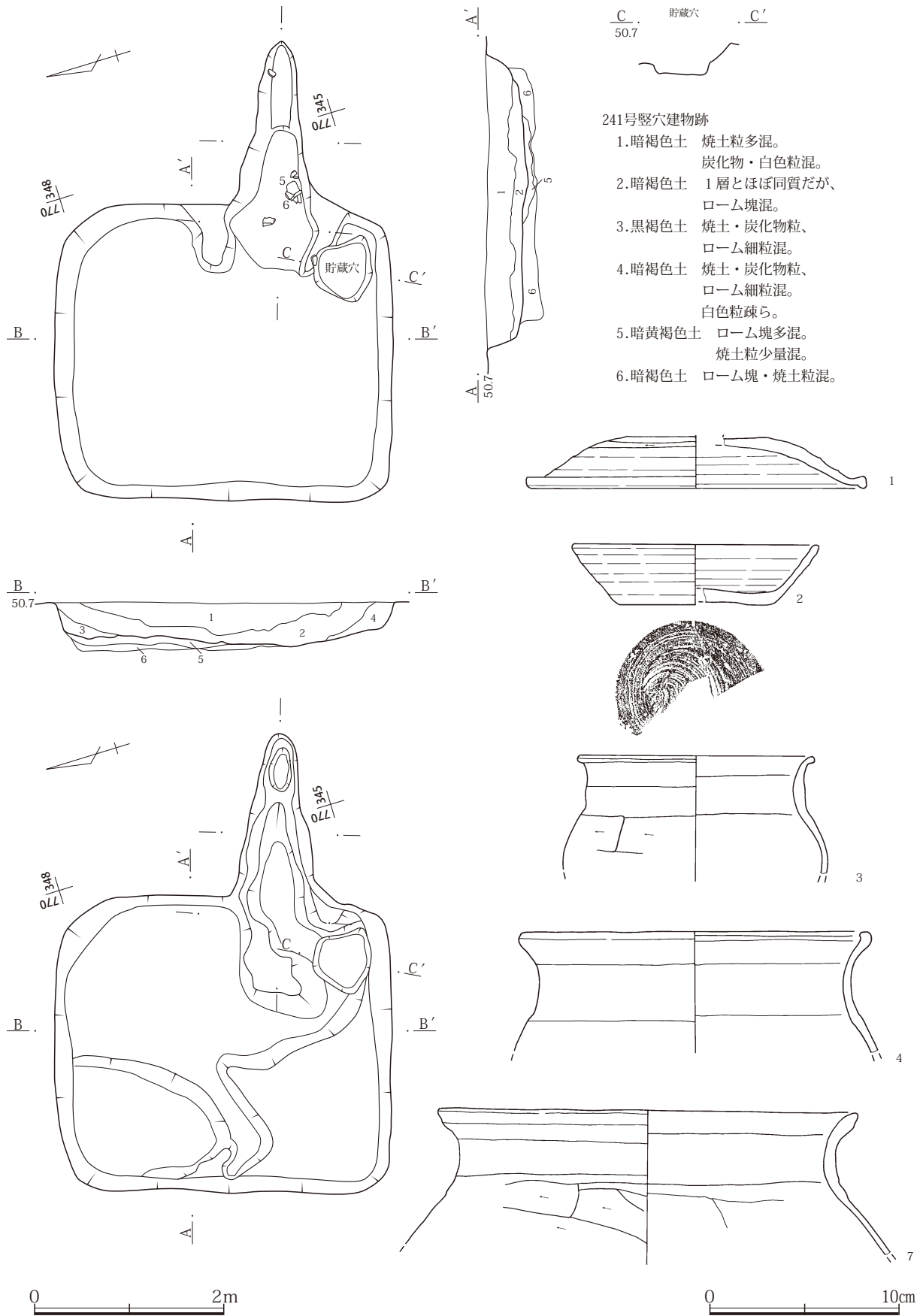
**規模と形状**：掘方のみ検出された。北側は234号

竪穴建物跡による破壊と削平によりほとんど検出不可。北東-南西方向に若干長い長方形を呈するものと思われる。長辺5.56m・短辺(4.72)m・掘方までの深さ0.1m。 **埋土**：黒褐色土ベース。

**床面**：未検出。 **掘方**：検出状況が悪いため不明。

**竈**：未検出。 **貯蔵穴**：未検出。 **柱穴・pit**：柱穴は4隅で検出された。**pit1**長径0.5m・短径0.42m・深さ0.52m、**pit2**長径0.44m・短径0.39m・深さ0.42m、**pit3**長径0.53m・短径0.47m・深さ0.53m、**pit4**長径0.46m・短径0.4m・深さ0.52m。 **時期**：不明。 **遺物**：なし。

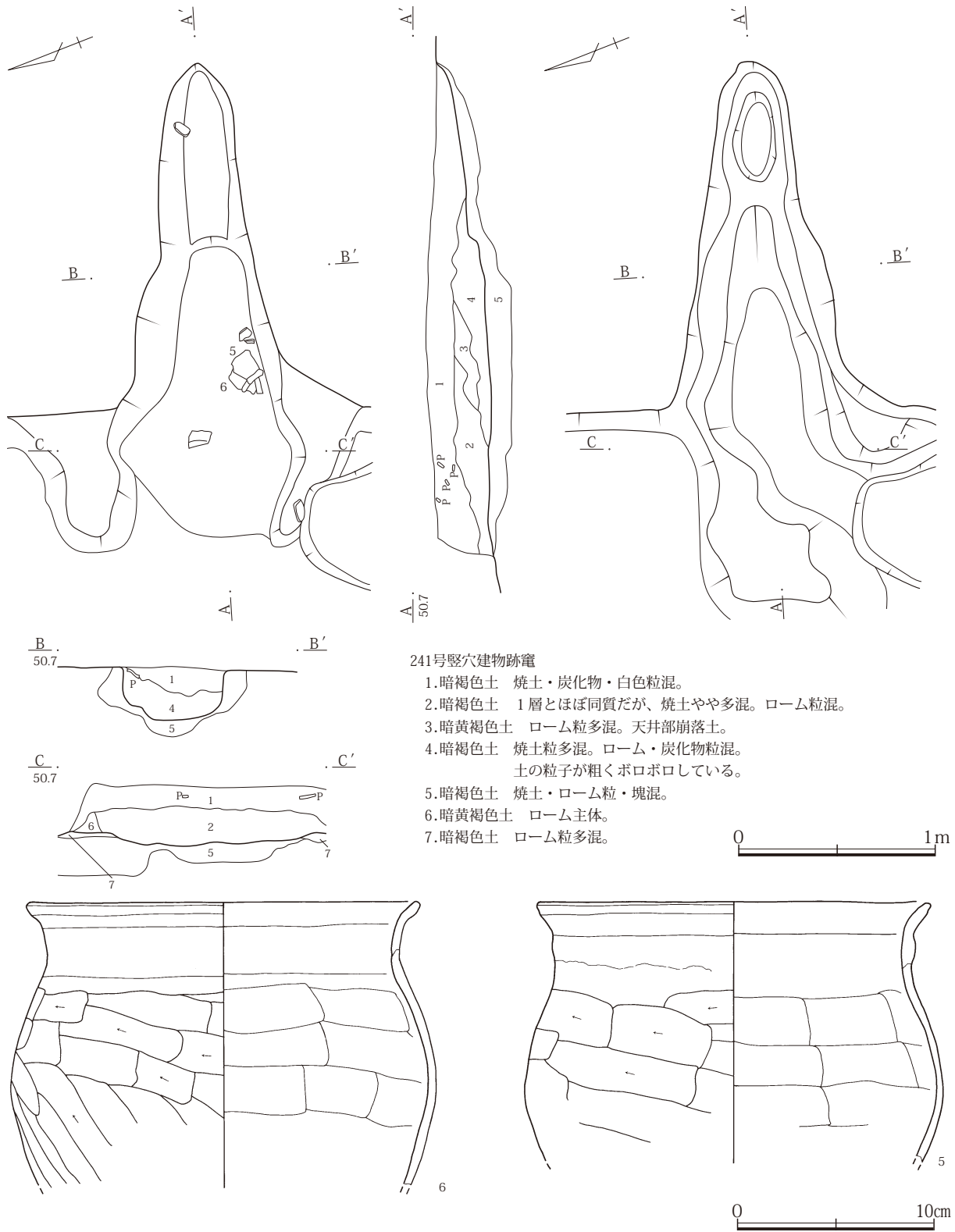
第2節 古墳時代後期～平安時代の遺構と遺物



241号竪穴建物跡

1. 暗褐色土 焼土粒多混。  
炭化物・白色粒混。
2. 暗褐色土 1層とほぼ同質だが、  
ローム塊混。
3. 黒褐色土 焼土・炭化物粒、  
ローム細粒混。
4. 暗褐色土 焼土・炭化物粒、  
ローム細粒混。  
白色粒疎ら。
5. 暗黄褐色土 ローム塊多混。  
焼土粒少量混。
6. 暗褐色土 ローム塊・焼土粒混。

第185図 241号竪穴建物跡・出土遺物（1）

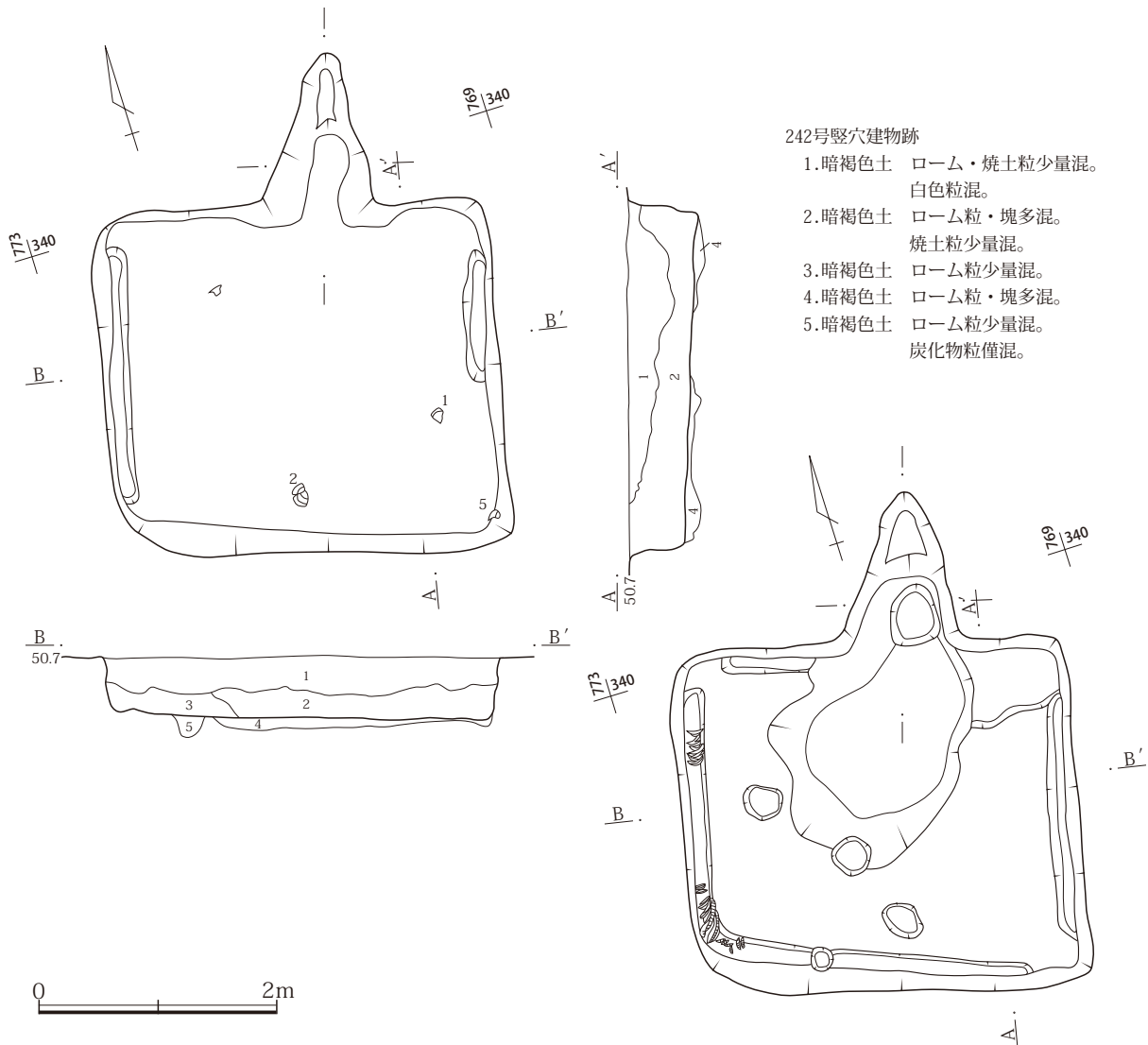


第186図 241号竪穴建物跡竈・出土遺物（2）

(39) 241号竪穴建物跡

位置：調査区東壁近く。X340~345・Y-765~770Gr. 主軸方位：N-108° -E 重複：275号竪穴

建物跡、1062号土坑跡を掘り込む。規模と形状：北北東-南南西方向に若干長い長形状を呈する。長辺3.56m・短辺3.1m・床面までの深さ0.47m・



第187図 242号竪穴建物跡

掘方までの深さ0.52m。埋土：暗褐色土ベース。

床面：地山を凹凸激しく大きく掘り込んだ上にローム塊を含んだ暗黄褐色土を貼って平坦面を造り、硬質な床面を形成している。掘方：全体的に凹凸激しく掘り込まれており、とくに北西の隅一帯で一段深く掘り込まれている。竈：東壁の南隅寄りに造られる。燃焼部は地山を削り出して形成され、壁とほぼ同位置に造られる。両袖は粘土を貼って構築され、内側に大きく張り出す。煙道は外側に長く延びる。貯蔵穴：竈の南側に造られている。不整形円形状を呈し、長径0.72m・短径0.62m・深さ0.14m。

柱穴・pit：なし。時期：9C3。遺物：竈内から比較的まとまって出土している。

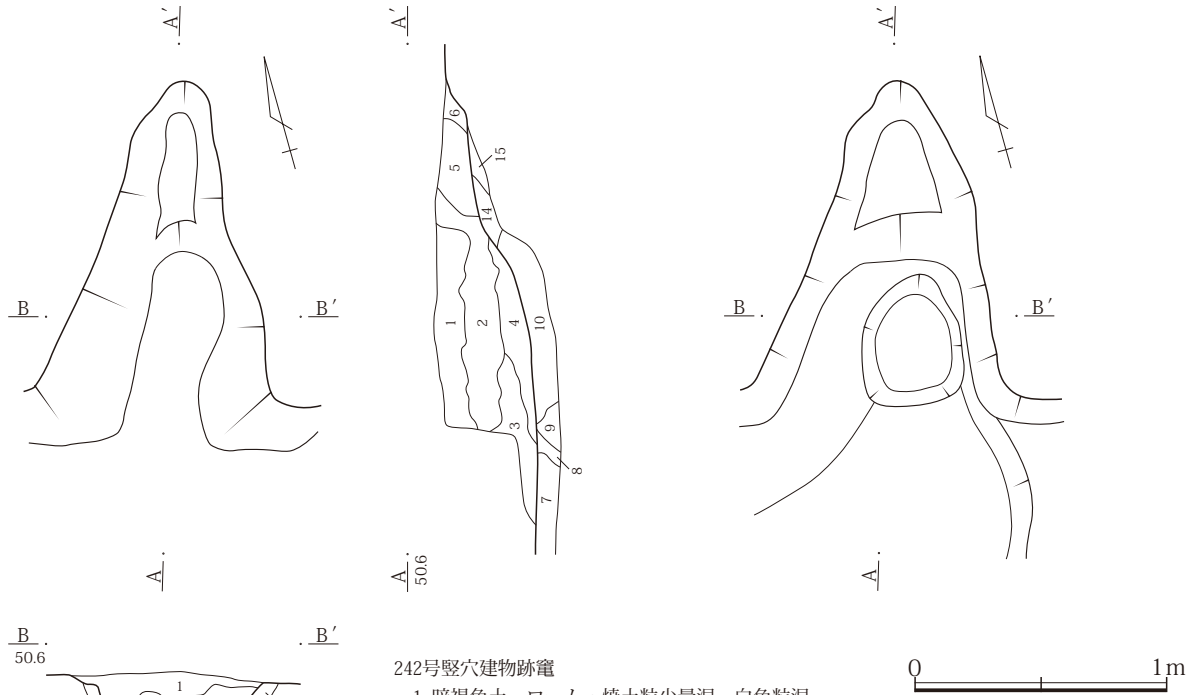
#### (40) 242号竪穴建物跡

位置：調査区東壁際。X335-340・Y-765~770Gr.

主軸方位：N-16° -E 重複：243・254号竪穴建物跡の東隅を掘り込む。規模と形状：東西にやや長い長方形を呈する。長辺3.3m・短辺2.94m・床面までの深さ0.55m・掘方までの深さ0.6m。

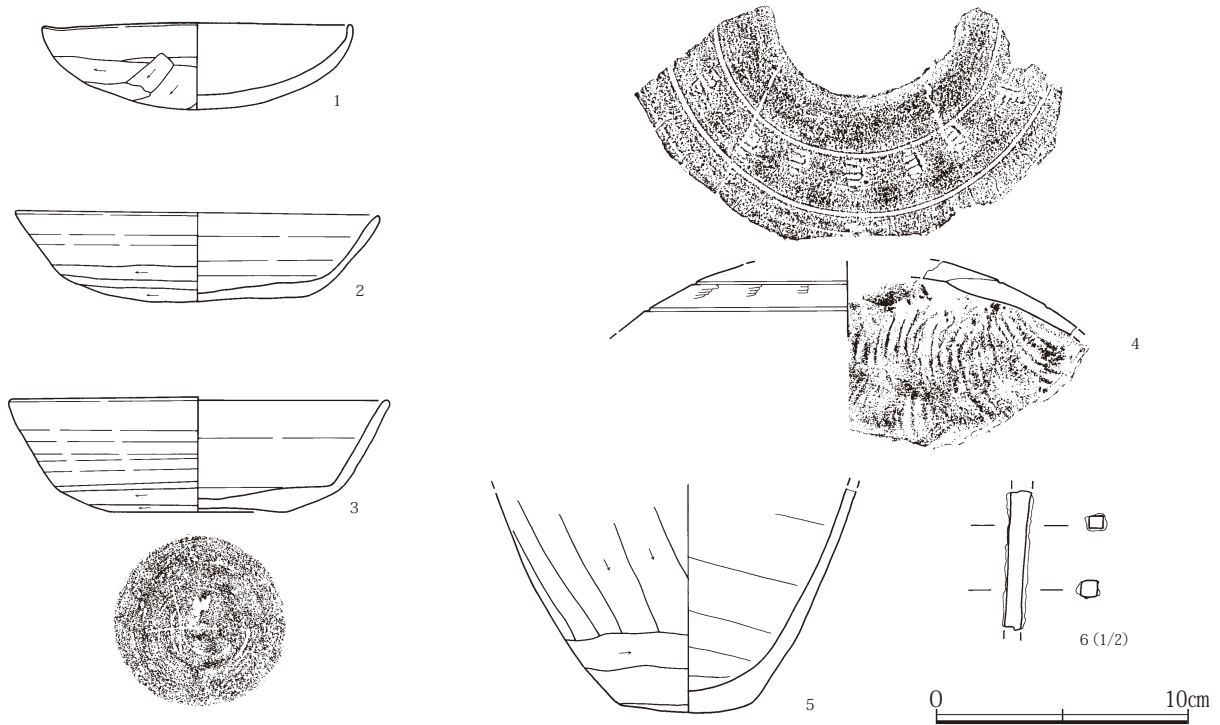
埋土：暗褐色土ベース。床面：地山をやや凹凸に掘り込んだ上にローム粒を大量に含む暗褐色土を薄く貼って硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.05m前後。周溝：西壁の全域と東壁の一部で検出された。最大上幅0.18m・最大下幅0.1m・深さ0.02m。掘方段階では四周で検出された。掘方段階では、とくに西壁際及び南西隅において掘削した

第3章 発見された遺構と遺物

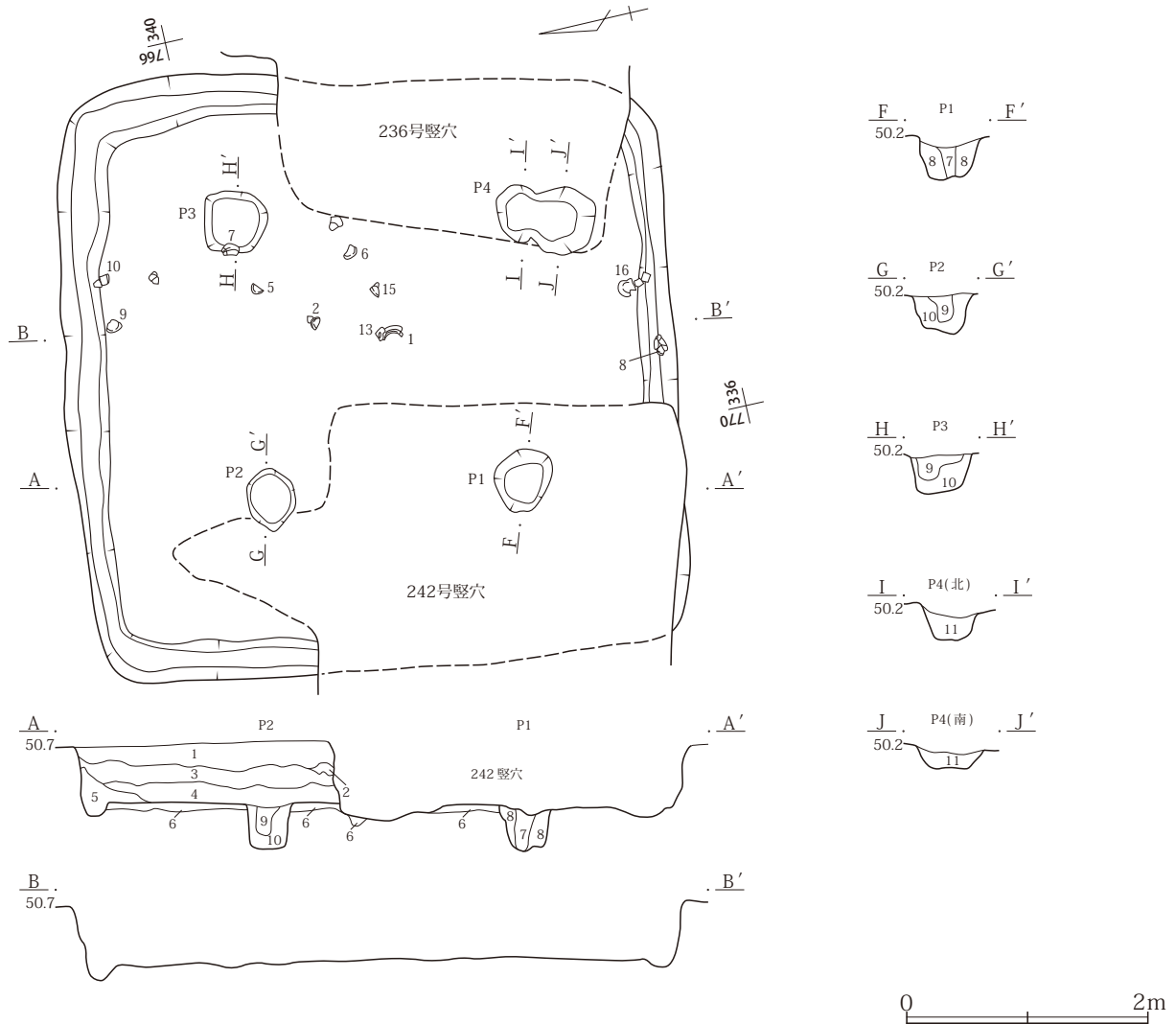


242号竪穴建物跡竈

1. 暗褐色土 ローム・焼土粒少量混。白色粒混。
2. 暗褐色土 ローム粒多混。焼土粒少量混。
3. 暗褐色土 ローム・焼土・炭化物細粒僅混。
4. 暗褐色土 ローム粒多混。焼土粒少量混。
5. 暗褐色土 焼土粒多混。ローム粒少量混。
6. 暗褐色土 ローム・焼土細粒僅混。
7. 暗褐色土 ローム粒・塊やや多混。
8. 鈍い黄褐色土 竈材ローム塊。
9. 鈍い赤褐色土 焼土粒多量混。
10. 黒褐色土 灰層。焼土・炭化物粒多混。
11. 暗褐色土 焼土粒多量混。炭化物・ローム粒少量混。
12. 鈍い黄褐色土 焼土・暗褐色土粒少量混。
13. 暗褐色土 ローム・焼土粒少量混。
14. 暗褐色土 焼土粒やや多混。
15. 暗褐色土 ローム粒多量混。
16. 鈍い黄褐色土 焼土・暗褐色土粒少量混。12層よりも暗褐色土粒の量が少ない。竈袖材。



第188図 242号竪穴建物跡竈・出土遺物



243号竪穴建物跡

- |  |   |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 暗褐色土 ローム・焼土粒少量混。白色粒混。</li> <li>2. 暗褐色土 灰・炭化物を含みやや黒ずむ。焼土混。</li> <li>3. 暗褐色土 1・2層に比べてやや暗い。<br/>ローム・焼土・炭化物粒僅混。</li> <li>4. 暗褐色土 ローム・焼土粒少量混。</li> <li>5. 黒褐色土 ローム粒やや多混。</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>6. 鈍い黄褐色土 暗褐色土塊と鈍い黄褐色土ロームの混土。</li> <li>7. 暗褐色土 焼土・炭化物・ローム粒・小礫少量混。</li> <li>8. 鈍い黄褐色土 暗褐色土塊とローム塊の混土。小礫混。</li> <li>9. 暗褐色土 ローム粒・礫少量混。焼土・炭化物粒僅混。</li> <li>10. 鈍い黄褐色土 ローム主体。暗褐色土粒・塊少量混。</li> <li>11. 暗褐色土 ローム粒・塊やや多混。小礫混。</li> </ol> |
|--|---|

第189図 243号竪穴建物跡

際の工具痕が顕著に検出された。掘方：竈前を中心にとくに一段と深く掘り込まれている。竈：東壁のほぼ中央に取り付く。燃烧部は地山を削り出して形成している。煙道は若干長く建物の外側に延びる。両袖は粘土を貼って構築され、建物内にはほとんど張り出さない。燃烧部は奥側に形成されている。

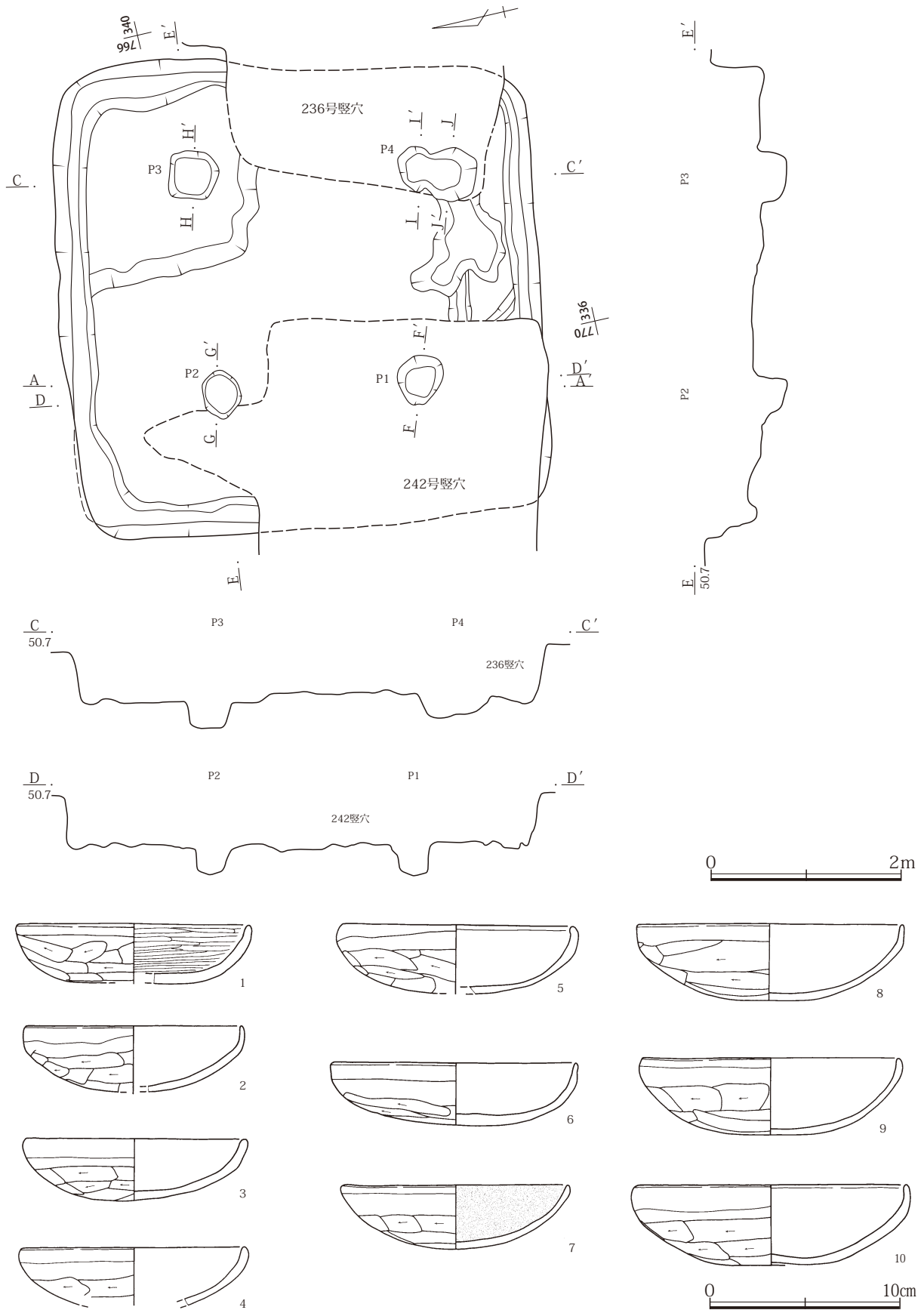
貯蔵穴：なし。時期：8 C 1。遺物：建物内に散在。

(41) 243号竪穴建物跡

位置：調査区の中央から南寄りの東壁際。X335～340・Y-765～-770Gr. 主軸方位：不明。重複：236・242号竪穴建物に掘り込まれ、254・275号竪穴建物跡を掘り込む。規模と形状：ほぼ方形を呈する。長辺5m・短辺4.97m・床面までの深さ0.51m・掘方までの深さ0.55m。埋土：暗褐色土ベース。

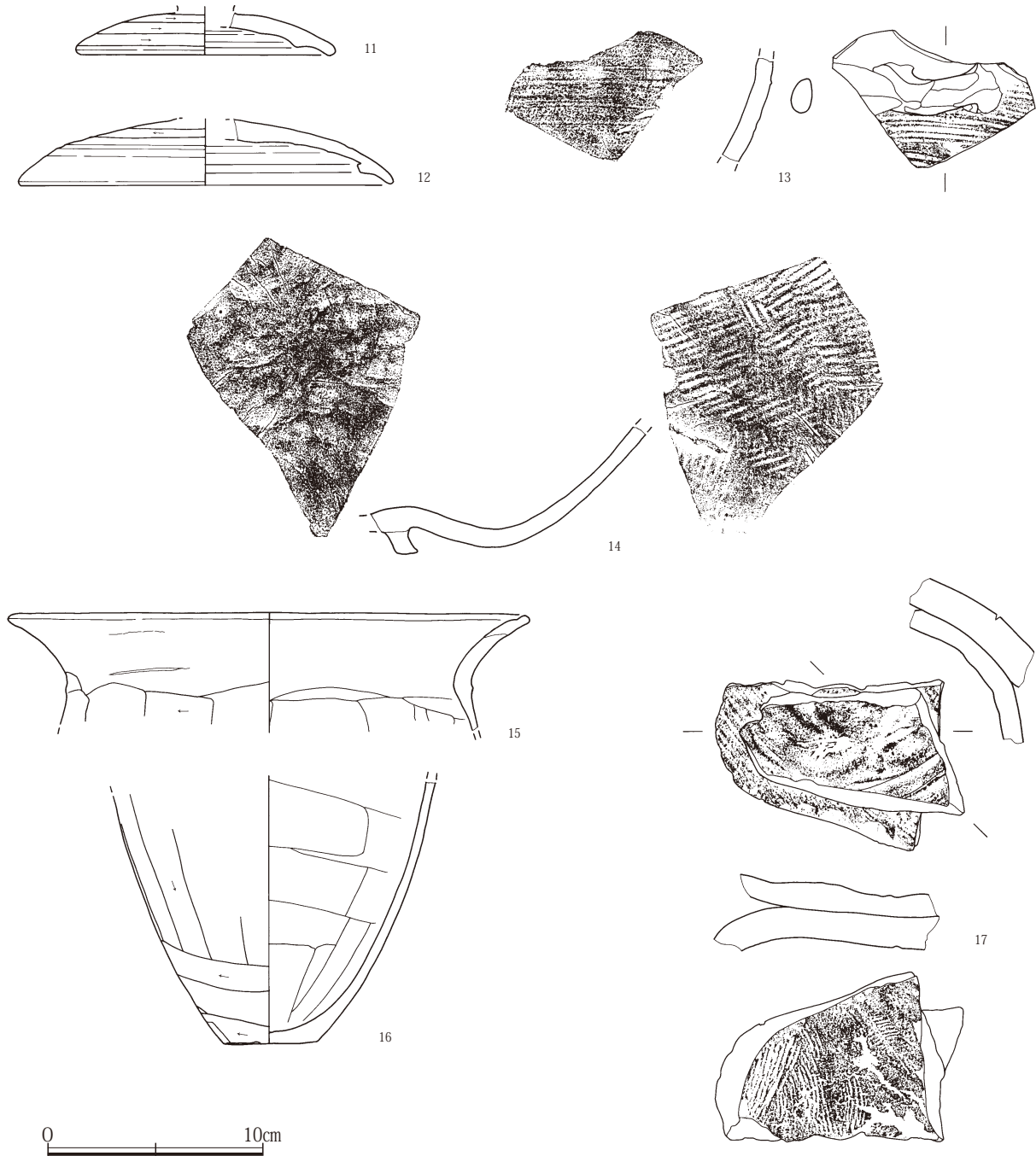
床面：地山を凹凸激しく掘り込んだ上に暗褐色土とローム塊を大量に含む鈍い黄褐色土を薄く貼って

第3章 発見された遺構と遺物



第190図 243号竪穴建物跡掘方・出土遺物(1)

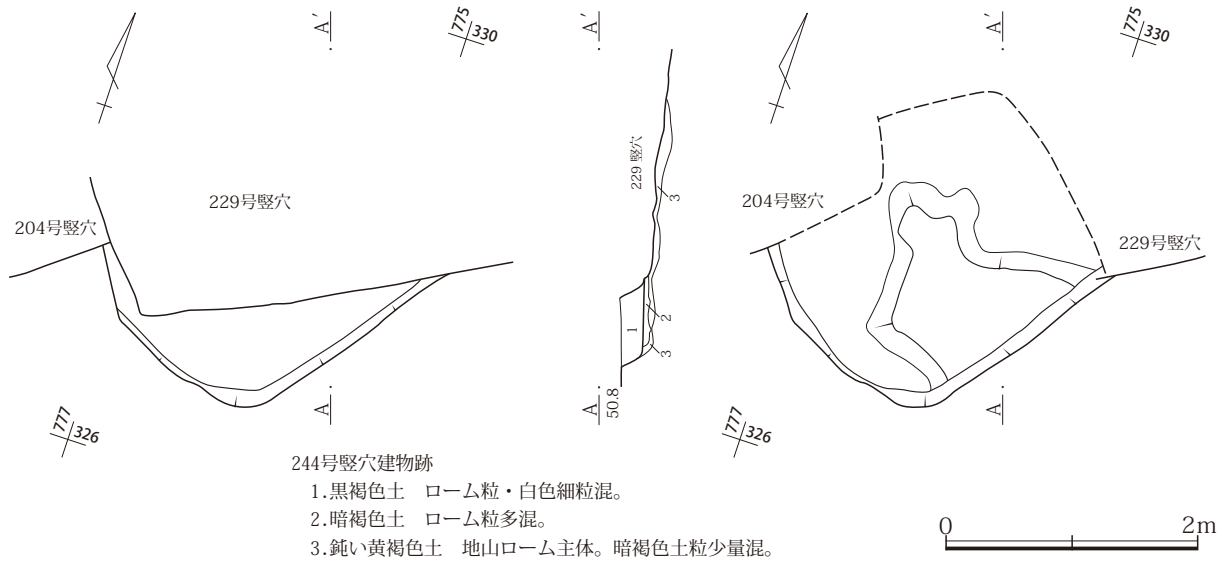




第191図 243号竪穴建物跡出土遺物（2）

硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.04m前後。周溝：四周壁で検出された。最大上幅0.3m・最大下幅0.2m・深さ0.09m。掘方：大きく掘り込んでおり、とくに北東隅一带と南壁際など中心に一段と深い。竈：未検出。貯蔵穴：未検出。柱穴・pit：4隅で検出された。pit4にのみ柱抜

き取りの痕跡がみられた。柱痕も比較的よく確認できた。pit1長径0.44m・短径0.44m・深さ0.35m、pit2長径0.56m・短径0.4m・深さ0.36m、pit3長径0.52m・短径0.52m・深さ0.35m、pit4長径0.8m・短径0.4m・深さ0.28m。時期：7C4～。遺物：建物内に散在。



第192図 244号竪穴建物跡

(42) 244号竪穴建物跡

**位置：**調査区南東隅から若干中央。X325・Y-770~775Gr. **主軸方位：**不明。 **重複：**229号竪穴建物跡に掘り込まれる。 **規模と形状：**南東隅のみが検出され、全容は全く不明。床面までの深さ0.18m・掘方までの深さは0.27m。 **埋土：**黒褐色土ベース。 **床面：**地山を大きく掘り込んだ上にローム粒を含んだ暗褐色土を薄く貼り、平坦かつ硬質な床面を形成している。厚さ約0.07m前後。 **掘方：**凹凸が甚だしい。 **竈：**未検出。 **貯蔵穴：**未検出。 **時期：**古代。 **遺物：**なし。

(43) 245号竪穴建物跡

**位置：**調査区中央南寄り。X335・Y-785~790Gr. **主軸方位：**N-99° -E **重複：**218・219・235号竪穴建物跡、1073号pitに掘り込まれる。246号竪穴建物跡を掘り込む。 **規模と形状：**長方形ないし方形を呈するものと思われる。床面までの深さ0.48m・掘方までの深さ0.7m。 **埋土：**暗褐色土ベース。 **床面：**地山を大きく掘り込んだ上に暗褐色土を厚く貼って硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.22m前後。 **掘方：**凹凸激しい。 **竈：**東壁に取り付く。燃烧部は地山を削り出して形成し、壁とほぼ同位置に造られている。煙道は外側に大きく延

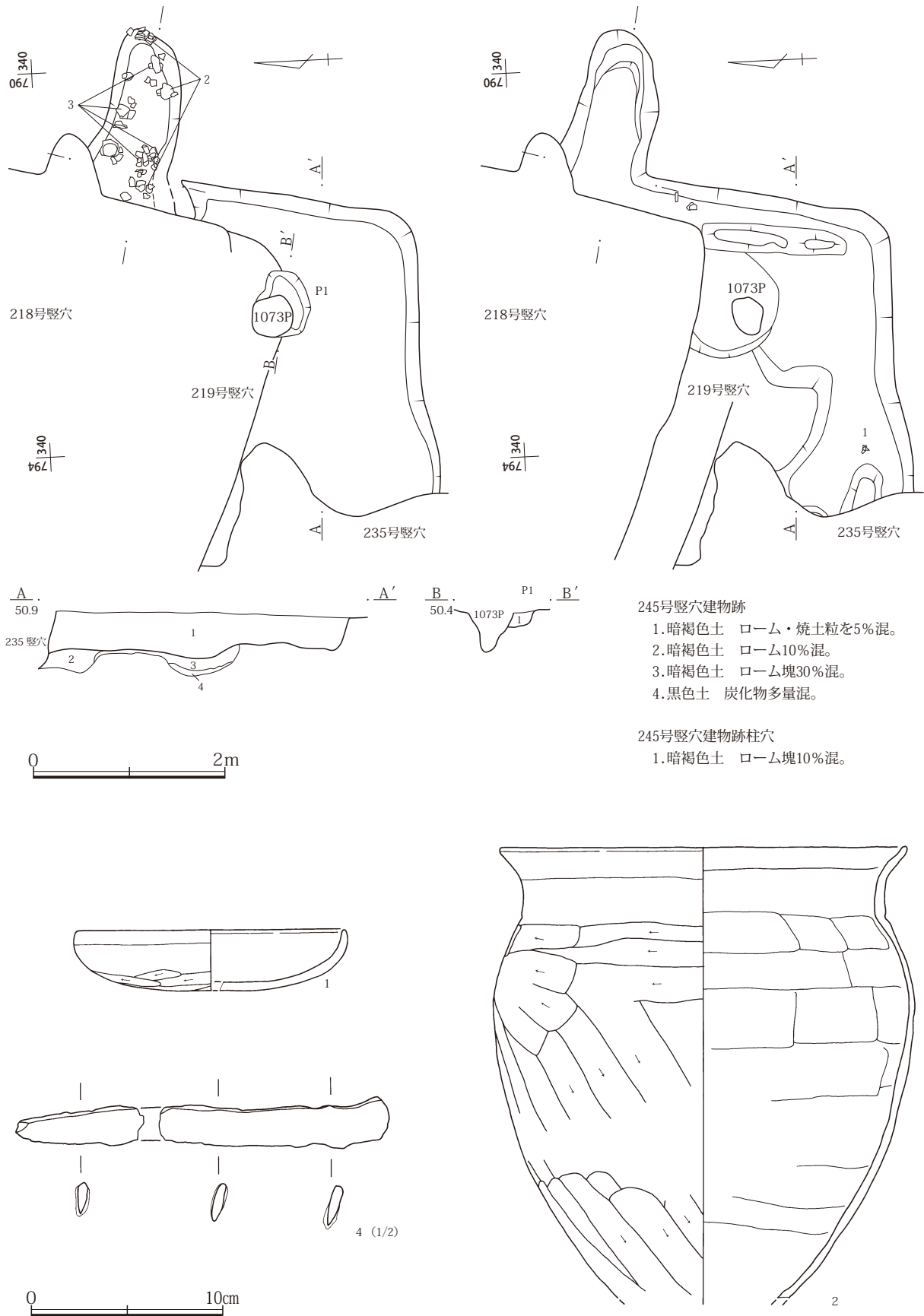
びている。両袖は粘土によって構築され、内側に若干張り出す。燃烧部は若干奥側に形成されている。

**貯蔵穴：**未検出。 **柱穴・pit：**南東隅柱穴が1基検出されているが、中央を後世の1073号pitによって破壊されている。pit1長径0.7m・短径0.54m・深さ0.16m。 **時期：**9 C 2。 **遺物：**竈煙道部から集中的に出土。

(44) 246号竪穴建物跡

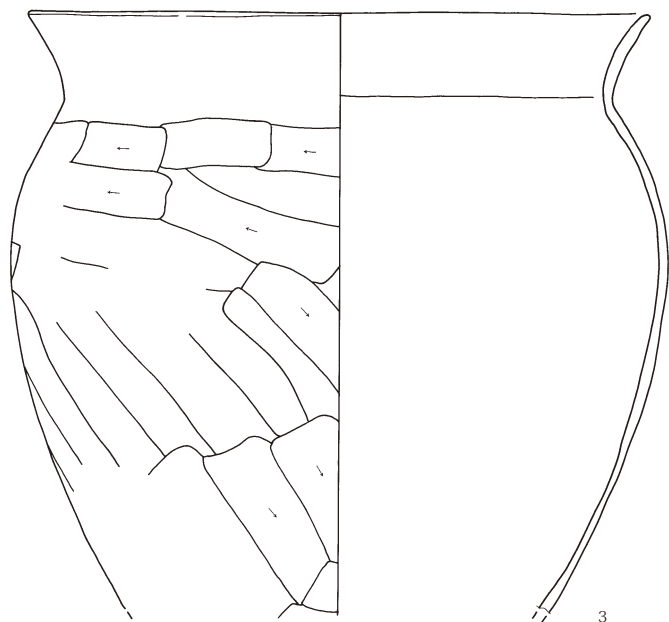
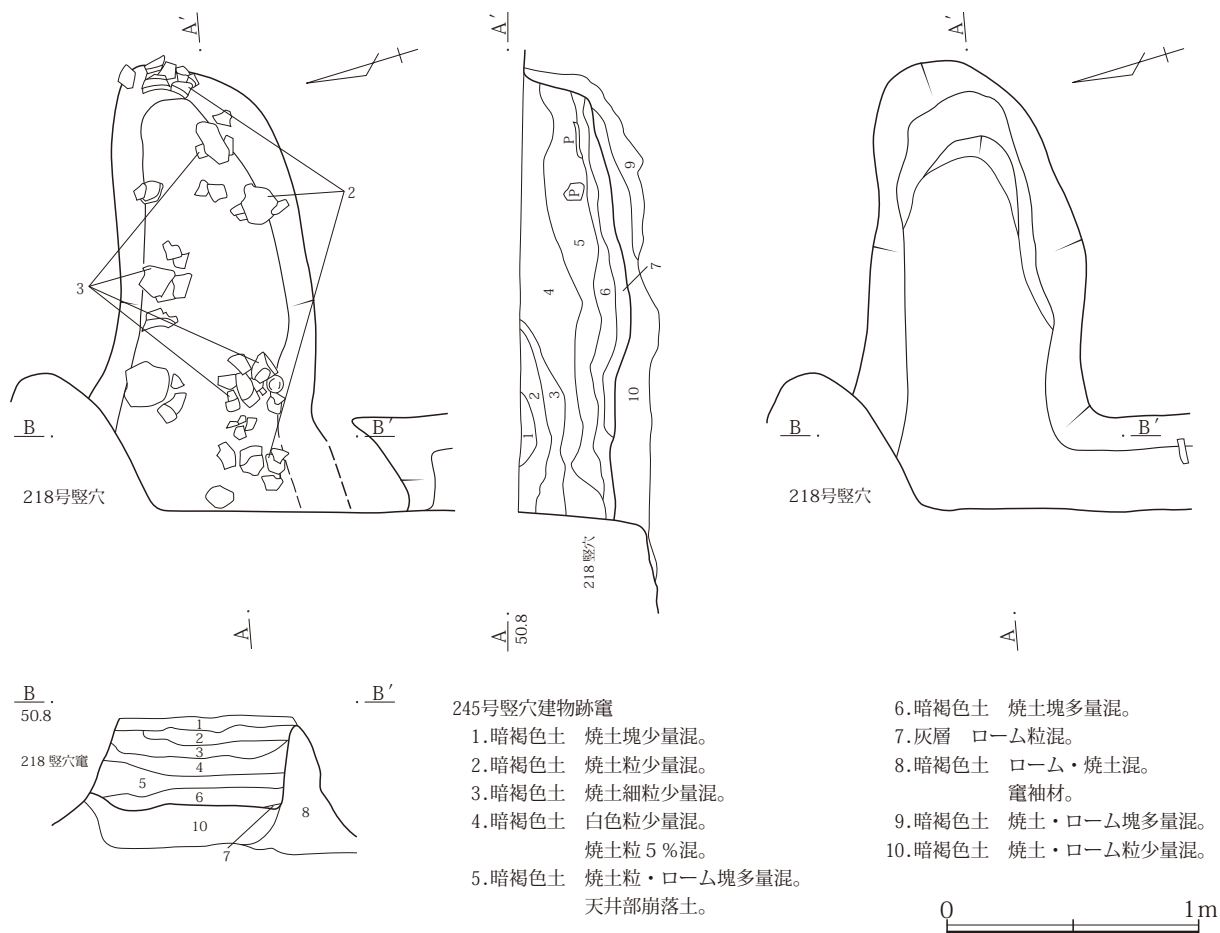
**位置：**調査区中央南東寄り。X335~340・Y-785~790Gr. **主軸方位：**N-95° -E **重複：**215・218・219・225・245・247号竪穴建物跡に掘り込まれる。268号竪穴建物跡を掘り込む。 **規模と形状：**東壁全体と南・北壁の一部が検出できた。長方形ないし方形を呈するものと思われる。東辺4.5m・床面までの深さ0.6m・掘方までの深さ0.85m。 **埋土：**暗褐色土ベース。 **床面：**地山を大きく掘り込んだ上をローム塊と焼土塊を多量に含む暗褐色土で埋め、さらにその上に焼土塊とローム塊を少量含んだ暗褐色土を薄く貼って平坦面を形成し、硬質な床面を形成している。厚さは約0.04~0.09m前後。 **掘方：**凹凸激しい。 **竈：**東壁のほぼ中央に取り付く。燃烧部・両袖共に地山を削り出して形成し、燃烧部は壁とほぼ同位置に造られている。煙道は全く

第2節 古墳時代後期～平安時代の遺構と遺物

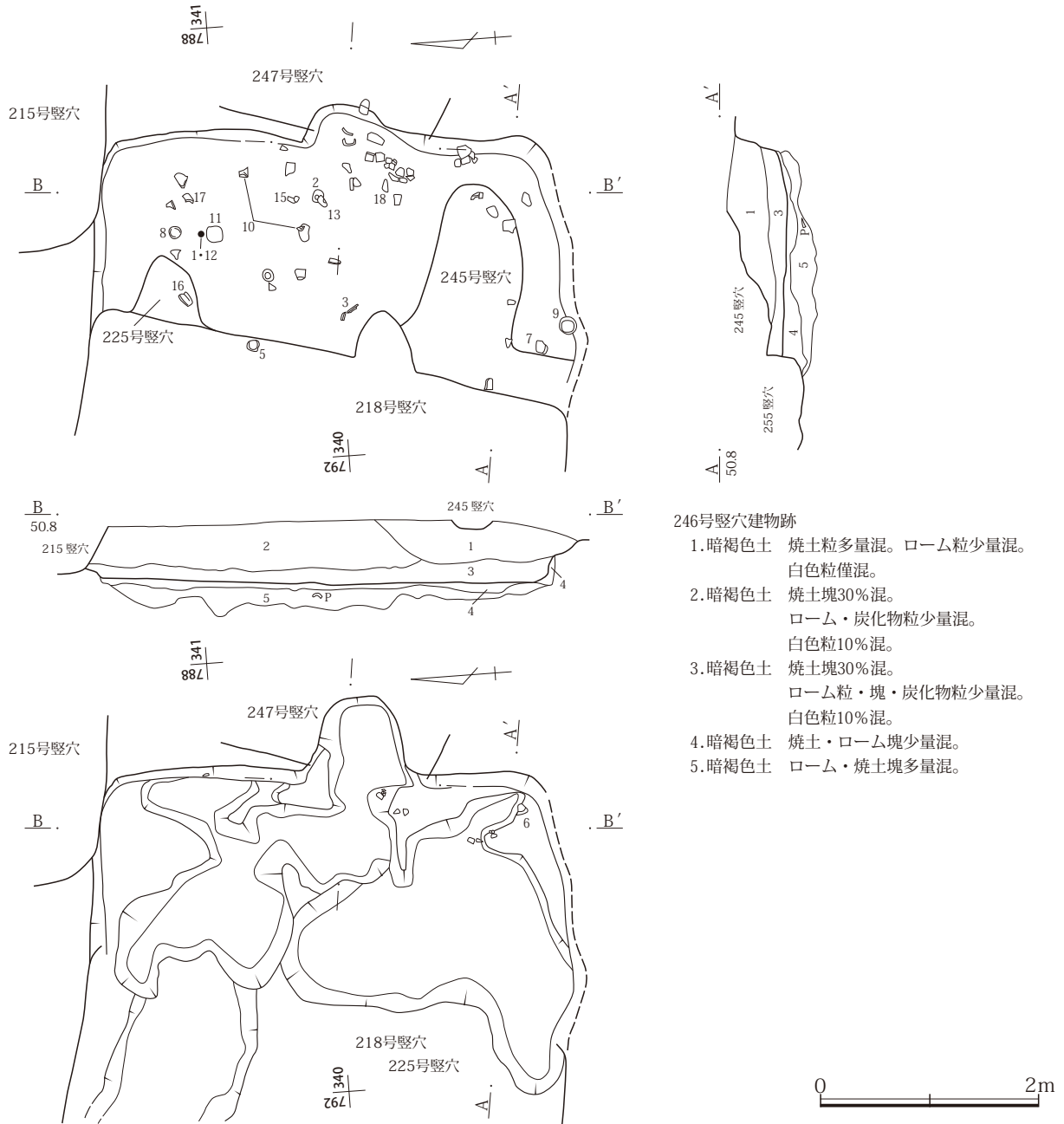


第193図 245号竪穴建物跡・出土遺物（1）

第3章 発見された遺構と遺物



第194図 245号竪穴建物跡竈・出土遺物(2)



第195図 246号竪穴建物跡

検出できなかった。両袖は内側に全く張り出さない。小規模である。貯蔵穴：未検出。時期：8 C 4。遺物：建物内に散在。床直からは須恵器皿（1）、同椀蓋（2）、同盤（11）、同甕（17）、土師器甕（16）が出土。他は埋土中から出土。

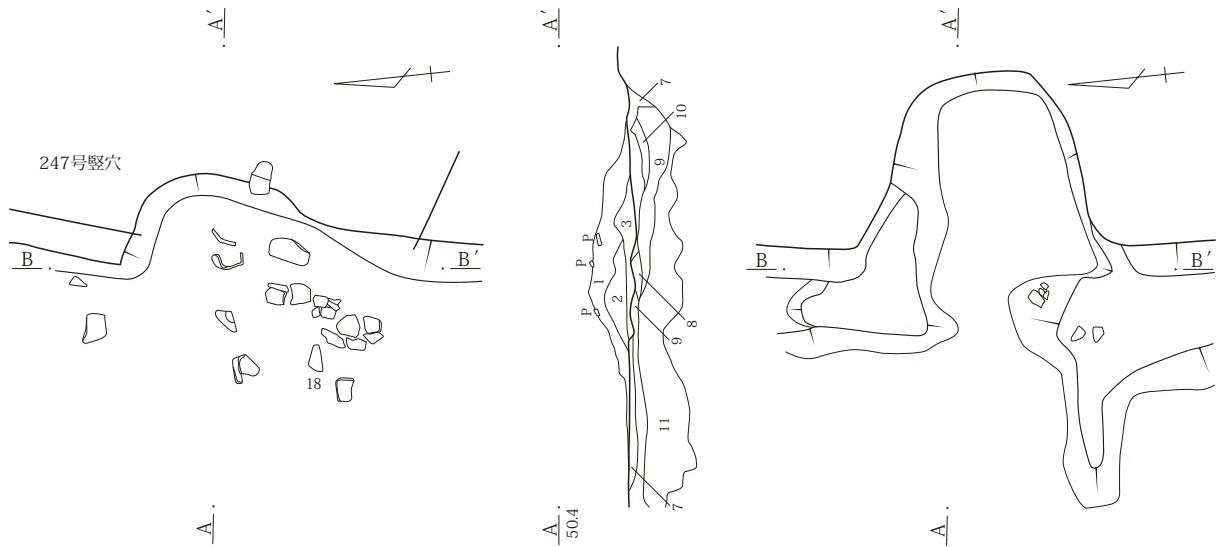
(45) 247号竪穴建物跡

位置：調査区中央南東寄り。X 335~340・Y-785Gr.

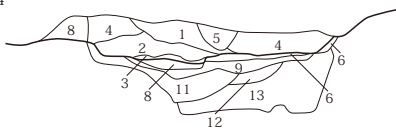
主軸方位：N-104° -E 重複：215号竪穴建物跡に掘り込まれる。246・252号竪穴建物跡を掘り込む。

規模と形状：南北に長い長方形を呈するものと思われる。長辺（3.6）m・短辺3.35m・床面までの深さ0.42m・掘方までの深さ0.58m。埋土：暗褐色土ベース。床面：地山を大きく掘り込んだ上をローム塊を含む暗褐色土で埋めて平坦面を形成し、硬質な床面を形成している。厚さは約0.16m前

第3章 発見された遺構と遺物



B.  
50.4



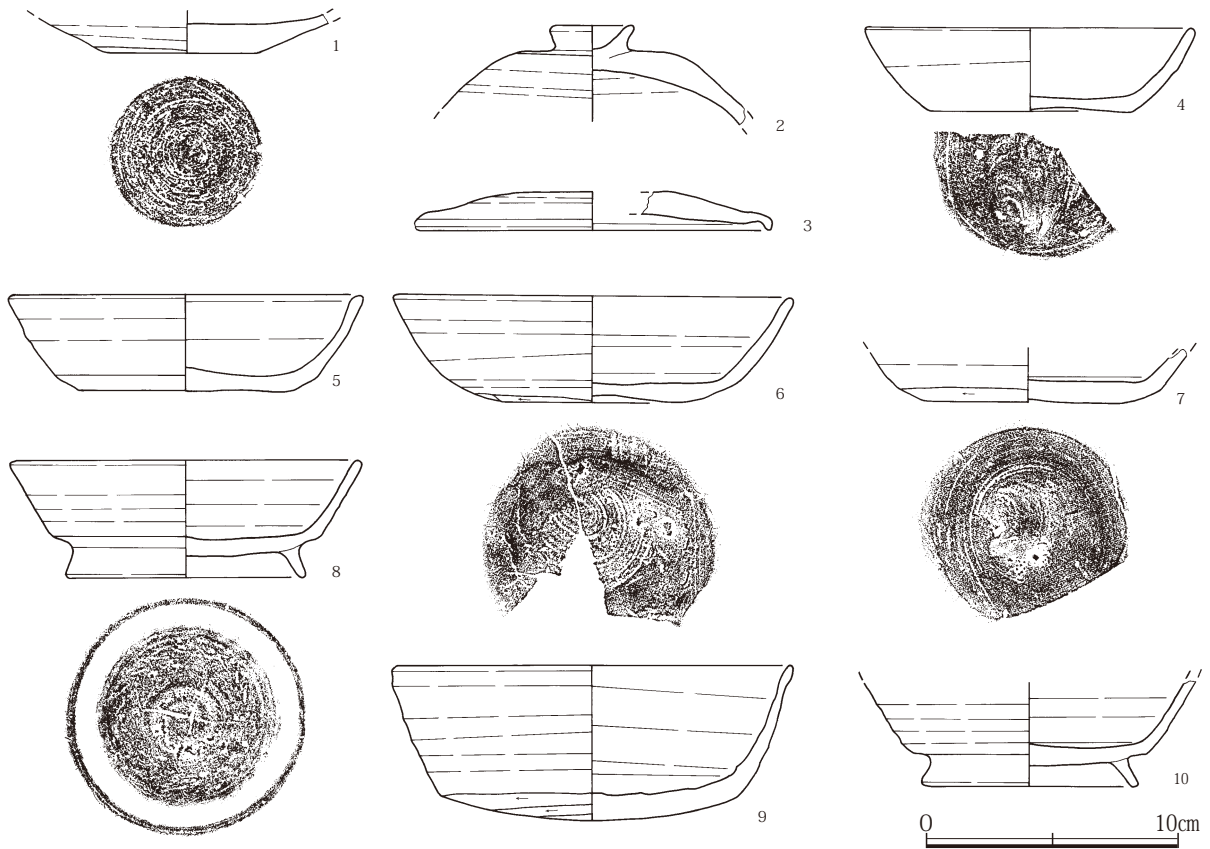
246号竪穴建物跡竈

1. 暗褐色土 焼土・ローム粒少量混。
2. 暗褐色土 焼土・ローム粒多量混。
3. 灰層 焼土塊多量混。

B'

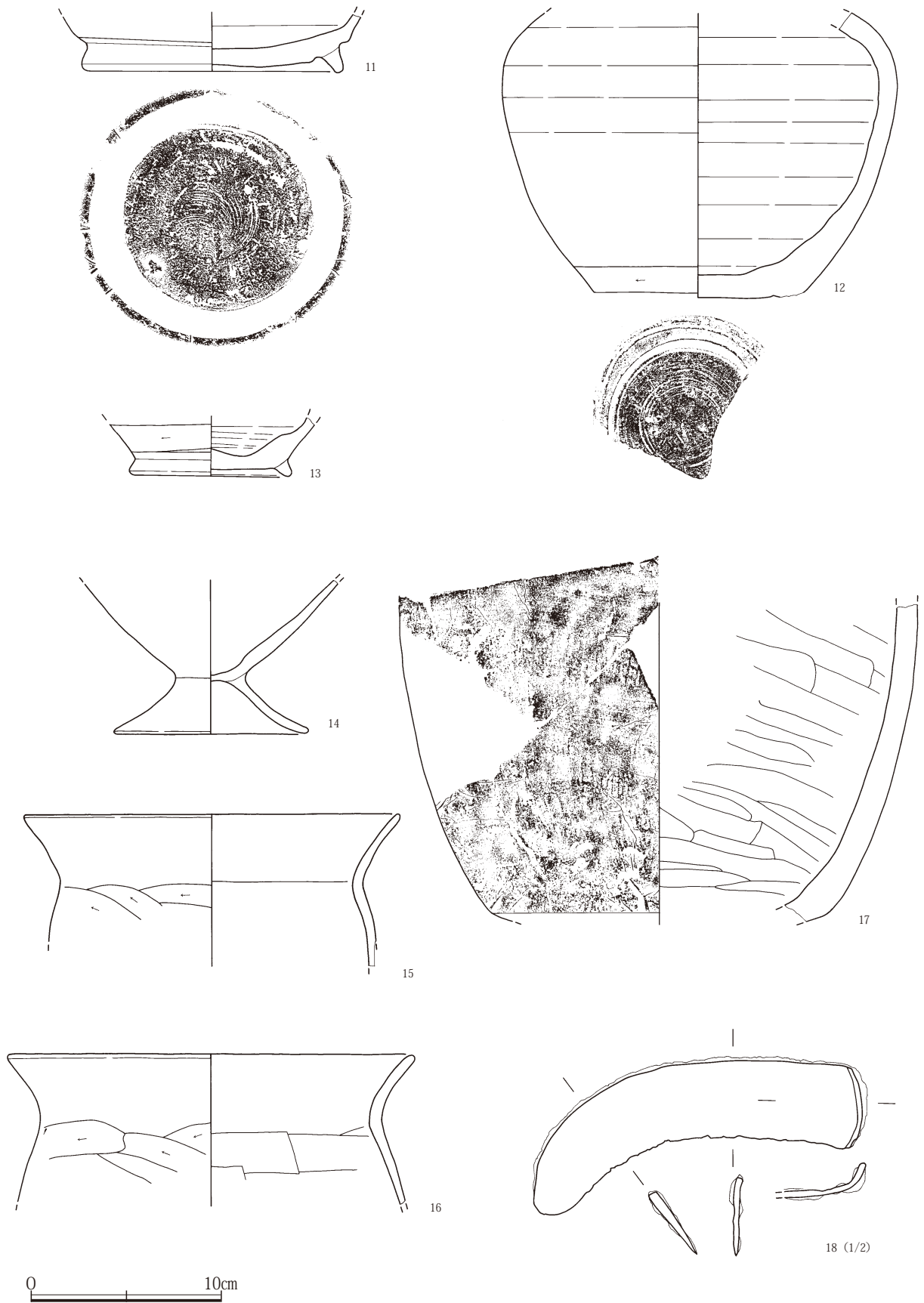
4. 暗褐色土 ローム粒多量混。白色・焼土粒僅混。
5. 暗褐色土 黒褐色土混。ローム塊20%混。
6. 暗褐色土 焼土粒多量混。ローム粒少量混。白色粒僅混。
7. 暗褐色土 ローム・焼土粒少量混。
8. 暗褐色土 黒褐色土・焼土塊多量混。
9. 暗褐色土 ローム塊40%混。
10. 暗褐色土 ローム粒・焼土細粒多量混。
11. 暗褐色土 乳白色粘土質ローム多量混。
12. 灰層 焼土塊混。
13. 暗褐色土 ローム多量混。焼土塊少量混。

0 1m



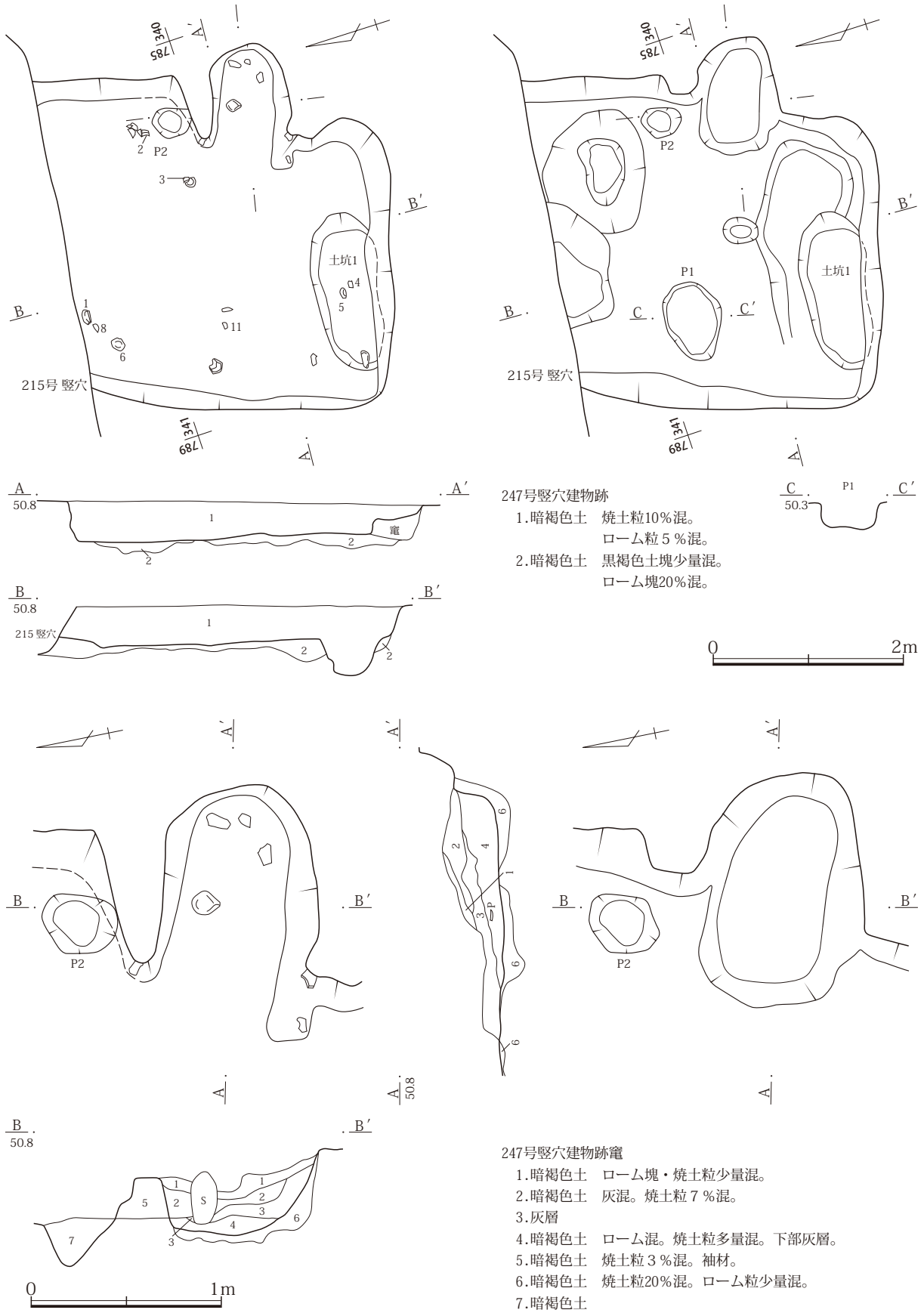
0 10cm

第196図 246号竪穴建物跡竈・出土遺物(1)



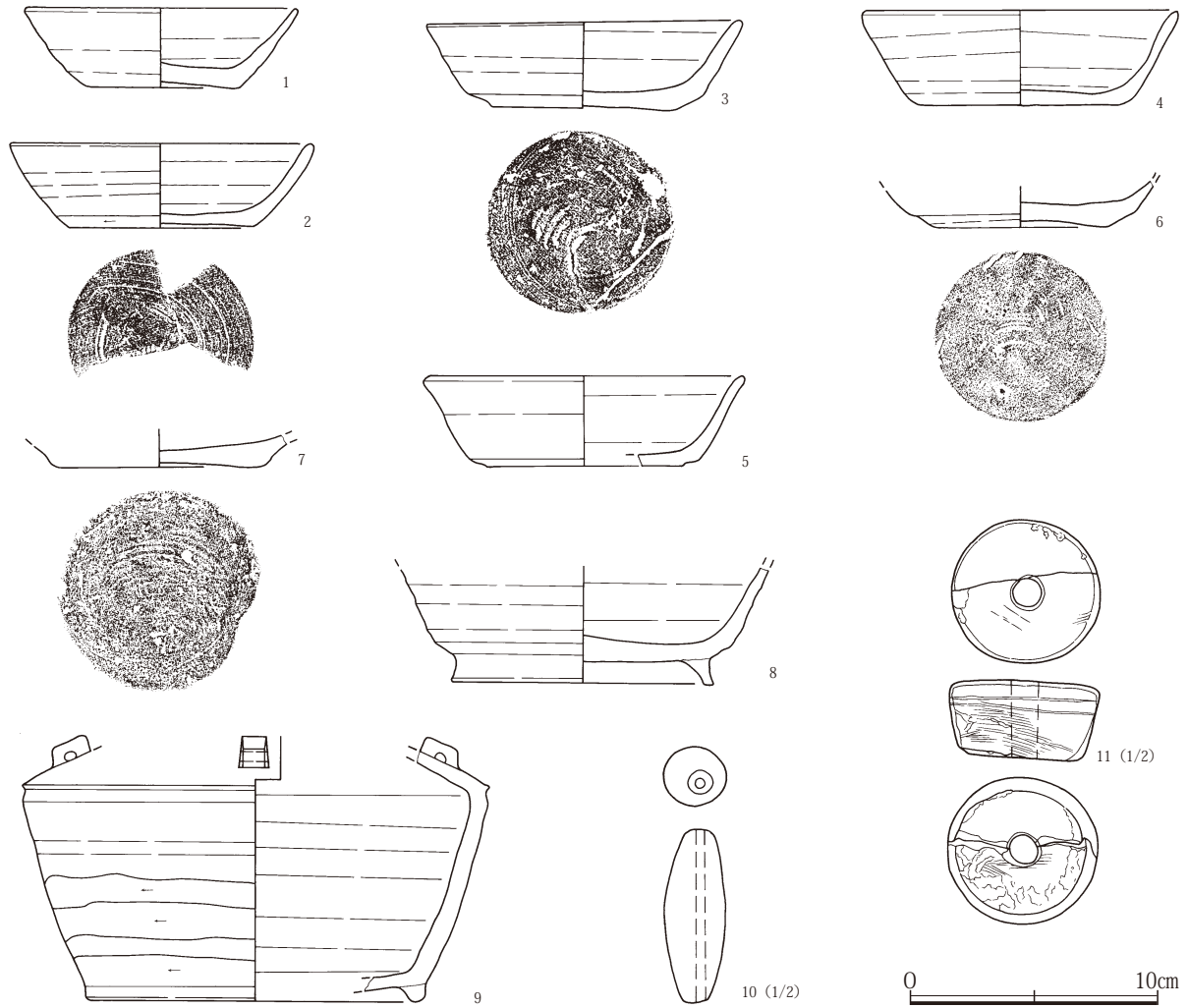
第197図 246号竪穴建物跡出土遺物（2）

第3章 発見された遺構と遺物



第198図 247号竪穴建物跡





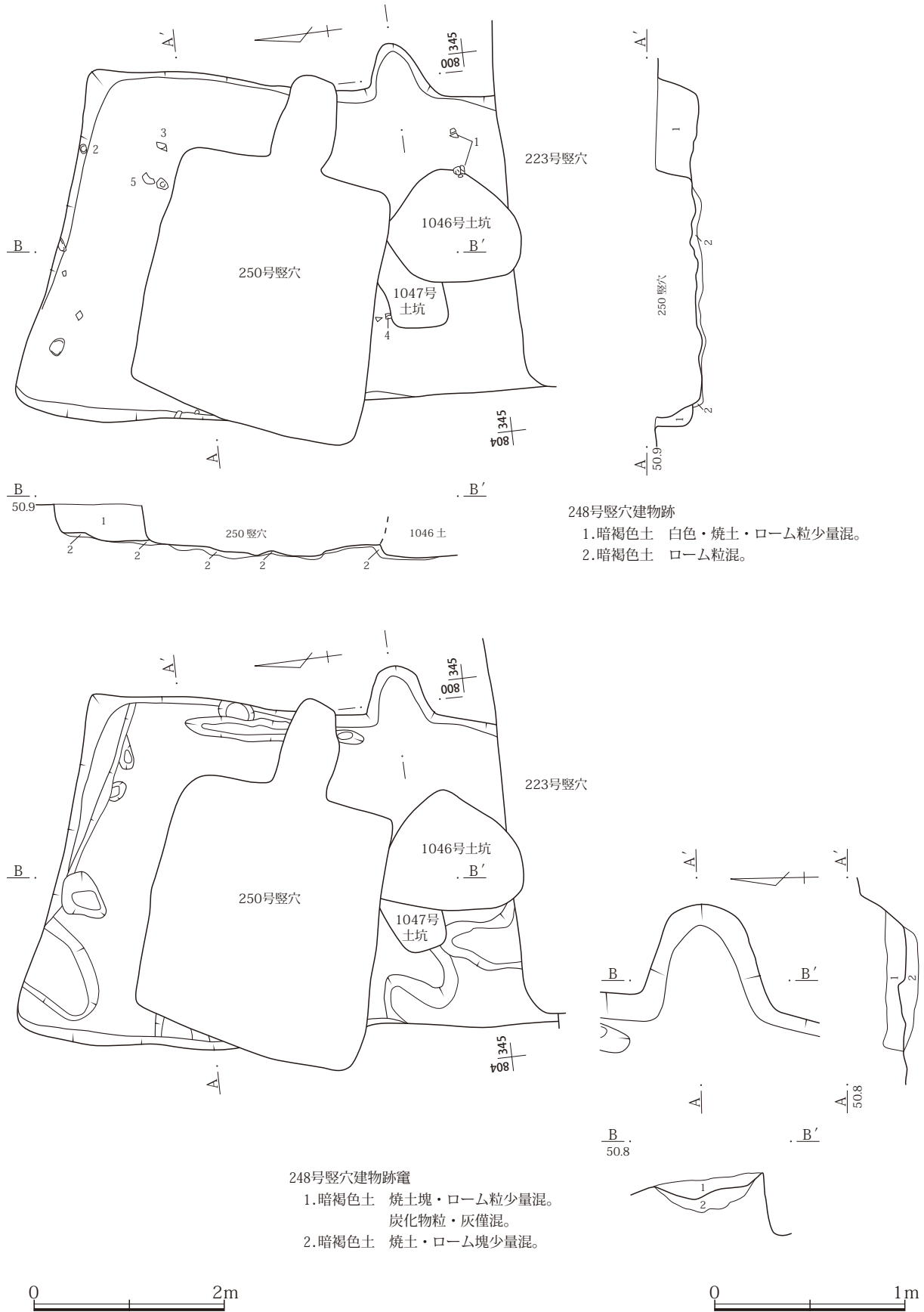
第199図 247号竪穴建物跡出土遺物

後。南壁際に長円形状の一段深い掘り込みが検出された。**掘方**：凹凸激しい。南・東の壁際から中央にかけて床下土坑状の深い掘り込みがいくつもみられる。**竈**：東壁南寄りに取り付く。燃焼部は地山を削り出して形成し、壁とほぼ同位置に造られている。煙道は明確には検出できなかった。両袖は粘土を貼って構築され、内側にやや大きく張り出す。小規模である。**貯蔵穴**：なし。**柱穴・pit**：土坑1長径1.48m・短径0.71m・深さ0.33m、pit1長径0.84m・短径0.6m・深さ0.28m、pit2長径0.4m・短径0.34m・深さ0.26m。**時期**：8C後。**遺物**：建物内に散在。床直から須恵器杯2点（2・5）出土。他は埋土中からの出土。

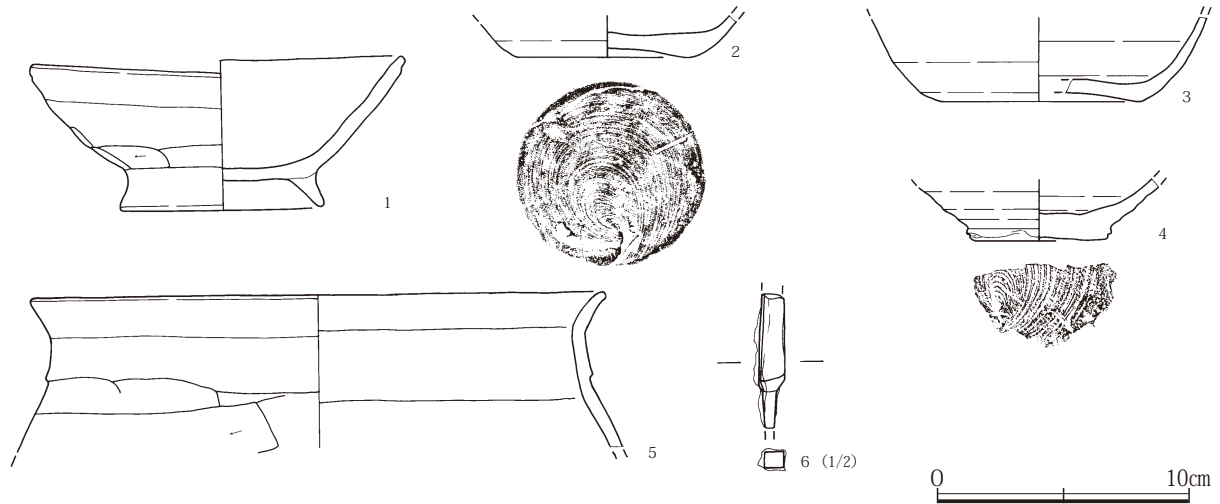
(46) 248号竪穴建物跡

**位置**：調査区中央よりやや南寄り。X340-350・Y-795~800Gr。**主軸方位**：N-99°-E **重複**：223・232・250号竪穴建物跡、1046・1047号土坑跡に破壊される。265・269・271号竪穴建物跡、1038・1039・1055号土坑跡を掘り込む。**規模と形状**：南北に長い長方形を呈する。本遺跡検出の竪穴建物跡の中では極めて特異な形状を呈している。長辺（5.38）m・短辺3.65m・床面までの深さ0.42m・掘り込みの深さ0.5m。**埋土**：暗褐色土ベース。**床面**：破壊されていて不明。**掘方**：地山を大きく掘り込んでおり、凹凸が著しい。とくに壁際には床下土坑状の掘り込みがいくつも連続してみられる。**竈**：東壁に取り付く。燃焼部・両袖は地山

第3章 発見された遺構と遺物



第200図 248号竪穴建物跡



第201図 248号竪穴建物跡出土遺物

を削りだして形成している。煙道は顕著には検出されなかった。両袖は地山を削りだして形成され、内側にまったく張り出さない。燃烧部は若干奥側に形成されている。貯蔵穴：未検出。時期：9 C 3。遺物：いずれも掘方からの出土。

(47) 249号竪穴建物跡

位置：調査区中央から南東寄り。X340・Y-795Gr.

主軸方位：不明。重複：218・235号竪穴建物跡に掘り込まれる。266号竪穴建物跡を掘り込む。

規模と形状：西北隅を中心に竪穴建物跡の約1/5程度が検出されたに過ぎない。使用面の痕跡はある程度つかめたが、掘方に近い状況である。長辺(2.64)m・短辺(1.9)m・床面までの深さ0.34m・掘方までの深さ0.53m。埋土：暗褐色土ベース。床面：地山を大きく削り込んだ上にローム塊を含む暗褐色土を貼って硬質で平坦な床面を形成している。床面の厚さは約0.08～0.3m。掘方：検出された北側と西側の壁際に、とくに1段深く掘り込んだ床下土坑状の深い掘り込みが連続する。全体に凹凸が大きい。竈：未検出。貯蔵穴：未検出。土坑・pit：pit1長径0.81m・短径0.58m・深さ0.56m。土坑1長径1.9m以上・短径0.58m・深さ0.1m。

時期：8 C 2。遺物：床直からは土師器椀が1点(3)。他は埋土からの出土。

(48) 250号竪穴建物跡

位置：調査区中央やや南寄り。X345・Y-800Gr.

主軸方位：N-110° -E 重複：248・265号竪穴建物跡を掘り込む。

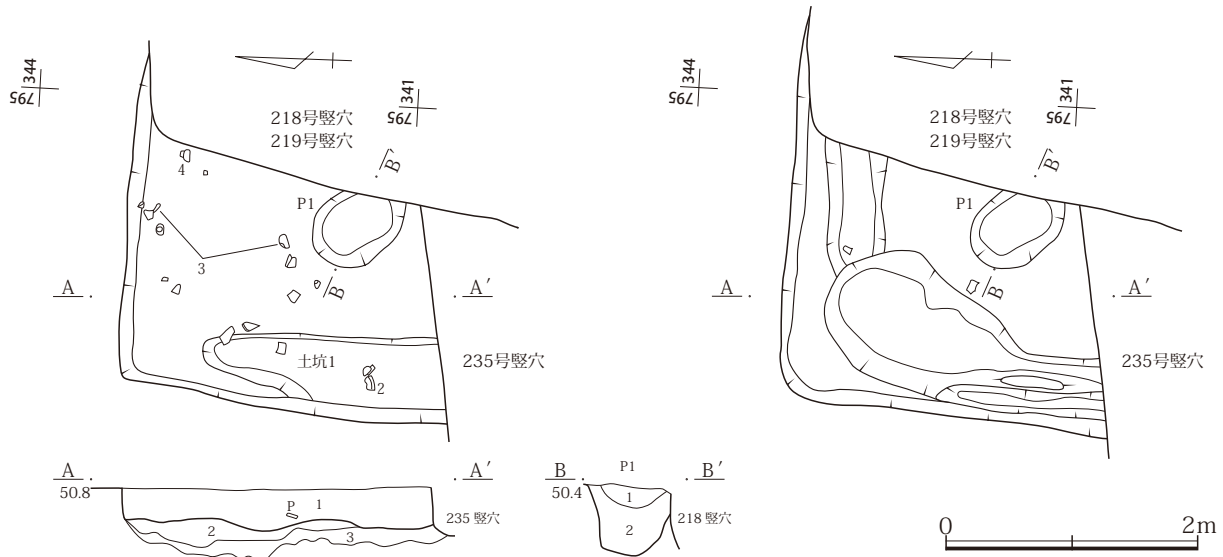
規模と形状：西北西-東南東にやや長い長方形を呈する。長辺2.73m・短辺2.45m・床面までの深さ0.43m・掘方までの深さ0.53m。埋土：暗褐色土ベース。床面：重複が甚だしく検出が困難を極め、結果的にはほぼ掘方のみの検出であった。使用面や床等を面的に検出することは結果的に難しく、断面によって確認した。全体に凹凸激しく、床下土坑状に何箇所も掘り窪められた上にローム塊を多量に含む暗褐色土を貼って硬質な平坦面を形成し、床面としている。掘方：地山を大きく掘り込んでおり、凹凸が著しい。竈前から中央部、西壁際にかけていくつもの床下土坑を連結させたような掘り窪みが形成されている。竈：東壁に取り付く。燃烧部・両袖は地山を削りだして形成している。煙道は外側にやや長く延びている。燃烧部は奥側に形成されている。貯蔵穴：なし。時期：9 C 4。遺物：すべて埋土中からの出土。

(49) 251号竪穴建物跡

位置：調査区ほぼ中央。X340-350・Y-790-795Gr.

主軸方位：N-92° -E 重複：255・256・257号竪穴建物跡に掘り込まれる。258・265・266・296・313号竪穴建物跡を掘り込む。規模と形状：中央

第3章 発見された遺構と遺物

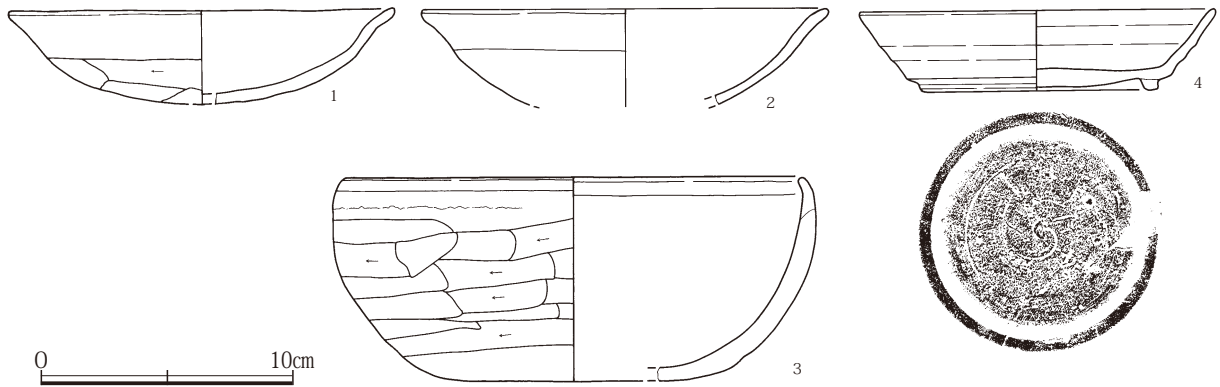


249号竪穴建物跡

- 1. 暗褐色土 白色・焼土・ローム粒少量混。
- 2. 暗褐色土 ローム塊20%混。
- 3. 暗褐色土 黒褐色土塊を全体に混。ローム塊多量混。

249号竪穴建物跡pit1

- 1. 暗褐色土 黒褐色土粒混。焼土粒、ローム粒・小塊少量混。
- 2. 暗褐色土 緑黄色砂質土粒全体に少量混。ローム粒僅混。



第202図 249号竪穴建物跡・出土遺物

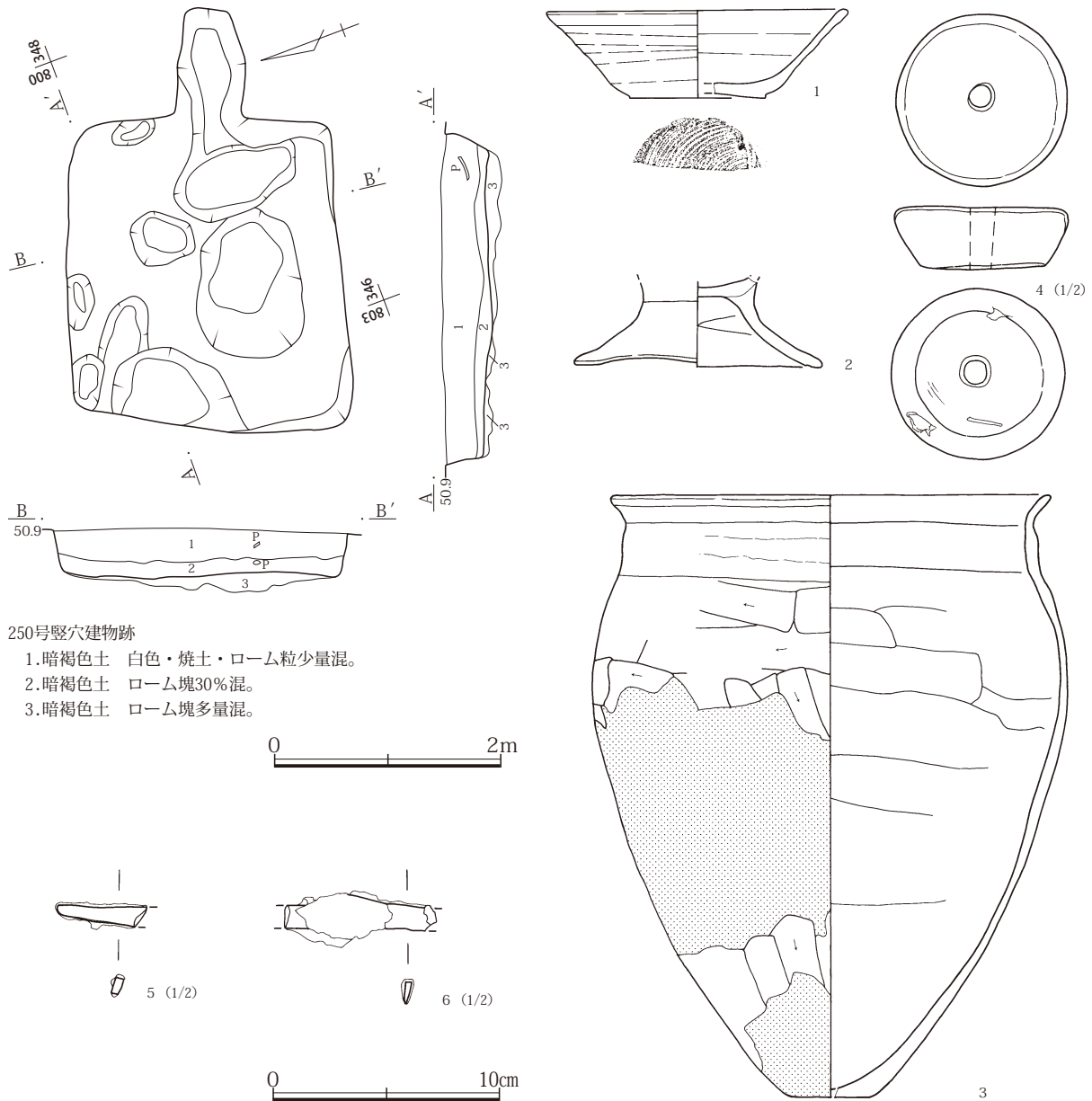
部～北壁～北西隅～西壁にかけて何棟もの竪穴建物跡によって破壊され、全容は不明な点が多い。248号竪穴建物跡同様、南北に長い長方形形状を呈し、本遺跡検出の竪穴建物跡の中では極めて特異な形状を呈している。長辺6.75m・短辺4.56m・深さ0.5m・掘方までの深さは0.64m。埋土：暗褐色土ベース。

床面：地山を大きく削り込んだ上にローム塊を少量含む暗褐色土を貼って硬質で平坦な床面を形成している。床面の厚さは約0.14m。掘方：壁際に凹凸が大きい。竈：東壁のほぼ中央に取り付く。燃焼部及び両袖は地山を削りだして形成され、煙道は建物の外側に若干延びる。燃焼部は若干奥側に造られている。両袖は内側に全く張り出さない。全体的

に小規模。貯蔵穴：未検出。時期：古代。遺物：建物の重複が激しく、他遺構からの混入も多いものと思われる。埋土中より出土した鉈尾は、銚帯ではなく馬具とみられる。

(50) 252号竪穴建物跡

位置：調査区中央から南東寄り。X335~340・Y-780~785Gr。主軸方位：不明。重複：215・247号竪穴建物跡に掘り込まれる。253号竪穴建物跡を掘り込む。規模と形状：破壊が甚だしく形状は不明。床面までの深さは約0.4m・掘方までの深さは約0.48m。埋土：暗褐色土ベース。床面：地山を大きく掘り込んだ上をローム塊を多量に含む暗



250号竪穴建物跡

1. 暗褐色土 白色・焼土・ローム粒少量混。
2. 暗褐色土 ローム塊30%混。
3. 暗褐色土 ローム塊多量混。

第203図 250号竪穴建物跡・出土遺物

褐色土で埋めて平坦面を形成し、硬質な床面を形成している。厚さは約0.08m前後。掘方：凹凸激しい。竈：未検出。貯蔵穴：未検出。時期：8C前か？。遺物：すべて埋土中から。

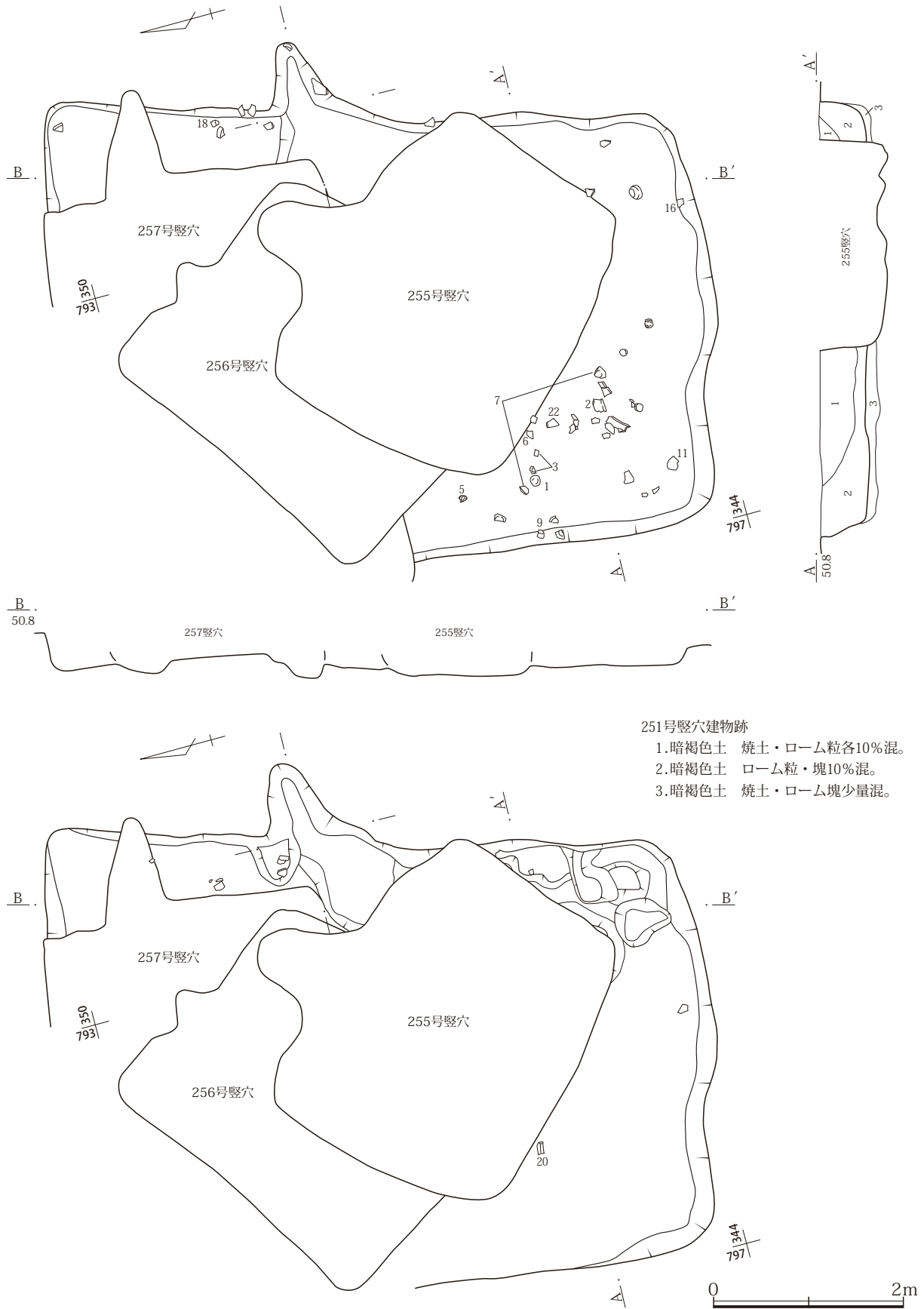
(51) 253号竪穴建物跡

位置：調査区中央から南東寄り。X335~340・Y-775~785Gr. 主軸方位：不明。重複：57号掘立柱建物跡、252号竪穴建物跡、5号井戸跡に掘り込まれる。254・276号竪穴建物跡を掘り込む。規

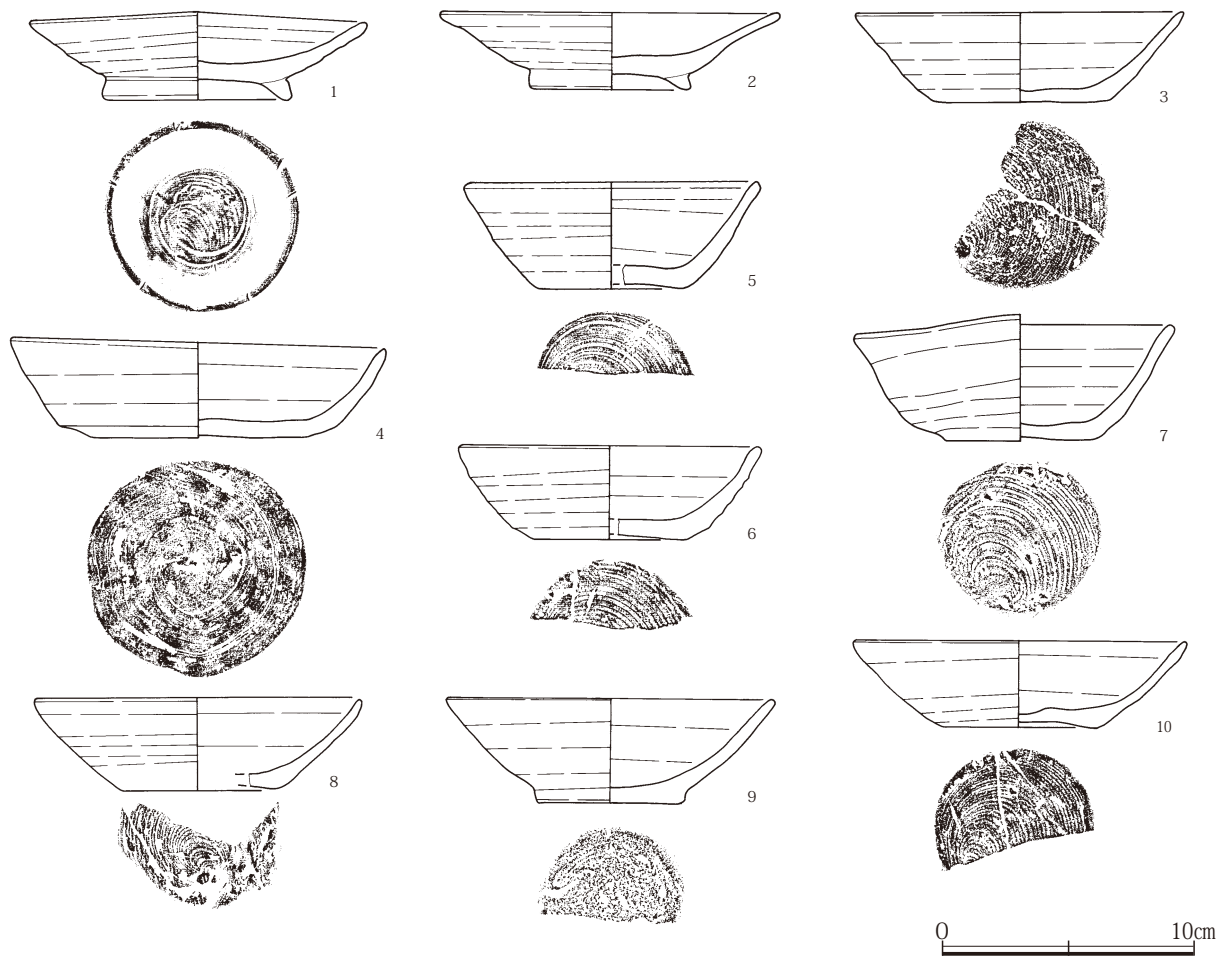
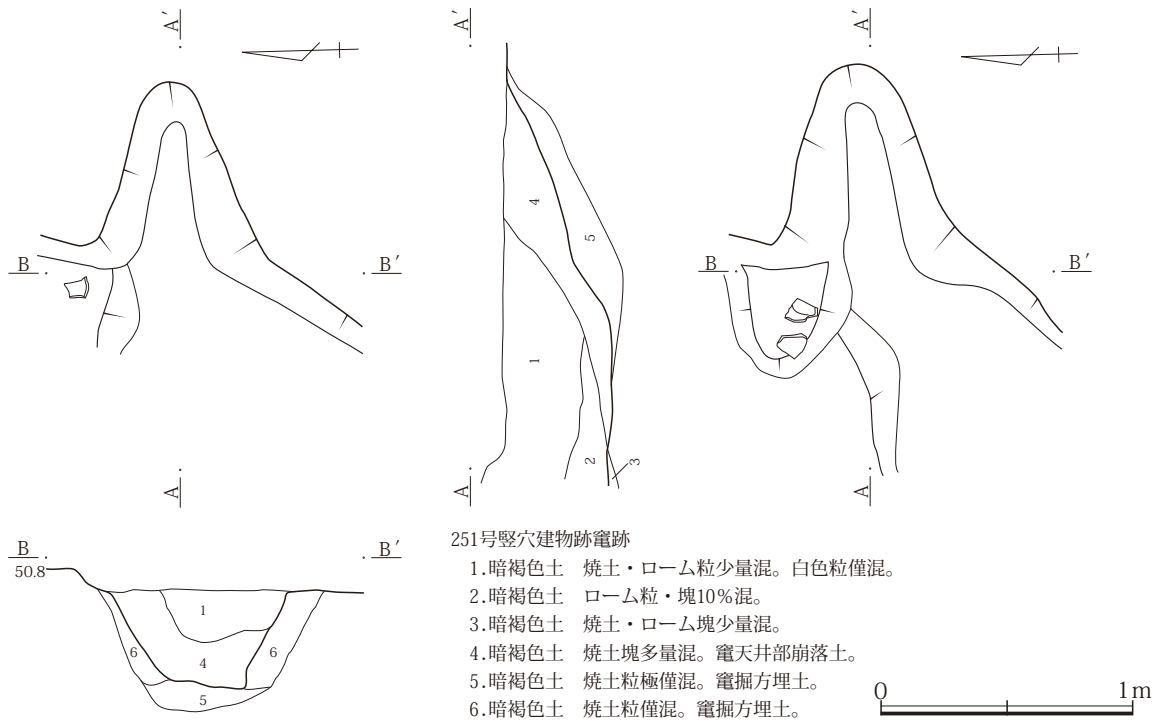
模と形状：ほぼ方形を呈する大規模な竪穴建物跡。長辺6.7m・短辺6.5m・床面までの深さ0.3m・掘方までの深さは0.48m。埋土：暗褐色土ベース。

床面：地山を比較的平坦に掘り込んだ上にローム粒を多く含んだ暗褐色土を薄く貼って平坦な床面を形成している。周溝：全周で検出された。最大上幅0.22m・最大下幅0.18m・深さ0.12m。掘方：全体的に平坦だが、壁際、周溝の部分が広く掘り窪められ、凹凸がある。壁際などには床下の土坑状の掘り込みも多数みられる。竈：北壁のほぼ中央に

第3章 発見された遺構と遺物

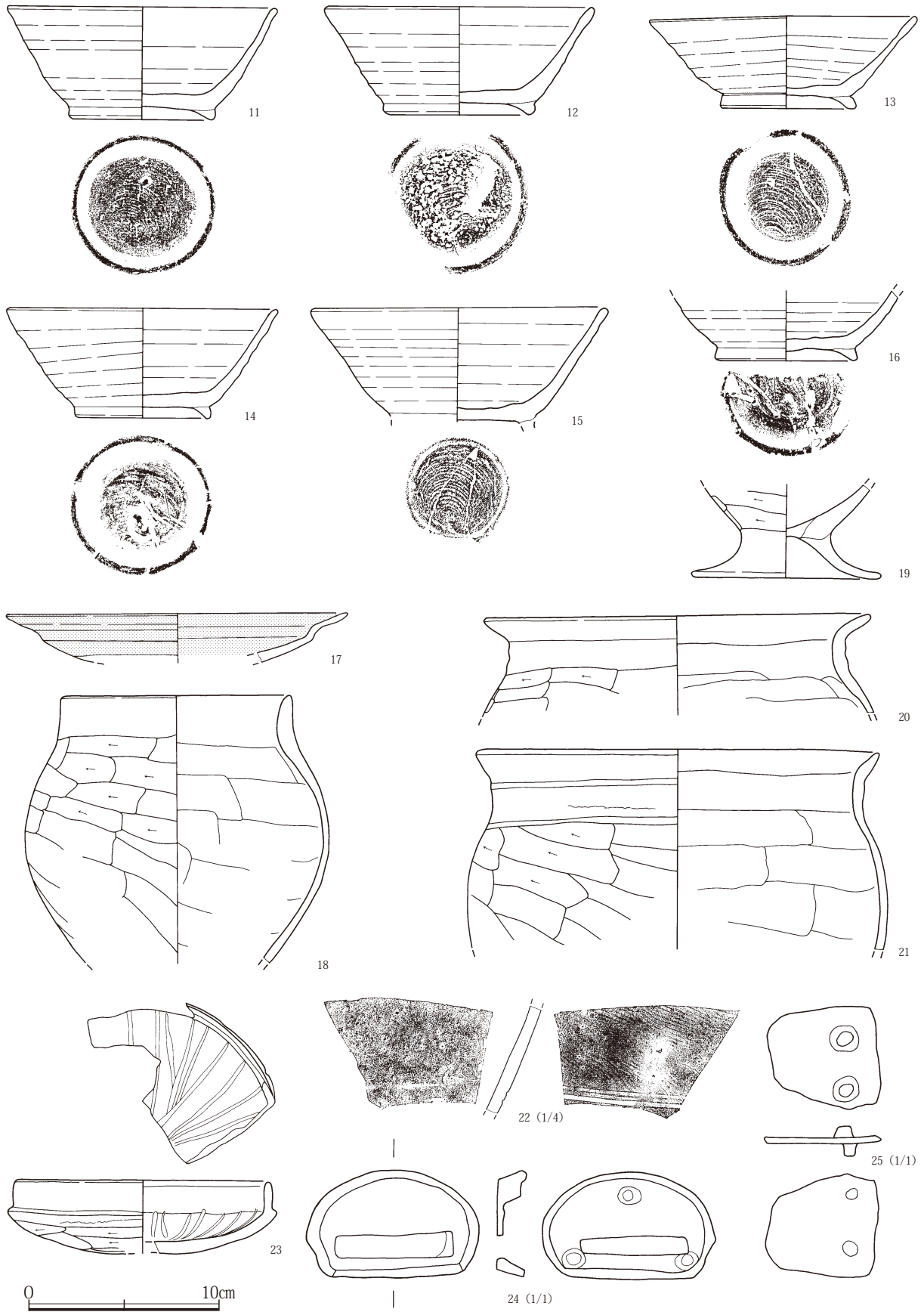


第204図 251号竪穴建物跡



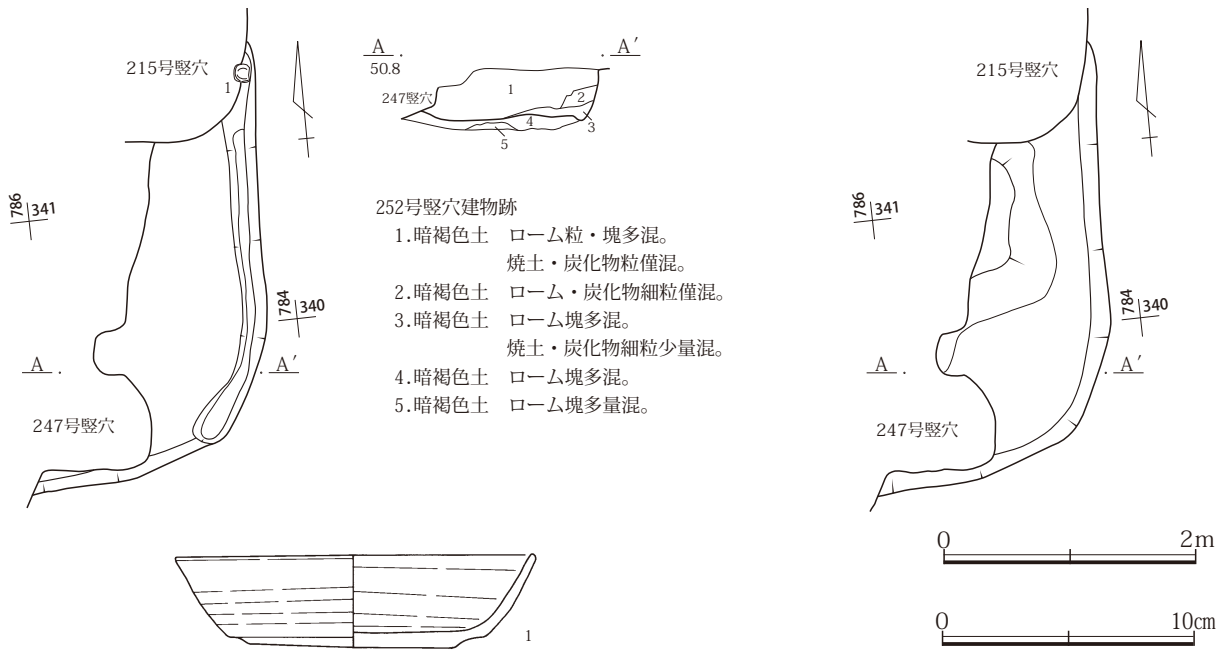
第205図 251号竪穴建物跡竈・出土遺物（1）

第3章 発見された遺構と遺物



第206図 251号竪穴建物跡出土遺物（2）





第207図 252号竪穴建物跡・出土遺物

造られていたものと推測できるが、5号井戸跡によって完全に破壊されており、痕跡を残さない。

**貯蔵穴：**北東隅で検出された。東西に長い楕円形状を呈し、長径1.68m・短径0.64m・深さ0.55m。

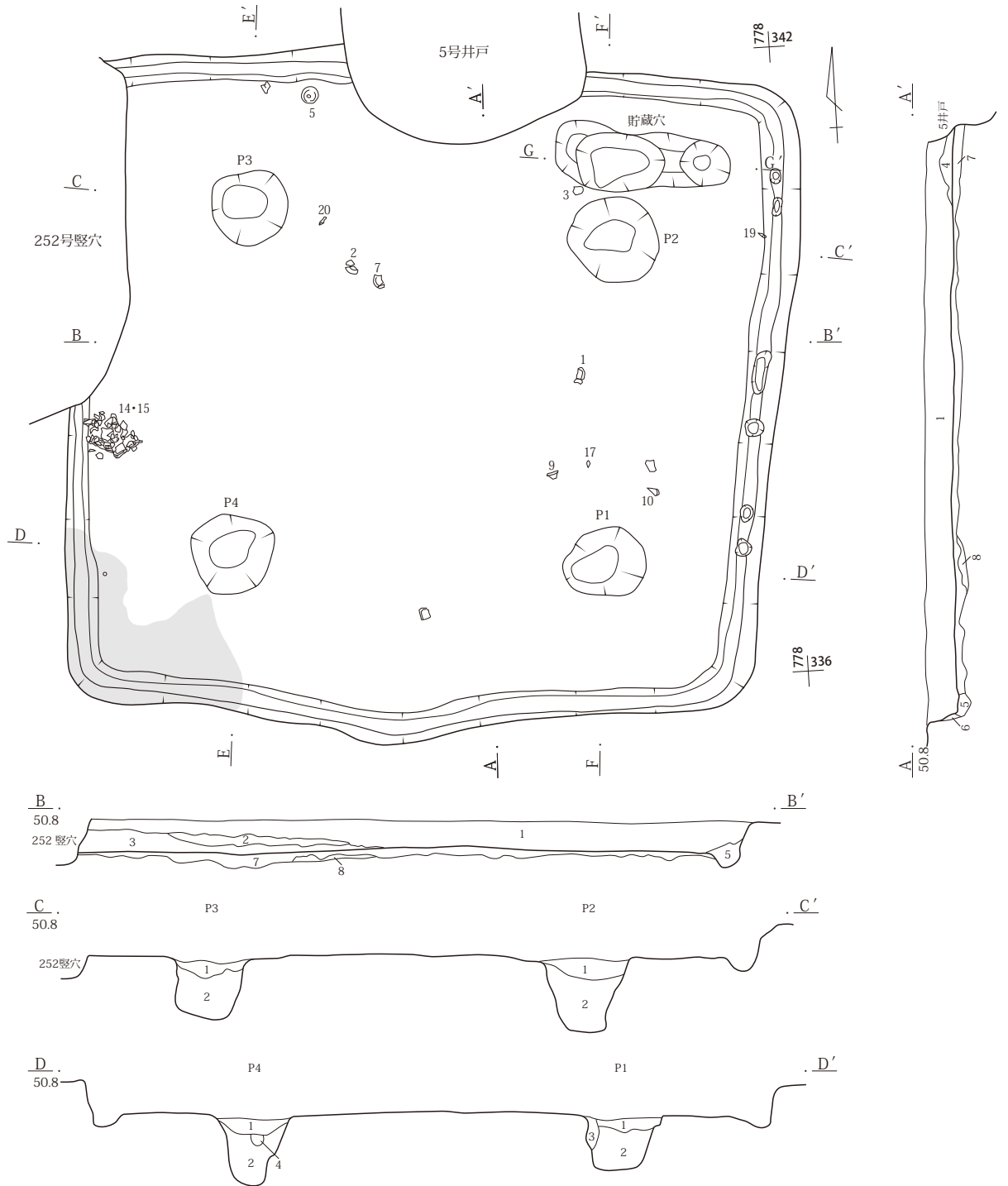
**柱穴・pit：**柱穴は4隅で検出された。いずれも若干位置を変えて建て替えられており、柱穴は2基ずつ重なり合うように検出された。pit3以外、旧柱穴はいずれも掘方での確認である。**pit1**長径0.8m・短径0.66m・深さ0.48m、**pit2**長径0.88m・短径0.8m・深さ0.66m、**pit3**長径0.72m・短径0.7m・深さ0.55m、**pit4**長径0.8m・短径0.75m・深さ0.56m、**pit8**長径0.7m・短径0.7m・深さ0.7m、**pit9**長径0.78m・短径0.62m・深さ0.4m、**pit10**長径0.6m・短径0.5m・深さ0.59m。なお、これら柱穴の他に掘方面の調査において床下のpitが3基検出されている。**pit5**長径0.55m・短径0.39m・深さ0.1m、**pit6**長径0.5m・短径0.33m・深さ0.19m、**pit7**長径0.48m・短径0.33m・深さ0.19m。 **時期：**8C1とみられるが、9C2の遺物の混入も多い。**遺物：**埋土出土遺物21番は種子。写真有り、実測図無し。遺物は建物内に散在。いずれも埋土からの出土。鉄器（鏃1・刀子3）が出土しているのが注目される。

(52) 254号竪穴建物跡

**位置：**調査区中央から南東寄り。X330-340・Y-770～775Gr. **主軸方位：**N-32°-W **重複：**242・243・253号竪穴建物跡、1049号土坑跡に掘り込まれる。275・276号竪穴建物跡を掘り込む。 **規模と形状：**ほぼ方形を呈する大規模な竪穴建物跡。長辺6.83m・短辺6.7m・床面までの深さ0.37m・掘方までの深さは0.42m。 **埋土：**暗褐色土ベース。

**床面：**地山を比較的平坦に掘り込んだ上にローム粒を多く含んだ暗褐色土を薄く貼って平坦な床面を形成している。 **掘方：**全体的に平坦だが、とくに中央部及び南側において一段深く掘り窪められ、凹凸が激しい。 **竈：**北西壁のほぼ中央に造られている。燃焼部及び袖から煙道に至る北東側約半分が後世の攪乱により破壊されている。燃焼部及び袖は地山を削りだして形成されており、燃焼部は建物の壁よりも内側に造られ、両袖は地山を段状に削り出した上に鈍い黄褐色土を貼って構築し、建物の内側に大きく張り出している。煙道は外側に長く延びており、壁にはロームを薄く貼って補強している。 **貯蔵穴：**竈の東側で検出されたpit1。北西-南東方向に長い隅丸の長方形を呈し、長辺0.94m・短辺0.67

第3章 発見された遺構と遺物



253号竪穴建物跡

1. 暗褐色土 焼土粒やや多混。白色細粒混。  
炭化物・ローム粒少量混。
2. 黒褐色土 白色粒混。焼土・炭化物・ローム細粒少量混。
3. 暗褐色土 焼土粒多混。炭化物・ローム粒少量混。
4. 暗褐色土 ローム塊多混。焼土粒やや多混。
5. 暗褐色土 やや暗い。ローム粒少量混。焼土・炭化物粒僅混。
6. 鈍い黄褐色土 ローム塊。地山崩落土。
7. 暗褐色土 ローム塊多混。黒褐色土塊・焼土粒少量混。
8. 鈍い黄褐色土 地山ローム主体。

253号竪穴建物跡柱穴埋土

1. 暗褐色土 ローム粒・小塊、焼土粒少量混。
2. 暗褐色土 やや黄色味を帯びる。  
ローム粒・塊、暗褐色土・黒褐色土粒斑に混。
3. 鈍い黄褐色土 ローム粒・塊やや多混。  
暗褐色土・黒褐色土粒斑に混。
4. 暗褐色土 ローム粒・小塊混。焼土粒少量混。

0 2m

第208図 253号竪穴建物跡

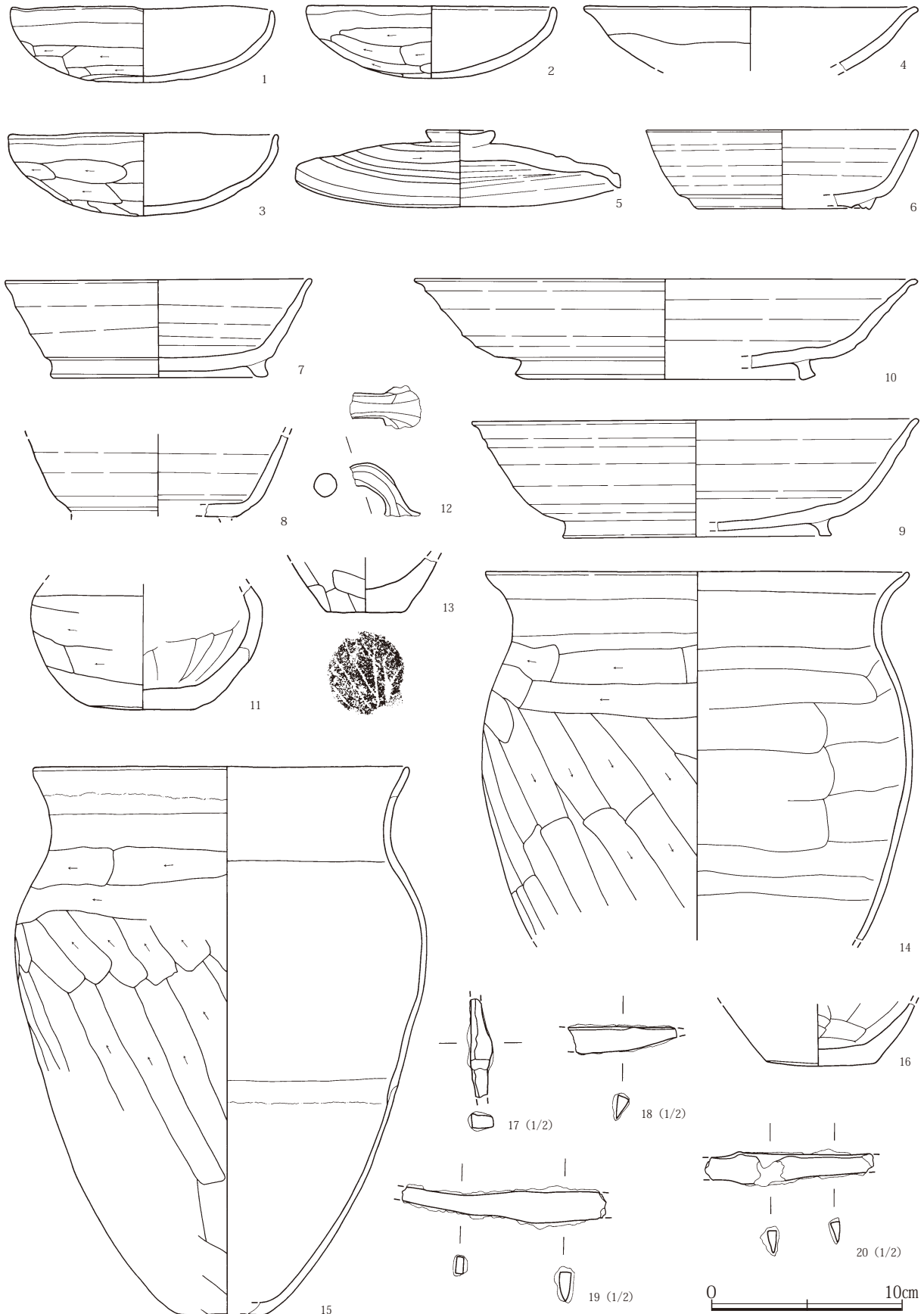


- 253号竪穴建物跡貯蔵穴埋土。
1. 暗褐色土 ローム・焼土粒やや多混。炭化物粒・塊少量混。
  2. 暗褐色土 ローム粒・塊多混。焼土・炭化物粒僅混。
  3. 暗褐色土 ローム・焼土・炭化物粒少量混。
  4. 暗褐色土 ローム粒・塊多量混。焼土・炭化物粒僅混

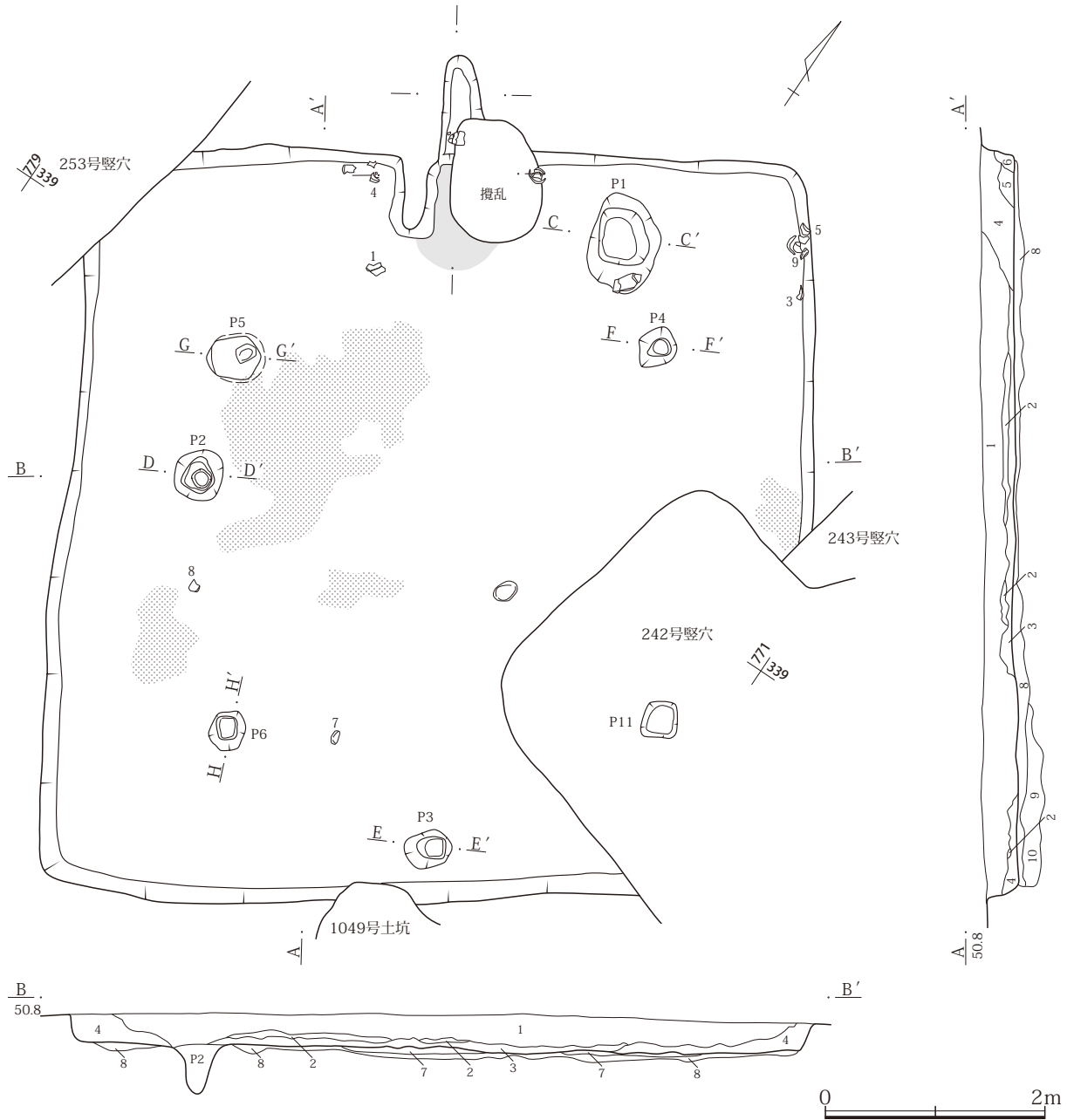
- 253号竪穴建物跡床下柱穴・pit埋土
- |   |   |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 暗褐色土 ローム粒・小塊多混。焼土粒少量混。</li> <li>2. 黒褐色土 ローム粒少量混。</li> <li>3. 暗褐色土 ローム粒・小塊多混。</li> <li>4. 暗褐色土 ローム粒多混。小礫混。</li> <li>5. 鈍い黄褐色土 ローム・暗褐色土粒・塊斑に混合。小礫混。</li> <li>6. 暗褐色土 やや明るい色調。ほぼ均質。</li> <li>7. 暗褐色土 灰混。焼土粒少量混。</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>8. 暗褐色土 ローム粒・小塊多混。</li> <li>9. 暗褐色土 ローム粒・小塊少量混。焼土粒僅混。</li> <li>10. 鈍い黄褐色土 ローム塊の間を暗褐色土が埋める。</li> <li>11. 暗褐色土 ローム粒・塊多量混。</li> <li>12. 暗褐色土 ローム粒・塊多混。</li> <li>13. 黒褐色土 ローム粒・小塊僅混。</li> <li>14. 暗褐色土 ローム粒・塊多量混。</li> </ol> |
|---|---|

第209図 253号竪穴建物跡掘方

第3章 発見された遺構と遺物



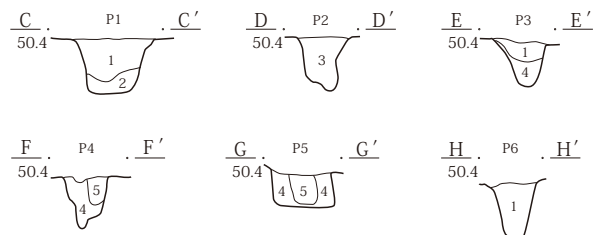
第210図 253号竪穴建物跡出土遺物



254号竖穴建物跡

1. 暗褐色土 白色粒混。ローム粒・塊少量混。  
焼土・炭化物粒僅混。
2. 黄褐色粘質土 埋土中に層状に挟まれる。
3. 暗褐色土 ローム粒・塊少量混。
4. 暗褐色土 ローム粒やや多混。

5. 暗褐色土 ローム・焼土粒僅混。
6. 暗褐色土 砂質ローム粒多混。
7. 暗褐色土 ローム粒多混。焼土粒僅混。
8. 暗褐色土 ローム粒多混。
9. 暗褐色土 ローム粒多混。ローム塊点在。
10. 鈍い黄褐色土 地山ローム主体。暗褐色土塊少量混。

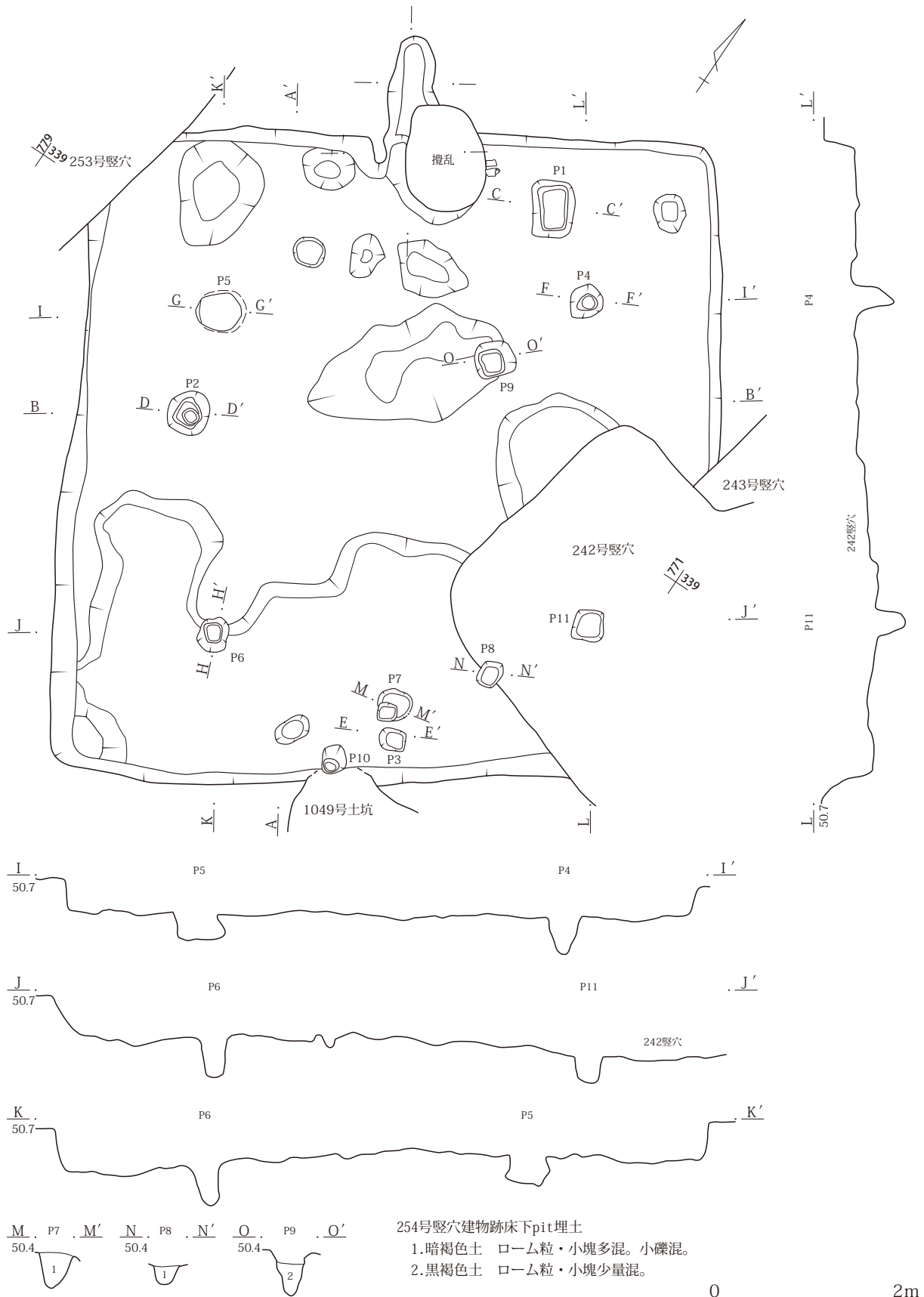


254号竖穴建物跡柱穴・pit埋土

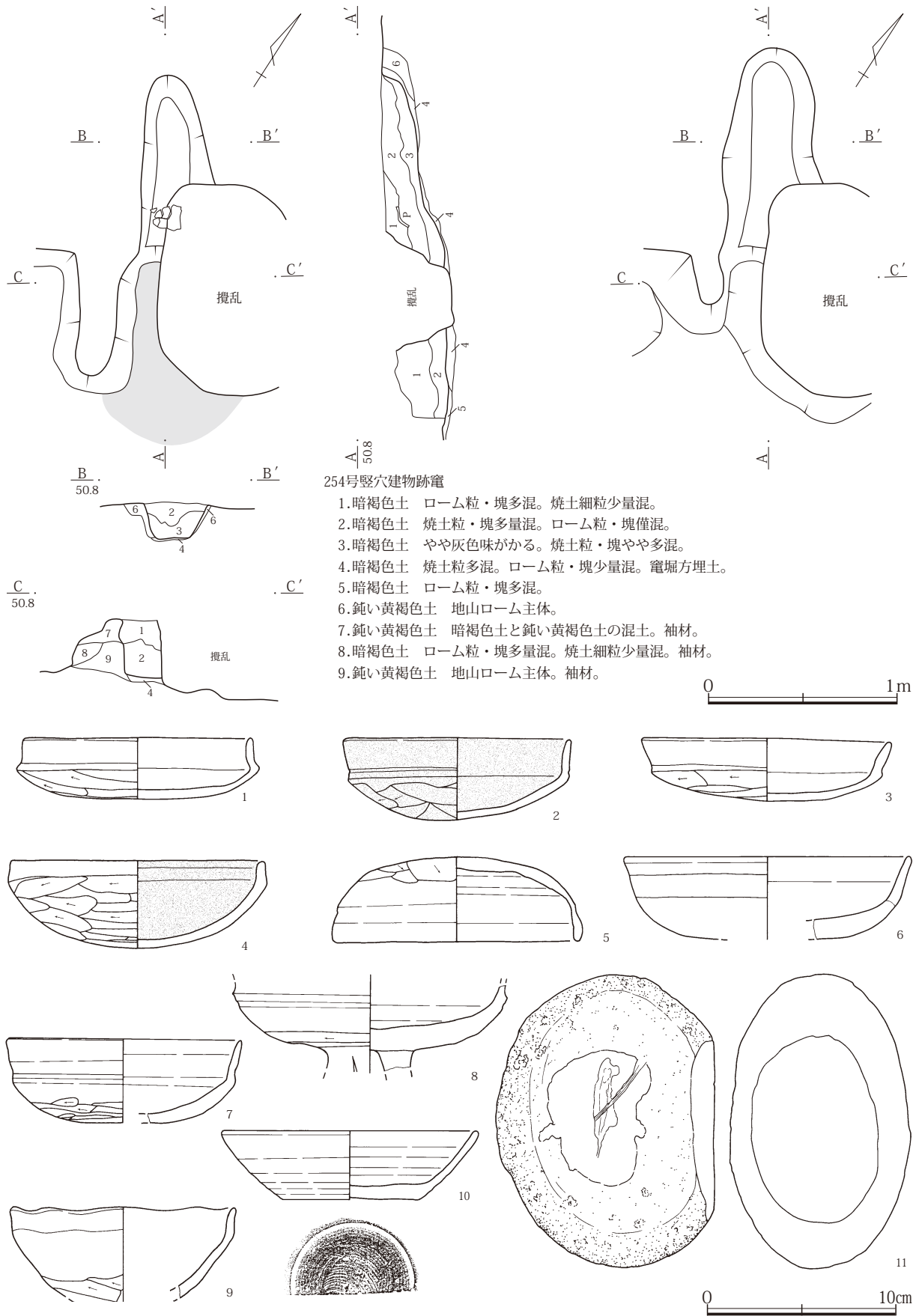
1. 暗褐色土 焼土・ローム粒多混。
2. 暗褐色土 焼土・ローム塊多混。
3. 暗褐色土 焼土・ローム粒少量混。
4. 暗褐色土 ローム粒・塊多混。礫混。
5. 暗褐色土 ローム粒・小塊混。

第211図 254号竖穴建物跡

第3章 発見された遺構と遺物

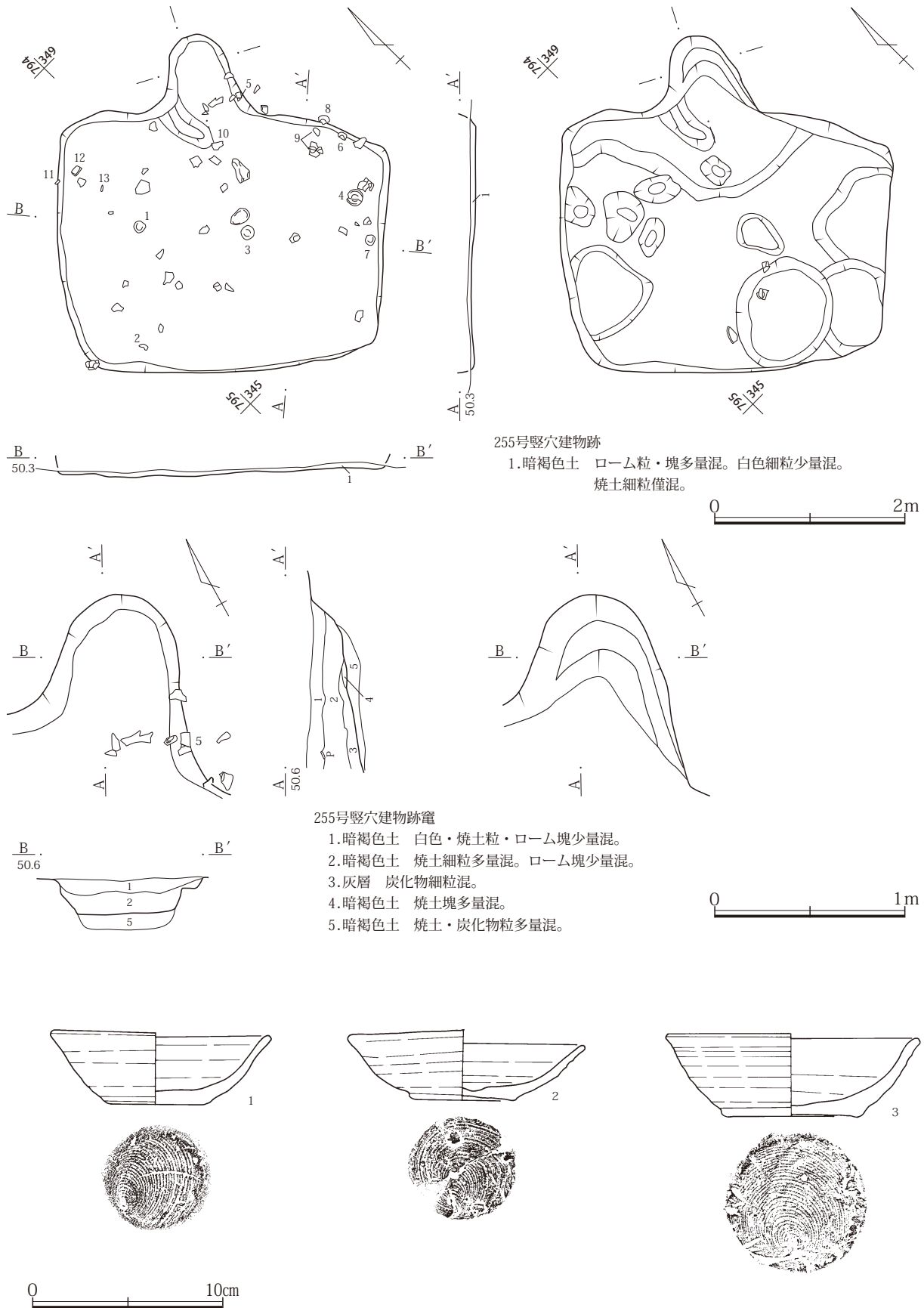


第212図 254号竖穴建物跡掘方



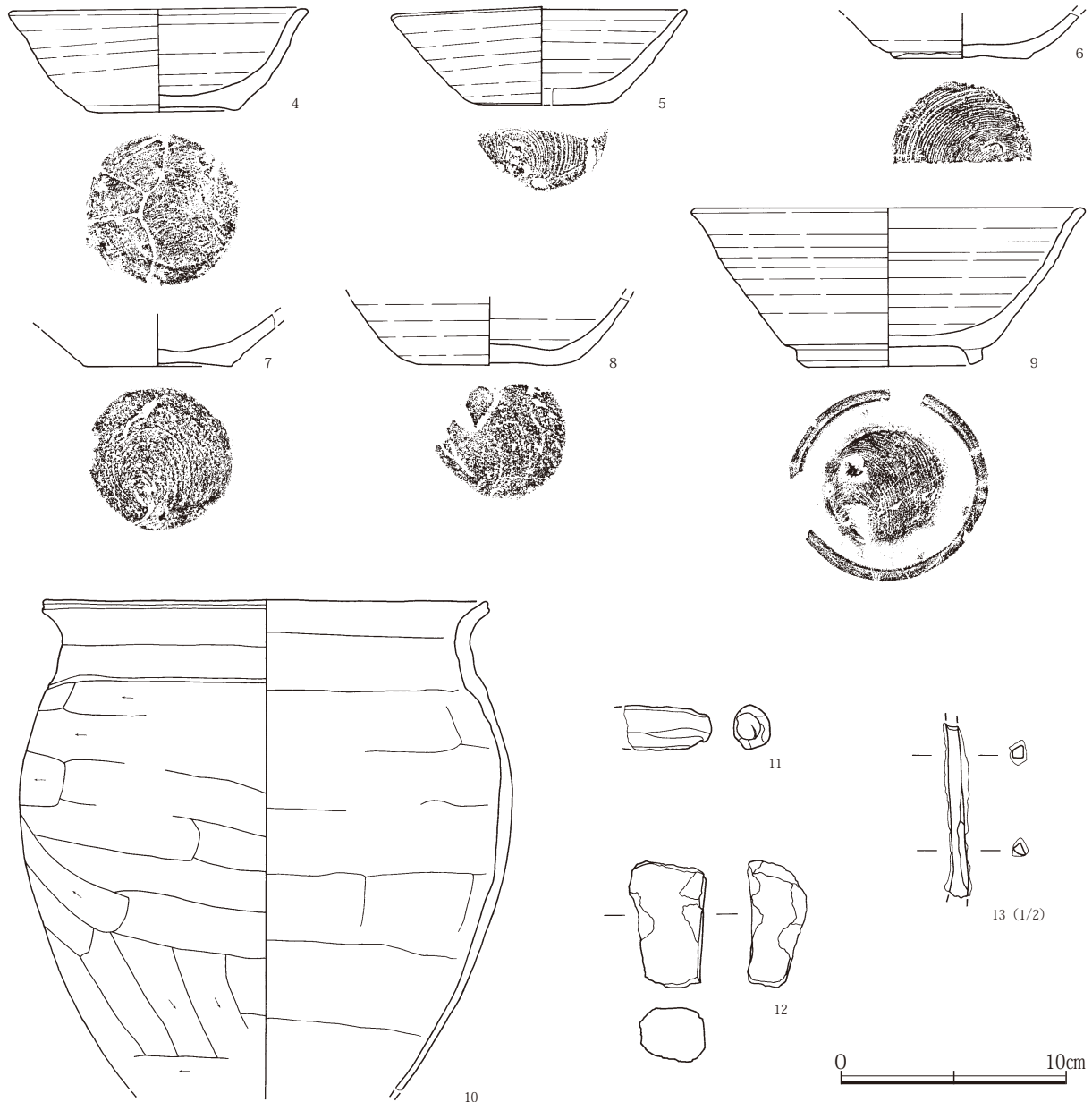
第213図 254号竪穴建物跡竈・出土遺物

第3章 発見された遺構と遺物



第214図 255号竪穴建物跡・出土遺物（1）





第215図 255号竪穴建物跡出土遺物（2）

m・深さ0.45m。柱穴・pit：柱穴は4隅及び南壁際中央で検出された。pit3長径0.45m・短径0.35m・深さ0.28m、pit4長径0.35m・短径0.35m・深さ0.42m、pit5長径0.49m・短径0.42m・深さ0.28m、pit6長径0.36m・短径0.33m・深さ0.44m。

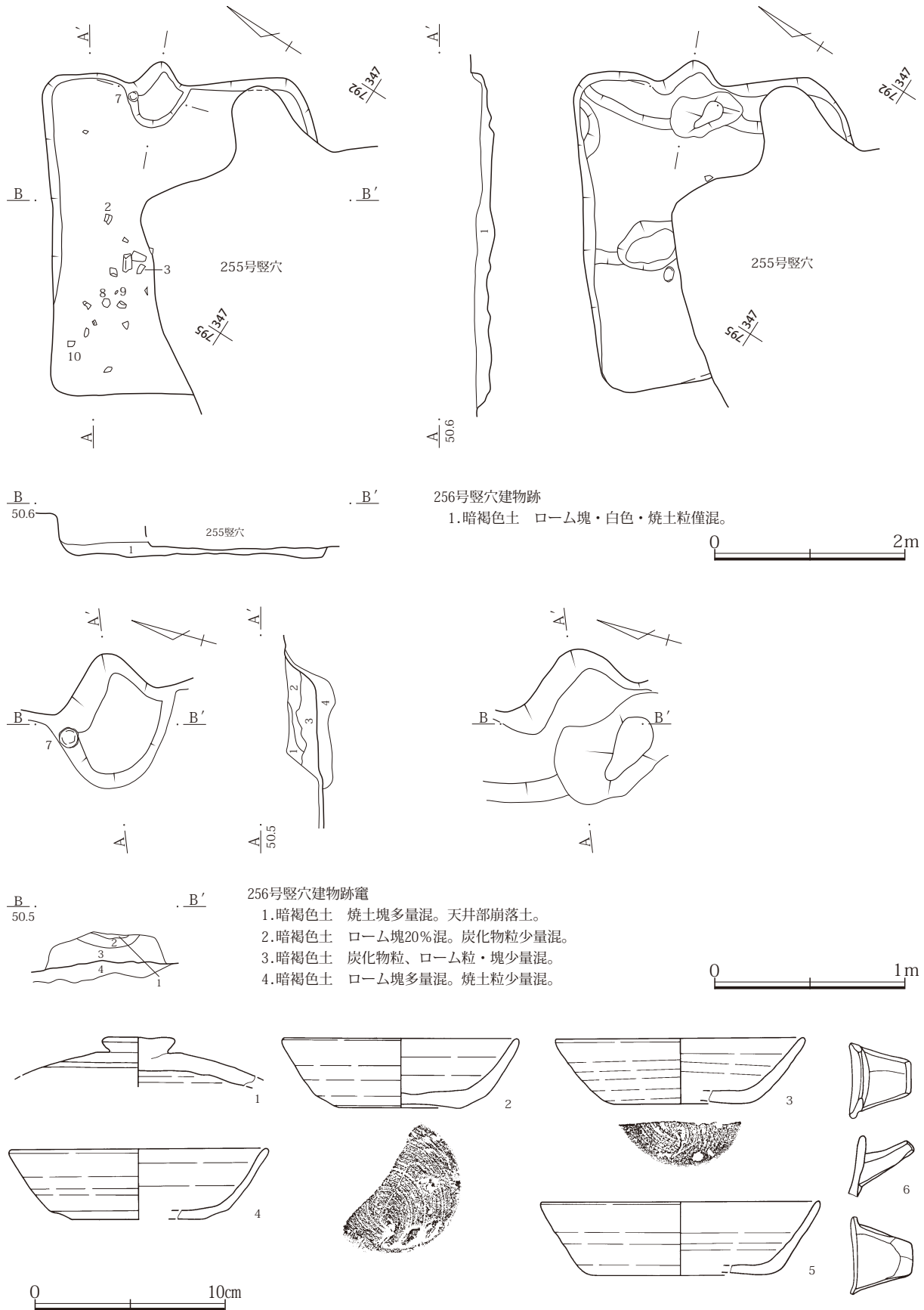
この他、南西壁に近い位置の床面から掘り込まれている用途不明のpit2がある。pit2長径0.51m・短径0.49m・深さ0.45m。さらに、床下のpitが4基検出されている。pit7長辺0.38m・短辺0.34m・深さ0.48m、pit8長径0.28m・短径0.24m・深さ0.2

m、pit9長径0.43m・短径0.38m・深さ0.46m、南東壁際pit10径0.29m・深さ0.4m、pit11長径0.34m・短径0.34m・深さ(0.32)m。時期：7C前とみられるが、9C後半の遺物も多く混入。遺物：床直からの遺物は7C前半のものばかりである。埋土中に9Cの遺物が多く混入するのが特徴。

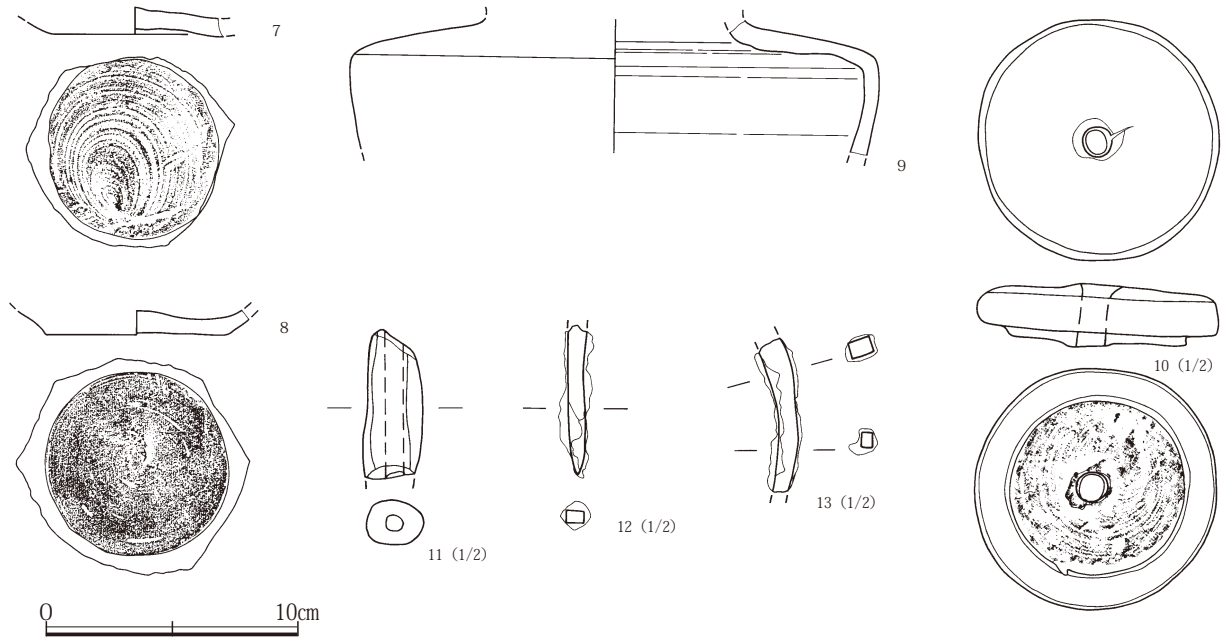
(53) 255号竪穴建物跡

位置：調査区ほぼ中央。X340-345・Y-790-795Gr.  
 主軸方位：N-42° -E 重複：251・256号竪穴建

第3章 発見された遺構と遺物



第216図 256号竪穴建物跡・出土遺物（1）



第217図 256号竪穴建物跡出土遺物（2）

物跡を掘り込む。 **規模と形状**：北西－南東方向にやや長い長方形を呈しており、小規模。長辺3.42m・短辺2.74m・深さ(0.06)m。 **埋土**：暗褐色土ベース。 **床面**：暗褐色土を貼って平坦な床面を形成したものと思われるが、残存状態が悪く不明な点が多い。 **掘方**：壁際や南・東の隅、竈前などが一段深く掘り込まれ、一見凹凸が激しいように見受けられるが、実際は比較的平坦である。 **竈**：北東壁のほぼ中央に取り付く。燃烧部及び両袖は地山を削りだして形成されている。煙道はあまり顕著には確認できなかった。燃烧部は奥側に造られている。左袖は内側に大きく張り出すが、右袖はほとんど検出できなかった。 **貯蔵穴**：なし。 **時期**：10C前。 **遺物**：建物の全域から出土した。

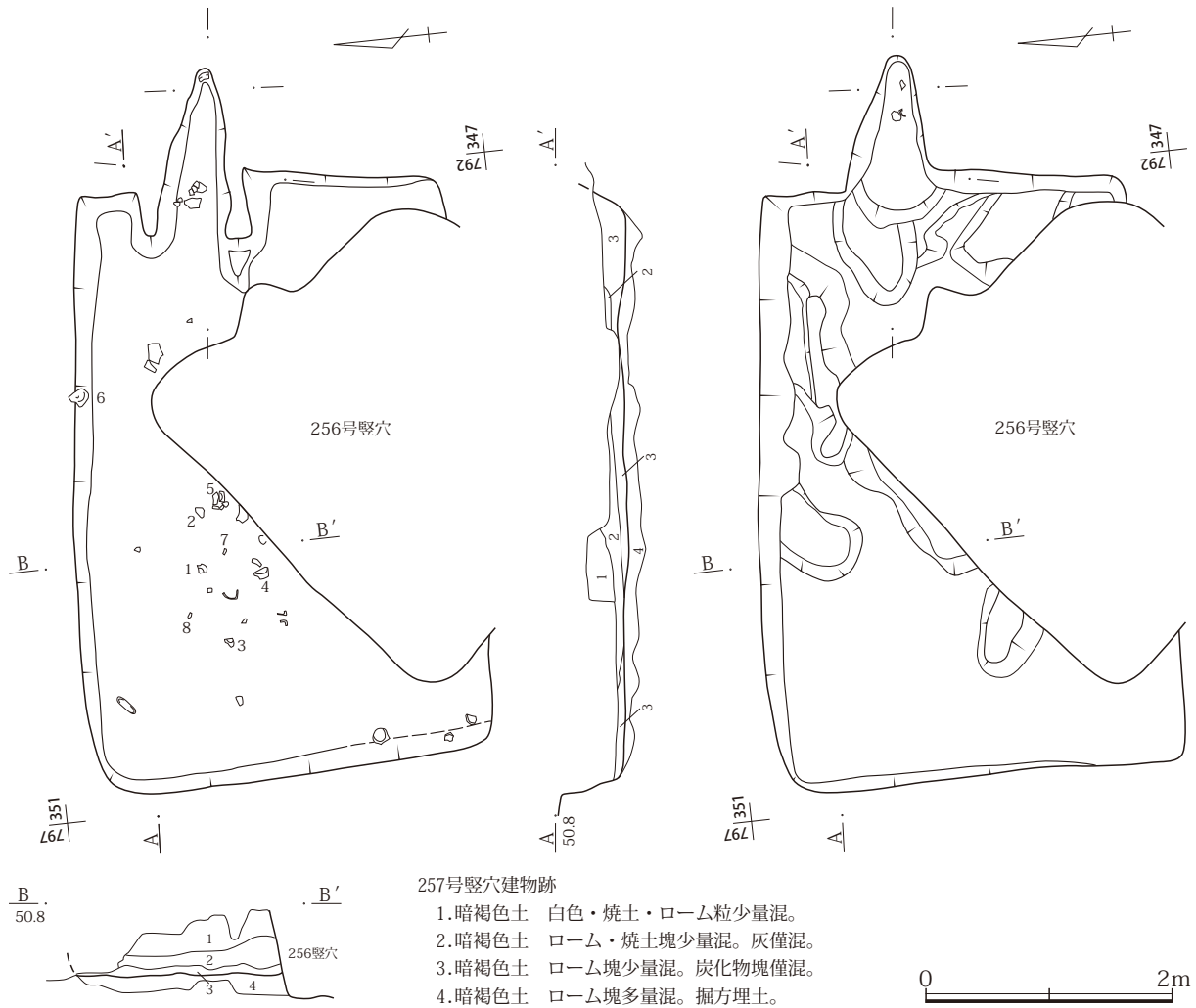
#### (54) 256号竪穴建物跡

**位置**：調査区ほぼ中央。X345・Y-790~795Gr。 **主軸方位**：N-59° -E **重複**：255号竪穴建物跡に掘り込まれる。251号竪穴建物跡を掘り込む。 **規模と形状**：北東－南西方向に長い長方形を呈しており、長辺3.37m・短辺2.83m・深さ0.44m。 **埋土**：暗褐色土ベース。 **床面**：凹凸激しく地山を掘り込んだ上にローム塊と白色・焼土粒を含む暗褐色

土を薄く貼って平坦な床面を形成したものと思われるが、残存状態が悪く不明な点が多い。 **掘方**：竈前や中央部などが一段深く掘り込まれ、凹凸が激しい。 **竈**：北東壁のほぼ中央に取り付く。燃烧部及び両袖は地山を削りだして形成されている。煙道は全く確認できなかった。燃烧部は壁とほぼ同位置に造られている。両袖は内側に全く張り出さない。 **貯蔵穴**：なし。 **時期**：9C3。 **遺物**：建物の西側に比較的まとまっている。

#### (55) 257号竪穴建物跡

**位置**：調査区ほぼ中央。X345~350・Y-790~795Gr。 **主軸方位**：N-100° -E **重複**：256号竪穴建物跡に掘り込まれる。251・258・265・267・296号竪穴建物跡を掘り込む。 **規模と形状**：東西に長い長方形を呈する。3・4区やその南側に隣接する鹿島浦遺跡などで多く検出された、東西に細長く東壁に竈が取り付く、所謂工房型と言われる竪穴建物跡に形状がよく類似している。長辺4.86m・短辺3.3m・床面までの深さ0.55m・掘方までの深さ1m。 **埋土**：暗褐色土ベース。 **床面**：凹凸激しく地山を掘り込んだ上にローム塊を多量に含む暗褐色土を貼って平坦な床面を形成したものと思われる。床面の厚さ約



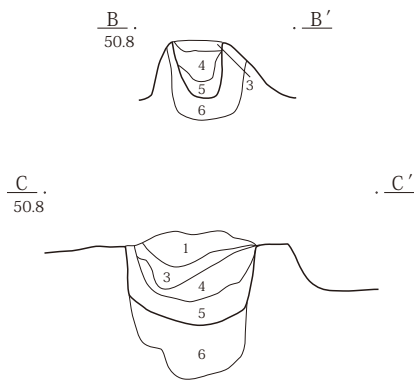
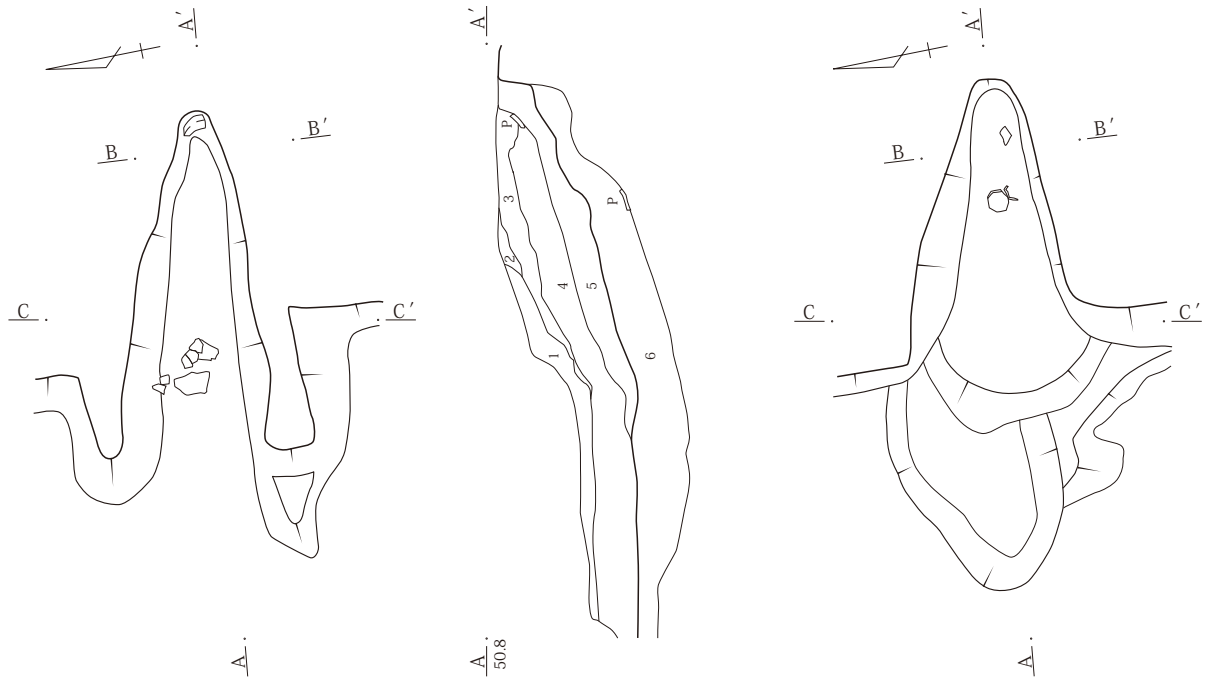
第218図 257号竪穴建物跡

0.18m前後。掘方：竈前や中央部などが一段深く掘り込まれ、凹凸が激しい。竈：東壁のほぼ北寄りの位置に取り付く。燃烧部は地山を削りだして形成され、内側に造られる。煙道は外側に長く延びている。燃烧部は壁とほぼ同位置に造られている。両袖は地山ロームを貼って形成されており、内側に大きく張り出す。貯蔵穴：なし。時期：9 C 3。遺物：建物の全域に散在。

(56) 258号竪穴建物跡

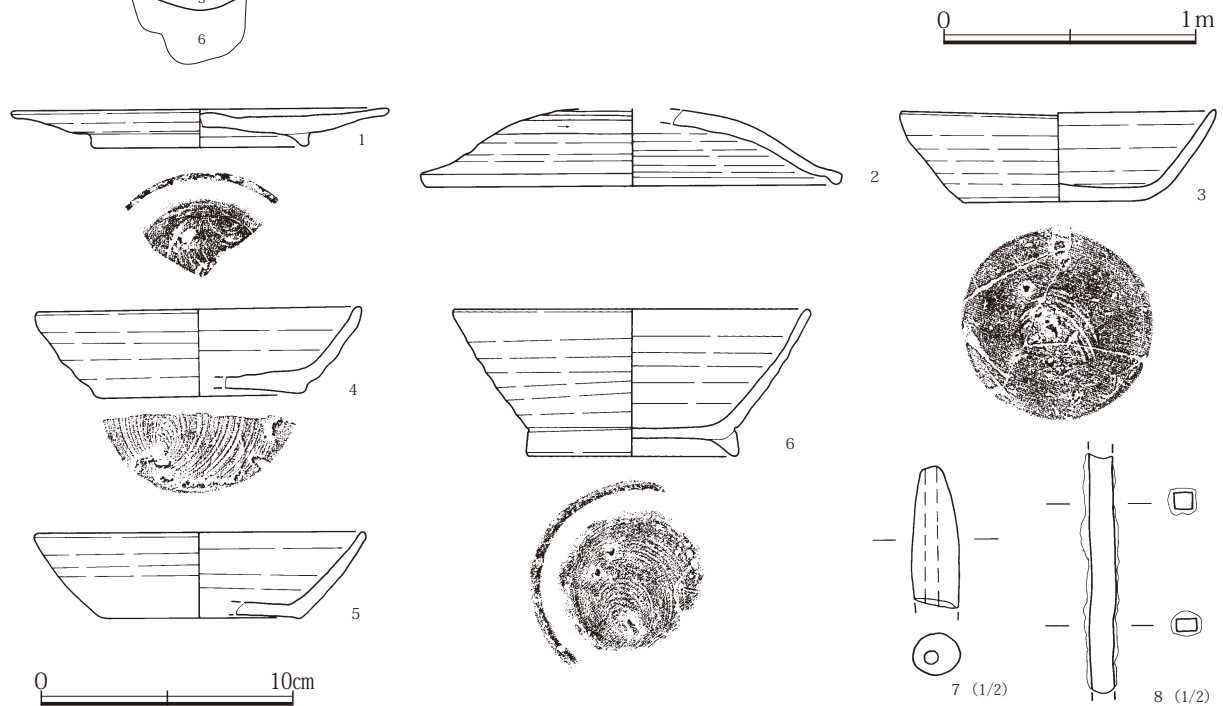
位置：調査区ほぼ中央東寄り。X345~350・Y-785~790Gr。主軸方位：N-92° -E 重複：215・251・257号竪穴建物に掘り込まれ、259・261・262・284・312号竪穴建物跡、1092・1099号土坑跡

を掘り込む。規模と形状：南北にやや長い平行四辺形状を呈し、平面形態では248・261号竪穴建物跡によく類似する。長辺5.92m・短辺4.66m・床面までの深さ0.45m・掘方までの深さ0.48m。埋土：暗褐色土ベース。床面：凹凸激しく地山を掘り込んだ上にローム塊を多量に含む暗褐色土を貼って平坦な床面を形成したものと思われる。床面の厚さ約0.1m前後。掘方：竈前や南壁際などが一段深く掘り込まれ、凹凸が激しい。竈：東壁のほぼ中央に取り付く。燃烧部及び両袖は地山を削りだして形成され、奥側に造られる。煙道は全く検出されなかった。両袖は内側にまったく張り出さない。貯蔵穴：なし。時期：9 C 2。遺物：建物の全域に散在。出土量が多いが埋土からの出土がほとんどである。



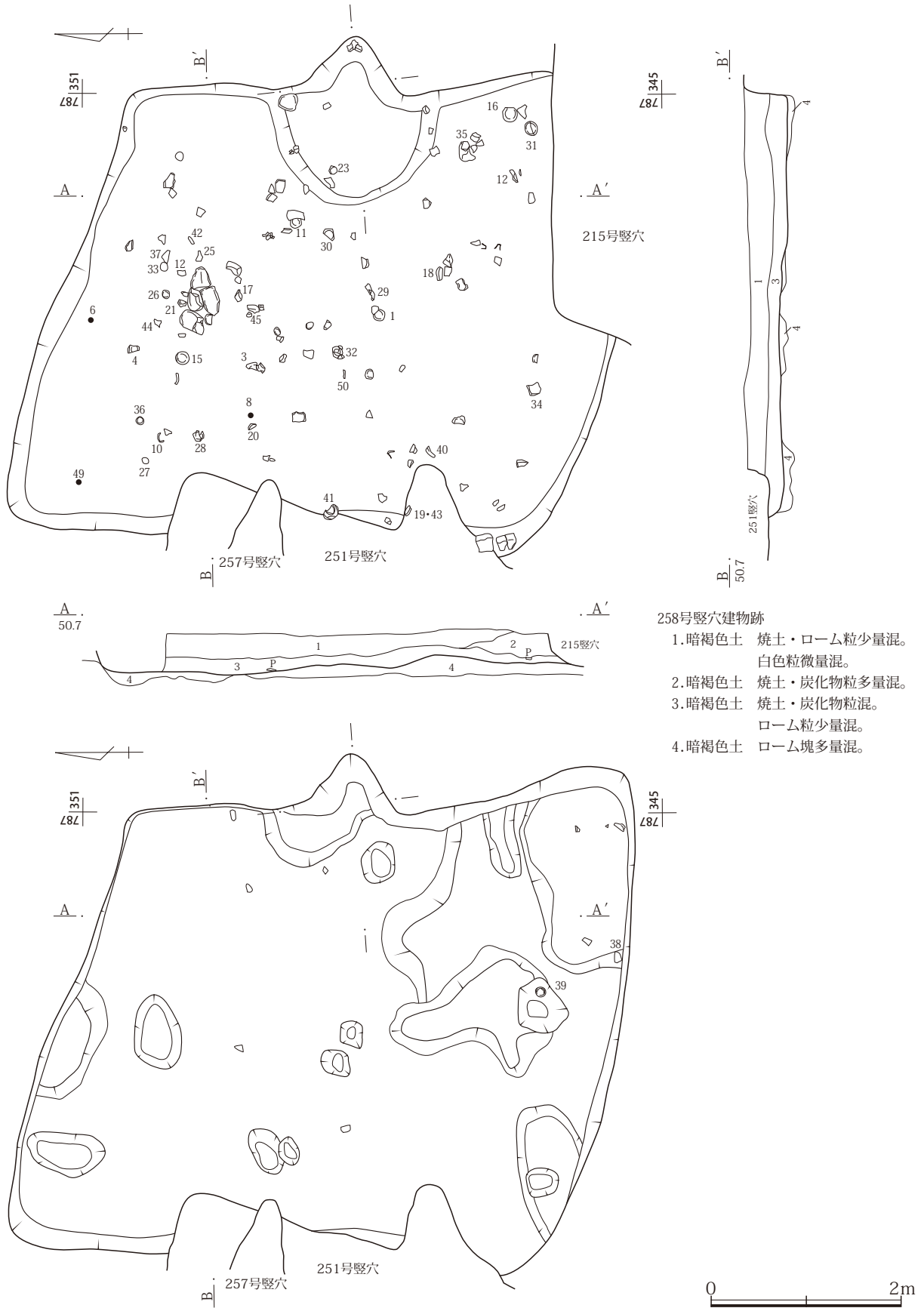
257号竪穴建物跡竈

1. 暗褐色土 黒褐色土粒少量混。ローム・焼土粒僅混。
2. 暗褐色土 1層ほどではないが、黒褐色土僅混。焼土粒・塊混。
3. 褐色土 焼土・ローム粒少量混。煙道部構築土の崩落か？。
4. 暗褐色土 焼土粒多量混。炭化物塊混。
5. 暗褐色土 ローム・焼土細粒少量混。
6. 暗褐色土 ローム塊多量混。

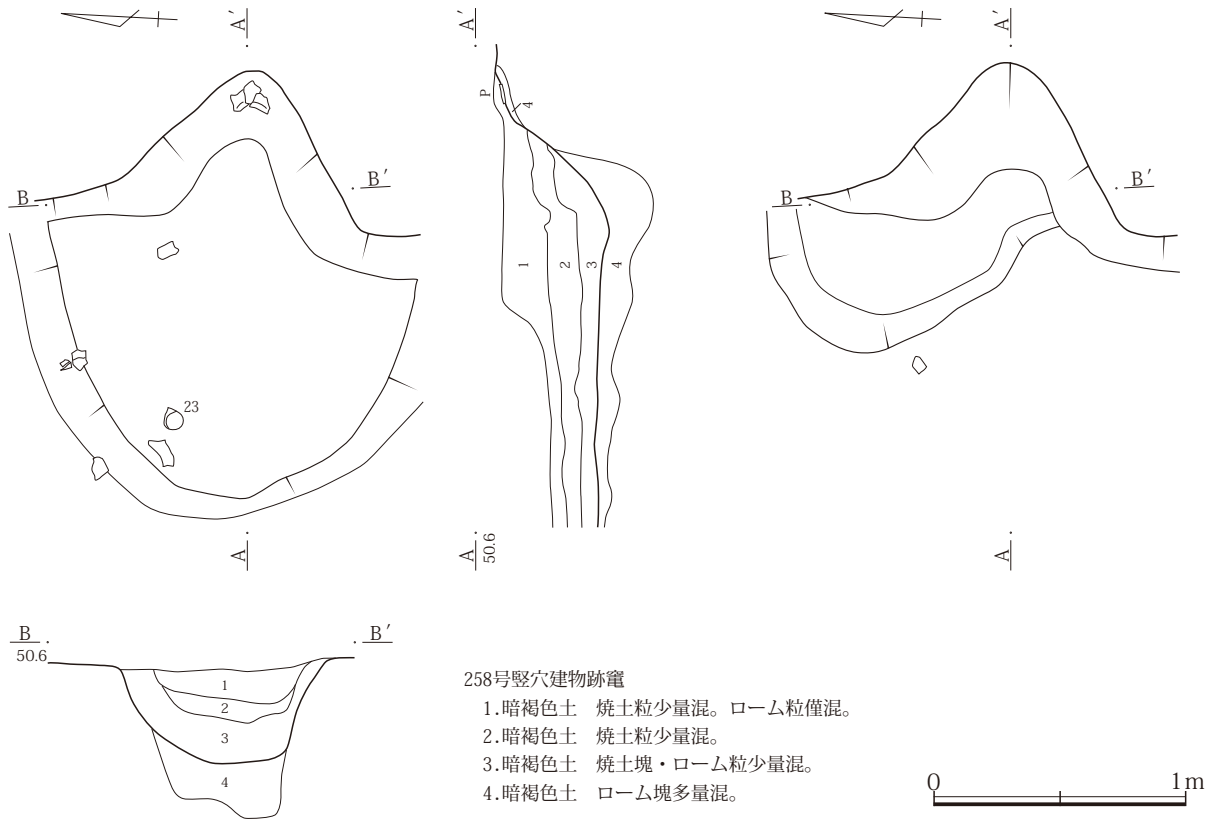


第219図 257号竪穴建物跡出土遺物

第3章 発見された遺構と遺物

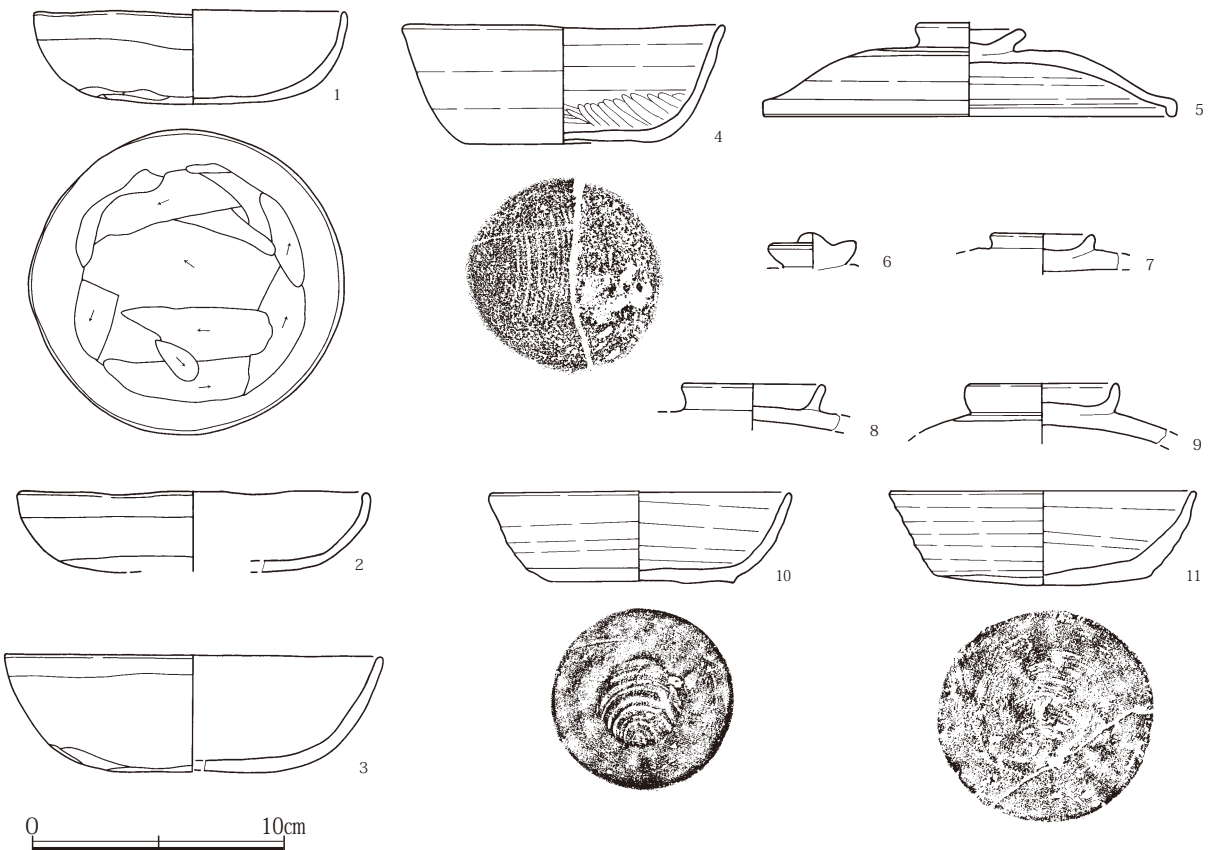


第220図 258号竪穴建物跡



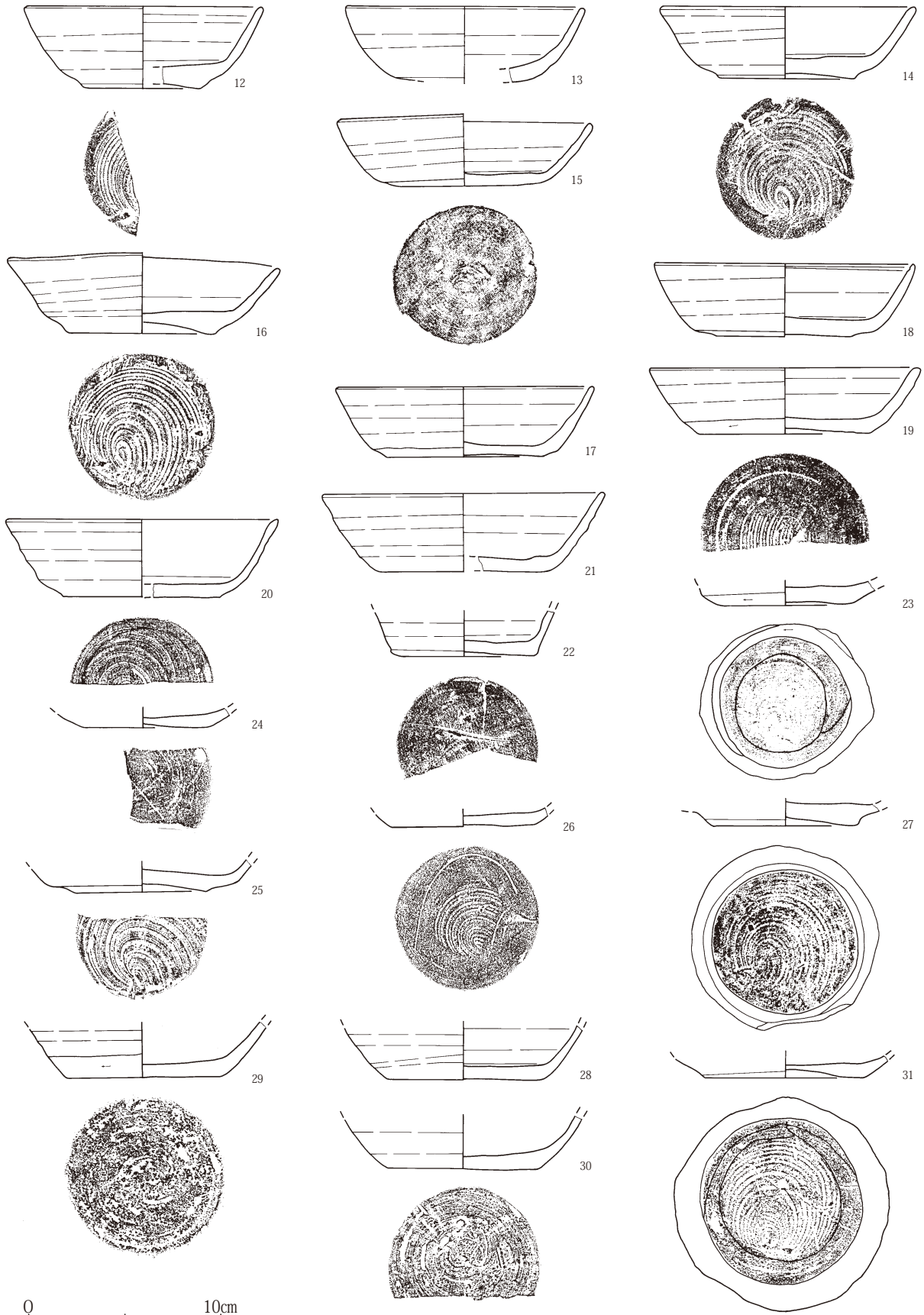
258号竪穴建物跡竈

- 1. 暗褐色土 焼土粒少量混。ローム粒僅混。
- 2. 暗褐色土 焼土粒少量混。
- 3. 暗褐色土 焼土塊・ローム粒少量混。
- 4. 暗褐色土 ローム塊多量混。



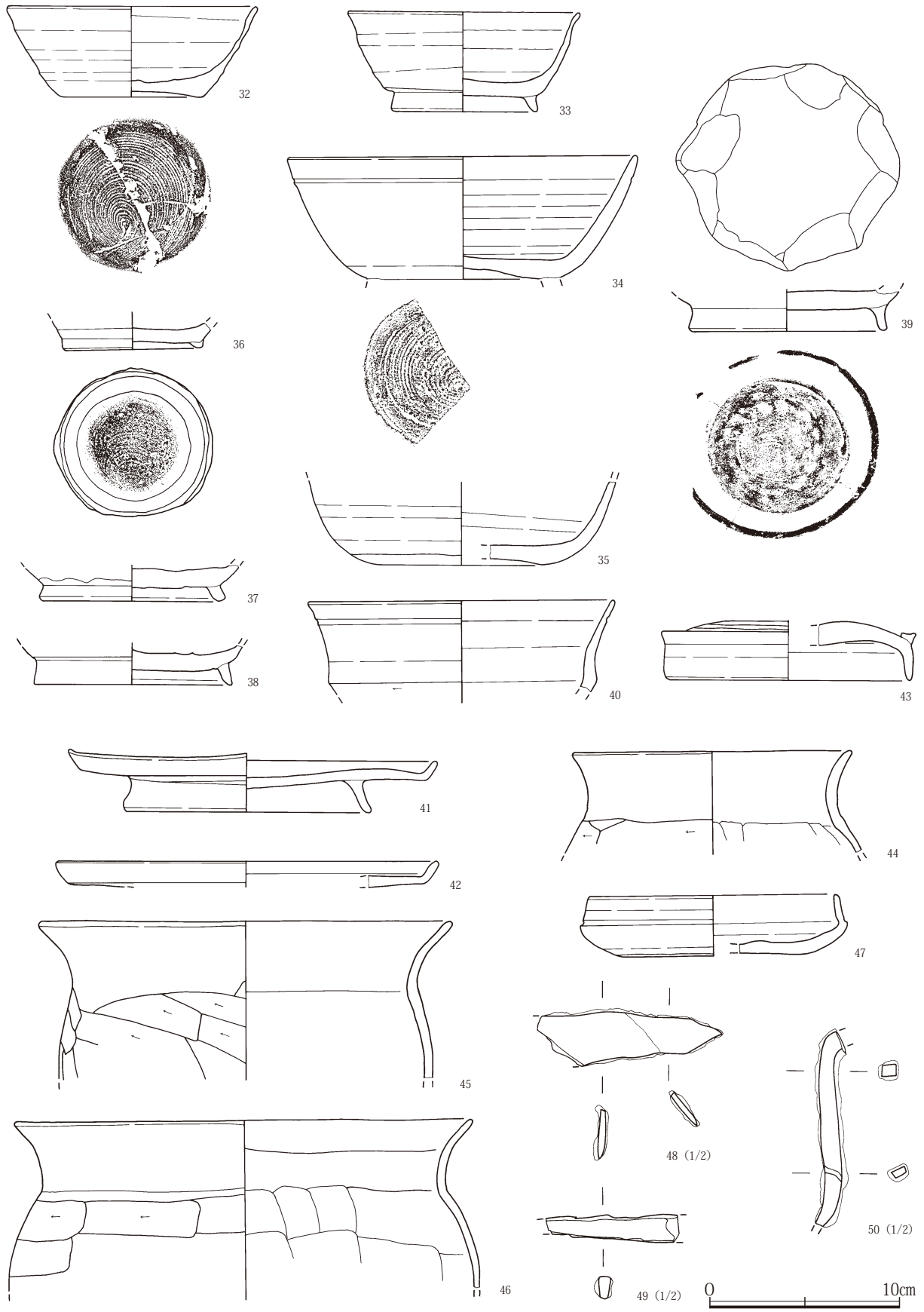
第221図 258号竪穴建物跡竈・出土遺物（1）

第3章 発見された遺構と遺物



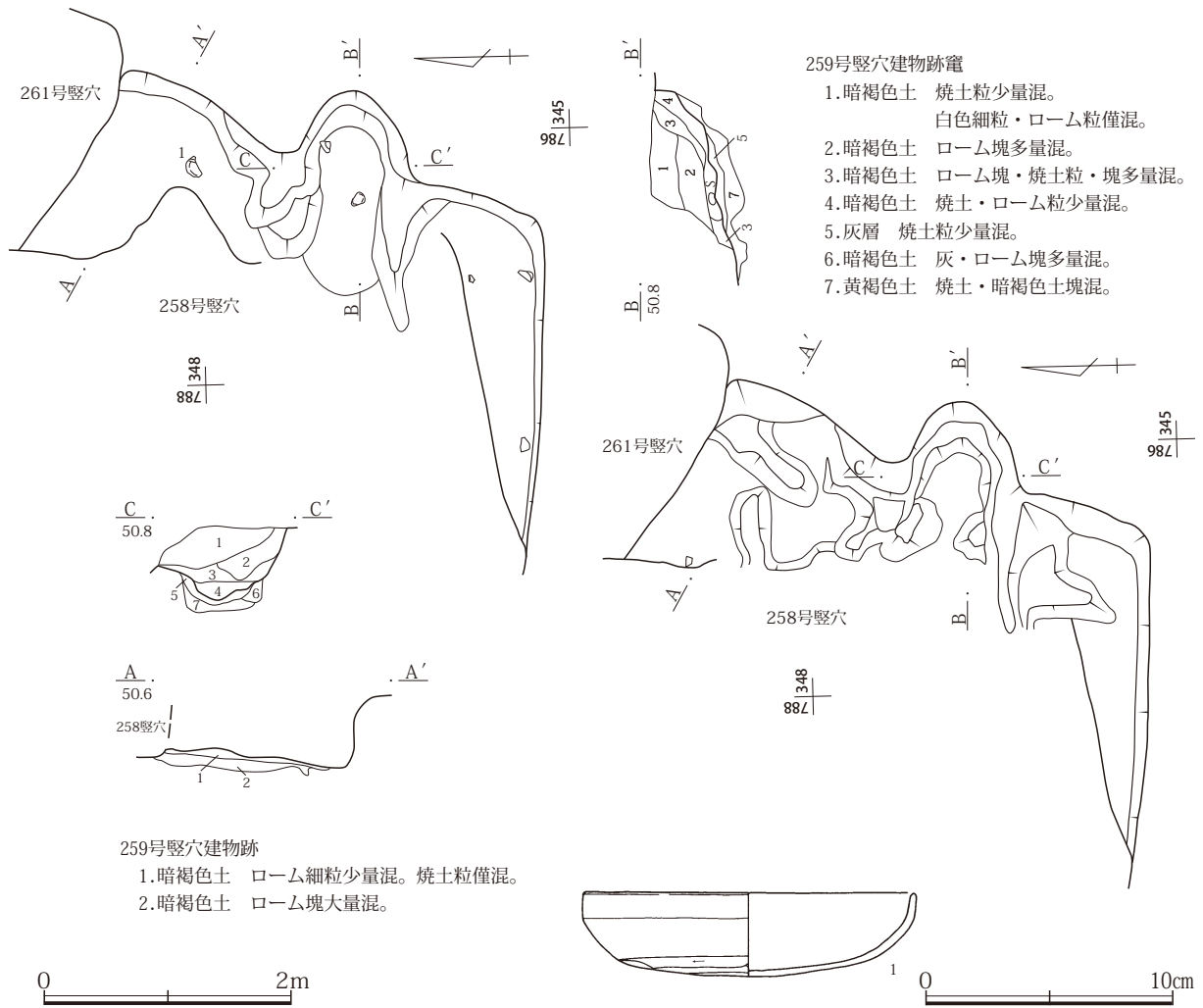
第222図 258号竪穴建物跡出土遺物（2）





第223図 258号竪穴建物跡出土遺物 (3)

第3章 発見された遺構と遺物



第224図 259号竖穴建物跡・出土遺物

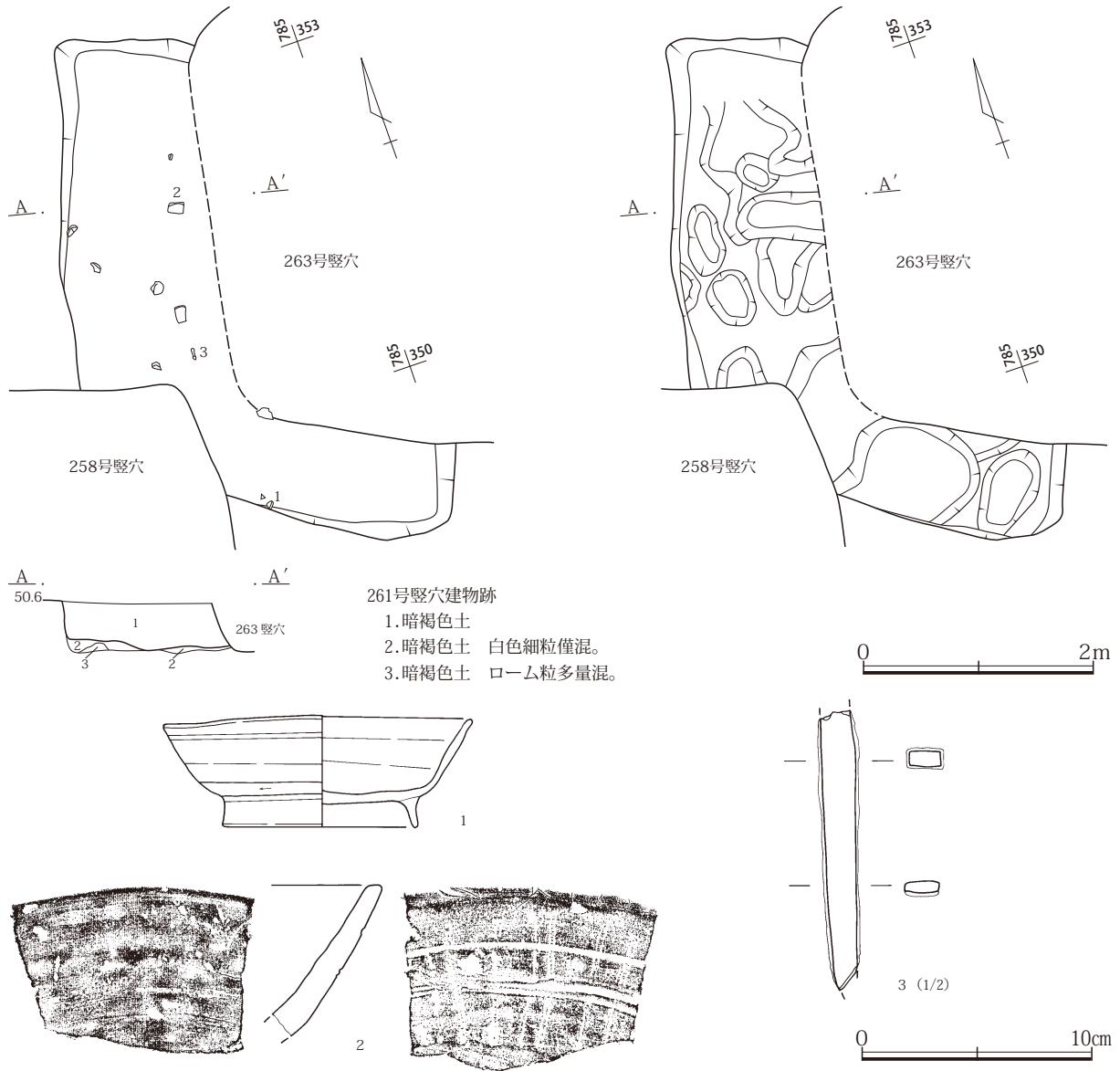
(57) 259号竖穴建物跡

**位置：**調査区中央東寄り。X345・Y-785Gr. **主軸方位：**N-91° -E **重複：**215・258・261号竖穴建物跡に掘り込まれる。**規模と形状：**竈と南東隅部が検出されたのみ。全容は不明。床面までの深さ0.53m・掘方までの深さ0.6m。**埋土：**暗褐色土ベース。**床面：**上面を掘り込まれ、床面の一部が検出されたに過ぎない。ローム塊を多量に含む暗褐色土を貼って平坦な床面を形成したと思われる。床面の厚さ約0.07m前後。**掘方：**凹凸が激しく、検出された範囲の中でも段状の削り出しや掘り込みが何箇所にも亘って検出されている。**竈：**東壁のほぼ中央に取り付く。燃烧部及び両袖は地山を削りだして形成され、燃烧部は建物の壁とほぼ同じ位置に

造られる。煙道はほとんど検出されなかった。両袖は地山を段状に削りだして形成され、建物の内側に大きく張り出している。**貯蔵穴：**なし。**時期：**9 C 1。**遺物：**埋土中より土師器杯1。

(58) 261号竖穴建物跡

**位置：**調査区の中央東寄り。X345~350・Y-780~-785Gr. **主軸方位：**不明。**重複：**258・263号竖穴建物跡に掘り込まれる。264・284号竖穴建物跡を掘り込む。**規模と形状：**北西・南東隅と各壁の一部が検出されたのみ。南北に長い平行四辺形状を呈するものと思われる。床面までの深さ0.4m・掘方までの深さ0.45m。**埋土：**暗褐色土ベース。**床面：**上面を掘り込まれ、床面の一部が検出されたに過ぎ



第225図 261号竪穴建物跡・出土遺物

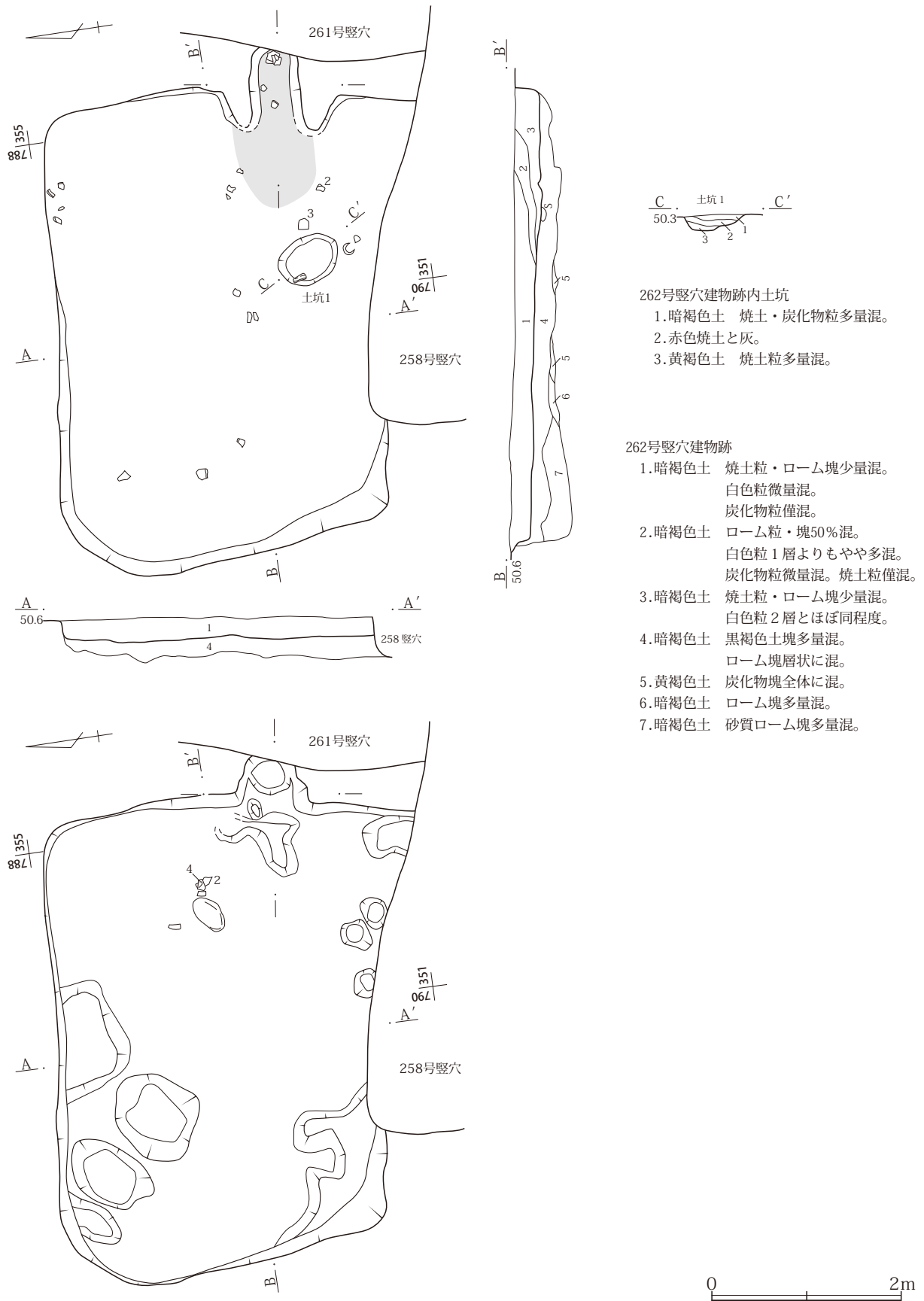
ない。床面の厚さ約0.05m前後。掘方：凹凸が激しく、検出された範囲の中でも床下土坑状の掘り込みが何箇所にも亘って連続して検出されている。竈：未検出。貯蔵穴：なし。時期：8C後。遺物：建物内に散在。

(59) 262号竪穴建物跡

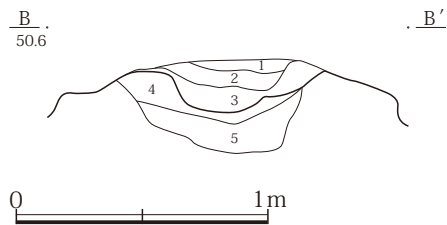
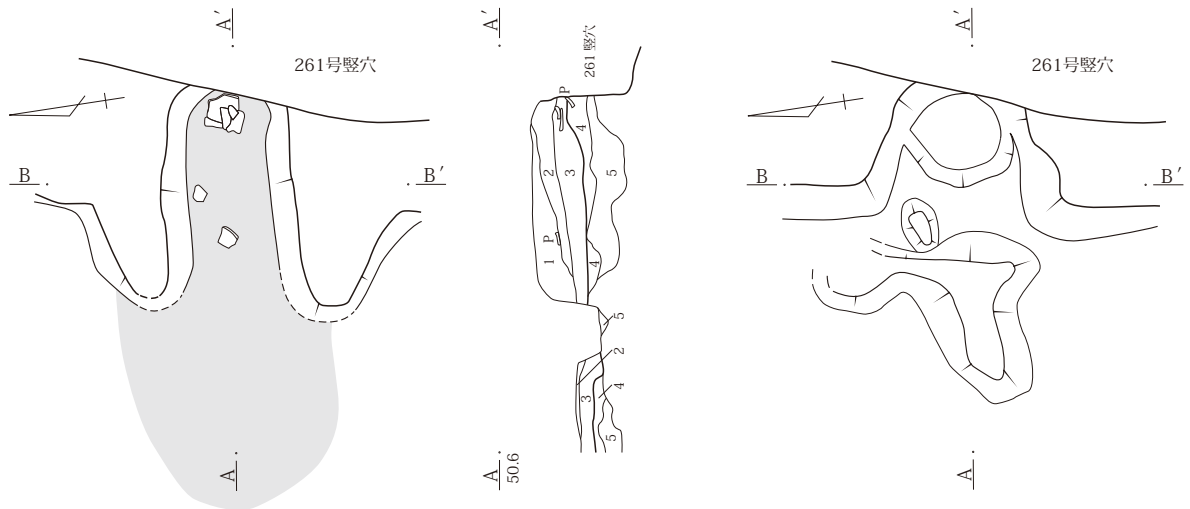
位置：調査区ほぼ中央東寄り。X350~355・Y-785~790Gr. 主軸方位：N-98°-E 重複：258・261号竪穴建物跡に掘り込まれる。284号竪穴建物跡を掘り込む。規模と形状：東西に長い長方

形状を呈する。3・4区やその南側に隣接する鹿島浦遺跡などで多く検出された、東西に細長く東側に竈が取り付く、所謂工房型と言われる竪穴建物跡に形状がよく類似している。長辺5m・短辺3.88m・床面までの深さ0.28m・掘方までの深さ0.63m。埋土：暗褐色土ベース。床面：地山を大きく掘り込んだ上に、比較的厚く黒褐色土を多量に含んだ暗褐色土を貼って平坦な床面を形成している。床面の厚さ約0.25m前後。掘方：比較的凹凸が激しく、北西隅、壁際などで床下土坑状の掘り込みが何箇所にも亘って連続して検出されている。竈：東壁の

第3章 発見された遺構と遺物

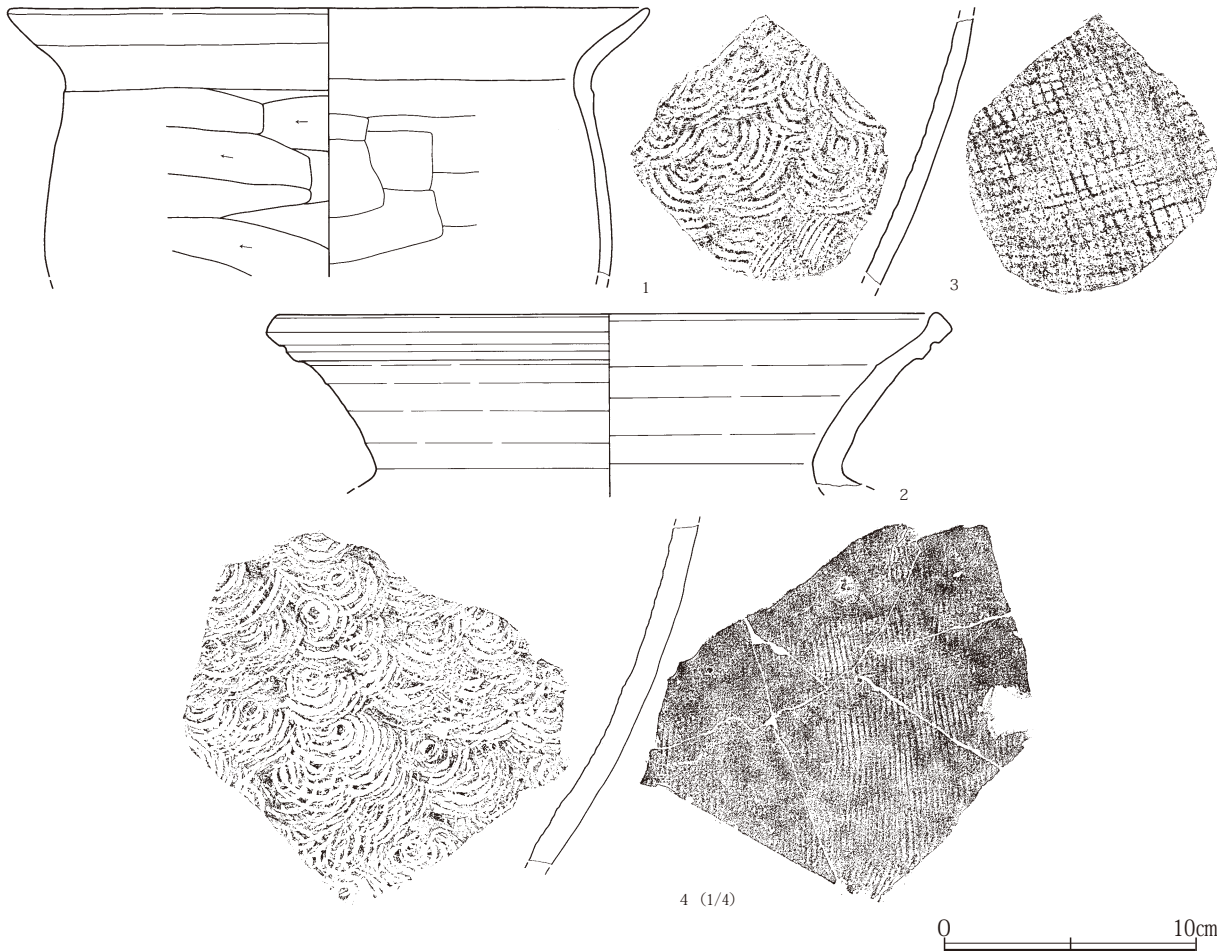


第226図 262号竪穴建物跡

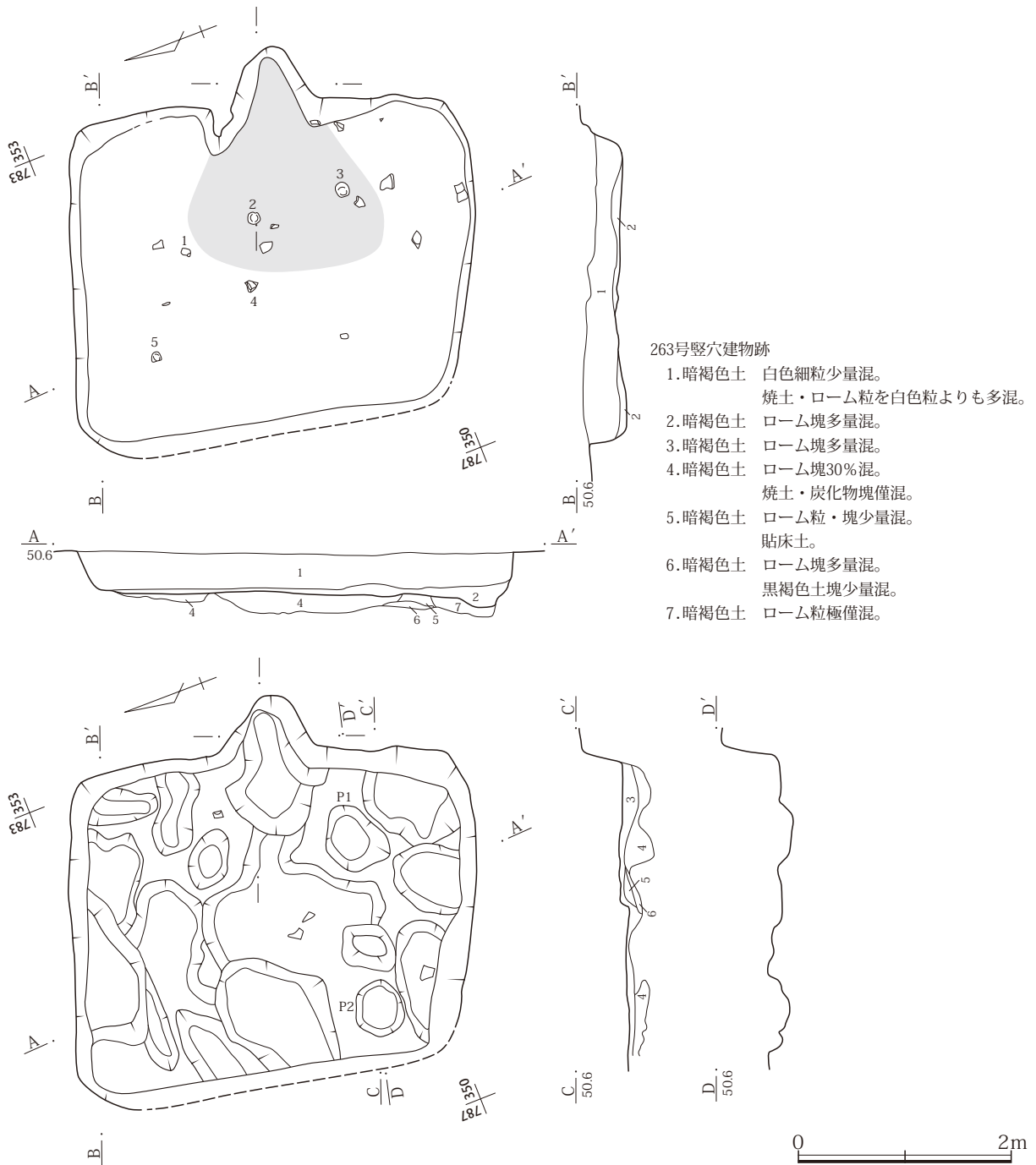


262号竪穴建物跡竈

1. 暗褐色土 ローム粒少量混。  
白色細粒僅混。
2. 暗褐色土 ローム塊多量混。  
天井部崩落土。
3. 暗褐色土 焼土塊少量混。
4. 暗褐色土 黒色土塊・焼土・白色粒少量混。
5. 黄褐色土 暗褐色土塊混。



第227図 262号竪穴建物跡竈・出土遺物



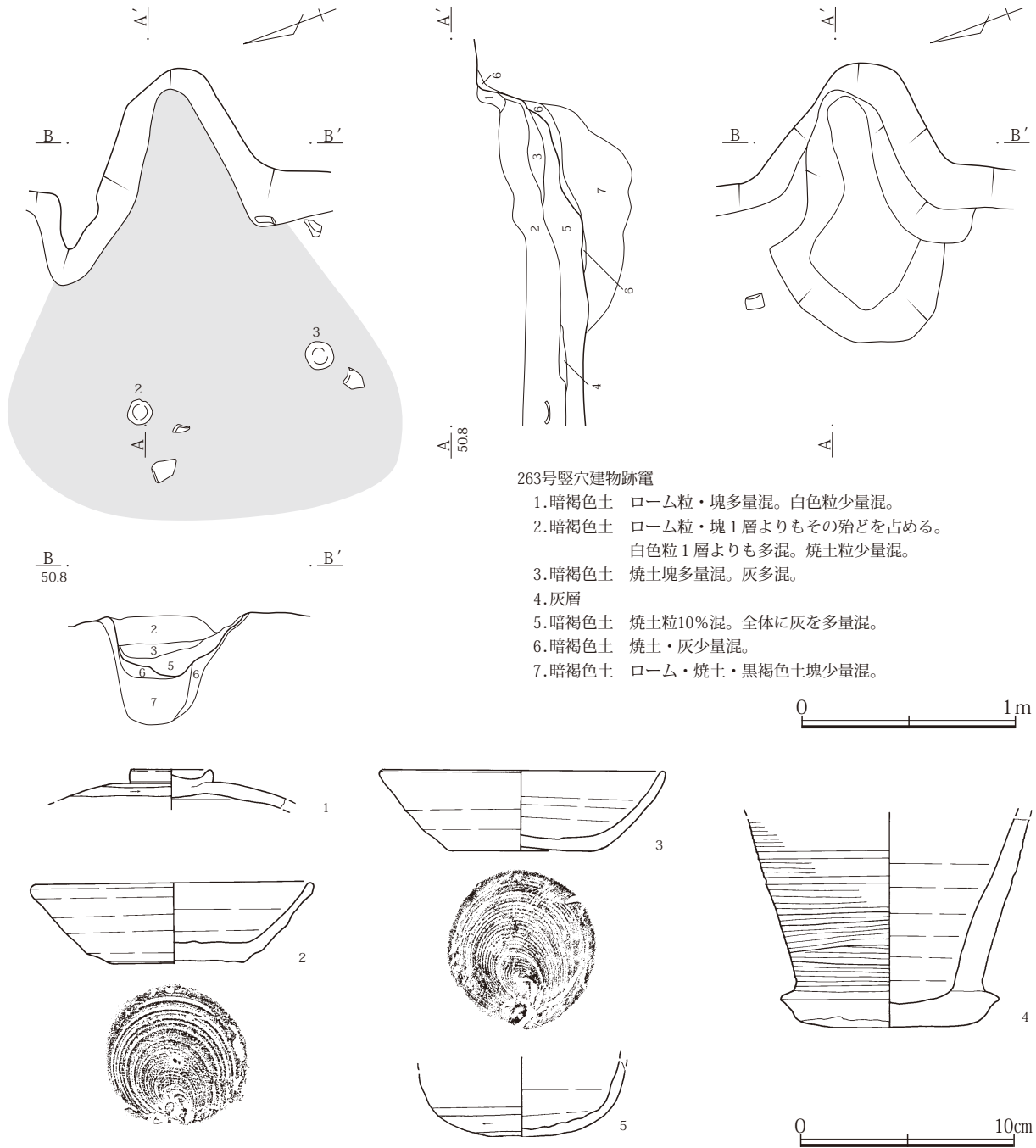
第228図 263号竪穴建物跡

中央に取り付く。焼部は地山を削りだして形成され、壁とほぼ同位置に造られている。煙道部は261号竪穴建物跡によって破壊されている。両袖は地山ロームを主体とする土を貼り付けて構築され、内側に若干張り出している。貯蔵穴：なし。時期：8 C 後。遺物：建物内に散在。

(60) 263号竪穴建物跡

位置：調査区中央東寄り。X345~350・Y-780~785Gr. 主軸方位：N-107° -E 重複：261・264号竪穴建物跡、1102号土坑跡を掘り込む。規模と形状：南北に長い長方形を呈する。長辺3.75m・短辺3m・床面までの深さ0.5m・掘方までの深さ0.6m。

埋土：暗褐色土ベース。床面：地山を凹凸激し



263号竪穴建物跡竈

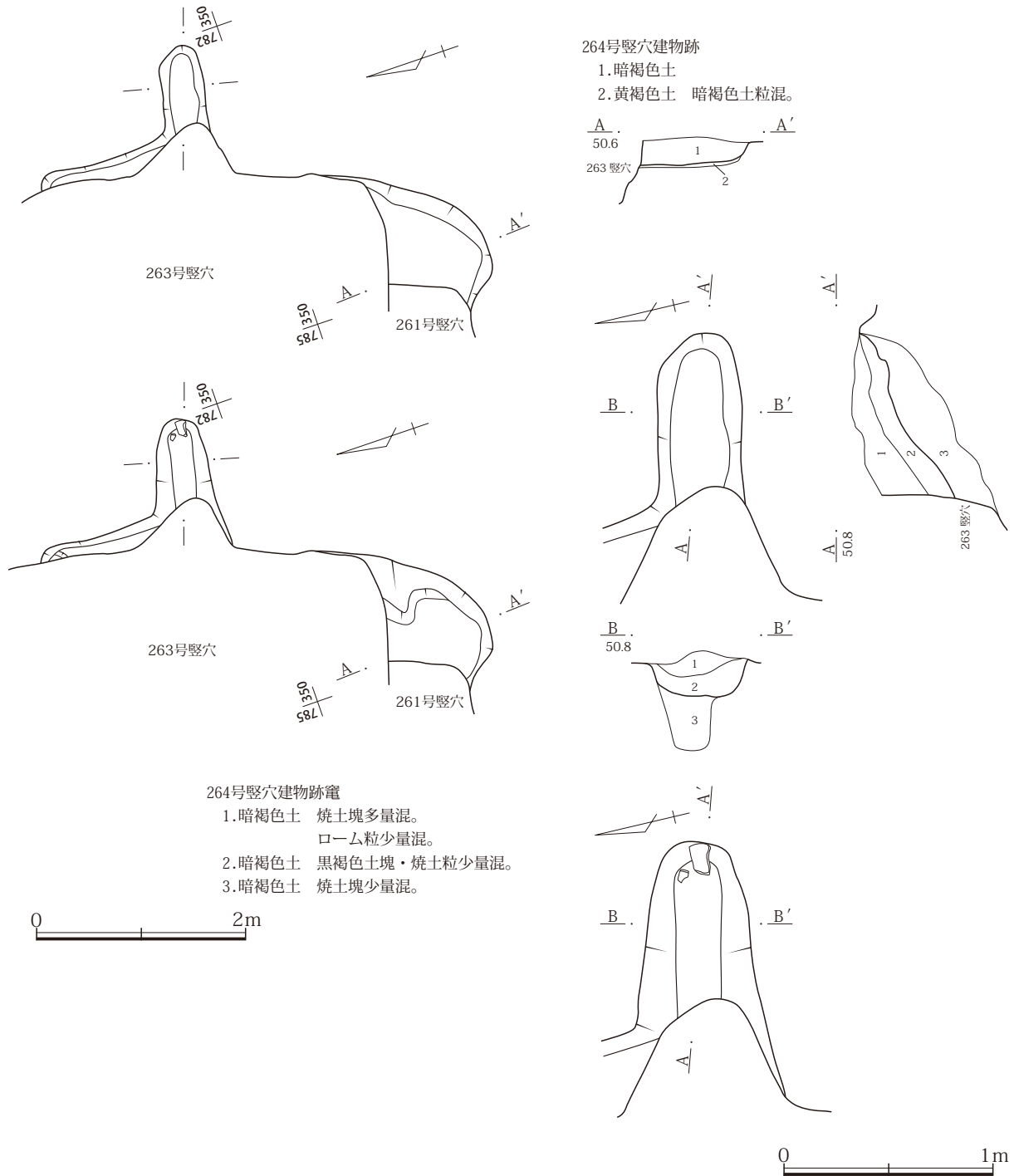
1. 暗褐色土 ローム粒・塊多量混。白色粒少量混。
2. 暗褐色土 ローム粒・塊1層よりもその殆どを占める。白色粒1層よりも多混。焼土粒少量混。
3. 暗褐色土 焼土塊多量混。灰多混。
4. 灰層
5. 暗褐色土 焼土粒10%混。全体に灰を多量混。
6. 暗褐色土 焼土・灰少量混。
7. 暗褐色土 ローム・焼土・黒褐色土塊少量混。

第229図 263号竪穴建物跡竈・出土遺物

く大きく掘り込んだ上に、ロームを含んだ暗褐色土を貼って平坦な床面を形成している。床面の厚さ約0.1m前後。掘方：凹凸が激しく、全体的に床下土坑状の掘り込みが何箇所にも亘って連続して検出されている。竈：東壁の中央に取り付く。燃烧部は地山を削りだして形成され、壁とほぼ同位置に造

られている。煙道部は外側にあまり長くは伸びない。両袖は地山ロームを主体とする土を貼り付けて構築され、内側に若干張り出している。貯蔵穴：なし。

時期：9C後。遺物：建物内に散在。埋土中より出土した須恵器播り鉢が特筆される。



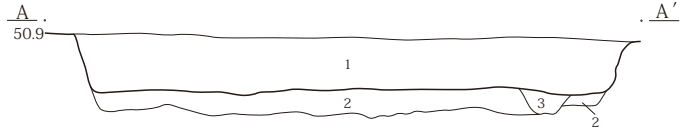
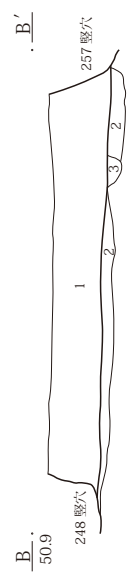
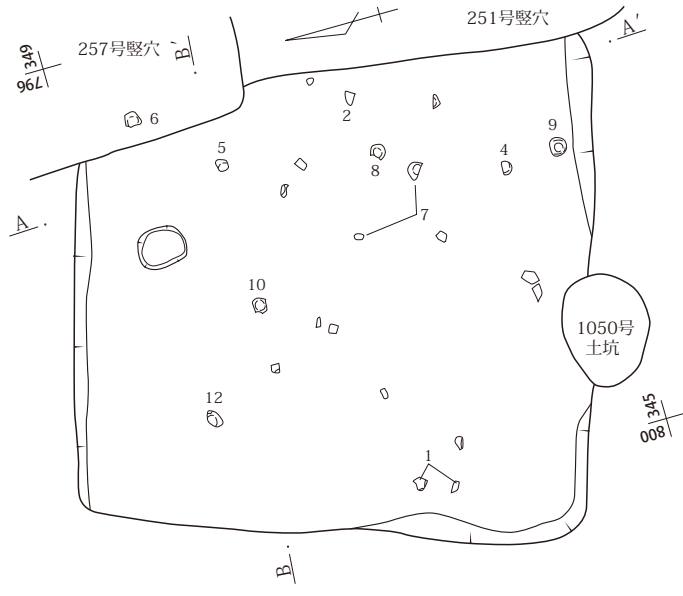
第230図 264号竪穴建物跡

(61) 264号竪穴建物跡

**位置：**調査区中央東寄り。X 345~350・Y-780~-785Gr. **主軸方位：**N-104° -E **重複：**261・263号竪穴建物跡に掘り込まれる。 **規模と形状：**南東隅と竈煙道部のみが検出。床面までの深さ0.25m・掘方までの深さ0.28m。 **埋土：**暗褐色土ベース。

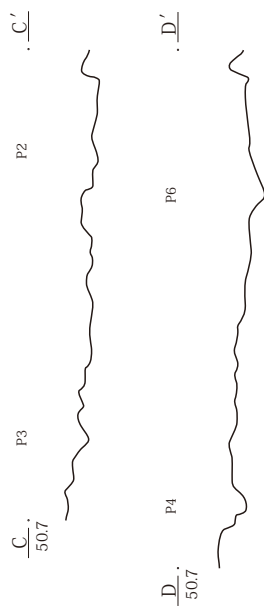
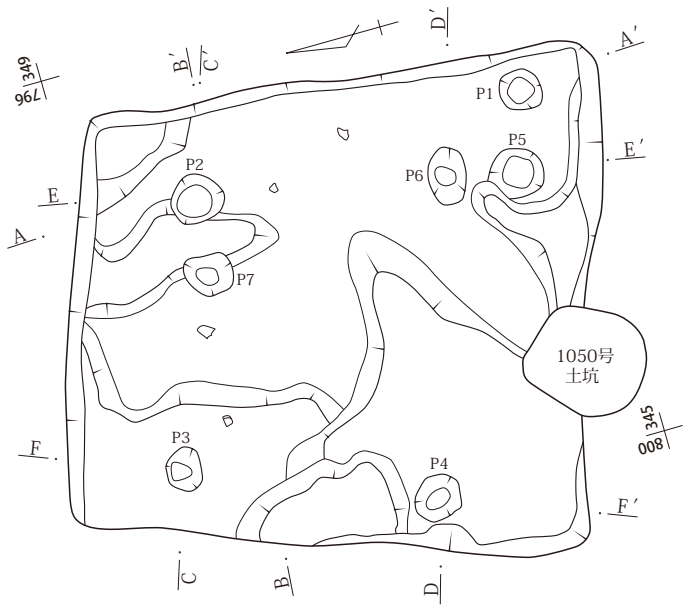
**床面：**地山をほぼ平坦に掘り込んだ上に、薄くロームを貼って平坦な床面を形成している。床面の厚さ約0.03m前後。 **掘方：**地山を比較的平坦に削り出している。 **竈：**東壁中央に取り付く。煙道部のみ検出。 **貯蔵穴：**未検出。 **時期：**不明。 **遺物：**なし。





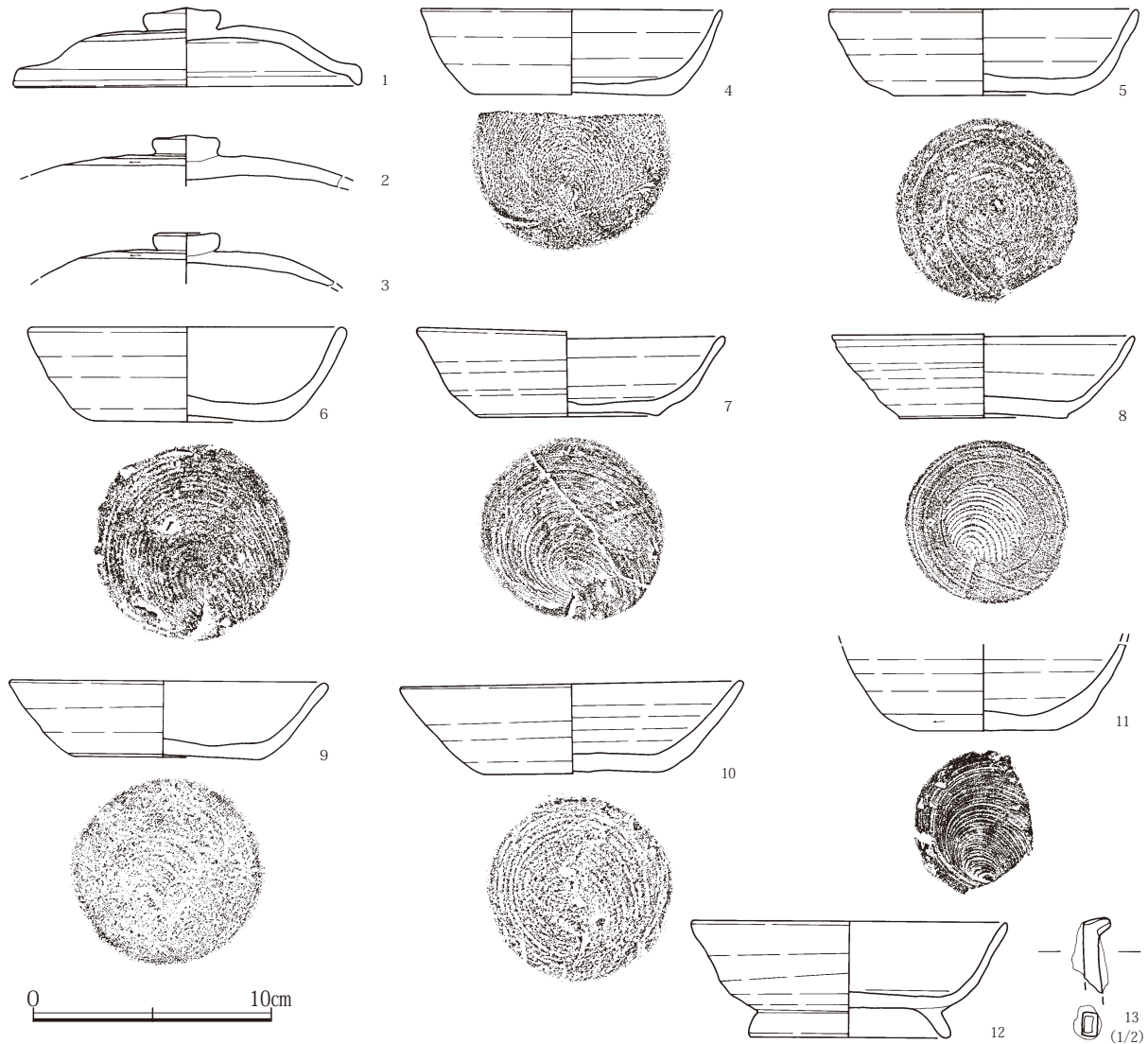
265号竪穴建物跡

- 1.暗褐色土 焼土粒10%、ローム塊5%、白色粒微量混。
- 2.暗褐色土 ローム塊多量混。焼土粒僅混。白色粒処々に混。
- 3.暗褐色土 ローム粒・塊多量混。黒褐色土粒・焼土粒・塊少量混。



第231図 265号竪穴建物跡

第3章 発見された遺構と遺物

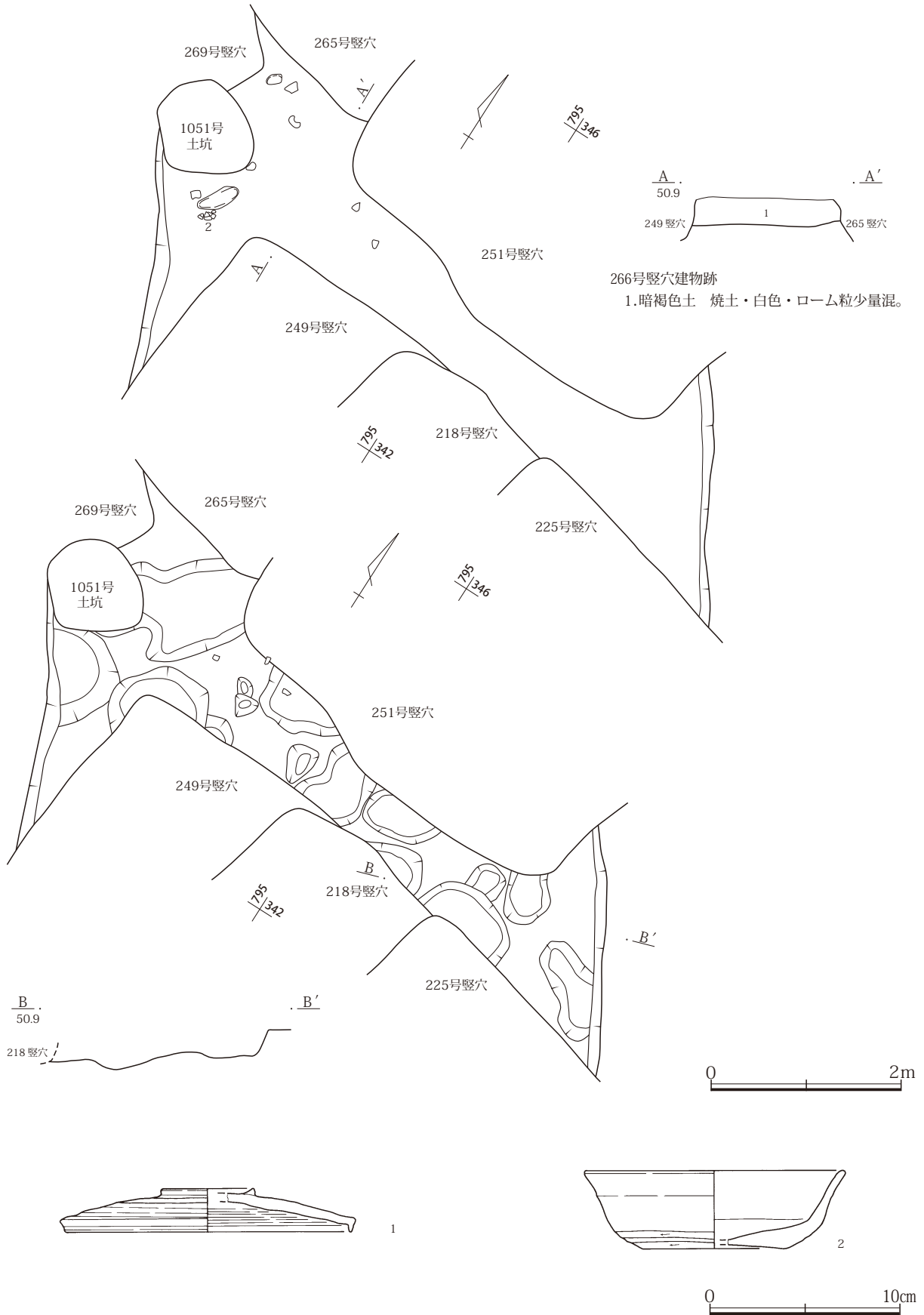


第232図 265号竪穴建物跡出土遺物

(62) 265号竪穴建物跡

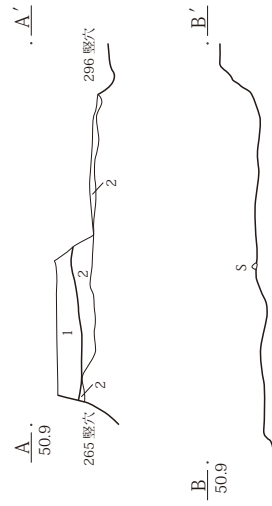
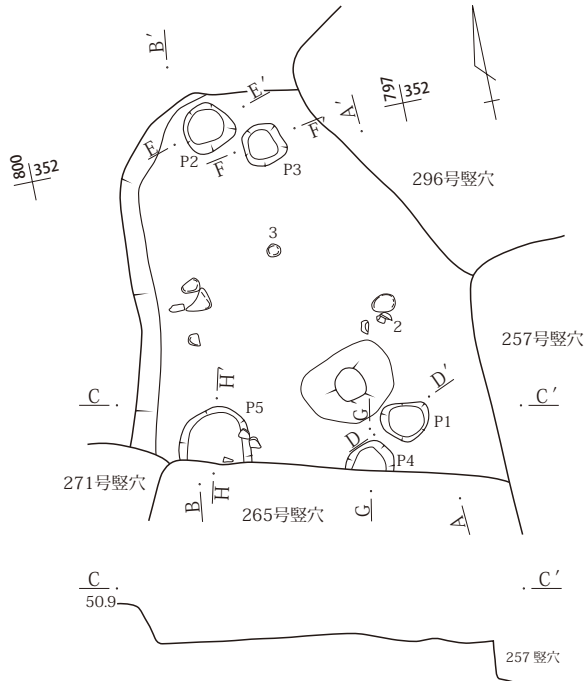
**位置：**調査区中央やや南寄り。X345・Y-795～800Gr. **主軸方位：**不明。 **重複：**266・267・269・271号竪穴建物跡を掘り込む。248・250・251・257号竪穴建物跡、1050号土坑跡に掘り込まれる。 **規模と形状：**西・北・南壁の一部が検出された。方形に近い形状であったものと考えられる。南北4.05m・東西(3.98)m・床面までの深さ0.48m・掘方までの深さ0.6m。 **埋土：**暗褐色土ベース。 **床面：**地山をほぼ平坦に掘り込んだ上に、ローム塊を多量に含んだ暗褐色土を貼って平坦な床面を形成している。床面の厚さ約0.12m前後。

**掘方：**中央部及び北東隅付近が一段深く掘り窪められている。 **竈：**未検出。 **貯蔵穴：**未検出。 **柱穴・pit：**柱穴はいずれも掘方からの検出であり、最終使用面段階では使用されておらず床下に埋め込まれていたものと考えられる。**pit1**長径0.36m・短径0.34m・深さ0.2m、**pit2**長径0.42m・短径0.4m・深さ0.06m、**pit3**長径0.38m・短径0.3m・深さ0.14m、**pit4**長径0.42m・短径0.37m・深さ0.18m、**pit5**長径0.42m・短径0.3m・深さ0.1m、**pit6**長径0.48m・短径0.3m・深さ0.18m、**pit7**長径0.43m・短径0.38m・深さ0.18m。 **時期：**9C2～3。 **遺物：**建物内に散在。



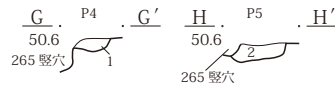
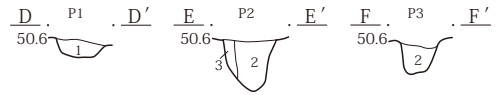
第233図 266号竪穴建物跡・出土遺物

第3章 発見された遺構と遺物



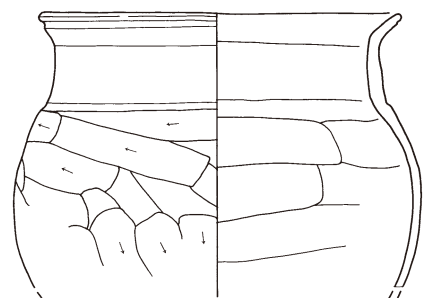
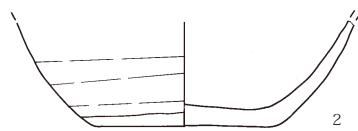
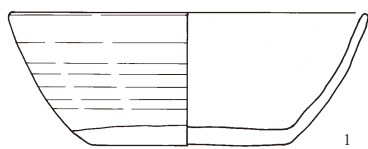
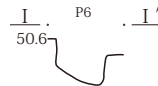
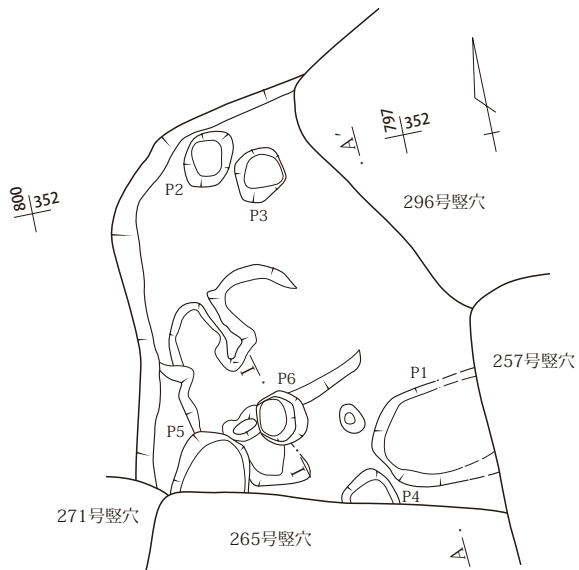
267号竪穴建物跡

1. 暗褐色土 焼土粒多量混。
2. 暗褐色土 白色・焼土粒僅混。



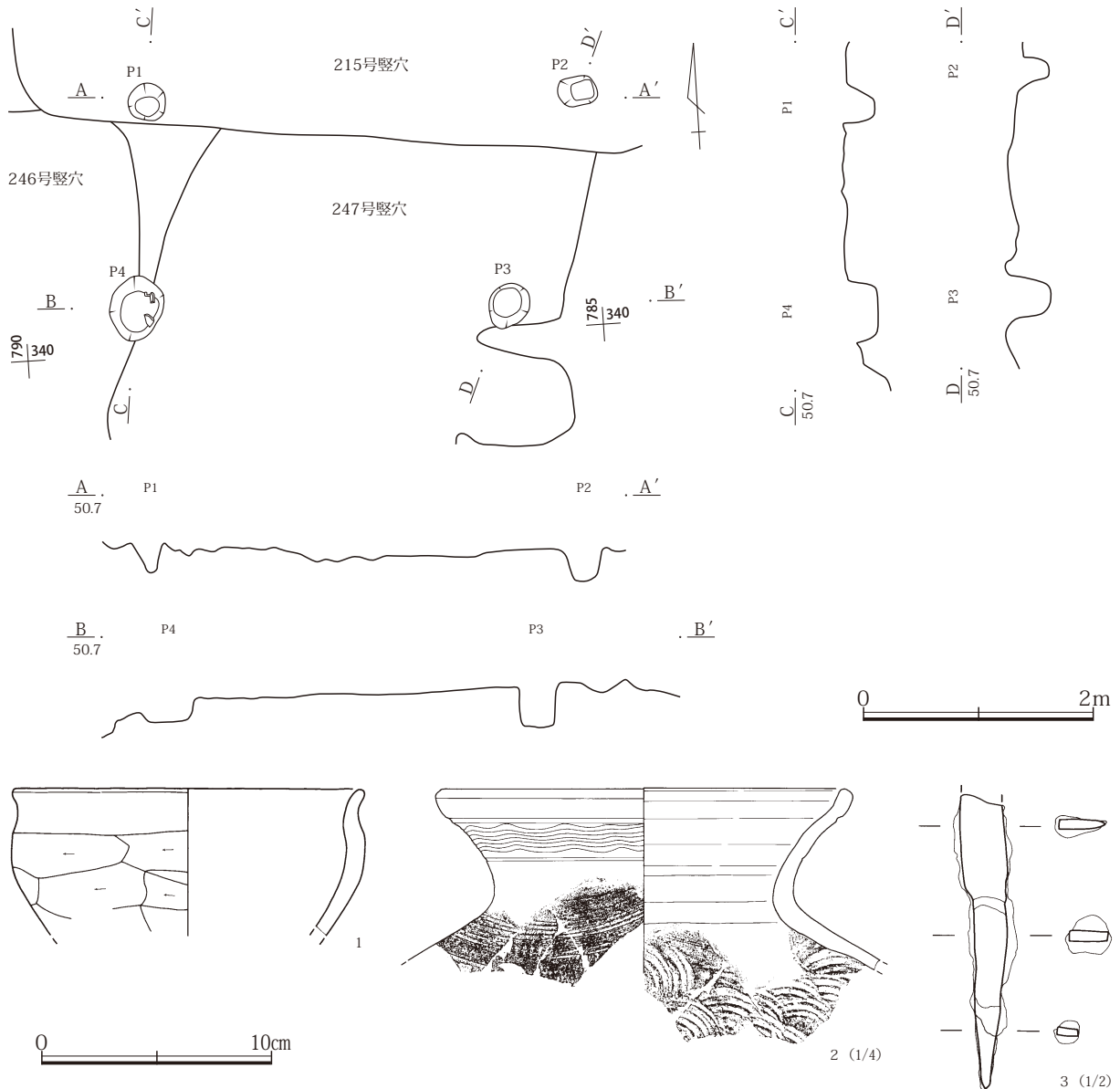
267号竪穴建物跡pit

1. 暗褐色土 ローム塊少量混。
2. 暗褐色土 ローム粒・塊混。
3. 暗褐色土 ローム粒混。焼土粒僅混。



4

第234図 267号竪穴建物跡・出土遺物



第235図 268号竪穴建物跡・出土遺物

(63) 266号竪穴建物跡

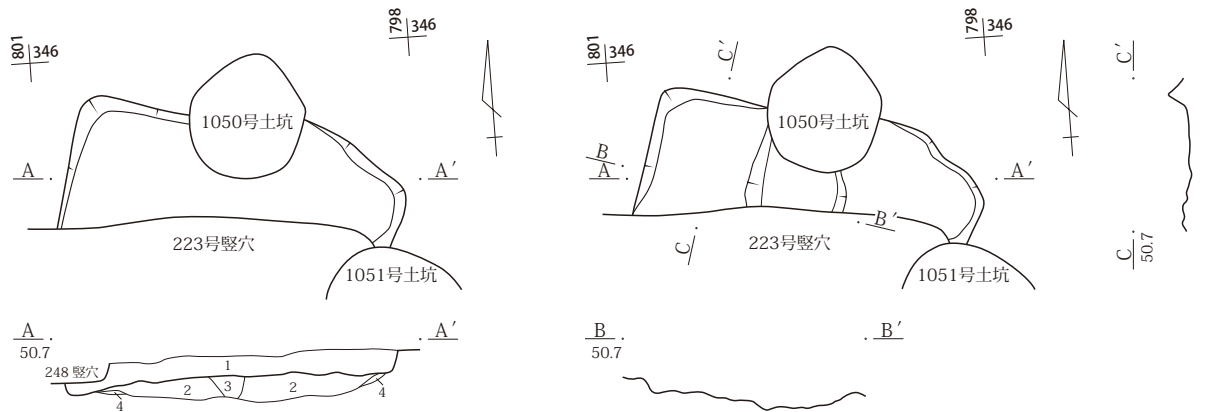
位置：調査区中央南寄り。X340・Y-790～-795Gr.

主軸方位：不明。重複：218・223・225・249・251・265・269号竪穴建物跡、1050号土坑跡に掘り込まれる。規模と形状：形状不明。床面までの深さ0.29m・掘方までの深さ0.4m。埋土：暗褐色土ベース。床面：不明。掘方：凹凸激しく大きく掘り込まれ、土坑状の掘り込みがいくつも連続している。竈：未検出。貯蔵穴：未検出。時期：8Cか？。遺物：掘方と埋土より各1。

(64) 267号竪穴建物跡

位置：調査区中央。X345～350・Y-795Gr. 主軸方位：不明。重複：257・265・296・271号竪穴建物跡に掘り込まれる。310号竪穴建物跡、1098号土坑跡を掘り込む。規模と形状：形状不明。北西隅から北壁と西壁のごく一部のみが検出された。床面までの深さ0.2m・掘方までの深さ0.3m。埋土：暗褐色土ベース。床面：不明。掘方：床下の土坑状の掘り込みがいくつも連続していて凹凸が激しい。竈：未検出。貯蔵穴：未検出。柱穴・pit：使用面で5基、床下から1基、計6基のpitが検出さ

第3章 発見された遺構と遺物



269号竖穴建物跡

1. 暗褐色土 ローム粒多量混。白色粒少量混。焼土粒10%混。
2. 暗褐色土 ローム塊多量混。黒褐色土粒混。焼土細粒僅混。
3. 暗褐色土 ローム粒少量混。
4. 暗褐色土 ローム粒多量混。

第236図 269号竖穴建物跡

れたが、いずれも位置や規模から柱穴とは考えられず、用途は不明である。pit1長径0.4m・短径0.3m・深さ0.15m、pit2長径0.39m・短径0.32m・深さ0.25m、pit3長径0.33m・短径0.32m・深さ0.25m、pit4長径0.4m・短径(0.23) m・深さ0.12m、pit5長径0.6m・短径(0.5) m・深さ0.16m、pit6長径0.42m・短径0.4m・深さ0.35m。 時期：9 C 3。 遺物：建物内に散在。

(65) 268号竖穴建物跡

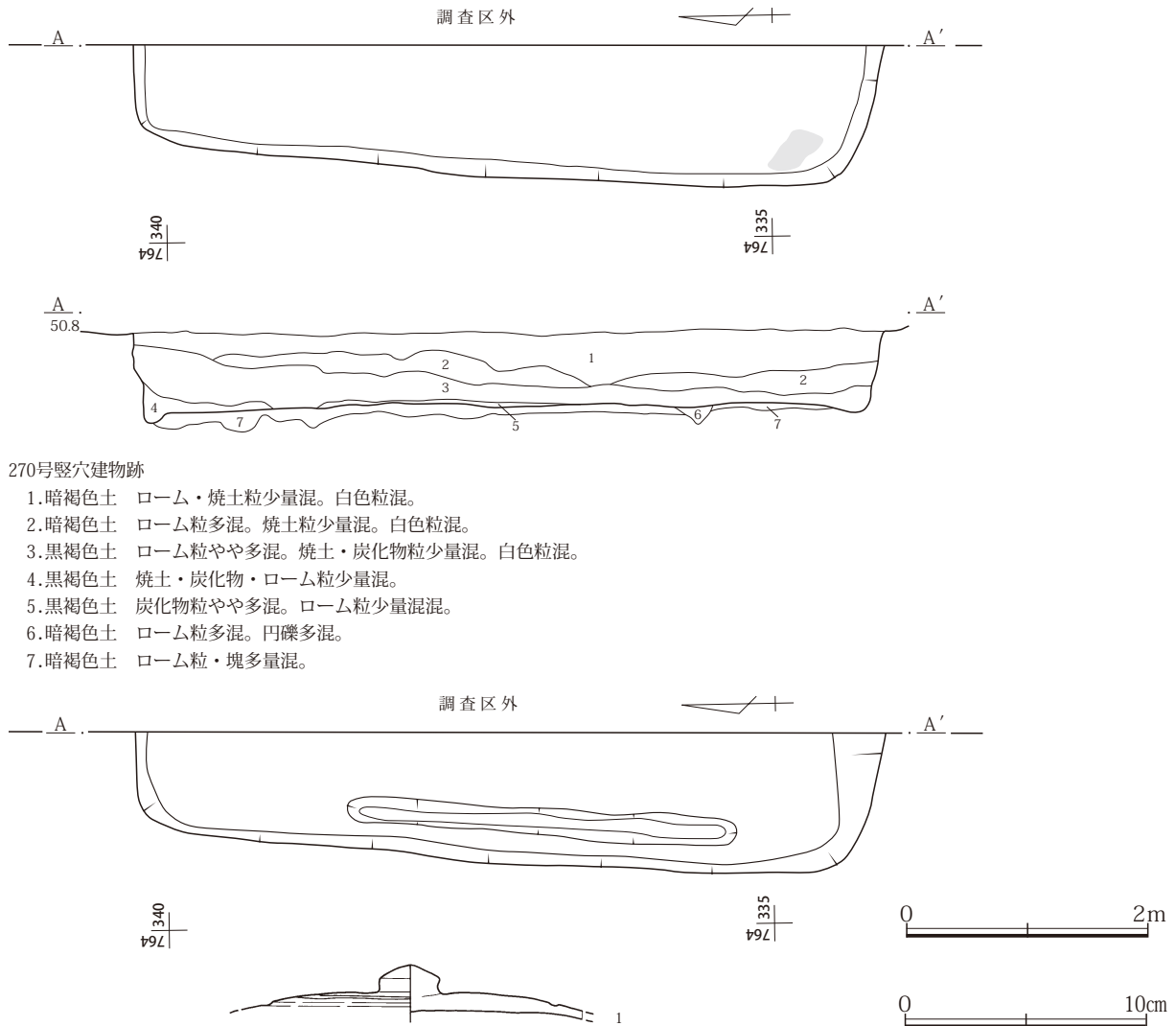
位置：調査区中央南東寄り。X340・Y-785Gr. 主軸方位：不明。重複：215・246・247号竖穴建物跡に掘り込まれる。規模と形状：形状不明。本竖穴建物跡を掘り込んだ215・246・247号各竖穴建物跡の掘方から本建物跡のものとみられる4柱穴の残骸が検出されたに過ぎない。4柱穴のみ検出されたので、竖穴建物跡と一応判断したが、1間四方の掘立柱建物跡であった可能性も否定できない。埋土：不明。床面：不明。掘方：不明。竈：未検出。貯蔵穴：未検出。柱穴・pit：pit1長径0.32m・短径0.3m・深さ0.28m、pit2長径0.35m・短径0.25m・深さ0.35m、pit3長径0.4m・短径0.36m・深さ0.4m、pit4長径0.54m・短径0.45m・深さ0.3m。 時期：不明。遺物：建物内に散在。

(66) 269号竖穴建物跡

位置：調査区中央南寄り。X340～345・Y-795～-800Gr. 主軸方位：不明。重複：223号竖穴建物跡、1050号土坑跡によって掘り込まれる。248・265・266号竖穴建物跡を掘り込む。規模と形状：形状不明。北・東・西各壁の一部が検出されたのみ。掘方までの深さは0.38m。床面と掘方の区分もあまり明確ではなく、果たして竖穴建物跡となるのかどうか不明な点がある。埋土：不明。床面：不明。掘方：凹凸がかなり激しい。竈：未検出。貯蔵穴：未検出。時期：不明。遺物：なし。

(67) 270号竖穴建物跡

位置：調査区東壁際。X335・Y-760Gr. 主軸方位：不明。重複：1号円形周溝跡を掘り込む。規模と形状：形状不明。大部分が東側調査区外に出る。西壁が検出されたのみ。西壁6m・床面までの深さ0.65m・掘方までの深さ0.8m。埋土：暗褐色土ベース。床面：地山をほぼ平坦に削りだした上にローム粒を多量に含む暗褐色土を薄く敷いて硬質な床面を形成している。掘方：比較的平坦に掘り出されている。西壁際に溝状の一段深い掘り込みが見られるが、長さが短く、周溝とは考えにくい。竈：未検出。貯蔵穴：未検出。時期：8 C 代か？。



270号竪穴建物跡

- 1.暗褐色土 ローム・焼土粒少量混。白色粒混。
- 2.暗褐色土 ローム粒多混。焼土粒少量混。白色粒混。
- 3.黒褐色土 ローム粒やや多混。焼土・炭化物粒少量混。白色粒混。
- 4.黒褐色土 焼土・炭化物・ローム粒少量混。
- 5.黒褐色土 炭化物粒やや多混。ローム粒少量混。
- 6.暗褐色土 ローム粒多混。円礫多混。
- 7.暗褐色土 ローム粒・塊多量混。

第237図 270号竪穴建物跡・出土遺物

遺物：埋土中より1。

(68) 271号竪穴建物跡

位置：調査区中央南寄り。X345~350・Y-795~800Gr. 主軸方位：不明。重複：248・265号竪穴建物跡に掘り込まれる。規模と形状：北西隅から北壁の一部が検出されたのみで全容は不明である。床面までの深さ0.3m・掘方までの深さ0.32m。埋土：暗褐色土ベース。床面：平坦に地山を削りだした上に砂質ローム粒を多量に含む暗褐色土を薄く貼って硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.02m前後。掘方：地山をほぼ平坦に掘り窪めており、あまり凹凸は顕著ではない。とくに北西隅

と北壁際には床下土坑状の掘り込みがみられる。

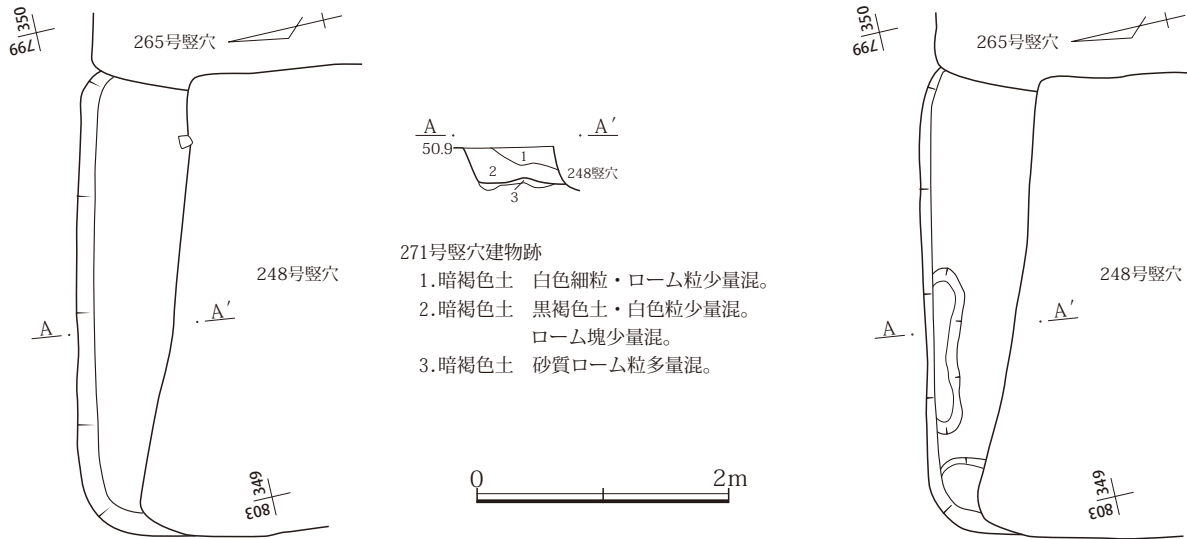
竈：未検出。貯蔵穴：未検出。時期：不明。

遺物：なし。

(69) 272号竪穴建物跡

位置：調査区中央の東壁際。X345~350・Y-760~765Gr. 主軸方位：不明。重複：273・274号竪穴建物跡を掘り込む。規模と形状：北西-南東方向に長い長方形を呈するものと思われる。東側が調査区外に出るため全容は不明である。長辺(3.7)m・短辺3.6m・床面までの深さ0.55m・掘方までの深さ0.64m。埋土：暗褐色土ベース。床面：地山を比較的平坦に削りだした上にローム粒を多量に含

### 第3章 発見された遺構と遺物



第238図 271号竪穴建物跡

む暗褐色土を薄く敷いて硬質な床面を形成している。**掘方**：床下土坑状の掘り込みが見られるが、凹凸はさほど激しくはない。**竈**：未検出。**貯蔵穴**：未検出。**時期**：8 C 前。**遺物**：建物内に散在。

#### (70) 273号竪穴建物跡

**位置**：調査区東壁際。X345・Y-760~765Gr. **主軸方位**：不明。**重複**：272号竪穴建物跡に北東側大部分を掘り込まれる。**規模と形状**：北東-南西方向に若干長い長方形を呈するものと思われる。北東側大部分を破壊されているため全容は不明である。長辺2.64m・短辺2.5m・床面までの深さ0.52m・掘方までの深さ0.58m。**埋土**：暗褐色土ベース。

**床面**：地山を比較的平坦に削りだした上にローム粒・塊を多量に含む暗褐色土を薄く敷いて硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.06m前後。

**掘方**：一段深い掘り込みが見られるが、凹凸はさほど激しくはない。**竈**：未検出。**貯蔵穴**：未検出。

**時期**：8 C 後。**遺物**：埋土中より4。

#### (71) 274号竪穴建物跡

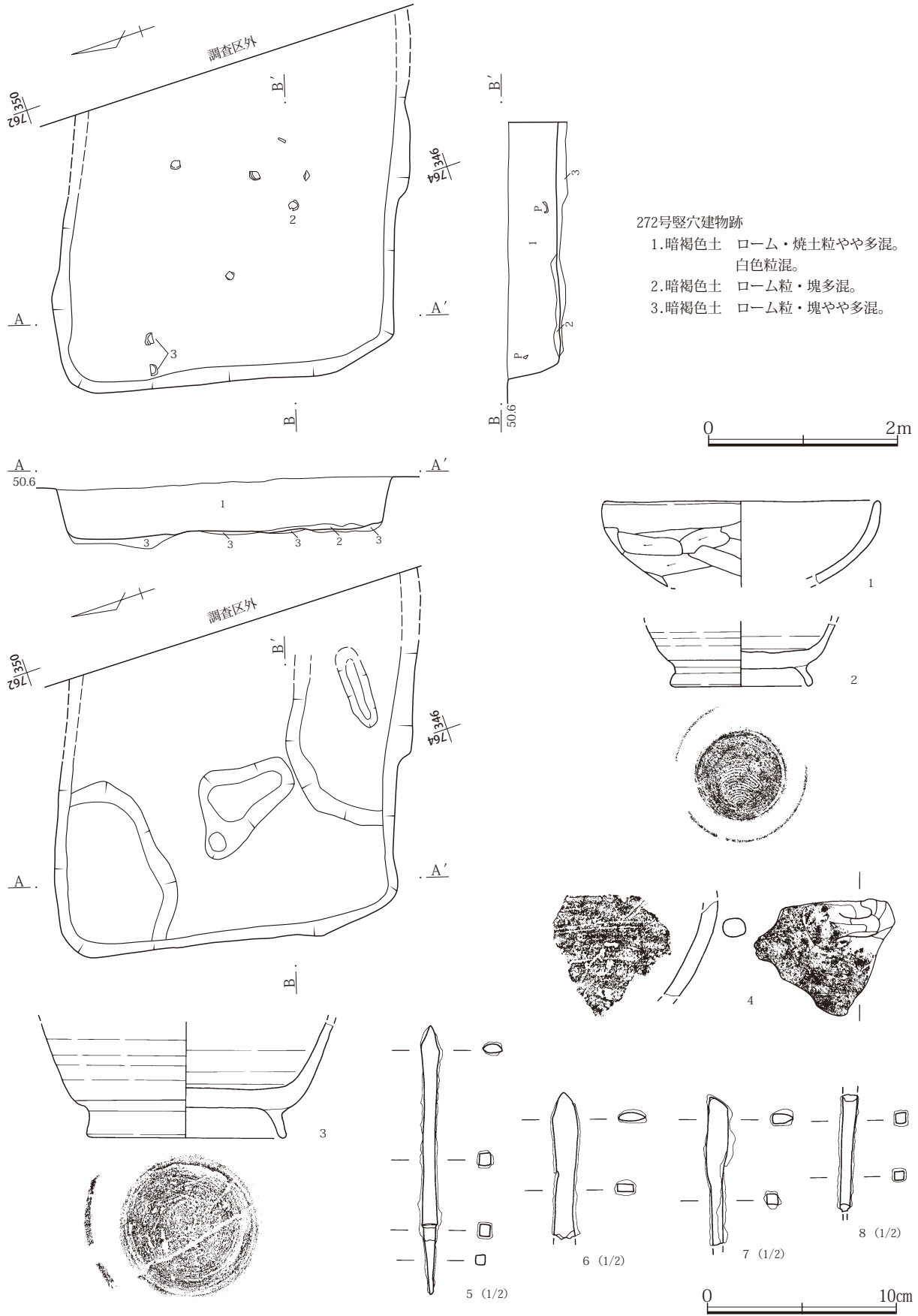
**位置**：調査区中央の東壁際。X345・Y-760Gr. **主軸方位**：不明。**重複**：272号竪穴建物跡に北側大部分を掘り込まれる。**規模と形状**：北側大部分を272号竪穴建物跡によって破壊され、東側大部分が

調査区外に出るため全容はまったく不明である。南西隅が辛うじて検出できた程度。床面までの深さ0.56m・掘方までの深さ0.62m。**埋土**：暗褐色土ベース。**床面**：地山を比較的平坦に削りだした上にローム粒をやや多く含む暗褐色土を薄く敷いて硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.06m前後。**掘方**：地山を平坦に削りだしている。凹凸はさほど激しくはない。**竈**：未検出。**貯蔵穴**：未検出。**時期**：不明。**遺物**：なし。

#### (72) 275号竪穴建物跡

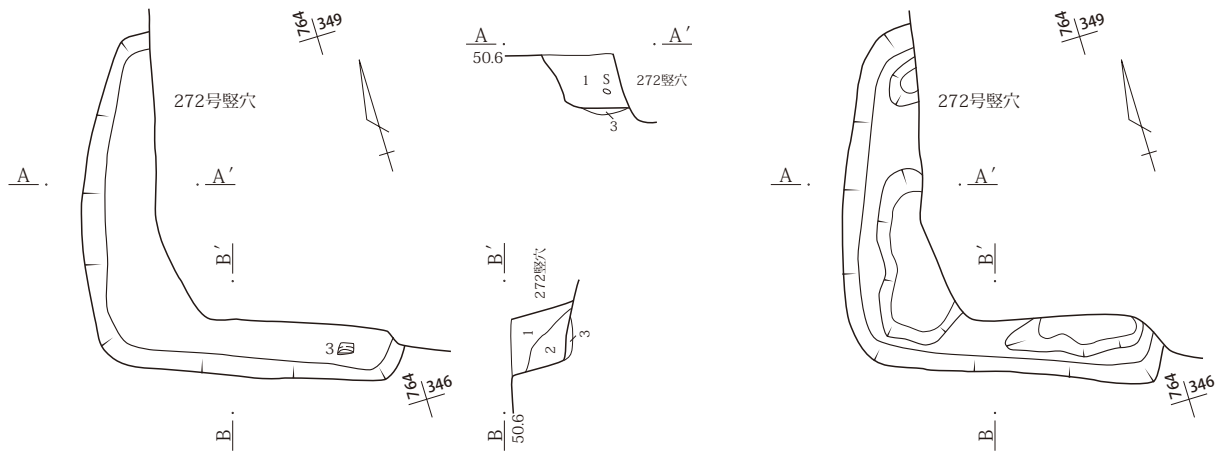
**位置**：調査区中央から南寄り東壁際。X340~345・Y-765~770Gr. **主軸方位**：N-22°-E **重複**：241・243・254号竪穴建物跡に掘り込まれる。**規模と形状**：南北に若干長い方形を呈する。長辺4.9m・短辺4.82m・床面までの深さ0.16m・掘方までの深さ0.25m。**埋土**：黒褐色土ベース。**床面**：地山を凹凸激しく掘り込んだ上にローム粒・塊を多量に含む暗褐色土を貼って平坦な面を造り出し、硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.09m前後。**掘方**：竈前が一段と深く床下の土坑状に掘り込まれている。**竈**：北東壁のほぼ中央に取り付く。両袖及び燃烧部・煙道の左側を241号建物跡によって破壊されているため、検出状況は良くない。袖・燃烧部・煙道共に地山を削り出して形成され、燃烧





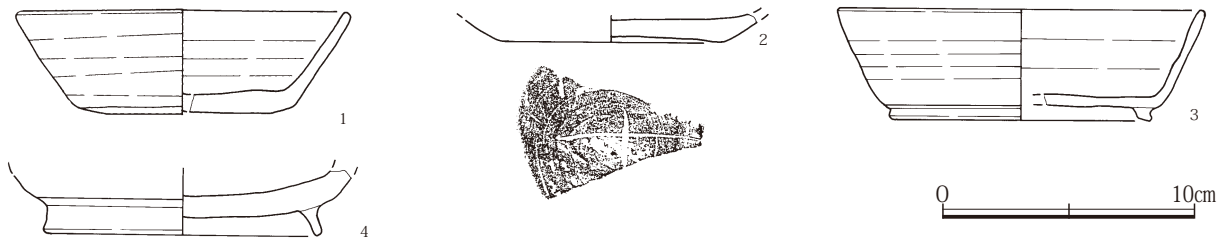
第239図 272号竪穴建物跡・出土遺物

第3章 発見された遺構と遺物



273号竪穴建物跡

1. 暗褐色土 やや暗い色調を呈する。ローム・焼土細粒少量混。上部に白色粒混。
2. 暗褐色土 ローム粒・塊少量混。
3. 暗褐色土 ローム粒・塊多混。



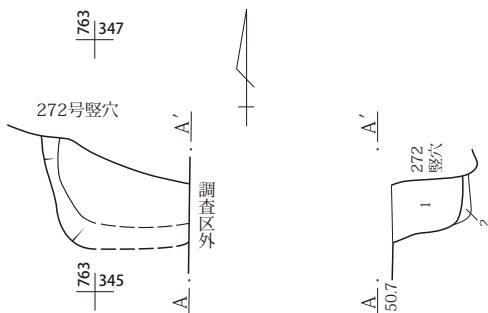
第240図 273号竪穴建物跡・出土遺物

部は壁よりも奥側に形成されている。煙道部はあまり長く外側に伸びない。袖は地山を段状に削り出して形成している。貯蔵穴：未検出。時期：6C後。遺物：床直より6、埋土中より1。建物の北東部と南西部に比較的まとまっている。

(73) 276号竪穴建物跡

位置：調査区中央より南東寄り。X340・Y-775Gr.

主軸方位：N-33° -W 重複：253・254号竪穴建



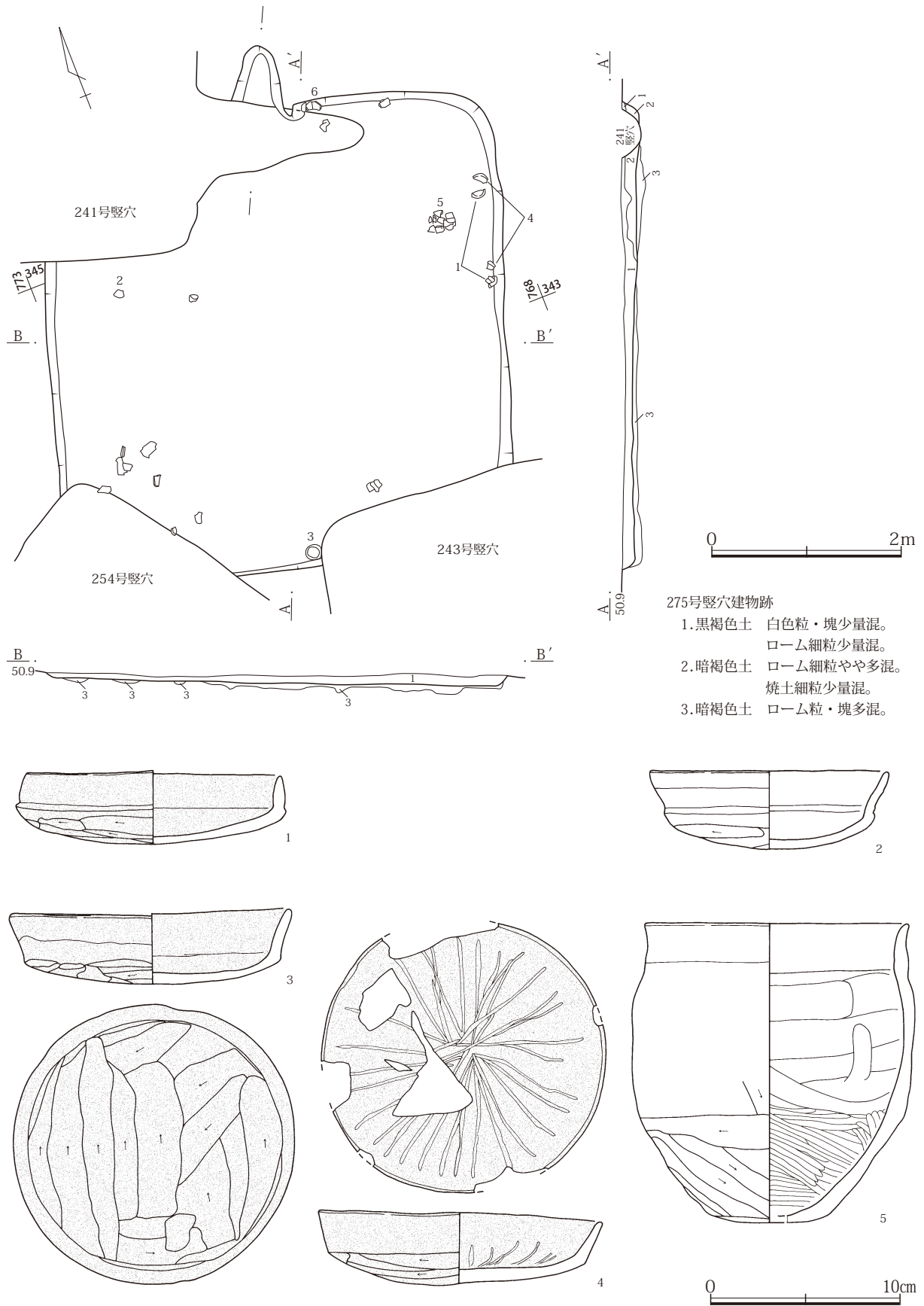
第241図 274号竪穴建物跡

物跡に掘り込まれる。規模と形状：竈・北西壁・北東壁の一部が検出されたのみで全容は不明。床面までの深さ0.13m・掘方までの深さ0.18m。埋土：暗褐色土ベース。床面：地山を平坦に掘り込んだ上にローム粒・塊をやや多量に含む暗褐色土を薄く貼って平坦な面を造り出し、硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.05m前後。掘方：ほぼ平坦。

竈：北西壁のほぼ中央に取り付く。両袖・燃烧部・煙道共に地山を削り出して形成され、燃烧部は壁とほぼ同位置に形成されている。煙道部はあまり長く外側に伸びない。袖は地山を段状に削り出した上に鈍い黄褐色土を若干貼って形成している。貯蔵穴：

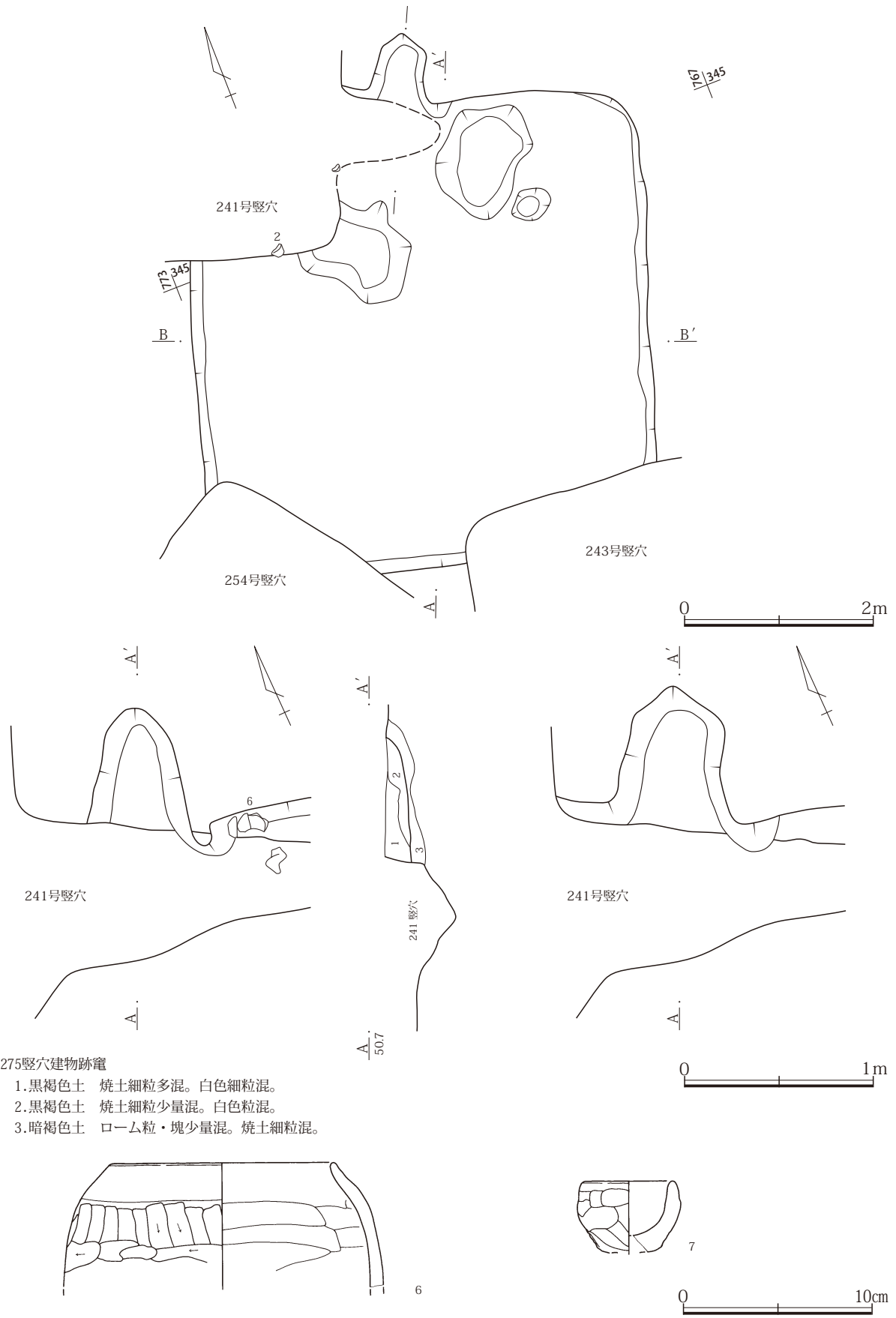
274号竪穴建物跡

1. 暗褐色土 ローム粒多混。焼土粒少量混。
2. 暗褐色土 ローム粒やや多混。

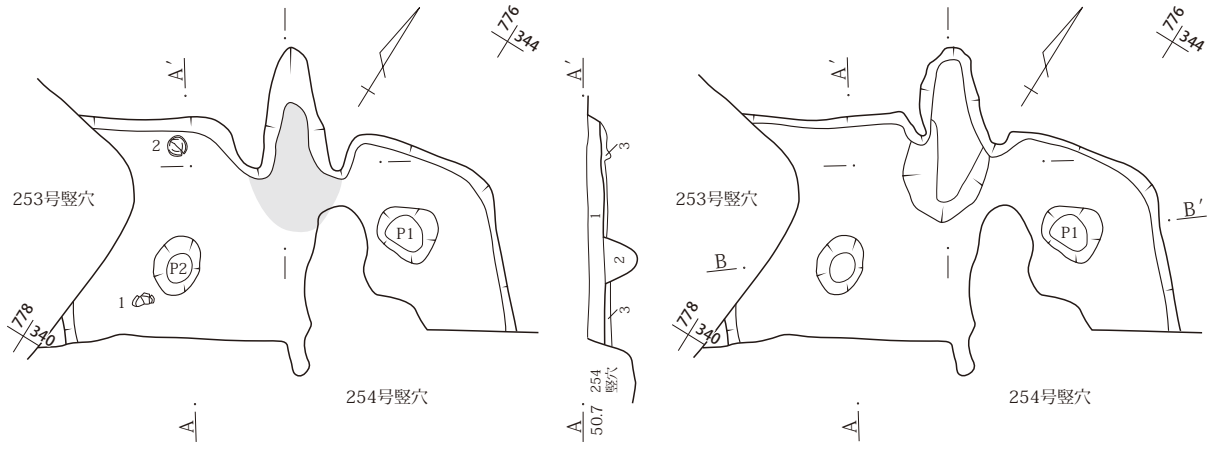


第242図 275号竪穴建物跡・出土遺物（1）

第3章 発見された遺構と遺物

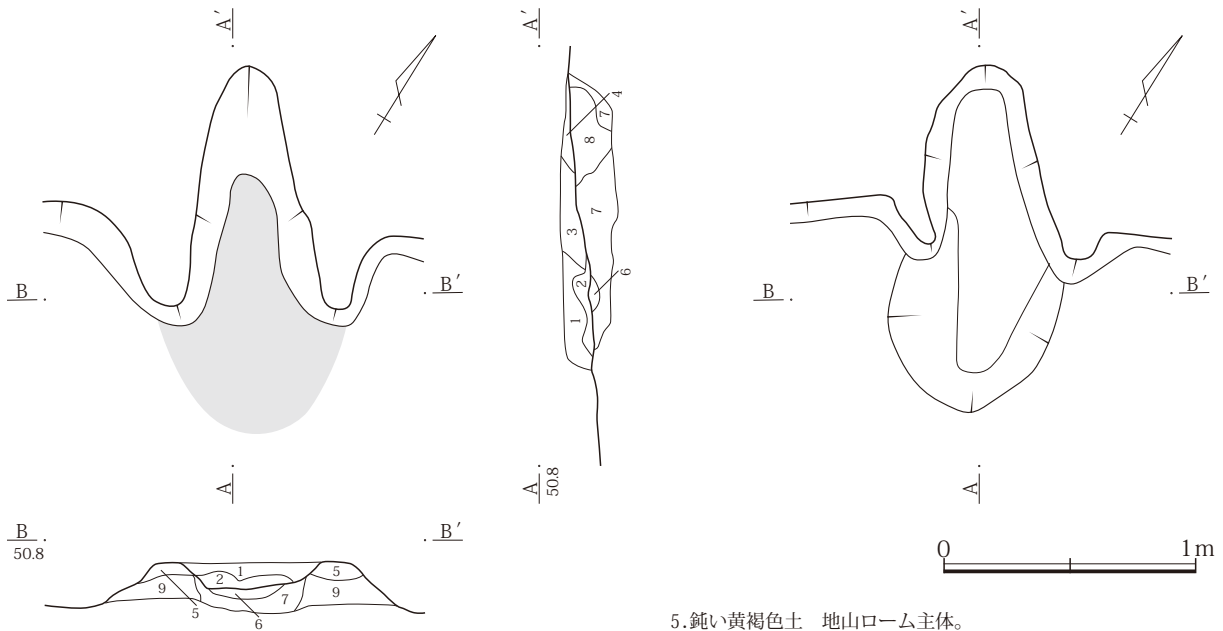


第243図 275号竪穴建物跡掘方・竈・出土遺物（2）



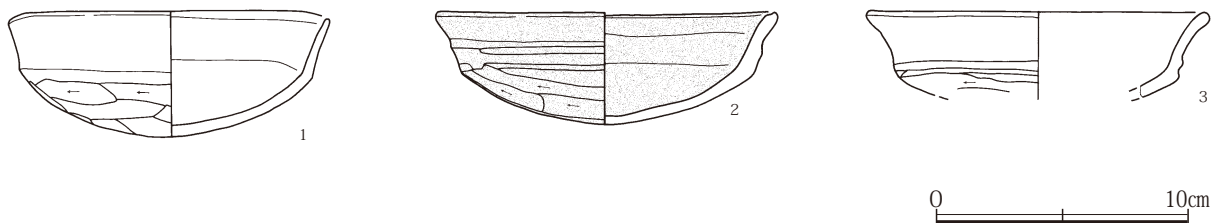
276号竪穴建物跡

1. 暗褐色土 焼土・ローム粒少量混。白色粒混。
2. 暗褐色土 ローム粒・塊少量混。
3. 暗褐色土 ローム粒・塊やや多混。

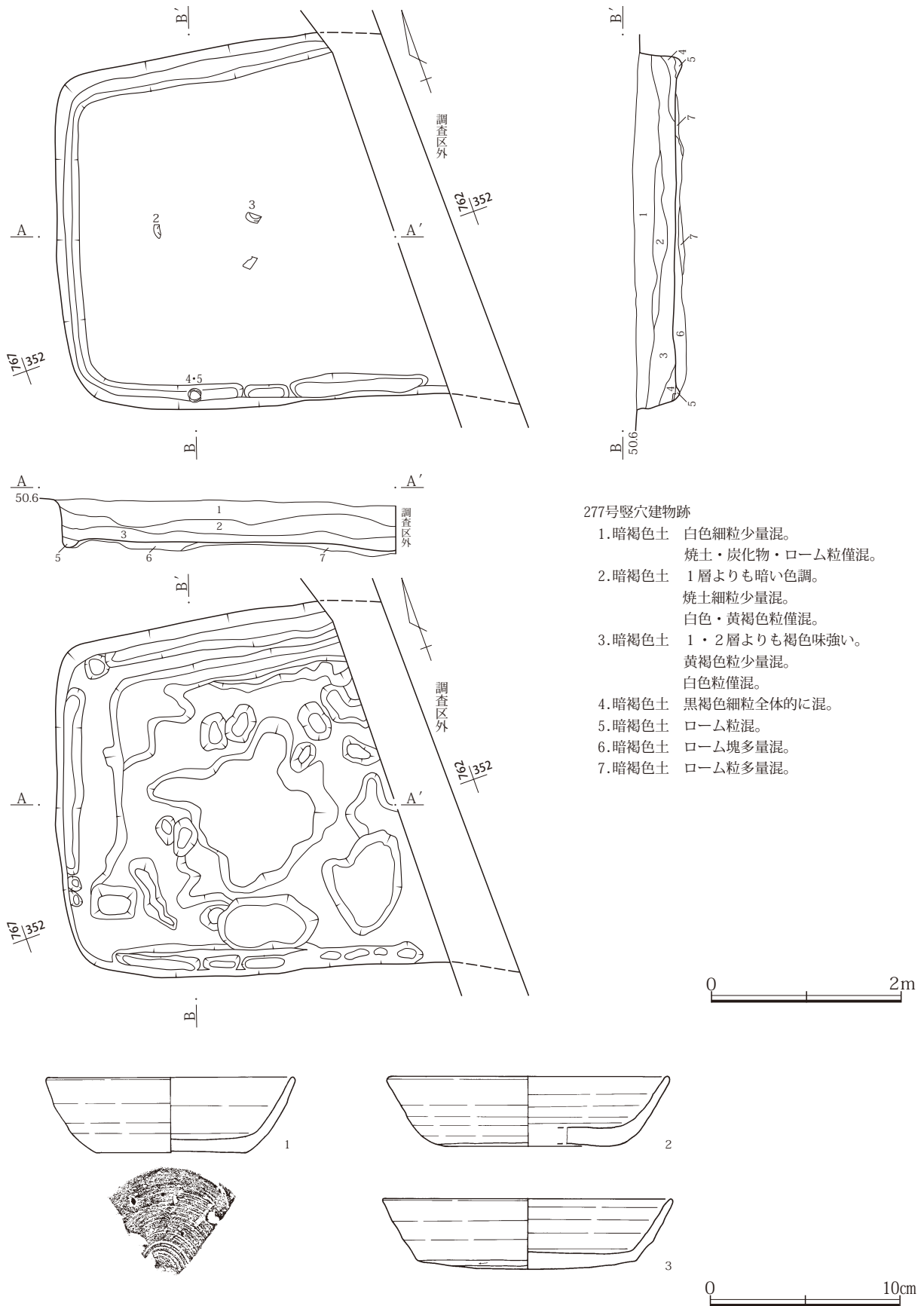


276号竪穴建物跡竈

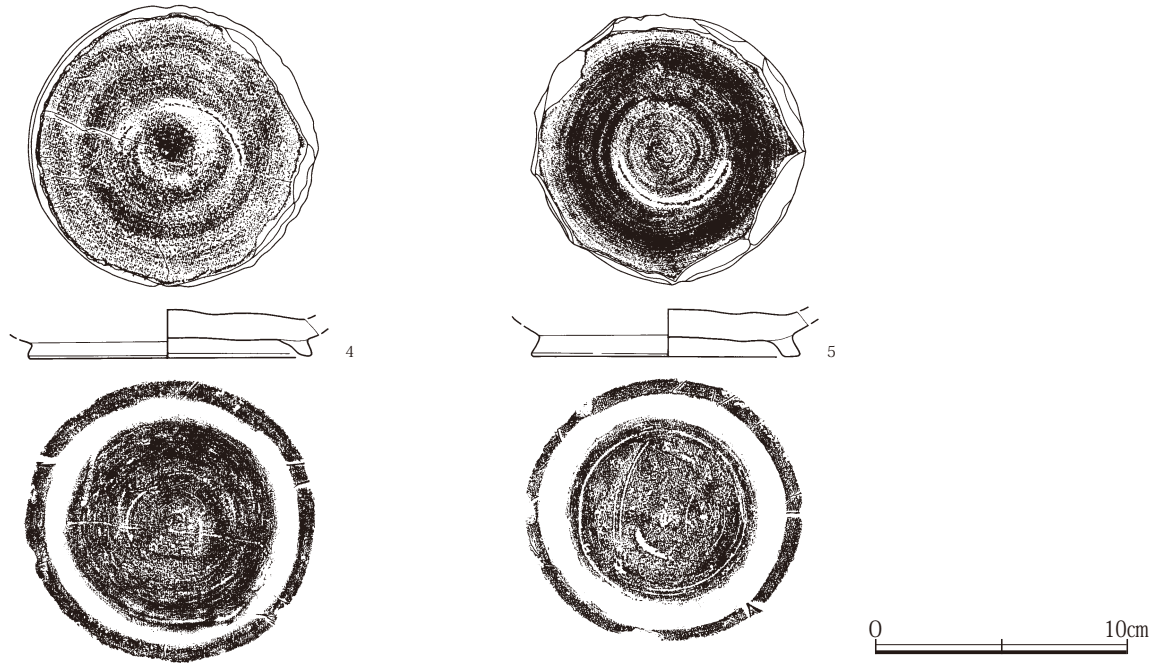
1. 暗褐色土 焼土・ローム細粒少量混。白色細粒混。
2. 鈍い赤褐色土 焼土細粒多混。
3. 暗褐色土 1層と同様だが、やや黄褐色味を帯びる。
4. 暗褐色土 焼土粒多混。
5. 鈍い黄褐色土 地山ローム主体。暗褐色土・焼土細粒少量混。
6. 鈍い赤褐色土 焼土細粒多量混。
7. 暗褐色土 やや黄褐色味がかかる。焼土細粒やや多混。ローム粒・塊少量混。
8. 暗褐色土 焼土粒・塊多量混。よく焼けている。
9. 鈍い黄褐色土 地山ロームを主体とするがややくすむ。



第244図 276号竪穴建物跡・出土遺物



第245図 277号竪穴建物跡・出土遺物（1）



第246図 277号竪穴建物跡出土遺物（2）

未検出。 柱穴・pit:pit1長径0.48m・短径0.45m・深さ0.22m、pit2長径0.48m・短径0.4m・深さ0.24m。 時期：7C前。 遺物：床直より2、竈掘方より1。

(74) 277号竪穴建物跡

位置：調査区東壁際。X350・Y-760～-765Gr.  
 主軸方位：不明。 重複：なし。 規模と形状：南側に隣接する272号竪穴建物跡と同様、北西-南東方向にやや長い長方形を呈していたものと思われる。東側が調査区外に出るため、全容は不明である。北西辺と北東・南西両辺の一部が検出されたのみ。北西辺3.82m・床面までの深さ0.45m・掘方までの深さ0.53m。 埋土：暗褐色土ベース。 床面：地山を凹凸激しく大きく掘り込んだ上にローム塊を多量に含む暗褐色土を薄く貼って平坦な面を造り出し、硬質な床面を形成している。 竈：未検出。 貯蔵穴：未検出。 時期：8C中。 遺物：建物内に散在。

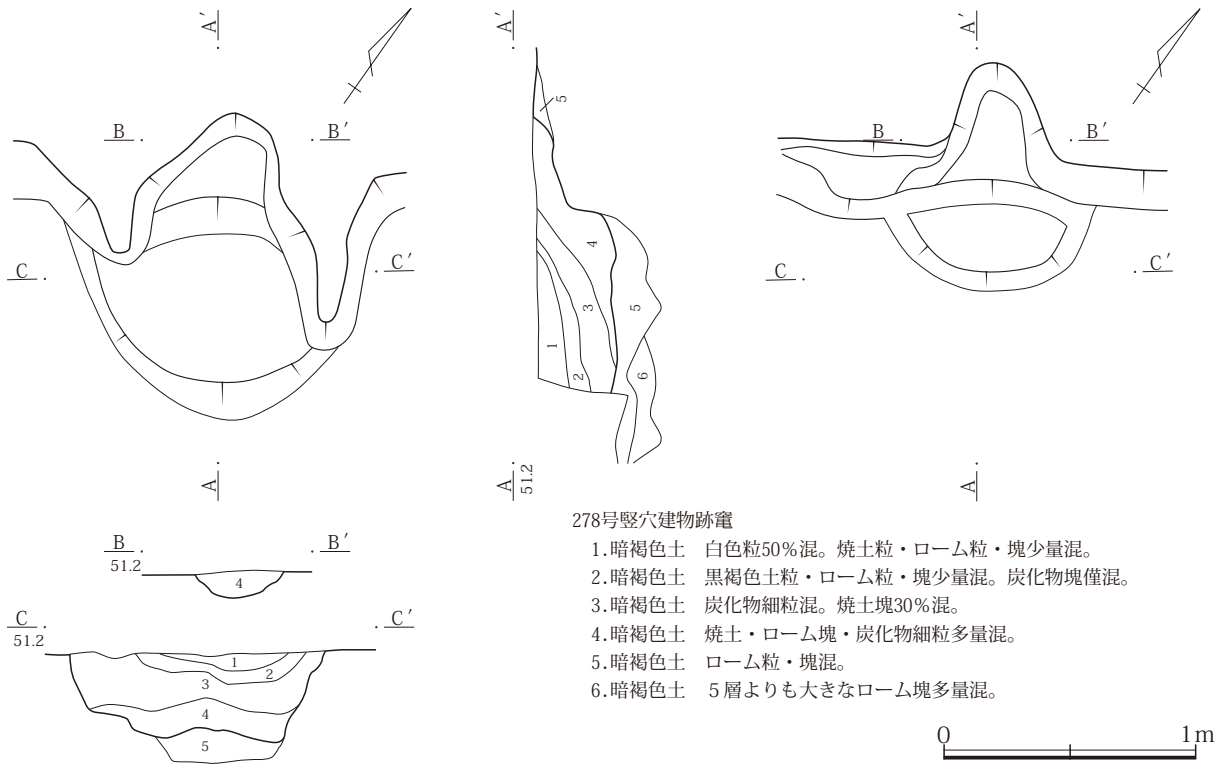
(75) 278号竪穴建物跡

位置：調査区の西寄り。X350-355・Y-825～-830Gr. 主軸方位：N-38°-W 重複：なし。 規

模と形状：北東-南西方向に長い横長の長方形を呈する。長辺4.65m・短辺3.56m・床面までの深さ0.37m・掘方までの深さ0.45m。 埋土：暗褐色土ベース。 床面：地山を比較的凹凸激しく大きく掘り込んだ上にローム塊を多量に含む暗褐色土を薄く貼って平坦な面を造り出し、硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.08m前後。 掘方：地山を凹凸激しく大きく掘り込んでいる。竈前や中央部、東隅・南隅などに一段深く掘り込まれた不整形の床下の土坑状の掘り込みがいくつもみられる。 竈：北西壁のほぼ中央に取り付く。燃焼部及び煙道は地山を削り出して形成される。燃焼部は壁よりも手前に形成されている。両袖は地山を削り出した上に土を貼って形成され、とくに右袖が建物の内部にやや大きく張り出している。煙道は顕著には検出されなかった。 貯蔵穴：竈の北東側で検出された。北東-南西方向に長い不整楕円形状を呈し、長径0.74m・短径0.67m・深さ0.12m。 柱穴・pit：柱穴とは考えられないが、小規模なpitが1基、北隅で検出されている。長径0.48m・短径0.4m・深さ0.2m。 時期：6C後。 遺物：建物内に散在。須恵器大甕片が2（5・6）。

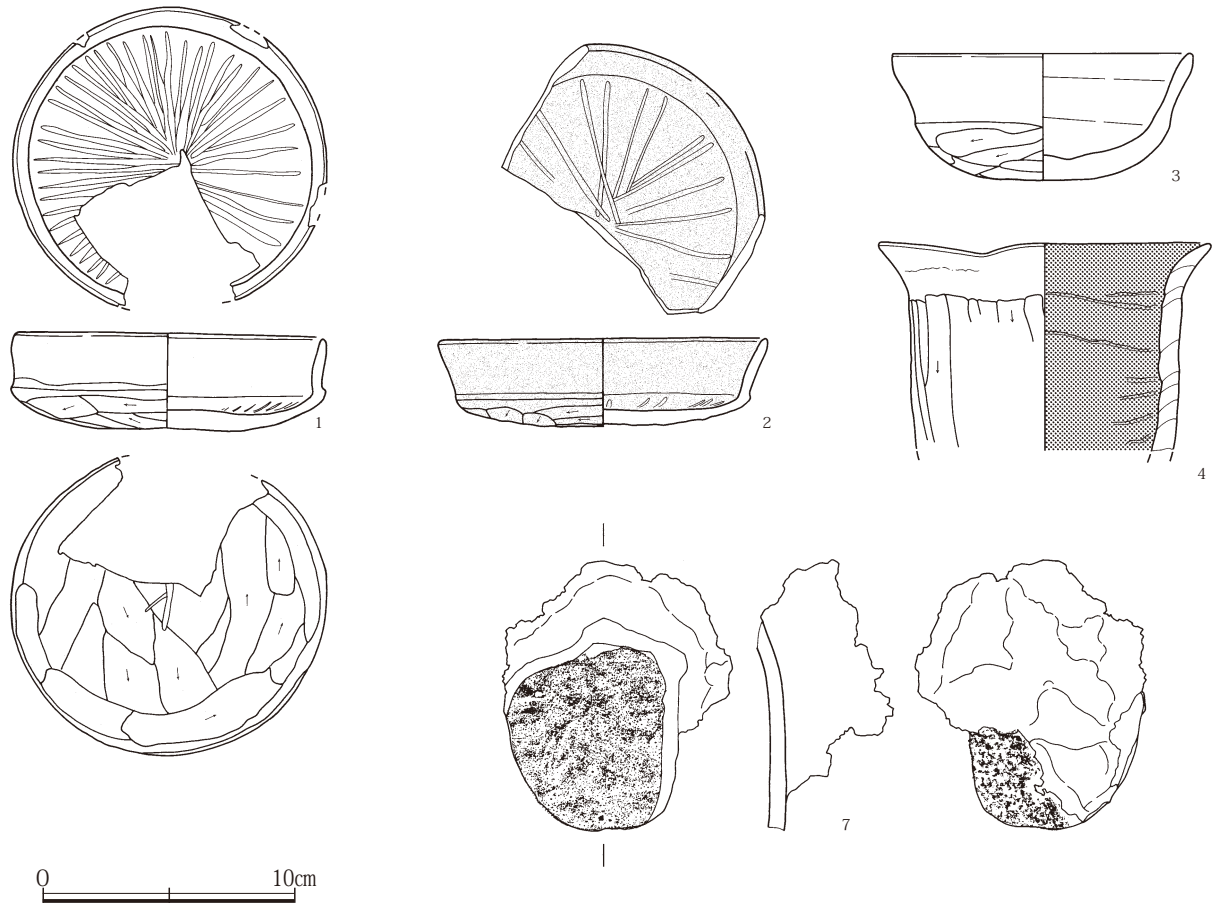




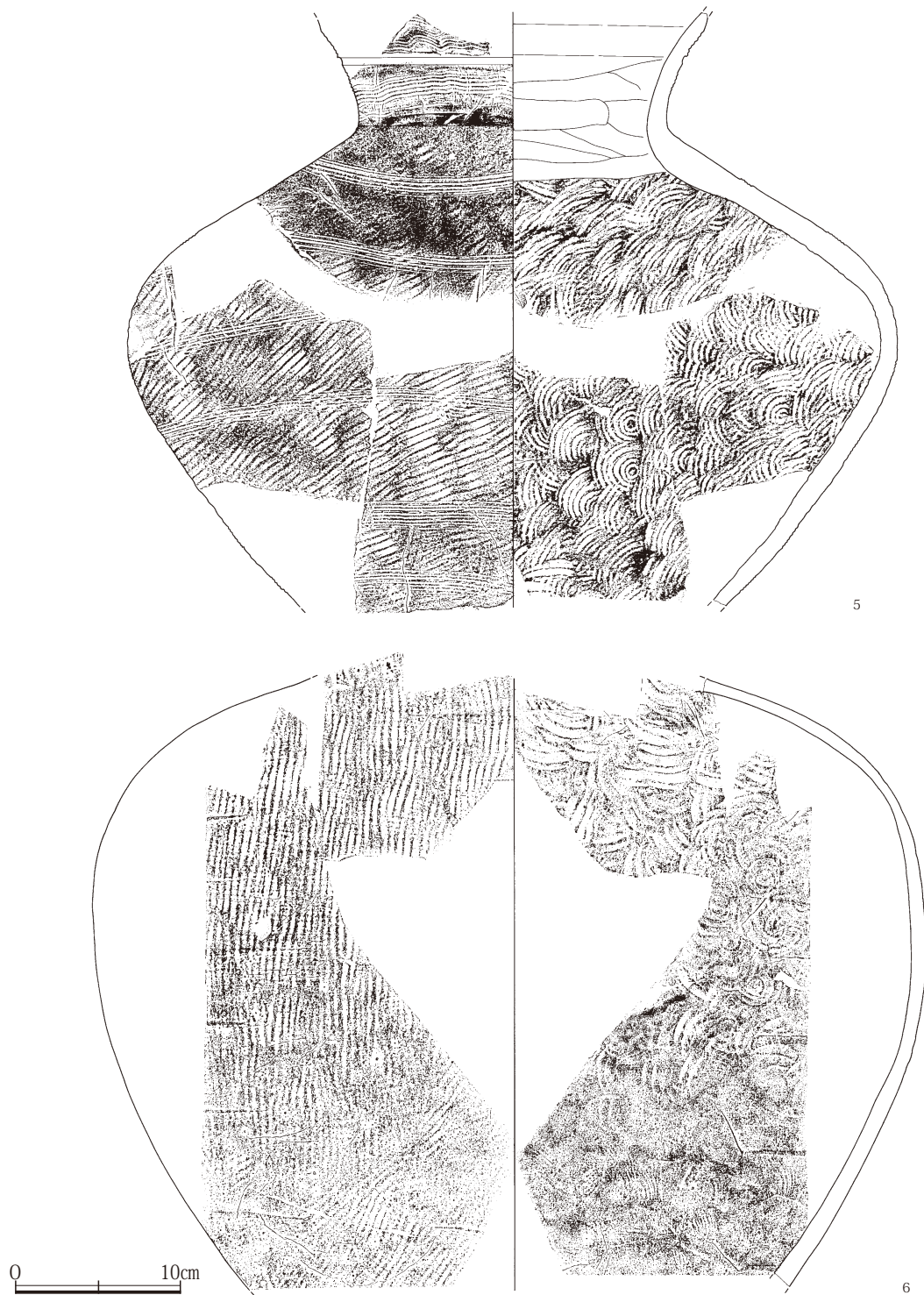


278号竪穴建物跡竈

1. 暗褐色土 白色粒50%混。焼土粒・ローム粒・塊少量混。
2. 暗褐色土 黒褐色土粒・ローム粒・塊少量混。炭化物塊僅混。
3. 暗褐色土 炭化物細粒混。焼土塊30%混。
4. 暗褐色土 焼土・ローム塊・炭化物細粒多量混。
5. 暗褐色土 ローム粒・塊混。
6. 暗褐色土 5層よりも大きなローム塊多量混。



第248図 278号竪穴建物跡竈・出土遺物（1）

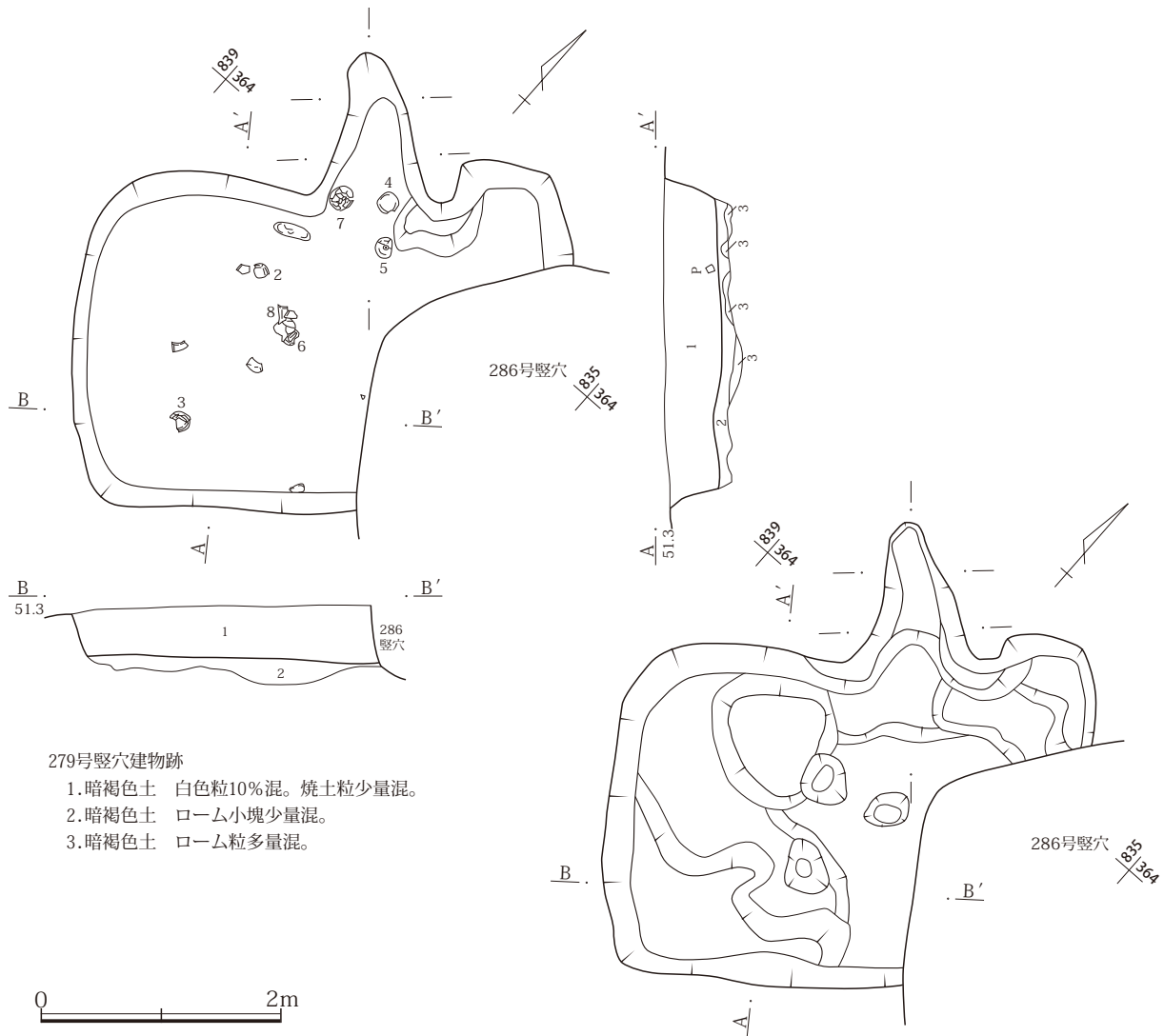


第249図 278号竪穴建物跡出土遺物（2）

て形成される。焼部は壁よりも外側に形成されている。両袖は地山を段状に削り出して形成され、内側に張り出さない。煙道は外側にやや大きく延びている。貯蔵穴：未検出。時期：8 C 2。遺物：建物内に散在。

（77）280号竪穴建物跡

位置：調査区南西端。X350-355・Y-835Gr. 主軸方位：N-81° -E 重複：51・53号溝跡に掘り込まれる。294・307号竪穴建物跡を掘り込む。規模と形状：南北に長い長方形を呈する。長辺4.57m・



279号竪穴建物跡

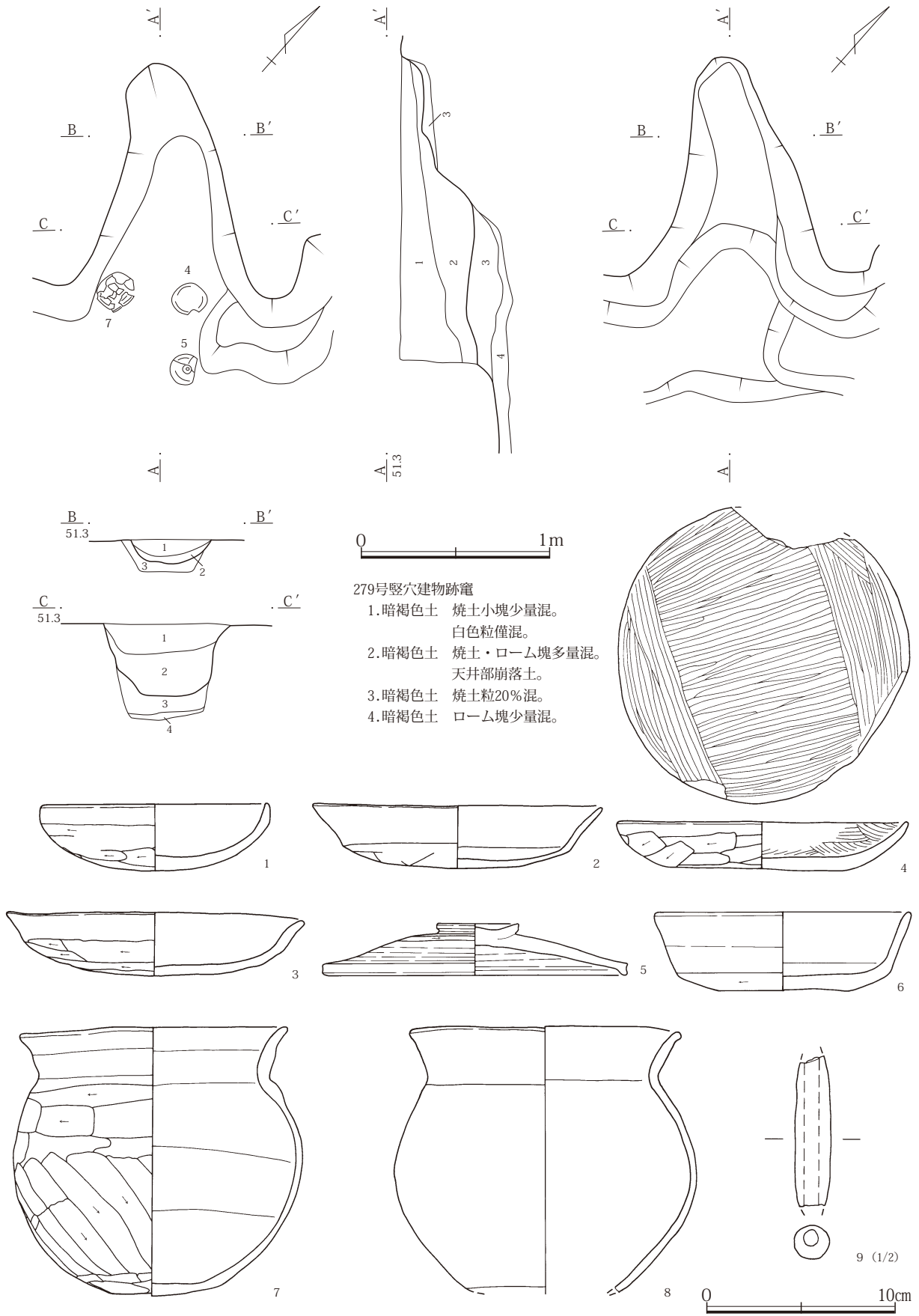
1. 暗褐色土 白色粒10%混。焼土粒少量混。
2. 暗褐色土 ローム小塊少量混。
3. 暗褐色土 ローム粒多量混。

第250図 279号竪穴建物跡

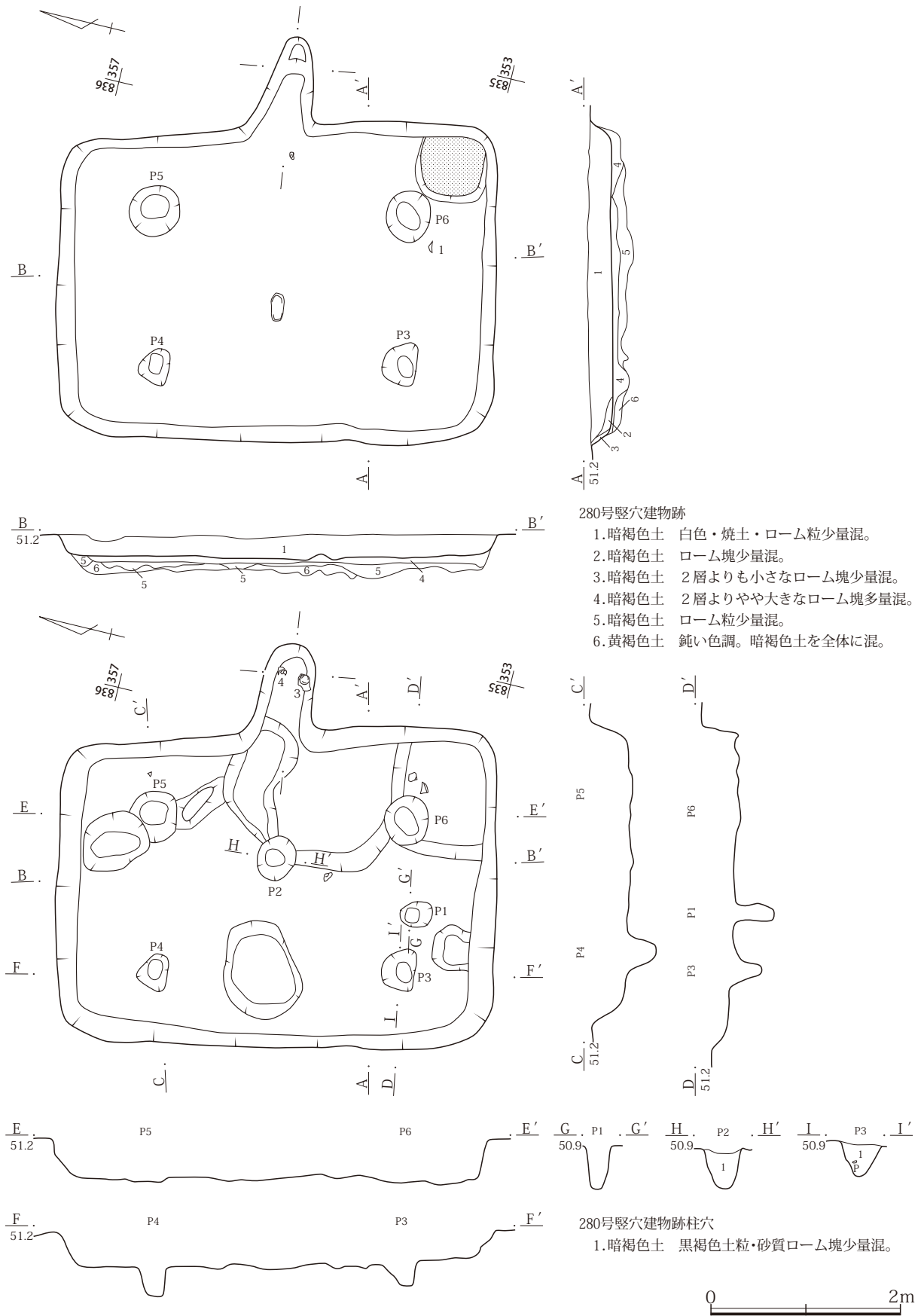
短辺3.4m・床面までの深さ0.22m・掘方までの深さ0.48m。埋土：暗褐色土ベース。床面：地山を比較的凹凸激しく大きく掘り込んだ上にローム塊を多量に含む暗褐色土を貼って平坦な面を造り出し、硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.26m前後。南東隅に段上に粘土を貼り付けた痕跡が認められたが用途や機能は不明である。掘方：竈前や中央部、南東隅などに一段深く掘り込まれた不整形の床下の土坑状の掘り込みがいくつも連続して形成されている。竈：東壁のほぼ中央に取り付く。燃烧部及び両袖、煙道は地山を削り出して形成される。燃烧部は壁よりも外側に形成されている。両袖は地山を段状に削り出して形成され、内側に全

く張り出さない。煙道は外側にやや大きく延びている。貯蔵穴：未検出。柱穴・pit：柱穴は使用面において4隅で検出された。pit3長径0.47m・短径0.35m・深さ0.4m、pit4長径0.39m・短径0.35m・深さ0.5m、pit5径0.54m・深さ0.22m、pit6長径0.55m・短径0.5m・深さ0.23m。また、これら使用面で確認できた柱穴の他に、床下で検出できたpitがこの他に2基検出された。pit1長径0.35m・短径0.28m・深さ0.54m、pit2長径0.5m・短径0.44m・深さ0.56m。なお、この両床下pitの用途や機能は不明である。時期：7C前～後。遺物：煙道部より2(3・4)、他は埋土中からの出土。

第3章 発見された遺構と遺物

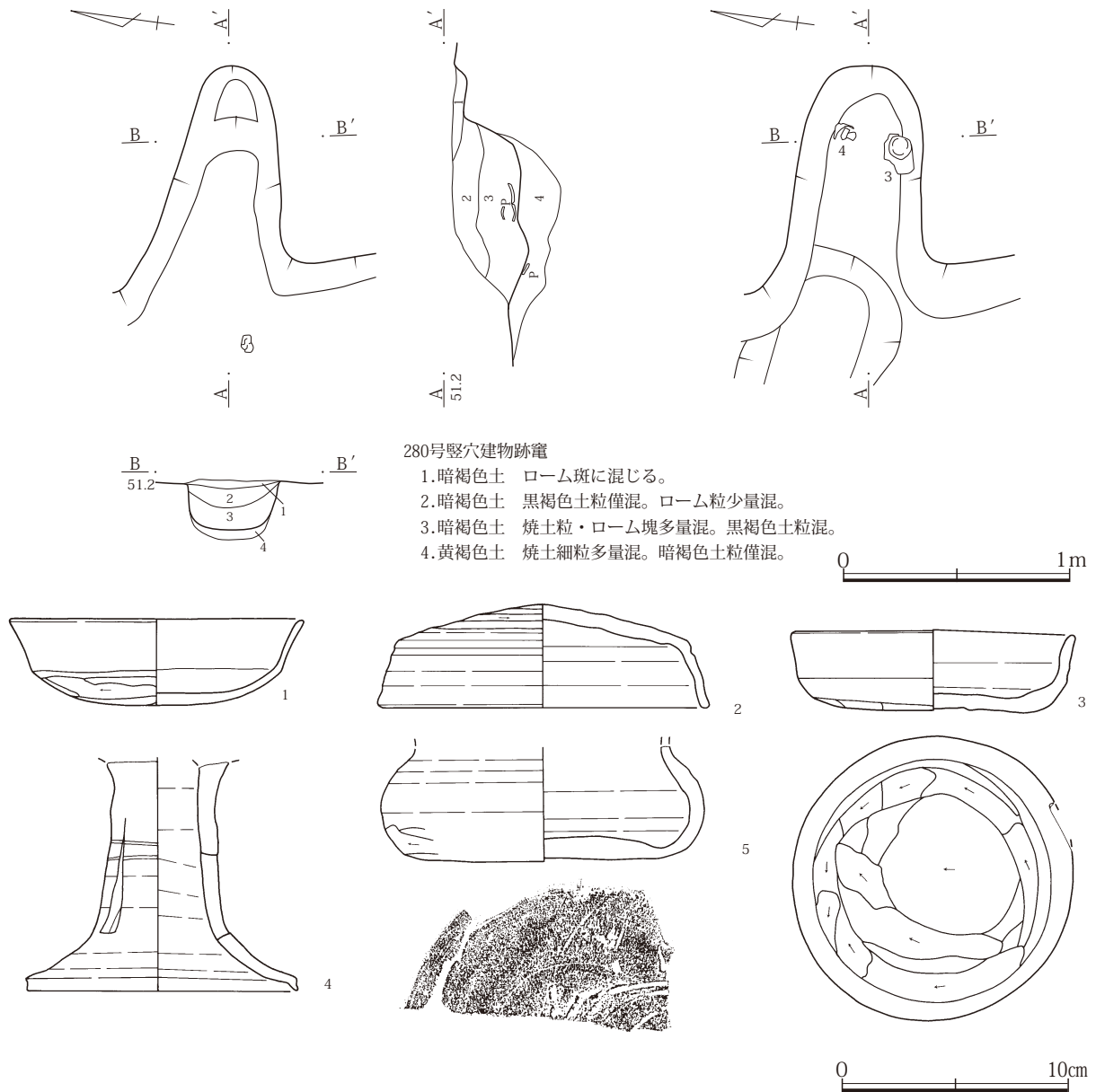


第251図 279号竪穴建物跡竈・出土遺物



第252図 280号竪穴建物跡

第3章 発見された遺構と遺物



280号竪穴建物跡竈

1. 暗褐色土 ローム斑に混じる。
2. 暗褐色土 黒褐色土粒僅混。ローム粒少量混。
3. 暗褐色土 焼土粒・ローム塊多量混。黒褐色土粒混。
4. 黄褐色土 焼土細粒多量混。暗褐色土粒僅混。

第253図 280号竪穴建物跡竈・出土遺物

(78) 281号竪穴建物跡

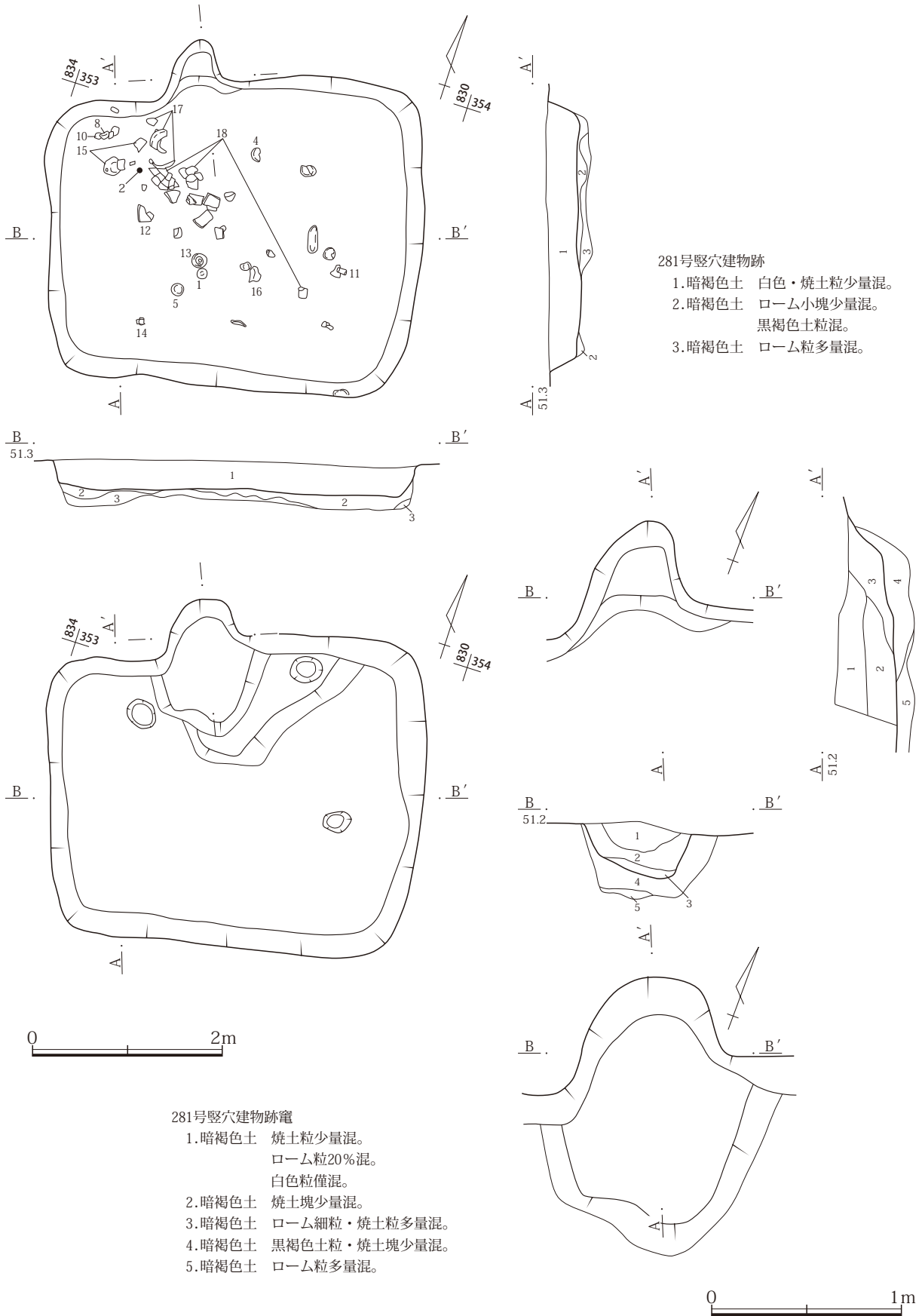
**位置:** 調査区南西端。X350・Y-825~830Gr. **主軸方位:** N-19° -W **重複:** 53号溝跡に掘り込まれる。

**規模と形状:** 北東-南西方向に長い横長の長方形形状を呈する。長辺3.95m・短辺3.34m・床面までの深さ0.38m・掘方までの深さ0.5m。 **埋土:** 暗褐色土ベース。 **床面:** 地山を大きく掘り込んだ上にローム小塊を少量と黒褐色土を含む暗褐色土を貼って平坦な面を造り出し、硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.12m前後。 **掘方:** 竈前から中央部にかけて、とくに一段高く造成されている。 **竈:**

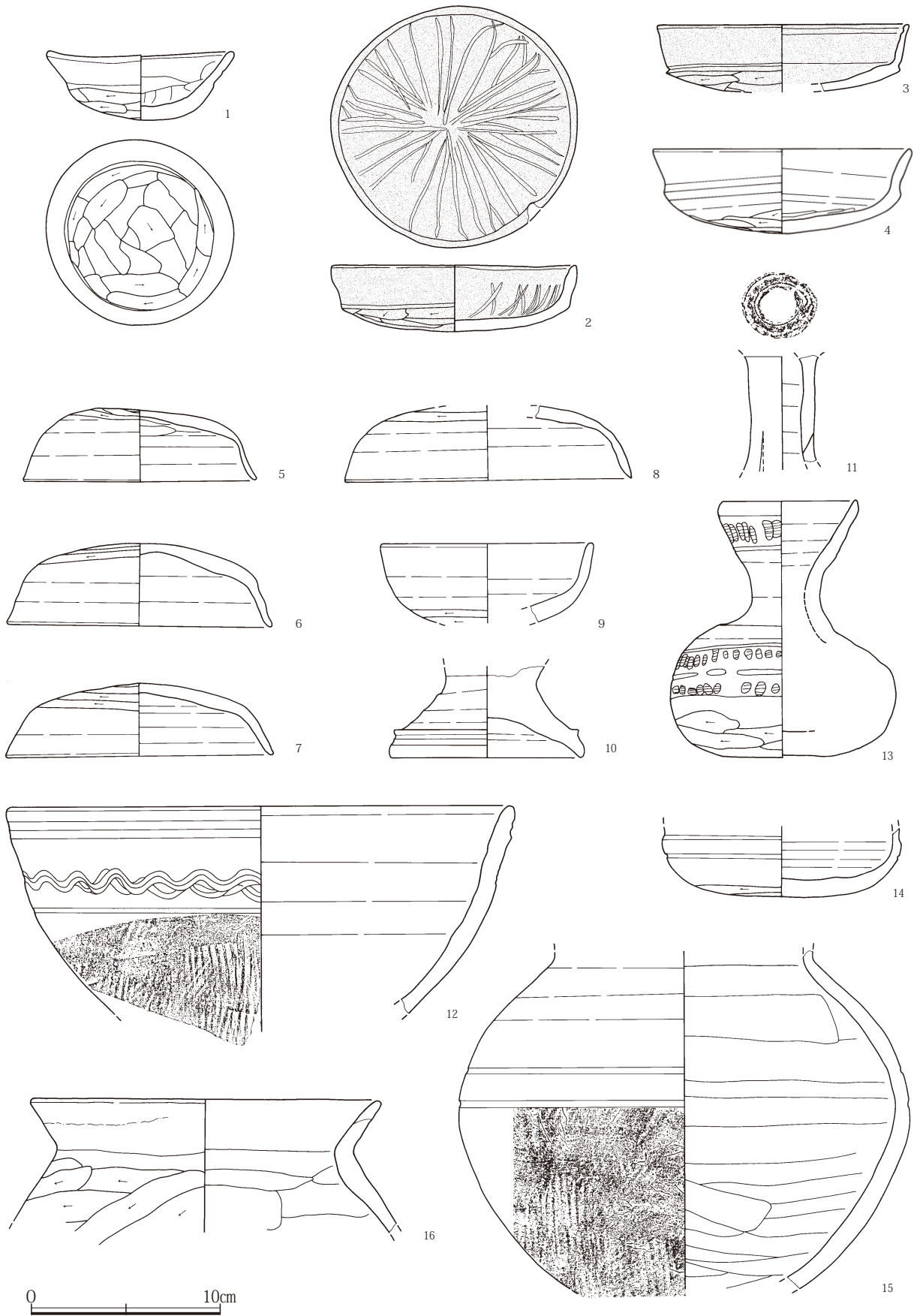
北壁のほぼ中央に取り付く。燃烧部及び両袖、煙道は地山を削り出して形成される。燃烧部は壁より外側に形成されている。両袖は地山を段状に削り出して形成され、内側に全く張り出さない。煙道は顕著には検出されなかった。 **貯蔵穴:** 未検出。 **時期:** 7C前。 **遺物:** 建物内に散在。ほとんどが埋土中からの出土。

(79) 284号竪穴建物跡

**位置:** 調査区中央東寄り。X350・Y-785Gr. **主軸方位:** 不明。 **重複:** 258・261・262号竪穴建物跡

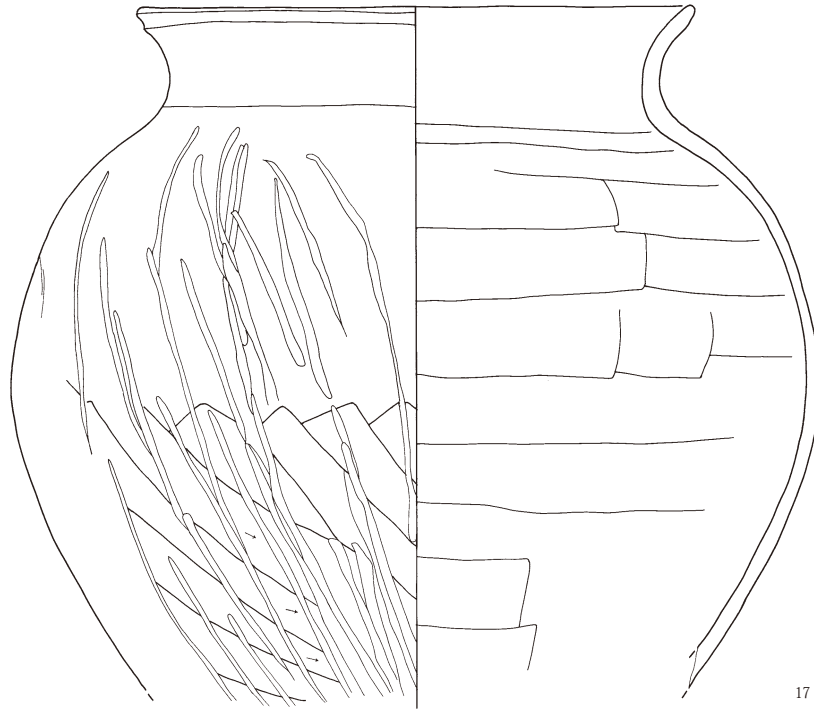


第254図 281号竪穴建物跡



第255図 281号竪穴建物跡出土遺物（1）





17



18

0 10cm

第256図 281号竪穴建物跡出土遺物(2)

に掘り込まれる。 **規模と形状**：東・西・南の三方を他の竪穴建物跡によって掘り込まれ、北壁のごく一部が辛うじて検出されているに過ぎない。床面までの深さ0.34m・掘方までの深さ0.38m。 **埋土**：暗褐色土ベース。 **床面**：地山を大きく掘り込んだ上に、比較的薄くローム粒を少量含んだ暗褐色土を貼って平坦な床面を形成している。床面の厚さ約

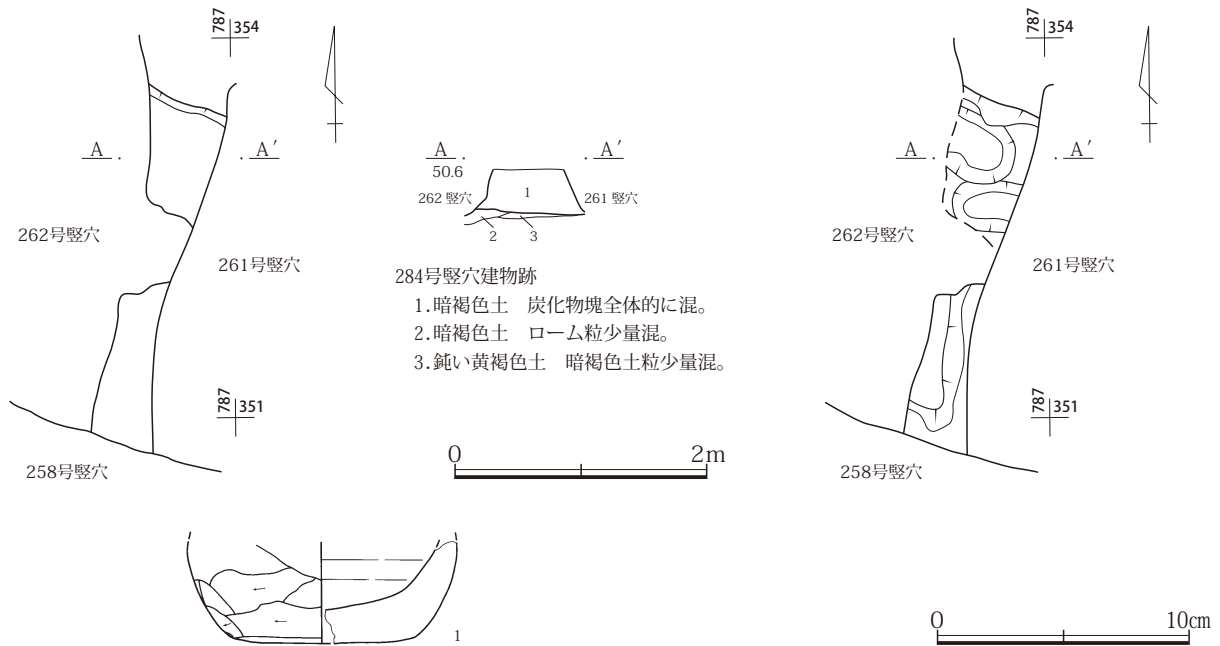
0.04m前後。 **掘方**：凹凸が激しい。 **竈**：未検出。

**貯蔵穴**：未検出。 **時期**：7C代か？。 **遺物**：埋土中より須恵器壺片1。

(80) 285号竪穴建物跡

**位置**：調査区北西寄り。X360~365・Y-820Gr. **主軸方位**：N-20° -W **重複**：54号溝跡、1117号pitに

### 第3章 発見された遺構と遺物



第257図 284号竪穴建物跡・出土遺物

掘り込まれる。292号竪穴建物跡、1118号pitを掘り込む。**規模と形状**：北西-南東方向に長い長方形状を呈する。長辺3.44m・短辺2.82m・床面までの深さ0.1m・掘方までの深さ0.15m。**埋土**：暗褐色土ベース。**床面**：地山を凹凸激しく大きく掘り込んだ上に褐色土を貼って平坦な面を造り出し、硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.05m前後。**掘方**：壁際と中央部がとくに一段深く掘り込まれ、中央のやや南寄りの位置では床下土坑が検出されている。**竈**：なし。**貯蔵穴**：pit：床下土坑長径0.96m・短径0.93m・深さ0.26m。**時期**：不明。**遺物**：なし。

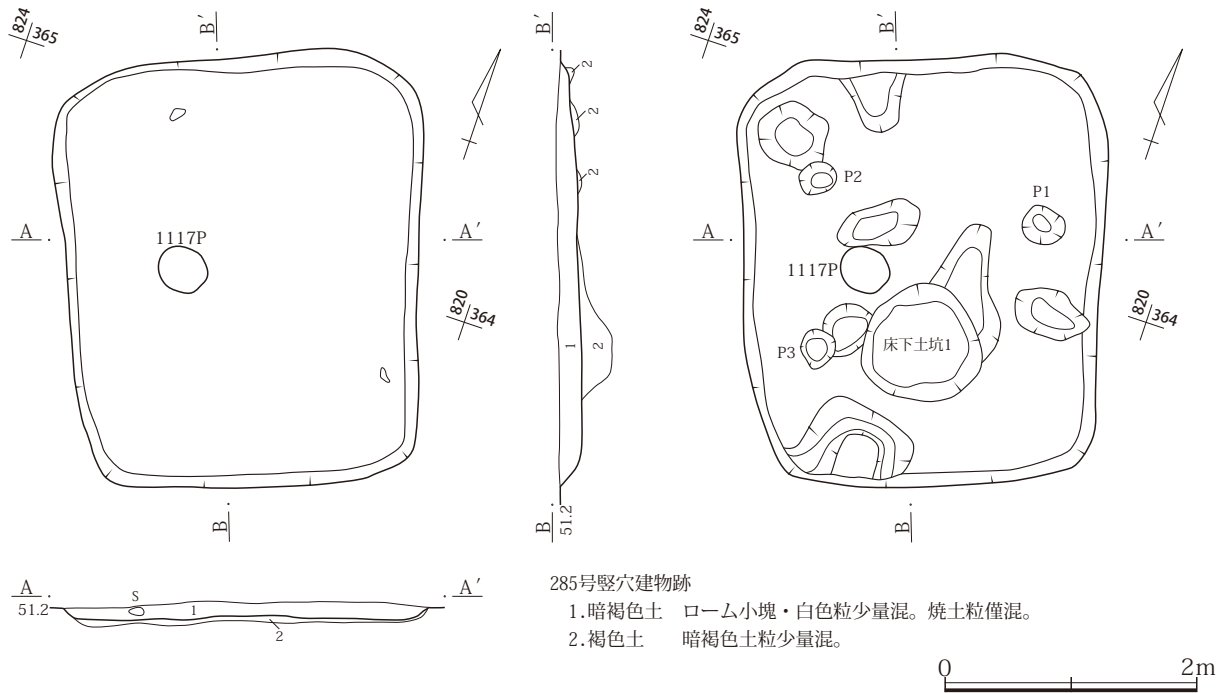
#### (81) 286号竪穴建物跡

**位置**：調査区西北端寄り。X360~365・Y-830~-835Gr. **主軸方位**：N-55° -E **重複**：52・59号溝に掘り込まれる。279号竪穴建物跡を掘り込む。**規模と形状**：南西-北東方向に長い長方形状を呈する。長辺4.42m・短辺4.2m・床面までの深さ0.5m・掘方までの深さ0.7m。**埋土**：暗褐色土ベース。**床面**：地山を比較的凹凸激しく掘り込んだ上に黒褐色土粒及びローム塊を少量含む暗褐色土を貼って

平坦な面を造り出し、硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.2m前後。**周溝**：北西隅以外で検出された。最大上幅0.24m・最大下幅0.15m・深さ0.12m。**掘方**：北・東・南の各壁際などに一段深く掘り込まれた不整形の床下の土坑状の掘り込みがいくつも連続して形成されている。**竈**：なし。**貯蔵穴**：なし。**時期**：8C1。**遺物**：建物内に散在。鉄鎌が出土（3）。

#### (82) 287号竪穴建物跡

**位置**：調査区中央西北寄り。X360~365・Y-810~-815Gr. **主軸方位**：N-95° -E **重複**：54号溝跡に掘り込まれる。288号竪穴建物跡、59号掘立柱建物跡を掘り込む。**規模と形状**：西北西-東南東方向に長い長方形状を呈する。3・4区及び南側に隣接する鹿島浦遺跡で多く検出された、東壁に竈が取り付け、東西方向に細長い、工房型の一連の竪穴建物跡に形状がよく類似している。長辺4.44m・短辺3.18m・床面までの深さ0.41m・掘方までの深さ0.5m。**埋土**：暗褐色土ベース。**床面**：地山を比較的平坦に掘り込んだ上にローム塊を少量含む暗褐色砂質土を貼って、硬質な床面を形成している。床面

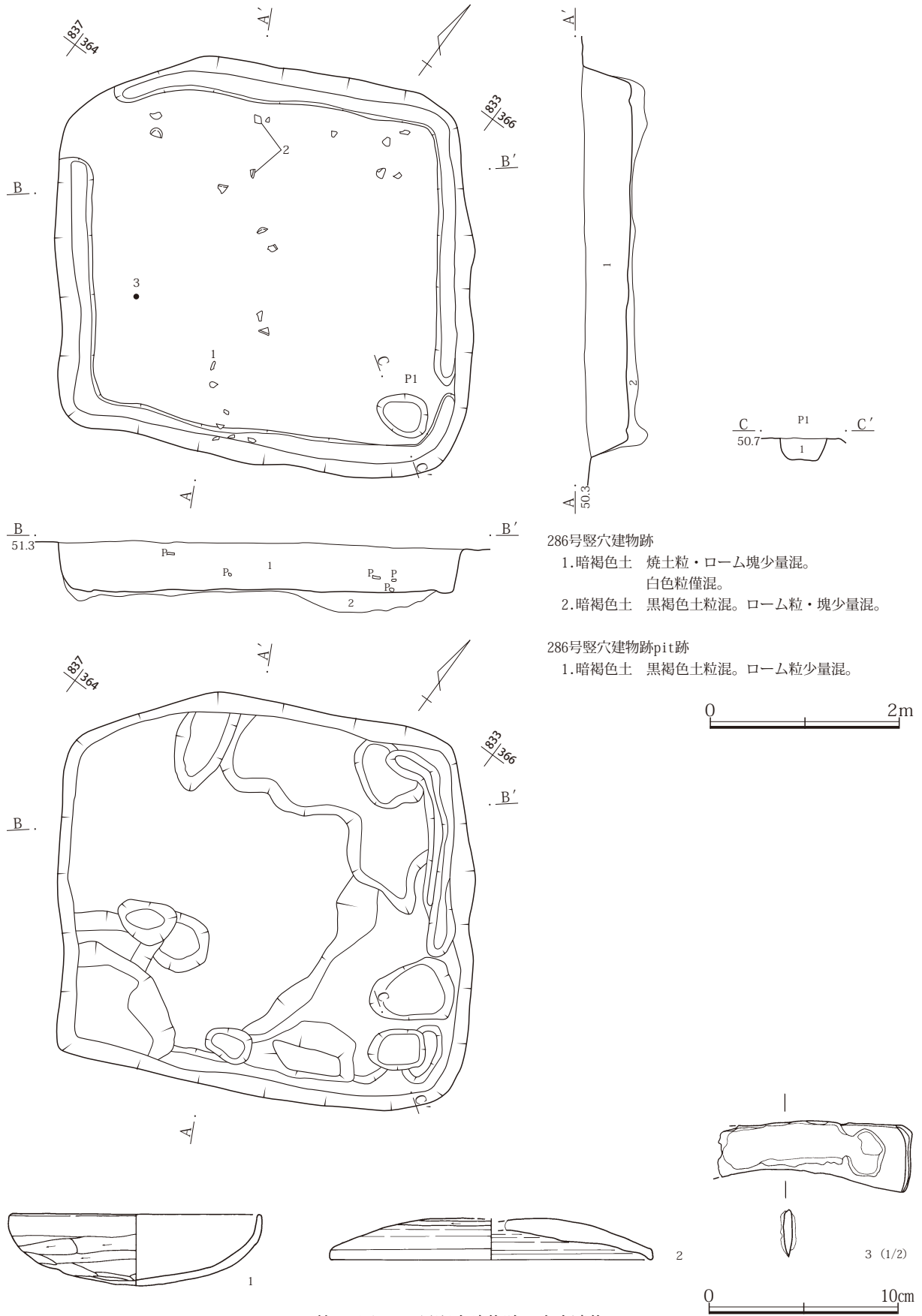


第258図 285号竪穴建物跡

の厚さは約0.09m前後。掘方：比較的平坦。隅部がとくに深く大きく掘り込まれており、中央部にも一段深く掘り込まれた不整形の床下の土坑状の掘り込みがいくつも形成されている。床下のpitが6基検出されたが、いずれも柱穴とはみなしがたく、用途や機能は不明である。竈：東壁のほぼ中央に取り付く。竈は52号溝跡によって上面を削平されており、残存状況が良くない。燃烧部及び両袖、煙道は地山を削り出して形成される。燃烧部は壁より外側に形成されている。両袖は地山を段状に削り出して形成され、内側に全く張り出さない。煙道は顕著には確認できなかった。貯蔵穴：未検出。柱穴・pit：いずれも床下で確認できた。pit1長径0.48m・短径0.32m・深さ0.28m、pit2長径0.38m・短径0.3m・深さ0.17m、pit3長径0.68m・短径0.58m・深さ0.38m、pit4長径1m・短径0.55m・深さ0.25m、pit5長径0.58m・短径0.46m・深さ0.2m、pit6長径0.64m・短径0.35m・深さ0.23m。時期：8C3～4。遺物：建物内に散在。

### (83) 288号竪穴建物跡

位置：調査区中央西北寄り。X360~365・Y-810~815Gr。主軸方位：N-71°-W 重複：287・289号竪穴建物跡、54号溝跡に掘り込まれる。59号掘立柱建物跡を掘り込む。規模と形状：西北西-東南東方向に長い長方形を呈する。長辺4.26m・短辺3.82m・床面までの深さ0.32m・掘方までの深さ0.38m。埋土：暗褐色土ベース。床面：地山を比較的平坦に掘り込んだ上にローム塊を多量に含む暗褐色土を貼って、硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.06m前後。周溝：南壁の壁際から東壁にかけて周溝が検出された。最大上幅0.24m・最大下幅0.12m・深さ0.08m。掘方段階では西壁際にもめぐっているが、使用面では竈脇や北西隅部では周溝の痕跡はまったく確認できなかった。掘方：比較的平坦。中央から南東隅部にかけて、一段深く長方形に掘り込まれている。竈：西壁のほぼ中央に取り付く。西壁に取り付く竈は、本遺跡では非常に珍しく、昨年度報告した2～4区では全く検出されていない。1区で、本竪穴建物跡と、その南側に位置する289号竪穴建物跡の2基のみである。燃烧部及び



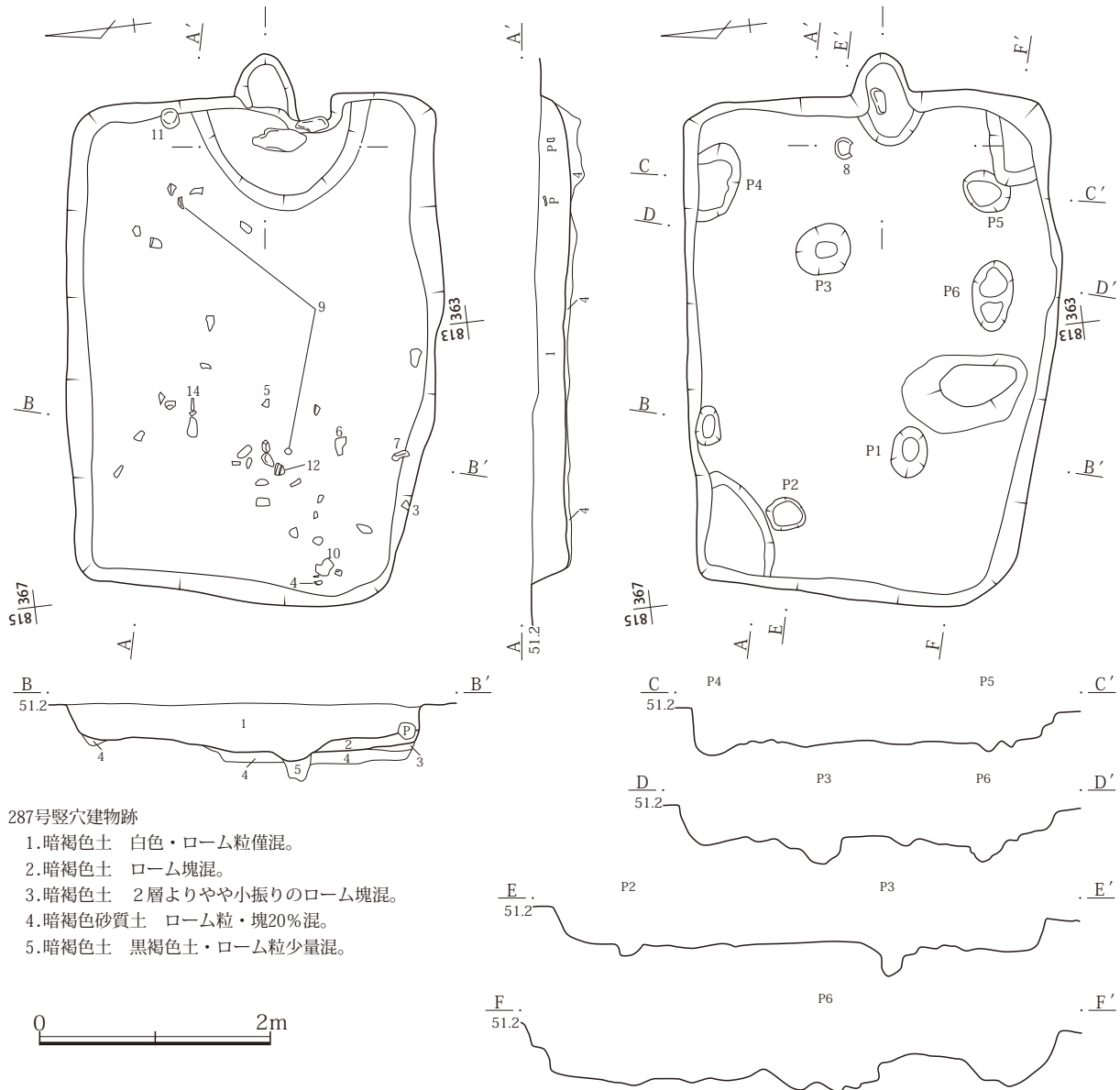
286号竪穴建物跡

- 1. 暗褐色土 焼土粒・ローム塊少量混。  
白色粒僅混。
- 2. 暗褐色土 黒褐色土粒混。ローム粒・塊少量混。

286号竪穴建物跡pit跡

- 1. 暗褐色土 黒褐色土粒混。ローム粒少量混。

第259図 286号竪穴建物跡・出土遺物



第260図 287号竪穴建物跡

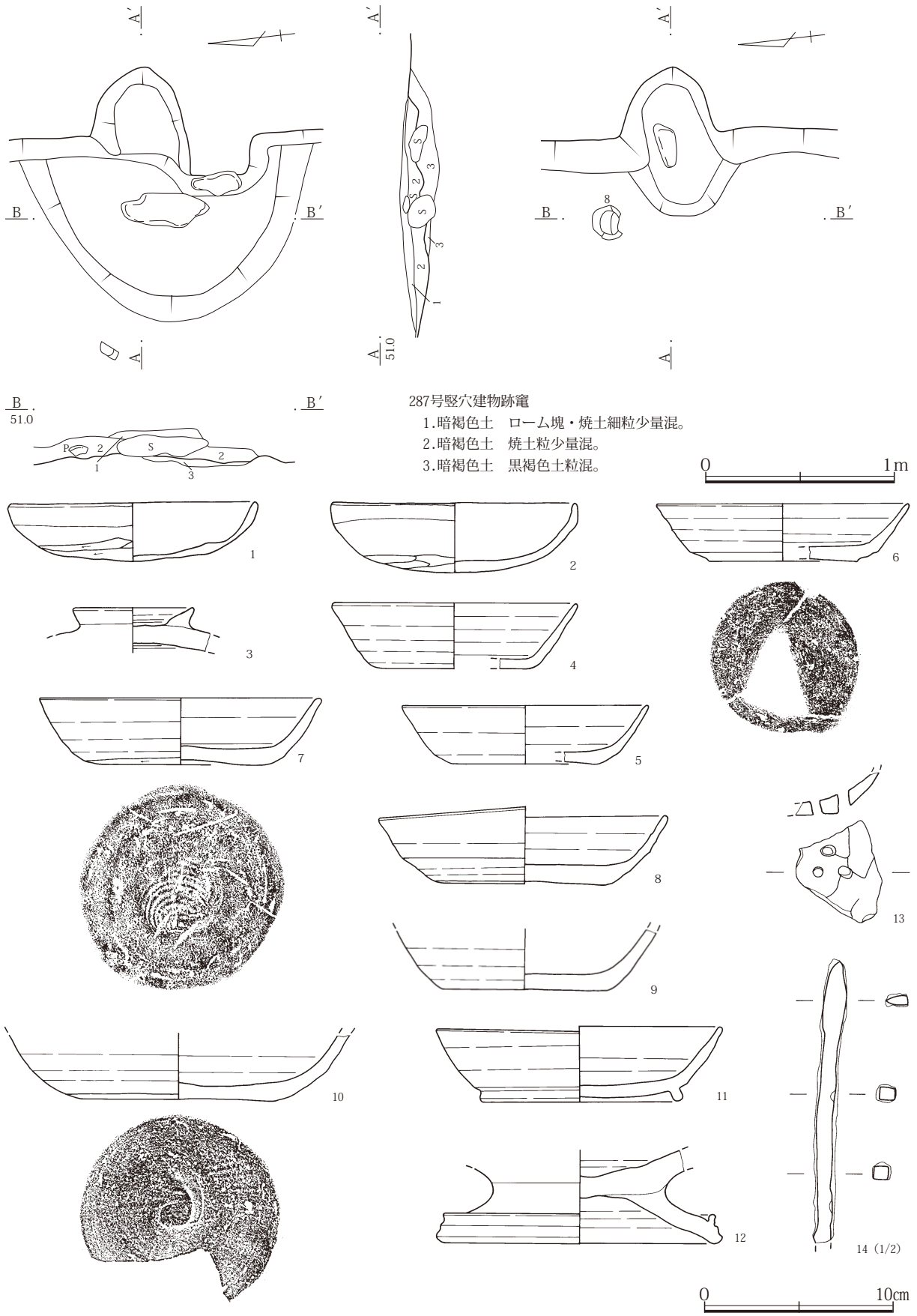
両袖、煙道は地山を削り出して形成される。燃烧部は壁より外側に形成されている。両袖は地山を段状に削り出して形成され、内側には全く張り出さない。煙道は顕著には確認できなかった。貯蔵穴：北西隅で検出されたpit1。南北にやや長い隅丸長方形を呈し、長径0.4m・短径0.35m・深さ0.32m。なお、掘方面において、使用面で検出されたpit1のすぐ南側に隣接してもう1基の貯蔵穴pit2が検出された。南北にやや長い楕円形状を呈し、長径0.5m・短径0.46m・深さ0.3m。pit1に先行する古い段階の貯蔵穴と考えられる。柱穴・pit：4隅の柱穴

が検出された。pit3長径0.34m・短径0.23m・深さ0.56m、pit4長径0.4m・短径0.27m・深さ0.56m、pit5長径0.32m・短径0.27m・深さ0.58m、pit6長径0.33m・短径0.28m・深さ0.66m。時期：7C後か？。遺物：建物内に散在。

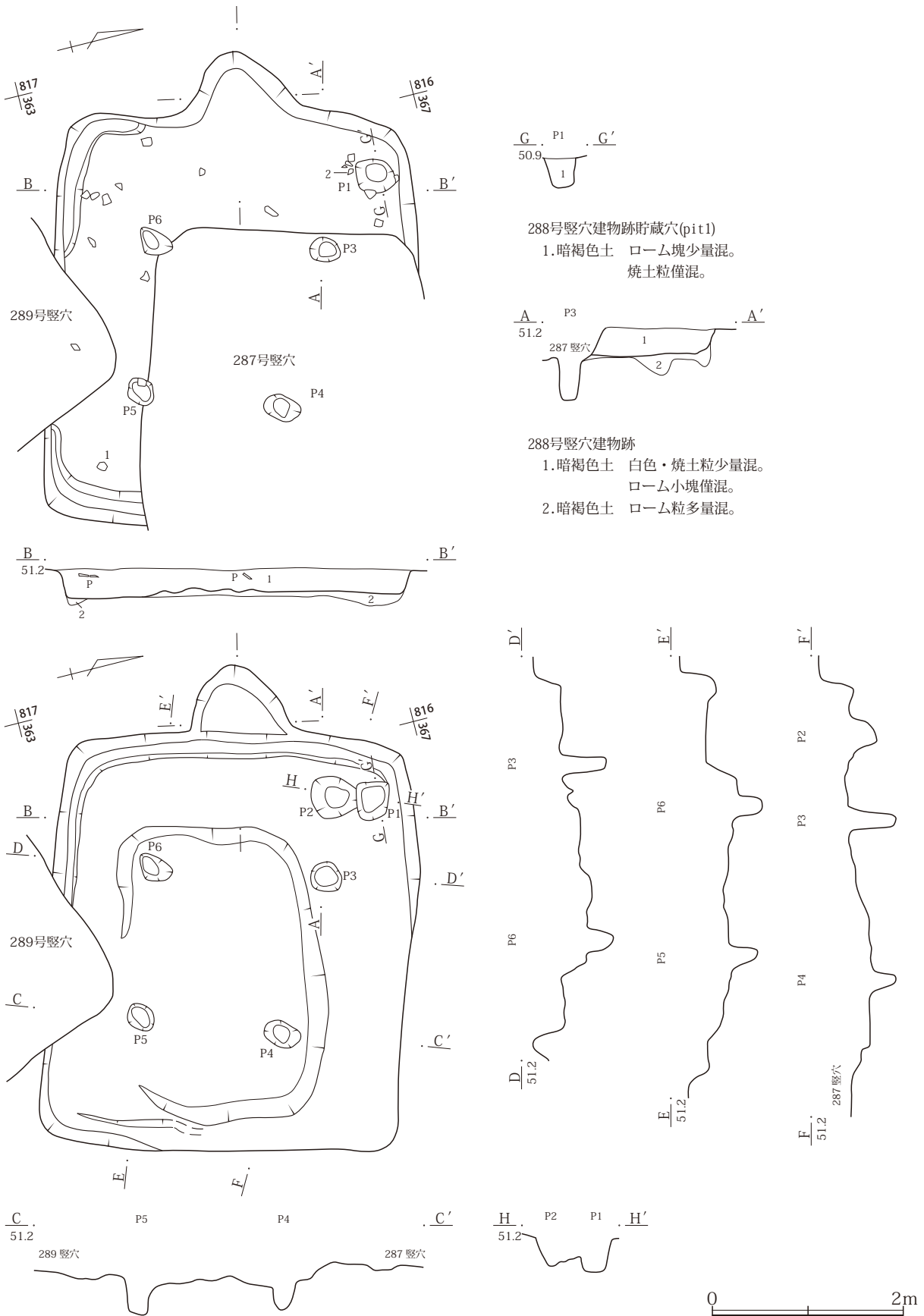
(84) 289号竪穴建物跡

位置：調査区中央西北寄り。X355~360・Y-810--815Gr. 主軸方位：N-115° -W 重複：288・309号竪穴建物跡、59号掘立柱建物跡を掘り込む。規模と形状：東北東-西南西方向に長い長方形を呈す

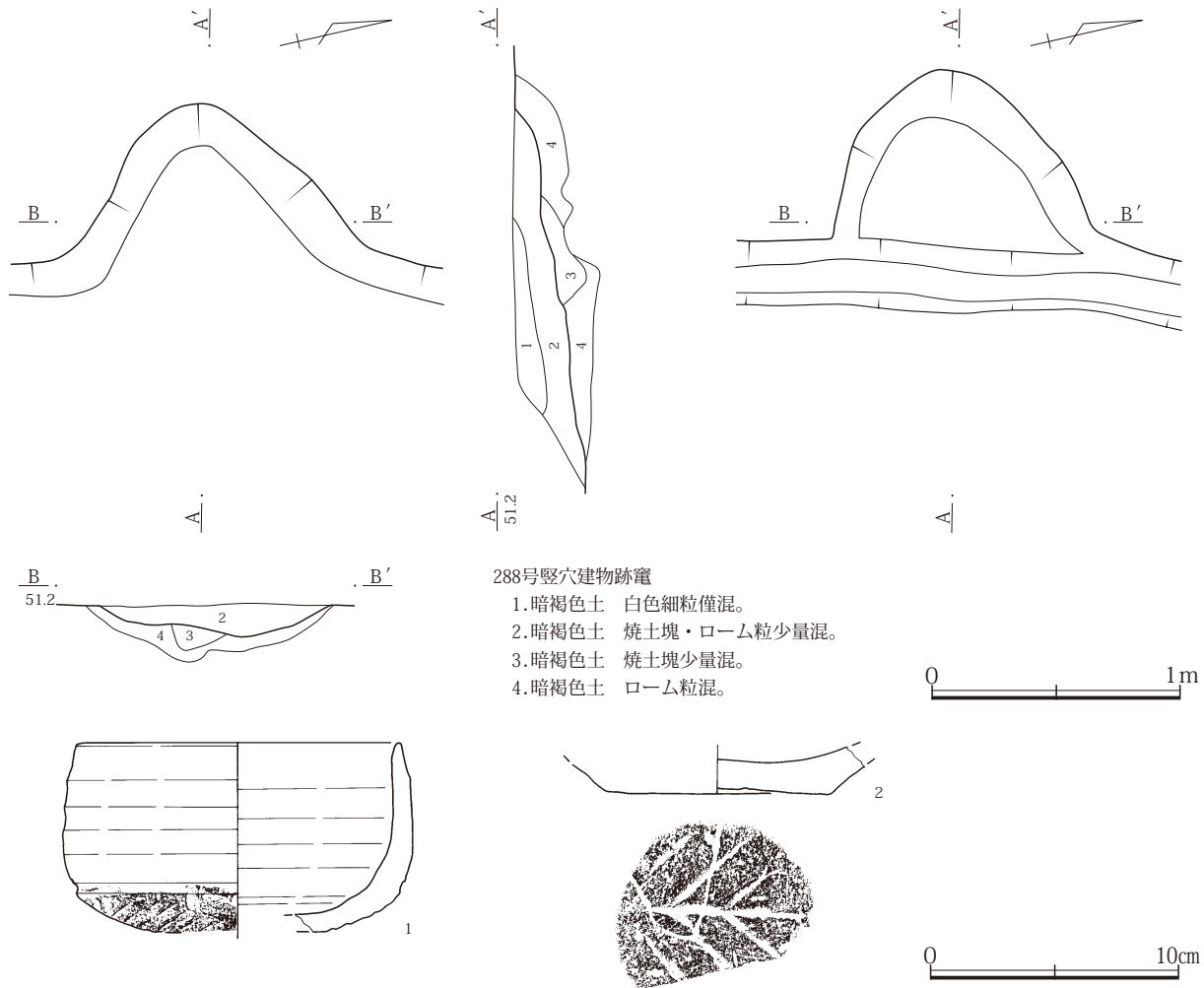
第3章 発見された遺構と遺物



第261図 287号竪穴建物跡竈・出土遺物



第262図 288号竪穴建物跡



第263図 288号竪穴建物跡竈・出土遺物

る。長辺4.18m・短辺3.84m・床面までの深さ0.35m・掘方までの深さ0.38m。埋土：暗褐色土ベース。

**床面**：地山を比較的平坦に掘り込んだ上に砂質ローム粒を多量に含む暗褐色土を極薄く貼って、硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.03m前後。**周溝**：竈が取り付く西南壁の竈前以外の全周から壁際で周溝が検出された。最大上幅0.24m・最大下幅0.12m・深さ0.1m。北隅から北東・南東にかけて、一部でL字型に2重にめぐる。**掘方**：比較的平坦。建物の南壁際や北隅にかけて床下土坑状の掘り込みがなされている。**竈**：南西壁の南寄りの位置に取り付く。西壁に取付く竈は本遺跡では非常に珍しく、昨年度報告した2～4区では全く検出されていない。1区で、本竪穴建物跡と、その北側に位置する288号竪穴建物跡の2基のみである。燃

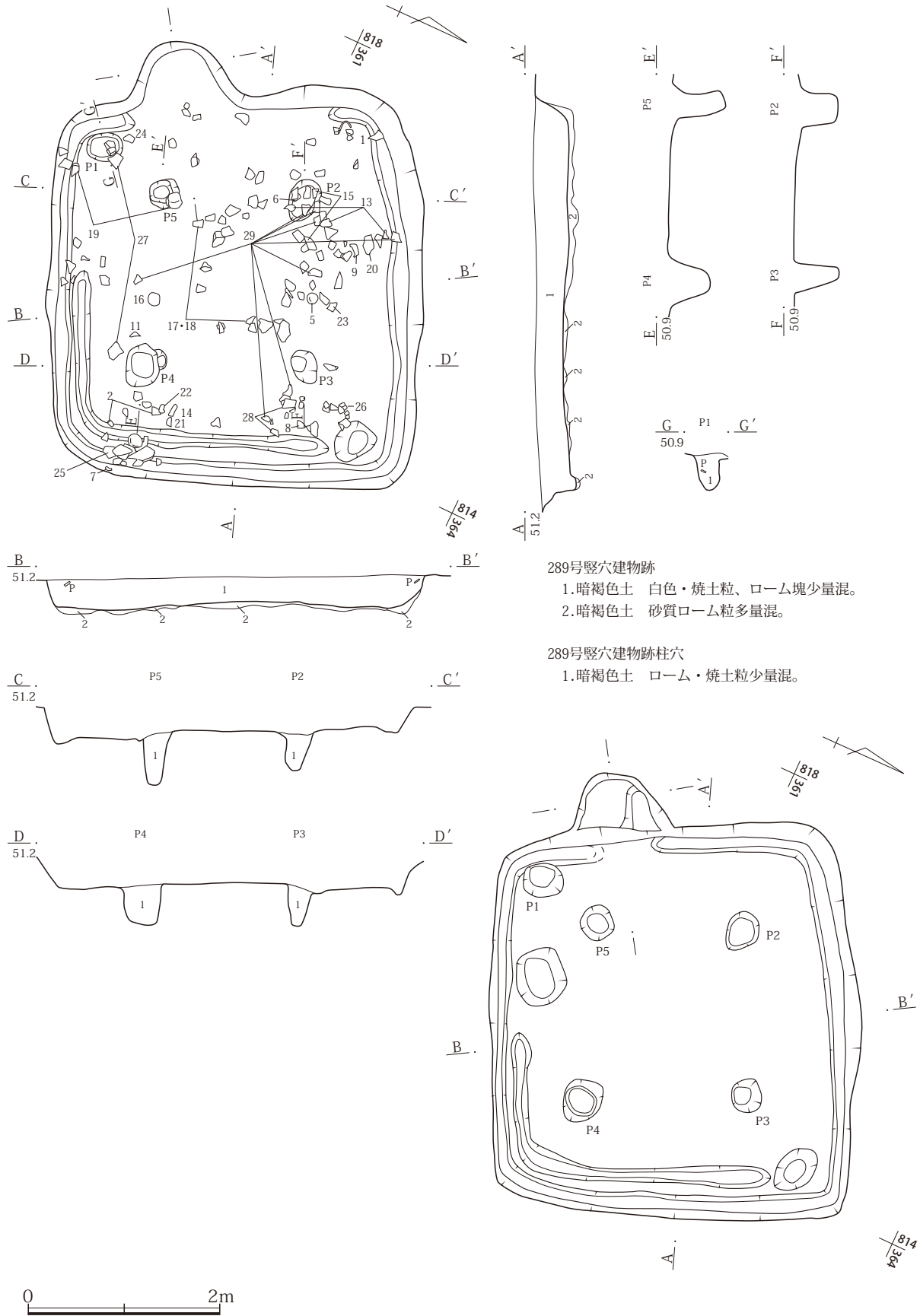
焼部及び両袖、煙道は地山を削り出して形成される。燃烧部は壁よりも外側に形成されている。両袖は地山を段状に削り出して形成され、建物の内側には全く張り出さない。煙道は顕著には確認できなかった。

**貯蔵穴**：南西隅で検出されたpit1。南北にやや長い隅丸長方形形状を呈し、長径0.38m・短径0.28m・深さ0.38m。**柱穴・pit**：4隅の柱穴が検出された。pit2長径0.46m・短径0.34m・深さ0.4m、pit3長径0.34m・短径0.25m・深さ0.42m、pit4長径0.43m・短径0.32m・深さ0.44m、pit5径0.3m・深さ0.56m。**時期**：7C前。**遺物**：建物内に散在。遺物量多い。

(85) 290・311号竪穴建物跡

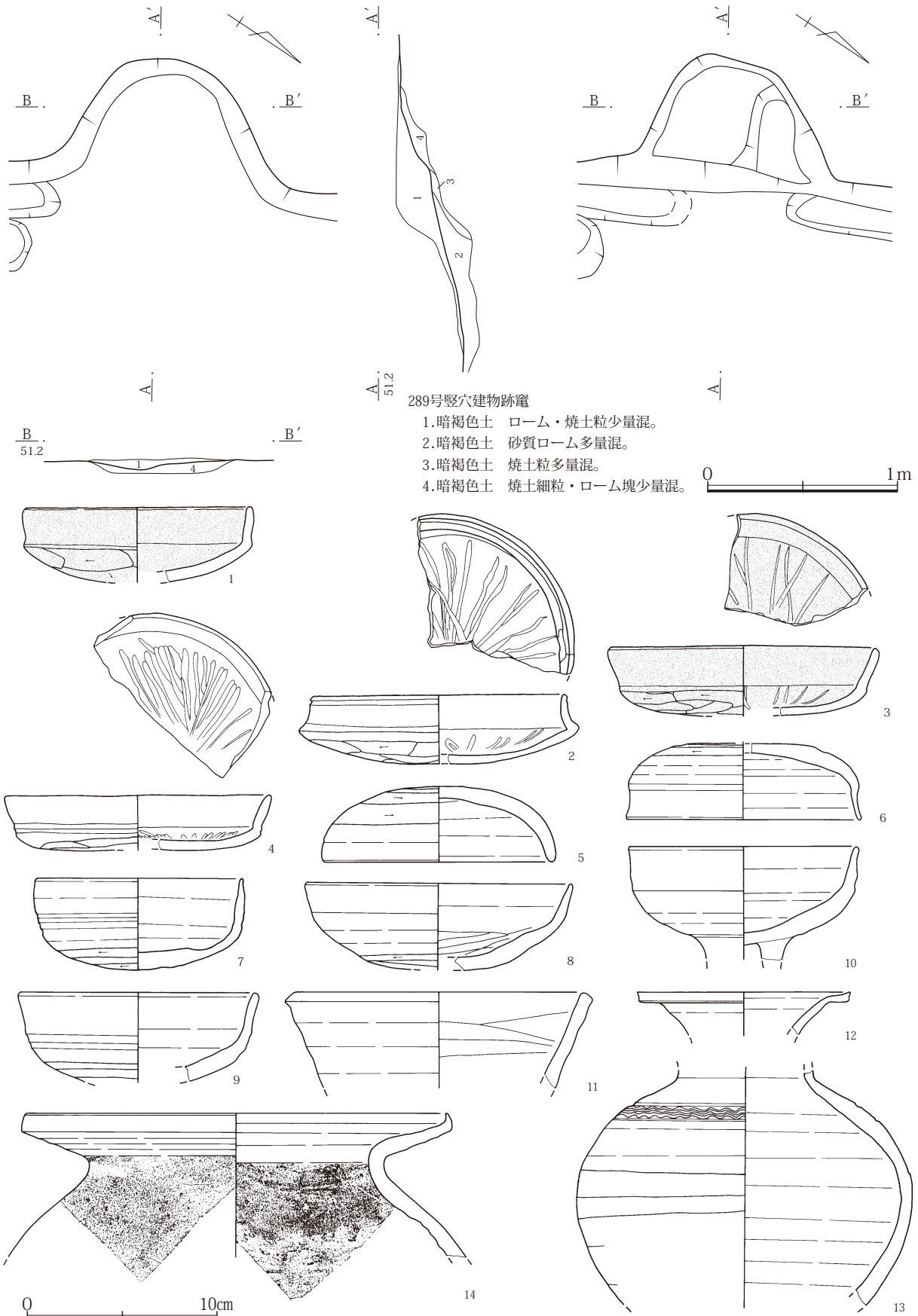
**位置**：調査区ほぼ中央。X350-355・Y-805--



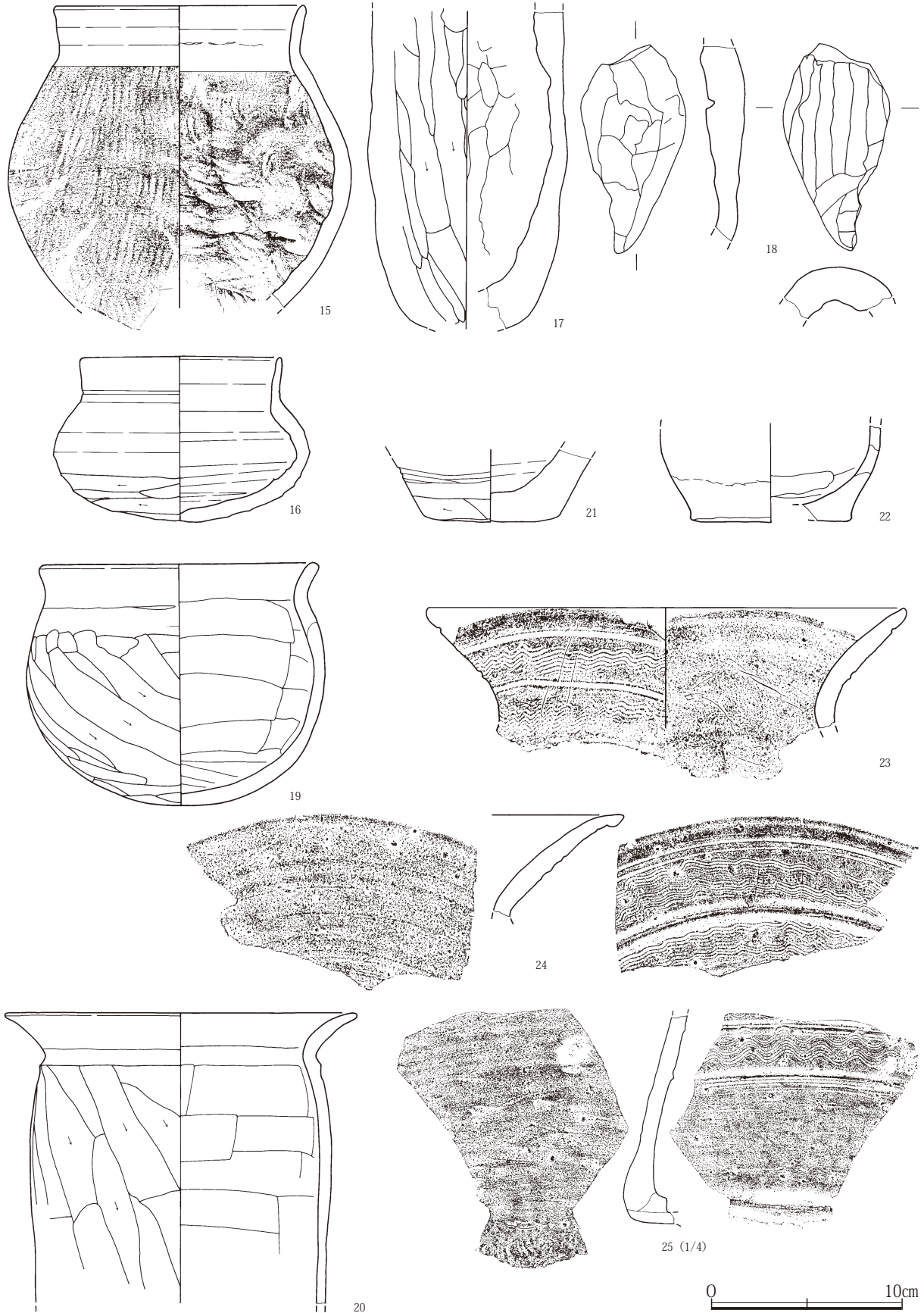


第264図 289号竪穴建物跡

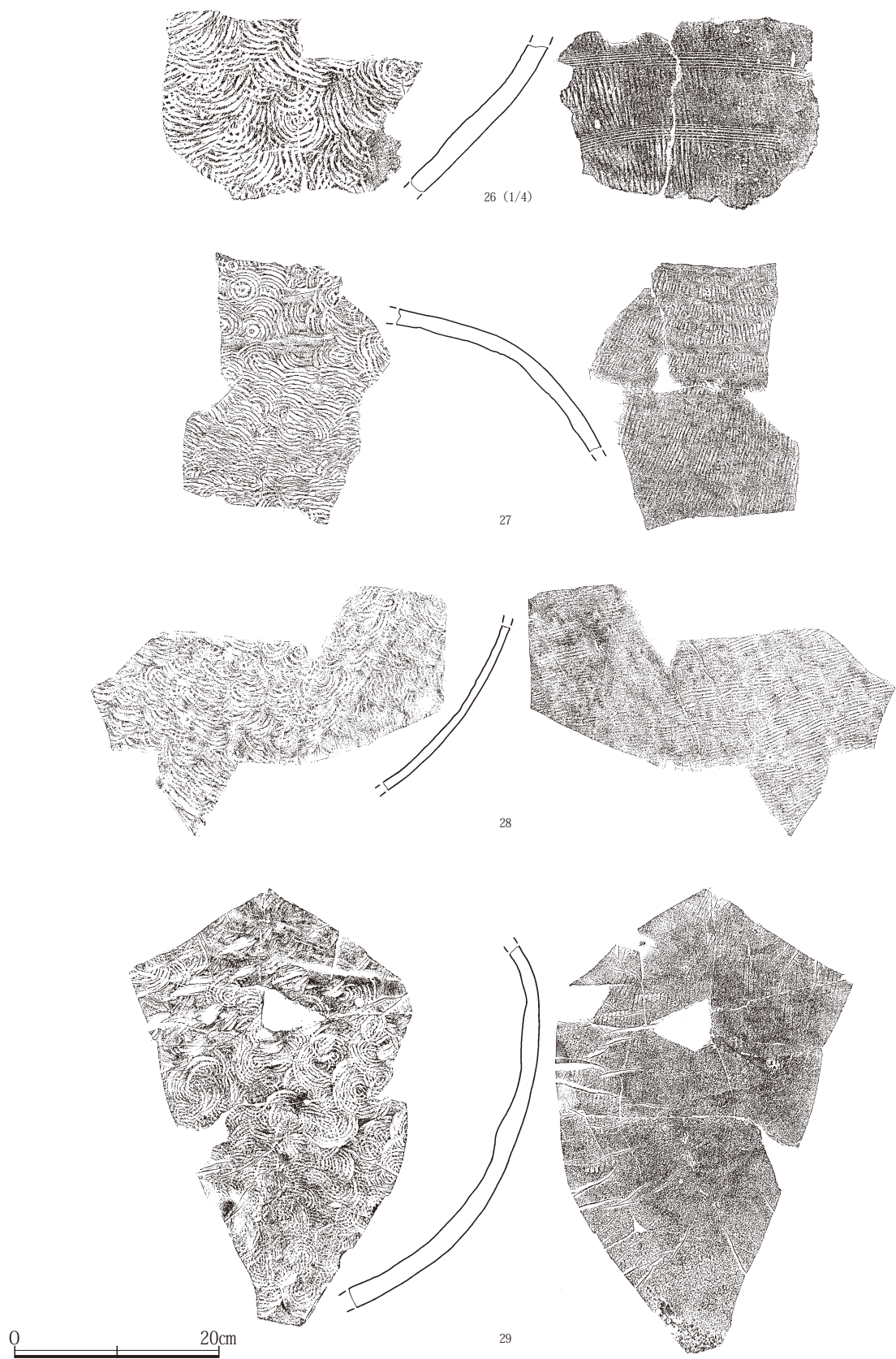
第3章 発見された遺構と遺物



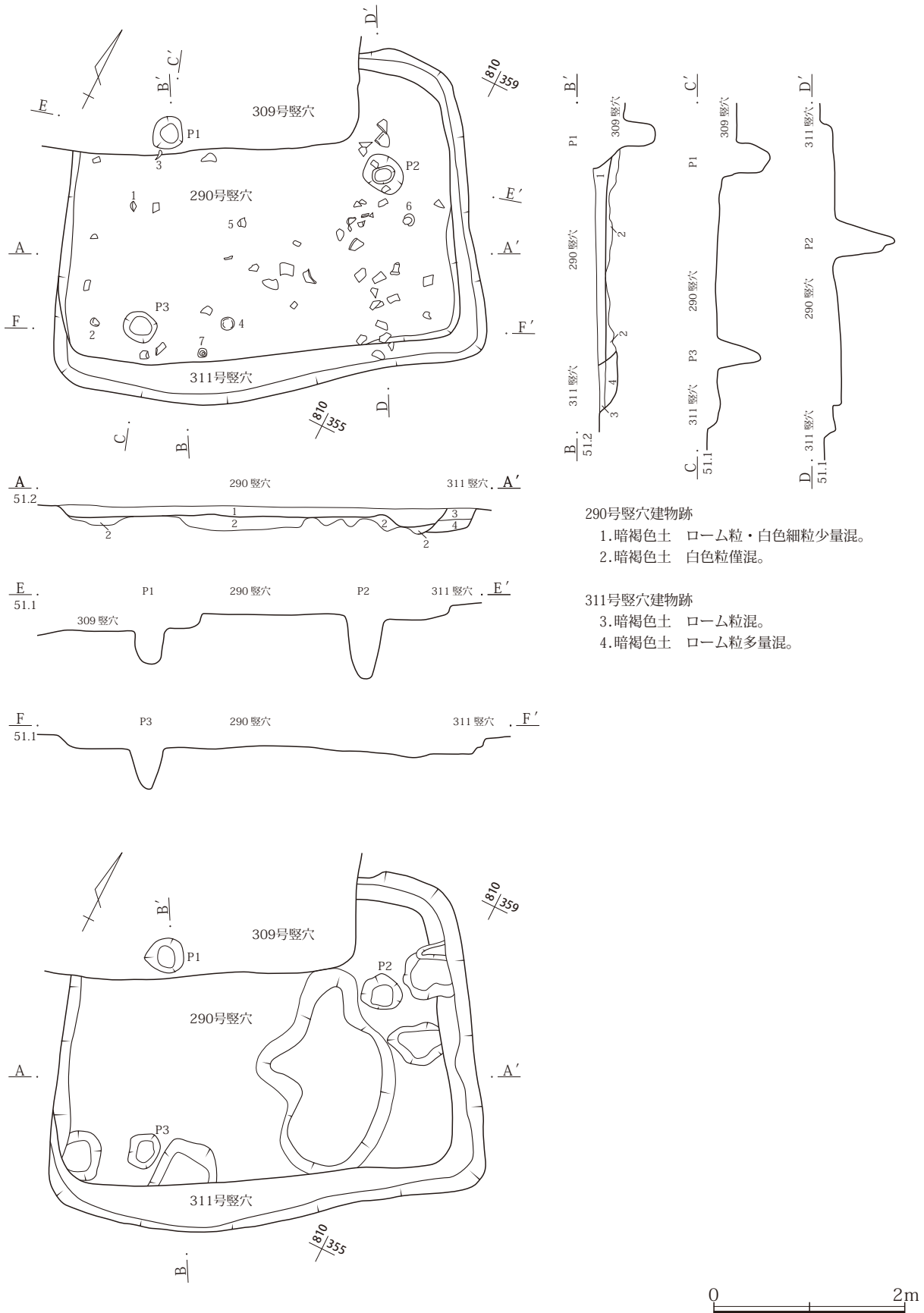
第265図 289号竪穴建物跡竈・出土遺物（1）



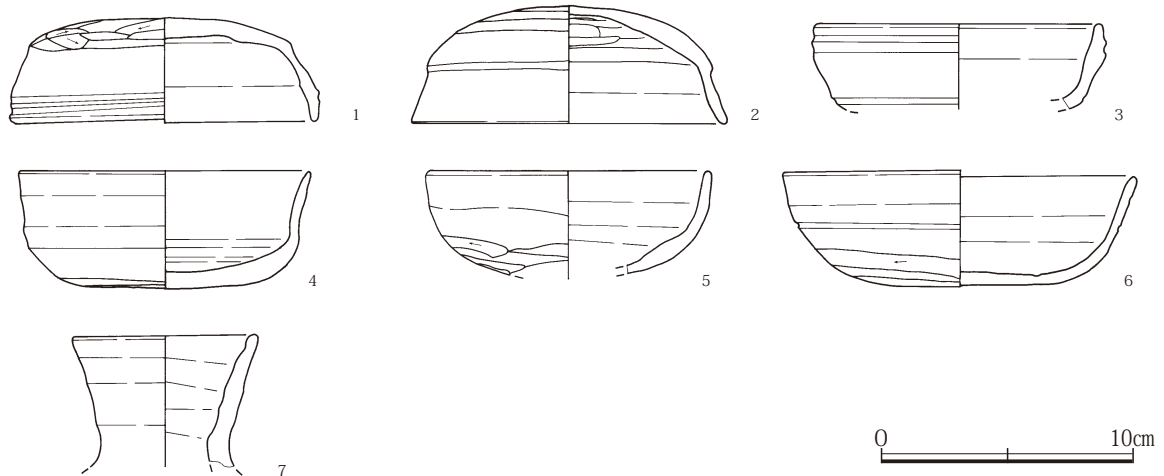
第266図 289号竪穴建物跡出土遺物（2）



第267図 289号竪穴建物跡出土遺物（3）



第268図 290号竪穴建物跡



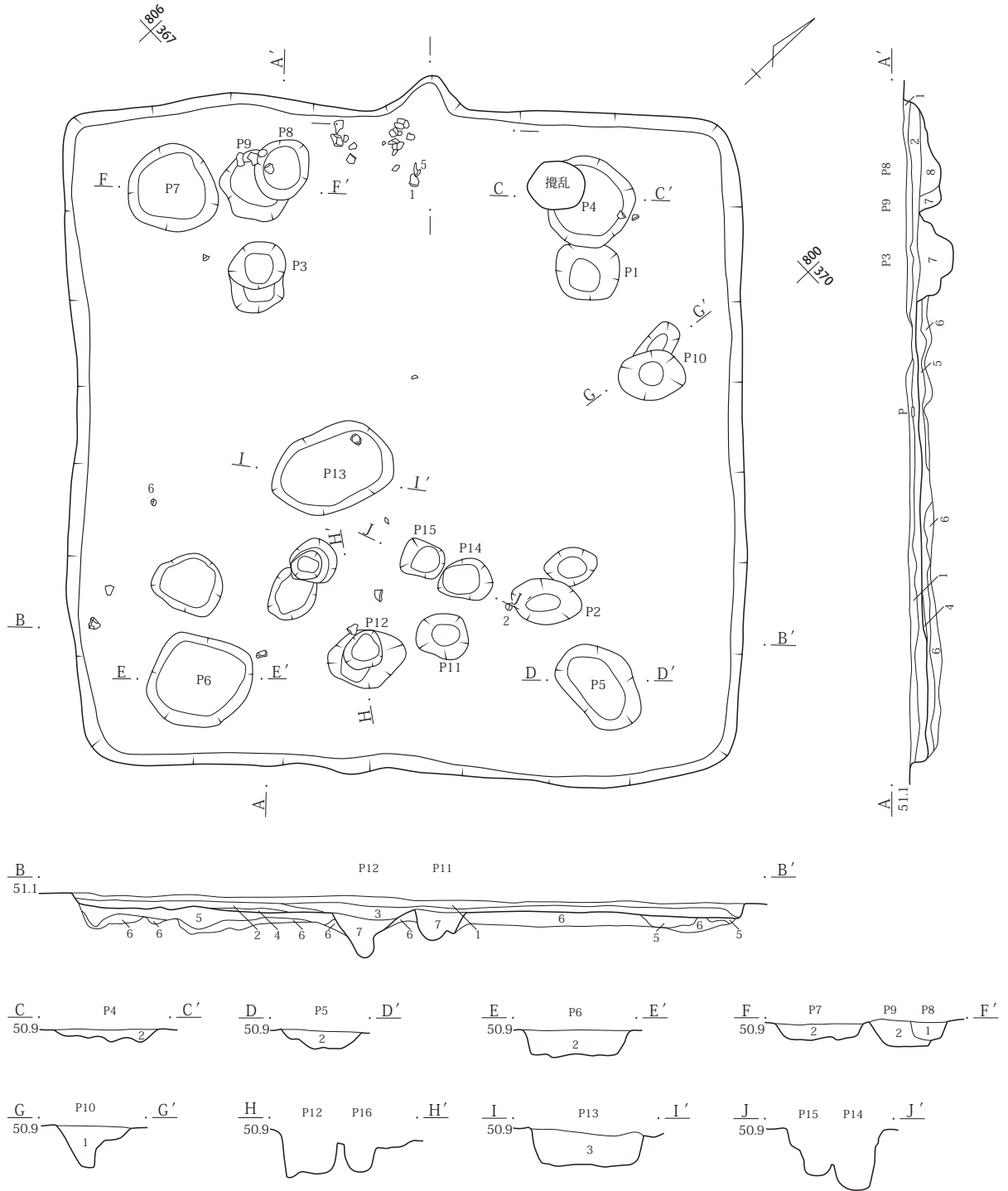
第269図 290号竪穴建物跡出土遺物

810Gr. **主軸方位**：不明。 **重複**：309号竪穴建物跡に掘り込まれる。290号竪穴建物跡は311号竪穴建物跡を掘り込み、311号竪穴建物跡は290号竪穴建物跡の南西辺をほぼ共有し、南東・北東・北西の各壁で290号より若干外側に壁がまわっている。290号竪穴建物跡と311号竪穴建物跡とは拡張ないし縮小の関係の有する可能性も想定されたが、土層断面等の所見により、時期が異なる別個の2棟の竪穴建物跡とみられる。 **規模と形状**：両竪穴建物跡ともに、東北東-西南西方向に長い横長の長方形状を呈する。主軸方位はほぼ一致するものと推測できる。290号竪穴建物跡は、長辺4.17m・短辺2.83m・床面までの深さ0.1m・掘方までの深さ0.24m。311号竪穴建物跡は長辺4.5m・短辺3.3m・床面までの深さは0.11m。 **埋土**：暗褐色土ベース。 **床面**：290号竪穴建物跡は、地山を比較的凹凸激しく大きく掘り込んだ上に白色粒を僅かに含む暗褐色土をごく薄く貼って、硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.03m前後。311号竪穴建物跡では、掘方面と床面とがほぼ一致している。 **掘方**：290号竪穴建物跡は、比較的凹凸激しく、北東や南東の壁際では床下土坑状の掘り込みがいくつも連続してなされていたり、また、中央部では地山が一段高く段状に削り出されている箇所などがある。 **竈**：両竪穴建物跡とも未検出。 **貯蔵穴**：両竪穴建物跡とも未検出。 **柱穴・pit**：290号竪穴建物跡の使用面にお

いて北・東・南の3隅で柱穴が検出された。位置的に奇異な点もないではないが、いずれも290号竪穴建物跡に伴う柱穴と考えておきたい。 **pit1**長径0.34m・短径0.3m・深さ0.54m、 **pit2**長径0.45m・短径0.34m・深さ0.68m、 **pit3**長径0.35m・短径0.3m・深さ0.48m。 **時期**：7C前。 **遺物**：建物内に散在。すべて埋土中からの出土。

#### (86) 291号竪穴建物跡

**位置**：調査区中央北寄り。X360~370・Y-795--805Gr. **主軸方位**：N-47° -W **重複**：54号溝跡に掘り込まれる。298号竪穴建物跡を掘り込む。 **規模と形状**：軸を北西-南東方向に向けたほぼ方形状の巨大な竪穴建物跡で、この種の形状のものは1区でのみ検出されている。本遺跡で最大規模級の竪穴建物跡である。長辺6.44m・短辺6.42m・床面までの深さ0.21m・掘方までの深さ0.3m。 **埋土**：暗褐色土ベース。 **床面**：地山を比較的平坦に掘り込んだ上にローム塊を多量に含む暗褐色土を貼って、硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.09m前後。柱穴以外にも床面から比較的深く掘り込んでいる柱穴様のpitが数多く検出された。 **掘方**：比較的平坦。建物の東側がとくに一段深く掘り込まれている。 **竈**：北西壁のほぼ中央に取り付く。燃焼部及び両袖は地山を削り出して形成される。燃焼部は壁よりも外側に形成されている。両袖は内側に全



291号竪穴建物跡

1. 暗褐色土 ローム粒・白色・焼土細粒僅混。
2. 暗褐色土 ローム粒少量混。
3. 暗褐色土 黒褐色土粒を全体に混。ローム粒少量混。
4. 暗褐色土 ローム粒少量混。
5. 暗褐色土 ローム塊多量混。
6. 暗褐色土 ローム粒多量混。
7. 暗褐色土 黒色砂質粒、ローム粒・小塊少量混。
8. 暗褐色土 ローム塊多量混。

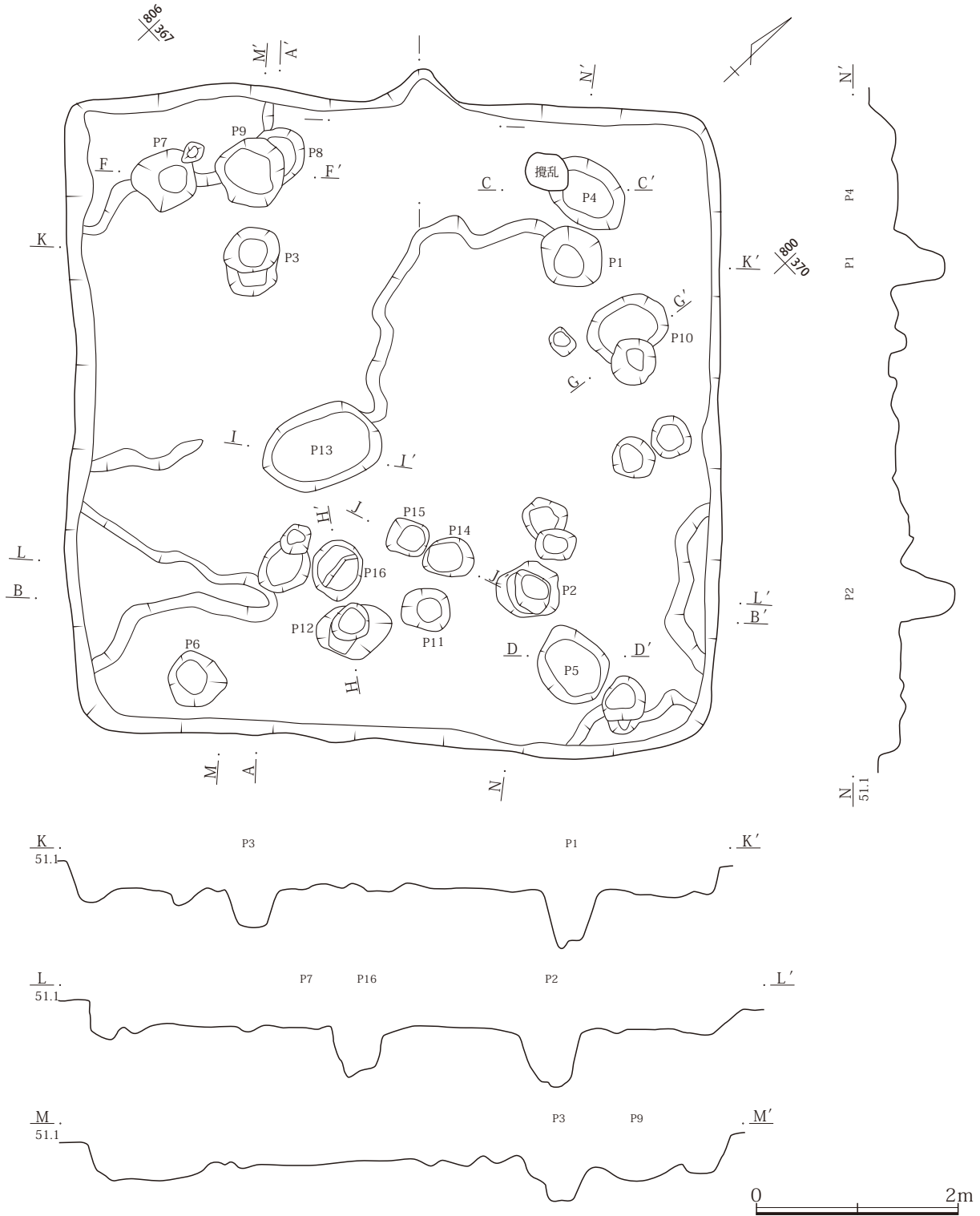
291号竪穴建物跡貯蔵穴・pit

1. 暗褐色土 ローム粒・小塊少量混。
2. 暗褐色土 黒褐色土粒混。ローム粒・塊少量混。
3. 暗褐色土 ローム粒少量混。

0 2m

第270図 291号竪穴建物跡

第3章 発見された遺構と遺物

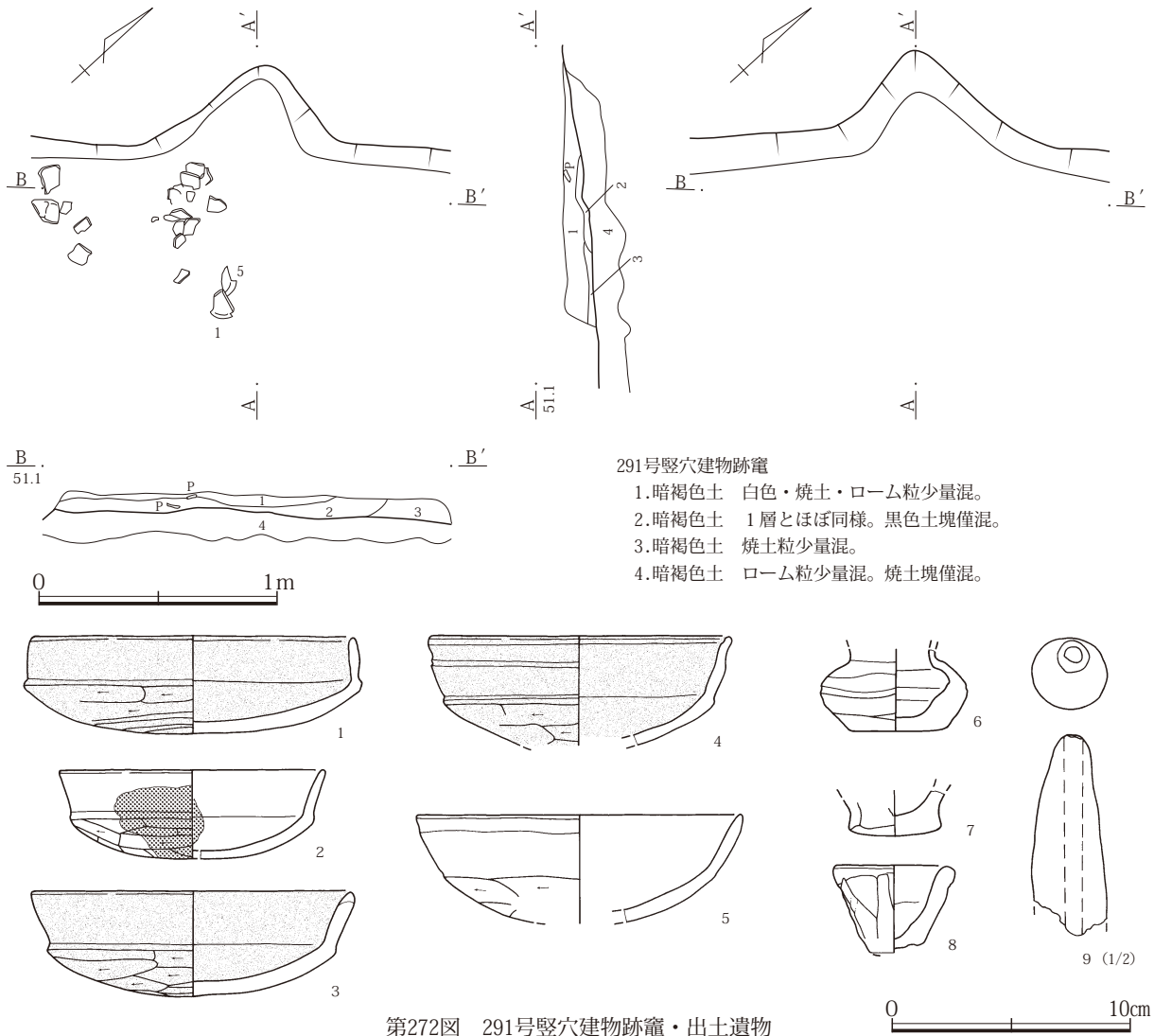


第271図 291号竪穴建物跡掘方

く張り出さない。煙道は全く確認できなかった。全体的に小規模である。貯蔵穴：竈の南西側で検出されたpit8・9。新旧2時期あり、pit8がpit9を掘り直して形成されている。ともに不整円形状を呈し

ており、pit8は長径0.62m・短径0.54m・深さ0.25m、pit9は長径0.7m・短径(0.55) m・深さ0.27m。柱穴・pit：(4隅柱穴) 4隅で柱穴と思われるpitを確認しているが、まず、内側に小規模ながら深く





第272図 291号竪穴建物跡竈・出土遺物

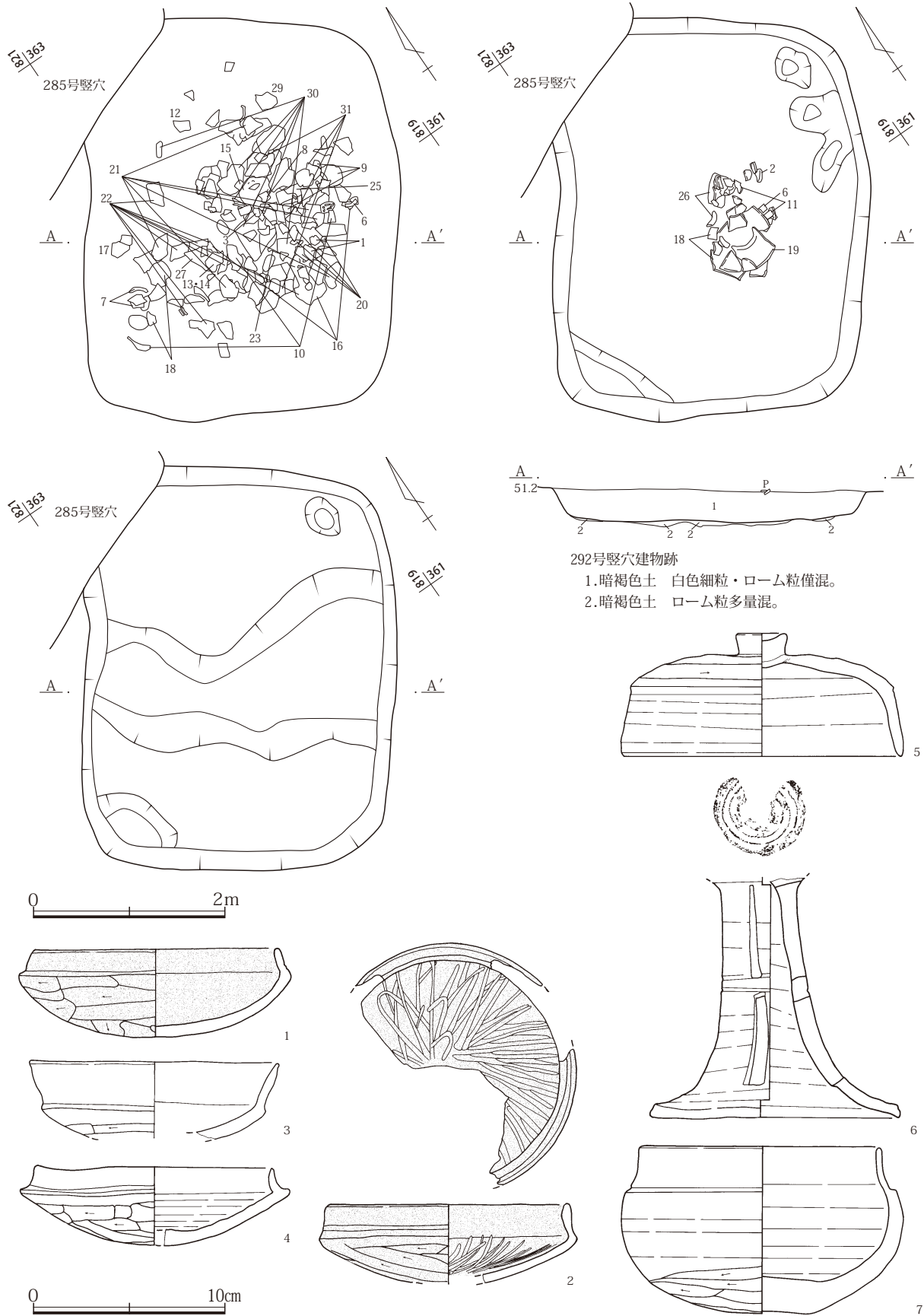
しっかりとした掘方を有するpit1～3が掘られ、後に、更に外側に、大きく浅いpit4~7が掘り直されたものと考えられる。ただし、内側に掘り込まれた古い柱穴の方は、南隅のものが明確には検出出来なかった。pit1長径0.62m・短径0.6m・深さ0.68m、pit2長径0.7m・短径0.46m・深さ0.7m、pit3長径0.58m・短径0.48m・深さ0.45m、pit4長径0.8m・短径0.64m・深さ0.13m、pit5長径0.92m・短径0.63m・深さ0.18m、pit6長径0.94m・短径0.9m・深さ0.28m、pit7径0.85m・深さ0.16m。(4隅柱穴以外の柱穴的なpit) なお、これら4隅の柱穴以外にも、しっかりとした掘方を有するpit10～12・14・15が検出されている。大型の竪穴建物の上屋を支えた補助的な柱あるいは臨時・仮設的な柱の

痕跡の可能性もある。pit10長径0.94m・短径0.9m・深さ0.28m、pit11長径0.5m・短径0.42m・深さ0.28m、pit12長径0.75m・短径0.6m・深さ0.48m、pit14長径0.53m・短径0.42m・深さ0.6m、pit15長径0.43m・短径0.35m・深さ0.45m。(それ以外の土坑) 床面に掘られた北東-南西方向に長い楕円形状の浅い土坑pit13長径1.21m・短径0.8m・深さ0.3m。用途は不明である。床下pit16長径0.56m・短径0.53m・深さ0.4m。 時期：7 C前。 遺物：竈前から比較的集中して出土。掘方から手捏ね土器1(7)。他は埋土からの出土。

(87) 292号竪穴建物跡

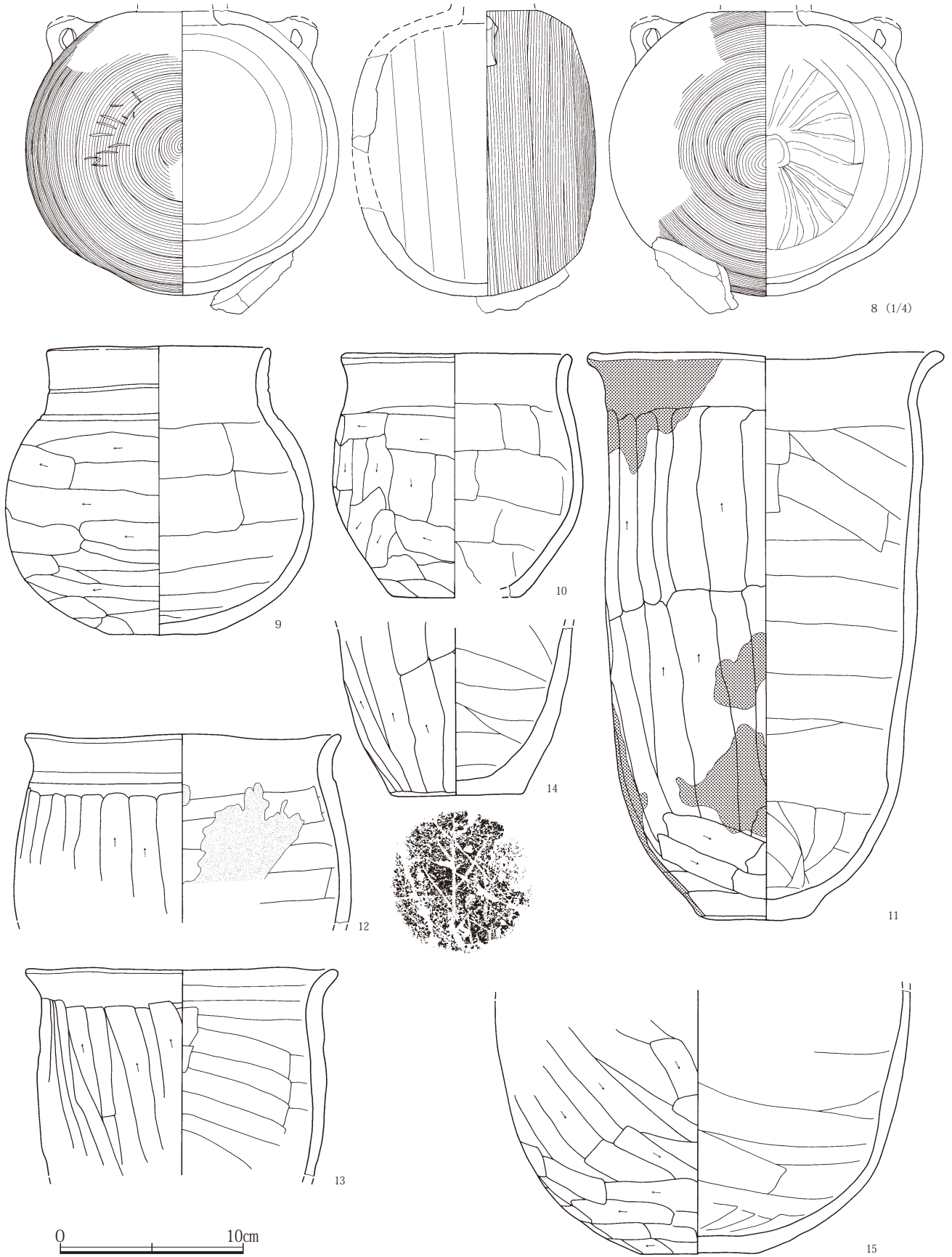
位置：調査区西寄り。X355-360・Y-815~820Gr.

第3章 発見された遺構と遺物

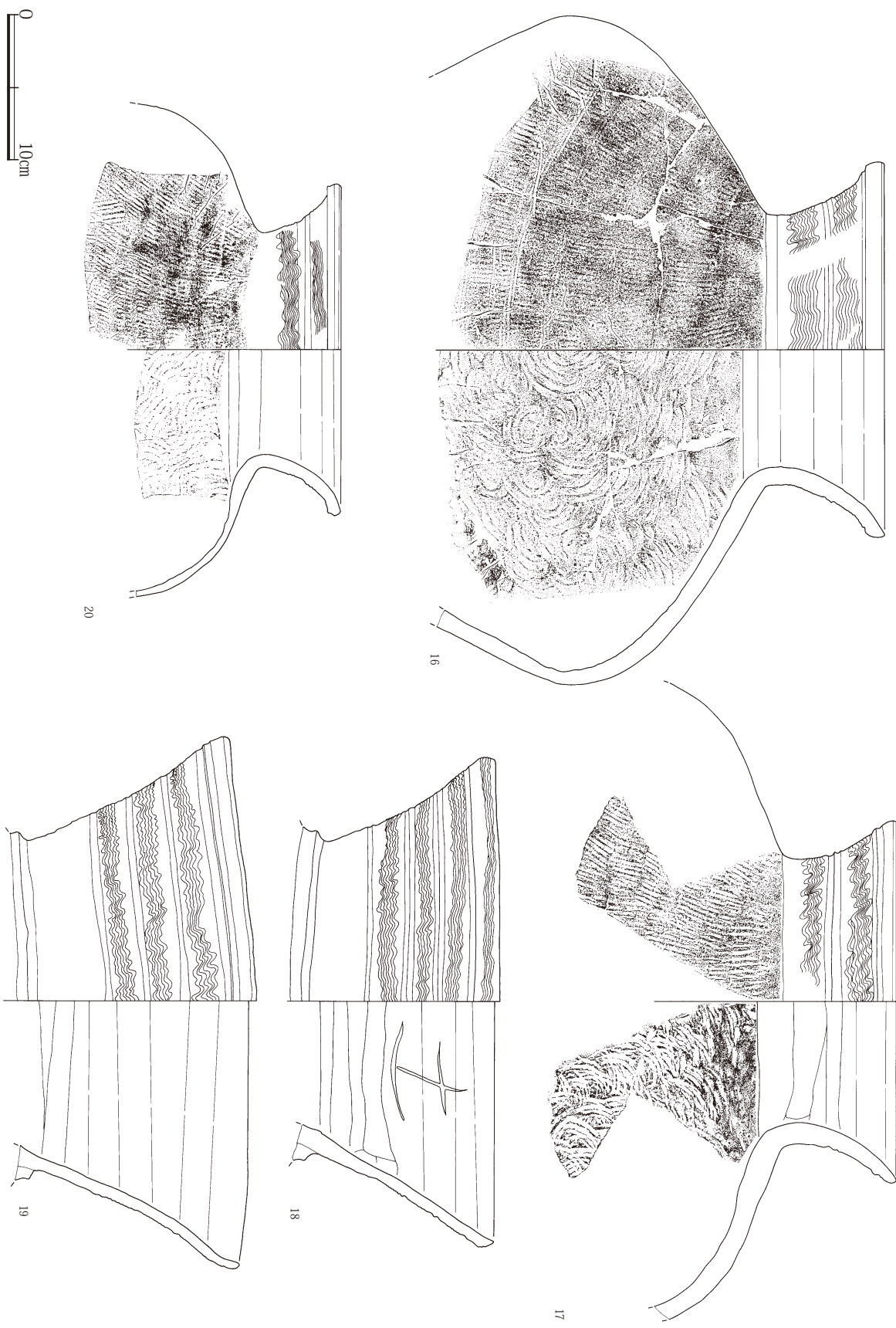


292号竖穴建物跡  
 1. 暗褐色土 白色細粒・ローム粒僅混。  
 2. 暗褐色土 ローム粒多量混。

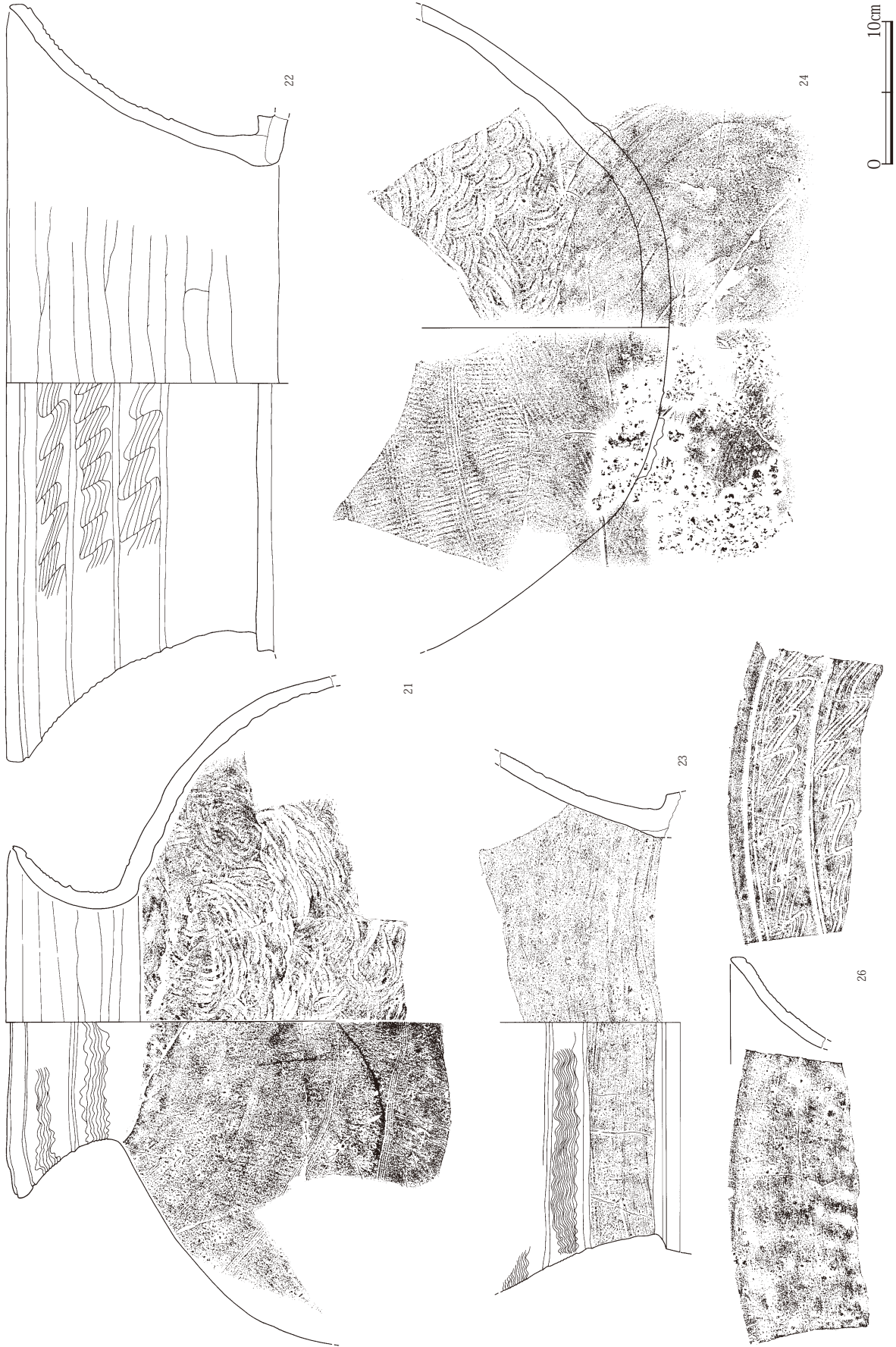
第273図 292号竖穴建物跡竈・出土遺物(1)



第274図 292号竪穴建物跡出土遺物（2）



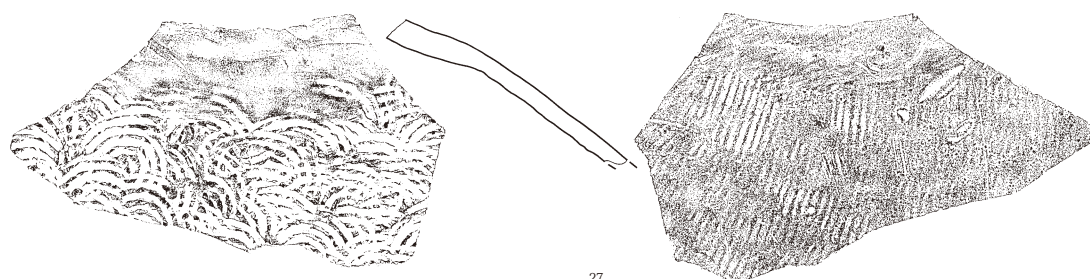
第275図 292号竪穴建物跡出土遺物(3)



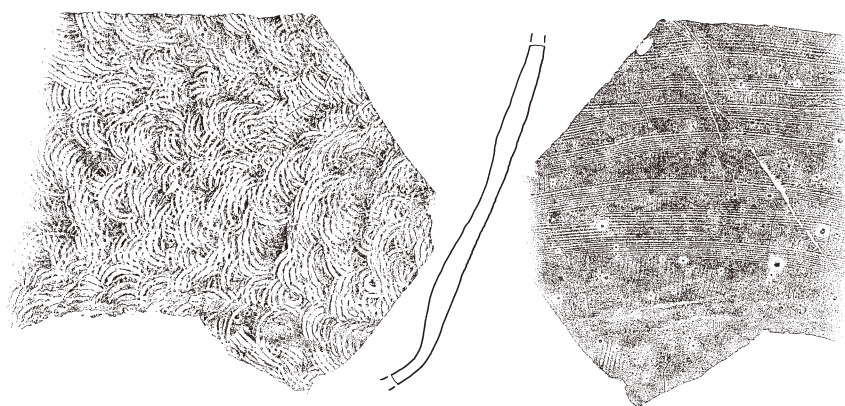
第276図 292号竪穴建物跡出土遺物（4）



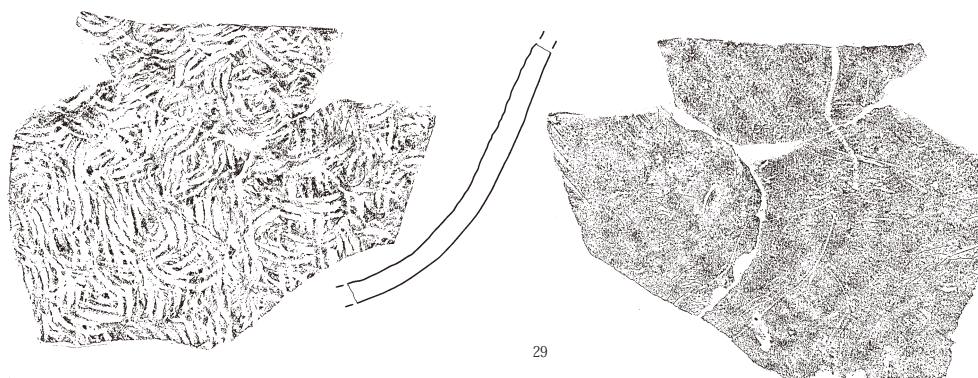
25



27



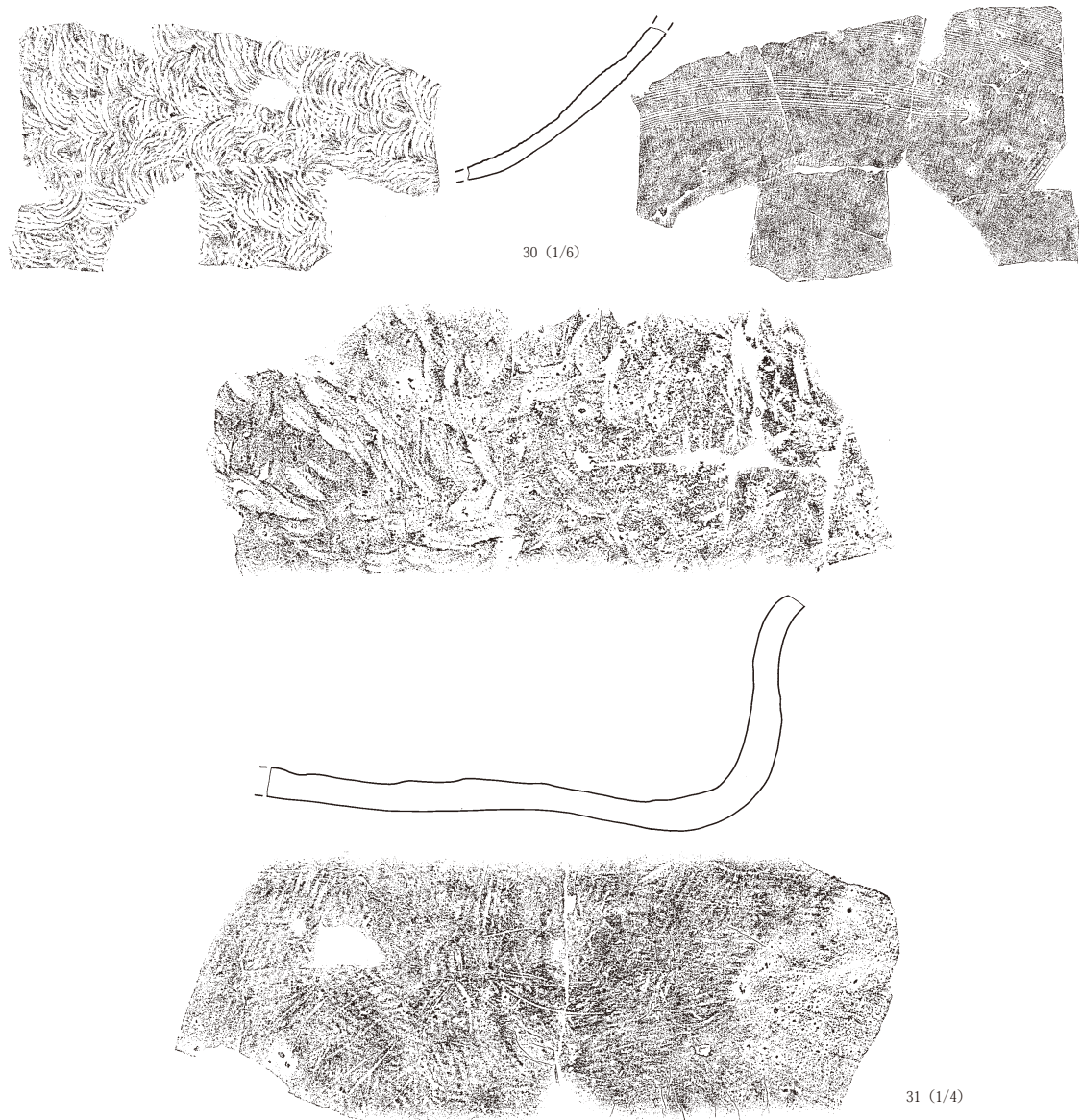
28 (1/6)



29



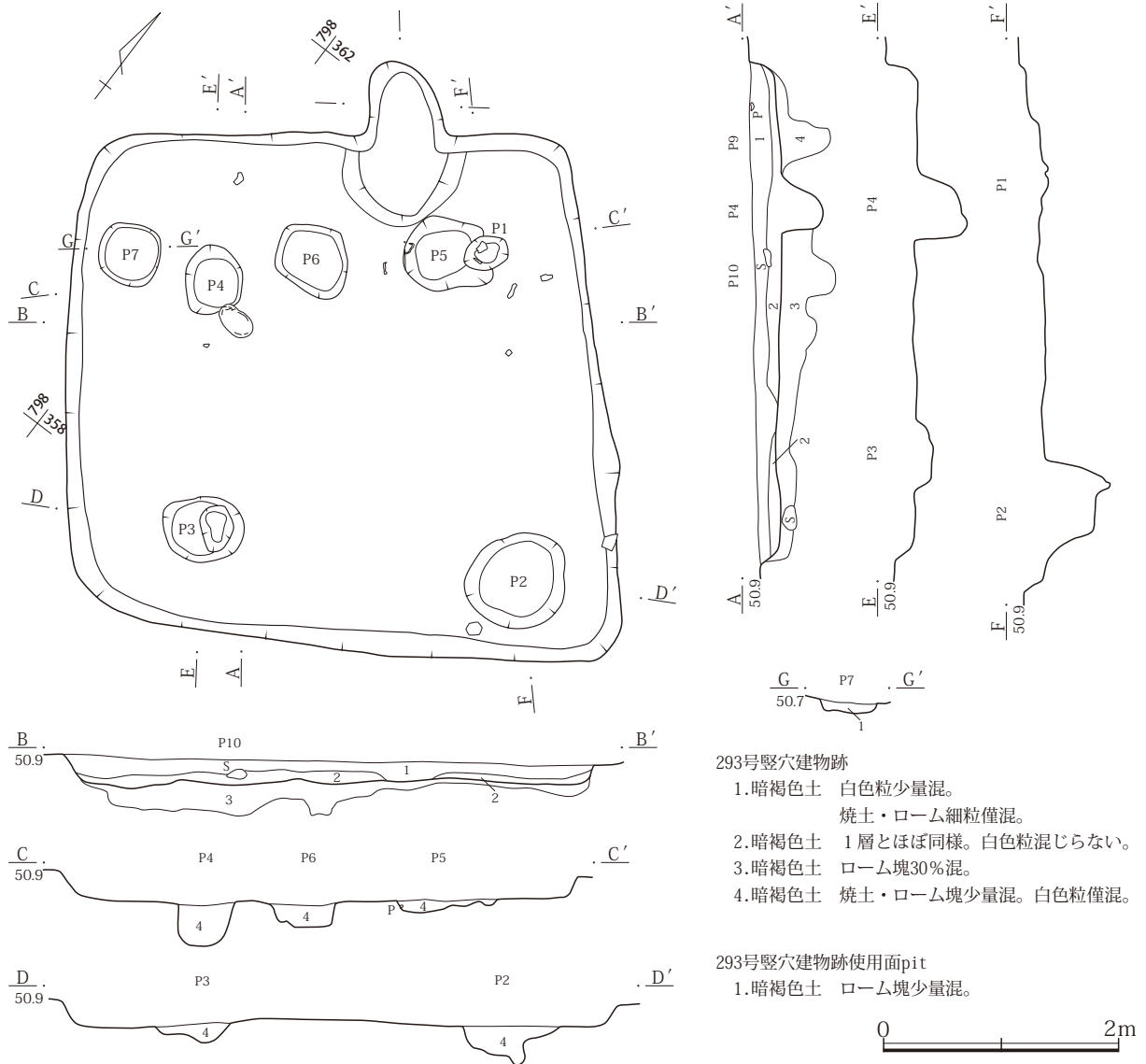
第277図 292号竪穴建物跡出土遺物（5）



第278図 292号竪穴建物跡出土遺物（6）

**主軸方位：**N-34° -E **重複：**285号竪穴建物跡に掘り込まれる。**規模と形状：**南西―北東方向に長い長方形を呈する。長辺2.8m・短辺2.17m・床面までの深さ0.34m・掘方までの深さ0.38m。**埋土：**暗褐色土ベース。**床面：**地山を凹凸激しく掘り込んでいる。ローム粒を多量に含む暗褐色土を貼って平坦な面を造り出し、床面を形成している。床面の厚さは約0.04m前後。**掘方：**中央部と隅が若干一段深く掘り込まれている。**竈：**なし。**貯蔵穴：**なし。**時期：**6 C前～。**遺物：**埋土中より大量の土器片が出土。特に須恵器大甕片が多い。

**(88) 293号竪穴建物跡**  
**位置：**調査区の中央。X355~360・Y-790~-795Gr.  
**主軸方位：**N-39° -W **重複：**299～301・308号竪穴建物跡を掘り込む。**規模と形状：**北西―南東方向に若干長いほぼ方形を呈する。長辺4.62m・短辺4.43m・床面までの深さ0.28m・掘方までの深さ0.42m。**埋土：**暗褐色土ベース。**床面：**地山を比較的平坦に掘り込んだ上にローム塊を多量に含む暗褐色土を貼って、硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.14m前後。柱穴以外にも床面から比較的浅く掘り込んでいる土坑pit5～7が検出され



第279図 293号竪穴建物跡

た。掘方：比較的平坦。部分的に床下の土坑状の掘り込みが多数検出できた(pit8～12)。竈：北西壁のほぼ中央に取り付く。燃烧部及び両袖、煙道は地山を削り出して形成される。燃烧部は壁より外側に形成されている。両袖は内側に全く張り出さない。煙道は全く確認できなかった。貯蔵穴：なし。

柱穴・pit：(4隅柱穴) 4隅で柱穴と思われるpitを確認している。pit1長径0.78m・短径0.44m・深さ0.08m、pit2径0.85m・深さ0.48m、pit3長径0.7m・短径0.56m・深さ0.18m、pit4長径0.58m・短径0.5m・深さ0.36m。(床面から掘り込まれた土坑) 浅い土坑が3基検出された。これらの用途や機能は

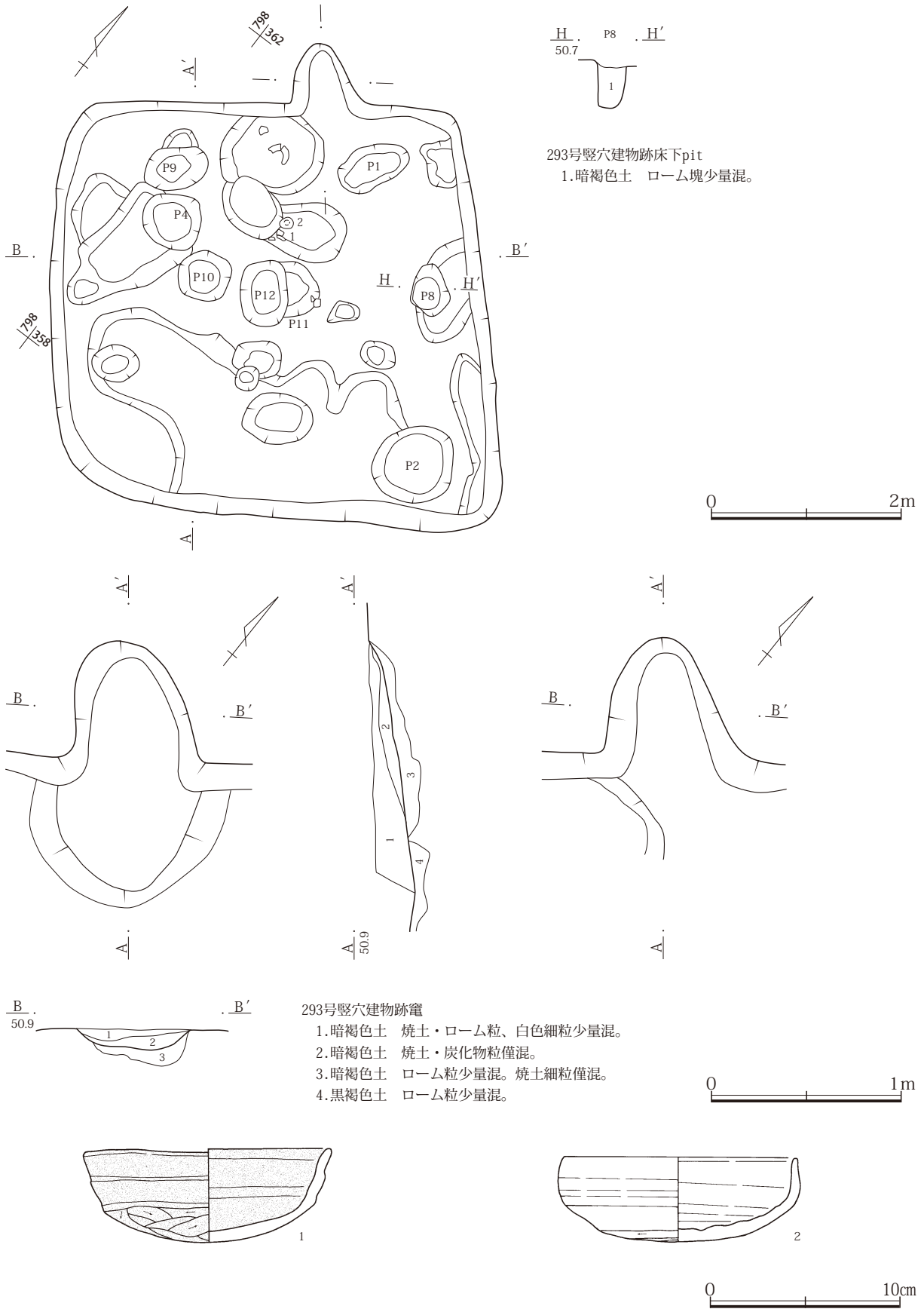
不明である。pit5長径0.7m・短径0.65m・深さ0.1m、pit6長径0.73m・短径0.62m・深さ0.2m、pit7径0.52m・深さ0.08m。(床下のpit) しっかりとした掘方を有するpitが5基検出。補助的な柱穴等の可能性もある。pit8長径0.56m・短径0.42m・深さ0.62m、pit9長径0.7m・短径0.48m・深さ0.43m、pit10径0.55m・深さ0.4m、pit11長径0.6m・短径(0.35)m・深さ0.32m、pit12長径0.8m・短径0.5m・深さ0.35m。時期：7C前。遺物：床直より杯2。

(89) 294号竪穴建物跡

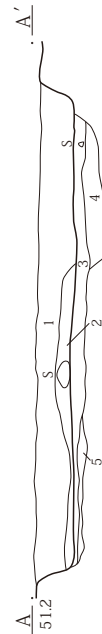
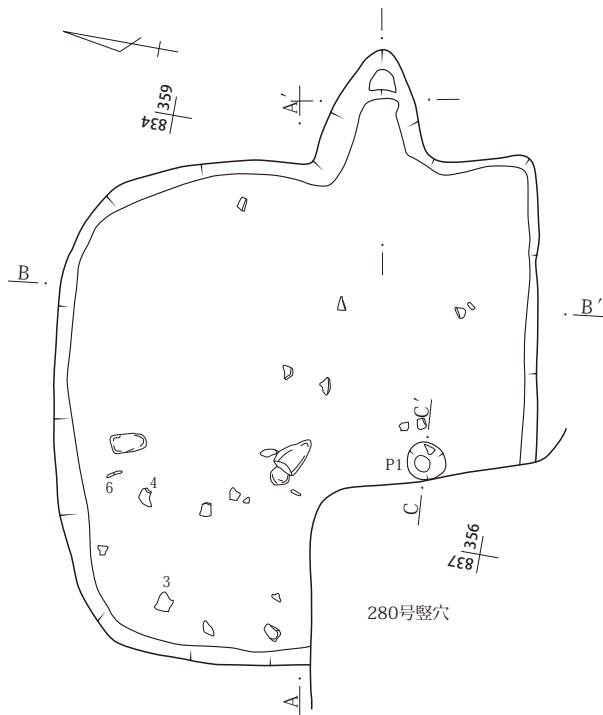
位置：調査区西端寄り。X355・Y-830~835Gr.



第2節 古墳時代後期～平安時代の遺構と遺物

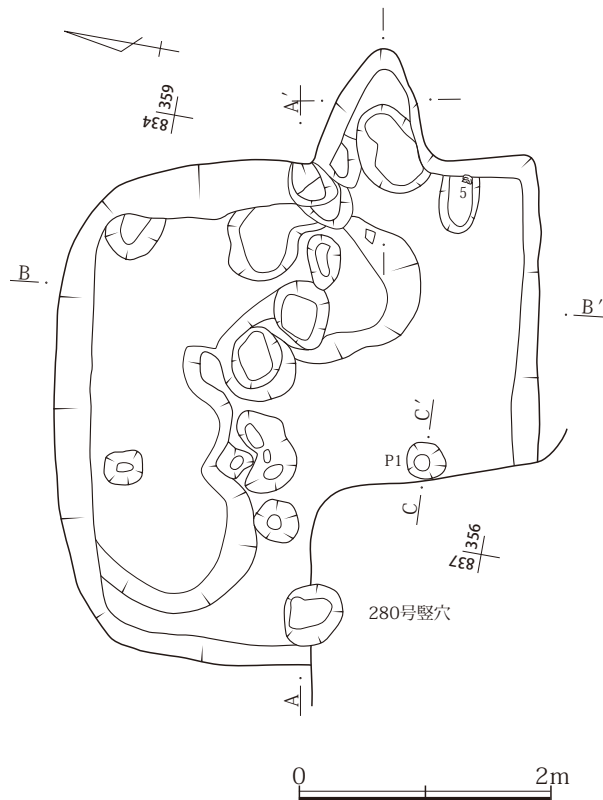
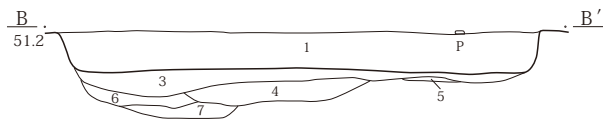
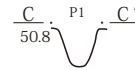


第280図 293号竪穴建物跡掘方・竈・出土遺物



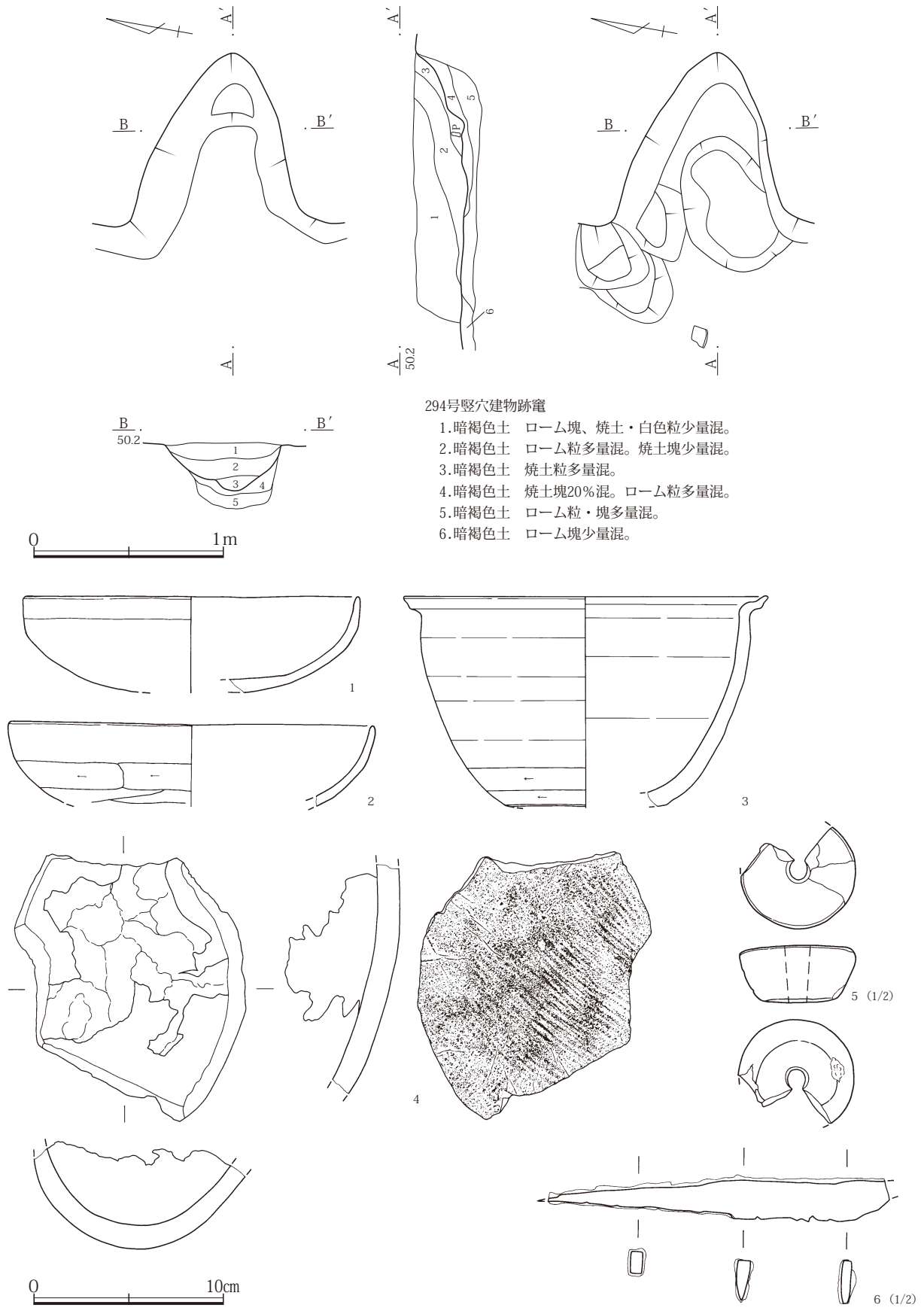
294号竖穴建物跡

1. 暗褐色土 ローム粒・小塊、  
焼土・白色粒少量混。
2. 暗褐色土 ローム粒30%混。
3. 暗褐色土 ローム塊少量混。
4. 暗褐色土 ローム塊多量混。
5. 黄褐色土 暗褐色土粒少量混。
6. 暗褐色土 4層とほぼ同質だが、  
暗褐色土粒混入の割合が少し高い。
7. 暗褐色土 全体にローム混。



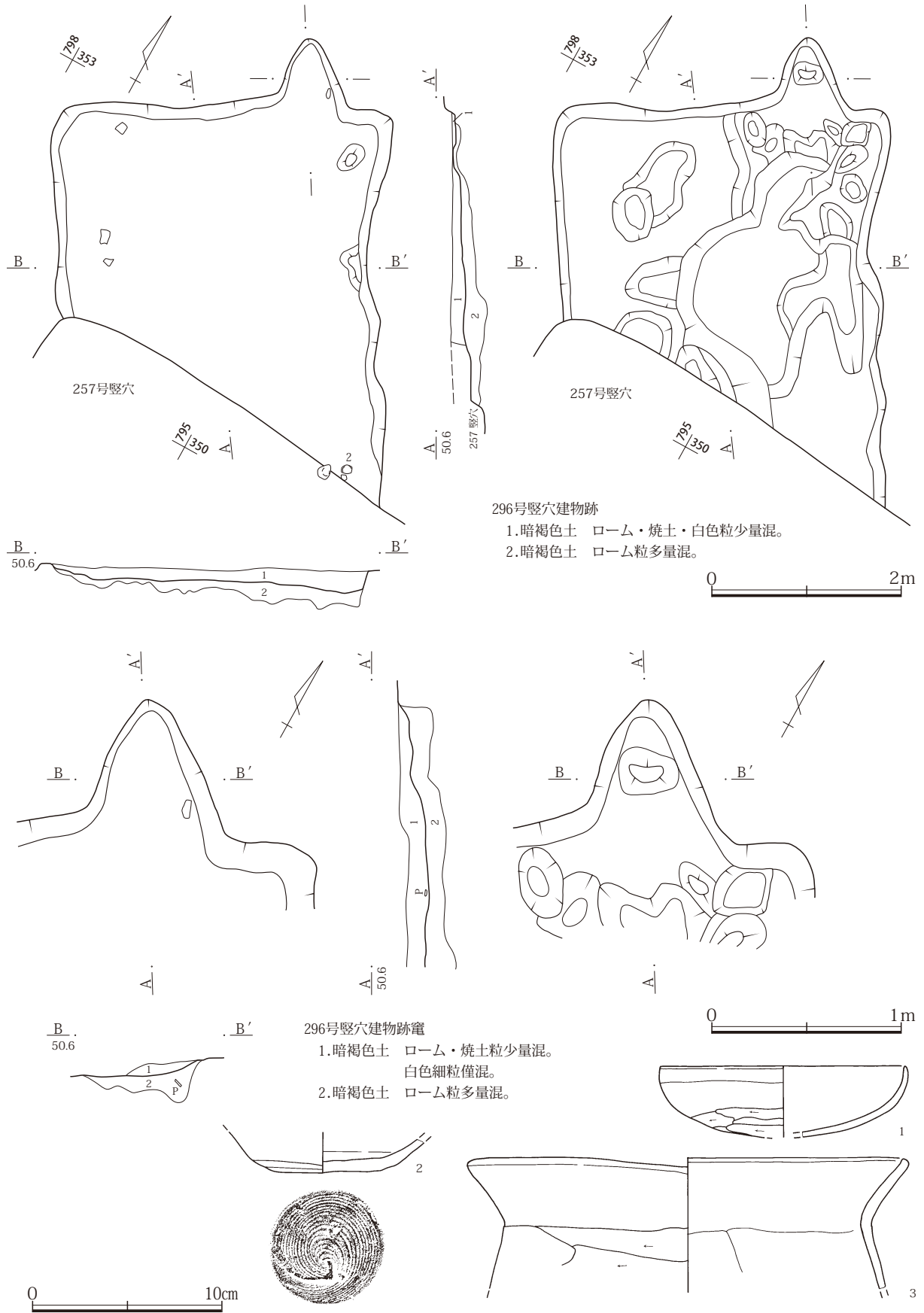
**主軸方位：**N-81° -E **重複：**280号竖穴建物跡に掘り込まれる。305号竖穴建物跡、1085号土坑跡を掘り込む。 **規模と形状：**ほぼ方形状を呈する。長辺3.98m・短辺3.82m・床面までの深さ0.3m・掘方までの深さ0.52m。 **埋土：**暗褐色土ベース。 **床面：**地山を大きく掘り込んだ上に、ローム粒・塊を含む暗褐色土を貼って平坦な面を造り出し、硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.05～0.22m前後と変化に富む。 **掘方：**竈前から中央部を含む約北半分がとくに一段深く掘り込まれており、床下の土坑状の掘り込みが連続して形成され、起伏が激しい。 **竈：**東壁の南寄りの位置に取り付く。両袖・燃烧部・煙道ともに地山を削り出して形成され、燃烧部は壁より外側に形成される。煙道は外側にやや長く伸びている。両袖は内側には全く張り出さない。 **貯蔵穴：**なし。 **時期：**8C前。 **遺物：**建物内に散在。刀子が床直より出土（6）。

第281図 294号竖穴建物跡

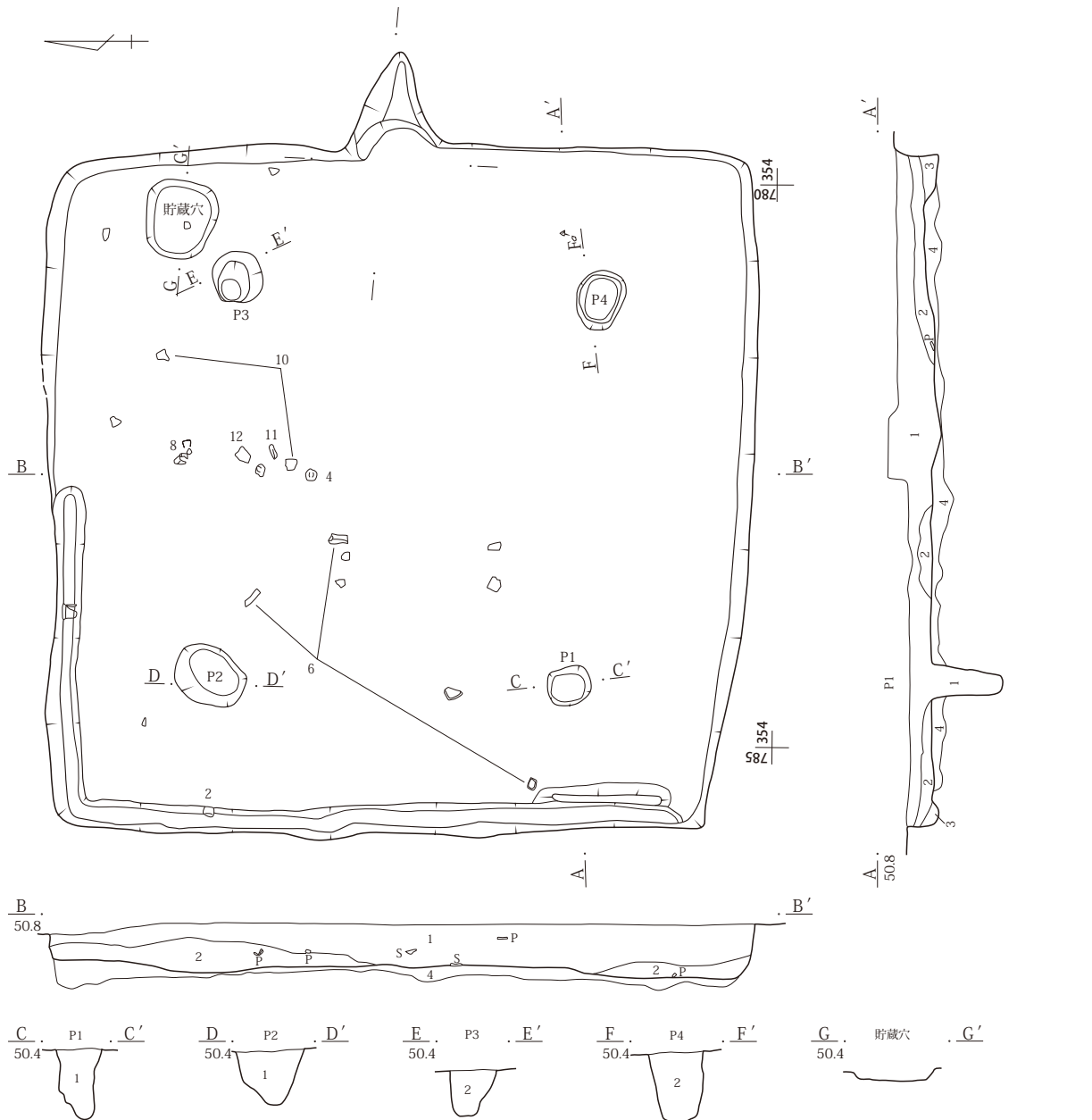


第282図 294号竪穴建物跡竈・出土遺物

第3章 発見された遺構と遺物



第283図 296号竪穴建物跡・出土遺物



297号竪穴建物跡

1. 暗褐色土 白色・焼土・ローム粒少量混。
2. 暗褐色土 黒褐色砂質土粒を全体に混。ローム塊少量混。焼土粒僅混。
3. 暗褐色土 ローム・黒褐色土粒混。
4. 暗褐色土 ローム塊少量混。白色・焼土粒僅混。

297号竪穴建物跡柱穴

1. 暗褐色土 ローム粒・塊少量混。
2. 暗褐色土 ローム塊多量混。

0 2m

第284図 297号竪穴建物跡

(90) 296号竪穴建物跡

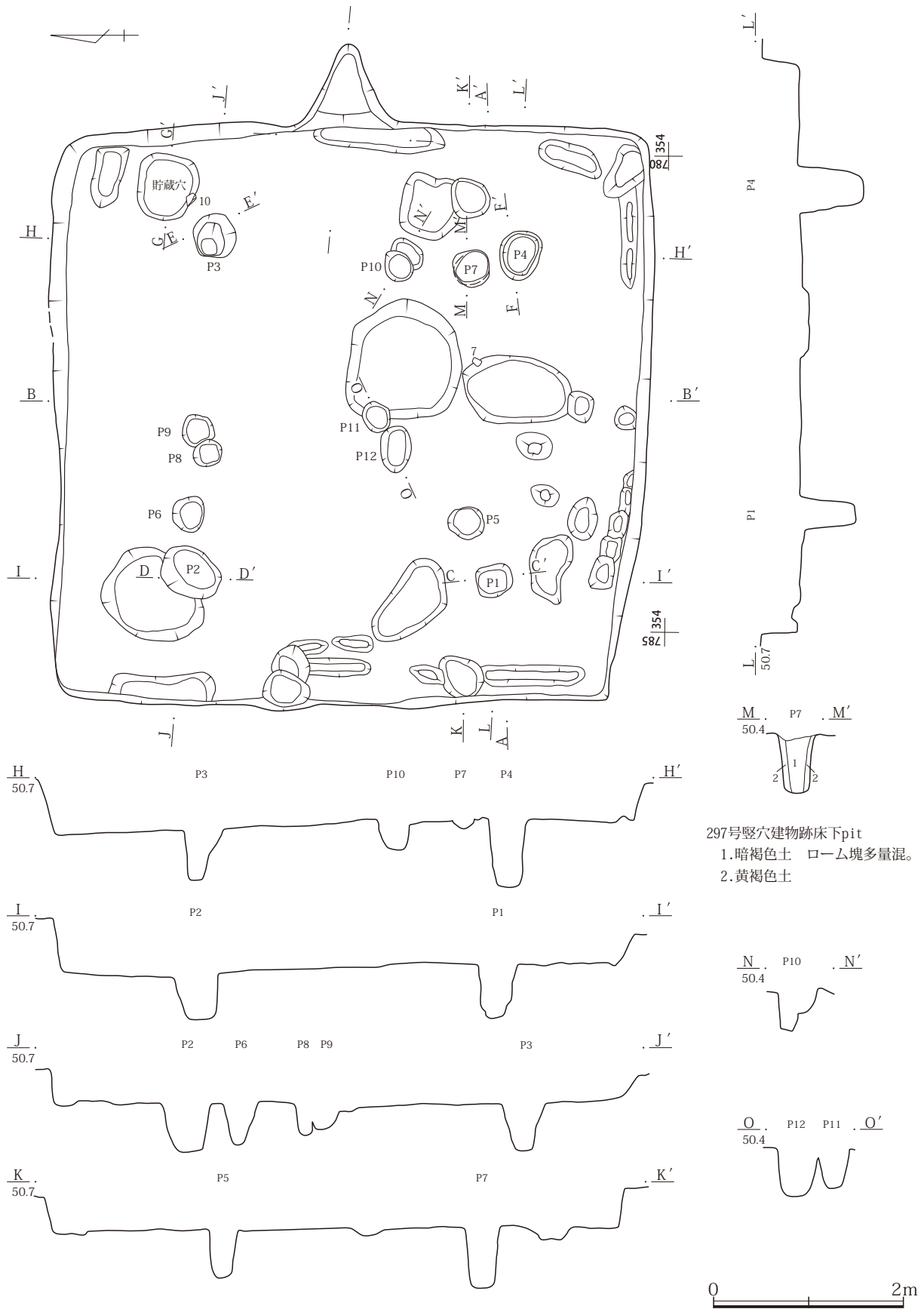
位置：調査区中央東寄り。X350・Y-790~795Gr.

主軸方位：N-31° -W 重複：257号竪穴建物跡に掘り込まれる。267・310号竪穴建物跡を掘り込む。

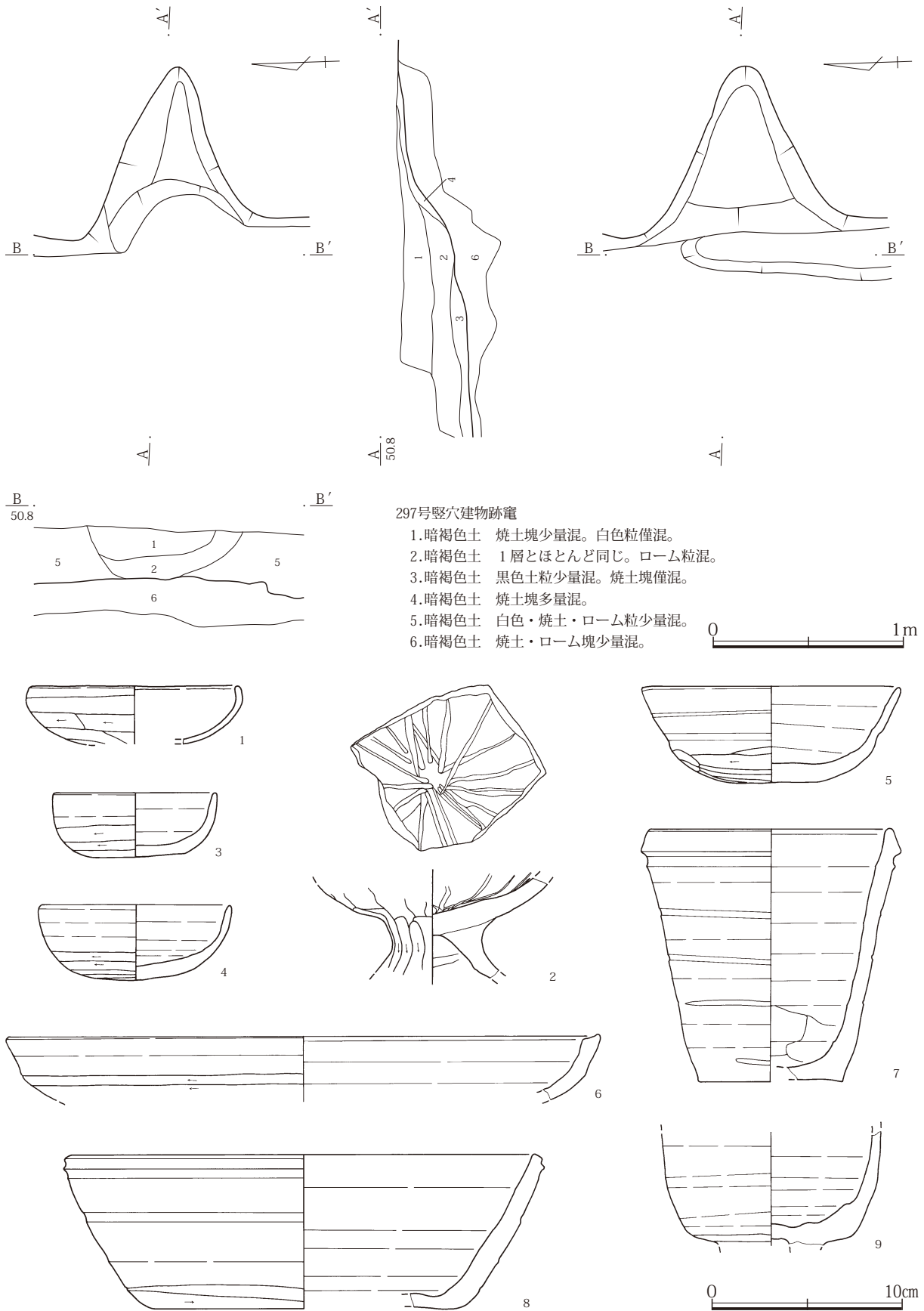
規模と形状：北西-南東方向に長い長方形状を呈するものと思われる。長辺(4.1) m・短辺3.6m・

床面までの深さ0.21m・掘方までの深さ0.37m。

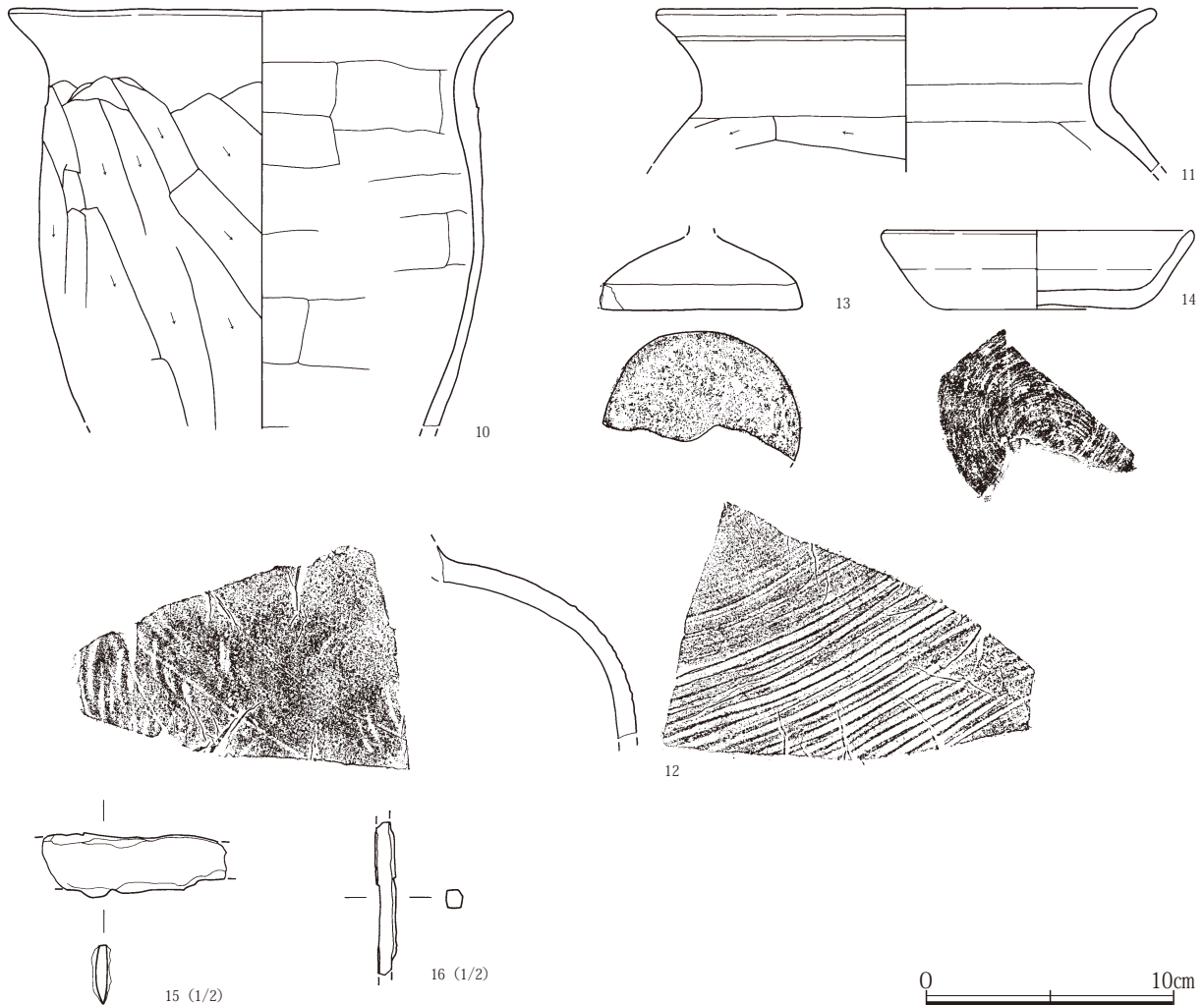
埋土：暗褐色土ベース。床面：地山を凹凸激しく大きく掘り込んだ上に、ローム粒を多量に含む暗褐色土を厚く貼って平坦な面を造り出し、硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.08~0.16m前後と変化に富む。掘方：床下の土坑状の掘り込み



第285図 297号竪穴建物跡掘方



第286図 297号竪穴建物跡竈・出土遺物（1）



第287図 297号竪穴建物跡出土遺物（2）

が無数に連続して形成され、起伏が激しい。竈：北西壁の北隅寄りの位置に取り付く。両袖・燃烧部・煙道ともに地山を削り出して形成され、燃烧部は壁より外側に形成される。煙道は外側に若干延びている。両袖は内側に張り出さない。貯蔵穴：なし。  
 時期：8C4。遺物：竈から2（1・3）、埋土から1（2）。

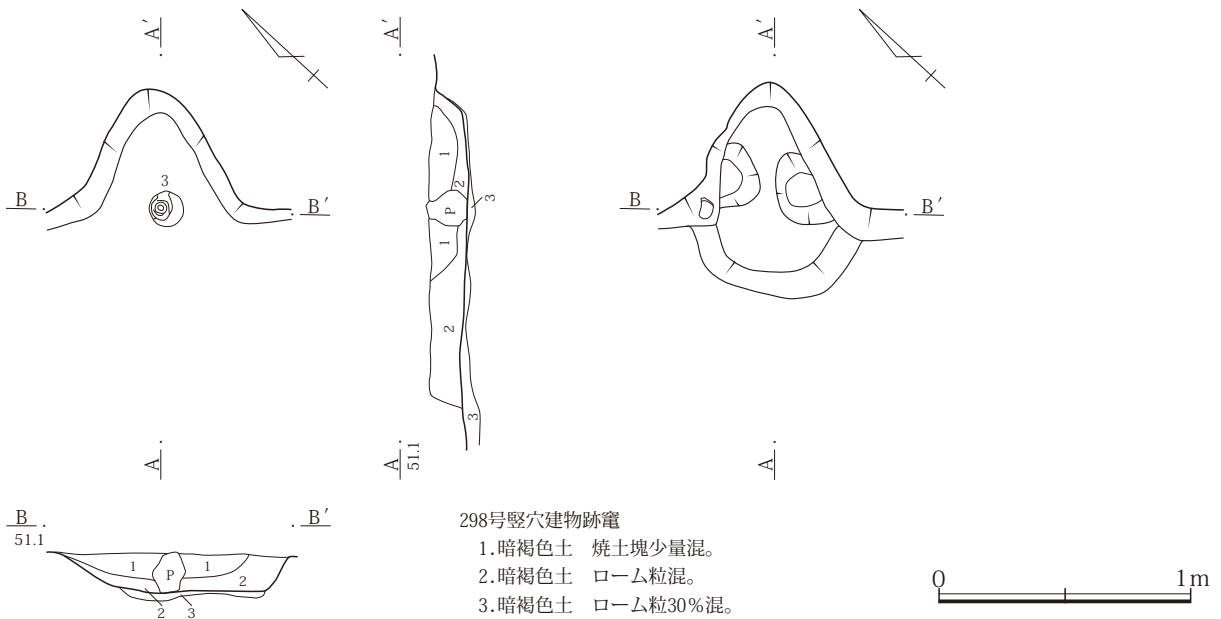
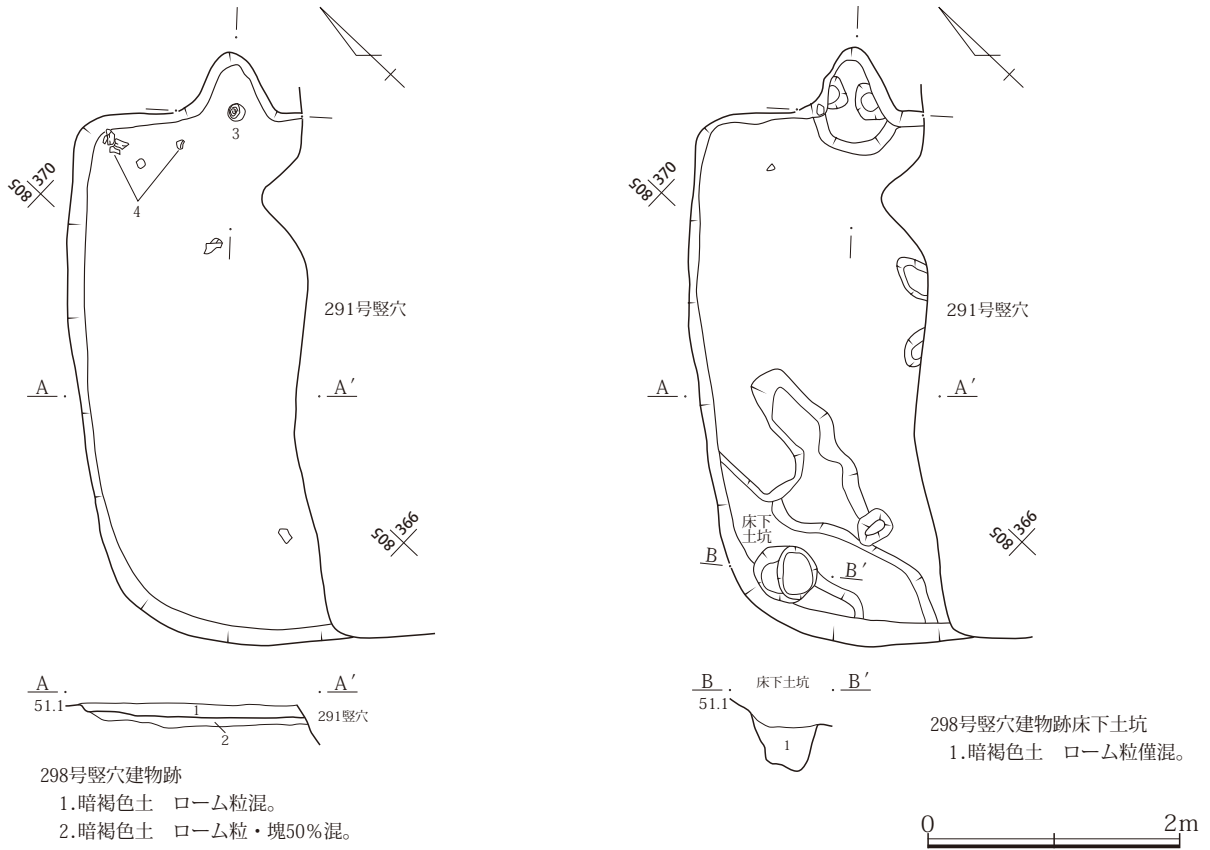
(91) 297号竪穴建物跡

位置：調査区中央やや東寄り。X350~360・Y-775~-785Gr. 主軸方位：N-92° -E 重複：なし。

規模と形状：ほぼ方形を呈し、最大規模級。長辺6.5m・短辺6.05m・床面までの深さ0.47m・掘方までの深さ0.58m。埋土：暗褐色土ベース。

床面：地山を比較的平坦に掘り込んだ上にローム塊を少量含む暗褐色土を貼って、硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.11m前後。周溝：北壁際の西半分と西壁際全域で検出。最大上幅0.24m・最大下幅0.16m・深さ0.04m。掘方：比較的平坦だが、部分的に床下の土坑状の掘り込みが多数検出できた。竈：東壁のほぼ中央に取り付く。燃烧部及び両袖、煙道は地山を削り出して形成される。燃烧部は壁より外側に形成されている。両袖は内側に張り出さない。煙道は確認できなかった。全体的に小規模である。貯蔵穴：北東の隅で検出された。東西にやや長い隅丸長方形を呈している。長辺0.7m・短辺0.64m・深さ0.28m。柱穴・pit：(使用面4隅柱穴) pit1長径0.39m・短径0.34m・深さ

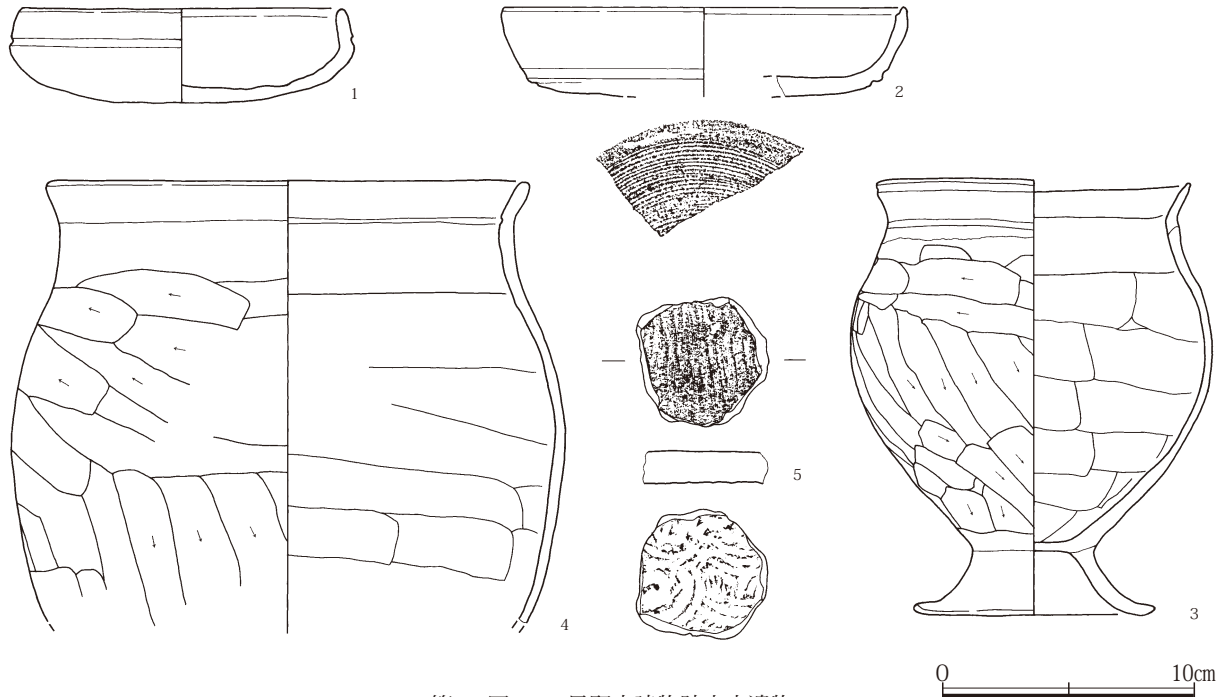




第288図 298号竪穴建物跡

0.72m、pit2長径0.68m・短径0.52m・深さ0.7m、pit3長径0.48m・短径0.45m・深さ0.68m、pit4長径0.53m・短径0.42m・深さ0.75m。(床下から検出された旧柱穴) 使用面検出の4柱穴に先行する旧

柱穴が3基検出された。北東隅柱穴のみは新旧二時期共通して使用しているようである。pit5長径0.38m・短径0.35m・深さ0.64m、pit6長径0.4m・短径0.35m・深さ0.64m、pit7長径0.43m・短径0.4m・



第289図 298号竪穴建物跡出土遺物

深さ0.77m。(床下のpit) しっかりとした掘方を有するpitが5基検出されている。補助的な柱穴等の可能性もある。pit8長径0.34m・短径0.3m・深さ0.55m、pit9長径0.34m・短径(0.3) m・深さ0.48m、pit10長径0.36m・短径0.3m・深さ0.6m、pit11長径0.35m・短径0.3m・深さ0.56m、pit12長径0.5m・短径0.34m・深さ0.64m。 時期：7 C 4。 遺物：北半から比較的まとまって出土。コップ型の鉢(7)とアテ具(13)が注目される。

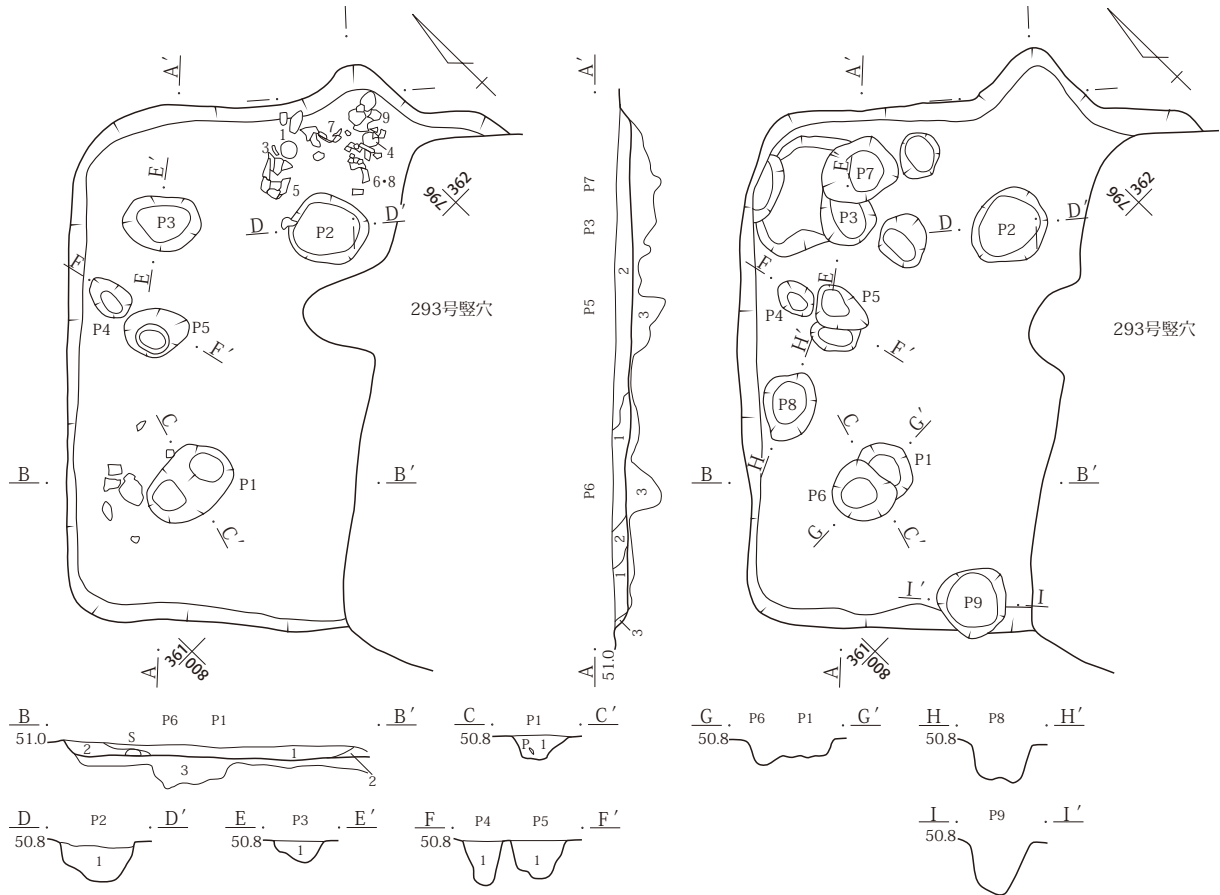
(92) 298号竪穴建物跡

位置：調査区中央北寄り。X365-370・Y-800~805Gr. 主軸方位：N-48° -E 重複：291号竪穴建物跡に掘り込まれる。349・350号竪穴建物跡を掘り込む。 規模と形状：北東-南西方向に長い長方形を呈する。長辺4.18m・短辺(1.9) m・床面までの深さ0.11m・掘り込みまでの深さ0.19m。 埋土：暗褐色土ベース。 床面：地山を比較的平坦に掘り込んだ上にローム粒・塊を50%程度含む暗褐色土を薄く貼って、硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.08前後。 掘方：比較的平坦。西壁際がとくに一段深く掘り込まれている。西隅で床下土坑が1

基検出された。 竈：北東壁のほぼ中央に取り付く。 焼部及び両袖、煙道は地山を削り出して形成される。焼部は壁より外側に形成されている。両袖は内側に全く張り出さない。煙道は顕著には確認できなかった。全体的に小規模である。 貯蔵穴：未検出。 柱穴・pit：西隅で床下土坑が1基検出された。北西-南東方向にやや長い楕円形状を呈し、長径0.52m・短径0.48m・深さ0.35m。 時期：9 C 4。 遺物：竈周囲にまとまっている。

(93) 299号竪穴建物跡

位置：調査区中央。X360・Y-795~800Gr. 主軸方位：N-49° -E 重複：293号竪穴建物跡に掘り込まれる。 規模と形状：北東-南西方向に若干長い長方形を呈する。長辺4.1m・短辺(2.58) m・床面までの深さ0.12m・掘り込みまでの深さ0.2m。 埋土：暗褐色土ベース。 床面：地山を凹凸激しく大きく掘り込んだ上に、ローム塊を少量含む暗褐色土を貼って、硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.08m前後。柱穴は新旧2時期のものが検出された。 掘方：凹凸激しく、土坑状の一段深い掘り込みが多数検出できた。 竈：北東壁の南寄りに取

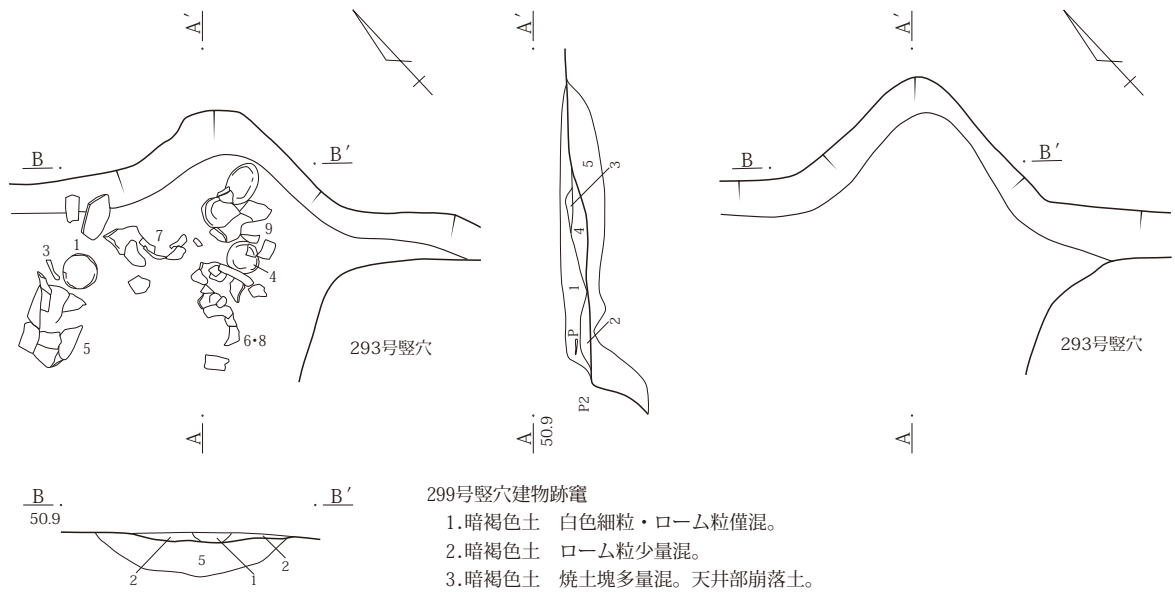


299号竪穴建物跡

1. 暗褐色土 白色細粒僅混。
2. 暗褐色土 黒褐色土・ローム粒少量混。
3. 暗褐色土 ローム塊少量混。

299号竪穴建物跡pit

1. 暗褐色土 白色・ローム粒少量混。  
焼土粒僅混。



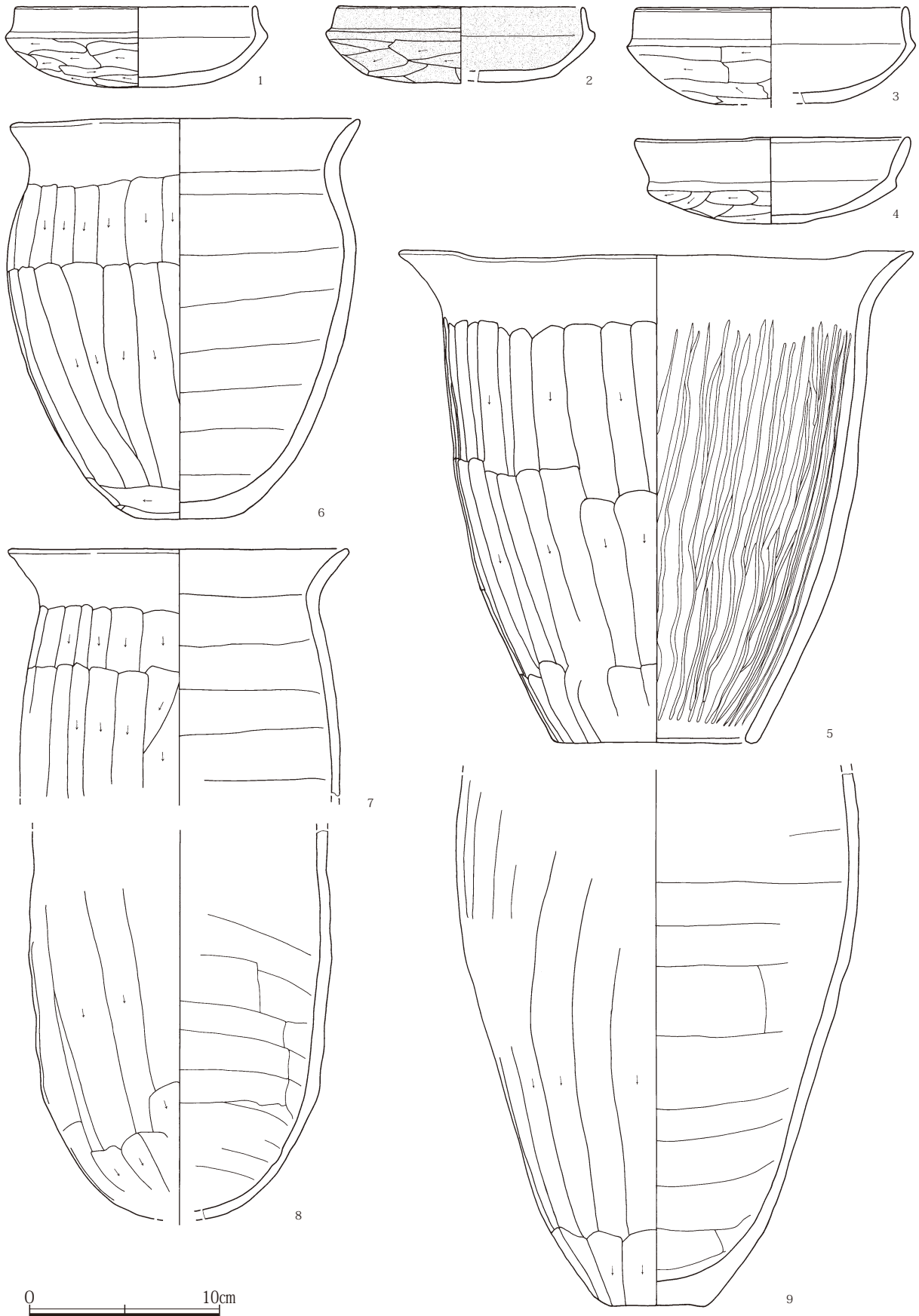
299号竪穴建物跡竈

1. 暗褐色土 白色細粒・ローム粒僅混。
2. 暗褐色土 ローム粒少量混。
3. 暗褐色土 焼土塊多量混。天井部崩落土。
4. 暗褐色土
5. 暗褐色土 焼土・ローム細粒少量混。

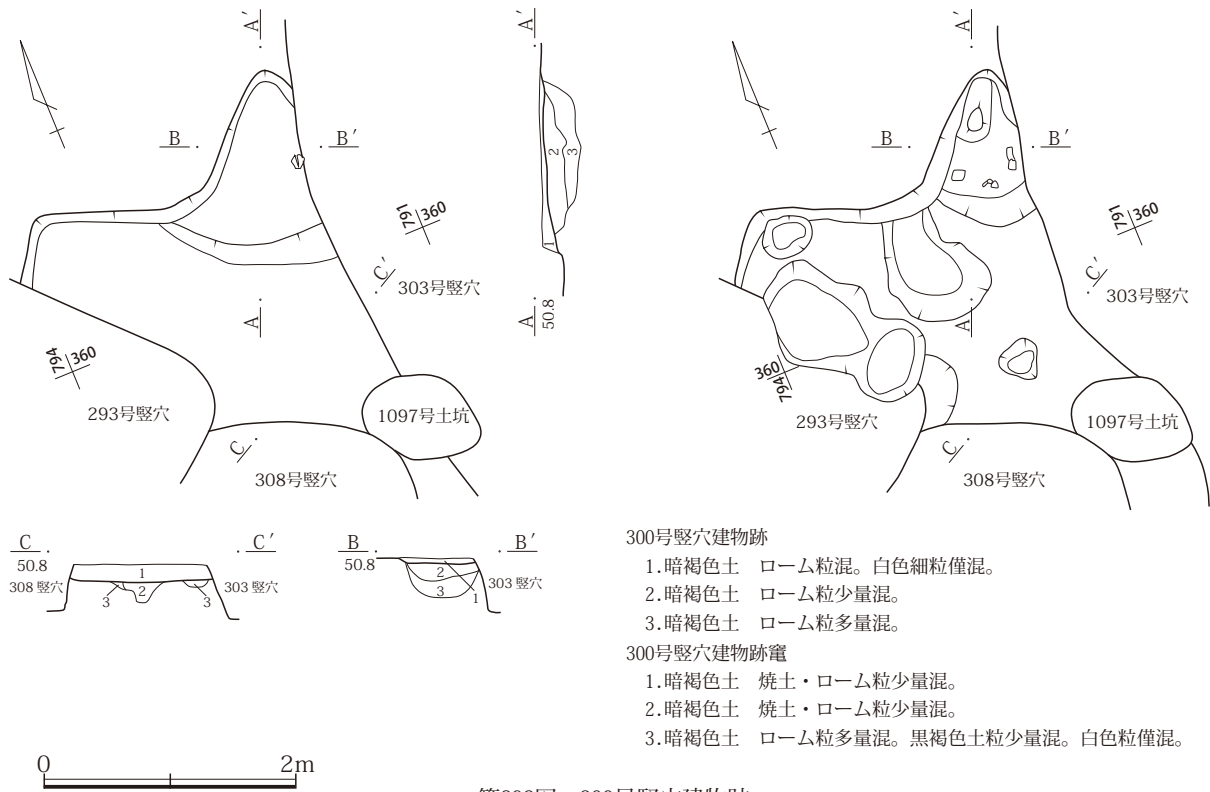


第290図 299号竪穴建物跡

第3章 発見された遺構と遺物



第291図 299号竪穴建物跡出土遺物



- 300号竪穴建物跡
1. 暗褐色土 ローム粒混。白色細粒僅混。
  2. 暗褐色土 ローム粒少量混。
  3. 暗褐色土 ローム粒多量混。
- 300号竪穴建物跡竈
1. 暗褐色土 焼土・ローム粒少量混。
  2. 暗褐色土 焼土・ローム粒少量混。
  3. 暗褐色土 ローム粒多量混。黒褐色土粒少量混。白色粒僅混。

第292図 300号竪穴建物跡

り付く。燃焼部及び両袖は地山を削り出して形成される。燃焼部は壁より外側に形成されている。両袖は内側に全く張り出さない。煙道は確認できなかった。全体的に小規模である。貯蔵穴：なし。柱穴・pit：(4隅柱穴) pit1長径0.72m・短径0.5m・深さ0.2m、pit3長径0.62m・短径0.44m・深さ0.32m。(床面から掘り込まれた土坑・pit) 用途や機能は不明であるが、比較的しっかりとした掘方を有しており、補助的な柱穴であった可能性もある。pit2長径0.64m・短径0.54m・深さ0.34m、pit4長径0.4m・短径0.25m・深さ0.35m、pit5長径0.55m・短径0.4m・深さ0.3m。(床下から検出された旧柱穴) pit6長径0.55m・短径0.5m・深さ0.24m、pit7長径0.62m・短径0.5m・深さ0.28m。(床下から検出されたその他のpit) 更に2基のpitが検出されている。これらのpitもしっかりとした掘方を有しており、柱穴に遜色はない。pit8長径0.6m・短径0.45m・深さ0.36m、pit9長径0.6m・短径0.55m・深さ0.5m。時期：7C前。遺物：竈周囲からまとまって出土。

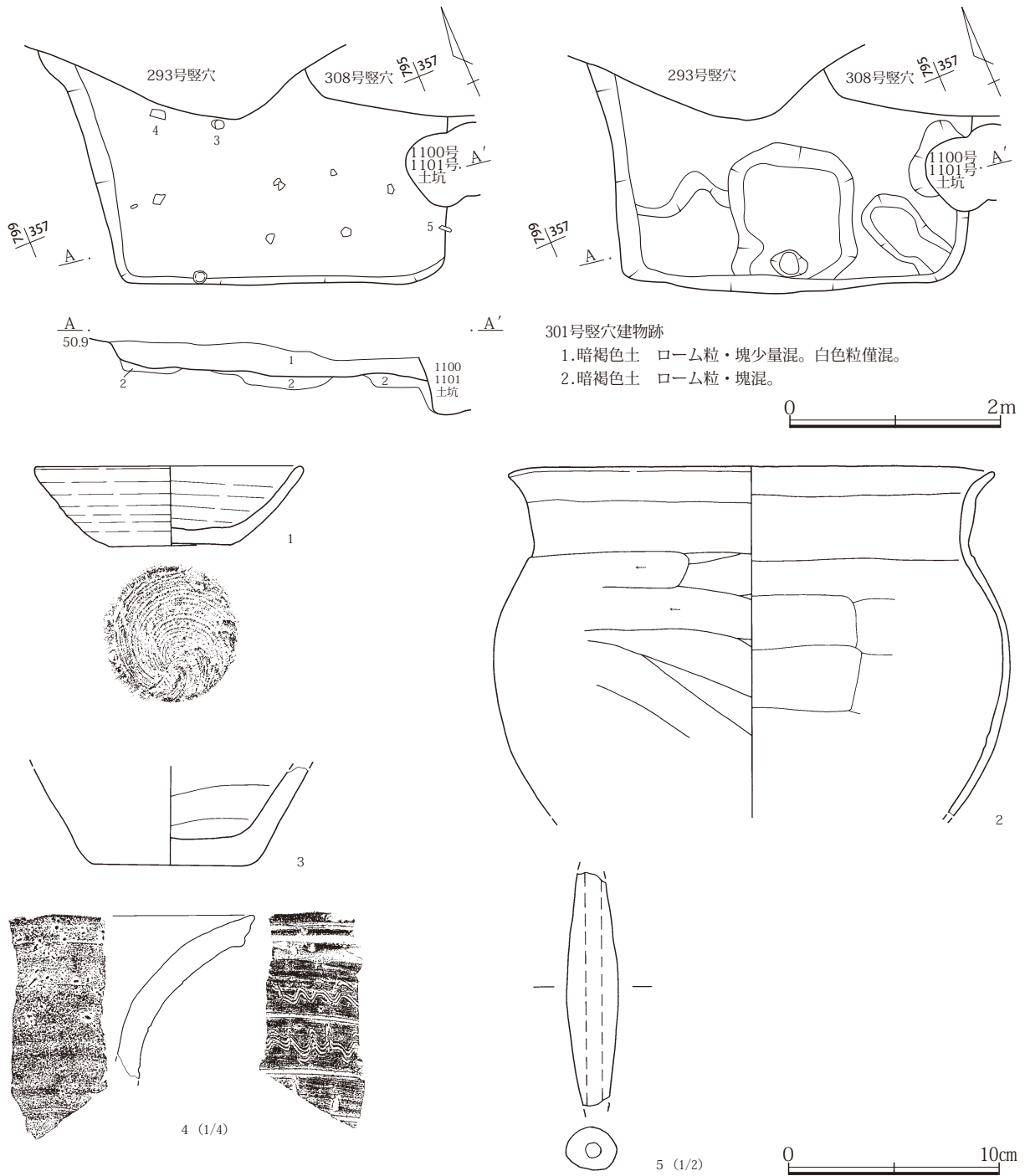
(94) 300号竪穴建物跡

位置：調査区中央やや東寄り。X355-360・Y-790Gr. 主軸方位：N-22°-E 重複：293・303・308号竪穴建物跡、1097号土坑跡に掘り込まれる。規模と形状：北隅と竈の西半分が検出されたにすぎず、大部分が破壊されている。床面までの深さ0.27m・掘方までの深さ0.32m。埋土：暗褐色土ベース。床面：詳細不明。掘方：比較的平坦。土坑状の掘り込みが多数検出できた。竈：北西壁のほぼ中央に取り付く。燃焼部及び両袖、煙道は地山を削り出して形成される。燃焼部は壁より外側に形成されている。両袖は建物の内部に張り出さない。煙道は比較的長く外側に延びている。貯蔵穴：未検出。時期：不明。遺物：建物内に散在。床直から4。

(95) 301号竪穴建物跡

位置：調査区中央。X355・Y-795Gr. 主軸方位：不明。重複：293・308号竪穴建物跡、1100・1101号土坑跡に掘り込まれる。規模と形状：南東・南

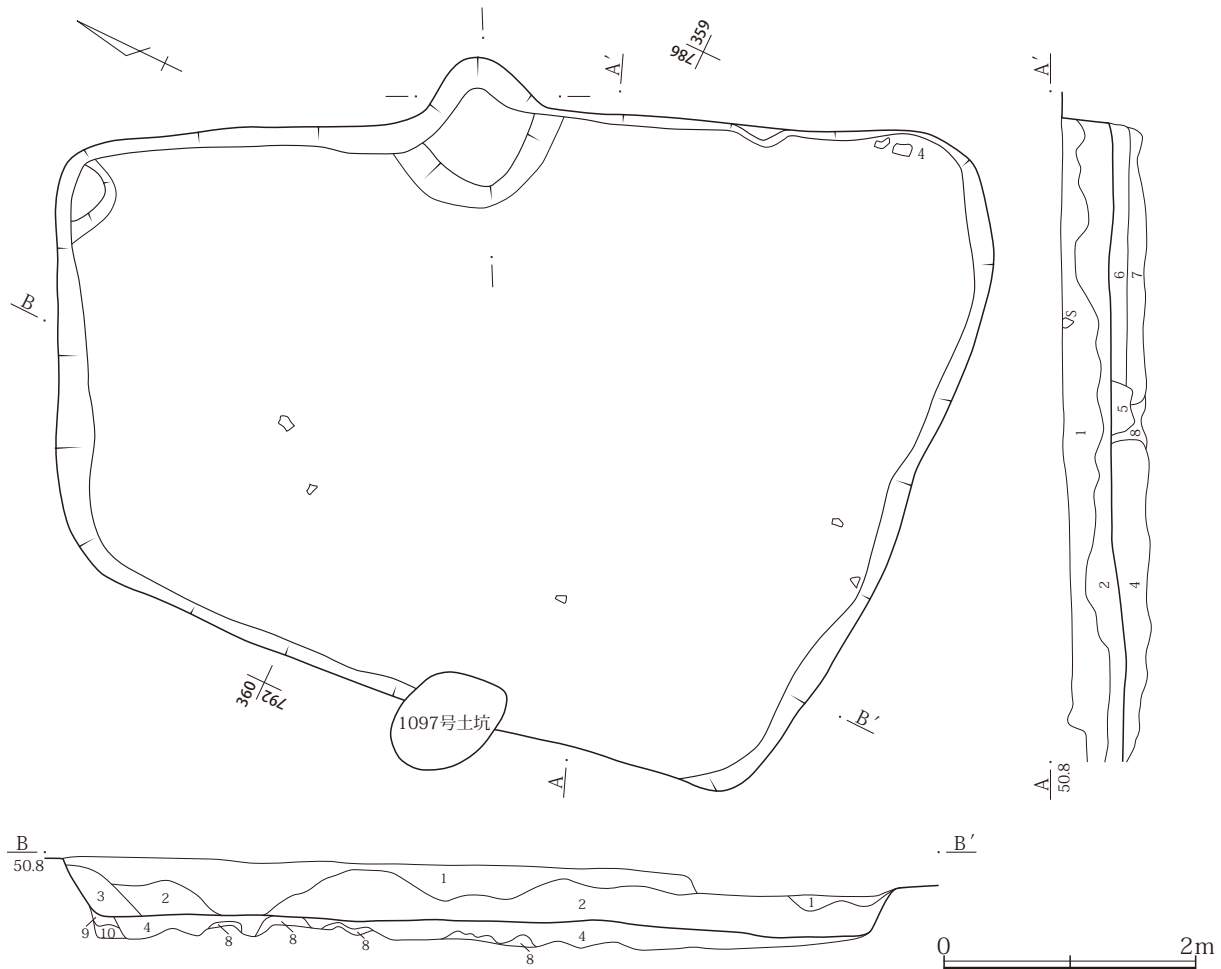
第3章 発見された遺構と遺物



第293図 301号竪穴建物跡・出土遺物

西の両隅が検出されたにすぎず、竪穴建物跡の大部分が破壊されている。南辺3.25m・床面までの深さ0.26m・掘方までの深さ0.4m。埋土：暗褐色土ベース。床面：地山を比較的平坦に削り出し、窪んだ部分にのみローム粒・塊混じりの暗褐色土で埋めて平坦面を形成している。掘方：比較的平坦だが、

南壁際で土坑状の連続した一段深い掘り込みが認められる。竈：未検出。貯蔵穴：未検出。時期：9 C 3の遺物が最も多いが、7 C 代の遺物を出土する293・308号竪穴建物跡に掘り込まれている。9 C 3の遺物は他所からの流れ込みか？。遺物：建物内に散在。



303号竪穴建物跡

- |                                       |                           |
|---------------------------------------|---------------------------|
| 1. 暗褐色土 黒褐色土・焼土粒少量混。<br>白色粒・ローム粒・塊僅混。 | 5. 暗褐色土 ローム粒・塊、焼土粒少量混。    |
| 2. 暗褐色土 ローム塊30%混。                     | 6. 暗褐色土 ローム粒・塊少量混。白色粒僅混。  |
| 3. 暗褐色土 黒褐色砂質土粒を全体に混。ローム塊僅混。          | 7. 暗褐色土 ローム塊多量混。焼土粒少量混。   |
| 4. 暗褐色土 ローム塊多量混。                      | 8. 暗褐色土 ローム粒多量混。          |
|                                       | 9. 暗褐色土 黒褐色土粒混。           |
|                                       | 10. 暗褐色土 黒褐色土多量混。ローム粒少量混。 |

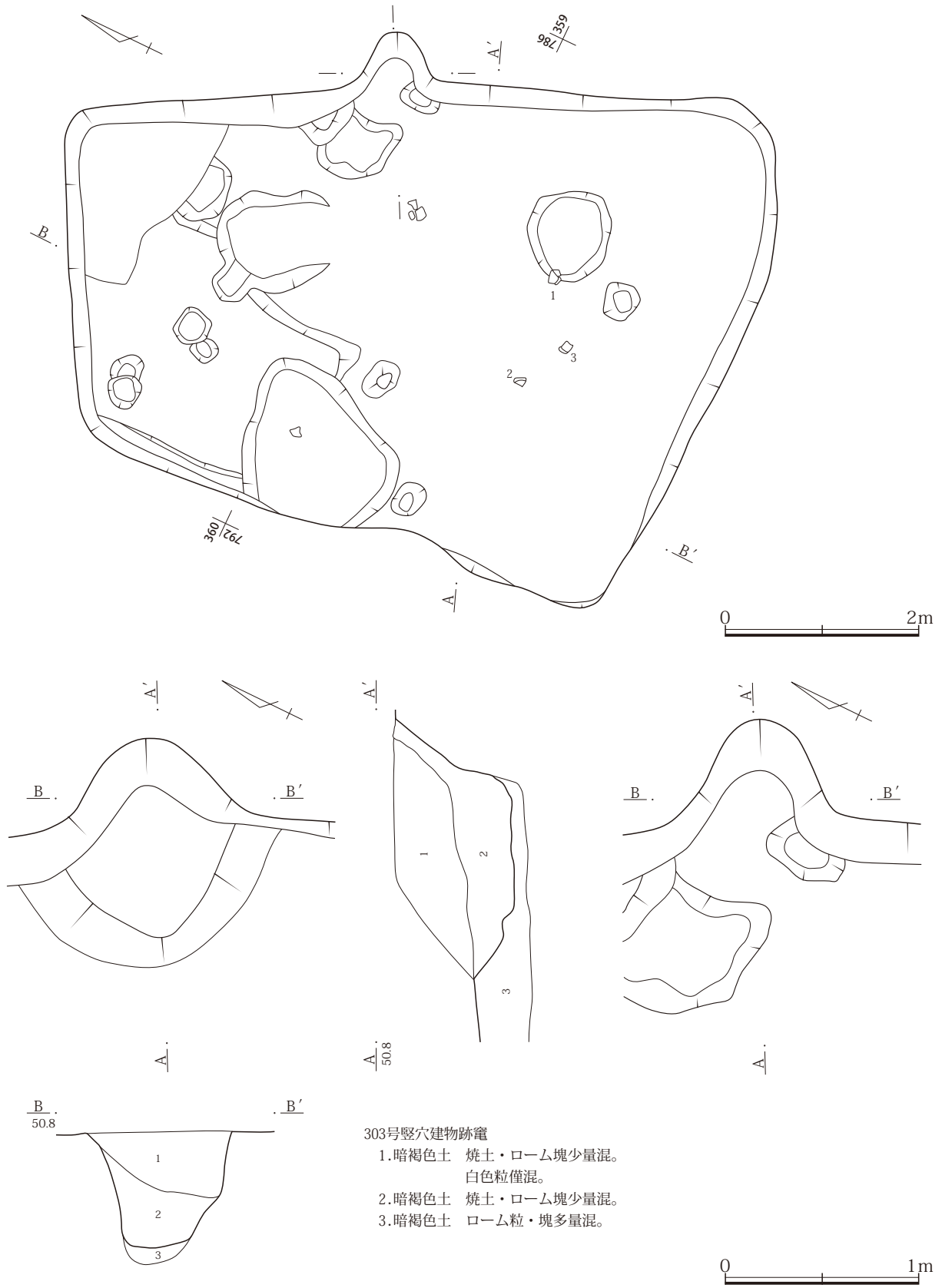
第294図 303号竪穴建物跡

(96) 303号竪穴建物跡

**位置：**調査区中央やや東寄り。X355~360・Y-785~-790Gr. **主軸方位：**N-63°-E **重複：**1097号土坑跡に掘り込まれる。300号竪穴建物跡、1号粘土採掘坑跡を掘り込む。**規模と形状：**北北西-南南東方向に長い不整四角形状を呈する。本遺跡で検出された竪穴建物跡のなかでは極めて特異な形状を呈する。長辺7.4m・短辺5.5m・床面までの深さ0.4m・掘り込みまでの深さ0.59m。**埋土：**暗褐色土ベース。**床面：**地山を大きく掘り込んだ上に、ローム粒・塊を多量に含んだ暗褐色土をやや分厚く

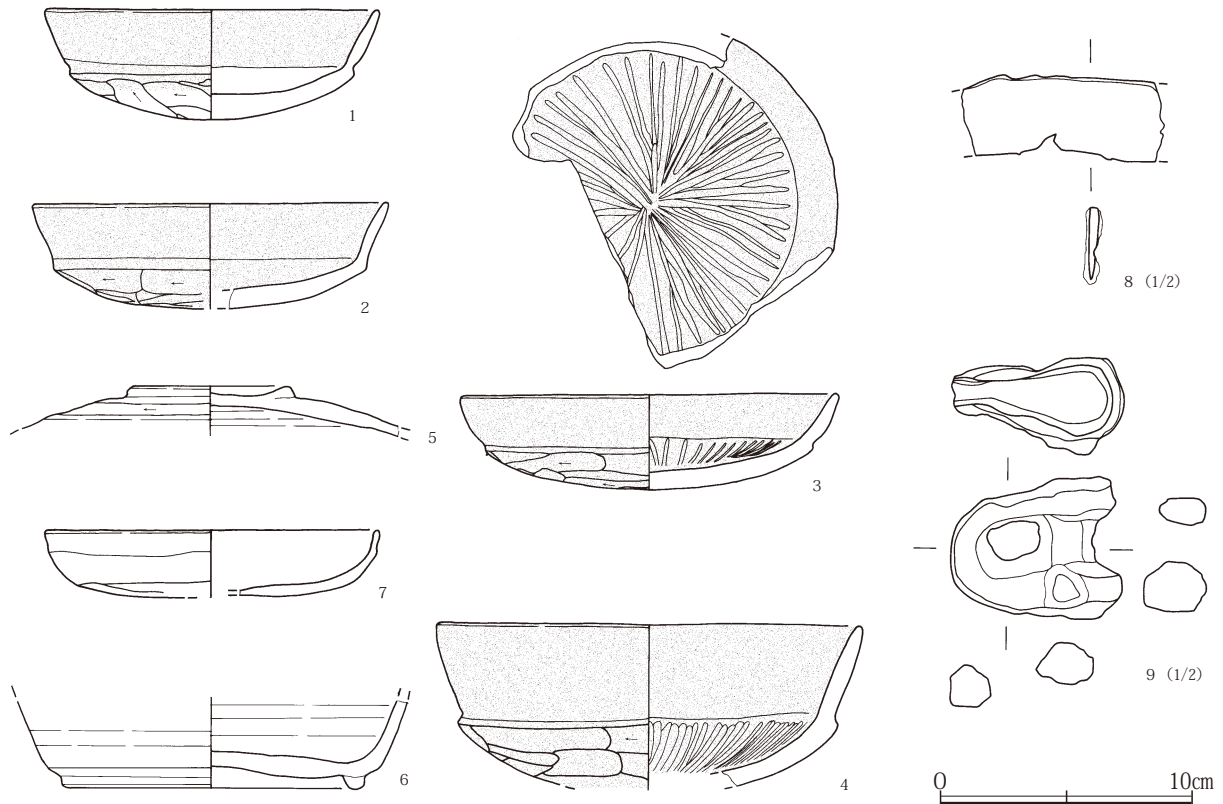
貼って平坦面を形成している。床面の厚さは約0.2m前後。**掘り込み：**床下の土坑状の掘り込みを多数検出。**竈：**東壁のほぼ中央に取り付く。焼土部及び両袖、煙道は地山を削り出して形成される。焼土部は壁より外側に形成されている。両袖は内側に張り出さない。煙道はほとんど検出できなかった。全体的に小規模である。**貯蔵穴：**なし。**時期：**6C後、8C前、9C前が混在。1棟ではなく複数棟を1度に調査してしまったか？。**遺物：**埋土中から出土した留め金具(9)が特筆される。

第3章 発見された遺構と遺物



第295図 303号竖穴建物跡掘方・竈





第296図 303号竪穴建物跡出土遺物

(97) 305号竪穴建物跡

**位置:** 調査区西端寄り。X355-360・Y-830~835Gr. **主軸方位:** 不明。 **重複:** 294号竪穴建物跡に掘り込まれる。 **規模と形状:** 詳細は不明。東・北壁と西壁の一部が検出されたのみ。北辺4.1m・東辺2.6m・床面までの深さ0.42m・掘方までの深さ0.6m。 **埋土:** 暗褐色土ベース。 **床面:** 地山を凹凸激しく大きく掘り込んだ上に、ローム粒・塊を含む暗褐色土を厚く貼って平坦な面を造り出し、床面を形成している。床面の厚さは約0.3m前後。

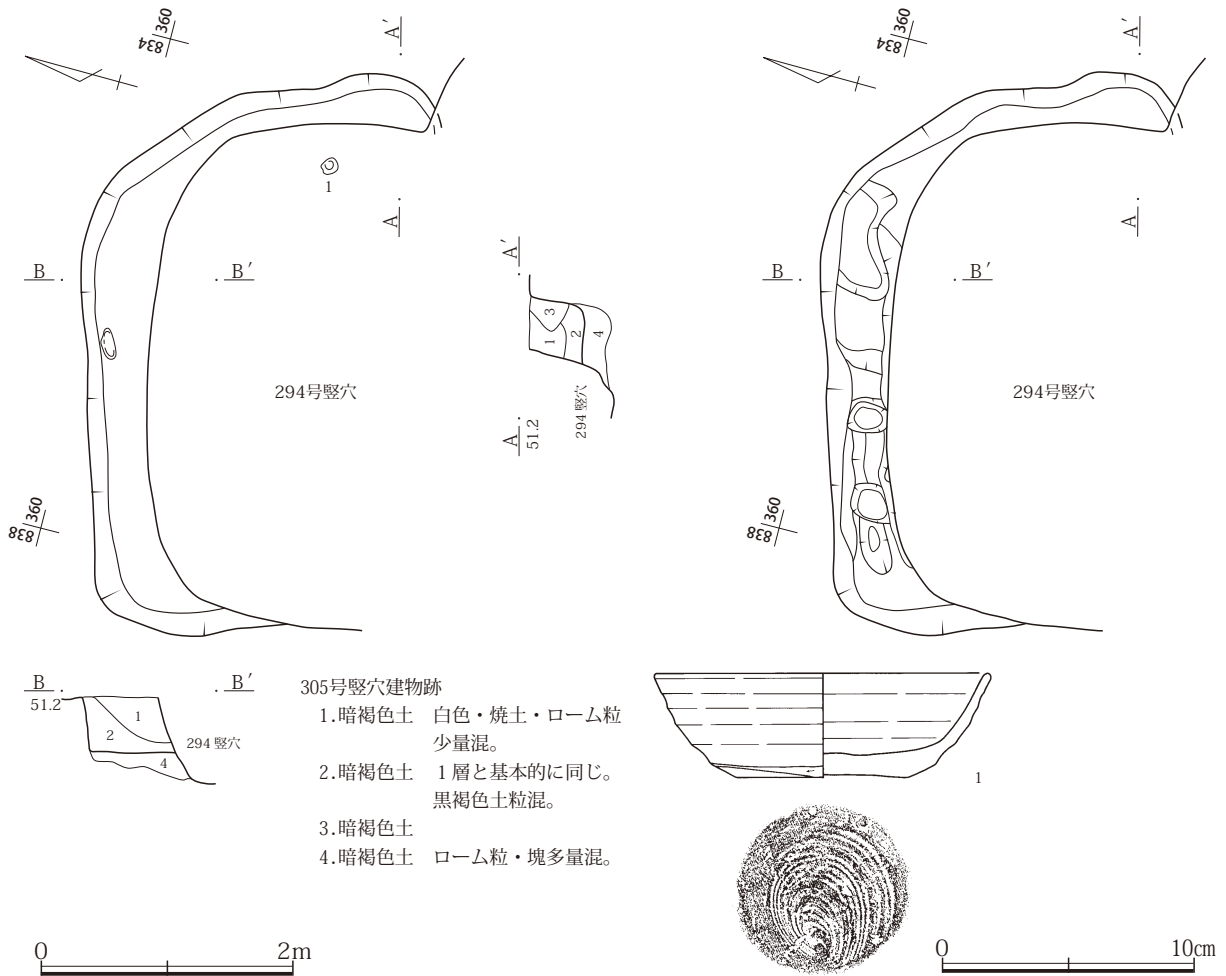
**掘方:** 北壁際ではとくに一段深く掘り込まれており、土坑状の掘り込みが連続して形成され、起伏が激しい様子が看取できるが、その他は破壊されており不明な点が多い。 **竈:** 未検出。 **貯蔵穴:** 未検出。

**時期:** 8C4~9C1。 **遺物:** 埋土中より須恵器杯1。

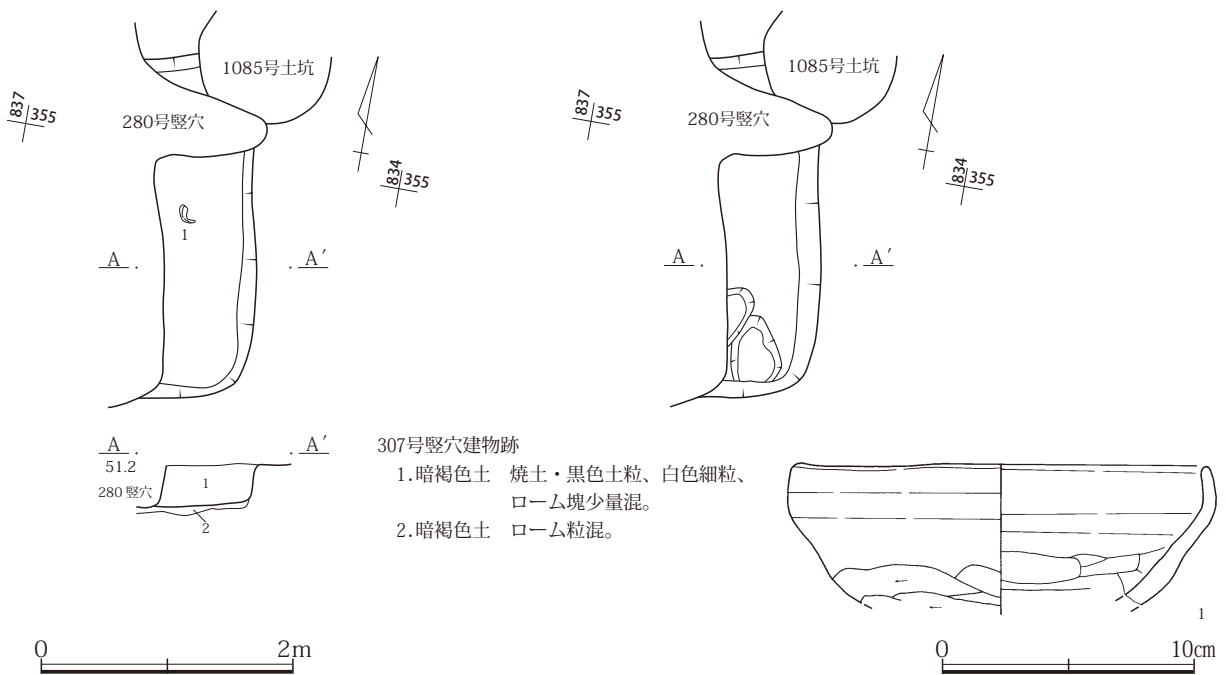
(98) 307号竪穴建物跡

**位置:** 調査区西端寄り。X350-355・Y-835Gr. **主軸方位:** 不明。 **重複:** 280号竪穴建物跡、53号溝跡、1085号土坑跡に掘り込まれる。 **規模と形状:** 東壁と南東隅が検出された以外は大きく破壊されているので詳細は不明である。東辺2.7m・床面までの深さ0.3m・掘方までの深さ0.4m。 **埋土:** 暗褐色土ベース。 **床面:** 地山を比較的凹凸激しく大きく掘り込んだ上にローム粒・塊を含む暗褐色土を貼って平坦な面を造り出し、硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.1m前後。 **掘方:** 凹凸激しいが、検出範囲が狭いため、詳細は不明な点が多い。 **竈:** 未検出。 **貯蔵穴:** 未検出。 **時期:** 7C後~8C。 **遺物:** 埋土中より土師器杯1。

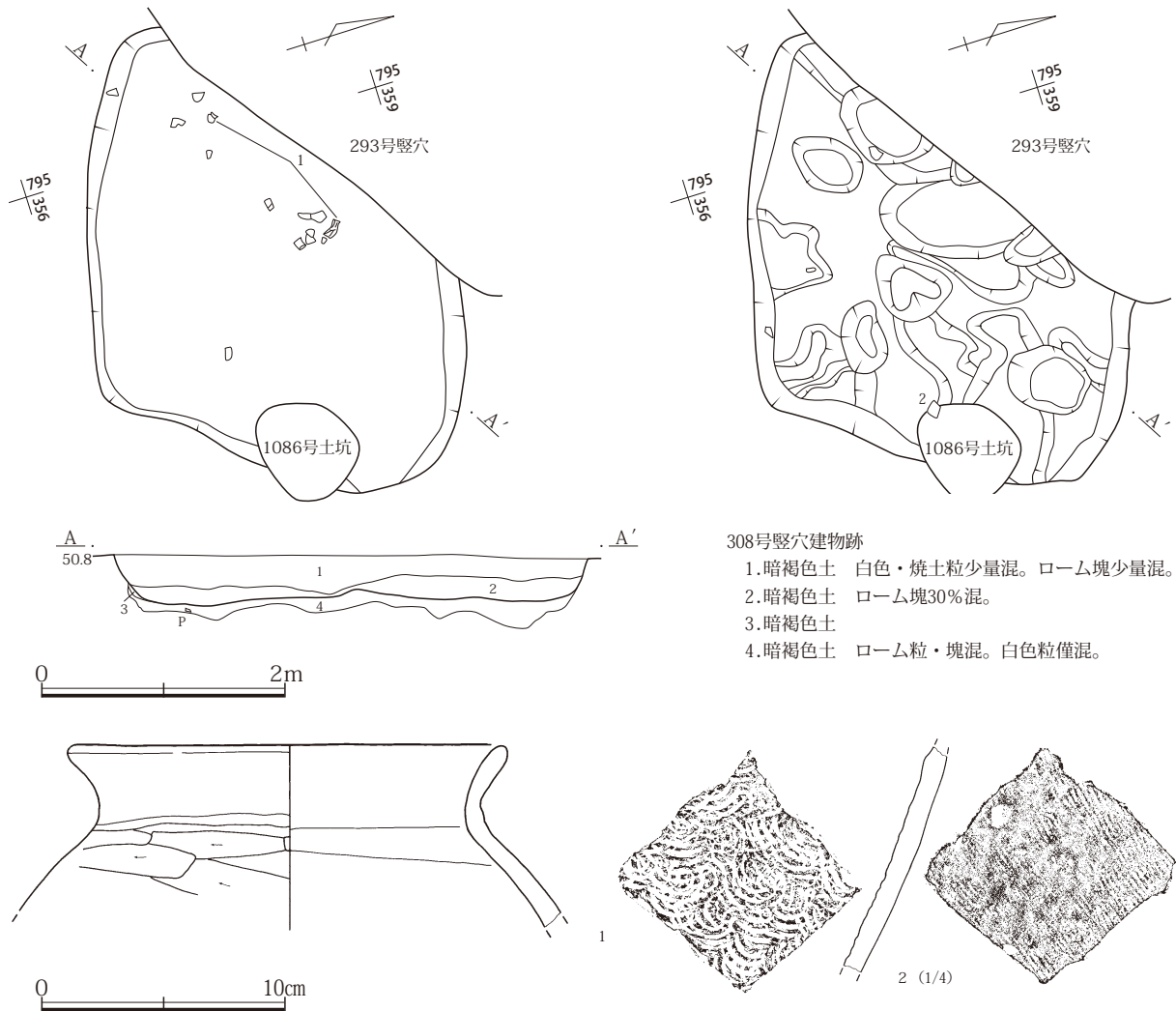
第3章 発見された遺構と遺物



第297図 305号竪穴建物跡・出土遺物



第298図 307号竪穴建物跡・出土遺物



- 308号竪穴建物跡
1. 暗褐色土 白色・焼土粒少量混。ローム塊少量混。
  2. 暗褐色土 ローム塊30%混。
  3. 暗褐色土
  4. 暗褐色土 ローム粒・塊混。白色粒僅混。

第299図 308号竪穴建物跡・出土遺物

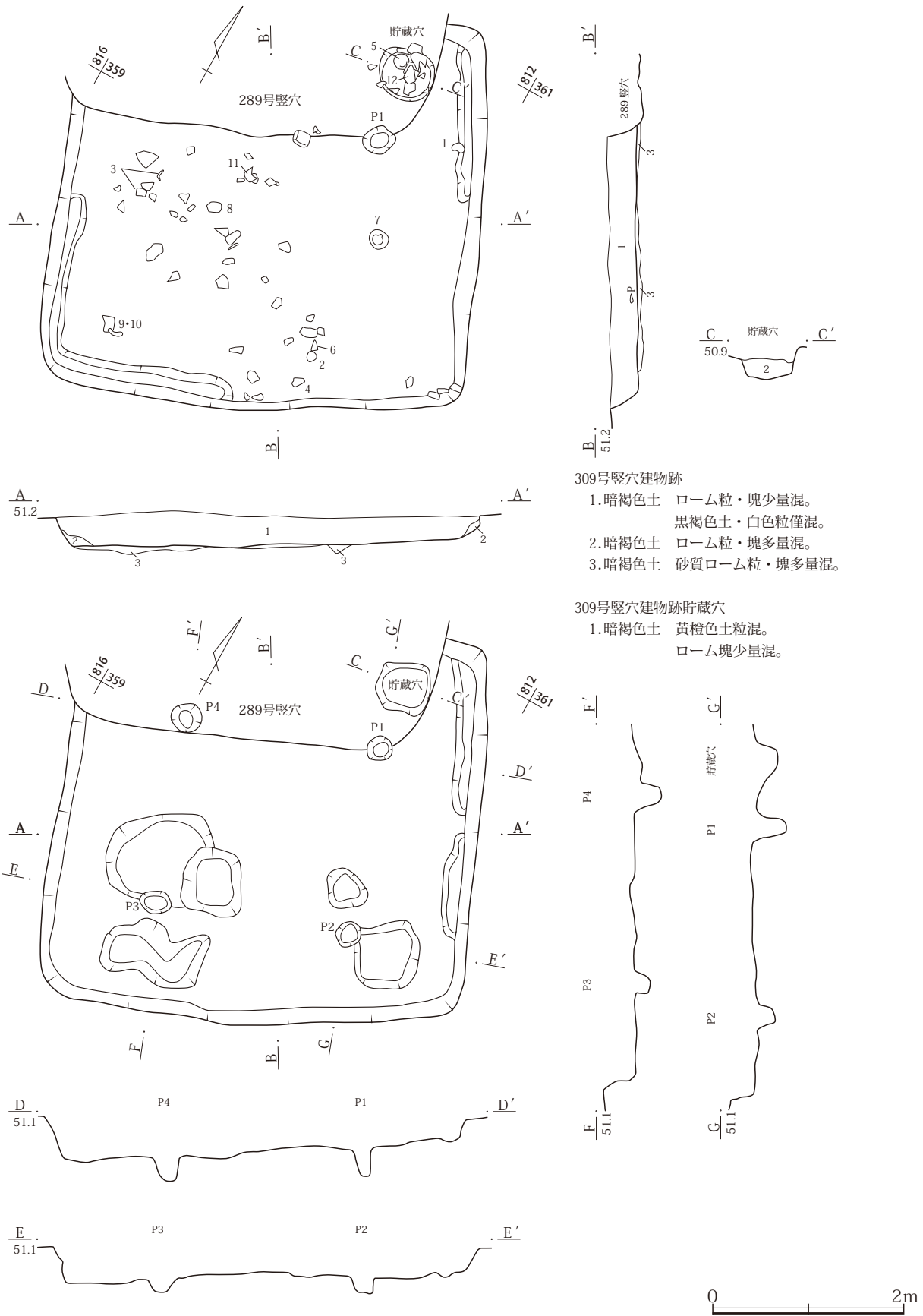
(99) 308号竪穴建物跡

**位置**：調査区中央やや東寄り。X355・Y-790～795Gr. **主軸方位**：不明。 **重複**：293号竪穴建物跡、1086号土坑跡に掘り込まれる。300・301号竪穴建物跡を掘り込む。 **規模と形状**：西北西～東南東方向にやや長い平行四辺形状を呈する。長辺3.2m・短辺3.06m・床面までの深さ0.34m・掘方までの深さ0.57m。 **埋土**：暗褐色土ベース。 **床面**：地山を凹凸激しく大きく掘り込んだ上に、ローム粒・塊混じりの暗褐色土を比較的厚く貼って平坦面を形成し、硬質な床面を造りだしている。 **掘方**：凹凸激しい。土坑状の一段深い掘り込みが無数に形成されている。 **竈**：未検出。 **貯蔵穴**：未検出。 **時期**：7C。 **遺物**：建物内に散在。

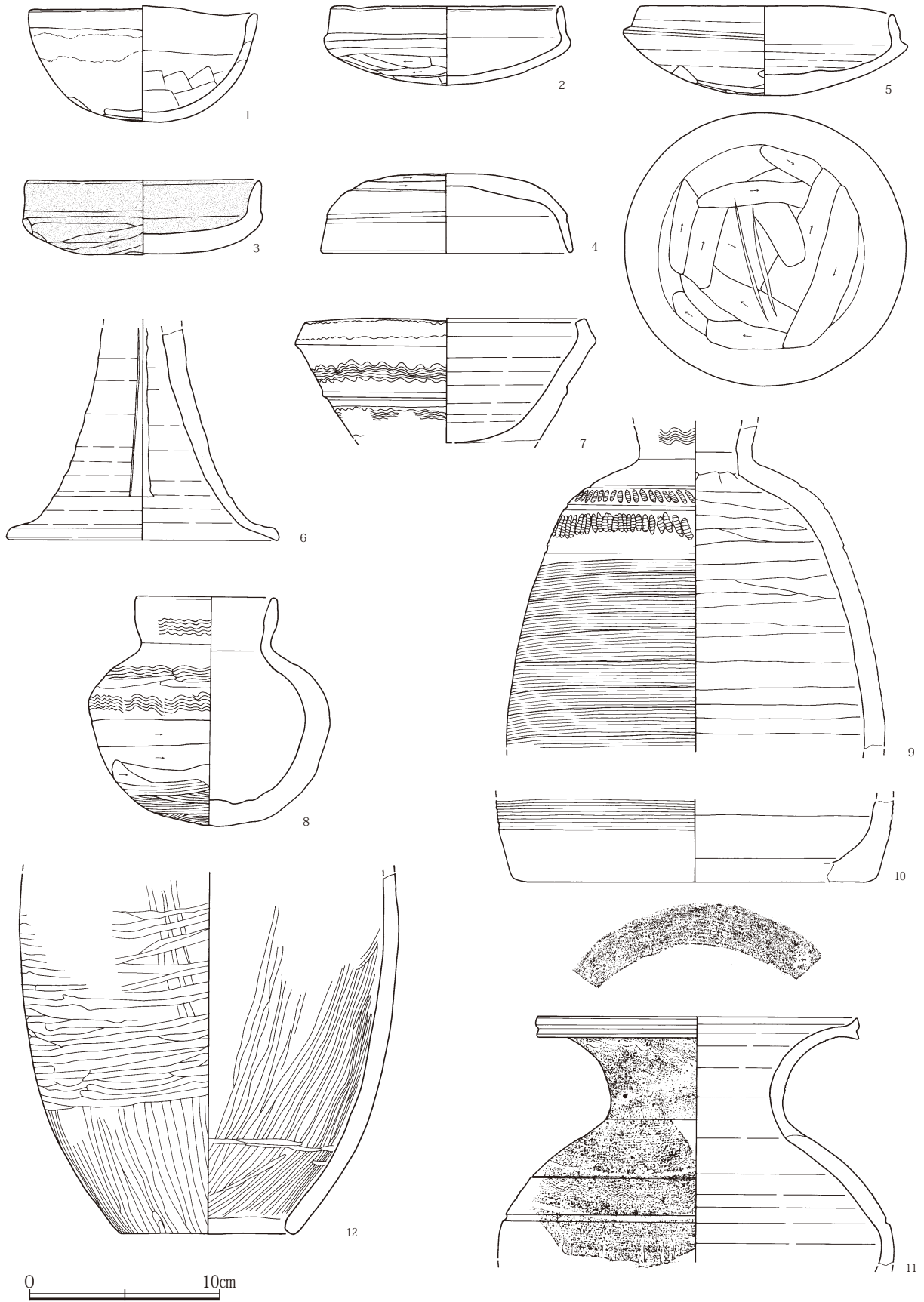
(100) 309号竪穴建物跡

**位置**：調査区中央西寄り。X355～360・Y-810～815Gr. **主軸方位**：不明。 **重複**：289号竪穴建物跡に掘り込まれる。290号竪穴建物跡を掘り込む。 **規模と形状**：東北東～西南西方向に若干長いほぼ方形形状を呈する。長辺4.44m・短辺3.94m・床面までの深さ0.36m・掘方までの深さ0.4m。 **埋土**：暗褐色土ベース。 **床面**：地山を比較的平坦に掘り込んだ上に砂質ローム粒を多量に含む暗褐色土を極薄く貼って、硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.04m前後。 **周溝**：南西壁の南半分から南東壁の南半分にかけてと、北東壁の北半分の壁際で周溝が検出された。最大上幅0.2m・最大下幅0.16m・深さ0.02m。 **掘方**：比較的平坦。南隅と東隅にか

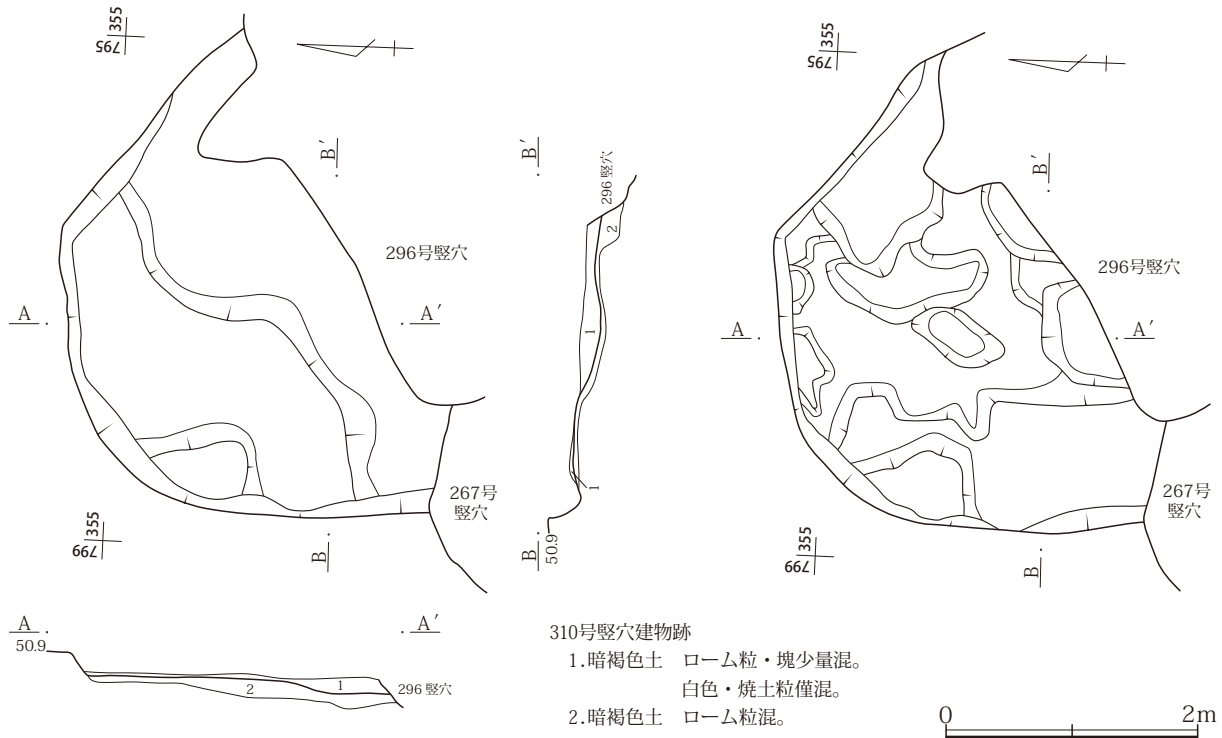
第3章 発見された遺構と遺物



第300図 309号竪穴建物跡



第301図 309号竪穴建物跡出土遺物



第302図 310号竪穴建物跡

けて土坑状の掘り込みがいくつも連続している。  
**竈**：未検出。 **貯蔵穴**：北隅で検出。東西にやや長い隅丸長方形状を呈する。長径0.57m・短径0.55m・深さ0.2m。 **柱穴・pit**：4隅の柱穴はpit1のみ使用面で検出され、他の柱穴はいずれも掘方からの検出である。最終使用面段階では柱穴が機能していなかった可能性が高い。pit1径0.28m・深さ0.35m、pit2径0.27m・深さ0.24m、pit3長径0.33m・短径0.25m・深さ0.2m、pit4径0.3m・深さ0.36m。  
**時期**：6 C前半の年代観を示す遺物が最も多いが、7 C前半の遺物が最も多い290号竪穴建物跡を掘り込んでいる。6 C前半段階の年代観を示す遺物は後世の流れ込みとみるべきか。 **遺物**：建物内に散在。

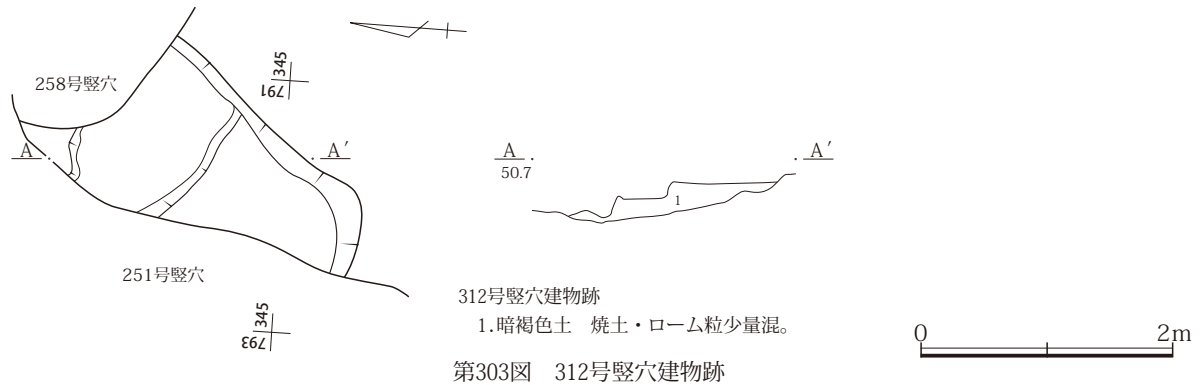
(101) 310号竪穴建物跡

**位置**：調査区の中央。X350~355・Y-795Gr. **主軸方位**：不明。 **重複**：267・296号竪穴建物跡に掘り込まれる。1089・1090・1091・1093号土坑跡を掘り込む。 **規模と形状**：不整形を呈する。残存状況があたかも半円形状を呈し、一見、縄文時代の円

形の竪穴建物跡とみられなくはないが、出土遺物等や土層の堆積状況から縄文時代の遺構とは見なしがたい。長辺4.07m・短辺(2.36) m・深さ計測不能。  
**埋土**：暗褐色土ベース。 **床面**：不明。 **掘方**：地山を凹凸激しく大きく掘り込んでおり、中央などでは土坑状の掘り込みがいくつも連続して形成されており、また、壁際では地山が一段高く段状に削り出されている箇所があり、起伏に富む。 **竈**：未検出。 **貯蔵穴**：未検出。 **時期**：不明。 **遺物**：なし。

(102) 312号竪穴建物跡

**位置**：調査区中央南東寄り。X340~345・Y-790Gr. **主軸方位**：不明。 **重複**：251・258・266号竪穴建物跡に掘り込まれる。1092・1099号土坑跡を掘り込む。 **規模と形状**：南東の隅部が検出されたに過ぎず、全容は全く不明で、掘方からの検出である。深さは0.25m。 **埋土**：暗褐色土ベース。 **床面**：不明。 **掘方**：地山を凹凸激しく大きく段状に掘り込んでいる。 **竈**：未検出。 **貯蔵穴**：未検出。 **時期**：不明。 **遺物**：なし。



第303図 312号竪穴建物跡

(103) 313号竪穴建物跡

**位置**：調査区中央東壁際。X355~365・Y-760~770Gr. **主軸方位**：N-32° -W **重複**：なし。 **規模と形状**：軸を北西-南東方向に向けたほぼ方形の巨大な竪穴建物跡。長辺6.7m・短辺6.65m・床面までの深さ0.37m・掘方までの深さ0.5m。 **埋土**：暗褐色土ベース。 **床面**：地山を比較的平坦に掘り込んだ上にローム粒・塊を多く含む暗褐色土及び黒褐色土を薄く貼って、硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.13m前後。 **周溝**：竈前以外の全周で検出された。最大上幅0.2m・最大下幅0.16m・深さ0.04m。 **掘方**：地山を比較的平坦に削り出している。竪穴建物跡の北隅から中央にかけて床下土坑状の掘り込みがいくつも連続している。 **竈**：北西壁のほぼ中央に取り付く。燃焼部・煙道は地山を削りだして形成され、燃焼部は建物の壁とほぼ同位置に造られている。両袖は土師器長胴甕を芯材にロームを貼って構築され、内側にやや大きく張り出している。煙道はあまり顕著には検出されなかった。

**貯蔵穴**：なし。 **柱穴・pit**：(4隅柱穴) pit1長径0.8m・短径0.67m・深さ0.6m、pit2長径0.6m・短径0.52m・深さ0.35m、pit3長径0.66m・短径0.54m・深さ0.56m、pit4長径0.74m・短径0.7m・深さ0.4m。(床下pit) しっかりした掘方を有するpitが1基検出された(pit5)。造営時あるいは最終使用面以前の段階での補助的な柱穴の可能性もあろう。pit5長径0.54m・短径0.5m・深さ0.48m。 **時期**：7C後。

**遺物**：建物内に散在。多量の遺物が出土した。中でも床直から出土した土師器脚付鉢2(27・28)は

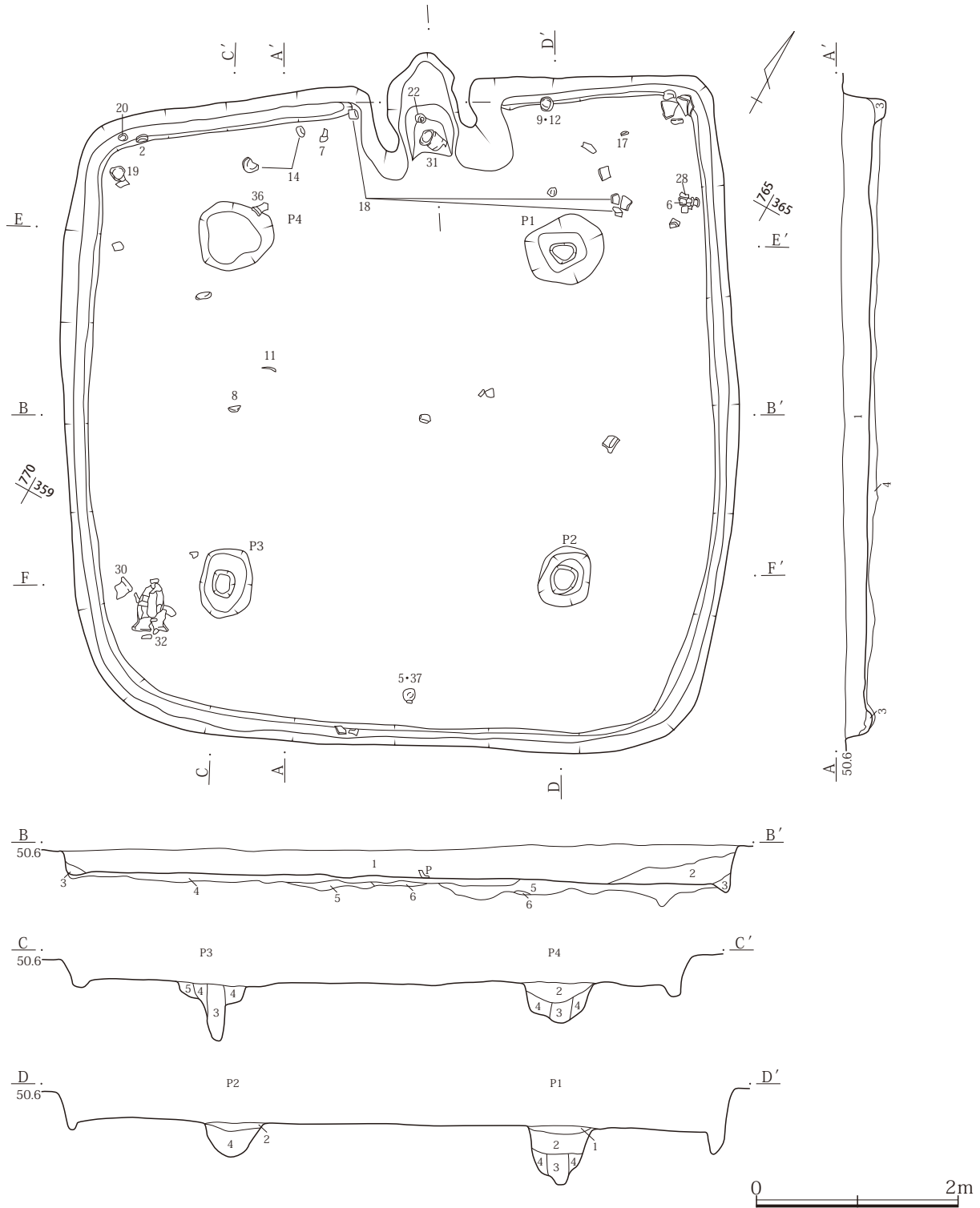
特筆される。

(104) 314号竪穴建物跡

**位置**：調査区東壁際。X370~375・Y-760~765Gr. **主軸方位**：N-30° -W **重複**：1128号土坑跡を掘り込む。 **規模と形状**：西南西-東北東方向に若干長いほぼ方形を呈する。長辺4.8m・短辺4.26m・床面までの深さ0.33m、掘方までの深さ0.48m。 **埋土**：暗褐色土ベース。 **床面**：地山を比較的平坦に掘り込んだ上にローム粒・塊を含む暗褐色土を薄く貼って、硬質な床面形成している。床面の厚さは約0.15m。 **掘方**：比較的平坦だが、東側が一段深く掘り窪められている。 **竈**：北西壁の中央に取り付く。燃焼部・煙道は地山を削りだして形成され、燃焼部は壁より外側に造られている。両袖は土師器長胴甕を倒位にして芯材とし、その上に地山ローム等を貼って構築され、内側に若干張り出している。煙道は外側にあまり長く伸びない。 **貯蔵穴**：竈の北東側で検出されたpit5。東西に長い楕円形状を呈しており、長径1.24m・短径0.6・深さ0.2m。 **柱穴・pit**：(4隅柱穴) pit1長径0.51m・短径0.42m・深さ0.5m、pit2長径0.51m・短径0.4m・深さ0.35m、pit3長径0.38m・短径0.35m・深さ0.5m、pit4長径0.35m・短径0.35m・深さ0.36m。 **時期**：6C後。 **遺物**：建物内に散在。竈炊き口から多く出土している。

(105) 315・332号竪穴建物跡

**位置**：調査区北東端。X415・Y-755~760Gr. **主軸方位**：N-87° -E(315号竪穴建物跡)・N-89°



313号竪穴建物跡

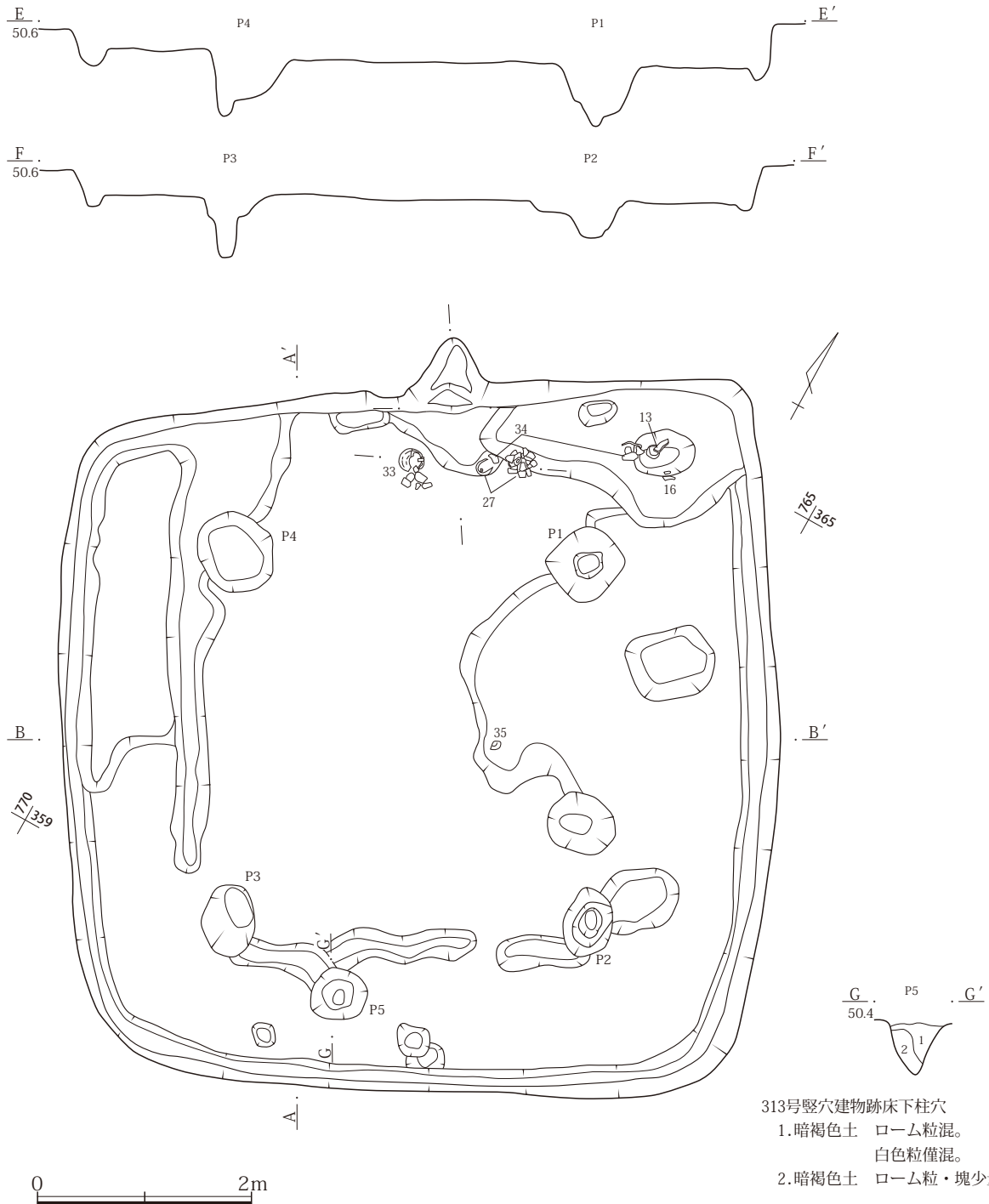
1. 暗褐色土 焼土粒・白色細粒少量混。
2. 暗褐色土 黒褐色土粒全体に混。白色粒少量混。
3. 暗褐色土 焼土粒・ローム塊少量混。白色細粒僅混。
4. 暗褐色土 ローム粒・塊多混。円礫やや多混。
5. 黒褐色土 ローム粒・塊やや多混。
6. 鈍い黄褐色土 暗褐色土・ローム粒・塊混土。

313号竪穴建物跡柱穴

1. 暗褐色土 焼土粒・ローム塊少量混。白色細粒僅混。
2. 暗褐色土 ローム粒・塊多量混。
3. 暗褐色土 ローム塊多量混。白色粒僅混。
4. 暗褐色土 ローム塊多量混。黒褐色土粒僅混。
5. 暗褐色土 ローム粒・塊少量混。焼土細粒僅混。

第304図 313号竪穴建物跡



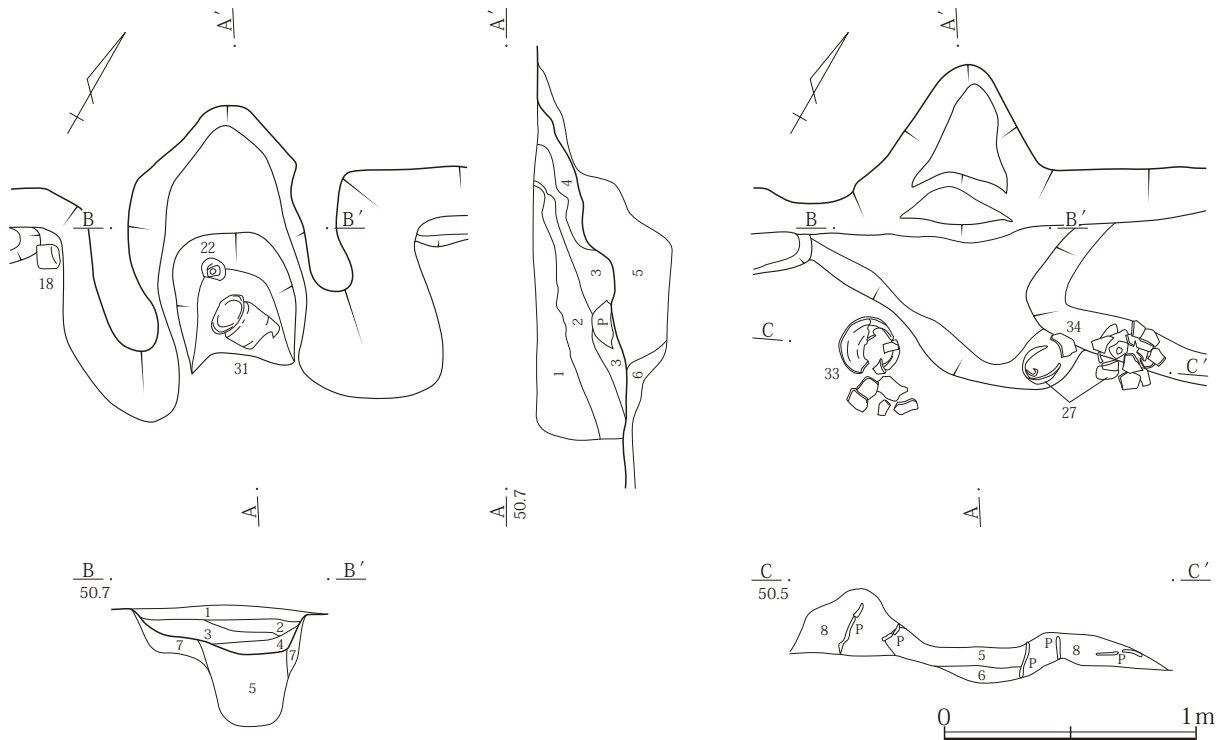


第305図 313号竖穴建物跡掘方

-E(332号竖穴建物跡) 重複：316号竖穴建物跡に掘り込まれる。規模と形状：東西に長い長方形形状を呈する。2～4区や南側に隣接する鹿島浦遺跡で多く検出された、東壁に竈が取り付け、東西方向に細長い、所謂工房型と称される特異な形態の一連の建物跡に形状がよく類似している。315号竖穴建物跡

を約0.6m程西側にずらせた位置に332号竖穴建物跡があり、315号竖穴建物跡をほぼ同位置に建て直したものが332号竖穴建物跡と考えられる。315号竖穴建物跡は竈煙道部の先端と両袖のごく一部、竖穴建物の南東の隅と東壁の一部がわずかに検出できたに過ぎない。一方、332号竖穴建物跡は長辺4.64m・

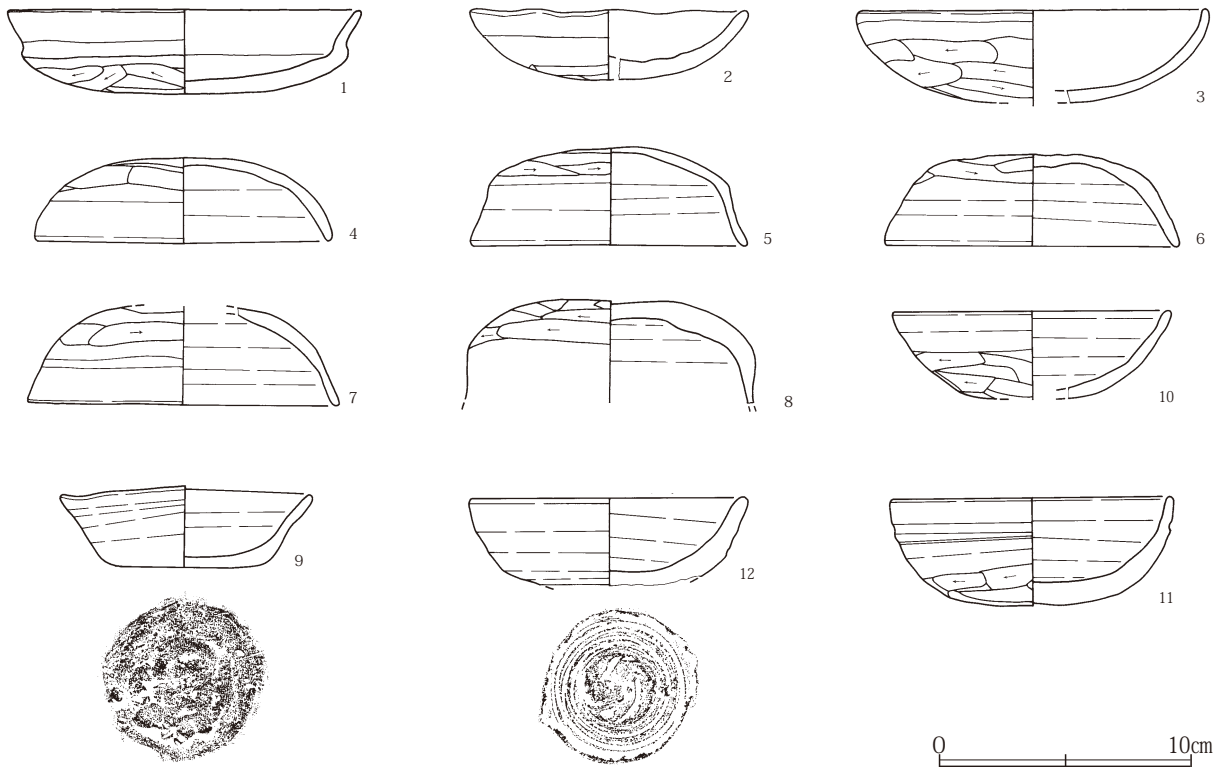
第3章 発見された遺構と遺物



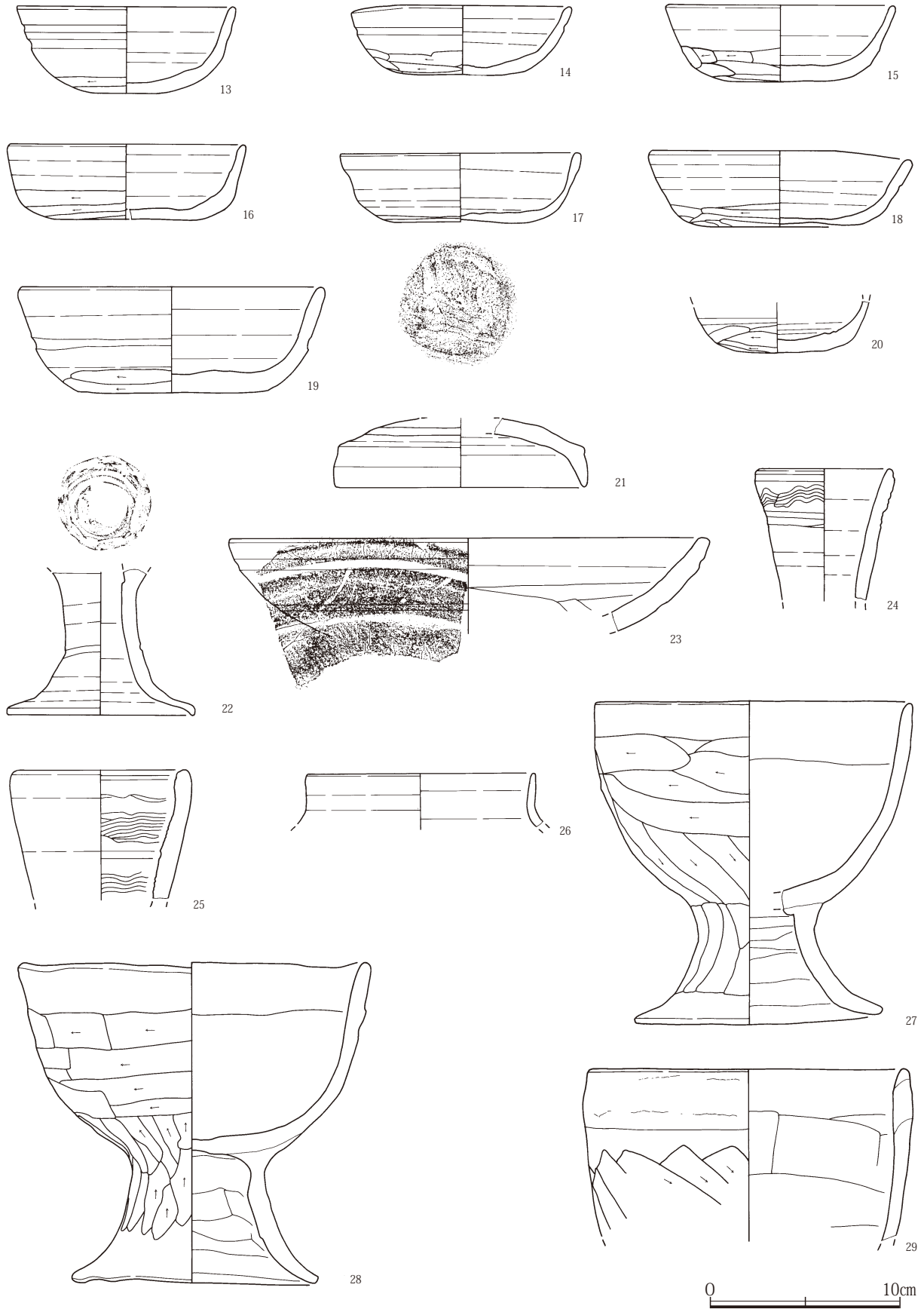
313号竖穴建物跡竈

- 1. 暗褐色土 ローム粒・焼土・白色細粒僅混。
- 2. 黄褐色土 焼土・暗褐色土粒僅混。天井部崩落土。
- 3. 黄褐色土 焼土・暗褐色土粒を2層よりも多混。天井部崩落土。

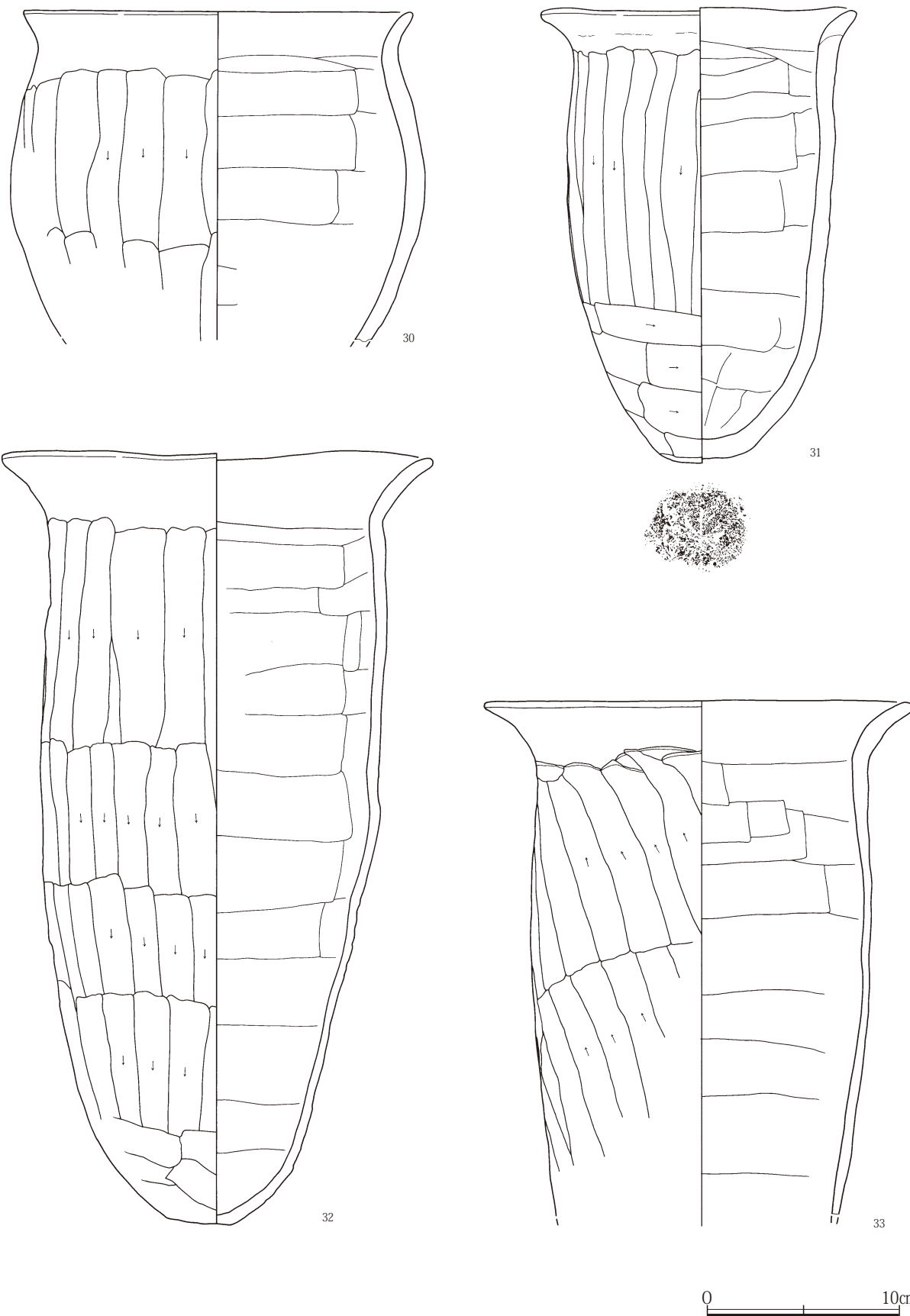
- 4. 赤褐色土 焼土。ローム粒僅混。
- 5. 暗褐色土 焼土塊・灰大量混。
- 6. 暗褐色土 ローム粒・塊、焼土粒混。
- 7. 暗褐色土 焼土粒多混。
- 8. 暗褐色土 ローム塊多混。焼土粒少量混。竈袖構築土。



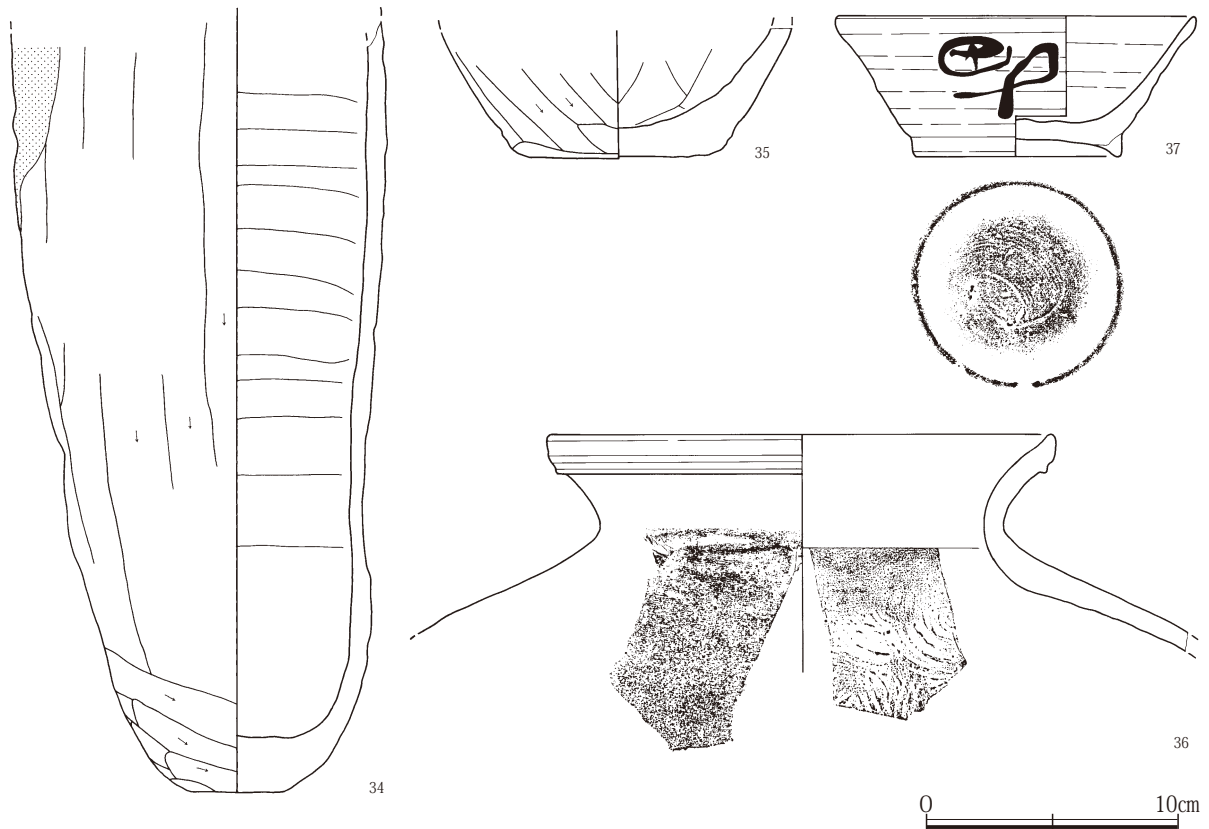
第306図 313号竖穴建物跡竈・出土遺物（1）



第307図 313号竪穴建物跡出土遺物（2）



第308図 313号竪穴建物跡出土遺物（3）



第309図 313号竪穴建物跡出土遺物（4）

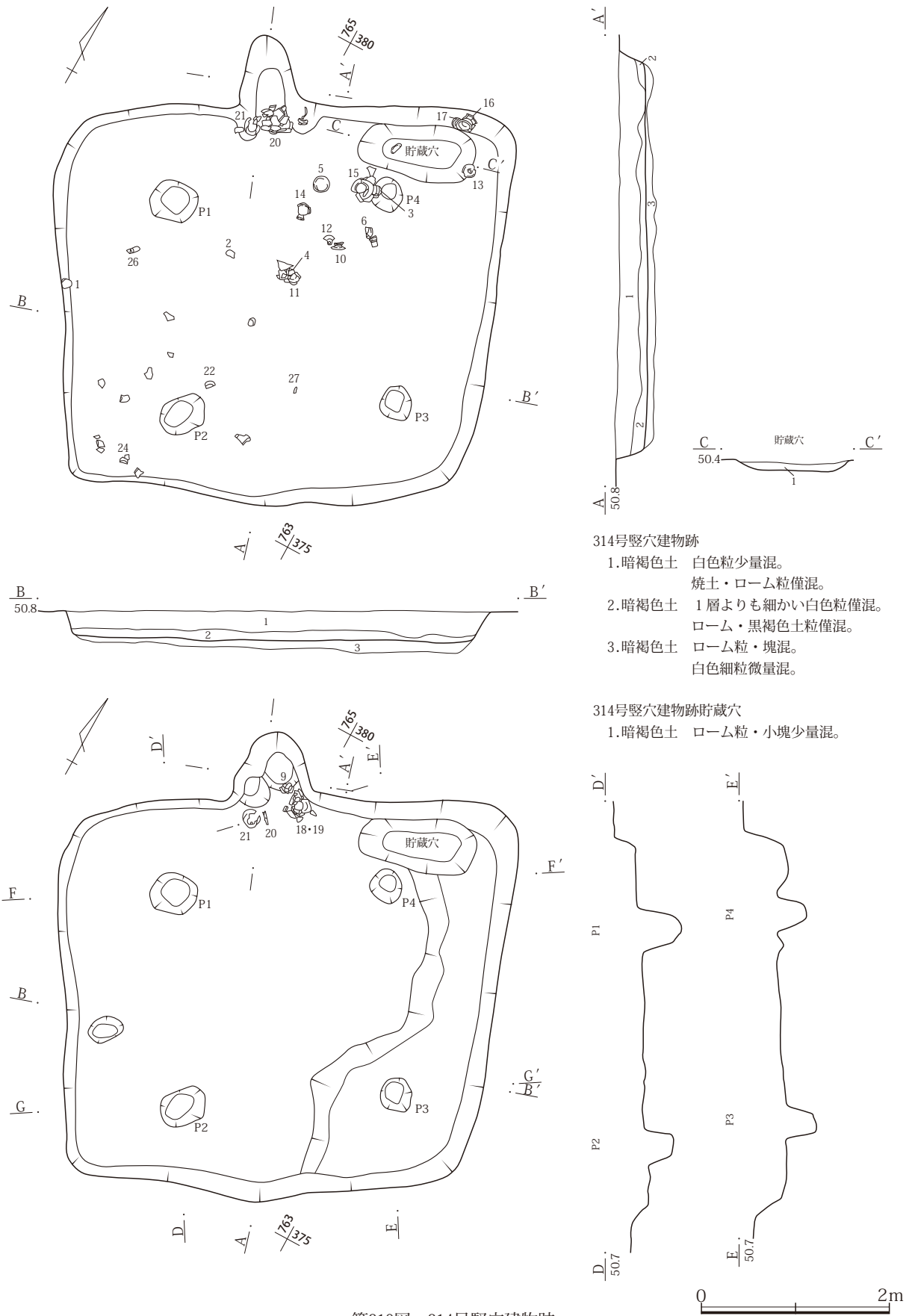
短辺3.47m・床面までの深さ0.47m・掘方までの深さ0.56mである。**埋土**：両竪穴建物跡ともに暗褐色土ベース。**床面**：332号竪穴建物跡は、地山を比較的平坦に掘り込んだ上にローム粒・塊をやや多く含む暗褐色土を薄く貼って、硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.09m。**掘方**：332号竪穴建物跡では、比較的平坦だが、北壁際にとくに一段深く掘り込まれた東西に長い楕円形の土坑状の掘り込みや、南・西壁際でも土坑状の掘り込みが確認できた。**竈**：両竪穴建物跡とも東壁の中央に取り付く。両建物の竈ともに、燃烧部・煙道は地山を削りだして形成され、燃烧部は壁より外側に造られている。両袖は、315号竪穴建物跡では、地山ローム等を貼って構築され、内側に大きく張り出している。332号竪穴建物跡では両袖は地山を削り出して形成され、内側に張り出さない。煙道は、315号竪穴建物跡では、外側に長く張り出している。332号竪穴建物跡では、315号竪穴建物跡の煙道の掘方を一部

で再利用しているが、外側にあまり長くは延びておらず、315号竪穴建物跡の煙道の東端のかなり手前で止まっている。**貯蔵穴**：332号竪穴建物跡では、建物の南東隅で検出された。東西に長い楕円形状を呈しており、長径0.87m・短径0.57m・深さ0.28m。**時期**：両竪穴建物跡ともに9C2。**遺物**：竈前と建物の中央北寄りから比較的まとまって出土している。遺物量多い。

#### (106) 316号竪穴建物跡

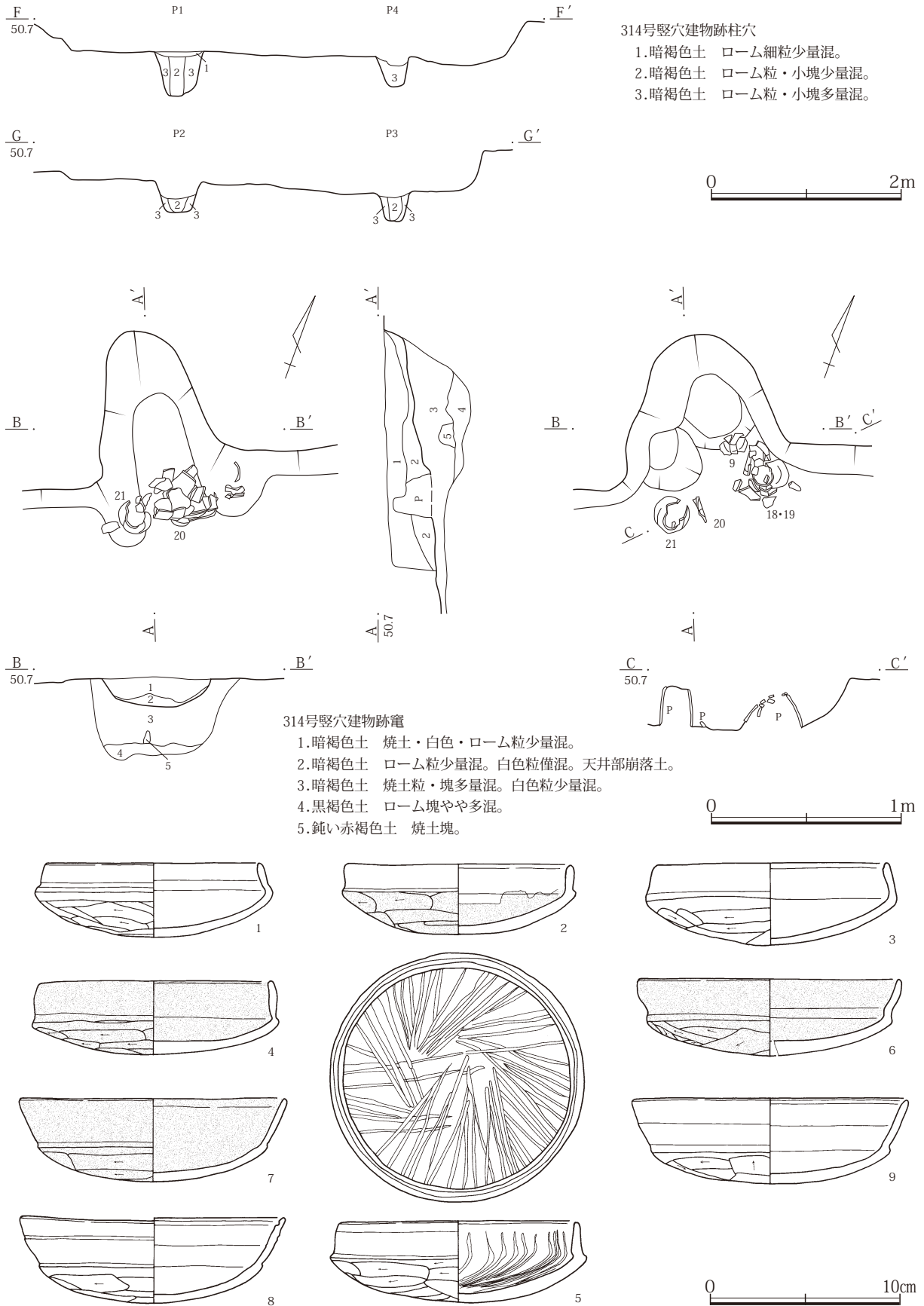
**位置**：調査区北東端。X415~420・Y755~760Gr.

**主軸方位**：N-76° -E **重複**：332号竪穴建物跡を掘り込む。**規模と形状**：東西に長い長方形を呈する。2~4区や南側に隣接する鹿島浦遺跡で多く検出された、東壁に竈が取り付け、東西方向に細長い、所謂工房型と称される特異な形態の一連の竪穴建物跡に形状がよく類似している。長辺3.52m・短辺2.8m・床面までの深さ0.4m・掘方までの深さ



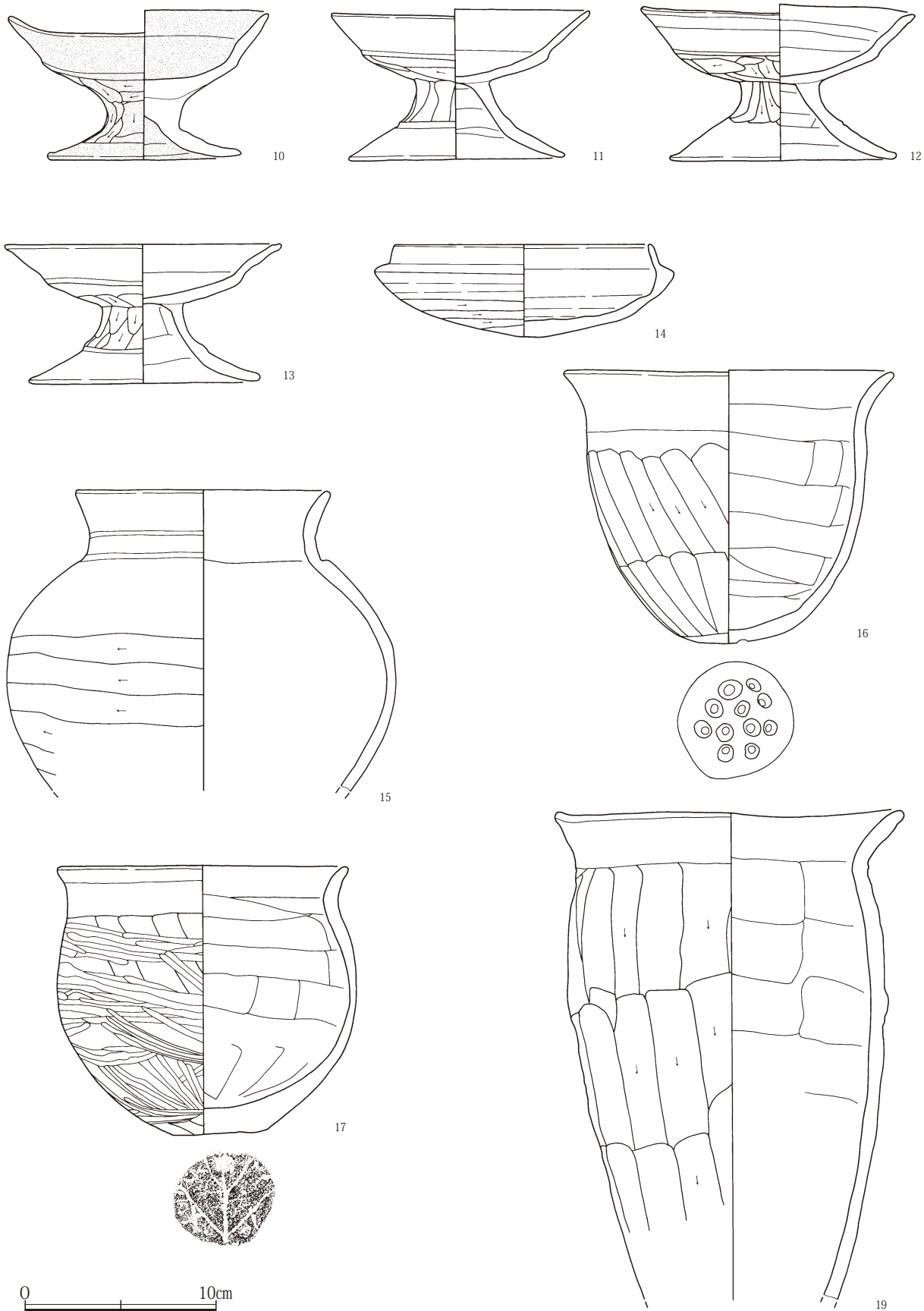
第310図 314号竖穴建物跡

第2節 古墳時代後期～平安時代の遺構と遺物



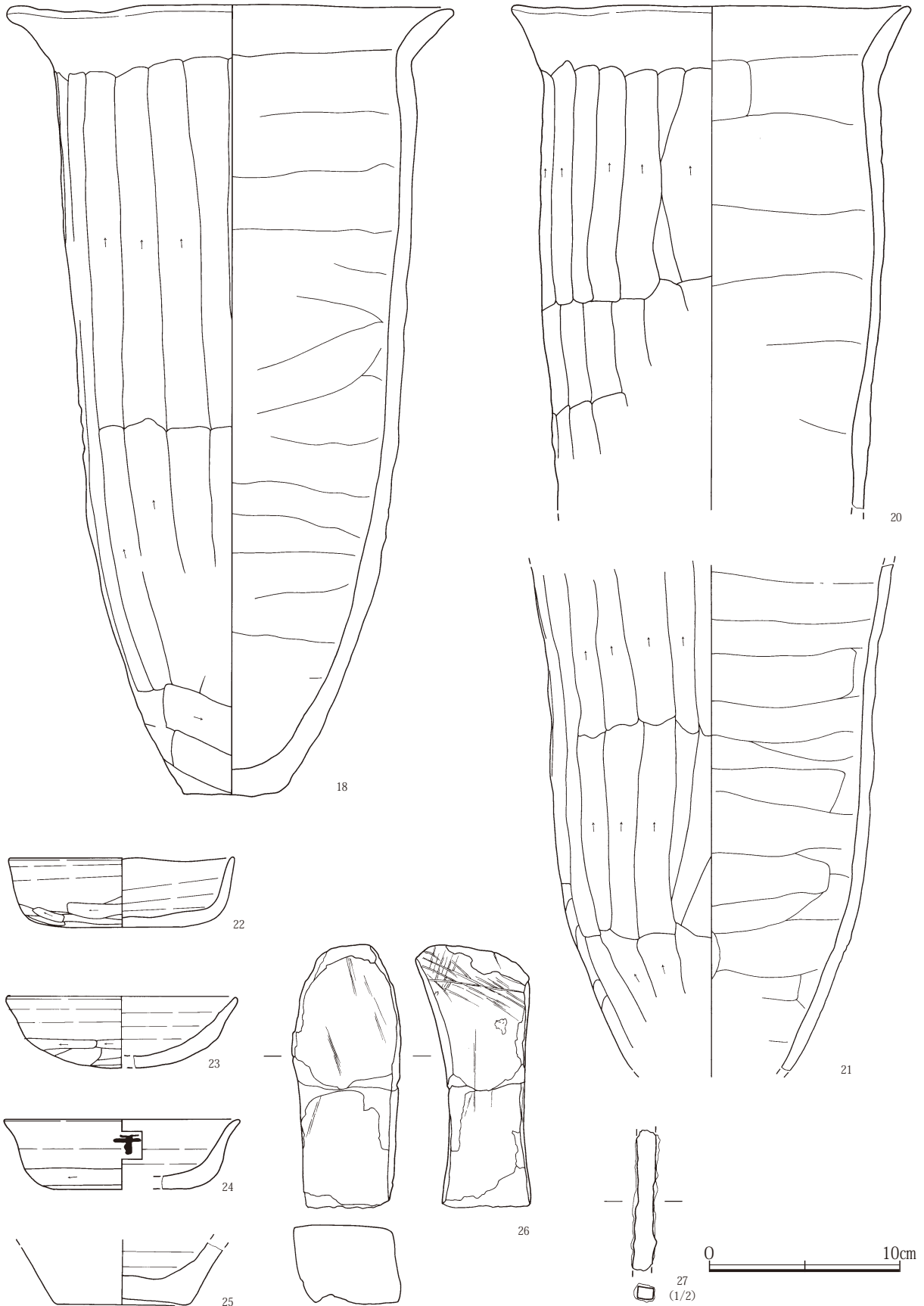
第311図 314号竪穴建物跡竈・出土遺物(1)

第3章 発見された遺構と遺物



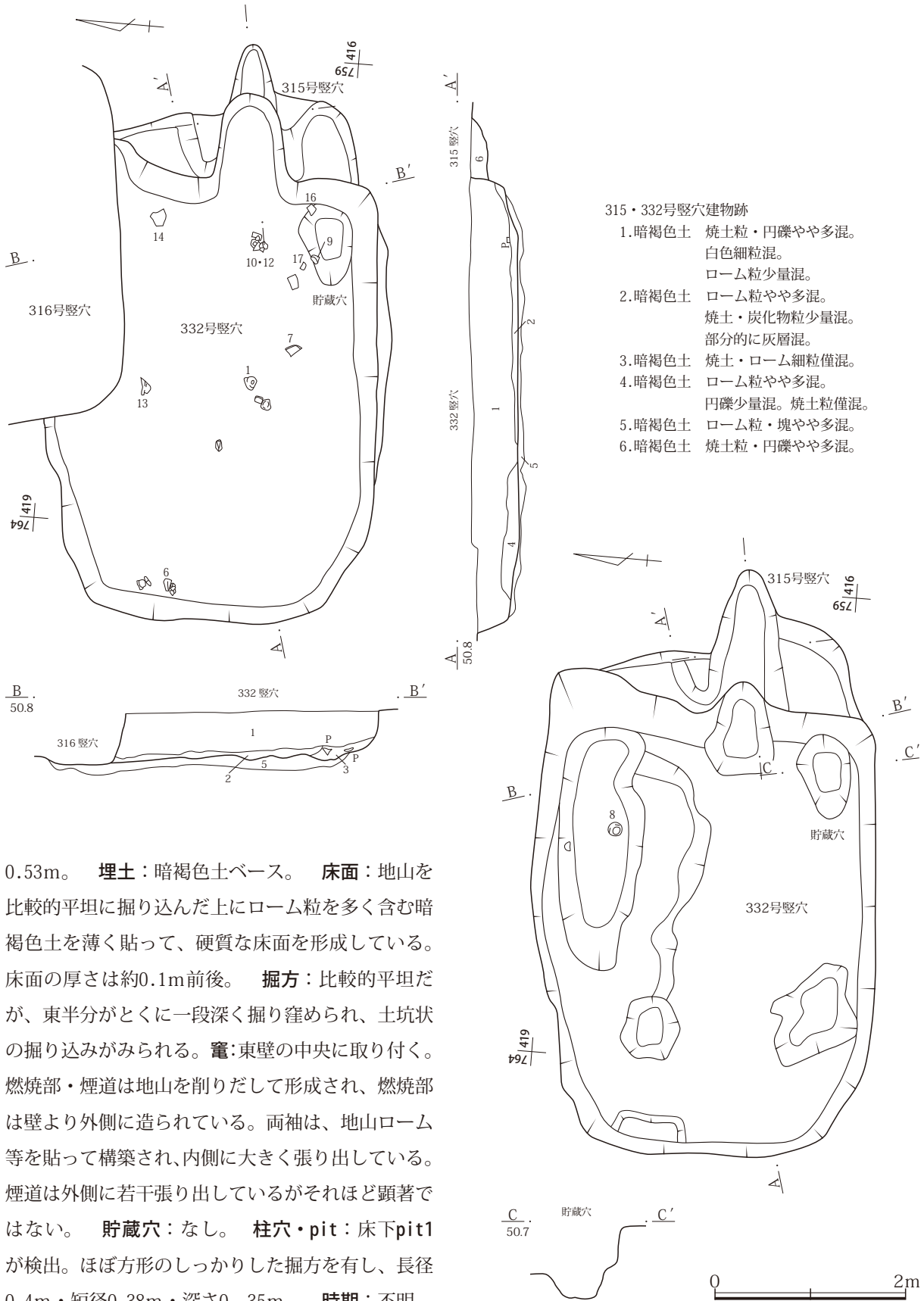
第312図 314号竪穴建物跡出土遺物（2）





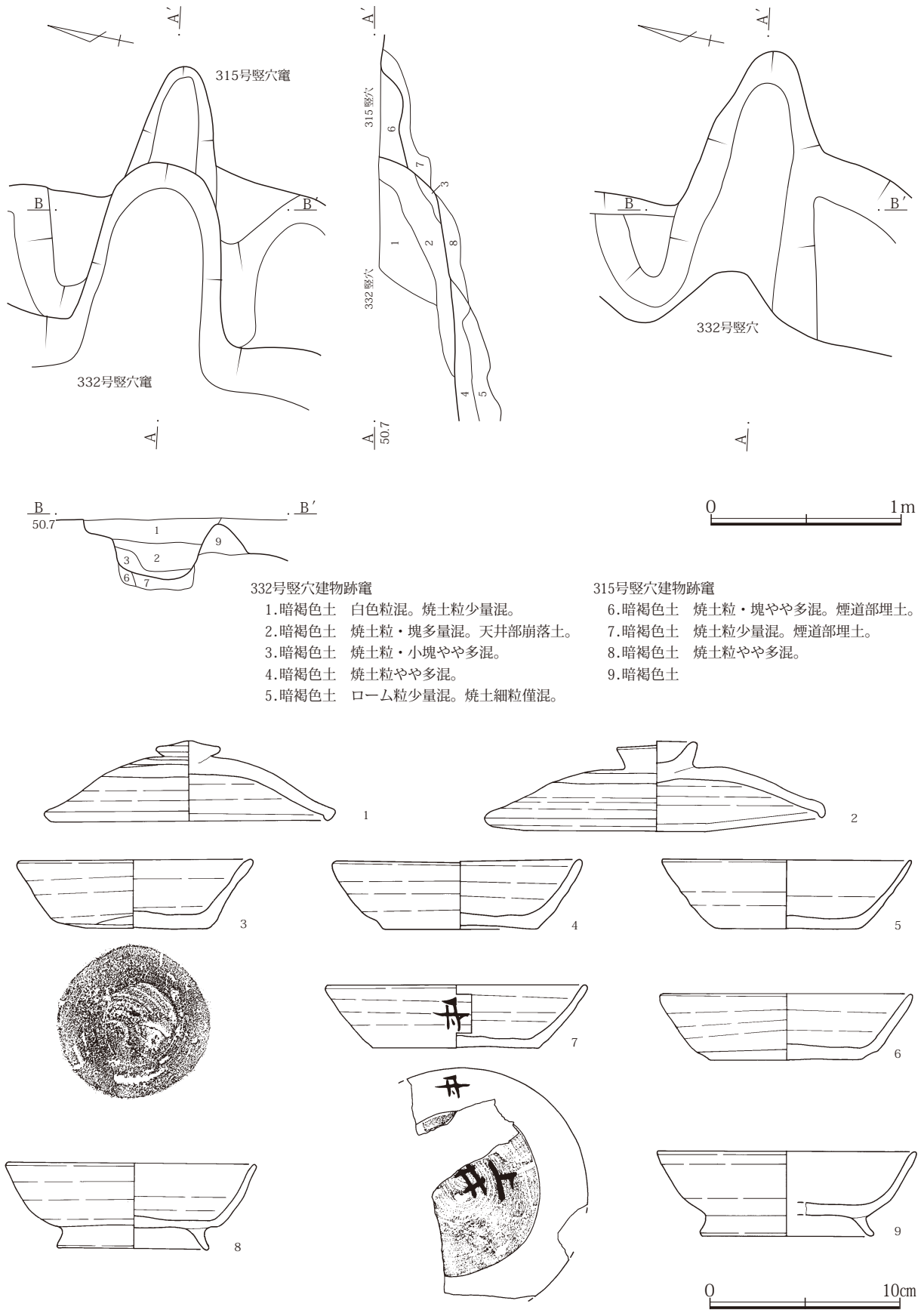
第313図 314号竪穴建物跡出土遺物（3）

第3章 発見された遺構と遺物



0.53m。 埋土：暗褐色土ベース。 床面：地山を比較的平坦に掘り込んだ上にローム粒を多く含む暗褐色土を薄く貼って、硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.1m前後。 掘方：比較的平坦だが、東半分がとくに一段深く掘り窪められ、土坑状の掘り込みがみられる。竈：東壁の中央に取り付く。 焼土部・煙道は地山を削りだして形成され、焼土部は壁より外側に造られている。両袖は、地山ローム等を貼って構築され、内側に大きく張り出している。煙道は外側に若干張り出しているがそれほど顕著ではない。 貯蔵穴：なし。 柱穴・pit：床下pit1が検出。ほぼ方形のしっかりした掘方を有し、長径0.4m・短径0.38m・深さ0.35m。 時期：不明。 遺物：掲載すべき遺物はなし。

第314図 315・332号竪穴建物跡



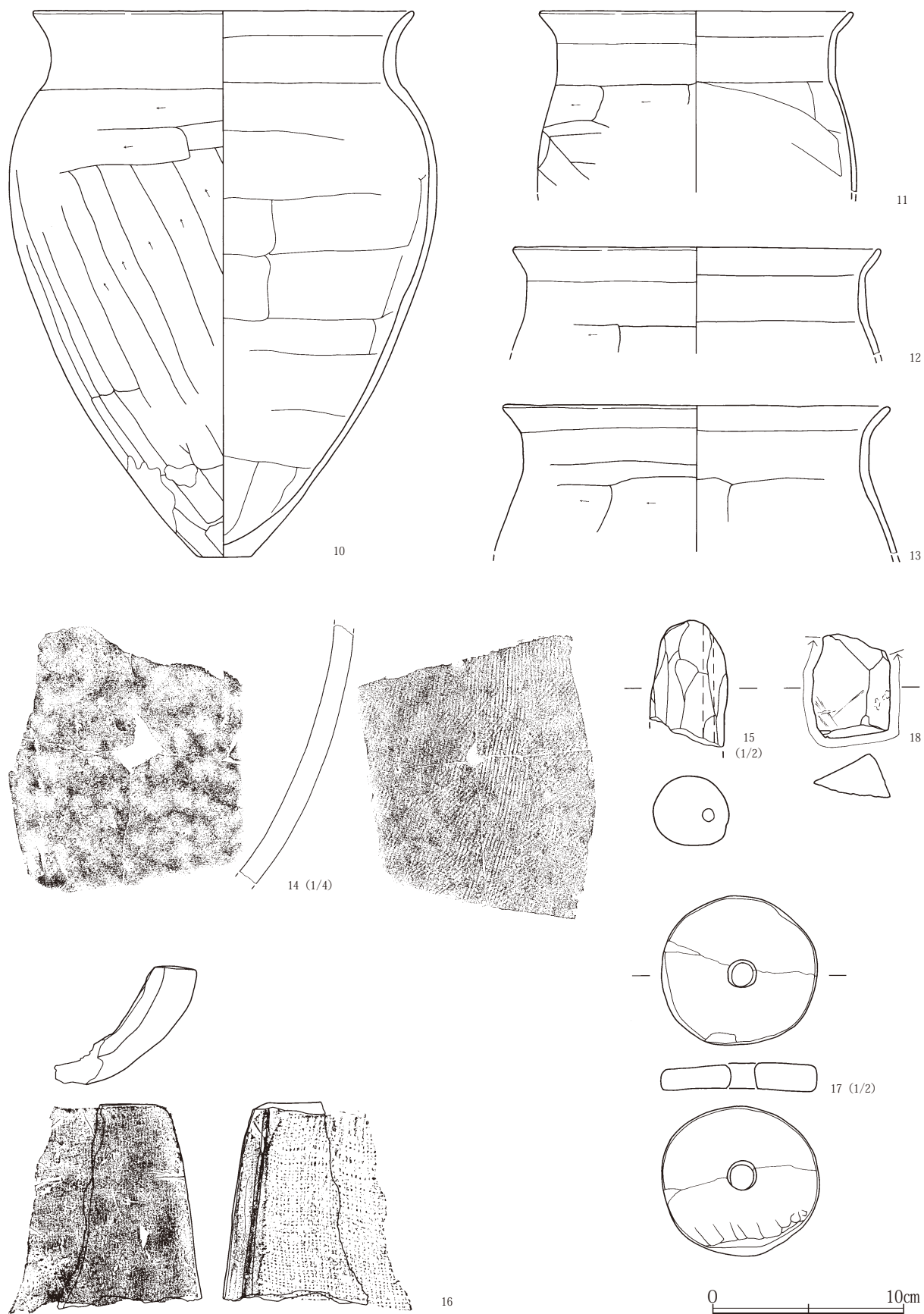
332号竪穴建物跡竈

1. 暗褐色土 白色粒混。焼土粒少量混。
2. 暗褐色土 焼土粒・塊多量混。天井部崩落土。
3. 暗褐色土 焼土粒・小塊やや多混。
4. 暗褐色土 焼土粒やや多混。
5. 暗褐色土 ローム粒少量混。焼土細粒僅混。

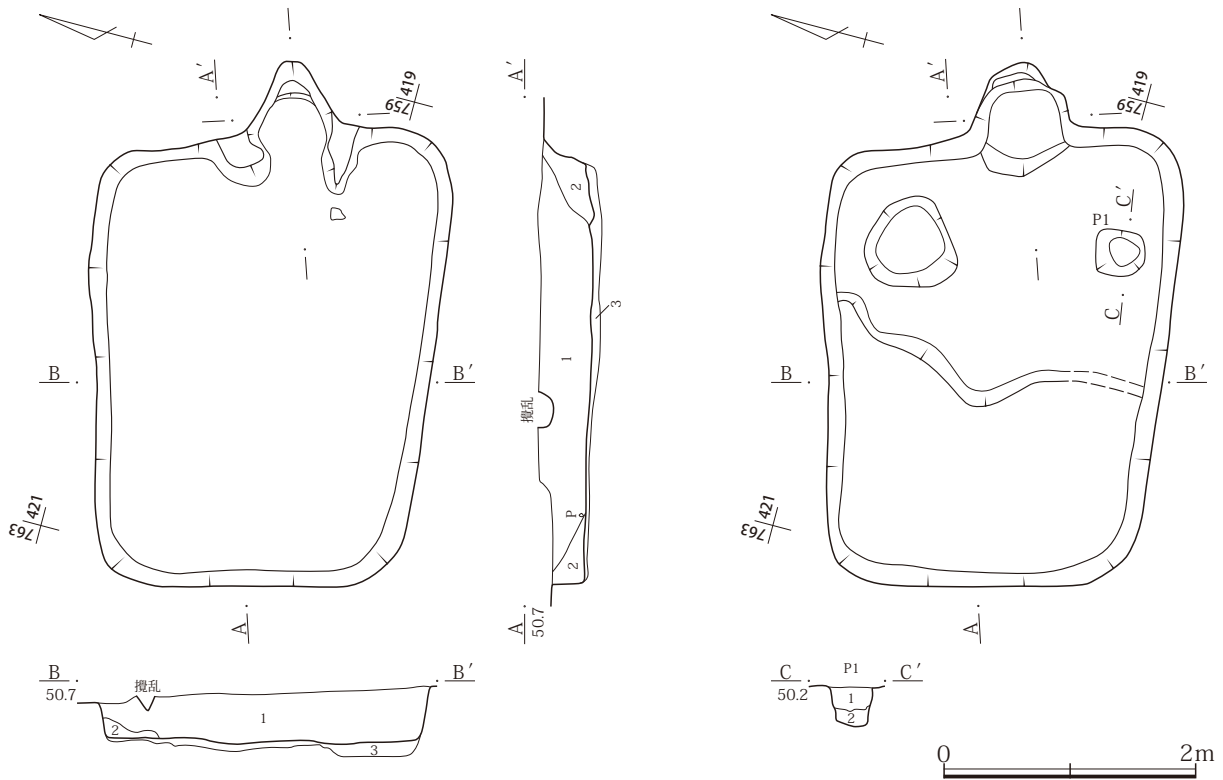
315号竪穴建物跡竈

6. 暗褐色土 焼土粒・塊やや多混。煙道部埋土。
7. 暗褐色土 焼土粒少量混。煙道部埋土。
8. 暗褐色土 焼土粒やや多混。
9. 暗褐色土

第315図 315・332号竪穴建物跡竈・出土遺物（1）



第316図 315・332号竪穴建物跡出土遺物（2）

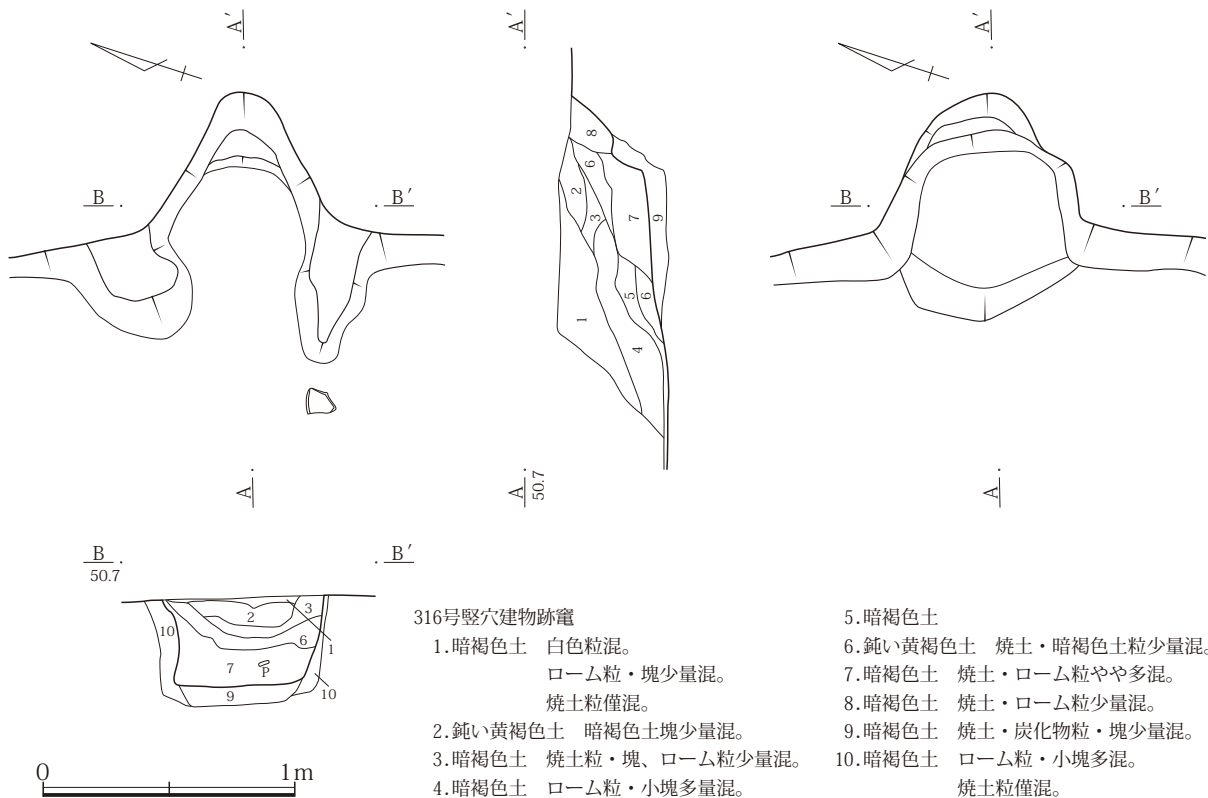


316号竪穴建物跡

1. 暗褐色土 白色粒混。ローム・焼土・炭化物細粒少量混。
2. 黒褐色土 ローム・白色粒混。
3. 暗褐色土 ローム粒・小塊多混。焼土粒少量混。

316号竪穴建物跡床下pit

1. 黒褐色土 ローム粒少量混。
2. 暗褐色砂質土 ローム粒・塊多混。円礫やや多混。

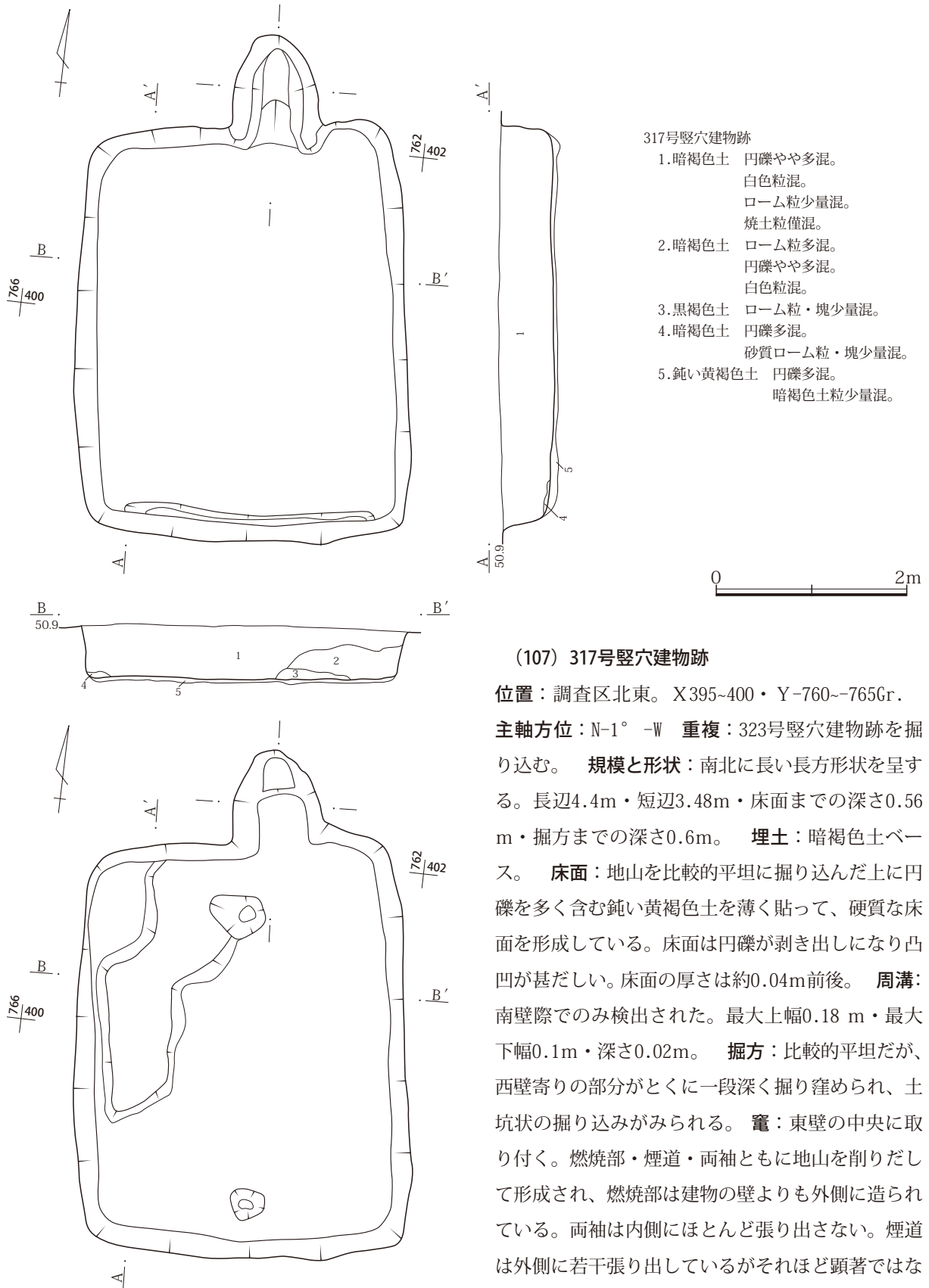


316号竪穴建物跡竈

1. 暗褐色土 白色粒混。  
ローム粒・塊少量混。  
焼土粒僅混。
2. 鈍い黄褐色土 暗褐色土塊少量混。
3. 暗褐色土 焼土粒・塊、ローム粒少量混。
4. 暗褐色土 ローム粒・小塊多量混。

5. 暗褐色土
6. 鈍い黄褐色土 焼土・暗褐色土粒少量混。
7. 暗褐色土 焼土・ローム粒やや多混。
8. 暗褐色土 焼土・ローム粒少量混。
9. 暗褐色土 焼土・炭化物粒・塊少量混。
10. 暗褐色土 ローム粒・小塊多混。  
焼土粒僅混。

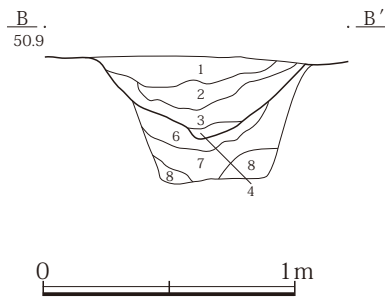
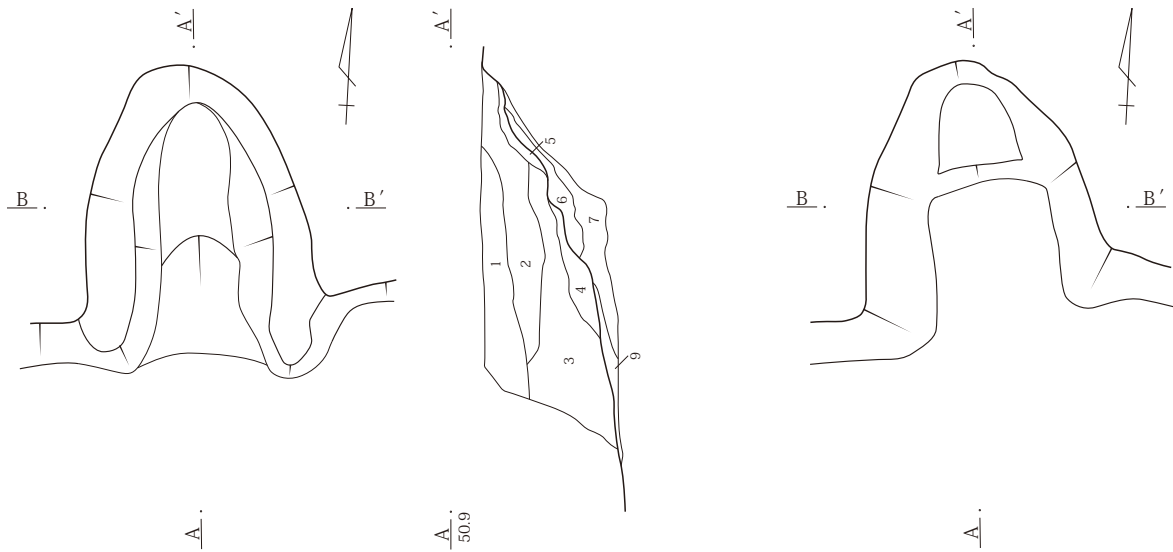
第317図 316号竪穴建物跡



(107) 317号竪穴建物跡

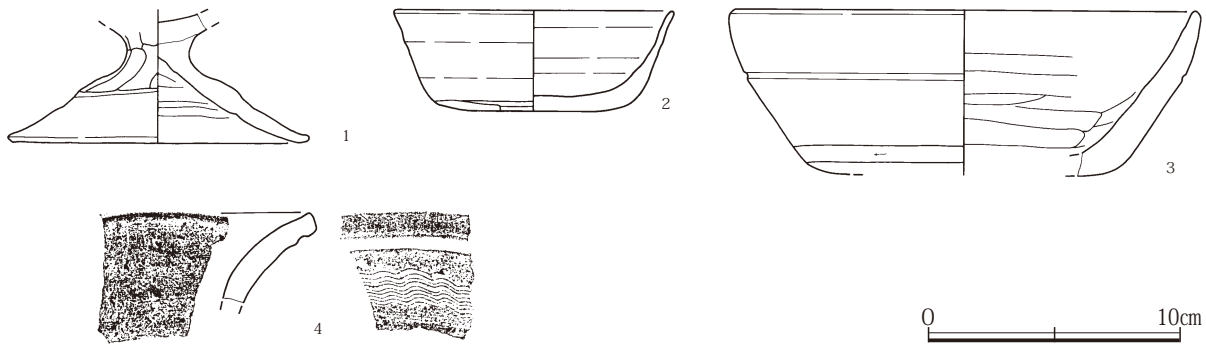
**位置：**調査区北東。X 395~400・Y-760~-765Gr.  
**主軸方位：**N-1° -W **重複：**323号竪穴建物跡を掘り込む。  
**規模と形状：**南北に長い長方形を呈する。長辺4.4m・短辺3.48m・床面までの深さ0.56m・掘方までの深さ0.6m。  
**埋土：**暗褐色土ベース。  
**床面：**地山を比較的平坦に掘り込んだ上に円礫を多く含む鈍い黄褐色土を薄く貼って、硬質な床面を形成している。床面は円礫が剥き出しになり凸凹が甚だしい。床面の厚さは約0.04m前後。  
**周溝：**南壁際でのみ検出された。最大上幅0.18 m・最大下幅0.1m・深さ0.02m。  
**掘方：**比較的平坦だが、西壁寄りの部分がとくに一段深く掘り窪められ、土坑状の掘り込みがみられる。  
**竈：**東壁の中央に取り付く。燃烧部・煙道・両袖ともに地山を削りだして形成され、燃烧部は建物の壁よりも外側に造られている。両袖は内側にほとんど張り出さない。煙道は外側に若干張り出しているがそれほど顕著ではない。  
**貯蔵穴：**なし。  
**時期：**8 C前。  
**遺物：**建物内に散在。

第318図 317号竪穴建物跡



317号竪穴建物跡竈

- 1.暗褐色土 円礫やや多混。白色粒混。焼土・ローム粒少量混。
- 2.暗褐色土 ローム粒・塊多量混。円礫やや多混。白色粒混。
- 3.暗褐色土 円礫やや多混。白色粒混。ローム粒・小塊少量混。
- 4.鈍い黄褐色土 暗褐色土粒・円礫やや多混。
- 5.暗褐色土 焼土・ローム粒多混。
- 6.暗褐色土 焼土粒多量混。円礫やや多混。
- 7.暗褐色土 円礫やや多混。焼土粒少量混。
- 8.暗褐色土 焼土・ローム粒、円礫少量混。
- 9.暗褐色土 ローム粒少量混。



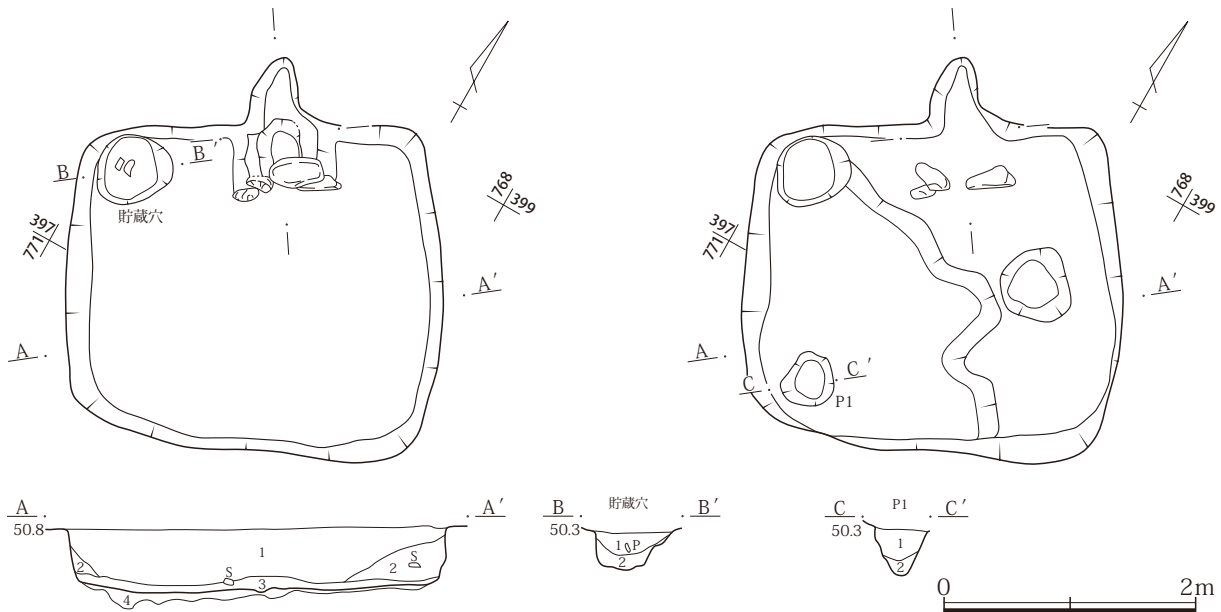
第319図 317号竪穴建物跡竈・出土遺物

(108) 319号竪穴建物跡

**位置：**調査区北東端。X395・Y-765~770Gr. **主軸方位：**N-30° -W **重複：**321号竪穴建物跡を掘り込む。 **規模と形状：**南西-北東方向にやや長い長方形を呈する。長辺3m・短辺2.64m・床面までの深さ0.5m・掘方までの深さ0.62m。 **埋土：**暗褐色土ベース。 **床面：**地山を比較的平坦に掘り込んだ上にローム塊が少量混じる暗褐色土をごく薄く貼って、硬質な床面を形成している。床面の厚さは

約0.12m前後。 **掘方：**比較的平坦だが、南西約半分がとくに一段深く掘り窪められている。南隅からは床下のpitが1基検出されている。 **竈：**北西壁の中央北寄りに取り付く。燃烧部・煙道ともに地山を削りだして形成され、燃烧部は壁とほぼ同位置に造られている。天井石が、焚き口に落下した状態で出土した。両袖は細長い石を芯材に、その周囲を地山ロームなどを貼り付けて形成され、建物跡の内部に大きく張り出す。芯材も横に倒れた状態で出土し

第3章 発見された遺構と遺物



319号竪穴建物跡

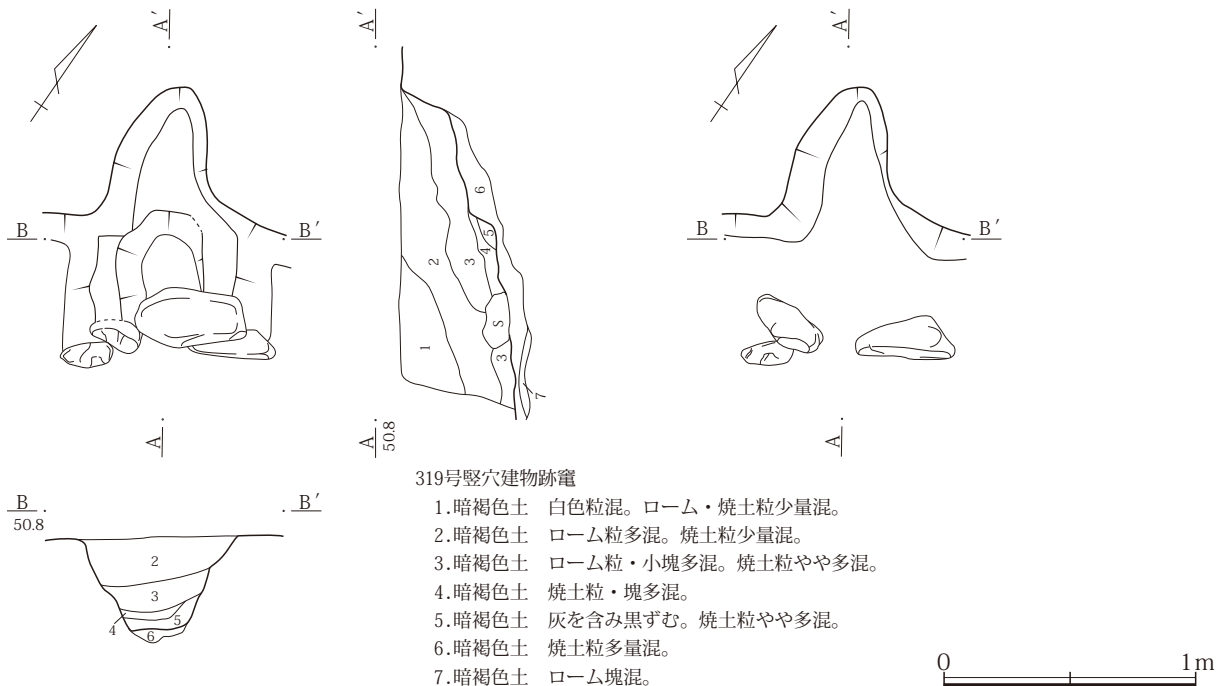
1. 暗褐色土 白色・焼土・ローム粒少量混。
2. 暗褐色土 黒褐色土粒全体に混。  
1層よりも細かい白色・焼土粒と炭化物粒混。
3. 暗褐色土 ローム粒混。
4. 暗褐色土 ローム塊少量混。

319号竪穴建物跡貯蔵穴

1. 暗褐色土 ローム粒・小塊少量混。焼土粒僅混。
2. 黄褐色砂質土 礫混。

319号竪穴建物跡床下pit

1. 暗褐色土 ローム粒・小塊少量混。焼土粒僅混。
2. 黄褐色砂質土 礫混。



319号竪穴建物跡竈

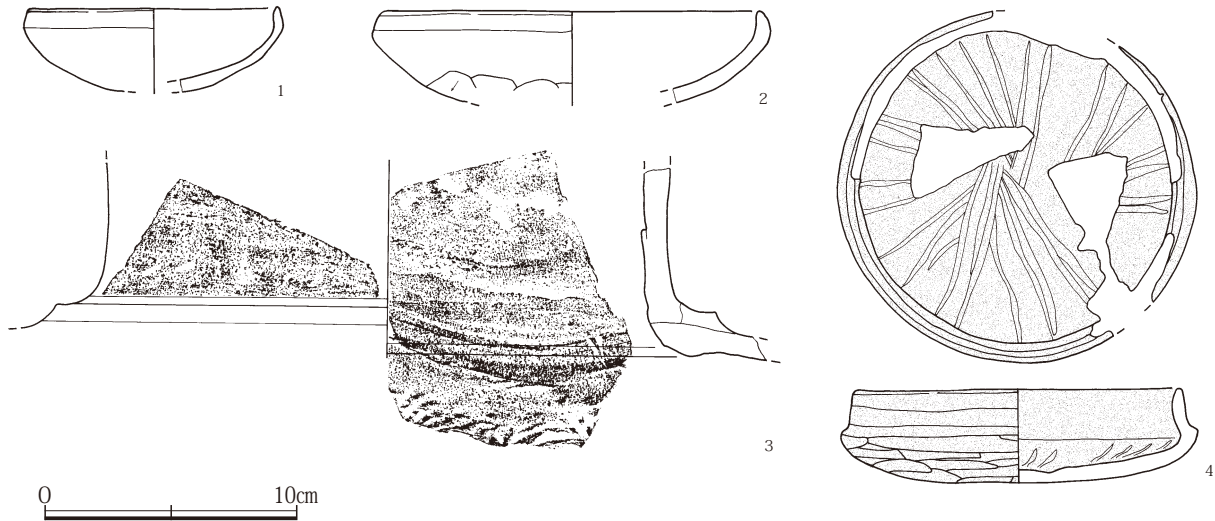
1. 暗褐色土 白色粒混。ローム・焼土粒少量混。
2. 暗褐色土 ローム粒多混。焼土粒少量混。
3. 暗褐色土 ローム粒・小塊多混。焼土粒やや多混。
4. 暗褐色土 焼土粒・塊多混。
5. 暗褐色土 灰を含み黒ずむ。焼土粒やや多混。
6. 暗褐色土 焼土粒多量混。
7. 暗褐色土 ローム塊混。

第320図 319号竪穴建物跡

ており、天井石の出土状況と相俟って、建物廃絶後に意図的に破壊された状況が看取できる。煙道は建物の外側に若干延びている。貯蔵穴：西隅で検出された。不整形形状を呈し、長径0.6m・短径0.56m・

深さ0.32m。柱穴・pit: pit1長径0.43m・短径0.43m・深さ0.4m。不整形形状を呈し、しっかりした掘方を有する。時期：7C3。遺物：建物内に散在。





第321図 319号竪穴建物跡出土遺物

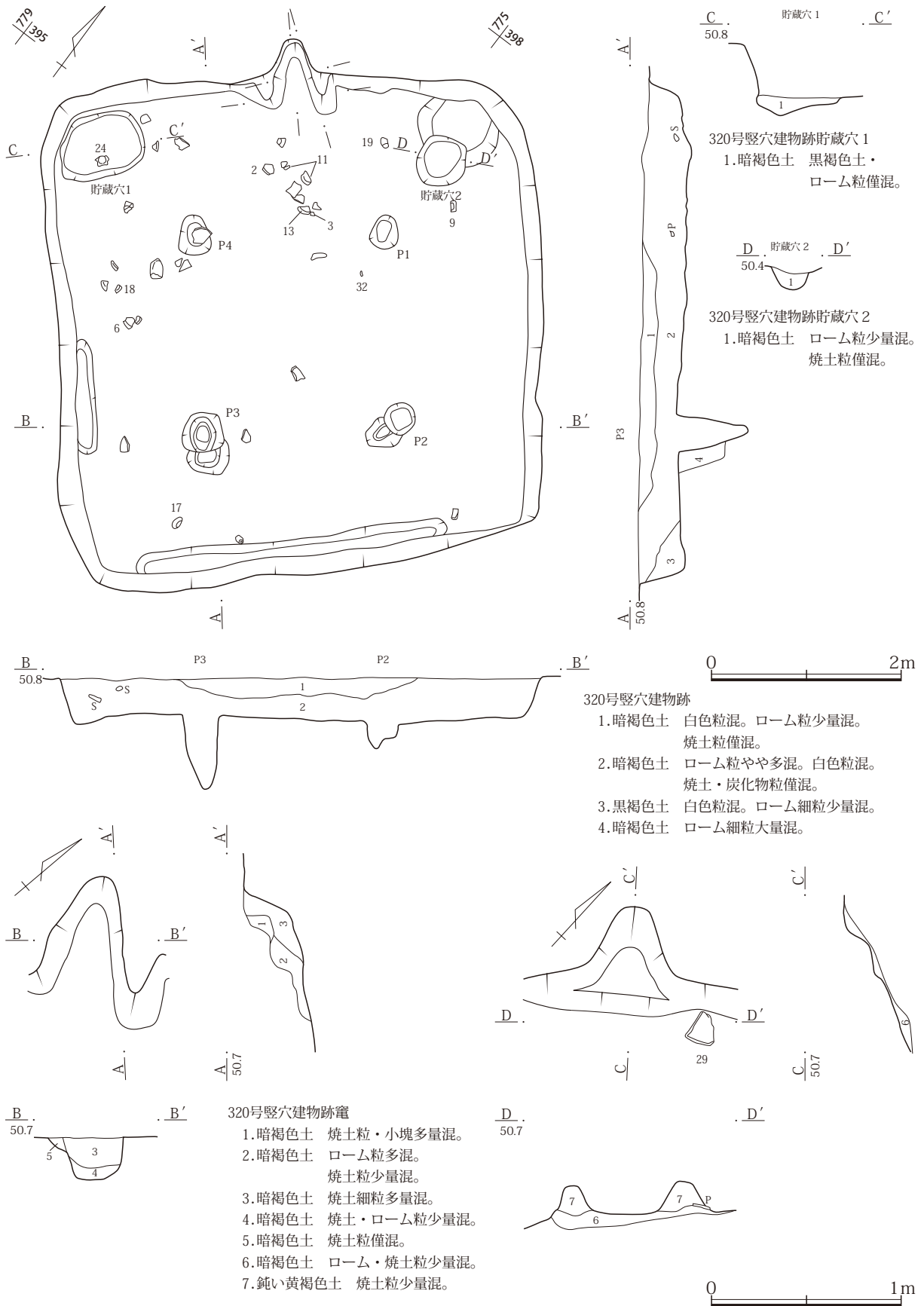
## (109) 320・327号竪穴建物跡

**位置：**調査区北東。X390-395・Y-770~775Gr.

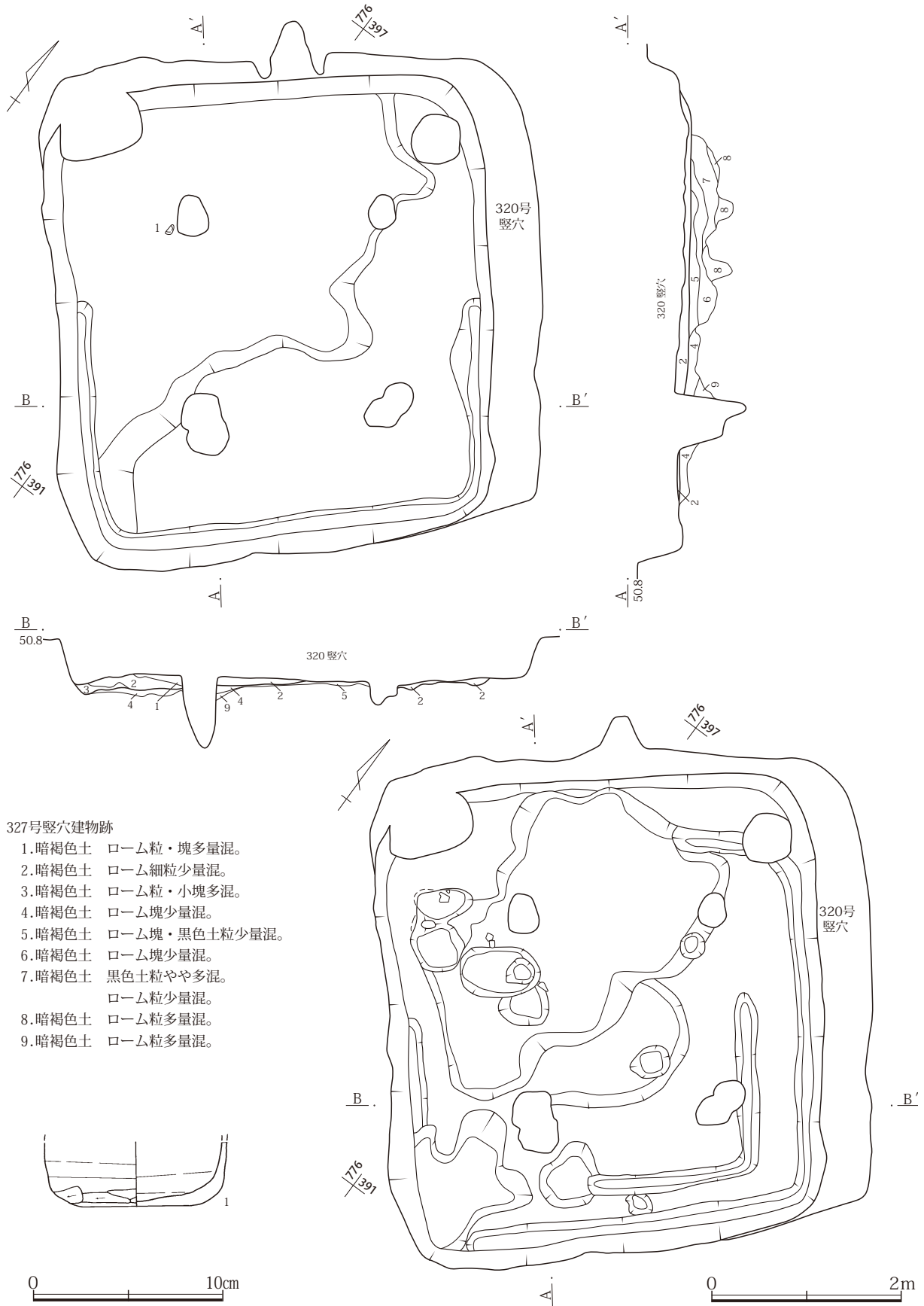
**主軸方位：**N-44°-W(320号竪穴建物跡) **重複：**321号竪穴建物跡を掘り込む。 **規模と形状：**北西-南東方向に主軸をとるほぼ方形の竪穴建物跡。南西端で検出された233・239号竪穴建物跡と主軸・規模・形状がよく類似する。320号竪穴建物跡の中にすっぽりと327号竪穴建物跡が収まる形で検出された。327号竪穴建物跡の北東・北西壁を拡張して建直したのが320号竪穴建物跡であり、320号竪穴建物跡の掘方として327号竪穴建物跡が検出された。327号竪穴建物跡は、ほぼ掘方みの検出である。320号竪穴建物跡は、北西-南東方向にやや長い方形形状を呈し、長辺5.32m・短辺5.14m・床面までの深さ0.47m。その内側にすっぽりと収まる327号竪穴建物跡も同様に北西-南東方向にやや長い方形形状を呈し、長辺5.06m・短辺4.5m・掘方までの深さは0.75mである。 **埋土：**暗褐色土ベース。 **床面：**327号竪穴建物跡の掘方を何層にも細かく埋め立てた上にローム粒を含む暗褐色土を薄く貼って、硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.01~0.15m。 **周溝：**南東壁と南西壁の一部で周溝が検出できた。最大上幅0.18m・最大下幅0.15m・深さ0.03m。 **掘方：**320号竪穴建物跡の掘方が327号竪穴建物跡の

検出面に相当するのであるが、327号竪穴建物跡自体の掘方はさらに下層に位置している。327号竪穴建物跡の掘方は、南西・南東・北東の壁に周溝が廻り、とくに南東と北東の各壁と北西側では内側にも周溝状の掘り込みが認められる。このことから327号竪穴建物跡自体も、まず南東と北東側に約0.4~0.7m程度拡張され、さらに北西側に0.6m程度拡張した後に、さらにそれを北西側に0.2~0.3m、北東側に0.4~0.55m程度拡張して320号竪穴建物跡が形成されたものと考えられる。原327号竪穴建物跡を3段階にわたって拡張したのが320号竪穴建物跡ということになる。327号竪穴建物跡の掘方は、中央から西側にかけて一段深い掘り込みがなされており、とくに南西の壁際では土坑状の掘り込みがいくつも連続して掘り込まれている。 **竈：**320号竪穴建物跡に伴うものは北西壁の中央で検出されているが、327号竪穴建物跡の竈の痕跡は掘方の調査においても全く検出出来なかった。320号竪穴建物跡の竈は、燃烧部・煙道は地山を削りだして形成され、燃烧部は壁とほぼ同位置に造られている。両袖は、地山ローム等を貼って構築され、内側に若干張り出している。煙道は外側にやや長く張り出している。全体的に小規模である。 **貯蔵穴：**320号竪穴建物跡では、2基が検出された。貯蔵穴1は長径0.9m・

第3章 発見された遺構と遺物

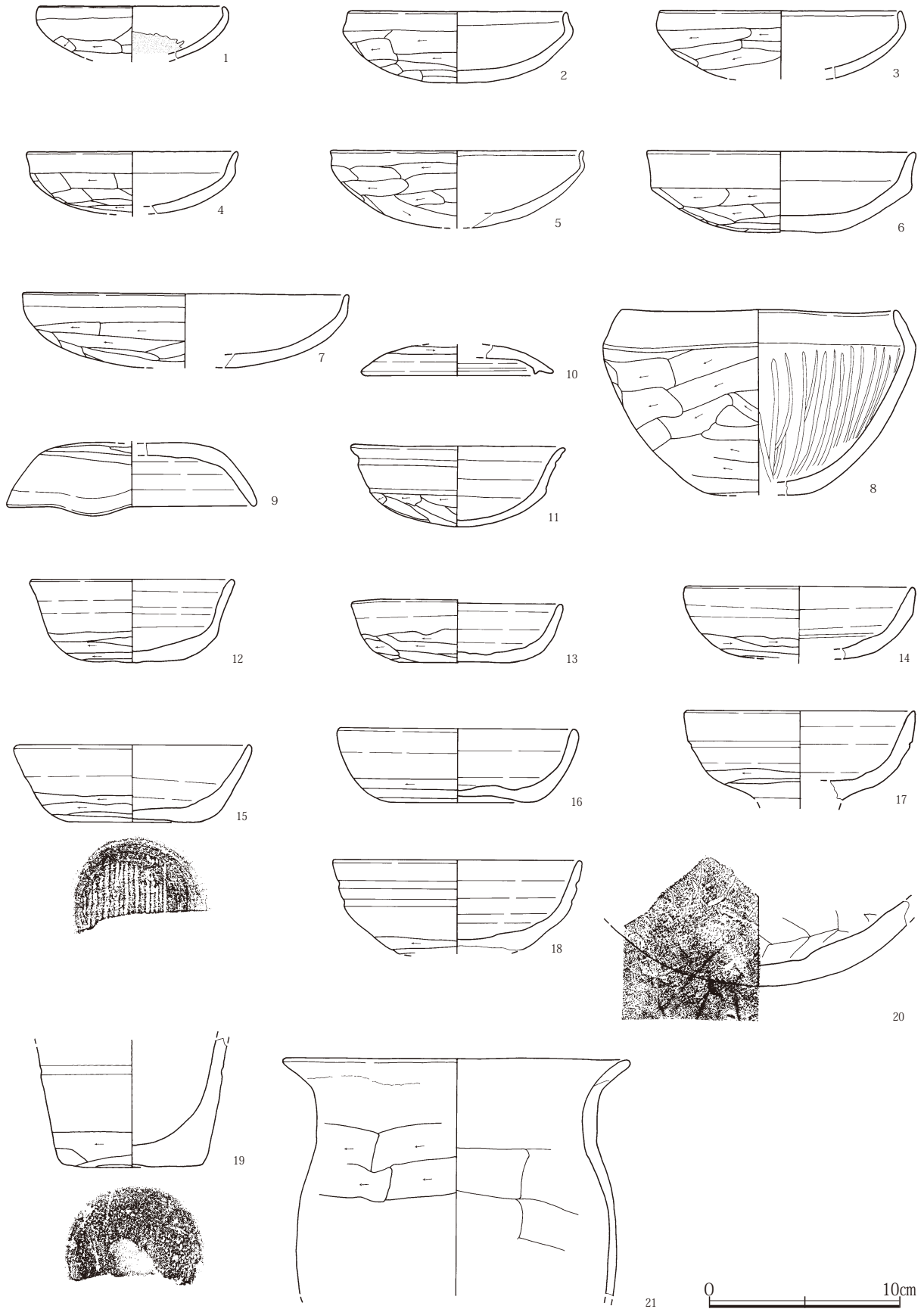


第322図 320号竪穴建物跡

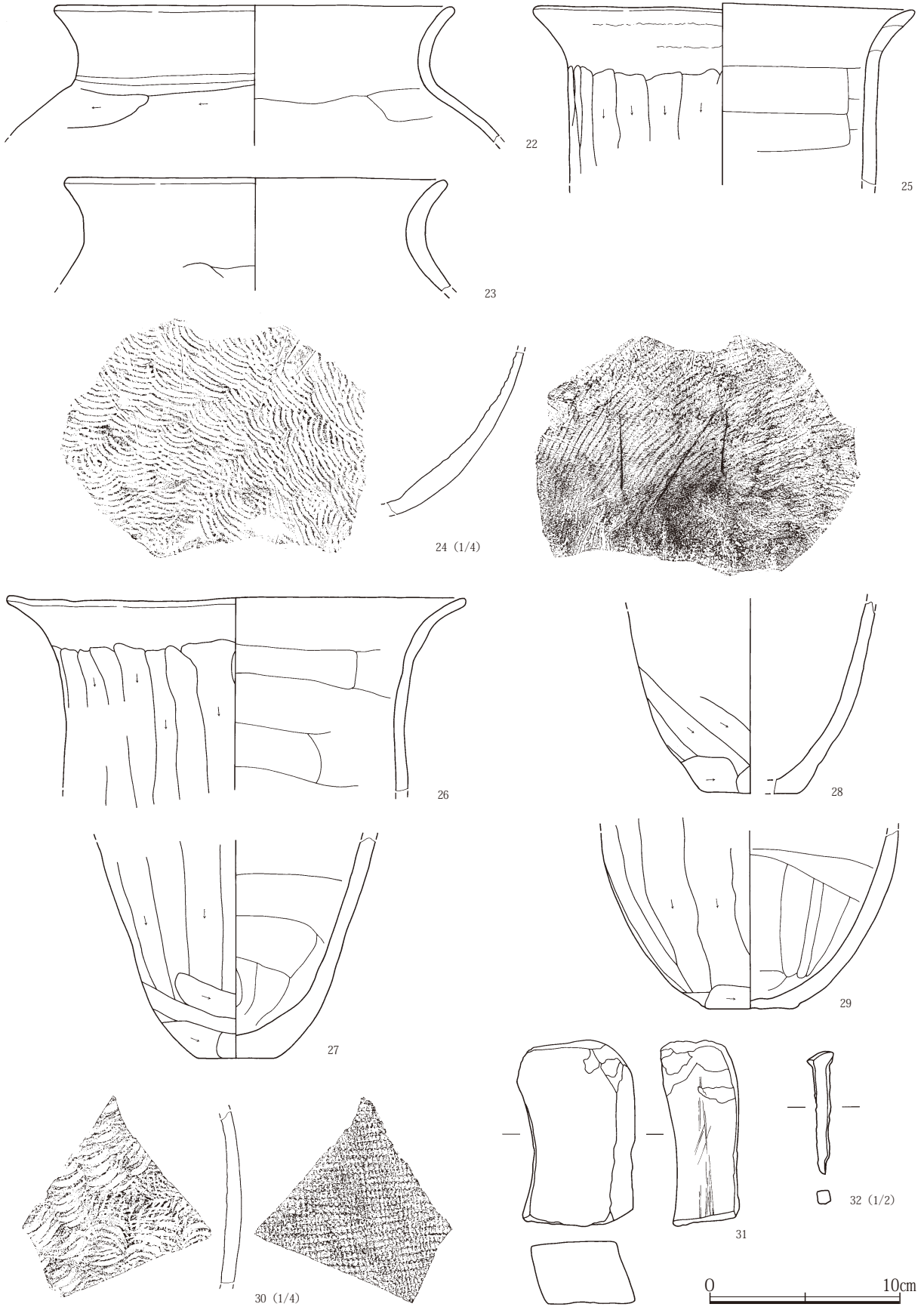


第323図 327号竖穴建物跡・出土遺物

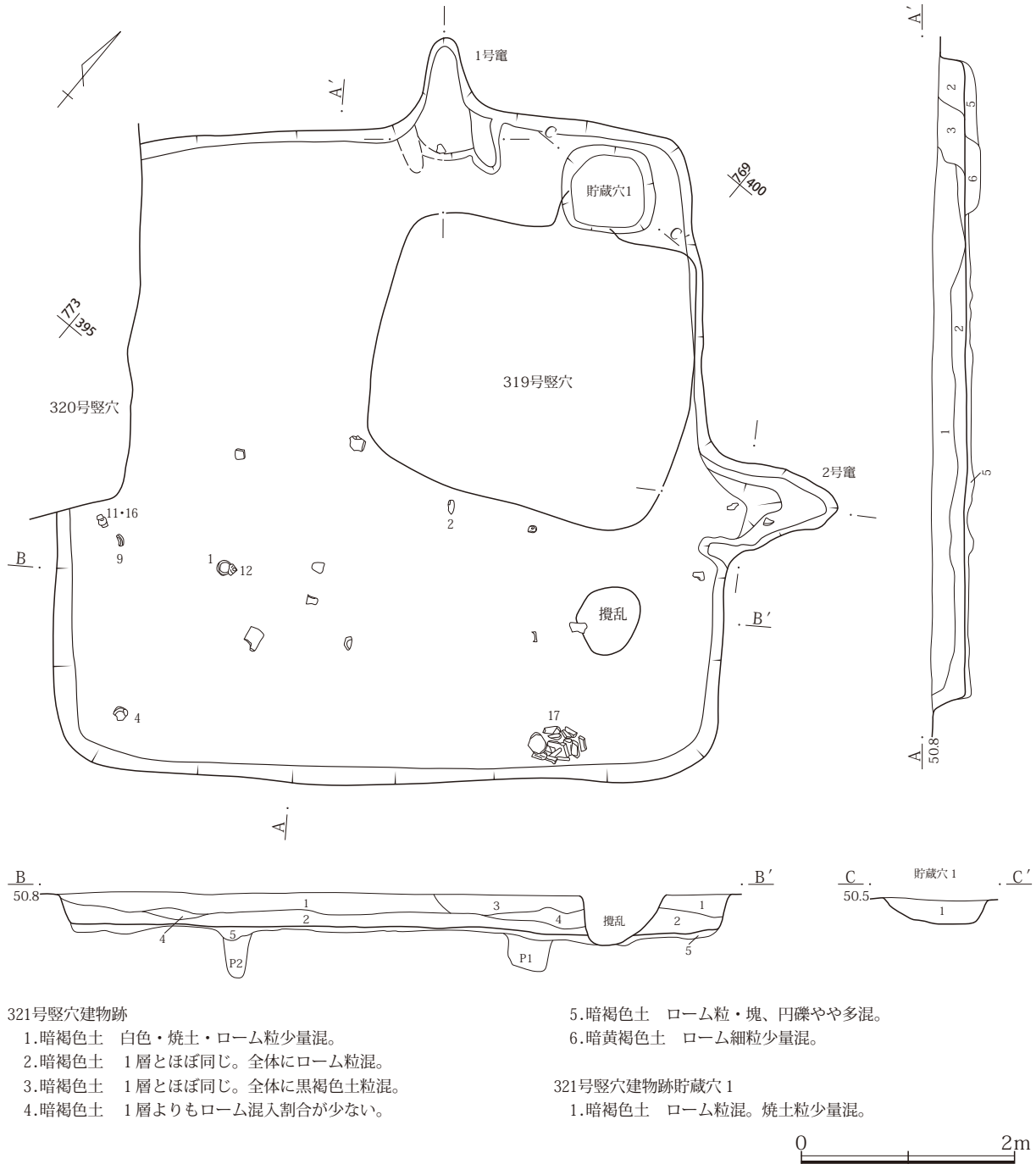
第3章 発見された遺構と遺物



第324図 320号竪穴建物跡出土遺物（1）



第325図 320号竪穴建物跡出土遺物（2）



321号竖穴建物跡

1. 暗褐色土 白色・焼土・ローム粒少量混。
2. 暗褐色土 1層とほぼ同じ。全体にローム粒混。
3. 暗褐色土 1層とほぼ同じ。全体に黒褐色土粒混。
4. 暗褐色土 1層よりもローム混入割合が少ない。

5. 暗褐色土 ローム粒・塊、円礫やや多混。
6. 暗黄褐色土 ローム細粒少量混。

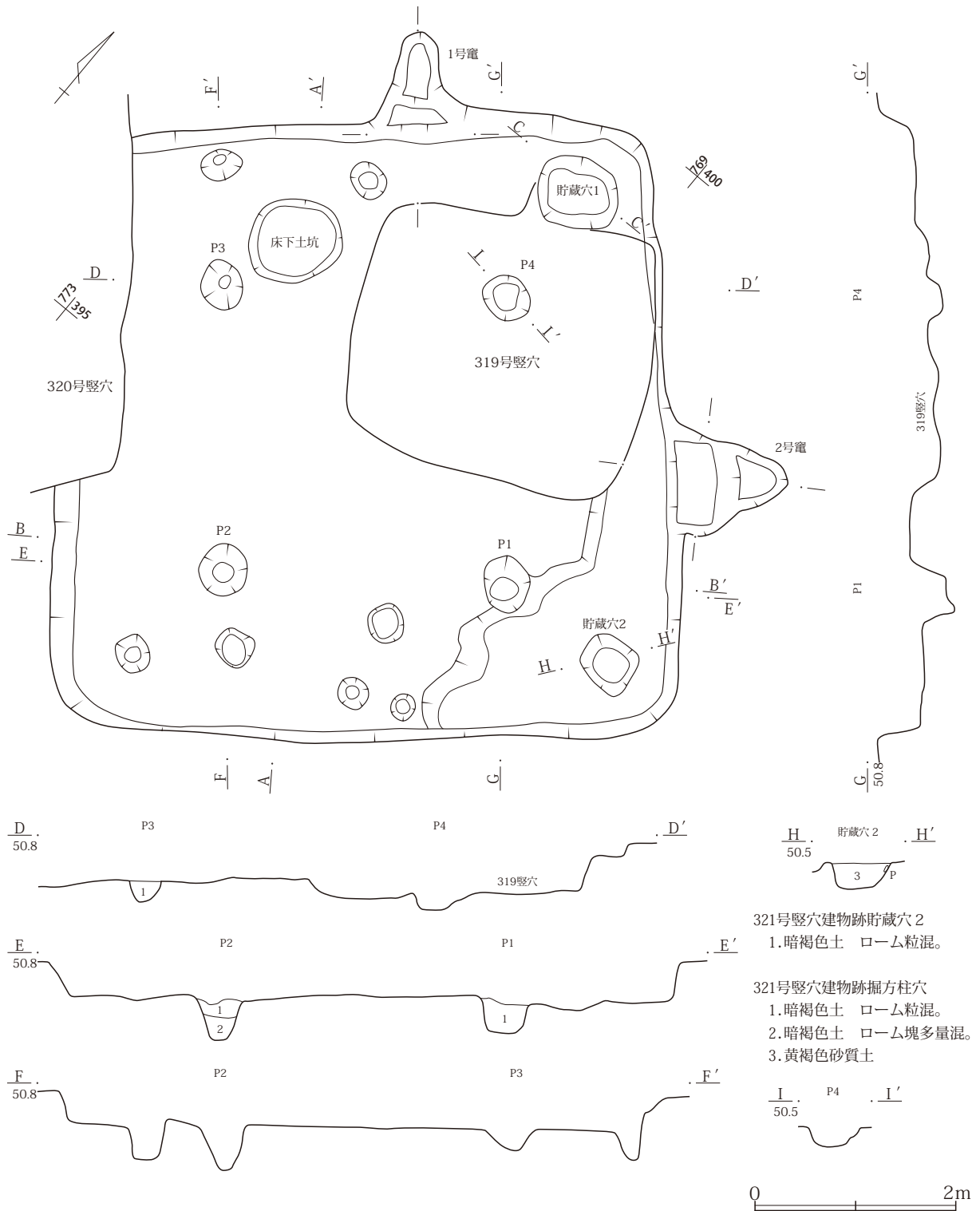
321号竖穴建物跡貯蔵穴1

1. 暗褐色土 ローム粒混。焼土粒少量混。

第326図 321号竖穴建物跡

短径0.68m・深さ0.24m、北東-南西方向に長い楕円形状を呈する。貯蔵穴2は長径0.54m・短径0.52m・深さ0.24m、ほぼ円形状を呈する。貯蔵穴1・2の新旧関係、同時併存か否かは明らかに出来なかった。327号竖穴建物跡の貯蔵穴は検出されなかった。柱穴・pit：320号竖穴建物跡では4隅の柱穴が検出された。pit1長径0.35m・短径0.3m・深さ0.34m、

pit2長径0.6m・短径0.35m・深さ0.42m、pit3長径0.57m・短径0.5m・深さ0.67m、pit4長径0.42m・短径0.38m・深さ0.46m。なお、327号竖穴建物跡の柱穴は検出されなかった。時期：両竖穴建物跡ともに7C3。遺物：建物内に散在。すべて埋土中からの出土である。



第327図 321号竪穴建物跡掘方

(110) 321号竪穴建物跡

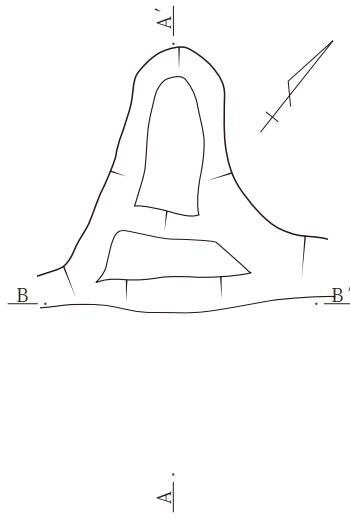
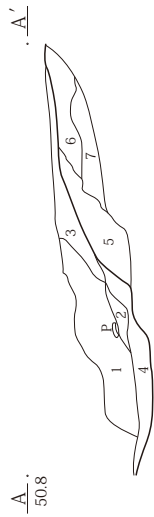
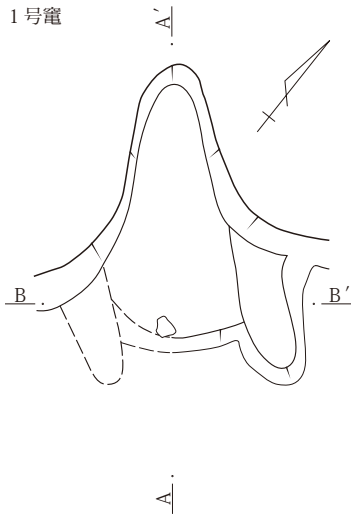
位置：調査区北東端。X390~395・Y-765~770Gr.

主軸方位：N-39° -W(1号竈) 重複：319・320号竪穴建物跡によって掘り込まれる。1号竈の煙道付

近が74号掘立柱建物跡と接する。規模と形状：軸を北西-南東方向に向けたほぼ方形の巨大な竪穴建物跡で、この種の形状のものは本遺跡では1区でのみ検出されている。長辺6.24m・短辺6.2m・床

第3章 発見された遺構と遺物

1号竈



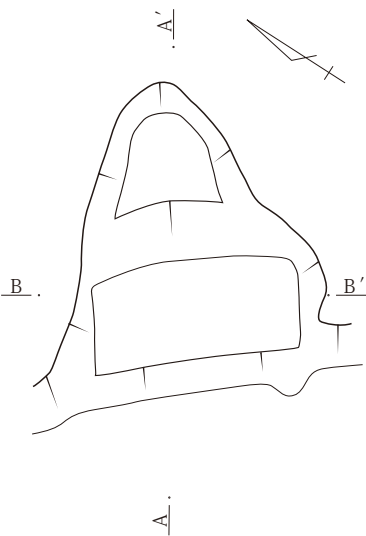
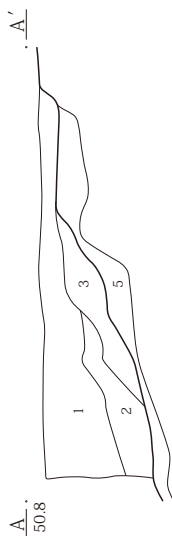
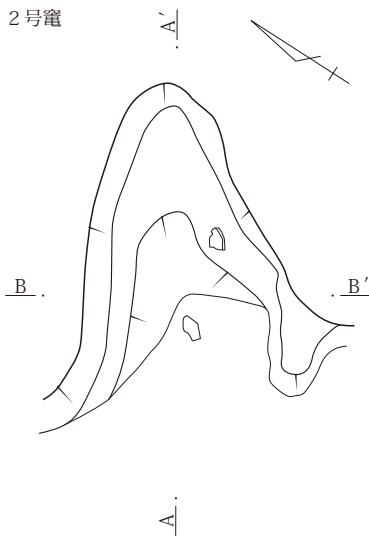
B. 50.8 B'



321号竪穴建物跡 1号竈

1. 暗褐色土 ローム粒・塊多量混。焼土粒多混。
2. 暗褐色土 焼土粒・小塊多量混。ローム粒多混。
3. 暗褐色土 焼土粒多混。ローム粒少量混。
4. 鈍い黄褐色土 焼土粒・小塊やや多混。ローム粒・塊多混。
5. 暗褐色土 焼土粒・塊多量混。
6. 暗褐色土 焼土粒やや多混。
7. 暗褐色土 焼土粒少量混。

2号竈



B. 50.8 B'



321号竪穴建物跡 2号竈

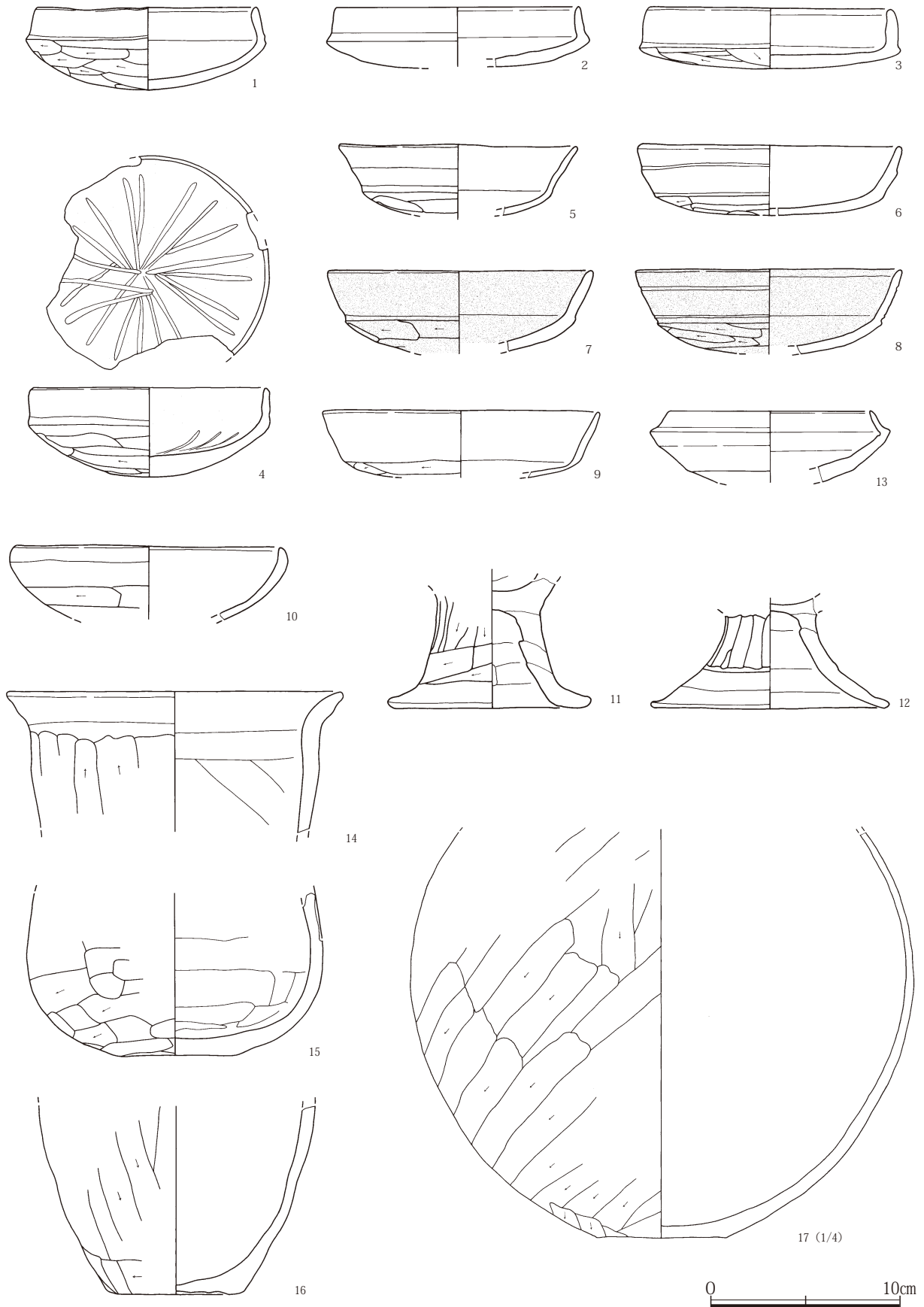
1. 暗褐色土 白色・焼土細粒僅混。
2. 暗褐色土 ローム・焼土粒少量混。白色粒僅混。
3. 暗褐色土 ローム・焼土粒大量混。
4. 黄褐色土 暗褐色土塊大量混。
5. 暗褐色土 ローム粒・塊混。
6. 暗褐色土 焼土粒・ローム塊多量混。



第328図 321号竪穴建物跡竈

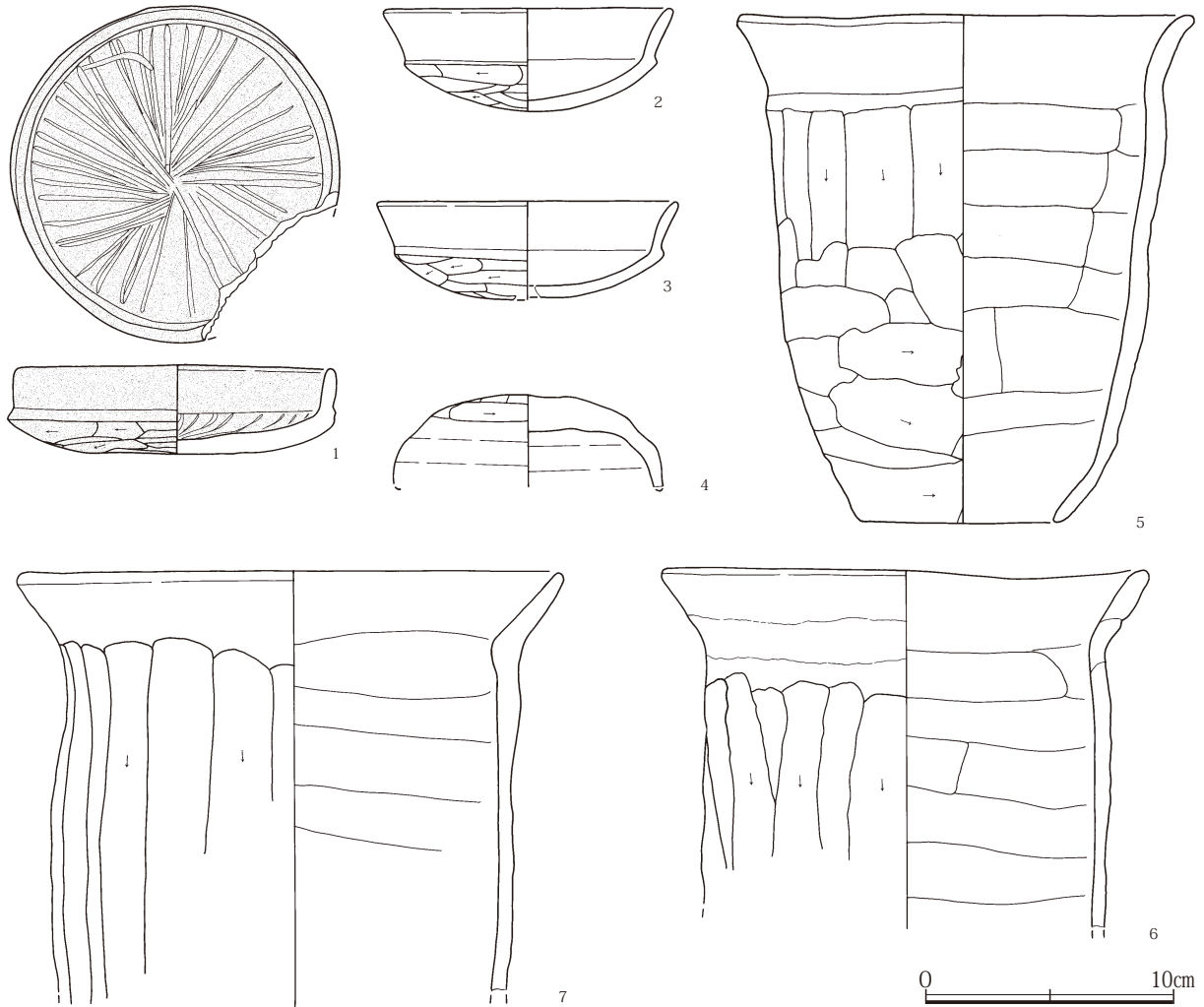


第2節 古墳時代後期～平安時代の遺構と遺物



第329図 321号竪穴建物跡出土遺物



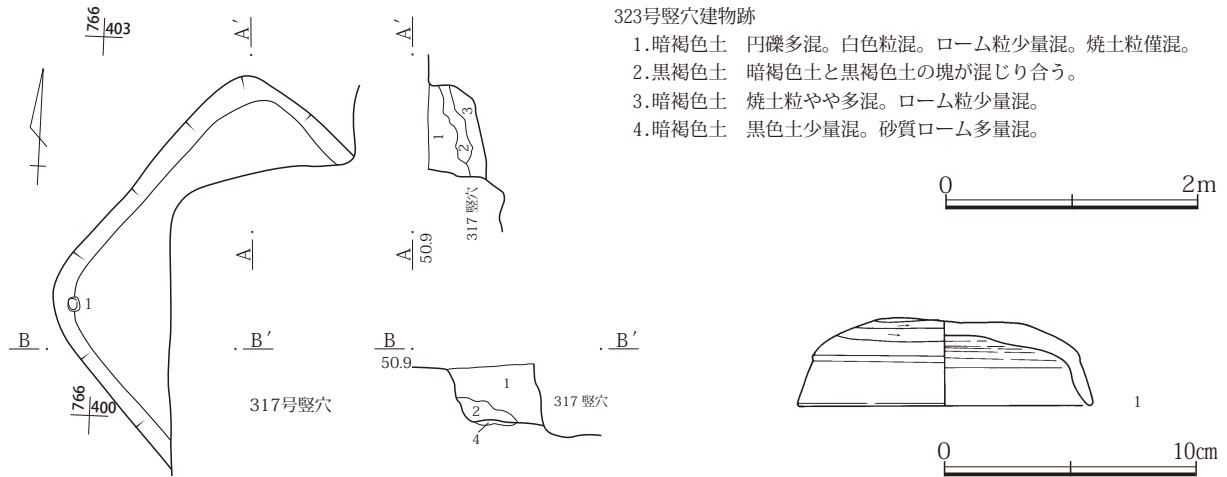


第331図 322号竪穴建物跡出土遺物

面までの深さ0.3m・掘方までの深さ0.36m。埋土：暗褐色土ベース。床面：地山を比較的平坦に削り出した上にローム粒・円礫をやや多く含む暗褐色土を薄く貼って硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.05m前後。掘方：比較的平坦だが、南東の隅がとくに一段深く掘り込まれている。また、南東壁際ではpit状の掘り込みが顕著に認められた。北西隅で土坑が検出されている。竈：北西壁と北東壁のそれぞれ中央で2基の竈が検出されている。北西壁に取り付く1号竈、北東壁に取り付く2号竈、ともに同時併存と考えられる。1・2号竈共に、燃烧部・煙道は地山を削りだして形成され、燃烧部は壁より外側に造られている。両袖は、地山ローム等を貼って構築され、内側に若干張り出している。煙

道は外側にやや長く張り出している。貯蔵穴：1号竈に対応する貯蔵穴1長径0.87m・短径0.82m・深さ0.23m、東西にやや長い隅丸形状を呈する。2号竈に対応する貯蔵穴2が床下から検出された。最終使用面では機能していなかったものと考えられる。長径0.58m・短径0.5m・深さ0.38m。柱穴・pit：4隅の柱穴はいずれも掘方からの検出であり、柱穴も最終使用面では機能していなかったものと考えられる。pit1長径0.58m・短径0.47m・深さ0.32m、pit2長径0.55m・短径0.5m・深さ0.48m、pit3長径0.48m・短径0.42m・深さ0.27m、pit4長径0.5m・短径0.44m・深さ0.35m。時期：7C前～3。遺物：建物内に散在。

### 第3章 発見された遺構と遺物



第332図 323号竪穴建物跡・出土遺物

#### 323号竪穴建物跡

1. 暗褐色土 円礫多混。白色粒混。ローム粒少量混。焼土粒僅混。
2. 黒褐色土 暗褐色土と黒褐色土の塊が混じり合う。
3. 暗褐色土 焼土粒やや多混。ローム粒少量混。
4. 暗褐色土 黒色土少量混。砂質ローム多量混。

#### (111) 322号竪穴建物跡

**位置：**調査区の最北端。X 420~425・Y-760Gr. **主軸方位：**N-88° -E **重複：**1103号土坑跡に掘り込まれる。**規模と形状：**東西方向にやや長い方形状を呈するものと思われる。長辺4.67m・短辺4.48m・床面までの深さ0.24m・掘方までの深さ0.32m。**埋土：**暗褐色土ベース。**床面：**地山を削り出した上にローム粒を多く含む暗褐色土を薄く貼って硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.08m前後。**掘方：**比較的平坦。**竈：**東壁の中央に造られていたものと考えられるが、1103号土坑跡によって破壊されている。両袖の芯材に使用したと考えられる土師器長胴甕が倒位で並列した状態で出土しており、出土状況から見て、竈は完全に破壊されていたものと考えられる。**貯蔵穴：**南東隅で検出された。北東-南西方向に長い楕円形状を呈し、長径1m・短径0.67m・深さ0.23m。**柱穴・pit：(4隅柱穴) pit1**長径0.53m・短径0.5m・深さ0.25m、**pit3**長径0.56m・短径0.52m・深さ0.4m、**pit4**長径0.5m・短径0.4m・深さ0.37m。(床面から掘り込まれた土坑) **pit2**長径0.95m・短径(0.48)m・深さ0.18m。**時期：**7C前。**遺物：**竈付近にほぼ集中。

#### (112) 323号竪穴建物跡

**位置：**調査区北東端。X 395~400・Y-760~-765Gr. **主軸方位：**不明。**重複：**317号竪穴建物跡に掘

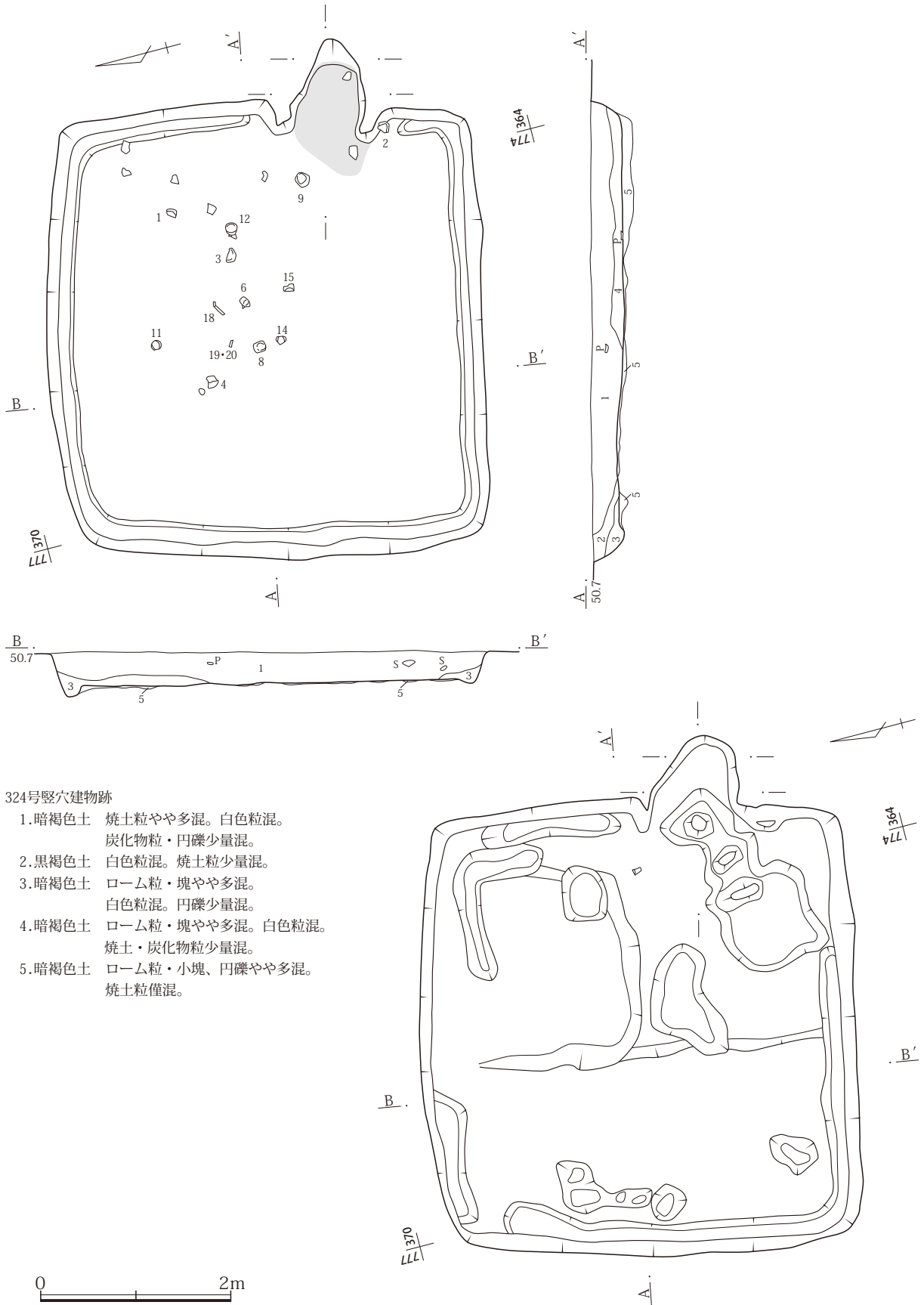
り込まれる。**規模と形状：**あらかた317号竪穴建物跡に破壊され西と北の隅と北西壁が検出されたに過ぎない。北西辺2.68m・床面までの深さ0.45m・掘方までの深さ0.47m。**埋土：**暗褐色土ベース。

**床面：**地山を比較的平坦に掘り込んで床面を形成している。部分的に砂質ロームを多量に含む暗褐色土を貼っているようである。床面の厚さは約0.02m前後。**掘方：**大方、床面と一致。**竈：**未検出。

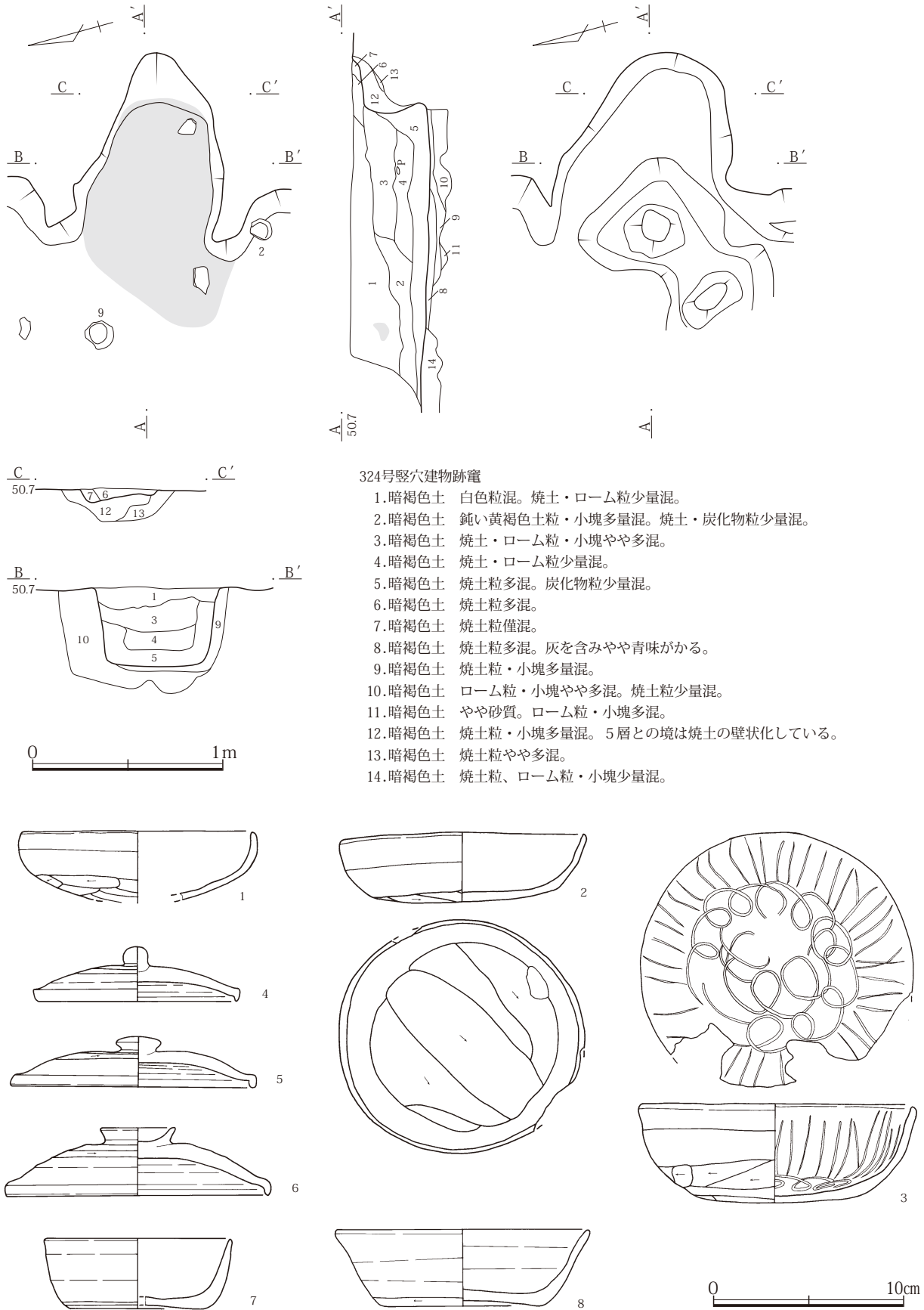
**貯蔵穴：**未検出。**時期：**7C前。**遺物：**床直より須恵器杯蓋1。

#### (113) 324号竪穴建物跡

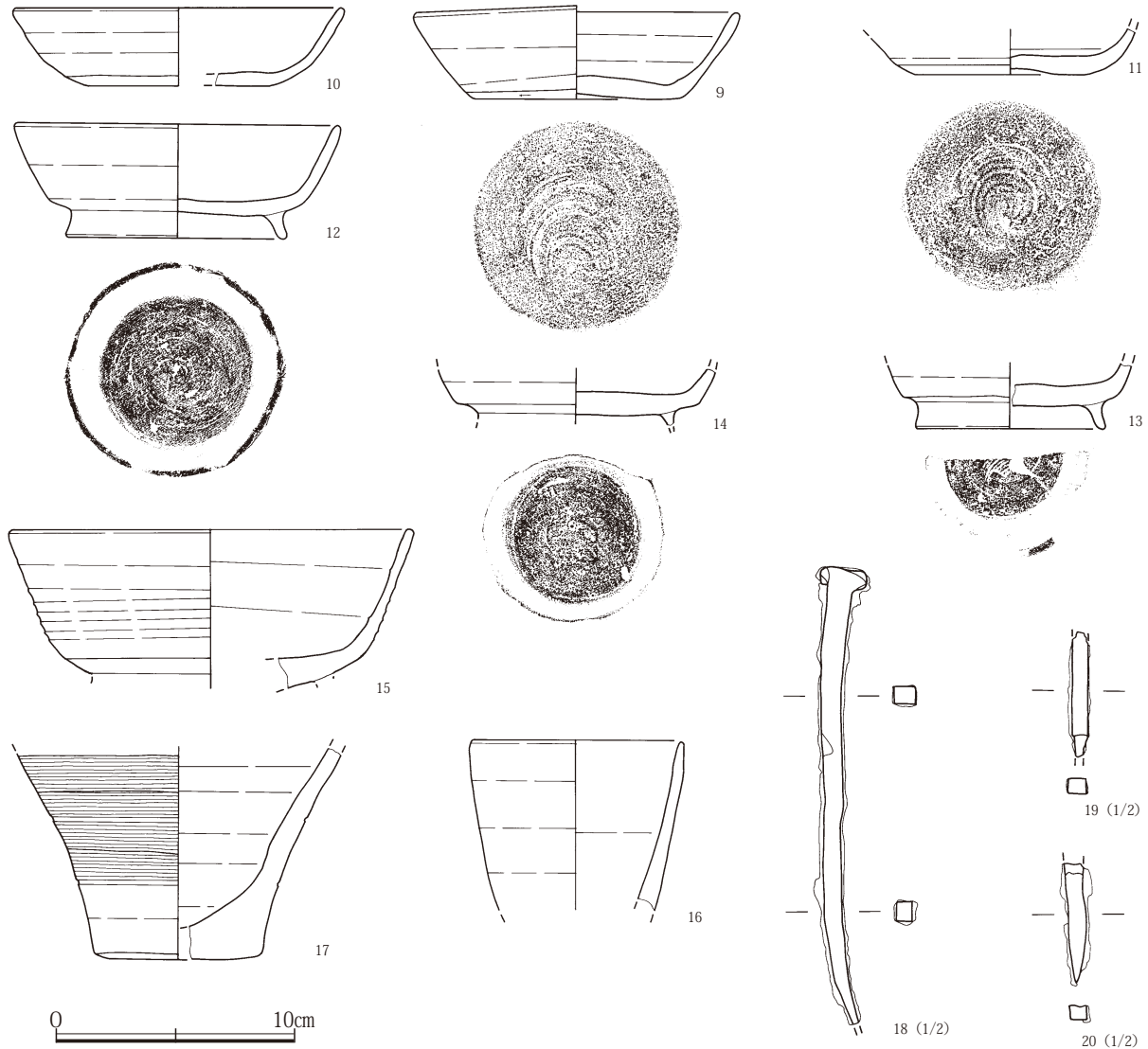
**位置：**調査区中央東寄り。X 360~365・Y-770~-775Gr. **主軸方位：**N-104° -E **重複：**80号掘立柱建物跡を掘り込む。**規模と形状：**西北西-東南東方向にやや長い方形状を呈している。長辺4.82m・短辺4.55m・床面までの深さ0.37m・掘方までの深さ0.53m。**埋土：**暗褐色土ベース。**床面：**地山を比較的平坦に掘り込んだ上にローム粒・円礫をやや多く含む暗褐色土を薄く貼って平坦面を形成し床面としている。床面の厚さは約0.05m前後。**周溝：**竈前以外の全周で検出された。最大上幅0.2m・最大下幅0.16m・深さ0.1m。**掘方：**東半分で部分的に深く掘り込まれた凹凸や、土坑状の掘り込みが連続している箇所が集中している。また、西壁際にもpit状の掘り込みが連続している。ただし、凹凸



第333図 324号竪穴建物跡



第334図 324号竪穴建物跡竈・出土遺物（1）



第335図 324号竪穴建物跡出土遺物（2）

はいずれの地点でも浅い。竈：東壁のやや南寄りに取り付く。燃烧部・煙道・両袖はいずれも地山を削りだして造られ、燃烧部は壁より外側に造られる。煙道はやや長く外側に延びている。両袖は内側に若干張り出している。床面からは焼土・灰の散布が顕著であった。貯蔵穴：なし。時期：8C2。遺物：建物の中央部に散在。須恵器コップ状杯（16）や鉄釘（18）の出土が目される。

（114）325号竪穴建物跡

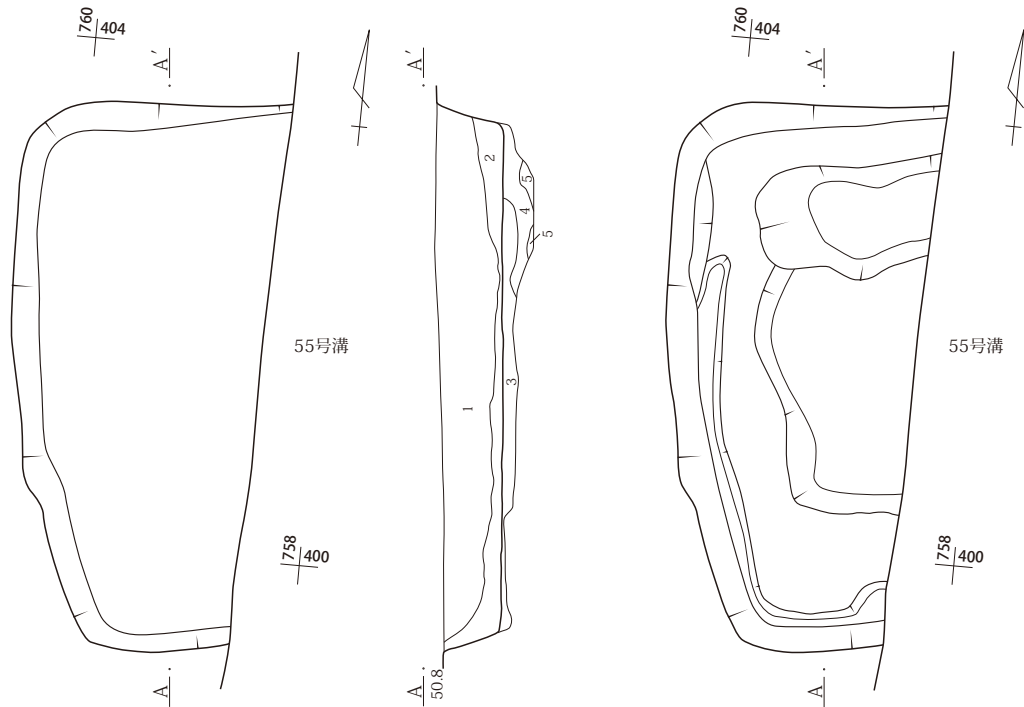
位置：調査区北東壁際。X395~400・Y-755~760Gr。主軸方位：不明。重複：55号溝跡に掘り込まれる。規模と形状：全容は不明で、西壁と北西・

南西の両隅が検出されたと過ぎない。西辺4.33m・床面までの深さ0.55m・掘方までの深さ0.8m。

埋土：暗褐色土ベース。床面：地山を比較的凹凸に富んで掘り込んだ上に円礫とローム粒をやや多く含む暗褐色土を貼って平坦面を形成し床面としている。床面の厚さは凹凸に富み約0.05～0.25m。

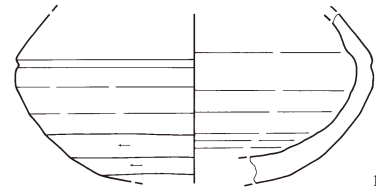
掘方：壁際に周溝状の一段深い掘り込みがみられ、さらにその内側がさらに一段深く方形に掘り込まれているが、使用面では周溝は検出されなかった。また、北壁寄りでは東西に細長い土坑状の掘り込みが検出されている。竈：未検出。貯蔵穴：未検出。

時期：6C代。遺物：埋土中より須恵器短頸壺片1。



325号竪穴建物跡

1. 暗褐色土 径20mm以下円礫多混。ローム粒・小塊やや多混。白色粒混。焼土粒少量混。
2. 黒褐色土 径10mm以下円礫やや多混。ローム粒少量混。
3. 暗褐色土 ローム粒・小塊やや多混。径20mm以下円礫少量混。焼土・炭化物粒僅混。
4. 暗褐色土 やや砂質。径20mm以下円礫やや多混。
5. 暗褐色砂質土



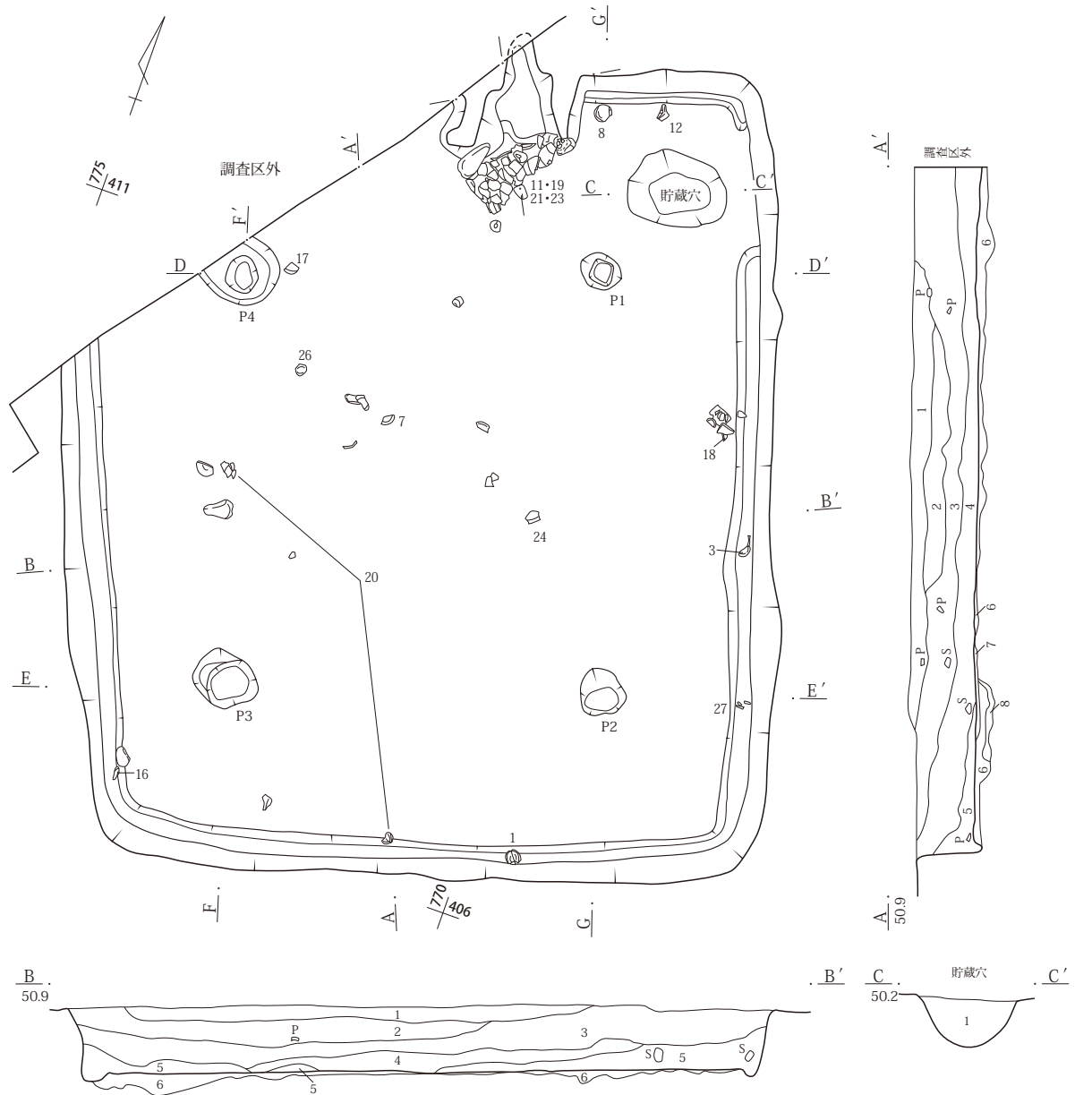
第336図 325号竪穴建物跡・出土遺物

(115) 326号竪穴建物跡

**位置：**調査区北端。X405-410・Y-765-770Gr。  
**主軸方位：**N-22° -W **重複：**なし。 **規模と形状：**軸を北西-南東方向に向けた長方形の巨大な竪穴建物跡である。長辺7.12m・短辺6.13m・床面までの深さ0.55m・掘方までの深さ0.78m。 **埋土：**暗褐色土ベース。 **床面：**地山を比較的平坦に削り込んだ上に、ローム・黒褐色土粒・塊を多量に含む暗褐色土を薄く貼って、硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.02～0.12m。 **周溝：**竈前以外の全周で検出された。最大上幅0.22m・最大下幅0.18m・深さ0.02～0.08m。 **掘方：**東隅から中央にかけて土坑状の掘り込みがいくつも連続して形成されている。南壁付近では、周溝状の掘り込みが

3重に廻っており、南壁が2度にわたって拡張され、最終的に検出された形態になった。 **竈：**北壁中央やや東寄りに取り付く。燃焼部・煙道は地山を削りだして形成され、燃焼部は壁とほぼ同位置に造られている。両袖は自然石に地山ローム等を貼って構築され、両袖は内側にやや大きく張り出している。煙道は外側にやや長く延びているが、先端が調査区外に出てしまうため、不明な点もある。 **貯蔵穴：**北東隅において検出された。東西に長い楕円形状を呈し、長径0.9m・短径0.68m・深さ0.42m。 **柱穴・pit：**(4隅柱穴) いずれも小振りであるが、しっかりとした掘方を有している。 **pit1**長径0.4m・短径0.32m・深さ0.42m、 **pit2**長径0.42m・短径0.4m・深さ0.48m、 **pit3**長径0.6m・短径0.5m・深さ0.54m、





326号竪穴建物跡

1. 暗褐色土 白色粒混。焼土・ローム粒少量混。
2. 暗褐色土 焼土・炭化物粒・小塊多混。白色粒混。  
径10mm以下小礫少量混。
3. 暗褐色土 ローム粒やや多混。白色粒混。  
焼土・径10mm以下小礫少量混。
4. 暗褐色土 ローム粒・塊多混、黒褐色土粒・小塊やや多混。  
白色粒混。焼土・径10mm以下小礫少量混。

5. 黒褐色土 白色粒混。焼土粒、ローム粒・小塊、小礫少量混。
6. 暗褐色土 ローム・黒褐色土粒・塊多量混。
7. 暗褐色土 ローム粒・小塊多量混。固く締まっている。
8. 鈍い黄褐色土 ローム粒・小塊多量混。

326号竪穴建物跡貯蔵穴

1. 暗褐色土 焼土粒・炭化物塊少量混。

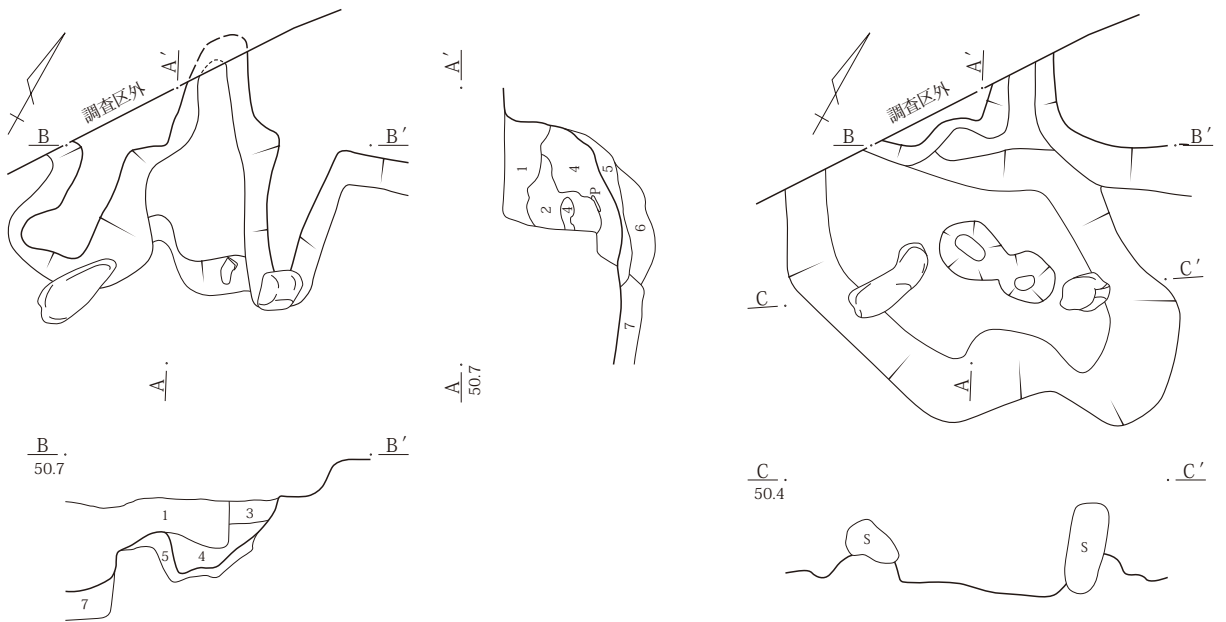
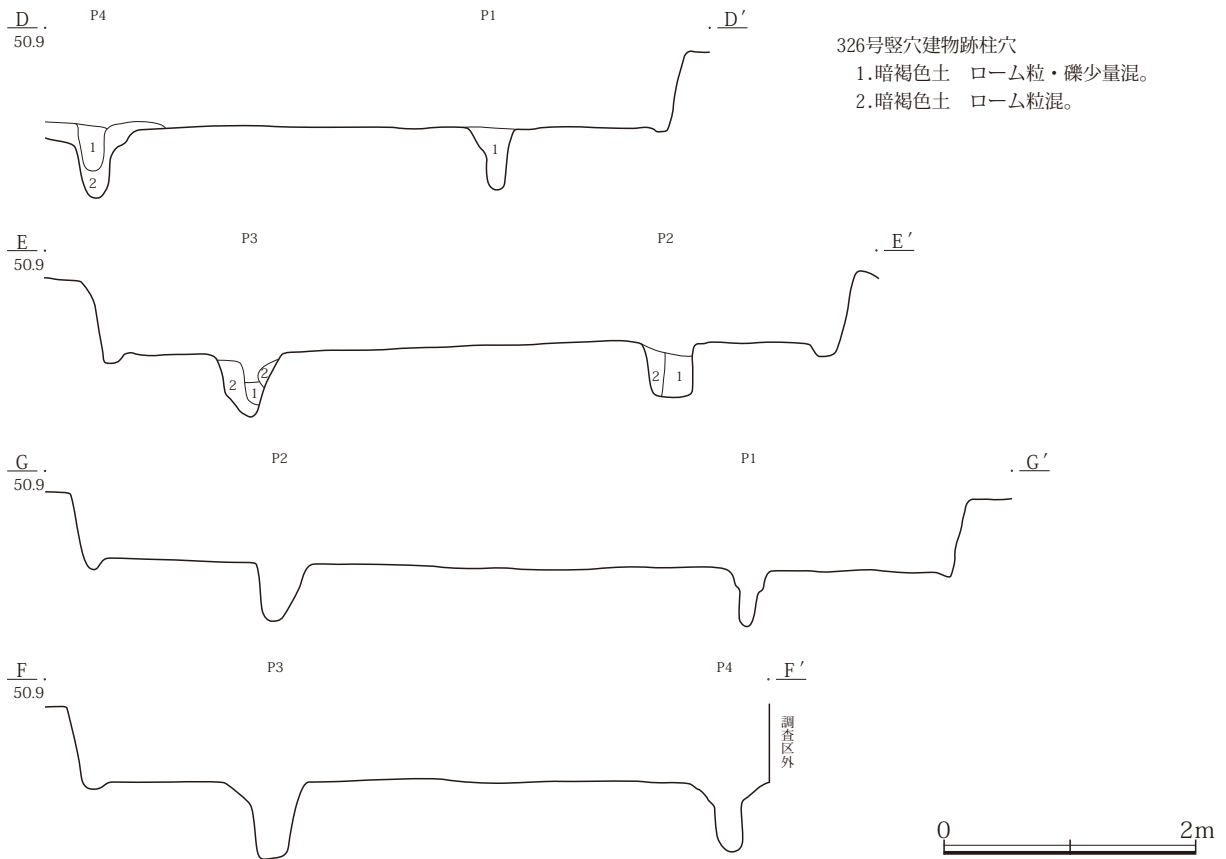
0 2m

第337図 326号竪穴建物跡

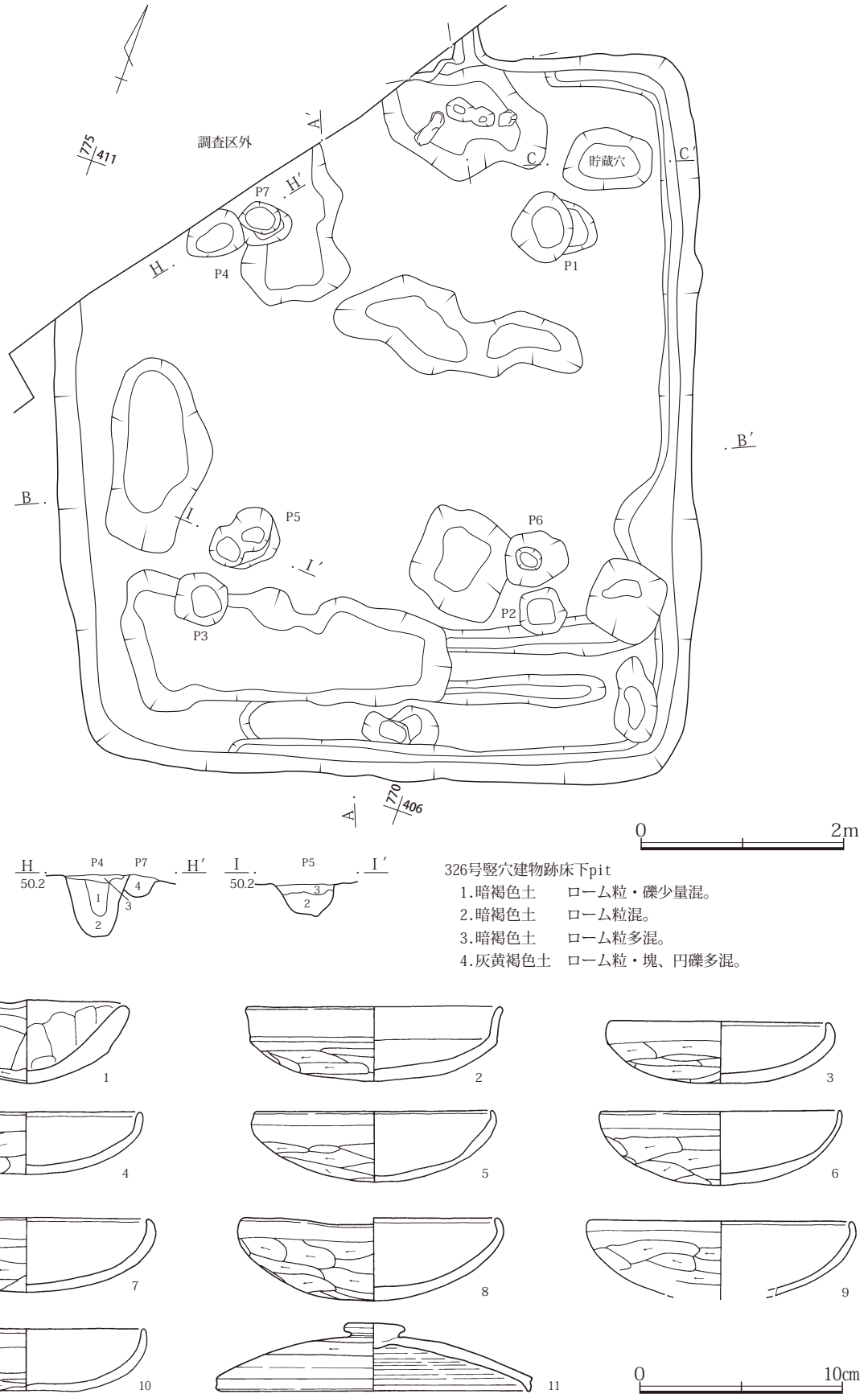
pit4長径 (0.6) m・短径0.6m・深さ0.6m。(床下から検出された4隅旧柱穴) それぞれ位置を若干ずらして柱の建て替えが行われていた様子が分かる。pit1のみは全く同位置で掘り直されている。pit5長

径0.74m・短径0.56m・深さ0.3m、pit6長径0.6m・短径0.56m・深さ0.3m、pit7長径 (0.5) m・短径0.46m・深さ0.42m。 時期：8 C 1。 遺物：竈前から集中して出土。

第3章 発見された遺構と遺物

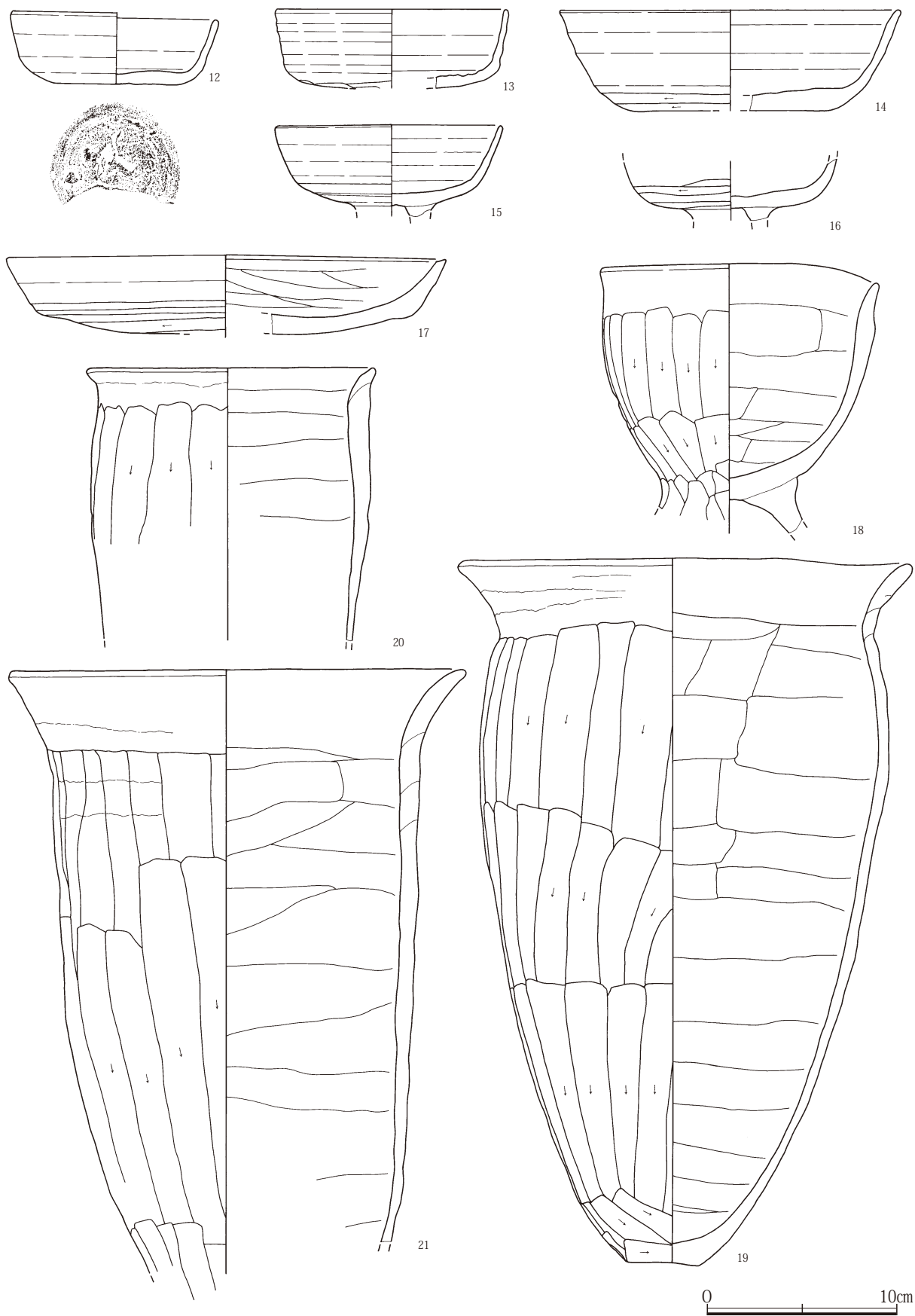


第338図 326号竪穴建物跡竈

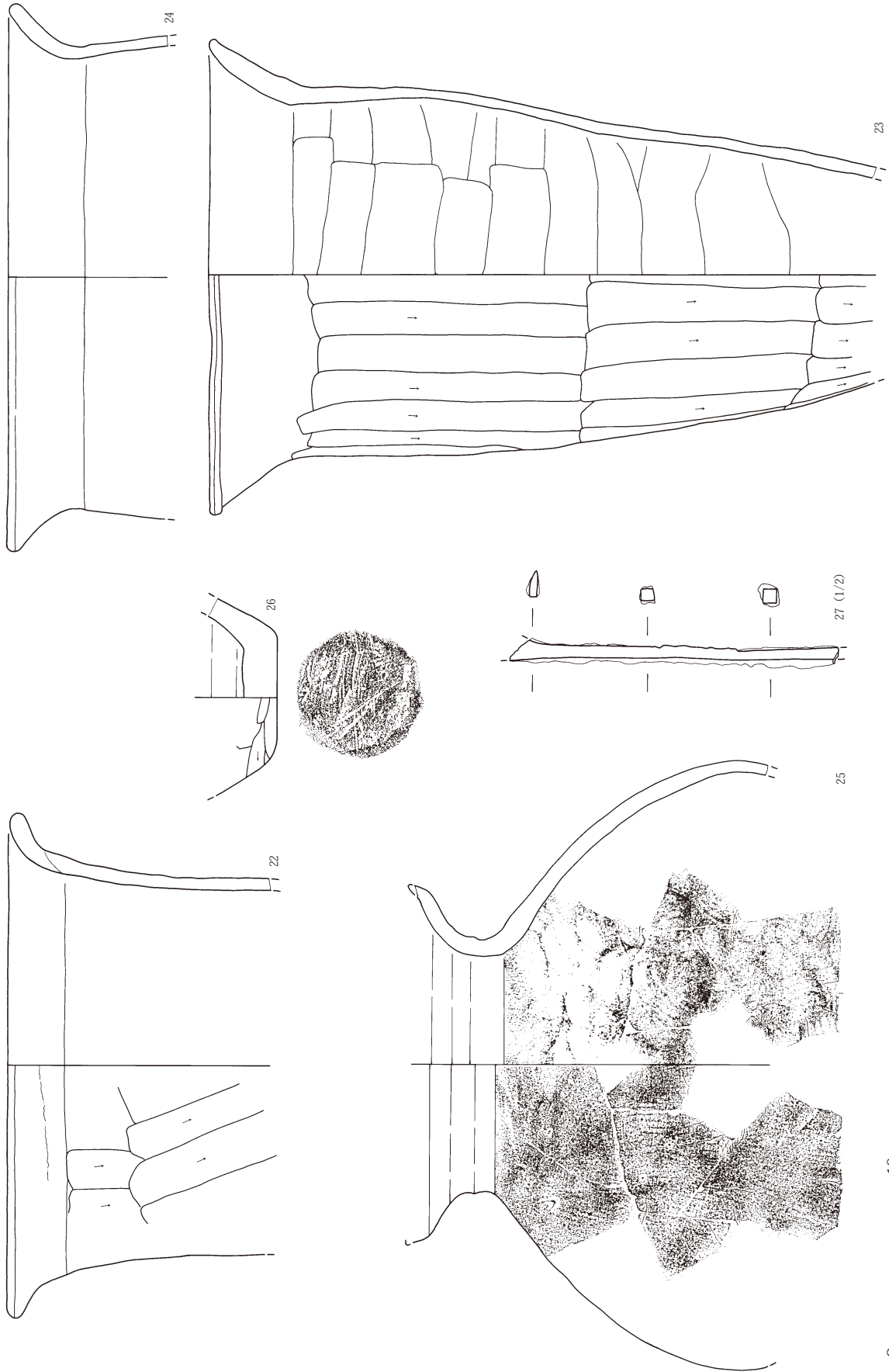


第339図 326号竪穴建物跡・出土遺物（1）

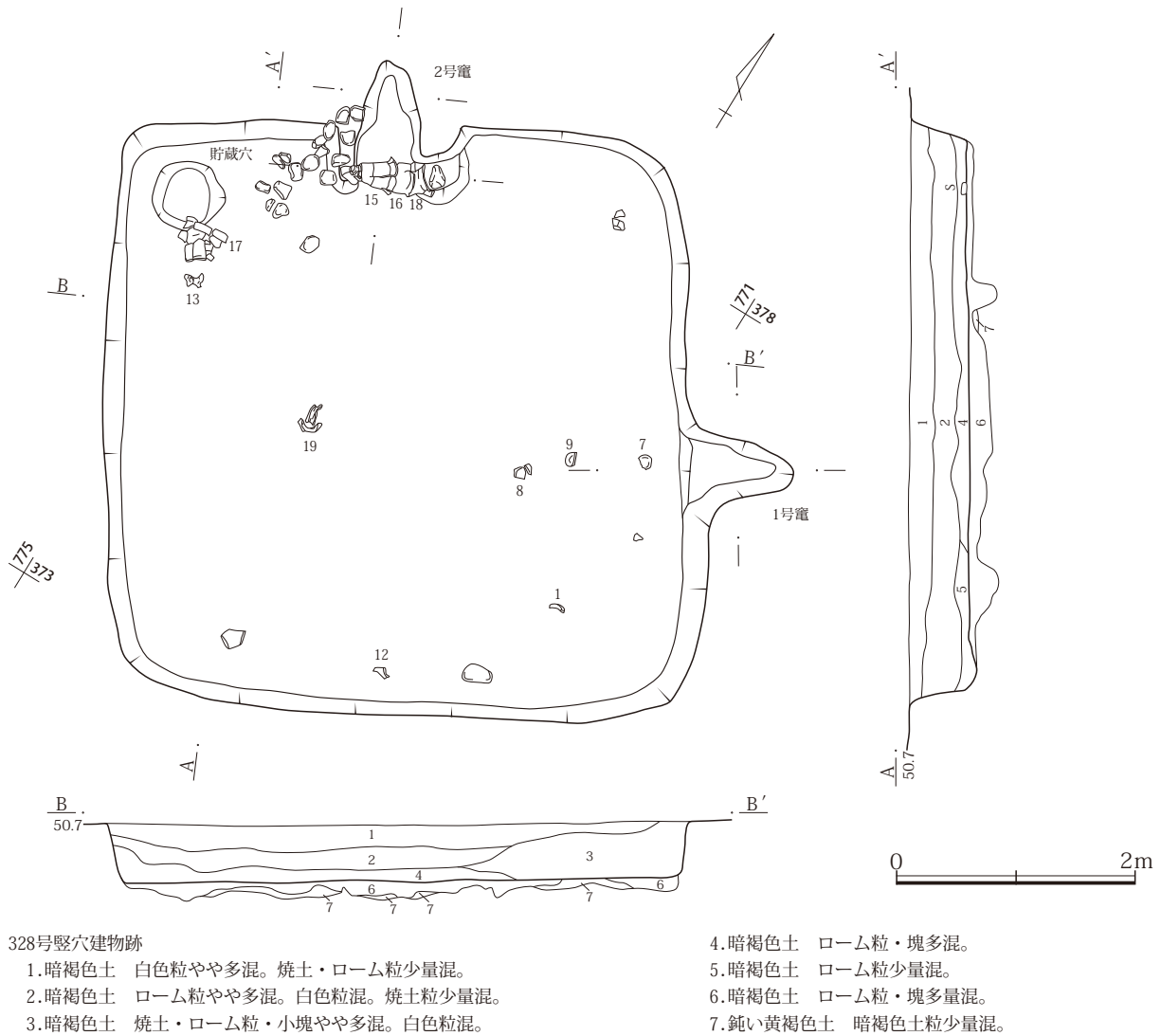
第3章 発見された遺構と遺物



第340図 326号竪穴建物跡出土遺物（2）



第341図 326号竪穴建物跡出土遺物（3）

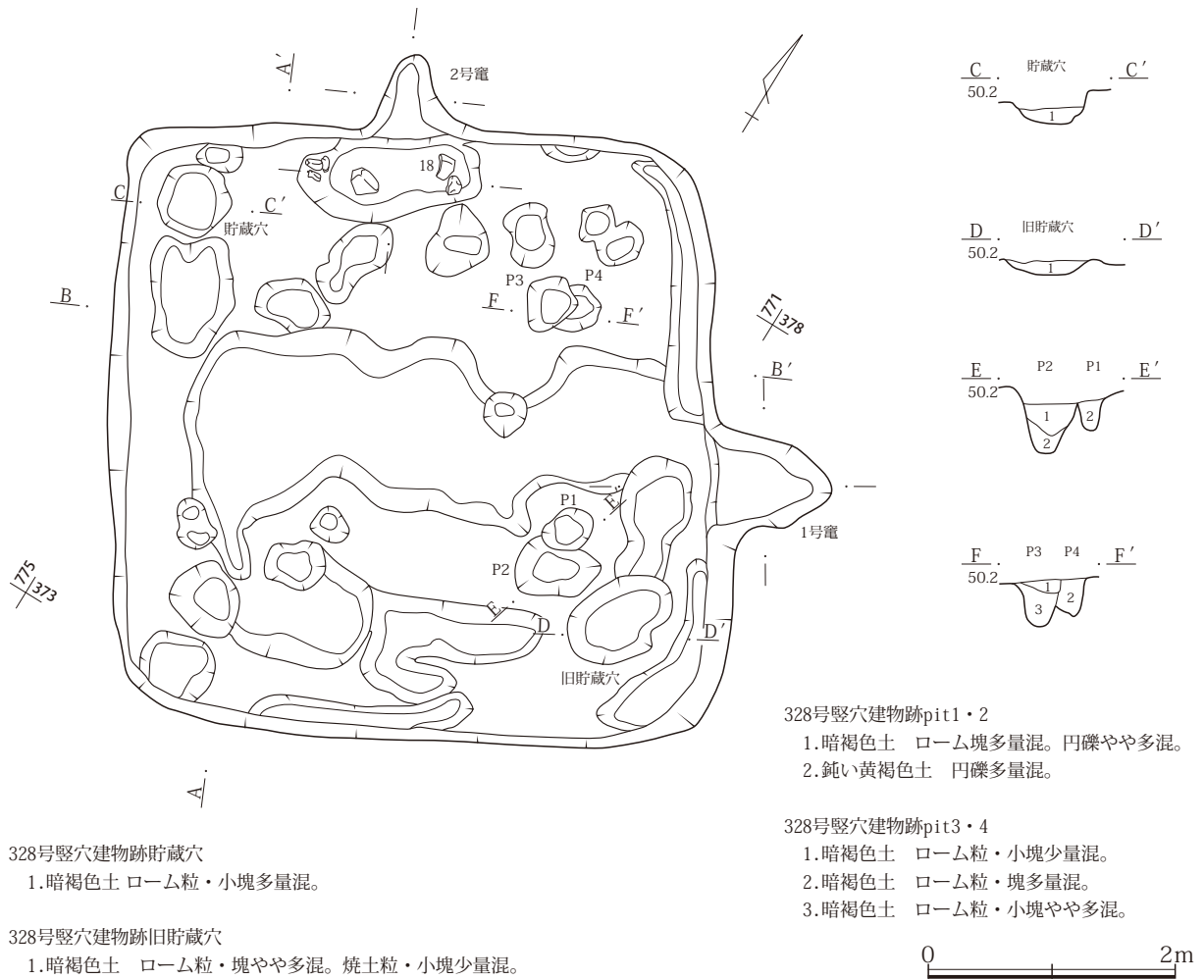


第342図 328号竈穴建物跡

(116) 328号竈穴建物跡

**位置：**調査区北東寄り。X370~375・Y-765~775Gr. **主軸方位：**N-26° -W (2号竈) **重複：**54号溝跡に掘り込まれる。 **規模と形状：**北西-南東方向に若干長いほぼ方形の竈穴建物跡。長辺4.94m・短辺4.9m・床面までの深さ0.5m・掘方までの深さ0.7m。 **埋土：**暗褐色土ベース。 **床面：**地山を凹凸激しく大きく掘り込んだ上にローム粒を多量に含む暗褐色土をやや厚く貼って、硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.05~0.2m。 **掘方：**東壁から南壁の壁際に周溝状の掘り込みがなされ、さらにその内側に土坑がいくつも連結したような一段深い掘り込みが何箇所もみられ、とくに中央部が

一段深く不整形に掘り込まれている。 **竈：**北壁と東壁の中央の2箇所で竈が検出された。東壁で検出された竈を1号、西壁で検出された竈を2号とする。最終使用面で機能していた竈は2号竈であり、1号竈は埋め立てられた状態で検出された。1・2号竈ともに燃烧部・煙道は地山を削り出して形成され、燃烧部は壁の外側に造られている。煙道は外側にやや長く延びている。1号竈では袖は完全に破壊されて検出されなかった。2号竈の両袖は自然石に地山ローム等を貼って構築され、内側にやや大きく張り出している。焚口部からは天井の芯材に使用されたと考えられる土師器長胴甕が、横に重ねられ、床面に落下した状態で出土した。竈は完全に破壊されて



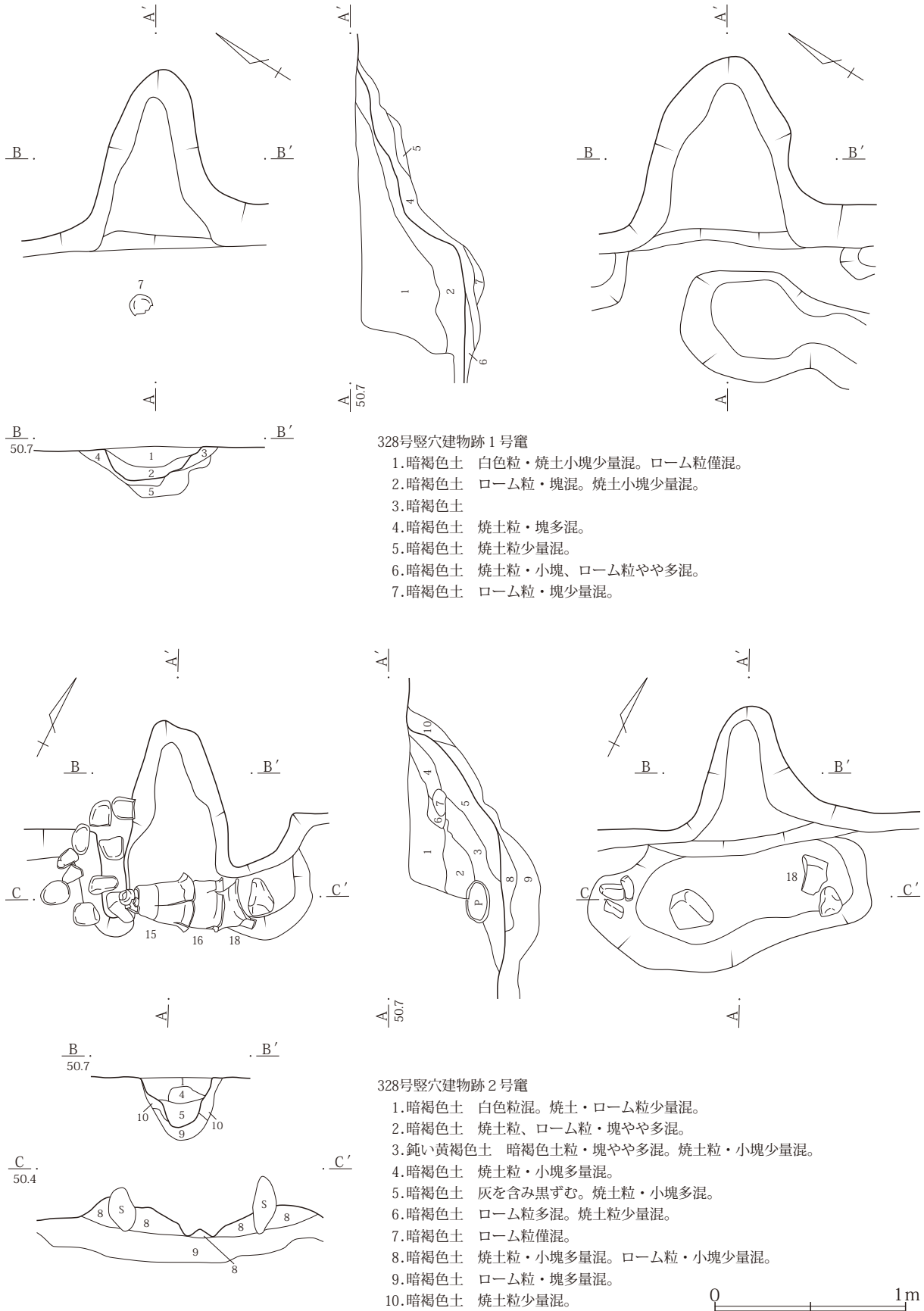
第343図 328号竪穴建物跡掘方

いた。貯蔵穴：2号竈の北西隅において検出された。ほぼ円形状を呈し、径0.6m・深さ0.28m。また、掘方からは、1号竈の南東隅から検出されている。南北に長い楕円形状を呈し、長径0.9m・短径0.65m・深さ0.18m。柱穴・pit：掘方において、北東隅と南東隅の柱穴とも考えられるしっかりとした掘方を有するpitが検出されたが、対応する南西及び北西隅の柱穴に相当するpitが検出されず、それらを柱穴と断定して良いか、若干疑問が遺る。柱穴と考えられるpitは2基が重複して検出され、建て替えがなされていたものと考えられる。いずれにしても使用面では検出されなかったもので、最終使用面では機能していなかったものと考えられる。pit1長径0.4m・短径0.32m・深さ0.5m、pit2長径0.7m・短径0.5m・深さ0.3m、pit3長径0.5m・短径0.4m・

深さ0.38m、pit4長径計測不能・短径0.4m・深さ0.32m。時期：7C4。遺物：2号竈前から比較的集中して出土。

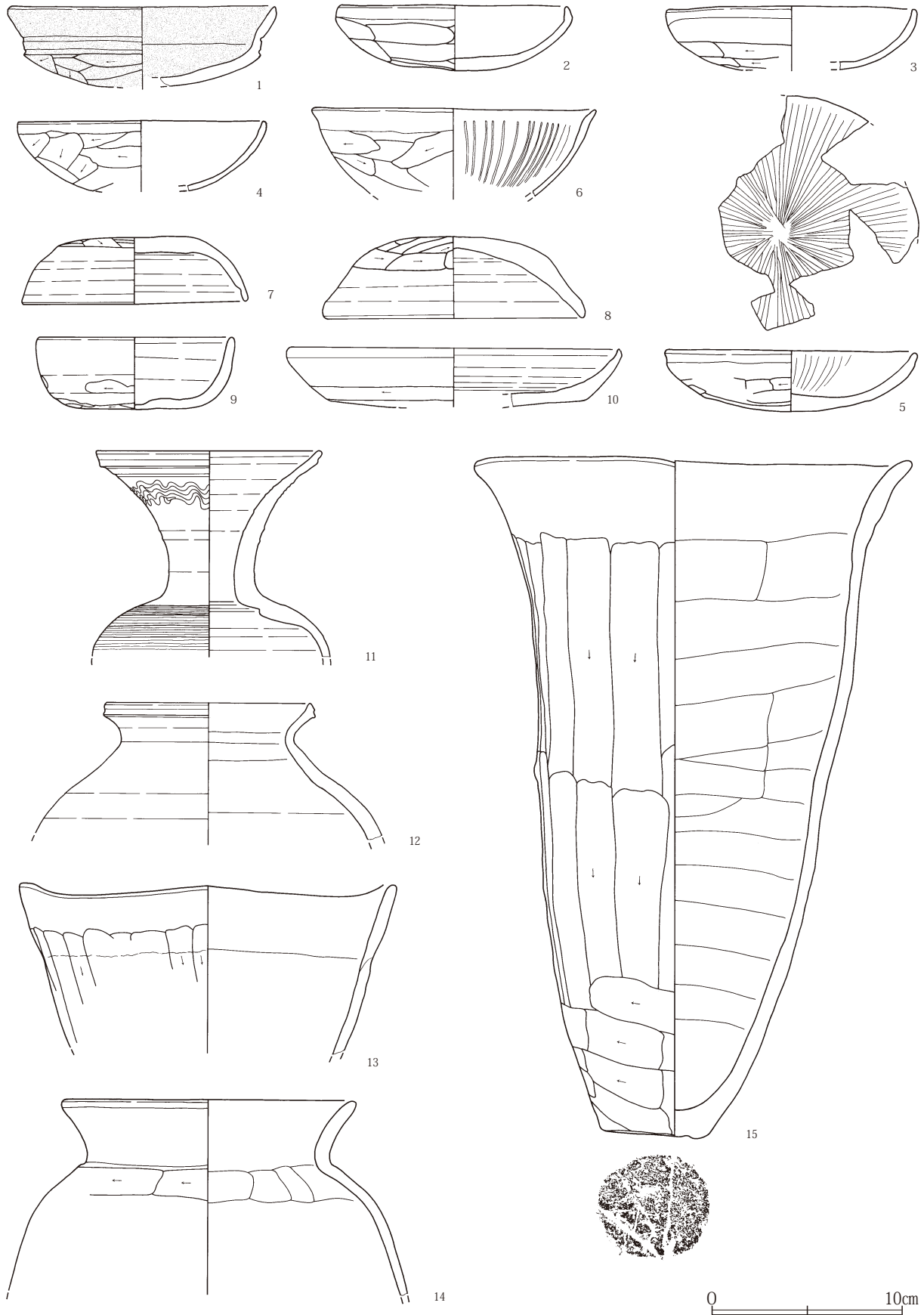
#### (117) 329号竪穴建物跡

位置：調査区東寄り北壁際。X390・Y-775--780Gr. 主軸方位：N-73° -E 重複：10号井戸跡、1113号土坑跡に掘り込まれる。1135土坑跡、1170・1171・1173号pitを掘り込む。規模と形状：東西にやや長いほぼ方形の竪穴建物跡。長辺3m・短辺2.63m・床面までの深さ0.3m・掘方までの深さ0.47m。埋土：暗褐色土ベース。床面：地山を比較的平坦に掘り出した上にローム粒を含む暗褐色土を薄く貼って平坦な面を形成し、硬質な床面をつくっている。床面の厚さは約0.05～0.2m。掘方：竈

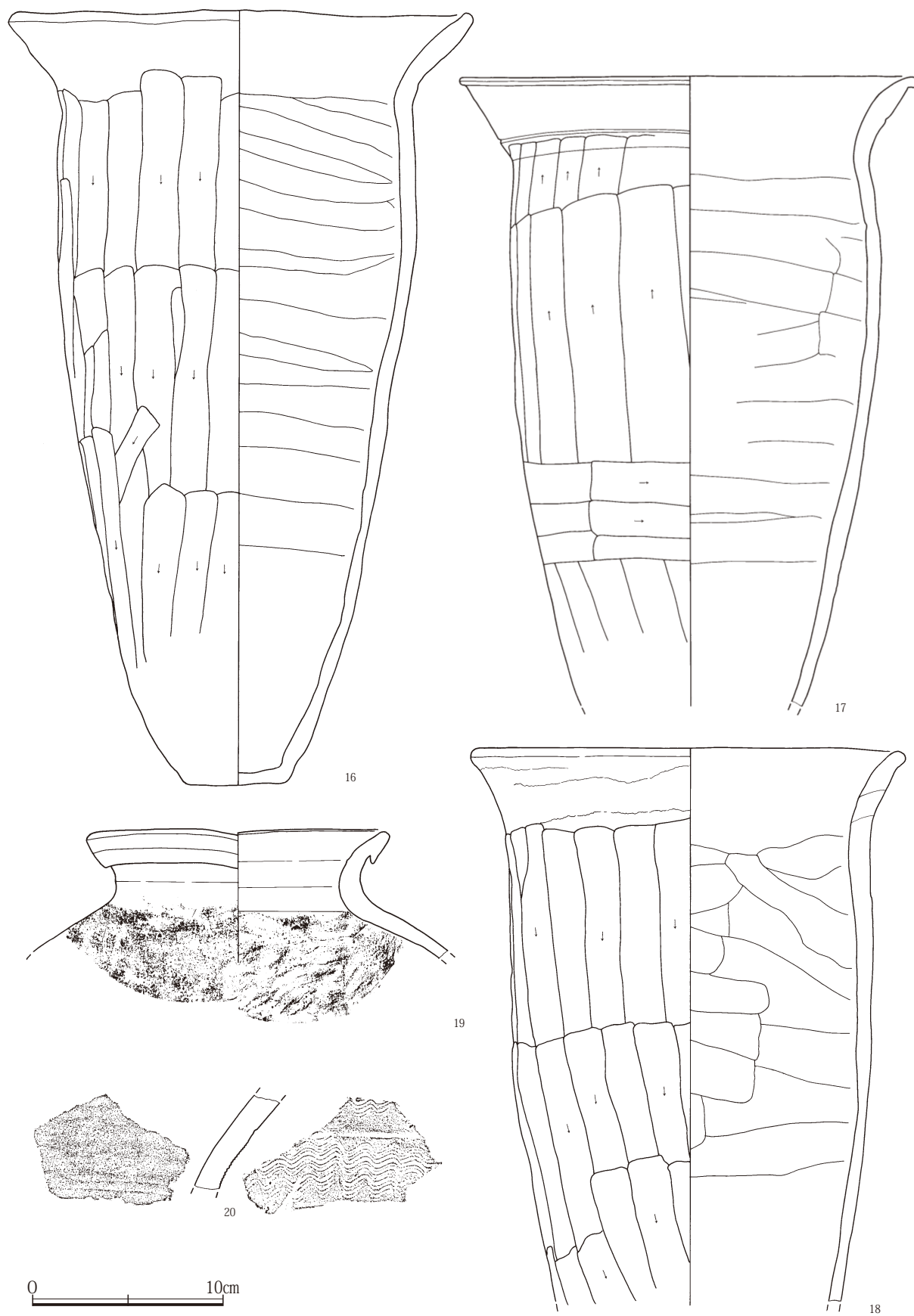


第344図 328号竖穴建物跡窟

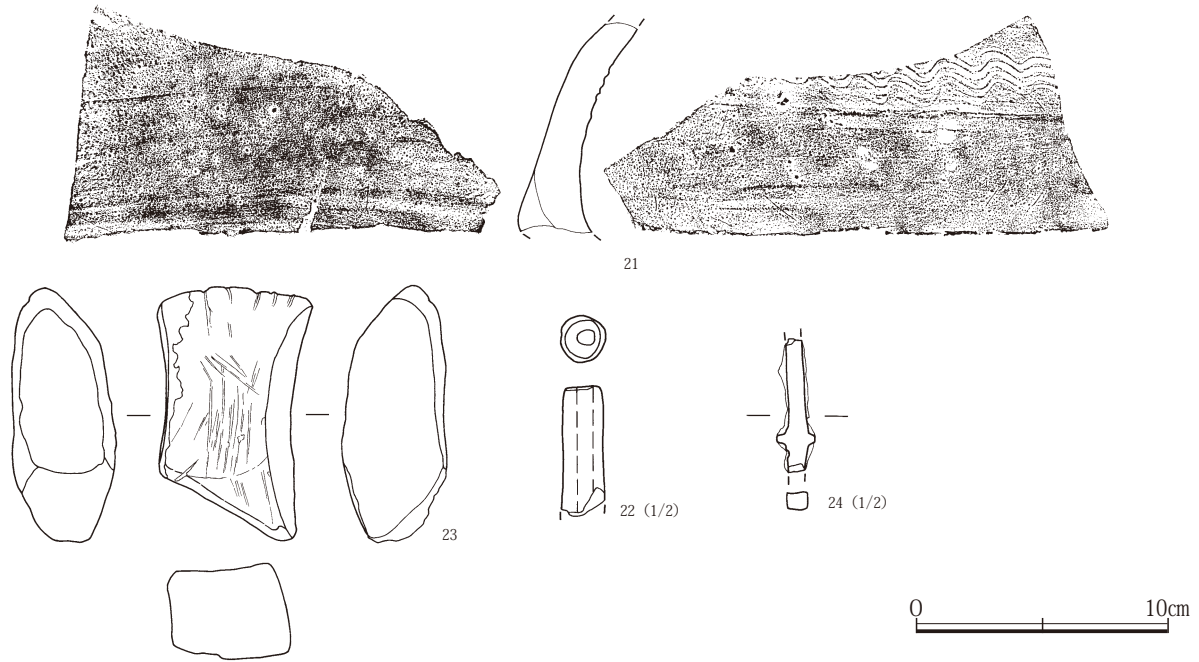




第345図 328号竪穴建物跡出土遺物（1）



第346図 328号竪穴建物跡出土遺物（2）



第347図 328号竪穴建物跡出土遺物（3）

前と中央部が土坑状に一段低く広く掘り窪められている。南壁際で床下のpitが1基検出されている。

**竈**：東壁の南寄りに取り付く。燃烧部・煙道は地山を削り出して形成され、燃烧部は壁とほぼ同位置に造られている。煙道は外側にやや長く延びている。両袖は自然石に地山ローム等を貼って構築され、内側に大きく張り出している。**貯蔵穴**：なし。**柱穴・pit**：南壁際で床下pit1が検出された。長径0.42m・短径0.35m・深さ0.4m、長方形状を呈し、しっかりと掘方を有するが、用途や機能は不明である。

**時期**：8 C代。**遺物**：埋土中より2。

(118) 330号竪穴建物跡

**位置**：調査区東寄り北壁際。X395-400・Y-775~780Gr。**主軸方位**：不明。**重複**：なし。**規模と形状**：南壁と東・西両壁の一部が検出されたに過ぎない。南辺4.57m・床面までの深さ0.45m・掘方までの深さ0.54m。**埋土**：暗褐色土ベース。**床面**：地山を平坦に掘り出した上にローム粒を多量に含む暗褐色土を薄く貼って平坦な面を形成し、硬質な床面をつくっている。床面の厚さは約0.02～0.09m。

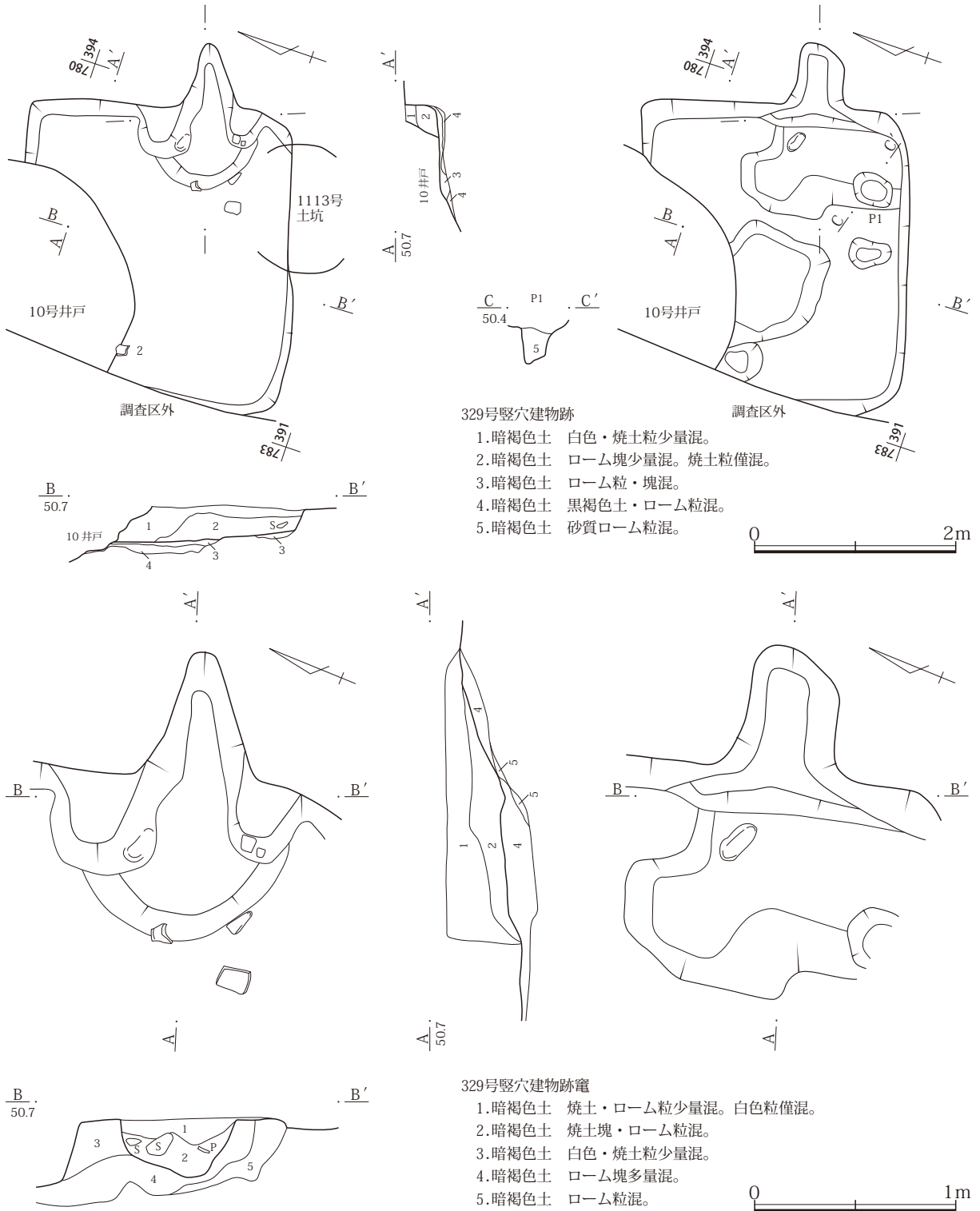
**掘方**：東壁際に南北方向に長い不整形の土坑状の

掘り込みが、また、南隅にも円形の土坑状の一段深い掘り込みが認められるが、起伏はあまり大きくはない。**竈**：未検出。**貯蔵穴**：未検出。**時期**：7 C後か？。**遺物**：建物の南寄りに比較的集中して出土。

(119) 331号竪穴建物跡

**位置**：調査区東寄り北壁際。X395-400・Y-770--775Gr。**主軸方位**：N-96° -E **重複**：1114・1115号土坑跡に掘り込まれる。79・81号掘立柱建物跡を掘り込む。**規模と形状**：東西に長い長方形状を呈する。長辺4.3m・短辺3.67m・床面までの深さ0.5m・掘方までの深さ0.74m。**埋土**：暗褐色土ベース。**床面**：地山を凹凸激しく大きく掘り込んだ上にローム粒を多く含む暗褐色土を厚く貼って平坦な面を形成し、硬質な床面をつくっている。床面の厚さは約0.06～0.26m。**掘方**：北壁際から中央にかけてと西壁際、隅、竈前などに土坑状の一段深い掘り込みがあり、起伏に富んでいる。**竈**：東壁の南東隅寄りに取り付く。燃烧部・煙道・両袖は地山を削り出して形成され、燃烧部は壁とほぼ同位置に造られている。煙道は外側にやや長く延びている。

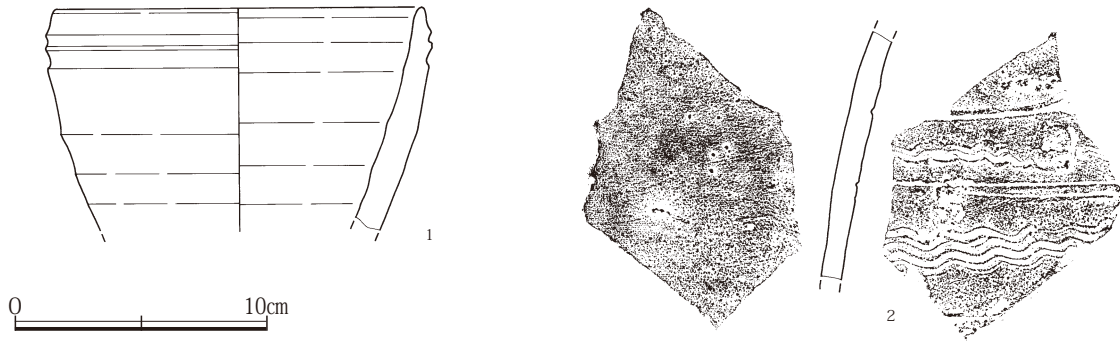
第3章 発見された遺構と遺物



第348図 329号竪穴建物跡

両袖は内側に若干張り出している。貯蔵穴：なし。  
 柱穴・pit：床下土坑が1基検出されている。床下土坑1は長径1.08m・短径0.83m・深さ0.3m。南

北に長い楕円形状を呈する。時期：8C2。遺物：建物の中央部に散在。須恵器盤（7・8）が目される。



第349図 329号竪穴建物跡出土遺物

## (120) 333号竪穴建物跡

**位置**：調査区の北東寄り。X380~385・Y-770~775Gr. **主軸方位**：N-23° -W **重複**：1109～1111号土坑跡に掘り込まれる。334号竪穴建物跡を掘り込む。**規模と形状**：北西-南東方向に主軸をとるほぼ方形の竪穴建物跡。長辺6.6m・短辺6.2m・床面までの深さ0.44m・掘方までの深さは0.62m。

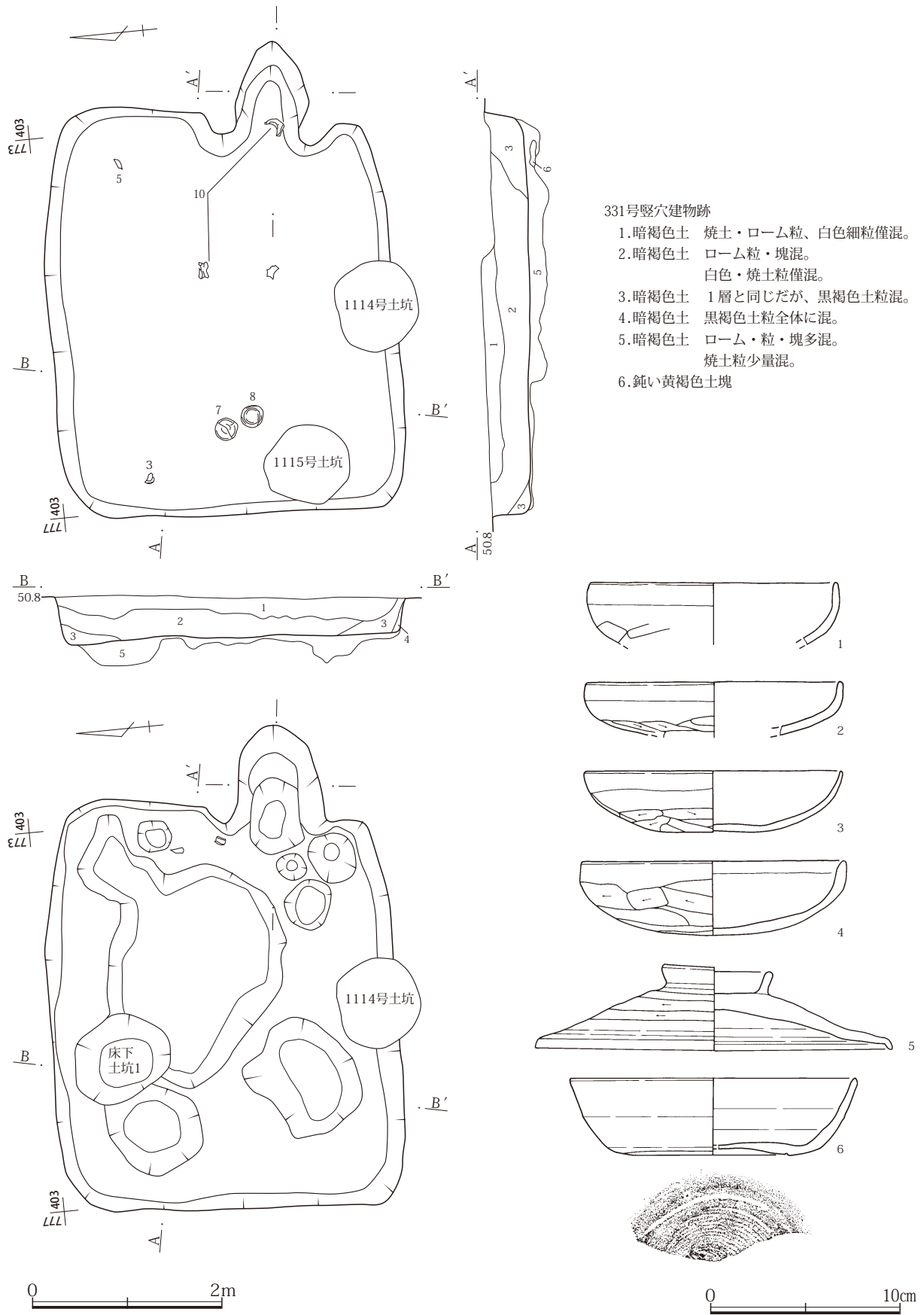
**埋土**：暗褐色土ベース。**床面**：地山を比較的凹凸激しく大きく掘り込んだ上にローム粒を含む暗褐色土を貼って硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.1～0.18m。**周溝**：竈前を除く全域に周溝が廻る。最大上幅0.4m・最大下幅0.18m・深さ0.08m。**掘方**：pit2・3にかかる部分には土坑がそれぞれ掘り込まれ（床下土坑1・2）、西壁際では土坑状の掘り込みがいくつも連続して掘り込まれている。南西隅付近でpitが2基検出されている（pit6・7）。**竈**：北壁の中央やや東寄りに取り付く。燃焼部・煙道は地山を削り出して形成され、燃焼部は壁とほぼ同位置に造られている。両袖は、地山ローム等を貼って構築され、内側に若干張り出している。煙道は外側にやや長く張り出している。全体的に小規模である。**貯蔵穴**：北東隅で検出。東西にやや長い楕円形状を呈し、長径0.7m・短径0.54m・深さ0.35m。**柱穴・pit**：（4隅柱穴）4隅の柱穴が検出された。pit1長径0.66m・短径0.62m・深さ0.67m、pit2長径0.96m・短径0.65m・深さ0.3m、pit3長径0.7m・短径0.58m・深さ0.38m、pit4長径0.7m・短径0.7m・深さ0.48m。（床下土坑）床下土坑1は、東西に長い不整楕円形状を呈し、長径1.48m・短径

0.92m・深さ0.28m。床下土坑2は、南北に長い楕円形状を呈し、長径1.74m・短径1.25m・深さ0.34m。（床下pit）南西隅で2基検出された。いずれも楕円形を呈し、しっかりとした掘方を有している。床下pit5長径0.62m・短径0.45m・深さ0.26m、床下pit6長径0.5m・短径0.4m・深さ0.4m。**時期**：7C前。**遺物**：建物全域に散在。多量の遺物が出土。

## (121) 334号竪穴建物跡

**位置**：調査区の北寄り。X380~385・Y-775~780Gr. **主軸方位**：N-30° -W **重複**：333号竪穴建物跡、1112・1118・1119・1125号土坑跡に掘り込まれる。**規模と形状**：北西-南東方向に主軸をとるほぼ方形の竪穴建物跡。長辺5.94m・短辺5.9m・床面までの深さ0.3m・掘方までの深さは0.4m。**埋土**：黒褐色土ベース。**床面**：地山を比較的平坦に削り出した上に白色粒を含む褐色土を貼って硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.1m前後。**掘方**：比較的平坦で、あまり顕著な凹凸や起伏は認められない。**竈**：北壁のほぼ中央やや西寄りに取り付く。燃焼部・煙道・両袖は地山を削り出して形成され、燃焼部は壁とほぼ同位置に造られている。中央から土師器長胴甕の破片が伏せられた状態で、口縁部を下にして出土した。支脚に使われた可能性があろう。両袖は、建物の内部には全く張り出さない。煙道は顕著には検出されなかった。全体的に小規模である。**貯蔵穴**：建物の北東隅で検出された。東西に長く、さらに南側に張り出すL字型を呈し、長径1.24m・短径0.54m・深さ0.12m。**柱**

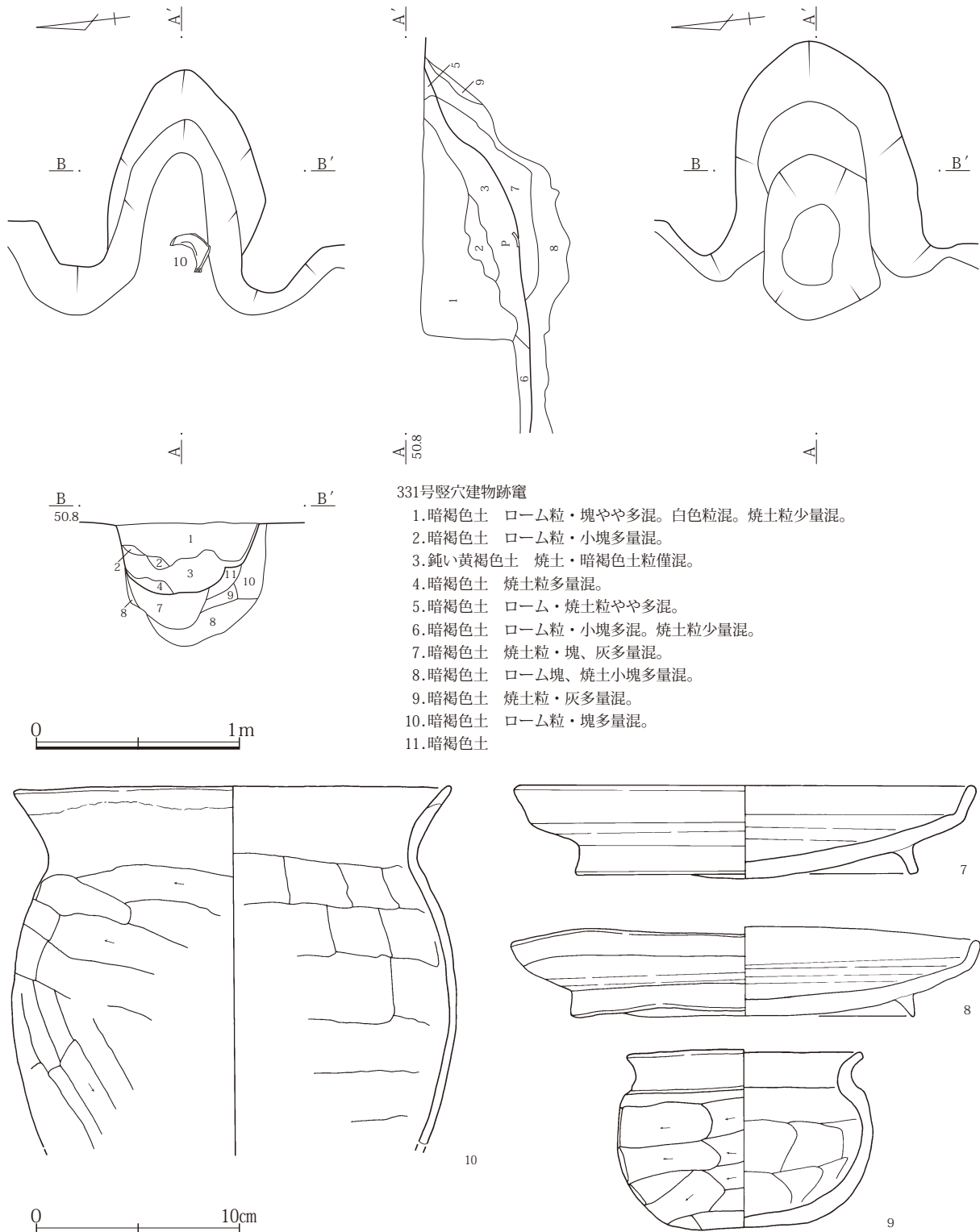




331号竪穴建物跡

1. 暗褐色土 焼土・ローム粒、白色細粒僅混。
2. 暗褐色土 ローム粒・塊混。  
白色・焼土粒僅混。
3. 暗褐色土 1層と同じだが、黒褐色土粒混。
4. 暗褐色土 黒褐色土粒全体に混。
5. 暗褐色土 ローム・粒・塊多混。  
焼土粒少量混。
6. 鈍い黄褐色土塊

第351図 331号竪穴建物跡・出土遺物（1）

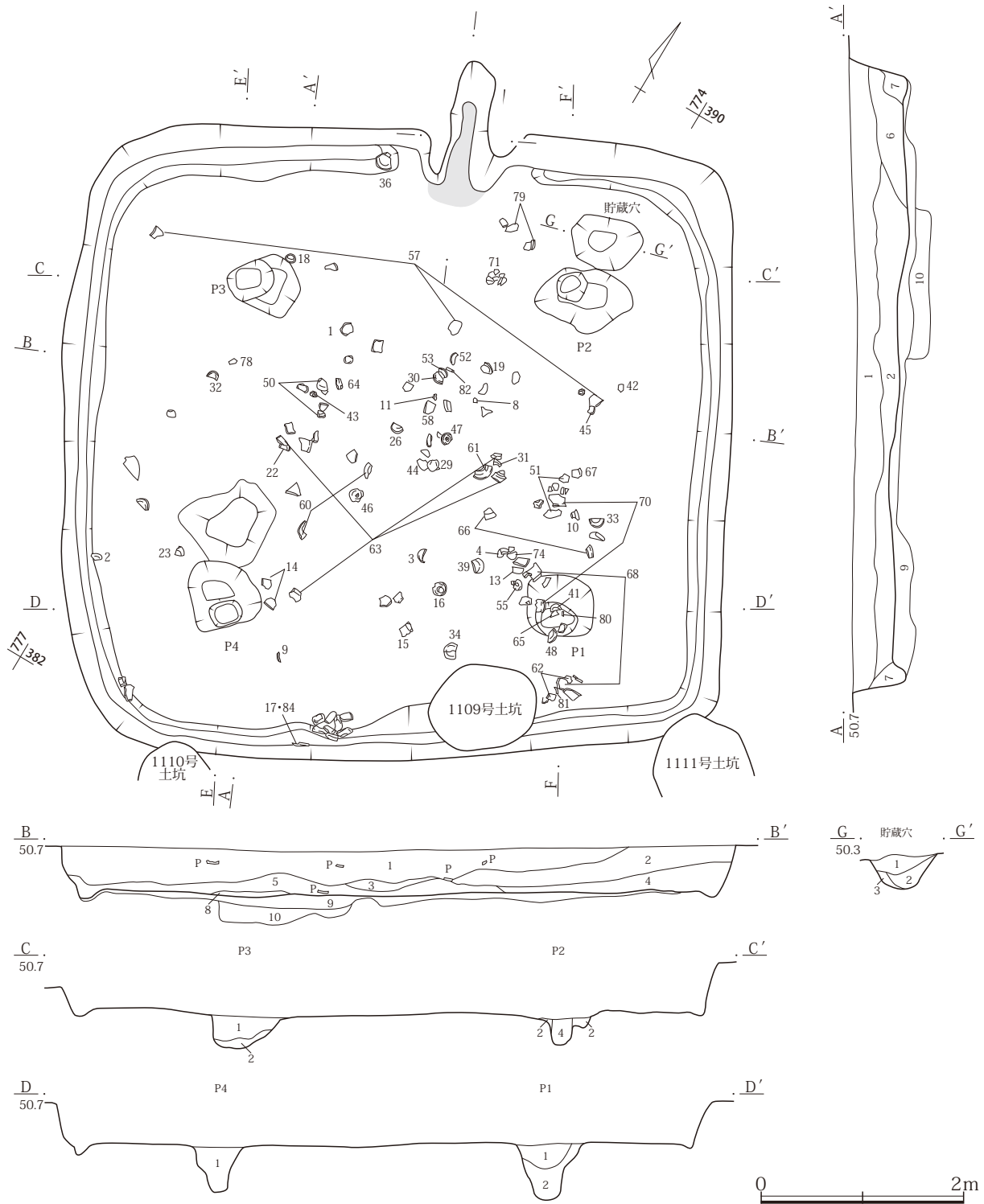


第352図 331号竪穴建物跡竈・出土遺物（2）

穴・pit：(4隅柱穴) 北・西・南の3基と、竈前の中央に1基、計4基の柱穴が検出された。東柱穴は333号竪穴建物跡によって破壊された部分に当たり、検出されなかった。pit1長径0.56m・短径0.52m・深

さ0.48m、pit2長径0.55m・短径0.52m・深さ0.2m、pit3長径0.7m・短径0.55m・深さ0.48m、pit4長径0.6m・短径0.52m・深さ0.3m。 時期：6 C前。 遺物：すべて埋土中からの出土。





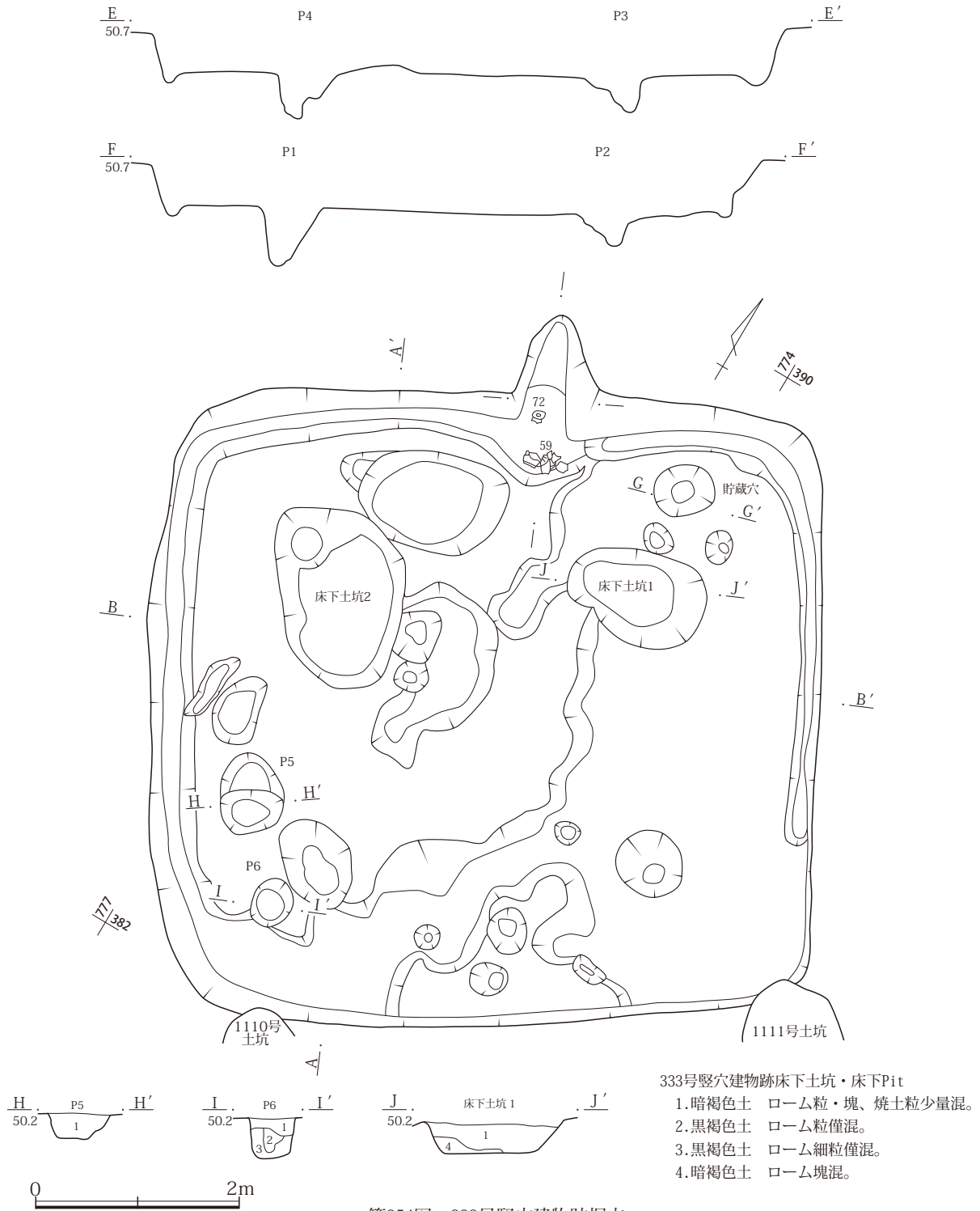
333号竪穴建物跡

1. 暗褐色土 白色粒混。焼土・炭化物・ローム粒少量混。
2. 暗褐色土 ローム粒やや多混。白色粒混。焼土粒少量混。
3. 暗褐色土 やや黒ずむ。焼土・炭化物粒やや多混。
4. 暗褐色土 焼土粒・小塊やや多混。ローム粒少量混。
5. 暗褐色土 焼土・炭化物粒、ローム粒・小塊少量混。
6. 暗褐色土 ローム粒多量混。白色粒混。焼土粒少量混。
7. 暗褐色土 ローム塊やや多混。

8. 暗褐色土 ローム粒・塊多量混。
  9. 暗褐色土 ローム粒・塊少量混。
  10. 暗褐色土 ローム塊多量混。
- 333号竪穴建物跡貯蔵穴・柱穴
1. 暗褐色土 ローム粒・小塊、焼土・黒褐色土粒少量混。
  2. 暗褐色土 ローム・焼土粒少量混。
  3. 暗褐色土 ローム粒・塊やや多混。
  4. 暗褐色土 焼土・ローム粒少量混。

第353図 333号竪穴建物跡

第3章 発見された遺構と遺物



第354図 333号竪穴建物跡掘方

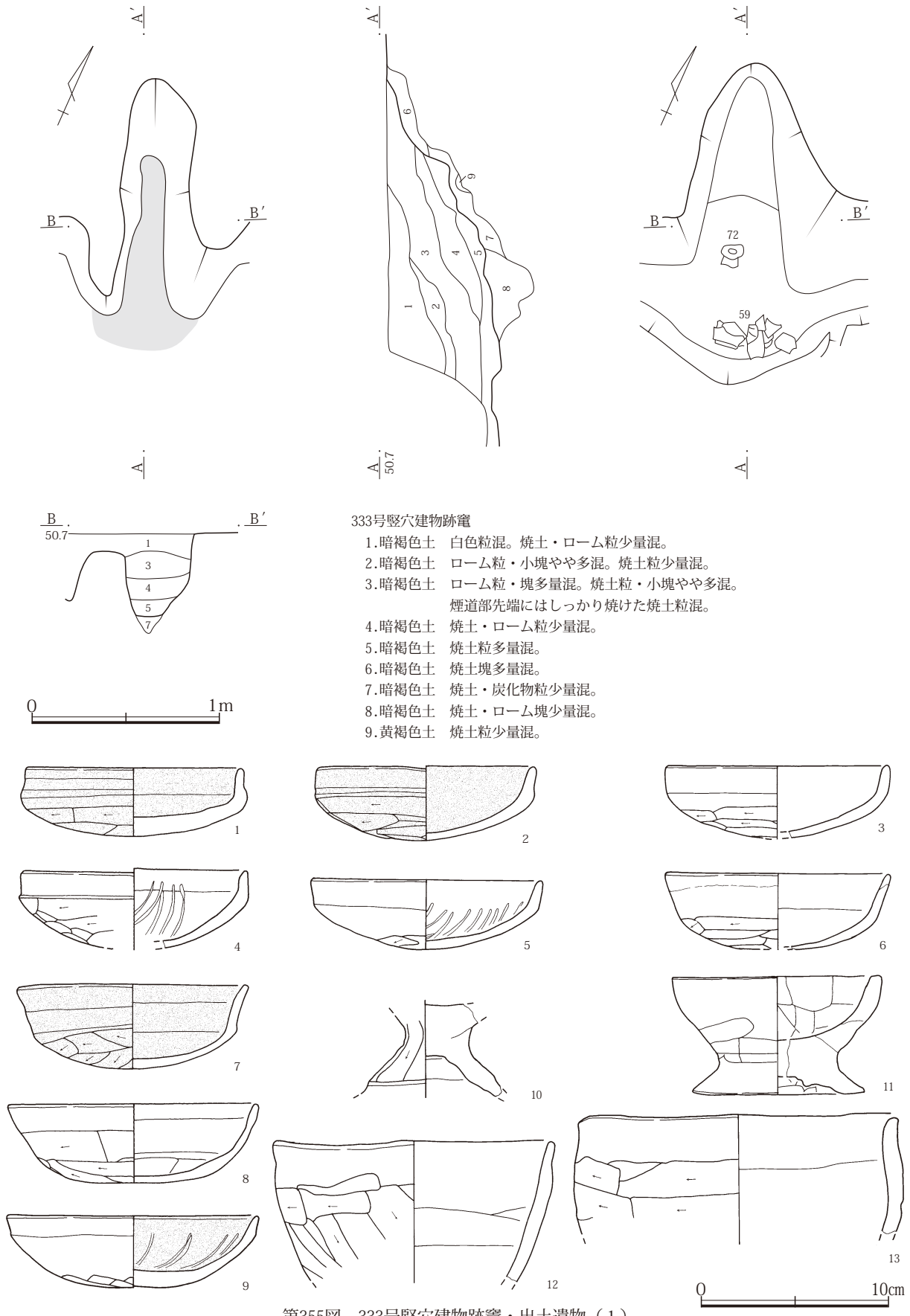
(122) 336号竪穴建物跡

**位置：**調査区北東。X 400~405・Y 760~765Gr.  
**主軸方位：**N-82° -E **重複：**337号竪穴建物跡・64号掘立柱建物跡を掘り込む。  
**規模と形状：**東西に長い長方形を呈する。長辺3.82m・短辺3.48m・

床面までの深さ0.44m・掘方までの深さ0.65m。

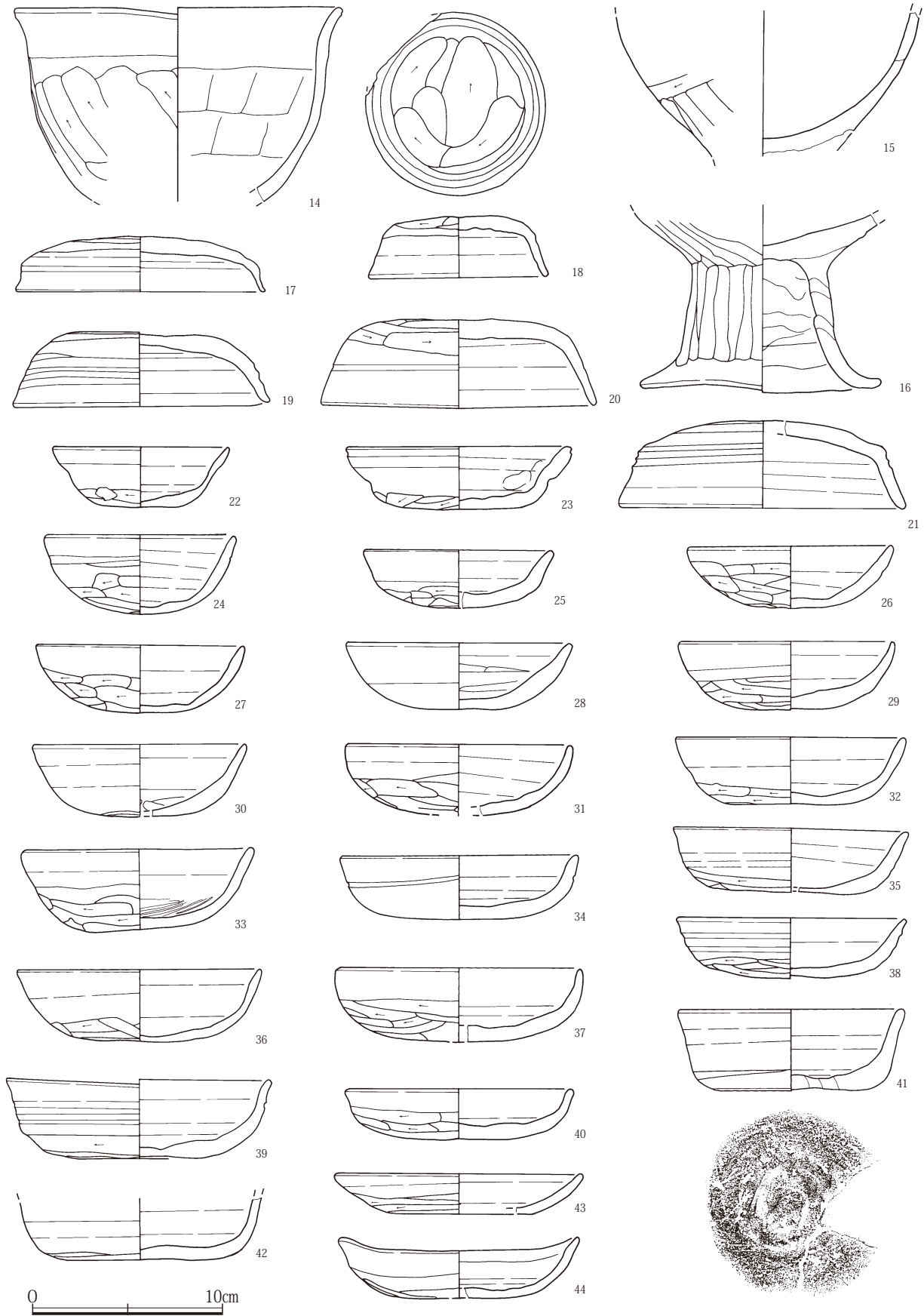
**埋土：**黒褐色土ベース。**床面：**地山を掘り窪めた上に礫と白色粒を含む黒褐色土を貼って硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.03~0.21m。

**掘方：**比較的平坦だが、部分的に土坑状の掘り込

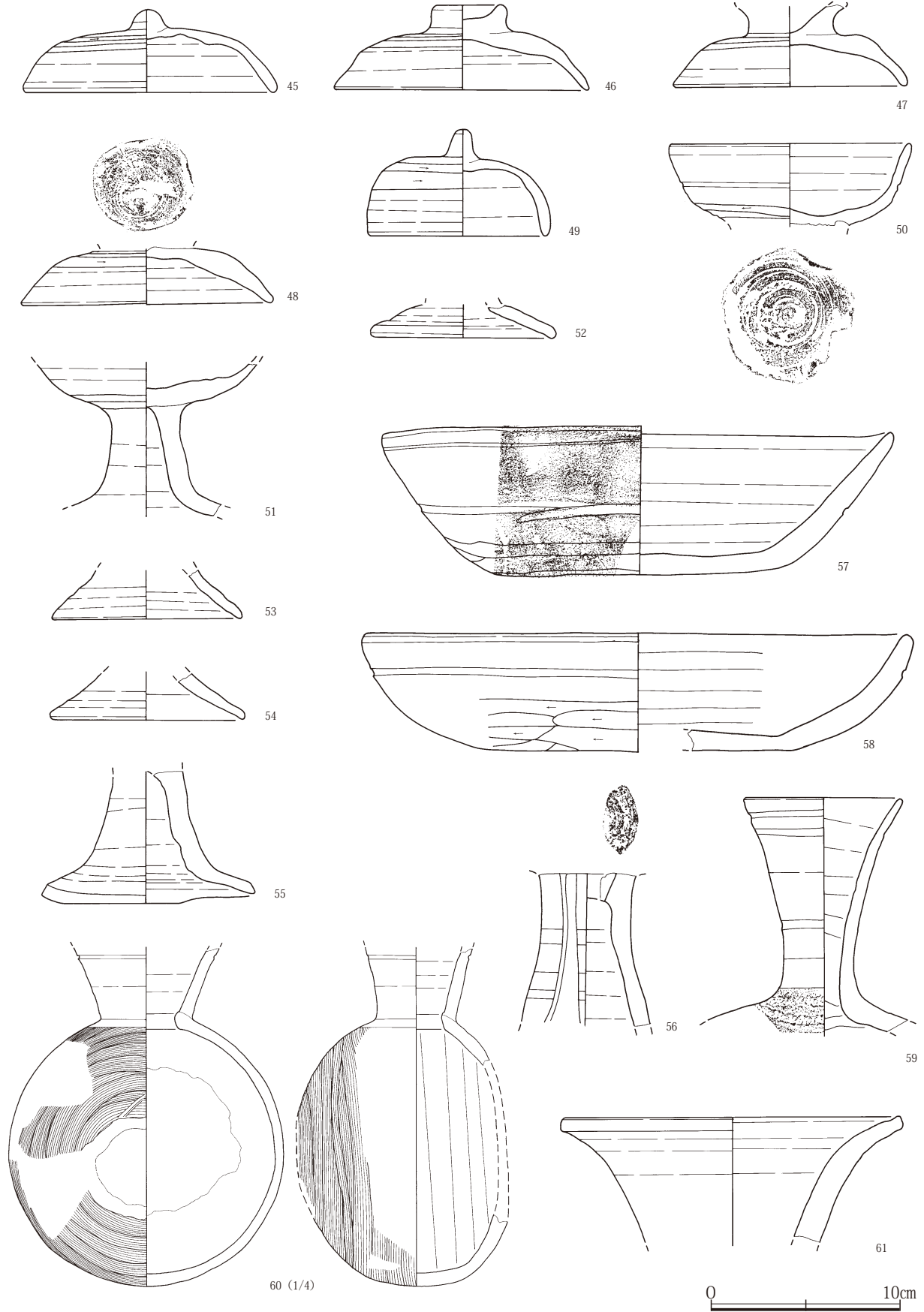


第355図 333号竪穴建物跡竈・出土遺物（1）

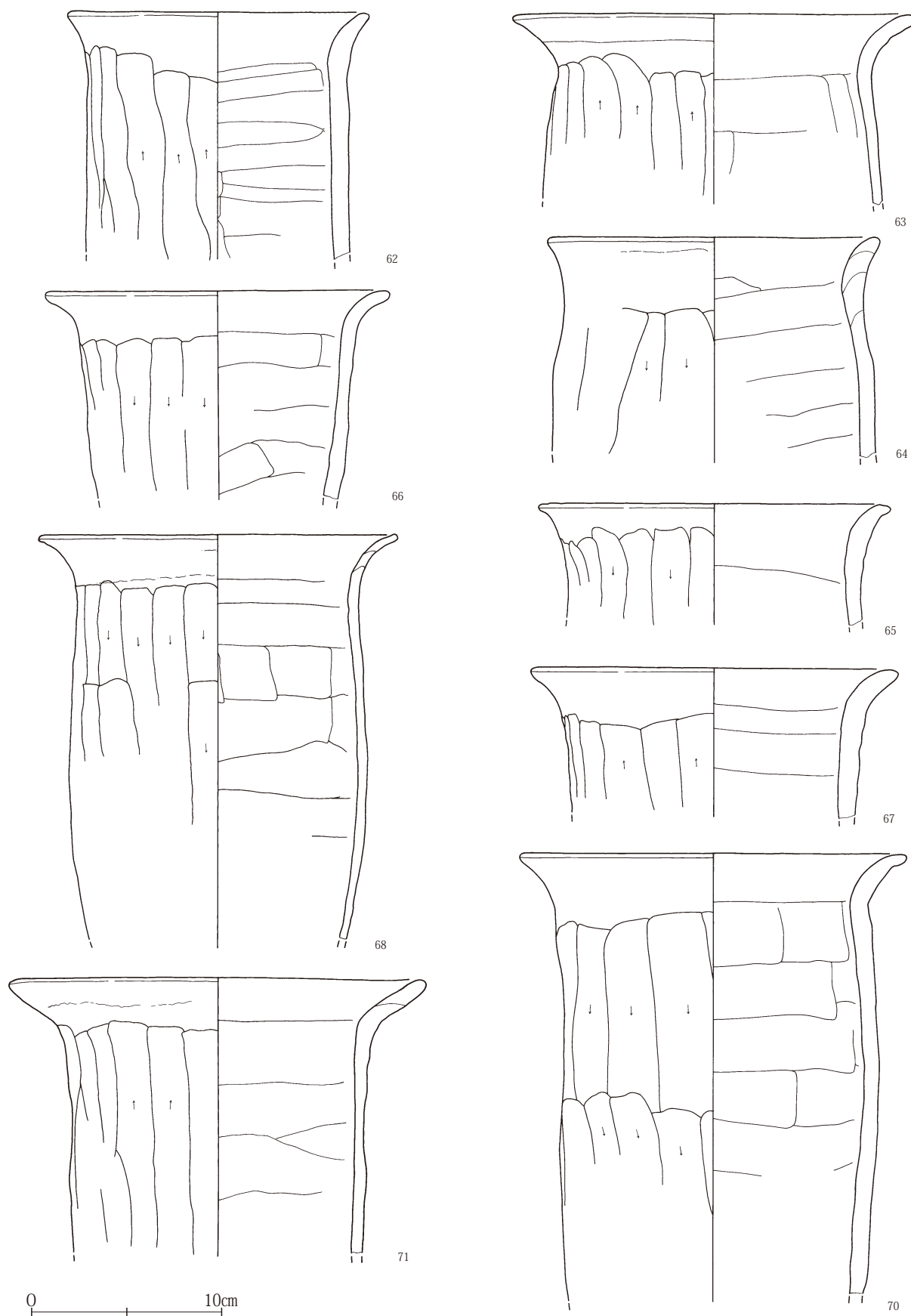
第3章 発見された遺構と遺物



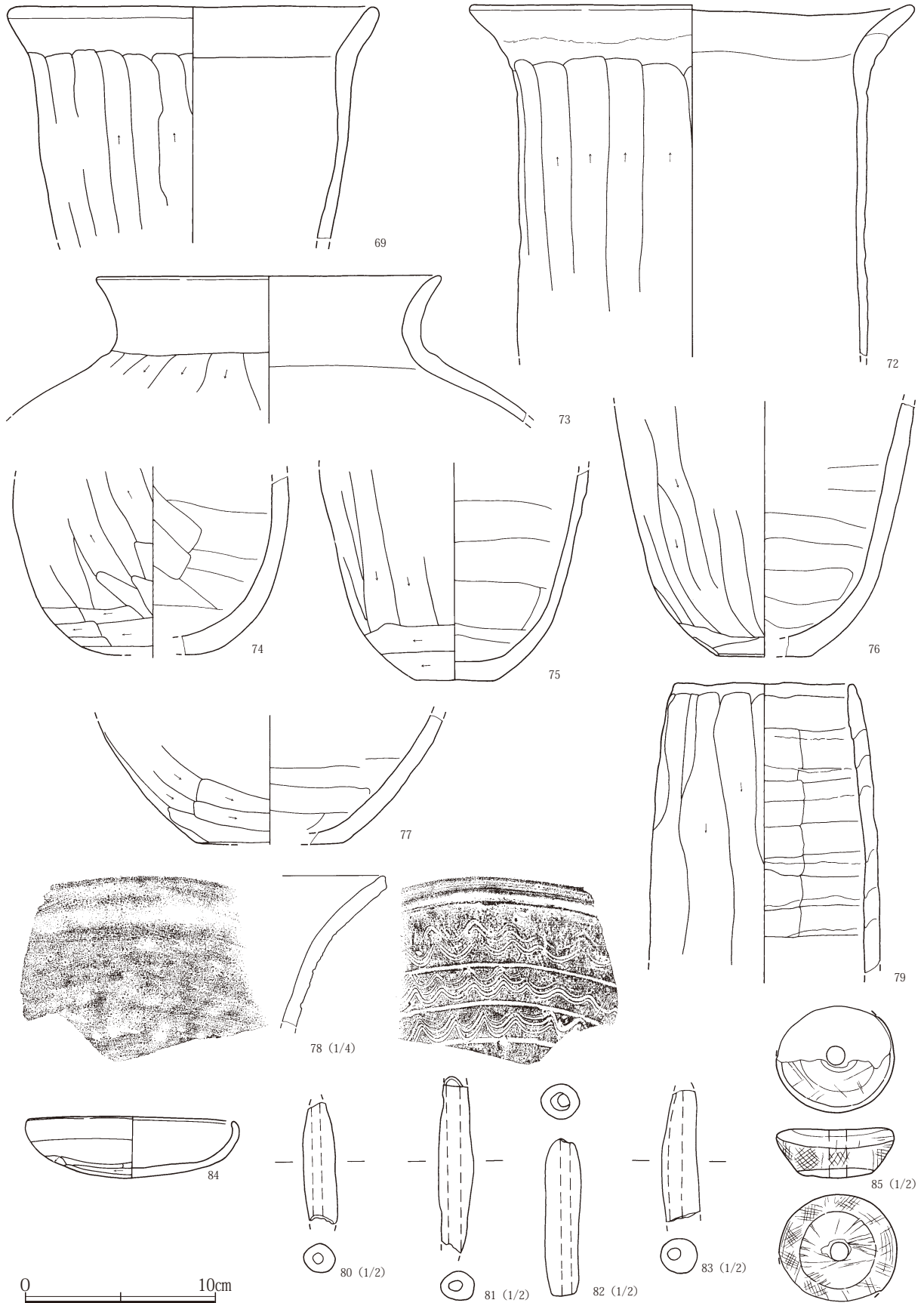
第356図 333号竪穴建物跡出土遺物（2）



第357図 333号竪穴建物跡出土遺物（3）

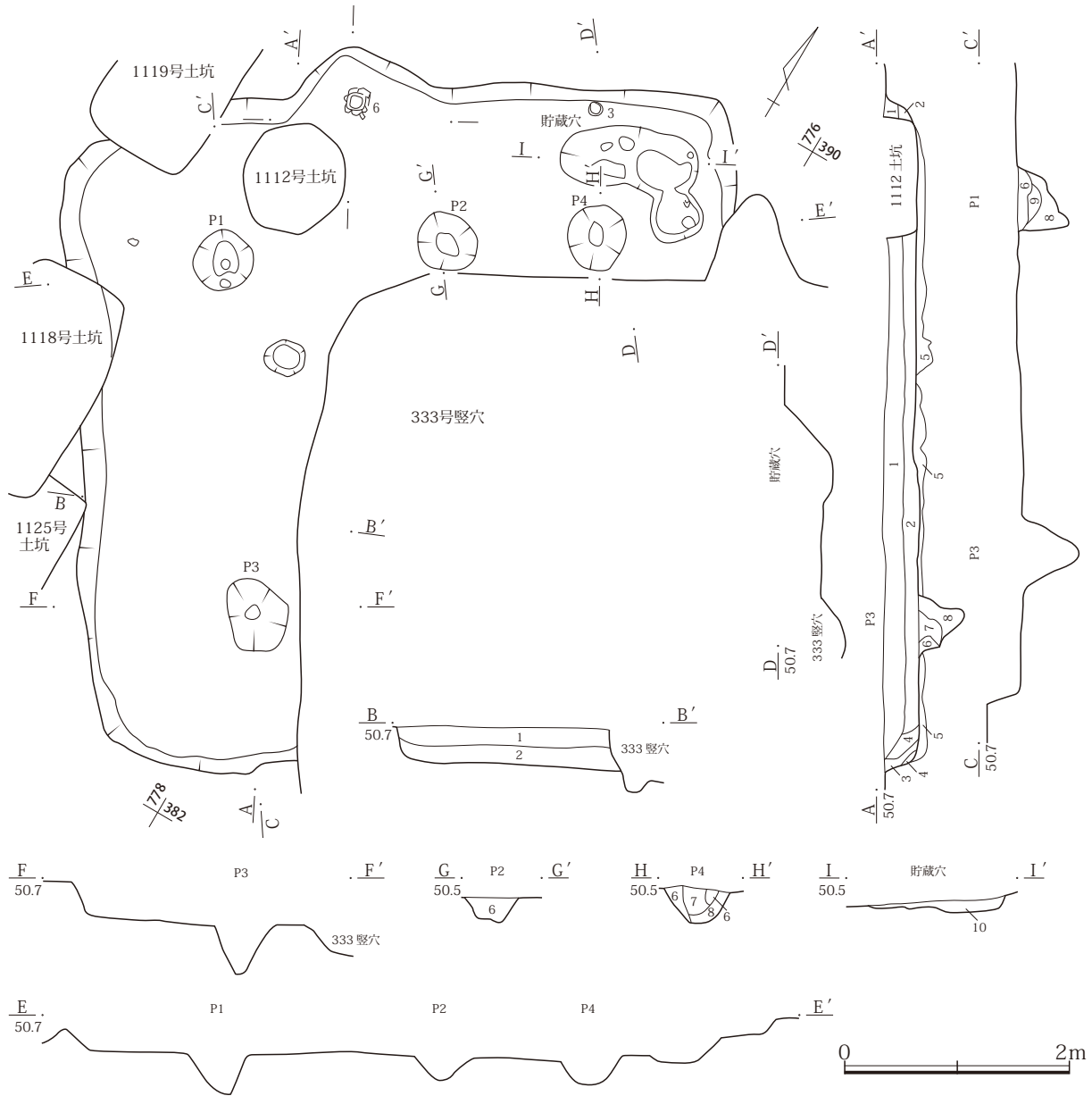


第358図 333号竪穴建物跡出土遺物（4）



第359図 333号竪穴建物跡出土遺物（5）

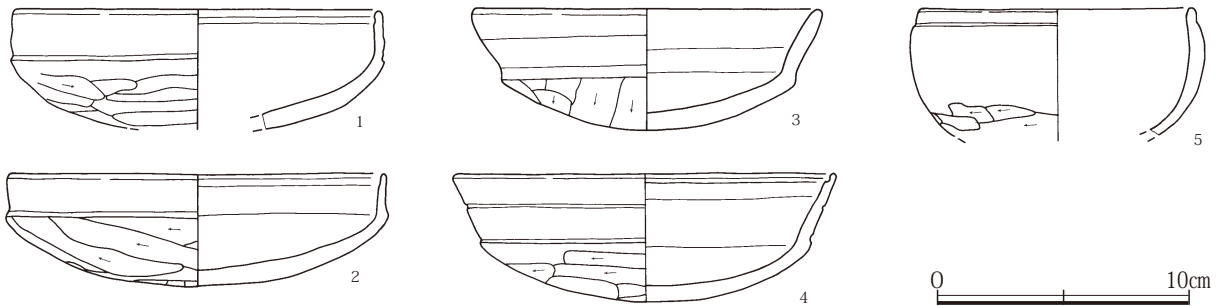
第3章 発見された遺構と遺物



334号竪穴建物跡

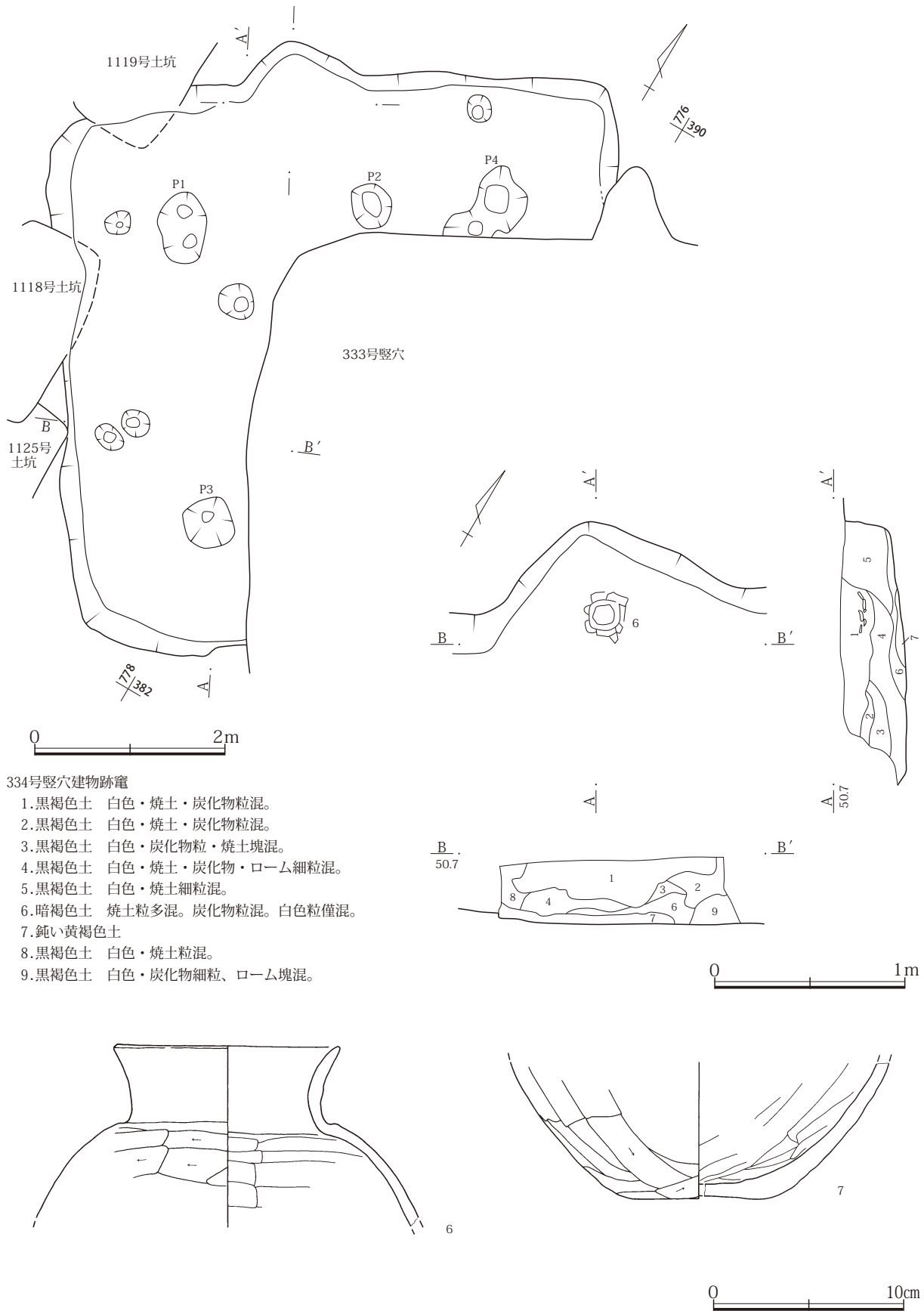
- 1. 黒褐色土 白色・焼土・炭化物粒混。
- 2. 黒褐色土 ローム塊多混。  
白色・焼土・炭化物粒1層よりも少。
- 3. 黒褐色土 1層とほぼ同じ。白色粒1層よりも多混。
- 4. 黒褐色土

- 5. 褐色土 白色粒混。
- 6. 黒褐色土 ローム粒・塊多混。
- 7. 黒褐色土 白色・焼土・炭化物粒、ローム粒・塊混。
- 8. 黒褐色土 白色・焼土粒、ローム塊混。
- 9. 黒褐色土 白色・焼土・ローム粒少量混。
- 10. 黒褐色土 ローム塊混。



第360図 334号竪穴建物跡・出土遺物（1）

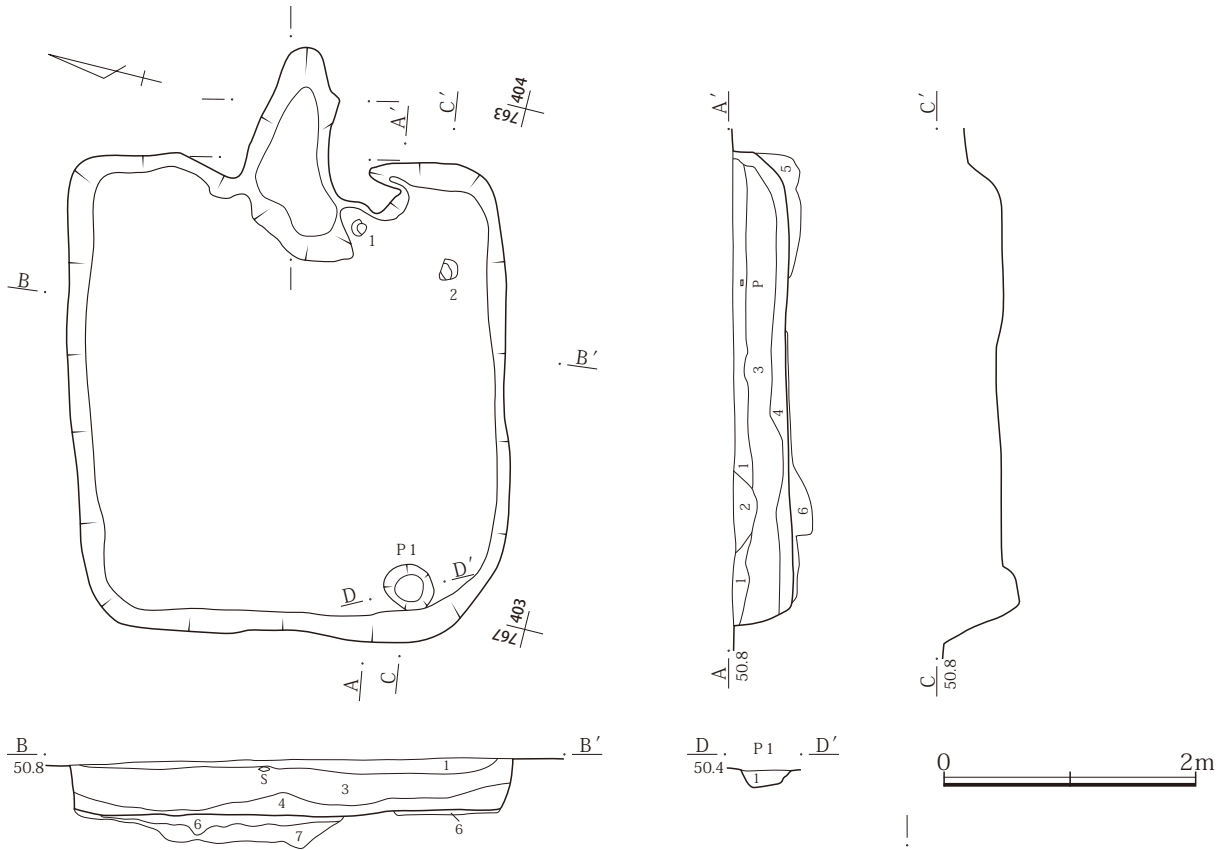




334号竪穴建物跡竈

1. 黒褐色土 白色・焼土・炭化物粒混。
2. 黒褐色土 白色・焼土・炭化物粒混。
3. 黒褐色土 白色・炭化物粒・焼土塊混。
4. 黒褐色土 白色・焼土・炭化物・ローム細粒混。
5. 黒褐色土 白色・焼土細粒混。
6. 暗褐色土 焼土粒多混。炭化物粒混。白色粒僅混。
7. 鈍い黄褐色土
8. 黒褐色土 白色・焼土粒混。
9. 黒褐色土 白色・炭化物細粒、ローム塊混。

第361図 334号竪穴建物跡掘方・竈・出土遺物（2）



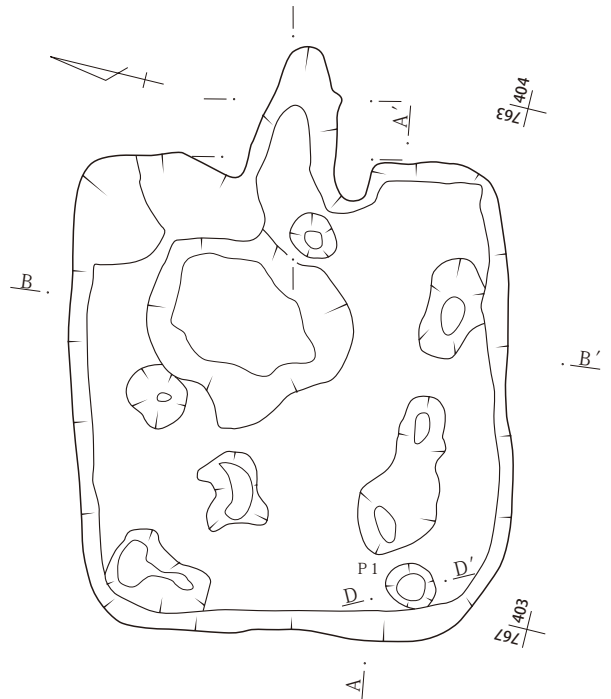
336号竪穴建物跡

1. 黒褐色土 灰白色・ローム・焼土粒、砂礫多量混。
2. 暗褐色土 灰白色粒・砂礫大量混。
3. 黒褐色土 灰白色粒・砂礫やや多混。
4. 暗褐色土 ローム・焼土粒少量混。
5. 暗褐色土 小礫多量混。
6. 黒褐色土 白色細粒・焼土粒混。
7. 暗褐色土 白色・焼土粒、ローム塊混。

336号竪穴建物跡pit1

1. 黒褐色土 白色粒混。

みが連続している。 竈：東壁の中央に取り付く。 燃烧部・煙道・両袖ともに地山を削りだして形成され、燃烧部は壁とほぼ同位置に造られている。両袖は内側に若干張り出す。煙道は外側にやや長く伸びている。 貯蔵穴：なし。 柱穴・pit：南西隅付近で検出されたpit1は長径0.4m・短径0.35m・深さ0.14m、床面からの掘り込みで、使用面に伴うものと考えられる。円形状を呈し、浅い。位置や掘方からみて柱穴とは考えにくい。 時期：8C前。 遺物：床直より須恵器杯2。

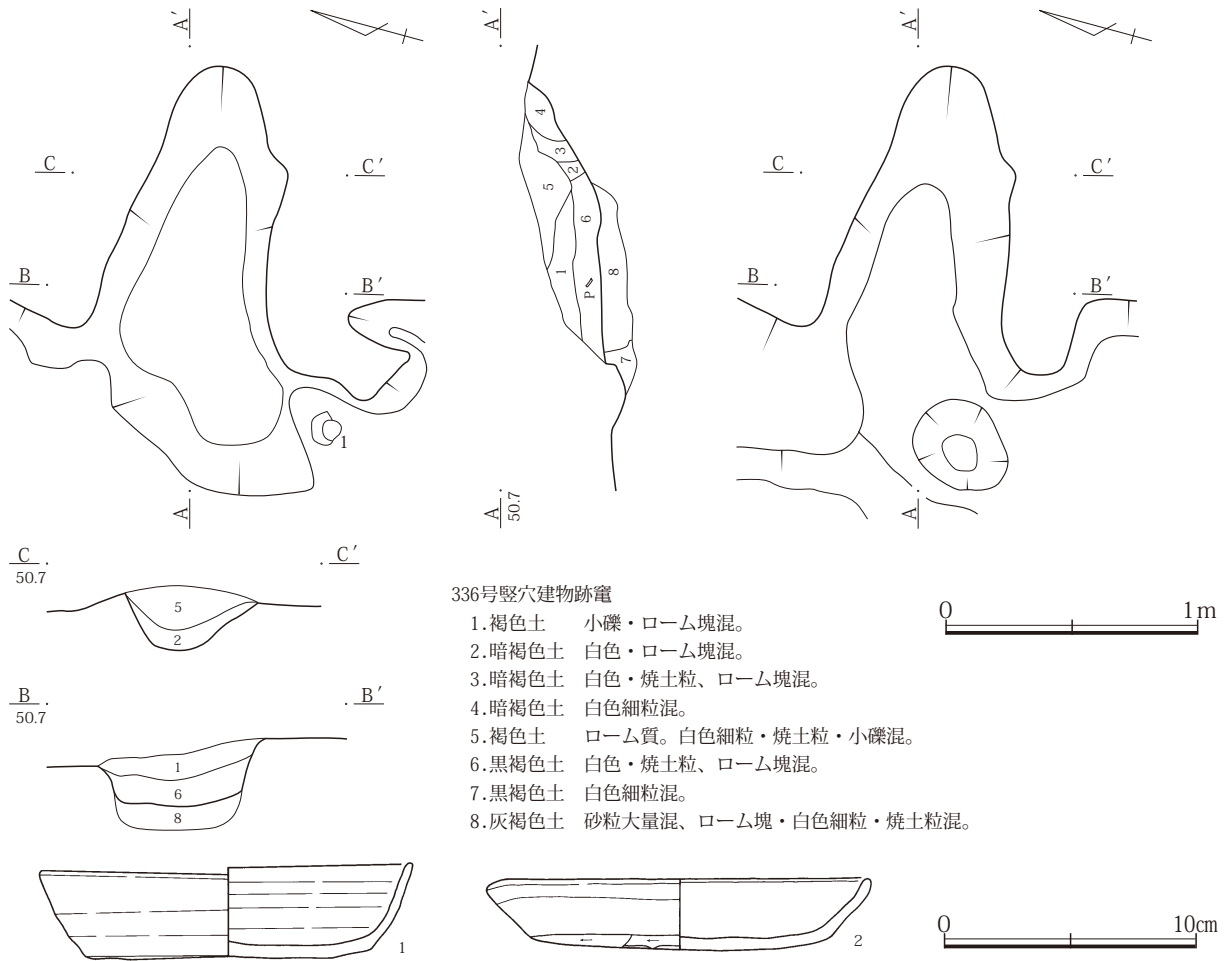


第362図 336号竪穴建物跡

(123) 337号竪穴建物跡

位置：調査区北東端。X 405~415・Y-755~765Gr.

主軸方位：N-22° -W 重複：64号掘立柱建物跡を掘り込む。336号竪穴建物跡に掘り込まれる。



第363図 336号竪穴建物跡竈・出土遺物

**規模と形状：**本遺跡最大規模の竪穴建物跡。北東—南西方向にやや長い方形状を呈し、長辺7.26m・短辺7.1m・床面までの深さ0.6m・掘方までの深さは0.68m。北西隅が北に張り出している。**埋土：**黒褐色土ベース。**床面：**地山を比較的平坦に削り出した上に砂礫・灰白色粒を含む暗黄褐色土を貼って硬質な床面を形成している。床面の厚さは約0.08m前後。**周溝：**竈が取り付く北壁では東隅のみ、それ以外では南・東・西壁を廻っている。最大上幅0.28m・最大下幅0.22m・深さ0.04m。**掘方：**比較的平坦。顕著な凹凸や起伏は認められない。**竈：**北壁のほぼ中央に取り付く。燃烧部・煙道は地山を削り出して形成され、燃烧部は壁とほぼ同位置に造られている。両袖は、地山ローム、粘土等によって構築され、内側に若干張り出す。煙道は外側に長く延びている。焚口部が深く掘り込まれている。**貯**

**蔵穴：**建物の北東隅で検出された。東西に長い楕円形状を呈する。長径1.18m・短径0.77m・深さ0.3m。

**柱穴・pit：(4隅柱穴)**円形状を呈し、しっかりと掘方を有している。**pit1**長径0.5m・短径0.43m・深さ0.42m、**pit2**長径0.57m・短径0.5m・深さ0.53m、**pit3**長径0.53m・短径0.48m・深さ0.53m、**pit4**長径0.74m・短径0.64m・深さ0.42m。**時期：**7C3。**遺物：**建物の北寄りから比較的まとまって出土。床直から刀子が出土(27)。

#### (124) 338号竪穴建物跡

**位置：**調査区中央東寄り。X340-345・Y-775Gr.

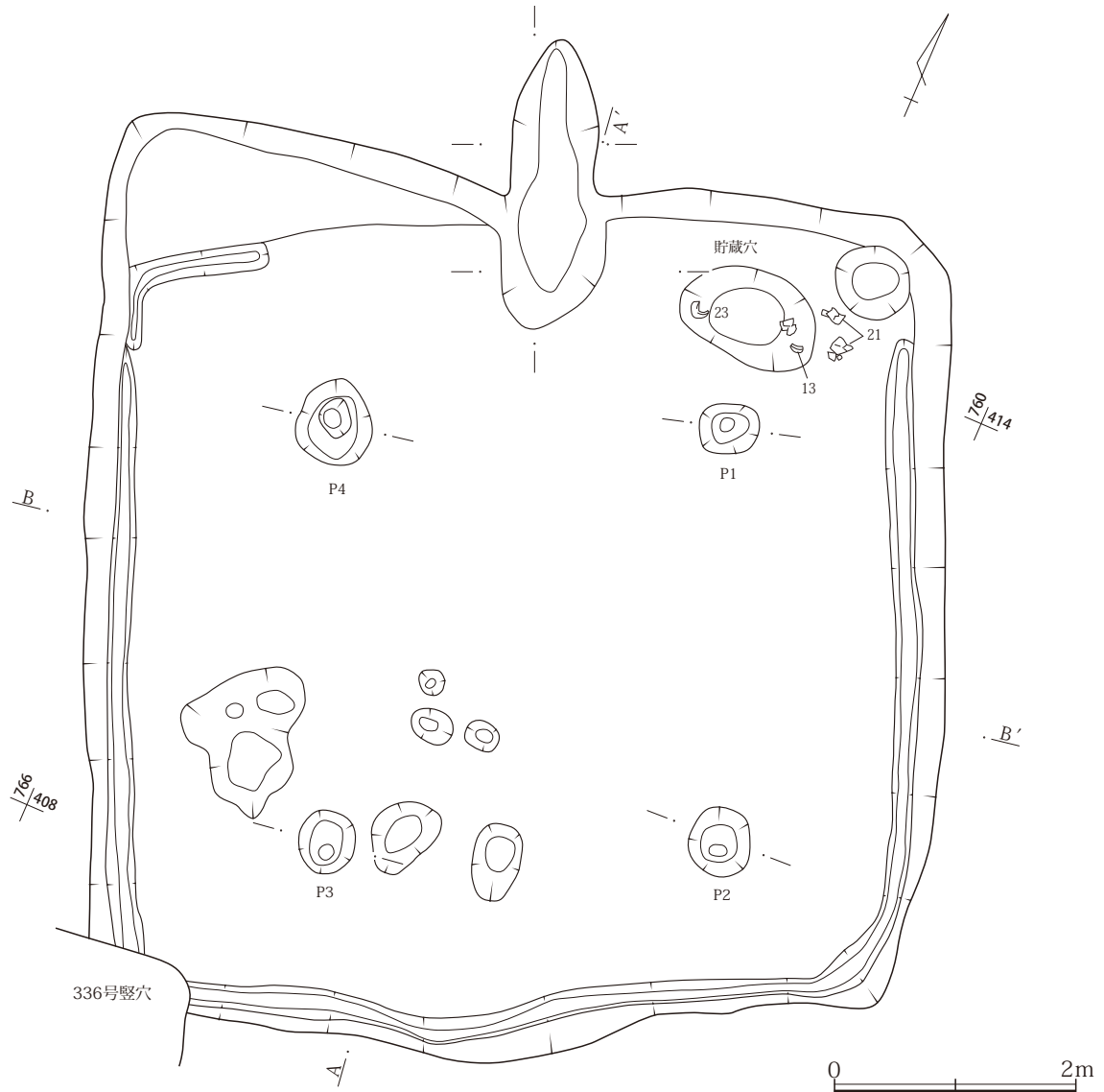
**主軸方位：**不明。**重複：**54号土坑跡に掘り込まれる。**規模と形状：**後世の削平を甚だしく受け、ほぼ掘方のみ検出された。方形を呈している。長辺2.98m・短辺2.95m・掘方までの深さ0.07m。**埋**



337号竪穴建物跡

- |                          |                              |
|--------------------------|------------------------------|
| 1. 黒褐色土 焼土粒・小礫大量混。白色粒多混。 | 6. 黒褐色土 白色・焼土粒1層より多混。        |
| 2. 黒褐色土 焼土粒多混。白色粒・小礫混。   | 7. 暗黄褐色土 砂礫・灰白色粒大量混。ローム粒多量混。 |
| 3. 暗褐色土 白色・焼土・ローム粒混。     | 8. 暗褐色砂質土                    |
| 4. 暗褐色土 白色・焼土・炭化物粒混。     | 9. 暗褐色土 白色・焼土・炭化物粒、小礫混。      |
| 5. 褐色土 ローム粒・塊多混。炭化物粒混。   | 10. 暗黄褐色砂質土                  |

第364図 337号竪穴建物跡



第365図 337号竪穴建物跡掘方

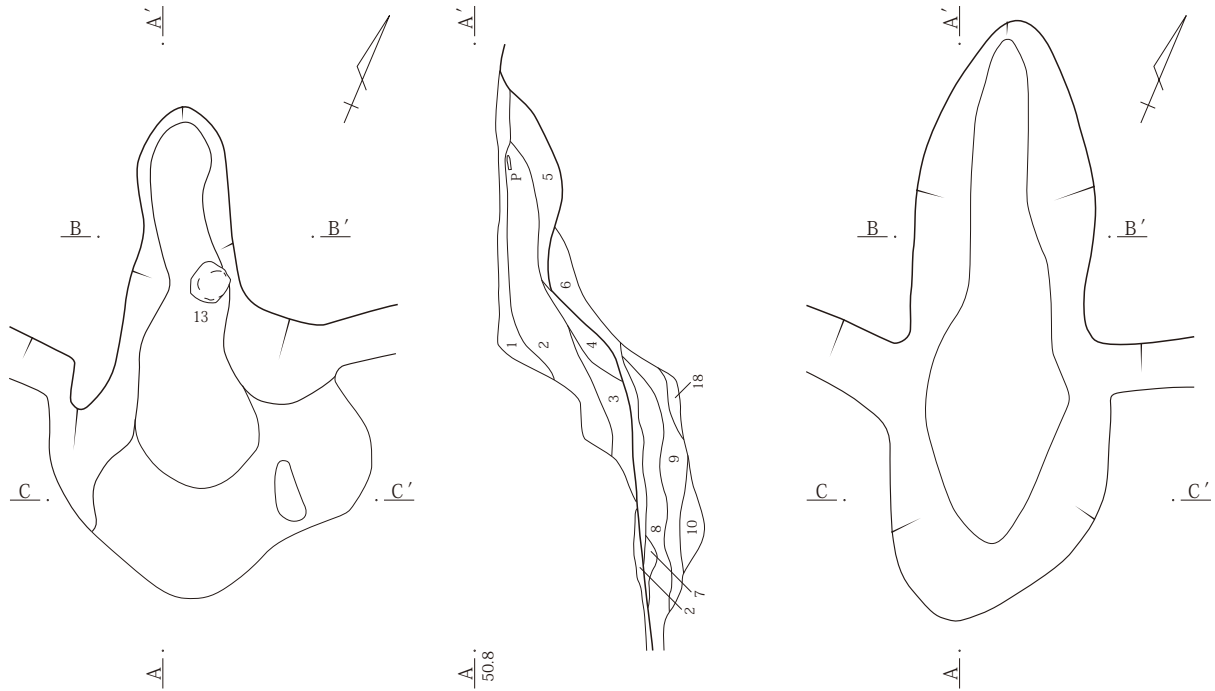
土：暗黄褐色粘質土ベース。 床面：未検出。 掘方：地山を比較的平坦に削り出しているが、若干微細な起伏に富む。 竈：未検出。 貯蔵穴：未検出。 時期：不明。 遺物：なし。

(125) 339号竪穴建物跡

位置：調査区北壁東寄り。 X385~390・Y-780~785Gr. 主軸方位：N-52° -E 重複：なし。 規模と形状：後世の削平を甚だしく受け、ほぼ掘方のみ検出された。北西-南東方向に長い長方形を呈している。長辺3.66m・短辺2.52m・掘方までの深さ0.1m。 埋土：暗褐色土ベース。 床面：未検出。

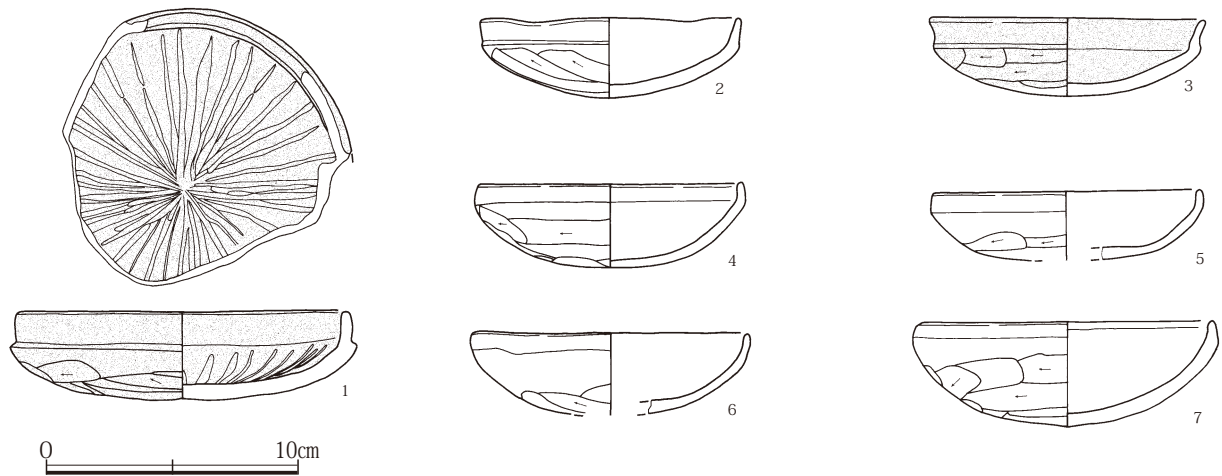
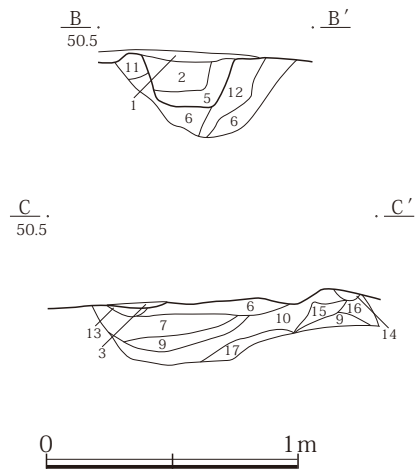
掘方：比較的平坦だが、若干起伏に富む。中央から西壁際にかけて床下土坑が7基検出された (pit1~7)。 竈：東壁のほぼ中央に取り付く。燃烧部・両袖・煙道共に地山を削りだして形成され、燃烧部は壁より外側に造られる。煙道は外側に若干延びている。両袖は内側に張り出さない。 貯蔵穴：なし。 柱穴・pit：柱穴の掘方に相当するものは見受けられず、それぞれの用途・機能は明確ではない。pit1長径0.52m・短径0.49m・深さ0.37m、pit2長径0.83m・短径0.8m・深さ0.4m、pit3長径0.74m・短径0.68m・深さ0.4m、pit4径0.38m・深さ0.3m、pit5長径0.28m・短径0.25m・深さ0.08m、pit6長径0.75

第3章 発見された遺構と遺物

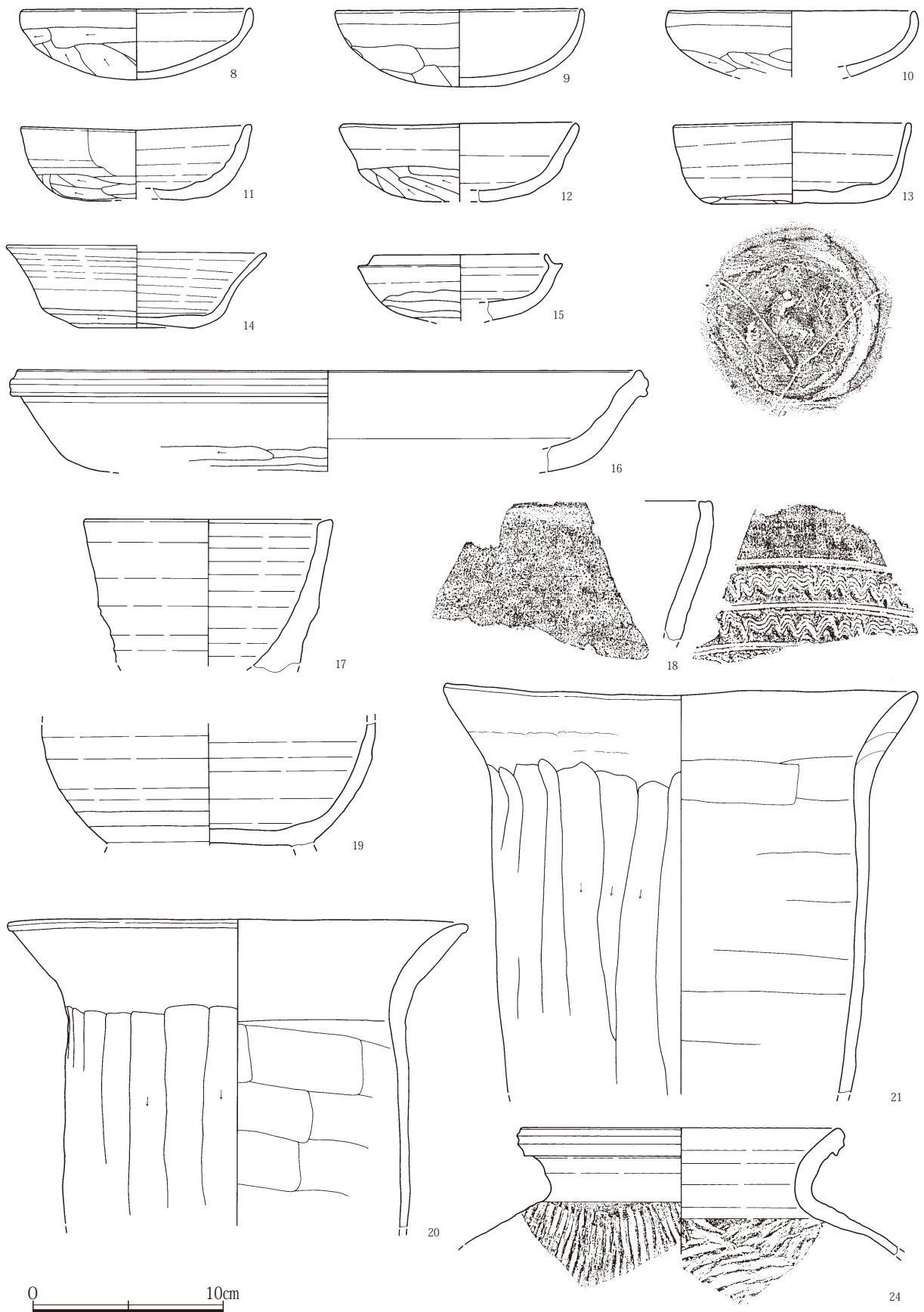


337号竪穴建物跡竈

1. 暗褐色土 白色粒・小礫混。
2. 暗褐色土 白色粒1層よりも多混。焼土・炭化物粒混。
3. 暗褐色土 2層と同様だが焼土粒が更に多混。
4. 赤褐色土 焼土。
5. 黒褐色土 焼土粒混。
6. 暗褐色土 炭化物粒多混。ローム粒混。
7. 暗褐色土 炭化物粒多混。ローム塊多混。
8. 黒褐色土 焼土粒・ローム塊混。
9. 暗褐色土 焼土塊大量混。
10. 黒褐色土 焼土粒・ローム塊8層よりもさらに多混。
11. 黒褐色土 焼土粒多混。
12. 暗褐色土 炭化物・焼土粒、ローム塊多混。
13. 赤褐色土 焼土。
14. 黒褐色土 小礫混。
15. 暗褐色土 炭化物粒、ローム粒・塊多量混。
16. 暗褐色土 炭化物・焼土粒多混。ローム粒混。
17. 暗褐色土 焼土塊大量混。
18. 黒褐色土 焼土粒・ローム塊混。

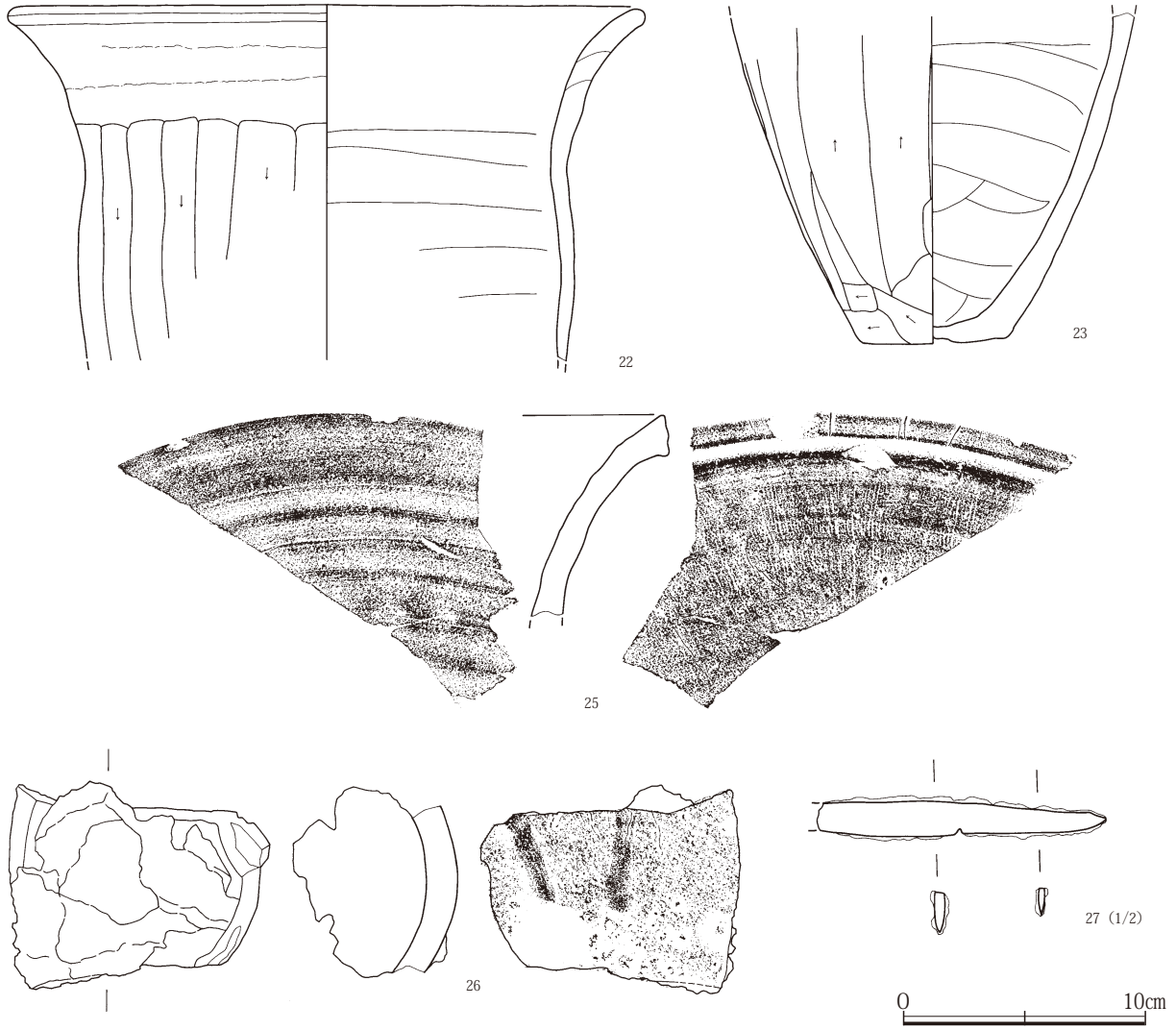


第366図 337号竪穴建物跡竈・出土遺物(1)

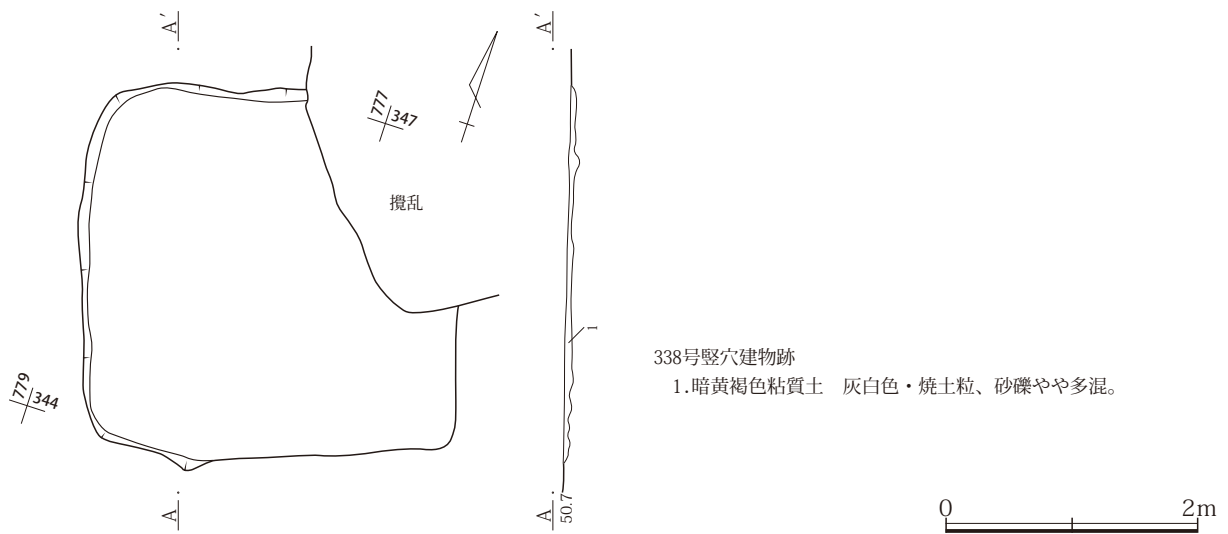


第367図 337号竪穴建物跡出土遺物（2）

第3章 発見された遺構と遺物

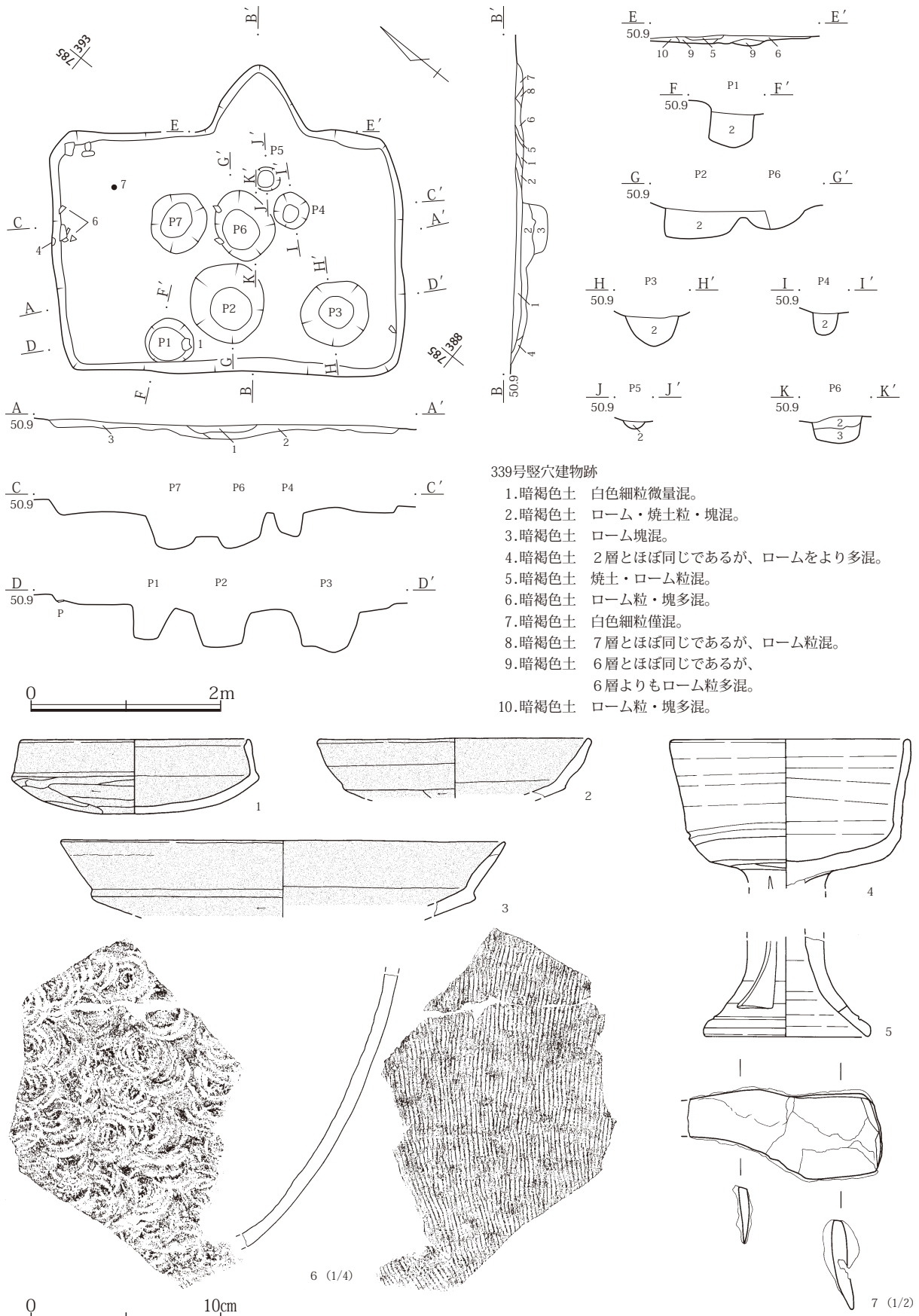


第368図 337号竪穴建物跡出土遺物（3）



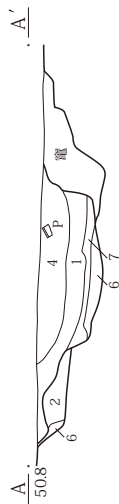
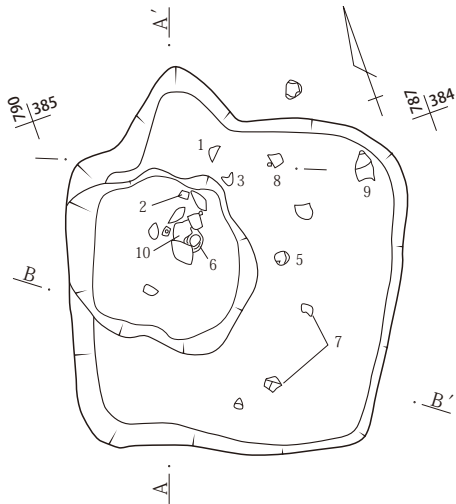
第369図 338号竪穴建物跡





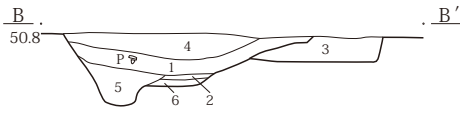
第370図 339号竪穴建物跡・出土遺物

第3章 発見された遺構と遺物



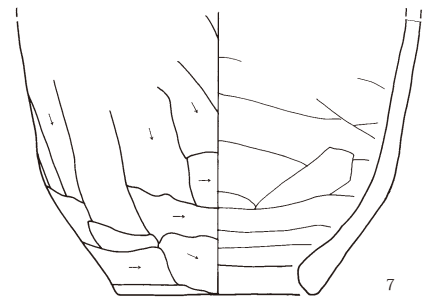
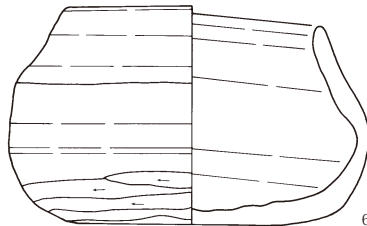
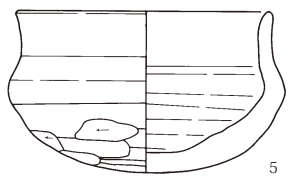
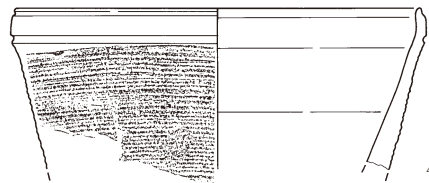
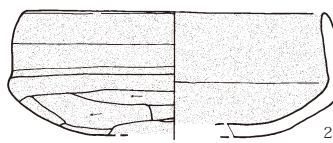
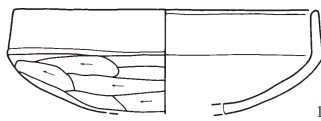
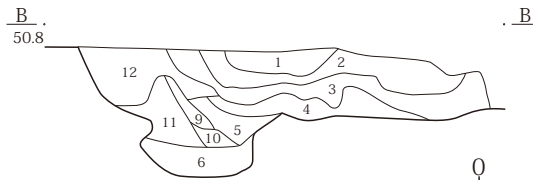
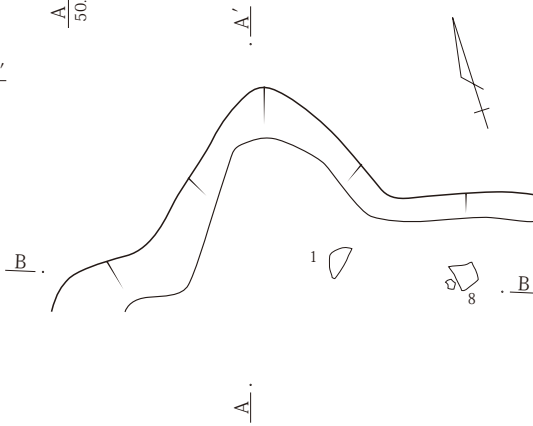
340号竪穴建物跡

1. 暗褐色土 ローム粒・塊多量混。
2. 暗黄褐色土 ローム塊・焼土粒多量混。
3. 暗褐色土 ローム細粒・塊少量混。
4. 暗褐色土 砂礫、焼土・ローム粒極少量混。
5. 暗黄褐色土
6. 黒褐色土
7. 暗黄褐色土 ローム塊・焼土粒多量混。

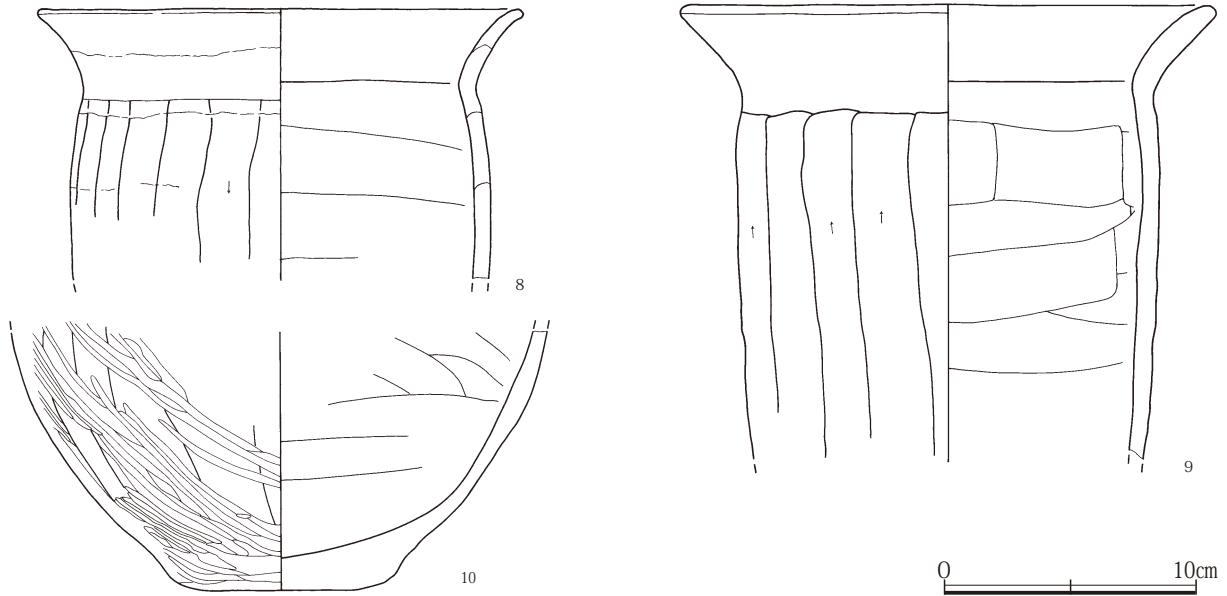


340号竪穴建物跡竈

1. 暗黄褐色土 微細な灰白色・ローム粒少量混。
2. 暗褐色土 ローム塊多量混。
3. 暗褐色土 2層程ローム塊混入ない。
4. 暗褐色土 灰白色・ローム粒 2・3層より多混。
5. 暗黄褐色土 ローム粒・塊、焼土塊多混。
6. 黒褐色土 微細な焼土・ローム粒多混。
7. 明黄褐色土 焼土塊多混。
8. 明黄褐色土 ローム塊。
9. 暗褐色土 焼土・ローム粒多混。
10. 暗黄褐色土 ローム粒多量混。焼土粒極少量混。
11. 黒褐色土 ローム塊多混。
12. 暗褐色土 灰白色・ローム・焼土粒混。



第371図 340号竪穴建物跡・出土遺物（1）



第372図 340号竪穴建物跡出土遺物（2）

m・短径0.6m・深さ0.35m、pit7径0.62m・深さ0.38m。 時期：6C後～7C前。 遺物：すべて埋土中から。鎌が1点出土（7）。

（126）340号竪穴建物跡

位置：調査区東寄り北端。X380-385・Y-785～790Gr. 主軸方位：N-16° -E 重複：346号竪穴建物跡を掘り込む。 規模と形状：ほぼ方形状。西壁際から土坑状の掘り込みがなされている。また、床面と掘方との差異が明確ではない。竪穴建物の内部に後から掘られた土坑と竪穴建物とを同時に掘削調査してしまったものと考えられる。東端及び南端付近で本来の竪穴建物跡の床面が検出されている。長辺2.7m・短辺2.68m・掘方までの深さ0.27m。

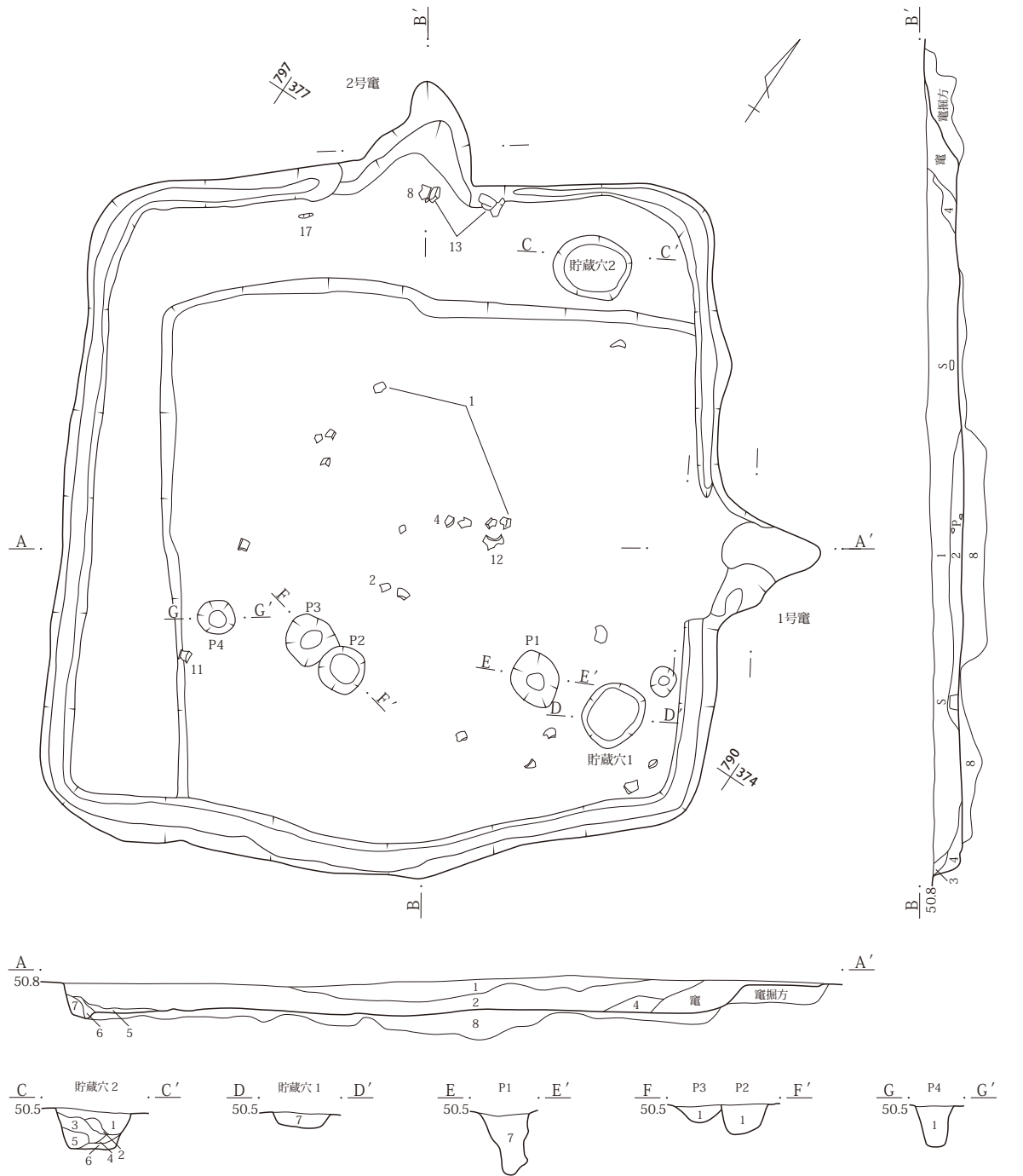
埋土：暗褐色土ベース。 床面：東端及びに南端で検出された部分を床面とみなすらば、地山を平坦に削りだして形成されている。 掘方：床面と一致。

竈：北壁の西寄りに取り付く。燃烧部・両袖・煙道共に地山を削りだして形成され、燃烧部は壁よりも外側に造られる。煙道はあまり明確には検出されなかった。両袖は内側には全く張り出さない。 貯蔵穴：なし。 時期：6C後。 遺物：建物内に散在。

（127）341号竪穴建物跡

位置：調査区中央北端寄り。X370-375・Y-790～795Gr. 主軸方位：N-30° -W（2号竈） 重複：1594号pitに掘り込まれる。65・68・69号掘立柱建物跡、347号竪穴建物跡を掘り込む。 規模と形状：北西-南東方向にやや長い方形状を呈し、長辺6.18m・短辺6.13m・床面までの深さ0.33m・掘方までの深さは0.56m。使用面において、北西及び南西側において若干の段差が確認でき、北東及び南東側の壁をそのままに、北西及び南西側に向かって1～1.4m拡張した様子が看取出来た。本来は北東側に竈を有し、北東-南西側に軸を有する5.3m前後であったものが、6.15m前後に拡張し、竈を北西側に付け替えることで軸を北西-南東方向に変えている。 埋土：暗褐色土ベース。 床面：地山を凹凸激しく掘り窪めた上にローム粒・塊を多量に含む暗褐色土を貼って平坦面を形成している。床面の厚さは約0.05～0.2m。 掘方：とくに南西と南東の壁際で土坑が連続するような掘り込みが顕著であり、中央に土坑状に大きく掘り込まれている。全体的に起伏が甚だしい。 竈：北東壁に取り付く竈を1号、北西壁に取り付く竈を2号とする。1号竈は北東-南西に軸をとった旧竪穴の竈で、最終使用段階では

第3章 発見された遺構と遺物



341号竈穴建物跡

1. 暗褐色土 ローム粒・塊やや多混。
2. 暗褐色土 1層よりもローム粒・塊さらに多混。
3. 暗褐色土 灰白色・砂細粒多混。
4. 暗褐色土 焼土・ローム粒極少量混。
5. 暗褐色土 ローム塊混。
6. 暗褐色土 白色細粒微量混。
7. 暗褐色土 ローム粒若干混。
8. 暗褐色土 ローム粒・塊多混。  
部分的に焼土塊をやや多混。

341号竈穴建物跡貯蔵穴・pit

1. 暗褐色土 焼土・ローム・炭化物・白色粒若干混。
2. 暗褐色土 焼土・ローム粒微量混。
3. 暗褐色土 2層に近いがローム粒の含有量多。
4. 暗褐色土 ローム粒僅混。
5. 暗褐色土 ローム粒・塊若干混。
6. 暗褐色土 5層と同じだが、ローム粒の含有量が5層より多。
7. 褐色粘質土 ローム質。暗褐色土塊混。

第373図 341号竈穴建物跡



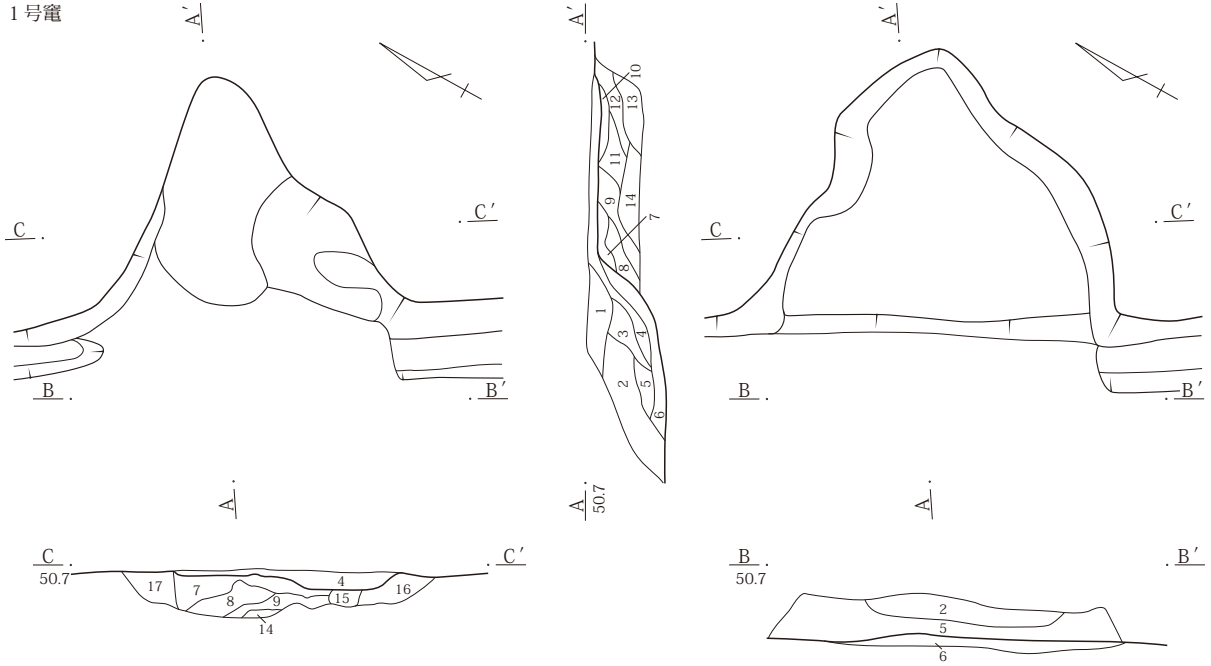
第374図 341号竪穴建物跡掘方

埋められていた。そのため、袖などの状況は全く不明であるが、燃烧部・煙道共に地山を削り出して造成され、燃烧部は壁より外側に形成されている。煙道部は外側に延びている。2号竈は、1号竈の造り替えて、構造・規模等非常に良く類似しており、燃烧部・煙道部・両袖共に地山を削り出して造成され、燃烧部は壁より外側に位置している。煙道も外側に延び、両袖は内側に張り出さない。貯蔵穴：東隅で貯蔵穴1、北隅で貯蔵穴2が検出された。検出状況から、1号竈を廃絶させた後も、1号竈に伴う貯蔵穴1は機能していたように見受けられる。貯蔵穴1は南北に若干長い楕円形状を呈し、長径0.62m・短

径0.52m・深さ0.15m。貯蔵穴2は北東-南西方向に長い楕円形状を呈し、長径0.75m・短径0.6m・深さ0.36m。柱穴・pit：pitは、いずれもほぼ円形ないし楕円形状を呈し、比較的しっかりとした掘方を有しているが、位置などから柱穴の一部とも考えにくく、用途や機能は不明である。pit1長径0.54m・短径0.44m・深さ0.57m、pit2径0.42m・深さ0.3m、pit3長径0.45m・短径(0.43)m・深さ0.15m、pit4長径0.34m・短径0.31m・深さ0.4m。時期：7C3。遺物：建物内に散在。埋土中から出土した手捏ね土器2(14・15)、床直から出土した刀子(16)が特筆される。

第3章 発見された遺構と遺物

1号竈

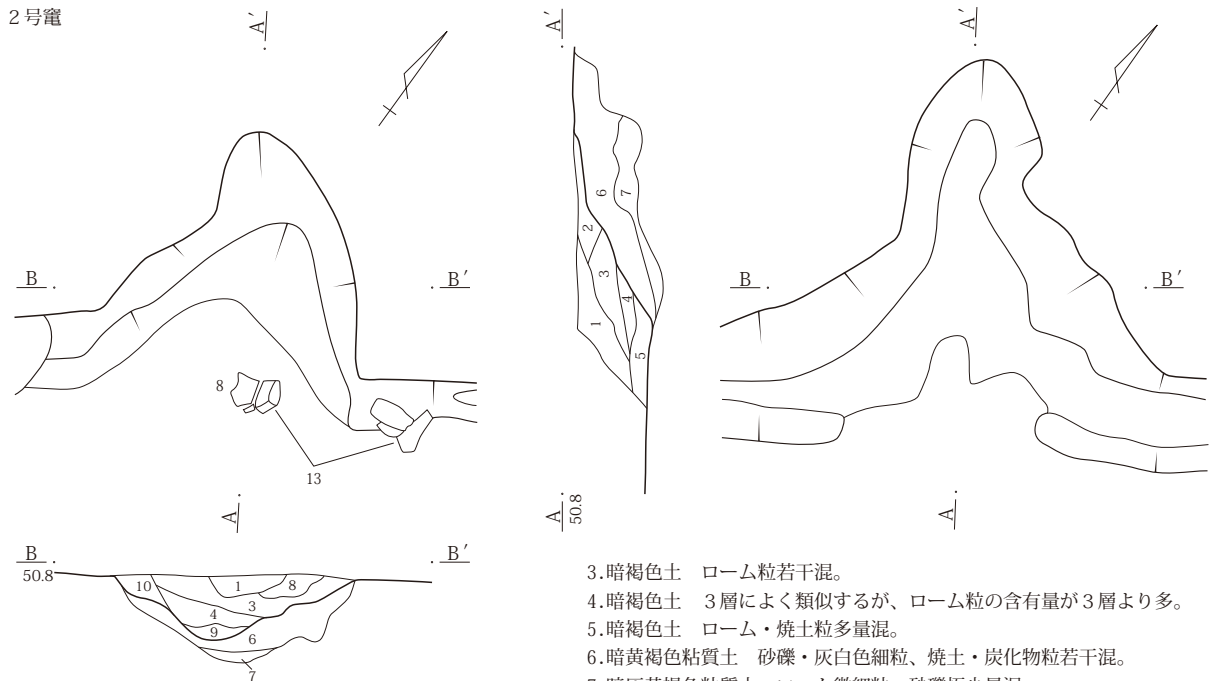


341号竈

1. 暗褐色土 ローム・焼土粒混。
2. 暗褐色土 ローム・焼土粒やや多混。
3. 暗褐色土 焼土粒多量混。
4. 暗褐色土 焼土粒を3層よりもさらに多混。
5. 暗褐色土 白色・ローム細粒若干混。
6. 暗褐色土 ローム粒・焼土塊若干混。
7. 暗褐色土 ローム粒・焼土塊多混。
8. 暗褐色土 7層よりも焼土の混入が多。

9. 黒褐色土 ローム粒若干混。
10. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒若干混。
11. 暗褐色土 ローム粒・焼土塊微量混。
12. 暗褐色土 10層とほぼ類似するがロームの混入が少。
13. 暗褐色土 10層とほぼ類似するがロームの混入が多。
14. 黒褐色土 焼土粒若干混。
15. 暗褐色砂質土塊 ローム粒混。
16. 暗褐色土 白色・ローム粒若干混。焼土塊・ローム粒多混。
17. 暗褐色土 白色・ローム粒混。

2号竈



341号竈

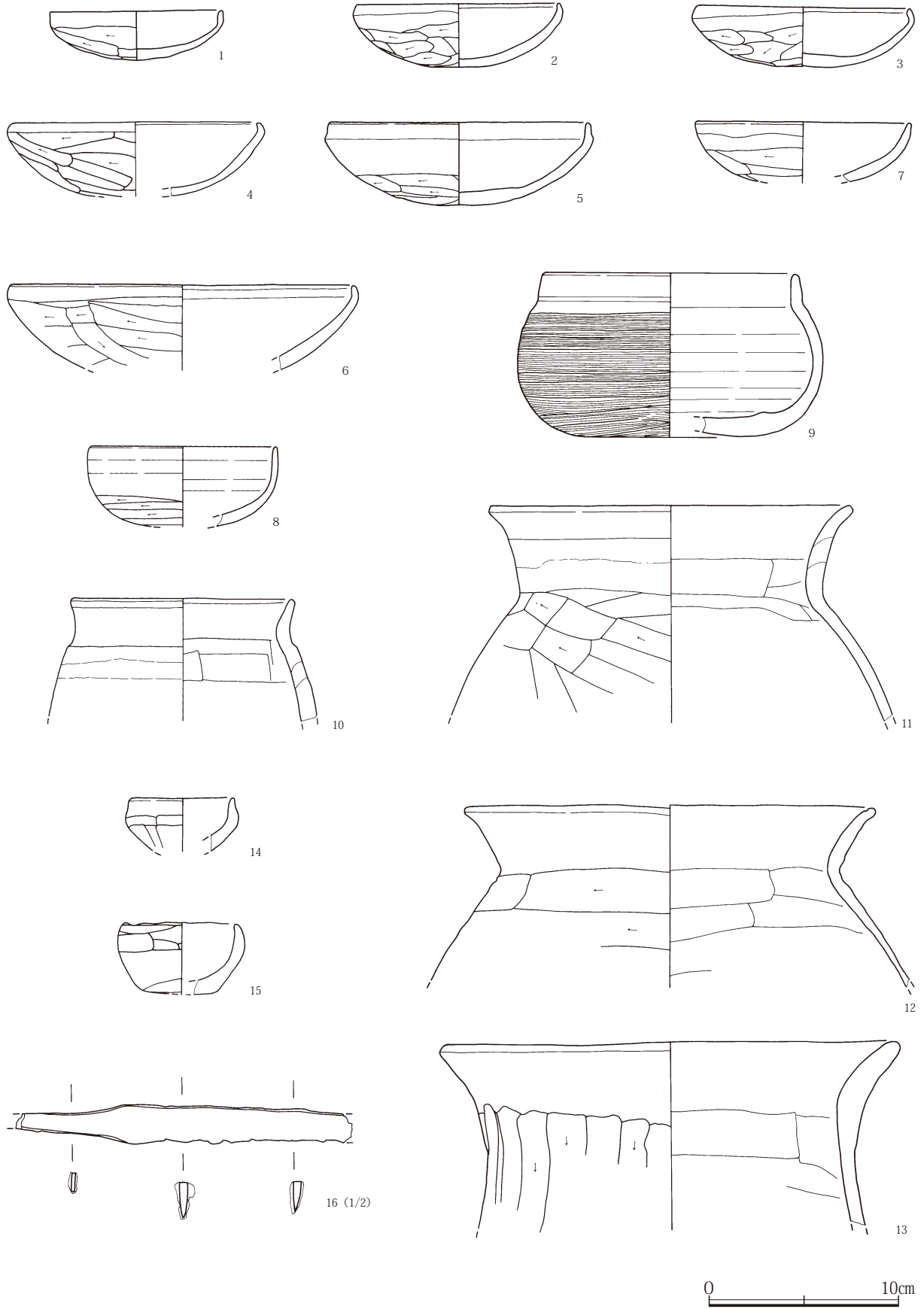
1. 暗褐色土 焼土・ローム粒若干混。白色粒微量混。
2. 暗褐色土 白色・焼土粒若干混。

3. 暗褐色土 ローム粒若干混。
4. 暗褐色土 3層によく類似するが、ローム粒の含有量が3層より多。
5. 暗褐色土 ローム・焼土粒多量混。
6. 暗黄褐色粘質土 砂礫・灰白色細粒、焼土・炭化物粒若干混。
7. 暗灰黄褐色粘質土 ローム微細粒、砂礫極少量混。
8. 暗褐色土 ローム塊粒若干混。
9. 暗褐色土 ローム粒混。
10. 暗褐色土 ローム塊混粒若干混。



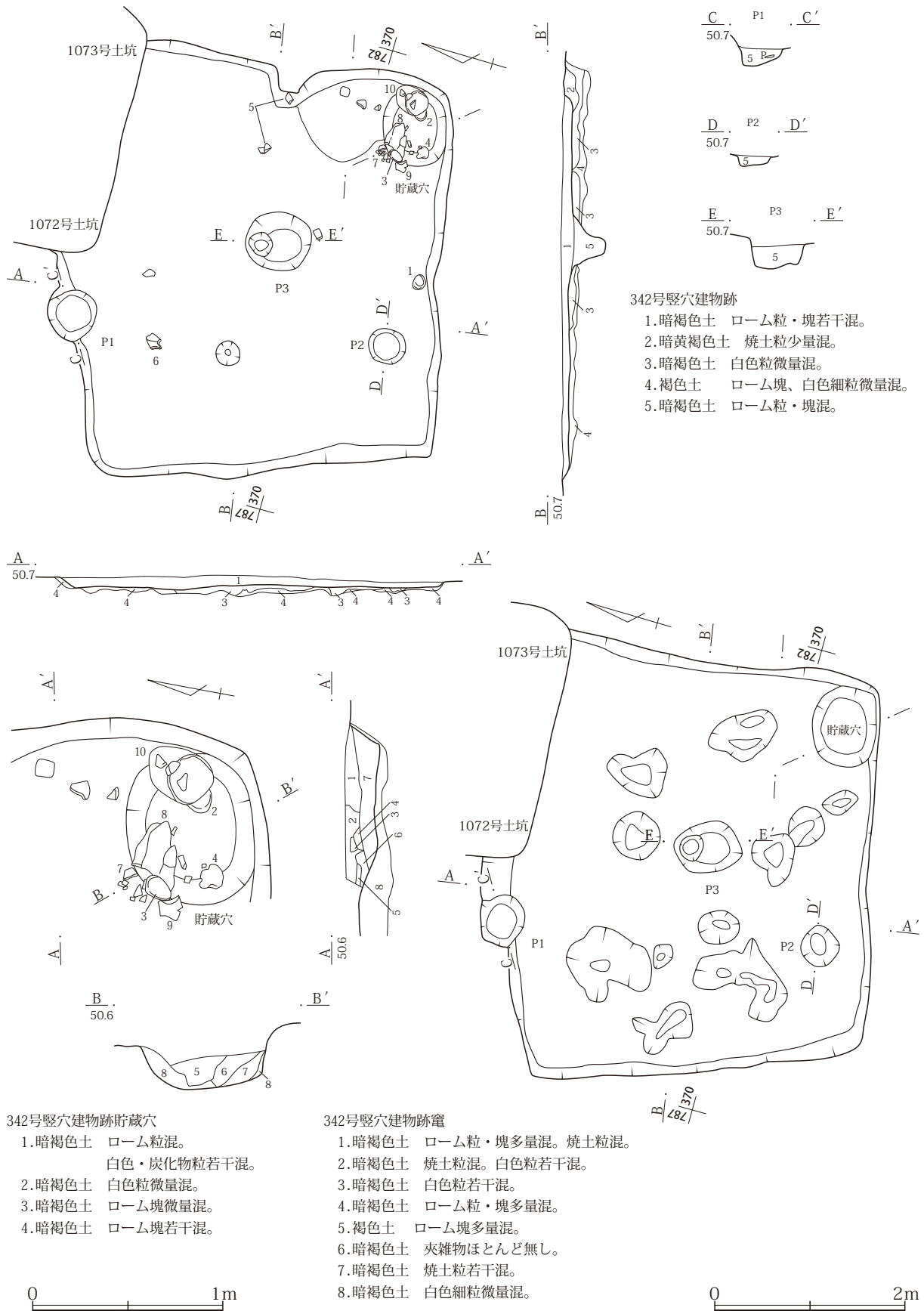
第375図 341号竈

第2節 古墳時代後期～平安時代の遺構と遺物



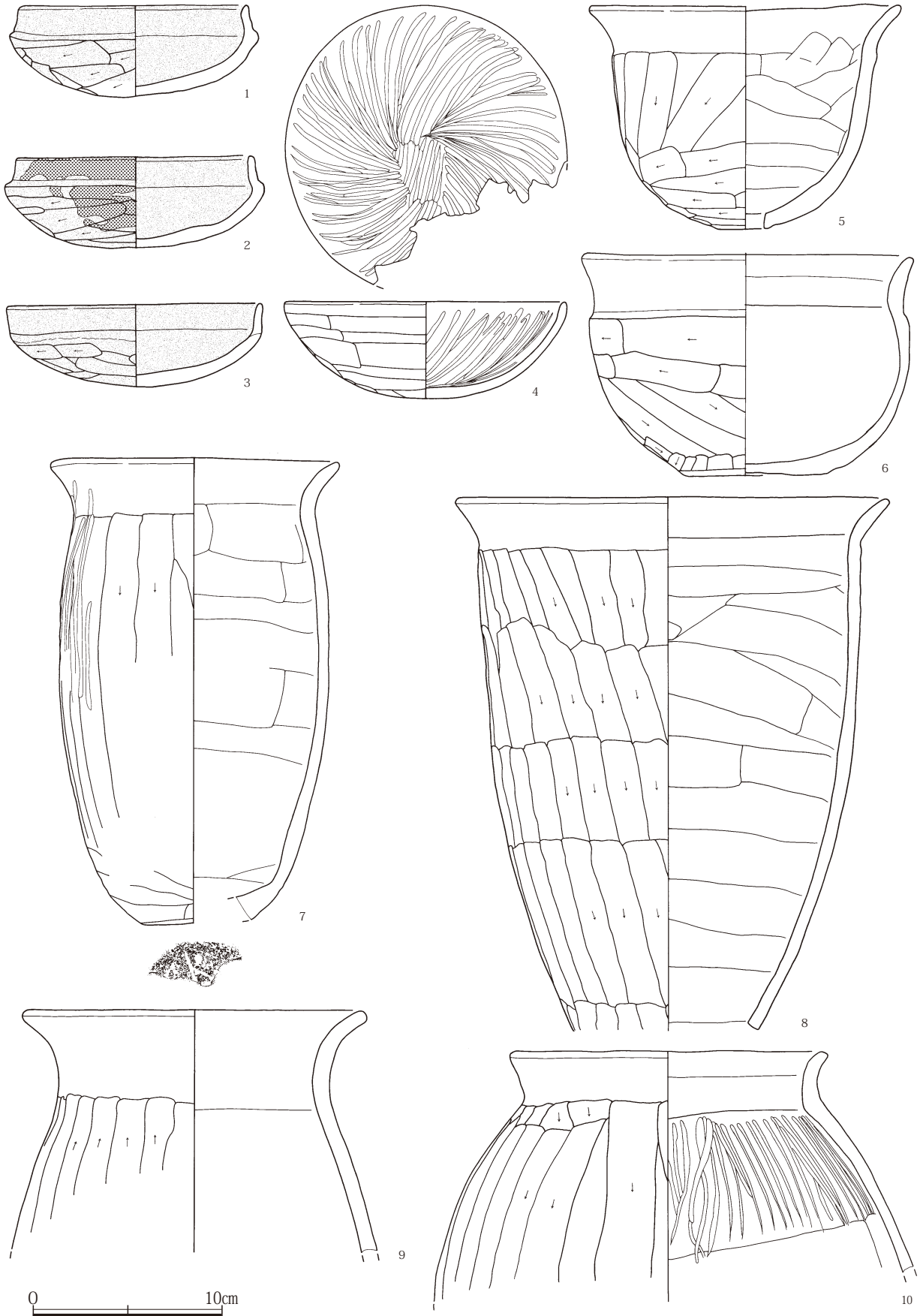
第376図 341号竪穴建物跡出土遺物

第3章 発見された遺構と遺物



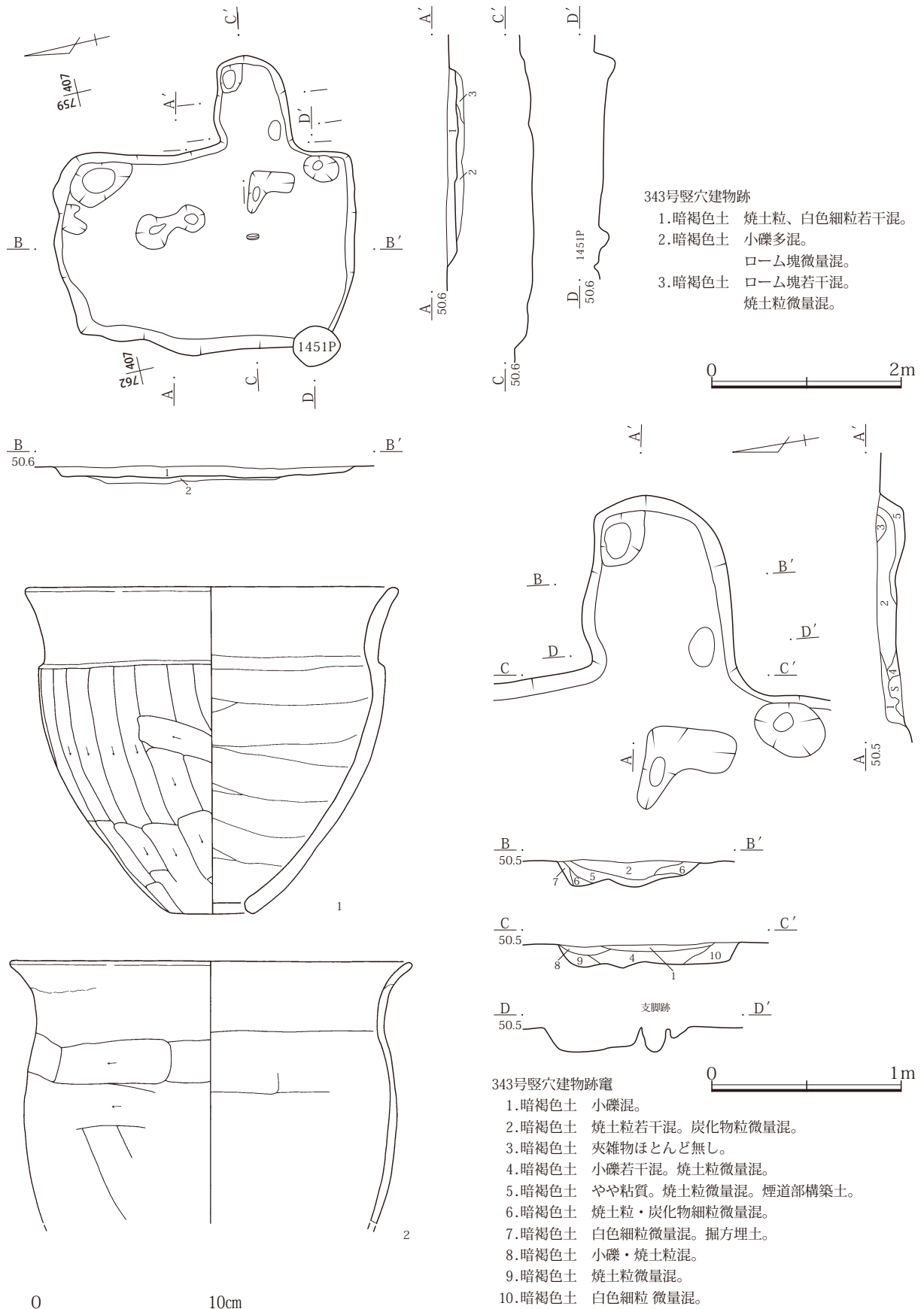
第377図 342号竪穴建物跡



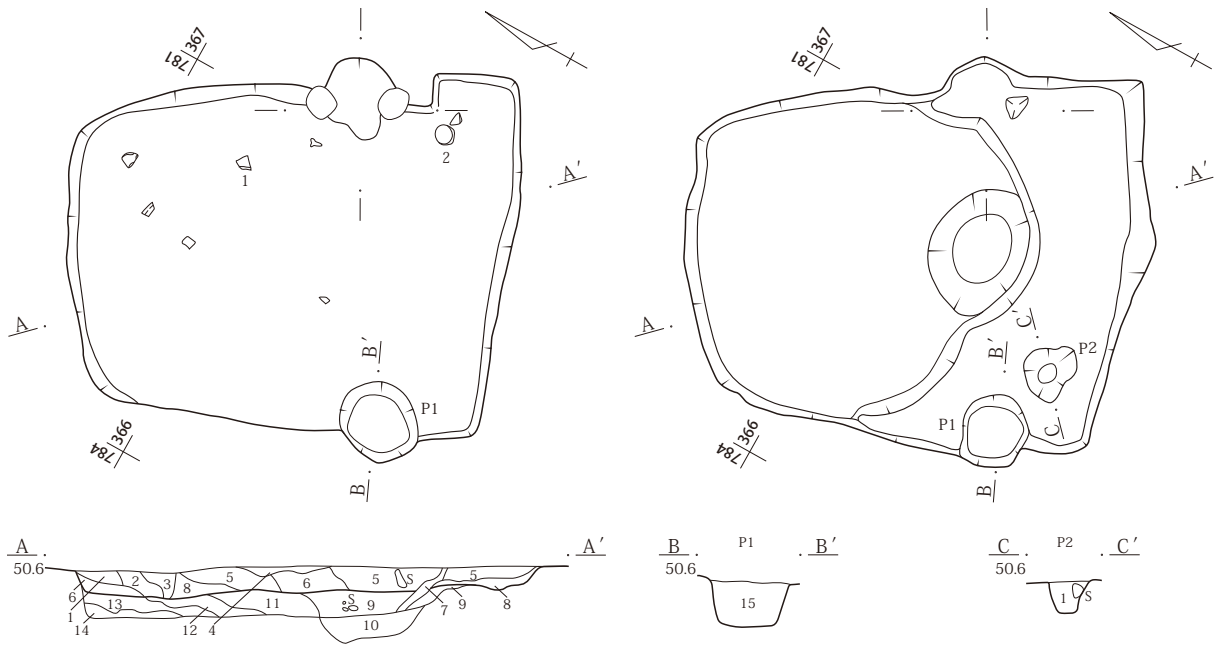


第378図 342号竪穴建物跡出土遺物

第3章 発見された遺構と遺物



第379図 343号竪穴建物跡・出土遺物



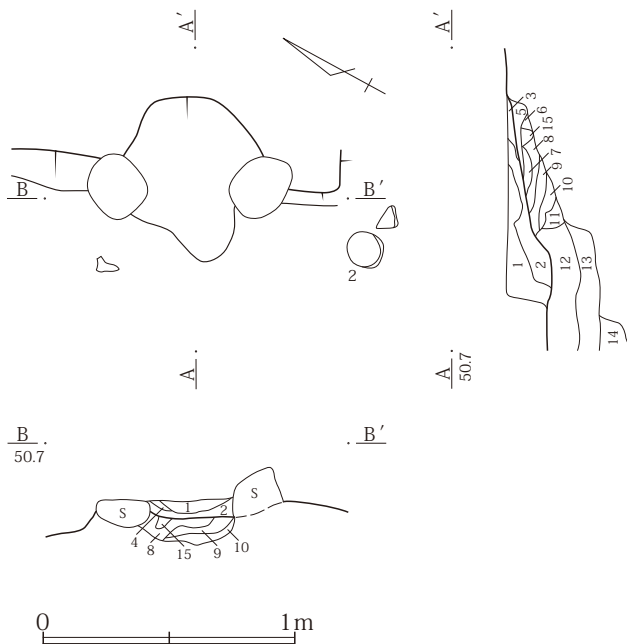
344号竪穴建物跡

- 1.暗褐色土 細砂礫、灰白色・焼土細粒少量混。
- 2.暗褐色土 砂礫、灰白色・ローム粒少量混。  
ローム塊極少量混。
- 3.暗褐色土 細砂礫、灰白色細粒微量混。
- 4.暗褐色土 ローム・焼土粒極少量混。
- 5.暗褐色土 ローム・焼土粒・小塊、灰白色粒やや多混。
- 6.暗褐色土 ローム粒・塊、焼土・灰白色粒やや多混。
- 7.暗黄褐色土 攪乱。
- 8.褐色土 ローム粒・塊大量混。
- 9.暗褐色土 白色・焼土・ローム粒混。
- 10.暗褐色土 白色・焼土・ローム粒若干混。

- 11.暗褐色土 白色粒・ローム粒・塊多混。
- 12.暗褐色土 白色・焼土粒若干混。  
ローム粒混。ローム塊微量混。
- 13.暗褐色土 ローム・焼土粒若干混。
- 14.褐色土 ローム塊多量混。
- 15.暗褐色土 白色・焼土粒若干混。

344号竪穴建物跡pit2

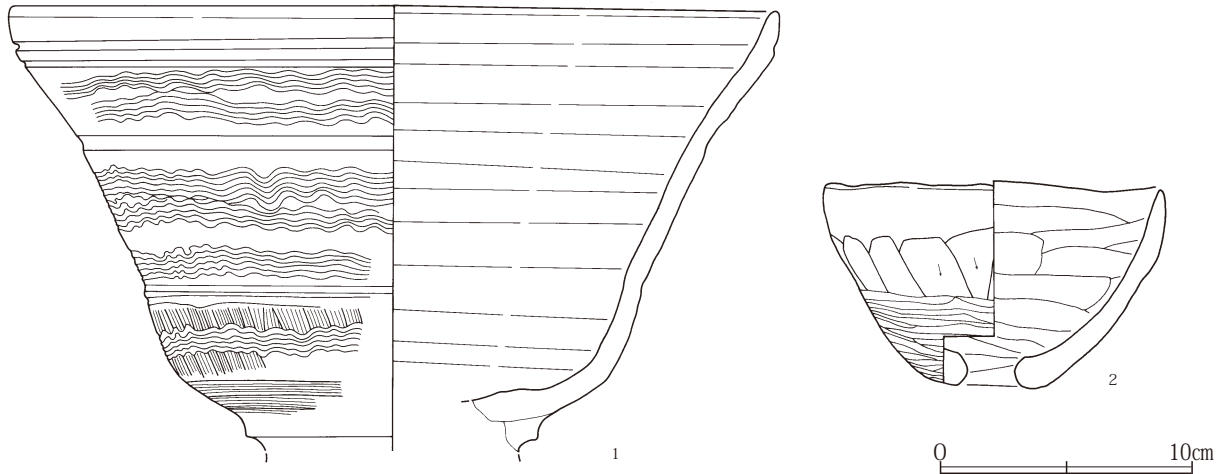
- 1.暗褐色土 白色・焼土・ローム粒混。



344号竪穴建物跡竈

- 1.暗褐色土 砂礫・焼土粒少量混。
- 2.暗褐色土 1層よりも暗い色調を呈し、  
焼土粒・砂礫1層より多混。  
炭化物粒混。
- 3.暗褐色土 細砂粒・灰白色細粒極少量混。
- 4.暗灰褐色土 焼土・炭化物塊多混。
- 5.暗褐色土 焼土細粒若干混。
- 6.暗褐色土 5層と同じだが焼土粒の混入なし。
- 7.暗褐色土 焼土粒多混。
- 8.暗褐色土 焼土細粒微混。
- 9.褐色土 焼土粒多混。
- 10.暗褐色土 ローム粒・小塊若干混。  
白色細粒少量混。
- 11.暗褐色土 ローム塊多混。
- 12.暗褐色土 白色粒若干混。焼土粒少量混。
- 13.暗褐色土 ローム塊若干混。白色細粒微量混。
- 14.暗褐色土 ローム塊若干混。
- 15.褐色土 焼土塊多量混。

第380図 344号竪穴建物跡



第381図 344号竪穴建物跡出土遺物

(128) 342号竪穴建物跡

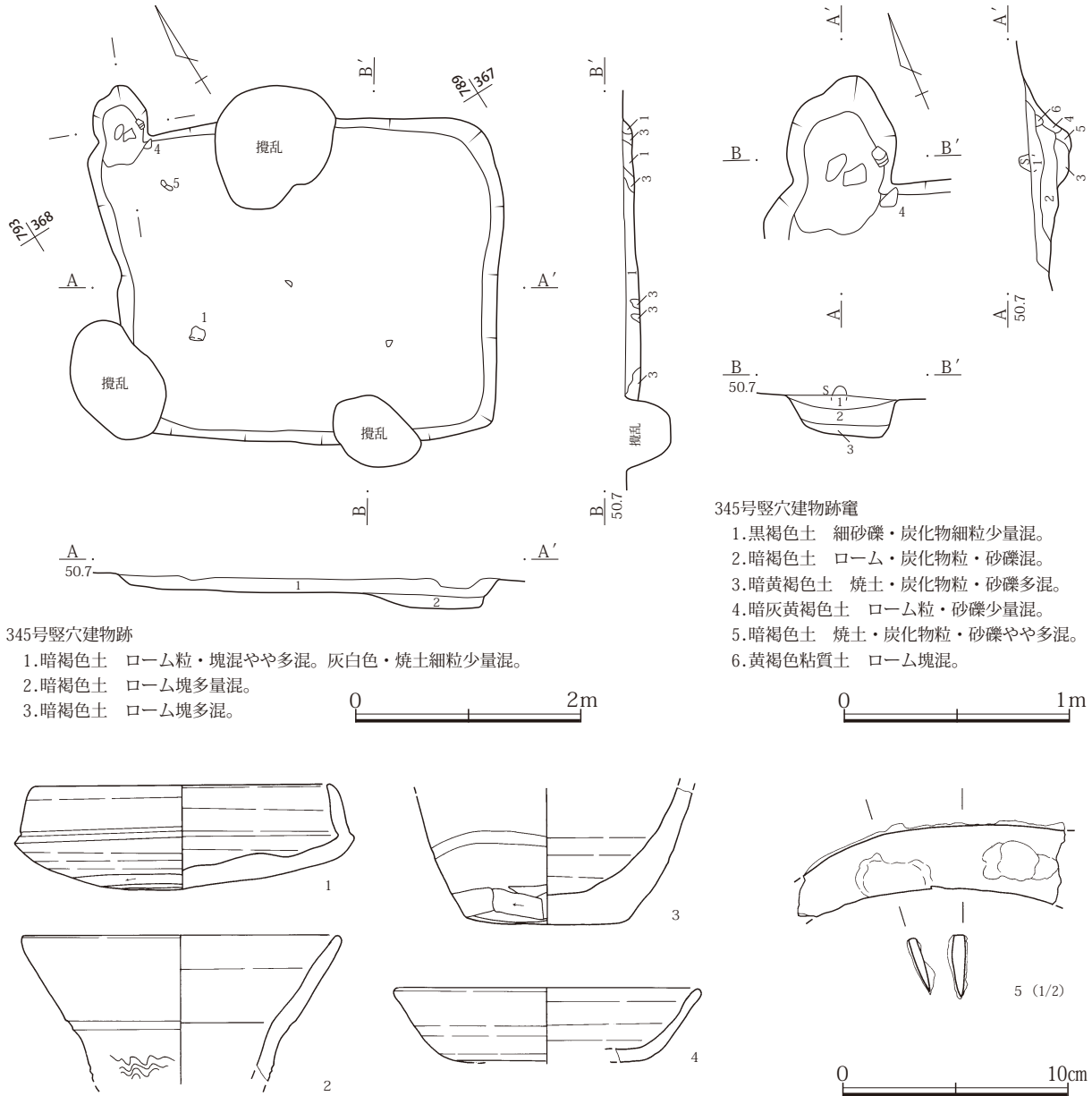
**位置：**調査区中央やや北東寄り。X365~370・Y-780~-785Gr. **主軸方位：**N-78° -E **重複：**54号溝跡、1072号土坑跡に掘り込まれる。67号掘立柱建物跡、1号粘土採掘坑跡を掘り込む。 **規模と形状：**東西に長い長方形を呈する。長辺4.54m・短辺3.8m・床面までの深さ0.1m・掘方までの深さ0.26m。 **埋土：**暗褐色土ベース。 **床面：**地山を比較的凹凸激しく掘り窪めた上に白色粒・ローム塊が微量混じる暗褐色土を貼って平坦面を形成している。床面の厚さは約0.08～0.16m。床面から掘り込んだpitが検出されている。 **掘方：**全域に亘って土坑が連続するような掘り込みがみられ、全体的に起伏が甚だしい。 **竈：**南東隅から若干内側に入った東壁に取り付けていたものと考えられるが、残存状態は極めて悪く、痕跡も掘方もほとんど遺っていない。造作も全く見当が付かず、あるいは置き竈であった可能性も想定できる。 **貯蔵穴：**南東隅。土師器長胴甕の出土が顕著であった。東西に長い楕円形状を呈し、長径0.82m・短径0.67m・深さ0.4m。 **柱穴・pit：**計3基検出された。いずれも規模や形状、位置などから柱穴とは見なしがたく、用途や機能は不明である。 **pit1**径0.52m・深さ0.2m、**pit2**長径0.4m・短径0.36m・深さ0.12m、**pit3**長径0.72m・短径0.62m・深さ0.27m。 **時期：**6C前。 **遺物：**竈、貯蔵穴周囲からまとまって出土。

(129) 343号竪穴建物跡

**位置：**調査区北東端。X400~405・Y-755~-760Gr. **主軸方位：**N-103° -E **重複：**1451号pitに掘り込まれる。64号掘立柱建物跡を掘り込む。 **規模と形状：**南北に長い長方形を呈する。埋土は若干は残存していたが、ほぼ掘方だけの検出に近い状態であった。長辺3.17m・短辺2.08m・床面までの深さ0.1m・掘方までの深さ0.18m。 **埋土：**暗褐色土ベース。 **床面：**地山を掘り窪めた上に砂礫やローム塊が混じる暗褐色土を貼って平坦面を形成している。床面の厚さは約0.08m前後。 **掘方：**比較的凹凸激しい。 **竈：**東壁の南寄りの位置に取り付く。燃烧部・煙道はいずれも地山を削り出して形成され、燃烧部は壁の外側に造られる。煙道は外側に延びている。両袖は、地山を削り出した状態で検出され、内側には張り出さない。支脚として使用されたとみられる自然石が立ったままの状態出土した。 **貯蔵穴：**なし。 **時期：**9C1。 **遺物：**埋土中より土師器甕、甕が出土。

(130) 344号竪穴建物跡

**位置：**調査区中央やや東寄り。X360~365・Y-780Gr. **主軸方位：**N-62° -E **重複：**1069号土坑跡と接する。1号粘土採掘坑跡を掘り込む。 **規模と形状：**北西-南東方向に長い長方形を呈する。長辺3.58m・短辺2.9m・床面までの深さ0.2m・掘



345号竪穴建物跡

- 1.暗褐色土 ローム粒・塊混やや多混。灰白色・焼土細粒少量混。
- 2.暗褐色土 ローム塊多量混。
- 3.暗褐色土 ローム塊多混。

345号竪穴建物跡竈

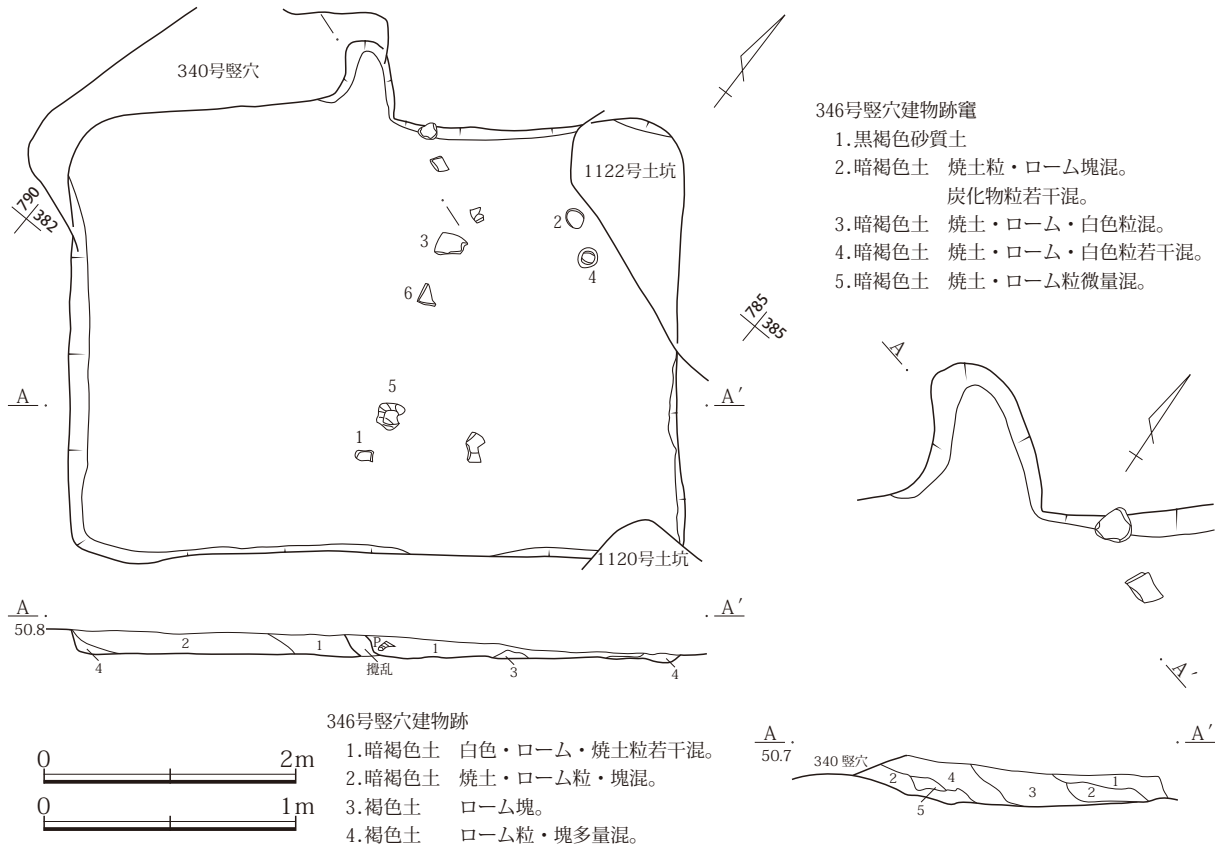
- 1.黒褐色土 細砂礫・炭化物細粒少量混。
- 2.暗褐色土 ローム・炭化物粒・砂礫混。
- 3.暗黄褐色土 焼土・炭化物粒・砂礫多混。
- 4.暗灰黄褐色土 ローム粒・砂礫少量混。
- 5.暗褐色土 焼土・炭化物粒・砂礫やや多混。
- 6.黄褐色粘質土 ローム塊混。

第382図 345号竪穴建物跡・出土遺物

方までの深さ0.4m。埋土：暗褐色土ベース。  
 床面：地山を深く掘り窪めた上にローム粒・塊が混  
 じる暗褐色土を貼って平坦面を形成している。床面  
 の厚さは約0.2m。掘方：中央で土坑状の掘り込  
 みが検出された。南側では掘り込みは浅く、床面と  
 一致している部分もある。床下のpitが1基検出さ  
 れている(pit2)。竈：北東壁の南寄りに取り付く。  
 上面を削平され、残存状態は極めて不良。燃烧部・  
 煙道はいずれも地山を削り出して形成され、燃烧部  
 は壁よりも外側に造られる。煙道はほとんど明確に

は検出されなかった。両袖は、検出時には地山を削  
 り出した状態で検出され、建物の内側には全く張り  
 出さない状態であったが、両袖の芯材と思われる細  
 長い自然石が検出され、ローム質の粘土ないしその  
 他の土を貼り付けて形成されていた可能性がある。  
 貯蔵穴：なし。柱穴・pit：南西壁寄りにpit1、  
 床下pit2が検出されている。pit1長径0.65m・短径  
 0.57m・深さ0.36m、pit2長径0.44m・短径0.42m・  
 深さ0.26m。時期：6C代か？。遺物：埋土  
 中に散在。須恵器器台（1）と土師器有孔鉢（2）

第3章 発見された遺構と遺物



第383図 346号竪穴建物跡

が特筆される。

(131) 345号竪穴建物跡

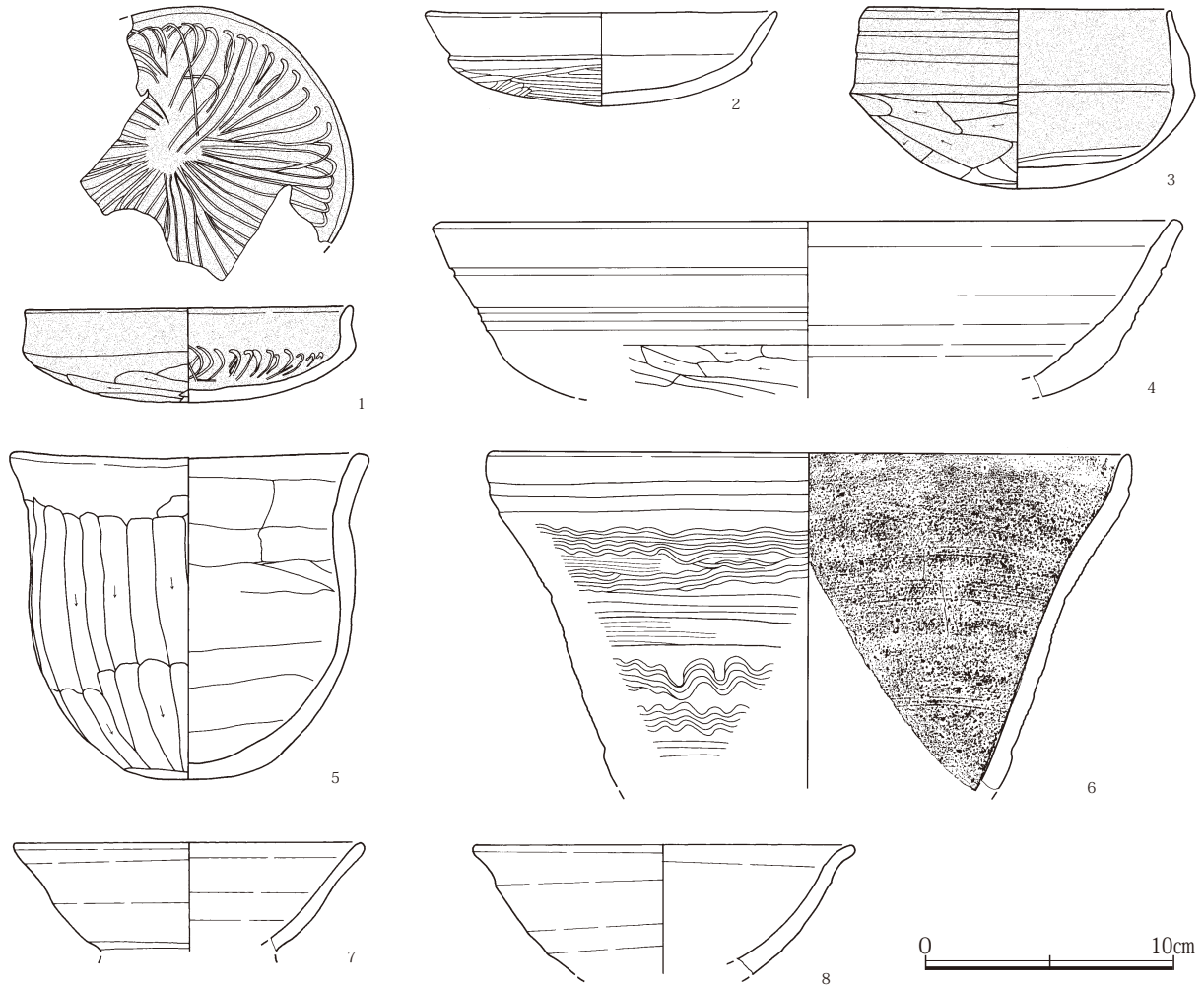
**位置**：調査区中央から若干北東。X360-365・Y-785--790Gr. **主軸方位**：N-25° -E **重複**：1号粘土採掘坑跡を掘り込む。 **規模と形状**：北西—南東方向に長い長方形を呈する。後世の攪乱によって破壊されている。残存状態は不良。長辺3.58m・短辺3m・床面までの深さ0.2m。本遺跡屈指の小型竪穴建物跡である。 **埋土**：暗褐色土ベース。

**床面**：地山を平坦に削り出して床面を形成している。貼床等は全くなされていない。 **掘方**：部分的に土坑状の掘り込みも認められるが、床面とほぼ一致している。 **竈**：北のコーナーに取り付く。上面を削平され、残存状態は極めて良くない。 **燃烧部・煙道**はいずれも地山を削り出して形成され、**燃烧部**は壁の外側に造られる。煙道はほとんど明確には検出されなかった。両袖は、検出時には地山を削り出

した状態で検出され、内側には張り出さない。 **貯蔵穴**：なし。 **時期**：6 C後。 **遺物**：建物のほぼ中央部に散在。埋土中より鎌（5）が出土。

(132) 346号竪穴建物跡

**位置**：調査区北東壁際。X380-385・Y-780--785Gr. **主軸方位**：N-47° -W **重複**：340号竪穴建物跡、1120・1122号土坑跡に掘り込まれる。 **規模と形状**：北東—南西方向に長い長方形を呈する。北・西・東の各隅を破壊されているため、残存状態は良くない。長辺4.82m・短辺3.48m・床面までの深さ0.17m。 **埋土**：暗褐色土ベース。 **床面**：地山を平坦に削り出して床面を形成している。 **掘方**：床面と一致。 **竈**：北西壁の中央に取り付く。上面を340号竪穴建物跡によって削平され、残存状態は極めて良くない。 **燃烧部・煙道**はいずれも地山を削り出して形成され、**燃烧部**は壁より外側に造られる。煙道は検出されなかった。両袖は、地山を削り出し



第384図 346号竪穴建物跡出土遺物

た状態で検出され、内側には全く張り出さない。

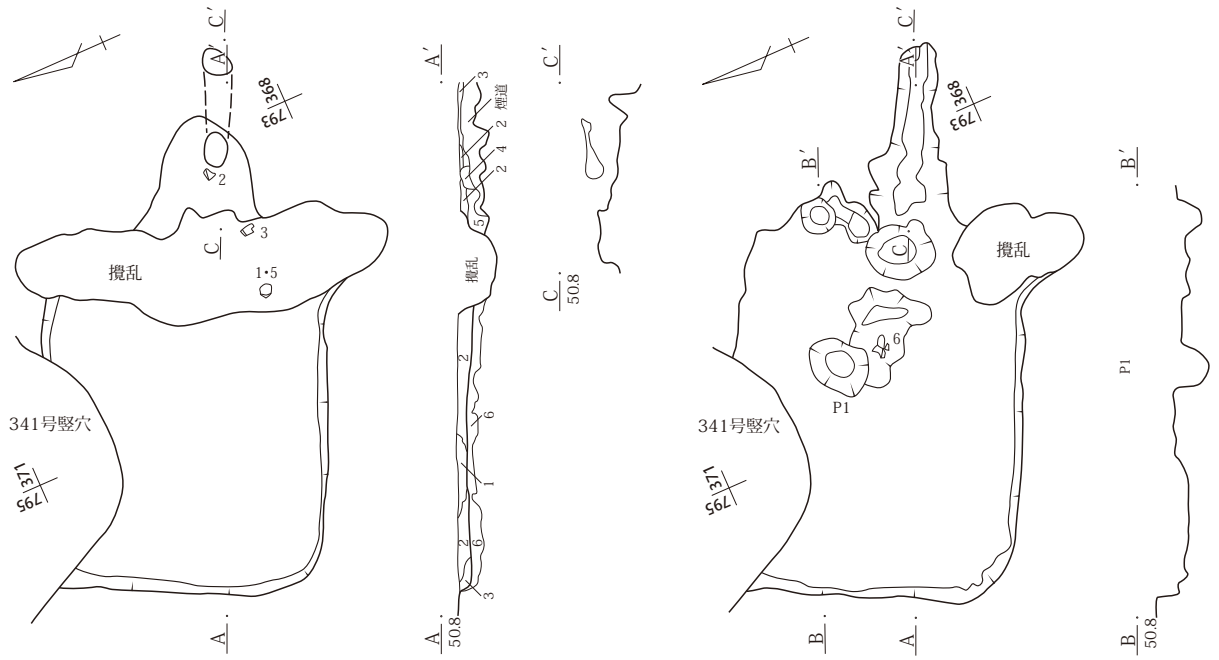
**貯蔵穴:**なし。 **時期:** 6 C後。 **遺物:** 建物の中央部に散在。

(133) 347号竪穴建物跡

**位置:** 調査区中央北東寄り。 X365~370・Y-790~795Gr. **主軸方位:** N-64° -W **重複:** 341号竪穴建物跡に掘り込まれる。 **規模と形状:** 北西-南東方向に長い長方形を呈する。北・東・南の各隅を破壊されているため、残存状態は不良。長辺3m・短辺2.2m・床面までの深さ0.1m・掘方までの深さ0.2m。本遺跡屈指の小型竪穴建物跡である。 **埋土:** 暗褐色土ベース。 **床面:** 地山を比較的凹凸激しく掘り込んだ上にローム塊が多量に混じる暗褐色土を貼って平坦な床面を形成している。床面の厚さは約

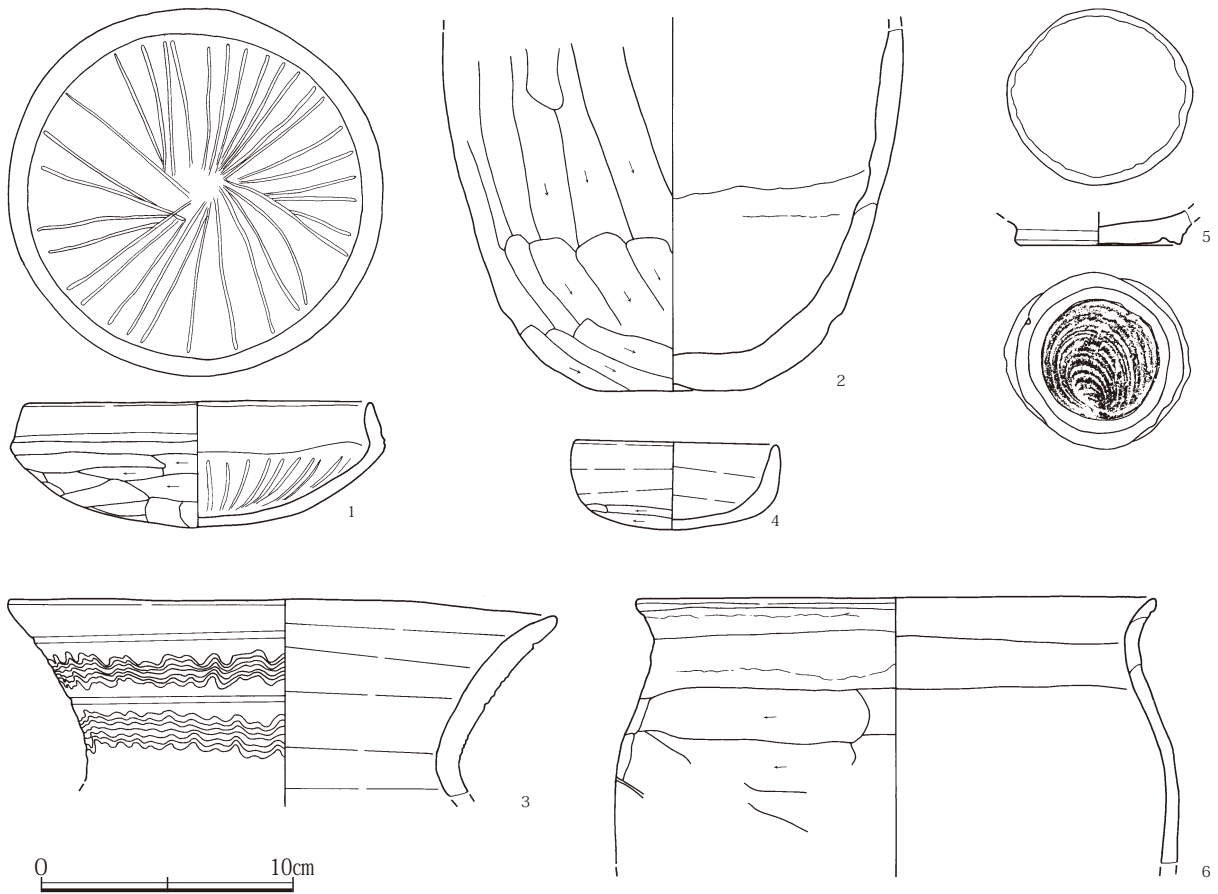
0.1m前後。 **掘方:** 地山を比較的凹凸激しく大きく掘り込んでいる。中央部と竈前、北東隅付近に床下の土坑状の掘り込みが連続して形成されている。中央で床下のpitが検出された (pit1)。 **竈:** 北西壁の中央に取り付く。上面を削平され、また、焚口・両袖の部分の後世に攪乱されているため残存状態不良。 **燃烧部・煙道:** はいずれも地山を削り出して形成され、燃烧部は外側に造られる。煙道は建物の外側にトンネル状に掘り込まれ、長く延びている。煙道部がトンネル状に検出されたのは、本遺跡ではこの竪穴建物跡が唯一である。 **貯蔵穴:**なし。 **柱穴・pit:** pit1長径0.52m・短径0.4m・深さ0.28m。 **時期:** 6 C後半、7 C前半、10 C第2四半期の遺物が混在する。6 C後半の遺物が最多である。 **遺物:** 床直からの遺物が多い。

第3章 発見された遺構と遺物



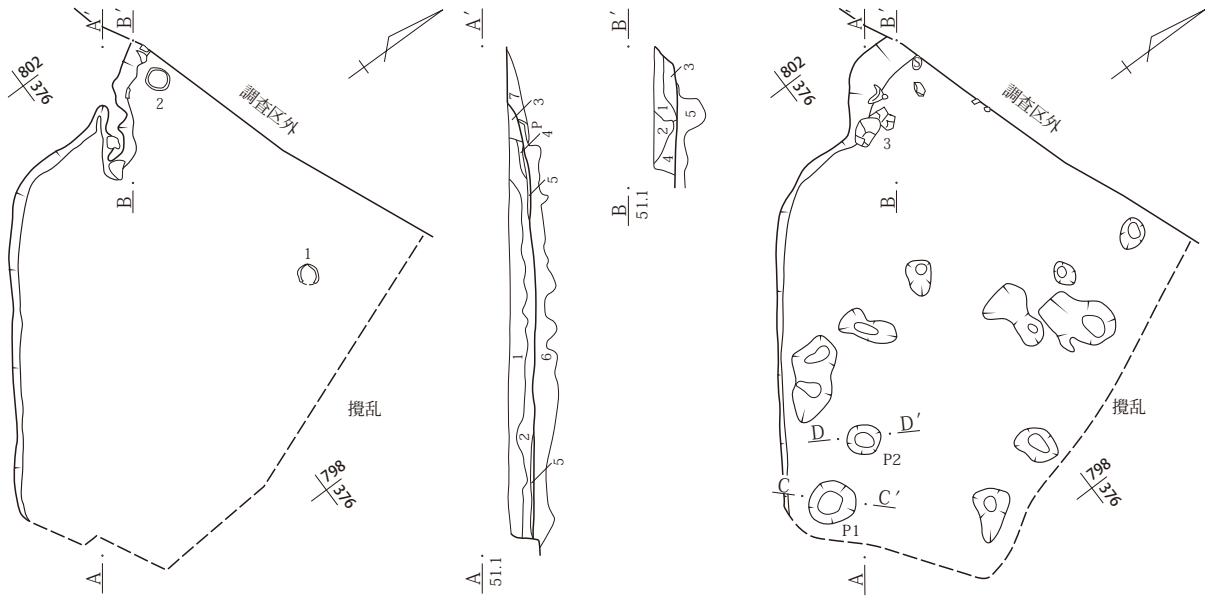
347号竪穴建物跡

- |  |  |
|--|--|
| <p>1. 暗褐色土 ローム塊若干混。白色粒微量混。<br/>         2. 暗褐色土 1層とほぼ同じ。ローム塊混入の割合が少。<br/>         3. 暗褐色土 白色細粒微量混。</p> | <p>4. 褐色粘質土塊 竈構築材。<br/>         5. 暗褐色土 ローム・白色粒少量混。竈掘方埋土。<br/>         6. 暗褐色土 ローム塊大量混。貼床土、掘方埋土。</p> |
|--|--|



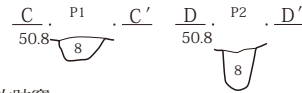
第385図 347号竪穴建物跡・出土遺物





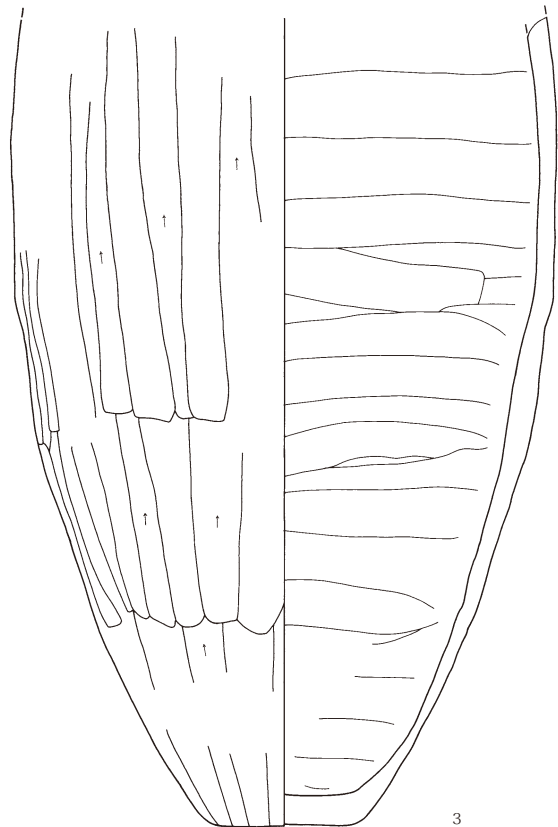
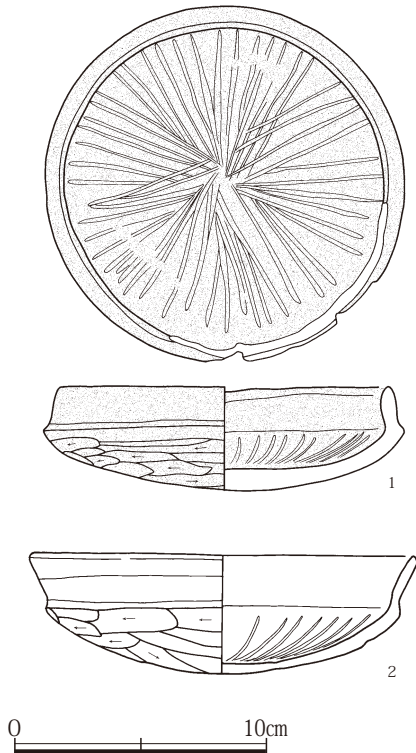
348号竪穴建物跡

1. 暗褐色土 細砂礫・小石、焼土・ローム細粒やや多混。
2. 暗褐色土 焼土・ローム粒大量混。  
ローム塊少量混。
3. 暗灰褐色土 焼土・灰白色粒・砂礫多混。  
竈構築土の崩れ。
4. 暗褐色土 焼土・炭化物粒やや多混。  
竈からの流出土。
5. 黒褐色粘質土
6. 暗褐色土 ローム・黒褐色土塊混。
7. 暗褐色土 焼土・ローム粒少量混。
8. 黒褐色土 ローム粒少量混。



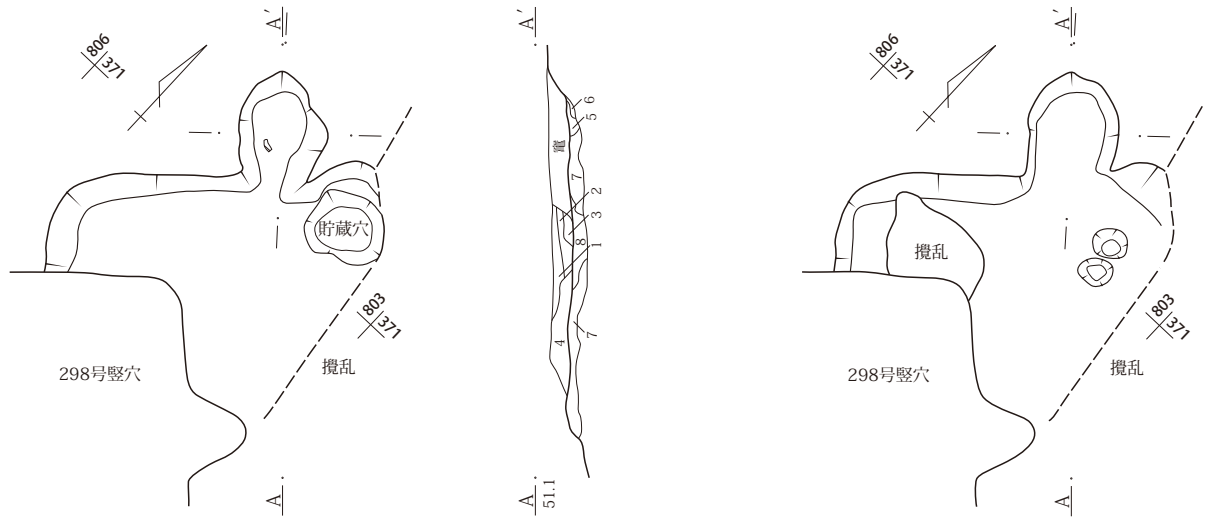
348号竪穴建物跡竈

1. 暗褐色土 灰白色・焼土粒・砂礫少量混。
2. 暗黄褐色土 焼土・ローム細粒・細砂礫多混。
3. 暗褐色土 焼土・ローム細粒極少量混。
4. 暗灰褐色土 焼土粒やや多混。
5. 黒褐色土 焼土粒微量混。掘方埋土。



第386図 348号竪穴建物跡竈・出土遺物

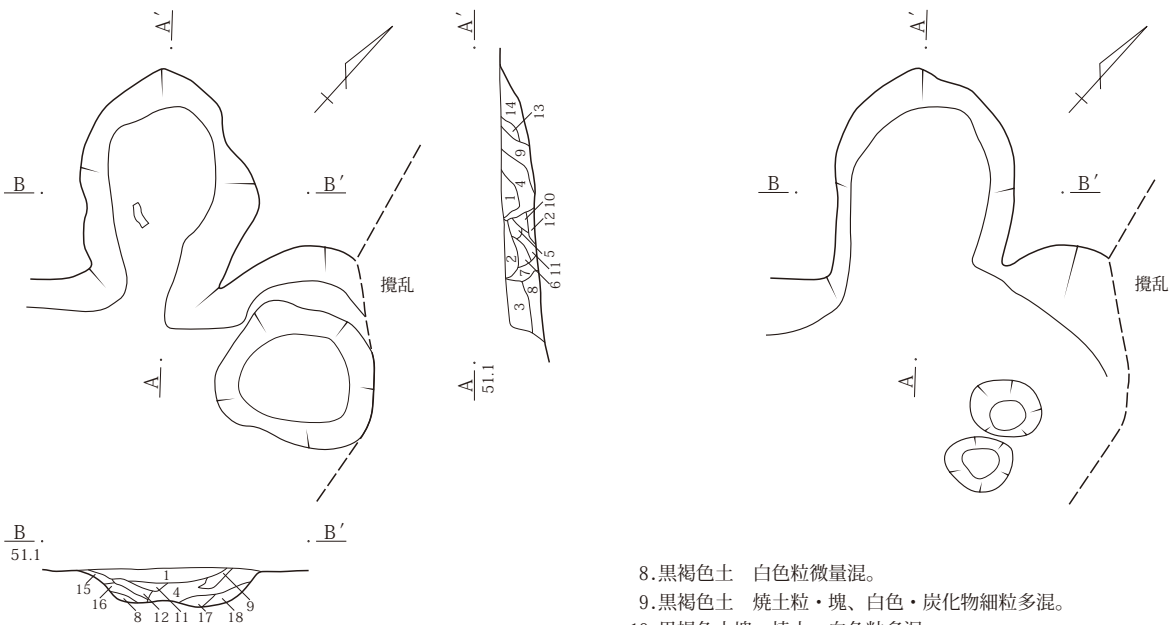
第3章 発見された遺構と遺物



349号竪穴建物跡

1. 黒褐色土 灰白色・焼土粒・砂礫多混。
2. 暗灰褐色土 ローム粒・小塊多混。
3. 暗褐色土 灰白色粒・砂粒極少量混。
4. 暗褐色土 ローム・焼土細粒若干混。

5. 黒褐色土 ローム粒微量混。
6. 暗褐色土
7. 暗褐色土
8. 黒褐色土 ローム粒混。



349号竪穴建物跡竈

1. 黒褐色土 焼土・白色粒多混。
2. 黒褐色土 白色粒・焼土塊少量混。
3. 黒褐色土 白色粒・焼土塊少量混。
4. 褐色土 ローム塊多混。
5. 赤褐色焼土塊
6. 黒褐色土塊 焼土・白色粒多混。
7. 黒褐色土 焼土・白色細粒・炭化物粒混。

8. 黒褐色土 白色粒微量混。
9. 黒褐色土 焼土粒・塊、白色・炭化物細粒多混。
10. 黒褐色土塊 焼土・白色粒多混。
11. 黒褐色土塊 白色粒少量混。
12. 黒褐色土 焼土粒多量混、白色粒多混。
13. 黒褐色土 白色粒微量混。
14. 褐色土 ローム塊多混。
15. 黒褐色土 白色粒多量混。焼土粒多混。炭化物粒混。
16. 黒褐色土 白色粒少量混。
17. 黒褐色土 焼土・炭化物粒混。
18. 黒褐色砂質土

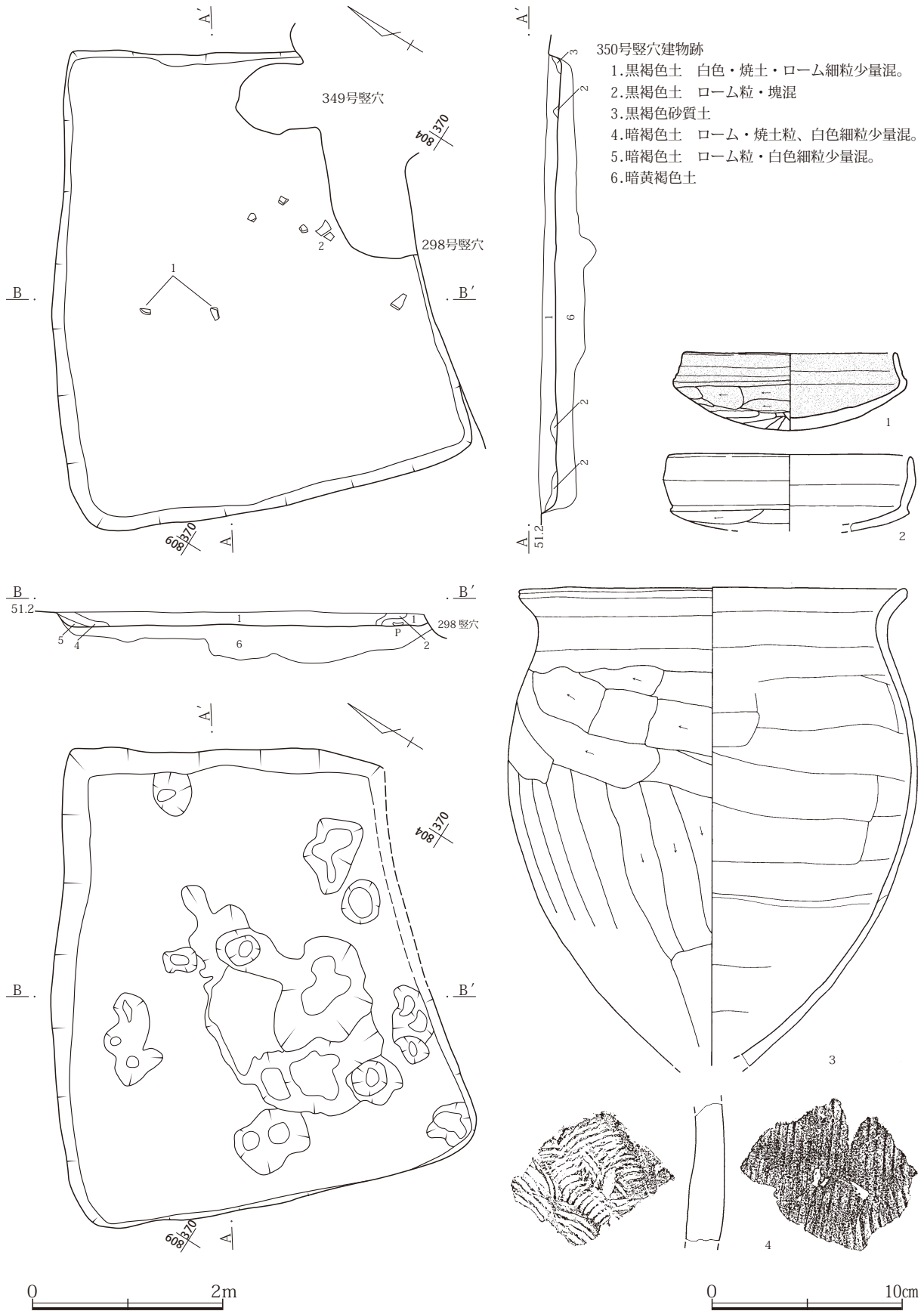


第337図 349号竪穴建物跡

(134) 348号竪穴建物跡

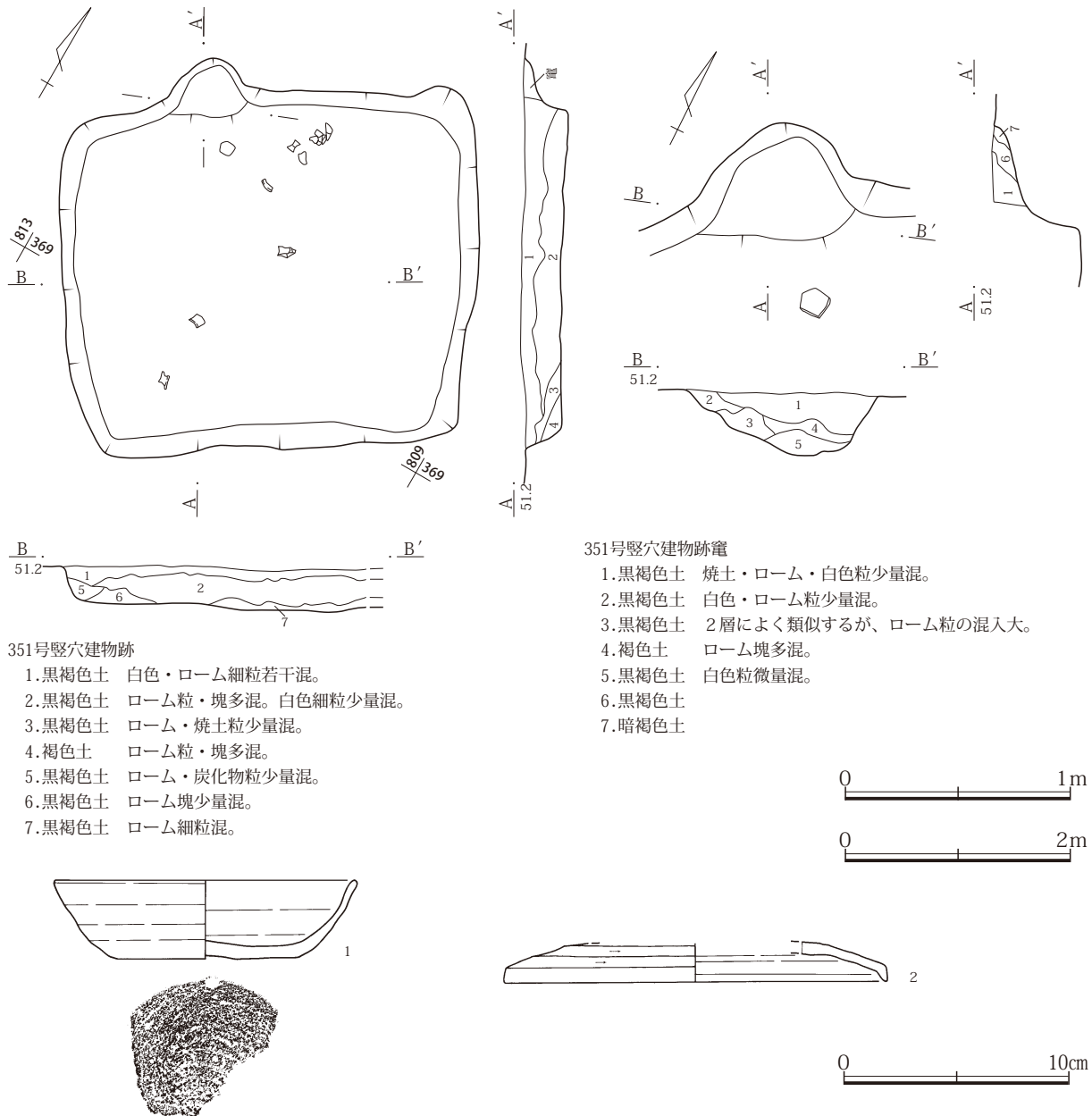
位置：調査区中央北壁際。X370-375・Y-795～800Gr. 主軸方位：N-50° -W 重複：363号竪穴建

物跡を掘り込む。規模と形状：北側が調査区外に出て、東と南側が後世の削平を受け破壊されており、全容は不明である。北西-南東方向に軸を有す



第388図 350号竪穴建物跡・出土遺物

第3章 発見された遺構と遺物



351号竪穴建物跡

1. 黒褐色土 白色・ローム細粒若干混。
2. 黒褐色土 ローム粒・塊多混。白色細粒少量混。
3. 黒褐色土 ローム・焼土粒少量混。
4. 褐色土 ローム粒・塊多混。
5. 黒褐色土 ローム・炭化物粒少量混。
6. 黒褐色土 ローム塊少量混。
7. 黒褐色土 ローム細粒混。

351号竪穴建物跡竈

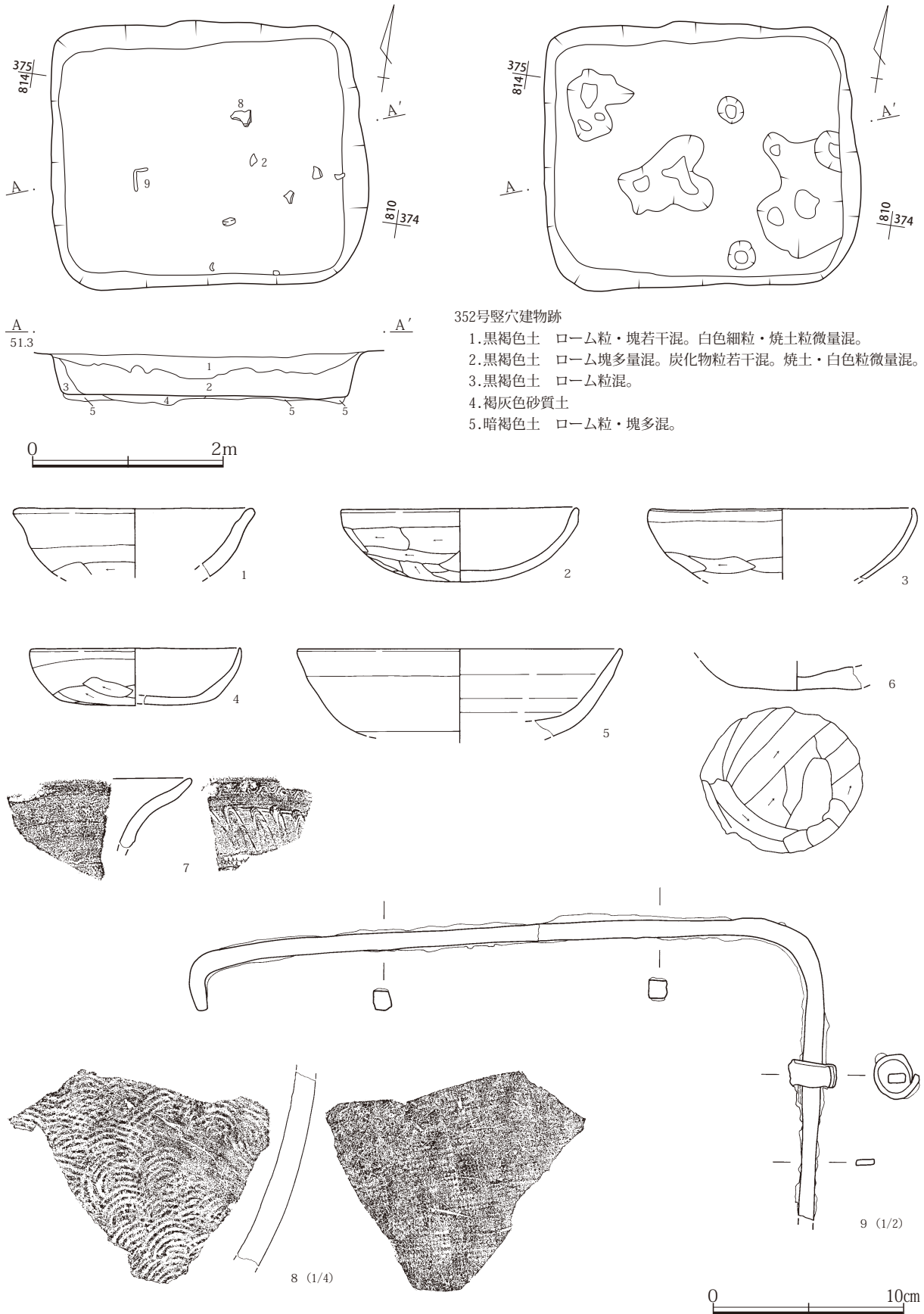
1. 黒褐色土 焼土・ローム・白色粒少量混。
2. 黒褐色土 白色・ローム粒少量混。
3. 黒褐色土 2層によく類似するが、ローム粒の混入大。
4. 褐色土 ローム塊多混。
5. 黒褐色土 白色粒微量混。
6. 黒褐色土
7. 暗褐色土

第389図 351号竪穴建物跡・出土遺物

るものと思われるが、北西隅に取り付く竈の西南側約1/4と南西側の壁の一部が検出されたに過ぎない。床面までの深さ0.2m・掘方までの深さ0.38m。  
**埋土**：暗褐色土ベース。 **床面**：地山を凹凸激しく大きく掘り込んだ上にローム粒・塊、黒褐色土塊などが混じる暗褐色土を貼って硬質で平坦な床面を形成している。床面の厚さは約0.15～0.18m。 **掘方**：凹凸激しい。全体的に土坑状の掘り込みが連続して形成されている。西壁寄りでpitが検出された。  
**竈**：北西隅に取り付く。上面を削平され残存状態

は不良。北側大部分が調査区外に出るため、焚口部分と左袖と燃焼部の左側約1/4が辛うじて検出されたに過ぎない。燃焼部は地山を削り出して形成され、建物の壁より外側に造られる。左袖は自然石を芯材として暗褐色土を貼り付けて形成され、内部に張り出している。 **貯蔵穴**：なし。 **柱穴・pit**：西壁際で床下のpitが2基検出された。 **pit1**長径0.37m・短径0.36m・深さ0.18m。 **pit2**長径0.28m・短径0.26m・深さ0.32m。 **時期**：6C後。 **遺物**：床直からの出土が多い。

第2節 古墳時代後期～平安時代の遺構と遺物

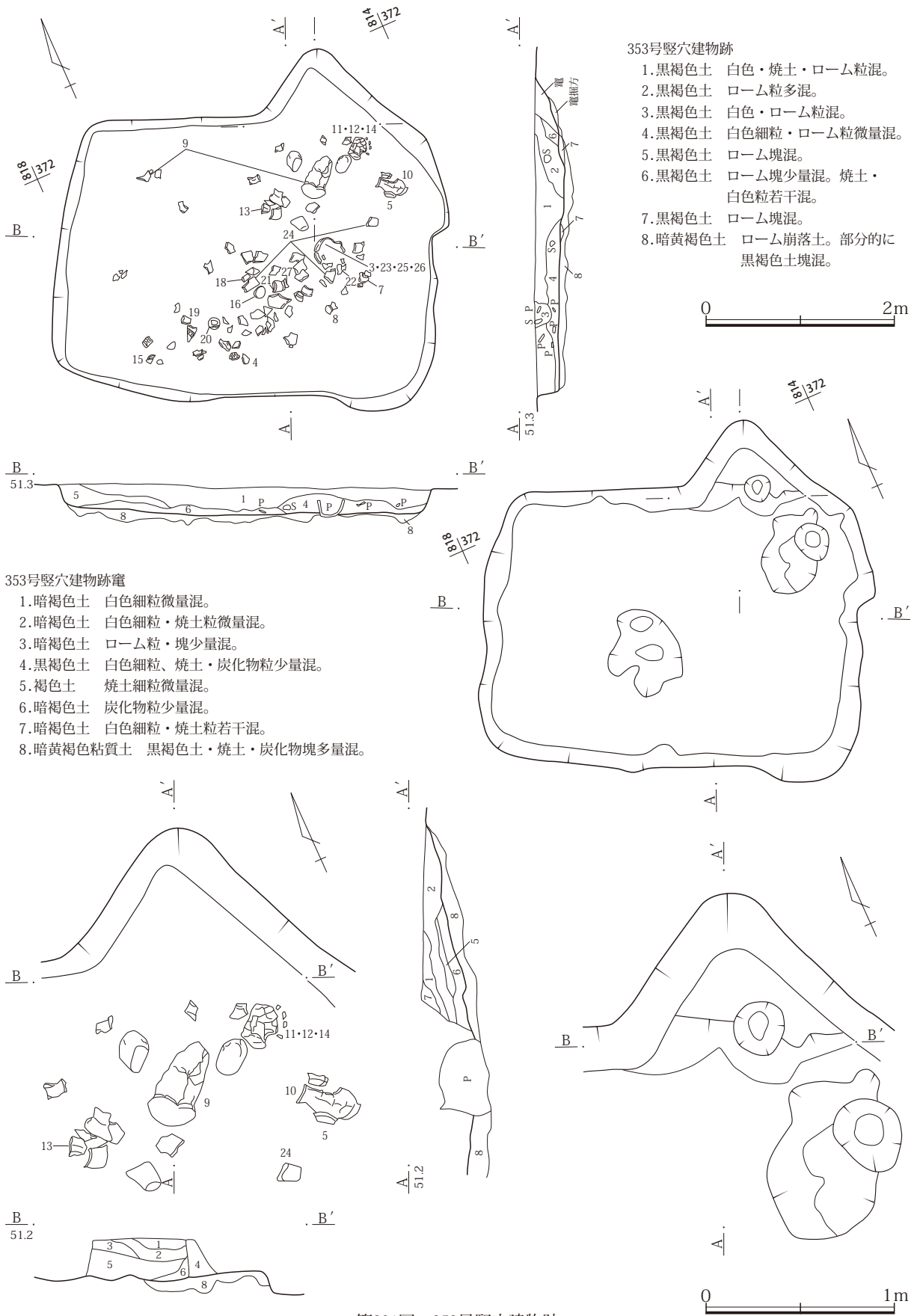


352号竪穴建物跡

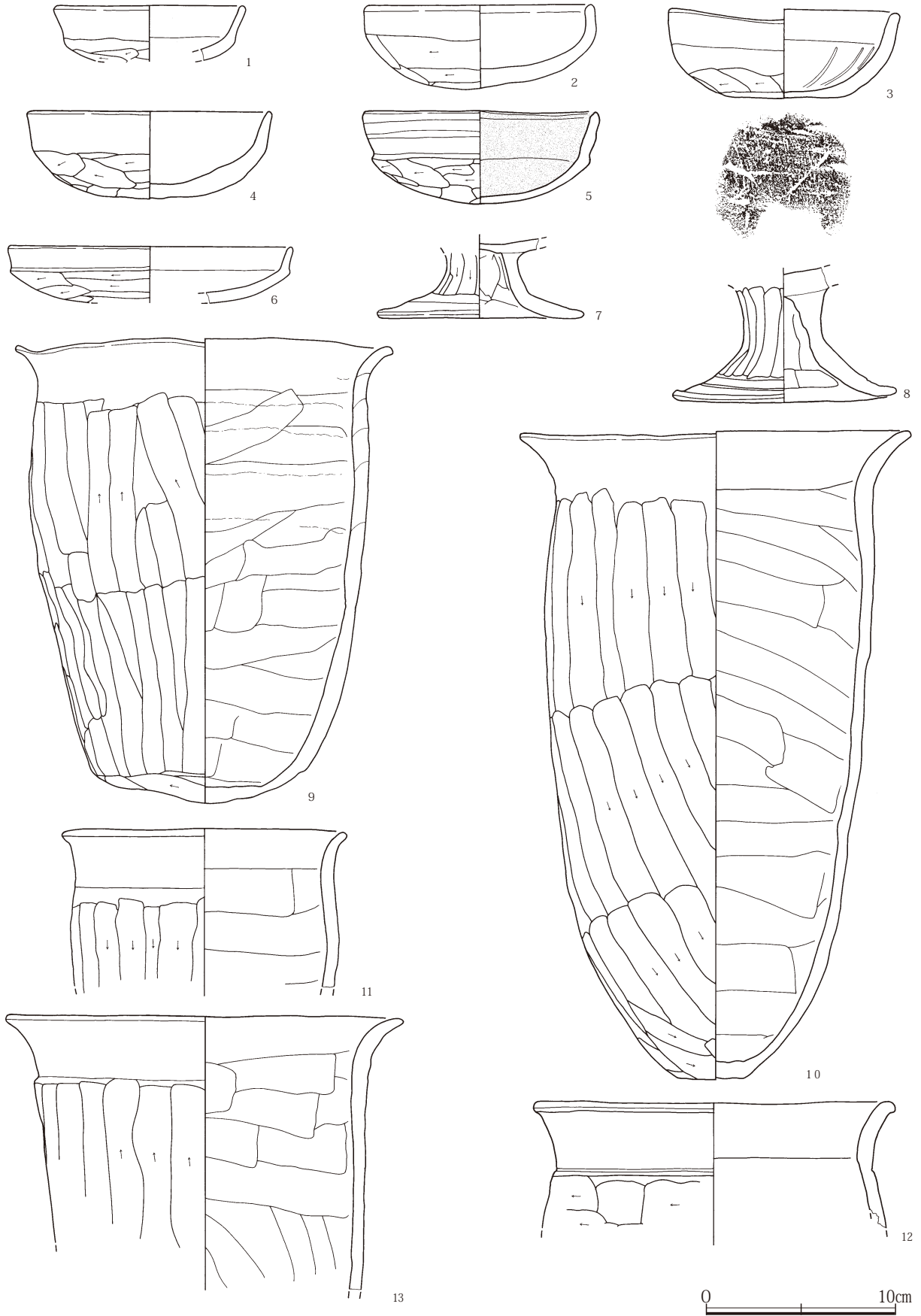
- 1. 黒褐色土 ローム粒・塊若干混。白色細粒・焼土粒微量混。
- 2. 黒褐色土 ローム塊多量混。炭化物粒若干混。焼土・白色粒微量混。
- 3. 黒褐色土 ローム粒混。
- 4. 褐灰色砂質土
- 5. 暗褐色土 ローム粒・塊多混。

第390図 352号竪穴建物跡・出土遺物

第3章 発見された遺構と遺物

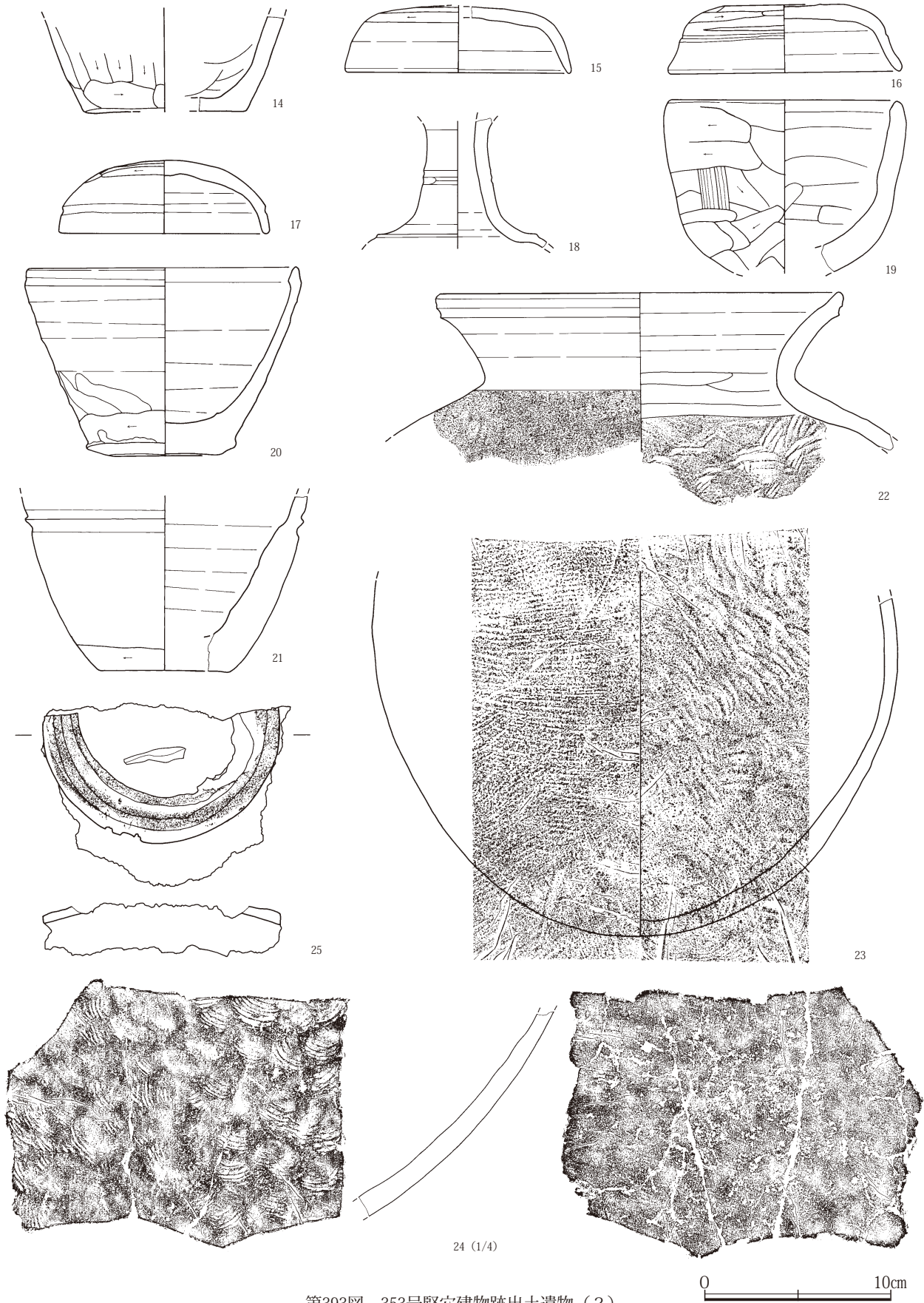


第391図 353号竪穴建物跡



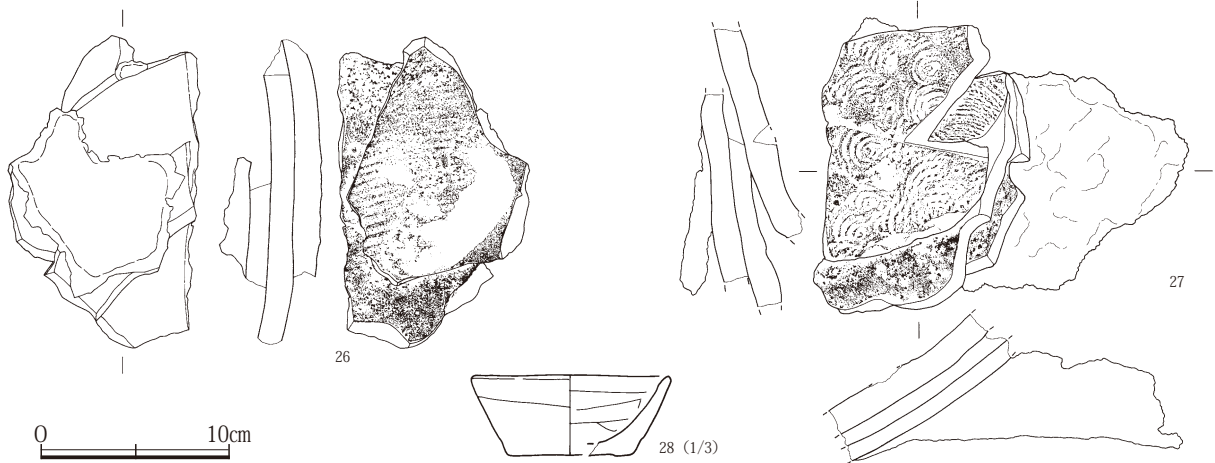
第392図 353号竪穴建物跡出土遺物（1）

第3章 発見された遺構と遺物



第393図 353号竪穴建物跡出土遺物（2）





第394図 353号竪穴建物跡出土遺物（3）

**(135) 349号竪穴建物跡**

**位置：**調査区中央北寄り。X365~370・Y-800~805Gr. **主軸方位：**N-43° -W **重複：**298号竪穴建物跡に掘り込まれる。350号竪穴建物跡を掘り込む。

**規模と形状：**北西-南東方向に軸を有する。南西側大部分を298号竪穴建物跡に破壊され、また、東から南側にかけては後世の削平によって完全に削り取られており、竈と貯蔵穴と建物の北西隅とが検出されたに過ぎない。床面までの深さ0.15m・掘り込みまでの深さ0.28m。 **埋土：**暗褐色土ベース。 **床面：**地山を比較的大きく掘り込んだ上にローム粒が混じる黒褐色土を貼って平坦な床面を形成している。床面の厚さは約0.1~0.13m。 **掘方：**凹凸はあまり顕著ではない。 **竈：**北西壁に取り付く。上面を削平され残存状態は不良。燃烧部・煙道・両袖共に地山を削り出して形成され、燃烧部は壁よりも外側に造られる。両袖は内側に張り出さない。煙道部は外側に若干延びている。 **貯蔵穴：**竈の北東側で検出された。北東-南西方向にやや長い楕円形状を呈し、長径0.63m・短径0.53m・深さ0.13m。 **時期：**不明。 **遺物：**なし。

**(136) 350号竪穴建物跡**

**位置：**調査区中央北寄り。X365~370・Y-800~805Gr. **主軸方位：**不明。 **重複：**298・349号竪穴建物跡に掘り込まれる。56号溝跡を掘り込む。 **規**

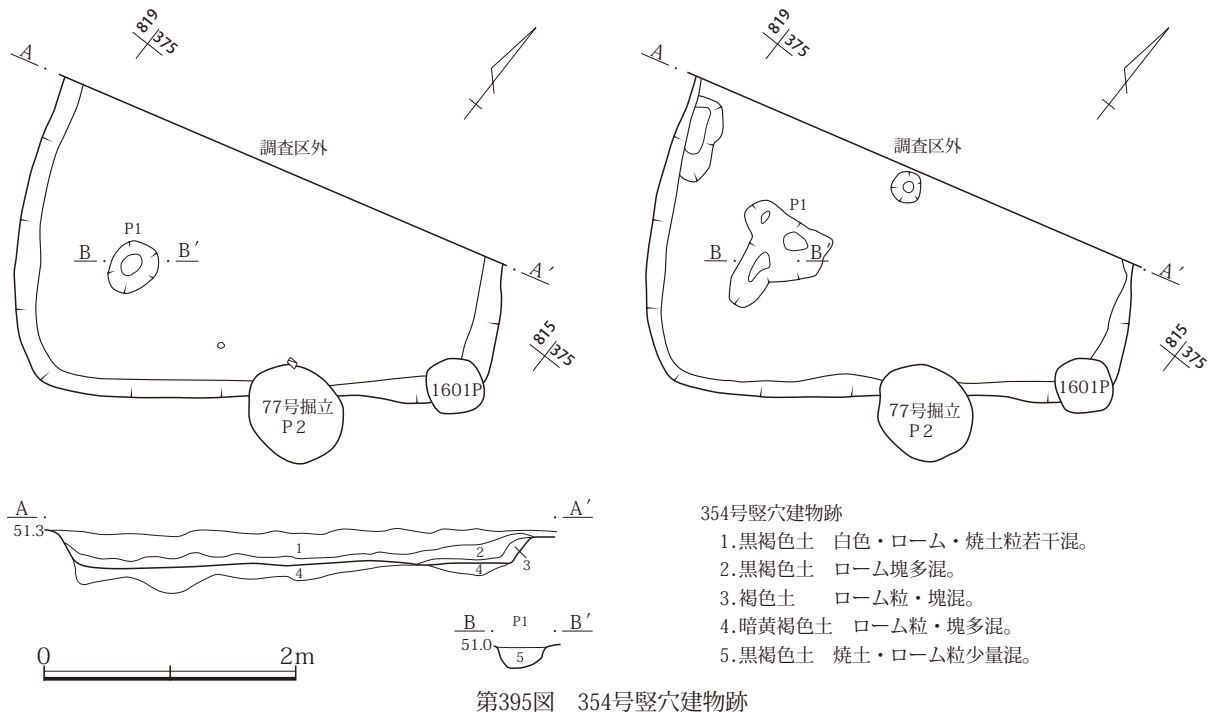
**模と形状：**北東-南西方向に長い長方形を呈する。長辺4.84m・短辺4.22m・床面までの深さ0.18m・掘り込みまでの深さ0.53m。 **埋土：**黒褐色土ベース。 **床面：**地山を大きく掘り込んだ上にローム粒が混じる暗黄褐色土を貼って平坦な床面を形成している。床面の厚さは約0.35m。 **掘方：**凹凸が甚だしい。とくに中央部から南端にかけて土坑状の掘り込みが連続して形成されている様子がうかがえた。

**竈：**未検出。 **貯蔵穴：**未検出。 **時期：**6C後葉~7C前葉、9C前半の遺物が混在。 **遺物：**建物のほぼ中央部に散在。

**(137) 351号竪穴建物跡**

**位置：**調査区中央北寄り。X365~370・Y-805~810Gr. **主軸方位：**N-30° -E **重複：**362号竪穴建物跡を掘り込む。 **規模と形状：**北東-南西方向に長い、横長の長方形を呈する。長辺3.68m・短辺3.26m・床面までの深さ0.38m。 **埋土：**黒褐色土ベース。 **床面：**地山を平坦に削り出して床面を形成している。 **掘方：**床面と一致。 **竈：**北西壁の北西隅寄りに取り付く。燃烧部・煙道部・両袖共に地山を削り出して形成され、燃烧部は壁より外側に形成されている。煙道部は明確に検出されなかった。両袖は内側に全く張り出さない。 **貯蔵穴：**なし。

**時期：**8C4~9C1。 **遺物：**建物の中央部に散在。



第395図 354号竪穴建物跡

(138) 352号竪穴建物跡

**位置：**調査区中央北寄り。X370-375・Y-810Gr。  
**主軸方位：**不明。 **重複：**359号竪穴建物跡を掘り込む。 **規模と形状：**北東-南西方向に長い長方形状を呈する竈がない竪穴建物跡。 **埋土：**黒褐色土ベース。 **床面：**地山を比較的平坦に削り出した上に、褐灰色砂質土及びローム粒・塊が混じる暗褐色土を薄く貼って平坦面を形成している。 **掘方：**比較的平坦だが、西北隅・中央。東壁際でとくに一段深く掘り込まれた土坑状の掘り込みが見られる。 **竈：**なし。 **貯蔵穴：**なし。 **時期：**8C前。 **遺物：**床面からクルル鉤が出土した。他の遺物は建物内に散在。

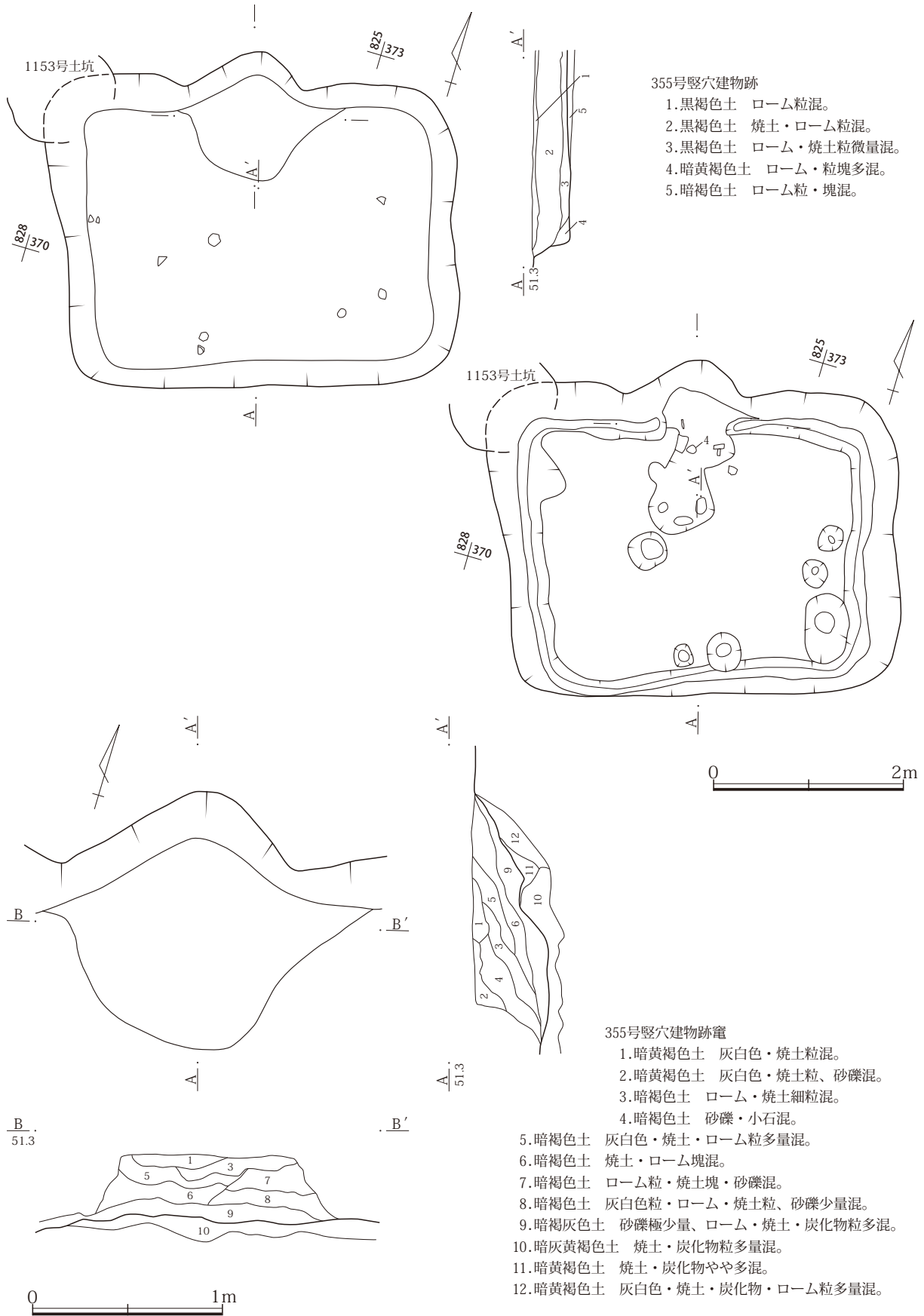
(139) 353号竪穴建物跡

**位置：**調査区中央西北寄り。X365-370・Y-810~815Gr。 **主軸方位：**N-23°-E **重複：**なし。 **規模と形状：**北西-南東方向に長い長方形状を呈する。長辺4.1m・短辺3m・床面までの深さ0.3m・掘り込みまでの深さ0.4m。 **埋土：**黒褐色土ベース。 **床面：**地山を比較的平坦に削り出した上に、黒褐色土塊を部分的に含む暗黄褐色土を薄く貼って平坦面を

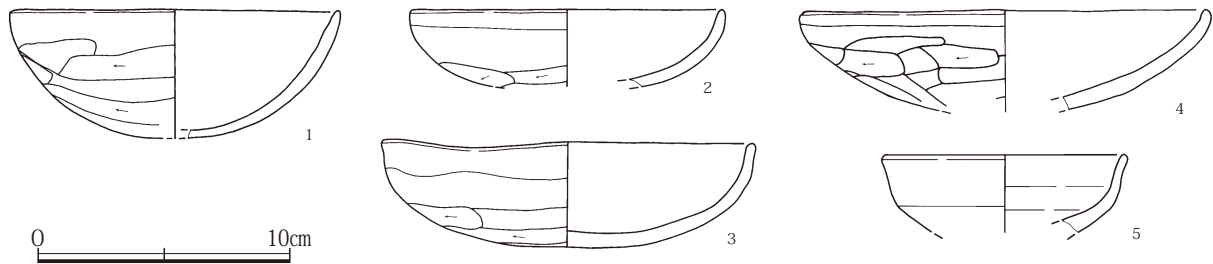
形成している。 **掘方：**中央と北東隅でとくに一段深く掘り込まれた土坑状の掘り込みが見られる。 **竈：**北東の隅に取り付く。燃烧部・煙道部・両袖共に地山を削り出して形成され、燃烧部は壁より外側に形成されている。煙道部は明確に検出されなかった。両袖は内側に全く張り出さない。 **貯蔵穴：**なし。 **時期：**7C前。 **遺物：**全域から多量の遺物が出土した。

(140) 354号竪穴建物跡

**位置：**調査区西寄り北壁際。X370-375・Y-815Gr。  
**主軸方位：**不明。 **重複：**77号掘立柱建物跡、1601号pitに掘り込まれる。 **規模と形状：**北側半分以上が調査区外に出るため、全容は全く不明である。東・西壁の一部と南壁が検出されたに過ぎない。南辺3.85m・床面までの深さ0.28m・掘り込みまでの深さ0.47m。 **埋土：**黒褐色土ベース。 **床面：**地山を凹凸激しく大きく掘り込んだ上に、ローム塊を含む暗黄褐色土を比較的厚く貼って平坦面を形成している。床面から掘り込んだpit1が検出されているが、柱穴とは考えにくい。 **掘方：**凹凸激しい。 **竈：**未検出。 **貯蔵穴：**未検出。 **柱穴・pit：**pit1長



第396図 355号竪穴建物跡



第397図 355号竪穴建物跡出土遺物

径0.45m・短径0.4m・深さ0.18m。 **時期**：不明。  
**遺物**：なし。

(141) 355号竪穴建物跡

**位置**：調査区西寄り北壁際。X365~370・Y-820~825Gr. **主軸方位**：N-16° -W **重複**：1153号土坑跡に掘り込まれる。 **規模と形状**：北東-南西方向に長い横長の長方形を呈する。長辺4.3m・短辺3.28m・床面までの深さ0.34m・掘方までの深さ0.46m。 **埋土**：黒褐色土ベース。 **床面**：地山を比較的大きく、凹凸激しく掘り込んだ上に、ローム粒・塊が混じる暗褐色土を薄く貼って平坦面を形成している。 **掘方**：凹凸激しい。東及び南の壁際と竈前に、土坑状の掘り込みが連続して形成され、壁際には周溝状の掘り込みが廻っている。 **竈**：北壁のほぼ中央に取り付く。 **燃烧部・煙道・両袖**は地山を削り出して形成され、 **燃烧部**は壁より外側に形成される。 **煙道**は検出できなかった。 **両袖**は内側には全く張り出さない。全体的に小規模である。 **貯蔵穴**：なし。 **時期**：8C1。 **遺物**：建物内に散在。

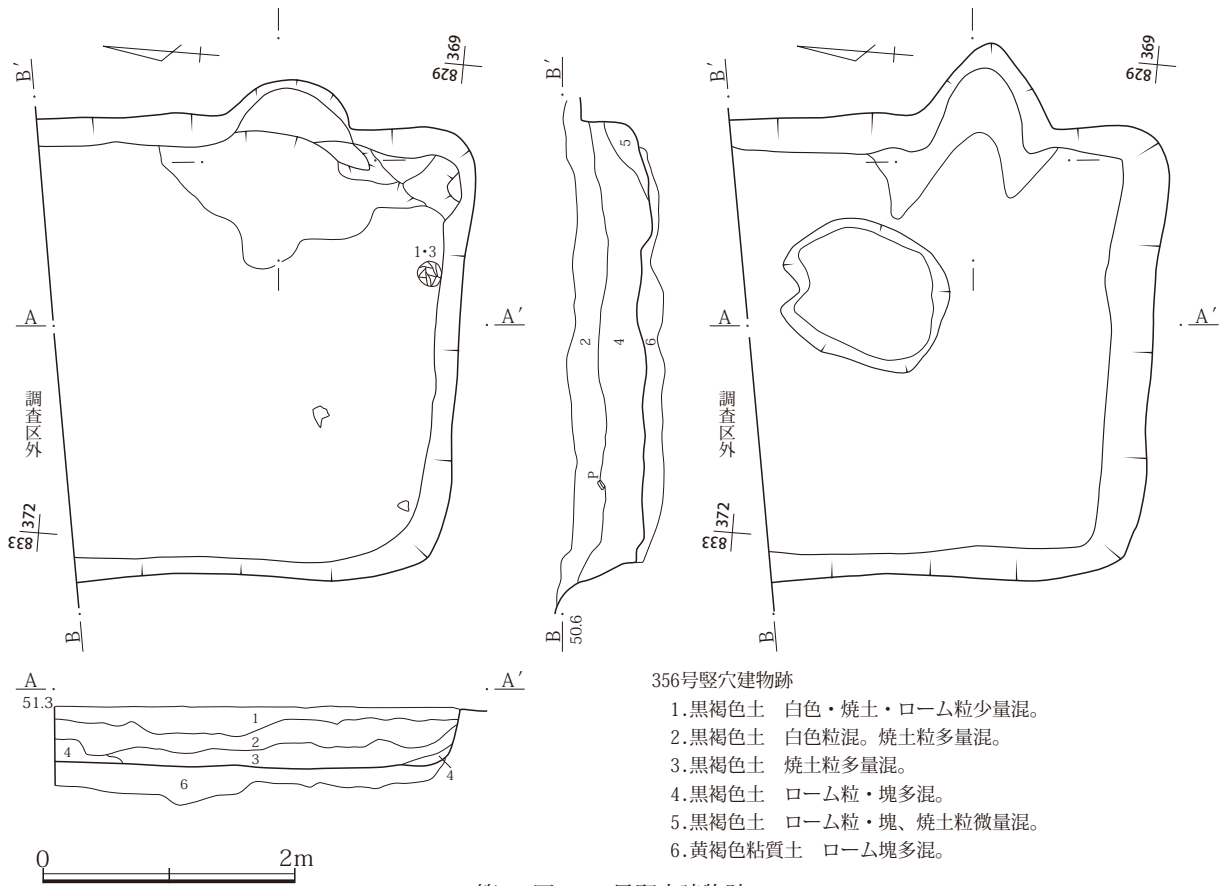
(142) 356号竪穴建物跡

**位置**：調査区西寄り北壁際。X365~370・Y-825~830Gr. **主軸方位**：N-86° -E **重複**：59号溝跡を掘り込む。 **規模と形状**：北側が調査区外に出るため全容は不明である。東西両壁の一部と南壁が検出された。南辺3.5m・床面までの深さ0.48m・掘方までの深さ0.78m。 **埋土**：黒褐色土ベース。 **床面**：地山を比較的大きく掘り込んだ上に、ローム粒・塊が混じる黄褐色粘質土を厚く貼って平坦面を形成し

ている。床面の厚さは約0.3m。 **掘方**：凹凸激しい。中央を大きく土坑状に掘り込まれている。 **竈**：東壁の南寄りに取り付く。 **燃烧部・煙道・両袖**は地山を削りだして形成され、 **燃烧部**は壁よりも外側に造られている。 **煙道部**は検出されなかった。 **両袖**は内側に張り出さない。全体的に小規模である。 **貯蔵穴**：なし。 **時期**：8C2。 **遺物**：建物の南側から比較的多く出土している。

(143) 357号竪穴建物跡

**位置**：調査区西端寄り北壁際。X365~370・Y-835~840Gr. **主軸方位**：N-80° -E **重複**：365・366号竪穴建物跡を掘り込む。 **規模と形状**：北側が調査区外に出るため全容は不明であるが大型の竪穴建物跡であった様子がうかがえる。東西両壁の一部と南壁が検出された。東壁・南壁の東寄りの位置にかけて、棚状の平坦面が形成されている。北壁の北寄りにも同様な造作がなされていた可能性が高い。南辺6m・床面までの深さ0.6m。 **埋土**：暗褐色土ベース。 **床面**：地山を平坦に削り出して床面を形成している。 **掘方**：床面とほぼ一致。 **竈**：東壁のほぼ中央に取り付く。 **燃烧部・煙道・両袖**は地山を削り出して形成され、 **燃烧部**は壁とほぼ同位置に形成されている。 **煙道**は外側にやや長く延びている。 **両袖**は内側に張り出している。 **貯蔵穴**：竈のすぐ南側、竪穴建物の南東隅で検出された。東西にやや長い楕円形状を呈し、長径0.88m・短径0.72m・深さ0.43m。 **時期**：9C2。 **遺物**：竈前と貯蔵穴付近から集中して出土している。「入多」と記された墨書土器(5)が特筆される。



第398図 356号竪穴建物跡

(144) 358号竪穴建物跡

**位置：**調査区北西端寄り。X360-365・Y-835～840Gr. **主軸方位：**N14°-W **重複：**279号竪穴建物跡に掘り込まれる。 **規模と形状：**北北西-南南東方向ほぼ方形状を呈する。長辺4.43m・短辺4.4m・床面までの深さ0.4m・掘方までの深さ約0.58m。

**埋土：**黒褐色土ベース。 **床面：**地山を大きく掘り込んだ上に、ローム・焼土・炭化物を少量含む黒褐色土を厚く貼って平坦な床面を形成している。

**掘方：**凹凸激しい。とくに中央部及び西壁際、南西隅にかけて一段深く不整形の土坑状の掘り込みがいくつも連続して形成されている。 **竈：**北壁のほぼ中央に取り付く。燃烧部・煙道は地山を削り出して形成され、燃烧部は壁より外側に形成されている。煙道は外側にやや長く延びている。両袖は地山ローム・焼土粒を少量含む暗黄褐色土を貼り付けて構築され、内側に大きく張り出している。 **貯蔵穴：**なし。 **時期：**古代。 **遺物：**建物の中央部やや南寄

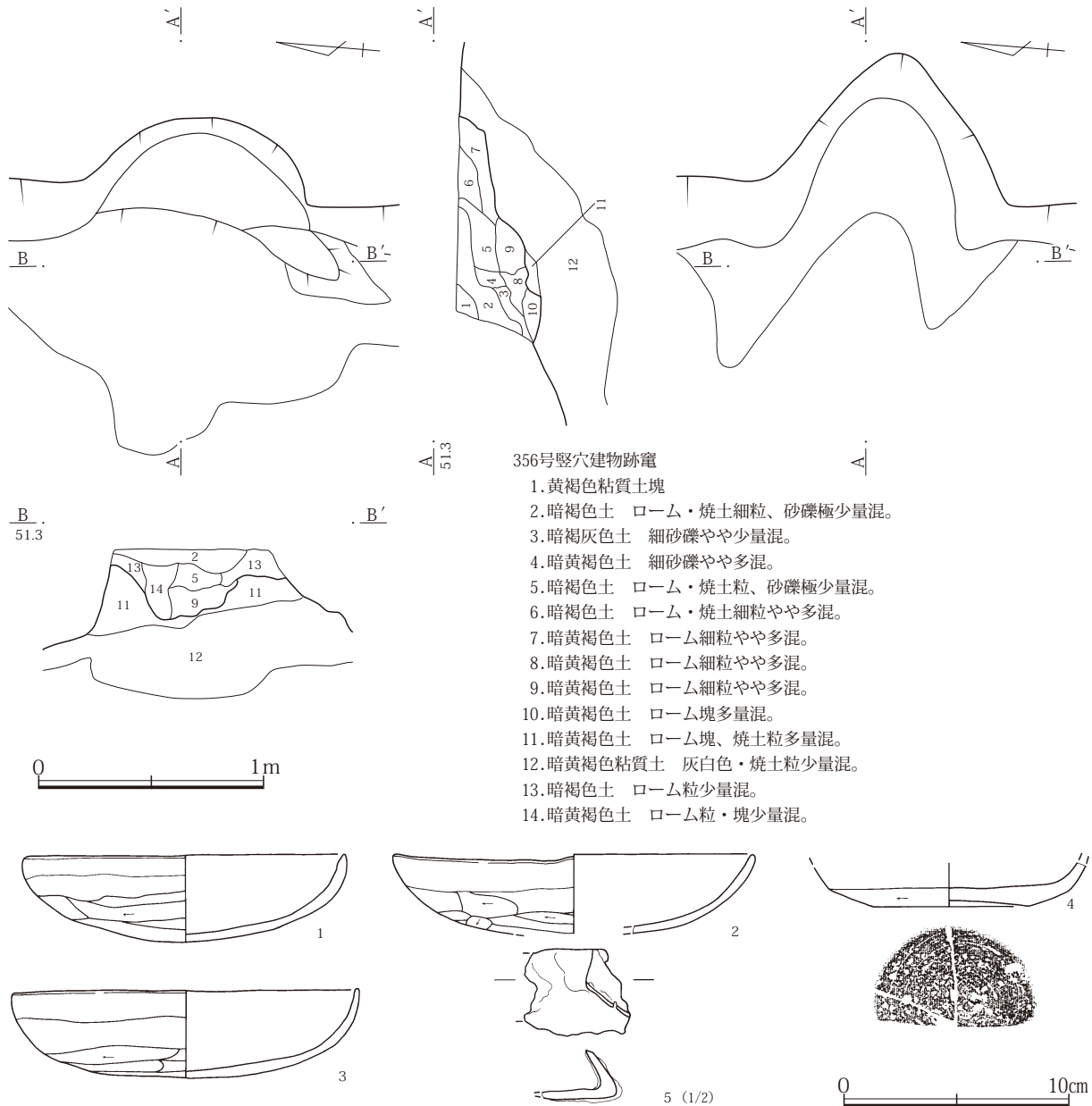
りに集中して出土している。

(145) 359号竪穴建物跡

**位置：**調査区中央北壁際。X370-375・Y-810Gr.

**主軸方位：**不明。 **重複：**352号竪穴建物跡に掘り込まれる。 **規模と形状：**352号竪穴建物跡に南側大部分を掘り込まれて破壊され、北側が調査区外に出るため全容は不明である。東西両壁の一部が検出されたに過ぎない。東西幅3.32m・床面までの深さ0.3m・掘方までの深さ約0.32m。 **埋土：**暗褐色土ベース。 **床面：**地山を比較的平坦に削りだし、部分的に若干深く掘り込んだ箇所に黄褐色土を薄く貼って平坦な床面を形成している。 **掘方：**比較的平坦。東西の壁際から中央にかけて、若干小さな土坑状の凹凸があったり、西壁際には周溝状の掘り込みがあるが浅い。 **竈：**未検出。 **貯蔵穴：**未検出。

**時期：**6Cか7C。 **遺物：**建物内に散在。



356号竪穴建物跡竈

1. 黄褐色粘質土塊
2. 暗褐色土 ローム・焼土細粒、砂礫極少量混。
3. 暗褐色土 細砂礫やや少量混。
4. 暗黄褐色土 細砂礫やや多混。
5. 暗褐色土 ローム・焼土粒、砂礫極少量混。
6. 暗褐色土 ローム・焼土細粒やや多混。
7. 暗黄褐色土 ローム細粒やや多混。
8. 暗黄褐色土 ローム細粒やや多混。
9. 暗黄褐色土 ローム細粒やや多混。
10. 暗黄褐色土 ローム塊多量混。
11. 暗黄褐色土 ローム塊、焼土粒多量混。
12. 暗黄褐色粘質土 灰白色・焼土粒少量混。
13. 暗褐色土 ローム粒少量混。
14. 暗黄褐色土 ローム粒・塊少量混。

第399図 356号竪穴建物跡竈・出土遺物

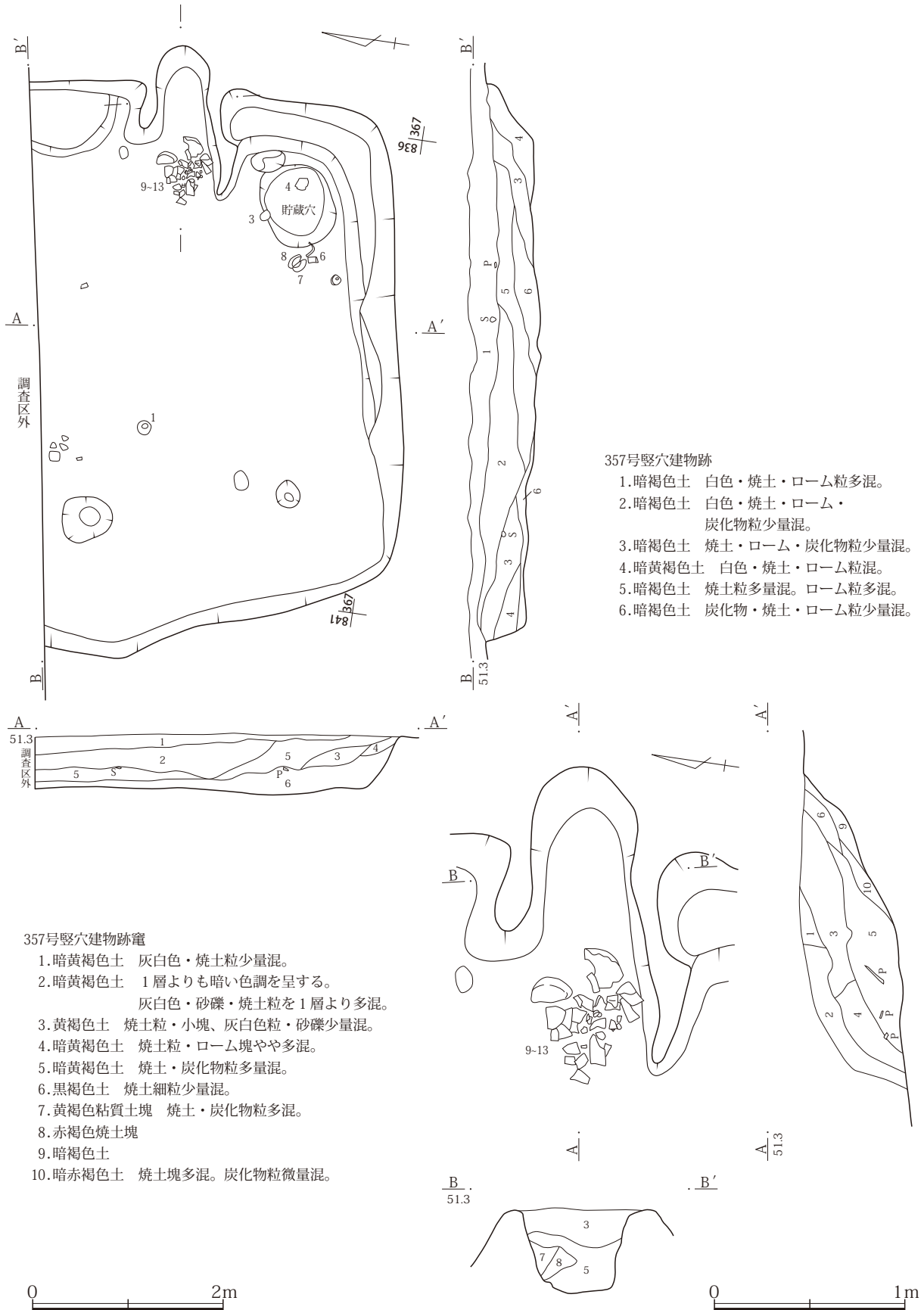
(146) 360号竪穴建物跡

**位置**：調査区北西寄り。X365・Y-820~-825Gr.  
**主軸方位**：不明。 **重複**：355号竪穴建物跡に掘り込まれる。361号竪穴建物跡の北西隅を掘り込む。  
**規模と形状**：北東-南西方向に長い横長の長方形状を呈する。長辺4.35m・短辺3.64m・床面までの深さ0.34m。 **埋土**：暗褐色土ベース。 **床面**：地山を比較的平坦に削り出して床面を形成している。  
**掘方**：床面とほぼ一致しているが、西壁際付近が部分的に若干深く掘り込まれ、さらに南東隅も若干浅

い土坑状に掘り込まれている。また、南と東側の壁際には周溝状の浅く細長い掘り込みが見られる。  
**竈**：未検出。 **貯蔵穴**：未検出。 **時期**：8 C 1。  
**遺物**：建物の南東側から比較的まとまって出土。

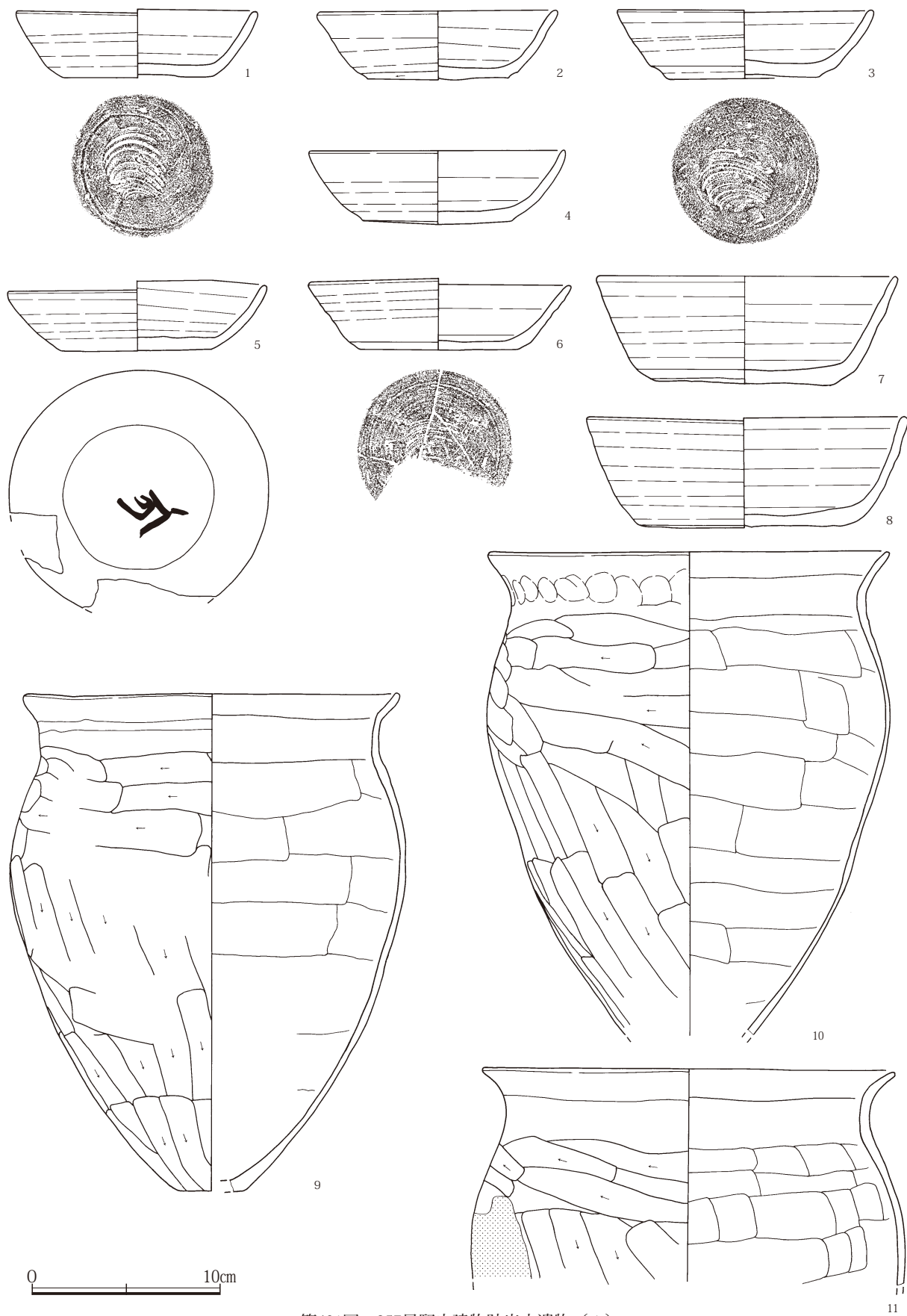
(147) 361号竪穴建物跡

**位置**：調査区北西寄り。X365~370・Y-820~-825Gr. **主軸方位**：不明。 **重複**：355・360号竪穴建物跡に掘り込まれる。 **規模と形状**：北東-南西方向に若干長いほぼ方形状を呈する。長辺4.56m・



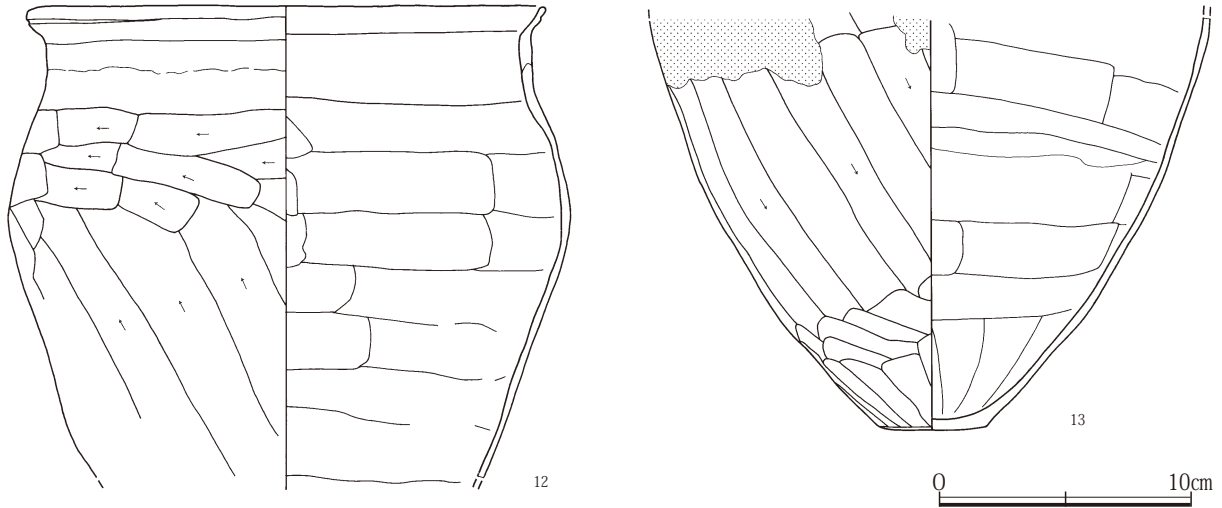
第400図 357号竪穴建物跡

第3章 発見された遺構と遺物



第401図 357号竪穴建物跡出土遺物（1）





第402図 357号竪穴建物跡・出土遺物（2）

短辺4.37m・床面までの深さ0.2m・掘方までの深さ0.26m。**埋土**：暗褐色土ベース。**床面**：地山を比較的平坦に削り出した上にローム粒・塊を含む暗黄褐色土を比較的薄く貼って平坦な床面を形成している。床面の厚さは約0.04～0.06m。**掘方**：若干凹凸豊かに掘り込んでいるが、凹凸は概して浅い。**竈**：未検出。**貯蔵穴**：未検出。**柱穴・pit**：4隅の柱穴が検出された。pit4は、360号竪穴建物跡の床下からの検出であるため、残存状態は良くない。柱穴は概して円形状を呈し、しっかりとした掘方を有している。隣接して若干位置をずらして建て替えられた痕跡が看取できる。pit1長径0.67m・短径0.54m・深さ0.54m、pit2長径0.62m・短径0.5m・深さ0.66m、pit3長径(0.45)m・短径0.42m・深さ0.54m、pit4長径(0.66)m・短径(0.43)m・深さ(0.5)m。**時期**：6C後。**遺物**：建物の北東側に比較的集中。

#### (148) 362号竪穴建物跡

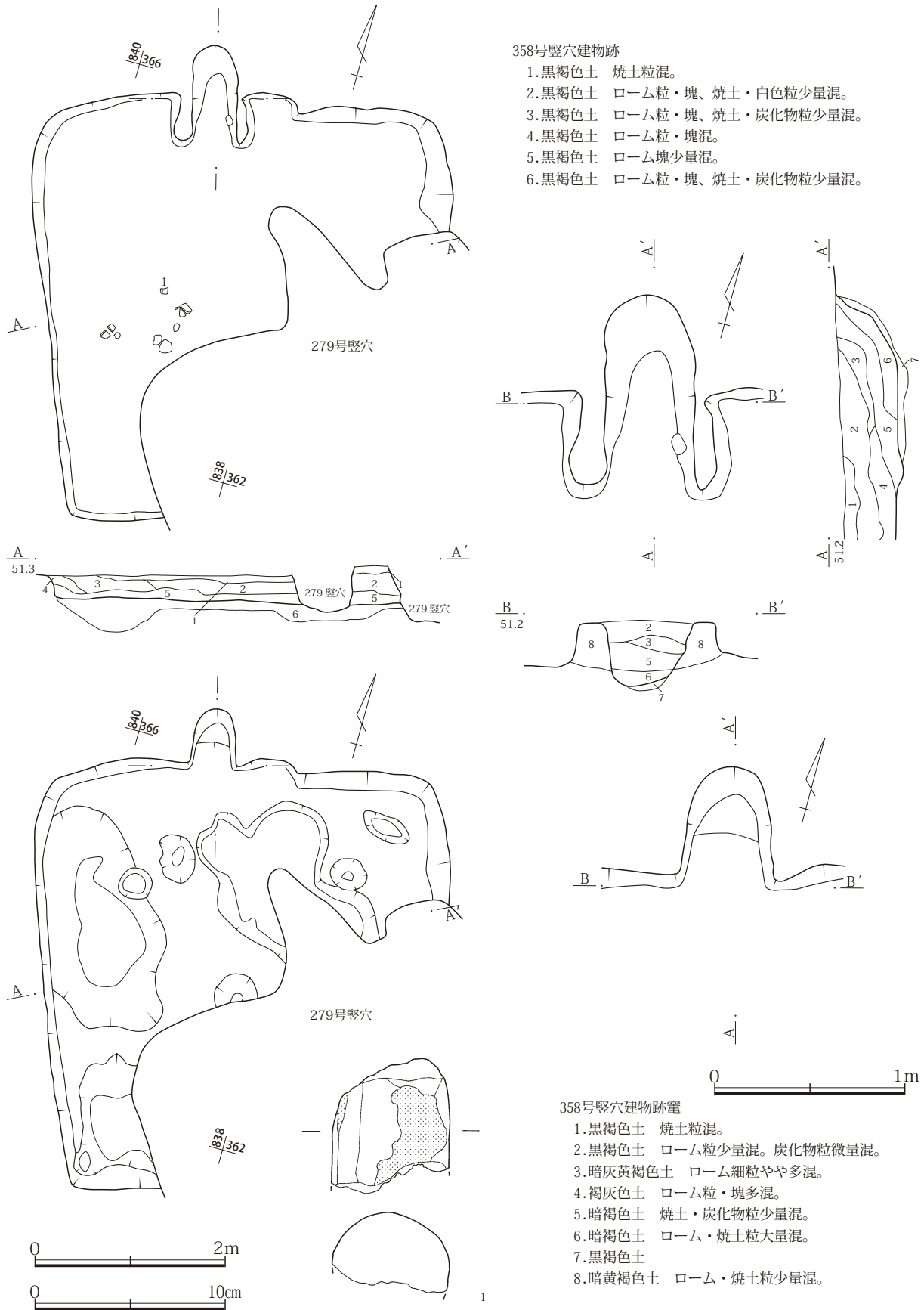
**位置**：調査区中央北寄り。X365~370・Y-805~-810Gr。**主軸方位**：N-20°-W **重複**：351号竪穴建物跡に掘り込まれる。**規模と形状**：北東-南西方向に長い長方形を呈する。上面のほとんどを351号竪穴建物跡によって掘り込まれており、辛うじて竈の燃焼部・煙道部分と竪穴建物本体の掘方のみが

検出された。長辺3.07m・短辺2.64m・掘方までの深さ0.1m。**掘方埋土**：暗褐灰色土ベース。**床面**：未検出。**掘方**：地山を比較的平坦に削り出しているが、竈前、西壁際から中央にかけて、若干深く掘り込んだ土坑状の掘り込みがいくつも連続して形成されている。また南壁際には周溝状の細長い掘り込みがみられる。**竈**：北西壁の北東隅寄りに取り付く。燃焼部・煙道部・両袖共に地山を削り出し、その上に灰白色粘質土を貼って形成している。燃焼部は壁よりも外側に形成されている。煙道部はやや外側に延びている。両袖は、同位置に掘り込まれた351号竪穴建物跡によって破壊された可能性もある。

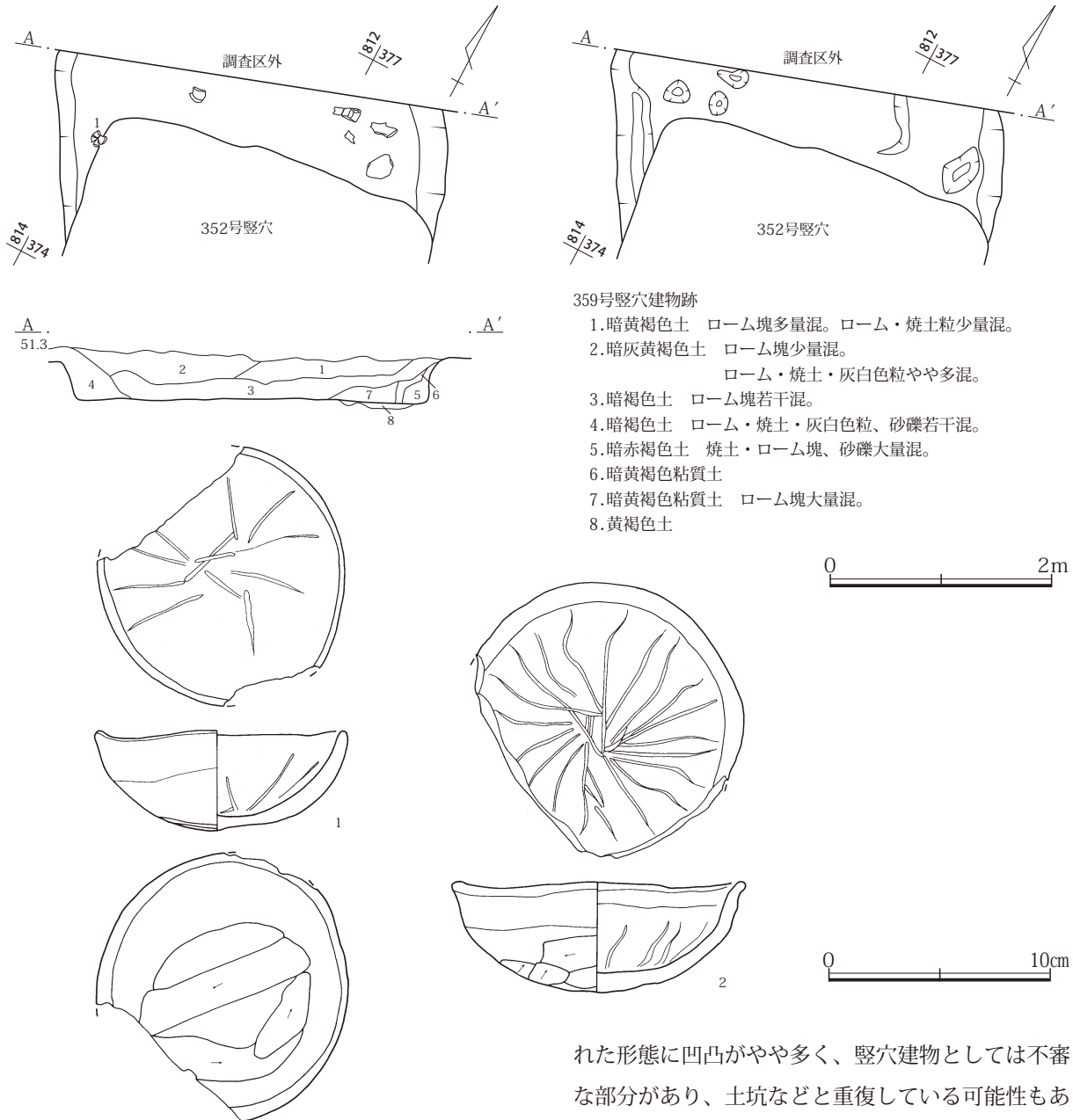
**貯蔵穴**：なし。**時期**：6C後～7C前。**遺物**：竈前の床面から比較的まとまって出土。

#### (149) 363号竪穴建物跡

**位置**：調査区中央北壁際。X370~375・Y-795~-800Gr。**主軸方位**：不明。**重複**：348号竪穴建物跡に掘り込まれる。**規模と形状**：北側が調査区外に出て、東側約半分を348号竪穴建物跡によって掘り込まれ、南側及び上面全体が後世の削平を受けて破壊されており、北・西壁の一部と北西隅部が検出できたに過ぎず、全容は不明である。床面までの深さ0.2m。**埋土**：黒褐色土ベース。**床面**：地山を平坦に削り出して床面を形成している。**掘方**：



第403図 358号竪穴建物跡・出土遺物



359号竖穴建物跡

1. 暗黄褐色土 ローム塊多量混。ローム・焼土粒少量混。
2. 暗灰黄褐色土 ローム塊少量混。  
ローム・焼土・灰白色粒やや多混。
3. 暗褐色土 ローム塊若干混。
4. 暗褐色土 ローム・焼土・灰白色粒、砂礫若干混。
5. 暗赤褐色土 焼土・ローム塊、砂礫大量混。
6. 暗黄褐色粘質土
7. 暗黄褐色粘質土 ローム塊大量混。
8. 黄褐色土

第404図 359号竖穴建物跡・出土遺物

床面と一致。 竈：未検出。 貯蔵穴：未検出。  
 時期：6 C 後。 遺物：建物の全域に散在。

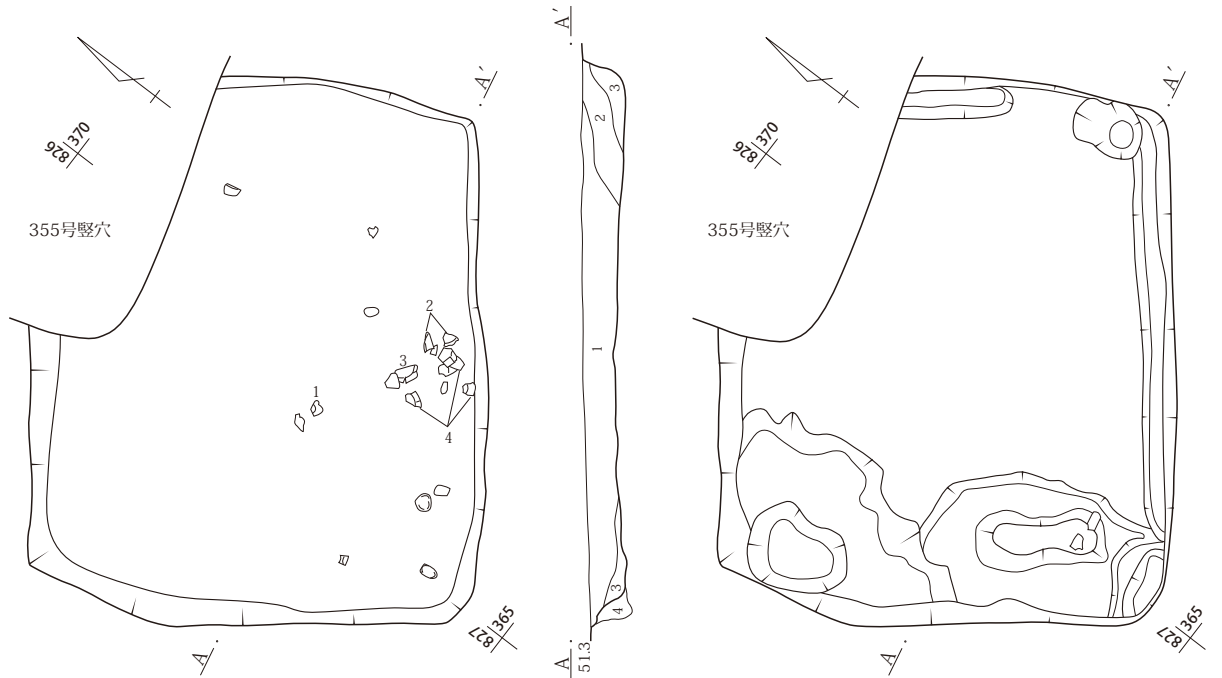
(150) 365号竖穴建物跡

位置：調査区西寄り北壁際。 X 365-370・Y -835~-840Gr. 主軸方位：N-64° -E 重複：357号竖穴建物跡に掘り込まれる。 規模と形状：北側が調査区外に出るため全容は不明であるが東西方向に軸を有する竖穴建物跡であった様子がうかがえる。 検出さ

れた形態に凹凸がやや多く、竖穴建物としては不審な部分があり、土坑などと重複している可能性もある。 検出状態が悪く、現状からは明確に出来なかった。 上面を357号竖穴建物跡によって掘り込まれ、掘方のみが検出された。 南辺4.04m・掘方までの深さ0.64m (357号竖穴建物跡確認面からの深さ)。

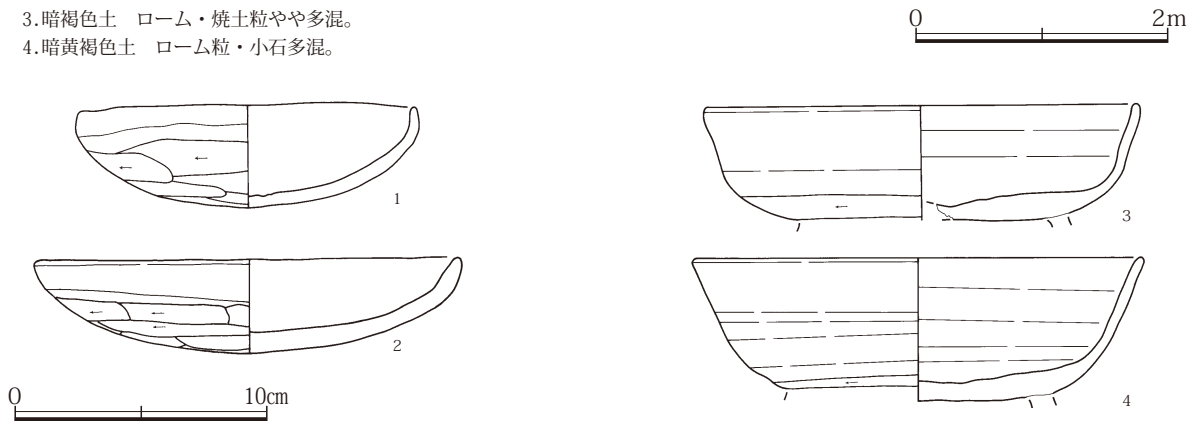
掘方埋土：暗褐色土ベース。 床面：未検出。 掘方：凹凸激しく大きく掘り込んでいる。とくに西壁寄りが一段深く、土坑状に掘り込まれている。 竈：東壁に取り付く。竈も掘方のみで検出であり、北側半分以上が調査区外に出るため、詳細は不明である。 燃焼部は地山を削り出して形成され、燃焼部は壁より外側に形成されていた様子がうかがえる。 貯蔵

第3章 発見された遺構と遺物



360号竪穴建物跡

1. 暗褐色土 灰白色・焼土粒・砂礫・小石少量混。
2. 暗褐色土 ローム塊多混。
3. 暗褐色土 ローム・焼土粒やや多混。
4. 暗黄褐色土 ローム粒・小石多混。



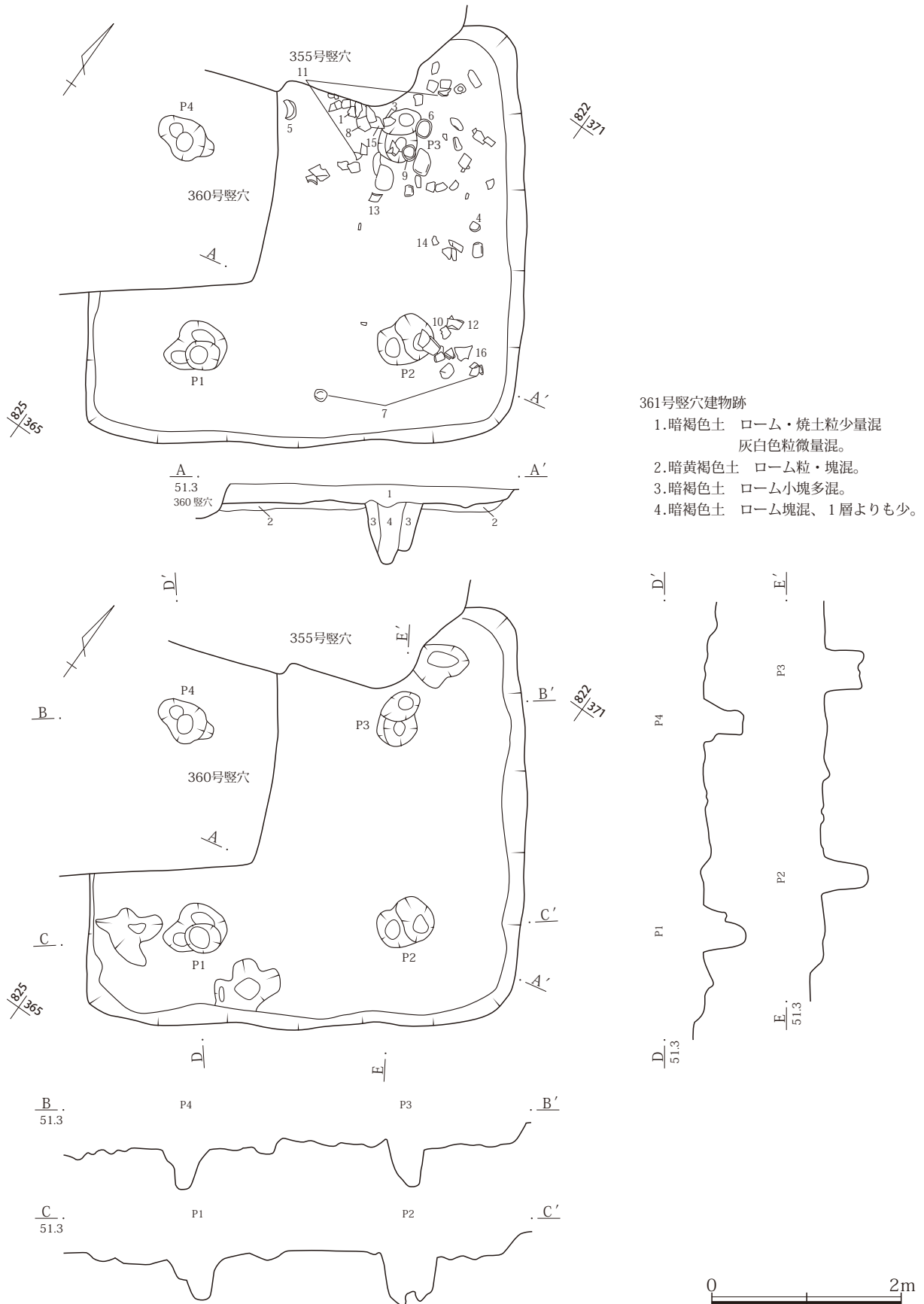
第405図 360号竪穴建物跡・出土遺物

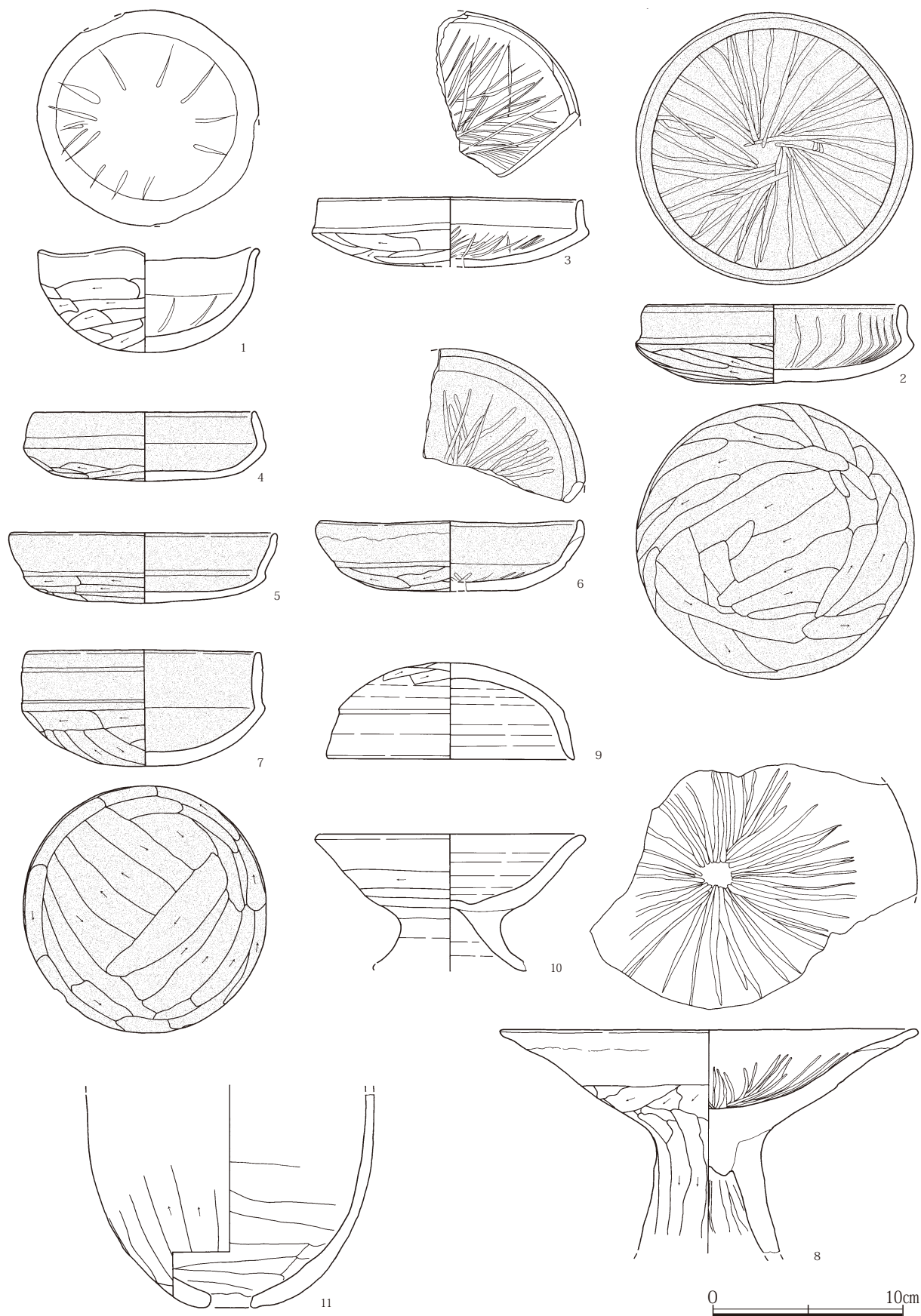
穴:未検出。 時期:7 C 4。 遺物:建物内に散在。

(151) 366号竪穴建物跡

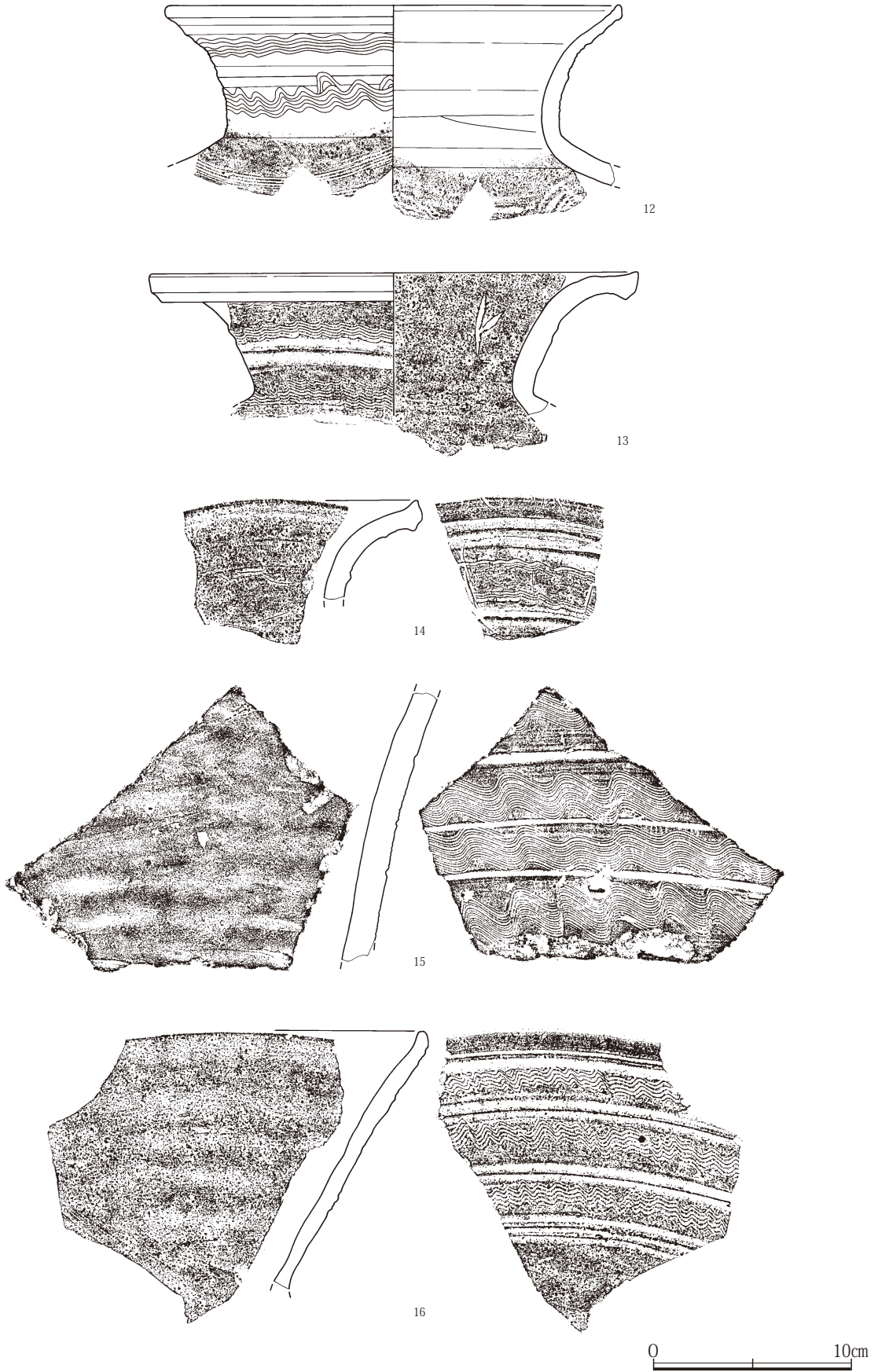
**位置:** 調査区最西端寄り北壁際。 X365・Y-840~845Gr. **主軸方位:** N-54° -E **重複:** 357号竪穴建物跡に掘り込まれる。 **規模と形状:** 北東隅が調査区外に出る。北東-南西方向に軸を有し、北西-南東方向に長い長方形を呈する。長辺4.2m・短辺3.28m・床面までの深さ0.39m。 **埋土:** 黄褐色土ベース。 **床面:** 地山を平坦に削り出して床面を形成している。 **掘方:** 大方で床面とほぼ一致してい

るが、中央部など部分的に若干凹凸ある小さな掘り込みがなされている箇所がある。 **竈:** 北東壁の南寄りに取り付く。燃焼部の東側から煙道部にかけて357号竪穴建物跡によって掘り込まれ、完全に破壊されている。検出された燃焼部の西側や両袖も上面が削平されており、残存状態は不良。燃焼部は地山を削り出して形成され、壁より外側に形成されている。両袖は痕跡すら確認できなかった。 **貯蔵穴:** 竈の南側、建物の南東隅近くで検出された。北西-南東方向に長い楕円形状を呈し、長径0.5m・短径0.4m・深さ0.14m。 **時期:** 7 C 代か?。 **遺物:** 埋



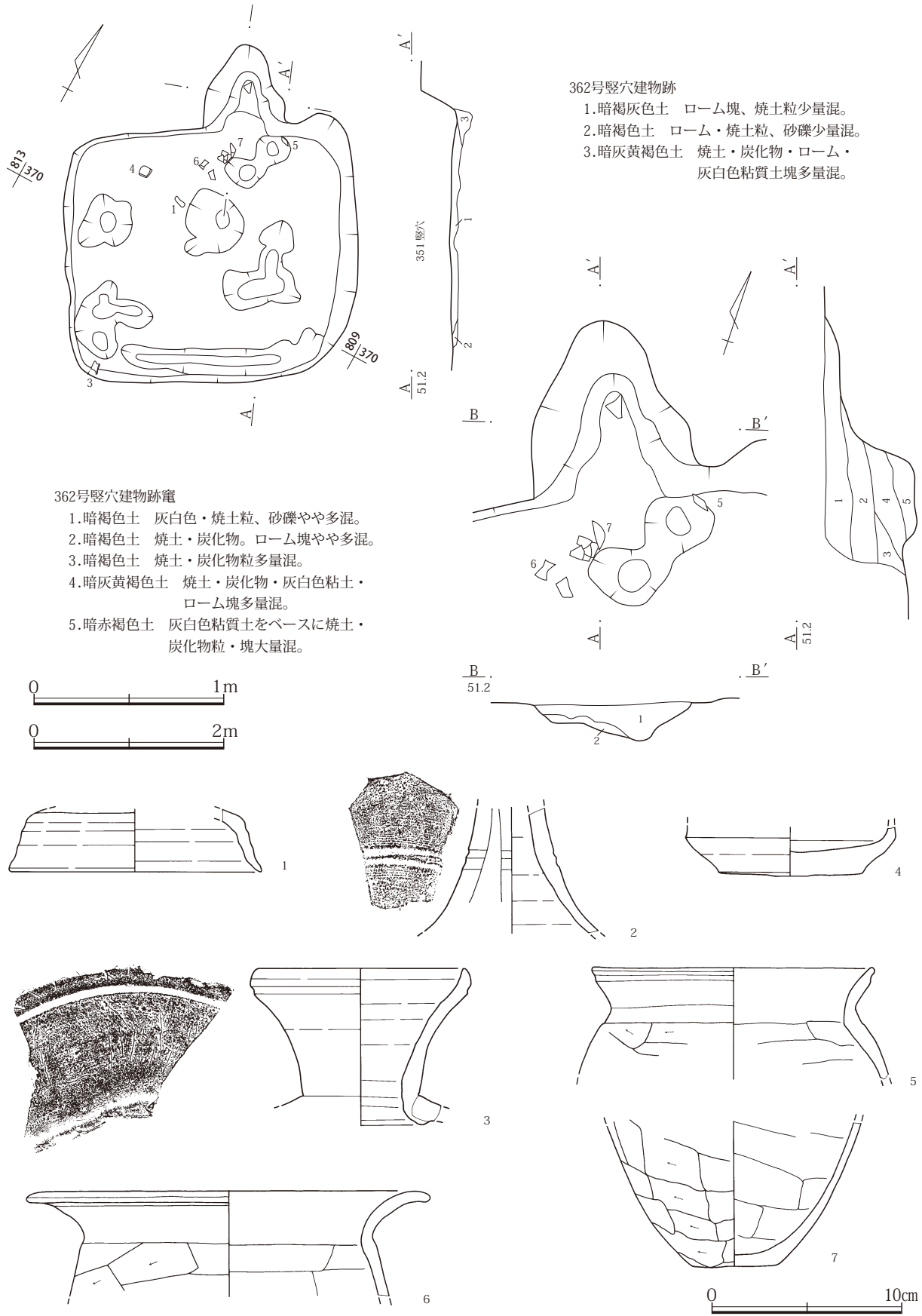


第407図 361号竪穴建物跡出土遺物（1）



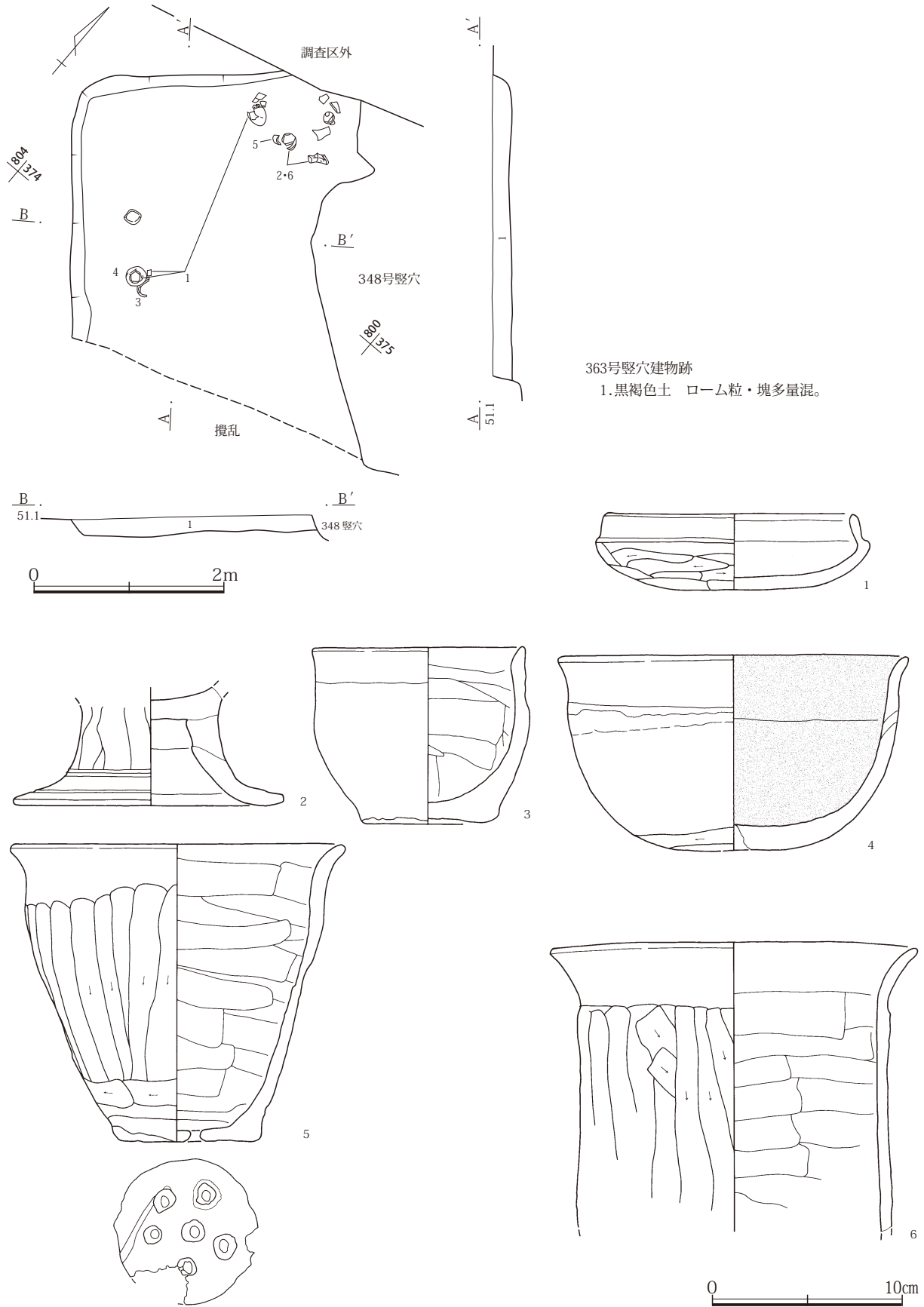
第408図 361号竪穴建物跡出土遺物（2）

第3章 発見された遺構と遺物



第409図 362号竪穴建物跡・出土遺物

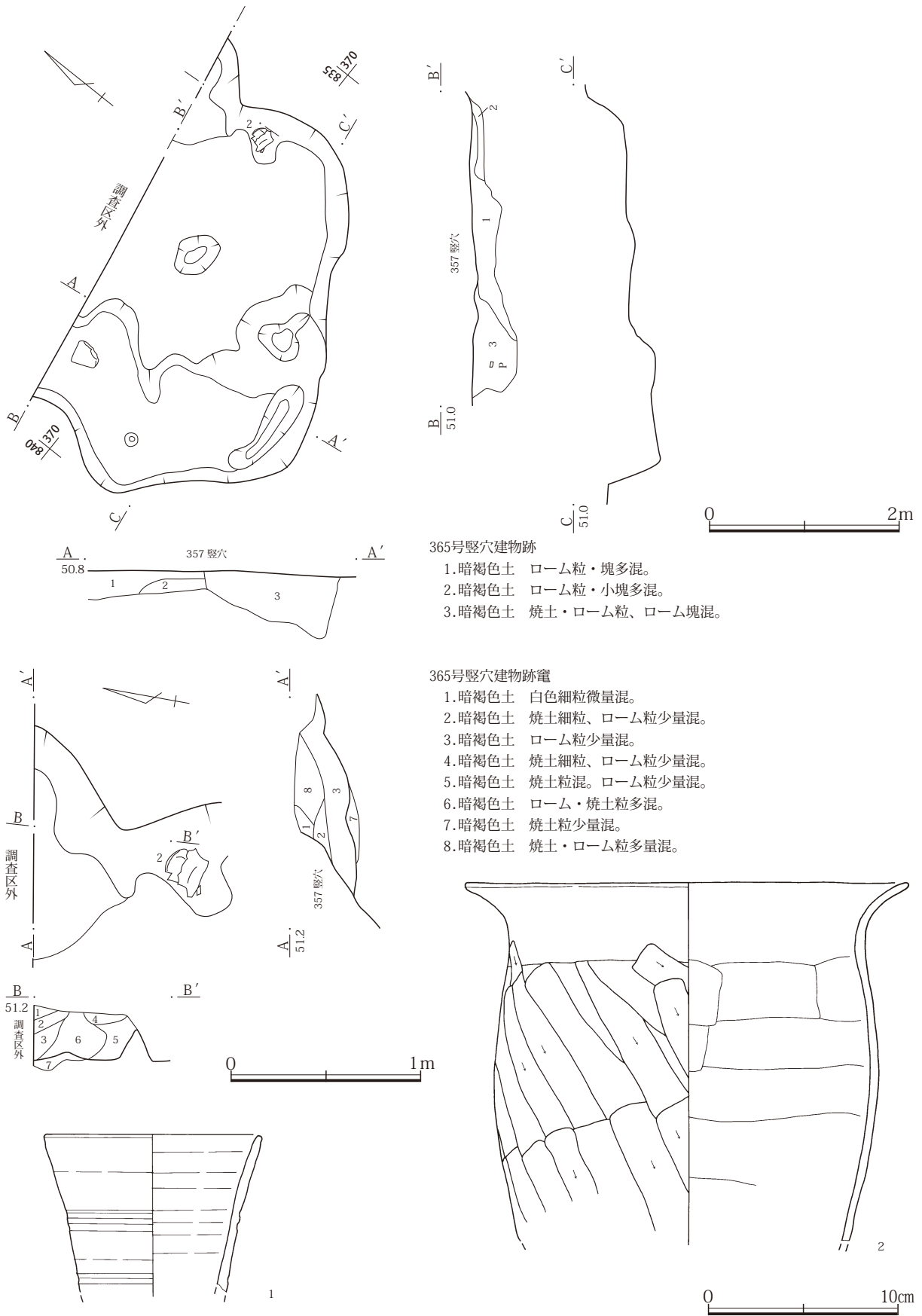




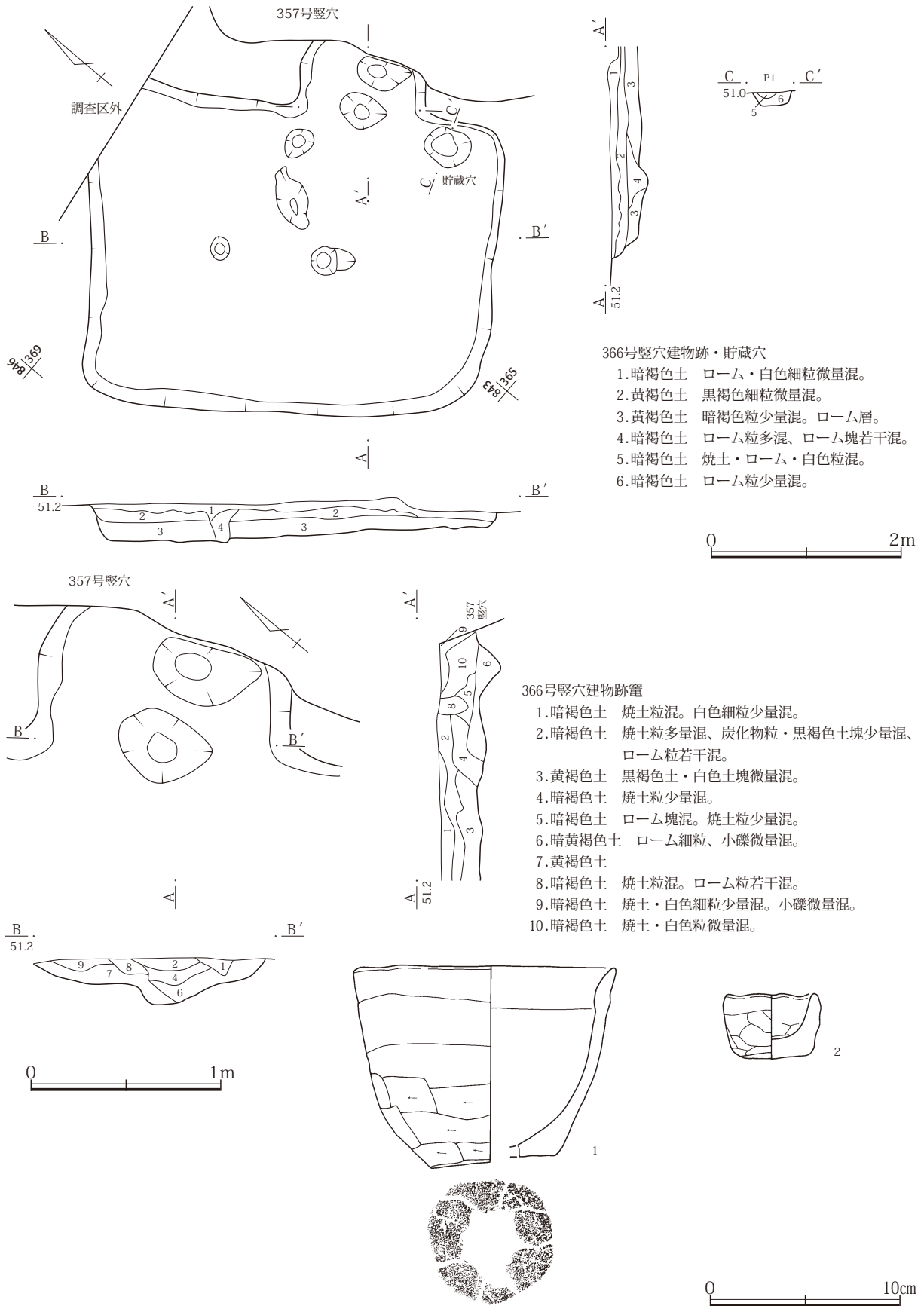
363号竪穴建物跡  
1. 黒褐色土 ローム粒・塊多量混。

第410図 363号竪穴建物跡・出土遺物

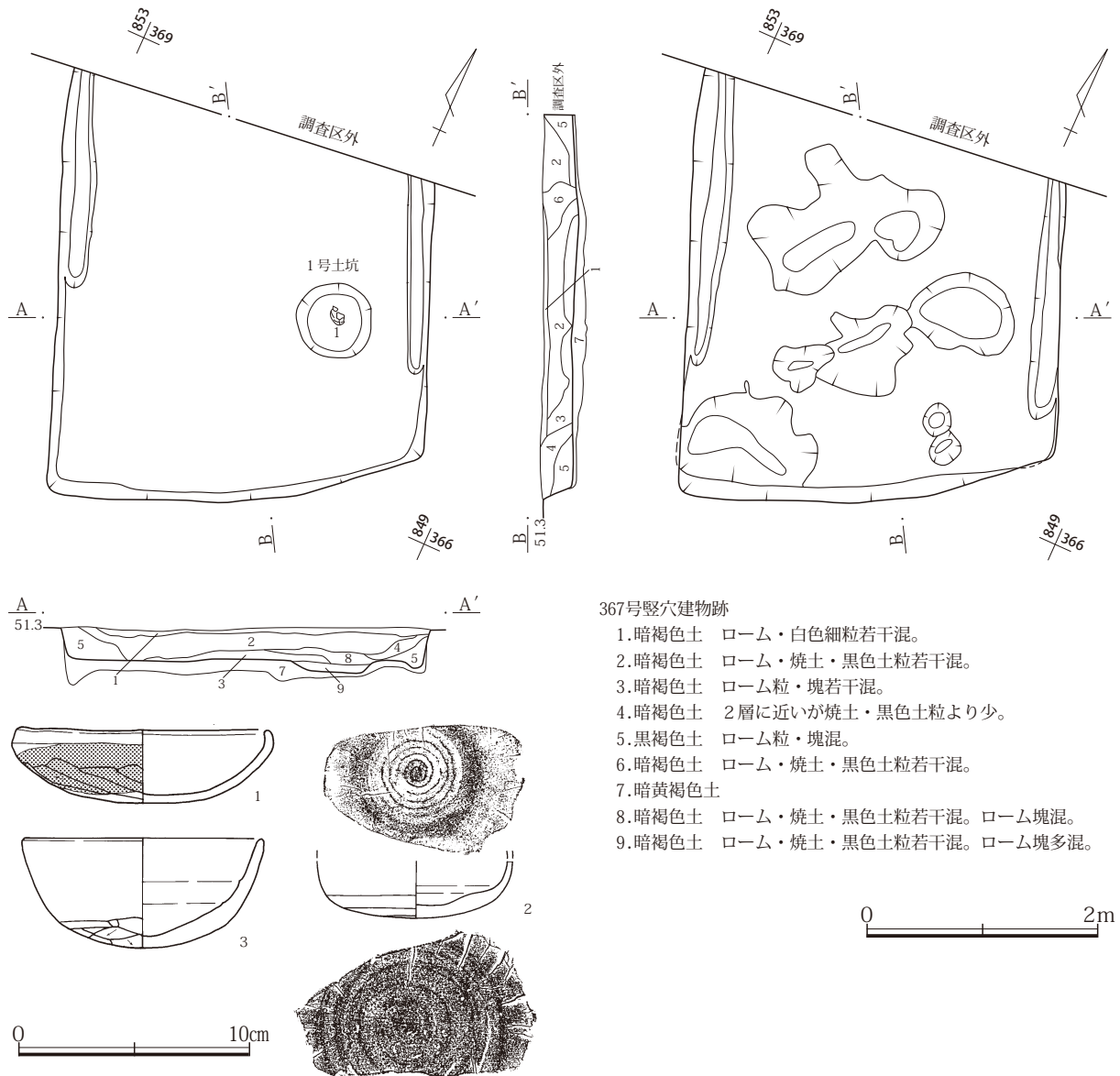
第3章 発見された遺構と遺物



第411図 365号竪穴建物跡・出土遺物



第412図 366号竪穴建物跡・出土遺物



第413図 367号竪穴建物跡・出土遺物

土中より2。

(152) 367号竪穴建物跡

**位置：**調査区最北西端北壁際。X365・Y-845~850Gr. **主軸方位：**不明。 **重複：**なし。 **規模と形状：**北側が調査区外に出る。南西・南東の両隅と南壁及び東西両壁の一部が検出された。北西-南東方向に長い竪穴建物跡である。南辺3.24m・床面までの深さ0.26m・掘方までの深さは0.46m。 **埋土：**暗褐色土ベース。 **床面：**地山を大きく凹凸激しく掘り込んだ上に暗黄褐色土をやや厚く貼って平坦な

367号竪穴建物跡

- 1.暗褐色土 ローム・白色細粒若干混。
- 2.暗褐色土 ローム・焼土・黒色土粒若干混。
- 3.暗褐色土 ローム粒・塊若干混。
- 4.暗褐色土 2層に近いが焼土・黒色土粒より少。
- 5.黒褐色土 ローム粒・塊混。
- 6.暗褐色土 ローム・焼土・黒色土粒若干混。
- 7.暗黄褐色土
- 8.暗褐色土 ローム・焼土・黒色土粒若干混。ローム塊混。
- 9.暗褐色土 ローム・焼土・黒色土粒若干混。ローム塊多混。

床面を形成している。床面の厚さは約0.2m。 **周溝：**東西両壁際で検出されたが、両壁際とも南端までは達していない。最大上幅0.2m・最大下幅0.14m・深さ0.04m。 **掘方：**凹凸激しい。中央部や南壁際、南西隅などにおいて、土坑状の掘り込みがいくつも連続して形成されている。 **竈：**未検出。 **貯蔵穴：**未検出。 **柱穴・pit：**中央より東南寄りの位置で床面から掘り込まれた1号土坑が検出された。位置や検出状況から見て柱穴とは考えにくく、用途や機能は不明である。円形状を呈し、浅い。1号土坑径0.65m・深さ0.13m。 **時期：**7C3。 **遺物：**埋土中より3。